

中郷遺跡（2）

—旧石器・縄文時代編—

一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書 第8集

第1分冊 本文・遺構編

2010

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



11区北調査区全景 南西方向を望む。手前の杉林は段丘崖。上の山並みは榛名山。



12区南調査区全景 北方向を望む。右の杉林は段丘崖。

口絵 2



12区柄鏡形敷石住居 左：4号住居（張出部に大礫配置。主体部に河床礫を配置。） 右：3号住居（張出部に大礫配置。主体部に板状礫を配置。）



12区35号住居 柄鏡形敷石住居 主体部周囲を小礫で囲む。



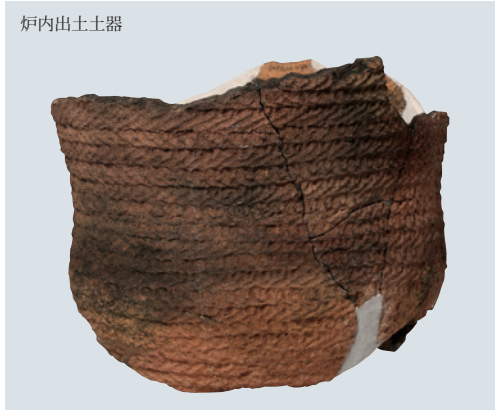
12区38号住居 柄鏡形敷石住居 主体部周囲を小礫で囲み、板状礫を敷く。



12区18号住居 柄鏡形敷石住居 主体部消失。張出部大礫で囲む。



12区14号住居 柄鏡形敷石住居 主体部全面に板状礫と河床礫を敷き詰める。



11区32号住居 石敷石囲炉（縄文時代前期：自然石で四方を囲い、火床面に板状礫を敷く。）

炉内出土土器



11区11号住居 石囲埋甕炉（縄文時代中期：規格を揃えるために自然石の加工を行う。）

炉内出土土器



12区3号住居 石囲埋甕炉（縄文時代中期：炉体土器を支えるように自然石を貼り付ける。）

炉内出土土器



12区27号住居 埋甕と立石（縄文時代中期：住居南壁寄り、埋甕と円柱状の自然石両端を打ち欠き下部に支石。）

埋甕



9区遺構外7 土偶 (何かを背負う女性土偶)



な か ご う
中 郷 遺 跡 (2)

— 旧石器・縄文時代編 —

一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書 第8集

第1分冊 本文・遺構編

2010

国 土 交 通 省
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道17号は、関東と北陸を結ぶ大動脈であり、本県においても主要道路です。この国道の渋滞解消のため、全長5.5kmの鯉沢バイパスが旧子持村（平成18年2月渋川市と合併）地内に計画され、平成8年10月に渋川市東町から同市白井の国道353号バイパスとの交差点までの2.3kmが開通しました。その後、平成14年度に一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事（その2）として、国道353号バイパス交差点から終点の同市上白井までの3.2kmについて国土交通省高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査事業団の3者で協議・調整を行い、白井北中道Ⅲ遺跡、白井十二遺跡、吹屋伊勢森遺跡、吹屋遺跡、中郷遺跡、上白井西伊熊遺跡等の路線内の遺跡の発掘調査を実施することになりました。発掘調査は順調に進み、平成17年度上半期で終了し、平成20年8月には全線が開通となりました。

中郷遺跡は、平成15年から平成17年にかけて発掘調査が実施されました。本地域は、6世紀代に2度の榛名山の大噴火を経験し、軽石層や火砕流を伴う火山灰層が堆積しています。発掘調査は、この火山堆積物の上下面やローム層上下面を遺構確認面として第1面から第5面に分けて発掘調査を行いました。平成19年度には、第1面から第3面において検出した遺構・遺物を「中郷遺跡（1）」－古墳時代以降編－として報告しました。

本報告書では、第4面の弥生～縄文時代と第5面の旧石器時代の遺構・遺物の報告を行います。本遺跡の第4面では、100軒を超す縄文時代前期から後期にかけての住居群や850基を超す土坑群などを検出し、縄文時代中期の拠点集落の一部を発見しました。また、第5面のローム層中から約2万2千年前の浅間山噴火火山灰層下から旧石器時代の石器製作址を検出しました。これらの遺構・遺物は、地域の歴史を考える上で多くの重要な資料となります。

今回の報告書刊行に至るまでには、国土交通省関東地方整備局、同高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、渋川市教育委員会、地元関係者の皆様に格別の御尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げます。本報告書が広く基本的な歴史資料として活用されることを念願し、報告書の序といたします。

平成22年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 須田 栄一

例 言

- 1 本書は一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事（その2）に伴う中郷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡所在地 群馬県渋川市中郷地内（旧：北群馬郡子持村大字中郷地内、平成18年2月市町村合併）
- 3 事業主体 国土交通省 関東地方整備局
- 4 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 調査期間 平成15年7月1日～平成15年12月24日
平成16年4月1日～平成17年7月31日
- 6 整理期間 平成18年7月1日～平成22年3月31日
- 7 発掘調査・整理組織 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長 小野宇三郎、高橋勇夫、須田栄一
管理指導 木村祐紀、吉田 豊、神保侑史、津金沢吉茂、相京建史
事務担当 萩原 勉、中束耕志、佐藤明人、西田健彦、右島和夫、関 晴彦、大木紳一郎、国定 均、
笠原秀樹、石井 清、竹内 宏、佐嶋芳明、須田朋子、齊藤恵利子、吉田有光、柳岡良宏、
今泉大作、栗原幸代、齋藤陽子、佐藤聖行、矢島一美、高橋次代、田口小百合、田中賢一、
阿久沢玄洋、今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、
狩野真子、武藤秀典
調査担当 平成15年度 坂口 一、吉田和夫、井上昌美、井原陽一
平成16年度 神谷佳明、大西雅広、齊藤利昭、今井和久、関 俊明、石原良人、篠原正洋、
渡辺弘幸、水田福夫、阿久津 聡
平成17年度 桜岡正信、麻生敏隆、瀧川仲男、佐藤享彦、藍沢友美
整理担当 神谷佳明、齊藤利昭、田村邦宏、桜井美枝、山口逸弘
遺物写真 佐藤元彦
保存処理 関 邦一、土橋まり子、小材浩一、津久井桂一、森田智子、多田ひさ子、長岡久幸、増田政子
器械実測 伊東博子、田所順子、岸 弘子、小池益美、木原幸子、福島瑞希
デジタル図版作成 齊田智彦、牧野裕美、市田武子、酒井史恵、廣津真希子、安藤美奈子、矢端真観、
高梨由美子、横塚由香、須藤絵美、下川陽子
- 8 本文執筆 編集 神谷佳明（第1分冊）、齊藤利昭（第1分冊、第2分冊）、桜井美枝（第3分冊）、
山口逸弘（第2分冊12区）
本文 神谷佳明、齊藤利昭、田村邦宏、桜井美枝
- 9 遺物観察 縄文土器：齊藤利昭、関根慎二（1区～11区）、山口逸弘（12区） 石器：桜井美枝、岩崎泰一
- 10 石材鑑定は飯島静男氏（群馬県地質研究会会員）に依頼した。
- 11 委託業務 炭化材樹種同定、放射性炭素年代測定、黒曜石産地推定を株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 12 本遺跡の出土遺物及び図面・写真等の資料は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 13 発掘調査及び報告書作成にあたっては、次の方々には有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
旧北群馬郡子持村教育委員会、渋川市教育委員会、石井克己、大塚昌彦（敬称略）

凡 例

- 1 本報告書は3分冊構成とし、第1分冊：本文・遺構編、第2分冊：土器編、第3分冊：石器編とした。
- 2 調査区域には、国家座標に基づいて5m間隔のグリッドを設定した。原点については、平成15年度に日本平面直角座標系第IX系のX=59,000m、Y=-72,600mを原点として割り振った。
- 3 本文中で使用した地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「鯉沢」、「渋川」、「金井」、「伊香保」、及び20万分の1地勢図「宇都宮」、「長野」を用いた。
- 4 本書では、遺跡内で確認できた火山灰については下記の通り表記する。

榛名山噴火堆積物：

6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)をFA。6世紀中頃の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)をFP。約3万年前の榛名箱田テフラ(Hr-HA)をHA。約4.2万年前の榛名箱田形軽石(Hr-HP)をHP。

浅間山噴火堆積物：

約1.3万年前の浅間黄褐色軽石(As-YP)をYP。約1.7万年前の浅間白糸軽石(As-Sr)をSr。

約2.2万年前の浅間褐色軽石(As-BP)をBP。

5 図中凡例

・遺構図

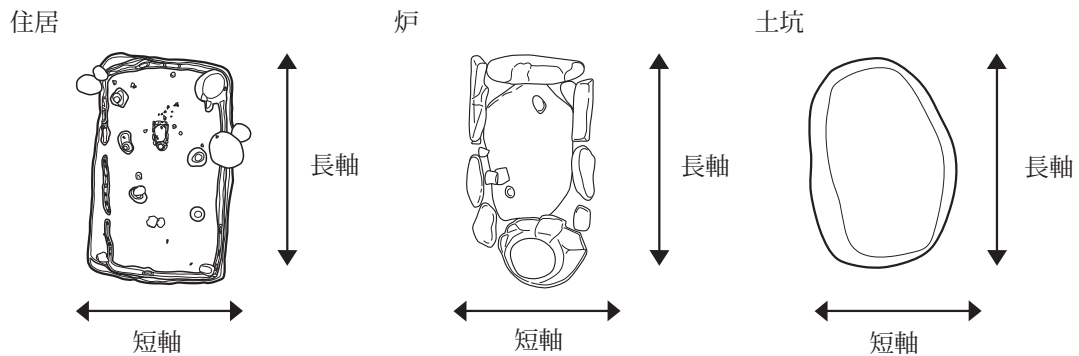
縮尺：住居=1/60 炉=1/30 土坑=1/40 埋甕=1/30 配石=1/50 全体図=1/250を基本とし、部分的に拡大図等を作成した。各図はスケールを参照されたい。

遺構図中の記号は、柱穴=P○、土器=●記号。1・2・3・・・、石器=▲記号。S1、S2・・・とした。

断面図中の「L=○○m」は、断面図の水糸標高を示す。

・遺構計測

下記の図の範囲を基本として計測を行った。



・網掛け部分等は次のことを意味する。



- 6 土層断面及び土器に用いた色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の「新版標準土色帖」を参照した。

目 次

口 絵
序 言
例 例
凡 例
抄 録

第1章	調査の経緯	1
第1節	調査に至る経緯	2
第2節	調査の経過	6
第3節	調査の手順	11
第4節	グリッドの設定	11
第2章	地理的・歴史的環境	13
第1節	遺跡の位置と周辺の地形	14
第2節	周辺の遺跡	16
第3節	基本土層	19
第3章	第5面の調査	21
第1節	第5面の概要	22
第2節	調査方法	22
第3節	1区の調査	26
第4節	検出された遺物	28
第4章	第4面の調査	43
第1節	第4面の概要	44
第2節	遺構確認	44
第3節	各区の概要	45

第5章	第4面の検出遺構	49
第1節	2区検出遺構	50
第2節	3区検出遺構	50
第3節	4区検出遺構	55
第4節	7区検出遺構	55
第5節	8区検出遺構	61
第6節	9区検出遺構	79
第7節	11区検出遺構	92
第8節	12区検出遺構	266
第6章	自然科学分析	449
第1節	自然科学分析の目的	450
第2節	自然科学分析資料	450
第3節	分析報告	452
第7章	まとめ	459
第1節	遺跡立地	460
第2節	住居形状について	463
第3節	住居内施設について	467

写真図版（遺構）

付 図

付図1	1～9区	第4面全体図	1/300
付図2	11区	第4面全体図	1/300
付図3	12・13区	第4面全体図	1/300

第2分冊 土器編

挿図
観察表
写真図版

第3分冊 石器編

挿図
観察表
写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図	3	第 53 図	9 区第 4 面上層全体図	81
第 2 図	遺跡位置図及び調査区配置図	4	第 54 図	9 区第 4 面全体図	82
第 3 図	年度別調査範囲図	8	第 55 図	9 区 1 号住居 (1)	83
第 4 図	グリッド配置図	12	第 56 図	9 区 1 号住居 (2)	84
第 5 図	段丘面分類図	15	第 57 図	9 区 2 号住居	85
第 6 図	周辺遺跡位置図	17	第 58 図	9 区 3 号住居	85
第 7 図	調査区柱状図	20	第 59 図	9 区土坑 (1)	86
第 8 図	第 5 面土層図	23	第 60 図	9 区土坑 (2)	87
第 9 図	旧石器深掘配置図 (1)	24	第 61 図	9 区土坑 (3)	88
第 10 図	旧石器深掘配置図 (2)	25	第 62 図	9 区土坑 (4)	89
第 11 図	1-1 区全体図	26	第 63 図	9 区土坑 (5)	90
第 12 図	1 区トレンチ配置図	27	第 64 図	9 区 1 号配石	91
第 13 図	1 区第 1 群出土土器 (1)	29	第 65 図	11 区第 4 面全体図	116
第 14 図	1 区第 1 群出土土器 (2)	30	第 66 図	11 区住居配置図 (1)	117
第 15 図	1 区第 1 群出土土器 (3)	折込	第 67 図	11 区住居配置図 (2)	118
第 16 図	接合資料 (1)	33	第 68 図	11 区住居配置図 (3)	119
第 17 図	接合資料 (2)	34	第 69 図	11 区 1 号住居 (1)	120
第 18 図	1 区旧石器出土分布図	35	第 70 図	11 区 1 号住居 (2)	121
第 19 図	1 区器種別分布図 (1)	36	第 71 図	11 区 1 号住居 (3)	122
第 20 図	1 区器種別分布図 (2)	37	第 72 図	11 区 2 号住居 (1)	123
第 21 図	1 区石材別分布図 (1)	38	第 73 図	11 区 2 号住居 (2)	124
第 22 図	1 区石材別分布図 (2)	39	第 74 図	11 区 3 号住居 (1)	125
第 23 図	1 区接合資料分布図 (1)	39	第 75 図	11 区 3 号住居 (2)	126
第 24 図	各調査区 第 5 面相当石器	40	第 76 図	11 区 4 号住居 (1)	126
第 25 図	2 区第 4 面全体図	51	第 77 図	11 区 4 号住居 (2)	127
第 26 図	3 区第 4 面全体図	52	第 78 図	11 区 5 号住居 (1)	128
第 27 図	2 区 1 号住居	53	第 79 図	11 区 5 号住居 (2)	129
第 28 図	3 区 1 号住居 (1)	53	第 80 図	11 区 6 号住居	130
第 29 図	3 区 1 号住居 (2)	54	第 81 図	11 区 7 号住居 (1)	131
第 30 図	3 区土坑	54	第 82 図	11 区 7 号住居 (2)	132
第 31 図	4 区第 4 面全体図・7 区第 4 面全体図	56	第 83 図	11 区 8 号住居 (1)	133
第 32 図	4 区 1 号住居	57	第 84 図	11 区 8 号住居 (2)	134
第 33 図	4 区 2 号住居	57	第 85 図	11 区 9 号住居	135
第 34 図	7 区 1 号住居	58	第 86 図	11 区 10 号住居	136
第 35 図	7 区土坑・ピット	58	第 87 図	11 区 11 号住居 (1)	137
第 36 図	7 区 1 号配石	59	第 88 図	11 区 11 号住居 (2)	138
第 37 図	8 区第 4 面全体図	60	第 89 図	11 区 12 号住居 (1)	139
第 38 図	8 区 1 号住居	65	第 90 図	11 区 12 号住居 (2)	140
第 39 図	8 区 2 号住居	66	第 91 図	11 区 13 号住居 (1)	140
第 40 図	8 区 3 号住居	67	第 92 図	11 区 13 号住居 (2)	141
第 41 図	8 区 4 号住居	68	第 93 図	11 区 14 号住居 (1)	142
第 42 図	8 区 5 号住居 (1)	68	第 94 図	11 区 14 号住居 (2)	143
第 43 図	8 区 5 号住居 (2)	69	第 95 図	11 区 15 号住居	144
第 44 図	8 区 6 号住居	70	第 96 図	11 区 16 号住居	145
第 45 図	8 区 7 号住居 (1)	71	第 97 図	11 区 18 号住居	146
第 46 図	8 区 7 号住居 (2)	72	第 98 図	11 区 19 号住居 (1)	147
第 47 図	8 区 7 号住居 (3)	73	第 99 図	11 区 19 号住居 (2)	148
第 48 図	8 区 8 号住居	74	第 100 図	11 区 21 号住居	149
第 49 図	8 区土坑 (1)	75	第 101 図	11 区 22 号住居	150
第 50 図	8 区土坑 (2)	76	第 102 図	11 区 23 号住居	150
第 51 図	8 区土坑 (3)	77	第 103 図	11 区 24 号住居 (1)	151
第 52 図	8 区ピット	78	第 104 図	11 区 24 号住居 (2)	152

第105図	11区25号住居	153
第106図	11区26号住居	154
第107図	11区27号住居	155
第108図	11区28号住居	156
第109図	11区29号住居	157
第110図	11区30号住居	158
第111図	11区31号住居	159
第112図	11区32号住居(1)	159
第113図	11区32号住居(2)	160
第114図	11区33号住居	161
第115図	11区34号住居	161
第116図	11区35号住居	162
第117図	11区36号住居(1)	163
第118図	11区36号住居(2)	164
第119図	11区37号住居(1)	165
第120図	11区37号住居(2)	166
第121図	11区37号住居(3)	167
第122図	11区38号住居	168
第123図	11区39号住居	169
第124図	11区40号住居(1)	170
第125図	11区40号住居(2)	171
第126図	11区41号住居(1)	172
第127図	11区41号住居(2)	173
第128図	11区42号住居	173
第129図	11区43号住居	174
第130図	11区45号住居	175
第131図	11区46号住居	176
第132図	11区47号住居	176
第133図	11区48号住居	176
第134図	11区49号住居(1)	177
第135図	11区49号住居(2)	178
第136図	11区50号住居	178
第137図	11区51号住居(1)	179
第138図	11区51号住居(2)	180
第139図	11区52号住居	181
第140図	11区53号住居	181
第141図	11区54号住居	182
第142図	11区55号住居(1)	183
第143図	11区55号住居(2)	184
第144図	11区56号住居	184
第145図	11区土坑配置図(1)	189
第146図	11区土坑配置図(2)	190
第147図	11区土坑配置図(3)	191
第148図	11区土坑(1)	192
第149図	11区土坑(2)	193
第150図	11区土坑(3)	194
第151図	11区土坑(4)	195
第152図	11区土坑(5)	196
第153図	11区土坑(6)	197
第154図	11区土坑(7)	198
第155図	11区土坑(8)	199
第156図	11区土坑(9)	200
第157図	11区土坑(10)	201
第158図	11区土坑(11)	202
第159図	11区土坑(12)	203
第160図	11区土坑(13)	204
第161図	11区土坑(14)	205
第162図	11区土坑(15)	206
第163図	11区土坑(16)	207
第164図	11区土坑(17)	208

第165図	11区土坑(18)	209
第166図	11区土坑(19)	210
第167図	11区土坑(20)	211
第168図	11区土坑(21)	212
第169図	11区土坑(22)	213
第170図	11区土坑(23)	214
第171図	11区土坑(24)	215
第172図	11区土坑(25)	216
第173図	11区土坑(26)	217
第174図	11区土坑(27)	218
第175図	11区土坑(28)	219
第176図	11区土坑(29)	220
第177図	11区土坑(30)	221
第178図	11区土坑(31)	222
第179図	11区土坑(32)	223
第180図	11区土坑(33)	224
第181図	11区土坑(34)	225
第182図	11区土坑(35)	226
第183図	11区土坑(36)	227
第184図	11区土坑(37)	228
第185図	11区土坑(38)	229
第186図	11区土坑(39)	230
第187図	11区土坑(40)	231
第188図	11区土坑(41)	232
第189図	11区土坑(42)	233
第190図	11区土坑(43)	234
第191図	11区土坑(44)	235
第192図	11区土坑(45)	236
第193図	11区土坑(46)	237
第194図	11区土坑(47)	238
第195図	11区土坑(48)	239
第196図	11区土坑(49)	240
第197図	11区配石位置図	242
第198図	11区1号配石A~E	243
第199図	11区2号配石	244
第200図	11区3号配石(1)	244
第201図	11区3号配石(2)	245
第202図	11区4号配石	246
第203図	11区5号配石	246
第204図	11区6号配石	247
第205図	11区7号配石	247
第206図	11区1号屋外炉	250
第207図	11区埋葬配置図	251
第208図	11区1号~3号埋葬	252
第209図	11区4号・5号埋葬	253
第210図	11区6号~8号埋葬	254
第211図	11区9号~11号埋葬	255
第212図	11区12号・13号埋葬、2号配石埋葬	256
第213図	11区ピット配置図(1)	257
第214図	11区ピット配置図(2)	258
第215図	11区ピット配置図(3)	259
第216図	11区ピット(1)	260
第217図	11区ピット(2)	261
第218図	11区ピット(3)	262
第219図	11区ピット(4)	263
第220図	11区遺構外出土器重量分布図	265
第221図	12区第4面全体図	291
第222図	12区住居配置図(1)	292
第223図	12区住居配置図(2)	293
第224図	12区住居配置図(3)	294

第225図	12区1号住居(1)	295
第226図	12区1号住居(2)	296
第227図	12区2号住居(1)	297
第228図	12区2号住居(2)	298
第229図	12区3号住居(1)	299
第230図	12区3号住居(2)	300
第231図	12区4号住居(1)	301
第232図	12区4号住居(2)	302
第233図	12区4号住居(3)	303
第234図	12区5号住居(1)	304
第235図	12区5号住居(2)	305
第236図	12区6号住居	306
第237図	12区7号住居	306
第238図	12区8号住居	307
第239図	12区9号住居	308
第240図	12区10号住居(1)	309
第241図	12区10号住居(2)	310
第242図	12区11号住居	311
第243図	12区13号住居	312
第244図	12区14号住居	313
第245図	12区15号住居	314
第246図	12区16号住居	315
第247図	12区18号住居(1)	316
第248図	12区18号住居(2)	317
第249図	12区19号住居	317
第250図	12区20号住居	318
第251図	12区21号住居	319
第252図	12区22号住居	320
第253図	12区23号住居	321
第254図	12区24号住居	322
第255図	12区25号住居	322
第256図	12区26号住居(1)	323
第257図	12区26号住居(2)	324
第258図	12区27号住居(1)	325
第259図	12区27号住居(2)	326
第260図	12区28号住居	327
第261図	12区29号住居	327
第262図	12区30号住居	327
第263図	12区31号住居(1)	328
第264図	12区31号住居(2)	329
第265図	12区32号住居(1)	329
第266図	12区32号住居(2)	330
第267図	12区33号住居	331
第268図	12区34号住居(1)	332
第269図	12区34号住居(2)	333
第270図	12区35号住居(1)	334
第271図	12区35号住居(2)	335
第272図	12区36号住居	336
第273図	12区37号住居	336
第274図	12区38号住居(1)	337
第275図	12区38号住居(2)	338
第276図	12区39号住居(1)	339
第277図	12区39号住居(2)	340
第278図	12区40号住居(1)	341
第279図	12区40号住居(2)	342
第280図	12区41号住居	342
第281図	12区42号住居(1)	343
第282図	12区42号住居(2)	344
第283図	12区42号住居(3)	345
第284図	12区43号住居	346

第285図	12区44号・45号住居	347
第286図	12区46号住居	348
第287図	12区47号住居	348
第288図	12区49号住居	349
第289図	12区50号・55号住居(1)	349
第290図	12区50号・55号住居(2)	350
第291図	12区51号住居	351
第292図	12区52号住居	351
第293図	12区53号住居(1)	352
第294図	12区53号住居(2)	353
第295図	12区54号住居	353
第296図	12区56号・57号住居	354
第297図	12区土坑配置図(1)	360
第298図	12区土坑配置図(2)	361
第299図	12区土坑配置図(3)	362
第300図	12区土坑配置図(4)	363
第301図	12区土坑(1)	364
第302図	12区土坑(2)	365
第303図	12区土坑(3)	366
第304図	12区土坑(4)	367
第305図	12区土坑(5)	368
第306図	12区土坑(6)	369
第307図	12区土坑(7)	370
第308図	12区土坑(8)	371
第309図	12区土坑(9)	372
第310図	12区土坑(10)	373
第311図	12区土坑(11)	374
第312図	12区土坑(12)	375
第313図	12区土坑(13)	376
第314図	12区土坑(14)	377
第315図	12区土坑(15)	378
第316図	12区土坑(16)	379
第317図	12区土坑(17)	380
第318図	12区土坑(18)	381
第319図	12区土坑(19)	382
第320図	12区土坑(20)	383
第321図	12区土坑(21)	384
第322図	12区土坑(22)	385
第323図	12区土坑(23)	386
第324図	12区土坑(24)	387
第325図	12区土坑(25)	388
第326図	12区土坑(26)	389
第327図	12区土坑(27)	390
第328図	12区土坑(28)	391
第329図	12区土坑(29)	392
第330図	12区土坑(30)	393
第331図	12区土坑(31)	394
第332図	12区土坑(32)	395
第333図	12区土坑(33)	396
第334図	12区土坑(34)	397
第335図	12区土坑(35)	398
第336図	12区埋喪・配石配置図	400
第337図	12区埋喪	401
第338図	12区配石	402
第339図	12区ビット配置図(1)	404
第340図	12区ビット配置図(2)	405
第341図	12区ビット配置図(3)	406
第342図	12区ビット配置図(4)	407
第343図	12区ビット(1)	408
第344図	12区ビット(2)	409

第345図	12区遺構外出土石器重量分布図	410
第346図	資料採集遺構図	451
第347図	暦年較正結果	454
第348図	黒曜石産地分布図（東日本）	455
第349図	長野県の黒曜石産地分布図	456
第350図	黒曜石産地推定判別図（1）	458
第351図	黒曜石産地推定判別図（2）	458
第352図	鯉沢バイパス遺跡位置図（第4面）	461
第353図	時期別住居配置図	462
第354図	時期別住居集成図	464
第355図	敷石住居集成図（1）	465
第356図	敷石住居集成図（2）	466

第357図	炉集成図（1）	468
第358図	炉集成図（2）	469
第359図	炉集成図（3）	470
第360図	炉集成図（4）	471
第361図	炉集成図（5）	472
第362図	炉集成図（6）	473
第363図	炉集成図（7）	474
第364図	炉集成図（8）	475
第365図	住居内配石・埋甕集成図（1）	476
第366図	住居内配石・埋甕集成図（2）	477
第367図	住居内配石・埋甕集成図（3）	478

表 目 次

第1表	鯉沢バイパス（その2）面積一覧表	5
第2表	中郷遺跡調査工程表	7
第3表	周辺遺跡一覧表	18
第4表	旧石器計測一覧表	41
第5表	中郷遺跡 遺構・遺物一覧表	48
第6表	住居計測一覧表	412
第7表	炉計測一覧表	413
第8表	住居内柱穴計測一覧表	422

第9表	土坑計測一覧表	426
第10表	中郷遺跡出土炭化材の樹種同定結果	452
第11表	測定試料及び処理	453
第12表	放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果	453
第13表	分析対象資料	455
第14表	黒曜石産地	456
第15表	産地推定結果	457

写真図版目次

PL. 1	1	1区（歩道橋下） 旧石器トレンチ
	2	1区（歩道橋下） 第1群旧石器
	3	1区（歩道橋下） 第1群旧石器
	4	1区（歩道橋下） 第1群旧石器
	5	1区（歩道橋下） 第1群旧石器
	6	1区（歩道橋下） 3号トレンチ西壁土層
	7	1区（歩道橋下） 3号トレンチ内遺物出土状況
	8	1区（歩道橋下） 3号トレンチ内遺物出土状況
PL. 2	1	1区 旧石器トレンチ
	2	1区 第2群旧石器
	3	1区 第2群旧石器土層
	4	1区 第2群旧石器 遺物出土状況
	5	3区 旧石器トレンチ全景
	6	3区 4号トレンチ遺物出土状況
	7	3区 4号トレンチ北壁土層
	8	3区 4号トレンチ東壁土層

PL. 3	1	2区 調査区全景（北より）
	2	3区 調査区全景（北より）
PL. 4	1	2区 1号住居全景
	2	2区 1号住居炉
	3	2区 1号住居掘方
	4	2区 1号住居遺物出土状況
	5	2区 1号住居遺物出土状況
PL. 5	1	3区 1号住居全景
	2	3区 1号住居炉
	3	3区 1号住居遺物出土状況
	4	3区 1号住居掘方
	5	3区 1号住居掘方土層
PL. 6	1	3区 1号土坑全景
	2	3区 1号土坑遺物出土状況
	3	3区 2号土坑全景
	4	3区 3号土坑全景

	5	3区	4号土坑全景		3	8区	7号住居遺物出土状況
	6	3区	5号土坑全景		4	8区	7号住居遺物出土状況
	7	3区	6号土坑全景		5	8区	8号住居全景
	8	3区	7号土坑全景		6	8区	8号住居炉
PL. 7	1	4区	調査区全景（南より）		7	8区	8号住居炉土層
	2	4区	調査区全景		8	8区	8号住居炉体土器
PL. 8	1	4区	1号住居全景	PL.18	1	8区	2号土坑土層
	2	4区	1号住居遺物出土状況		2	8区	3号土坑全景
	3	4区	2号住居全景		3	8区	4号土坑全景
	4	4区	2号住居土層		4	8区	4号土坑遺物出土状況
	5	4区	2号住居炉		5	8区	5号・15号土坑土層
PL. 9	1	7区	北調査区全景		6	8区	5号・15号土坑全景
	2	7区	1号住居全景		7	8区	土坑群（5号・14号～16号）
	3	7区	1号住居土層		8	8区	6号土坑土層
	4	7区	1号土坑全景	PL.19	1	8区	7号土坑全景
	5	7区	1号土坑土層		2	8区	8号土坑全景
PL. 10	1	7区	2号土坑全景		3	8区	12号土坑土層
	2	7区	2号土坑土層		4	8区	12号土坑全景
	3	7区	3号土坑全景		5	8区	12号土坑遺物出土状況
	4	7区	4号土坑全景		6	8区	13号土坑全景
	5	7区	南調査区全景		7	8区	13号土坑遺物出土状況
	6	7区	1号配石全景		8	8区	14号土坑全景
	7	7区	1号配石遺物出土状況	PL.20	1	8区	16号土坑全景
	8	7区	1号配石遺物出土状況		2	8区	17号土坑全景
PL.11	1	8区	調査区全景		3	8区	18号土坑遺物出土状況
	2	8区	調査風景		4	8区	18号土坑全景
PL.12	1	8区	1号住居全景		5	8区	19号土坑全景
	2	8区	1号住居遺物出土状況		6	8区	23号土坑土層
	3	8区	1号住居炉体土器		7	8区	23号土坑土層
	4	8区	1号住居土層		8	8区	23号土坑遺物出土状況
	5	8区	2号住居遺物出土状況	PL.21	1	8区	23号土坑全景
	6	8区	2号住居遺物出土状況		2	8区	25号土坑土層
	7	8区	2号住居遺物出土状況		3	8区	25号土坑全景
	8	8区	2号住居遺物出土状況		4	8区	25号土坑遺物出土状況
PL.13	1	8区	3号住居全景		5	8区	26号土坑全景
	2	8区	3号住居遺物出土状況		6	8区	27号土坑全景
	3	8区	3号住居炉		7	8区	29号土坑全景
	4	8区	3号住居炉体土器		8	8区	30号土坑全景
	5	8区	4号住居全景	PL.22	1	8区	32号土坑全景
	6	8区	4号住居土層		2	8区	6号住居炉下層検出土坑土層
	7	8区	4号住居遺物出土状況		3	8区	6号住居炉下層検出土坑全景
	8	8区	4号住居遺物出土状況		4	8区	6号ピット土層
PL.14	1	8区	5号住居全景		5	8区	4号住居内ピット土層
	2	8区	5号住居土層		6	8区	14号ピット土層
	3	8区	5号住居炉全景		7	8区	15号ピット全景
	4	8区	5号住居炉土層		8	8区	Bs-57グリッド内 磨製石斧出土状況
	5	8区	5号住居掘方	PL.23	1	9区	調査区全景（北より）
PL.15	1	8区	5号住居遺物出土状況		2	9区	1号配石全景
	2	8区	5号住居遺物出土状況		3	9区	1号配石近景
	3	8区	5号住居遺物出土状況		4	9区	1号配石掘方
	4	8区	5号住居遺物出土状況	PL.24	1	9区	調査区全景（南より）
	5	8区	6号住居全景		2	9区	調査区近景
	6	8区	6号住居土層	PL.25	1	9区	1号住居全景
	7	8区	6号住居炉		2	9区	1号住居土層
	8	8区	6号住居炉土層		3	9区	1号住居掘方
PL.16	1	8区	7号住居全景		4	9区	1号住居炉
	2	8区	7号住居炉		5	9区	1号住居炉体土器
	3	8区	7号住居炉体土器	PL.26	1	9区	2号・3号住居全景
	4	8区	7号住居1号ピット土層		2	9区	2号・3号住居土層
	5	8区	7号住居6号ピット土層		3	9区	2号住居内埋喪
PL.17	1	8区	7号住居張出部		4	9区	2号住居炉
	2	8区	7号住居張出部 埋設土器		5	9区	2号住居炉石埋設状況

PL.27	1	9区	1号土坑全景	7	9区	59号土坑全景			
	2	9区	2号土坑全景			8	9区	60号土坑全景	
	3	9区	3号土坑全景			PL.35	1	11区	4面 北調査区全景（北東より）
	4	9区	4号土坑全景				2	11区	4面 北調査区全景（西より）
	5	9区	5号土坑全景			PL.36	1	11区	北調査区中央付近遺構群（東より）
	6	9区	6号土坑全景				2	11区	北調査区北東端遺構群（東より）
	7	9区	7号土坑全景			PL.37	1	11区	1号住居全景
	8	9区	8号土坑全景				2	11区	1号住居炉
PL.28	1	9区	9号土坑土層	3	11区	1号住居炉石検出状況			
	2	9区	9号土坑全景			4	11区	1号住居土層	
	3	9区	10号土坑全景			5	11区	1号住居遺物出土状況	
	4	9区	11号土坑全景			6	11区	1号住居遺物出土状況	
	5	9区	12号土坑全景			7	11区	1号住居遺物出土状況	
	6	9区	13号土坑全景			8	11区	1号住居遺物出土状況	
	7	9区	14号土坑全景			PL.38	1	11区	2号住居全景
	8	9区	15号土坑全景				2	11区	2号住居遺物出土状況
PL.29	1	9区	16号土坑全景	3	11区	2号住居遺物出土状況			
	2	9区	17号土坑全景			4	11区	2号住居土層B-B'	
	3	9区	17号土坑遺物出土状況			5	11区	3号住居全景	
	4	9区	18号土坑全景			6	11区	3号住居土製耳飾り出土状況	
	5	9区	19号土坑全景			7	11区	3号住居炉	
	6	9区	20号土坑全景			PL.39	8	11区	3号住居炉内焼土検出状況
	7	9区	21号土坑全景				1	11区	4号住居全景
	8	9区	22号土坑全景			2	11区	4号住居遺物出土状況	
PL.30	1	9区	23号土坑全景	3	11区	4号住居土層			
	2	9区	24号土坑全景			4	11区	4号住居炉	
	3	9区	25号土坑全景			5	11区	4号住居炉内焼土検出状況	
	4	9区	26号土坑全景			6	11区	4号住居炉体土器埋設状況	
	5	9区	27号土坑全景			7	11区	4号住居炉内遺物出土状況	
	6	9区	28号土坑全景			PL.40	8	11区	4号住居遺物出土状況
	7	9区	29号土坑全景				1	11区	5号住居全景
	8	9区	30号土坑全景			2	11区	5号住居掘方全景	
PL.31	1	9区	31号土坑全景	3	11区	5号住居炉			
	2	9区	32号土坑全景			4	11区	5号住居炉体土器埋設状況	
	3	9区	33号土坑全景			5	11区	5号住居土層	
	4	9区	34号・35号土坑全景			6	11区	5号住居遺物出土状況	
	5	9区	36号土坑土層			7	11区	5号住居遺物出土状況	
	6	9区	36号土坑全景			8	11区	5号住居遺物出土状況	
	7	9区	37号土坑全景			PL.41	1	11区	6号住居全景
	8	9区	38号土坑全景				2	11区	6号住居遺物出土状況
PL.32	1	9区	39号土坑全景	3	11区	6号住居土層			
	2	9区	40号土坑全景			4	11区	6号住居炉	
	3	9区	41号土坑全景			5	11区	7号住居全景	
	4	9区	42号土坑全景			6	11区	7号住居遺物出土状況	
	5	9区	43号土坑全景			7	11区	7号住居炉体土器検出状況	
	6	9区	44号土坑全景			8	11区	7号住居炉内礫出土状況	
	7	9区	44号土坑遺物出土状況			PL.42	1	11区	8号住居全景
	8	9区	45号土坑全景				2	11区	8号住居遺物出土状況
PL.33	1	9区	46号土坑全景	3	11区	8号住居炉			
	2	9区	47号土坑全景			4	11区	8号住居炉土層	
	3	9区	47号土坑遺物出土状況			5	11区	9号住居全景	
	4	9区	48号土坑全景			6	11区	9号住居炉	
	5	9区	49号土坑全景			7	11区	9号住居遺物出土状況	
	6	9区	50号土坑全景			PL.43	8	11区	9号住居内土器出土状況
	7	9区	51号土坑全景				1	11区	10号住居全景
	8	9区	52号土坑土層			2	11区	10号住居遺物出土状況	
PL.34	1	9区	53号土坑全景	3	11区	10号住居炉			
	2	9区	53号土坑全景			4	11区	10号住居遺物出土状況	
	3	9区	53号土坑遺物出土状況			5	11区	10号住居炉内遺物出土状況	
	4	9区	55号土坑全景			PL.44	1	11区	11号住居全景
	5	9区	56号・57号土坑全景				2	11区	11号住居土層
	6	9区	58号土坑全景				3	11区	11号住居炉

	4	11区	11号住居埋甕出土状況	PL.57	1	11区	29号住居全景
	5	11区	11号住居炉土層		2	11区	16号・25号・30号住居全景
	6	11区	11号住居炉体土器埋設状況		3	11区	30号住居炉
	7	11区	11号住居遺物出土状況		4	11区	31号住居全景
	8	11区	11号住居遺物出土状況	PL.58	1	11区	32号住居全景
PL.45	1	11区	12号・24号住居全景		2	11区	32号住居遺物出土状況
	2	11区	12号・24号住居遺物出土状況		3	11区	32号住居遺物出土状況
	3	11区	12号住居炉体土器検出状況		4	11区	32号住居炉
	4	11区	12号・24号住居遺物出土状況		5	11区	32号住居炉土層
	5	11区	12号住居遺物出土状況	PL.59	1	11区	33号住居全景
PL.46	1	11区	13号住居全景		2	11区	33号住居土層
	2	11区	13号住居炉及び埋甕		3	11区	33号住居遺物出土状況
	3	11区	13号住居炉内遺物出土状況		4	11区	33号住居炉掘方
	4	11区	13号住居埋甕		5	11区	34号住居全景
	5	11区	13号住居器台出土状況	PL.60	1	11区	35号住居全景
PL.47	1	11区	14号住居全景		2	11区	35号住居炉
	2	11区	14号住居炉		3	11区	35号住居遺物出土状況
	3	11区	14号住居炉体土器埋設状況		4	11区	36号住居礫出土状況
	4	11区	14号住居遺物出土状況		5	11区	36号住居礫出土状況
	5	11区	14号住居遺物出土状況	PL.61	1	11区	36号住居全景
PL.48	1	11区	15号住居全景		2	11区	36号住居掘方全景
	2	11区	16号住居全景		3	11区	36号住居炉
PL.49	1	11区	16号住居土層		4	11区	36号住居内1号配石土層
	2	11区	16号住居炉内遺物出土状況		5	11区	36号住居内1号配石遺物出土状況
	3	11区	16号住居炉	PL.62	1	11区	37号住居全景
	4	11区	16号住居遺物出土状況		2	11区	37号住居遺物出土状況
	5	11区	18号住居全景		3	11区	37号住居内1号埋甕検出状況
PL.50	1	11区	18号住居炉土層		4	11区	37号住居炉
	2	11区	18号住居炉掘方		5	11区	37号住居炉検出状況
	3	11区	19号住居全景	PL.63	1	11区	37号住居内2号埋甕
	4	11区	19号住居炉		2	11区	37号住居内2号埋甕埋設状況
	5	11区	19号住居炉内遺物出土状況		3	11区	38号住居遺物出土状況
PL.51	1	11区	21号住居全景		4	11区	38号住居全景
	2	11区	21号住居炉検出状況		5	11区	38号住居遺物出土状況
	3	11区	21号住居炉		6	11区	38号住居 柱穴上遺物出土状況
	4	11区	21号住居炉		7	11区	39号住居全景
	5	11区	21号住居遺物出土状況		8	11区	39号住居1号～2号埋甕土層
PL.52	1	11区	22号住居ベルト除去状況	PL.64	1	11区	39号住居内2号埋甕検出状況
	2	11区	22号住居土層		2	11区	39号住居内3号埋甕検出状況
	3	11区	23号住居土層		3	11区	40号住居全景
	4	11区	23号住居遺物出土状況		4	11区	40号住居炉
	5	11区	24号住居全景	PL.65	5	11区	40号住居遺物出土状況
PL.53	1	11区	12号・24号住居遺物出土状況		1	11区	41号住居全景
	2	11区	24号住居炉		2	11区	41号住居炉土層
	3	11区	24号住居炉内焼土検出状況		3	11区	41号住居遺物出土状況
	4	11区	24号住居遺物出土状況		4	11区	42号住居全景
	5	11区	24号住居柱穴土層		5	11区	42号住居内埋甕検出状況
PL.54	1	11区	25号住居全景	PL.66	1	11区	43号住居全景
	2	11区	25号住居炉掘方		2	11区	43号住居掘方全景
	3	11区	25号住居炉土層		3	11区	43号住居炉
	4	11区	25号住居土層		4	11区	43号住居炉土層
	5	11区	25号住居遺物出土状況		5	11区	43号住居埋甕
PL.55	1	11区	26号住居礫出土状況	PL.67	1	11区	45号住居全景
	2	11区	26号住居炉		2	11区	45号住居炉
	3	11区	27号住居全景		3	11区	45号住居遺物出土状況
	4	11区	27号住居炉		4	11区	45号住居1号埋甕
	5	11区	27号住居遺物出土状況		5	11区	46号住居遺物出土状況
PL.56	1	11区	28号住居全景		6	11区	46号住居柱穴土層
	2	11区	28号住居炉		7	11区	47号住居遺物出土状況
	3	11区	28号住居焼土分布状況		8	11区	47号住居全景
	4	11区	28号住居柱穴土層	PL.68	1	11区	49号住居遺物出土状況
	5	11区	28号住居南壁寄り礫出土状況		2	11区	49号住居炉

	3	11区	49号住居炉体土器埋設状況		2	11区	80号土坑遺物出土状況
	4	11区	49号住居1号埋甕		3	11区	80号土坑遺物出土状況
	5	11区	49号住居2号埋甕		4	11区	80号土坑全景
PL.69	1	11区	50号住居全景		5	11区	82号土坑土層
	2	11区	50号住居遺物出土状況		6	11区	83号土坑土層
	3	11区	51号・52号住居全景		7	11区	84号土坑土層
	4	11区	51号住居炉		8	11区	90号土坑土層
	5	11区	51号住居炉		9	11区	112号土坑土層
PL.70	1	11区	51号住居炉体土器		10	11区	122号土坑土層A-A'
	2	11区	45号・48号・51号～53号住居遺物出土状況		11	11区	124号土坑遺物出土状況
	3	11区	54号住居全景		12	11区	124号土坑出土遺物近景
	4	11区	54号住居遺物出土状況		13	11区	126号土坑遺物出土状況
	5	11区	55号住居検出状況		14	11区	127号土坑遺物出土状況
	6	11区	55号住居炉		15	11区	128号土坑遺物出土状況
	7	11区	56号住居全景	PL.75	1	11区	133号・134号土坑土層
	8	11区	56号住居炉土層		2	11区	138号土坑土層
PL.71	1	11区	調査区南土坑群		3	11区	142号土坑土層
	2	11区	1号土坑土層		4	11区	143号土坑遺物出土状況
	3	11区	2号土坑遺物出土状況		5	11区	144号土坑土層
	4	11区	3号土坑土層		6	11区	144号土坑全景
	5	11区	4号土坑土層		7	11区	145号土坑土層
	6	11区	5号土坑土層		8	11区	146号土坑全景
	7	11区	7号土坑土層		9	11区	147号土坑全景
	8	11区	8号土坑土層		10	11区	149号土坑土層
	9	11区	9号土坑土層(上層)		11	11区	155号土坑土層
	10	11区	10号土坑土層(上層)		12	11区	156号土坑遺物出土状況
	11	11区	11号土坑掘り上げ		13	11区	160号土坑遺物出土状況
	12	11区	12号土坑土層		14	11区	164号土坑土層
	13	11区	13号土坑遺物出土状況		15	11区	166号土坑遺物出土状況
	14	11区	14号土坑全景	PL.76	1	11区	166号土坑遺物出土状況
	15	11区	15号土坑遺物出土状況		2	11区	167号・168号土坑全景
PL.72	1	11区	16号・17号土坑1号立木全景		3	11区	169号土坑土層
	2	11区	17号土坑、501号ピット全景		4	11区	171号土坑遺物出土状況
	3	11区	18号土坑土層		5	11区	171号土坑出土遺物近景
	4	11区	20号・21号土坑遺物出土状況		6	11区	175号土坑土層
	5	11区	23号土坑遺物出土状況		7	11区	176号土坑土層
	6	11区	24号土坑土層及び周辺遺構		8	11区	177号土坑土層
	7	11区	26号土坑土層		9	11区	179号・182号・183号土坑全景
	8	11区	32号・33号土坑土層		10	11区	184号土坑土層
	9	11区	34号・35号・46号土坑土層		11	11区	186号土坑土層
	10	11区	35号土坑土層		12	11区	187号土坑土層
	11	11区	37号・38号土坑土層		13	11区	188号・189号土坑土層
	12	11区	30号・31号・37号土坑土層		14	11区	190号土坑土層
	13	11区	39号土坑土層		15	11区	191号土坑全景
	14	11区	55号土坑全景	PL.77	1	11区	192号土坑全景
	15	11区	55号土坑遺物出土状況		2	11区	193号・194号土坑土層
PL.73	1	11区	57号・58号・601号・602号土坑全景		3	11区	195号～197号土坑土層
	2	11区	58号土坑土層		4	11区	203号土坑遺物出土状況
	3	11区	58号土坑内遺物出土状況		5	11区	203号土坑出土遺物近景
	4	11区	59号土坑土層		6	11区	219号土坑土層
	5	11区	60号土坑土層		7	11区	214号土坑遺物出土状況
	6	11区	61号土坑土層		8	11区	214号・219号土坑全景
	7	11区	63号土坑土層		9	11区	216号土坑全景
	8	11区	65号土坑土層		10	11区	217号・218号土坑土層
	9	11区	66号土坑土層		11	11区	223号土坑土層
	10	11区	70号土坑遺物出土状況		12	11区	224号土坑土層
	11	11区	70号土坑遺物出土状況		13	11区	224号土坑土層
	12	11区	71号土坑遺物出土状況		14	11区	225号土坑土層
	13	11区	72号土坑土層		15	11区	228号土坑土層
	14	11区	73号土坑土層	PL.78	1	11区	230号土坑全景
	15	11区	79号土坑遺物出土状況		2	11区	234号土坑土層
PL.74	1	11区	79号土坑遺物出土状況		3	11区	235号土坑遺物出土状況

	4	11区	237号土坑遺物出土状況		6	11区	348号土坑遺物出土状況
	5	11区	238号土坑土層		7	11区	349号土坑遺物出土状況
	6	11区	239号土坑全景		8	11区	351号土坑全景
	7	11区	242号・243号・249号・250号土坑土層		9	11区	352号土坑遺物出土状況
	8	11区	243号土坑土層		10	11区	353号・393号土坑全景
	9	11区	244号土坑全景		11	11区	355号土坑全景
	10	11区	245号土坑全景		12	11区	356号土坑遺物出土状況
	11	11区	246号～248号土坑全景		13	11区	357号土坑全景
	12	11区	249号土坑土層		14	11区	357号土坑遺物出土状況
	13	11区	250号土坑全景		15	11区	361号土坑遺物出土状況
	14	11区	251号土坑全景	PL.83	1	11区	361号土坑遺物出土状況
PL.79	15	11区	252号土坑遺物出土状況		2	11区	363号土坑全景
	1	11区	252号土坑全景		3	11区	364号土坑全景
	2	11区	255号・258号土坑全景		4	11区	365号土坑土層
	3	11区	259号土坑遺物出土状況		5	11区	365号土坑全景
	4	11区	260号・261号土坑遺物出土状況		6	11区	366号土坑遺物出土状況
	5	11区	260号土坑上層遺物除去		7	11区	368号土坑遺物出土状況
	6	11区	260号・261号土坑全景		8	11区	369号土坑遺物出土状況
	7	11区	262号土坑土層		9	11区	370号土坑全景
	8	11区	263号土坑全景		10	11区	372号土坑土層
	9	11区	268号土坑全景		11	11区	372号土坑全景
	10	11区	270号土坑遺物出土状況		12	11区	373号土坑全景
	11	11区	271号・272号・344号土坑全景		13	11区	374号土坑全景
	12	11区	274号土坑全景		14	11区	5号埋葬、376号土坑遺物出土状況
	13	11区	279号土坑土層		15	11区	376号土坑全景
	14	11区	281号土坑土層	PL.84	1	11区	377号土坑全景
	15	11区	282号土坑土層		2	11区	379号・402号土坑全景
PL.80	1	11区	283号土坑土層		3	11区	380号土坑全景
	2	11区	284号土坑土層		4	11区	381号・412号土坑全景
	3	11区	285号土坑土層		5	11区	382号土坑全景
	4	11区	286号土坑土層		6	11区	383号土坑全景
	5	11区	286号土坑全景		7	11区	385号土坑全景
	6	11区	287号土坑土層		8	11区	386号土坑全景
	7	11区	288号土坑全景		9	11区	387号土坑遺物出土状況
	8	11区	289号土坑土層		10	11区	390号土坑遺物出土状況
	9	11区	290号土坑全景		11	11区	390号土坑遺物出土状況
	10	11区	295号土坑全景		12	11区	390号土坑（1号配石）全景
	11	11区	298号土坑土層		13	11区	391号土坑遺物出土状況
	12	11区	299号土坑遺物出土状況		14	11区	392号土坑全景
	13	11区	299号土坑遺物出土状況		15	11区	397号土坑全景
	14	11区	301号土坑全景	PL.85	1	11区	398号土坑全景
	15	11区	302号土坑全景		2	11区	399号土坑全景
PL.81	1	11区	303号土坑全景		3	11区	400号土坑全景
	2	11区	304号土坑全景		4	11区	401号土坑全景
	3	11区	305号・306号土坑全景		5	11区	404号土坑全景
	4	11区	307号土坑全景		6	11区	405号土坑全景
	5	11区	309号土坑全景		7	11区	406号土坑遺物出土状況
	6	11区	312号土坑土層		8	11区	407号土坑土層
	7	11区	313号土坑全景		9	11区	408号・409号土坑全景
	8	11区	314号土坑土層		10	11区	410号土坑全景
	9	11区	315号土坑全景		11	11区	411号土坑遺物出土状況
	10	11区	317号土坑全景		12	11区	413号土坑全景
	11	11区	318号土坑全景		13	11区	414号土坑土層
	12	11区	319号土坑全景		14	11区	415号土坑全景
	13	11区	320号土坑土層		15	11区	416号土坑全景
	14	11区	326号土坑全景	PL.86	1	11区	417号土坑全景
	15	11区	331号土坑全景		2	11区	418号土坑全景
PL.82	1	11区	332号土坑全景		3	11区	419号土坑全景
	2	11区	333号・343号土坑、8号ピット全景		4	11区	424号土坑全景
	3	11区	334号・335号土坑、14号ピット全景		5	11区	425号土坑全景
	4	11区	345号土坑全景		6	11区	428号土坑全景
	5	11区	347号土坑土層		7	11区	429号土坑遺物出土状況

	8	11区	429号土坑遺物出土状況		10	11区	503号・510号土坑全景
	9	11区	430号土坑全景		11	11区	505号・506号土坑全景
	10	11区	431号・435号土坑全景		12	11区	507号土坑全景
	11	11区	432号土坑全景		13	11区	508号土坑隣出土状況
	12	11区	433号土坑全景		14	11区	508号土坑全景
	13	11区	436号土坑全景		15	11区	509号土坑炭化物
	14	11区	437号土坑土層	PL.91	1	11区	500号・511号土坑土層
	15	11区	438号土坑炭化物出土状況		2	11区	512号土坑全景
PL.87	1	11区	438号土坑土層		3	11区	514号土坑全景
	2	11区	440号土坑全景		4	11区	515号土坑全景
	3	11区	441号土坑全景		5	11区	517号土坑全景
	4	11区	442号土坑全景		6	11区	518号土坑全景
	5	11区	445号土坑全景		7	11区	519号土坑土層
	6	11区	446号土坑遺物出土状況		8	11区	520号土坑土層
	7	11区	447号土坑全景		9	11区	526号土坑全景
	8	11区	448号土坑全景		10	11区	528号土坑全景
	9	11区	449号土坑全景	PL.92	1	11区	1号配石全景
	10	11区	450号土坑全景		2	11区	1号配石近景
	11	11区	451号土坑全景		3	11区	1号配石全景
	12	11区	453号土坑全景		4	11区	1号配石近景
	13	11区	456号土坑全景		5	11区	1号配石Bブロック内土坑全景
	14	11区	457号土坑全景		6	11区	1号配石遺物出土状況
	15	11区	460号土坑全景		7	11区	1号配石遺物出土状況
PL.88	1	11区	461号土坑土層		8	11区	1号配石遺物出土状況
	2	11区	462号土坑土層	PL.93	1	11区	1号配石Cブロック全景
	3	11区	463号土坑遺物出土状況		2	11区	1号配石Cブロック遺物出土状況
	4	11区	463号土坑全景		3	11区	1号配石Dブロック全景
	5	11区	464号土坑全景		4	11区	1号配石Eブロック遺物出土状況
	6	11区	465号土坑全景		5	11区	1号配石Eブロック全景
	7	11区	469号土坑全景		6	11区	1号配石Fブロック近景
	8	11区	470号土坑土層		7	11区	2号配石遺物出土状況
	9	11区	472号土坑土層		8	11区	2号配石掘方全景
	10	11区	473号土坑全景	PL.94	1	11区	2号配石全景
	11	11区	474号土坑全景		2	11区	2号配石内埋襲検出状況
	12	11区	475号土坑土層		3	11区	2号配石内埋襲
	13	11区	476号土坑全景		4	11区	2号配石内埋襲掘方(ローム塊検出)
	14	11区	477号土坑全景		5	11区	2号配石内埋襲掘方(ローム塊断割)
	15	11区	478号土坑土層		6	11区	3号配石Cブロック全景
PL.89	1	11区	479号土坑全景		7	11区	3号配石Hブロック全景
	2	11区	480号土坑全景		8	11区	4号配石全景
	3	11区	482号土坑全景	PL.95	1	11区	4号配石全景
	4	11区	470号・483号土坑全景		2	11区	5号配石全景
	5	11区	486号土坑全景		3	11区	6号配石Bブロック
	6	11区	487号土坑全景		4	11区	6号配石Bブロック
	7	11区	488号土坑土層		5	11区	6号配石Dブロック全景
	8	11区	488号土坑全景		6	11区	6号配石Eブロック全景
	9	11区	489号土坑土層		7	11区	7号配石Bブロック全景
	10	11区	489号土坑遺物出土状況		8	11区	7号配石4号埋襲
	11	11区	489号土坑全景	PL.96	1	11区	7号配石Aブロック遺物出土状況
	12	11区	490号土坑全景		2	11区	1号埋襲検出状況
	13	11区	491号土坑全景		3	11区	1号埋襲埋設状況
	14	11区	493号土坑全景		4	11区	1号埋襲掘方全景
	15	11区	494号土坑土層		5	11区	2号埋襲埋設状況
PL.90	1	11区	494号土坑全景		6	11区	3号埋襲埋設状況
	2	11区	495号土坑全景		7	11区	3号埋襲掘方全景
	3	11区	496号土坑、12号埋襲土層		8	11区	4号埋襲埋設状況
	4	11区	496号土坑全景	PL.97	1	11区	4号埋襲全景
	5	11区	498号土坑全景		2	11区	4号埋襲掘方全景
	6	11区	499号土坑全景		3	11区	5号埋襲検出状況
	7	11区	490号・500号土坑土層		4	11区	5号埋襲、376号土坑内遺物出土状況
	8	11区	501号土坑全景		5	11区	6号埋襲検出状況
	9	11区	502号土坑全景		6	11区	7号埋襲検出状況

	7	11区	8号埋葬土層		5	12区	7号住居遺物出土状況
	8	11区	8号埋葬遺物出土状況	PL.112	1	12区	8号住居全景
PL.98	1	11区	9号埋葬検出状況		2	12区	8号住居炉
	2	11区	9号埋葬遺物出土状況		3	12区	8号住居遺物出土状況
	3	11区	9号埋葬掘方全景		4	12区	9号住居遺物出土状況
	4	11区	10号埋葬全景		5	12区	9号住居炉
	5	11区	10号埋葬埋設状況	PL.113	1	12区	9号住居全景
	6	11区	10号埋葬掘方全景		2	12区	10号住居全景
	7	11区	11号埋葬土層	PL.114	1	12区	10号住居土層
	8	11区	11号埋葬掘方全景		2	12区	10号住居炉
PL.99	1	11区	12号埋葬土層		3	12区	10号住居立石埋設状況
	2	11区	13号埋葬全景		4	12区	10号住居埋設埋設状況
	3	11区	1号屋外炉石棒転用状況		5	12区	11号住居全景
	4	11区	1号屋外炉下(240号土坑)遺物出土状況	PL.115	1	12区	11号住居遺物出土状況
	5	11区	1号屋外炉下(240号土坑)全景		2	12区	11号住居炉
	6	11区	1号屋外炉下(240号土坑)全景		3	12区	11号・13号住居全景
	7	11区	包含層調査(Ch-80グリッド)		4	12区	13号住居炉
	8	11区	包含層調査(Co-95グリッド)		5	12区	13号住居遺物出土状況
PL.100	1	11区	包含層出土遺物(中央部西より)	PL.116	1	12区	14号住居全景
	2	11区	包含層出土遺物(中央部西より)		2	12区	14号住居炉
	3	11区	包含層出土遺物(中央部西より)		3	12区	14号住居陥没状況
	4	11区	包含層出土遺物(中央部西より)		4	12区	14号住居遺物出土状況
	5	11区	包含層出土遺物(C1-83グリッド)		5	12区	14号住居土層
	6	11区	包含層出土遺物(C1-83グリッド)	PL.117	1	12区	15号住居全景
PL.101	1	12区	北調査区全景(南より)		2	12区	15号住居炉
	2	12区	北調査区全景(北より)		3	12区	15号住居遺物出土状況
PL.102	1	12区	南調査区全景		4	12区	15号住居P1土層
PL.103	1	12区	南調査区北側		5	12区	15号住居P3土層及び遺物出土状況
	2	12区	南調査区南側	PL.118	1	12区	16号住居全景
PL.104	1	12区	南調査区全景(北より)		2	12区	16号住居炉
	2	12区	南調査区2面及び4面(下方)近景		3	12区	16号住居遺物出土状況
PL.105	1	12区	1号住居全景		4	12区	16号住居土層
	2	12区	1号住居炉		5	12区	16号住居炉石埋設状況
	3	12区	1号住居遺物出土状況	PL.119	1	12区	18号住居張出部全景
	4	12区	1号住居炉体土器埋設状況		2	12区	18号住居全景
	5	12区	1号住居掘方全景		3	12区	18号住居連結部石組
PL.106	1	12区	2号住居全景		4	12区	18号住居掘方全景
	2	12区	2号住居遺物出土状況		5	12区	18号住居張出部掘方近景
	3	12区	2号住居内1号土坑	PL.120	1	12区	19号住居石組炉内土層
	4	12区	2号住居炉		2	12区	20号住居全景
	5	12区	2号住居炉土層		3	12区	20号住居遺物出土状況
PL.107	1	12区	3号・4号住居全景		4	12区	20号住居炉
	2	12区	3号住居遺物出土状況		5	12区	20号住居炉掘方
PL.108	1	12区	3号住居全景		6	12区	20号住居遺物出土状況
	2	12区	3号住居炉		7	12区	21号住居全景
	3	12区	3号住居炉体土器埋設状況		8	12区	21号住居炉
	4	12区	3号住居掘方全景	PL.121	1	12区	22号住居全景
	5	12区	3号住居張出部礫出土状況		2	12区	22号住居炉
PL.109	1	12区	4号住居全景		3	12区	22号住居炉土層
	2	12区	4号住居主体部近景		4	12区	22号住居遺物出土状況
	3	12区	4号住居張出部近景		5	12区	22号住居遺物出土状況
	4	12区	4号住居炉検出状況	PL.122	1	12区	23号住居全景
	5	12区	4号住居内1号埋葬埋設状況		2	12区	23号住居遺物出土状況
PL.110	1	12区	4号住居内2号埋葬出土状況		3	12区	23号住居土層
	2	12区	4号住居P7内遺物出土状況		4	12区	23号住居炉土層
	3	12区	5号住居全景		5	12区	23号住居炉内遺物出土状況
	4	12区	5号住居炉内遺物出土状況	PL.123	1	12区	23号住居炉体土器
	5	12区	5号住居炉体土器		2	12区	23号住居炉下(174号土坑)土層
PL.111	1	12区	6号住居遺物出土状況		3	12区	23号住居炉下(174号土坑)遺物出土状況
	2	12区	6号住居遺物出土状況		4	12区	23号住居炉下(174号土坑)掘方全景
	3	12区	7号住居全景		5	12区	23号住居出土土器内土層
	4	12区	7号住居遺物出土状況		6	12区	23号住居出土土器

	7	12区	23号住居出土土器接地面側		8	12区	40号住居遺物（耳栓）出土状況
	8	12区	24号住居全景	PL.135	1	12区	41号住居全景
PL.124	1	12区	25号住居全景		2	12区	41号住居炉体土器埋設状況
	2	12区	25号住居炉		3	12区	41号住居遺物出土状況
	3	12区	25号住居遺物出土状況		4	12区	41号住居遺物出土状況
	4	12区	25号住居埋葬埋設状況		5	12区	41号住居遺物出土状況
	5	12区	26号住居全景	PL.136	1	12区	42号住居全景
PL.125	1	12区	26号住居遺物出土状況		2	12区	42号住居遺物出土状況
	2	12区	26号住居（39号住居含む）掘方全景		3	12区	42号住居掘方全景
	3	12区	26号住居炉・埋葬土層		4	12区	42号住居遺物出土状況
	4	12区	26号住居P 4号土層		5	12区	42号住居炉
	5	12区	27号住居全景		6	12区	42号住居炉遺物出土状況
PL.126	1	12区	27号住居炉		7	12区	42号住居炉土層
	2	12区	27号住居炉体土器埋設状況		8	12区	42号住居炉掘方全景
	3	12区	27号住居埋葬、立石全景	PL.137	1	12区	43号住居全景
	4	12区	27号住居埋葬、立石埋設状況		2	12区	43号住居炉近接
	5	12区	28号住居炉		3	12区	43号住居遺物出土状況
	6	12区	28号住居炉体土器埋設状況		4	12区	44号～46号住居遺物出土状況
	7	12区	29号住居炉		5	12区	44号・45号住居全景
	8	12区	29号住居掘方土層	PL.138	1	12区	46号住居全景
PL.127	1	12区	31号住居全景		2	12区	46号住居内2号土坑遺物出土状況
	2	12区	31号住居遺物出土状況		3	12区	47号住居遺物出土状況
	3	12区	31号住居掘方全景		4	12区	47号住居掘方全景
	4	12区	31号住居炉		5	12区	47号住居炉
	5	12区	31号住居炉掘方		6	12区	47号住居炉体土器内土層
PL.128	1	12区	32号住居全景		7	12区	49号住居全景
	2	12区	32号住居遺物出土状況		8	12区	49号住居遺物出土状況
	3	12区	32号住居掘方全景	PL.139	1	12区	49号住居炉体土器
	4	12区	32号住居炉		2	12区	49号住居炉体土器埋設状況
	5	12区	32号住居遺物出土状況		3	12区	50号住居遺物出土状況
PL.129	1	12区	33号住居全景		4	12区	50号住居全景
	2	12区	33号住居炉		5	12区	50号住居炉
	3	12区	34号住居全景		6	12区	50号住居炉遺物出土状況
	4	12区	34号住居遺物出土状況		7	12区	50号住居2号炉（1号埋葬）
	5	12区	34号住居遺物出土状況		8	12区	50号住居2号埋葬
PL.130	1	12区	35号住居全景	PL.140	1	12区	52号住居全景
	2	12区	35号住居主体部近景		2	12区	52号住居遺物出土状況
	3	12区	35号住居張出部近景		3	12区	52号住居炉
	4	12区	35号住居炉枠転用土器		4	12区	52号住居炉完掘
	5	12区	35号住居炉		5	12区	52号・53号住居掘方全景
PL.131	1	12区	36号住居全景	PL.141	1	12区	53号住居全景
	2	12区	36号住居炉		2	12区	53号住居遺物出土状況
	3	12区	36号住居炉体土器		3	12区	53号住居掘方全景
	4	12区	37号住居全景		4	12区	53号住居炉遺物出土状況
	5	12区	37号住居住居内柱穴		5	12区	53号住居炉掘方全景
PL.132	1	12区	38号住居全景	PL.142	1	12区	54号住居遺物出土状況
	2	12区	38号住居主体部		2	12区	54号住居遺物出土状況
	3	12区	38号住居張出部近景		3	12区	55号住居土層
	4	12区	38号住居掘方全景		4	12区	56号住居遺物出土状況
	5	12区	38号住居内配石		5	12区	56号住居遺物出土状況
PL.133	1	12区	38号住居炉及び連結部近景		6	12区	56号住居遺物出土状況
	2	12区	38号住居炉		7	12区	56号住居全景
	3	12区	38号住居連結部石組		8	12区	56号住居埋葬埋設状況
	4	12区	38号住居内1号埋葬出土状況	PL.143	1	12区	1号土坑全景
	5	12区	38号住居内2号埋葬出土状況		2	12区	2号土坑全景
PL.134	1	12区	39号住居全景		3	12区	3号土坑全景
	2	12区	39号住居炉		4	12区	10号土坑全景（28号・29号ピット）
	3	12区	39号住居炉上部遺物出土状況		5	12区	11号土坑全景
	4	12区	39号住居炉掘方遺物出土状況		6	12区	12号土坑全景
	5	12区	40号住居全景		7	12区	13号土坑全景
	6	12区	40号住居炉		8	12区	14号土坑全景
	7	12区	40号住居炉土層		9	12区	15号土坑全景

	10	12区	16号・17号・27号土坑全景		12	12区	82号土坑遺物出土状況
	11	12区	17号土坑全景		13	12区	82号土坑遺物出土状況
	12	12区	18号土坑全景		14	12区	82号・108号土坑全景
	13	12区	21号土坑全景		15	12区	83号土坑遺物出土状況
	14	12区	22号土坑礫出土状況	PL.148	1	12区	83号・90号土坑全景
PL.144	15	12区	23号・30号土坑全景 (81号～83号ピット)		2	12区	84号土坑全景
	1	12区	24号土坑全景		3	12区	85号・86号土坑全景
	2	12区	25号土坑全景		4	12区	87号土坑遺物出土状況
	3	12区	26号土坑全景		5	12区	91号土坑全景
	4	12区	31号土坑全景		6	12区	92号土坑全景
	5	12区	32号土坑全景		7	12区	93号土坑土層
	6	12区	38号土坑全景		8	12区	95号～98号土坑全景
	7	12区	38号土坑土層		9	12区	99号土坑全景
	8	12区	39号土坑全景		10	12区	100号土坑全景
	9	12区	41号土坑土層		11	12区	101号土坑全景
	10	12区	43号土坑土層・遺物出土状況		12	12区	102号土坑全景
	11	12区	44号土坑遺物出土状況		13	12区	103号・104号土坑全景
	12	12区	44号土坑遺物出土状況		14	12区	105号土坑全景
	13	12区	45号土坑遺物出土状況		15	12区	106号土坑全景
	14	12区	46号・54号土坑全景	PL.149	1	12区	107号土坑遺物出土状況
PL.145	15	12区	46号土坑遺物出土状況		2	12区	107号土坑全景
	1	12区	47 (43) 号土坑土層		3	12区	109号土坑全景
	2	12区	48号土坑土層		4	12区	110号・113号・114号土坑 (105号・106号ピット)
	3	12区	49号土坑遺物出土状況全景		5	12区	111号土坑全景
	4	12区	50号・51号土坑全景		6	12区	112号土坑全景
	5	12区	52号・53号土坑土層		7	12区	114号土坑全景
	6	12区	52号・53号土坑全景		8	12区	115号土坑遺物出土状況
	7	12区	55号・56号土坑遺物出土状況		9	12区	116号土坑全景
	8	12区	55号土坑土層遺物出土状況		10	12区	118号土坑遺物出土状況
	9	12区	55号・76号・77号・84号土坑全景		11	12区	119号土坑全景
	10	12区	56号・94号土坑全景		12	12区	120号土坑全景
	11	12区	57号土坑遺物出土状況		13	12区	121号土坑遺物出土状況
	12	12区	57号土坑遺物出土状況		14	12区	122号土坑全景
	13	12区	57号土坑遺物出土状況		15	12区	123号・124号土坑遺物出土状況
	14	12区	57号・88号・89号土坑全景	PL.150	1	12区	124号土坑全景
PL.146	15	12区	58号土坑全景		2	12区	125号土坑全景
	1	12区	59号・60号土坑全景		3	12区	126号土坑遺物出土状況
	2	12区	61号土坑全景		4	12区	126号土坑土層
	3	12区	61号・74号土坑全景		5	12区	127号・128号土坑全景
	4	12区	62号土坑遺物出土状況		6	12区	129号・130号土坑
	5	12区	63号土坑全景		7	12区	129号土坑全景
	6	12区	64号土坑遺物出土状況		8	12区	131号・132号土坑全景
	7	12区	65号・66号土坑全景		9	12区	133号土坑全景
	8	12区	67号土坑全景		10	12区	134号土坑全景
	9	12区	68号土坑遺物出土状況		11	12区	134号土坑遺物出土状況
	10	12区	69号土坑全景		12	12区	135号土坑全景
	11	12区	70号土坑全景		13	12区	136号土坑全景
	12	12区	71号土坑全景		14	12区	137号土坑全景
	13	12区	72号土坑土層		15	12区	140号土坑土層
	14	12区	73号土坑土層	PL.151	1	12区	138号・139号土坑遺物出土状況
PL.147	15	12区	74号土坑土層		2	12区	138号土坑遺物出土状況
	1	12区	75号土坑全景		3	12区	141号土坑全景
	2	12区	75号・117号土坑全景		4	12区	142号土坑全景
	3	12区	76号・77号土坑土層		5	12区	143号土坑全景
	4	12区	78号土坑遺物出土状況		6	12区	144号土坑遺物出土状況
	5	12区	78号土坑遺物出土状況		7	12区	145号土坑全景
	6	12区	79号・115号土坑全景		8	12区	146号土坑全景
	7	12区	79号土坑全景		9	12区	147号土坑全景
	8	12区	80号土坑全景		10	12区	148号土坑 (33号住居内) 全景
	9	12区	81号土坑土層		11	12区	149号土坑全景
	10	12区	82号土坑全景		12	12区	150号土坑全景
	11	12区	82号土坑内土器埋設状況				

PL.152	13	12区	151号土坑全景	PL.156	15	12区	204号土坑全景
	14	12区	152号土坑全景		1	12区	205号土坑遺物出土状況
	15	12区	153号土坑全景		2	12区	206号土坑遺物出土状況
	1	12区	154号土坑全景		3	12区	207号土坑全景
	2	12区	155号土坑全景		4	12区	209号土坑遺物出土状況
	3	12区	156号・157号土坑全景		5	12区	210号土坑遺物出土状況
	4	12区	158号土坑全景		6	12区	211号土坑全景
	5	12区	159号土坑全景		7	12区	212号土坑全景
	6	12区	160号土坑全景		8	12区	213号土坑全景
	7	12区	160号土坑土層		9	12区	214号土坑全景
	8	12区	162号土坑遺物出土状況		10	12区	215号土坑遺物出土状況
	9	12区	162号土坑土層		11	12区	216号土坑全景
	10	12区	159号・160号・171号土坑全景		12	12区	217号土坑遺物出土状況
	11	12区	163号土坑全景		13	12区	218号土坑遺物出土状況
PL.153	12	12区	164号土坑(46号住居内)遺物出土状況	14	12区	219号土坑遺物出土状況	
	13	12区	166号土坑遺物出土状況	15	12区	220号・221号土坑全景	
	14	12区	166号土坑土層	1	12区	222号土坑遺物出土状況	
	15	12区	166号・167号土坑全景	2	12区	223号土坑遺物出土状況	
	1	12区	166号・168号・169号土坑全景	3	12区	224号土坑全景	
	2	12区	169号土坑遺物出土状況	4	12区	225号土坑全景	
	3	12区	170号土坑(34号住居内)遺物出土状況	5	12区	226号土坑全景	
	4	12区	170号土坑遺物出土状況	6	12区	227号土坑全景	
	5	12区	170号土坑遺物出土状況	7	12区	228号土坑全景	
	6	12区	170号土坑遺物出土状況	8	12区	229号土坑全景	
	7	12区	170号土坑遺物出土状況	9	12区	230号土坑全景	
	8	12区	170号土坑遺物出土状況	10	12区	231号土坑全景	
	9	12区	170号土坑全景	11	12区	232号・252号土坑全景	
	10	12区	171号土坑土層	12	12区	233号・234号土坑全景	
PL.154	11	12区	172号土坑遺物出土状況	13	12区	235号土坑全景	
	12	12区	173号土坑遺物出土状況	14	12区	236号土坑全景	
	13	12区	175号土坑全景	15	12区	237号土坑全景	
	14	12区	176号土坑全景	1	12区	238号土坑全景	
	15	12区	177号土坑遺物出土状況	2	12区	239号土坑全景	
	1	12区	178号土坑全景	3	12区	240号土坑全景	
	2	12区	178号土坑遺物出土状況	4	12区	241号土坑全景	
	3	12区	178号土坑内埋葬	5	12区	242号土坑全景	
	4	12区	179号土坑遺物出土状況	6	12区	243号・244号土坑遺物出土状況	
	5	12区	180号土坑全景	7	12区	245号土坑全景	
	6	12区	180号土坑礫出土状況	8	12区	246号土坑全景	
	7	12区	181号土坑遺物出土状況	9	12区	251号土坑遺物出土状況	
	8	12区	182号土坑全景	10	12区	251号土坑遺物出土状況近接	
	9	12区	183号土坑全景	1	12区	1号埋葬出土状況	
PL.155	10	12区	184号土坑全景	2	12区	2号埋葬全景	
	11	12区	185号土坑遺物出土状況	3	12区	3号埋葬埋設状況	
	12	12区	186号土坑全景	4	12区	4号埋葬埋設状況	
	13	12区	187号土坑遺物出土状況	5	12区	5号埋葬全景	
	14	12区	187号・188号土坑全景	6	12区	6号埋葬全景	
	15	12区	189号土坑遺物出土状況	7	12区	1号配石遠景(129・130グリッド)	
	1	12区	189号土坑全景	8	12区	1号配石全景	
	2	12区	190号土坑遺物出土状況	1	12区	2号配石全景	
	3	12区	191号土坑全景	2	12区	中層包含層調査全景	
	4	12区	192号土坑全景	3	12区	包含層調査(3号・4号住居上層)	
	5	12区	193号土坑全景	4	12区	Db-122グリッド遺物出土状況	
	6	12区	194号土坑全景	5	12区	Db-122グリッド遺物出土状況	
	7	12区	195号土坑全景	6	12区	Db-125グリッド遺物出土状況	
	8	12区	196号土坑全景	7	12区	Db-99グリッド遺物出土状況	
9	12区	197号土坑遺物出土状況	8	12区	Ct-110グリッド遺物(石棒)出土状況		
10	12区	198号土坑遺物出土状況	PL.161	1区第1群	出土石器(1)		
11	12区	199号土坑遺物出土状況	PL.162	1区第1群	出土石器(2)		
12	12区	200号土坑全景	PL.163		接合資料(1)		
13	12区	201号土坑全景	PL.164		接合資料(2)		
14	12区	202号・203号土坑遺物出土状況					

報告書抄録

書名ふりがな	なかごういせき(2) -きゅうせっき・じょうもんじだいへん-
書名	中郷遺跡(2) -旧石器・縄文時代編-
副書名	一般国道17号(鯉沢バイパス)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)報告書
巻次	8
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	482
編著者名	神谷佳明、齊藤利昭、桜井美枝、山口逸弘
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20100319
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	なかごういせき
遺跡名	中郷遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんしぶかわしなかごう
遺跡所在地	群馬県渋川市中郷459-23番地他
市町村コード	10208
遺跡番号	K0130
北緯(日本測地系)	363203 ~ 363147
東経(日本測地系)	1390133 ~ 1390125
北緯(世界測地系)	363214 ~ 363158
東経(世界測地系)	1390121 ~ 1390113
調査期間	20030701-20031218 / 20040401-20050731
調査面積	22778m ²
調査原因	道路建設工事
種別	石器製作/集落/その他
主な時代	旧石器/縄文
遺跡概要	石器製作址-旧石器-1 集落-縄文-竪穴住居123+土坑859+包含層-縄文土器+石器
特記事項	As-BP下石器製作址。縄文時代中期後半期の拠点集落が想定できる遺構・遺物量検出。
要約	最古の生活面として第5面ローム層中As-BP下で石器製作址1地点を検出した。次の第4面の縄文時代遺構検出面では、前期から後期にかけて123軒の竪穴住居群や859基の土坑群等を検出し、出土遺物は950箱を数えた。その中心は縄文時代中期後半期であり、調査対象範囲から西側外に延びる遺構群が想定でき、拠点集落の一角にかかったと考えられる。

第1章

調査の経緯



遺跡遠景：右手は利根川が大きく蛇行し、利根川により形成された河岸段丘が発達している。
左奥が子持山。中央の平坦面上（長坂面）に中郷遺跡が存在する。

第1節 調査に至る経緯

一般国道17号は、東京を起点として埼玉県、群馬県を通過して新潟県に至る太平洋側と日本海側を結ぶ重要な国道である。この国道は、高崎市新町で神流川を渡河し群馬県内に入り、県内の主要都市である高崎市、前橋市、渋川市、沼田市等を南北に結び、みなかみ町の三国峠を経て新潟県に至る。この経路上には渋滞の発生する箇所も多く、その一つに県央部の渋川市阿久津や吹屋（旧子持村）地区がある。

この地域の交通渋滞を解消するためバイパス建設計画が立てられた。計画では、渋川市東町で吾妻川を渡河し、旧子持村村内の東縁地区を南北に縦断する計画で、白井地区・吹屋地区・中郷地区を通り、上白井地区で再び現在の国道17号と合流する全長約5.5km、幅員4車線で結ぶ一般国道17号（鯉沢バイパス）道路改築工事である。

鯉沢バイパスの建設事業は2回に分けられ、渋川市東町から子持村白井の国道353号（鯉沢バイパス）との接続部分までの2.3kmを（その1）工事として実施した。工事に際して、吾妻川右岸で渋川市東町関下遺跡、左岸の旧子持村内で白井二位屋遺跡、白井南中道遺跡、白井丸岩遺跡、白井北中道遺跡等の発掘調査が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって実施され、平成8年（1996年）にこの区間の工事も終了し、供用開始となった。

その後、（その2）工事の渋川市白井から渋川市上白井の終点までの間については、国土交通省高崎工事事務所（現：国土交通省高崎河川国道事務所）から一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財調査（その2）として群馬県教育委員会文化財保護課に事業照会があり、同課では（その1）工事の状況やこの地域に大量に堆積する榛名山の火山灰や軽石の状況から工事対象地には遺跡の存在する旨が回答された。その結果を受けて事業者である国土交通省高崎工事事務所との協議が進められ平成14年（2002年）8月30日付けで、国土交通省関東地方整備局長並びに群馬県教育委員会教育長、財団法

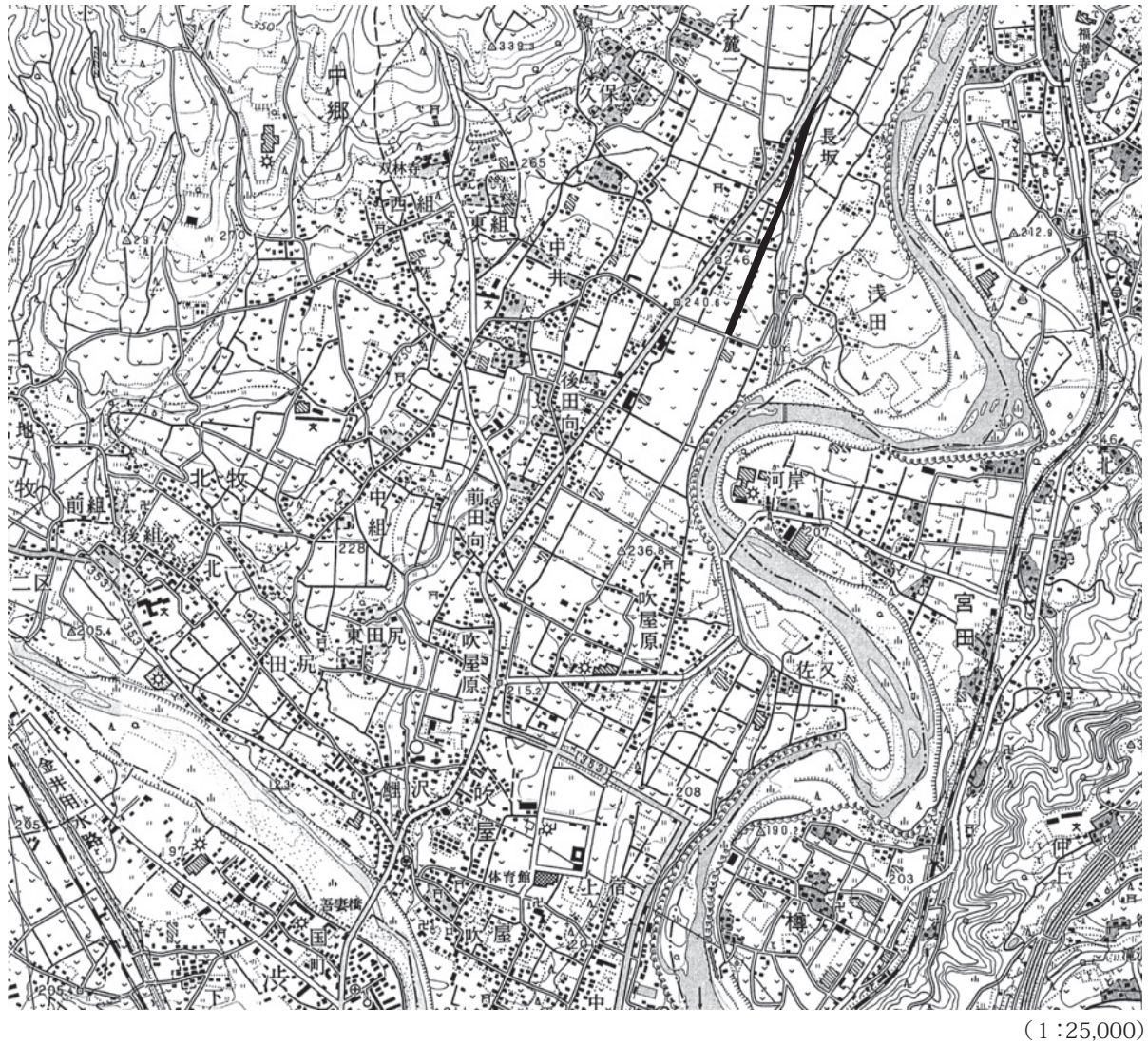
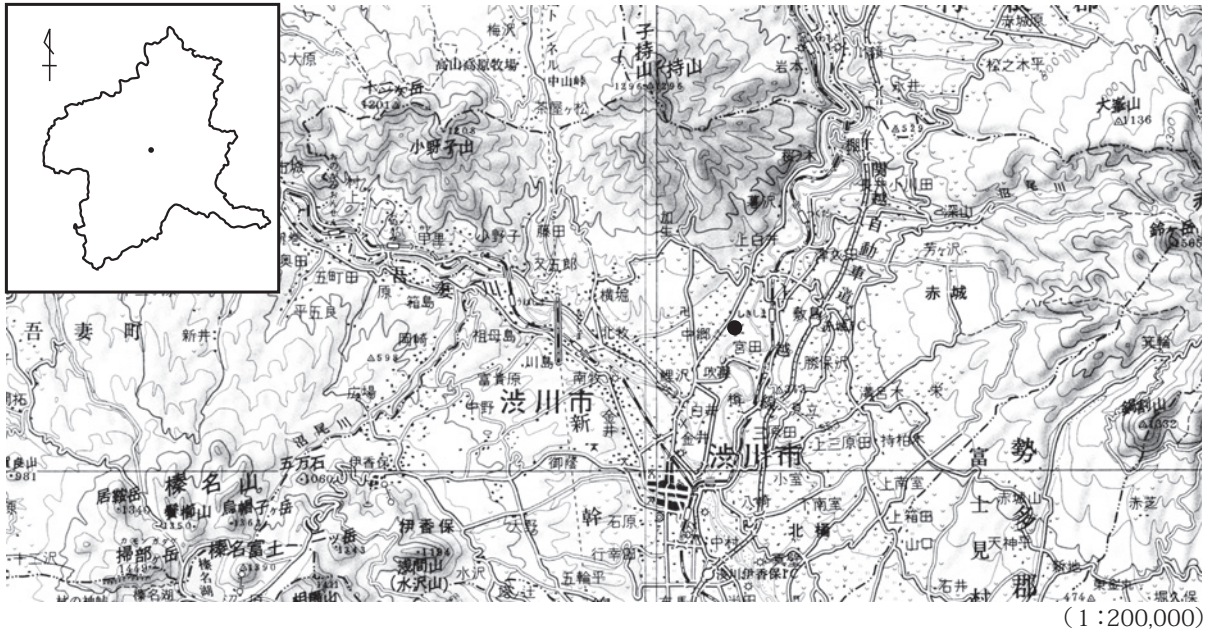
人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、一般国道17号（鯉沢バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）に関する協定書を締結した。また、国土交通省関東地方整備局長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成14年度の埋蔵文化財発掘調査に係る委託契約を締結し、発掘調査を開始することとなった。事業対象地内には、南から白井北中道Ⅲ遺跡、白井十二遺跡、吹屋伊勢森遺跡、吹屋遺跡、中郷遺跡、上白井西伊熊遺跡が所在し、調査対象面積は約115,000㎡に及んだ。

発掘調査は、平成14年10月に吹屋伊勢森遺跡から開始し、用地確保ができた遺跡より随時発掘調査を実施した。年度途中で調査可能面積増や遺構・遺物量の増加等に対応するため増班を行い工期に間に合うように対応し、平成17年（2005年）7月に発掘調査を完了させた。また、発掘調査に係わる報告書作成は平成17年4月から吹屋伊勢森遺跡より開始し、今年度までに吹屋遺跡、白井十二遺跡、白井北中道Ⅲ遺跡等の調査報告書を刊行した。

今回報告する中郷遺跡の発掘調査は、榛名山の六世紀代の2度の大規模な噴火により堆積した軽石層上下や火山灰下を含め1面から5面まで複数面の文化層が確認でき、各面について調査を実施した。特に4面では100軒を越す縄文時代住居や850基以上の土坑の調査を行い、膨大な量の遺物が出土した。そのため整理作業は、複数年の整理期間が必要と試算され、県文化財保護課を通し国土交通省高崎河川国道事務所と調整を行い、平成18年（2006年）7月から整理作業を開始し、途中整理班数を増班して対応した。

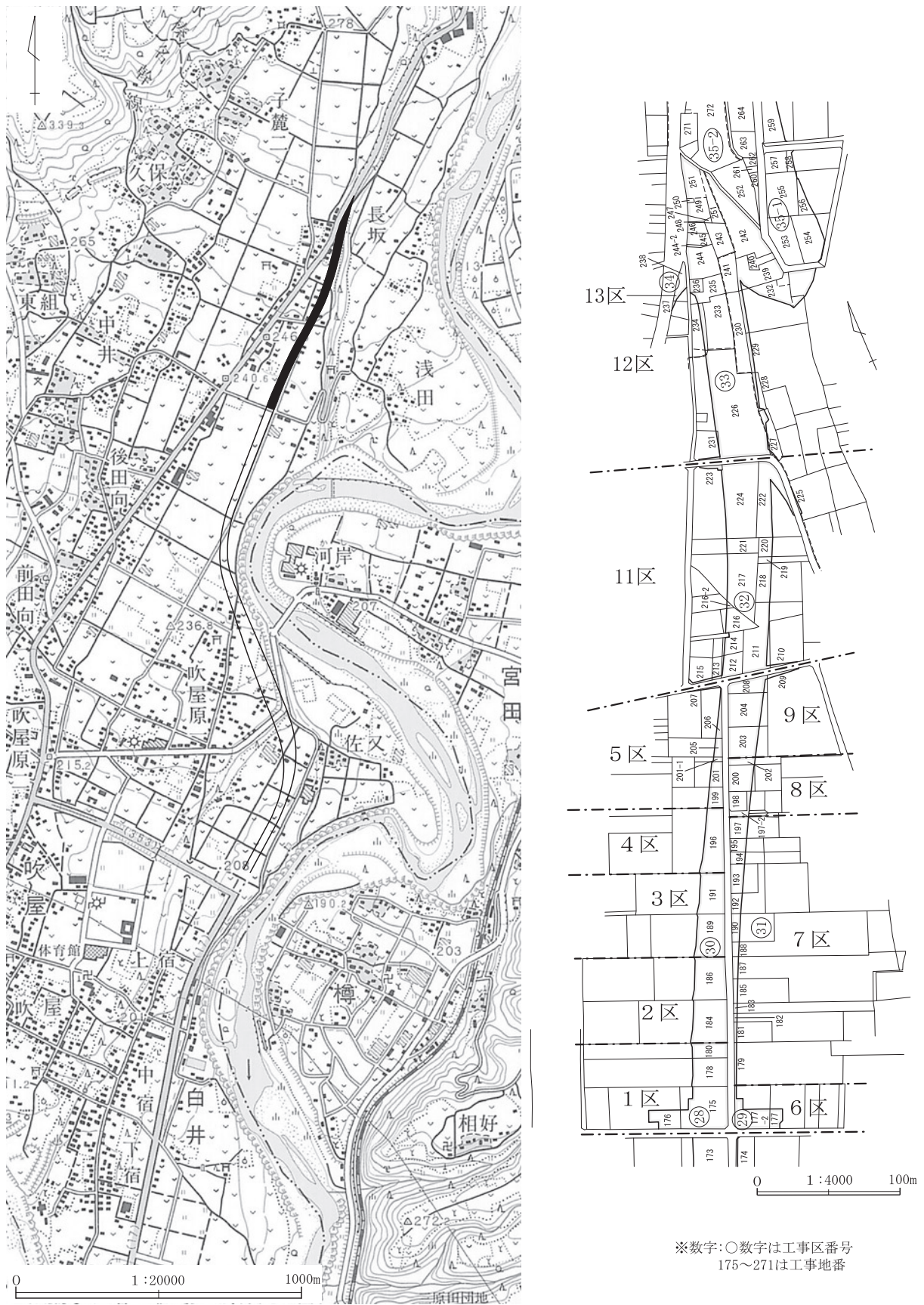
平成19年度に中郷遺跡（1）古墳時代以降編として調査各区の1面から3面までの報告書を刊行した。

本報告書は、1区から13区にかけての4面で検出された縄文時代の遺構・遺物と5面で検出された旧石器の報告を行う。



第1図 遺跡位置図

第1章 調査の経緯



第2図 遺跡位置図及び調査区配置図

第2節 調査の経過

1. 調査の経過

中郷遺跡は、平成15年度より一部用地が解決した地点より調査を開始した。平成16年度にはほぼ全線の用地が解決し、2班体制により平成16年度中に中郷遺跡の調査を終了させる予定であった。しかし、遺跡北寄りの地点No.32～No.34（11区・12区）にかけて想定していなかった第4面の縄文時代集落と集落に伴う大量の土器・石器等が発見されたため、平成16年度中の調査終了は困難となり、平成17年度前半まで調査を継続することとなった。

各年度の発掘経過は次の通りある。

平成15年度：1班体制で平成15年7月～12月まで調査を行った。調査地は、地区No.28～地区No.31の間で、一部未解決地については調査を次年度に送った。調査対象地内は、道路や宅地の出入り口等の関係で分断され、また排土置き場を確保しながらの調査であったため、繰り返し調査を行った。

平成16年度：調査地は、平成15年度未解決地と国道17号タッチ（地区No.34）までを対象とした。ただし、本事業関連の上白井西伊熊遺跡と吹屋遺跡も同時に調査を実施していた。年度当初は1班で中郷遺跡の調査を進めた。7月以降には吹屋遺跡調査班が合流し、平成15年度未解決地及び11区の調査に入った。調査は、1面～3面までは順調に進んだが、4面に入ると続々と土器・石器が出土し始め、その後住居・土坑等の遺構も確認でき、縄文時代前期から後期まで100軒を超える竪穴住居や同時期の862基を数える土坑群、埋甕や配石遺構等が出現し、それらの遺構から出土する大量の土器・石器等は遺構収納箱で950箱を数えた。この状況から、この地域の拠点集落の一角に当たったと考えられ、調査の進捗が大幅に遅れ、平成16年度中に調査を終了させることはできなかった。

平成17年度：平成17年4月から7月末までの間を2班体制で臨み、前年度に終了できなかった11区・12区の4・5面の調査を行い終了した。

2. 調査区の設定（第2図参照）

調査対象地内には村道や宅地・田畑への出入口や埋設管等があり、遺跡内が寸断されることからそれぞれの区画毎に調査区名称を付して調査を行うこととした。村道7103号線北から村道7029号線南（地区No.28～No.31）にかけては、南北に走る村道103号線や宅地・田畑への進入路等で分断され、また調査による排土置き場の確保のため繰り返し調査も必要となり、調査区を1区から9区に細分することとなった。その中で5区については、大半が歩道設置範囲でもあったため第1面のみ調査を行った。9区以北の村道7029号線から村道7031号線（地区No.32）までの約150mの間を11区、村道7031号線から現在の国道17号タッチ（地区No.33）までの約250mを12区としたが、面積が広く排土量も多くなることから南北に分けて繰り返し調査を行った。13区は、12区と村道を挟み国道17号タッチの隅切り部分（地区No.33）である。10区については、平成16年度は中郷遺跡Ⅱとして調査を開始したが、遺跡内に同一調査区名称ができることから遺構の混乱を避けるため中郷遺跡Ⅱの1区を11区として再度区名称を付したため10区が欠番となった。

3. 発掘調査の進捗

発掘調査は、各調査区とも表土を重機により除去し、FP上面の古墳時代以降の遺構・遺物の検出作業より開始した。検出作業後は各遺構の掘り下げ、埋没土の観察、遺構や遺物出土状態の図化や写真撮影等を行い、最後に高所より調査区的全景写真撮影を行って面調査を終了させた。その後、下面調査に移行し同様の工程で面調査を行い順次下位の調査面へと移行していった。調査の進捗をはかるため1調査区の文化面が終了する前に隣接する調査区の表土、または堆積土を重機にて掘削し効率的に発掘調査が進行するように努めた。なお、各調査区・各文化面の発掘調査の工程については発掘調査日誌のとおりである。

第1章 調査の経緯



第3図 年度別調査範囲図

中郷遺跡調査日誌

平成15年度 (2003年度)

担当 坂口、吉田、井上、井原

- 7. 1 1区 調査準備、表土掘削開始。
- 7. 11 1区1面 遺構確認、調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 7. 15-12 1区2面Hr-FP掘削、遺構確認及び3区1面表土掘削。
- 7. 17 3区1面、調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 7. 18-23 3区 Hr-FP掘削。
- 7. 28 1区2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 7. 30 1区2面 畦精査。3区2面 航空写真撮影、空中測量。
- 8. 2 1区 4層掘削、3区3面まで調査。
- 8. 3 1区4面、3区3面 遺構確認、調査区全景写真撮影。
- 8. 7 1区 旧石器深掘。3区4面 遺構確認。
- 8. 12 3区4面 遺構確認、住居・土坑を検出。
- 8. 20 1区 旧石器深掘他、3区4面 遺構調査。
- 8. 29 3区4面 調査区空中測量。
- 9. 4-19 1区・3区 旧石器深掘。
- 9. 16-25 2区・4区 表土掘削。
- 9. 26 2区・4区・6区 個別遺構写真撮影。
- 9. 27 2区・4区・6区 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 9. 29- 2区・4区・6区 Hr-FP掘削。9区表土掘削。
- 10. 6 9区1面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 10. 8 2区・6区2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 10. 17 4区・9区2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 10. 20 2区 IV層掘削。
- 10. 23 2区4面 遺構確認。4区・9区3面 遺構確認。
- 10. 24 2区4面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 10. 25 2区4面 1号住居調査。
- 10. 28 2区・6区 旧石器深掘。
- 11. 7 4区・9区2面 畦等調査。
- 11. 10 4区・9区 IV層掘削。
- 11. 12 9区4面 配石検出。4区4面 遺構確認、住居検出。
- 11. 14 4区・9区4面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 11. 17 4区4面 1号・2号住居調査。
- 11. 18 4区 旧石器深掘。9区4面 遺構確認。
- 11. 20 9区4面 住居・土坑調査。
- 11. 27 9区4面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
- 12. 3 9区 旧石器深掘開始。
- 12. 4 9区4面 調査終了。
- 12. 11 9区 旧石器深掘終了。
- 12. 12-18 図面・写真など基礎整理、調査区埋め戻し。

平成16年度 (2004年度)

担当 神谷、関俊明、阿久津、石原、齊藤、水田、渡辺、大西、今井、篠原

4月当初から調査は上白井西伊熊を優先し、写真撮影、測量等から次の調査面に移行するまでの間を中郷遺跡の調査を行う。

- 6. 7-15 12区北 立木伐採。表土を重機にて掘削。
- 6. 18 12区 遺構確認。
- 6. 22 12区 土坑掘削、土層断面測量、写真撮影。
- 6. 24 12区 土坑・溝掘削、土層断面測量、写真撮影。
- 6. 25 12区1面 高所作業車による調査区全景写真撮影。
- 6. 28 12区 調査区全体図測量。土坑、溝全景写真撮影。
- 6. 29-7.1 12区 調査区全体図測量。
- 7. 2 12区2面 Hr-FP層を重機にて掘削。
- 7. 5 12区 Hr-FP層掘削、13区 表土掘削。
- 7. 6 12区 遺構確認。
- 7. 8 12区2面 調査区全体・全景航空写真撮影、空中測量。
- 7. 12 12区 畦・道の断面観察ヶ所の設定。
- 7. 13 12区 調査区一部拡張。

第2節 調査の経過

7. 14 12区 畦・道土層断面観察。
7. 16 12区 2面黒色土をグリッドにて一部掘削。
7. 20 12区北3面 Hr-FA上面遺構確認。1号畦、焼土写真撮影。
7. 21 12区 Hr-FA上面遺構確認、1号畦、焼土断面写真撮影。
7. 22 12区 3面精査。
7. 23 11区1面 遺構確認、土坑土層断面測量、写真撮影。
7. 26 12区3面 高所作業車による調査区全景写真撮影。
7. 27 12区 遺物取り上げ、畦土層断面等写真撮影。
7. 28 11区北 Hr-FP層を重機にて掘削。台風対策。
8. 2 11区2面 遺構確認。
8. 3 11区 遺構確認、踏み分け道検出。馬蹄痕検出。
8. 5 12区3面 1号畦下焼土検出、焼土・炭化物写真撮影。
8. 6 11区2面 調査区全景写真撮影、12区4面 遺構確認。
8. 9 11区2面 調査区全体図測量、12区4面 遺構確認。
8. 10 11区2面 畦土層観察、12区4面 遺構確認。国土交通省主催「親子見学会」を実施。
8. 11 11区2面 1～3畦、1・2踏み分け道調査。
8. 12-17 11区3面 遺構確認。遺物出土状態写真撮影。
8. 18- 11区3面 踏み分け道、Hr-FA検出状況測量、写真撮影。
8. 20 11区3面 遺構確認、遺物出土状態写真撮影。
8. 24 11区3面 調査区全景写真撮影、遺物出土状況測量、写真撮影。12区4面 遺構確認。
8. 30 11区3面 最終確認調査、12区4面 遺構確認。
8. 31, 9.1 11区4面 遺構確認。12区4面 遺構確認。
9. 3 11区4面 12区北4面 遺構確認。ピット群土層断面測量、遺物取り上げ。1号配石、ピット群全景写真撮影。
9. 6 11区 遺物出土状況写真撮影。12区 ピット群土層断面測量。V層遺物出土状況、ピット群全景写真撮影。
9. 7 11区 遺物取り上げ。12区 遺構確認、配石掘削。V層遺物出土状況、ピット群全景写真撮影。
9. 8 11区 遺構確認。12区 遺構確認、1号配石平面、断面測量、全景写真撮影、ピット群土層断面測量、V層中遺物出土状況、ピット群全景写真撮影。
9. 9 11区 遺構確認、12区 1号配石、ピット群全景写真撮影、土坑掘削、V層の状態を確認するため深掘坑を掘削。
9. 10 11区 遺構確認、12区 ピット群平面測量、土坑土層断面測量、深掘坑掘削。
9. 13 11区 遺構確認、12区 ピット群、土坑掘削。遺構確認。
9. 15 11区 遺構確認、遺物出土状況、ピット土層断面測量、遺物出土状況、ピット断面写真撮影。12区 遺構確認。
9. 16 11区 遺構確認、ピット土層断面測量、遺物出土状況、ピット断面写真撮影。
9. 17 11区 遺構確認、ピット土層断面、平面測量。調査区北半写真撮影。12区 1号住居土層断面測量、土坑、ピット掘削。
9. 21 11区 遺構確認、ピット土層断面、平面測量、調査区北半写真撮影。12区 土坑、ピット土層断面測量、写真撮影。
9. 22 11区 遺構確認、ピット土層断面、平面測量、ピット土層断面写真撮影。12区 1号住居土層断面測量、写真撮影。土坑、ピット土層断面、平面測量。ピット土層断面写真撮影。
9. 28 11区 遺構確認、ピット土層断面、平面測量、調査区南半写真撮影。12区 1号住居精査。土坑掘削、遺物取り上げ。
9. 30 11区 遺構確認、ピット・土坑平面測量、遺構確認状況写真撮影。12区 1号住居遺物取り上げ、全景写真撮影、1号・2号配石検出状況写真撮影。土坑・ピット全景写真撮影。
10. 1 11区 遺構確認、全体図測量、286号ピット遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居床面精査、1号・2号配石精査、土坑・ピット全景写真撮影。
10. 6 11区 遺構確認、包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 遺構確認現状の面での全体図測量。
10. 8 11区 遺構確認、包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 V層を掘削。土坑掘削。
10. 9 11区 遺構確認、包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 住居柱穴土層断面測量、溝掘削等。
10. 12 11区 遺構確認、包含層遺物出土状態平面図測量、13号土坑遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居全景写真撮影、1号・2号配石礫下調査、1号溝全景写真撮影。
10. 14 住居内トレンチ、包含層出土遺物出土状況測量、1号埋葬出土状況写真撮影。12区 1号住居炉、1号・2号配石礫下調査、土坑土層断面測量。
10. 15 11区 1号～5号住居掘削、14号土坑土層断面・平面測量、14号土坑土層断面写真撮影。12区 1号住居炉、1号・2号配石礫下調査、土坑土層断面測量、包含層出土遺物取り上げ。
10. 18 11区 住居埋没土掘削、1号埋葬土層断面・包含層出土遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居、2号配石周辺、土坑掘削。
10. 19 11区 住居、道遺構埋没土掘削、1号・2号住居遺物出土状況写真撮影。12区 1号住居、2号配石周辺、39号土坑埋没土掘削。2号配石、39号・43号土坑土層断面測量・写真撮影。
10. 20 雨天、調査区安全確認。遺物洗浄等委託進捗状況確認他。
10. 21 11区 住居埋没土掘削、床面精査、住居遺物出土状況・17号土坑土層断面・埋葬平面・断面測量及び写真撮影。12区 2号住居埋没土掘削、2号住居・土坑土層断面測量及び写真撮影等。13区4面 遺構確認、遺構の存在は確認されなかった。
10. 22 11区 住居出土遺物取り上げ。12区 住居、土坑埋没土層断面測量及び写真撮影。13区 土層断面測量及び写真撮影。
10. 25 11区 住居床面精査、2号埋葬平面測量及び写真撮影、包含層出土遺物出土状況写真撮影。12区 調査区全景写真撮影準備、土坑掘削、土層断面・平面測量及び写真撮影。
10. 27 11区・12区 住居、埋葬、土坑等調査。
10. 28 12区 調査区全景を高所作業車で写真撮影。
11. 1 雨天のため作業休止、作業工程打ち合わせ。
11. 5 12区 一部旧石器深掘を開始。
11. 16-22 12区南 表土掘削。
11. 18 12区北 調査終了。
11. 19 12区南1面 遺構確認。
11. 24 12区南1面 調査区全景写真撮影、調査区全体図測量。
11. 25-28 12区南 Hr-FP掘削。
11. 29 11区4面 遺構調査継続中。12区南2面 遺構確認。
12. 2 12区南2面 調査区全景航空写真撮影、空中測量。
12. 3 12区南2面 畦など調査
12. 7 12区南2面 調査終了。
12. 13 12区南IV層掘削。大分市教育委員会職員視察。
12. 17 11区4面 遺構調査継続中。12区南4面 遺構確認。
12. 27 11区4面 遺構調査継続。12区4面 遺構確認。
12. 28 年末休暇への準備。担当 渡辺・阿久津他遺跡へ移動。
1. 5 担当者による作業工程打ち合わせ。
1. 6 本年調査開始。7区・8区 表土掘削。11区4面 昨年から引き続き住居、土坑等遺構の調査、12区南4面 遺構確認。
1. 11 12区南4面 土坑から調査を始める。
1. 12 12区南4面 住居などの埋没土掘削を始める。
1. 13 7区・8区1面 調査区全景写真撮影、全体図測量。
1. 14 7区 Hr-FP掘削。
1. 18 8区 Hr-FP掘削。
1. 19 7区・8区2面 調査。
1. 24 7区・8区2面、11区4面 調査区航空写真撮影。
1. 25 7区・8区2面 全体図測量。
1. 26 11区4面 全体図測量。
1. 27 7区・8区3面 調査。
1. 28 7区・8区3面 調査区全景写真撮影。
1. 31 国土交通省専門職視察。
2. 1 7区・8区4面 遺構確認。
2. 2 7区・8区4面 住居、土坑遺構調査。
2. 9 群馬テレビ取材、埼玉県児玉町教育委員会職員視察。

第1章 調査の経緯

2. 16 前橋市教育委員会職員視察。
2. 24 7区 旧石器深掘。
2. 25 7区 調査終了。
3. 2 11区北 旧石器深掘。
3. 8 子持村会議員視察。
3. 11 8区 旧石器深掘。
3. 14 11区南 表土掘削開始。
3. 15 8区 調査終了。
3. 22 11区南1面 調査区全景写真撮影。
3. 24 12区南4面 調査区全景航空写真撮影。
3. 25 本年度の作業終了。器材等整備。
3. 28-31 調査事務所の移転に伴い記録類・備品などの移動。

平成17年度（2005年度）

担当 桜岡、麻生、佐藤、藍澤、瀧川

4. 1 今年度調査担当者打ち合わせ、前年度担当者との引き継ぎ。
4. 6 地元子持村教育委員会へ挨拶、重機業者との打ち合わせ。
4. 7 遺跡発掘調査進行打ち合わせ。
4. 8 地元自治会への挨拶。
4. 11 11区南2面 重機にてHr-FP層を掘削。12区南4面 前年度までに終了した遺構等の確認、前年度担当者との詳細な引き継ぎ。
4. 12 11区南 重機にてHr-FP層を掘削。
4. 13 12区 18号住居、38号住居、47号住居、土坑等埋没土掘削、写真撮影、遺構測量。
4. 14 11区 Hr-FP層下確認遺構検出。12区 18号住居、38号住居掘り方調査、44号～47号住居床面精査。
4. 15 12区 2～4号住居遺構写真撮影、44号住居、49号住居、166号土坑、169号土坑他調査。
4. 18 12区 11区 調査区航空写真撮影準備。12区 3号住居、4号住居、32号住居、34号住居、40号住居、43号住居、162・176・177号土坑他埋没土掘削、写真撮影、遺構測量、遺物取り上げ。
4. 19 11区 遺構確認。12区 住居精査、全景写真撮影、38号住居（敷石）写真撮影、162号土坑埋没土掘削。
4. 21 11区 12区 3号・4号・43号・47号住居炉調査、50号住居・178号・179号土坑遺物出土状況写真撮影、他遺構埋没土掘削。
4. 22 11区 遺構平面測量。12区 3号住居炉、4号住居土層断面、5号・49号住居埋没、土坑遺物出土状況写真撮影、住居・土坑等の遺構土層断面測量、住居・土坑等遺構埋没土掘削。大韓民国ウル山文化財研究所所員35名視察。
4. 25 11区 遺構平面測量、土層観察深掘坑掘削、写真撮影。12区 2号住居遺物取り上げ・遺構平面測量、その他住居掘り方調査、38号・40号・41号住居炉、土層断面、遺物出土状況等遺構図測量、住居・土坑等遺物出土状況、土層断面等写真撮影。
4. 26 11区 土層観察断面用深掘坑写真撮影、断面測量。12区 住居埋没土・柱穴掘削、炉、遺物出土状況測量、住居、土坑等遺物出土状況、完掘状況写真撮影。
4. 27 11区 Hr-FP層下遺構及び下面調査のための深掘坑を掘削。12区 住居埋没土調査、住居精査、住居炉、土層観察断面調査、測量。
4. 28 12区 2号・4号住居埋没土取り上げ、住居柱穴土層断面、土坑土層断面写真撮影、測量。
5. 2 12区 2号・4号住居柱穴調査、170号・184号土坑埋没土掘削、2号・4号42号住居全景、遺物出土状況等写真撮影。
5. 6 12区 2号住居炉・柱穴、47号住居炉調査、35号・40号住居埋没土掘削、4号住居掘り方測量、2号・3号住居写真撮影。
5. 9 12区 2号住居炉・周溝調査、4号住居掘り方調査、49号住居埋没土調査、52号・53号住居炉調査。
5. 10 12区 42号住居柱穴、51号～53号住居床面調査、189号・190号土坑埋没土掘削、2号住居全景写真撮影。
5. 11 12区 2号住居炉、35号住居土層観察、50号・52号・53号住居土層断面写真撮影、床面精査。55号住居埋没土掘削。土坑埋没土掘削、土層断面観察、写真撮影。
5. 12 12区 34号住居掘り方調査、35号住居床面精査、42号住居炉調査、50号・52号・53号住居柱穴調査。土坑断面観察、全景写真撮影。
5. 13 11区 4面 4面までの堆積土掘削。12区 4号住居、195号土坑平面、42号住居遺物出土状況等測量、50号住居炉調査、2号住居掘り方全景、190号・204号土坑全景等写真撮影。
5. 16 11区 IV層掘削、方眼杭設置。12区 192号、195号、196号、209号土坑遺物取り上げ、埋没土掘削。土坑平面、住居土層断面等測量、住居、土坑遺物出土状況・土層断面、全景写真撮影。
5. 17 12区 土坑埋没土掘削。住居平面測量。住居炉、土坑全景等写真撮影。
5. 18 11区 4面 遺構確認、敷石住居、配石等確認。12区 住居、土坑全景、217号、218号土坑土層断面写真撮影。2号住居炉調査。
5. 19 11区 遺構確認。12区 42号住居炉、50号住居埋没土調査、52号・53号住居掘り方掘削、2号配石掘削。
5. 20 11区 遺構確認。12区 39号住居炉調査、42号・47号住居柱穴断面、38号・52号・53号住居掘り方土層断面測量、1号配石断面測量、全景写真撮影、211～217号土坑全景写真撮影。
5. 23 12区 26号・39号住居全景写真撮影、47号・52号住居掘り方調査。調査区空中撮影準備。
5. 24 12区 調査区全体苦衷写真撮影、住居全景写真撮影。配石確認面での写真撮影。
5. 25 12区 配石遺物取り上げ、配石埋没調査。住居調査、掘り方全景、土坑写真撮影。
5. 26 11区 遺物集中出土ヶ所調査。12区 住居掘り方全景写真撮影。住居土層断面測量。配石埋没調査。号土坑土層断面等測量。
5. 27 12区 配石掘り方？調査。住居調査。住居遺物出土状況、住居埋没、住居炉、土坑他写真撮影。
5. 30 12区 37号住居土層断面写真撮影、38号住居遺物取り上げ、柱穴確認、全景写真撮影。26号・39号住居掘り方調査。
5. 31 雨天のため遺構図・写真整理。
6. 1 12区 1号・5号配石平面測量、全景写真撮影等。38～40号住居遺物出土状況、柱穴断面測量等。
6. 2 12区 3号・4号配石平面測量等。7号住居土層観察ベルト掘削、38号住居柱穴掘削・断面測量・写真撮影等。
6. 3 11区 7号住居遺物出土状況写真撮影。12区 1号配石・4号埋没測量。土坑遺物出土状態写真撮影、取り上げ。
6. 6 12区 37号～40号住居遺物出土状況・全景・炉等写真撮影。41号住居柱穴掘削。4号・5号埋没調査。
6. 7 12区 住居埋没土掘削、土坑土層断面測量、住居、土坑全景、遺物出土状況、土層断面写真撮影。
6. 8 12区 住居遺物取り上げ、土坑土層断面測量、住居、土坑土層断面、配石遺物出土状況写真撮影。
6. 9 12区 住居遺物取り上げ、床面精査、柱穴調査。
6. 10 11区 住居内埋没調査。12区 住居床面精査、柱穴調査、配石礫下調査。
6. 13 11区 住居柱穴・炉調査。12区 住居埋没土掘削、土層断面・炉測量、土坑群写真撮影。
6. 14 11区 住居炉調査、全景写真撮影。12区 土坑埋没土掘削、住居、土坑土層断面測量・写真撮影。
6. 16 11区 住居遺物取り上げ、埋没土掘削。12区 旧石器深掘。
6. 17 11区 住居柱穴、埋没調査。12区 土坑群調査。
7. 6 12区南4面 調査区全景航空写真撮影。遺構個別写真撮影。
7. 7 12区 調査終了。長野県考古学会視察。
7. 8 11区 住居、土坑調査。
7. 14 調査終了。
7. 15-31 調査区の埋め戻し、記録類・遺物の移動、器材・備品の撤収、事務処理。

第3節 調査の手順

調査は、本地域の特色である榛名山二ツ岳の6世紀代の2度の噴火に伴う火山堆積物を基準に調査面を想定し、重機により現在の耕作土の除去から開始した。各調査面の調査は、被覆層の除去後は人力を用いて遺構確認作業を行い、遺構の掘り下げから図化・写真撮影等記録作成を行い、調査終了後はトレンチ等により下層調査面の状況確認を行い、次の面へと移行していった。

第1面の調査：6世紀中頃の榛名山二ツ岳火山灰のHr-FP層（以下FPと呼称する）を基盤とした面。FP堆積以降近現代まではFP層を掘り込む遺構が確認できる。調査はFPが大量に鋤き込まれる現在の耕作土を重機で除去し、遺構の確認及び調査を行う。

第1面で検出した遺構は、近世以降の農耕に伴う土坑、溝が主であり、古代の遺構は確認できなかった。

第2面の調査：第1面調査終了後、FP直下の噴火直前の地表面を対象とし調査を行った。1m以上堆積するFP層の除去には重機を用い、FP層下部を5cm程残すまで掘削を行い、その後人力作業へ切り替えヘラや刷毛等を用いFPの除去から遺構検出までを行った。この面では、多数の馬蹄痕や低い畦状高まり、溝状に凹む人馬の歩いた痕跡（踏み分け道）を検出した。

第3面の調査：6世紀初頭の榛名山二ツ岳火山灰のHr-FA層（以下FAと呼称する）の調査であったが、FAまでの被覆層が薄くFA自体も攪拌を受けているため、FA直下面のIV層黒色土上面までを同一面として調査を行った。遺構は、畦状の遺構や浅く凹んだ道の痕跡が一部で確認できた。遺物は、11区や12区で縄文土器の破片が散在して出土したが、住居・土坑等は確認できなかった。

第4面の調査：IV層黒色土（黒ボク土）内からVII層ローム層までで検出される遺構・遺物を対象とした。第3面調査段階からIV層黒色土中から土器・石器が出土し始め、遺物包含層の調査を行いながら遺構確認を並行して行った。9区ではV層淡褐色土中

から配石遺構が確認でき、11区ではV層中から小ピットを多数確認した。更に遺物包含層調査として掘り下げを行い、VI層のローム漸移層に至りようやく色調の異なる範囲で住居や土坑の輪郭が確認できた。また、遺物も住居の輪郭内部に集中するようになった。中でも11区や12区では、住居や土坑の輪郭が複雑に絡み合い遺構の多さから、新旧関係の把握のためサブトレンチを入れ住居や土坑を確定した。それでも住居内から新たに土坑が検出されるなど見落とし部分もあった。最終的には1区～13区にかけて縄文時代前期から後期にかけての住居123軒・土坑859基を数え、遺物総量は950箱に達した。

第5面の調査：VII層下ローム層中に存在する旧石器を確認するため、調査対象面積の10%程度を基本とし掘り下げを行った。その結果、1区歩道橋設置部分においてAs-BP下から旧石器が出土した。石器の出土した地点は掘り下げ範囲を広げ文化層の調査を行った。

第4節 グリッドの設定

発掘調査対象地内の遺構・遺物の位置をカバーするため国家座標に即して5m方眼を組みグリッドを設定した。グリッド始点は、発掘調査対象地南西外側に置き、国家座標値 $X=59,000$ 、 $Y=-72,600$ を始点として2次関数第1象限に即してグリッドを設定した。グリッドの呼称は東西方向にアルファベットAaと大文字小文字併記し、南北方向に1～の数字を当てた。Aaは東方向に5m毎に小文字をb、c、dと変化させ95m地点をAtとした。次の100m地点でAの大文字をBの文字に移行し、再び小文字のaから開始した。すなわちBaと呼称する方法を採用した。なお、北方向の数字は01から5mごとに02、03、100m地点が25と増加する呼称である。たとえば起点から東へ90m、北へ300mの地点はAs-75と呼称され、この点から東・北方向の5m四方がAs-75グリッドとなる。

第1章 調査の経緯



第4図 グリッド配置図

第2章 地理的・歴史的環境



遺跡遠景：手前が利根川、蛇行する杉林が段丘崖。中央の平坦面は利根川河岸段丘の長坂面。左側は白井面。
中央の山並みが6世紀代に2度の大噴火を起こした榛名山。
1度目の噴火の火砕流により木々がなぎ倒され焼け野原となり、2度目の噴火でこの地域一体が
2 m程の軽石で埋め尽くされている。

第1節 遺跡の位置と周辺の地形

本遺跡は、群馬県の中央部やや北よりに位置する渋川市中郷（旧子持村大字中郷、平成18年2月市町村合併）に所在する。

本遺跡地からの眺望は、後ろに子持山、東に広大な裾野を持つ赤城山、南西には中腹に伊香保の温泉街を乗せる榛名山、西方には小野子山、その奥に白根・草津方面の山並みが望める。南は関東平野の広がりが見えるが、赤城・榛名の両山から伸びる裾野が南から迫る関東平野を塞ぐようにせり出している。また、東側眼下には深く山間部を削り、幾段にも段丘面を形成した利根川が蛇行しながら流下し、西からは谷間を東流してきた吾妻川が本村の南東部の落合で利根川と合流し、川幅を広げ関東平野に流れ下っている。

遺跡地周辺の地形は、平坦ではあるがわずかに子持山の火山性扇状地形の影響で北から南へ傾斜している。本地域の平坦面は、利根川や吾妻川により形成された河岸段丘面であり、形成年代の古い順に雙林寺面、長坂面、西伊熊面、白井面、浅田面と呼ばれている。雙林寺面は、最も高い段丘面であり、榛名山噴火軽石に埋もれた古墳時代のムラ黒井峯遺跡（国指定史跡）（22）が所在する。黒井峯遺跡付近の標高は250mを測る。

本遺跡は、2段目の最も広い長坂面上に位置する。長坂面の中央付近に国道17号が縦断し、利根川寄りには吹屋原と呼ばれる平坦面が広がり、国道17号から西側は鯉沢川の開析が進み起伏に富んでいる。

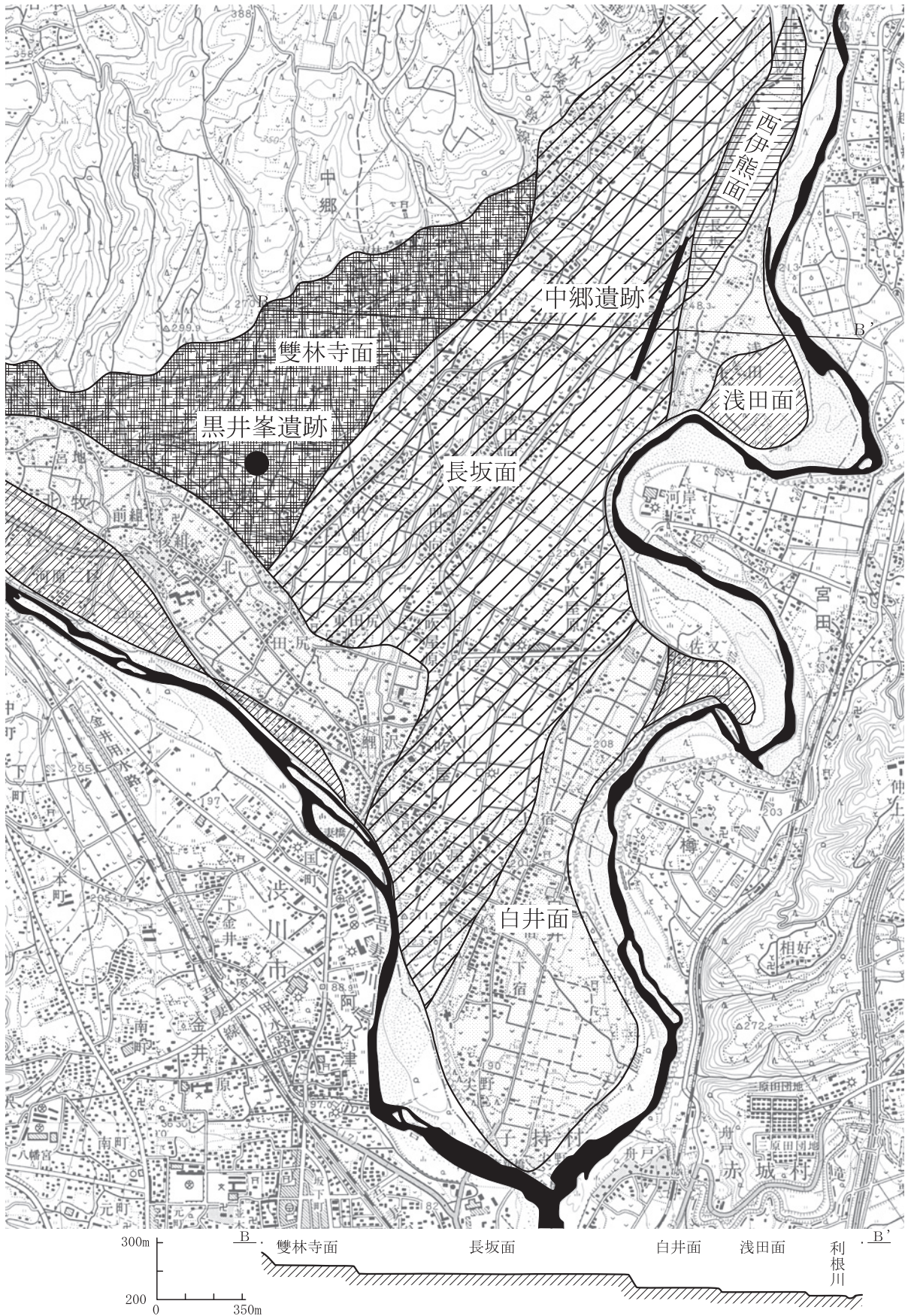
本遺跡付近の標高は240～251mを測り、本遺跡12区東側は比高差20m前後を測る急峻な段丘崖となっている。この崖下には南北方向に細長く伸びる西伊熊面と更にその下位には数mの段差を持ち白井面、更に下位に浅田面が所在する。浅田面は最終段丘面で蛇行する利根川の突端部に見られる。白井面は、主に下流部の白井地区の平坦面を指すが、吾妻川沿いの北牧から田尻・鯉沢地区にも所在する。

また、本県は火山県であり、現在も活動を続ける

浅間山は脅威である。浅間山は、古くから活動し続け、大きな災害をもたらしている。約2.2万年前頃とされる噴火と共に発生した前橋泥流は、県央部の地形を大きく変えている。この前橋泥流は、浅間山の噴火により山体が崩壊し、その土砂が吾妻川へ流れ込み泥流となって本地域に押し寄せ、そのまま利根川に流れ込み渋川市、前橋市、高崎市等の広大な範囲に大量の土砂を運んだ。この前橋泥流が長坂面の上に乗上げた状況は、吹屋犬子塚遺跡（14）や吹屋伊勢森遺跡（3）等の長坂面上の発掘調査で確認されている。近年、前橋泥流が長坂面に乗り上げた際の北縁が本遺跡南約100mのところに位置する吹屋遺跡（3）のⅡ区において確認できた。この北縁部分は、調査前には東西方向に延びる谷地形が入っていると思わせるほどの凹みであったが、下層調査でAs-BPの3枚の軽石堆積層の最下層直上に礫層が確認でき、この礫層が前橋泥流につながることが分かった。このことから、長坂面に乗り上げた泥流が吹屋原一帯を一段高く盛り上げ、南傾斜の山麓地形との接点が凹み状に見えた事が分かった。

今回の発掘調査では、旧石器調査時にローム層中の土層観察で4万年前の榛名八崎軽石（Hr-HP）が最下層で確認でき、それ以降の火山灰としては浅間山噴火火山灰を主体とし、約1.8～2.2万年前とされるAs-BP層群や約1.7万年前とされるAs-Sr、約1.3万年前のAs-YP等の火山灰が確認できた。ローム層堆積以降の火山灰で最も著名な火山灰は、古墳時代に2度の大きな火山噴火を起こした榛名山の大噴火である。最初の噴火に伴う堆積物は榛名渋川テフラ（Hr-FA）と呼ばれ、2度目の6世紀中葉の噴火に伴う堆積物は榛名伊香保テフラ（Hr-FP）と呼ばれている。

本遺跡のFAの堆積は薄く、大半が鋤き込まれたような状態であるが、南に行くほどFAの堆積は厚く、火山灰層や火砕流堆積物が明瞭に分けられるほどである。次のFPは、降灰範囲の中心軸上に本地域が位置しており、φ1～20cm程の大きさの軽石が、山



第5図 段丘面分類図（「子持村誌上巻」参照）

や谷は関係なく2 m近く降り積もり、旧地表面を覆い尽くし地表面が2 m近く上がった。本遺跡の西約1 kmの位置にある黒井峯遺跡では最大2 mに及ぶ堆積が認められた。現在ではこの軽石がブロックの原料となり、産業振興の一翼を担っている。

参考文献

「子持村誌」上巻 子持村 1987

調査遺跡の参考文献は第2節参考文献参照。

第2節 周辺の遺跡

本遺跡が所在する子持村とその周辺は、古墳時代の榛名山噴火によるFP層の堆積の影響で、古墳時代以前の遺跡の確認が難しくなっていた。しかし、近年は開発等による調査が増え、旧石器時代から近世に至るまで各時代を通して多くの遺跡が存在する事が分かってきた。その中でもFP層直下の旧地表面がそのまま出現することにより、古墳時代の生活環境が鮮明化され注目される地域である。

旧石器時代の遺跡は、下位段丘面の白井面では離水が遅く旧石器の遺物は検出されない。旧石器の出土する遺跡は主に長坂面での調査例が多い。古くは浅間板鼻褐色軽石(As-BP)下の石器群を検出した遺跡として吹屋犬子塚遺跡(14)、本遺跡(1)がある。次に浅間白糸降下軽石(As-Sr)下で、吹屋犬子塚遺跡(14)、上白井西伊熊遺跡(4)がある。上白井西伊熊遺跡は長坂面ではなく下位の西伊熊面で発見された遺跡である。次に、浅間板鼻黄色軽石(As-YP)下の石器群を検出した遺跡には、吹屋中原遺跡(15)、吹屋遺跡(2)がある。

縄文時代に入ると各段丘面で遺跡が発見される。縄文時代草創期の調査例は多くはないが、白井北中道遺跡(8)、白井十二遺跡(5)、吹屋伊勢森遺跡等で遺物が出土している。縄文時代前期に入ると吹屋犬子塚遺跡(14)、吹屋中原遺跡(15)、吹屋遺跡(2)、吹屋伊勢森遺跡(3)、上白井西伊熊遺跡(4)、白井十二遺跡(5)、白井北中道Ⅲ遺跡(6)、黒井峯遺跡(22)、押手遺跡(24)等で集落規模はあまり大きくはないが、調査例が増えている。本遺跡で

も調査区毎に数軒単位で住居が検出されている。利根川の対岸の赤城村でも見立溜井遺跡(40)、諏訪西遺跡(41)、中畦遺跡(42)、三原田城遺跡(43)等の集落遺跡がある。中期の遺跡は、本遺跡や吹屋中原遺跡、利根川の対岸の房谷戸遺跡(44)や三原田遺跡(45)等で集落が検出されている。その中で大規模集落として本遺跡や三原田遺跡がある。後期の遺跡は極端に少なくなり、押手遺跡で配石墓群が検出され、本遺跡でも住居1軒と土坑が検出されている程度である。

弥生時代の遺跡も極端に少ない。押手遺跡で前期の再葬墓が発見された。弥生後期から古墳時代前期の遺跡は、吹屋糶屋遺跡(19)、中郷田尻遺跡(18)、白井北中道Ⅲ遺跡(6)などで集落が検出されている。古墳時代に入ると榛名山の噴火が起き、FA(6世紀初頭)及びFP(6世紀中葉)が残る地域は、旧地表面が残ることから全て遺跡と考えられる。その中で調査された遺跡として、FA下の遺跡として北牧相ノ田遺跡(31)、北牧大境遺跡(20)、吹屋瓜田遺跡(21)等で集落や水田が調査された。FP下の遺跡では黒井峯遺跡(22)を筆頭に、西組遺跡(23)、押手遺跡(24)、田尻遺跡(26)等で、集落・墳墓・水田・畠が検出され、当時の集落構造の解明に貴重な資料となっている。FA直下で水田が検出された前述の各遺跡ではFP直下でも水田が確認されている。さらにFP直下では白井地区、吹屋地区等の利根川寄りの地区で馬の放牧地が広範囲に確認されている。FP下の古墳では、中ノ峯古墳(48)、浅田遺跡(35)、伊熊・有瀬古墳群(50)等が調査されている。FP降下以降になると群集墳が数多く作られている。吹屋伊勢森遺跡に近い大塚(稲荷塚)(53)、笄塚(54)は古墳でない可能性もある。

古代の遺跡はFP層上面で検出され、国道17号以西では北牧大境遺跡(20)、中郷田尻遺跡(17)、国道17号以东の吾妻川寄り白井面の白井南中道遺跡(10)、白井二位屋遺跡(11)で確認されている。中近世の遺跡は不明瞭となり、白井城(57)周辺で確認できる。



第6図 周辺遺跡位置図 (S=1:25,000) (●印は古墳)

第2章 地理的・歴史的環境

第3表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	概要	文献	番号	遺跡名	概要	文献
1	中郷遺跡	旧石器、縄文前・中期集落、放牧地	本書	29	池田沢東遺跡	FP下道・畠	1
2	吹屋伊勢森遺跡	縄文草創期遺物・前期集落、FP下畠・放牧地	49	30	丸子山遺跡	FP下・FP上古墳	4
3	吹屋遺跡	旧石器、縄文前期集落、放牧地	51	31	北牧相ノ田遺跡	FA下・FP下水田	32
4	上白井西伊熊遺跡	旧石器、縄文前期集落	15,16	32	畑中遺跡	FA下・FP下水田	4
5	白井十二遺跡	縄文草創期遺物・前期集落、放牧地	57	33	後田遺跡	FP下水田	24
6	白井北中道Ⅲ遺跡	縄文前期、古墳前期集落、FP下放牧地	58	34	源空寺裏遺跡	FP下放牧地	3
7	白井北中道Ⅱ遺跡	FP下畠・放牧地	17	35	浅田遺跡	FP下古墳	9,10
8	白井北中道遺跡	縄文草創期遺物、FP下放牧地	18,19	36	白郷井中学校校庭遺跡	古墳時代集落	33
9	白井丸岩遺跡	FP下放牧地	18,19	37	猫持久保遺跡	FP下道・畠	34
10	白井南中道遺跡	FP下放牧地、奈良平安集落	19,21	38	宮田諏訪原遺跡	FA下祭祀、FP下道・畠	34
11	白井二位屋遺跡	FP下放牧地、奈良平安集落	20,22	39	宮田畦畔遺跡	FP下水田	31
12	白井大宮遺跡	FP下放牧地	23	40	見立溜井遺跡	旧石器、縄文前・中期集落	35
13	渡屋遺跡	古墳前期集落	24	41	諏訪西遺跡	旧石器、縄文前・中期集落	36
14	吹屋犬子塚遺跡	縄文前期集落、FA下水田、FP下放牧地	17	42	中畦遺跡	旧石器、縄文前期集落	36
15	吹屋中原遺跡	縄文前・中期集落、FP下畠・放牧地	17	43	三原田城遺跡	縄文前期集落	37
16	中郷恵久保遺跡	古墳時代集落、FA・FP下水田・畠	50	44	房谷戸遺跡	旧石器、縄文中期集落	38
17	吹屋三角遺跡	FA下・FP下水田	53	45	三原田遺跡	縄文前期～後期集落	39
18	中郷田尻遺跡	古墳～古代集落、FA下・FP下水田	54	46	樽遺跡	弥生時代集落	40
19	吹屋靴屋遺跡	古墳時代集落、FA下・FP下水田	52	47	坂之下遺跡	FA下水田	41
20	北牧大境遺跡	FA下・FP下水田、平安集落	25	48	中ノ峯古墳	FP下古墳	42
21	吹屋瓜田・鯉沢瓜田遺跡	FA下・FP下水田	26,27	49	白井古墳群	FP上古墳	43
22	黒井峯遺跡	縄文集落、FP下集落・古墳・水田他	28	50	伊熊・有瀬古墳群	FP下古墳	43
23	西組遺跡	FP下集落・水田・畠	29	51	河岸古墳群	FP上古墳	44
24	押手遺跡	縄文集落、FP下集落・畠	30	52	坂下町古墳群	FA下古墳	45
25	館野遺跡	FP下畠	31	53	大塚(稲荷塚)	FP上古墳?、長尾村14号	44
26	田尻遺跡	縄文集落、FP下集落・古墳・畠	3～15	54	笄塚	古墳?、長尾村15号	44
27	八幡神社遺跡	FP下集落・畠	3	55	金井製鉄遺跡	平安製鉄跡	46
28	中組遺跡	FP下道・畠	2	56	東町関下遺跡	中～近世水田	47
				57	白井城跡	中・近世城跡	43,48
				58	仁位屋城跡	中世城跡	48
				59	白井上城跡	中世城跡	48
				60	白井佐又遺跡	FP下放牧地	55
				61	吹屋恵久保遺跡	FP下集落・畠	56

文献

- 『年報7』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 『年報8』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989
- 『年報11』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 『年報12』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 『年報13』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 『年報14』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1995
- 『年報15』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996
- 『年報16』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997
- 『年報17』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998
- 『年報18』群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
- 『年報19』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000
- 『年報20』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
- 『年報21』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002
- 『年報22』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- 『年報23』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
- 『年報24』群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005
- 『白井北中道Ⅱ遺跡・吹屋犬子塚遺跡・吹屋中原遺跡』第1冊、第2冊 群埋文 1996、1998
- 『白井遺跡群－縄文時代編－』群埋文 1998
- 『白井遺跡群－古墳時代編－』群埋文 1997
- 『白井遺跡群－集落編Ⅰ－』群埋文 1994
- 『白井遺跡群－集落編Ⅱ－』群埋文 1996
- 『白井遺跡群－中世編－』群埋文 1993
- 『白井大宮遺跡』、『白井大宮遺跡Ⅱ』群埋文 1993、2002
- 子持村教育委員会石井克己氏のご教示による。
- 『北牧大境遺跡』群埋文 2004
- 『吹屋瓜田遺跡』群埋文 1996
- 『鯉沢瓜田遺跡』子持村教育委員会 2000
- 『黒井峯遺跡発掘調査報告書』子持村教育委員会 1991
- 『西組遺跡発掘調査報告書』子持村教育委員会 1985
- 『押手遺跡発掘調査概報』子持村教育委員会 1987
- 『群馬県史 資料編2』群馬県史編さん委員会 1986
- 『北牧相ノ田遺跡』子持村教育委員会 2000
- 『群馬県遺跡台帳Ⅰ 東毛編』群馬県教育委員会 1971
- 『宮田諏訪原遺跡Ⅲ・猫持久保遺跡』赤城村教育委員会 2004
- 『見立溜井遺跡』赤城村教育委員会 1985
- 『中畦遺跡・諏訪西遺跡』群埋文 1986
- 『三原田城遺跡』群埋文 1987
- 『房谷戸遺跡Ⅰ』、『房谷戸遺跡Ⅱ』群埋文 1989、1992
- 『三原田遺跡』第1～3巻 群馬県企業局 1980～1992
- 杉原莊介「上野樽遺跡調査概報」『考古学』第10巻第10号1939
- 『坂之下遺跡』渋川市教育委員会 1988
- 『中ノ峯古墳発掘調査報告書』子持村教育委員会 1980
- 『子持村誌 上巻』子持村誌編さん室 1987
- 『上毛古墳総覧』群馬県 1938
- 『北群馬・渋川の歴史』北群馬・渋川の歴史編さん委員会 1971
- 『金井製鉄遺跡発掘調査報告書』渋川市教育委員会 1988
- 『東町関下遺跡』群埋文 1998
- 山崎 一『群馬県古城址の研究』1972
- 『吹屋伊勢森遺跡』群埋文 2006
- 『中郷恵久保遺跡』群埋文 2006
- 『吹屋遺跡』群埋文 2007
- 『吹屋靴屋遺跡』群埋文 2007
- 『吹屋三角遺跡』群埋文 2007
- 『中郷田尻遺跡』群埋文 2007
- 『白井佐又遺跡発掘調査報告書』子持村教育委員会 2005
- 『吹屋恵久保遺跡』子持村教育委員会 2006
- 『白井十二遺跡』群埋文 2007
- 『白井北中道Ⅲ遺跡』群埋文 2008、2009

第3節 基本土層

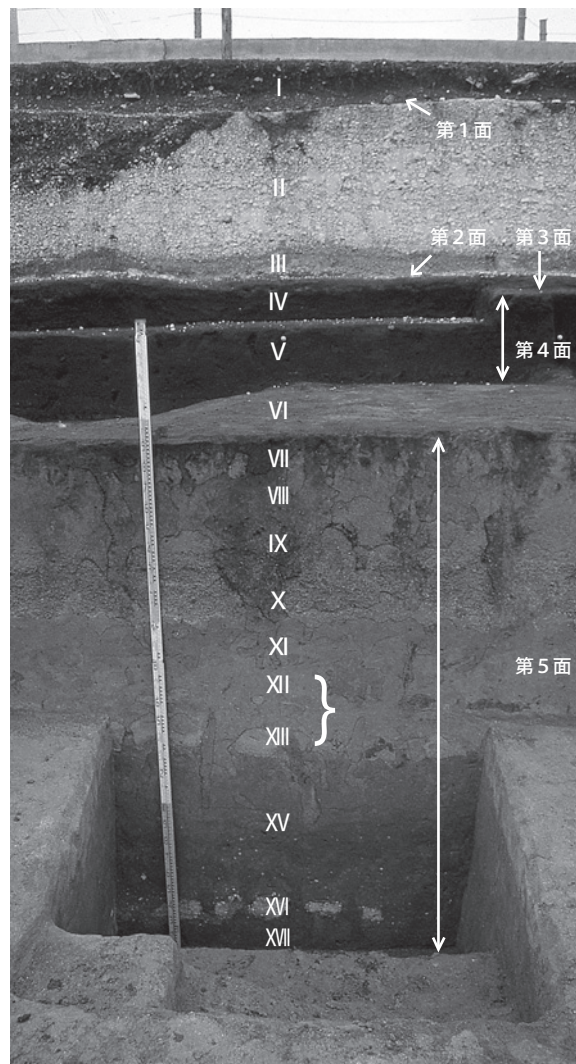
本遺跡の乗る長坂面は、発掘調査の鍵層となる榛名山や浅間山の噴火火山灰・軽石などが堆積し、土層観察に適した地である。

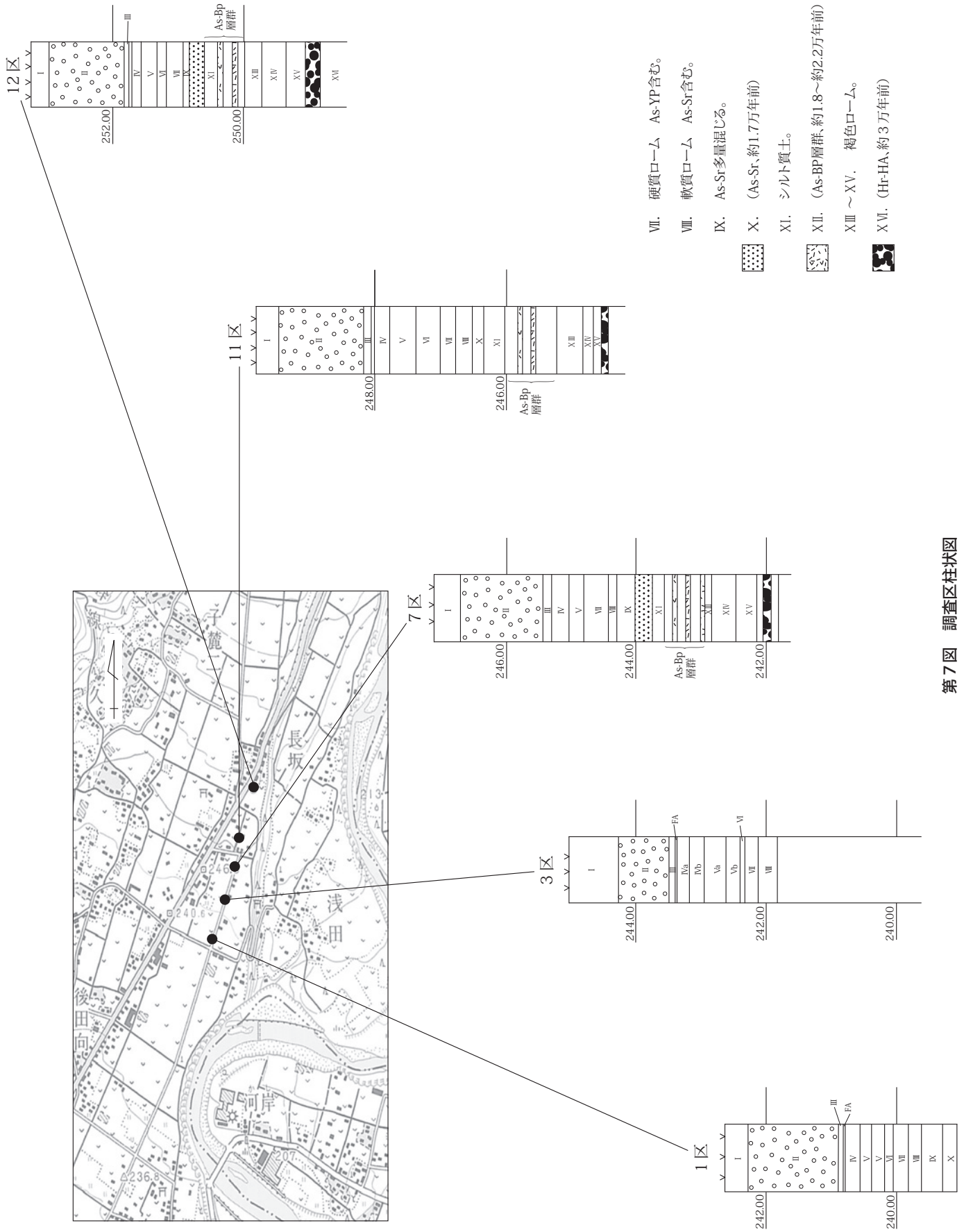
今回の発掘調査で確認できた火山灰は、ローム層中の深所から榛名山八崎軽石（Hr-HP）から始まり、榛名箱田テフラ（Hr-HA）、浅間山噴火火山灰の浅間板鼻褐色軽石（As-BP層群）、浅間白糸降下軽石（As-Sr）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP）等が確認できた。その中で、長坂面南半の各遺跡では、約1.8～2.2万年前の浅間山の山体崩壊に由来する前橋泥流堆積物が乗り上げている状況が確認されていたが、本遺跡南100m程の吹屋遺跡Ⅱ区の調査では前橋泥流堆積物の北限が観察できた。

ローム上層には榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA）が堆積している。その他にHr-FA下層の黒褐色土中に榛名有馬テフラか浅間C軽石か詳細が不明な軽石が見られた。

- I層：表土。黒褐色土。Hr-FPを多量に含む。
- II層：榛名二ツ岳伊香保テフラ
（Hr-FP：6世紀中葉）。層厚110～120cm。
- III層：褐灰色土。Hr-FA層起源の攪拌土壌。
- III-1：褐灰色土。シルト質の細かな層。
（2面中1.）
- III-2：暗灰褐色土。Hr-FA層の土壌化の進んだ層。
焼土や炭化物をわずかに含む。（2面中2.）
- III-3a：Hr-FA層をブロック状に含む。（2面中3a.）
- III-3b：Hr-FA榛名二ツ岳渋川テフラ層（2面中3b.）
（Hr-FA：6世紀初頭）
- IV層：黒色土。白色・黄色軽石（2mm前後）を含む。
- V層：褐色～にぶい黄褐色土。淡色黒ボク土。
- VI層：にぶい黄褐色土。ローム漸移層。
- VII層：明黄褐色土。固く締まったローム層。
浅間板鼻黄色軽石（As-YP：約1.3万年前）の小ブロック含む。
- VIII層：黄橙色ローム。締まり弱く、粘性ややあり。

- IX層：明黄褐色土。As-Srを多量に含む。
- X層：浅間白糸降下軽石（As-Sr：約1.7万年前）。
- XI層：黄白色シルト質土。
- XII層：褐色～黄褐色ローム。粘性あり。
As-BP層群の上下及び間層。
- XIII層：浅間板鼻褐色軽石（As-BP：約1.8～2.2万年前）
大きく3枚に分かれる。
- XIV層：前橋泥流堆積物。
- XV層：褐色ローム層 色調により細分できる。
- XVI層：榛名箱田テフラ（Hr-HA：3万年前）
- XVII層：褐色ローム層 色調により細分できる。
- XVIII層：榛名八崎軽石（Hr-HP：約4.2万年前）





第7図 調査区柱状図

第3章

第5面の調査 (旧石器の調査)



1区の旧石器（第5面）出土状況

地表下2mでローム層となり、更に1.5m掘り下げ旧石器調査を行った。その結果、約1.8～2.2万年前の浅間褐色軽層群（As-BP）下から79点の石器が出土した。（中間の白い層は、約1.7万年前の浅間白糸軽石（As-Sr）である）。

第1節 第5面の概要

地形：本遺跡地は、長坂段丘面の東縁部に位置し、調査地北端の国道17号線タッチの12区では段丘崖に接する。また、12区北端では北北西に聳える子持山方面からの古い火山性扇状地形の影響が強く残り、12区北半の旧地形は段丘崖に向かい傾斜地形となっている。この傾斜地形は、12区南半から以南の調査区では扇状地形から徐々に離れるため全体的に南に緩い傾斜面となる。

遺跡地内の第5面としたローム上面の標高は、路線南に位置する1区では240m、路線北端の12区では251mを測り、遺跡内の高低差は約11mを測る。**層位：**ローム上層の堆積土は、第IV層黒色土（黒ボク土）、第V層淡褐色土（淡色黒ボク土）、第VI層くすんだ黄褐色土（ローム漸移層）等に分けられ、ローム層までは約40cmを測り、縄文時代の遺構群の掘り込み面となっていた。その下第VII層の明黄褐色ローム面より第5面として旧石器調査を開始した。

旧石器を出土した1区歩道橋下（1-1）のAs-BP層群底面の標高は238.4mであった。（第8図参照）

第VII層：明黄褐色。As-YPユニットが根痕に分断されながらブロック状に含まれる。締まりが非常に強く、硬質ロームと呼称した。

第VIII層：粘性が増すが、ややフカフカした感じのロームとなる。下層のAs-Srが若干混じる。

第IX層：As-Srを大量に含みザラついた層。

第X層：As-Sr層

第XI層：桃白色のシルト質土。しまり弱く、湿気を帯びる。

第XII層：As-BP層群。間層を挟み3層の軽石層の堆積が見られる。

第XIII層～第XV層までは1m程のロームの堆積が確認できたが、余り明瞭な差はなく、色調と締まり、夾雑物の違いで分けた。

第XVI層：Hr-HA泥流層 青灰白色の粘性の強く白色軽石が混じる。この直下に脆弱な白色軽石層がクランチチョコ状態で確認できた。

第2節 調査方法

第5面の旧石器時代の調査は、ローム層中で出土する石器や遺構の有無を確認するため、トレンチ調査から開始した。トレンチ調査は、調査区内に路線やグリッドに沿って2～4m四方の枡を設定し、ジョレン等を用いた人力作業により第VII層硬質ローム面より面的に掘り下げる作業である。

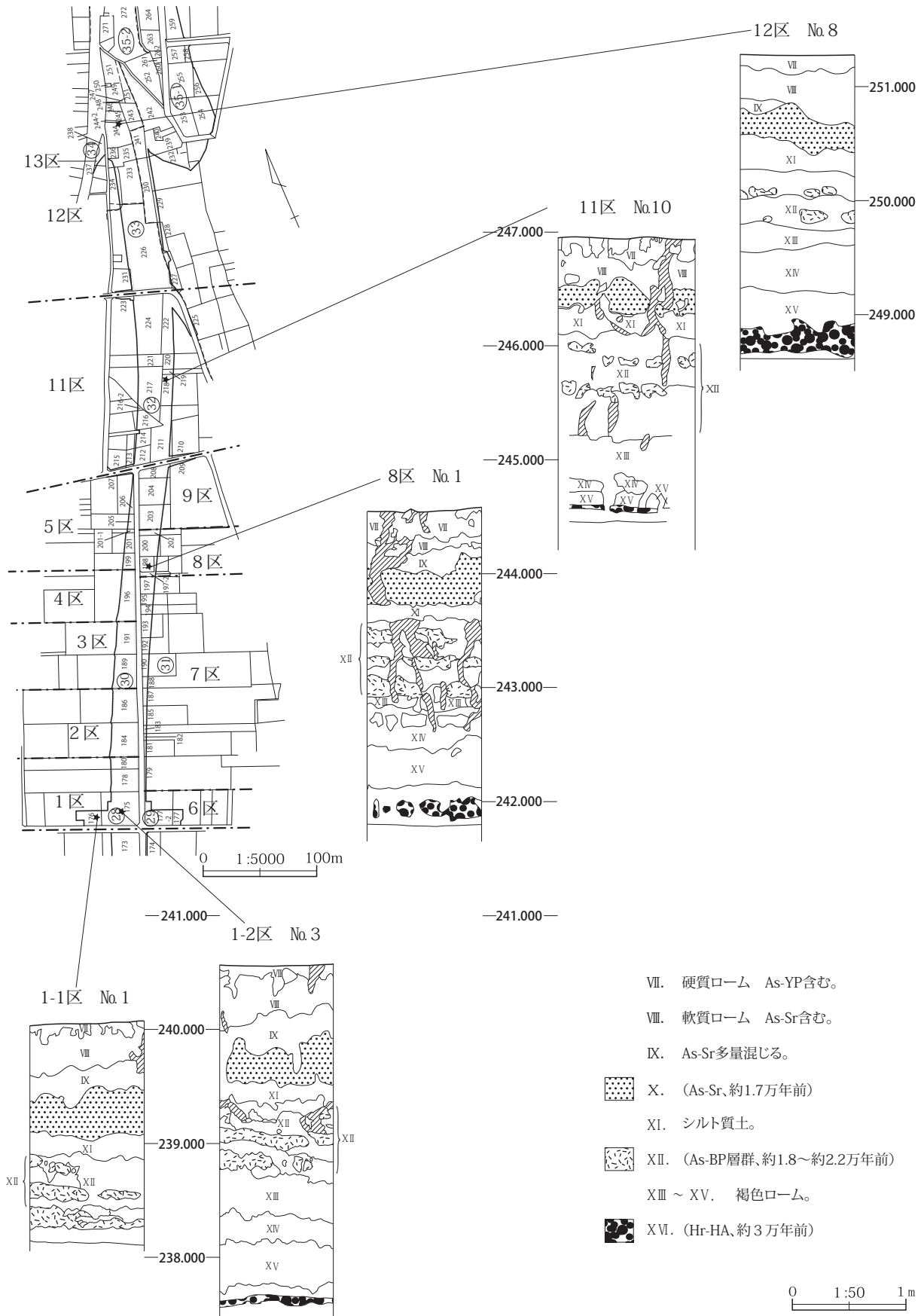
この作業により、本遺跡南に接する吹屋遺跡II区において、第VII層から第VIII層にかけて複数のトレンチ枡から石器が出土し、トレンチ枡を結合して旧石器調査を行った。また、更に南のVI区においても第VII層中より石器が複数のトレンチ枡で検出され、トレンチ枡を結合して旧石器調査を行った。

中郷遺跡でも同様にトレンチ枡を調査区毎に設定し、人力により掘り下げを行った。各調査区のトレンチ枡の数は以下の通りである。

1区では歩道橋部分に3区画、本線部分で12区画。2区では13区画、3区では7区画、6区では2区画、7区では2区画、8区では2区画、9区では8区画、11区では20区画、12区では18区画、13区では1区画を設定した（第9～10図参照）。

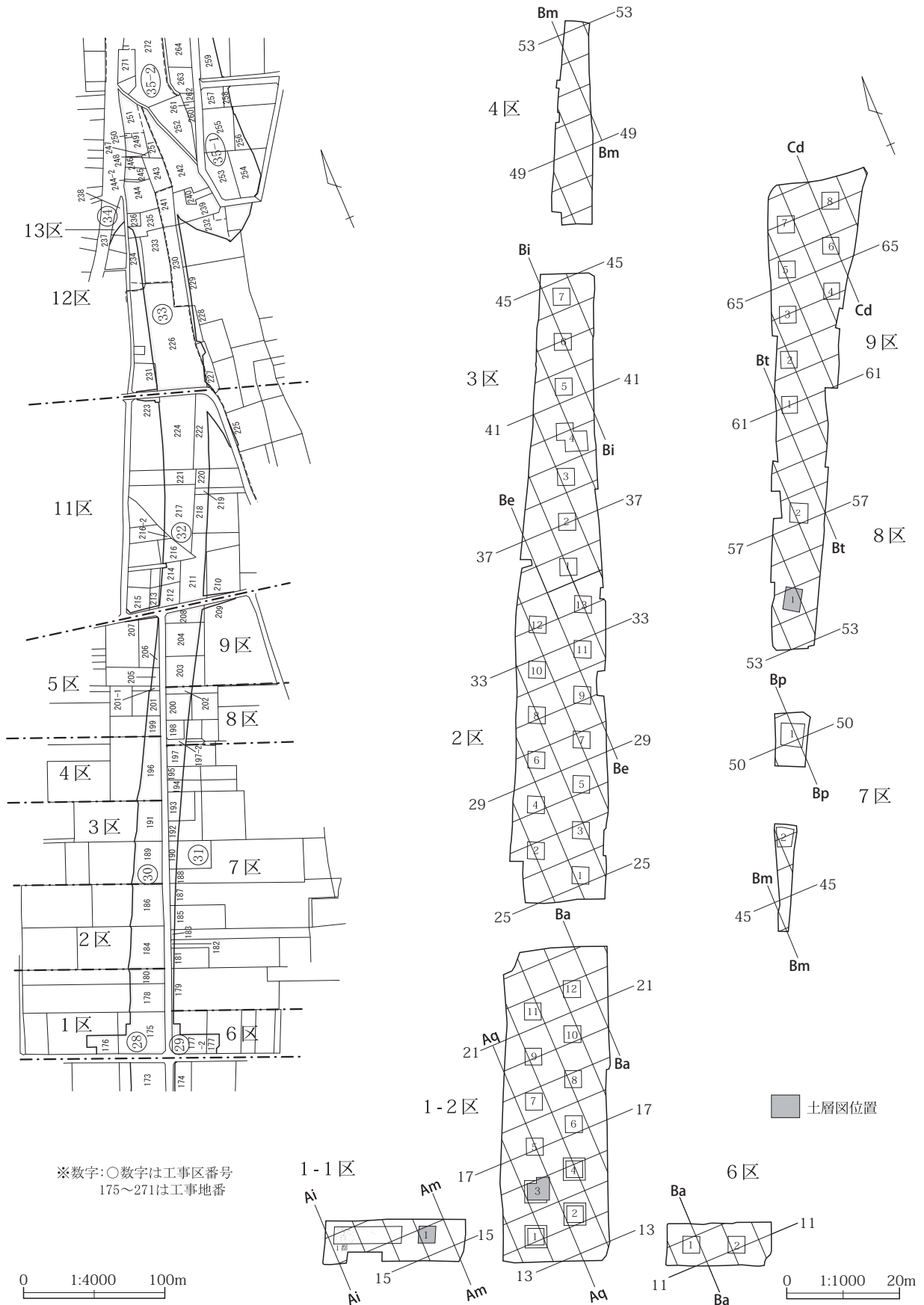
各トレンチ区画内では、各層位毎に掘り下げを行い第XII層のAs-BP層群下まで達した段階で確認作業を終了させ区画毎に1箇所断面図化や写真撮影等の記録作業を行い、旧石器調査を終了させた。また、一部のトレンチを更に下層の第XVII層Hr-HA泥流層まで掘り下げ旧石器の確認作業を行った。

こうした調査により、本遺跡南端に位置する1-1区歩道橋下の調査区で第XII層As-BP層群下から石器を検出し、面的に広げ旧石器調査を実施した。

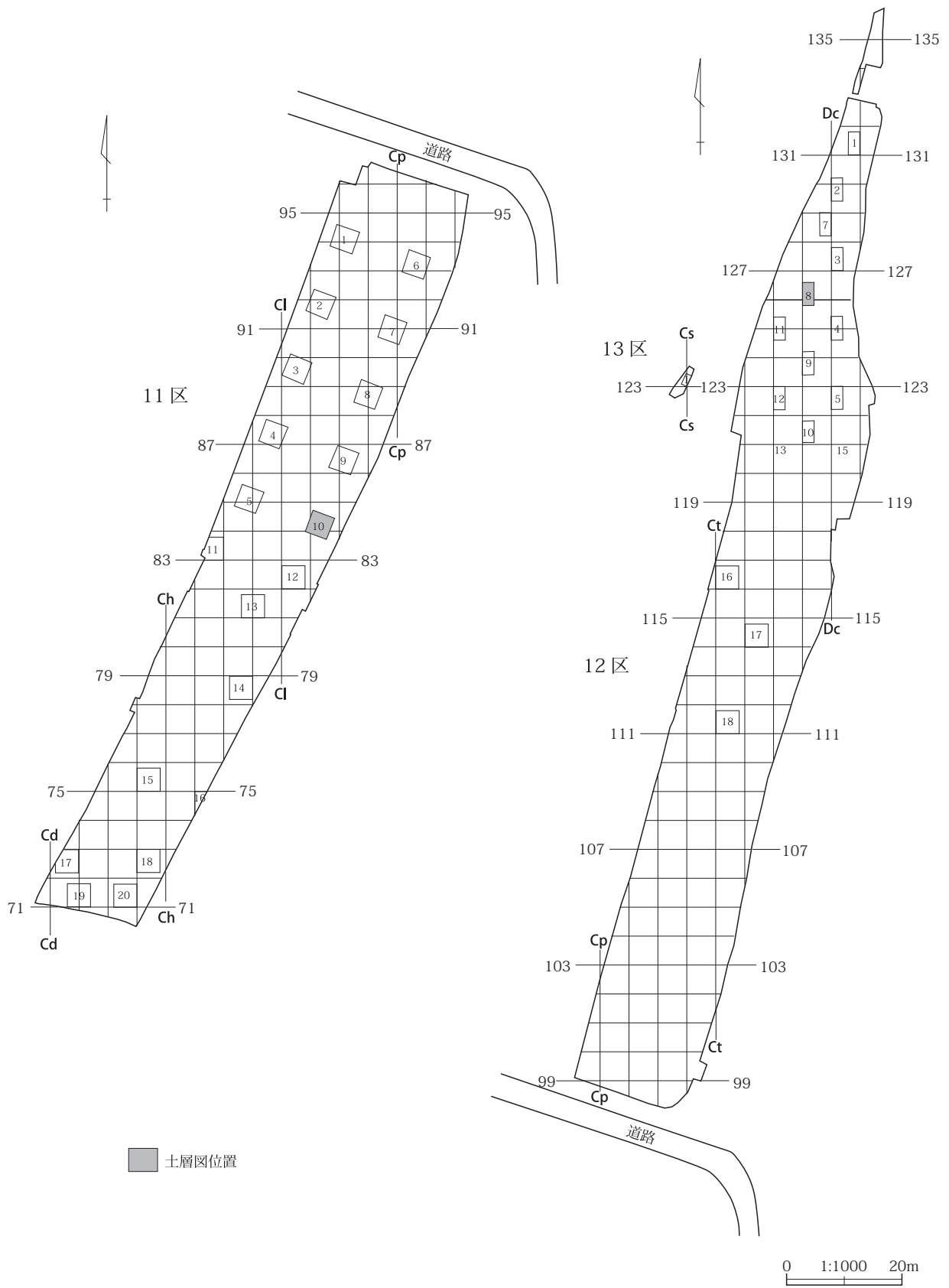


第8図 第5面土層図

第3章 第5面の調査



第9図 旧石器深掘配置図(1)



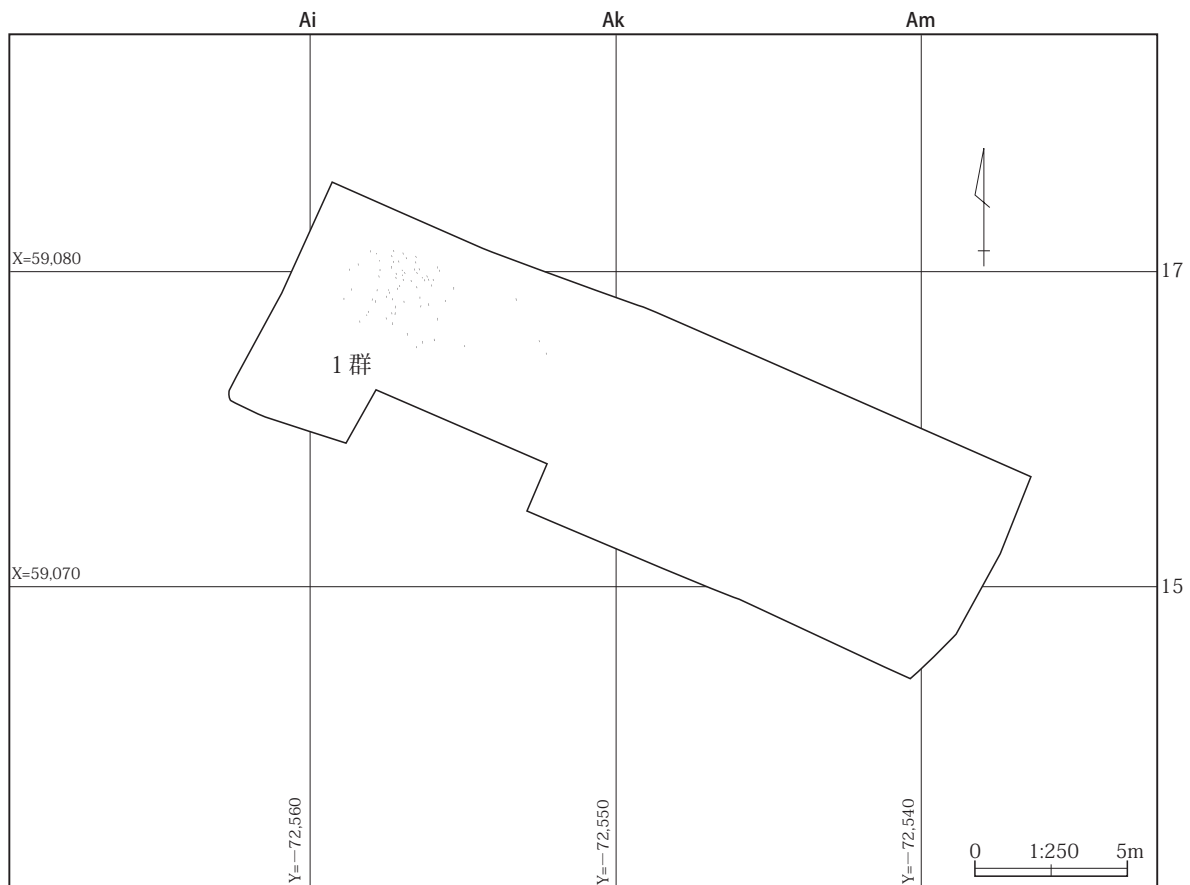
第10図 旧石器深掘配置図(2)

第3節 1区の調査

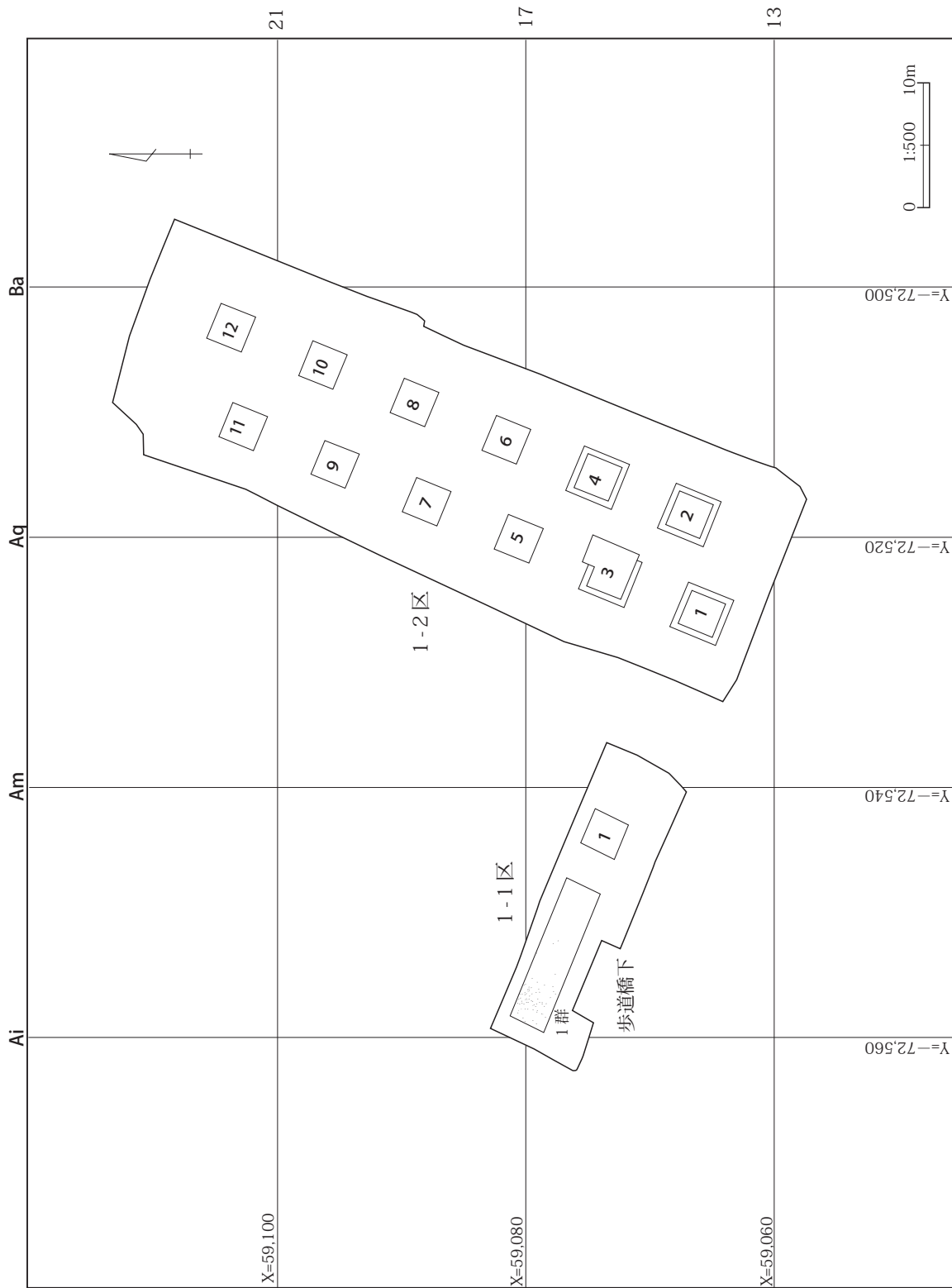
(第11～24図、PL 1・2・161～164)

1区では、第4面調査終了後の旧石器調査を実施に際し、吹屋遺跡等で実施してきたグリッドを利用した千鳥格子の4m四方の旧石器調査用トレンチ柵の配置では調査区幅が狭く効果的な設定とならないと判断し、路線に沿った2列12箇所トレンチ柵を設定し掘り下げを行った。また、歩道橋部分の調査区は更に調査区が狭小であるため、トレンチ柵を3箇所とした。掘り下げに際して、各トレンチ柵とも第VII層の明黄褐色の硬質ロームより人力で掘り下げを開始し、層位毎に遺構・遺物の確認作業を行い、同時にローム堆積状況を壁面で確認しながら順次下層へと掘り下げを行った。最終面としてはAs-BP層群下層までとし掘り下げを行い、幾つかの柵でHr-HA層まで確認を行った。

歩道橋設置部分の調査区西端の第3トレンチ内でも他トレンチ同様に第VII層硬質ローム面より掘り下げを開始し、順次面調査と掘り下げを繰り返し1.6m程掘り下げた第XII層のAs-BP層群最下層下面の褐色ローム層中から石片が出土した。石片の確認を行ったところ石器剥片と判明し、移植ごてによる作業に切り替え精査を行った。その後トレンチ内西側のAi-16、17グリッドを中心に石器の出土量が増し、第1群として調査を進めた。更に石器の広がり、トレンチ柵外へと広がる様相が見え、調査区を広げる必要もあったが、この段階で地表面から3m近く掘り下がっていたため、西、南、北方向への拡張は危険と判断し、東側の第2トレンチと連結し面的な調査を行うこととした。石器の出土は、第2トレンチまでで収束し石器の出土状況の図化及び土層観察等の記録作業を行い、第5面の調査を終了した。出土石器は、深さ50cm弱の範囲内に79点出土した。



第11図 1-1区全体図



第12図 1区トレンチ配置図

第4節 検出された遺物

3地点で旧石器時代の石器が出土した。

1-1区の第3トレンチではブロックが検出された。1-2区第3トレンチ内から石刃、3区第4トレンチでは剥片が単独で1点出土したのみである。

1. 1区1地点

総数で79点が出土した。このうち6点はブロック一括で取り上げられているため、分布図に出土位置は記載していない。出土層位はⅩ層である。大半の石器は、調査区西端の3×3m程のブロックに含まれる。このブロック自体はほぼ完掘していると思われるが、石器分布が調査区外に広がる可能性は高い。

器種は、スクレイパー1点、二次加工ある剥片4点、石刃4点、石核1点、敲石1点、剥片59点、礫8点、礫片1点で、定型的な石器は含まれない。石材組成は、黒色安山岩53点(41.0g)、黒色頁岩16点(1609.9g)、粗粒輝石安山岩6点(2206.5g)、かこう岩2点(513.7g)、文象斑岩1点(145.0g)、溶結凝灰岩1点(68.4g)である。黒色安山岩・黒色頁岩以外は、いずれも敲石や礫の石材である。

1はスクレイパーである。縦長剥片素材で、左側縁裏面に調整が加えられている。上下両端は欠損。連続した調整加工が施されていることからスクレイパーに分類したが、右側辺には剥片剥離後に上方から加えられた槌状の剥離が認められることから、彫刻刀形石器の可能性もある。石材は黒色頁岩。

2～5は二次加工ある剥片である。2は、小型の不定形剥片の左側表面と右側裏面に粗い調整が加えられる。3は厚手で大型の横長剥片の左側表面下半に平坦剥離が加えられている。左側表面上位の連続した剥離は、剥片剥離に先行する調整である。4は小型剥片の右側表面下半に不規則な平坦剥離が加えている。5はやや厚手の剥片を素材とし、裏面からの加撃によって上部に急角度の刃部を作出。石材は、2・3が黒色頁岩、4・5は黒色安山岩である。

6～9は石刃である。6は裏面の両側に刃こぼれ

状の細かな剥離が認められる。下半を欠損し、大型の平坦打面を残している。7も下半を欠損、8・9は両端部を欠く。石材はすべて黒色頁岩である。

10～17は剥片で、比較的大型で打面が残っているものを中心に図化した。石材は10～12が黒色頁岩、13～17は黒色安山岩である。石刃がすべて黒色頁岩であったのに対し、剥片では59点中黒色頁岩は8点のみで、黒色安山岩の比率が高い。

18は石核である。円礫素材で、上面と正面、右側面で剥片剥離を行っている。打面と作業面を固定して複数の剥片を剥離した後、打面・作業面を転位している。剥離された剥片は不定形状を呈する。石材は黒色頁岩である。

19は敲石で、円盤状の円礫下端に敲打痕が認められる。石材は粗粒輝石安山岩である。

第23図は接合資料である。石材は、接合資料1が黒色頁岩、その他は黒色安山岩である。

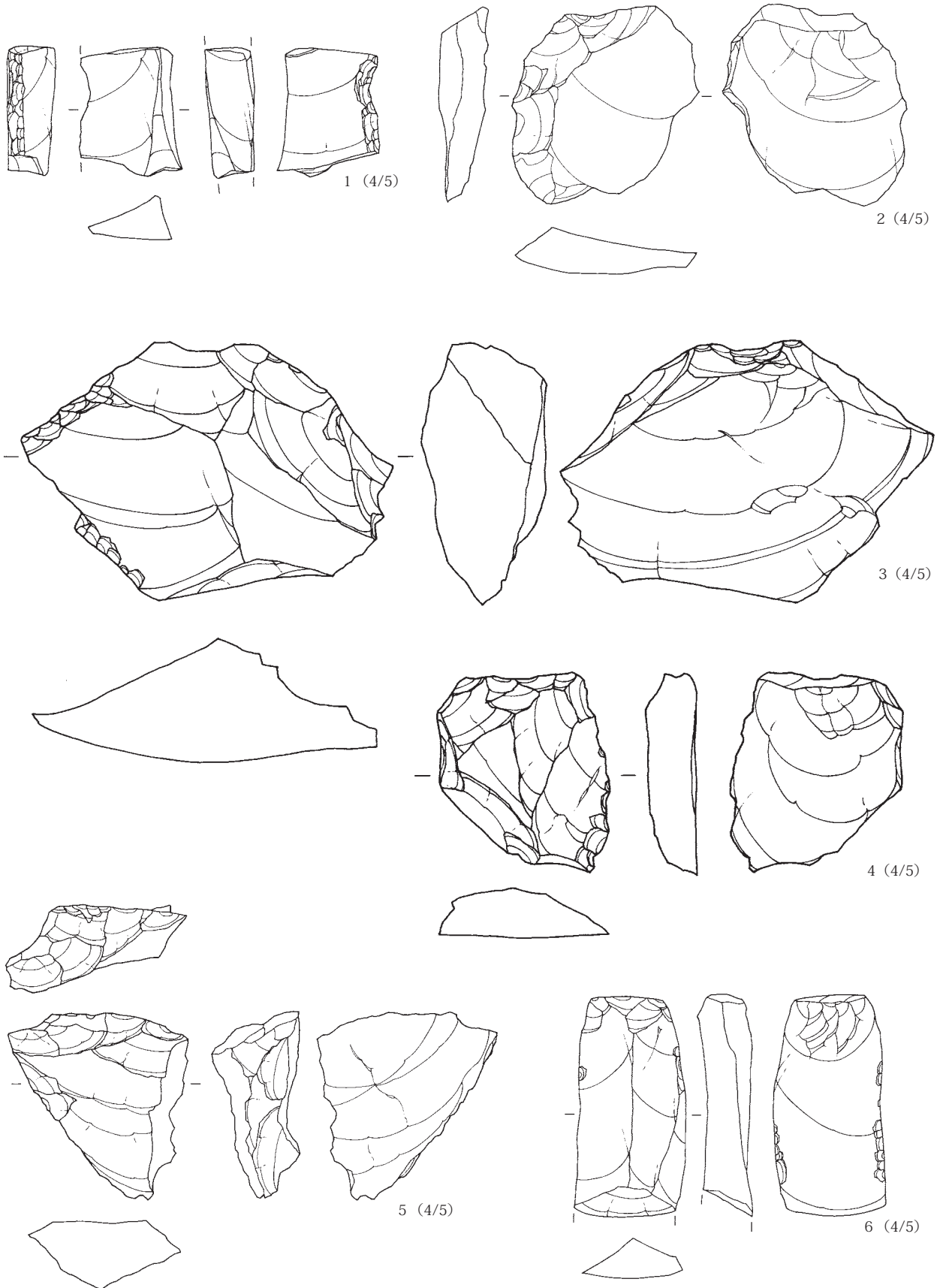
接合資料1は、石核1点と剥片3点からなる。上面で厚手の横長剥片を剥離した後(1-1)、打面と作業面を入れ替えて小型の剥片を2点剥離する(1-2・3)。その後再度打面と作業面を入れ替え少数の剥片を剥離した後に石核は廃棄される(1-4)。

接合資料2は剥片3点からなり、上面の打面から連続して小型の剥片を剥離している(2-1～3)。打面は平坦で、石核は出土していない。

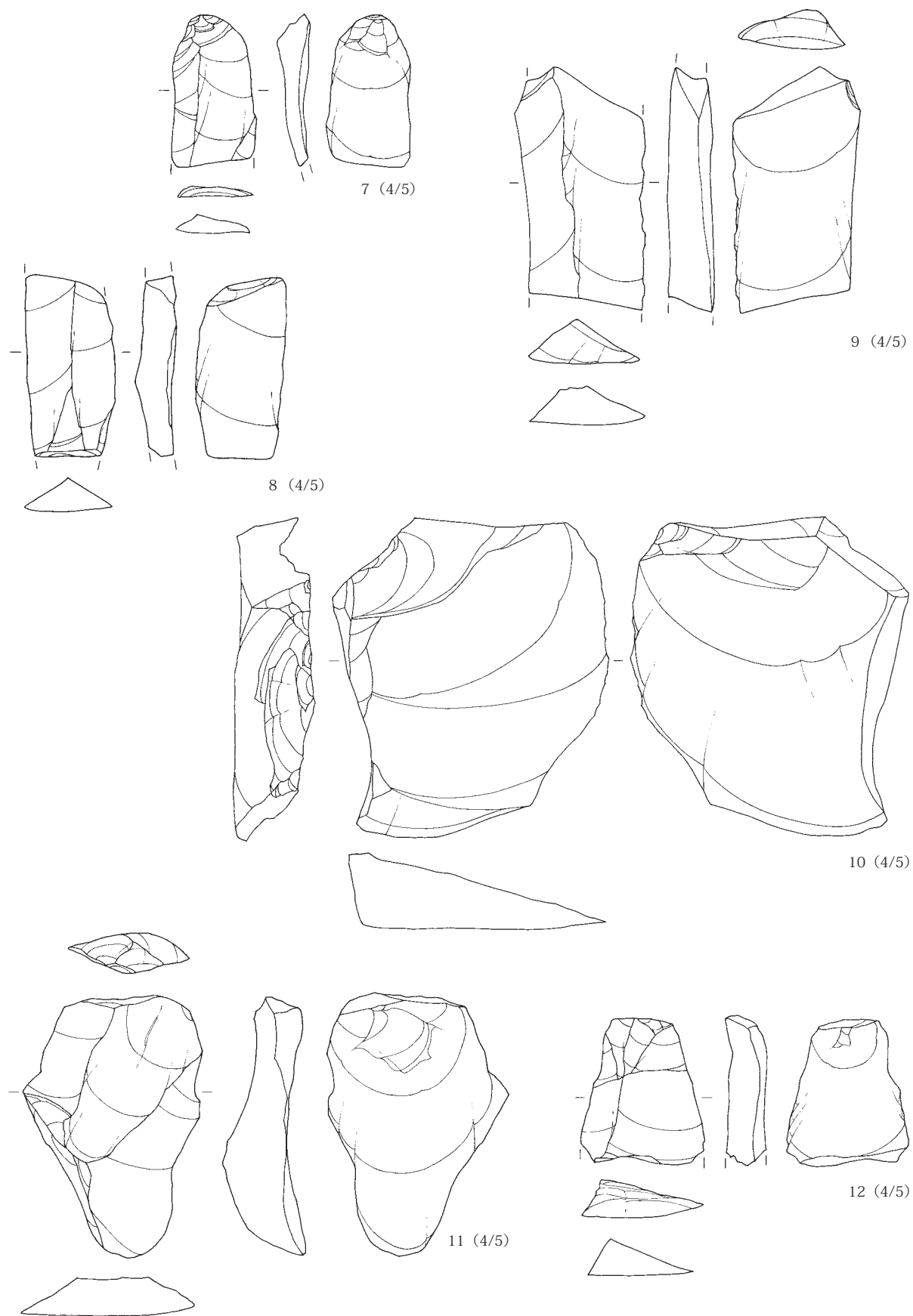
接合資料3は、3点の剥片からなる。厚手の大型剥片右側面で小型の剥片を連続して剥離した後、裏面を打面として剥片2枚を剥離(3-1・2)。打面再生後再度剥片を剥離(3-3)。石核は出土していない。

接合資料4～6は、それぞれ2点の剥片が接合したものである。接合状態から、石核は剥離の進んだ直方体状と考えられ、接合資料5・6では90度の打面転位が認められる。いずれも石核は調査区内からは出土していない。

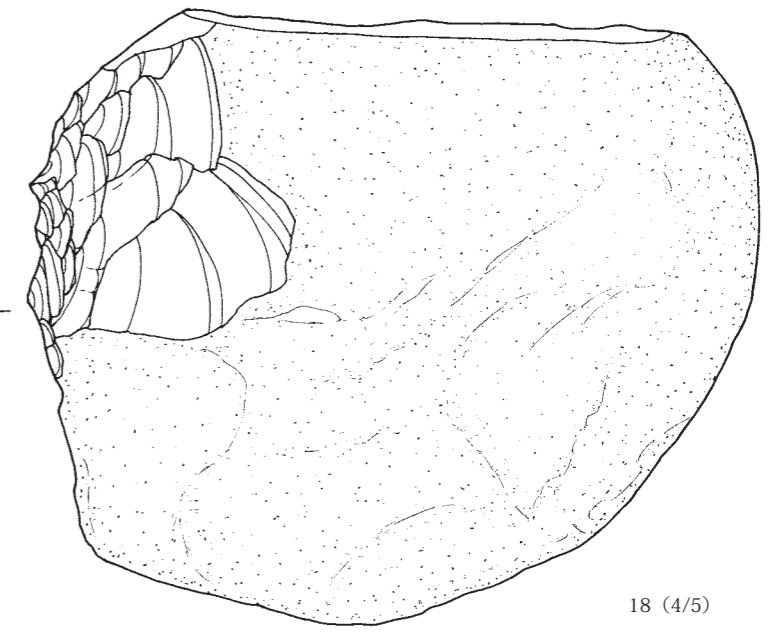
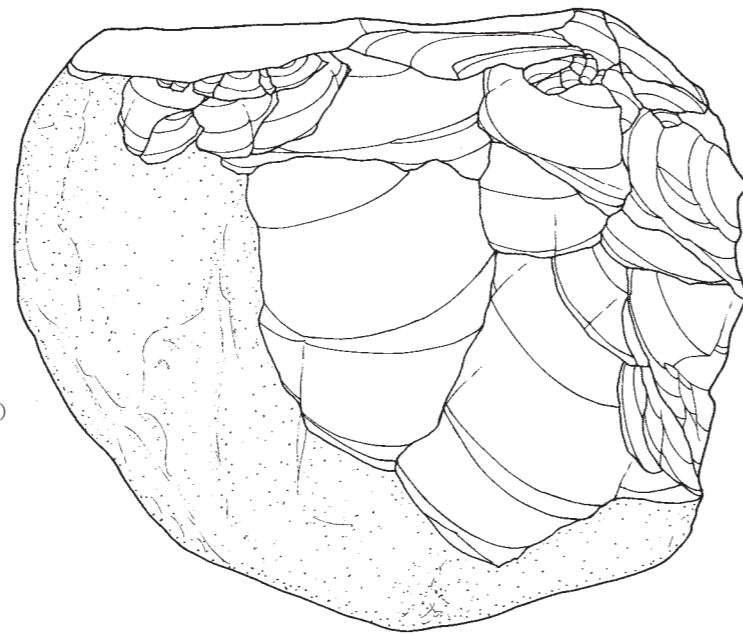
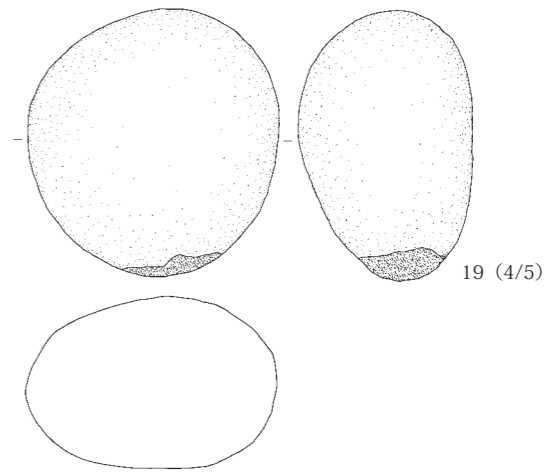
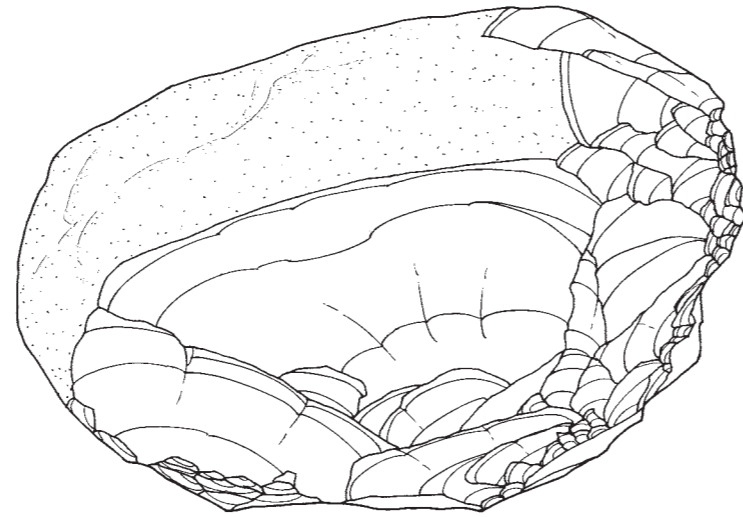
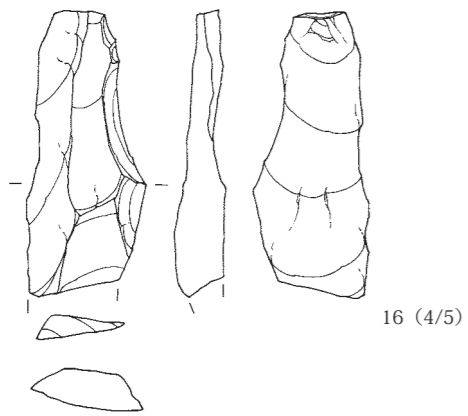
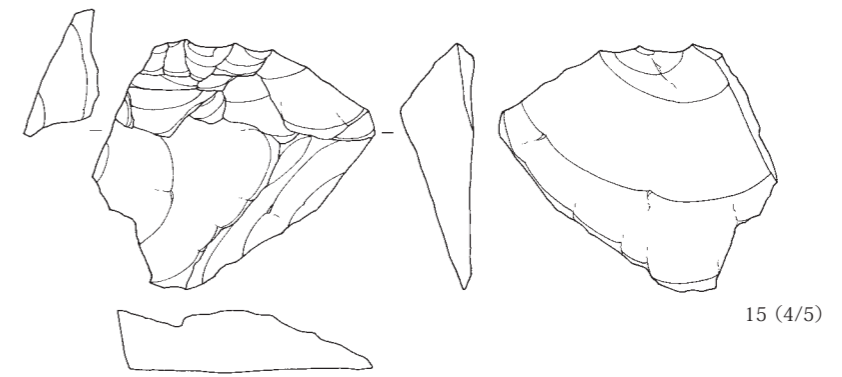
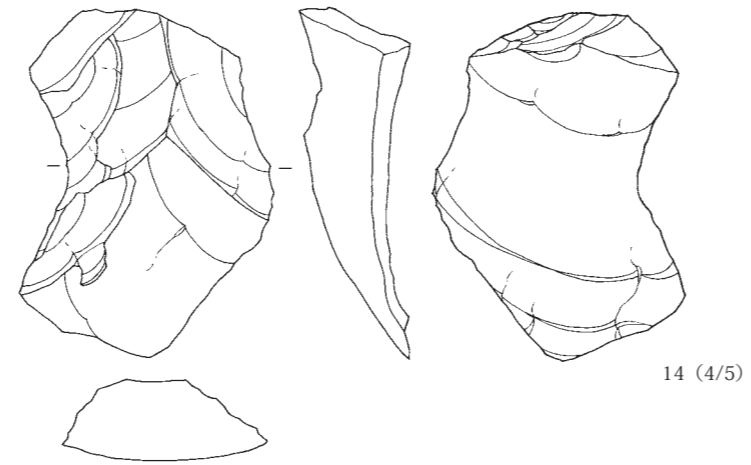
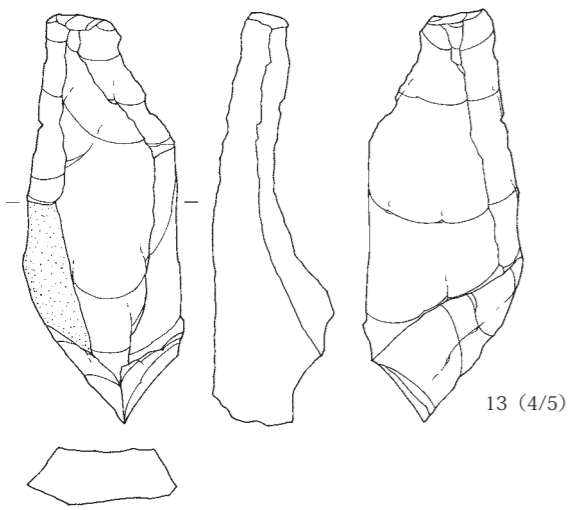
第18～22図に石器分布を示した。器種では二次加工ある剥片や石核、敲石、礫などが、石材では黒色安山岩以外の石器がブロックの北半に偏って分布している。ただし、本石器群では全体を完掘していな



第13図 1区第1群出土石器(1)

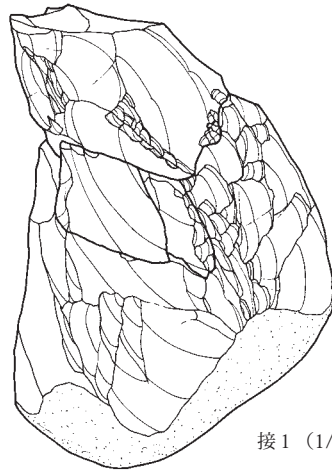
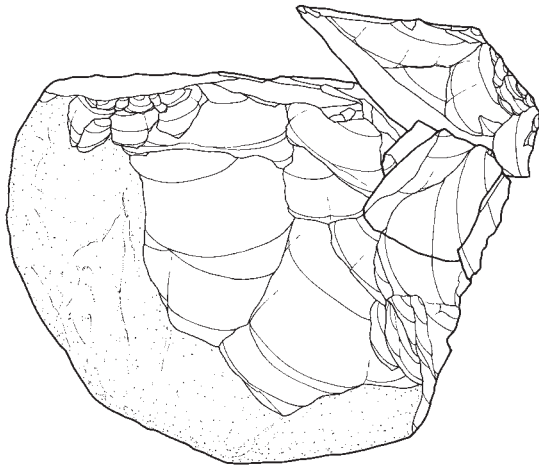
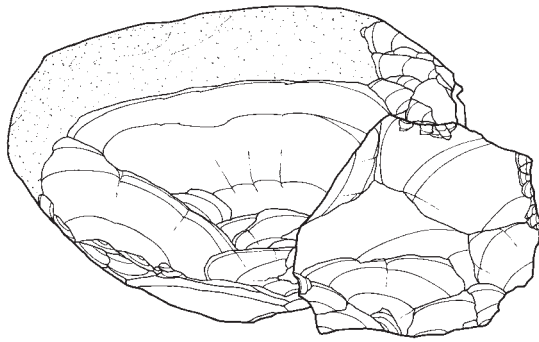


第14図 1区第1群出土石器(2)

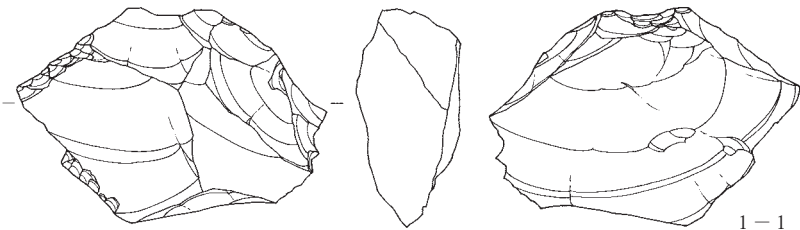


第15図 1区第1群出土石器(3)

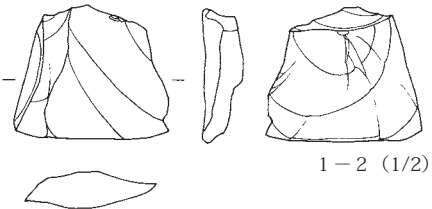
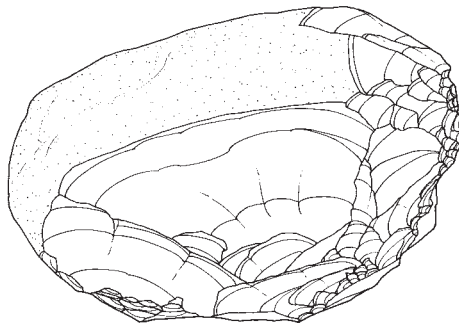
接合資料-1



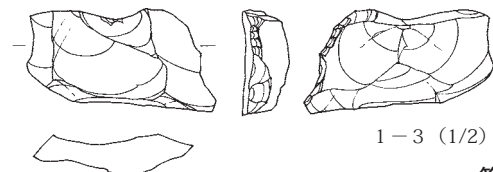
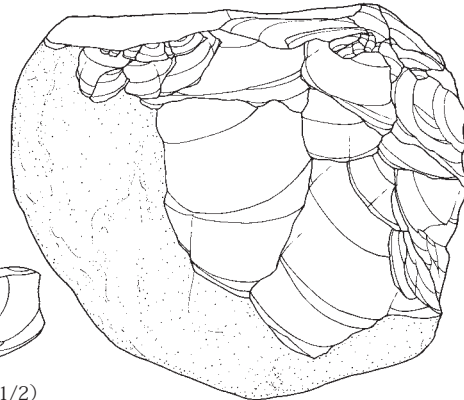
接1 (1/2)



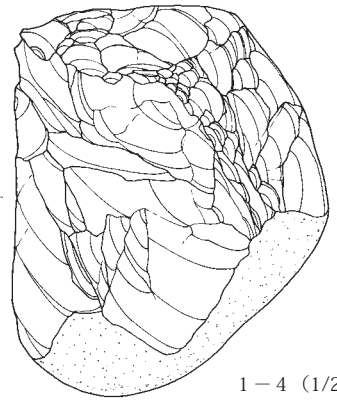
1-1 (1/2)



1-2 (1/2)



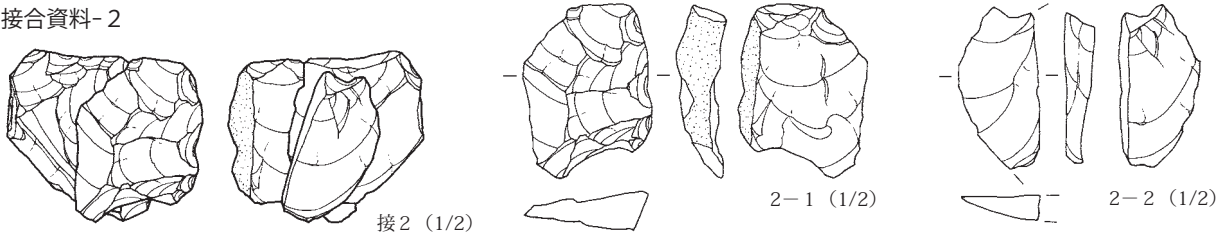
1-3 (1/2)



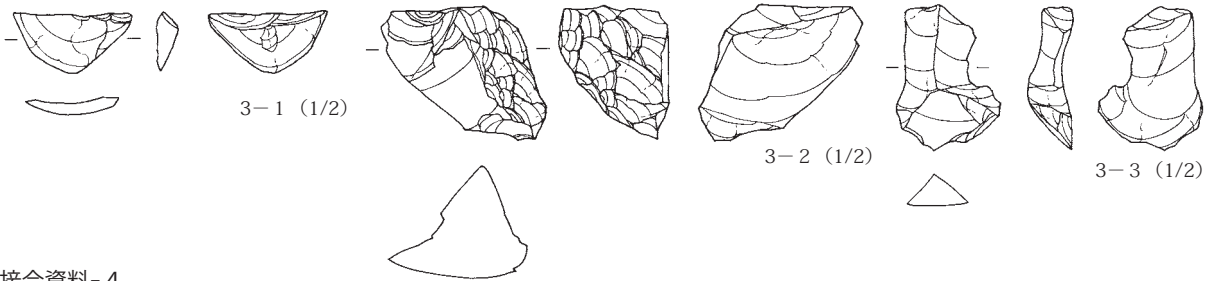
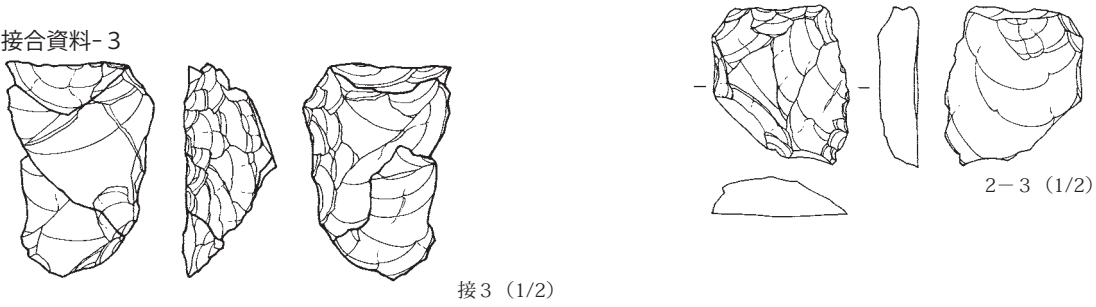
1-4 (1/2)

第16図 接合資料(1)

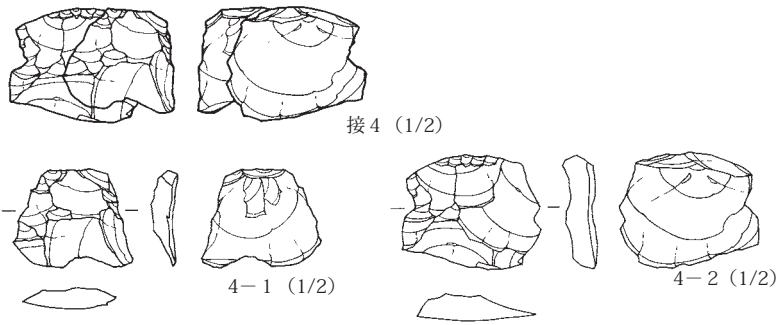
接合資料-2



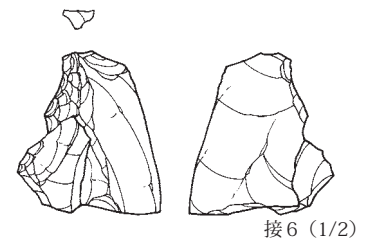
接合資料-3



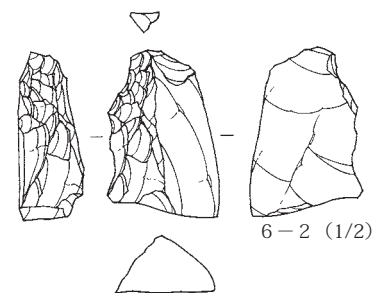
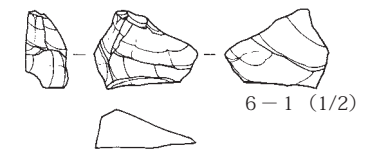
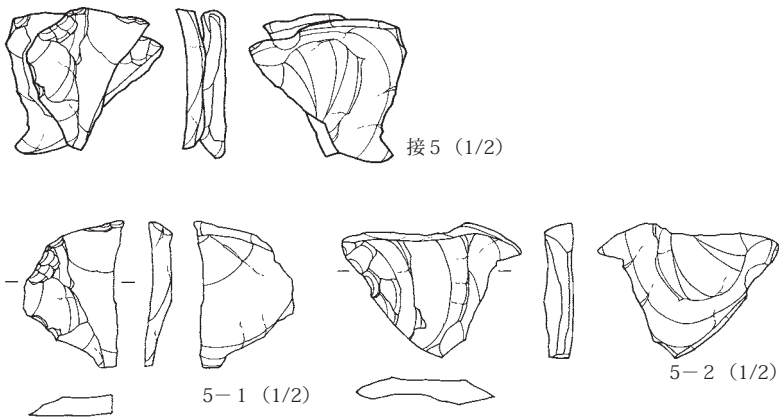
接合資料-4



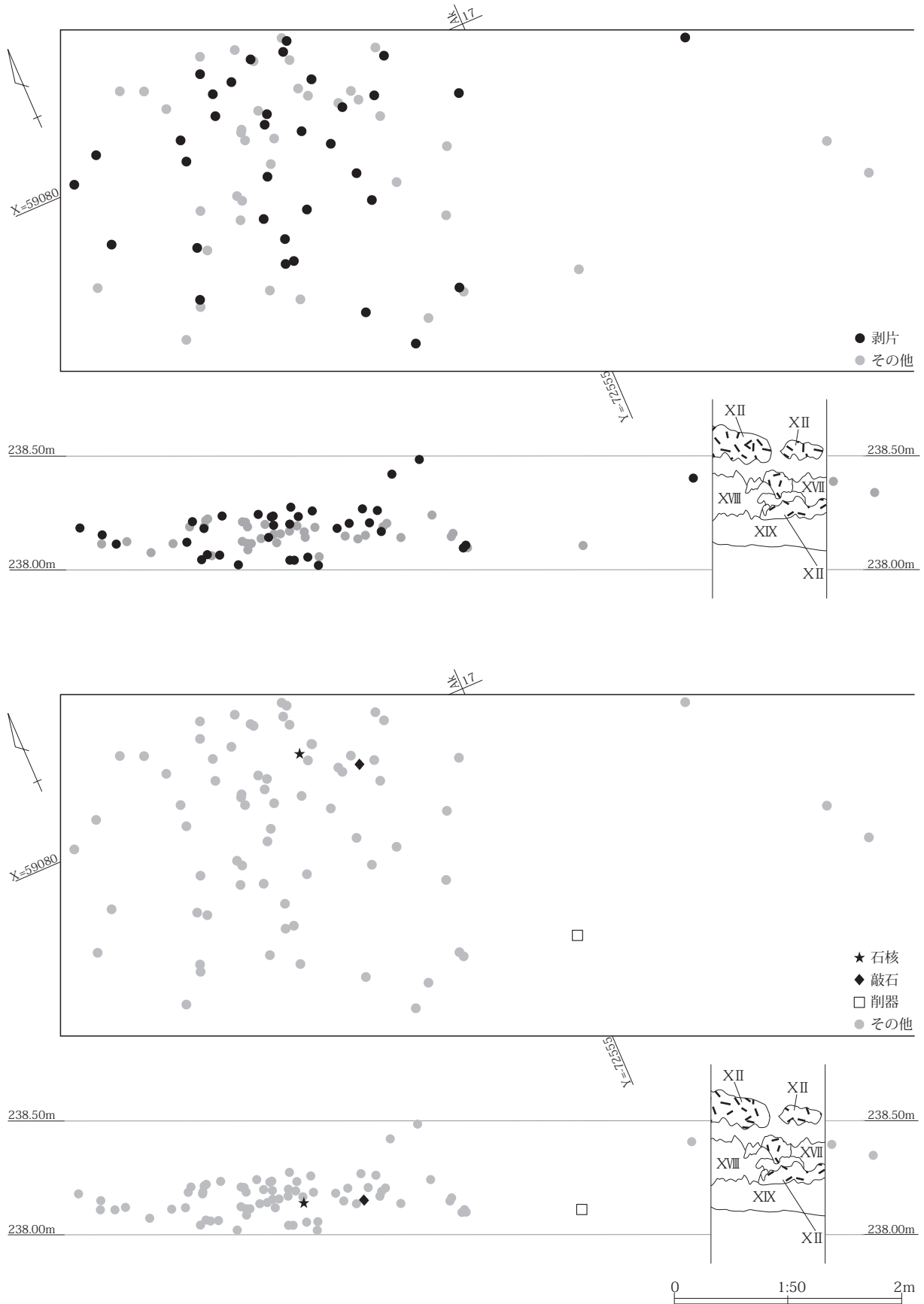
接合資料-6



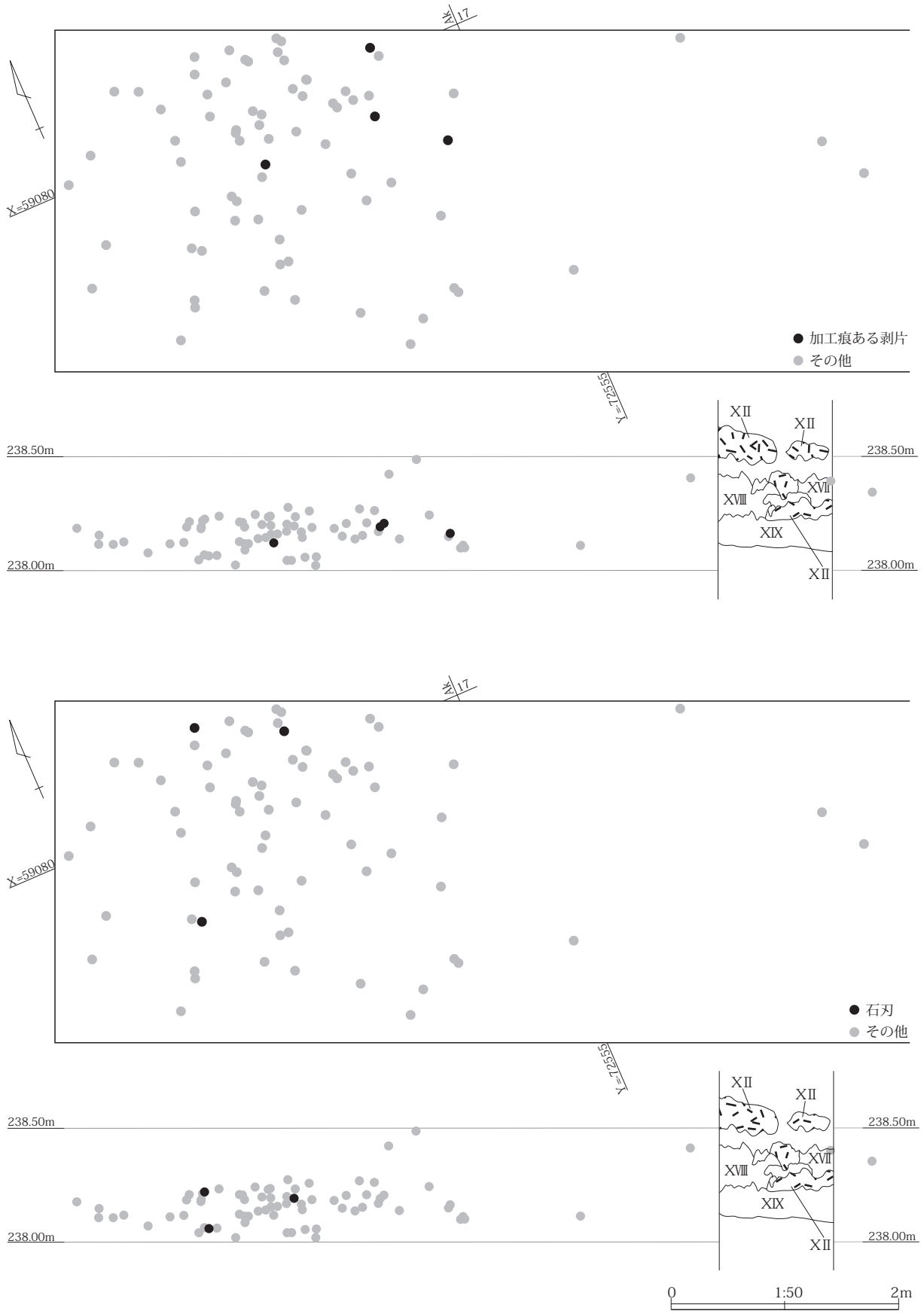
接合資料-5



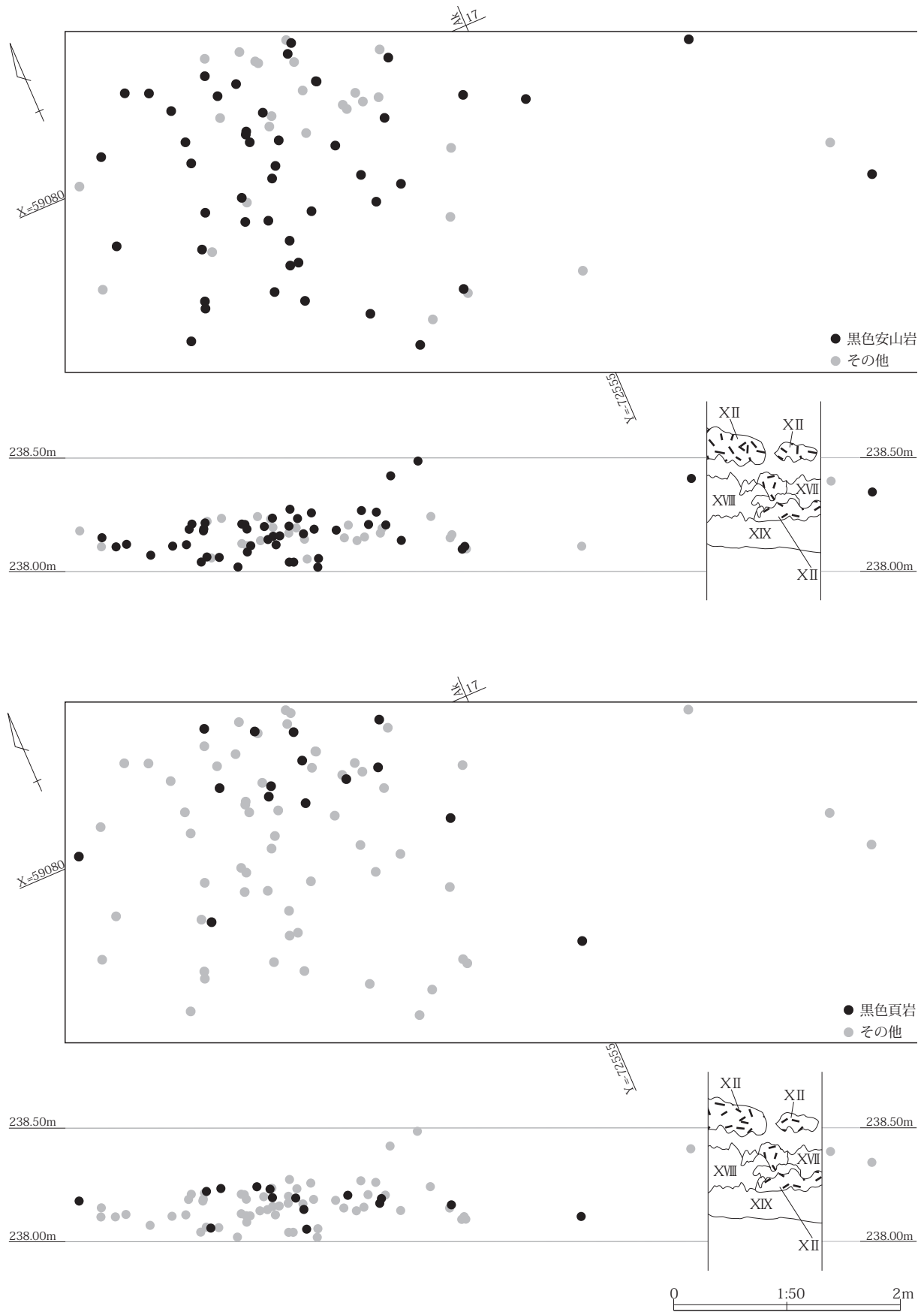
第17図 接合資料(2)



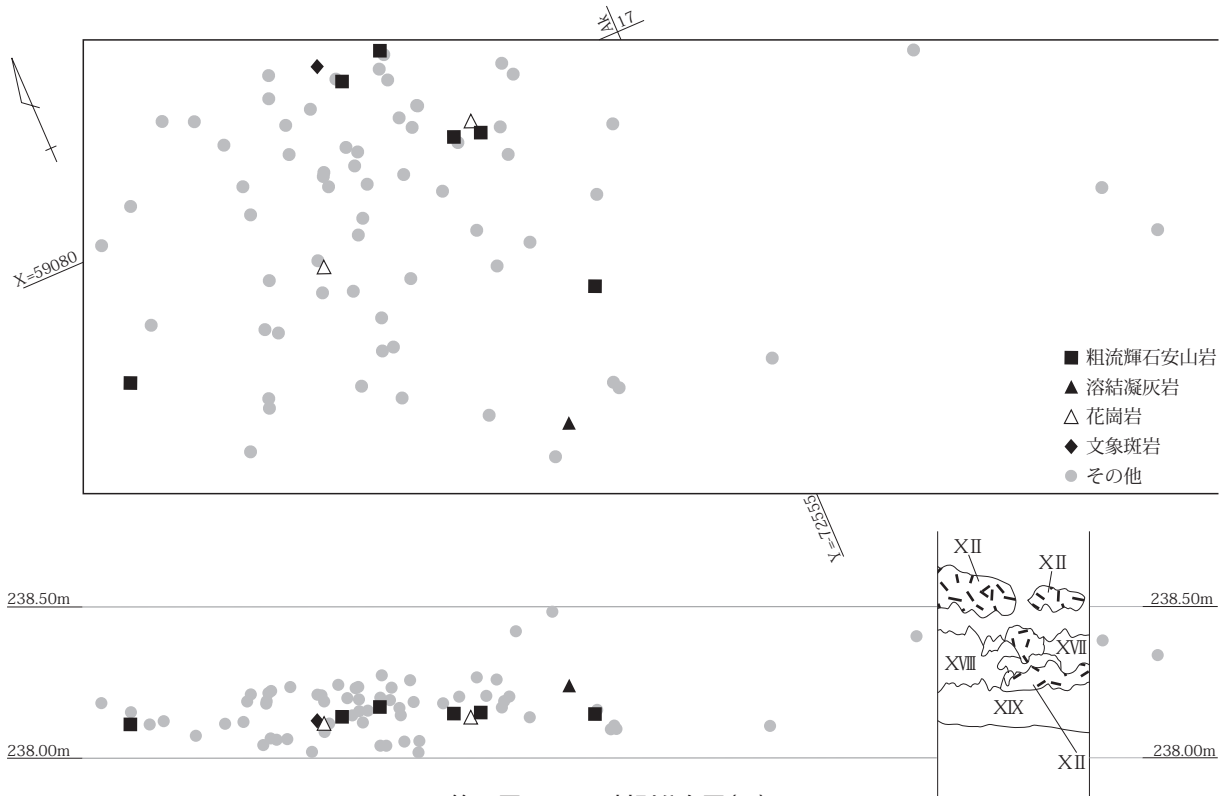
第19図 1区器種別分布図(1)



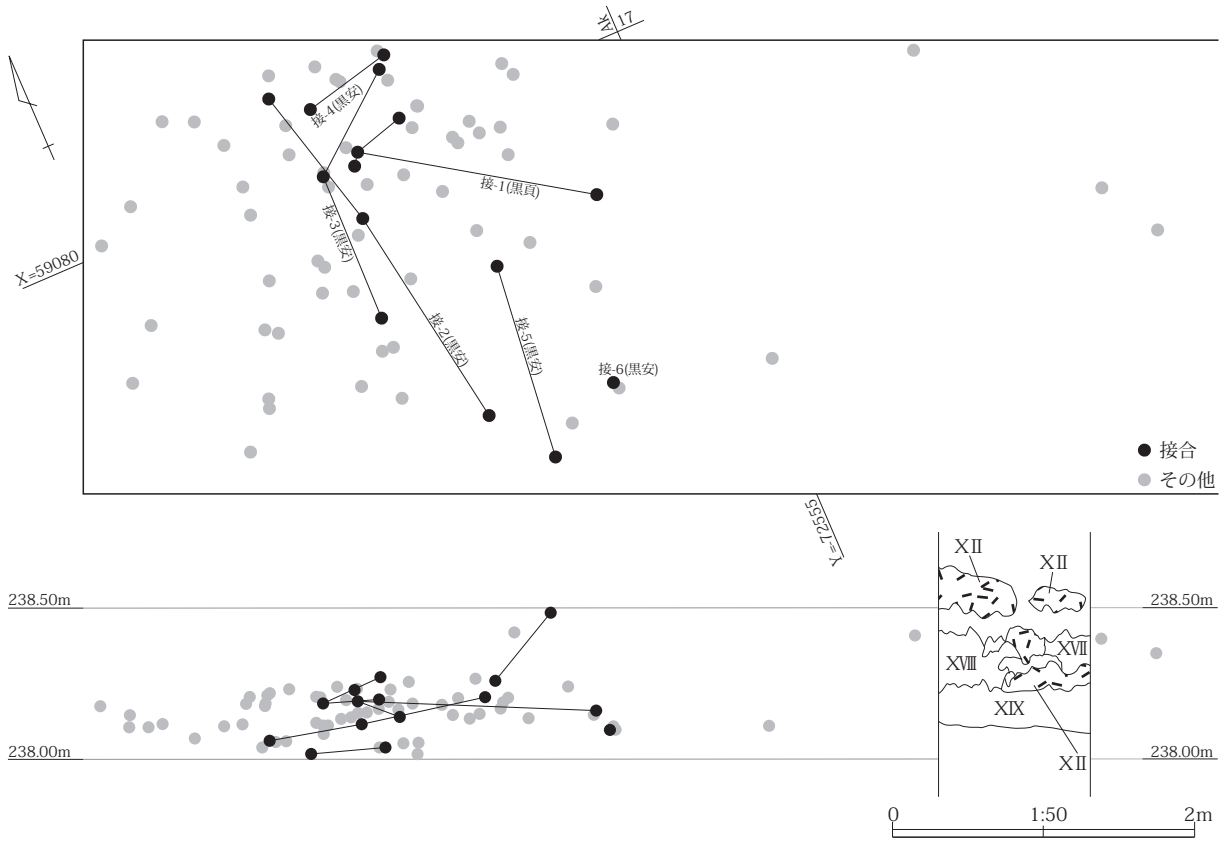
第20図 1区器種別分布図(2)



第21図 1区石材別分布図(1)



第22図 1区石材別分布図(2)



第23図 1区接合資料分布図(1)

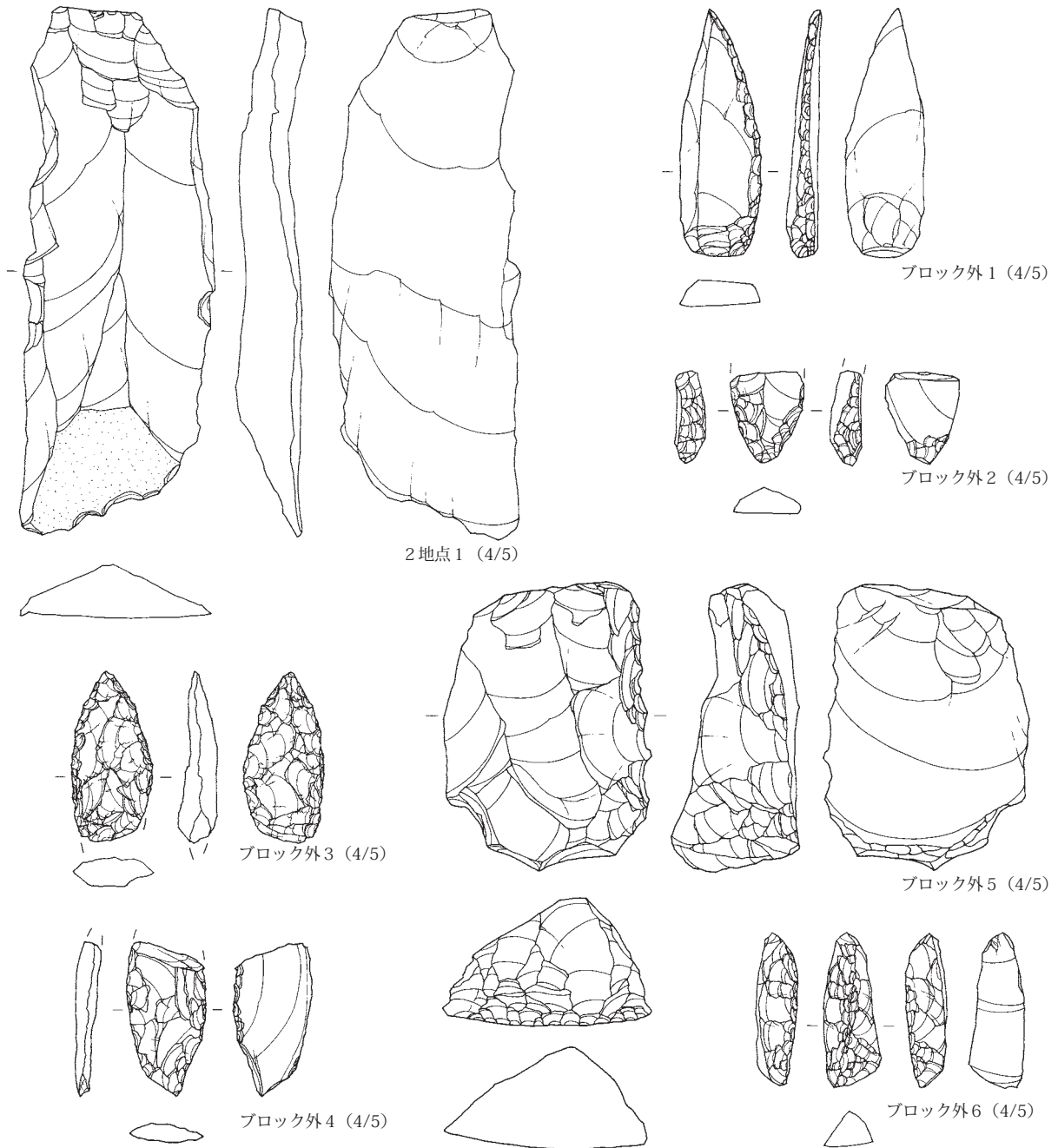
い可能性が高く、調査区内での分布の傾向を示すにとどまる。

2. その他の石器

1区の2地点では、黒色頁岩製の石刃が1点出土(1)。出土層位はⅫ層で、1地点と同じである。

その他、縄文時代の遺構内等から旧石器時代に属する石器が複数出土した。ブロック外1・2はナイフ形

石器である。1は縦長剥片素材の側縁加工のナイフ形石器。2は基部破片で、二側縁に調整が加えられる。3・4は槍先形尖頭器で、3は両面加工、4は表面周辺に調整加工を加えている。5はエンドスクレイパーで、素材末端部に急角度の刃部を作出する。6は背面に稜形成の痕跡を残す石刃で、端部はヒンジ状を呈する。石材は、1・5が黒色頁岩、2・6は黒曜石、3は黒色安山岩、4は珪質頁岩である。



第24図 各調査区第5面相当石器

第4節 検出された遺物

第4表 旧石器計測一覧表

区	取上 No.	層位	器種	掲載 No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	接合	X座標	Y座標	Z座標	備考
1-1	1	19	剥片		2.6	2.6	0.9	3.2	黒安		59077.386	-72552.246	238.349	
1-1	2	19	欠番											
1-1	3	19	剥片		3.0	3.2	1.0	5.8	黒安		59079.458	-72555.275	238.110	
1-1	4	19	RF	3	5.7	8.3	2.7	102.2	黒頁	1-1	59079.072	-72555.557	238.162	
1-1	5	19	礫		8.0	5.5	4.6	245.5	粗安		59078.517	-72555.804	238.148	
1-1	6	19	剥片		4.5	3.0	1.7	20.1	黒安	6-2	59077.888	-72555.949	238.098	
1-1	7	19	礫片		4.3	4.0	3.8	68.4	溶凝		59077.750	-72556.305	238.242	
1-1	8	17	剥片		3.8	2.5	0.5	6.1	黒安	5-1	59077.588	-72556.496	238.486	
1-1	9	17	剥片		3.1	2.9	0.8	7.0	黒安		59080.021	-72555.749	238.421	
1-1	10	19	剥片	12	3.2	2.7	0.8	7.1	黒頁		59079.735	-72555.966	238.169	
1-1	11	19	RF	5	4.0	3.9	1.4	18.3	黒安		59079.547	-72555.990	238.205	
1-1	12	19	敲石	19	10.7	9.9	6.8	884.5	粗安		59079.755	-72556.108	238.152	
1-1	13	19	礫					250.5	かこう		59079.852	-72556.139	238.136	劣化のため計測不可
1-1	14	19	剥片	11	5.6	3.7	0.8	23.2	黒頁		59079.751	-72556.264	238.204	
1-1	15	19	礫					272.5	粗安		59079.799	-72556.282	238.148	劣化のため計測不可
1-1	16	19	剥片		2.5	1.8	0.5	2.6	黒安		59078.957	-72556.088	238.137	
1-1	17	19	剥片		3.8	2.8	0.5	3.8	黒安		59079.169	-72556.380	238.268	
1-1	18	19	剥片		3.6	4.7	0.6	7.8	黒安	5-2	59078.899	-72556.350	238.261	
1-1	19	19	剥片		4.3	2.1	0.7	5.8	黒安	2-3	59078.014	-72556.790	238.207	
1-1	20	19	剥片	14	5.7	4.0	1.3	26.2	黒安		59079.496	-72556.485	238.182	
1-1	21	19	剥片		3.8	2.8	0.8	7.0	黒安	3-3	59080.403	-72556.549	238.274	
1-1	22	19	石刃	6	4.8	2.3	0.9	12.5	黒頁		59080.315	-72556.526	238.192	
1-1	23	19	石核	18	10.3	12.1	8.2	1298.8	黒頁	1-4	59080.055	-72556.556	238.142	
1-1	24	19	剥片		2.6	1.9	1.0	3.8	黒頁		59079.699	-72556.677	238.055	
1-1	25	19	剥片		2.9	2.8	0.8	4.4	黒安		59079.049	-72556.907	238.258	
1-1	26	19	剥片		3.4	4.3	2.9	31.0	黒安	3-2	59078.887	-72557.187	238.200	
1-1	27	19	剥片		1.7	1.8	0.4	1.7	黒安		59078.679	-72557.192	238.233	
1-1	28	19	剥片		1.9	2.4	0.6	2.0	黒安		59078.347	-72557.273	238.166	
1-1	29	19	剥片		2.8	2.5	0.7	3.9	黒頁		59080.456	-72556.838	238.242	
1-1	30	19	礫		10.2	6.1	4.6	307.2	粗安		59080.431	-72556.820	238.136	
1-1	31	19	礫		7.0	5.7	3.1	145.0	文斑		59080.587	-72556.933	238.123	
1-1	32	19	剥片		3.5	4.1	1.0	14.6	黒頁	1-2	59079.957	-72556.897	238.194	
1-1	33	19	剥片		2.0	2.4	1.4	6.2	黒安		59080.015	-72556.956	238.198	
1-1	34	19	剥片		3.7	5.1	0.9	15.3	黒頁	1-3	59079.880	-72556.952	238.231	
1-1	35	19	剥片		2.2	1.4	0.3	1.0	黒安		59079.736	-72556.924	238.157	
1-1	36	19	剥片		1.6	3.1	0.3	1.8	黒安	3-1	59079.898	-72557.170	238.187	
1-1	37	19	剥片		2.4	1.3	0.6	1.2	黒安		59079.822	-72557.165	238.114	
1-1	38	19	RF	4	4.2	3.7	1.0	18.8	黒安	2-2	59079.541	-72557.040	238.118	
1-1	39	19	剥片	16	4.7	1.9	0.6	6.0	黒安		59079.451	-72557.111	238.235	
1-1	40	19	剥片	13	6.8	2.6	0.8	24.1	黒安		59079.123	-72557.289	238.141	
1-1	41	19	剥片		3.1	2.3	0.7	3.6	黒安		59078.525	-72557.488	238.155	
1-1	42	19	石刃	8	3.9	1.9	0.7	5.8	黒頁		59080.654	-72557.237	238.221	
1-1	43	19	剥片		4.6	3.3	1.0	13.8	黒安	2-1	59080.513	-72557.297	238.064	
1-1	44	19	剥片		3.7	3.9	0.9	11.6	黒安		59080.307	-72557.264	238.062	
1-1	45	19	剥片	10	7.1	6.0	1.7	74.0	黒頁		59080.121	-72557.320	238.234	
1-1	46	19	剥片		2.5	2.0	0.5	2.9	黒安		59079.401	-72557.424	238.209	
1-1	47	19	礫		10.3	6.6	2.8	263.2	かこう		59079.345	-72557.399	238.114	

第3章 第5面の調査

区	取上 No.	層位	器種	掲載 No.	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	石材	接合	X座標	Y座標	Z座標	備考
1-1	48	19	剥片		2.1	1.3	0.6	1.1	黒安		59079.194	-72557.480	238.207	
1-1	49	19	剥片		1.6	2.3	1.2	5.0	黒安		59080.349	-72557.691	238.112	
1-1	50	19	剥片		4.0	3.5	0.8	9.8	黒安		59080.047	-72557.685	238.118	
1-1	51	19	剥片		2.6	3.7	0.7	6.0	黒安		59079.856	-72557.712	238.209	
1-1	52	19	剥片		1.8	2.4	0.5	2.4	黒安		59079.408	-72557.771	238.214	
1-1	53	19	石刃	9	5.4	2.8	0.9	16.9	黒頁		59079.066	-72557.853	238.060	
1-1	54	19	剥片	17	3.9	3.7	1.6	27.6	黒安		59079.122	-72557.926	238.042	
1-1	55	19	剥片		3.9	2.2	0.8	6.4	黒安		59078.693	-72558.084	238.179	
1-1	56	19	剥片		4.1	1.3	0.7	2.7	黒安		59078.633	-72558.105	238.187	
1-1	57	19	剥片		1.7	3.4	1.0	6.1	黒安		59078.418	-72558.334	238.186	
1-1	58	19	剥片		1.8	3.9	0.8	3.9	黒安		59080.569	-72557.809	238.072	
1-1	59	19	碎片		1.8	1.9	0.6	1.8	黒安		59080.655	-72558.004	238.120	
1-1	60	19	剥片	15	4.2	4.5	1.0	16.1	黒安		59080.222	-72558.418	238.149	
1-1	61	19	剥片		3.5	4.3	0.8	10.1	黒安		59079.447	-72558.605	238.109	
1-1	62	19	礫		6.2	5.5	3.6	137.5	粗安		59079.145	-72558.869	238.109	
1-1	63	19	剥片		3.3	2.4	1.0	5.0	黒頁		59080.060	-72558.697	238.179	
1-1	64	19	SS	1	2.8	2.2	1.0	7.3	黒頁		59077.618	-72554.922	238.111	
1-1	65	17	剥片		3.2	4.7	1.3	16.0	黒安		59079.117	-72553.256	238.409	
1-1	66	19	欠番											
1-1	67	19	剥片		3.7	2.5	0.9	7.4	黒安		59078.684	-72557.269	238.041	
1-1	68	19	RF	2	4.4	4.1	1.0	16.6	黒頁		59080.117	-72555.790	238.190	
1-1	69	19	碎片		1.7	1.0	0.5	0.6	黒安		59079.963	-72556.502	238.186	
1-1	70	19	碎片		0.8	1.4	0.4	0.1	黒安		59079.921	-72557.156	238.086	
1-1	71	19	礫		10.3	6.9	3.9	359.3	粗安		59080.520	-72556.513	238.169	
1-1	72	19	剥片		2.4	3.5	1.1	5.4	黒安		59080.079	-72556.412	238.057	
1-1	73	19	剥片		3.0	3.6	0.6	8.1	黒安	4-2	59080.479	-72556.483	238.041	
1-1	74	19	剥片		2.6	3.1	0.5	4.6	黒安	4-1	59080.340	-72557.072	238.020	
1-1	75	19	剥片		4.4	3.1	1.6	15.3	黒安		59080.084	-72556.417	238.019	
1-1			剥片		2.7	1.6	0.6	2.2	黒安					ブロック内一括
1-1			碎片		2.0	1.3	0.6	1.3	黒安					ブロック内一括
1-1			剥片		2.0	2.7	1.0	4.2	黒安	6-1				ブロック内一括
1-1			剥片		2.2	1.9	0.3	1.1	黒安					ブロック内一括
1-1			碎片		1.8	2.0	0.3	1.1	黒安					ブロック内一括
1-1			石刃	7	3.3	1.7	0.3	2.9	黒頁					ブロック内一括
1-1			欠番											
1-2	1	19	石刃	2地点1	10.1	3.7	1.0	39.8	黒頁		59073.481	-72522.510	238.625	
3	1	12	剥片		3.2	2.3	1.0	4.6	黒頁		59193.346	-72465.196	241.360	
11			ナイフ	外1	4.8	1.6	0.5	4.4	黒頁					11区58土坑出土
12			ナイフ	外2	1.8	1.3	0.5	1.5	黒曜					12区1住出土
9			尖頭器	外3	3.3	1.6	0.8		黒安					9区遺構外
12			尖頭器	外4	3.0	1.5	0.7	2.1	珪頁					12区Ct-108グリッド
12			ES	外5	5.5	4.0	2.4	56.6	黒頁					12区41住出土
12			稜付石刃	外6	2.9	1.0	0.7	2.2	黒曜					12区Cr-107グリッド

*器種略称 SS:スクレイパー、RF:二次加工ある剥片、ES:エンドスクレイパー、ナイフ:ナイフ形石器

*石材略称 黒安:黒色安山岩、黒頁:黒色頁岩、黒曜:黒曜石、珪頁:珪質頁岩、粗安:粗粒輝石安山岩、かこう:かこう岩、溶凝:溶結凝灰岩、文斑:文象斑岩

第4章

第4面の調査 (縄文時代)



第4面調査

11区北調査区の第4面調査。北北西にそびえる子持山の山麓地形がやや平坦になった場所。右側数十m先で比高差30mの段丘崖となる。この場所に縄文時代の100軒を越す住居群や900基近い土坑群を検出した。環状集落の可能性もあり、中央のビニールハウスや畑に集落の広がりが想定できる。

第1節 第4面の概要

地形：本遺跡地は、長坂段丘面の東縁部に位置し、調査地北端の国道17号線タッチの12区では段丘崖に接する。遺跡地の地形は、北に聳える子持山方面からの古い火山性扇状地形の影響により南と東に傾斜地形となっている。

遺跡地内の第4面の標高は、遺跡南端の1区で240m、遺跡北端の12区で251mを測り、遺跡内の高低差は約11mを測る。

層位：本遺跡のFP層は1mを超え、降灰後の耕作や開発等から遺構・遺物を保護する役目を果たした。しかし、噴火以前の遺物が耕作等で巻き上げられないため、古い時代の遺跡確認を難しくしていた。本遺跡でもこれほどの縄文時代の遺構・遺物が出土するとは想像していなかった。

本遺跡の第4面の遺構確認は、FA下の基本土層IV層黒色土からローム面まで50～70cm近い堆積土が確認でき、この厚い土層を色調の違いでIV～VI層まで3層に大別し、各調査区でこの大別した土層を元に遺構・遺物の確認を行った。特に11区や12区ではIV層、V層から大量の遺物が出土し、包含層調査と共に繰り返し何度も遺構確認作業を行った。

各層の状況は以下の通りである。

第IV層：FA層直下の層。黒味が強く粘性がある。調査では黒ボクと呼称した。層厚は30cm前後を測り、φ1mm前後の白色軽石を含む。この層位中より弥生土器片や縄文土器片、石器剥片等が出土し始めた。

第V層：IV層に比べ色調は明るく、調査では淡黒と呼称した。層厚は20～30cmを測り、色調で上下層に別れる地点もある。この層の上面で一旦遺構確認作業を行い7区や9区では配石遺構、11区ではIV層の入った径20cm前後のピットを無数に確認した。11区や12区では、このV層から縄文土器片や石器等の出土量が多くなり、住居の輪郭が見え始めた。

第VI層：ローム漸移層。層厚は10cm前後を測る。部分的には炉石の頭が出るような箇所もあり床面近くまで掘り下げてしまった住居もあった。

第2節 遺構確認

鯉沢バイパス関連遺跡の第4面調査は、第3面の調査終了後に5m四方のグリッドを千鳥格子に設定し、グリッド内をジョレンで掘り下げ、古墳時代以前の遺構・遺物の確認作業を行った。

本遺跡でも調査開始当初の遺跡南端の1区、6区での第4面調査は、他遺跡同様3面調査の延長で掘り下げを行い、遺構及び遺物確認作業を行った。両調査区では、遺構・遺物が出検できなかったため旧石器調査へ移行した。しかし、2区以北の各調査区では、第IV層黒色土上面から縄文土器片や石器剥片等が出土し、下層に遺構の存在が想定できることから調査区内を全面的に掘り下げることとした。掘り下げには重機を用いたが、遺物が多く出土した地点や漸移層付近からはジョレン等を用いた人力作業に切り替え、遺構確認を行った。

2区～4区の南北に走る村道10号線西側では、基本土層VII層付近まで重機で掘り下げ少数ではあるが住居・土坑を検出し調査を行った。村道東側の7区から9区、更に北の11区・12区にかけては、第IV層中より遺物が大量に出土し、各グリッド内の包含層調査を行いながら遺構確認作業を並行した。

その結果、7区・9区では基本土層V層上面で配石遺構、11区ではIV層の詰まった小ピット群、12区では敷石住居の礫群等が確認できた。

中でも11区は、50cm以上の包含層調査を行い、最終的に第VI層のローム漸移層のくすんだ黄褐色土層まで掘り下げようやく不明瞭ではあるが遺構の輪郭が確認できるようになった。輪郭の見え始めた遺構も重複が激しいため形状や新旧関係が不明瞭であり、土器の密集度や色調の違い、規模等で住居や土坑の掘り込みと判断し、その範囲を精査しながら埋没土観察用ベルトを設定し掘り下げを行った。その際に遺構の輪郭が不明瞭なものは、ベルト脇に新旧関係や床面、壁面を確認するためのサブトレンチを入れ、新しい遺構から調査を行った。しかし、それでも住居床面に新たに土坑が検出された。

第3節 各区の概要

1. 1区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

本調査区は、本遺跡南端に位置し、東西に走る村道7103号線を境に吹屋遺跡と接する。また、本線西側の歩道橋設置部分も1区とした。現況は、ほ場整備により階段状に水田化されている。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面であり、標高は調査区北端で241m、南端で240mを測る。

第4面では遺構・遺物は検出されなかったが、歩道橋下の第5面調査において旧石器が出土した。

2. 2区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

本調査区は村道103号線西側に位置し、1区と3区に挟まれている。現況は、ほ場整備により階段状に水田化されている。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面となり、標高は調査区北端で242m、南端で241mを測る。調査に際しては、1区及び3区の排土置き場として利用したため、両調査区の調査終了後に第1面から調査を開始した。

第4面の調査は、第3面FA下の調査段階で土器片、剥片等の遺物が出土したため、第3面調査終了後に重機を用いて全面的にローム漸移層まで掘り下げを行い、調査区北西端の西壁に食い込む縄文時代前期の方形の竪穴住居1軒を検出し調査を行った。

3. 3区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

調査区は村道103号線西側に位置し、2区と4区に挟まれている。また、村道103号線東側には7区が所在する。現況は、ほ場整備により階段状に水田化されている。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面となり、標高は調査区北端で243.20m、南端で242.10mを測る。

第4面の調査は、第3面FA下の調査段階で遺物が出土したため、第3面調査終了後に重機により全面

的にローム漸移層まで掘り下げを行い、調査区北より縄文時代前期の竪穴住居1軒と同時期の土坑1基とその他時期不明の散在する土坑6基を検出し調査を行った。

4. 4区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

本調査区は、村道103号線西側に位置し、3区と5区に挟まれる。現況は、ほ場整備により階段状に水田化されている。村道103号を挟み7区、8区が所在する。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面となり、標高は調査区北端で244.10m、南端で243.40mを測る。調査に際しては、3区の排土置き場として利用したため、両調査区の調査終了後に第1面から調査を開始した。

第4面の調査は、第3面FA下の調査段階で遺物が出土したため、第3面調査終了後に重機により全面的にローム漸移層まで掘り下げを行い、調査区ほぼ中央の西壁に食い込む形で、縄文時代前期の竪穴住居2軒を検出し調査を行った。

5. 5区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

本調査区は、村道103号の西側に位置し、4区と接する。村道103号を挟み8区が所在する。周辺部は住宅地であり、各戸への出入り口や水道管等が埋設され、また大半が歩道設置部分でもあったため、第4面の発掘調査は不可能であった。

6. 6区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

本調査区は、遺跡南端部に位置し、1区と村道103号を挟む。歩道橋設置部分も加えても狭小な調査区であった。現況は、ほ場整備により畑地化された平坦面である。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面となり、標高は242mを測る。

第4面の調査では、遺構・遺物が検出されなかった。

7. 7区の概要

発掘調査は、平成16年度に実施した。

本調査区は村道103号東側に位置し、3区、4区と並行する。現況は、ほ場整備により畑地化されている。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面となり、標高は調査区北端で244m、南端で243mを測る。

本調査区では、南半は歩道部分に占められ4面の調査対象からは除外した。また、北半の調査区でも路線脇の住宅地への進入路の確保が必要となり、調査区を南北に二分し調査を行うこととなった。

南調査区では、第3面のFA下の調査時に30cm大の礫の一部が露出し、掘り下げを行ったところ円形を呈する配石遺構を検出した。配石遺構周辺には土坑1基と不明瞭な半円形の落ち込みを検出した。北調査区では、8区境の道路下で道路に食い込む円形の竪穴住居1軒と井戸のように深い土坑1基を検出した。他に土坑・ピットを検出し調査を行った。

8. 8区の概要

発掘調査は、平成16年度に実施した。

調査区は村道103号東側に位置し、北に接する9区とは一連で調査可能な用地であったが、用地買収の関係で分割し調査を行うこととなった。現況は、ほ場整備により畑地化されている。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面となり、標高は調査区北端で244.80m、南端で244.50mを測る。

第4面の調査は、第3面調査中より土器の小破片や石器片等が散布することから、下層に住居等の存在が想定でき、全面調査を行うこととした。調査区南で基本土層V層暗褐色の土中より多くの遺物が出土し、グリッドを利用した包含層調査と共に遺構確認作業を行った。

検出遺構は、縄文時代前期の住居1軒、中期の住居7軒と土坑26基、ピット18基であった。

9. 9区の概要

発掘調査は、平成15年度に実施した。

調査区は、村道103号の東側に位置し、8区と接する。北側は村道7029号線を境に11区と接する。現況は、畑地であるが周辺部の宅地化が進んでいる。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面であり、標高は調査区北端で245.3m、南端で244.8mを測る。

第4面の調査は、第3面調査中より土器の小破片や石器片等が散布することから、下層に遺構の存在が想定でき、全面調査を行うこととした。調査区北端寄り基本土層V層上面まで掘り下げたところ30cm大の礫群を検出し、配石遺構として調査を行った。その後、ローム面まで掘り下げ、縄文時代前期の住居2軒と中期の住居1軒の計3軒の住居と60基の土坑群を検出した。土坑群の中で47号土坑と51号土坑出土遺物が接合し、高さ83cmの本遺跡最大の深鉢が出土した。

10. 11区の概要

発掘調査は平成16・17年度に実施した。

調査区は、東西方向に走る村道7029号線と村道7031号線とに挟まれた約150mの間を対象とした。現況は、宅地と畑地の混在する平坦面である。地形は、北に位置する子持山からの緩斜面であるが、東の段丘崖まで数十mと近づき、東への傾斜も見られる。標高は北端で244.8m、南端で244.5mを測る。

調査区は南北に長く、排土置き場の確保のため2分割し調査を行うこととし、北半より調査を開始した。第3面調査中より土器の小破片や石器片等が散布することから、下層に住居等の存在が想定でき全面調査を行うこととした。

第4面の調査は、大量に出土する遺物の調査のためグリッドを利用した包含層調査を行いながら掘り下げを行った。その中でV層上面にIV層土の入る30cm前後のピットまたは土坑と思われる痕跡を多数確認し、遺構調査を実施した。ピットの中には、木の根株痕と考えられる斜方向に掘り込みをもつものや土坑でも自然の凹凸を土坑と勘違いしたものも

あった。この包含層調査と同時に調査区壁際にローム面までの深さと遺構の有無を確認するためトレンチを入れた。その結果、ローム上面まで50cmの深さがあり、遺構も竪穴住居や土坑・ピット等が確認でき、相当数の遺構量が想定され大規模集落の様相が窺えた。その後遺構確認と包含層調査を行いながら掘り下げを行いVI層のローム漸移層付近より色調が異なる箇所や遺物の集中する箇所が見え始め、遺構の確定と掘り下げ調査を開始した。調査が進むにつれ、重なりあう住居や住居内に埋もれていた古い土坑等次々に発見される遺構・遺物に平成16年度中の調査終了は見込めなくなり、期間延長の調整を行った。平成16年度は北半の第5面までと南半の第1面の調査を行い、平成17年度は7月まで南半の第2面から第5面までの調査を行った。

検出遺構は、縄文時代前期～後期の竪穴住居53軒、土坑519基、配石遺構、埋甕等を検出し、遺物量は収納箱で558箱を数えた。

11. 12区の概要

発掘調査は平成16・17年度に実施した。

調査区は、南端を東西方向に走る村道7031号線、北端は現在の国道17号線タッチまでの約250mの間を対象とした。現況は、宅地である。地形は、北端は路線が段丘崖に接するように計画され、北に位置する子持山からの緩斜面と東の段丘崖へ東傾斜が混ざり全体的に南東方向への緩斜面となっている。南側はやや崖線から離れ、子持山からの緩斜面となる。標高は北端で251m、南端で244.80mを測る。

調査区は、南北に長く排土置き場の確保のため2分割し調査を行うこととし、北半より調査を開始した。第4面の調査に取り掛かる際に、第3面調査中より土器の小破片や石器片等が散布することから、下層に住居等の存在が想定し全面調査を行うこととした。

第4面北半の調査では、グリッドを利用した包含層調査と遺構確認作業を行い、北端寄り縄文時代前期の住居1軒と土坑数十基が確認できたが、遺構・

遺物は希薄であった。しかし、調査区中央付近から遺物量が増え始め、大型礫も散在するようになった。大型礫については、3面下層より頭が見え始め、配石遺構として調査を開始したが、下面から礫が面的に組まれた状態で検出でき、敷石住居2軒であることが分かった。この調査区中央付近の遺構群は南半の調査区へとつながることが想定でき、切り替え調査の際に排土置き場から除外し、南半の第4面調査時は再調査を行うこととした。その後、南半に調査が移行し11区から続く住居群・土坑群を検出した。調査が進むにつれ、重なりあう住居や住居内に埋もれていた古い土坑等次々に発見される遺構・遺物に平成16年度中の調査終了は見込めなくなり、11区同様に期間延長の調整を行い、平成16年度は南半第4面の途中まで調査を進め、平成17年度は7月までに第4面の残りの遺構と第5面の調査を終了させた。検出遺構は、縄文時代中期の敷石住居6軒を含む54軒の住居群、2m前後の大型土坑を含む243基の土坑群等を検出し、遺物量は収納箱で329箱を数えた。

12. 13区の概要

発掘調査は、平成16年度に実施した。

国道17号タッチの拡幅部分であり、12区北側の村道を挟み西接する。調査面積は、歩道部分の未調査地を含めると5㎡程であった。

第4面の調査では、遺構は検出されず、わずかに縄文土器片が散在する程度であった。

第5表 中郷遺跡 遺構・遺物数量一覧表

調査区	調査年度	調査面	時期	住居		土坑		埋篋		配石		屋外炉		ピット		遺構外	摘要	
				遺構	遺物	遺構	遺物	遺構	遺物	遺構	遺物	遺構	遺物	遺構	遺物			
1区	15年度	4面	縄文															
		5面	旧石器														1	As-BP下 79点
2区	15年度	4面	縄文	1	1													
		5面	旧石器															
3区	15年度	4面	縄文	1	1													
		5面	旧石器															
4区	15年度	4面	縄文	2	2													
		5面	旧石器															
5区	15年度	4面	縄文															調査不能
		5面	旧石器															調査不能
6区	15年度	4面	縄文															
		5面	旧石器															
7区	16年度	4面	縄文	1	4	1	1											配石：V層上
		5面	旧石器															
8区	16年度	4面	縄文	8	15	4	4											前期～中期
		5面	旧石器															
9区	15年度	4面上	縄文								1							V層上面
		4面	縄文	3	6	60	8											前期～中期
11区	16年度	5面	旧石器	33	100	208	30	1	1									前期～後期
		4面	縄文															
12区	17年度	4面	縄文	20	47	311	34	12	15	7	20							
		5面	旧石器															
12区	16年度	4面	縄文	39	97	169	40	3	2	4	2							前期～後期
		5面	旧石器															
12区	17年度	4面	縄文	15	27	74	15	4	2									
		5面	旧石器															
合計				123	296	859	132	20	20	13	23	1	3	644	15			461

出土遺物箱数 950

第5章

第4面の検出遺構 (縄文時代)



調査風景

11区北調査区の第4面の調査風景。1号住居（縄文時代中期後半）の床面確認と土層観察用ベルト下から出土した遺物の図面作成と遺物取り上げを行う。奥は2号住居の調査を行っている。脇に積まれた土嚢や・足場板・パネルは住居内出土遺物保護用に用いる。

第1節 2区検出遺構

1. 竪穴住居

平成15年度に調査を実施した。調査区北側で1軒検出した。

1号住居（遺構：第27図、PL 4、遺物：土器第2分冊第1図、PL 1、石器第3分冊第1図、PL 1）

確認状況：調査区中央東壁際のローム層直上で確認した。北西角1/8は調査区外に延びる。確認面から床面まで20cmほどロームを掘り込み、比較的良好な状態で検出できた。

位置：Bc・Bd-34・35 **重複**：単独 **形状**：方形を呈する。 **規模**：長軸2.98m、短軸2.90m、深さ20～35cmを測る。 **面積**：(7.05) m² **方位**：N-54°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：掘方調査時に東・西壁を掘り込む柱穴的な2本の柱穴を検出した。

床面・掘方：地山ロームを踏み固めて床面としている。また北隅に径52cm、床面からの深さ20cm程の楕円形土坑を検出した。 **埋没土**：レンズ状の堆積が観察されることから自然埋没と考える。

炉 地床炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：不整形に掘り込み、礫を一石置く。 **規模**：長軸53cm、短軸28cm、深さ8～10cm **埋没土**：焼土をわずかに含む。

遺物：土器 出土遺物は少なく、炉脇から1の縄文時代前期前葉の深鉢が出土した。 石器 出土点数は14点を数える。石鏃1点出土。

所見：縄文時代前期前葉の住居と考える。

第2節 3区検出遺構

1. 竪穴住居

平成15年度に調査を実施した。調査区北側で1軒検出した。

1号住居（遺構：第28・29図、PL 5、遺物：土器第2分冊第2図、PL 1、石器第3分冊第1図、PL 1）

確認状況：調査区北寄りの中央部で検出した。ローム上面にV層暗褐色土の入った方形の明瞭なプランが確認できた。

位置：Bh・Bi-42・43 **重複**：単独 **形状**：長方形を呈する。 **規模**：長軸5.43m 短軸4.60m、深さ22～52cmを測る。 **面積**：17.57m² **方位**：N-42°-E **周溝**：全周し、周溝内に小孔が連続する。

柱穴：中央の東西方向に2本検出した。

床面・掘方：壁際は地山をそのまま利用し、中央部分でロームブロック混じりの貼床を確認した。 **埋没土**：床面より上部は黒褐色土の単一土により埋没しており自然埋没と考える。

炉：地床炉 **位置**：中央やや北寄り **形状**：楕円形に浅く掘り込まれ、扁平円礫を中央寄りに1石設置される。 **規模**：長軸66cm、短軸52cm、深さ6cm。

埋没土：わずかに焼土を含む。

遺物：土器 出土点数は60点を数え、縄文時代前期前葉の土器片が占めた。西隅の壁際で1の縄文時代前期前葉の片口が出土した。

石器 出土点数は60点を数えた。縦型の石匙や打製石斧及び磨石等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代前期前葉の長方形を呈する単独住居と考える。

2. 土坑

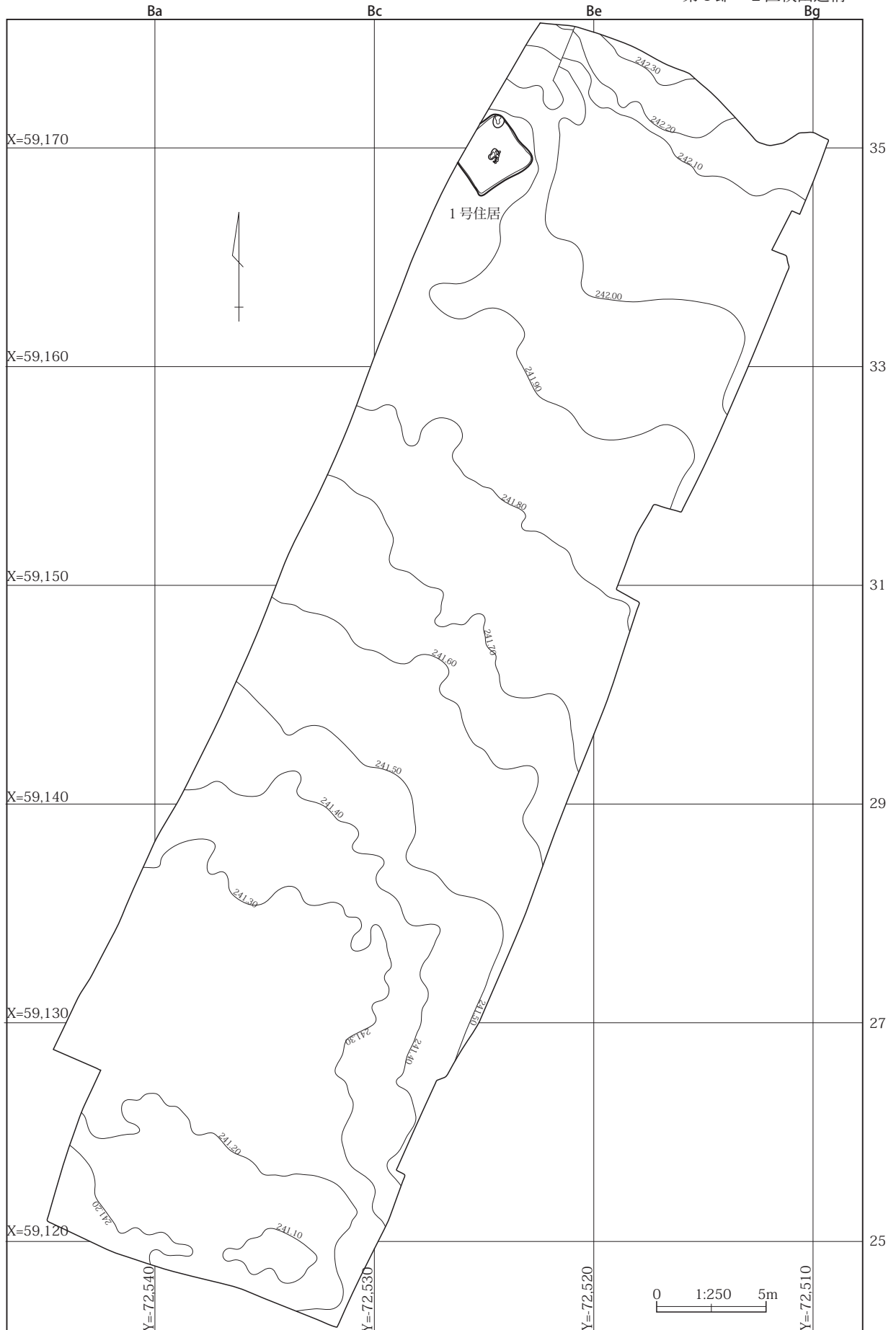
検出した土坑は6基ある。位置や計測値等は一覧表を参照していただき、ここでは遺物及び特徴的な事項を中心に記載する。

1号土坑：出土遺物は、上層より磨石が5点出土し、土器片は縄文時代前期の土器片が出土した。これらの遺物は上面からの出土であり、土坑の時期を確定するものかどうか判定は困難である。**2号土坑**：垂直に掘り込まれる。**4号土坑**：掘り込みは深い、やや偏っており、木の根の可能性が強い。

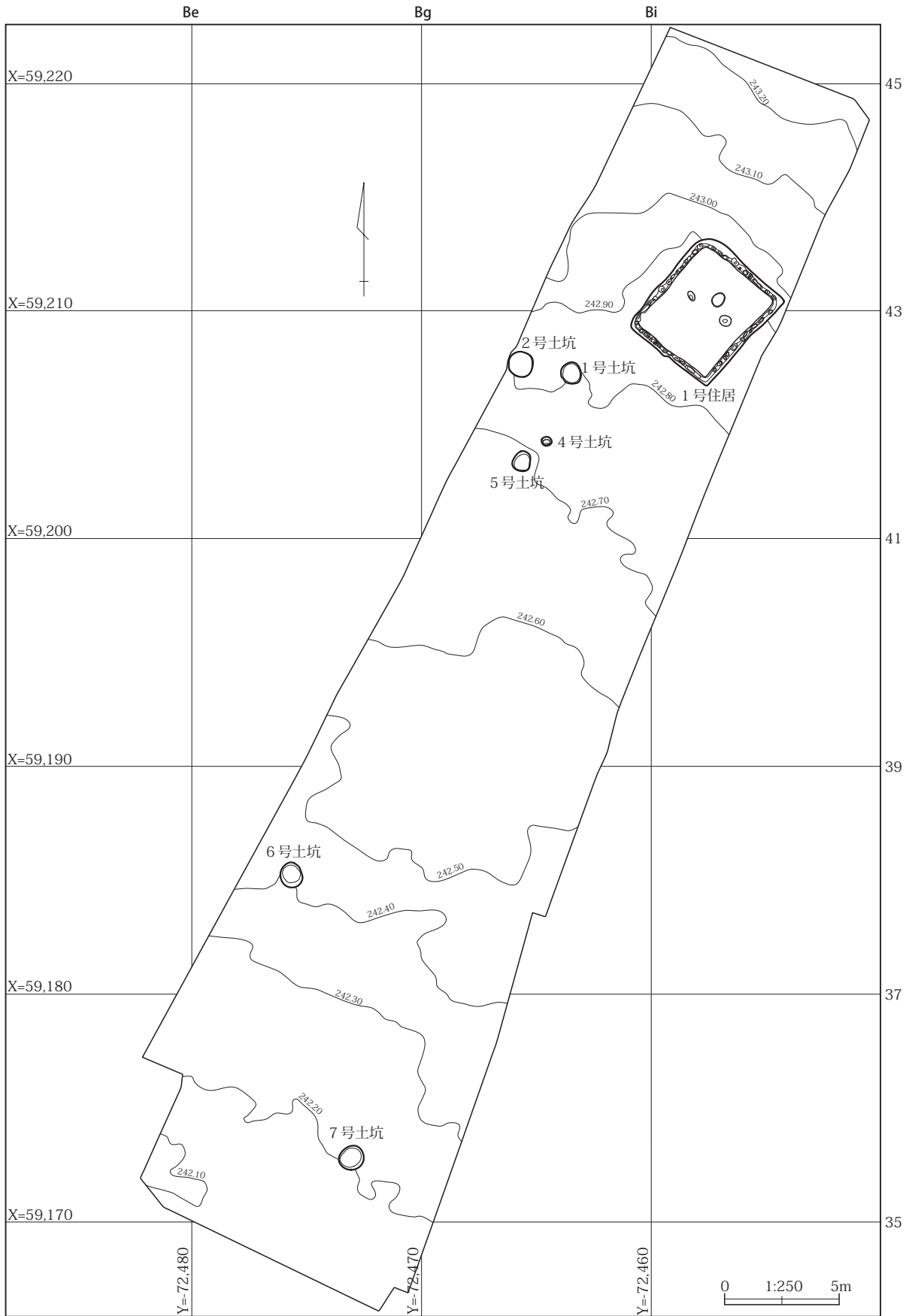
5号土坑：中位に大礫を出土。**6号土坑**：3の大型のスクレイパーや磨石の混じる礫の集中が見られた。**7号土坑**：打製石斧が出土している。

3. 遺構外

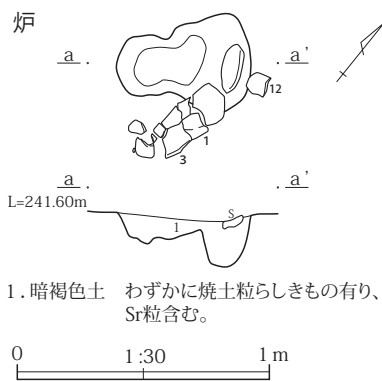
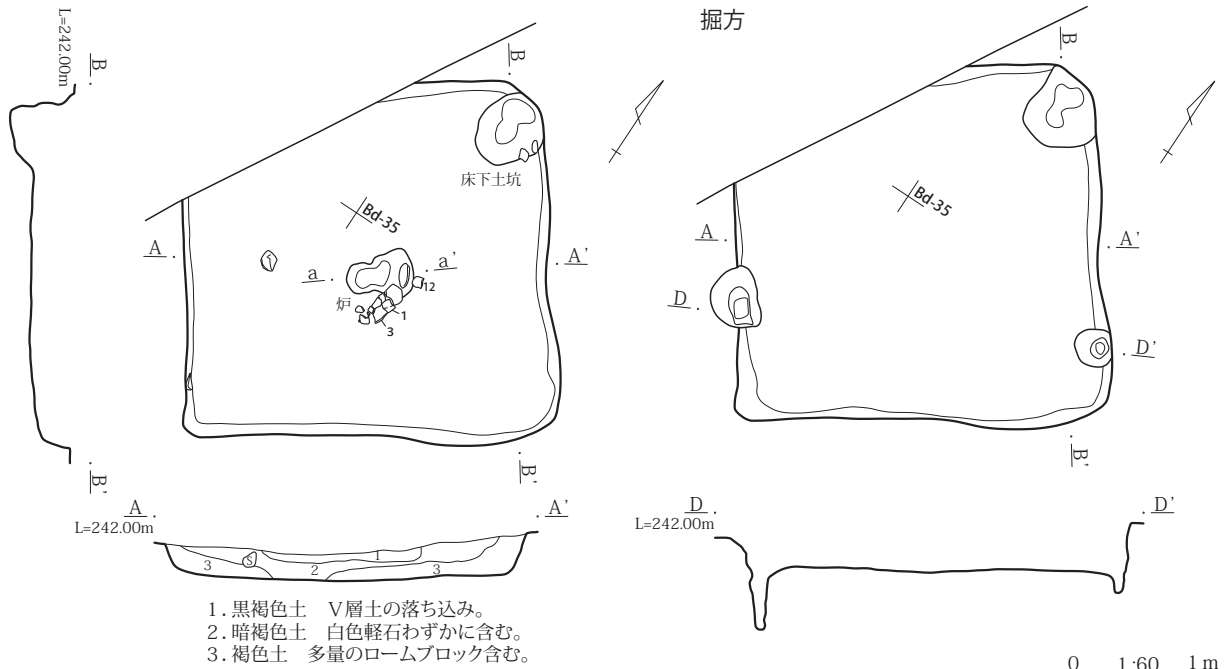
わずかに縄文時代前期及び中期の土器片や石器が散布していた。



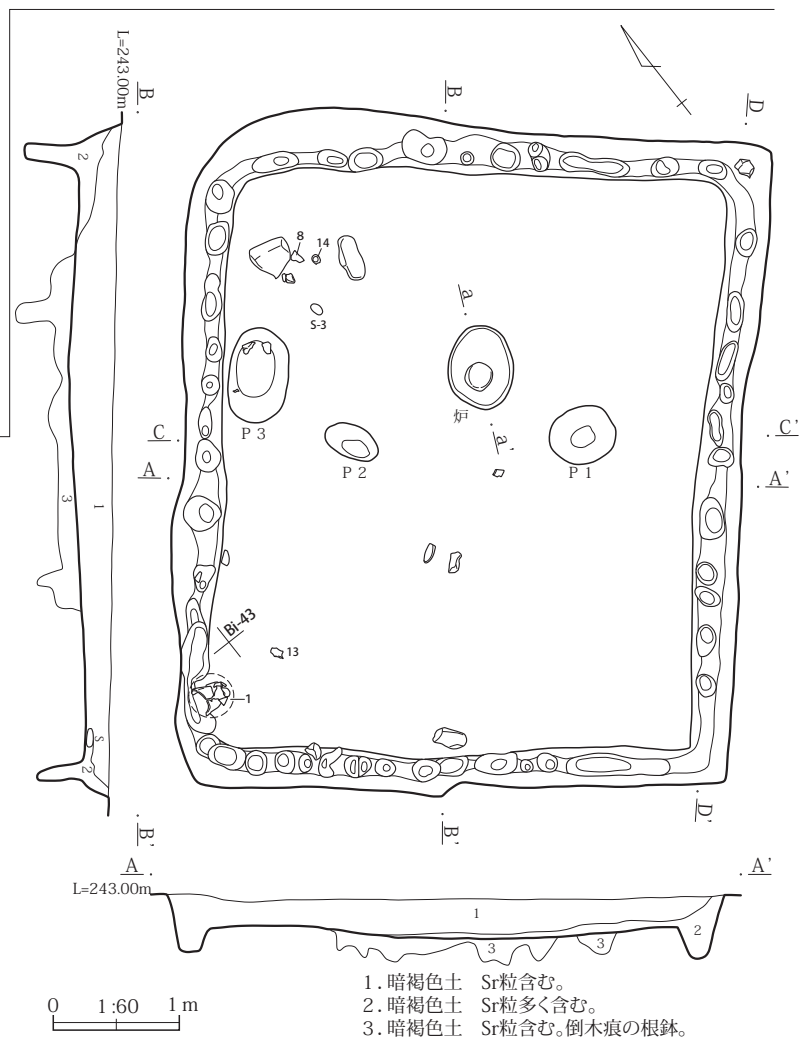
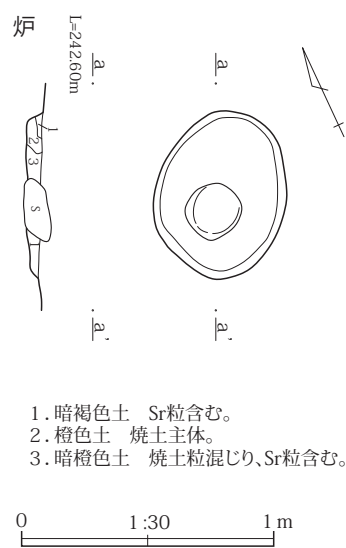
第25図 2区第4面全体図



第26図 3区第4面全体図

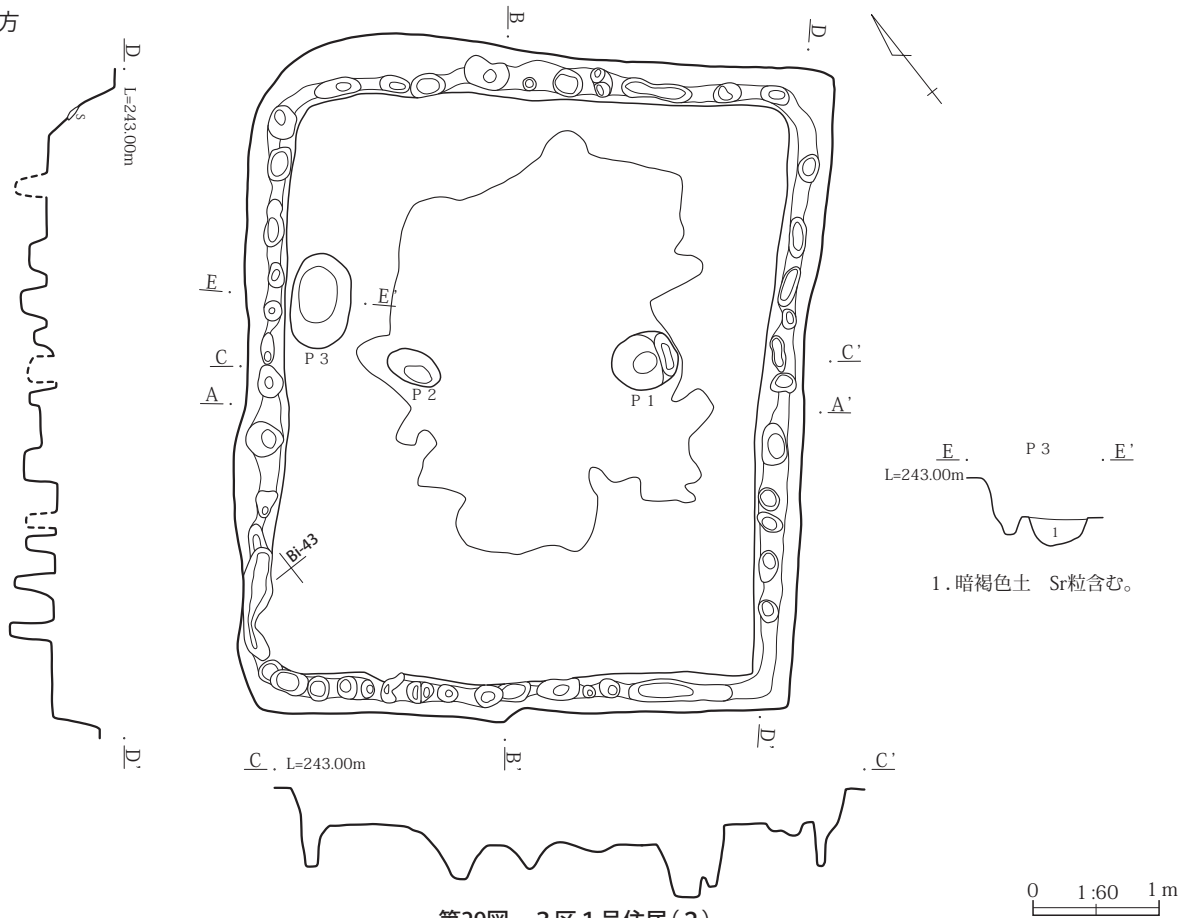


第27図 2区1号住居

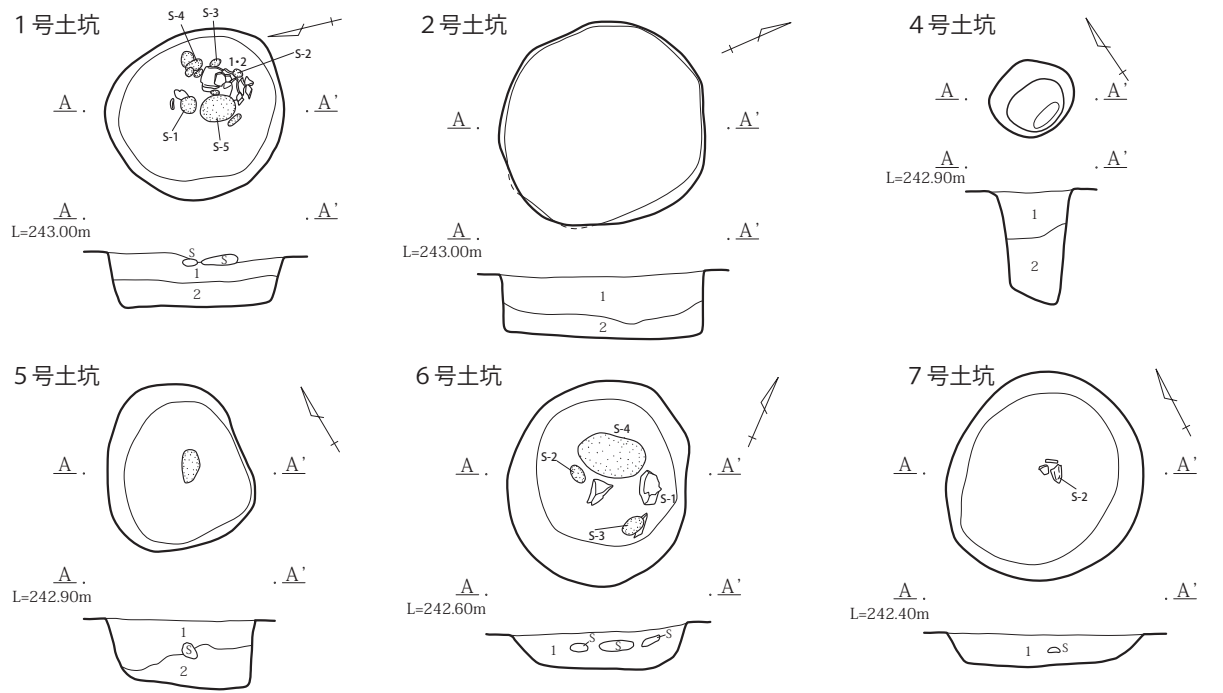


第28図 3区1号住居 (1)

掘方



第29図 3区1号住居(2)



1. 暗褐色土 φ1~3mmの白色の細粒軽石混入、しまりあり。
2. 褐色土 ローム小ブロックをまだらに含む。

第30図 3区土坑

第3節 4区検出遺構

1. 竪穴住居

平成15年度に調査を実施した。調査区中央の西壁に掛かり2軒検出した。

1号住居（遺構：第32図、PL 8、遺物：土器第2分冊第3図、PL 1、石器第3分冊第2図、PL 1）

確認状況：調査区中央の西壁にかかる住居である。1/2以上は調査区外に延びる。

位置：Bk-49 **重複**：単独 **形状**：方形 **規模**：長軸2.47m、短軸1.70m、深さ25～37cmを測る。

面積：(2.23) m² **方位**：N-47° - E **周溝**：未確認 **柱穴**：未確認 **床面・掘方**：掘方では、住居中央に不定形の倒木痕の根鉢に似た大きな掘り込みを確認した。 **埋没土**：レンズ状の堆積から自然埋没と考える。

炉：未確認

遺物：土器 埋没土中より1の縄文時代中期の深鉢胴部破片が1点出土している。石器 石皿1点出土。

所見：炉、周溝、柱穴等の住居施設も検出されず、掘方面と倒木痕の痕跡が同規模であることから、倒木に伴う落ち込みの可能性が高い。

2号住居（遺構：第33図、PL 8、遺物：土器第2分冊第3図、PL 1、石器第3分冊第2図、PL 1）

確認状況：調査区北寄りの西壁にかかる住居である。1/2は調査区外に延びる。遺構確認に際しローム上面まで不明瞭であり、床面はわずかにロームを掘り込んでいるため遺存状態は不良となった。調査区壁面の観察でもV層からVI層の間で掘り込まれたと考えられるが、色調、夾雑物等の変化は見られない。

位置：Bn-51 **重複**：単独 **形状**：北壁側は曲線的で、東壁から南壁に掛けては直線的のラインも見られる。全掘はできなかったが、隅丸方形と考える。 **規模**：長軸4.23m、短軸(2.45) mを測り、深さは確認面から5cmと浅くなった。 **面積**：(7.01) m² **方位**：N-26° - E **周溝**：全周する。 **柱穴**：北壁沿いに3本と南コーナー内側に1本の計4本検出した。

掘方：地山を踏み固めて床面としている。

埋没土：単一土で埋没していることから自然埋没と考える。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：40cmを越える大礫を用い方形に組む。礫は被熱により破断している。 **規模**：長軸94cm、短軸(48) cm、深さ約20cmを測り、火床面は1辺50cmほどを測る。 **埋没土**：焼土を含む。

遺物：土器 埋没土中より1、2の縄文時代中期後半の小破片2点が出土したのみである。

所見：出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

第4節 7区検出遺構

1. 竪穴住居

平成16年度に調査を実施した。北調査区の北壁際の現道下に掛かり1軒検出した。

1号住居（遺構：第34図、PL 9、遺物：土器第2分冊第4図、PL 2、石器第3分冊第2図、PL 1）

確認状況：北調査区北壁にかかる住居である。大半が調査区外に伸び、調査できたのは1/4以下であった。

位置：Bo・Bp-50・51 **重複**：単独 **形状**：調査区内では弧状に見えることから円形と考える。

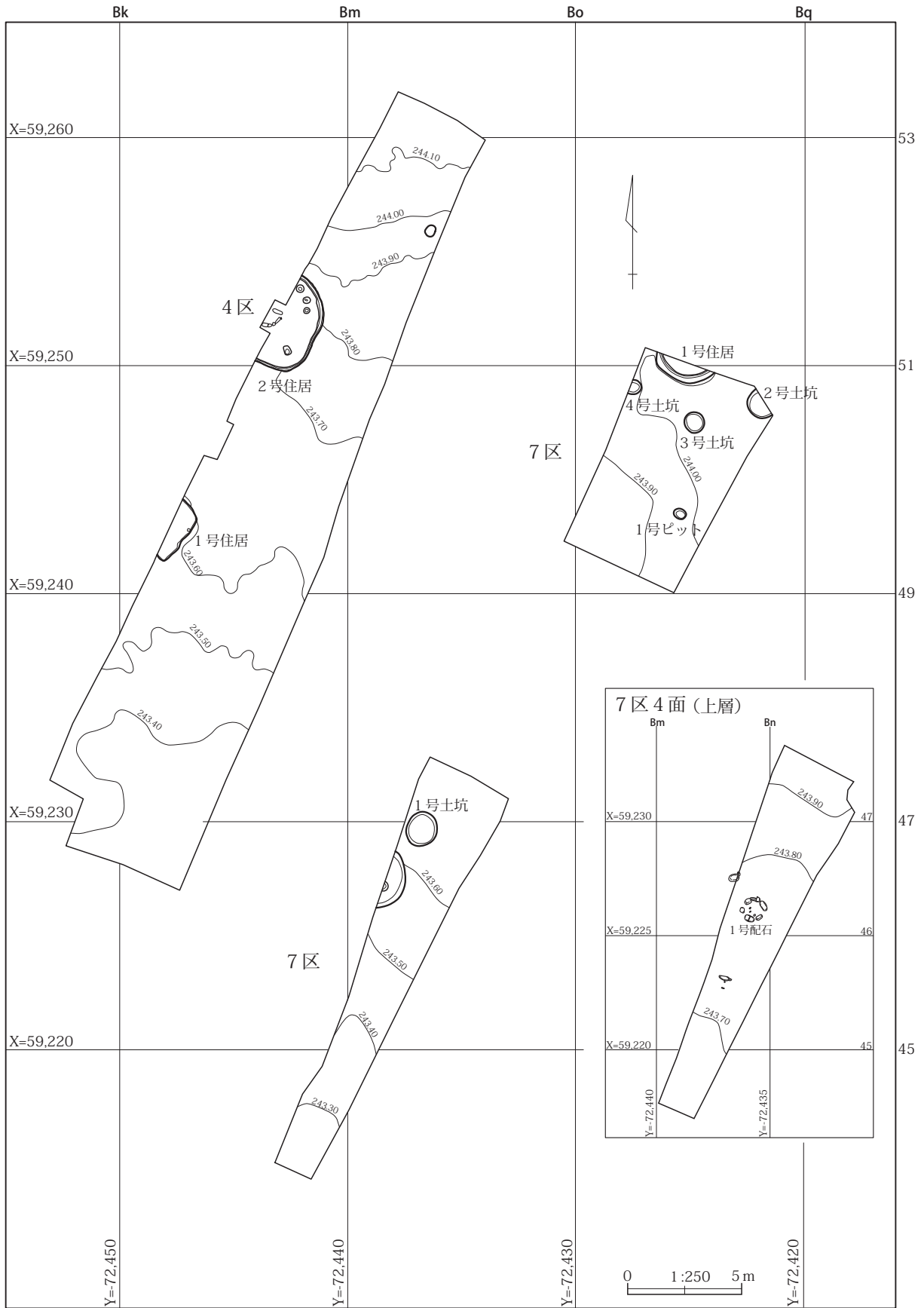
規模：長軸2.66m、短軸(0.84) m、深さ16～20cmを測る。 **面積**：(0.74) m² **方位**：計測不能 **周溝**：確認範囲では全周する。 **床面・掘方**：地山を踏み固め床面としている。 **柱穴**：未検出 **埋没土**：西側の堆積は人為的な要素が見られるが全体的には自然埋没と考える。

炉：未検出

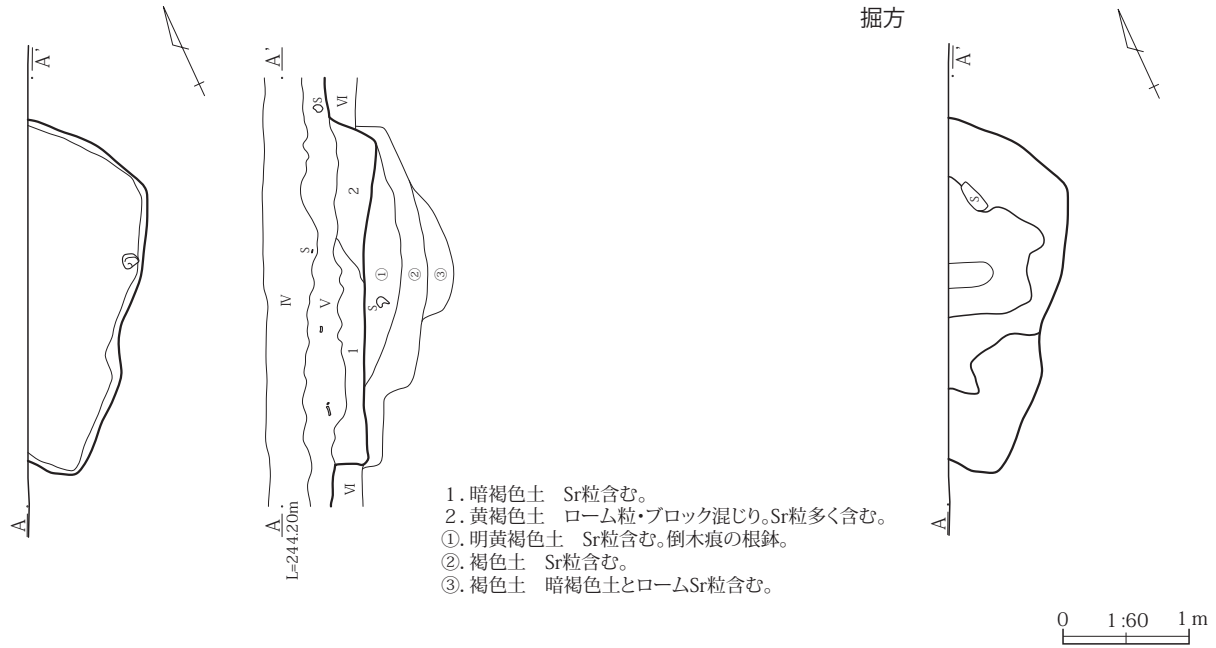
遺物：土器片は小破片が数点出土した。石器は埋没土中より敲石が出土している。

所見：住居の大半が道路下に伸び時期決定できる遺物も出土していない。

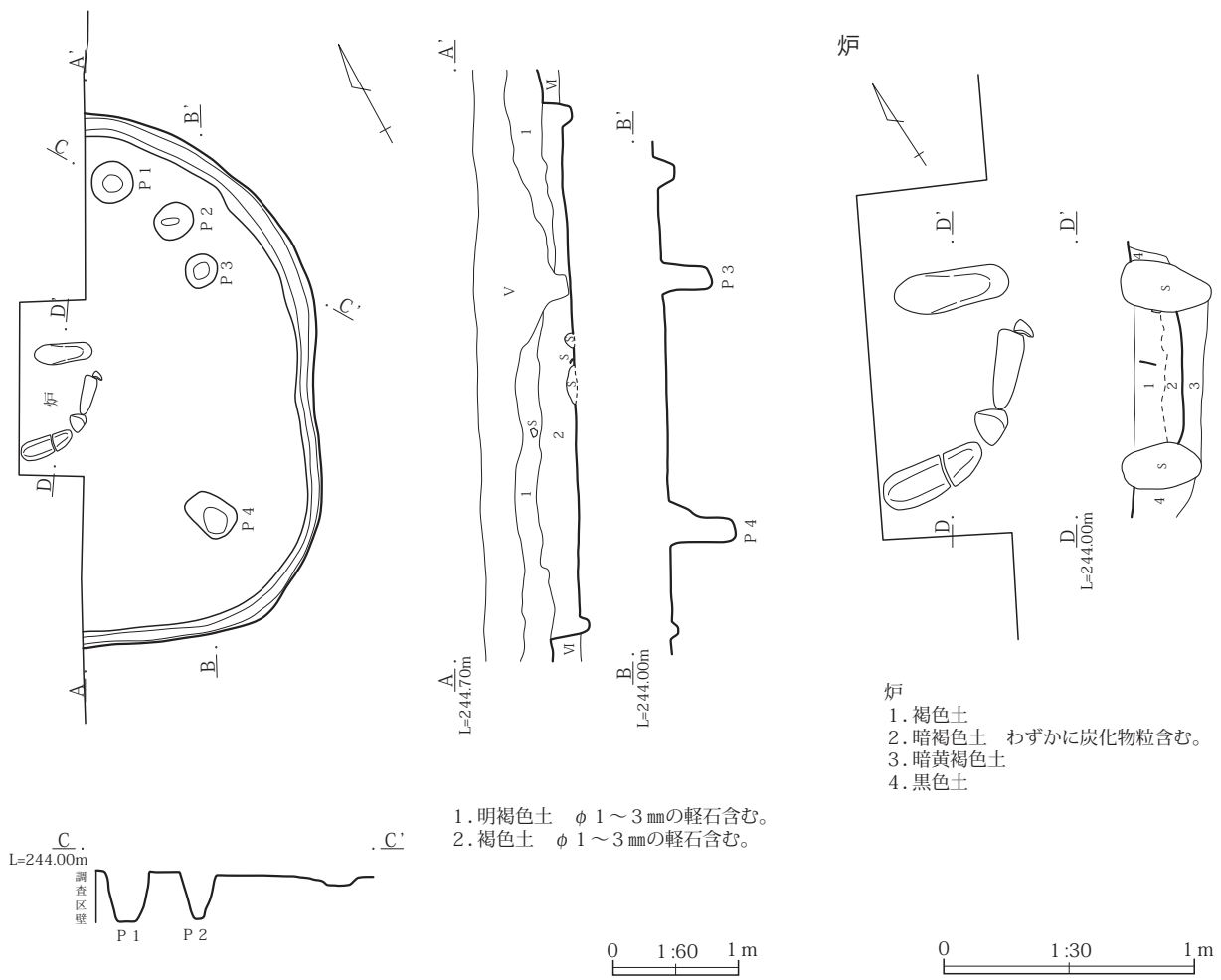
第5章 第4面の検出遺構



第31図 4区第4面全体図・7区第4面全体図

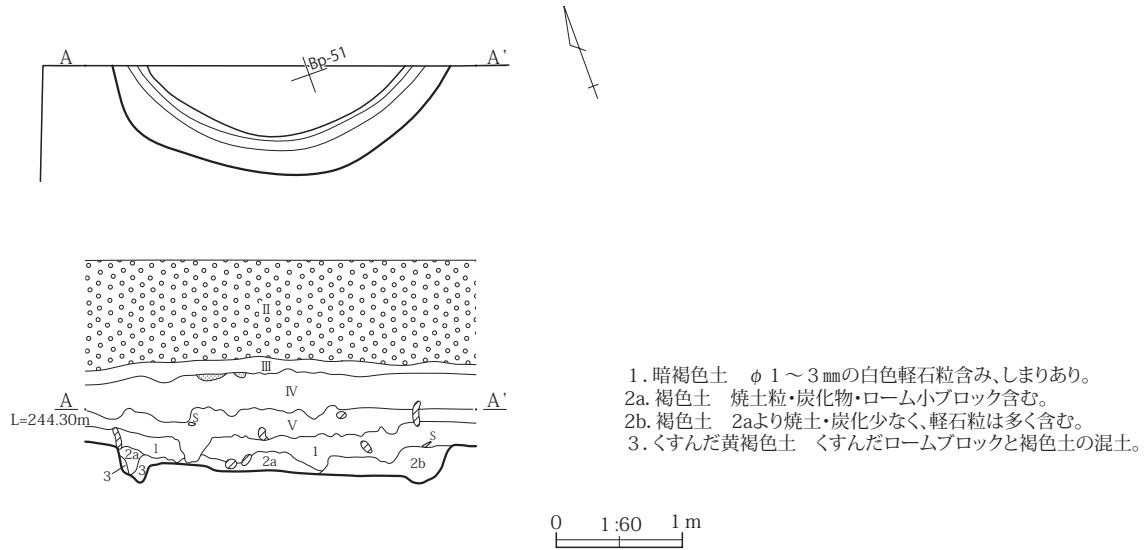


第32図 4区1号住居

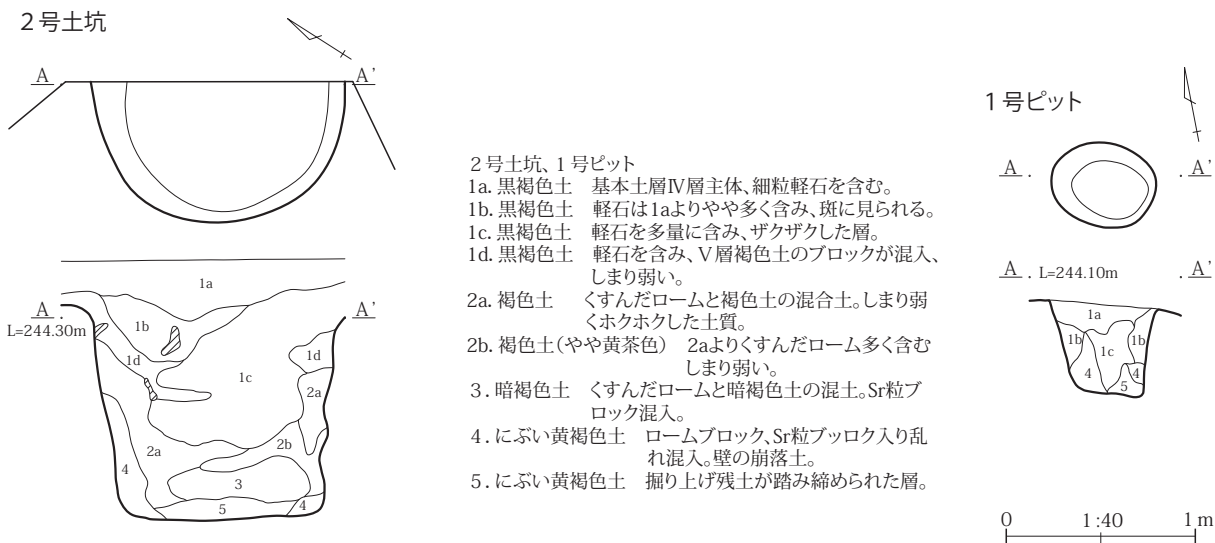
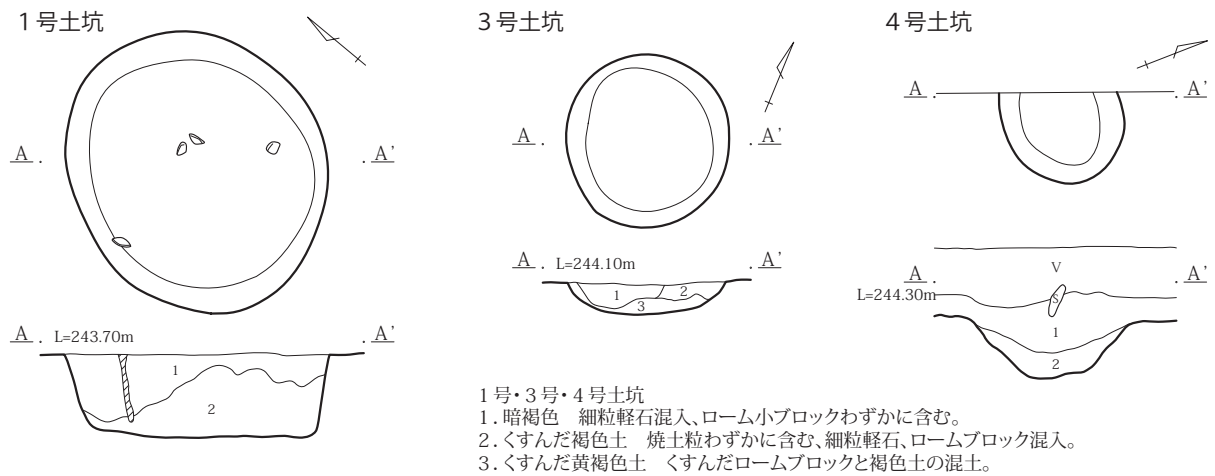


第33図 4区2号住居

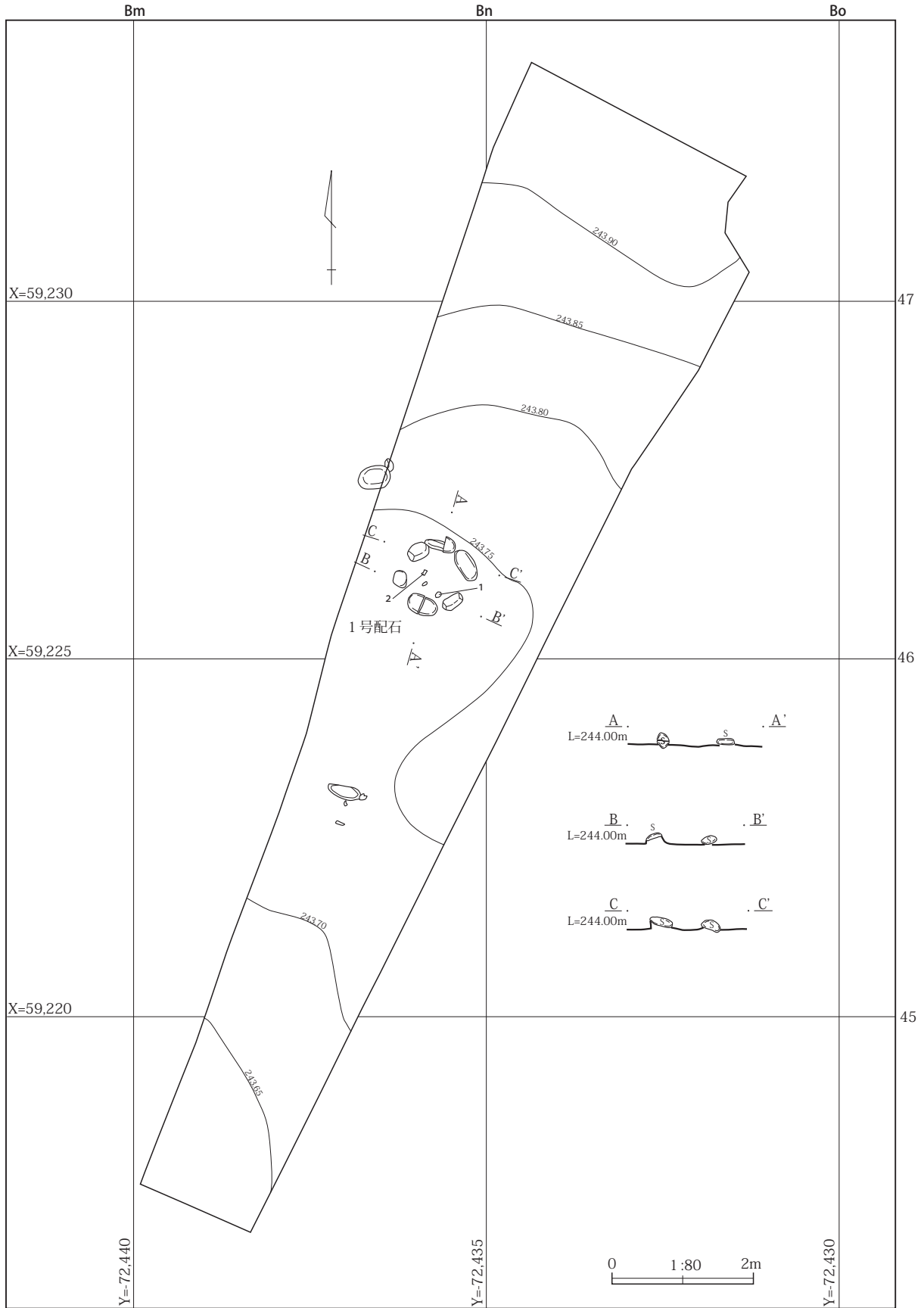
第5章 第4面の検出遺構



第34図 7区1号住居



第35図 7区土坑・ピット



第36図 7区1号配石

2. 土坑

検出した土坑は4基である。位置や計測値等は一覧表を参照していただき、ここでは遺物及び特徴的な事項を中心に記載する。**1号土坑**：断面台形状を呈し、わずかに土器片が出土した。**2号土坑**：北調査区の北壁に1/2がかかる。1 m以上の掘り込みを有し、底面は平底を呈し、埋没土はロームブロック等の地山土が混在する事から人為的な一括埋没と考えられる。

3. 配石遺構

南調査区のIV層中より一部礫の頭が確認でき、V層まで掘り下げ検出した。30cm前後のやや扁平礫7石を円形に配置する。掘り込みは検出されなかった。

位置：Bm-46 **規模**：長軸56cm、短軸50cmを測る。

遺物：土器 縄文時代前期の土器片が出土しているが、混入品と考える。石器 石鏃が出土している。

4. ピット

幾つかのピット状の掘り込みを検出したが、1号ピットのみが掘り込みがしっかりしていた。1号ピットはBo-51グリッド内で検出した。長軸56cm×短軸46cm、深さ48cmを測る。

5. 遺構外

出土遺物は少なく、土器は縄文時代前期から中期の土器片が散在し、石器も石鏃、石錐等がわずかに出土したのみであった。



第37図 8区第4面全体図

第5節 8区検出遺構

1. 竪穴住居

平成16年度に調査を実施した。各住居の重複は見られず、調査区全体に広がる形で8軒の住居を検出した。時期は、縄文時代前期及び中期である。

1号住居（遺構：第38図、PL12、遺物：土器第2分冊第5・6図、PL 2、石器第3分冊第2図、PL 1）

確認状況：調査区南西部の西壁にかかり検出した。V層中より大量の遺物が出土し、包含層調査を行いながら遺構確認を行い、最終的にローム層直上で炉石を検出し、住居と認定した。

位置：Bp・Bq-53・54 **重複**：単独 **形状**：立ち上がりは不明瞭であるが柱穴配置から円形と考える。

規模：長軸5.06m、短軸（2.80）m、深さは壁面での計測で21cmを測る。 **面積**：（15.25） m^2 **方位**：N-0° **周溝**：未検出 **柱穴**：4本+1 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：埋没土全体に多量の土器片が出土した。これらの土器は人為的な廃棄と考えられる。

炉：埋甕石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：円形、口径42cmの胴下半部欠損の1の深鉢を埋設し、周囲を30cm大の礫で囲む。 **規模**：長短径68cm **埋没土**：焼土を若干含む。

遺物：土器 出土点数は270点を数え、縄文時代中期後半の破片が占めた。土器の出土状況はレンズ状に中央に集中する傾向があり、住居廃絶後に土器を廃棄した状況が窺える。炉には1及び2の縄文時代中期後葉の深鉢が埋設されていた。石器 出土点数は50点を数えた。石鏃、打製石斧、磨石、多孔石等が出土した。

所見：V層中から掘り込まれ、ロームを掘り込まない住居であり、床面も踏みしめられておらず、石囲炉が確認できなければ、住居認定ができなかった。住居の時期は、炉の埋設土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

2号住居（遺構：第39図、PL12、遺物：土器第2分冊第7～9図、PL 2・3、石器第3分冊第3図、PL 1・2）

確認状況：調査区南のやや東壁寄り、V層中より遺物集中箇所を確認した。遺物中には大型破片も多く混在し、遺構プランは確認できなかったが2号住居として調査を開始した。最後まで炉や柱穴等の住居施設は確認できなかった。

位置：Bq・Br-53・54 **重複**：下層よりP15を検出。

形状・規模：円形と思われるが範囲確定できなかった。

方位：計測不能 **周溝**：未検出 **柱穴**：未検出

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は740点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、他に縄文時代前期も少量混在した。6の半完形の深鉢や9の大型土器片が出土した。石器 出土点数は104点を数え、剥片が86点を占める。製品にはスクレイパー、打製石斧、磨石、多孔石等が出土した。

所見：大型土器片の出土状況から住居廃絶後に廃棄された土器群と考え、住居として調査を行ったが、住居施設の炉や柱穴、床面の踏み固められた痕跡も確認できなかったことから、住居ではなく自然の落ち込みに土器を廃棄したと考えられる。

3号住居（遺構：第40図、PL13、遺物：土器第2分冊第10・11図、PL 4、石器第3分冊第3・4図、PL 2）

確認状況：1号住居に隣接する調査区南西隅でV層中より土器片や礫混じりの包含層を確認した。包含層調査を行いながら遺構確認を継続したところ、ローム漸移層で小振りの楕円形を確認し、住居として調査を開始した。住居の1/3は調査区外に延びる。

位置：Bp-53 **重複**：3号土坑に掘り込まれる。

形状・規模：楕円形 **規模**：長軸（3.03）m、短軸2.81m、深さ18cmを測り、やや規模は小さい。 **面積**：（5.36） m^2 **方位**：N-38° - E **周溝**：確認範囲ではほぼ全周する。

柱穴：壁に沿うように4本検出した。

床面・掘方：床面は中央の炉に向かい傾斜が見られた。床は、地山ロームを踏みしめている部分とロームブロックを含む土を踏みしめ貼床が作られる部分

がある。埋没土：壁際は三角堆積、中央部は水平堆積が観察でき、自然埋没と考える。

炉：石囲埋甕炉 位置：ほぼ中央 形状：1の深鉢が埋設され、その周囲に及び上部に扁平の大礫や土器片が被っていた。規模：埋設土器の径は約40cmを測る。埋没土：土器・礫含む人為的な埋没土。

遺物：土器 出土点数は560点を数え、埋没途中に廃棄された状況が窺える。大半が縄文時代中期後半であった。炉内埋設土器は縄文時代中期後半のやや大型の深鉢であり、炉外の床面にも破片が散在していた。石器 出土点数は107点と多く、2号住居同様剥片類が78点を占めた。製品には、石鏃、打製石斧、磨石等が出土している。

所見：炉内埋設土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。炉は、炉石や土器の散乱状況から廃絶時に意図的に破壊していった状況が窺える。

4号住居（遺構：第41図、PL13、遺物：土器第2分冊第12図、PL 5、石器第3分冊第4図、PL 2）

確認状況：調査区南東隅で検出した。調査区壁にかかる住居であり、住居西壁側のみ調査を行った。

位置：Bq・Br-52・53 重複：6号・10号ピットに掘り込まれる。形状：北西コーナー部分が若干弧状を呈しているため隅丸方形と考えられる。

規模：長軸（3.82）m、短軸（1.13）mを測り、深さは確認面から数cmと浅い。面積：（2.35）m²

方位：N-18°-E 周溝：遺構内全周 柱穴：北西コーナー部分に3本まとまって検出した。P 2は深さが約42cmと深い。P 3・4・5はほぼ1.5mの等間隔で直線的に並ぶ。床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。埋没土：壁際は三角堆積、中央部は水平堆積が観察でき、自然埋没と考える。

炉：未確認

遺物：土器 出土点数は40点を数え、縄文時代中期後半の破片が占める。北西角際から1の縄文時代中期後半のやや大型の深鉢が出土している。石器 出土点数は5点と少ない。底面に多孔のある石皿が出土。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の住居と考え

る。掘り込みはV層中と考えられ、複数のピットを確認したが、建て替え住居かどうかは不明である。

5号住居（遺構：第42・43図、PL14・15、遺物：土器第2分冊第13・14図、PL 5・6、石器第3分冊第4図、PL 2）

確認状況：調査区ほぼ中央で検出した。本調査区で数少ない全掘できた住居である。確認面から床面まで10cm前後と浅いが遺存状況は良好であった。

位置：Bq・Br-55・56 重複：12号土坑に切られる。

形状：北辺がやや短い隅丸方形を呈する。

規模：長軸5.38m、短軸5.28m、深さ10cmを測る。

面積：21.39m² 方位：N-9°-W 周溝：全周

する。周溝底面には10～20cm程の小孔が掘られている。

柱穴：住居の辺に沿う形でピットを検出した。東辺北辺添いのP 1・2・4は掘り込みが浅く、P 3・5は掘り込みが深い。柱穴配置でP 1・4・5は炉を囲う形に配置される。

床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。埋没土：埋没土下層にはロームブロックの堆積が観察でき、一時的に人為的に埋め戻されたとも考える。

炉：地床炉 位置：北壁寄り中央部で検出 形状：地山ローム層を楕円形の浅く掘りくぼめ、西辺に38cm程の長円礫を1石設置する。規模：長軸60cm、短軸51cm、深さ16cmを測る。埋没土：火床面の焼けは弱い。

遺物：土器 出土点数は130点を数え、縄文時代前期中葉の破片が占める。東壁から南壁際とP 3付近に深鉢破片がまとまって出土した。石器 出土点数は75点を数え、剥片が46点を占める。南壁付近には石皿に磨石が乗せられた状態で出土し、南東隅の壁際に大型の剥片群がまとまって出土している。

所見：縄文時代前期中葉の単独住居であり、建て替えはなされていない。石皿上に磨石が置かれた状態で出土したことから、石器等は南東部で使われていたと考えられる。

6号住居（遺構：第44図、PL15、遺物：土器第2分冊第15図、PL 6）

確認状況：調査区中央の東壁際で検出した。焼土と土器片が散布するが掘り込みは不明瞭であり、焼土の分布する周辺を中心に掘り下げを行い、炉が検出できたため住居と認定した。

位置：Br・Bs-55・56 **形状：**隅丸長方形か **規模：**長軸(6.58)m、短軸5.60mを測り、深さは確認面から5cmと浅い。 **面積：**(8.82)m² **方位：**N-88°-E **重複：**2号・4号土坑に切られる。 **周溝：**北壁、西壁で検出した。掘り込みは浅い。 **柱穴：**3本確認したが、明確ではない。 **床面・掘方：**地山が床面であるが、しまりは弱い。 **埋没土：**調査区壁面の断面観察でほぼ水平堆積が観察されることから自然埋没と考える。

炉：地床炉 **位置：**中央やや西寄りで焼土の盛り上がりで中央に大礫を検出し、炉として調査を開始した。焼土は擗り鉢状に確認できた。この炉の下から1辺約1m、深さ約70cmの隅丸方形の大型土坑を検出した。 **形状：**不定形 **規模：**長軸80cm、短軸55cm **埋没土：**火床面は焼土化している。また、住居南壁側の調査区壁にかかる部分で焼土が散乱する箇所の精査を行い、焼土中央に1の胴下半部が欠損した深鉢が埋設されていた。この焼土や土器の出土状況から埋設炉の可能性も考えられる。

遺物：土器 出土点数は200点を数え、縄文時代中期後半が占める。壁にかかる焼土中より縄文時代中期後半の1が出土し、その他炉脇より同時期の5の深鉢底部が出土した。石器 剥片が数点出土したのみであった。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の住居と考える。壁面を観察したが、V層中より掘り込まれたと考えられるが、立ち上がりは確認できなかった。

7号住居 (遺構：第45～47図、PL16・17、遺物：土器第2分冊第16～18図、PL 6～8、石器第3分冊第5・6図、PL 2・3) **確認状況：**調査区北の9区との境手前で検出した。第V層下部から第VI層漸移層にかけて大量の遺物が出土し、遺構確認を行ったがプランが不明瞭であった。そのため、遺物を取り上げながら遺構確認作業

を行い、北寄りに周囲よりやや暗い円形プランを確認し28号土坑として調査を開始した。また、周辺部で幾つかの土坑も検出し、各土坑の調査を行いながら住居のプラン確認も並行して行った。その結果、長軸8mを超える大型住居を検出したが、周溝・柱穴・張出等は床面直上まで掘り下がった。

位置：Br・Bs-57～59 **重複：**18号・19号・23号・30号の各土坑に切られる。また8号住居と近接する。 **形状：**住居主体は、短い直線が集まり八角形を呈する。又は南辺に短い張出部が作り出され、帆立貝状を呈する。張出部内からは柱穴及び埋甕を検出した。 **規模：**長軸8.90m、短軸7.68mを測る。深さは確認面から10cmと浅い。また、張出部は2.2m×70cmを測る。 **面積：**(43.08)m² **方位：**N-26°-W **周溝：**全周する。底面で部分的に小孔が確認できる。 **柱穴：**各コーナー一部の壁沿いに柱穴が配置される。張出部の連結部と内部にも配置される。 **床面・掘方：**地山をそのまま踏み固め床面とする。炉の周辺部の径2.5m程の楕円範囲が凹む。下部より炉を検出した。 **埋没土：**確認面から床面まで浅いため人為的埋没かは不明であるが、調査開始当初28号土坑とした3m前後の円形部分に遺物が集中が見られ、また南辺の遺物出土状況から埋没途中に土器廃棄場所になった可能性も考えられ、人為的な埋没と考える。 **埋甕：**住居南辺の張出部内から11の深鉢が正位で出土。 **集礫：**南寄り中央部で50cm四方の範囲に5～30cm大の礫がまとまって出土した。床面からはやや浮いた状態。

炉：埋甕炉 **位置：**北寄りで浅く掘り込まれた楕円形状の凹みの中央部でロームを浅く掘り込んだ地床炉を検出した。火床面中央に29の深鉢胴部を埋置する。 **形状：**楕円形 **規模：**長軸88cm、短軸60cm、深さ30cm **埋没土：**火床面は焼土化し、埋設土器の上部は被熱により脆くなっている。また東西両側に礫の抜き取り痕と思われる小ピットを検出した。

遺物：土器 住居中央付近から南側に集中して出土し、土器廃棄の状況が窺える。出土点数は813点を数え、縄文時代中期後半の破片が占める。南では1

第5章 第4面の検出遺構

の縄文時代中期後半の大型深鉢が潰れた状態で出土した。炉周辺でも同時期の大型深鉢の胴部片が出土している。石器 出土点数は106点を数え、剥片を56点、打製石斧は11点を数えた。その他石鏃、スクレイパー、石錐、打製石斧、磨石、石皿等の多種の石器が出土した。

所見：出土土器より縄文時代中期後半の張出を持つ八角形住居と考える。掘り込みはV層中と考えられ、複数のピットを確認したが、建て替え住居かどうかは不明である。

8号住居（遺構：第48図、PL17、遺物：土器第2分冊第19図、PL8、石器第3分冊 PL4）

確認状況：9区との調査区境で倒木痕に絡み暗褐色の不明瞭なプランを確認し、中央付近に石囲い炉を検出し住居と認定した。

位置：Bt-57・58 **重複：**倒木痕に切られる。7号住居に近接する。 **形状：**方形か **規模：**長軸(3.42)m、短軸(3.00)mを測り、深さは確認面から数cmと浅い。 **面積：**(7.37) m² **方位：**N-28° - E **周溝：**遺構内全周 **柱穴：**2本を検出した。 **床面・掘方：**地山を利用し床面としているが、しまりは弱い。 **埋没土：**確認面から床面まで浅いため詳細不明である。

炉：石囲埋甕炉 **位置：**中央やや西寄り 20cm大の自然礫を円形に組み、火床面中央に炉体土器として深鉢を埋置する。 **規模：**長軸86cm、短軸77cmを測る。 **埋没土：**焼土はわずかに散見する。また、小礫片含む。

遺物：土器 出土点数は800点を数え、縄文時代中期後半の破片が占める。炉内より炉体土器として1の縄文時代中期後半の深鉢が出土している。深鉢は胴下半部が欠かれた状態であった。石器 出土点数は23点を数え、台石が2点出土した。

所見：西壁側を部分的に検出したのみであるが、縄文時代中期後半の住居と考える。掘り込みはV層中と考えられ、複数のピットを確認したが、建て替え住居かどうかは不明である。

2. 土坑（遺構：49～51図、PL18～22、遺物：土器第2分冊第20・21図、PL 8・9、石器第3分冊第7図、PL 4）

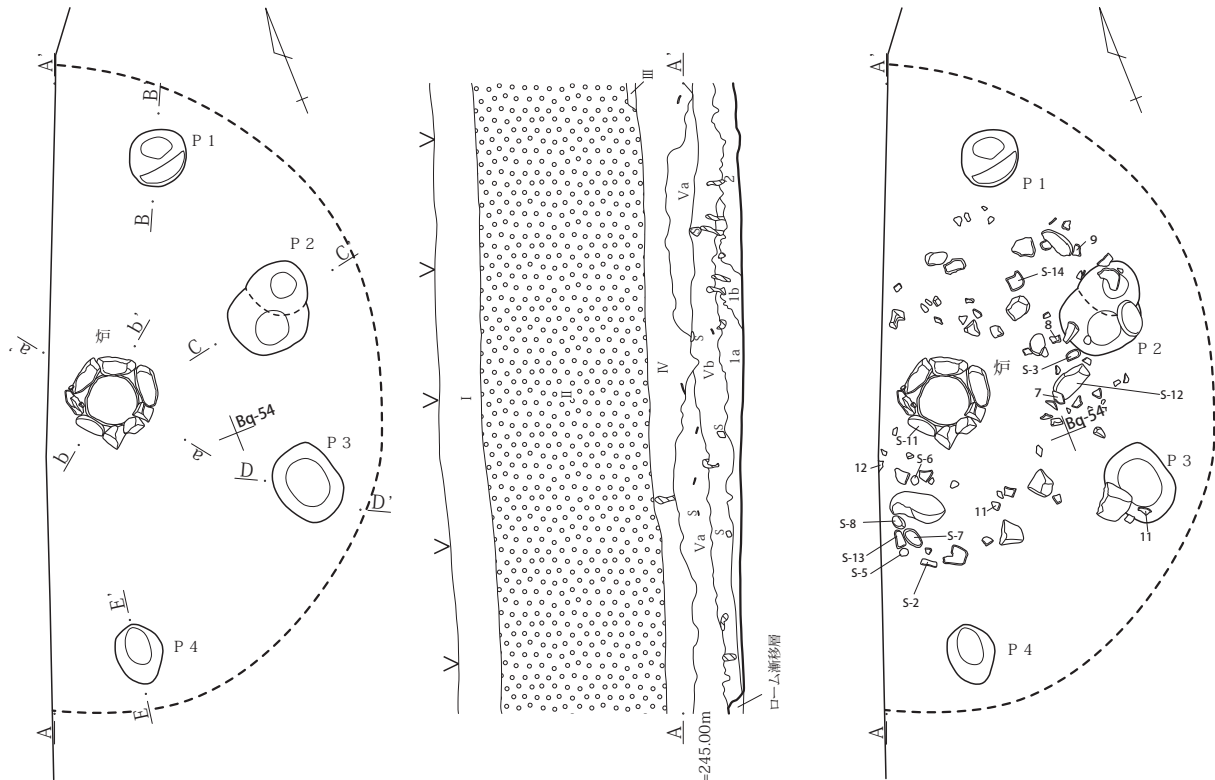
26基の土坑を検出した。ここでは遺物及び特徴的な事項を中心に記載する。1号、2号土坑は脇にローム反転が確認でき、掘り込みも半月状になるなど倒木痕の可能性が強い。最大規模を有する土坑は4号土坑であり、長軸は1.5m、深さ1mを測る。やや小振りの土坑に18号土坑がある。どちらも土器片が出土し、埋没時に混入したと考えられる。円形を呈し、袋状の断面形状を持つ土坑に8号、13号、15号土坑がある。17号土坑は断面ロート状の長方形を呈し、壁面が一部ハングしており、陥穴的土坑である。12号土坑は、上層で口縁部欠損した深鉢を出土している。23号土坑は7号住居内で検出し、7号住居柱穴を壊し作られ、埋没土中には大量の土器片や石器が出土した。25号土坑は焼土と共に深鉢胴下半が出土し、土器埋設炉的な状況であった。

3. ピット（遺構：52図、PL22、遺物：土器第2分冊第22図、PL 9）

18基のピットを検出した。調査区南寄りに集中するが掘立柱建物等は確認できなかった。ピット中には掘り込み面が不明であるため浅い掘り込みに見えるピットもある。11号、14号、15号ピットからは小破片が出土しているが、混入と考えられる。また、15号ピットは30cm前後の大礫が詰め込まれていた。

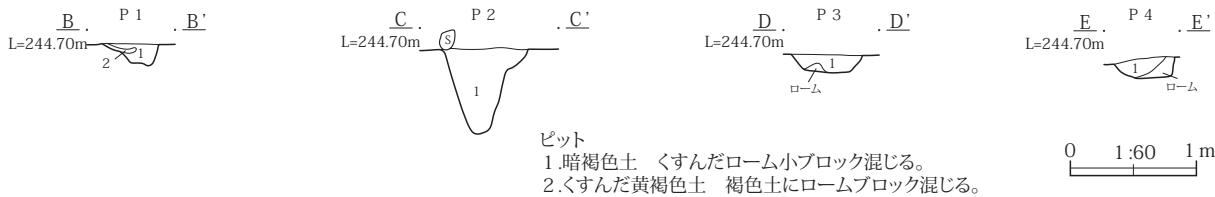
4. 遺構外出土遺物（遺物：土器第2分冊第3～26図、PL 9～11、石器第3分冊第7図、PL 4）

基本土層第IV層中より遺物が出土し、出土遺物の包含層調査を行い図化、写真記録と併せて遺構確認を行った。その後、V層へと掘り下げを行い、VI層のローム漸移層では遺構の輪郭も見え始め、遺物の集中も住居上面に狭まった。住居や土坑等の遺構周辺部から出土する土器片は、縄文時代中期を中心に前期の小破片が散在する程度であった。石器は、6の磨製石斧や7の石皿等の製品が出土し、周辺部の精査を行ったが遺構は検出されなかった。



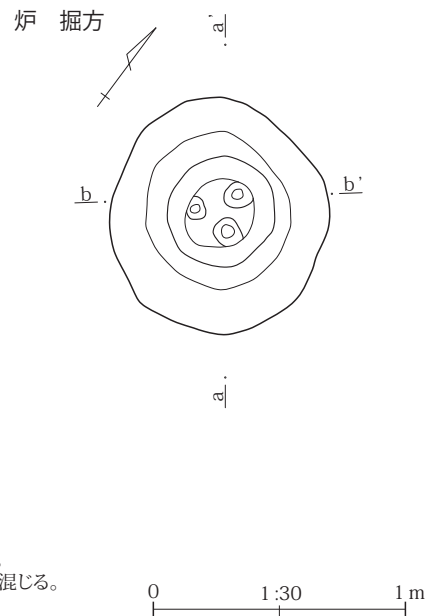
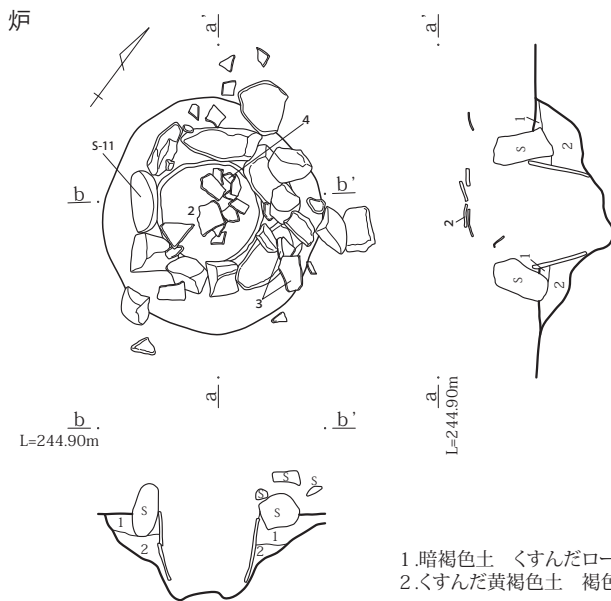
1号住居

- 1a. 暗褐色土 φ 1 ~ 3mmの白色軽石粒含み、しまりあり。土器片を多量に含む。
- 1b. 暗褐色土 1aにくすんだルーム小ブロック混じる。
- 2. くすんだ黄褐色土 褐色土中にルームブロック混じる。



ピット

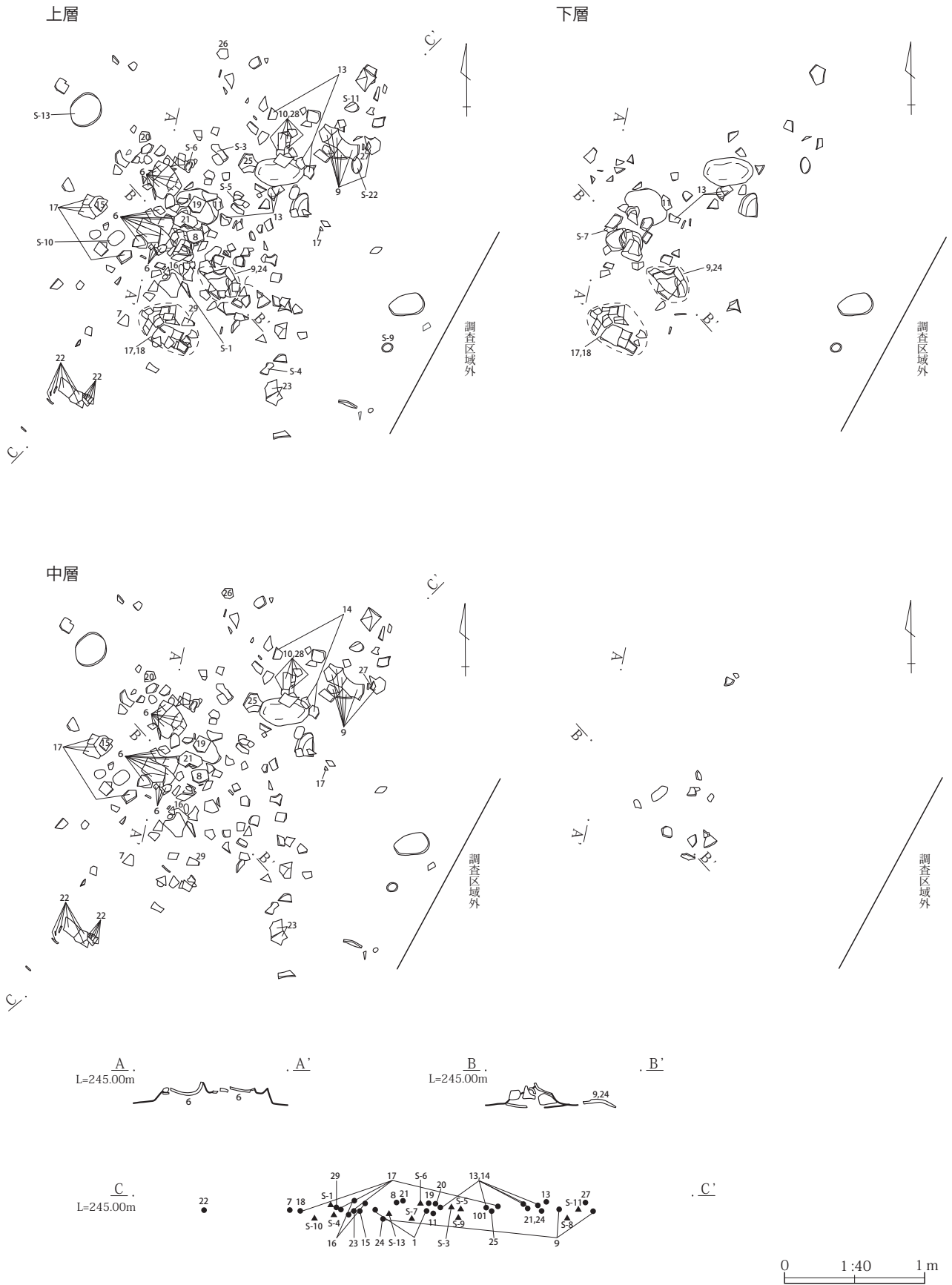
- 1. 暗褐色土 くすんだルーム小ブロック混じる。
- 2. くすんだ黄褐色土 褐色土にルームブロック混じる。



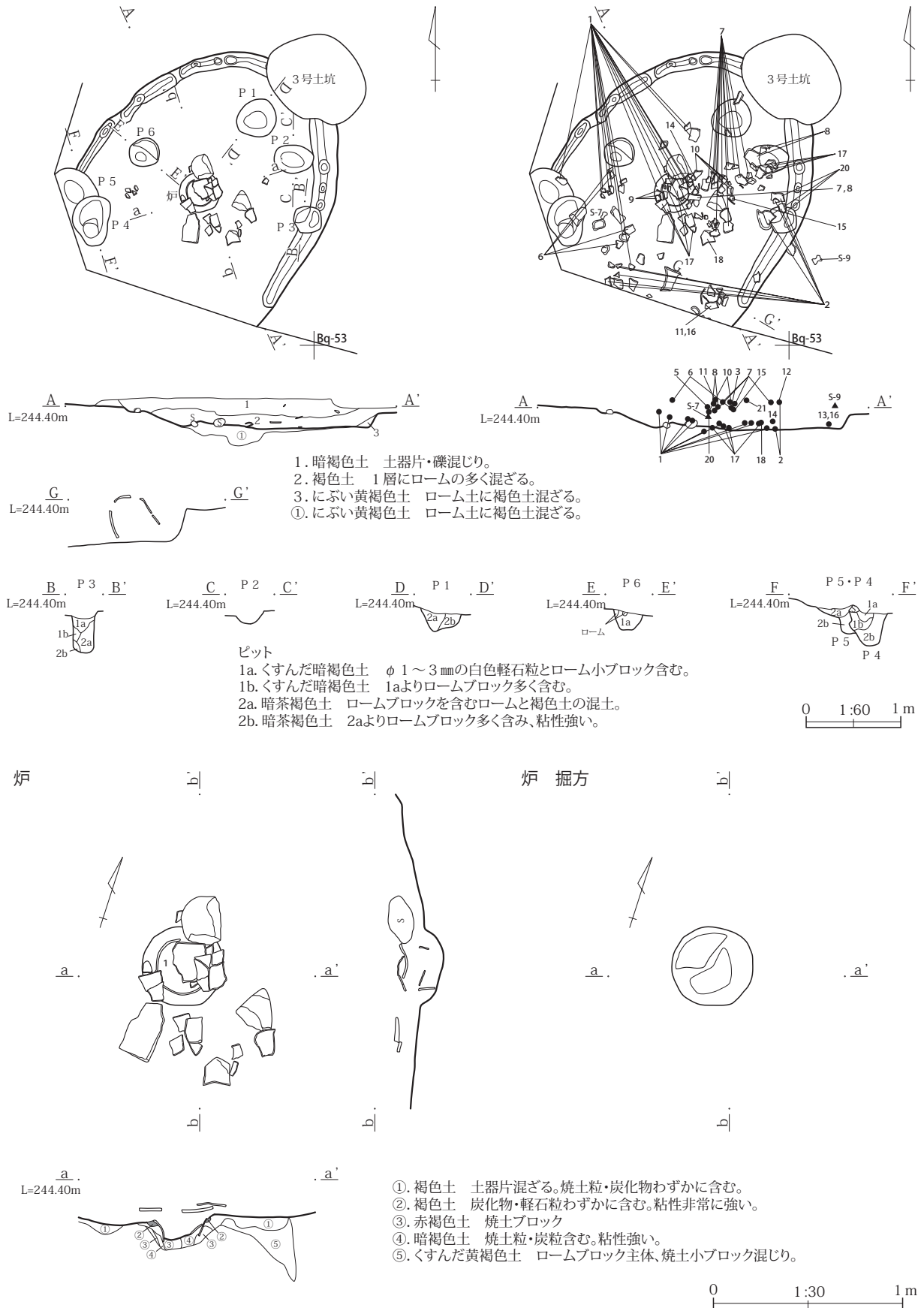
- 1. 暗褐色土 くすんだルーム小ブロック混じる。
- 2. くすんだ黄褐色土 褐色土にルームブロック混じる。

第38図 8区1号住居

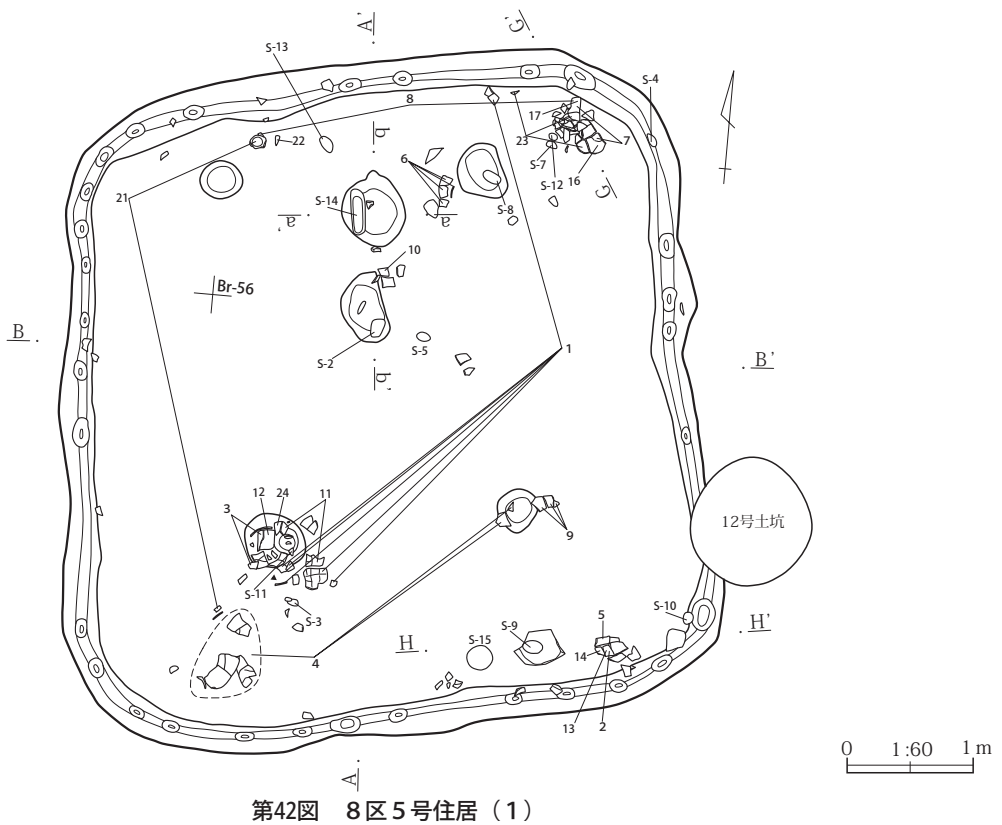
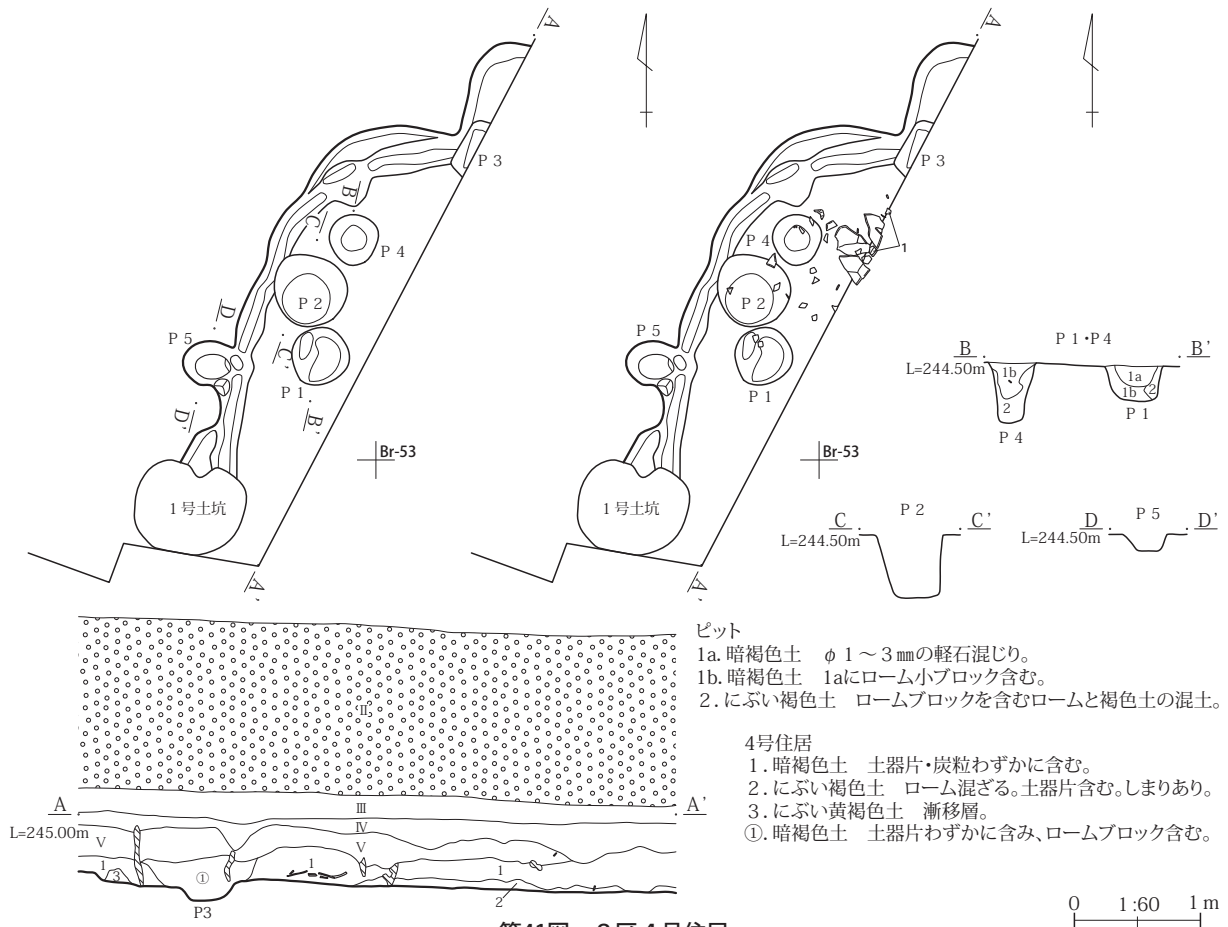
第5章 第4面の検出遺構

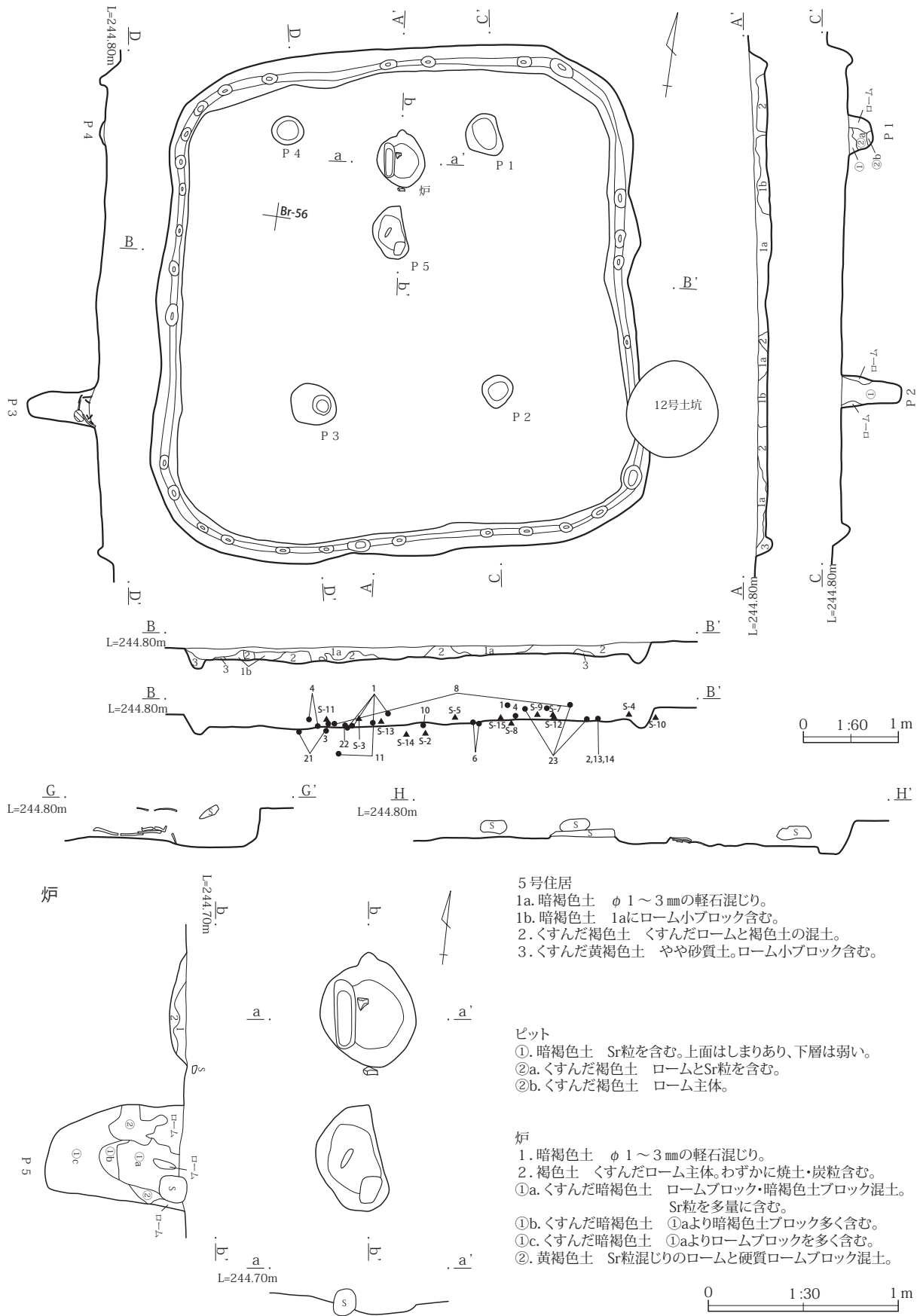


第39図 8区2号住居



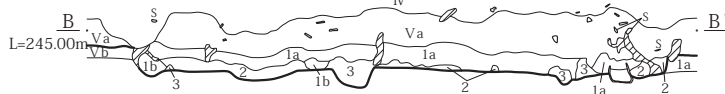
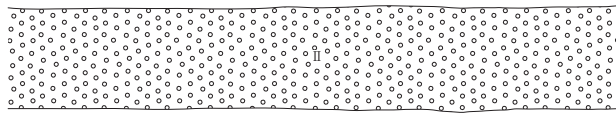
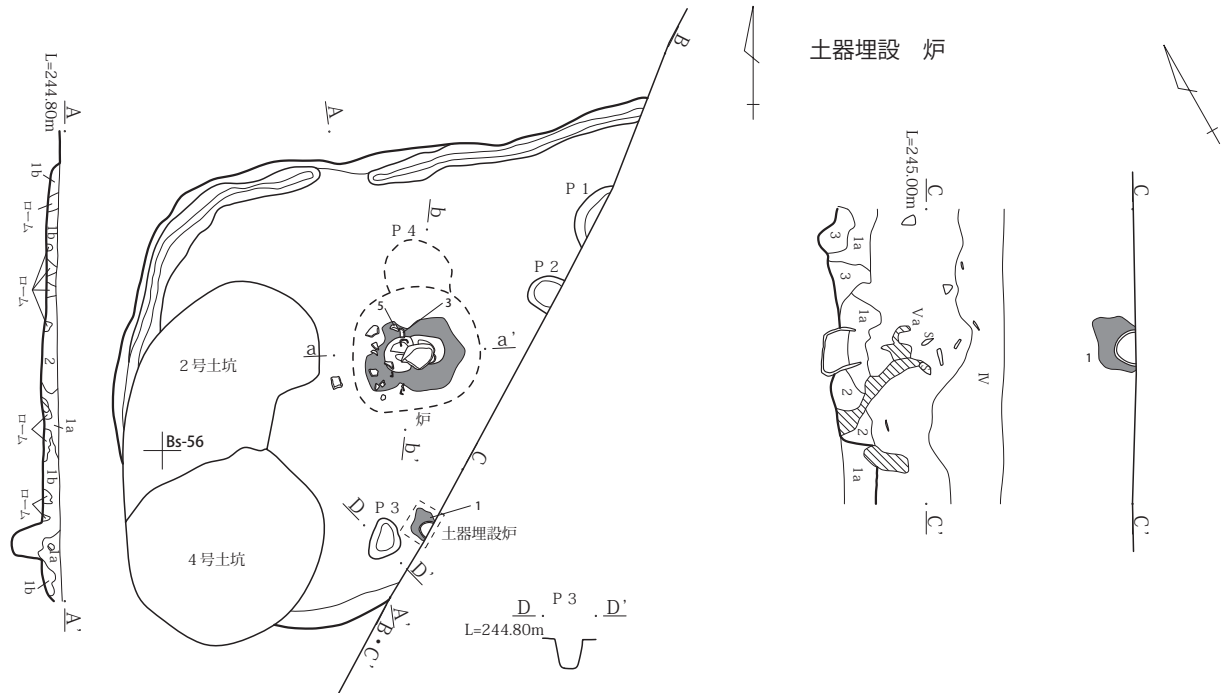
第40図 8区3号住居



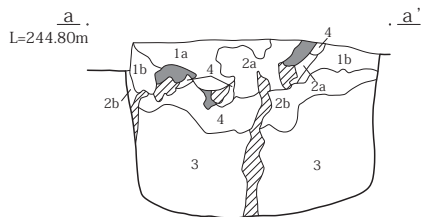
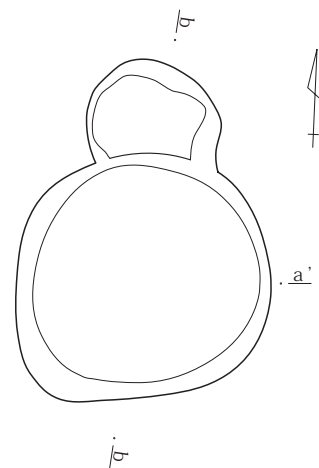
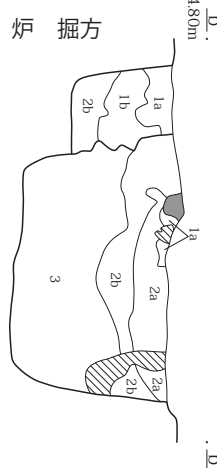
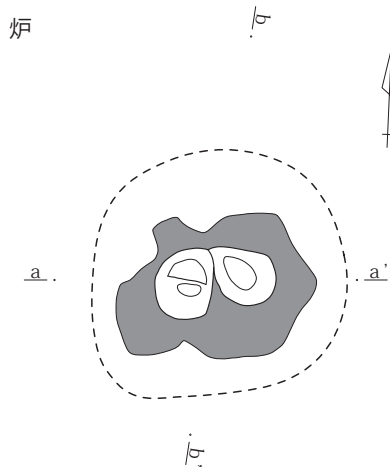


第43図 8区5号住居(2)

第5章 第4面の検出遺構



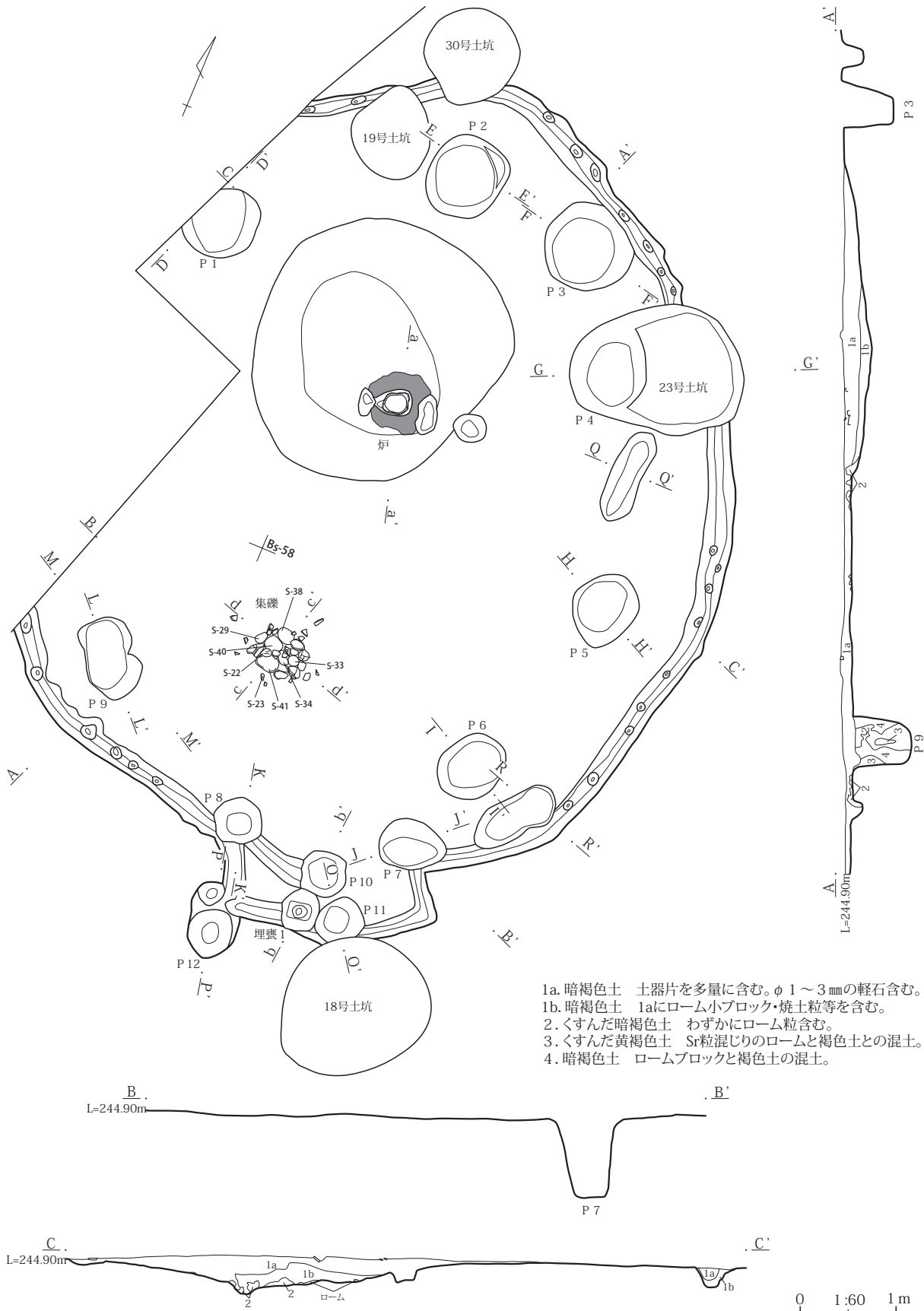
0 1:60 1m



- 1a. 暗褐色土 φ 1~3mmの軽石混じり。
 1b. 暗褐色土 1aにロームブロック・Sr粒をくすんだローム主体。わずかに焼土・炭粒含む。
 2a. 暗褐色土 Sr粒を多く含む、焼土小ブロック混じる。
 2b. 暗褐色土 2aよりロームを多く含む。焼土小ブロック混じる。
 3. くすんだ黄褐色土 Sr粒が大量に混ざり、ロームブロックも斑に入る。
 4. 暗赤褐色土 焼土ブロックと暗褐色土混じり。

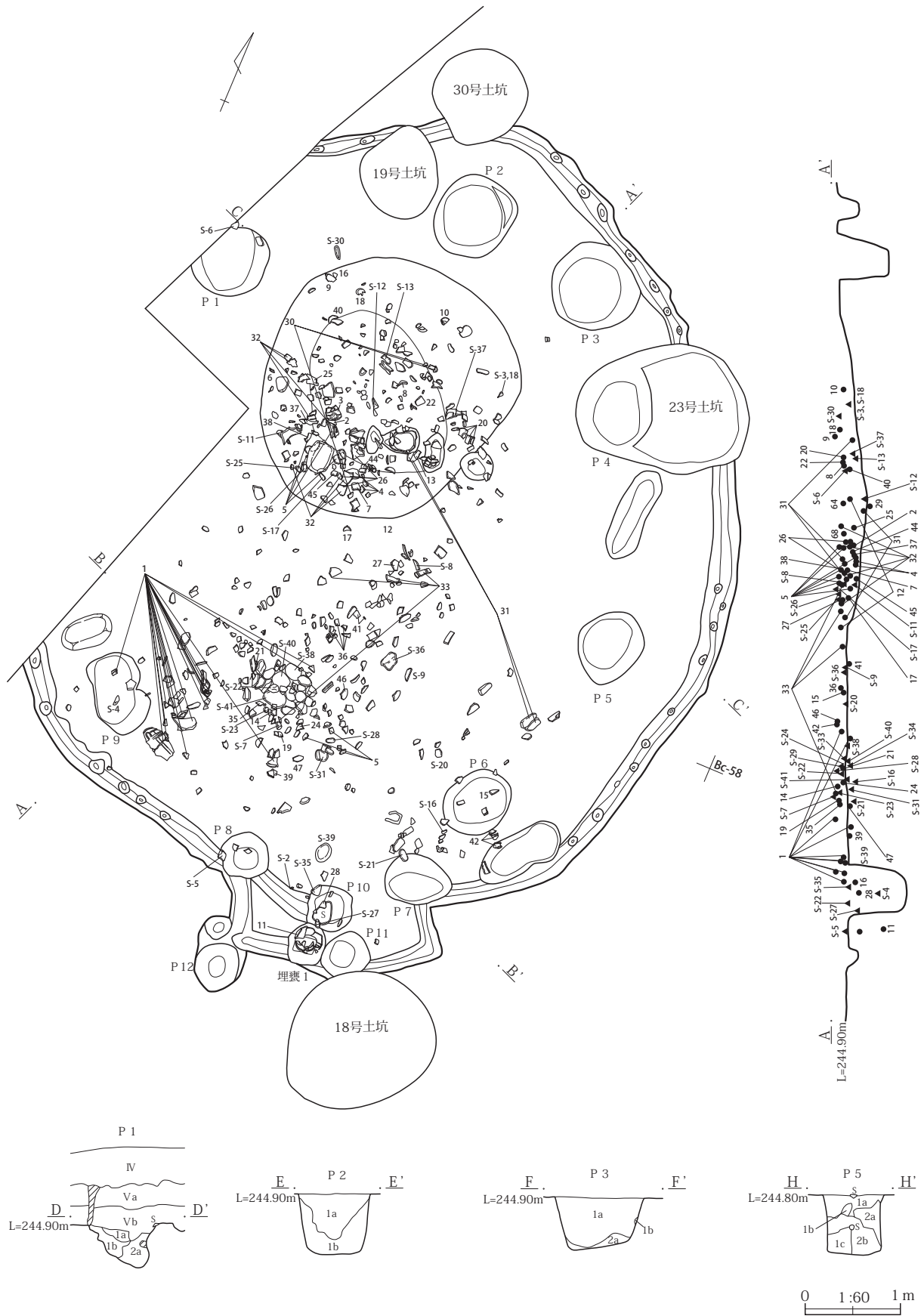
0 1:30 1m

第44図 8区6号住居

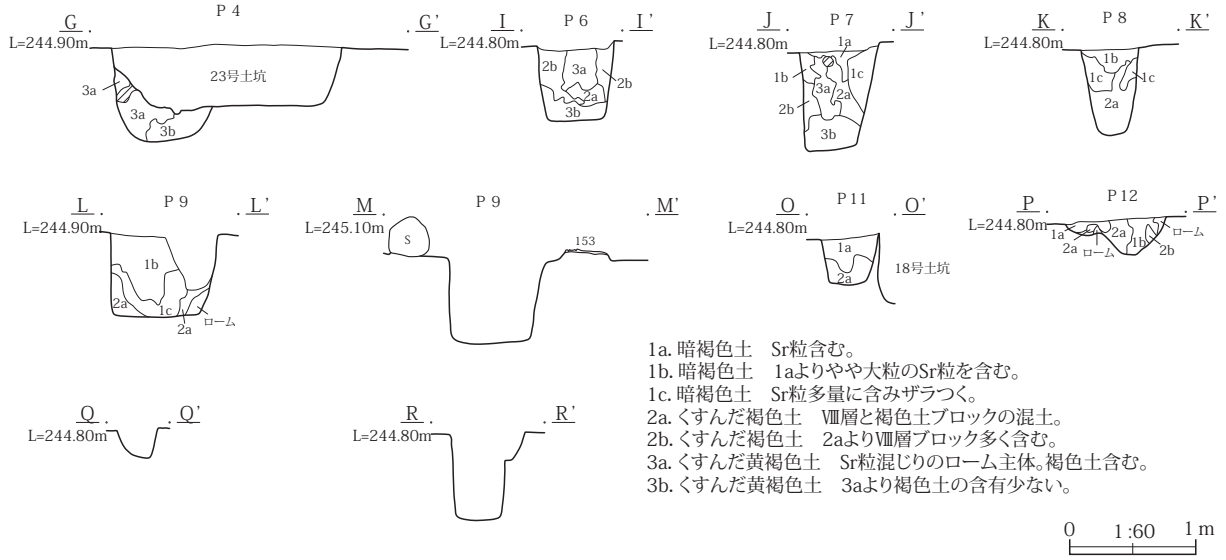


- 1a. 暗褐色土 土器片を多量に含む。φ 1～3 mmの軽石含む。
- 1b. 暗褐色土 1aにローム小ブロック・焼土粒等を含む。
2. くすんだ暗褐色土 わずかにローム粒を含む。
3. くすんだ黄褐色土 Si粒混じりのロームと褐色土との混土。
4. 暗褐色土 ロームブロックと褐色土の混土。

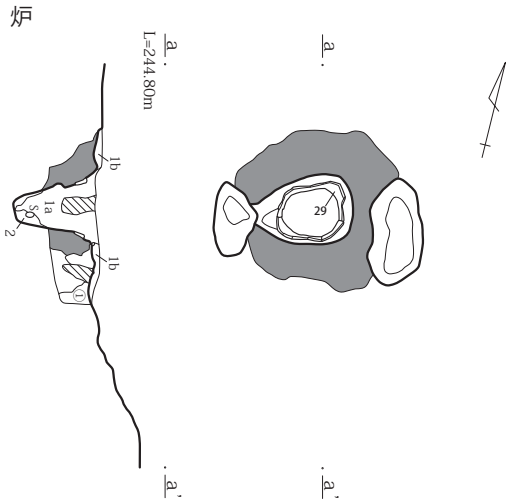
第45図 8区7号住居 (1)



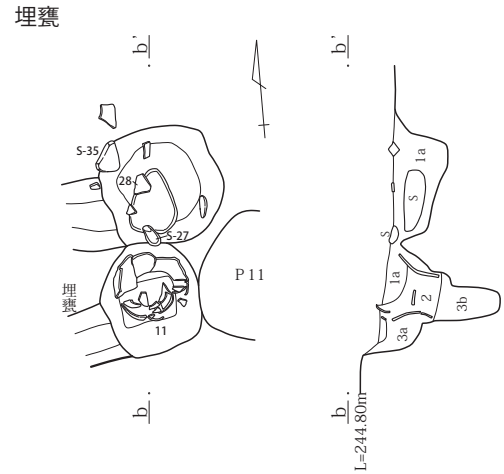
第46図 8区7号住居(2)



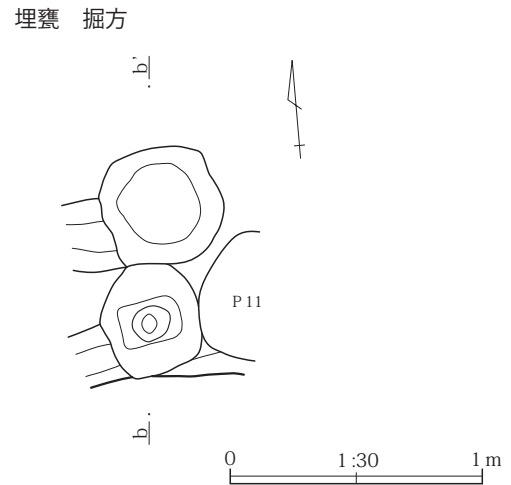
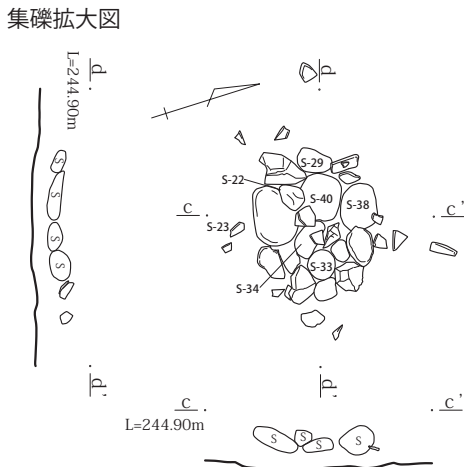
- 1a. 暗褐色土 Sr粒含む。
- 1b. 暗褐色土 1aよりやや大粒のSr粒を含む。
- 1c. 暗褐色土 Sr粒多量に含みザラつく。
- 2a. くすんだ褐色土 VIII層と褐色土ブロックの混土。
- 2b. くすんだ褐色土 2aよりVIII層ブロック多く含む。
- 3a. くすんだ黄褐色土 Sr粒混じりのローム主体。褐色土含む。
- 3b. くすんだ黄褐色土 3aより褐色土の含有が少ない。



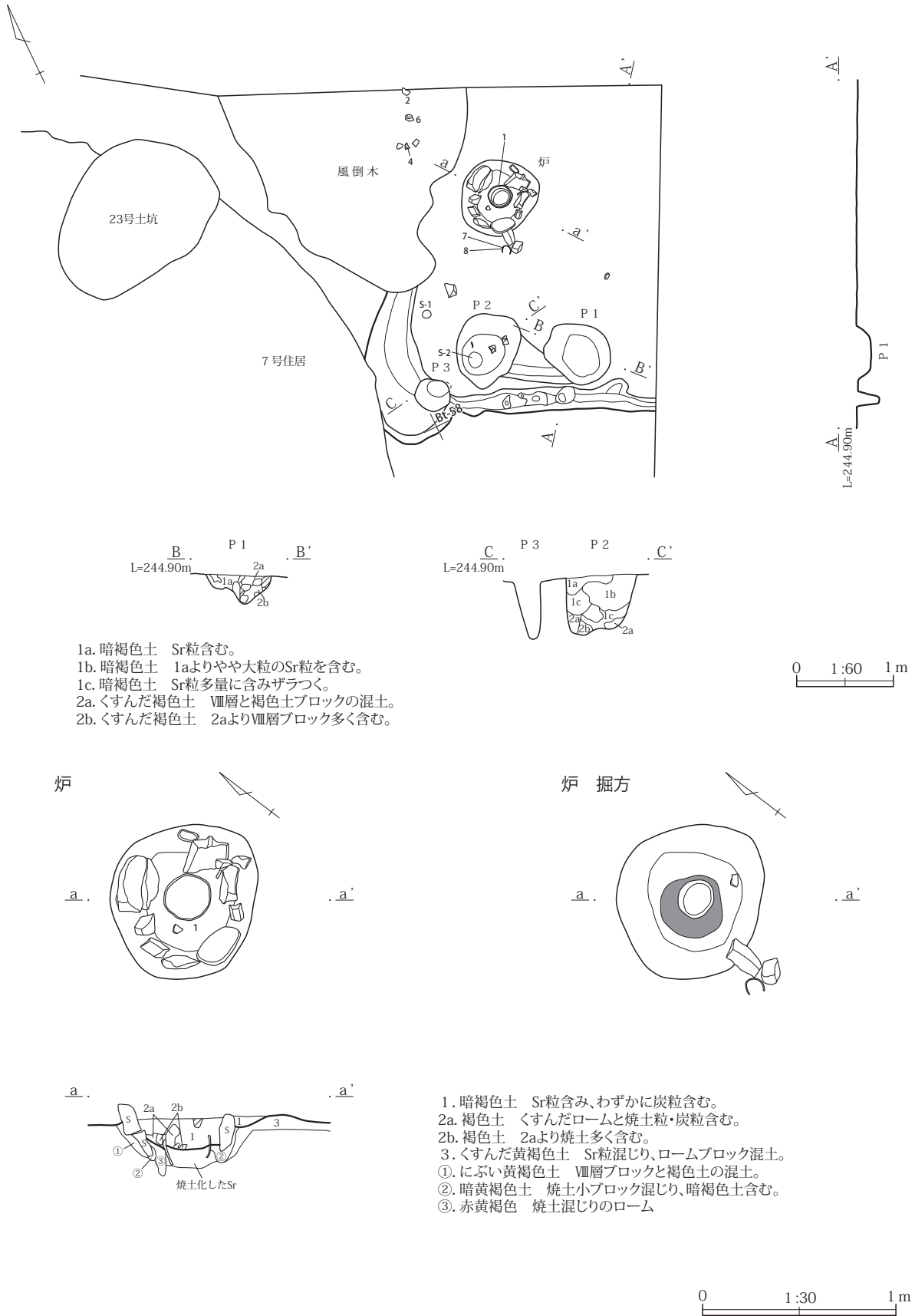
- 炉
- 1a. 暗褐色土 φ 1~2mmの軽石混じり。
 - 1b. 暗褐色土 1aに焼土ブロック・炭粒混じり。
 - 2. くすんだ黄褐色土 焼土小ブロック・Sr粒ブロック・暗褐色土等の混土。
 - ①. くすんだ褐色土



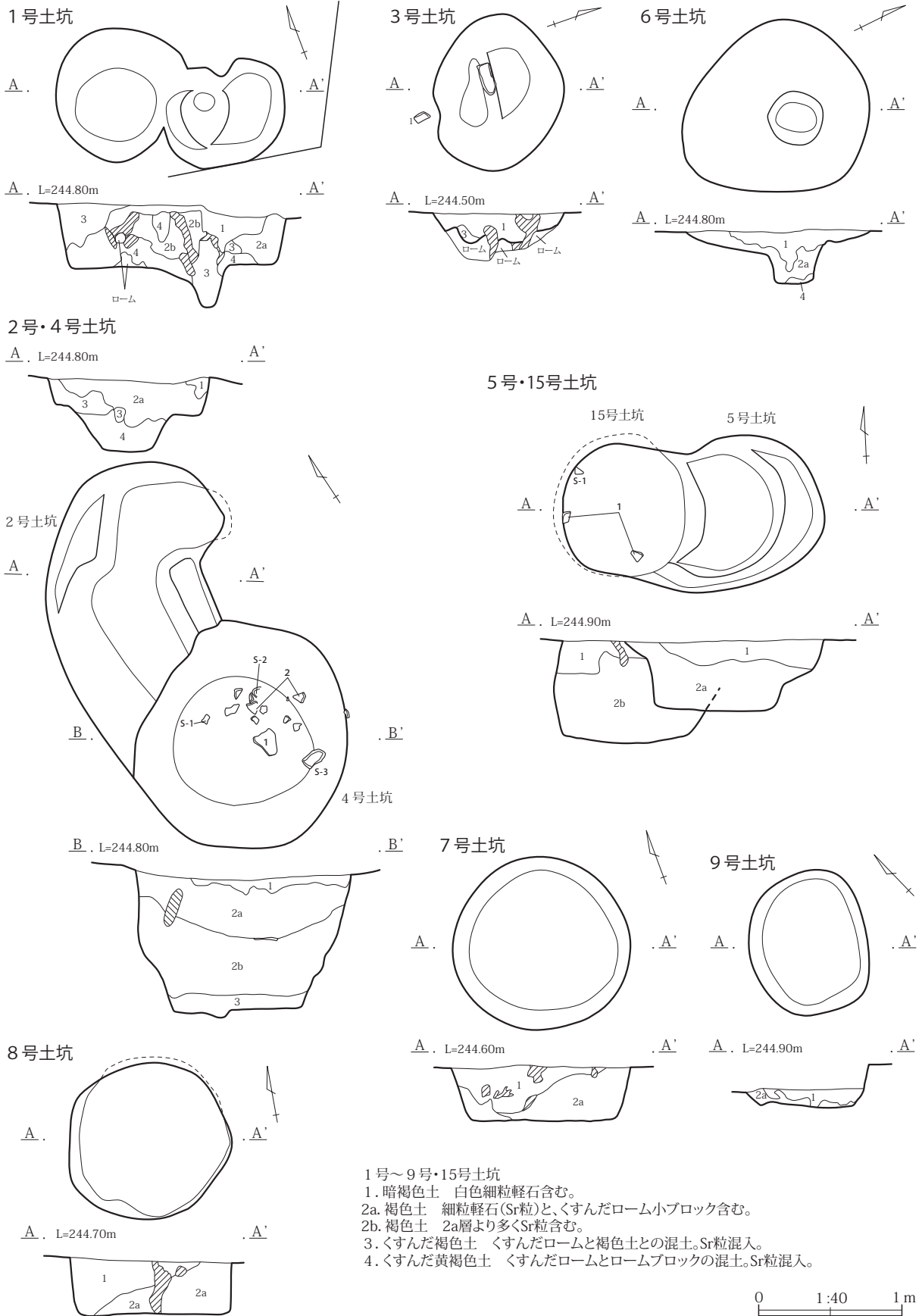
- 埋葬
- 1a. 暗褐色土 φ 1~2mmの軽石混じり。
 - 2. くすんだ褐色土 VIII層と褐色土ブロックの混土。
 - 3a. くすんだ黄褐色土 Sr粒混じりのローム主体。褐色土含む。
 - 3b. くすんだ黄褐色土 3aより褐色土の含有が少ない。



第47図 8区7号住居 (3)

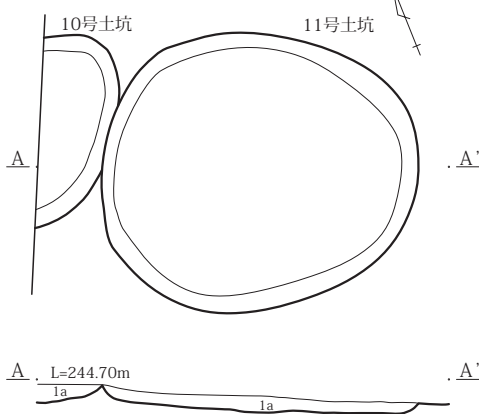


第48図 8区8号住居

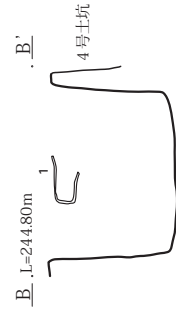
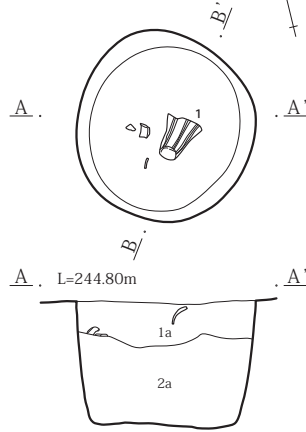


第49図 8区土坑(1)

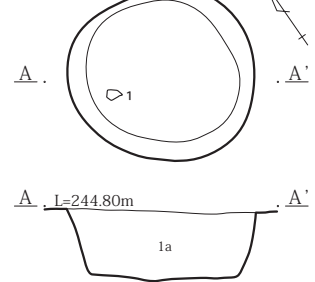
10号・11号土坑



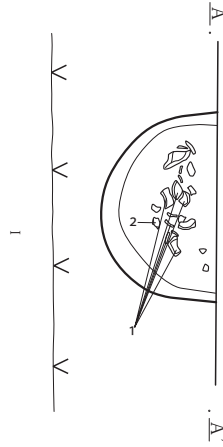
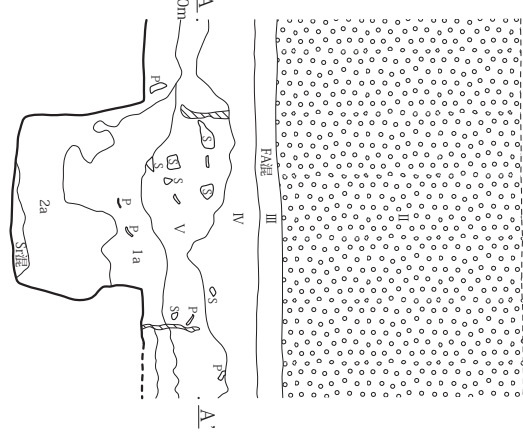
12号土坑



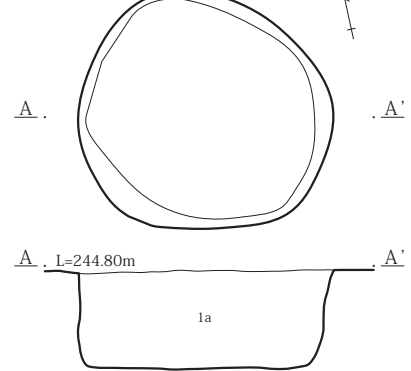
14号土坑



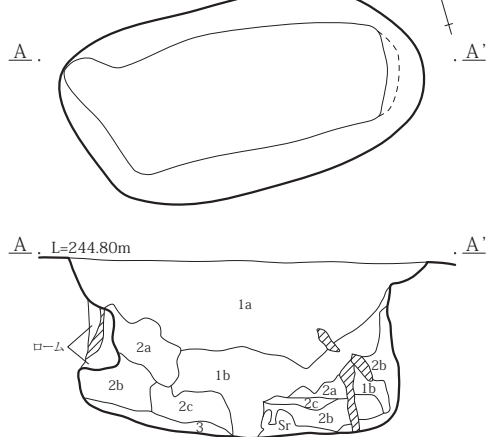
13号土坑



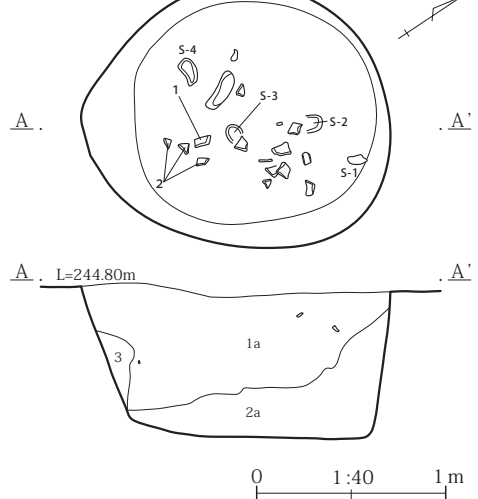
16号土坑



17号土坑



18号土坑

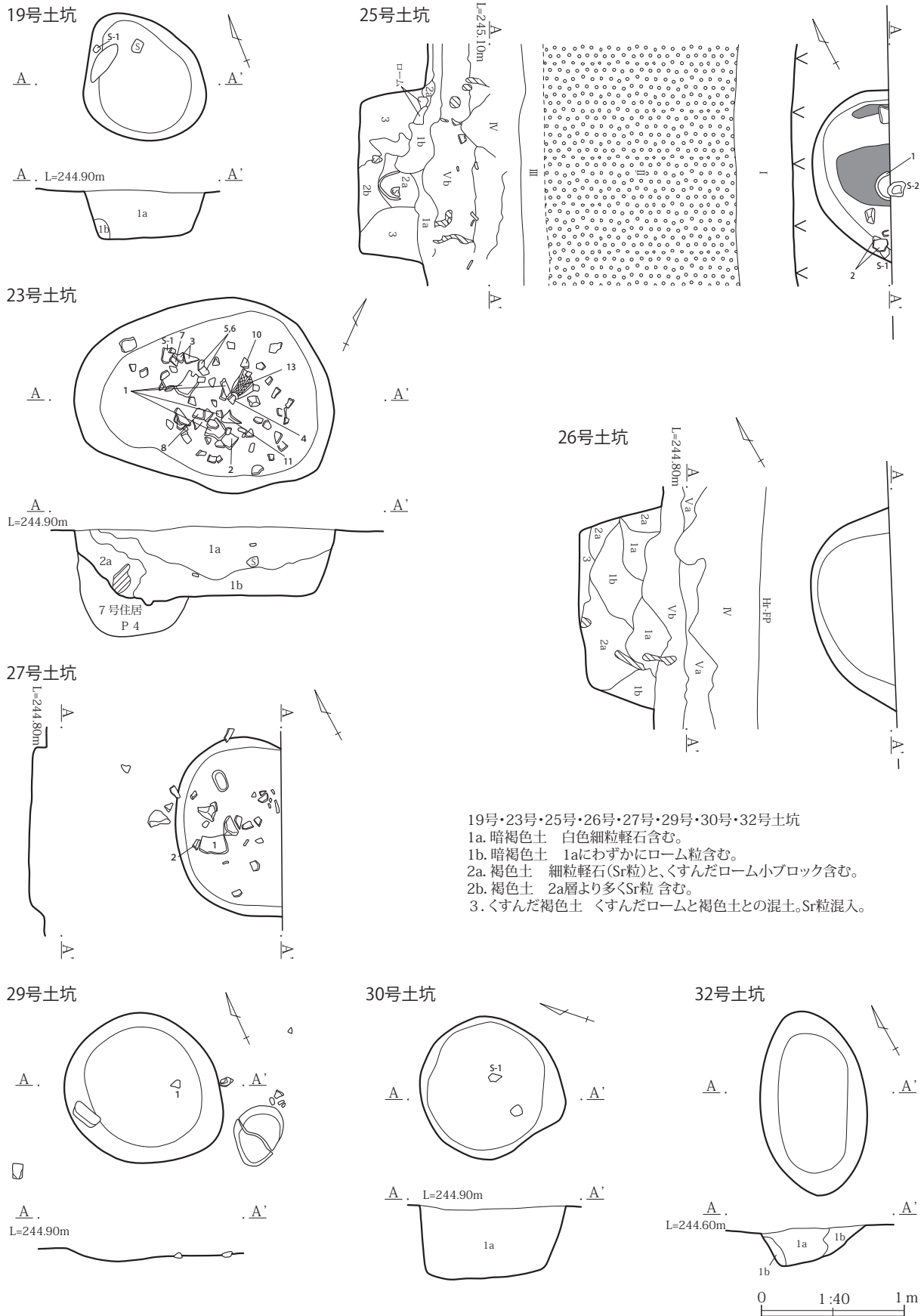


10号～14号・16号～18号土坑

- 1a. 暗褐色土 白色細粒軽石含む。
- 1b. 暗褐色土 1aにわずかにローム粒含む。
- 2a. 褐色土 細粒軽石(Sr粒)と、くすんだローム小ブロック含む。
- 2b. 褐色土 2a層より多くSr粒含む。
- 2c. 褐色土 2aよりロームブロック多く含む。
- 3. くすんだ褐色土 くすんだロームと褐色土との混土。Sr粒混入。

0 1:40 1m

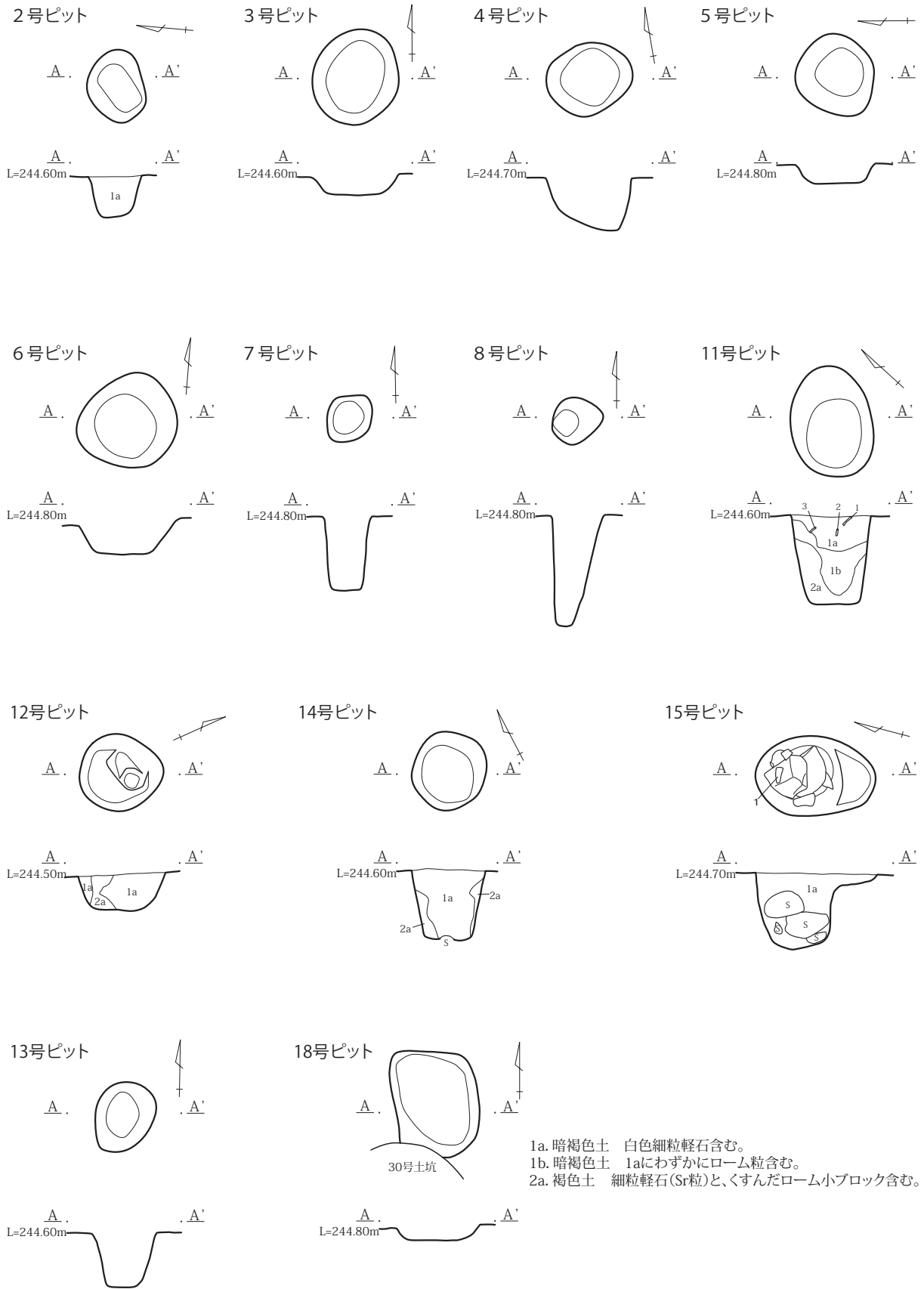
第50図 8区土坑(2)



19号・23号・25号・26号・27号・29号・30号・32号土坑
 1a. 暗褐色土 白色細粒軽石含む。
 1b. 暗褐色土 1aにわずかにローム粒含む。
 2a. 褐色土 細粒軽石(Sr粒)と、くすんだローム小ブロック含む。
 2b. 褐色土 2a層より多くSr粒含む。
 3. くすんだ褐色土 くすんだロームと褐色土との混土。Sr粒混入。

第51図 8区土坑(3)

第5章 第4面の検出遺構



第52図 8区ピット

第6節 9区検出遺構

1. 竪穴住居

平成15年度に調査を実施した。調査区中央付近で3軒の住居を検出した。1号住居は単独住居であるが、2号、3号住居は重複し、2号住居が3号住居を掘り込んでいた。3号住居は、大半が2号住居に壊され、遺物も出土していない。

1号住居（遺構：第55・56図、PL25、遺物：土器第2分冊第27図、PL12、石器第3分冊第8図、PL4）
確認状況：調査区中央付近で単独で検出した。

位置：Cb・Cc-64・65 **重複**：単独 **形状**：北辺がやや短い長方形 **規模**：長軸6.16m、短軸4.48m、深さ43cmを測る。 **面積**：21.64㎡ **方位**：N-3°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：各コーナー寄りで4本検出し、南北辺の距離が長いので東西壁に沿うよう中央部に各1基所在したと考えられ、6本柱穴であったと考える。 **床面・掘方**：掘り方に20cmほどローム混土を入れて踏み固め床面としている。 **埋没土**：レンズ状の堆積が観察されることから自然埋没と考える。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：北寄り中央 **形状**：10～20cm前後の礫7石が方形に置かれ、1の深鉢が脇に埋設される。 **規模**：礫及び深鉢までの間で長軸67cm、短軸37cmを測る。 **埋没土**：小礫含む。焼土は微量。

遺物：土器 出土点数は少なく、住居内から縄文前期の小破片が散乱した状態で出土。1の炉埋設土器は縄文時代前期前葉である。 **石器** 出土点数は20点を数え、1の縦長の石匙や磨製石斧、スクレイパーなどが出土している。

所見：炉埋設土器から、縄文時代前期前葉の長方形を呈する単独住居である。

2号住居（遺構：第57図、PL26、遺物：土器第2分冊第28図、PL12、石器第3分冊第8図、PL4）
確認状況：調査区中央付近で検出した。周囲から南

側に土坑群が展開する。3号住居を掘り込んで構築される。確認面から床面まで浅い。

位置：Bt・Ca-61・62 **重複**：3号住居を掘り込む。
形状：楕円形 **規模**：長軸3.78m、短軸3.67mを測り、深さ8cmと浅い。 **面積**：8.35㎡ **方位**：N-2°-E **周溝**：全周 **柱穴**：未確認 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：確認面から床面まで浅いため不明である。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 40cm前後の大礫を4石用いて方形に組む。 **規模**：長軸85cm、短軸50cmを測り、火床面は長軸37cm、短軸18cmを測る。 **埋没土**：確認面が浅く、埋没土はわずかであったが、火床面は焼土化が顕著であった。

遺物：土器 出土点数は300点近くを数え、縄文時代中期後半の破片が占めるが、縄文時代前期前葉の土器片もわずかに混在する。住居南辺の周溝内脇から2の縄文時代中期後半の埋甕出土。その他にも、炉西側に14、15の縄文時代中期後半の深鉢底部が正位で出土した。 **石器** 出土点数は36点を数え、打製や磨製石斧の他、軽石製の6の垂飾や7の砥石状の石製品が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の楕円形状を呈する住居である。

3号住居（遺構：第58図、PL26）

確認状況：2号住居と周辺部の土坑と同時に確認し、大半が2号住居に壊され、残った北側部分も土坑に切られるなど調査できた範囲はわずかであった。

位置：Bt・Ca-61・62 **重複**：2号住居、13号・21号土坑に掘り込まれる。 **形状**：隅丸長方形を呈すると考える。 **規模**：長軸4.92m、短軸3.25mを測り、深さ8cmと浅い。 **面積**：(12.90)㎡ **方位**：N-6°-W **周溝**：未確認 **柱穴**：2本 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：確認面から床面まで浅いため不明。

炉：未確認

遺物：遺物はほとんど出土していない。

所見：大半が2号住居及び土坑に切られ、掘り込み

も浅く、遺物の出土もないことから時期判定は難しい。住居形状からは、1号住居と同じ縄文時代前期の住居の可能性が考えられる。

2. 土坑（遺構：第59～63図、PL27～34、遺物：土器第2分冊第29～32図、PL13・14、石器第3分冊第8・9図、PL4・5）

調査区全体に分布が見られ60基の土坑を検出した。土坑分布は、北側はやや薄く、南半は集中する傾向がある。南半の土坑群は8区へとつながる。

各土坑の位置や計測値等は一覧表を参照していただき、ここでは特徴的な事項を中心に記載する。

土坑の分布としては、1号住居北側から調査区北端にかけて長円形の土坑群が集中して検出され、2号・3号住居付近から8区境の南半には円形土坑が集中する傾向が見られた。北半の長円形土坑は、長軸は100～150cm、幅は70cm前後を測り、4号・5号・9号土坑を除く1号から12号の9基が南北方向を軸に並ぶ。掘り込みは、3号を除き浅めである。また、調査区中央の18号土坑も形状が似ている。円形土坑では、1mを越える大型土坑を14基検出した。大型土坑の分布は、北半では9号・17号・21号・23号・24号土坑が散在していたが、南半では29号・30号・40号・41号土坑、及び28号・37号・38号・42号・45号土坑がそれぞれ近接して検出できた。掘り込みの深い土坑に大型土坑とした9号・24号・29号・30号・40号土坑の5基が入るが、それ以外の土坑で掘り込みの深さが60cmを越えている土坑には14号・16号・32号・34号・35号・39号・47号～49号・60号土坑の10基がある。また、断面形状で、9号・31号土坑はやや袋状に側壁がわずかにハングする土坑や16号・24号・29号・52号土坑等のように壁画が垂直又は断面長方形状に掘り込まれる土坑もある。遺物を出土した土坑は、5号・13号・17号・21号・32号・34号・36号・40・42号・47号・53号土坑がある。その中で47号土坑内から出土した土器片は接合の結果器高80cmを越える大型深鉢となった。出土状況は、土坑内に詰め込まれた状態で出土し、人為的に埋設

されたり、置かれたと状況ではなかった。また、同破片は53号土坑内出土点数片とも接合した。

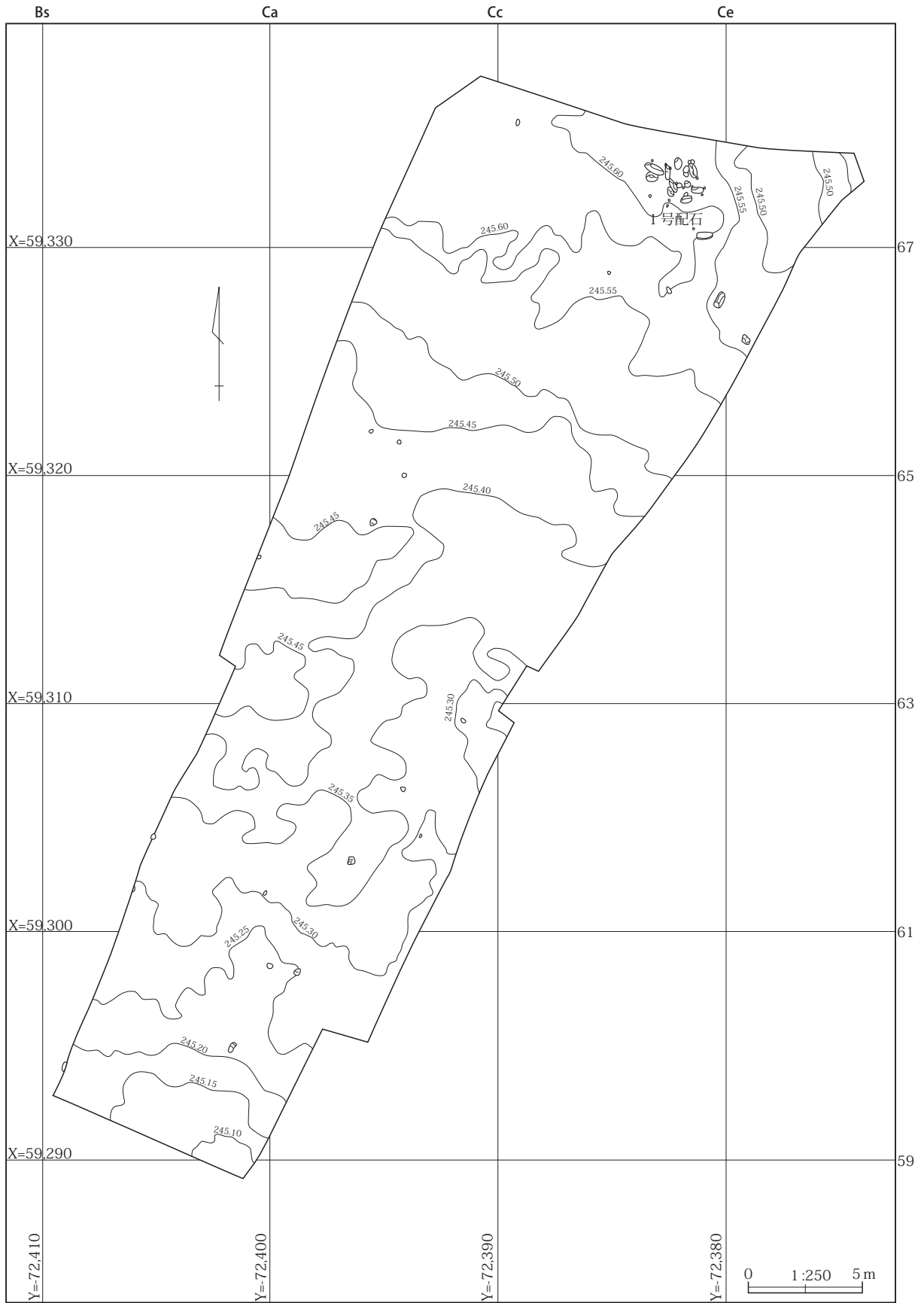
3. 配石遺構（遺構：第64図、PL23、遺物：土器第2分冊第31図、PL14）

基本土層IV層黒褐色土層を重機により取り除き、色調の変わるV層中の遺構・遺物の確認作業を行った。その際に調査区北端部で礫が露出し始め、周辺部の精査及び掘り下げを行ったところ80cm前後の大礫がまとまって出土し、南東部に同じ大きさの大礫が点在して確認でき、調査段階では3.5面として配石遺構の調査を行った。この面では配石遺構以外の遺構は検出できなかった。

位置：Cd-66・67グリッド付近に大型礫が分布し、礫の集中箇所は、Cd-67グリッド内にある。礫は最大で長さ80cm、幅30cmを測り、付近から類似の礫が6石出土している。この6石は間隔を置きながら区画を意識して置かれているようにも見られる。その礫集中の南に大型礫が2石点在する。配石内から焼土の集中や、土器片等は少なく1、2の2点を図化した。

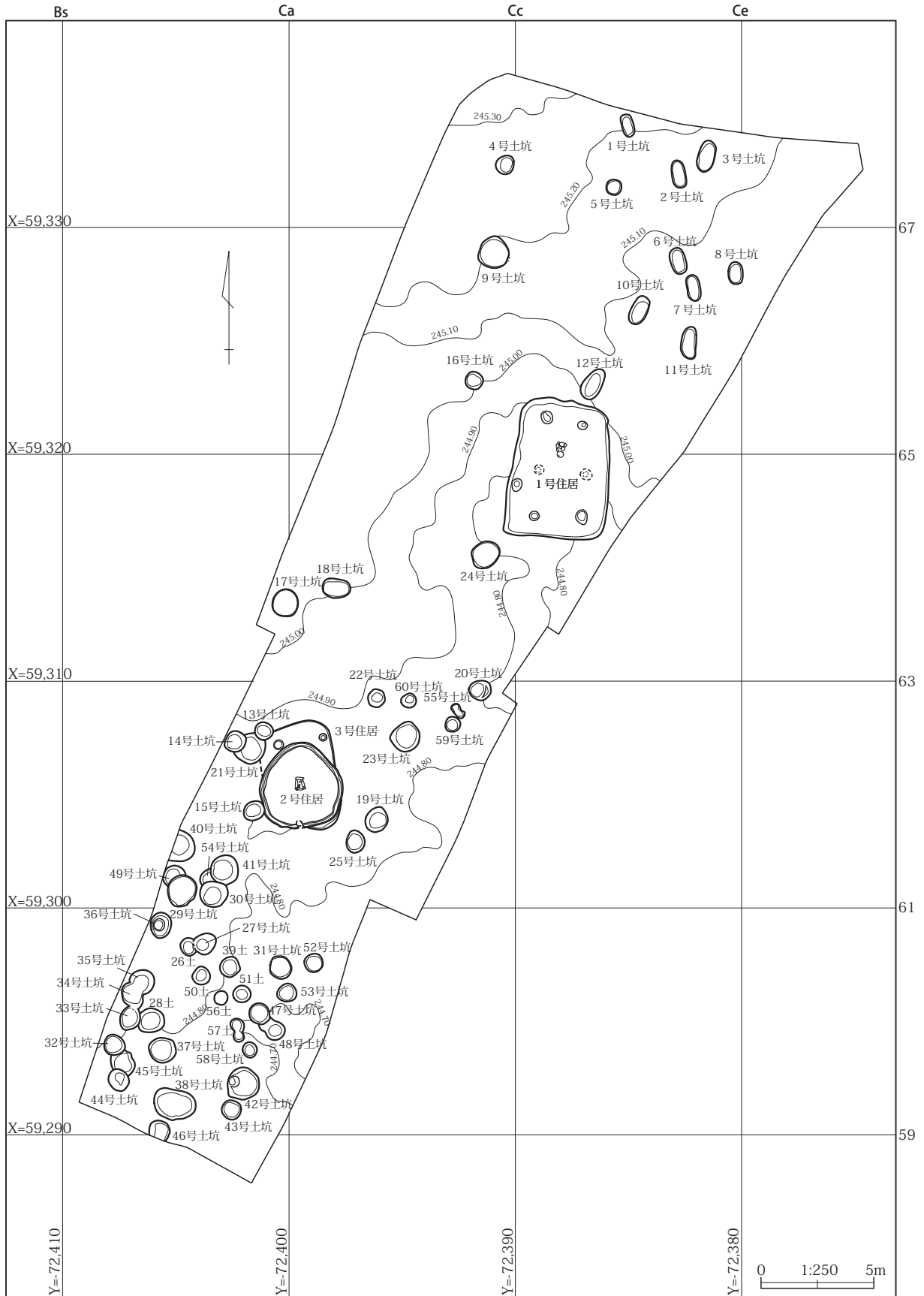
4. 遺構外出土遺物（遺物：土器第2分冊第33～35図、PL15・16、石器第3分冊第9図、PL5）

基本土層第IV層中よりわずかに遺物が出土し、配石遺構の礫群を検出したV層上面を調査段階では3.5面として周辺部の精査を行った。その際に遺構は検出されなかったが縄文時代中期の遺物中心に土器片が出土し、その中に7の土偶が出土した。土偶は板状を呈し、突き出た乳房があることから裸の女性を模したと考えられる。背中には何か背負っていたような剥離痕が確認できた。周辺部の精査を行ったが、遺構は検出できなかった。3.5面の調査後、更に掘り下げを行いVI層中より南半で遺構の検出と共に土器量が増加した。時期的には大半が縄文時代中期の破片であり、縄文時代前期破片が若干混ざる程度であった。

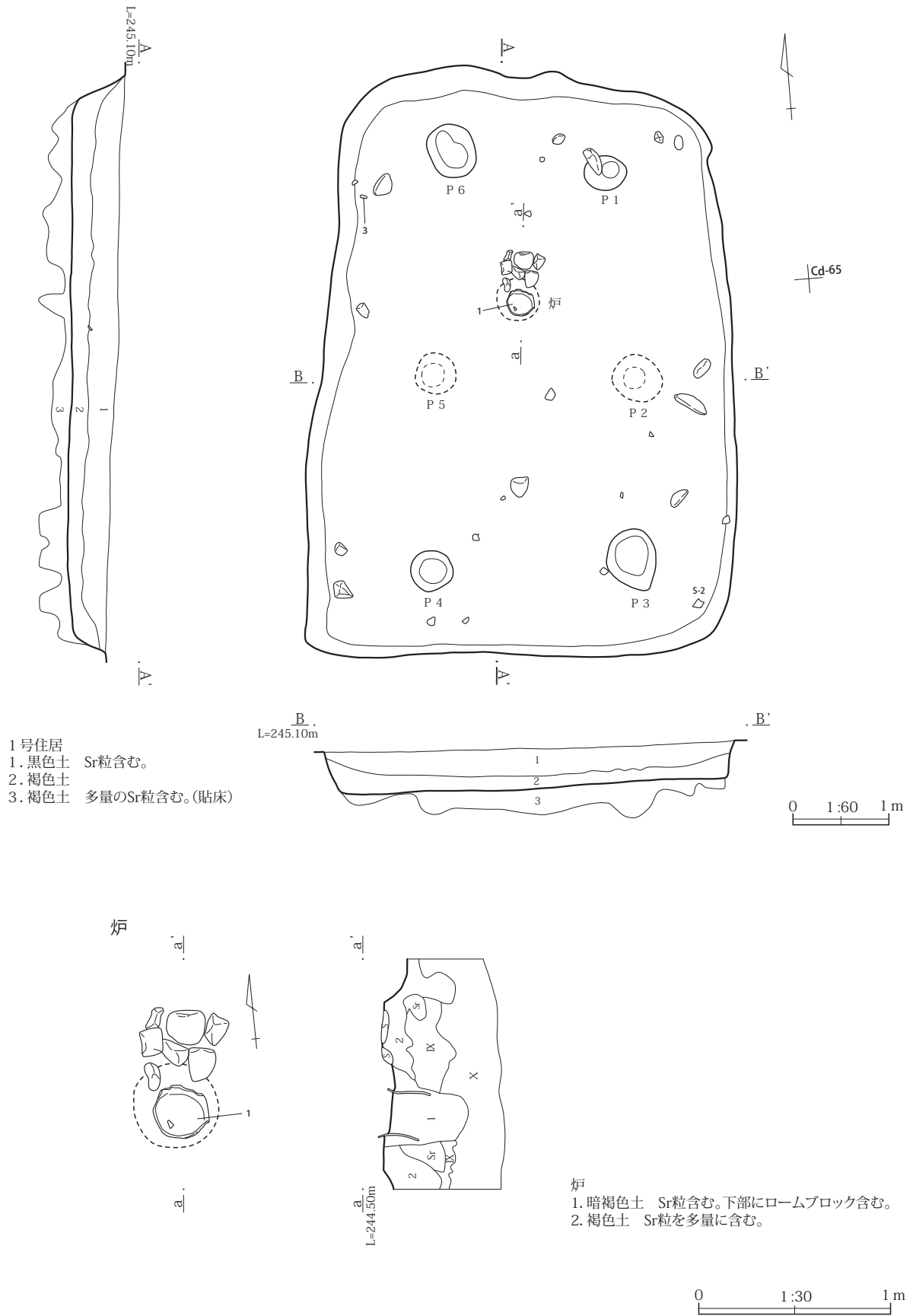


第53図 9区第4面上層全体図

第5章 第4面の検出遺構

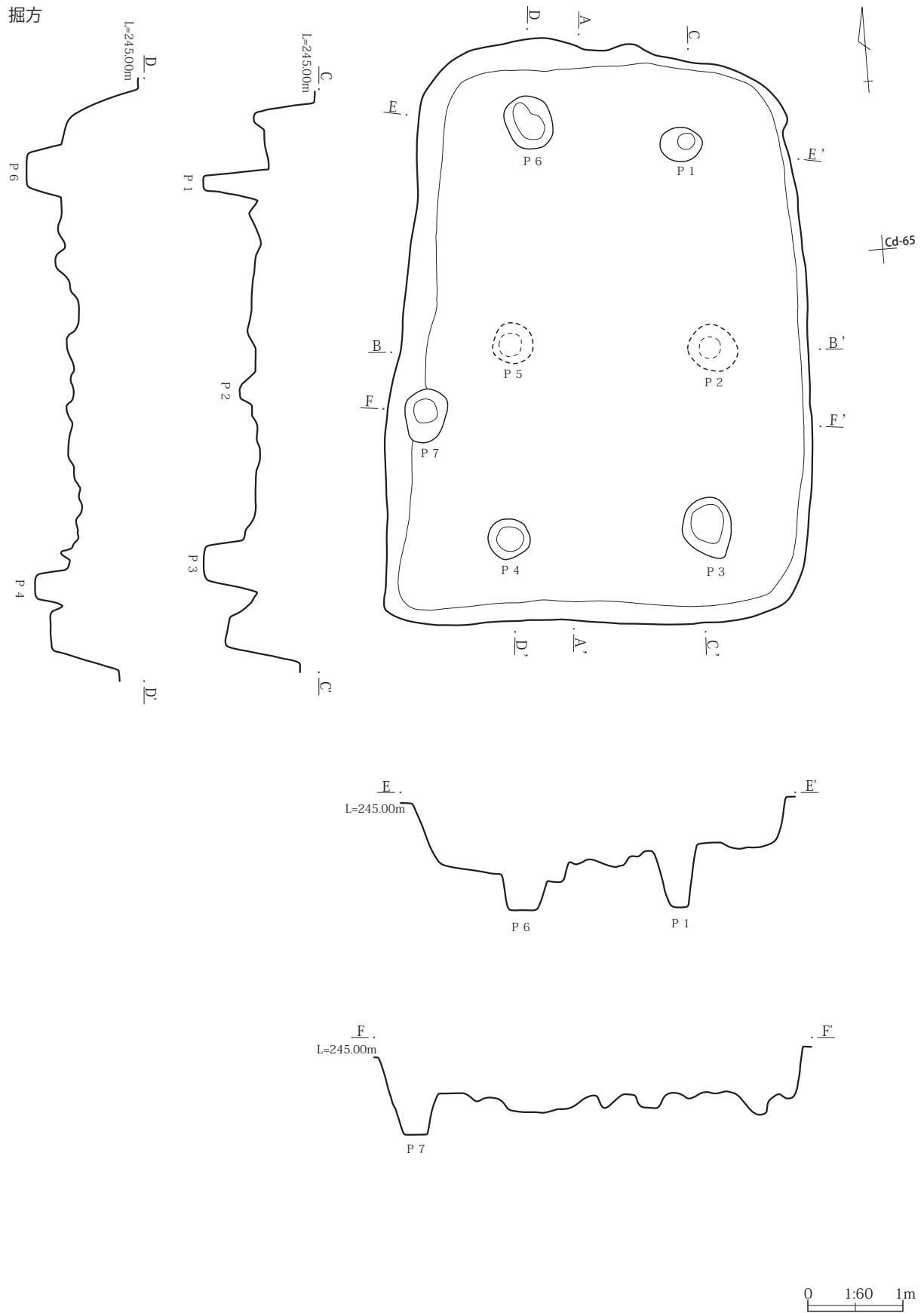


第54図 9区第4面全体図

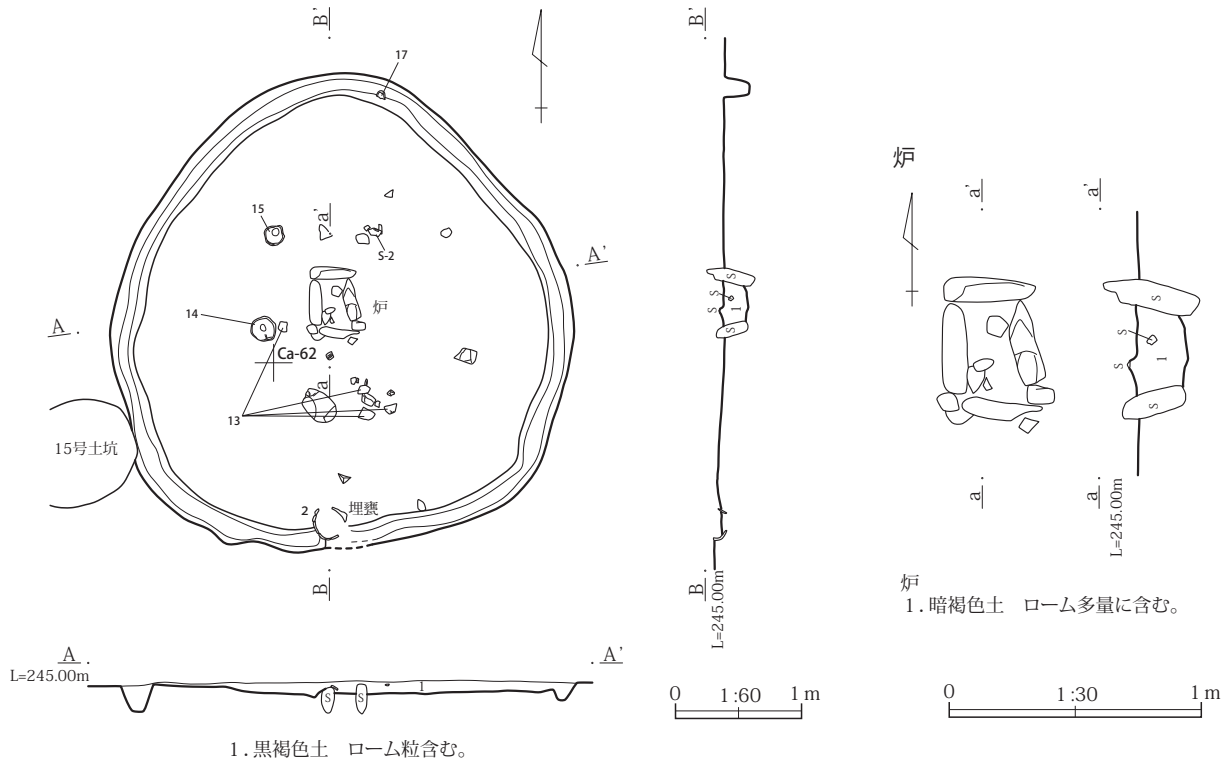


第55図 9区1号住居(1)

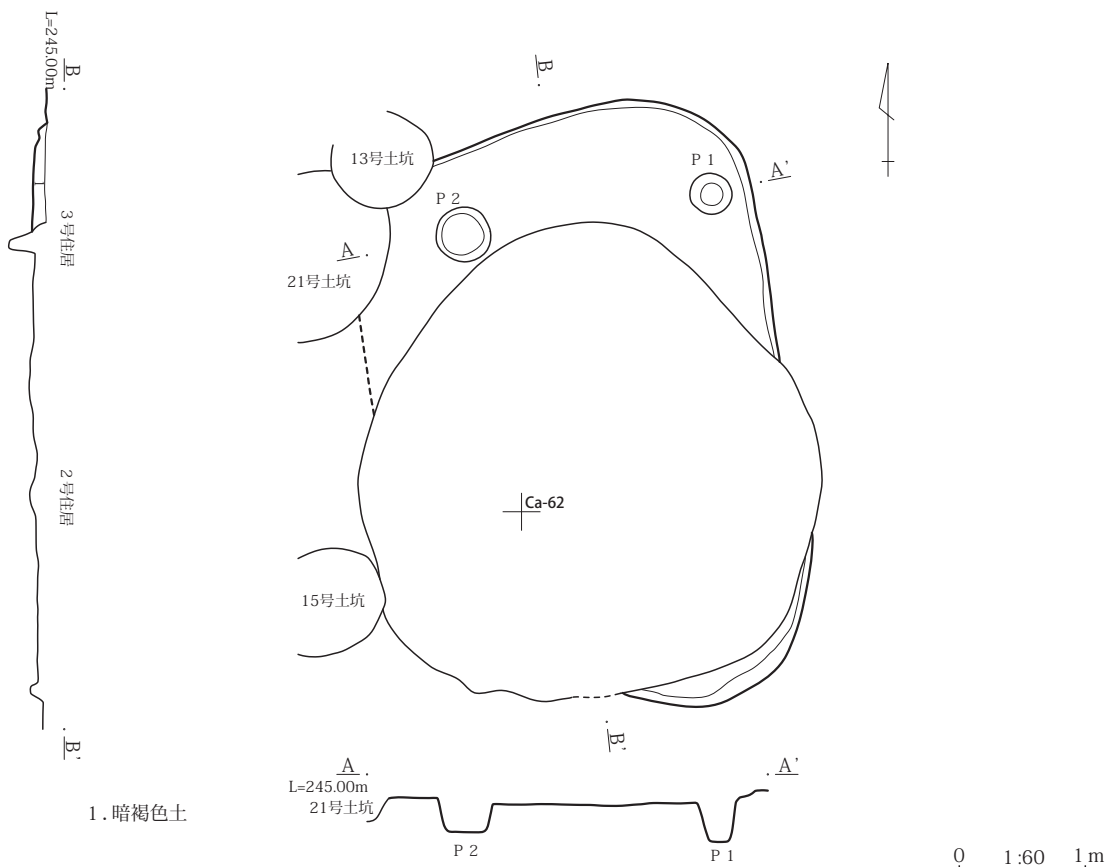
第5章 第4面の検出遺構



第56図 9区1号住居(2)

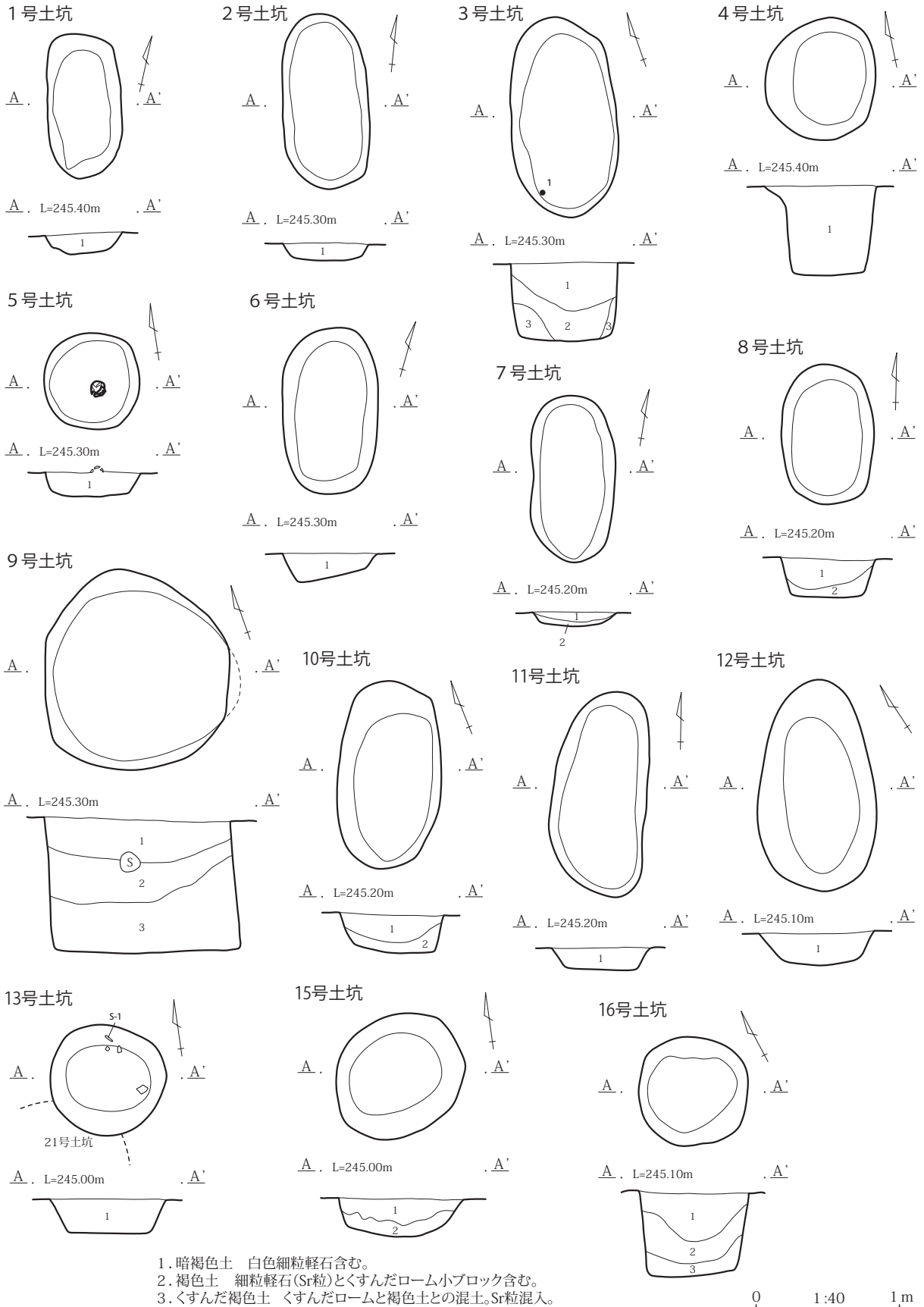


第57図 9区2号住居

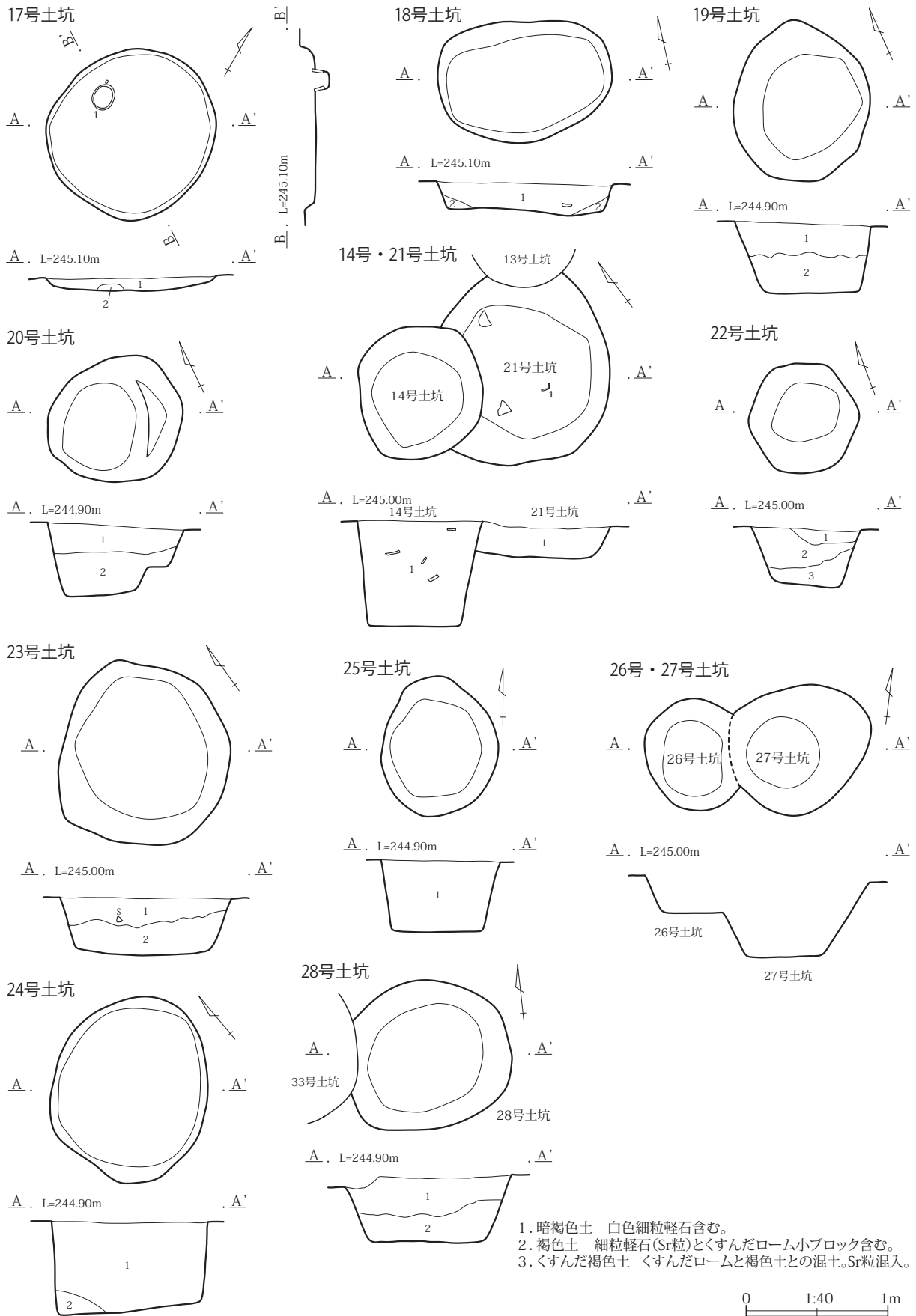


第58図 9区3号住居

第5章 第4面の検出遺構



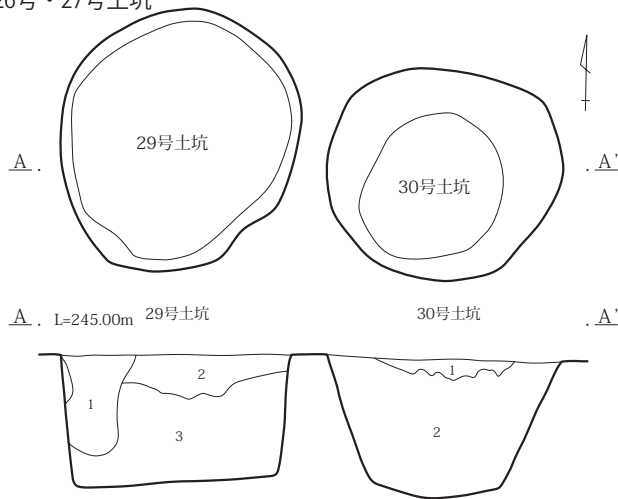
第59図 9区土坑(1)



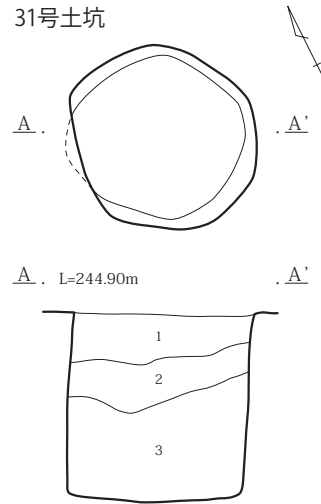
第60図 9区土坑 (2)

第5章 第4面の検出遺構

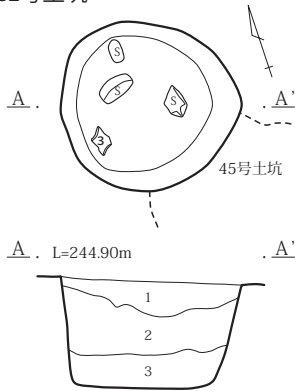
26号・27号土坑



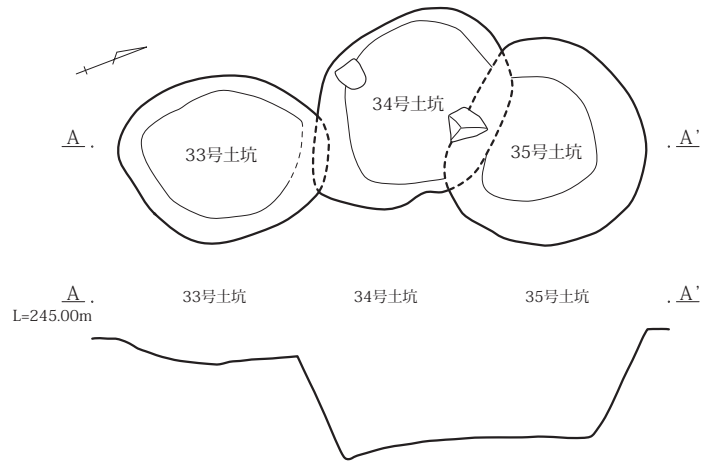
31号土坑



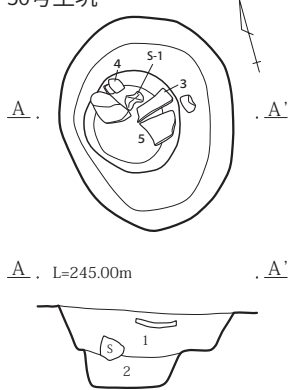
32号土坑



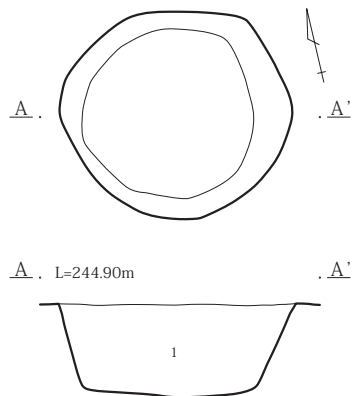
33号・34号・35号土坑



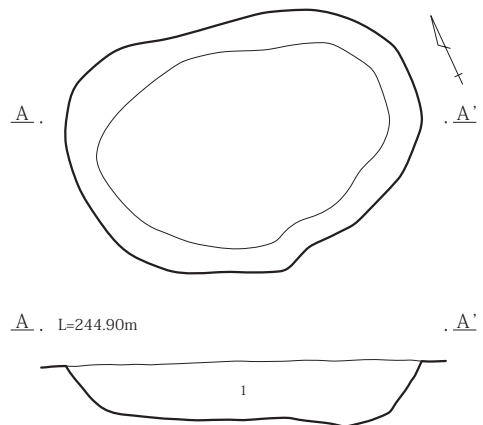
36号土坑



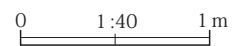
37号土坑



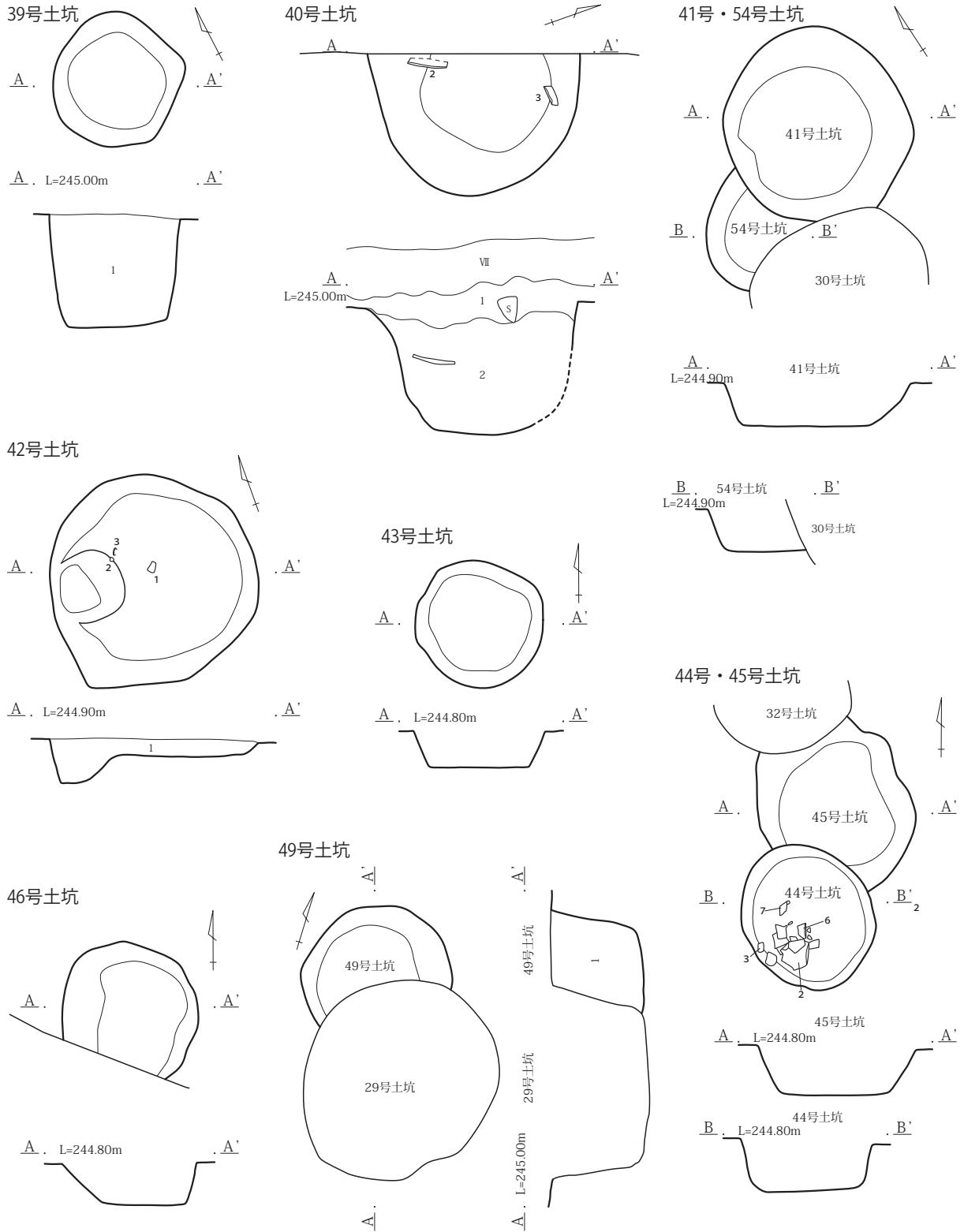
38号土坑



1. 暗褐色土 白色細粒軽石含む。
2. 褐色土 細粒軽石(Sr粒)とくすんだローム小ブロック含む。
3. くすんだ褐色土 くすんだロームと褐色土との混土。Sr粒混入。



第61図 9区土坑(3)

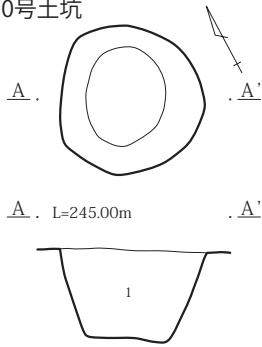


1. 暗褐色土 白色細粒軽石含む。
2. 褐色土 細粒軽石(Sr粒)とくすんだローム小ブロック含む。
3. くすんだ褐色土 くすんだロームと褐色土との混土。Sr粒混入。

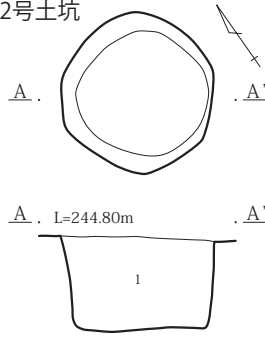
第62図 9区土坑(4)

第5章 第4面の検出遺構

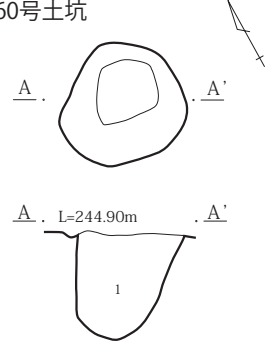
50号土坑



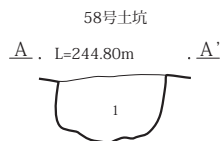
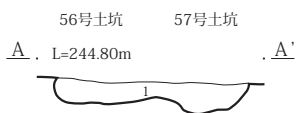
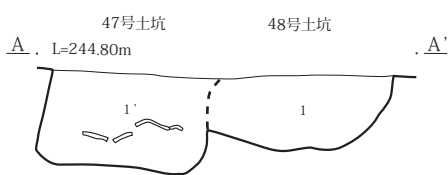
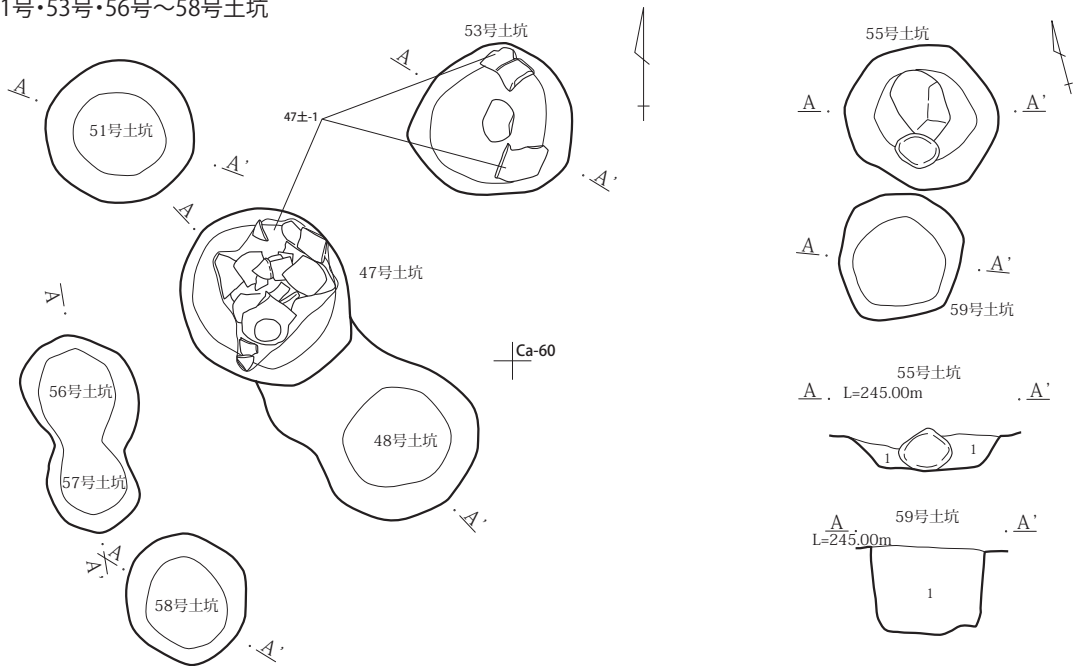
52号土坑



60号土坑



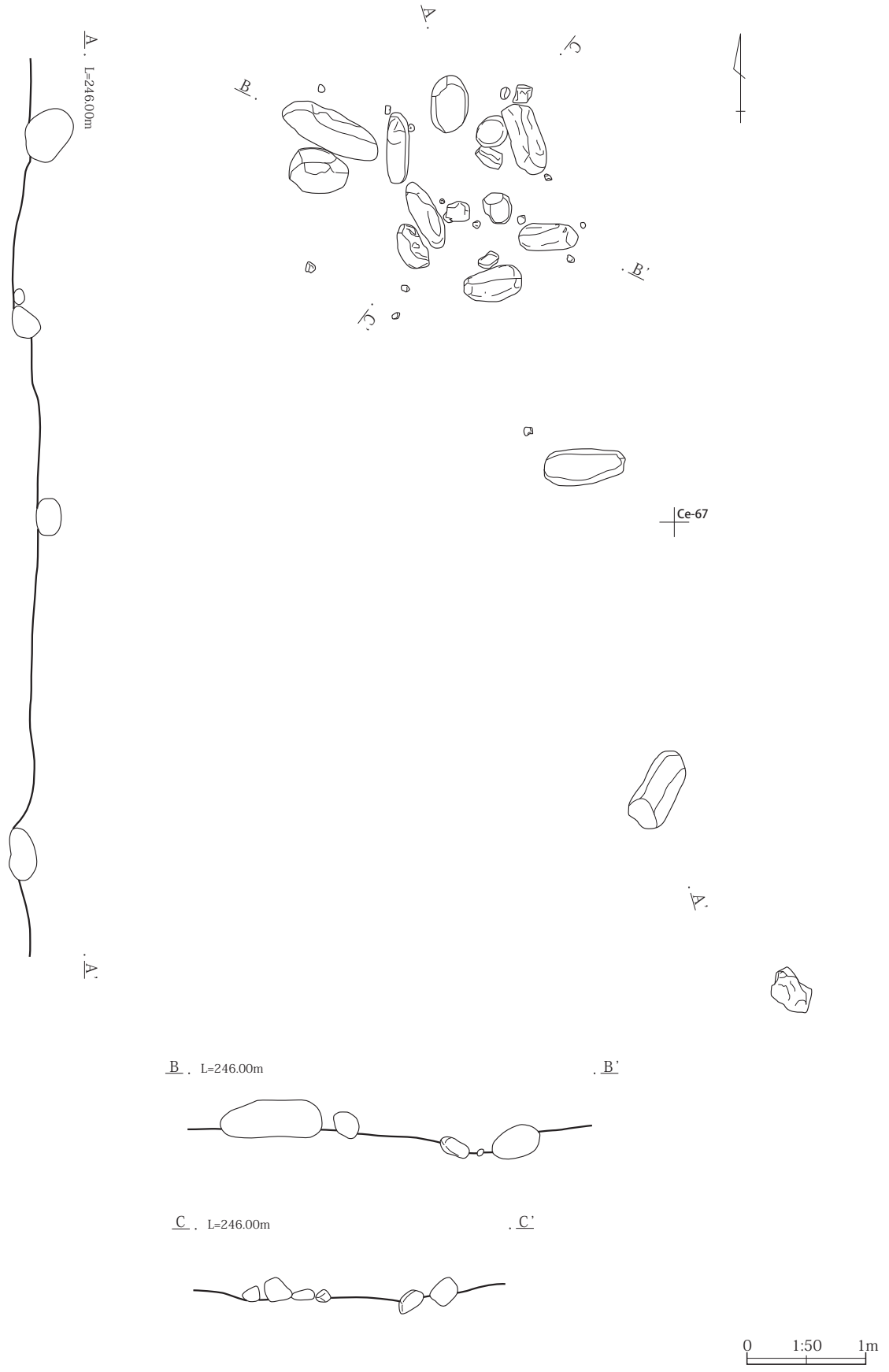
47号・48号・51号・53号・56号～58号土坑



1. 暗褐色土 白色細粒軽石含む。
1'. 土器片多量に含む。

0 1:40 1m

第63図 9区土坑(5)



第64図 9区1号配石

第7節. 11区検出遺構

1. 竪穴住居

平成16年度から平成17年度にかけて調査を実施した。平成16年度は1号住居から35号住居まで調査を行い、平成17年度に36号住居から56号住居まで調査を行った。調査区全面に住居は展開し、欠番を含め56軒の竪穴住居を検出した。その中で分布の傾向としては、南の9区方向には薄くなる傾向が見られ、北半は全体的に濃密に分布し12区へとつながる。

住居を検出するにあたり、基本土層IV層中より出土する土器や石器等の遺物の包含層調査を行いながら掘り下げを行い、IV層、V層、VI層中の各20～30cmの厚さの中では遺構の輪郭は見えず、色調の変わるV層上面でピット群を検出したが、木の根的な物も多く集落の様相は確認できなかった。V層上面の調査終了後、更に20cm前後掘り下げ、VI層のローム漸移層辺りから遺物の集中が見え始め、うっすらと遺構の輪郭が確認できるようになった。しかし、基本土層V層からVI層にかけて掘り込まれた住居も多く、遺構確認の際に炉や周溝・ピット等が露出してしまう住居もあった。調査は調査区北辺の1号住居より掘り下げを開始した。重複の激しい住居では遺物の出土も多く、床面や立ち上がりは不明瞭であり、サブトレンチを入れ確認した。住居の時期としては縄文時代前期から後期までと幅広く、中心は縄文時代中期後半であった。

1号住居（遺構：第69～71図、PL37、遺物：土器第2分冊第36～40図、PL17～19、石器第3分冊第10・11図、PL6）

確認状況：調査区北辺で検出した。周辺部は基本土層V層中より大量の土器片が散布していたため包含層調査を行っていたが、徐々に住居の輪郭が見え始め、1号住居としてベルト設定とサブトレンチ調査から開始した。

位置：Cp～Cr-94・95 **重複**：4号住居を掘り込み113号土坑に掘り込まれる。 **形状**：楕円形と考え

るが、一部直線的な辺も見られ多角形住居の可能性も考えられる。 **規模**：長軸6.26m、短軸6.12m、深さ35cmを測る。 **面積**：25.83㎡ **方位**：N-36°-E **周溝**：南辺と北西辺の一部が切れる。南辺の切れ間はP1・P2配置から入口部と考えられる。 **柱穴**：壁沿いに巡る。 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。炉の北西で焼土ブロックの入る底面の焼けた不定形の落ち込みを確認し、焼土遺構として調査を行った。 **埋没土**：埋没土全体に大量の土器片が出土し、廃棄された状況が窺える。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：中央 **形状**：20～60cmの礫で長方形に組まれる。北辺の60cm大の礫は被熱により破断。炉の中央部に深鉢胴部下半を埋置する。

規模：長軸138cm、短軸102cmを測り、火床面は長軸112cm、短軸70cmを測る。 **埋没土**：上部に土器片多量に出土。火床面は焼土ブロック散乱。

遺物：土器 出土点数は住居中央部を中心に2,400点を数える大量の土器片が出土した。縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。炉の南西部に大型破片が集中し、25や40の深鉢は床面よりやや浮いた状態で出土した。40の下部より29の小振りの深鉢完形が出土している。また、炉内から破片が多く出土し、30の炉体土器は小破片が開いた状態で出土し、人為的に壊されたと考えられる。 **石器** 出土点数は395点を数え、埋没土中より多く出土し、311点の剥片と共に打製石斧が23点出土した。その他に石鏃、石錐、石匙、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、磨り面を有する凹石等が出土している。また、炉石として円盤状の台石や12cm程のスクレイパーが転用され出土した。

所見：遺物の出土状況から住居埋没途中で遺物廃棄場所となったと考える。出土土器の主体は中期後半が中心である。出土土器から住居の時期は、縄文時代中期後半と考えられる。

2号住居（遺構：第72・73図、PL38、遺物：土器第2分冊第41～45図、PL19～21、石器第3分冊第11・12図、PL6・7）

確認状況：調査区北辺で確認した。1号住居に隣接し、1号住居同様、V層中より土器片が大量に散布していたため包含層調査を行い、輪郭が見え始めた段階でベルト設定を行い2号住居として調査を開始した。調査中に北辺で礫の入った土坑状の落ち込みを確認した。敷石や炉石等は確認できなかったが柄鏡形住居の残骸とも考えられ同時調査を行った。

位置：Co・Cp-94・95 **重複：**26号住居と接する。
形状：楕円形(柄鏡住居か) **規模：**長軸7.28m、短軸5.72m、深さ15～23cmを測る。 **面積：**26.99㎡ **方位：**N-154°-W **周溝：**未検出 **柱穴：**住居南西部に集中して検出した。しかし、周辺部は土坑・ピットが多数検出され、本住居の床面中で検出されたピットも住居に伴わない可能性がある。
床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。
埋没土：埋没土全体に土器片が出土し、廃棄された状況が窺える。

炉：明確な石組や土器埋設や焼土集中などの炉的な痕跡は見られなかった。

遺物：住居中央付近の床下から上層にかけ土器片や石器製品の濃厚な分布が見られ、住居埋没途中で廃棄されたと考える。土器 出土点数は2,100点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。1や3、12のやや大振りの深鉢は、北辺の連結部と考える付近より出土している。石器 出土点数も277点を数え、剥片が207点を占め、次に打製石斧37本と多く出土している。石鏃、磨石、凹石、RF等が出土し、52の加飾された石皿等が出土している。

所見：遺物の出土状況から、住居埋没途中で遺物廃棄場所となったと考える。出土土器の主体は中期後半が中心である。出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

3号住居(遺構：第74・75図、PL38、遺物：土器第2分冊第46図、PL21、石器第3分冊第12図、PL7)
確認状況：調査区北寄り中央で検出した。プランはローム面付近まで不明瞭であったが、周溝及び柱穴

炉を確認し住居範囲を確定した。

位置：Cn・Co-93・94 **重複：**21号住居、20号・21号土坑に掘り込まれる。 **形状：**楕円形 **規模：**長軸5.61m、短軸5.15m、深さ16cmを測る。 **面積：**20.09㎡ **方位：**N-23°-W **周溝：**残存範囲では全周する。 **柱穴：**壁寄りに巡り、近接する柱穴も見られる。 **床面・掘方：**地山を踏み固めて床面としている。炉の周辺部は硬化面が明瞭であった。
埋没土：確認面が床面近くまで達し、部分的に埋没土が観察できた。埋没土中にロームブロック等が混入することから人為的な埋め土と考える。

炉：石囲埋甕炉 **位置：**中央 **形状：**5～45cm大の礫で方形に組まれる。 **規模：**長軸76cm、短軸74cmを測る。火床面は50cm前後を測り、炉中央に深鉢を埋置する。掘方は、80cm程の方形状を呈し、礫は埋め込まれる。 **埋没土：**火床面に焼土の広がりを確認し、掘方埋没土中に焼土ブロックが混ざり、作り替えの可能性が考えられる。

遺物：遺構確認で床面近くまで掘り下がったため床面上からわずかに破片類が出土した。土器 出土点数は120点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。炉周辺より1や2の浅鉢や4の深鉢口縁等の破片が出土し、炉体土器として深鉢底部の11が上で10が下に重なって出土している。石器 出土点数は22点を数えた。スクレイパーや打製石斧が出土し、S5の粗粒安山岩製の凹石が炉石に転用されていた。

所見：短い辺が巡り八角形住居の可能性も考えられる。住居の時期は、出土土器から縄文時代中期後半と考えられる。

4号住居(遺構：第76・77図、PL39、遺物：土器第2分冊第47図、PL22、石器第3分冊第12図、PL7・8)
確認状況：調査区北寄りの東壁に1/2が掛かり検出した。残りは調査区外へ。4面調査開始に伴い東壁沿いにトレンチを入れた段階で最初に確認した住居。V層中より土器片大量に出土。

位置：Cq・Cr-93・94 **重複：**1号住居、601号・

第5章 第4面の検出遺構

602号土坑に掘り込まれる。**形状**:楕円形 **規模**:長軸7.2m、短軸(3.4)m、調査区東壁で深さ51cmを測った。**面積**:(17.77)m² **方位**:N-10°-E **周溝**:調査範囲では全周する。**柱穴**:壁のやや内側を巡り、5本検出した。**床面・掘方**:地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**:覆土上半は他遺構の埋没土の可能性はある。下半は単一土によって埋没していることから自然埋没と考える。

炉:石囲埋甕炉 **位置**:ほぼ中央か **形状**:20~40cm大の礫で方形に組まれる。火床面中央に深鉢体部下半を埋置する。**規模**:長軸118cm、短軸(86)cmを測る。火床面は長軸86cm、短軸(65)cmの範囲で中央に深鉢が埋設されている。**埋没土**:上層に土器片や小礫が混じり、中層から焼土ブロックも大量に混在する。礫は被熱により破断している。

遺物:住居中央付近の床下から上層にかけ遺物の濃厚な分布が見られ、住居埋没途中で廃棄された遺物と考える。土器 出土点数は975点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。住居中央やや西寄りでは2の深鉢底部や1の炉体土器として転用された深鉢が出土している。また、18~20は縄文時代前期の土器片であり、周辺部より混入したと考える。石器 出土点数は184点を数え、剥片が149点を占める。スクレイパーや打製石斧、石皿等が出土し、多孔石が炉石に転用されていた。

所見:1/2のみ調査できた住居であった。遺物の出土状況から、住居埋没途中で遺物廃棄場所となったと考える。住居の時期は、炉体土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

5号住居(遺構:第78・79図、PL40、遺物:土器第2分冊第48~50図、PL22~24、石器第3分冊第12・13図、PL8・9)

確認状況:調査区北寄りの東壁に一部が掛かり検出した。残りは調査区外へ。4面調査開始に伴い東壁沿いにトレンチを入れた段階で確認した住居である。V層中より土器片大量に出土し埋没途中の段階

より投棄された状況が窺える。

位置:Cp・Cq-91・92 **重複**:単独 **形状**:幅のない六角形状を呈する。**規模**:長軸7.0m、短軸(4.48)m、深さ45~53cmを測る。**面積**:(22.24)m² **方位**:N-22°-E **周溝**:調査区内全周 **柱穴**:壁際に巡り、各コーナー一部内側に配置される。**床面・掘方**:地山を踏み固めて床面としている。東壁に接しP5を検出したが、形状が大きく柱穴ではなく床下土坑か。**埋没土**:レンズ状に近い堆積が観察できるが、土器片の混入が多く、人為的な埋没土の可能性が考えられる。

炉:石囲埋甕炉 **位置**:やや北寄り **形状**:南壁を除き、三方を「コ」の字形に68cm程の大礫と30cm程の礫で組む。**規模**:長軸100cm、短軸80cmを測る。火床面は長軸70cm、短軸40cmを測り、中央に深鉢を埋置する。火床面に焼土散乱土器片、小礫僅かに含む。**埋没土**:炉石の頭と埋設土器口縁部との差はなく埋没土は不明である。掘方中には焼土ブロックが混ざり、掘り返されたと考える。

遺物:住居中央付近の床から上層にかけ遺物の濃厚な分布が見られ、住居埋没途中で廃棄されたと考えられる。土器 出土点数は2,300点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、中期中葉の破片や縄文時代前期の破片が少量混在する。炉の南に1の深鉢が出土し、逆側に3、南西のP9付近から4などが出土している。炉体土器として2が埋設されていた。

石器 出土点数は379点を数え、剥片は298点を占めた。打製石斧は32点、RF23点が出土している。石鏃、磨製石斧、磨石等が出土している。

所見:埋没土中より多量の遺物が出土し、遺物の廃棄場所となっていたと考える。住居壁及び柱穴配置から六角形住居と考える。出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

6号住居(遺構:第80図、PL41、遺物:土器第2分冊第51図、PL24、石器第3分冊第13・14図、PL9)
確認状況:調査区中央の西壁で検出した住居である。11区の分割調査に伴い、平成16年度において北半分

の調査を行い、次年度に南半分の調査を実施した。
位置: Ci-82・83 **重複**: 405号土坑に掘り込まれる。
形状: 方形か **規模**: 長軸4.6mを計るが、南辺外側に1m程の緩やかに立ち上がりを確認した。短軸(2.4)m、深さ13～15cmを測る。 **面積**: (10.77)
 m² **方位**: N-8°-E **周溝**: 東壁際と南壁のやや内側に回る。 **柱穴**: 未検出 **床面・掘方**: 周溝の内側が播り鉢状に傾斜。 **埋没土**: 北半ではブロック状の堆積が観察でき、人為的な埋没か。
炉: 石囲炉か **位置**: 中央よりやや北で浅い掘り込みと礫の集合を確認でき炉の可能性が考えられる。
遺物: 住居中央から南寄りに分布し、405号土坑周辺部にも集中している。土器 出土点数は840点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在した。1は16年度調査時に断面観察用トレンチを入れた際に出土した。ほぼ完形に近く、縄文時代中期の土器である。その他の土器は住居南寄りに分布し、縄文時代前期の土器片である。石器 出土点数は147点を数え、剥片が116点を占めた。打製石斧や石匙、スクレイパー、磨石、凹石、多孔石等が出土している。
所見: 分割調査であったため全体把握が遅れ、遺物の出土状況や炉の形態が不明瞭になった。方形住居である点や出土土器の主体から縄文時代前期前葉の住居と考えられる。

7号住居 (遺構: 第81・82図、PL41、遺物: 土器第2分冊第52・53図、PL25、石器第3分冊第14図、PL9・10)

確認状況: 調査区中央の東壁に接し検出した住居である。6号住居同様、11区の分割調査に伴い平成16年度において北半分の調査を先行して行い、次年度に南半分の調査を実施した。また、大型の方形土坑である471号土坑と重なり住居形状は不明瞭であった。
位置: C1-81 **重複**: 187号・252号・263号・330号土坑に切られる。 **形状**: 多少直線的な部分も見られるが、円形と考える。 **規模**: 長軸6.84m、短軸(5.24)mを測り、深さは2.5～6.5cmと浅い。 **面積**:

(29.67) m² **方位**: N-27°-E **周溝**: 未検出
柱穴: 壁際に巡り、4本+2本検出した。 **床面・掘方**: わずかに掘方の凹凸が確認でき、地山ロームブロックと暗褐色土との混土を貼床として踏み固めて床面としている。 **埋没土**: 堆積土中及び床面直上から大量の土器片出土することから人為的埋没と考える。

炉: 石囲埋甕炉 **位置**: ほぼ中央 **形状**: 20～30cm前後の自然礫を方形又は楕円形状に組む。

規模: 長軸90cm、短軸85cmを測る。火床面は長軸約70cm、短軸約55cmを測り、中央に土器を埋設する。掘方は、長軸150cm、短軸70cmの大型の楕円形状の掘り込みを持つ。 **埋没土**: 30cm前後のやや扁平の大礫が投げ込まれたようにも、敷かれたようにも見える状態で出土している。

遺物: 遺物は炉の北西を中心に分布する。土器 出土点数は1,176点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在した。炉の北東で1のやや大型の深鉢を中心に3や11の深鉢が重なって出土した。炉内からは18の深鉢底部が炉体土器として埋設されていた。石器 出土点数は178点を数え、剥片が133点を占めた。住居全体に散在し、打製石斧、磨石、多孔石、敲石等が出土している。

所見: 円形を呈する住居であり、出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

8号住居 (遺構: 第83・84図、PL42、遺物: 土器第2分冊第54図、PL26、石器第3分冊第14・15図、PL10)

確認状況: 調査区中央付近で検出し、全掘できた住居である。

位置: Ck・C1-83～85 **重複**: 199号土坑に切られる。
形状: 円形 **規模**: 径ほぼ6m、深さ24cmを測る。北辺に1段上がり、三日月状のテラスを確認した。テラスの最大幅は1mほどを測る。 **面積**: 23.39m²、テラス部分を入れ28.42m² **方位**: N-53°-E
周溝: テラス部分を除き全周する。周溝底面に小ピツ

トを検出。柱穴：壁際に沿う格好で16本のピットが巡る。その中で北壁側のP7、8やP9、10やP11、12は近接し、P14、15とP17が内側に入るなど建て替えが行われた可能性が考えられる。P6は周溝の切れ間に位置し入口施設と考えられる。床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。埋没土：レンズ状の堆積が観察でき自然埋没と考える。

炉：石囲炉 位置：ほぼ中央 形状：北西コーナー部分に40cm大の礫が2石が置かれ、南辺に1箇所礫抜き取り痕の小ピットを検出した。方形に組まれた石囲炉と考える。規模：掘り込み浅く、1辺95cm前後を測る。火床面は70cm四方の方形を呈する。埋没土：くすんだロームと褐色土ブロックの混土が見られることから、人為的な埋没と考える。

遺物：土器 出土点数は521点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在した。石器 出土点数は104点を数え、剥片は84点を占めた。石鏃、磨製石斧、凹石等が出土した。所見：柱穴の検出状況から建て替えの行われた住居と考える。出土土器で住居の時期決定できる土器片は炉内から出土した深鉢体部があり、縄文時代中期後半の住居と考えられる。

9号住居（遺構：第85図、PL42、遺物：土器第2分冊第55図、PL26、石器第3分冊第15図、PL10）

確認状況：調査区中央北よりで検出した。その付近は34・35号住居や土坑等の重複が多く、プラン確認は難しかった。そのためセクションベルトを多く残り、またサブトレンチを入れながら壁面や床面を確認し、最終的には炉の位置で住居の認定を行った。

位置：C1・Cm-85・86 重複：35号住居及び173号土坑に掘り込む。東壁側は不明瞭。形状：各辺が湾曲し、隅丸形状を呈する。規模：長軸5.62m、短軸4.75m、深さ13cmを測る。面積：18.11㎡ 方位：N-12°-E 周溝：南辺のみで小ピットの入った周溝を確認した。柱穴：西壁際から南壁かけて大小のピットを検出した。床面・掘方：掘方に小規模な凹凸が確認でき、これをロームブロック

と暗褐色土の混土を踏み固めて貼床面としている。

埋没土：レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没と考える。

炉：石囲炉 位置：やや西側 形状：南辺に礫は確認できなかったが、他辺は30cm前後の長円礫を長方形に組む。規模：長軸約80cm、短軸48cmを測り、火床面は長軸60cm、短軸35cmの範囲である。南端部に、9の深鉢底部が埋設されていた。埋没土：わずかにSrと焼土粒を含む。

遺物：土器 出土点数は327点を数え、縄文時代中期後半の破片が占めた。石器 出土点数は77点を数え、剥片は67点を占めた。炉石にS3の台石が用いられていた。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

10号住居（遺構：第86図、PL43、遺物：土器第2分冊第56～58図、PL26・27、石器第3分冊第15図、PL10・11）

確認状況：調査区中央北寄りで検出した。周囲には多数の住居や土坑が重複し、ローム直上でプランを確定できた。

位置：C1・Cm-86・87 重複：34号住居や168号・171号土坑を掘り込む。形状：楕円形を呈するが、若干直線的な壁面や、柱穴も各角部に配置されたように見えることから多角形住居の可能性も考えられる。規模：長辺5.6m、短辺5.4mを測り、深さ17cmと浅い。面積：20.12㎡ 方位：N-22°-E 周溝：幅20cm前後、深さ15cm前後を測り全周する。柱穴：住居辺のやや屈曲するコーナー状の内側で検出した。167号土坑は柱穴の可能性有り。

床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。

埋没土：堆積土は薄く、焼土やロームブロック混じりの層から人為的な埋没と考える。

炉：石囲炉 位置：ほぼ中央 形状：20～30cm前後の長円形の川原石を長方形に配置する。規模：長軸156cm、短軸110cmを測る大型の石囲炉である。火床面は長軸127cm、短軸70cmを測り、火床面には

焼土及び土器片が散布する。埋没土：東辺及び北辺の40cm大の大礫が被熱により破断している。埋没土中には土器片も多く含まれている。

遺物：炉の周辺と西寄りに分布する。土器 出土点数は994点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。炉内より1の大型深鉢が出土し、21も炉内から出土している。1と類似する2の深鉢が炉の南東で出土している。口縁部欠損の22は北壁寄り出土した。32の浅鉢は、167号土坑上面で出土しており、住居に伴うか微妙である。石器 出土点数は147点を数え、剥片は109点を占めた。炉石にS10、11の凹石やS14、16の磨石やS19の石皿が炉石に転用されている。

所見：多少直線的な住居壁や柱穴配置から多角形住居の可能性も考えられる。炉は1.5mを越える大型炉である。出土土器から縄文時代中期後半でもやや古い住居と考えられる。

11号住居（遺構：第87・88図、PL4、遺物：土器第2分冊第59～61図、PL28・29、石器第3分冊第15・16図、PL11）

確認状況：調査区中央北寄りの西壁に掛かり検出した。周囲には多数の住居や土坑が重複し、ローム直上まで掘り下げプランが確定でき、埋没土はわずかとなった。V層中より掘り込まれたと考える。

位置：Ck・C1-89～91 重複：227号土坑に掘り込まれる。形状：西側1/5は調査区外に延びる。円形を呈するが、短い直線的な辺が連続するようにも見え多角形住居の可能性が考えられる。規模：径6.4m前後、深さは確認面からは12cm前後と浅く、調査区壁面ではV層を掘り込み25cm前後まで確認できる。面積：(22.73)m² 方位：N-30°-E 周溝：幅20cm前後、深さ15cm前後を測り、全周する。南東部分では、底面に小孔が連続する。柱穴：主柱穴は壁際に巡り5本検出した。柱穴配置は、わずかに屈曲する位置に配されているとも見える。また、住居内から小ピットを検出したが、主柱穴に沿う小ピット以外は住居に伴う可能性は低いと考える。

床面・掘方：ロームブロックと暗褐色土の混土を踏み固めて貼床面としている。掘方面ではわずかに凹凸が見られた。埋没土：床面直上まで掘り下げ、遺構プランを検出したため埋没土の状況は不明瞭。

炉：石囲埋甕炉 位置：やや北寄り 形状：20～40cm程の長円礫を卵形に組む。規模：長軸114cm、短軸96cm、深さ18cmを測り、火床面は長辺72cm、短辺62cmを測る。火床面には焼土が広がり、中央やや北寄りに深鉢が埋設される。埋没土：埋設土器上に礫が出土し、投げ込まれた可能性から人為的埋め土と考えられる。

遺物：炉の周囲から多く出土。土器 出土点数は541点を数え、縄文時代中期後半の土器片破片が占め、縄文時代前期の破片が少量混在する。1の深鉢は炉の北東脇、5と6の大型深鉢は炉の北脇で出土し、それらと混在して8の有孔鏝付土器が出土した。炉の埋設土器として7の深鉢が用いられている。東壁寄りのP3上で3の浅鉢が潰れて出土し、脇にS13の石皿が出土している。石器 S2の石鏝は炉内より出土し、S5の打製石斧やS10の磨り面を有する凹石が床面より出土している。

所見：多少直線的な住居壁や柱穴配置から多角形住居の可能性も考えられる。出土土器から縄文時代中期後半でもやや古い住居と考えられる。

12号住居（遺構：第89・90図、PL45、遺物：土器第2分冊第62・63図、PL29・30、石器第3分冊第16図、PL11）

確認状況：調査区北寄り中央部で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、V層から多くの遺物が出土し、プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認できた。そのため確認面から床面まで浅くなった。

位置：Cn-89・90 重複：24号住居に掘り込まれる。形状：南北にやや楕円形を呈する。規模：長軸6.13m、短軸5.48mを測り、深さは東壁側で5cmと浅く、西壁側で12cmを測る。面積：20.80m² 方位：N-25°-E 周溝：南側の一部は入口部と考えられ途切れる。他は全周する。柱穴：主柱穴は壁に沿う

形で巡る6本と考える。南辺のP5～P7は入口部に伴う柱穴と考える。床面掘方：地山を踏み固めて床面としている。埋没土：確認面から床面まで浅いため不明瞭ではあるが、自然埋没と考える。

炉：埋甕炉 位置：ほぼ中央 北側に小ピットあり。形状：床面と同一レベルで埋設土器を確認し、既に火床面まで掘り下がっている状況が見られた。掘方の範囲として掘り鉢状に地山が掘り込まれる。規模：長軸94cm、短軸約80cmを測る。火床面に深鉢底部が埋設される。

遺物：24号住居と重複であったため、調査時には12号住居として遺物を取り上げていたが、整理段階で図面修正時に出土位置からそれぞれの住居に振り分けた。しかし、両住居とも確認面が浅いため混在する。土器 出土点数は773点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片が少量混在した。2、3、4、5の深鉢破片は西側で出土し、24号住居の出土遺物に類似する。炉埋設土器の8は深鉢土器底部が用いられていた。石器 石鏃、スクレイパー、石皿等が埋没土中より出土した。

所見：炉の埋設土器や周辺部出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

13号住居（遺構：第91・92図、PL46、遺物：土器第2分冊第64～66図、PL30・31、石器第3分冊第図、PL11・12）

確認状況：調査区北寄り中央部で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、V層から多くの遺物が出土し、プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認できた。

位置：Cn・Co-91・92 重複：19号住居を掘り込む。形状：方形に見えるが、北辺が短く台形状となっている。規模：長軸4.8m、短軸4.62m、深さ15cm前後を測る。面積：14.34㎡ 方位：N-21°-E 周溝：ほぼ全周する。柱穴：周溝と接するか又は、周溝内を掘り込む。床面・掘方：わずかに掘方の凹凸が確認でき、地山ロームブロックと暗褐色土との混土を貼床として踏み固めて床面としてい

る。埋没土：確認面から床面まで浅いため不明瞭ではある。

炉：石囲炉 位置：中央 形状：10～40cm大の礫を長方形に組む。規模：長軸142cm、短軸80cmを測る大型炉。火床面は長軸92cm、短軸55cmを測る。南辺炉石下に深鉢が埋置される。埋没土：北半で20cm前後の礫を詰める。焼土は南に広がる。

遺物：土器 住居内より多量の土器が出土し、1,582点を数えた。時期は縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。主に炉の周辺から出土し、31の器台は逆位で炉の北脇で出土し、13の深鉢は炉の南辺石囲下に埋設されていた。石器 出土点数は201点を数え、剥片が164点を占める。土器同様に炉周辺より出土し、石鏃、石錐、打製石斧、凹石、磨石等が出土し、長さ45cmの多孔石も炉脇から出土している。また、炉内よりS18の石皿が出土している。

所見：住居形状は台形状にも見える。出土土器の主体は縄文時代中期後半が主体であることから縄文時代中期後半の住居と考えられる。

14号住居（遺構：第93・94図、PL47、遺物：土器第2分冊第67～69図、PL32・33、石器第3分冊第17・18図、PL12・13）

確認状況：調査区北より西壁際で検出した。周辺部は住居や土坑が密集しV層より遺物の出土が多く、プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ一部床面が露出した。

位置：Ck・C1-87・88 重複：15号住居を掘り込む。形状：円形状に見えるが、わずかに周溝でコーナーが見られ、多角形の住居とも考えられる。また、東壁から南にかけて周溝が内側に入り込むのが確認でき、建て替え住居とも考えられる。重複：15号住居を掘り込む。規模：長軸7.22m、短軸6.8m、深さ18cmを測る。面積：32.36㎡、周溝が内側巡る範囲については27.54㎡を測る。方位：N-38°-E 周溝：全周し、東辺から南辺にかけて内側に巡る。周溝内には小ピット見られる。柱穴：壁

コーナーの内側に7本配置される。また、P8～P11は拡張前の柱穴とも考えられる。**床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**：確認面が床面に近く不明瞭。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：20～50cm大の長円礫を隅丸長方形に組む。南辺は20cm程の小振りの礫を組む。**規模**：長軸120cm、短軸100cmを測る。火床面は長軸85cm、短軸70cmを測り、中央に深鉢体部を埋置する。**埋没土**：くすんだロームと暗褐色土の混土であり、一括埋土か。埋設土器周辺の掘方埋め土は焼土化している。

遺物：土器 出土点数は2,116点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。深鉢体部の大型破片が多く出土している。2の口縁部及び底部欠損の深鉢が炉体土器と炉に埋設されていた。また、34は爪で目口を表現した頭部状の粘土塊である。石器 出土点数は262点を数え、剥片が211点を占める。打製石斧も17点を数え、石鏃、凹石、敲石等が出土した。また、三角錐形石器出土している。その他に9石ある炉の石組中の6石はS34～S39の石皿を転用していた。

所見：周溝の状況から建て替えが行われた可能性が考えられる。炉の埋設土器や周辺部出土土器より縄文時代中期後半の住居と考る。

15号住居（遺構：第95図、PL48、遺物：土器第2分冊第70図、PL33、石器第3分冊 PL13）

確認状況：調査区北より西壁際で検出した。周辺部は住居や土坑が密集しV層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げた。

位置：Ck・C1-87 **重複**：14号住居に掘り込まれる。**形状**：やや歪んだ長方形 **規模**：長軸4.8m、短軸3.7m、深さ18cmを測る。**面積**：15.86㎡ **方位**：N-90°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：壁沿いで検出したP1からP4、P6、P7、P15等が住居ピットと考えられる。住居中央で検出したP18、P19は炉の可能性も考えられるが焼土等の分布は見られなかった。**床面・掘方**：地山を踏み固めて床面とし

ている。**埋没土**：確認面は床面近くまで下がり、埋没土は薄い断面観察では自然埋没と考る。

炉：未検出

遺物：土器 土器片が87点出土したが、大半が埋没土中の小破片であり、2点図化を行ったが、埋没土中であり住居に伴うか。石器 打製石斧が出土しているが埋没土中であった。

所見：方形を呈する住居である。

16号住居（遺構：第96図、PL48・49・57、遺物：土器第2分冊第71・72図、PL33・34、石器第3分冊第19図、PL13・14）

確認状況：調査区北より中央部で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げて確認した。

位置：Cn-87・88 **重複**：25号・30号住居を掘り込む。221号土坑、383号ピットに掘り込まれる。**形状**：円形に見えるが、部分的に直線的な辺も見られ、多角形住居の可能性も考えられる。**規模**：径約6.0m、深さ5cmと浅い。**面積**：24.45㎡ **方位**：N-40°-E **周溝**：全周する。**柱穴**：壁沿いに巡り、各コーナー部分に配置されたようにも見られる。

床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。

埋没土：レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没と考る。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：確認当初は、床面より高い位置で10～30cm前後の扁平礫で全体を覆った長方形の炉と考えた。しかし、覆い礫と考えていた礫を取り除くと焼土が分布する断面レンズ状の地床炉的な掘方面となった。覆い礫の中には立位の礫もあり、最終形として石囲炉が作られたと考る。**規模**：石積みは長軸80cm、短軸48cmの範囲となる。掘方は隅丸方形で96cm×80cm、深さ10cmを測り、レンズ状を呈する。**埋没土**：掘方部分の埋没土中には焼土ブロックやローム小ブロックが混じり、作り替えが考えられる。

遺物：土器 出土点数は846点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期前葉の破片も少

量混在する。1の連弧文を有する深鉢は周溝内より出土。2の4単位の突起を有する深鉢が出土している。石器 出土点数は103点を数え、剥片が79点を占める。石鏃、打製石斧等が出土し、炉内の石積み中にS11の磨石や、S15～18の石皿等が混在していた。炉掘方面ではS5の打製石斧や凹石が出土している。

所見：出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

17号住居

欠番

18号住居（遺構：第97図、PL49・50、遺物：土器第2分冊第73図、PL34、石器第3分冊第19図、PL14）

確認状況：調査区北の西壁より検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cm・Cn-91・92 **重複：**22号住居及び土坑、ピット等の他遺構に掘り込まれる。**形状：**やや南北に長い長方形又は多角形 **規模：**長軸7.2m、短軸6.6m、深さ4.5cmを測る。 **面積：**32.57㎡ **方位：**N-0° **周溝：**全周する。 **柱穴：**壁沿いに巡り、コーナー部内側に配置されているようにも見える。P1、P3、P5、P6が該当。 **床面・掘方：**確認面が床面まで達し、地山を踏み固めて床面としている。床面はやや北寄りが高い。1号土坑同様にP2、P4も床下土坑の可能性が考えられる。 **埋没土：**床面近くまで掘り下がり断面観察不可能。

炉：地床炉 **位置：**ほぼ中央 **形状：**楕円形の浅い掘り込み **規模：**長軸114cm、短軸88cm、深さ12cmを測り、長軸東辺中央に礫の抜き取り痕と考えられる礫の入った小ピットを検出した。火床面は焼土の分布が見られる。 **埋没土：**わずかに小礫や焼土粒が含まれるがレンズ状堆積から自然埋没土と考える。 **遺物：**土器 出土点数は140点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期前葉の破片も少

量混在する。1の深鉢は住居北壁寄りで口縁部のみであるが潰れた状態で出土した。石器 出土点数は42点を数える。打製石斧、スクレイパーの他原石が2点出土している。

所見：出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

19号住居（遺構：第98・99図、PL50、遺物：土器第2分冊第74・75図、PL34・35、石器第3分冊第20図、PL14）

確認状況：調査区北の中央にて検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cn・Co-91・92 **重複：**13号住居に掘り込まれる。 **形状：**南北にやや長い楕円形を呈する。 **規模：**長軸6.8m、短軸5.8m、深さ16cmを測る。 **面積：**23.25㎡ **方位：**N-48° - E **周溝：**ほぼ全周する。周溝内に小ピットあり。また、東壁側の内側を巡る周溝有り。 **柱穴：**主柱穴として径1m程の大型柱穴6本を東・西の壁沿いに3本ずつ配置し、長軸方向が開いた状況が窺える。 **床面・掘方：**北辺と東辺に柵施設が存在する。床面はわずかに掘り込まれた掘方面にロームと暗褐色土の混土を入れ貼床として踏み固めている。 **埋没土：**レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没と考える。

炉：石囲炉 **位置：**中央西寄り **形状：**13号住居南壁と接し、壊された可能性がある。焼土分布の中央に楕円形の浅い掘り込みがあり、西脇に7石の礫集積中が見られることから石囲炉の残骸と考える。

規模：径45cm程の掘り込み **埋没土：**周辺部に焼土の不規則な分布と礫の集積が見られることから人為的な廃棄がなされたと考える。

遺物：土器 出土点数は625点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期前葉の破片も少量混在する。炉の礫集積内から12の深鉢底部や18、19の浅鉢が出土した。石器 出土点数は146点を数え、剥片が117点占める。石鏃、打製石斧、凹石等が出土し、礫集積内よりS15の敲石が混じる。

所見：大型柱穴を有する住居である。出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

20号住居

欠番

21号住居（遺構：第100図、PL51、遺物：土器第2分冊第76・77図、PL35・36、石器第3分冊第20図、PL14・15）

確認状況：調査区北で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面まで掘り下げ周溝、ピット、炉を検出し住居と認定した。V層より掘り込まれる。

位置：Co・Cp-93・94 **重複：**4号・6号土坑に掘り込まれ、3号住居を掘り込む。 **形状：**南北にやや長い楕円形を呈する。一部直線的なラインも見られ、多角形住居の可能性も考えられる。 **規模：**長軸8.7m、短軸7.8m、深さは確認面と同じ。 **面積：**19.70㎡ **方位：**N-43° - E **周溝：**全周する。

柱穴：壁沿いに巡る10基の柱穴を確認した。P 8、P 9の間が開き入口部が想定できる。 **床面・掘方：**確認面が床面まで下がり、地山を利用し床面としている状況が窺えた。

炉：石囲炉 **位置：**ほぼ中央 **形状：**50cm大の長円形自然礫を北辺に置き長方形に石を組む。 **規模：**長軸122cm、短軸92cm、深さ10cmを測り、火床面は長軸100cm、短軸61cmを測る。火床面には焼土面の広がり確認できた。 **埋没土：**焼土・炭化物の堆積は薄く、遺物の出土も少ないが、火床面下が焼土化が著しく、被熱の強さを物語る。

遺物：土器 出土点数は921点を数え、縄文時代中期後半の破片が占める。18の浅鉢は住居北壁寄り出土した。石器 出土点数は147点を数え、剥片が109点を占める。炉の石組にS 11の凹石やS 14、S 15、S 19の磨石、S 22、S 23の敲石等が炉の石組に転用されている。その他石錐、スクレイパー、打製石斧等が出土した。

所見：出土土器より縄文時代中期後半の住居と考え

られる。

22号住居（遺構：第101図、PL52、遺物：土器第2分冊第78図、PL36、石器第3分冊第21図、PL15）

確認状況：調査区北で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cm-91・92 **重複：**18号住居を掘り込む。

形状：やや歪んだ長方形 **規模：**長軸3.2m、短軸2.4m、深さ41cm **面積：**6.68㎡ **方位：**N-0° **柱穴：**南壁・北壁のほぼ中央を掘り込む2本を検出した。 **床面・掘方：**地山を踏み固めて床面としているが、中央西寄りに床下土坑か。 **埋没土：**レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没と考えられる。

炉：未検出

遺物：土器 埋没土中より100点近い破片が出土した。縄文時代中期後半の土器を主体とし縄文時代前期の破片もわずかに含まれる。石器 出土点数は21点を数え、剥片は19点を占めた。埋没土よりスクレイパー出土。

所見：小規模な長方形を呈する竪穴であるが、炉が無く、住居というより竪穴状遺構と考える。

23号住居（遺構：第102図、PL52、遺物：土器第2分冊第79図、PL36、石器第3分冊第21図、PL15）

確認状況：調査区北壁下に伸びる。4面調査開始段階で重機により各調査区壁際にトレンチを入れた際に検出した住居である。周辺部は住居や土坑が密集する。

位置：Cp・Cq-96 **重複：**26号住居、土坑に掘り込まれる。 **形状：**わずかに南辺際だけ掛かり、大部分は調査区外に延びる。隅丸方形と考えられる。

規模：南壁4.2m、深さ35cm **面積：**(1.58) ㎡ **方位：**計測不能 **柱穴：**未検出 **床面・掘方：**地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土：**ロームブロックを多量に含み、人為的埋没と考える。

炉：未検出

第5章 第4面の検出遺構

遺物：土器 出土点数は86点を数え、縄文時代中期及び縄文時代前期の小破片が出土した。石器 出土点数は18点を数え、剥片が14点を占めた。住居立ち上がり外脇でS4の石皿が出土した。

所見：出土土器は縄文時代前期と中期後半の土器片が混在し出土しているが、住居形状から縄文時代前期の住居と考えられる。

24号住居（遺構：第103・104図、PL52・53、遺物：土器第2分冊第80～84図、PL37～39、石器第3分冊第21・22図、PL15・16）

確認状況：調査区北寄り中央で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cm・Cn-89～91 **重複：**110号土坑に掘り込まれ、12号住居を掘り込む。 **形状：**南北にやや長い楕円形を呈する。 **規模：**長軸6.9m、短軸6.2m、深さ22cm **面積：**21.78㎡ **方位：**N-37°-E

周溝：全周し、東辺では二重に巡ることから建て替えの可能性も考えられる。また、周溝内に小ピット確認した。 **柱穴：**壁際に沿って径70～80cm大の大型柱穴が7本巡り、更にその内側に一回り小さい径40～50cm大の柱穴が8本巡る。P9は入口部施設に伴う可能性がある。 **床面・掘方：**地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土：**レンズ状に近い堆積が観察できることから自然埋没と考える。

炉：石囲炉 **位置：**ほぼ中央 **形状：**長方形を呈し、短辺側に50cm前後の大型長円礫1石ずつ配し、長辺側の両側に10～50cm程の礫を並べてる。 **規模：**長軸139cm、短軸102cm、深さ18cmを測り、火床面は長軸102cm、短軸84cmを測る大型炉である。火床面には焼土が広がり土器片が散乱する。 **埋没土：**焼土・炭化物を含み人為的な埋没土と考える。また掘方埋没土中に焼土ブロックを多く含み、掘り返しが行われたと考えられる。

遺物：土器 出土点数は1,856点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期前葉の破片も少量混在する。大量の土器片が出土したが、12号住

居と重複しているため確認時には12号住居として取り上げられている土器もあった。分布状況としては、炉の北側から西側に多く出土した。1の深鉢や9の大型深鉢は散乱状況で出土し、6の深鉢は炉内より出土している。10の深鉢は西壁際で出土している。26から30の深鉢体部破片は炉の北で出土した。石器 出土点数は287点を数え、剥片が226を占める。次いで打製石斧が25点と多く出土している。石鏃、スクレイパー等が出土し、原石や粗粒安山岩製の珧状耳飾が出土している。石皿等の大型石器は出土していない。

所見：やや大振りの柱穴が住居壁に沿って巡り、その内側に同心円状に柱穴が巡る構造の住居と考える。また、周溝も2重に巡ることから建て替え住居とも考えられる。出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

25号住居（遺構：第105図、PL54・57、遺物：土器第2分冊第85図、PL39・40、石器第3分冊第22図、PL16）

確認状況：調査区やや北寄り中央部で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cm・Cn-88・89 **重複：**16号住居に掘り込まれる。 **形状：**南北にやや長い楕円形状を呈するが、部分的に直線ラインも見られる。 **規模：**長軸5.7m、短軸5.2m、深さ20cm **面積：**17.71㎡ **方位：**N-25°-E **周溝：**全周し、南西辺では二重に巡る。一部周溝内に小ピット確認した。 **柱穴：**11本検出し、壁際に沿って径70cm前後のやや大型柱穴が2基一対で巡る。南辺P5は入口部施設に伴う可能性がある。 **床面・掘方：**地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土：**ロームブロックが含まれるが量的に少なく自然埋没と考える。

炉：石囲炉 **位置：**ほぼ中央 **形状：**南北に長い長方形を呈し、火床面上で15～30cm程の自然礫を6石確認した。礫は隙間空く組んだ状況ではないが、

石組を意図したと考えられる。**規模**：長軸120cm、短軸85cm、深さ24cmを測る。火床面には焼土が散乱する。**埋没土**：下層に焼土ブロックを多く含み、掘り返しが行われたと考えられる。

遺物：土器 出土点数は634点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。分布状況としては炉の周辺部から多く出土している。1、2の深鉢は同一個体であり西壁際でと中央で出土した。3の深鉢は中央南寄りで出土し、13の浅鉢は炉上部及び南寄りに分かれ出土した。

石器 出土点数は125点を数え、剥片が103点を占める。石鏃、スクレイパー、打製石斧、石皿等が南辺寄りで出土している。

所見：やや大振りの柱穴が住居壁に沿って2本一対で巡ることから建て替え住居と考えられる。出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

26号住居（遺構：第106図、PL55、遺物：土器第2分冊第86図、PL40、石器第3分冊 PL16）

確認状況：調査区北壁に掛かり検出した。4面調査当初壁際トレンチで確認した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。確認面と床面がほぼ同一で残り良くなく、北側1/5は調査区外に延びる。

位置：Co・Cp-95・96 **重複**：1号埋甕、37号・38号・48号土坑に掘り込まれる。**形状**：全掘できなかつたが、円形を呈すると考える。**規模**：長軸6.9m、短軸（5.5）mを測り、深さは確認面から5cmと浅くなるが、V層中より掘り込まれたと考えられる。**面積**：(27.68) m² **方位**：N-0° **周溝**：南辺が途切れるが、ほぼ全周する。**柱穴**：壁沿いに巡り、更にP5～P11等の内側に巡る状況も見られるが、本住居に伴わない可能性強い。**床面・堀方**：地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**：断面観察不可能。

炉：石囲炉 **位置**：中央と考える。**形状**：10～40cm大の自然礫を7石用い円形状に組む。**規模**：

長軸80cm、短軸70cm、深さ15cmを測る。火床面は約40cm、深さ16cmを測り、焼土が広がる。**埋没土**：埋没土は夾雑物少なく自然埋没と考えられる。また、火床面下の埋没土中には焼土ブロックが多く混じることから掘り返しが行われたと考えられる。

遺物：土器 出土点数は16点を数え、縄文時代中期後半の破片が占めた。**石器** 出土点数は6点であった。

所見：出土土器は埋没土中であるため、住居の時期を特定する状況ではないが、縄文時代中期後半の住居と考えられる。

27号住居（遺構：第107図、PL55、遺物：土器第2分冊第87図、PL40、石器第3分冊第22・23図、PL16・17）

確認状況：調査区ほぼ中央北寄りで検出した。周辺部の遺構密集度はやや少なくなる。確認当初は28号住居のプランが明瞭に出てきたため28号住居より調査を開始した。その後、周辺部の精査の際にくすんだ褐色土中に炉石が見え始め土器片の散布もあり、部分的に床面や黒く巡る周溝等が見え始め住居と認定できた。

位置：Cj・Ck-83・84 **重複**：28号住居を掘り込む。**形状**：各辺はやや湾曲気味であり、屈曲の強い箇所が2箇所所有ることから隅丸方形と考える。**規模**：南北残存部分で4.35m、深さは床面での確認であったため計測不能。**面積**：(9.29) m² **方位**：N-22°-E（炉長軸方向）**周溝**：断続的に巡る。

柱穴：壁際に配置され、5本検出した。**床面・堀方**：地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**：遺構確認時に炉石や床面が露出していたため、埋没土の状況は観察できなかった。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：礫は全面に組まれていなかった。礫の方向や掘り込みから長方形を呈する。**規模**：長軸80cm、短軸62cm、深さ12cmを測る。火床面には明瞭な焼土の分布は見られない。**埋没土**：埋没土は夾雑物少なく自然埋没と考えられる。**遺物**：土器 出土点数は341点を数え、縄文時代中

第5章 第4面の検出遺構

期後半の破片が占め、縄文時代前期前葉の破片も少量混在した。3の深鉢が床面より出土した。

石器 出土点数は58点を数え、剥片が35点を占めた。磨製石斧、打製石斧、磨石等が出土している。また炉の石組にS11の石皿が転用されていた。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

28号住居（遺構：第108図、PL56、遺物：土器第2分冊第88図、PL41、石器第3分冊第23図、PL17）

確認状況：調査区ほぼ中央北寄りで検出した。周辺部の遺構密集度はやや少なくなる。本住居は壁面や床面の焼土化や炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。また、住居内からの出土遺物は少なく。廃棄のための焼失の可能性が考えられる。

位置：Cj・Ck-83・84 **重複**：27号住居に上部を掘り込まれる。**形状**：隅丸長方形 **規模**：長軸6.2m、短軸4m、深さ25cmを測る。**面積**：20.42㎡ **方位**：N-8°-E **周溝**：断続的にほぼ全周する。**柱穴**：長軸の東西辺に沿って各3本ずつ配置される。

床面・掘方：床面直上に焼土小ブロックや炭化材が散乱し、壁際には焼土・炭化物に混じりロームブロックも混在した。炉の周辺から南にかけて床面の焼土化が見られた。床面は、地山を踏み固めている。床面はかなり硬化していた。**埋没土**：下部はブロック状の堆積が見られ、焼失時又は直後に人為的に途中まで埋められたと考える。上半はレンズ状堆積で自然埋没と考える。

炉：石囲石敷炉 **位置**：北半の中央 **形状**：長軸115cm、短軸70cmを測る楕円形の掘り込みの中に40cm大の扁平礫を敷き、その回りに5～20cmの自然礫を方形状に組んでいる。**規模**：石組は1辺50cm程の範囲に作られ、内部は南北辺が長く35cm×15cmを測った。**埋没土**：少量の焼土・炭粒が含まれるが自然埋没と考える。

遺物：土器 出土点数は272点を数え、縄文時代前期前葉の小破片が占めた。石器 出土点数は60点を数え、剥片は40点を占めた。炉石にS2、S3、

S7の凹石やS10の磨石、S11の石皿が転用され、S12の石皿は炉の底面に敷かれていた。また、S1の線条痕のある牛伏砂岩製の砥石が出土している。

所見：本住居は焼失住居であり、壁面及び床面に焼土、炭化材が確認できた。遺物はほとんど残らず、この残存状況から廃棄のための放火の可能性が考えられる。土器片の大半は小破片であり接合率は悪いが、出土土器より縄文時代前期前葉の住居と考えられる。

29号住居（遺構：第109図、PL57、遺物：土器第2分冊第89図、PL41、石器第3分冊 PL17）

確認状況：調査区中央北寄りで検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cn-86・87 **重複**：32号住居に接し、145号・191号・192号・210号土坑に掘り込まれる。174号土坑は、縄文時代前期土器片が出土し古いと考えられる。**形状**：北辺は、大型土坑により壊され不明瞭である。全体的には円形状を呈するが、一部直線的な辺も見え、隅丸方形状とも考えられる。**規模**：長軸4.6m、短軸4m、深さは床面での確認であったため計測不能。**面積**：13.63㎡ **方位**：N-28°-E **周溝**：全周する。**柱穴**：壁寄りに巡り、9本確認した。**床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**：床面での遺構確認であったため判定不能。

炉：地床炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：楕円形の浅い掘り込みである。**規模**：長軸80cm、短軸60cm、深さ13cmを測り、火床面西側に焼土の広がりを確認した。

遺物：土器 出土点数は387点を数え、縄文時代中期後半の小破片と縄文時代前期前葉の破片が1/6程度混在して出土した。石器 出土点数は54点出土し、剥片が48点を占める。

所見：北辺部が土坑の重複のためプランが不明瞭である。炉の形態が地床炉であり、柱穴も壁際に巡ることから縄文時代中期の住居形状に類似している。出土土器の縄文時代前期前葉の土器は174土坑の土

器が混在したと考え、住居形状から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

30号住居（遺構：第110図、PL57、遺物：土器第2分冊第90図、PL42、石器第3分冊第23・24図、PL17・18）

確認状況：調査区北寄り中央で検出した。16号住居調査中に、16号住居北辺にテラス状の一段高くなった平坦面を確認し、更に16号住居の床面精査中に炉石を確認した。当初2箇所を有する住居かと思われたが、柱穴配置などから別住居として本住居の調査を行った。

位置：Cn・Co-88・89 **重複**：16号・25号住居、121号・134号土坑等に掘り込まれている。 **形状**：南北に長い円形を呈する。 **規模**：長軸6.2m、短軸5.25m、深さは床面での確認であったため計測不能。

面積：22.26㎡ **方位**：N-43°-E **周溝**：全周する。 **柱穴**：壁際に巡り、7本確認した。 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：床面での遺構確認であったため判定不能。

炉：石囲埋燗炉 **位置**：やや北寄り **形状**：北辺に45cm大の長円礫を埋置しているが、他の辺には20cm前後の礫が点在し、全体に石で囲まれていたか判断はつかない。掘り込み面の形状は隅丸長方形を呈する。 **規模**：長軸132cm、短軸92cm、深さ7cmを測る。火床面には焼土の広がり確認でき、中央に深鉢が埋設される。 **埋没土**：埋設土器周辺に焼土ブロックが多く含まれ、一部地山も焼土化している。

遺物：土器 出土点数は168点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期後半の破片も少量混在した。1の深鉢は炉体土器として炉に埋設されていた。石器 出土点数は30点を数え、剥片は25点を占めた。炉石にS3の凹石、S8台石が転用されていた。また、S9の線条痕のある砥石や北壁周溝内からS2の変質蛇紋岩製の垂飾が出土している。 **所見**：出土土器より縄文時代中期後半の住居と考える。直線的な辺も見え、南北方向に長い六角形の住居とも考えられる。

31号住居（遺構：第111図、PL57、遺物：土器第2分冊第91図、PL42）

確認状況：調査区中央西壁にかかり東壁部分のみ検出でき、西側は調査区外に延びる。掘り込みは深い。

位置：Ci-83・84 **重複**：176号土坑を掘り込む。

形状：隅丸方形 **規模**：東壁側3.35m、深さ35cmを測る。 **方位**：主軸は不明であるが、東壁方向はN-23°-Eである。 **周溝**：検出内全周する。 **柱穴**：未検出 **床面・掘方**：ロームブロック混じりの貼床を確認した。床下から南東コーナー部に1辺70cm、深さ60cmほどの柱穴又は床下土坑状の掘り込みを検出した。 **埋没土**：南東側から流入か。ロームブロック等の混入少なく自然堆積と考える。

炉：未検出

遺物：土器 6点出土したのみである。1の縄文時代前期前葉の小破片を図示した。

所見：住居の大半が調査区外となるため形状、施設等は不明瞭である。出土土器も小破片であり住居の時期を決定できるものではないが、縄文時代前期前葉の住居の可能性が高い。

32号住居（遺構：第112・113図、PL58、遺物：土器第2分冊第92・93図、PL42～44、石器第3分冊第24図、PL18）

確認状況：調査区中央北寄りの東壁寄りで検出した。周辺部は住居や土坑の密集度はやや薄いのが、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cm・Cn-84～86 **重複**：29号住居、178号・211号・222号土坑、399号ピットに掘り込まれている。 **形状**：長方形 **規模**：長軸7.2m、短軸4.45m、深さ25cm **面積**：25.94㎡ **方位**：N-22°-E **周溝**：全周するが、西辺側は壁際よりやや内側に断続的に巡る。 **柱穴**：東壁側のP1～P3は壁に平行に配されるが、西壁側P4～P6は北寄りに配される。 **床面・掘方**：埋没土中より小破片が散乱し、床面付近でも小破片が出土している。北東コーナー部で径1.1m程、深さ20cmの円形土坑を検出し

第5章 第4面の検出遺構

た。床面は地山を踏み固めて床面としていが一部Sr上面の黄橙色のシルト質土まで達し、しまり弱い。

埋没土：土器小破片を多く含む。床面直上にはややロームブロック多く混入し人為的な埋め土とも考えられる。

炉：石囲敷石炉 **位置**：北側寄り中央 **形状**：南北に長い長方形を呈し、北辺に39cmの長円礫を設置し、南辺には底部を抜いた27の深鉢土器を埋設する。東西辺は15～30cm程の複数の扁平礫で組まれる。火床面には50cm大の扁平礫を敷く。この敷石は被熱による断裂はない。 **規模**：長軸90cm、短軸48cm、深さ6cm。火床面は敷石の範囲で長軸52cm、短軸32cmを測る。 **埋没土**：土器小破片を含み、焼土・炭粒わずかに含む。

遺物：土器 出土点数は368点を数え、縄文時代前期前葉の破片が占める。土器の分布は南壁寄りに16～18の深鉢が出土し、炉の北西に20、21等の深鉢が出土している。石器 出土点数は101点を数え、剥片は77点を占めた。炉石にS11の凹石、S14磨石、S16の石皿が転用されていた。また、南東隅部にS15の石皿が置かれていた。

所見：長方形を呈する住居であり、28号住居同様に炉内火床面に石が設置され、類似した住居である。柱穴配置は南北方向を意識して配されるが規則性は薄い。また、周溝はやや内側を巡る。出土土器から縄文時代前期前葉の住居と考えられる。

33号住居（遺構：第114図、PL59、遺物：土器第2分冊第94図、PL44、石器第3分冊 PL18）

確認状況：調査区やや北寄りの東壁に1/2が入り込む住居であり、北西部分のみ調査が行えた。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Co・Cp-87・88 **重複**：203号・231号・232号土坑に掘り込まれる。 **形状**：方形 **規模**：西壁4.5m、北壁4m、深さは確認面からは数cmであるが、壁面観察では30cm近い。 **面積**：(7.85) m² **方位**：N-23°-W **周溝**：検出範囲では全周する。 **柱**

穴：壁沿いに3本検出した。 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：床面直上にロームブロック入るが、自然埋没と考えられる。

炉：地床炉 **位置**：北壁寄り焼土の散布地点を確認し炉とした。 **形状**：楕円形 **規模**：長軸64cm、短軸45cm、深さ8cmを測る。 **埋没土**：焼土ブロック含むが、火床面の焼けは弱い。

遺物：土器 出土点数は230点を数え、縄文時代前期後半の破片が占める。大半が埋没土中であった。石器 出土点数は24点を数え、剥片は21点を占めた。土器同様に埋没土から出土している。

所見：全掘はできなかったが、方形を呈する住居と考える。出土土器から縄文時代前期後半の住居と考えられる。

34号住居（遺構：第115図、PL59、遺物：石器第3分冊第25図、PL18）

確認状況：調査区中央やや北寄りで検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：C1-86 **重複**：9号・10号・35号住居及び239号土坑に掘り込まれる。 **形状**：隅丸長方形 **規模**：南壁は35号住居と重なり立ち上がりは確認できなかった。東西軸3.45m、西壁(3.2)m、深さ27cmを測る。 **面積**：(7.43) m² **方位**：N-26°-W

周溝：部分的に欠くがほぼ全周する。 **柱穴**：北壁際と南壁寄り4本検出したが、P2・3の2本が該当か。 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：上層は、土器片を含むが均一な土層で壁際中央付近でロームブロックの混土の堆積が観察でき、廃棄時は人為的でその後自然埋没土と考えられる。

炉：未検出

遺物：土器 出土土器なし。石器 11点出土し、7点が剥片である。S2の石皿が西側中央で出土している。

所見：時期を特定できる遺物の出土は無いが掘りこみの深さや、住居形状から縄文時代前期の住居と考

えられる。

35号住居（遺構：第116図、PL60、遺物：土器第2分冊第95図、PL45、石器第3分冊第25図、PL18）

確認状況：調査区中央やや北寄りで見出した。周辺部は住居や土坑が密集し、プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：C1・Cm-85・86 **重複**：9号住居、173号・201号・225号・233号土坑に掘り込まれている。**形状**：隅丸長方形 **規模**：長軸5.3m、短軸3.7m、深さ38cmを測る。**面積**：12.67㎡ **方位**：N-5°-E **周溝**：全周する。**柱穴**：方形配置で4本見出した。**床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**：ブロック状の堆積も観察されたが、自然埋没と考える。

炉：石囲石敷炉 **位置**：北半のほぼ中央、P3、P4の柱穴間 **形状**：北辺に50cm程の長円礫を設置し、15～30cm程の礫を東辺に3石、西辺に1石並べ長方形に組まれる。掘方は長軸140cm、短軸98cmを測り、南北に長い不正円形を呈する。底面には小ピットが多数掘られる。**規模**：長軸50cm、短軸42cmを測る。火床面には32cm×26cmほどの扁平礫を敷く。**遺物**：土器 出土点数は167点を数え、縄文時代前期前葉の破片が占める。土器の分布は南壁寄りに3～5の深鉢が出土している。石器 出土点数は21点を数え、剥片は16点を占めた。炉石にS1の凹石が転用されていた。

所見：隅丸長方形を呈する住居であり、28号や32号住居同様に炉内火床面に石が設置されていた。出土土器から縄文時代前期前葉の住居と考えられる。

36号住居（遺構：第117・118図、PL60・61、遺物：土器第2分冊第96図、PL45、石器第3分冊第25図、PL18・19）

確認状況：調査区中央やや東壁寄りで見出した。周辺部は土坑が密集し、礫も数多く出土したためプラン確認難しく、ローム上面近くまで掘り下げ周溝及びピット・炉等を確認し住居とした。

位置：Cj・Ck-79～81 **重複**：55号住居とは新旧関係不明瞭。360号土坑に掘り込まれる。**形状**：壁面が蛇行し、北隅が張り出す歪んだ隅丸方形を呈すると考える。**規模**：長軸5.3m、短軸4.9m、深さは確認面と床面が同一。**面積**：19.74㎡ **方位**：N-51°-E **柱穴**：西辺と東辺に沿って各3本、計6本見出した。**床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。2箇所で見出した。各配石を1号配石、2号配石とした。

1号配石 北東コーナー内側で見出した。30～50cm大の礫を用いて4石で方形に組まれている。埋没土中には焼土・炭化物等の炉的痕跡はない。

2号配石 南辺中央で見出した。40cm前後の礫3石を用いて方形に組まれている。埋没土中には焼土・炭化物等の炉的痕跡はない。

埋没土：確認面と床面が同一のため不明。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：北辺に48cmの角礫1石、東辺に52cmの長円礫1石、南・西辺には20cm前後の礫を埋設し、方形に組む。**規模**：長軸68cm、短軸62cm、深さ12cmを測る。火床面は長軸48cm、短軸42cmを測り、焼土面が確認できた。

遺物：土器 出土点数は204点を数え、縄文時代中期後半の小破片が占め、縄文時代前期の破片も少量混在する。1と3は東壁寄りで見出した。石器 出土点数は49点を数え、剥片は29点を占めた。S13の石棒は南隅寄りで見出した。炉石にS1の凹石が転用されていた。

所見：配石を有し、石棒が出土している。また、多孔石、石皿等の大型礫石器が礫と共に散在することから柄鏡形敷石住居の可能性も考えられる。出土土器は少ないが、縄文時代中期末葉の住居と考える。

37号住居（遺構：第119～121図、PL62・63、遺物：土器第2分冊第97～100図、PL45～47、石器第3分冊第26図、PL19・20）

確認状況：調査区中央南寄りの東壁よりで見出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確

認した。

位置: Ch・Ci-76・77 **重複:** 38号・40号住居を掘り込み、242号・245号・248号・251号・259号土坑に掘り込まれる。**形状:** 各壁は幾つかの住居や土坑により掘り込まれ壁の確認が難しかったが、直線的な壁にも見え、六角形を呈すると考えられる。

規模: 長軸6.1m、短軸5.5m、深さ30cm **面積:** 25.14㎡ **方位:** N-18°-E **周溝:** 未検出 **柱穴:** 壁沿いの各コーナー部に配置されたようにも見え、P1～P6の6本を検出した。**床面・掘方:** 地山を踏み固めて床面としている。掘り方では多くの小土坑を確認した。また、南西隅と北壁際の2箇所では埋嚢を検出し、1号、2号埋嚢とした。

1号埋嚢 南西部壁際で4石の礫で囲まれる。1の体部下半を欠落した深鉢が正位で埋設されている。周辺部はロームブロック混じりの暗褐色土で固められている。

2号埋嚢 北西部壁際で検出した。17の体部のみの深鉢が埋設されていた。周囲には焼土が広がり、埋嚢炉とも考えられる。

埋没土: 2層、3層中に土器・礫片が多く含まれ、ローム粒・Srを多く含むなど人為的埋没が考えられる。

炉: 石囲炉 **位置:** 中央やや東寄り **形状:** 50～70cm程の板状の礫でわずかに南北に長い長方形に石組みされている。礫は被熱により破断している。

規模: 長軸80cm、短軸70cm、深さ12cmを測り、火床面は長軸50cm、短軸40cmを測る。**埋没土:** 火床面直上に焼土ブロックを多量に含む層が見られる。

遺物: 土器 住居全体の床面に近い位置で2,480点を数える縄文時代中期後半の破片が出土した。破片には縄文時代前期の破片も少量混在する。石器 土器と共に多量の石器が出土した。出土点数は365点を数え、剥片は311点を占めた。S26と、もう1点の石棒が埋没土中より出土した。打製石斧は18点、石核も5点出土し、石匙、スクレイパー、多孔石等が出土した。

所見: 住居廃棄後に遺物廃棄場所となった住居と考えられる。埋嚢から縄文時代中期後半の住居と考える。

38号住居 (遺構: 第122図、PL63、遺物: 土器第2分冊第101図、PL47、石器第3分冊第27図、PL20)

確認状況: 調査区南寄りで検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置: Ch～Cj-77・78 **重複:** 37号・40号住居、251号・260号・261号土坑と重複し、半分以上が壊されている。**形状:** 各壁がやや湾曲する隅丸長方形を呈する。**規模:** 軸方向は37号住居に壊され計測不能であり、計測は北壁と西壁で行い、北壁5.2m、西壁3.6m、深さ10cm前後を測る。**面積:** (21.30)㎡ **方位:** N-55°-W **周溝:** 検出範囲内全周する。周溝内に小ピット確認した。**柱穴:** 壁を掘り込みP3～P6を検出した。また、住居内で小ピットを含め5本検出した。**床面・掘方:** 地山を踏み固めて床面としている。**埋没土:** 土器片、礫等が多く混じり、埋没初期段階で投げ込まれたものか。

炉: 未検出

遺物: 住居全体に土器・石器類が投棄されたような状況で出土した。北壁に寄せ付けられたように40～60cm大の大礫や中小の礫が出土し、やや内側床面上にも1、2、3の深鉢破片と共に大礫が出土している。土器 出土点数は298点を数え、縄文時代中期後半の破片が占める。石器 出土点数は60点を数え、剥片は40点を占めた。軽石製のS3の垂飾は住居北壁立ち上がりで出土した。石鏃、磨製石斧、打製石斧、石核等が出土している。

所見: 出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

39号住居 (遺構: 第123図、PL63・64、遺物: 土器第2分冊第102図、PL47、石器第3分冊第27図、PL20)

確認状況: 調査区南寄りの東壁に食い込む形で検出した。周辺部は土坑やピットが密集し、プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認したが、それでも形状は不明瞭であり、埋嚢等や遺物の分布状況から住居と認定した。住居内で検出された埋嚢は、

南から1号埋甕、2号埋甕、3号埋甕とした。

位置:Ch・Ci-74 **形状:**不明瞭 **重複:**なし **規模:**計測不能 **面積:**計測不能 **方位:**計測不能 **周溝:**未検出 **柱穴:**未検出 **床面・掘方:**遺構確認時ローム面近くまで掘り下げたが、明瞭な床面は確認できず埋甕や出土遺物の高さで床面を決めた。 **埋没土:**調査区壁面の観察では土器片・礫が混じり人為的な動かしが行われたと考える。

炉:未検出

1号埋甕 調査区壁に掛かり検出した。掘方は長方形を呈する。規模は長軸70cm、短軸50cm、深さ20cmを測る。4の体部下半欠損の口径30cmほどの深鉢を正位で埋設していた。縄文時代中期後半。

2号埋甕 1号埋甕北側に接し検出した。掘方は円形状を呈する。規模は、長軸98cm、短軸84cm、深さ20cmを測る。5の深鉢の回りに6を重ねて埋設していた。縄文時代中期後半。

3号埋甕 1号、2号埋甕の北並びで検出し、周辺から礫が出土している。掘方は繭形状を呈する。規模は、長軸50cm、短軸35～40cm、深さ25cmを測る。7の深鉢を正位で埋設していた。縄文時代中期後半。
遺物:3基の埋甕の周囲から土器片等が出土した。
土器 出土点数は158点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期破片も少量混在する。
石器 出土点数は42点を数え、剥片は38点を占めた。
所見:遺物の散布から住居としたが、全掘できていない状況では、住居の可能性は薄いと考える。

40号住居 (遺構:第124・125図、PL64、遺物:土器第2分冊第103図、PL48、石器第3分冊第27図、PL20・21)

確認状況:調査区南寄りの東壁に1/2検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置:Cj・Ck-77・78 **重複:**37号住居、242号土坑に掘り込まれる。38号住居北東角を掘りこみ、東半は調査区外に延びる。 **形状:**円形と考える。 **規模:**

径約(7.3)mを測る。 **面積:**(21.38)m² **方位:**N-30°-E **周溝:**全周する。周溝内に小ピットを確認した。 **柱穴:**4本が壁寄りに巡る。 **床面・掘方:**地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土:**水平堆積が観察されることから自然埋没と考える。
炉:石囲埋甕炉を2基検出し、それぞれ1号炉、2号炉とした。

1号炉 **位置:**中央やや北で検出した。東1/2弱が調査区外に伸びる。 **形状:**隅丸長方形か。焼土の分布する火床面の内側を礫で囲っていたようである。南辺、西辺、北辺の各一部に30～40cmほどの大礫が組まれて残る。また、石組された中央に深鉢が埋設されている。石組の一部は大礫が崩されている。 **規模:**長軸150cm、短軸(90)cmを測り、石組範囲は一辺60cm程で方形を呈していたと考える。 **埋没土:**焼土層の堆積は薄く、褐色土ブロックを多く含む。

2号炉 **位置:**1号炉南に隣接する。 **形状:**円形を呈し、3の深鉢とその回りに1、6の深鉢が囲うように埋設され、更に東辺ではこの埋甕を礫が囲っていた。 **規模:**径40cmを測る。

遺物:炉内及び住居全体に散在し、周囲から遺物が出土した。 **土器** 出土点数は158点を数え、縄文中期後半の破片が占め、縄文時代前期破片も少量混在する。 **石器** 出土点数は44点を数え、剥片は38点を占めた。

所見:出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

41号住居 (遺構:第126・127図、PL65、遺物:土器第2分冊第104図、PL48、石器第3分冊第28図、PL21)

確認状況:調査区南寄り中央で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置:Cg・Ch-75・76 **重複:**304号・308号～311号・333号～335号・343号・527号土坑等に掘り込まれる。 **形状:**立ち上がりは不明瞭で炉の位置と柱穴配置か

第5章 第4面の検出遺構

ら楕円形と推測する。規模:柱穴配置の最長は8.58mを測る。面積:(柱穴範囲から)(50.66)m² 方位:N-75°-E 周溝:未検出 柱穴:41号住居に伴うと見られる壁際に巡る柱穴を16本検出した。床面・掘方:明確ではない。埋没土:断面観察なし。炉:石囲埋甕炉 位置:中央 形状:隅丸長方形を呈し、石組みは東辺と北辺に残る。規模:1辺96cm、深さ5cmを測る。火床面は、1辺約70cmを測り、中央に深鉢体部を用いた炉体土器有り。その周辺部に焼土の堆積見られる。

遺物:土器 出土点数は60点を数え、縄文中期後半の破片が占め、縄文時代前期破片も少量混在する。1の深鉢が炉体土器として出土。石器 出土点数は9点を数えたのみ。

所見:炉内埋設土器より、縄文時代中期後半の住居と考えられる。

42号住居(遺構:第128図、PL65、遺物:土器第2分冊第105図、PL48、石器第3分冊 PL21)

確認状況:調査区南で検出した。遺物の分布する方形の区画を精査し、中央より埋甕を検出した。掘り込みは浅く、埋甕炉内及び周囲の焼土分布はなく、周溝・柱穴等の施設もなかったが、埋甕炉を有する住居として調査を行った。

位置:Ce・Cf-72・73 重複:429号・430号土坑が掘り込む。形状:隅丸長方形 規模:長軸4.7m、短軸3.9m、深さ10cm弱を測る。面積:15.15m² 方位:N-30°-E 周溝:未検出 柱穴:未検出 床面・掘方:地山を踏み固めて床面としている。埋没土:確認面から床面まで浅く、埋没土中に土器片の散布や淡色黒ボク土などが入ることから人為的埋没と考える。

炉:埋甕炉 位置:ほぼ中央 形状:楕円形 規模:径45cm前後を測る。埋没土:焼土の分布はない。

遺物:土器 住居西寄りに遺物が出土し、出土点数は183点を数え、縄文中期後半～縄文時代後期の破片が出土した。炉体土器として1の深鉢が出土。

石器 出土点数は44点を数え、剥片は34点を占めた。

所見:炉内埋設土器より、縄文時代後期前半の住居と考えられる。

43号住居(遺構:第129図、PL66、遺物:土器第2分冊第106図、PL49、石器第3分冊第28図、PL21)

確認状況:調査区中央で検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置:Ch・Ci-79 重複:362号・414号土坑が掘り込む。形状:隅丸方形を呈する。規模:1辺3.5m、深さ31cm 面積:9.46m² 方位:N-26°-W 周溝:未検出 柱穴:東壁に沿い3本、炉と1号埋甕の間に1本確認した。床面・掘方:周辺部は地山をそのまま踏み固めて床面としているが、中央部は掘方面で土坑状に掘り込み、埋め土をして貼床面を作る。埋没土:大量の土器片が混入し、埋没途中で土器廃棄場所となったと考える。

1号埋甕 北西壁際で検出した。浅い掘り込み上に9の破片が混ざる土器片が重なり、その上に10が正位で出土した。

炉:石囲炉 位置:ほぼ中央 形状:20cm前後の礫を「コ」の字に配置する。規模:20cm前後を測り、礫間は10cmとかなり狭い。

遺物:土器 縄文時代前期から後期にかけての土器片が混在して出土した。出土点数は673点を数えた。土器の時期は、11～19縄文時代前期、1、2、5～8縄文時代中期末～後期、9、10は縄文時代中期後半である。4の耳飾りは埋没土中より出土している。石器 出土点数は102点を数え、剥片は74点を占める。S16の磨石は炉石に転用さる。S17の磨石は1号埋甕内より出土している。

所見:縄文時代後期の出土土器から、住居の時期は縄文時代後期と考えられる。

44号住居

欠番

45号住居（遺構：第130図、PL66・70、遺物：土器第2分冊第107・108図、PL49、石器第3分冊第28図、PL22）

確認状況：調査区南より、西壁に食い込み検出した。周辺部は住居や土坑が密集し、遺物の出土量も多くプラン確認は難しく、遺存状況は極めて悪くなり炉や柱穴配置等で住居範囲を決定した。また、出土遺物も混乱が見られ、整理段階で遺構の変更を行った。
位置：Cg・Ch-78・79 **重複**：51号住居、353号・362号・368号～370号・373号・374号・391号・497号土坑等に掘り込まれる。52号住居を掘り込む。

形状：不明瞭であるが、柱穴配置から円形と考える。
規模：計測不能であるが、P1と炉の延長では6mを測る。**面積**：計測不能であるが、推定線内では28.11㎡であった。**方位**：N-5°-E **周溝**：なし **柱穴**：壁際に巡らされたと考えられ、6本を住居柱穴と確認した。その他に533号土坑辺りに柱穴が存在した可能性も考えられる。**床面・掘方**：重複が激しく床面はわずかに残るのみであり、地山をそのまま踏み固めて床面としている。**埋没土**：西壁断面観察では住居の埋没土は遺物を多く含む1層が主体であり、人為的な埋土と考える。

1号埋甕 南壁推定部分のやや内側の374号土坑と533号土坑の接する部分で2の埋甕を検出した。533号土坑を壊し埋置され、374号土坑に壊されている。立ち上がり部分に礫出土。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：30～40cm前後の大礫3石と20cm前後の礫で方形に囲う。

規模：1辺60cm程、深さ18cmを測る。火床面は1辺30cm程を測り、焼土の広がり薄い。**埋没土**：2層は焼土粒・ローム粒を含み、掘り返されたと考え。1層は、わずかに焼土粒混じりであるが流れ込みの自然埋没土と考える。

遺物：土器 出土点数は899点を数え、縄文中期後半の破片が占め、縄文時代前期破片も少量混在する。

1の深鉢は南壁立ち上がり推定部分で出土。

石器 出土点数は126点を数え、剥片が98点を占める。打製石斧が11点と多く出土。また、P16の大型

の石皿が炉石に転用されていた。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

46号住居（遺構：第131図、PL67、遺物：土器第2分冊第109図、PL50、石器第3分冊 PL22）

確認状況：調査区南東隅に食い込み検出した。調査範囲は1/4程で大部分は調査区外に延びる。周辺部は土坑が密集する。プラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Cf・Cg-70 **重複**：270号土坑を掘り込み、371号土坑に掘り込まれる。**形状**：確認形状は弧状を呈することから、円形と考える。**規模**：長短軸は計測不能。深さは10cm前後。**面積**：確認範囲で(7.56)㎡ **方位**：計測不能 **周溝**：未確認 **柱穴**：ピットは4本確認したが、柱穴か否かは不明。**床面・掘方**：床面は地山を踏み固めている。調査区東壁でわずかに南北方向の土坑が掛かる。床下土坑か未確認。**埋没土**：水平堆積が観察されていることから自然埋没と考える。

炉：未検出

遺物：土器 270号土坑と重複する部分で土器が集中し、土坑出土土器と考えたが、高さを確認し住居出土土器とした。出土点数は66点を数え、縄文中期後半の破片が占める。1の大型の270号土坑上面で出土。**石器** 出土点数は12点を数え、剥片が10点であった。

所見：出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

47号住居（遺構：第132図、PL67、遺物：土器第2分冊第110図、PL50）

確認状況：調査区南壁に接し検出した。大半が調査区外に伸びる。浅い掘り込みとピットを検出し、住居として調査を行ったが、住居以外の可能性強い。

位置：Ce-70 **重複**：468号土坑に掘り込まれる。

形状：調査範囲は1/6程で大部分は調査区外に延び、北西コーナー部を確認できた。**規模**：北壁長(3.3)

第5章 第4面の検出遺構

mを測り、壁面で深さ30cm前後を測る。 方位：計測不能 周溝：なし 柱穴：ピットは4本確認されているが、柱穴か否かは不明。 床面・掘方：地山をそのまま踏み固めて床面としている。 埋没土：ロームブロック混土であることから人為的埋土と考える。

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は71点を数え、縄文中期後半から後期破片出土。1、2は468号土坑上面で出土。石器 出土点数は5を数え、全て剥片。

所見：出土土器は小破片が多く次期の確定は難しい。

48号住居（遺構：第133図、PL70）

確認状況：調査区南寄りの住居や土坑が密集する部分で検出したが、わずかな土器片と浅い掘り込みであった。

位置：Ch-80 重複：51号住居により壊される。

形状：北東コーナー部分が残り、矩形を呈する。

規模：東壁長1.8m、北壁長2.1m、深さ5cm前後を測る。 面積：計測不能 方位：計測不能

周溝：なし 柱穴：未検出 床面・掘方：地山をそのまま踏み固めて床面としている。 埋没土：断面観察不能

炉：未検出

遺物：土器 51号住居と重複し、調査時に51号住居出土土器を48号住居土器として取り上げたため、出土点数は668点となったが、本住居出土土器片は埋没土中の小破片しかなかった。石器 出土点数は61点を数え、大半が剥片であった。

所見：住居の可能性は薄い。

49号住居（遺構：第134・135図、PL68、遺物：土器第2分冊第111・112図、PL50、石器第3分冊第29図、PL22）

確認状況：調査区中央やや南寄りで検出した。上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。住居の立ち上がりは不明瞭であり、炉及び柱穴配置でプランを推定した。

位置：Ci・Cj-81・82 重複：なし 形状：柱穴配置から南北に長い隅丸長方形を呈すると考える。

規模：立ち上がりは不明瞭である。長軸5.8m、短軸5mを測り、深さは大半が床面付近まで下がり、わずかに窪んだ部分で5cm前後を測る。 面積：(29.0) m² 方位：N-15°-W 周溝：なし 柱穴：壁沿いで9本検出した。 床面・掘方：床面は掘方面の凹凸が無く、地山を利用していたと考える。また、南辺の東西2箇所埋没を検出した。

1号埋没 南西隅の壁際で検出した。径38cmの小ピットに7の胴部下半を欠損した深鉢を正位で埋設する。

2号埋没 南東隅の壁寄り8の胴部下半を欠損した深鉢を逆位で埋設するが、埋めたとより伏せた状態で検出した。脇に35cmほどの大礫が置かれる。 埋没土：土器片・小礫等混じりで人為的埋土か。

炉：石囲埋没炉 位置：ほぼ中央 形状：70cm大の大礫を方形に組む。 規模：78cm×73cmの方形に組まれ、深さは25cmを測る。火床面の中央やや北寄りに深鉢が埋設される。周辺部に若干焼土の堆積見られる。軸方向はN-40°-Eとなる。

遺物：住居北西部を除き、全体に分布していた。土器 住居全体の床面に近い位置出土し、出土点数は563点を数える。破片は縄文時代中期後半の破片が占め。縄文時代前期の破片も少量混在する。6の浅鉢は炉脇から出土し、9の深鉢は炉の西側で出土している。石器 出土点数は114点を数え、剥片は88点を占めた。石鏃、打製石斧、磨石、凹石等が出土している。

所見：埋没から縄文時代中期後半の住居と考える。

50号住居（遺構：第136図、PL69、遺物：土器第2分冊第113図、PL51、石器第3分冊第29図、PL22・23）

確認状況：調査区中央で検出した。周辺部は土坑が密集している。上層より遺物の出土が多くプラン確認はローム上面近くまで掘り下げ確認した。

位置：Ck-81・82 重複：236号土坑がわずかに掛かる。

形状：南北に長い楕円形を呈し、壁面は緩やかに立

ち上がる。規模：長軸3.95m、短軸3.45m、深さ55cmと深い。面積：7.12㎡ 方位：N-15° - E 周溝：未検出 柱穴：未検出 床面・掘方：ロームブロック混土の貼床面を作る。掘方は床面より10cmほど掘り込まれている。床下土坑などの施設は未確認。埋没土：ロームブロックやSrを多量に含み人為的な埋没と考える。

炉：未検出

遺物：土器 住居埋没土内を中心に1,032点を数え、縄文時代中期後半の破片を中心に前期破片が出土した。石器 出土点数は109点を数え、剥片は85点を占めた。打製石斧は11点を数え多い。その他S15の石棒、石鏃、石匙、凹石等が出土した。

所見：住居内施設である炉、柱穴、周溝等は検出されなかった。出土土器より縄文時代中期後半の住居と考えられる。

51号住居（遺構：第137・138図、PL69・70、遺物：土器第2分冊第114～118図、PL51～53、石器第3分冊第29・30図、PL23・24）

確認状況：調査区南寄りの西壁にかかる遺構であり、ほぼ1/2のみの調査を行った。遺構確認に際し出土遺物が多く、住居や土坑も密集状態であったため、平面観察では遺構の分割は難しかった。整理段階で土坑と判断した掘り込みが、住居の柱穴に変更になったり、住居範囲が変更になったりしたため、遺物も帰属遺構が異なる混乱も多かった。

位置：Cg・Ch-79・80 重複：381号・392号土坑に掘り込まれ、45号・48号・52号住居を掘り込む。53号住居との重複は不明。形状：短い直線的な辺が巡り、各コーナー内側に柱穴が配置されるように見え、八角形住居と考えられる。規模：南北8m、深さ西壁断面では35cmを測る。面積：(25.45)㎡ 方位：N-25° - E 周溝：確認範囲内では全周する。柱穴：調査段階で土坑とした掘り込みが、配置から本住居の柱穴と判断できた。その結果、径1mを超える大型柱穴が壁の各辺の屈曲部内側に配置されたと考えられる。床面・掘方：重複により床面の

残りは悪く、わずかに残る床面の状況から地山を踏み固めて床面としている。埋没土：1層中より土器片及び礫が混じり、2層中にロームも混じるため人為的埋土と考える。

炉：石囲埋甕炉 位置：ほぼ中央 形状：掘方は、楕円形状を呈するが、10～40cm大の角礫が「コ」の字に配されていることから長形状の石囲いと考える。規模：南北70cm、東西(70)cm、深さ5cmを測る。火床面は1辺60cm程の方形で中央にて底部欠損の深鉢が埋設されている。埋没土：火床面は赤褐色に焼け、上層土中には、焼土や炭化物は薄く逆にSr粒やローム粒を含み、人為的な埋土と考える。

遺物：重複が激しく、大量の遺物が出土したが、整理段階で遺構の範囲を確定し、出土遺物の帰属を変更した。土器 出土点数は1,073点を数え、縄文時代中期後半の破片が占め、縄文時代前期中葉の破片も少量混在する。3は炉体土器であり、口縁部が被熱により変色、脆弱化している。1のやや大振りの深鉢や4の深鉢は炉の脇から出土し、2のやや小振りの深鉢はP1から出土した。16のやや大振りの深鉢体部下半は、P4内から出土した。石器 出土点数は159点を数え、剥片が105を占める。次いで打製石斧が25点と多く出土している。石鏃、石錐、磨石、敲石等が出土した。多孔石、石皿、台石等の大型品はない。

所見：大型の柱穴が住居壁に沿って巡る八角形の住居である。出土土器から縄文時代中期後半の住居と考えられる。

52号住居（遺構：第139図、PL69・70、遺物：土器第2分冊第119図、PL53・54、石器第3分冊第30図、PL24）

確認状況：調査区南寄りの西壁にかかる遺構であり、南東隅寄りのみの調査を行った。周辺部は住居や土坑が密集し、45号住居や51号住居に掘り込まれ、上層遺構の掘方面でプラン確認を行った。

位置：Cg-79 重複：上部は45号・51号住居に掘り込まれる。形状：東壁から南壁に掛けて検出でき、

第5章 第4面の検出遺構

方形を呈する。 **規模**:東壁(3.9)m、南壁(2.5)m、深さは上面を51号住居に掘り込まれるが、調査区壁で32cmを測る。 **面積**:残存内(2.72)m²を測る。 **方位**:N-5°-W **周溝**:調査範囲内では全周する。検出部分は既に掘方と考えられ、幅は50cm前後、深さ20cm前後を測る。 **柱穴**:未検出 **床面・掘方**:地山を踏み固めて床面としている。

埋没土:水平堆積が観察されていることから自然埋没と考える。

炉:未検出

遺物:土器 出土点数は314点を数え、縄文時代中期破片が大半を占めたが、縄文時代前期の破片も1/5を占め、1と7の縄文時代前期中葉の深鉢が南壁脇から出土した。石器 出土点数は16点を数え、剥片は5点であった。石鏃、スクレイパー、打製石斧等が出土し、S5、S7の磨石は上記の土器周辺で出土した。

所見:出土土器から縄文時代前期中葉の住居と考えられる。

53号住居(遺構:第140図、PL70、遺物:土器第2分冊第120図、PL54、石器第3分冊第30図、PL24)

確認状況:調査区南寄り西壁にかかり検出した。東側1/2のみの調査を行った。周辺部は住居や土坑が密集し、51号住居及び472号土坑に掘り込まれ、立ち上がりも不明確であったが炉の石組とピットの配置で住居と認定した。

位置:Cg-80 **重複**:51号住居、472号土坑に掘り込まれる。 **形状**:円形を呈する。 **規模**:西壁で5.2m、深さは計測不能。 **面積**:計測不能 **方位**:計測不能 **周溝**:未検出 **柱穴**:径30cm前後の柱穴が規則的に壁際に巡る。 **床面・掘方**:地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**:断面観察未確認

炉:石囲炉 **位置**:中央 **形状**:51号住居と472号土坑に壊され、東辺に2石と北辺に1石の石組礫が残るのみである。火床面には焼土がわずかに広がる。 **遺物**:土器 出土点数は34点を数え、縄文時代中期後半の破片が出土した。石器 出土点数は5点と

少なく、剥片は3点を占めた。S1の石鏃は炉内上層より出土。

所見:時期決定できる出土遺物はないが、形状及び出土破片から縄文時代中期後半と考えられる。

54号住居(遺構:第141図、PL70、遺物:土器第2分冊第121図、PL54、石器第3分冊第30図、PL24)

確認状況:調査区中央やや南寄りで検出した。周辺部は住居や土坑が密集していたため遺構確認面がローム面まで達し、土坑やピットの遺構調査後に炉石及びピット配置から住居と認定した。そのため住居の立ち上がりは確認できなかった。

位置:Ci・Cj-79・80 **重複**:43号住居、395号土坑、複数のピットに掘り込まれ、56号住居との新旧関係は不明であるが重複する。 **形状**:柱穴配置から南北にやや長い楕円形を呈すると思われるが、六角形の可能性も考えられる。 **規模**:住居の立ち上がりは不明であるが、南北方向のP3、P12間で6.05m、P1・P6間で4.8mを測る。深さは計測不能である。 **面積**:計測不能 **方位**:N-30°-W **周溝**:未検出 **柱穴**:径30cm前後の柱穴が壁際に巡る。重なる柱穴や近接する柱穴もある。 **床面・掘方**:確認面が地山ローム面まで達し、貼床等の痕跡は確認できなかったことから地山をそのまま利用したと考える。 **埋没土**:断面観察未確認

炉:石囲埋甕炉 **位置**:中央 **形状**:炉の中央に深鉢を正位で埋設し、周囲を礫で方形に囲む。

規模:掘り込みは東西方向にわずかに長く、長軸70cm、短軸55cmを測り、火床面は1辺25cm程の方形となる。火床面内は径18cm程の深鉢体部下半の炉体土器が占める。 **埋没土**:焼土はほとんど見られず自然埋没と考えられる。

遺物:土器 出土点数は157点を数え、縄文時代中期後半の破片が占める。1の連弧文の深鉢を炉体土器とする。口縁部は被熱により変色、脆弱化している。石器 出土点数は34点を数え、剥片は30点を占めた。南東隅のP9付近に集中して出土。

所見:出土土器から縄文時代中期後半の住居と考え

られる。

55号住居（遺構：第142・143図、PL70、遺物：土器第2分冊第122図、PL54、石器第3分冊第31図、PL24）

確認状況：調査区中央やや南寄り検出した。周辺部は住居や土坑が密集していたため遺構確認面がローム面まで達し、土坑やピットの遺構調査後に炉石及びピット配置から住居と認定した。そのため住居の立ち上がりは確認できなかった。

位置：Cj・Ck-79・80 **重複**：36号・43号住居、241号・289号・300号・359号・360号・362号・422号土坑、複数のピット等に掘り込まれ、54号住居との新旧関係は不明であるが重複する。 **形状**：柱穴配置から南北にやや長い楕円形を呈すると思われる。

規模：住居の立ち上がりは不明であるが、南北方向のP7・P11間で4.7m、P1・P9間で4.2mを測る。深さは計測不能である。 **面積**：計測不能

方位：N-43°-W **周溝**：未検出 **柱穴**：径20～65cm前後の柱穴が壁際に巡る。重なる柱穴や近接する柱穴もある。 **床面・掘方**：確認面が地山ローム面まで達し、貼床等の痕跡は確認できなかったことから地山をそのまま利用したと考える。 **埋没土**：断面観察未確認。

炉：石囲炉 **位置**：中央 **形状**：石組に用いられた30cm大の礫が崩された状態で出土し、一部石組の礫が残存しており、長形状を呈する。掘方は南北に長い隅丸長方形を呈する。 **規模**：石組想定範囲内で長軸55cm、短軸30cmを測る。掘方は、長軸92cm、短軸88cm、深さ14cmを測る。中央の大礫の下から深鉢1が横位で出土した。埋設土器の可能性も考えられる。 **埋没土**：礫の出土状況から人為的と考える。また、火床面下の堆積土中には焼土ブロック等の混入は少ない。

遺物：土器 出土点数は31点と少ない。縄文時代中期後半の破片が出土した。中央の大礫の下から深鉢1が横位で出土した。埋設土器の可能性も考えられる。石器 出土点数は10点と少量であった。S5の敲石、

S6、S7の石皿は炉石として転用されている。

所見：出土土器から住居の時期は縄文時代中期後半の住居と考える。

56号住居（遺構：第144図、PL70、遺物：土器第2分冊第123図、PL54）

確認状況：調査区中央やや南寄りで検出した。周辺部は住居や土坑が密集していたため遺構確認面がローム面まで達し、土坑やピットの遺構調査後に炉石及びピット配置から住居と認定した。そのため住居の立ち上がりは確認できなかった。

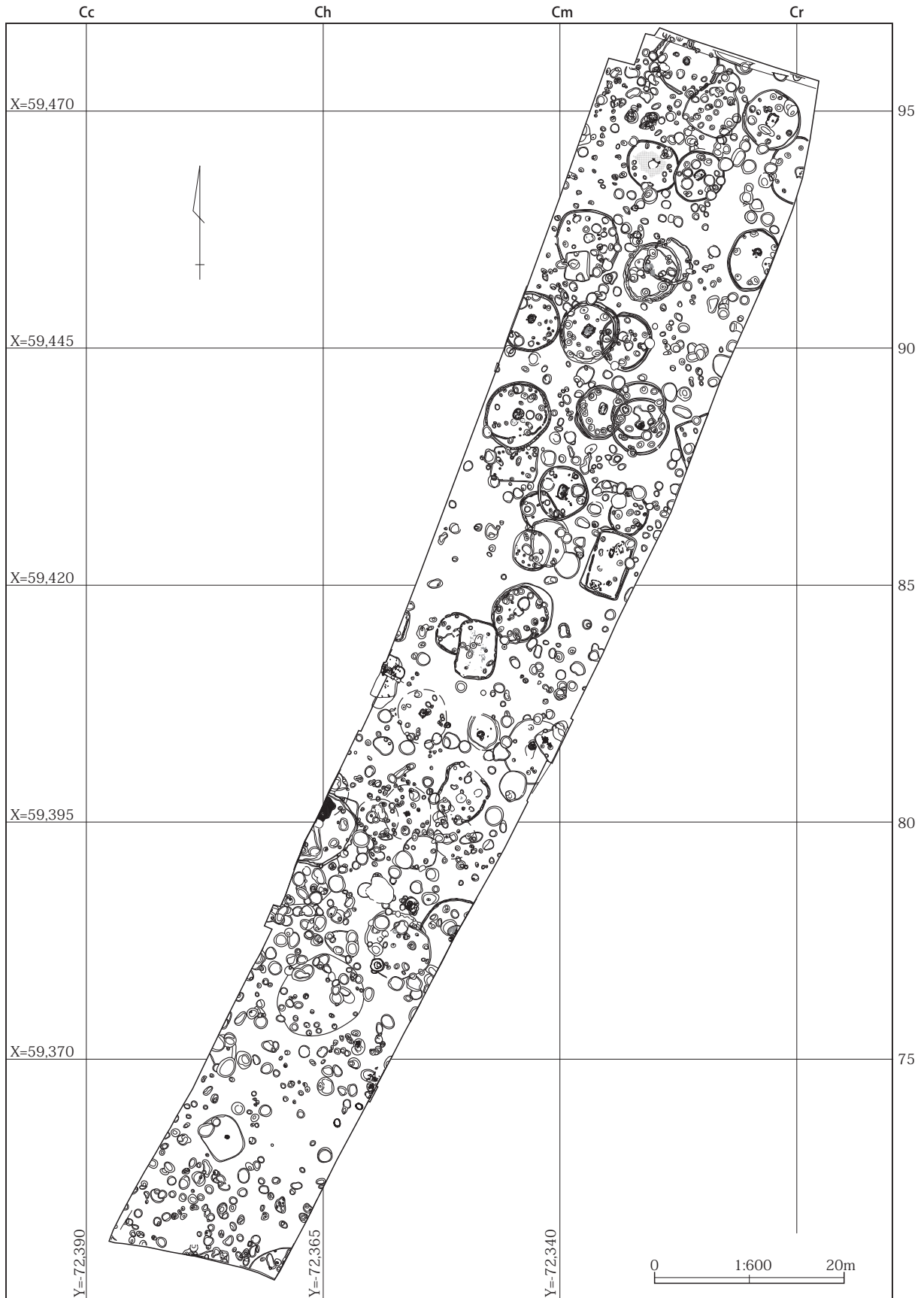
位置：Ch・Ci-80・81 **重複**：404号・411号土坑、5号埋甕と重複するが新旧関係は不明瞭である。各遺構に掘り込まれたと考えられる。 **形状**：柱穴配置から円形状を呈すると思われる。 **規模**：住居の立ち上がりは不明であるが、東西方向のP2、P8間で3.5m、P1、P5間でも3.5m程を測る。深さは計測不能である。 **面積**：計測不能 **方位**：N-15°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：住居推定範囲内で12本を検出した。径30～50cm前後の柱穴が壁際に巡る。重なる柱穴や近接する柱穴もある。 **床面・掘方**：確認面が地山ローム面まで達し、貼床等の痕跡は確認できなかったことから地山をそのまま利用したと考える。 **埋没土**：断面観察未確認

炉：地床炉 **位置**：中央 **形状**：長形状を呈する。板状礫が火床面から出土し、石敷きに用いられた可能性も考えられる。 **規模**：掘方は、長軸92cm、短軸82cm、深さ18cmを測る。 **埋没土**：礫の出土状況から人為的と考える。また、火床面下の堆積土中には焼土ブロック等の混入は少ない。

遺物：土器 出土点数は18点と少ない。2が炉内より出土している。縄文時代中期後半の破片が出土した。石器 炉内から板状礫が出土しているが、それ以外は出土点数は石核1点と剥片1点の2点のみである。

所見：出土土器から住居の時期は縄文時代中期後半の住居と考えられる。

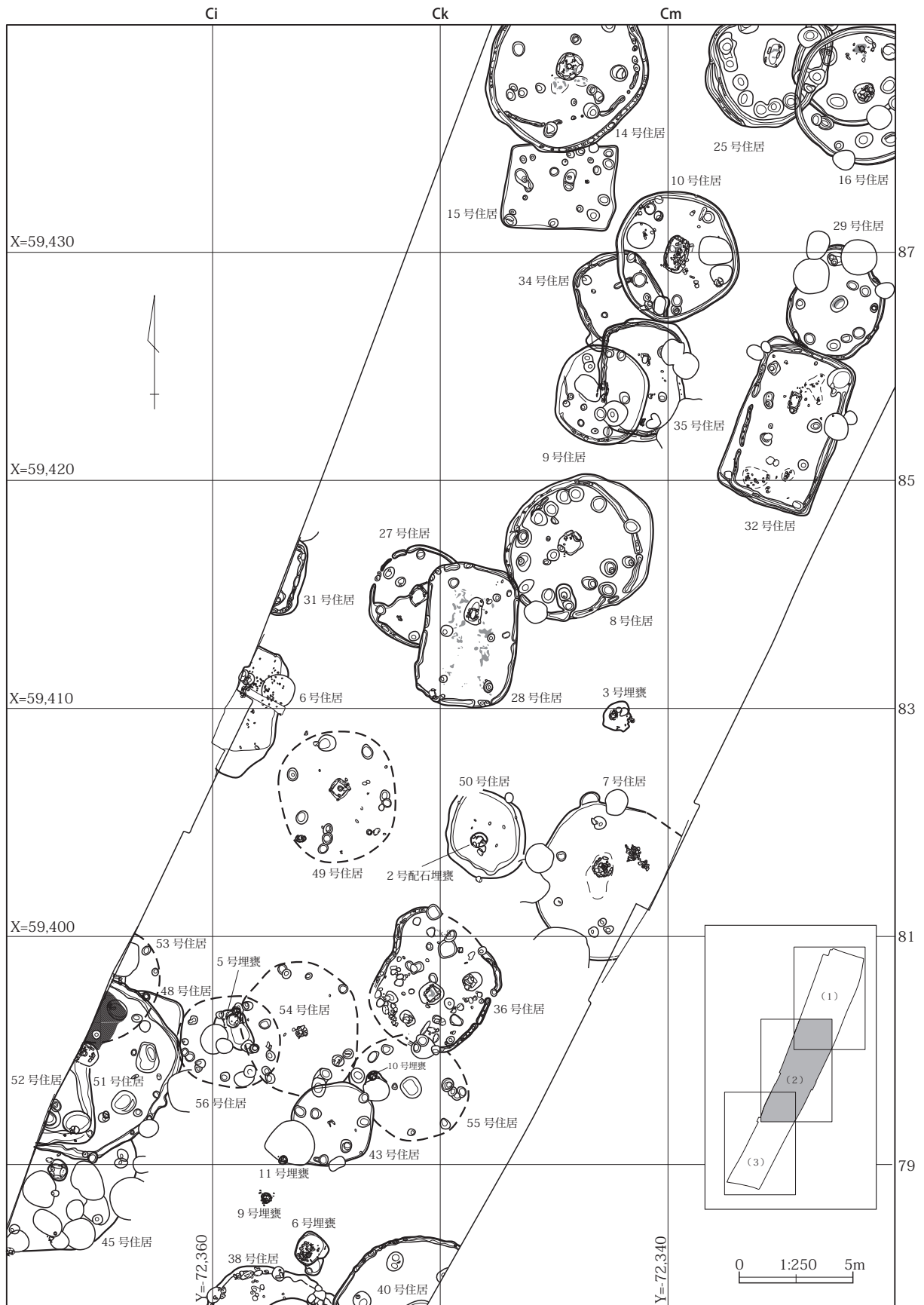
所見：出土土器から住居の時期は縄文時代中期後半の住居と考えられる。



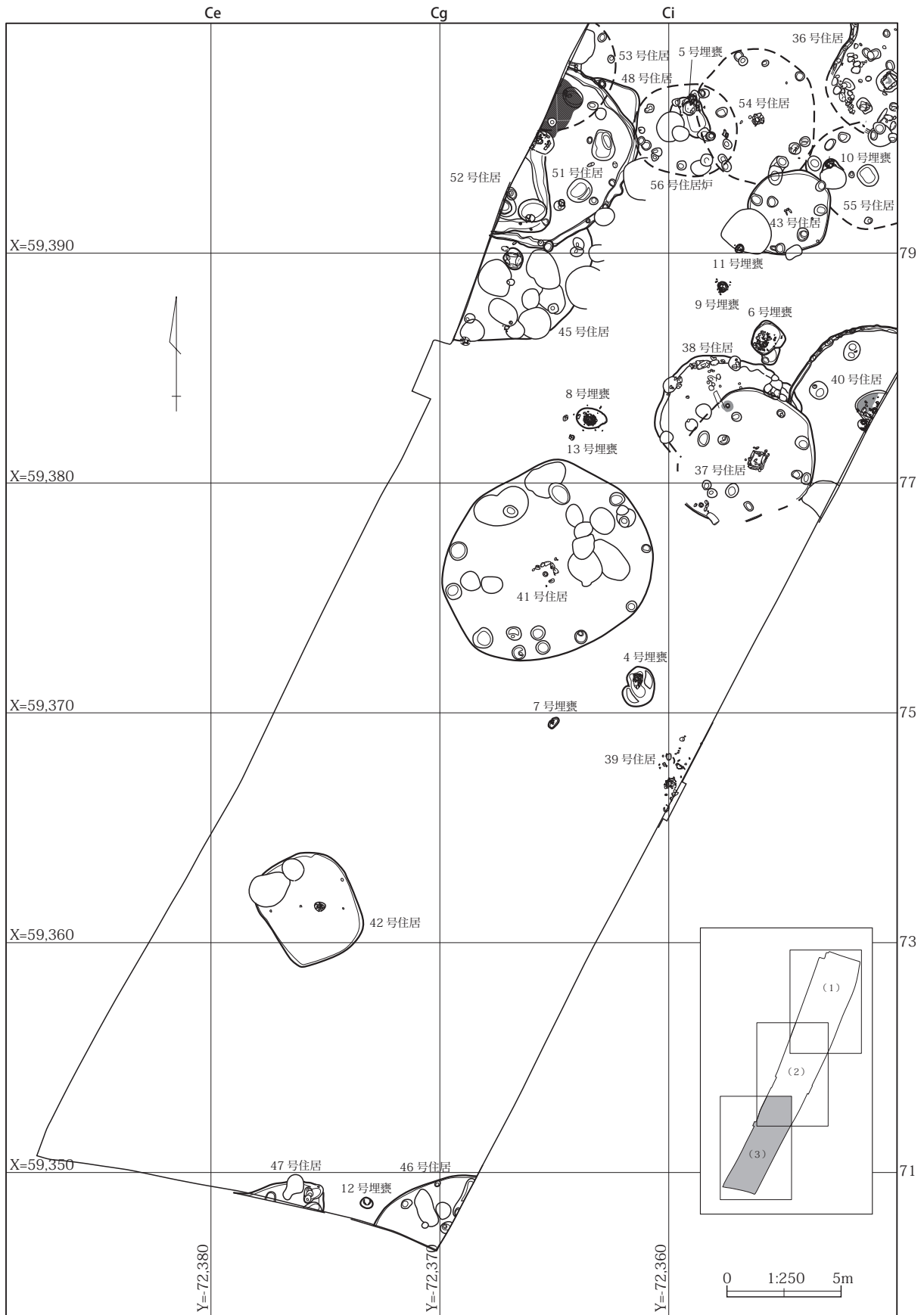
第65図 11区第4面全体図



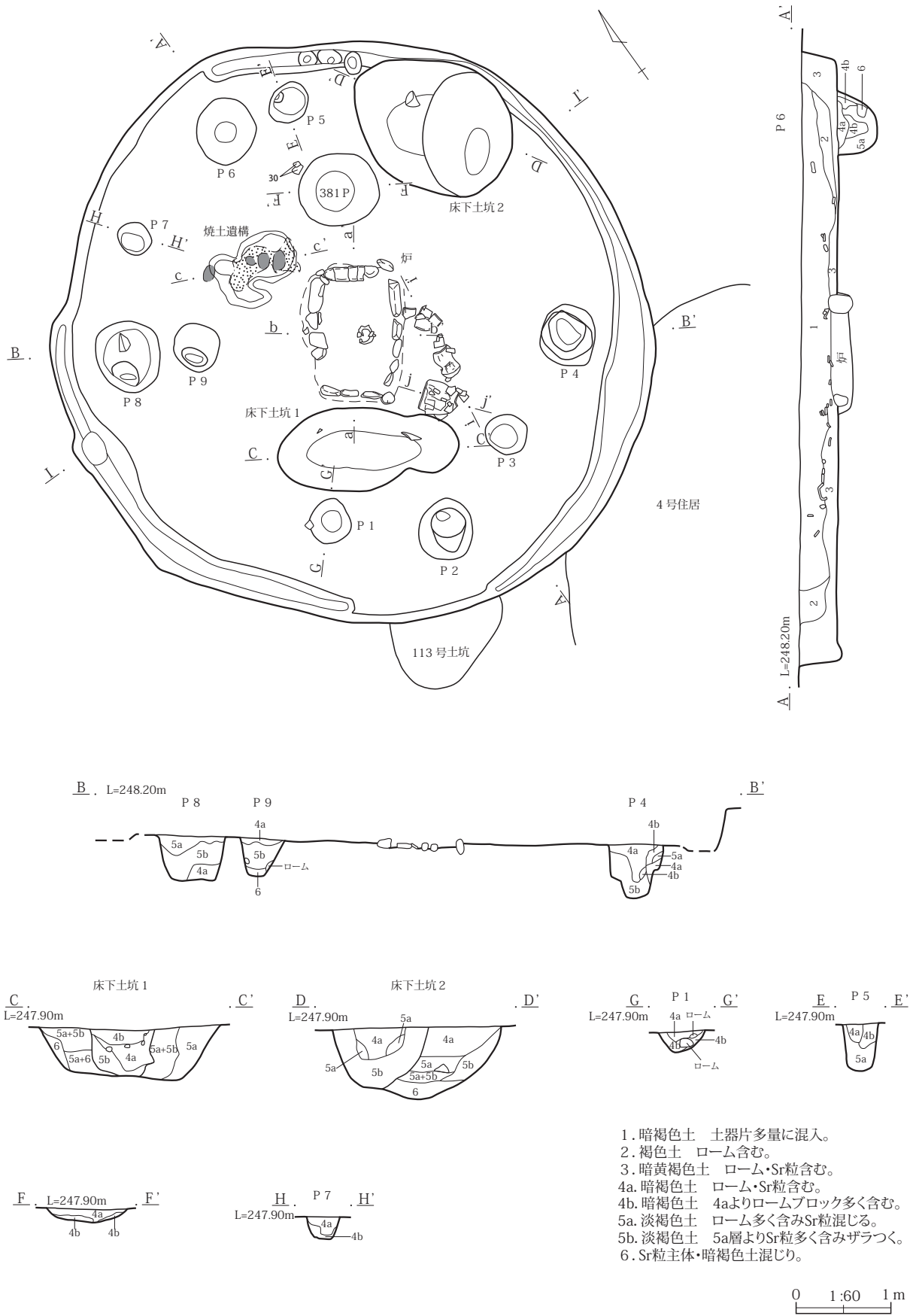
第66図 11区住居配置図(1)



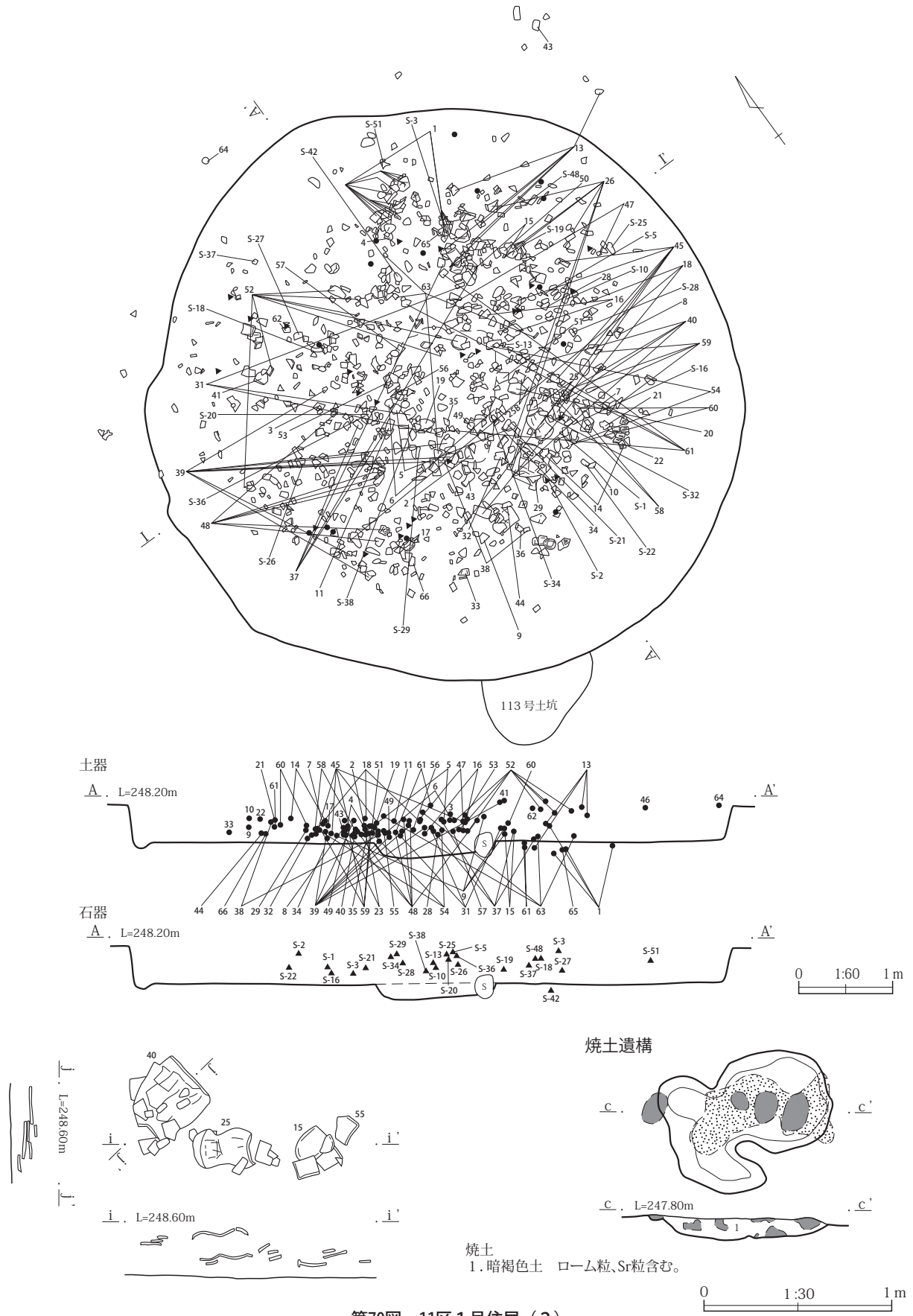
第67図 11区住居配置図(2)



第68図 11区住居配置図 (3)

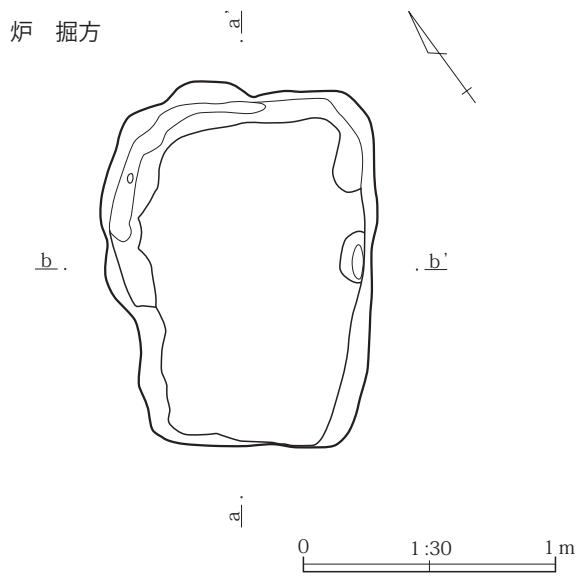
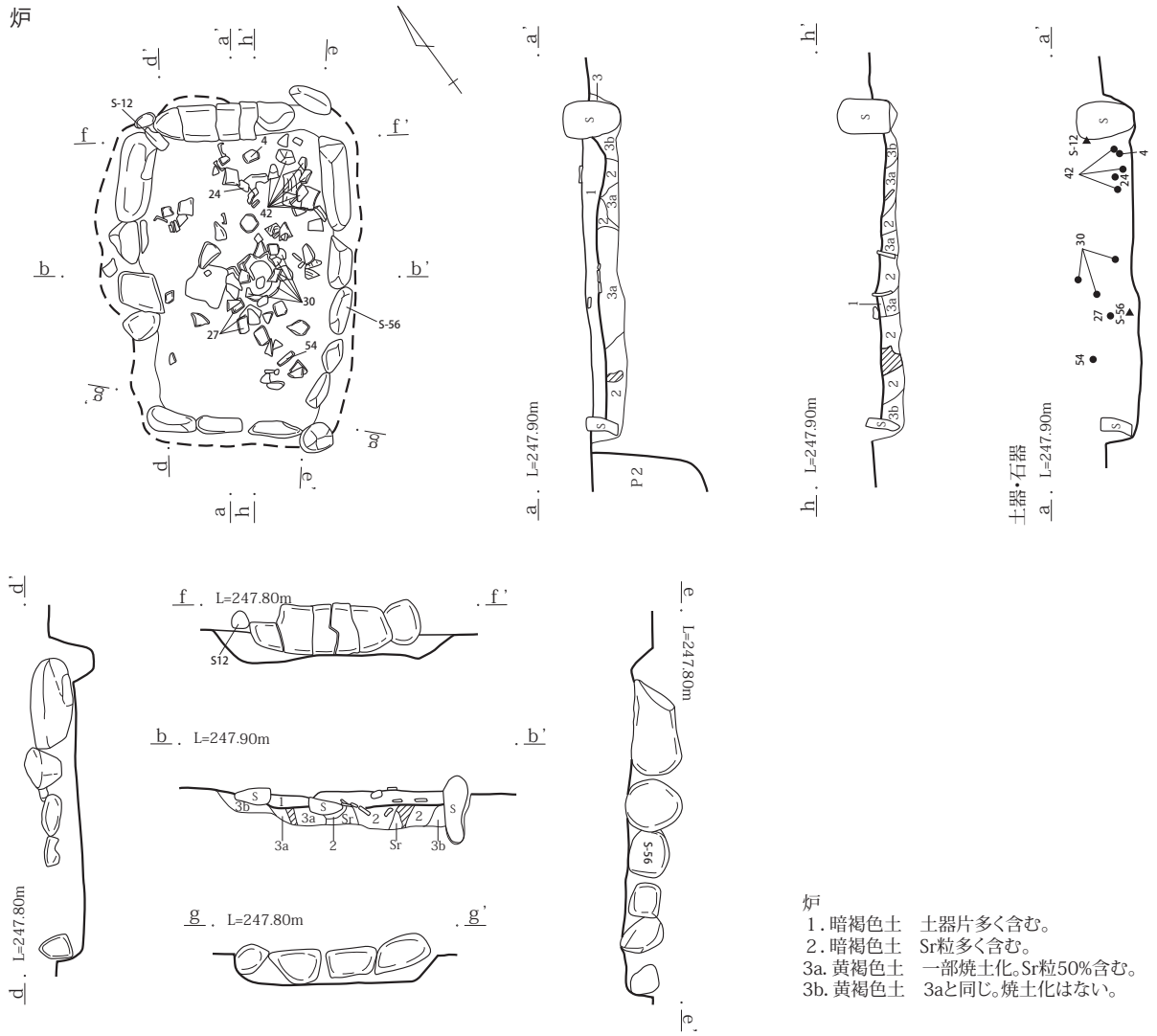


第69図 11区1号住居(1)



第70図 11区1号住居(2)

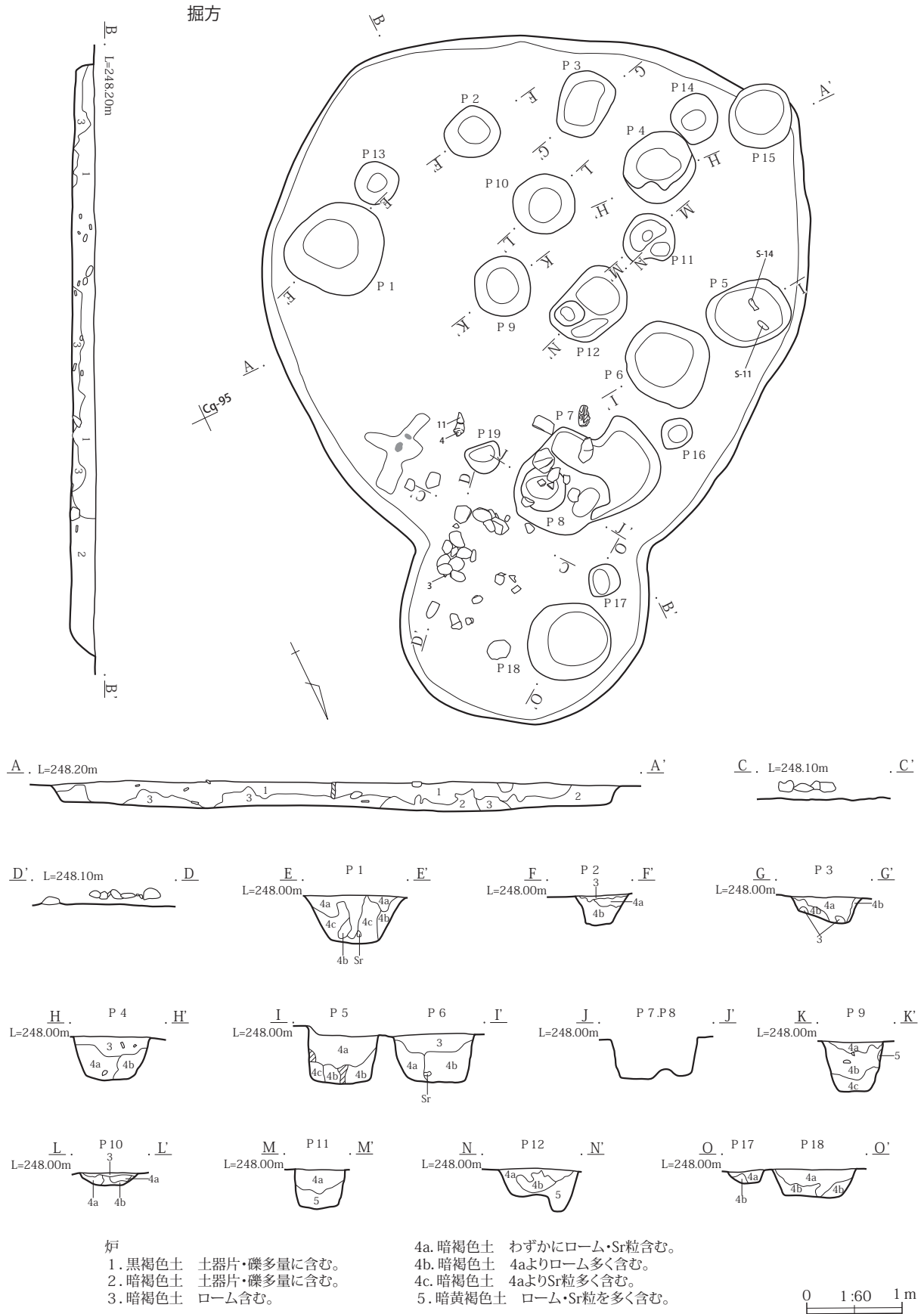
第5章 第4面の検出遺構



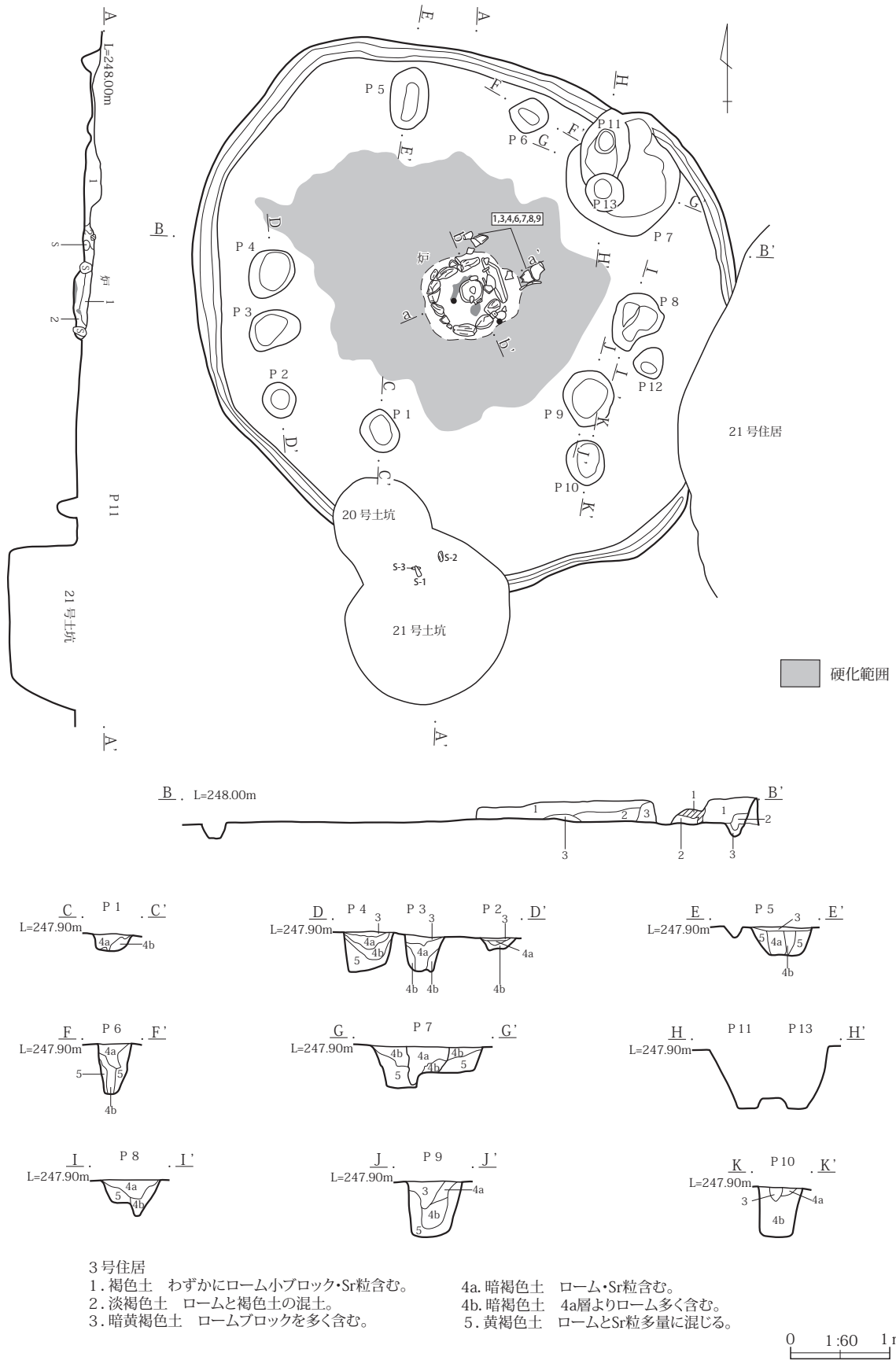
第71図 11区1号住居 (3)



第72図 11区2号住居(1)

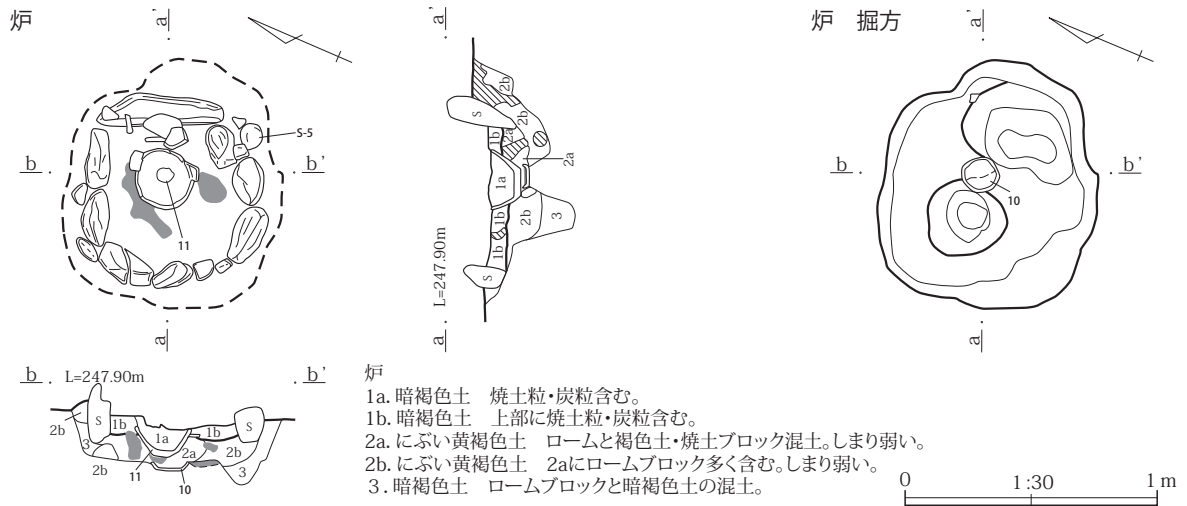


第73図 11区2号住居(2)

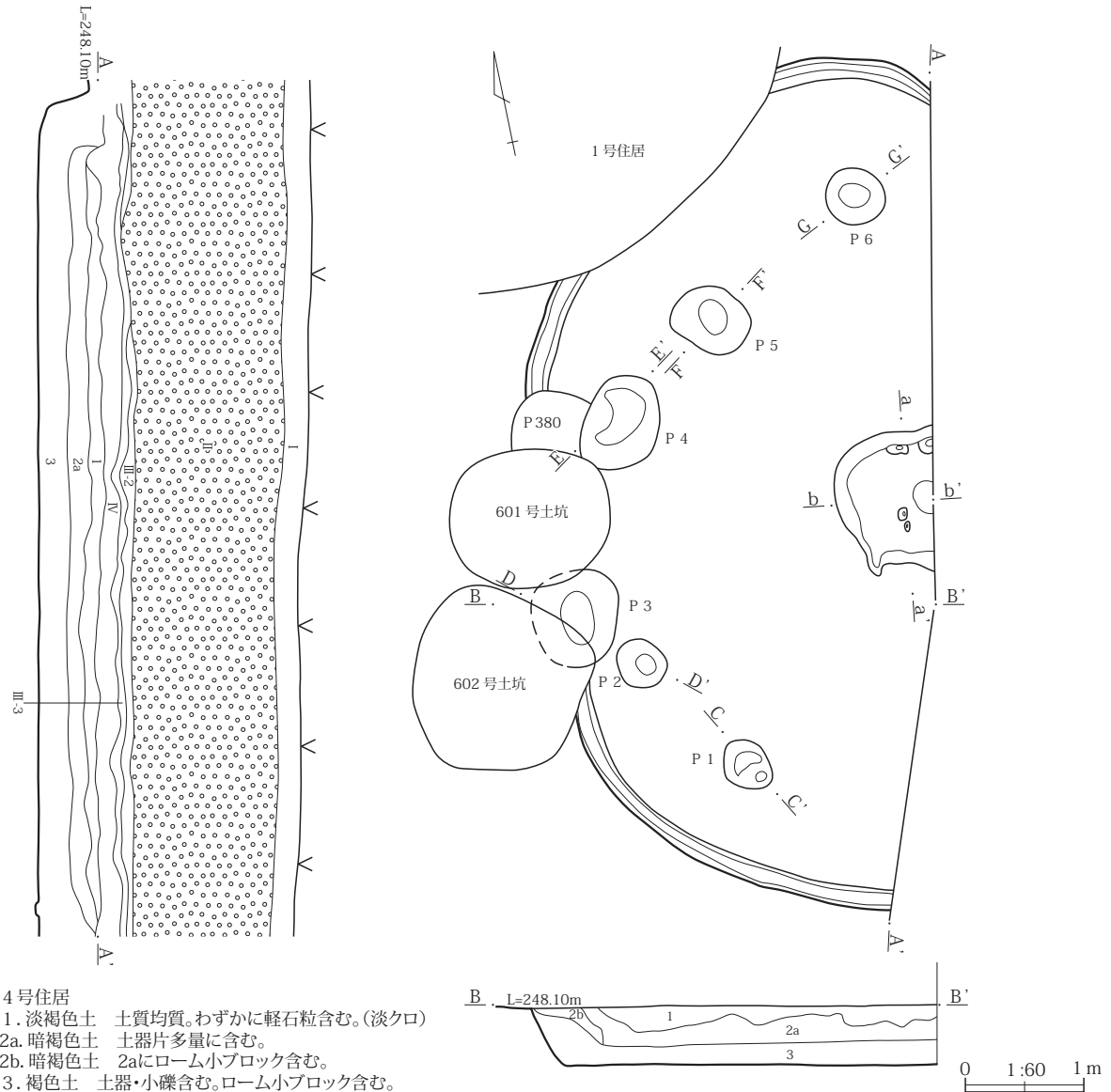


第74図 11区3号住居(1)

第5章 第4面の検出遺構

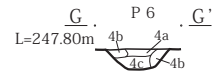
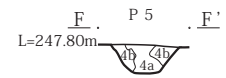
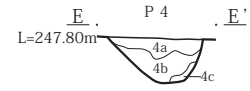
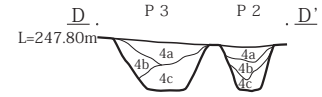
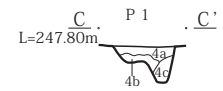


第75図 11区3号住居(2)

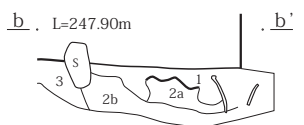
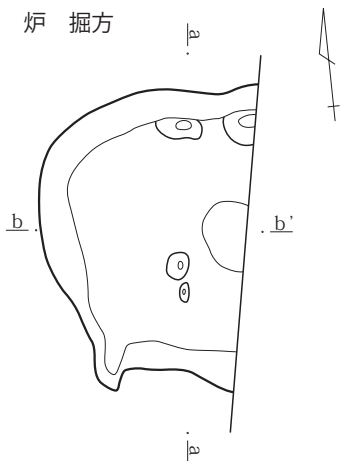
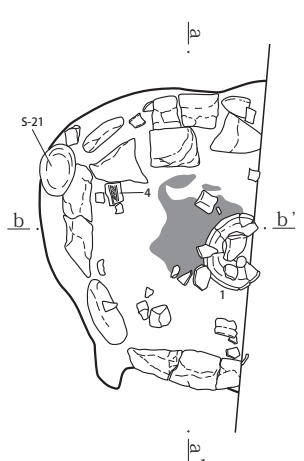
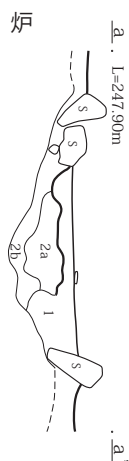
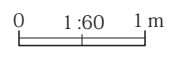


第76図 11区4号住居(1)

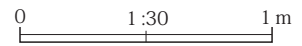
第7節 11区検出遺構



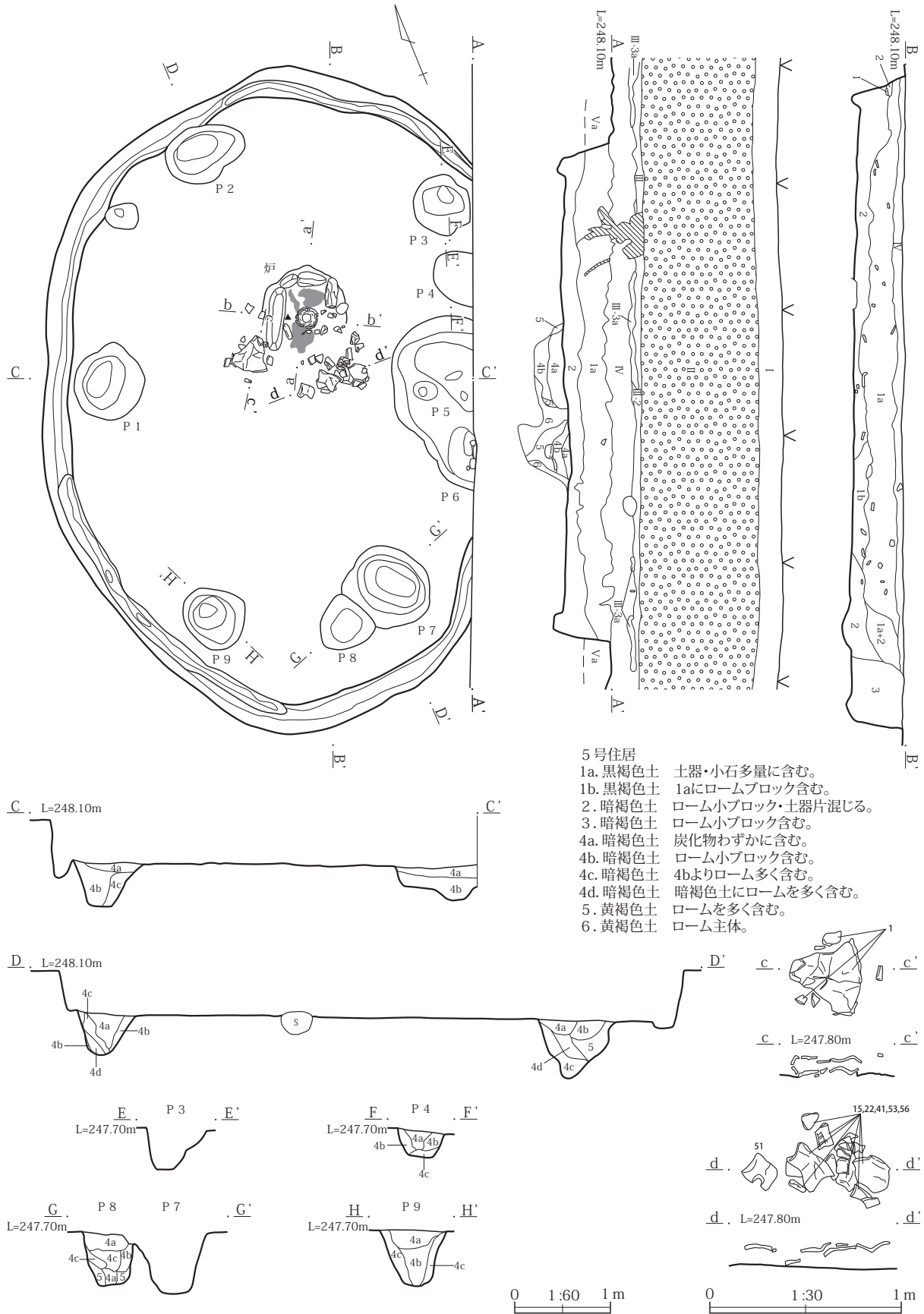
ピット
 4a. 暗褐色土 ローム・Sr粒わずかに含む。
 4b. 暗褐色土 4aよりローム多く含む。
 4c. 暗褐色土 4bよりさらにローム多く含む。



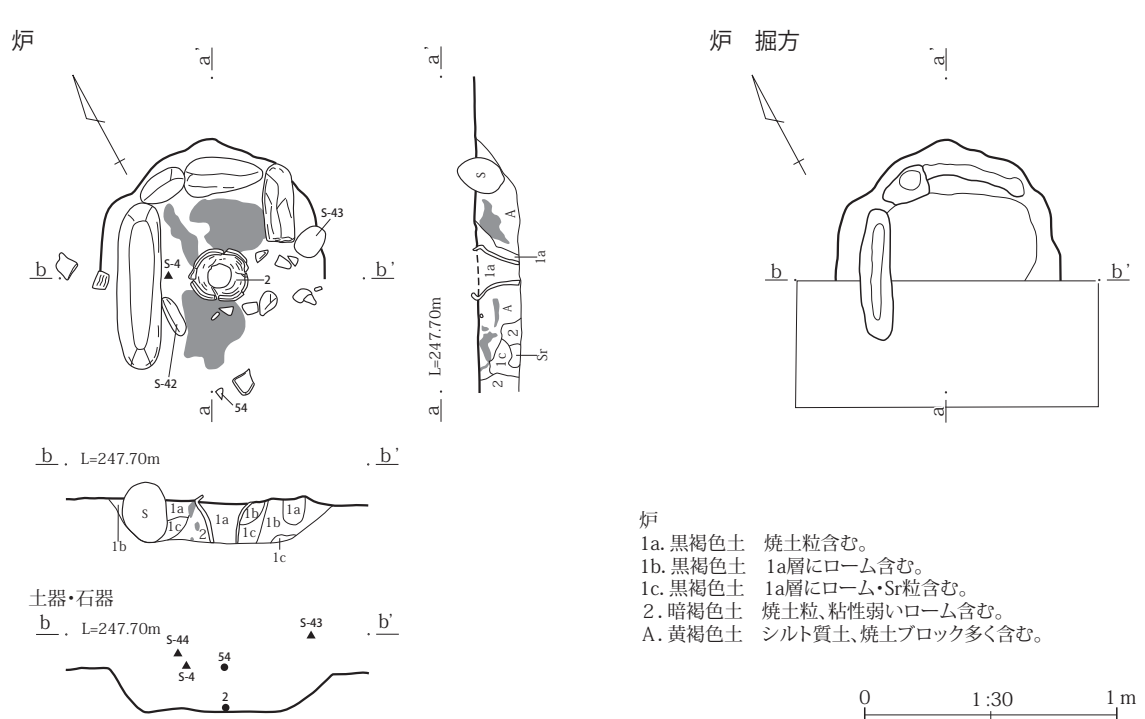
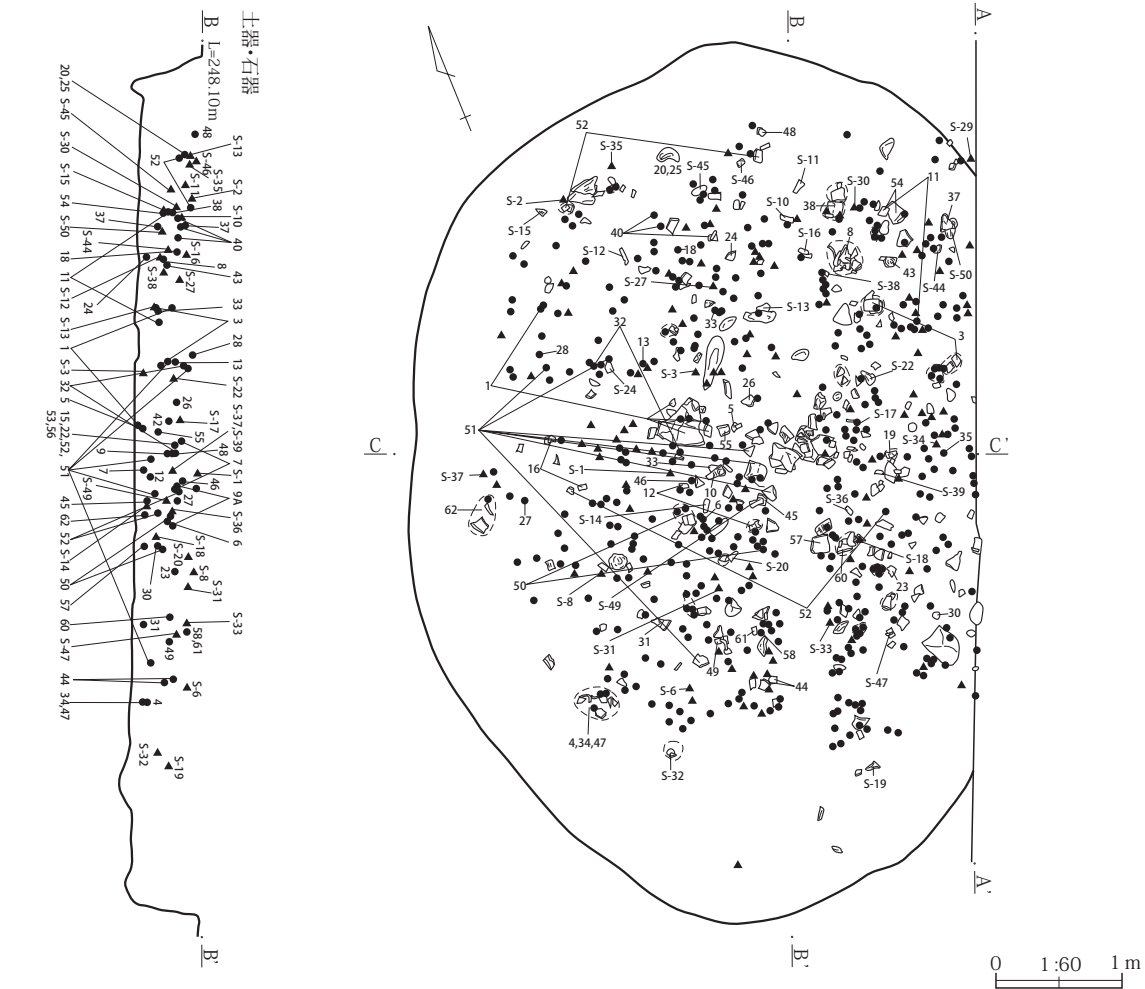
炉
 1. 暗褐色土 土器片・小礫含む。
 2a. 褐色土 焼土小ブロック多量に含む。
 2b. 褐色土 2a層より焼土少ない。ローム小ブロック含む。
 3. にぶい黄褐色土 褐色土とロームの混土。



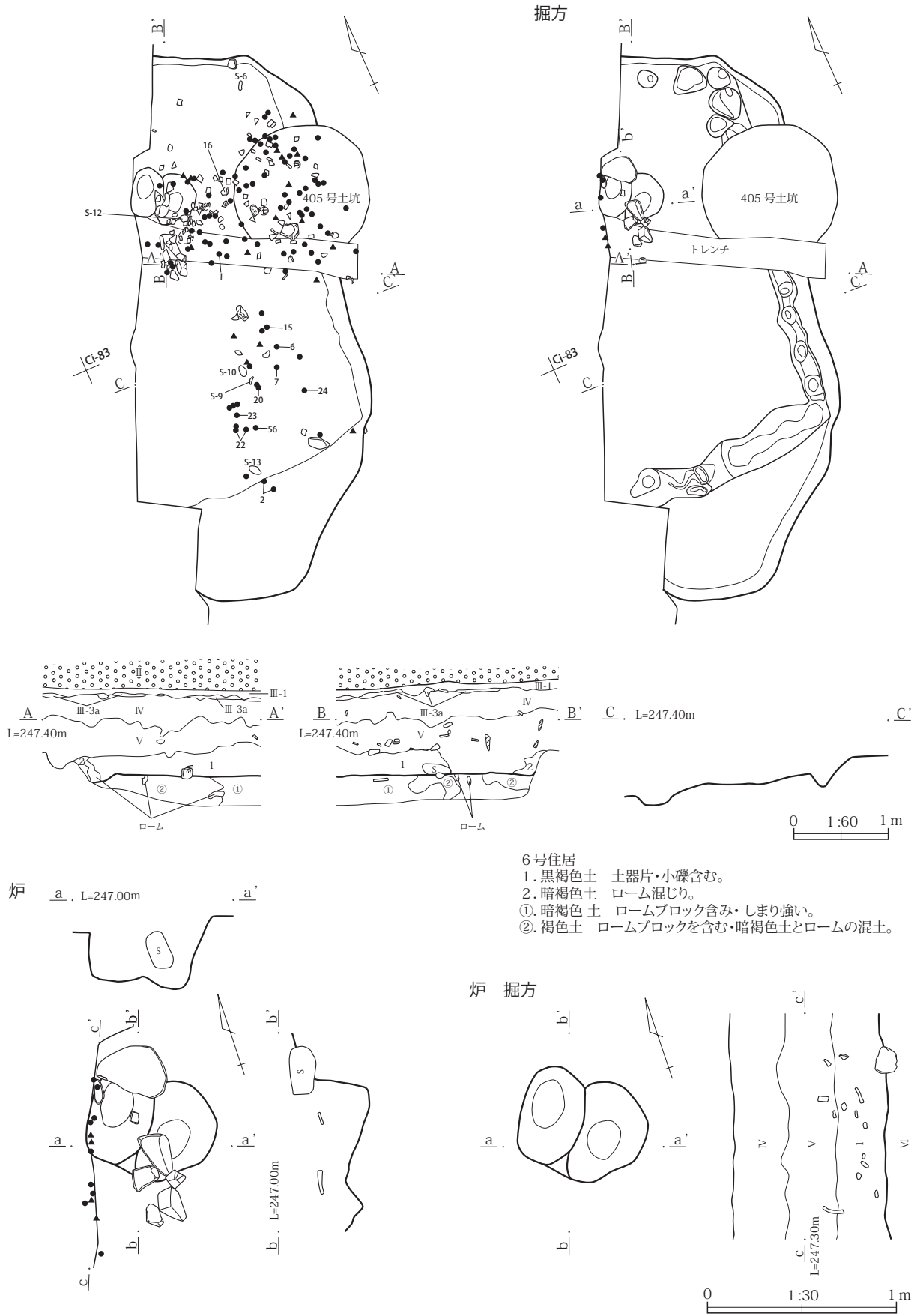
第77図 11区4号住居 (2)



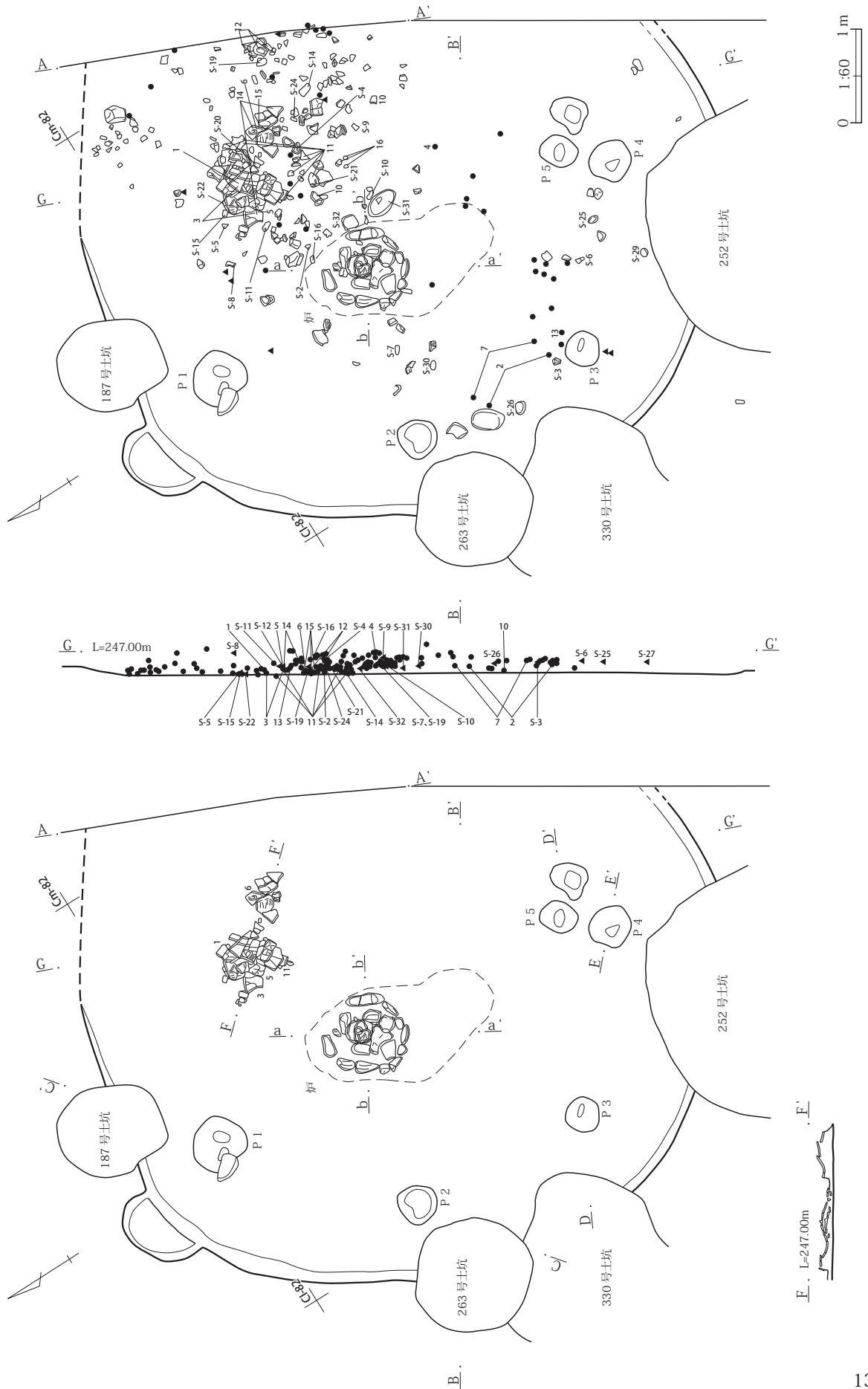
第78図 11区5号住居(1)



第79図 11区5号住居(2)

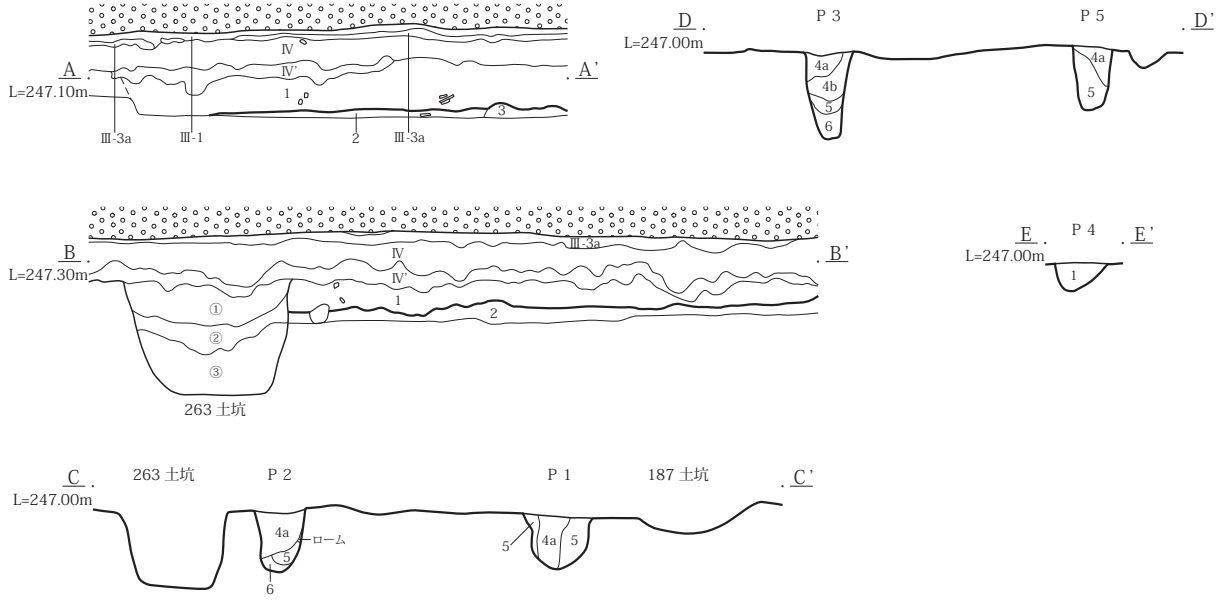


第80図 11区6号住居



第81图 11区7号住居(1)

第5章 第4面の検出遺構

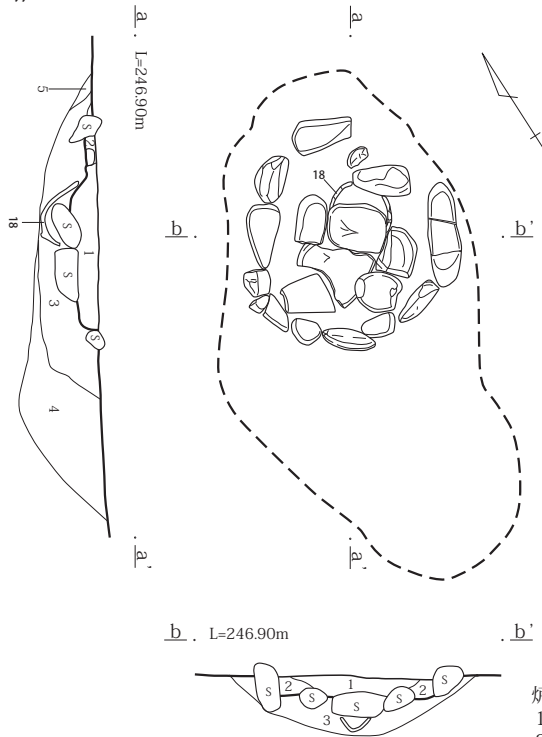


7号住居

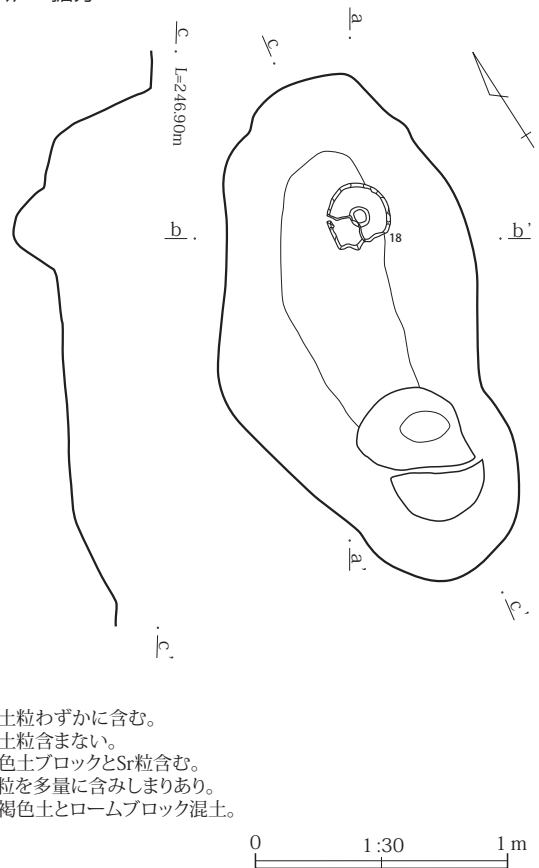
- 1. 暗褐色土 V層とほぼ同じ土器片多く含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒・小ブロック多含みしまりあり(貼床)。
- 3. 暗黄褐色土 2層よりロームブロック多く含む(貼床)。
- 4a. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 4b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
- 5. 褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 6. にぶい黄褐色土 ローム主体。
- ①. 暗褐色土
- ②. 黒褐色土
- ③. 暗褐色土

0 1:60 1m

炉



炉 掘方

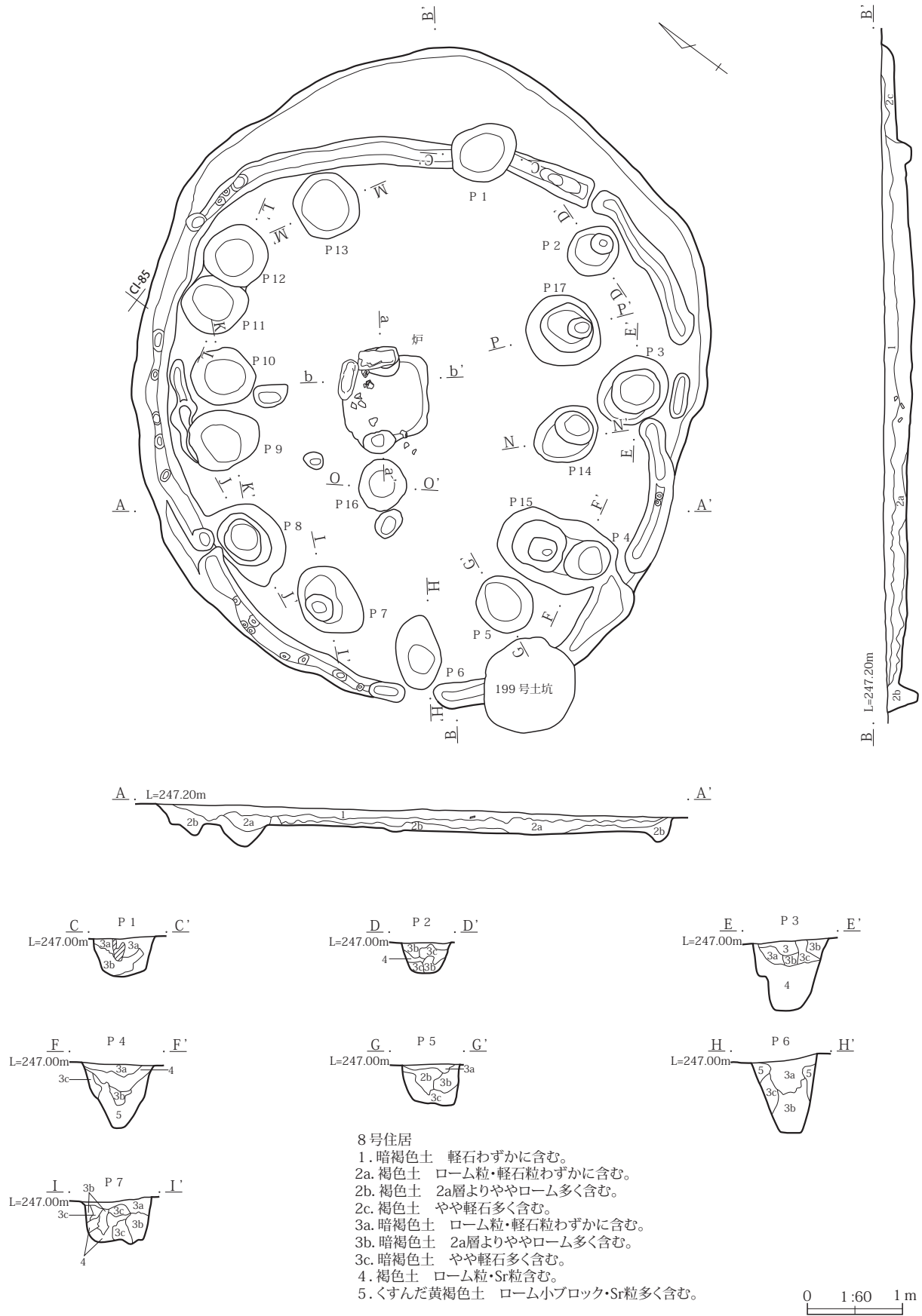


炉

- 1. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 焼土粒含まない。
- 3. 暗褐色土 褐色土ブロックとSr粒含む。
- 4. 暗褐色土 Sr粒を多量に含みしまりあり。
- 5. 暗黄褐色土 褐色土とロームブロック混土。

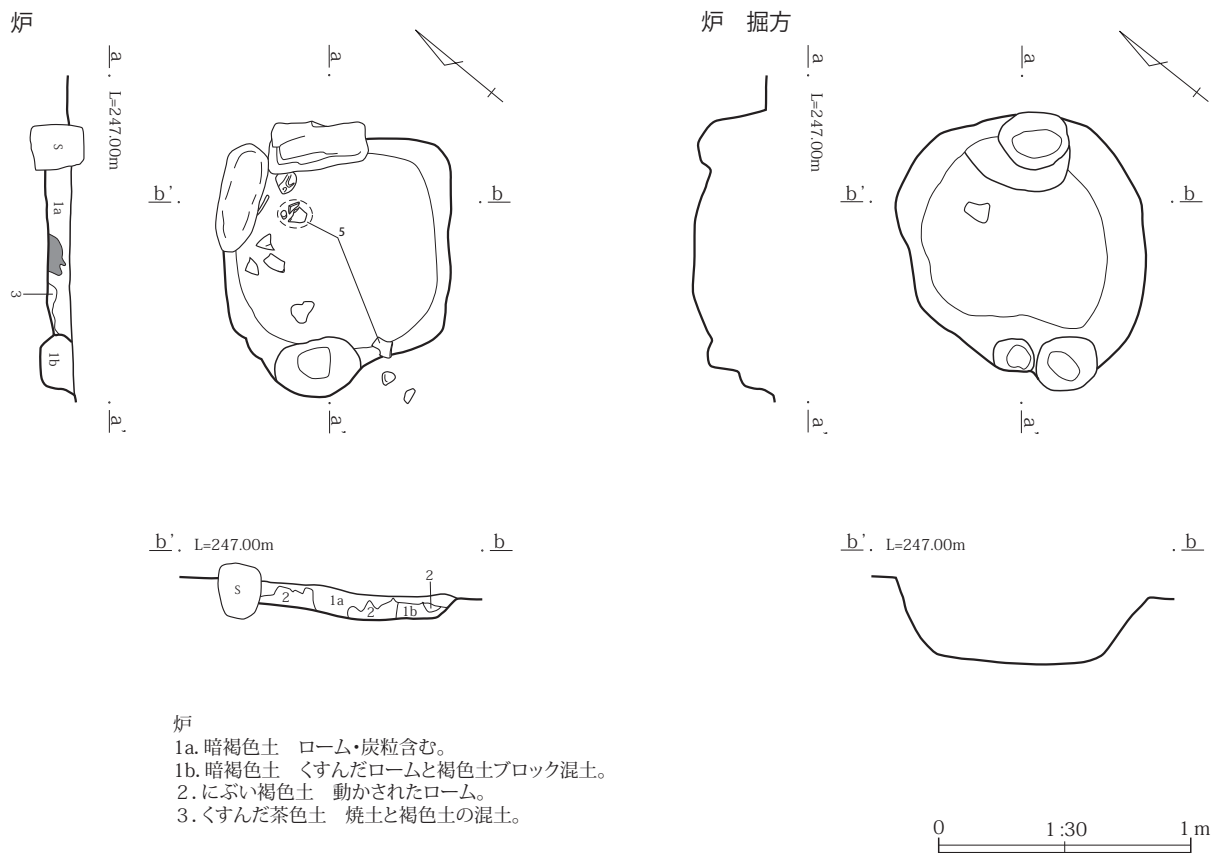
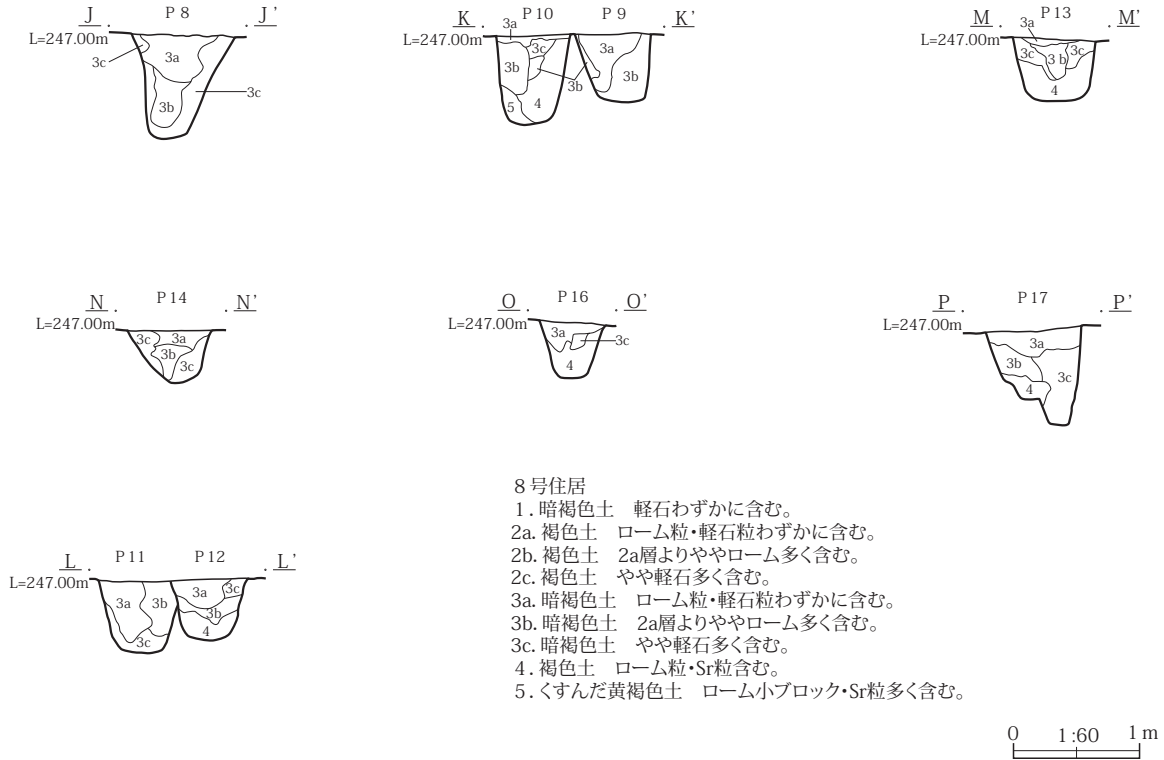
0 1:30 1m

第82図 11区7号住居(2)

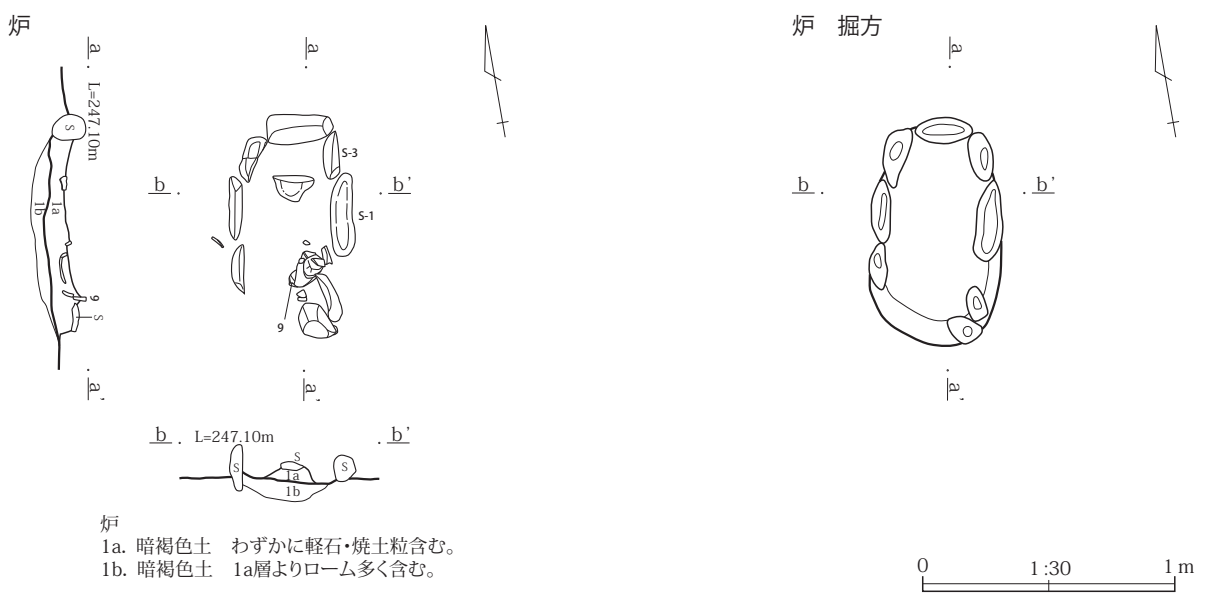
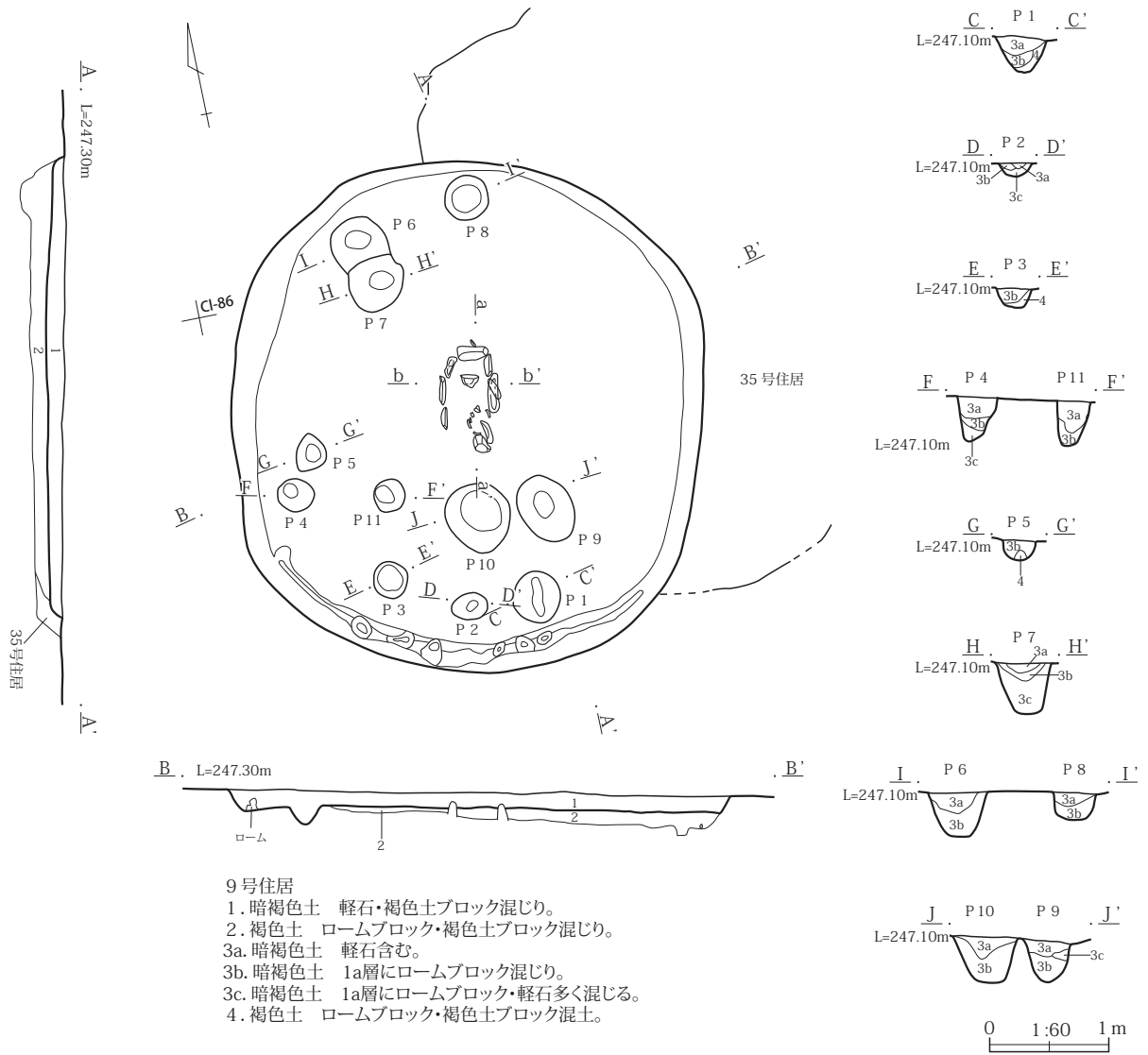


第83図 11区8号住居(1)

第5章 第4面の検出遺構

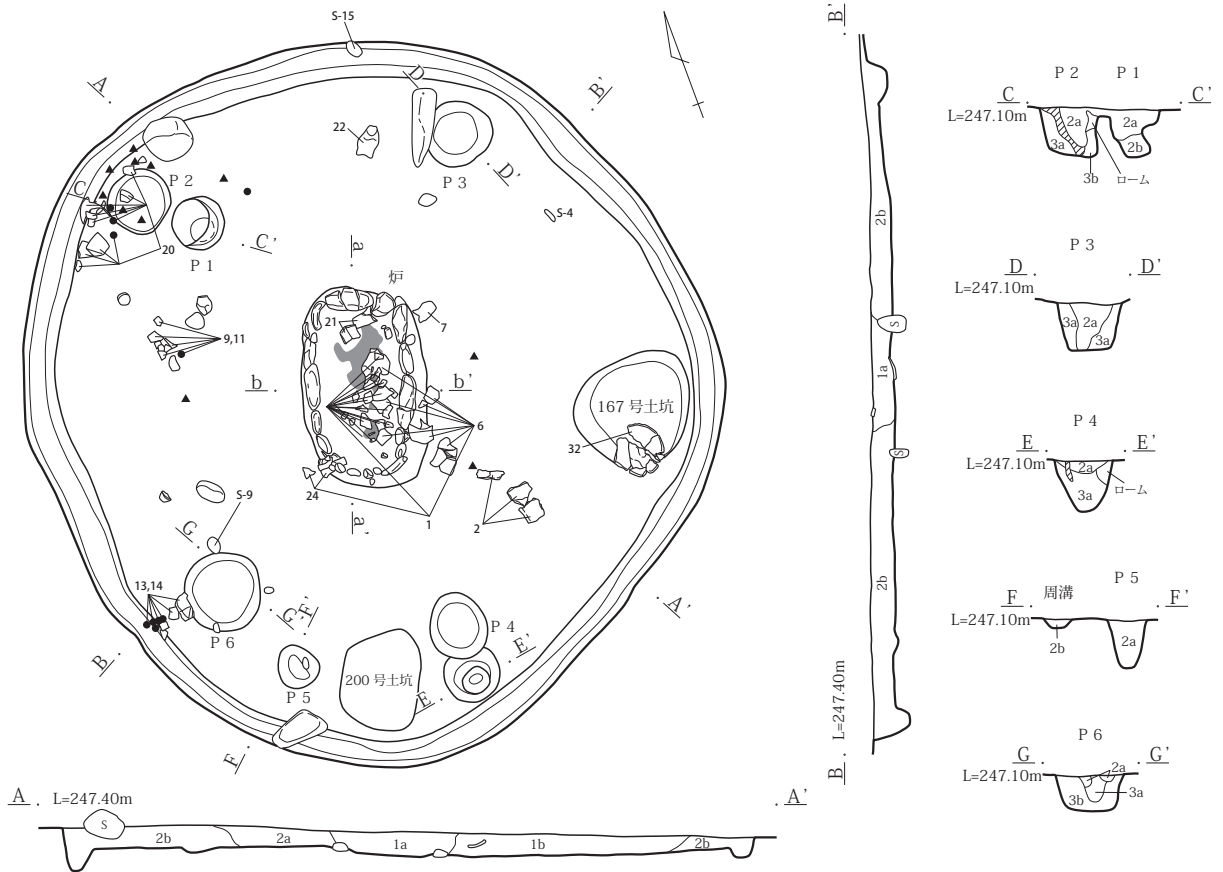


第84図 11区8号住居 (2)



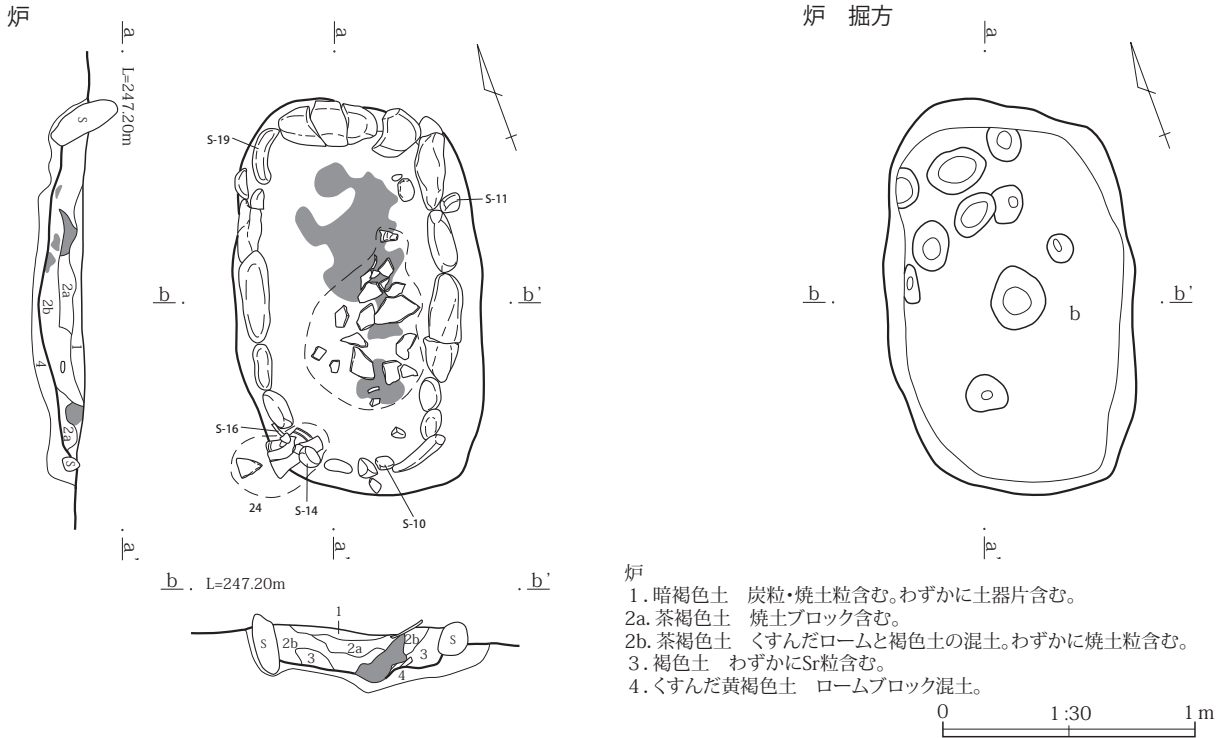
第85図 11区9号住居

第5章 第4面の検出遺構



- 10号住居
 1a. 黒褐色土 軽石・炭粒含む。 2b. 暗褐色土 2a層に褐色土ブロック含む。
 1b. 黒褐色土 1a層に焼土粒含む。 3a. にぶい黄褐色土 ロームブロックと淡褐色土の混土。
 2a. 暗褐色土 軽石・ロームブロック含む。 3b. にぶい黄褐色土 ロームブロック主体。

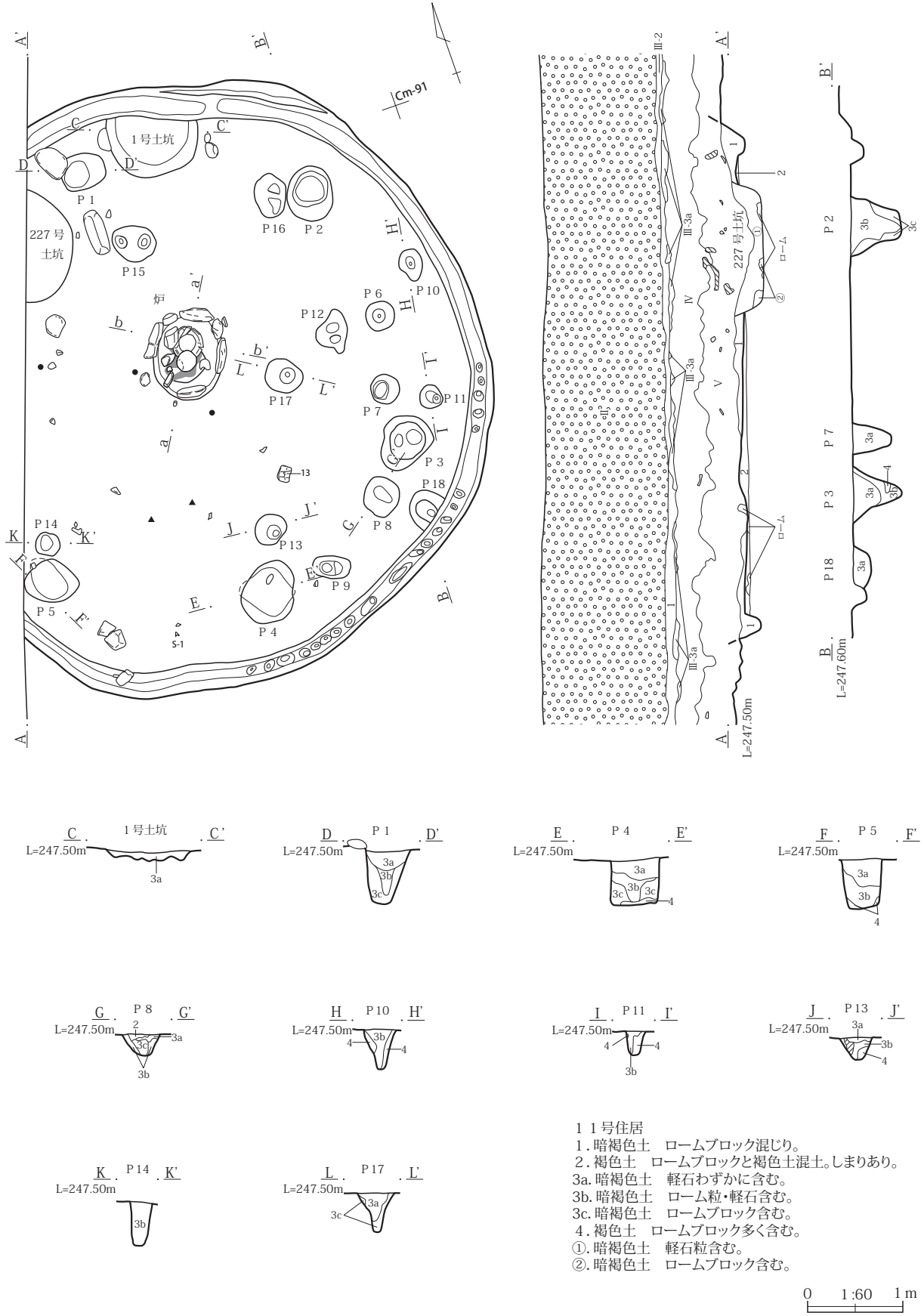
0 1:60 1m



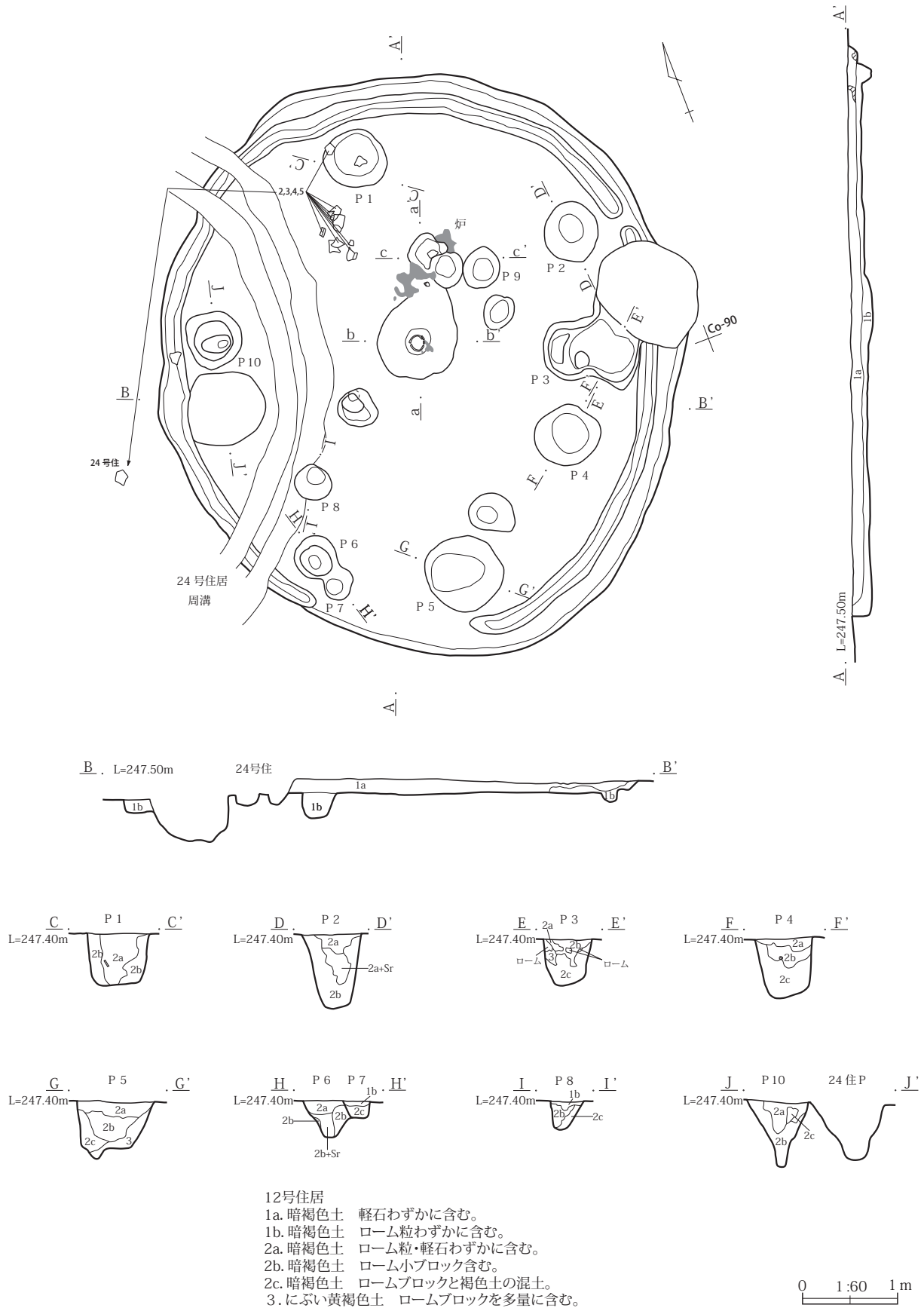
- 炉
 1. 暗褐色土 炭粒・焼土粒含む。わずかに土器片含む。
 2a. 茶褐色土 焼土ブロック含む。
 2b. 茶褐色土 くすんだロームと褐色土の混土。わずかに焼土粒含む。
 3. 褐色土 わずかにSr粒含む。
 4. くすんだ黄褐色土 ロームブロック混土。

0 1:30 1m

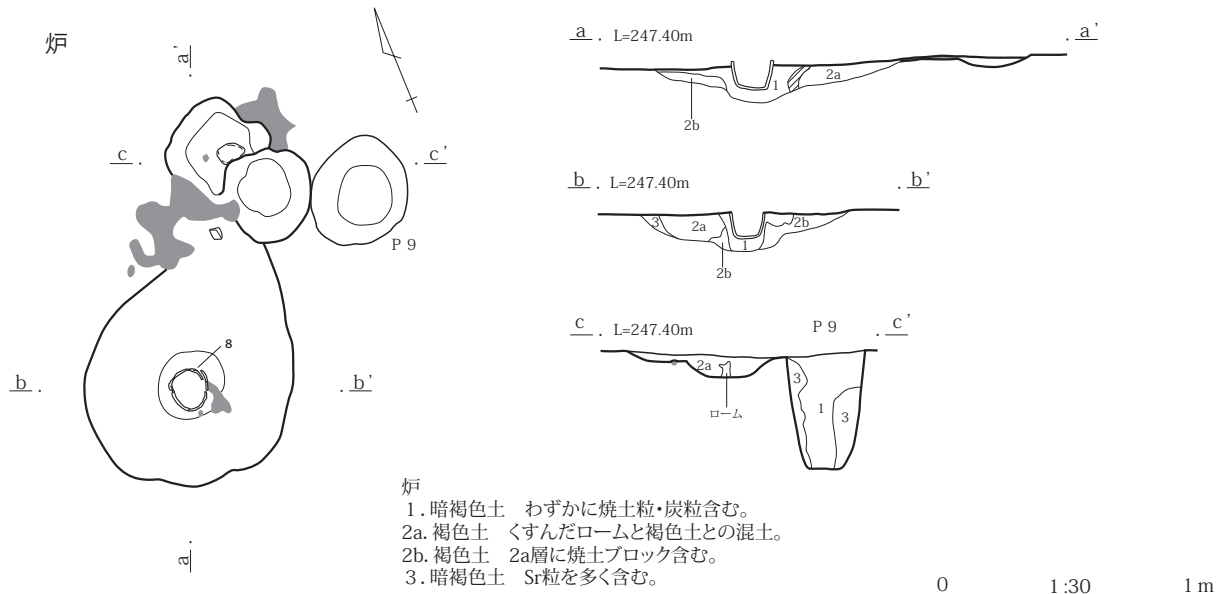
第86図 11区10号住居



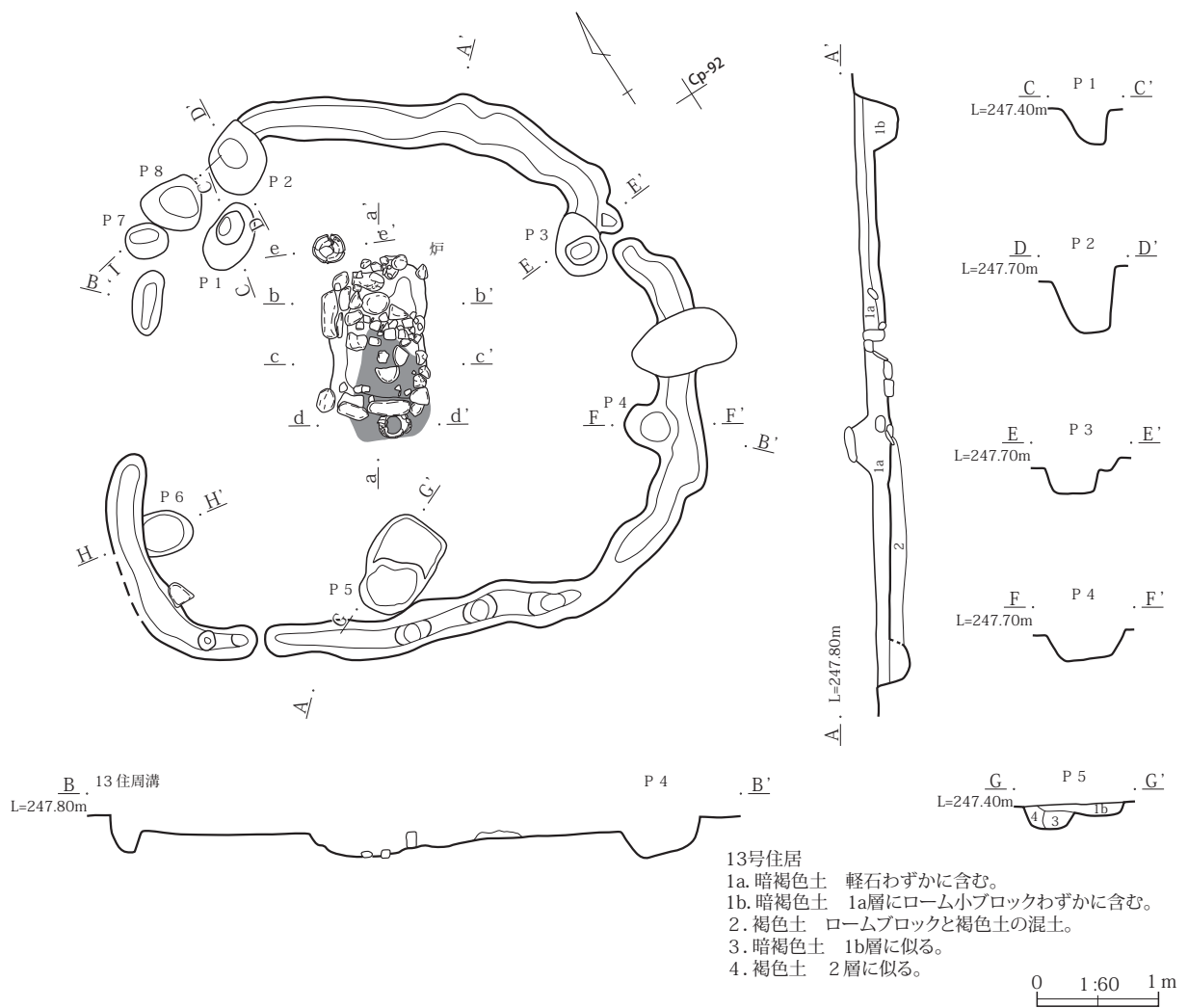
第87図 11区11号住居 (1)



第89図 11区12号住居 (1)

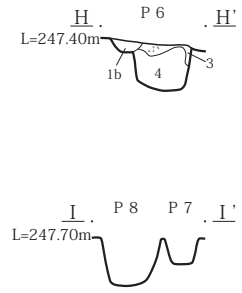
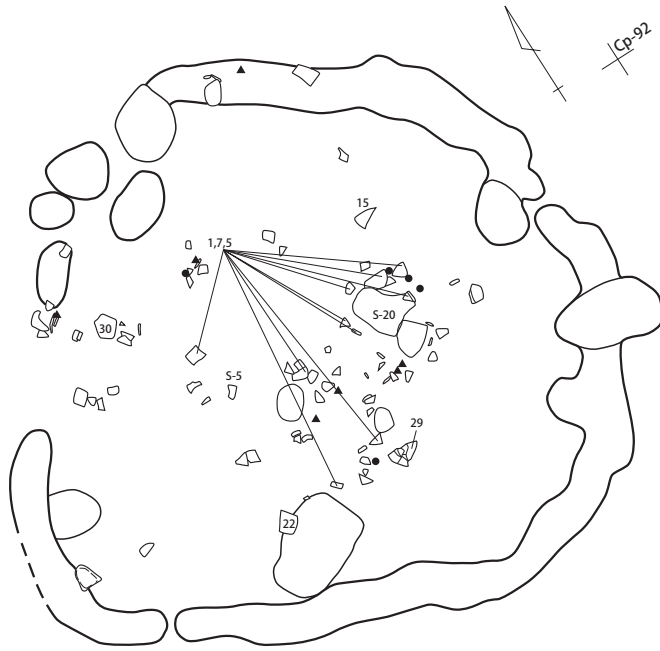


第90図 11区12号住居(2)



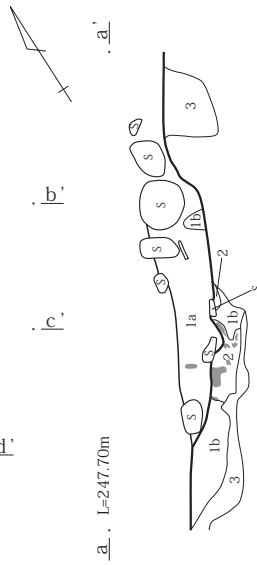
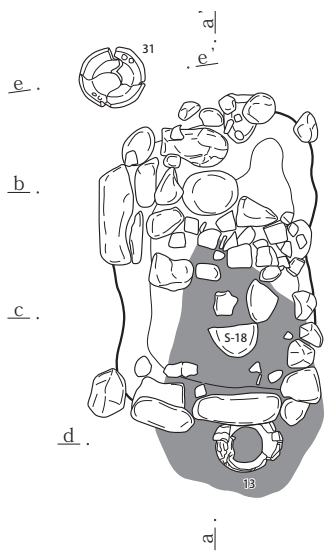
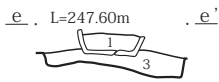
第91図 11区13号住居(1)

第7節 11区検出遺構

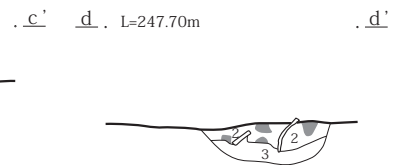
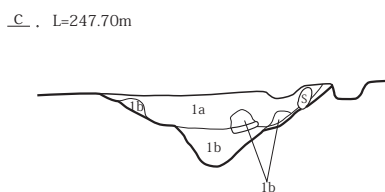
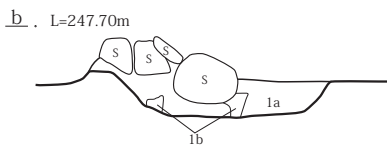
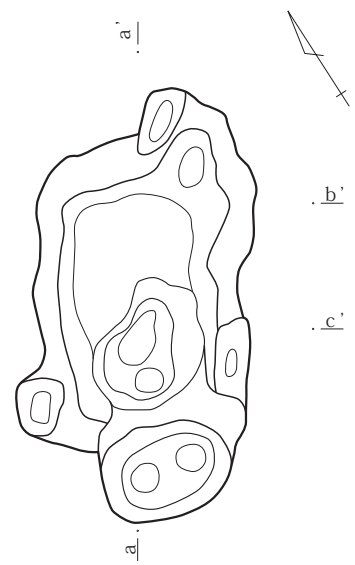


- 13号住居
 1a. 暗褐色土 軽石わずかに含む。
 1b. 暗褐色土 1a層にローム小ブロックわずかに含む。
 2. 褐色土 ロームブロックと褐色土の混土。
 3. 暗褐色土 1b層に似る。
 4. 褐色土 2層に似る。

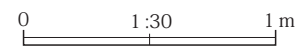
炉



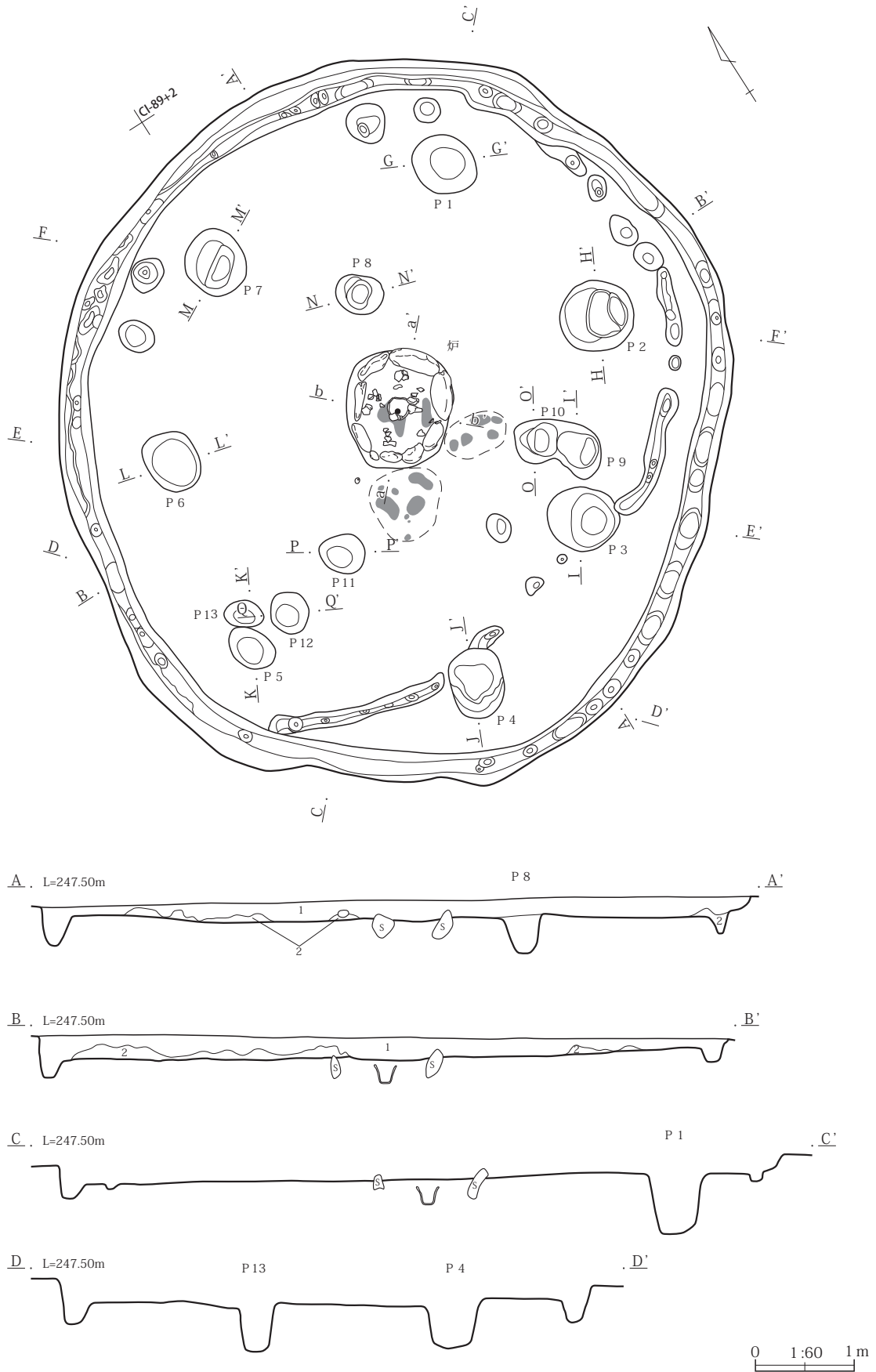
炉 掘方



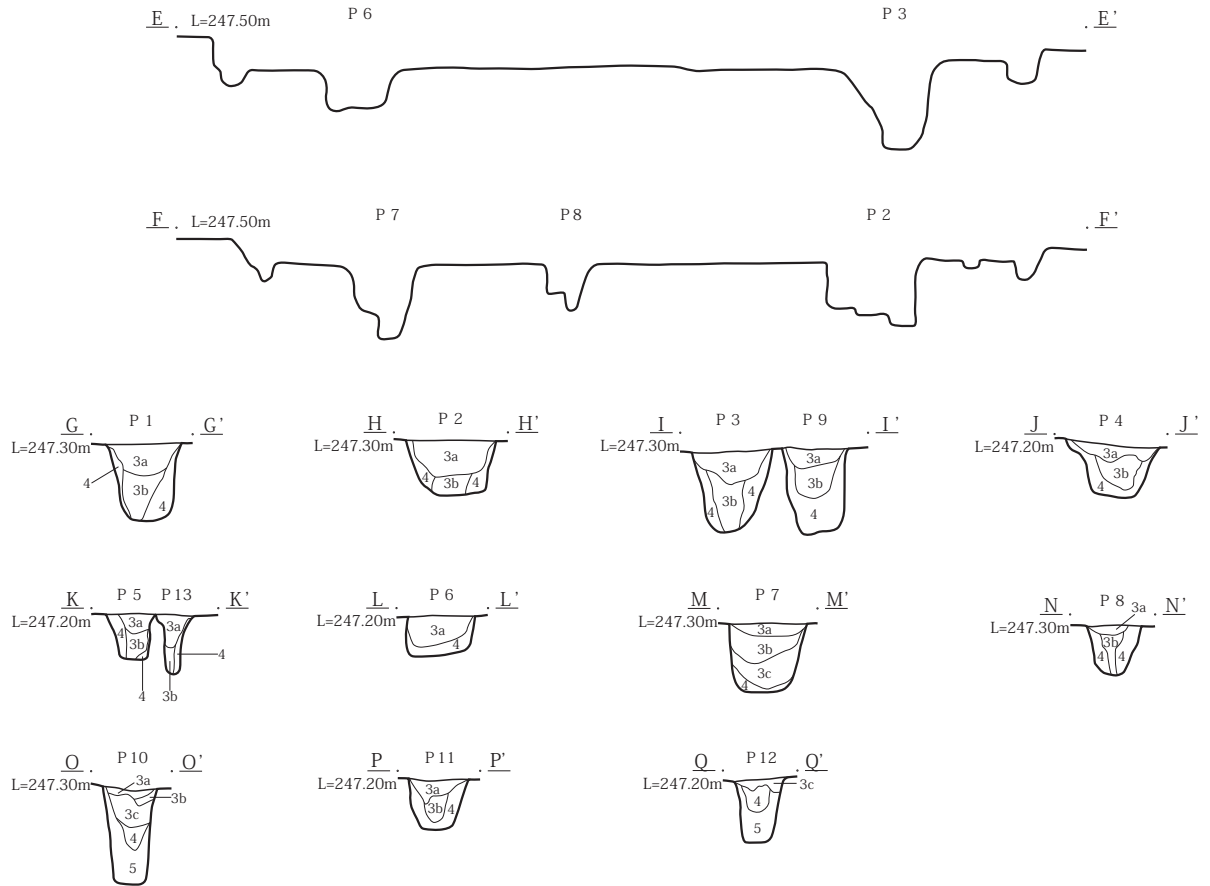
- 炉
 1a. 暗褐色土 礫・土器片混じり。焼土ブロック含む。
 1b. 暗褐色土 焼土ブロック混じり。
 2. 暗赤褐色土 焼土ブロック主体、暗褐色土混じり。
 3. 暗黄褐色土 ロームと褐色土の混土。



第92図 11区13号住居 (2)

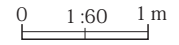


第93図 11区14号住居 (1)

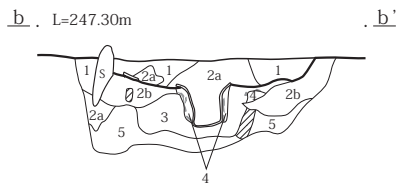
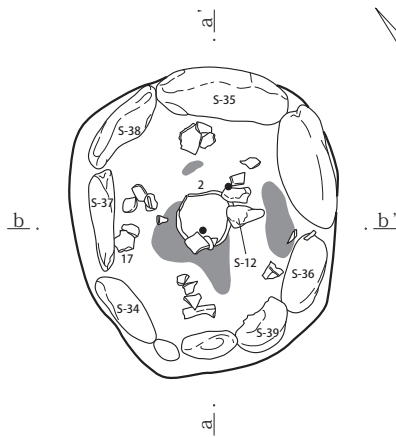


ピット

- 1. 暗褐色土 ローム小ブロックわずかに含む。
- 2. 褐色土 ローム小ブロックやや多く含む。
- 3a. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3b. 暗褐色土 3a層にロームブロック含む。
- 3c. 暗褐色土 3b層よりロームブロック多く含む。
- 4. くすんだ黄褐色土 ロームブロックと褐色土混じり。
- 5. 黄褐色土 掘り過ぎか、ローム主体。

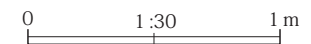


炉

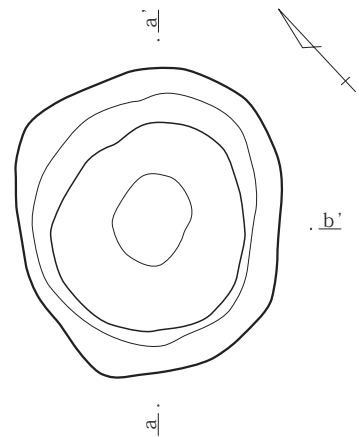


炉

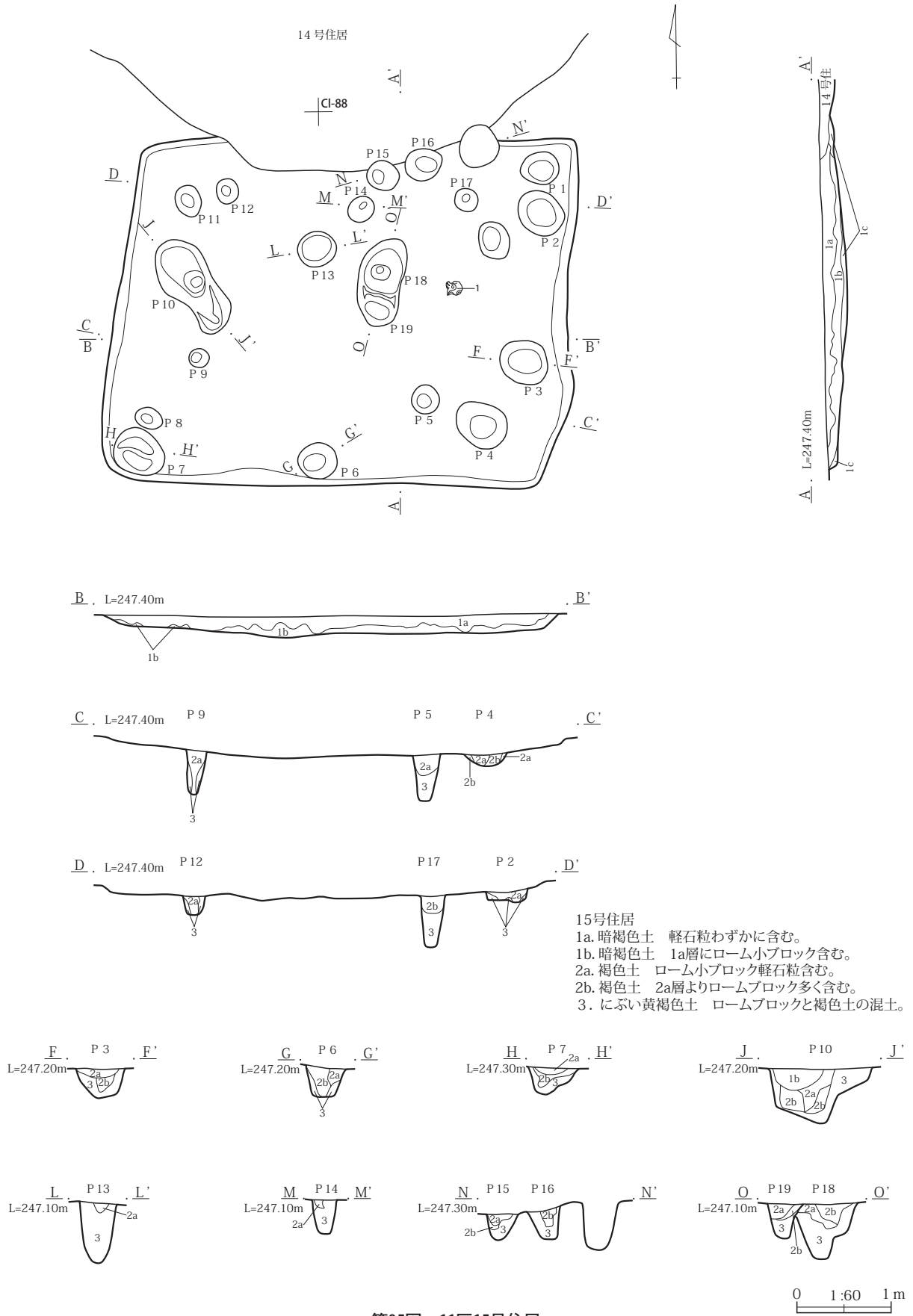
- 1. 黒褐色土 炭粒・焼土粒含む。わずかに含む。
- 2a. にぶい黄褐色土 くすんだロームと褐色土の混土。
- 2b. にぶい黄褐色土 2a層よりローム多く含む。
- 3. にぶい褐色土 ロームを多く含む焼土化している。
- 4. 褐色土 焼土ブロックとロームブロック混土。
- 5. 黄褐色土 ローム主体。



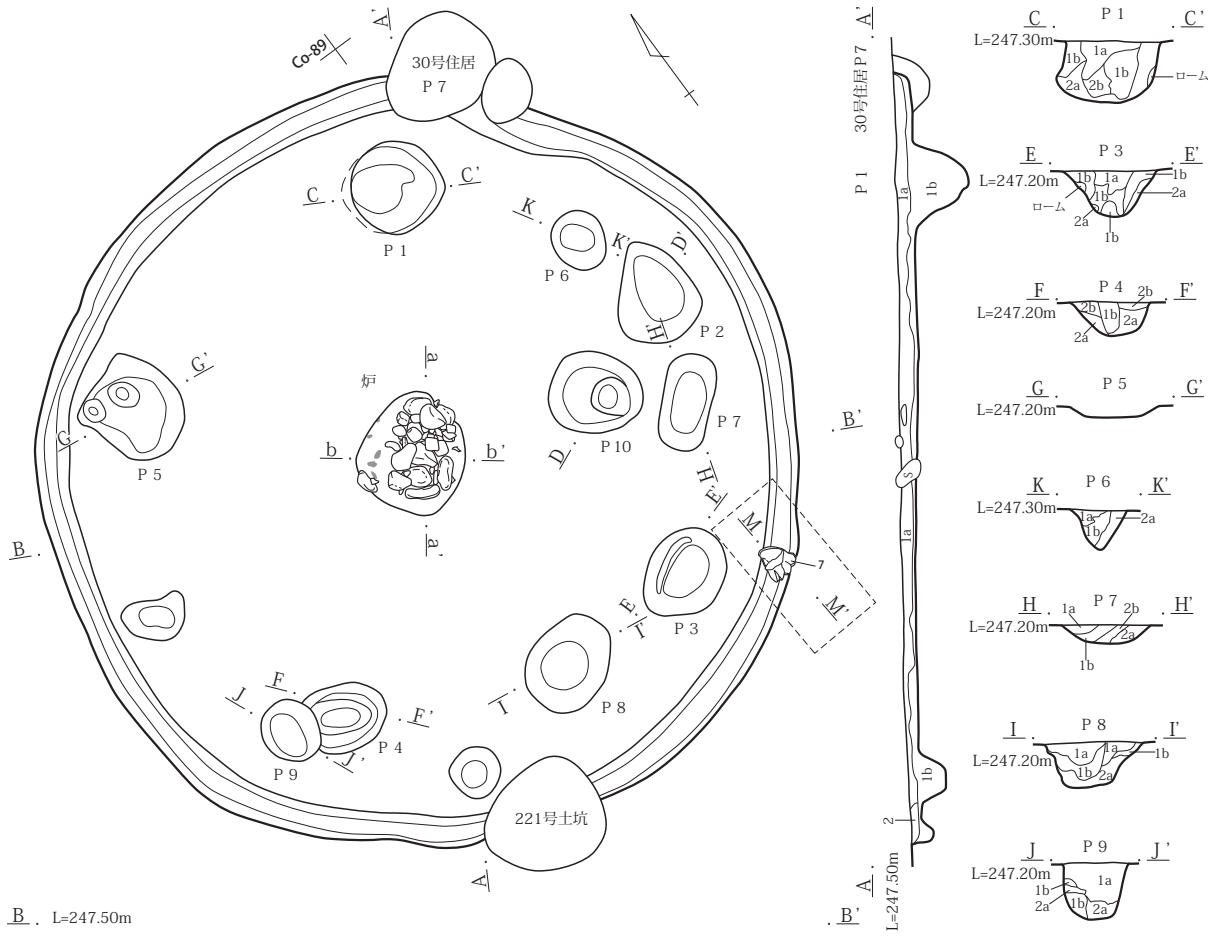
炉 掘方



第94図 11区14号住居 (2)



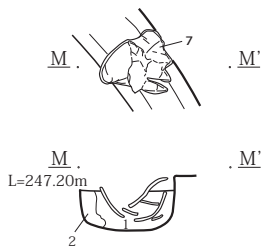
第95図 11区15号住居



16号住居
 1a. 暗褐色土 軽石粒ローム小ブロック含む。 2a. 黄褐色土 ロームブロックと褐色土ブロック混土。
 1b. 暗褐色土 1a層よりロームブロックやや含む。 2b. 黄褐色土 ロームブロック主体、Sr粒を含む。

0 1:60 1m

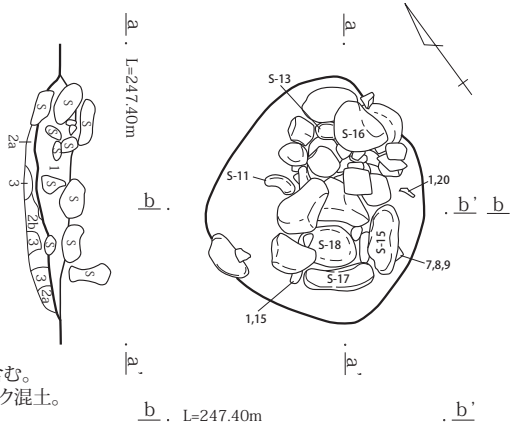
周溝土器 出土



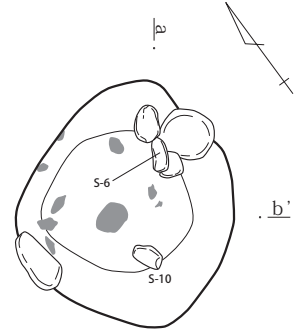
周溝土器

1. 暗褐色土 1a層よりロームブロックやや含む。
 2. 黄褐色土 ロームブロックと褐色土ブロック混土。

炉 (礫集積状況)

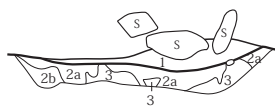


炉



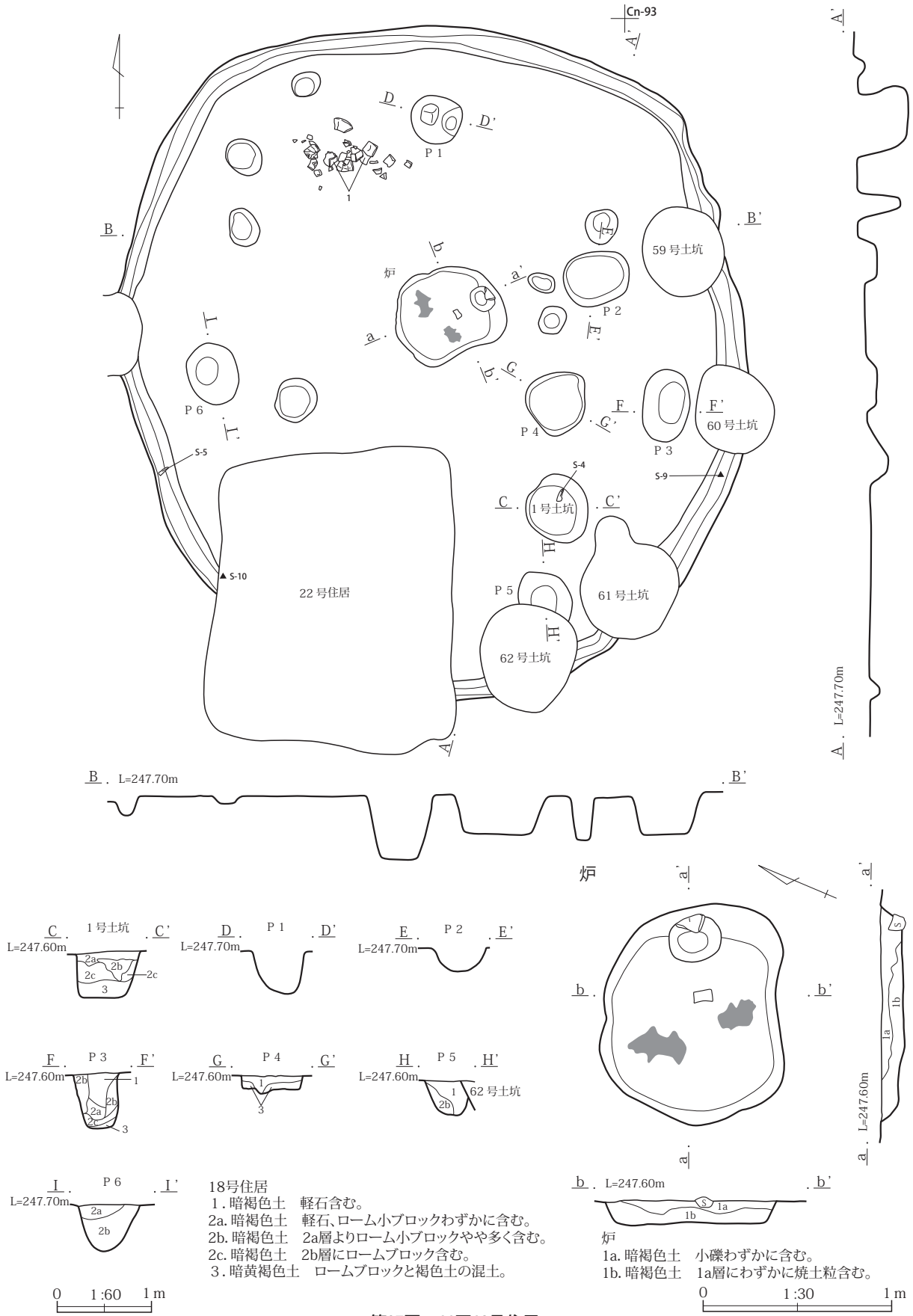
炉

1. 褐色土 多量の礫混じり。
 2a. 暗褐色土 ローム小ブロック・焼土ブロック含む。
 2b. 暗褐色土 1a層よりローム小ブロック多く含む。
 3. ぐずした黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混土。

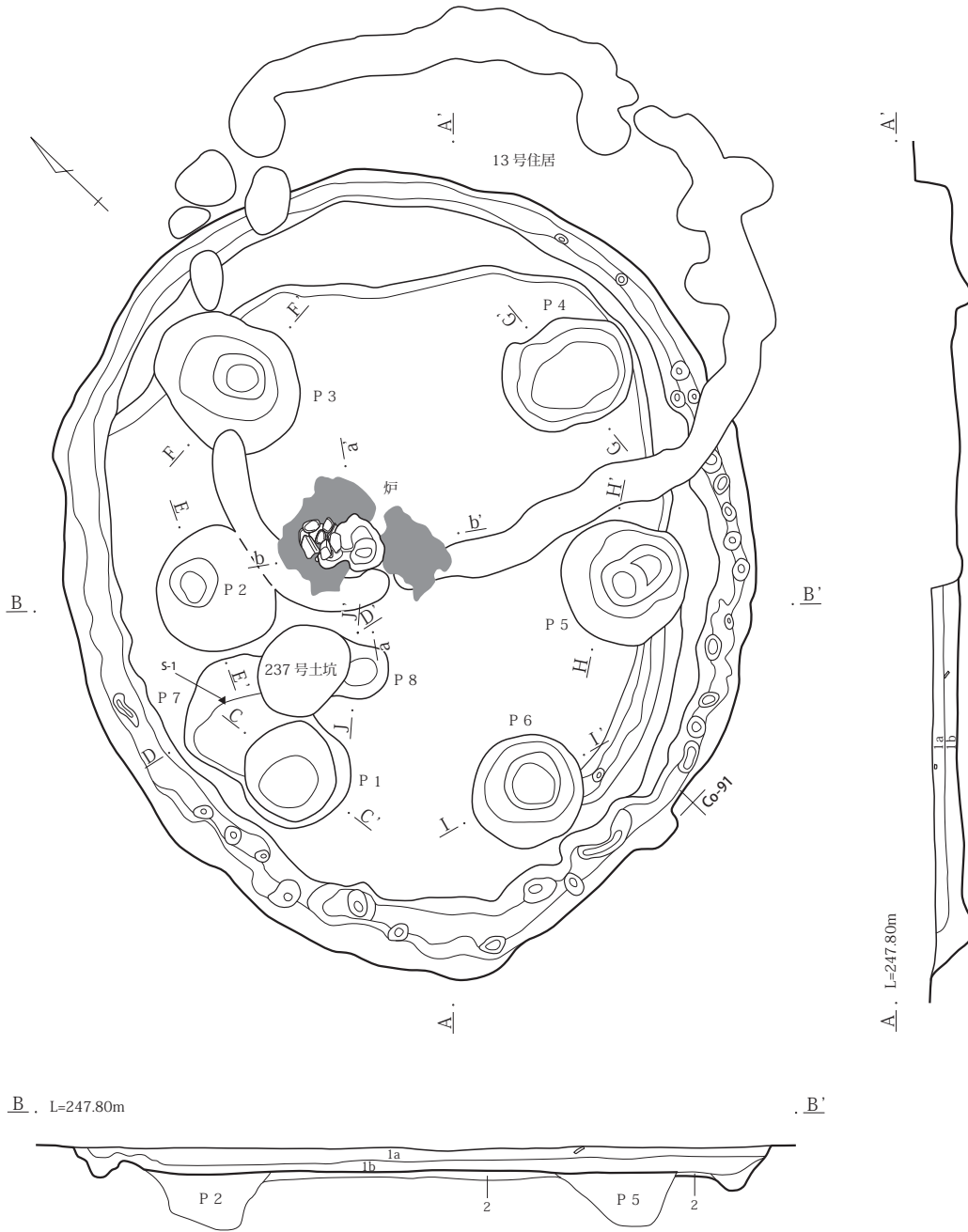


0 1:30 1m

第96図 11区16号住居



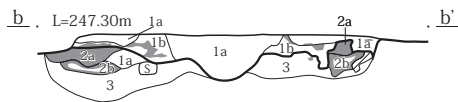
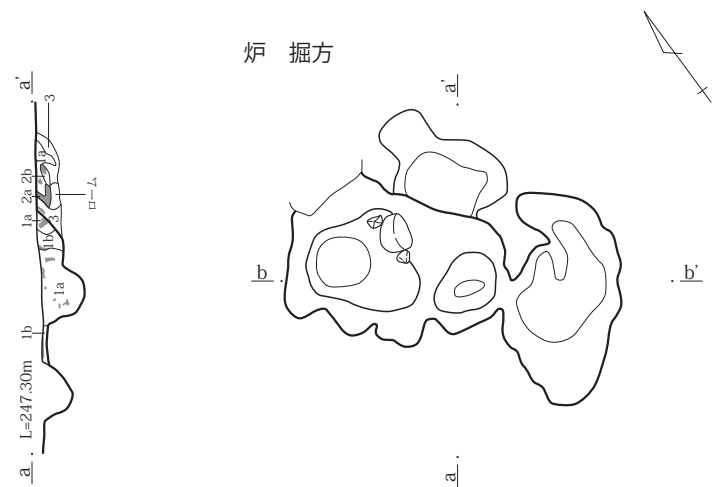
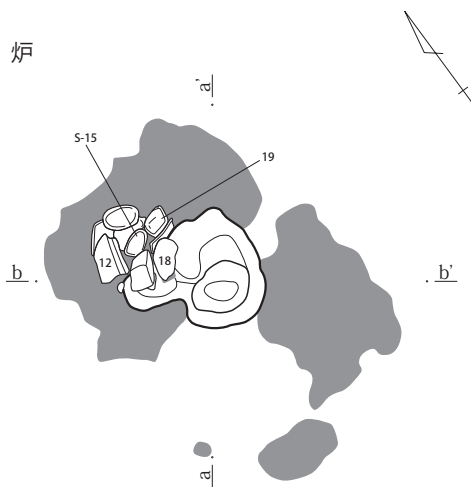
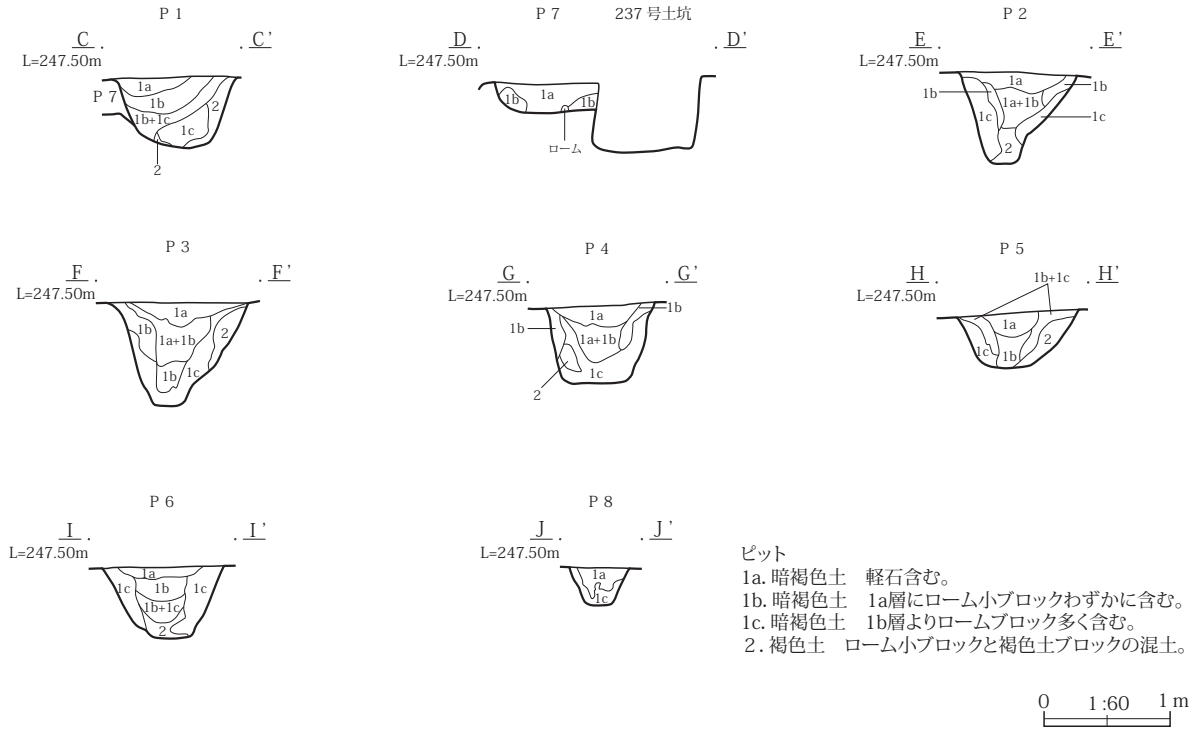
第97図 11区18号住居



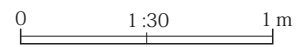
- 19号住居
 1a. 暗褐色土 軽石含む。
 1b. 暗褐色土 1a層にローム小ブロックわずかに含む。
 2. 褐色土 ローム小ブロックと褐色土ブロックの混土。

第98図 11区19号住居 (1)

第5章 第4面の検出遺構

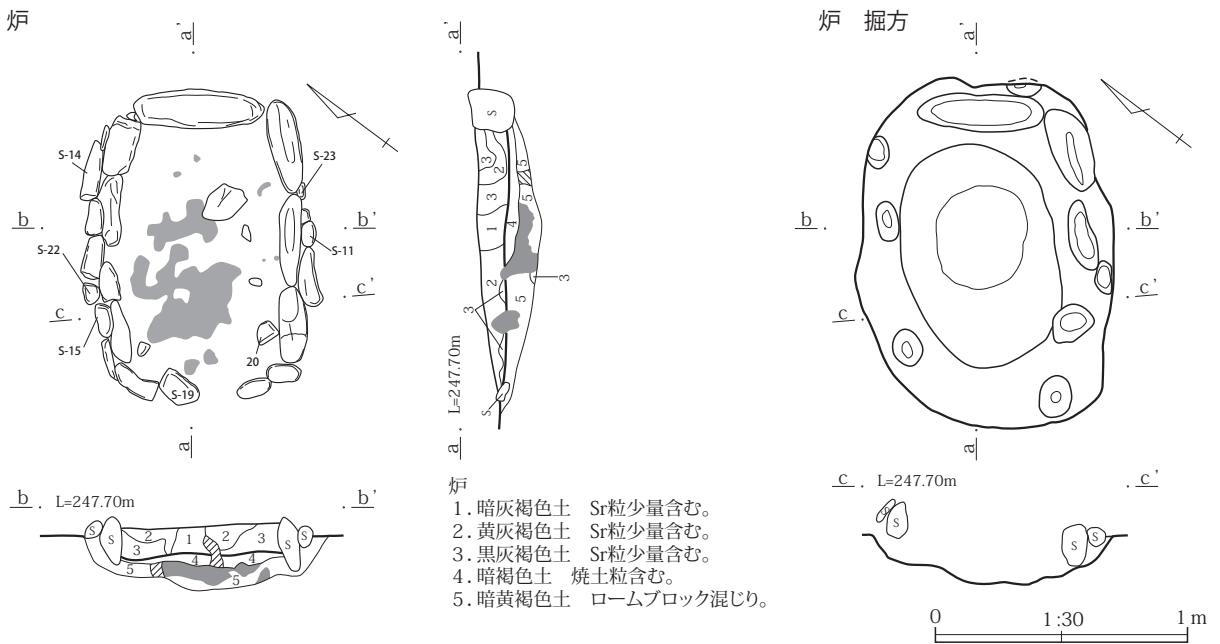
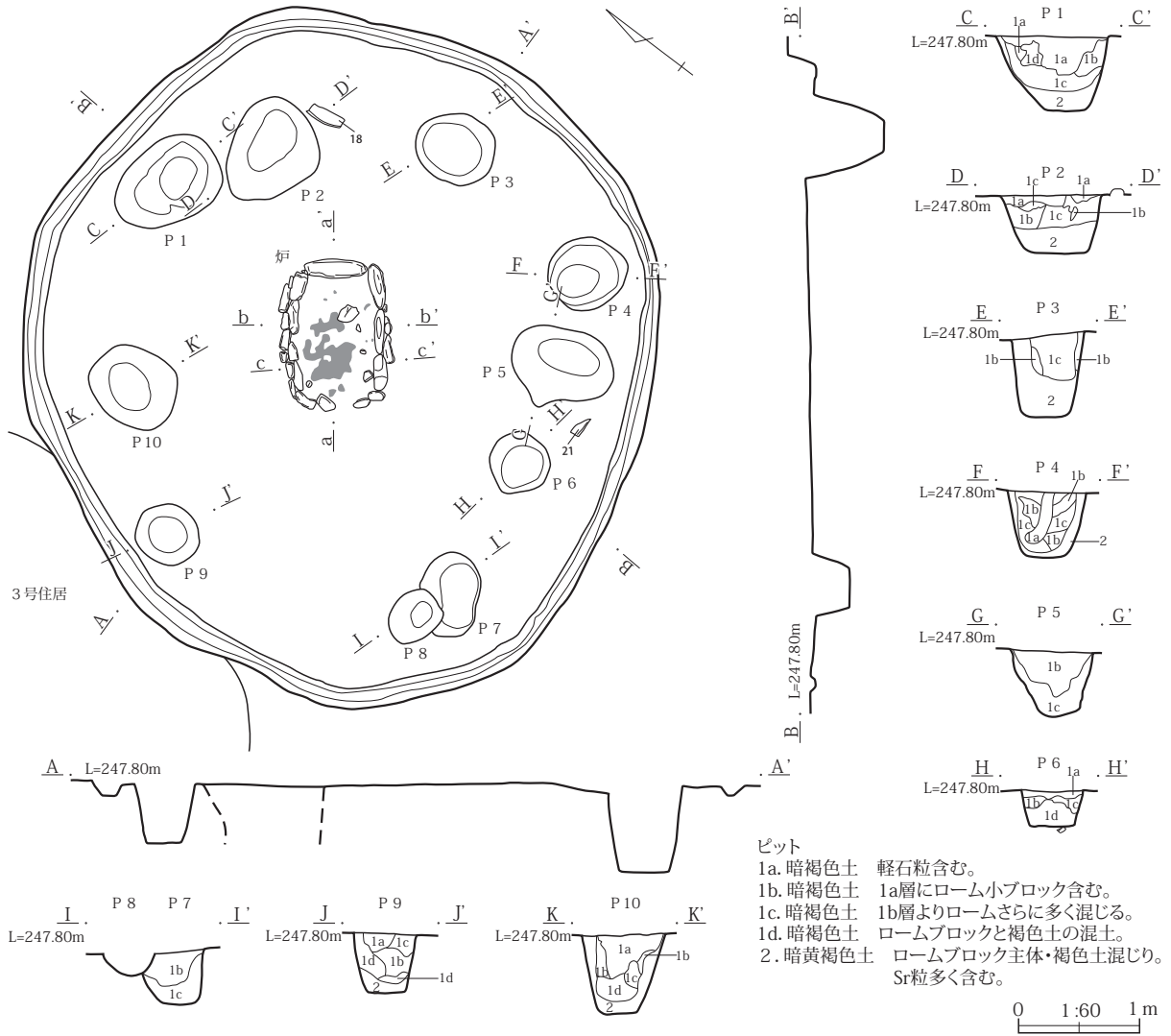


炉
 1a. 暗褐色土 焼土粒含む。
 1b. 暗褐色土 1a層に焼土ブロック混じる。
 2a. 赤褐色 焼土層。
 2b. 暗赤褐色土 焼土ブロック多量に混じる。
 3. 褐色土 ロームブロック多量に混じる。

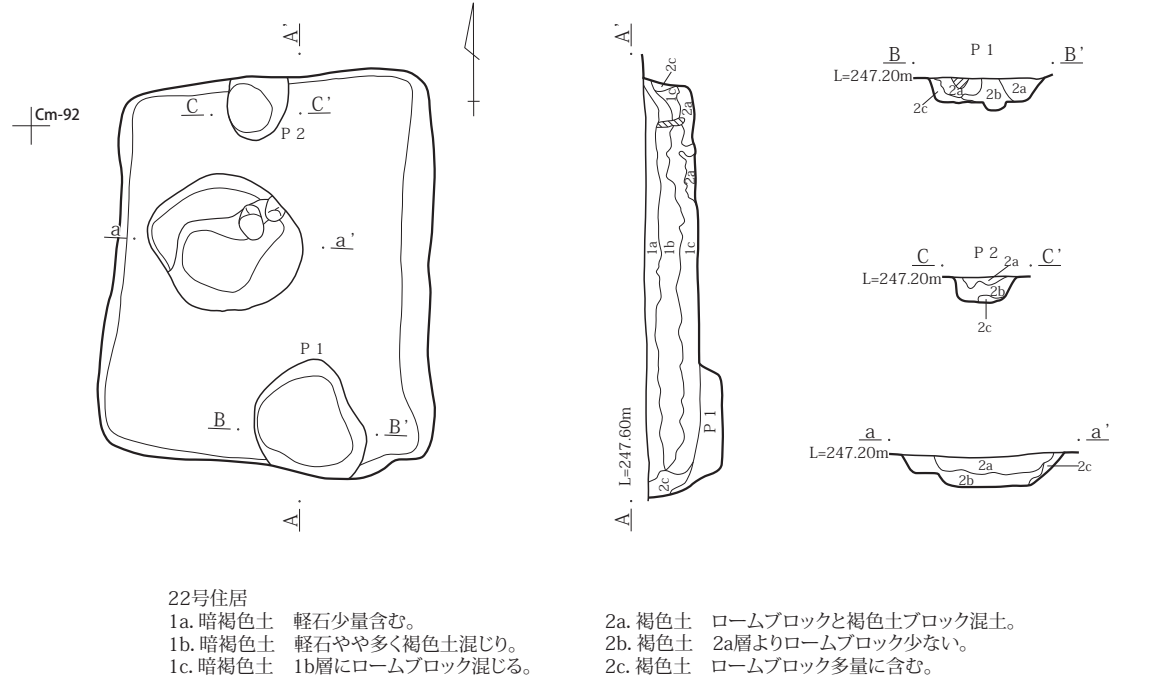


第99図 11区19号住居 (2)

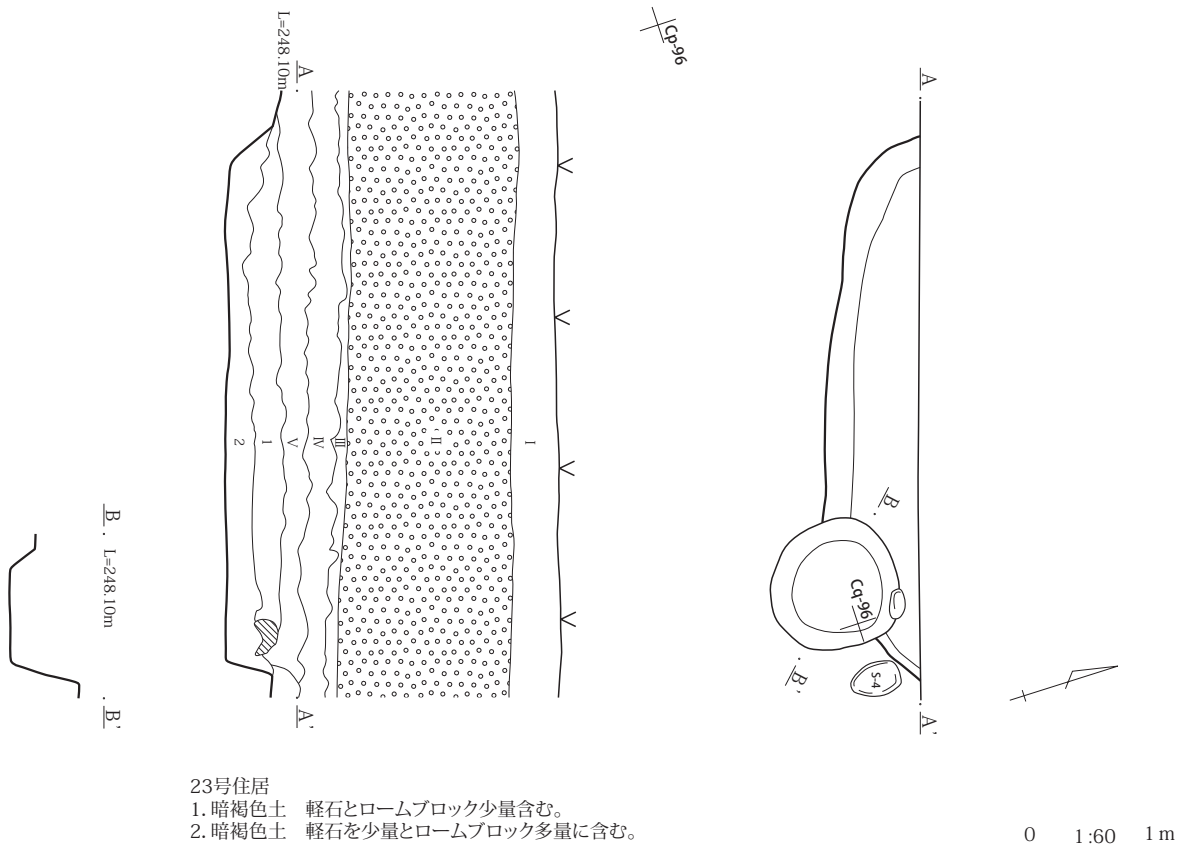
第7節 11区検出遺構



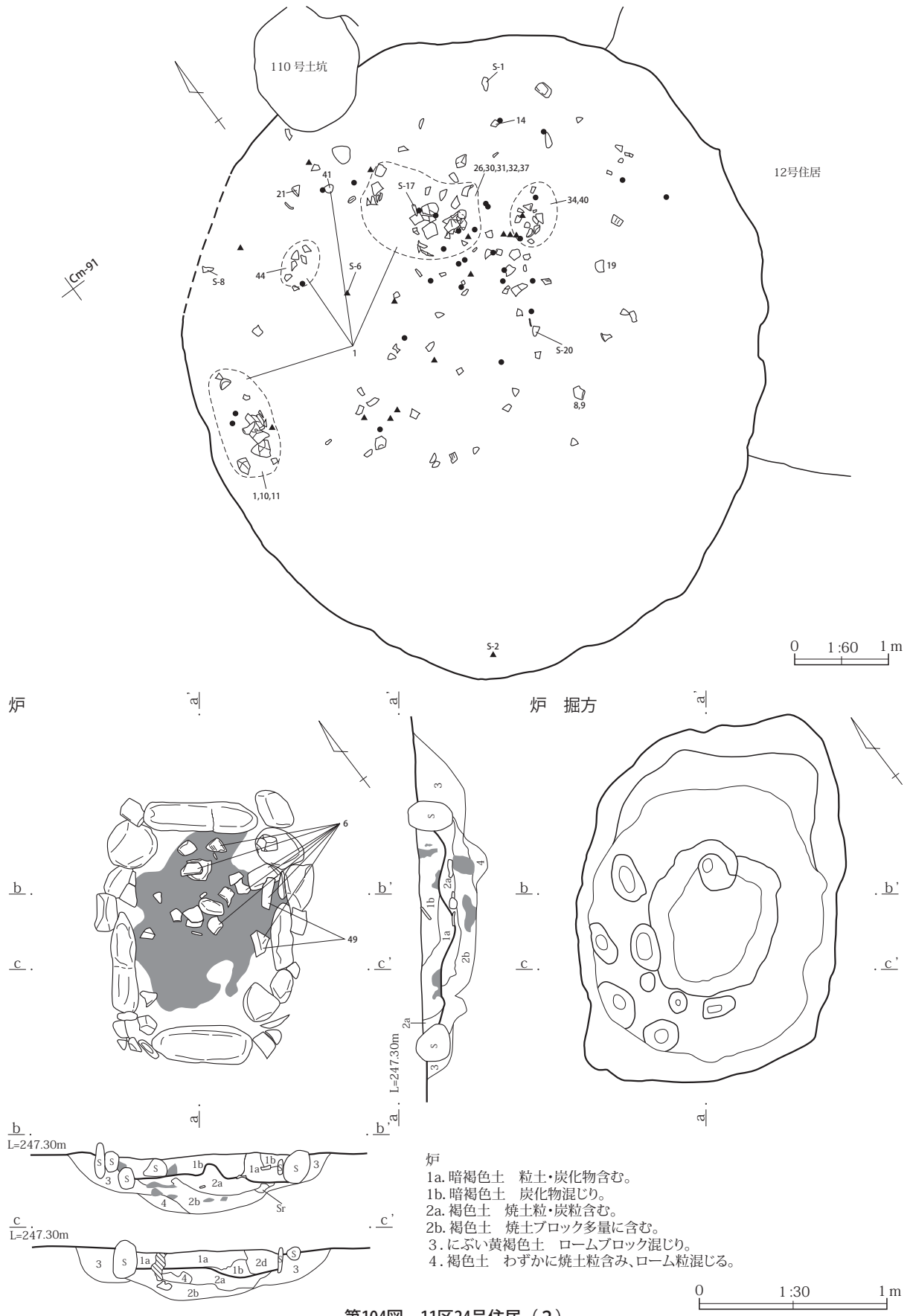
第100図 11区21号住居



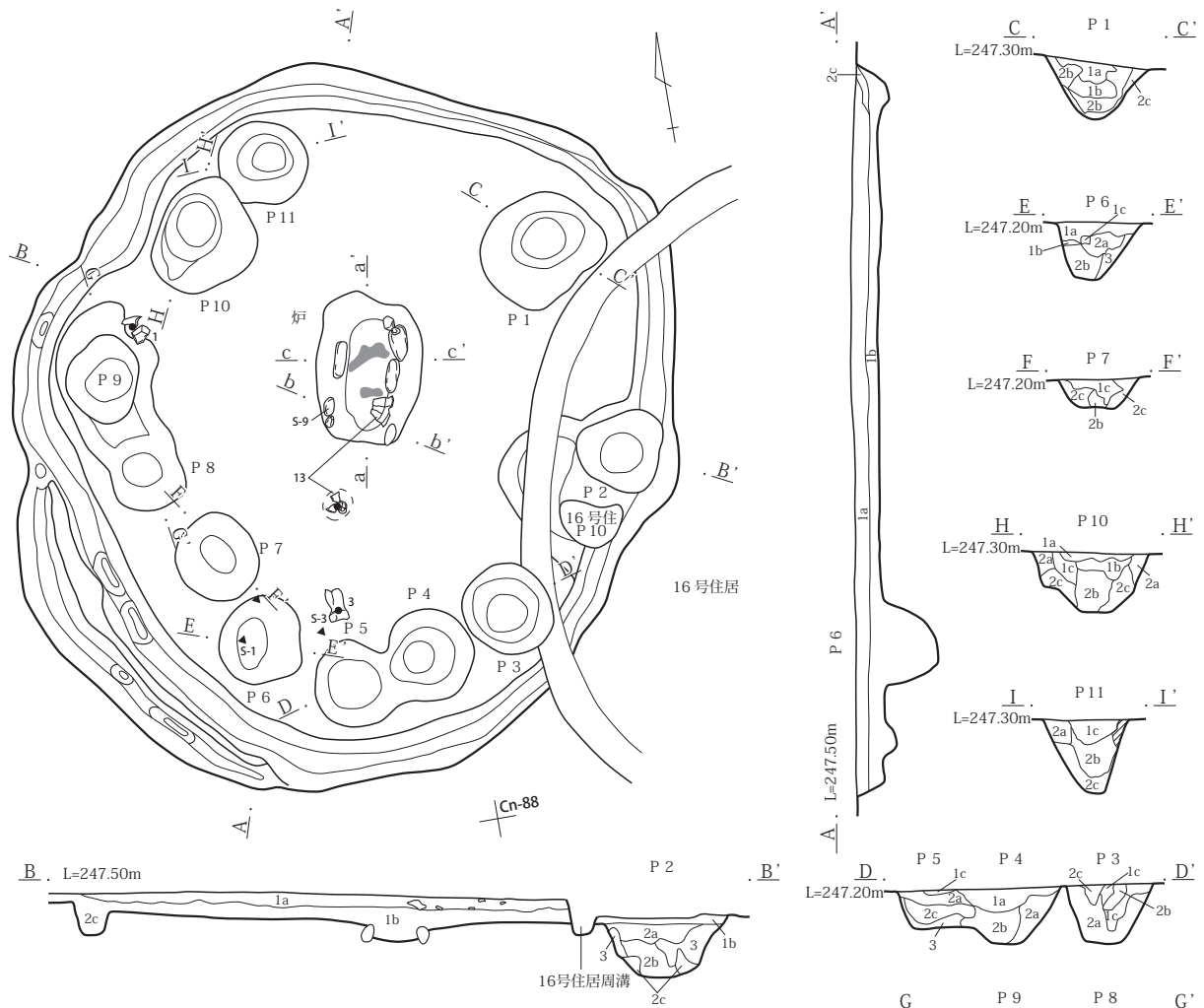
第101図 11区22号住居



第102図 11区23号住居

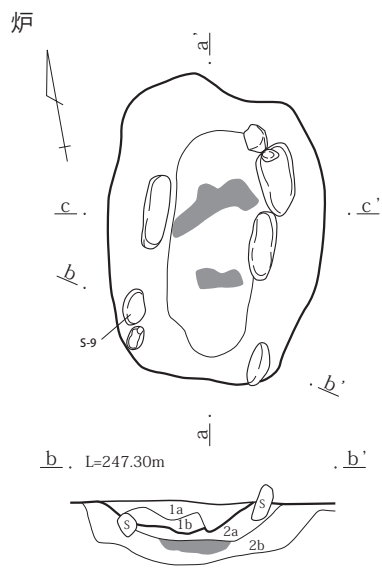


第104図 11区24号住居 (2)

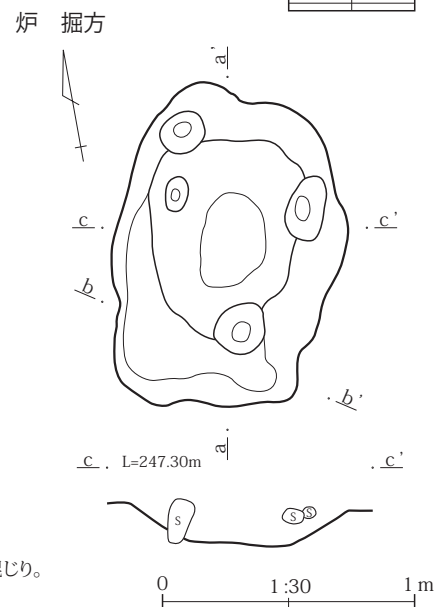


25号住居
 1a. 褐色土 軽石含む。
 1b. 暗褐色土 1a層にローム小ブロック含む。
 1c. 暗褐色土 1bに似るがローム小ブロックやや少ない。

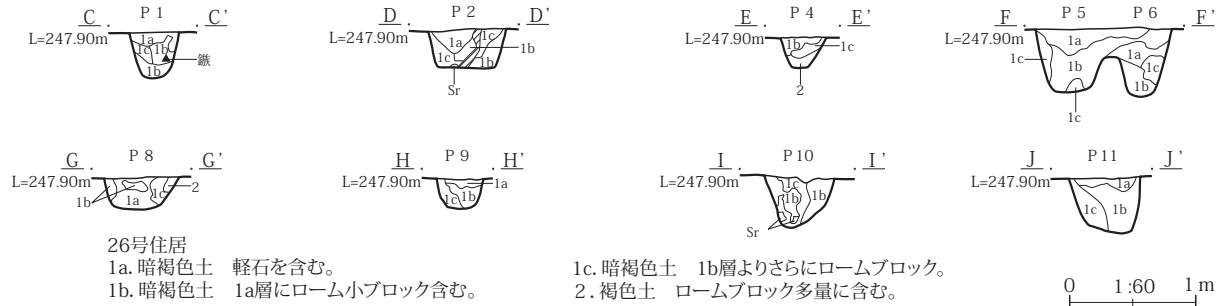
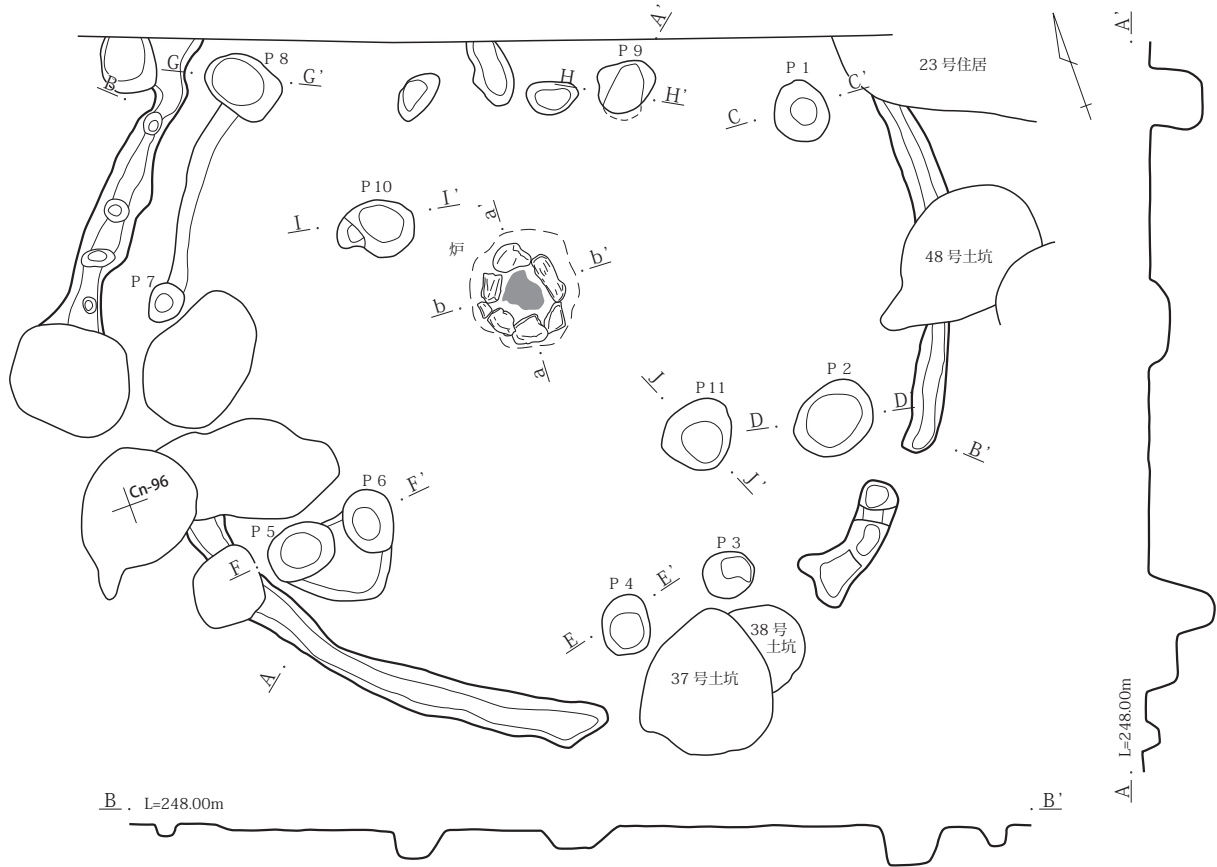
2a. 褐色土 ローム小ブロック含む。
 2b. 褐色土 ロームブロックと褐色土の混土。
 2c. 褐色土 ロームブロックを多く含む。
 3. にぶい黄褐色土 ロームブロック・Sr粒混じり。



炉
 1a. 暗褐色土 焼土粒含む。
 1b. 暗褐色土 焼土ブロック多量に混じる。
 2a. 褐色土 ローム小ブロックとSr粒混土。
 2b. 褐色土 ロームブロック主体・褐色土混じり。

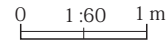


第105図 11区25号住居

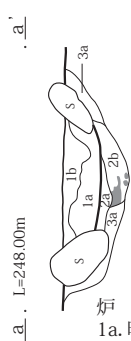
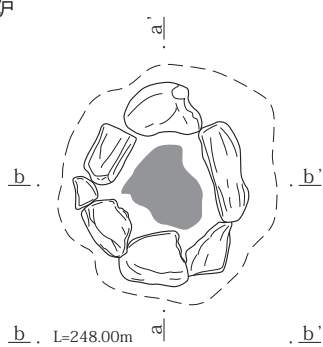


26号住居
 1a. 暗褐色土 軽石を含む。
 1b. 暗褐色土 1a層にローム小ブロック含む。

1c. 暗褐色土 1b層よりさらにロームブロック。
 2. 褐色土 ロームブロック多量に含む。

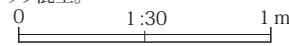
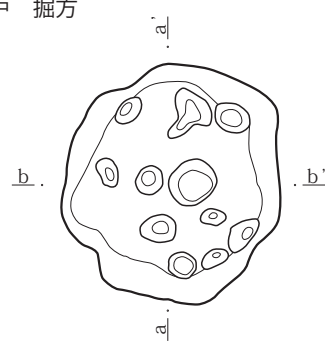


炉

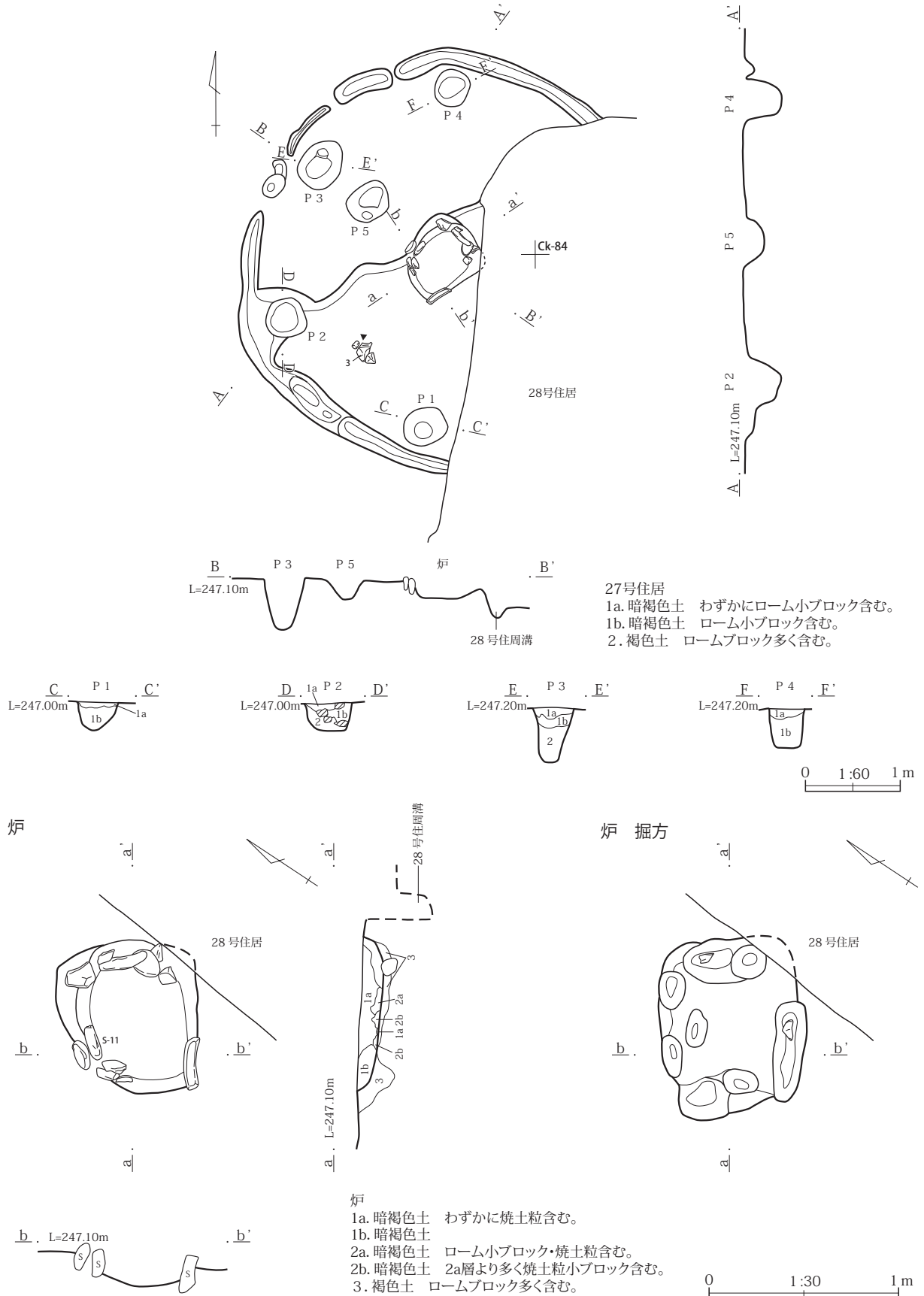


炉
 1a. 暗褐色土 軽石粒含む。
 1b. 暗褐色土 わずかに焼土粒含む
 2a. 褐色土 焼土粒含む。
 2b. 褐色土 焼土ブロック混じり。
 3a. くすんだ黄褐色土 焼土粒わずかに含みロームブロック混じる。
 3b. くすんだ黄褐色土 ロームブロックと褐色土ブロック混土。

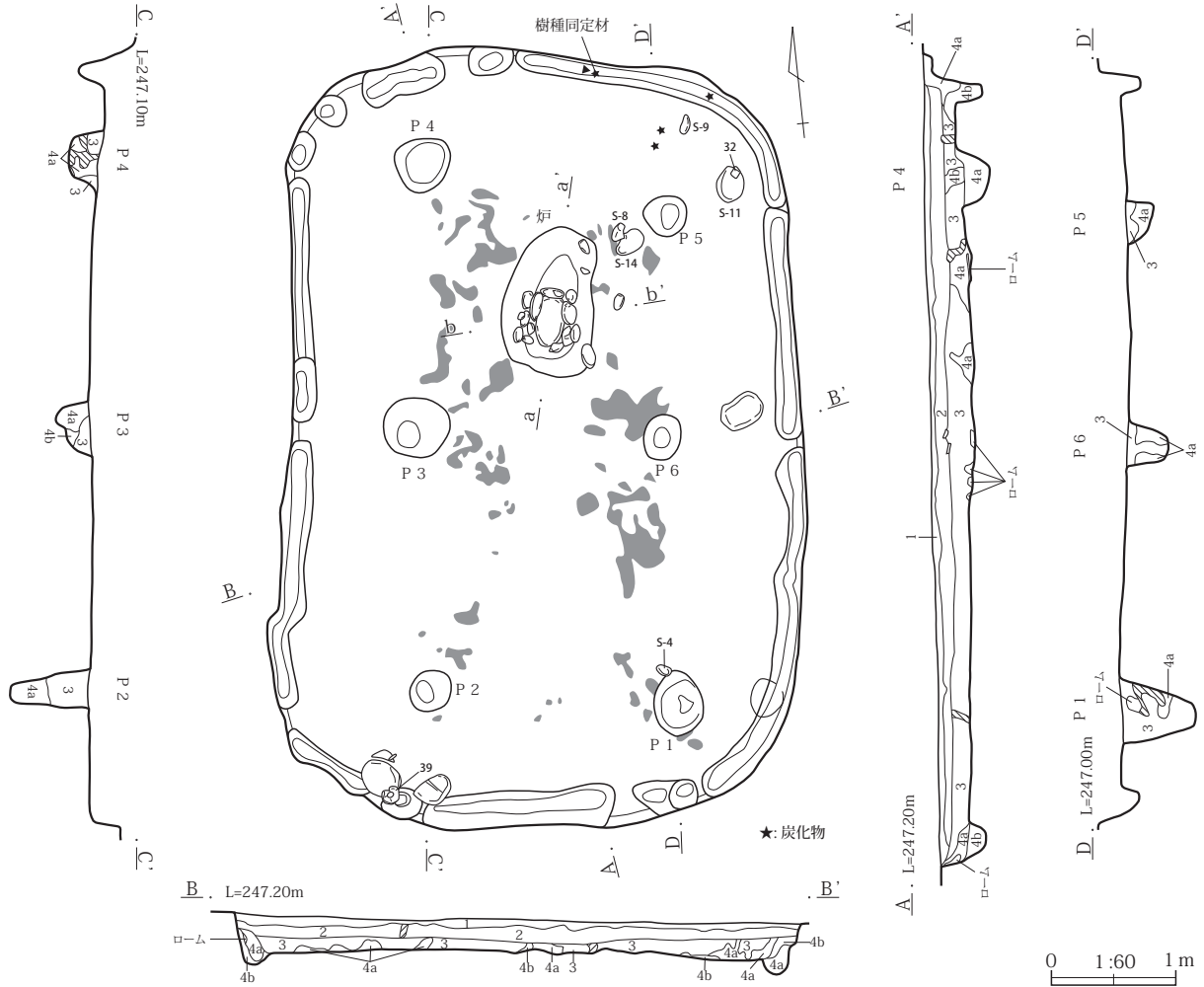
炉掘方



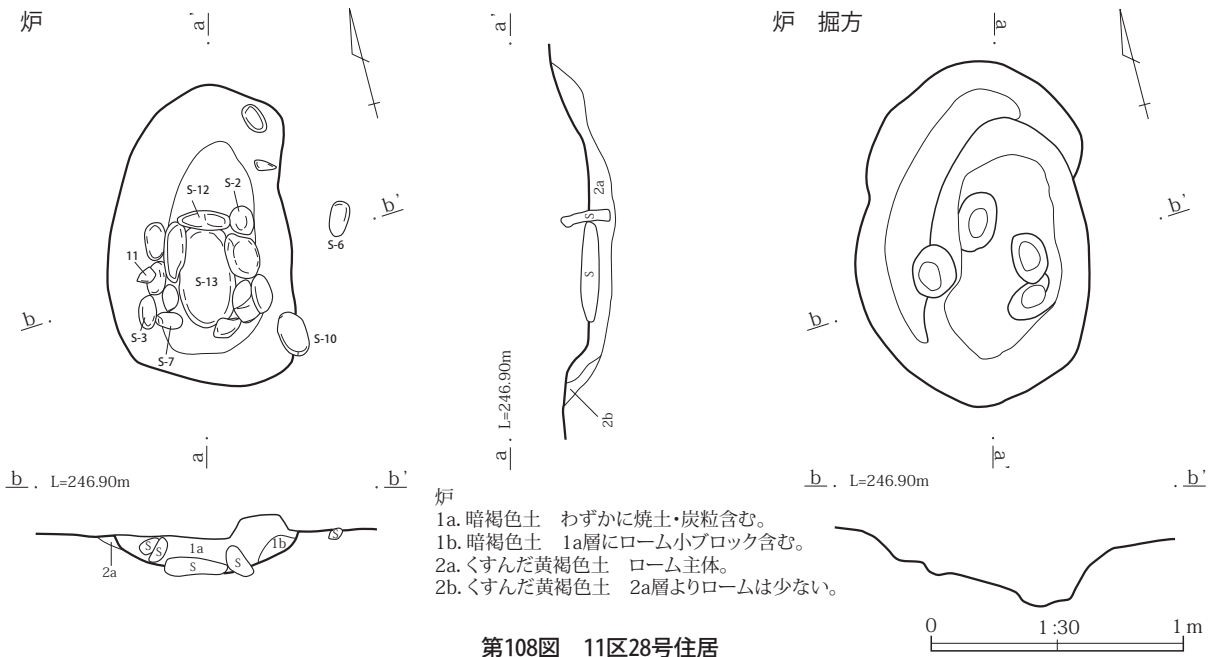
第106図 11区26号住居



第107図 11区27号住居

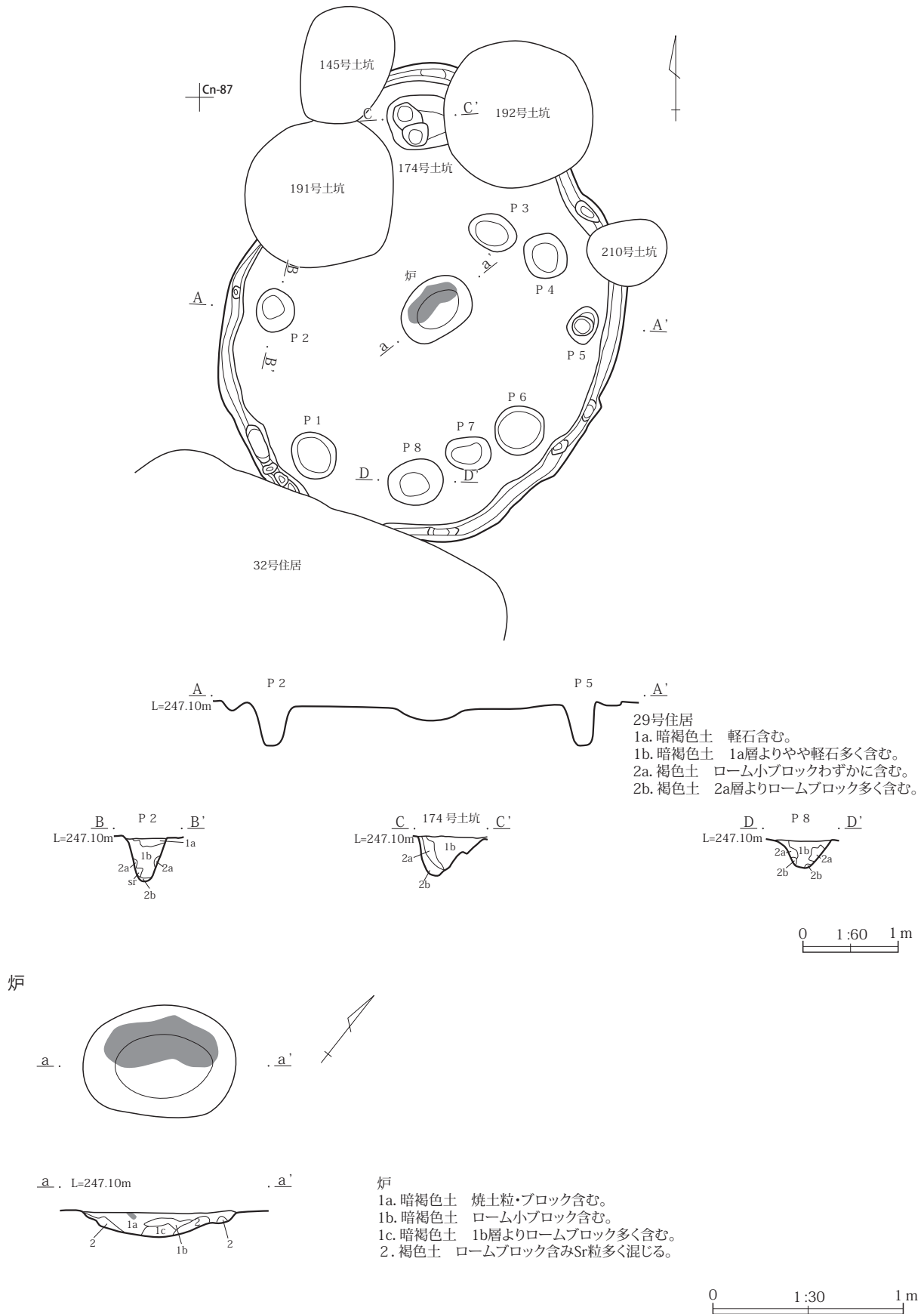


- 28号住居
- 1. 暗褐色土 軽石含む。
 - 2. 暗褐色土 軽石をやや多く含むローム小ブロックわずかに含む。
 - 3. 褐色土 軽石をやや多く含む焼土粒・炭粒わずかに含む。
 - 4a. くすんだ黄褐色土 ロームと褐色土の混土。
 - 4b. くすんだ黄褐色土 4a層よりロームブロック多く含む焼土混じる。



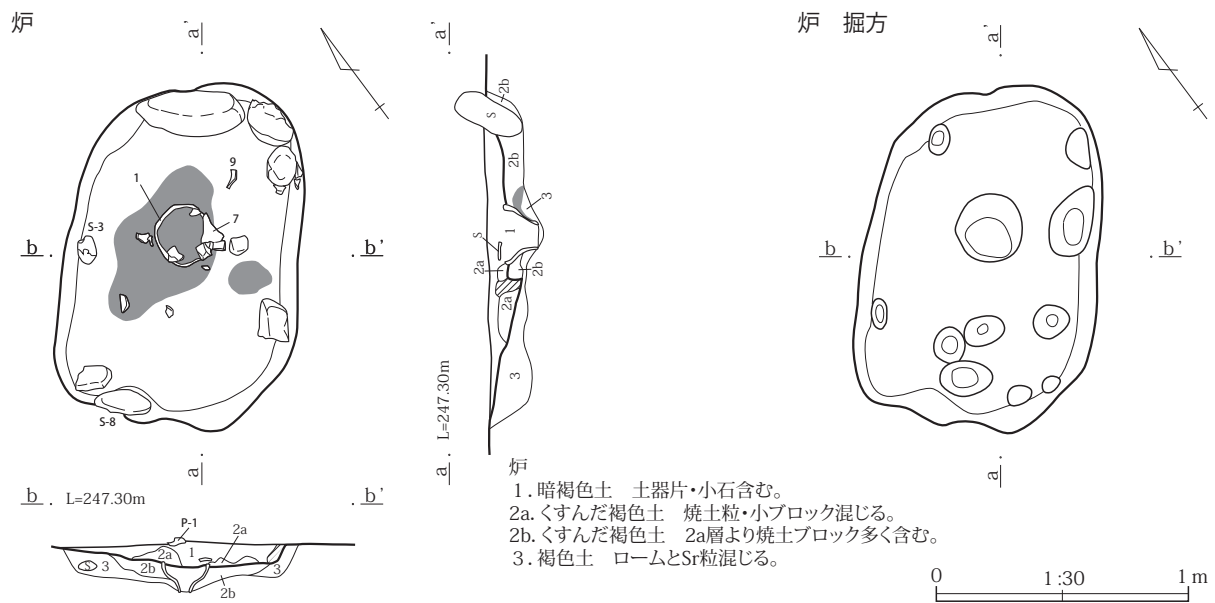
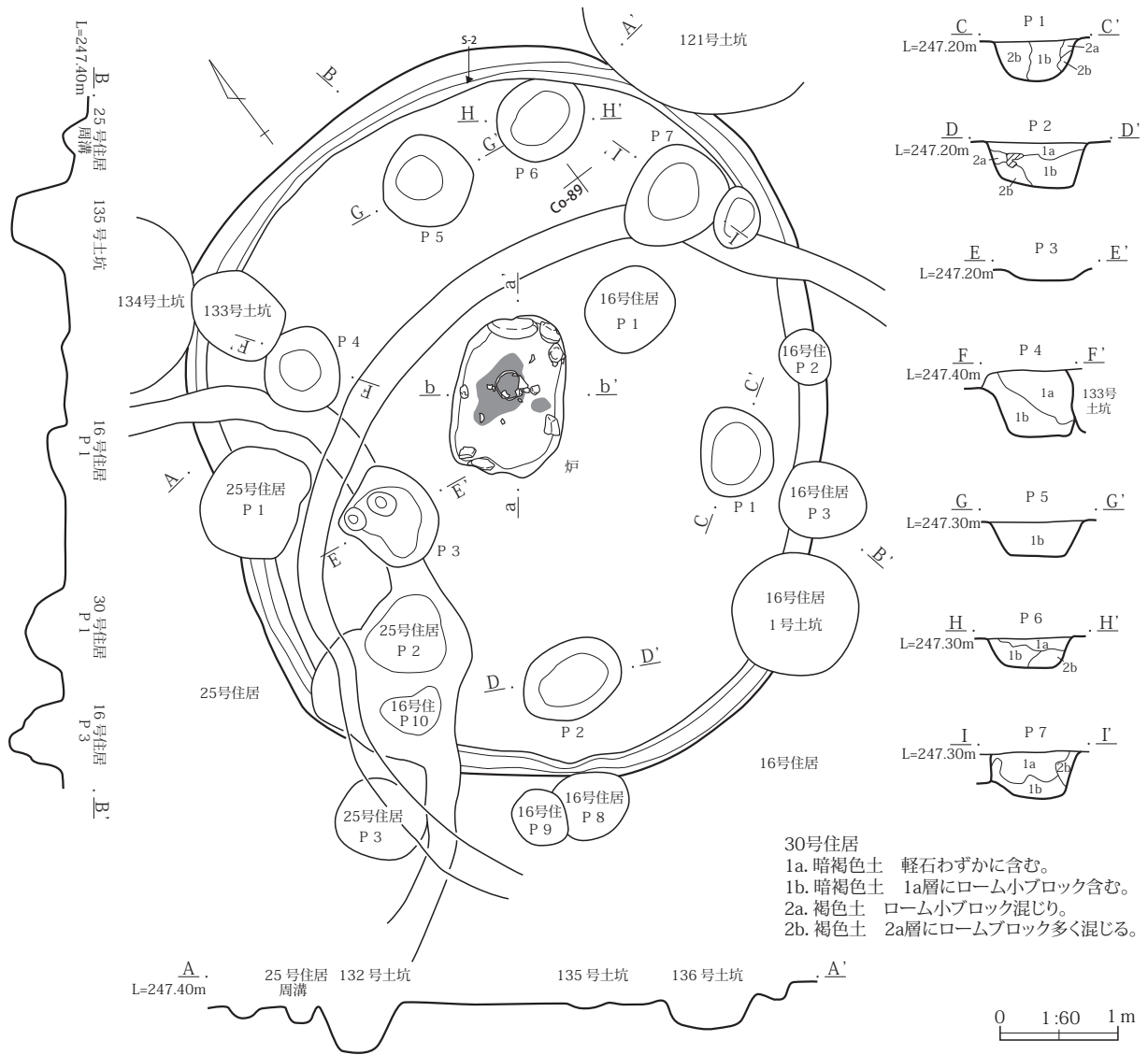
- 炉
- 1a. 暗褐色土 わずかに焼土・炭粒含む。
 - 1b. 暗褐色土 1a層にローム小ブロック含む。
 - 2a. くすんだ黄褐色土 ローム主体。
 - 2b. くすんだ黄褐色土 2a層よりロームは少ない。

第108図 11区28号住居

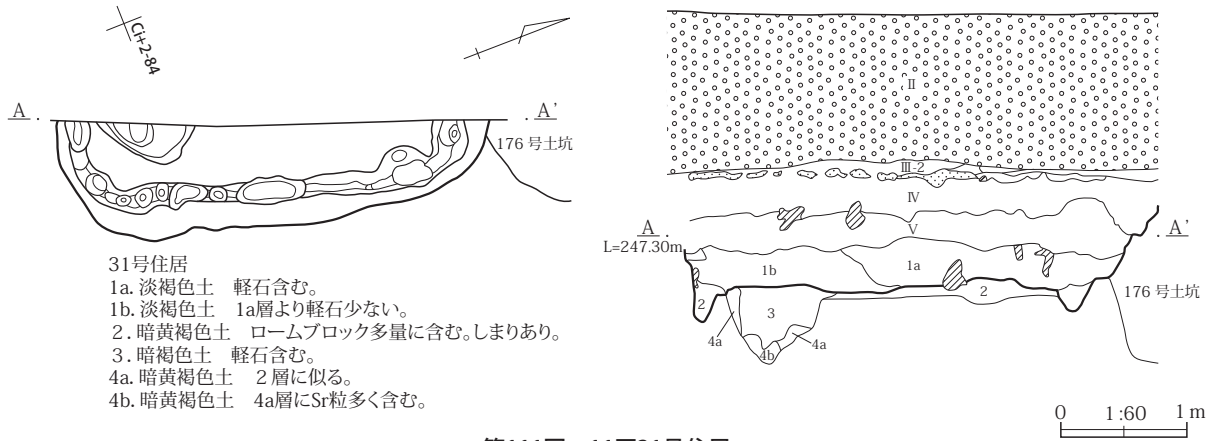


第109図 11区29号住居

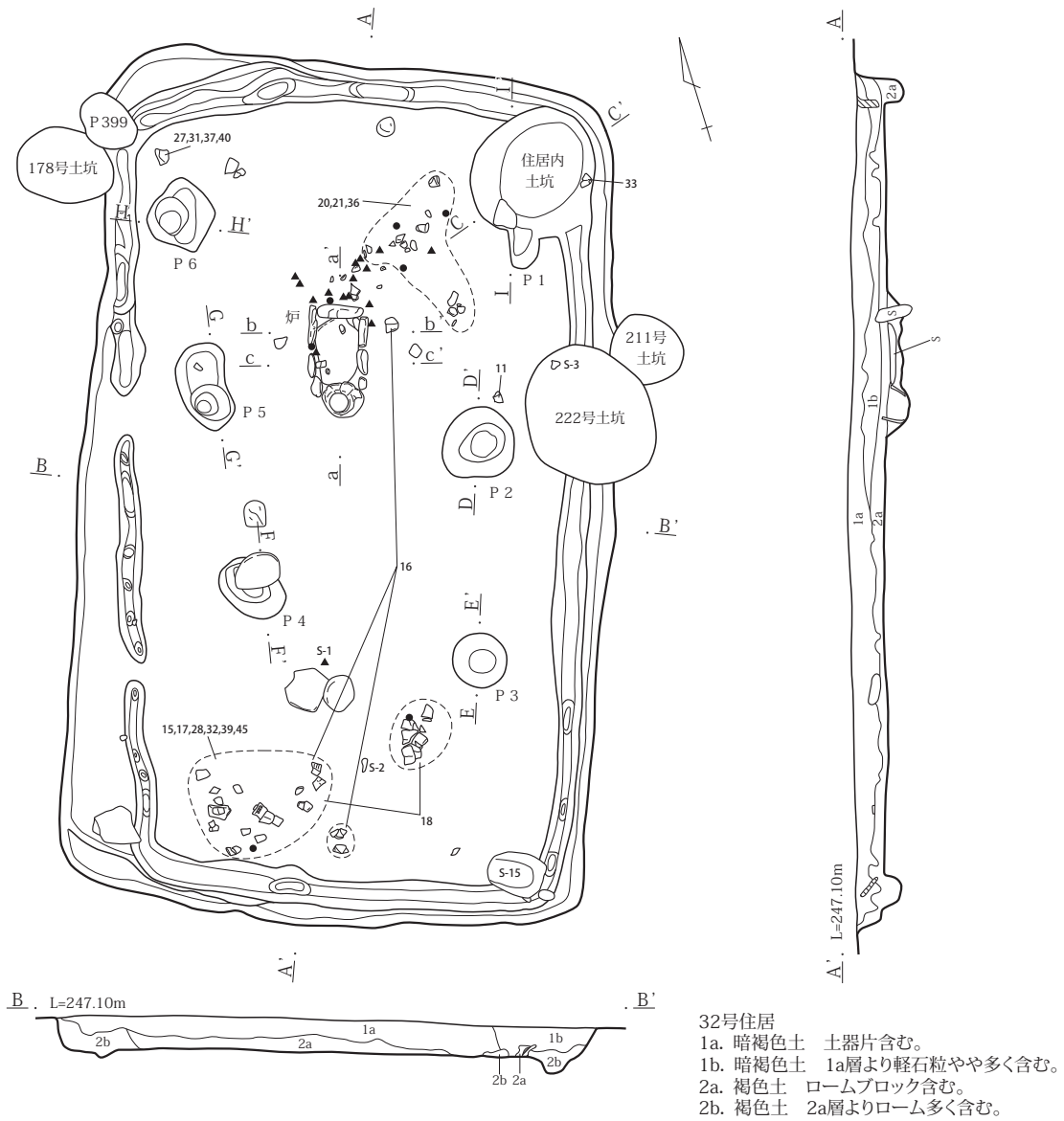
第5章 第4面の検出遺構



第110図 11区30号住居

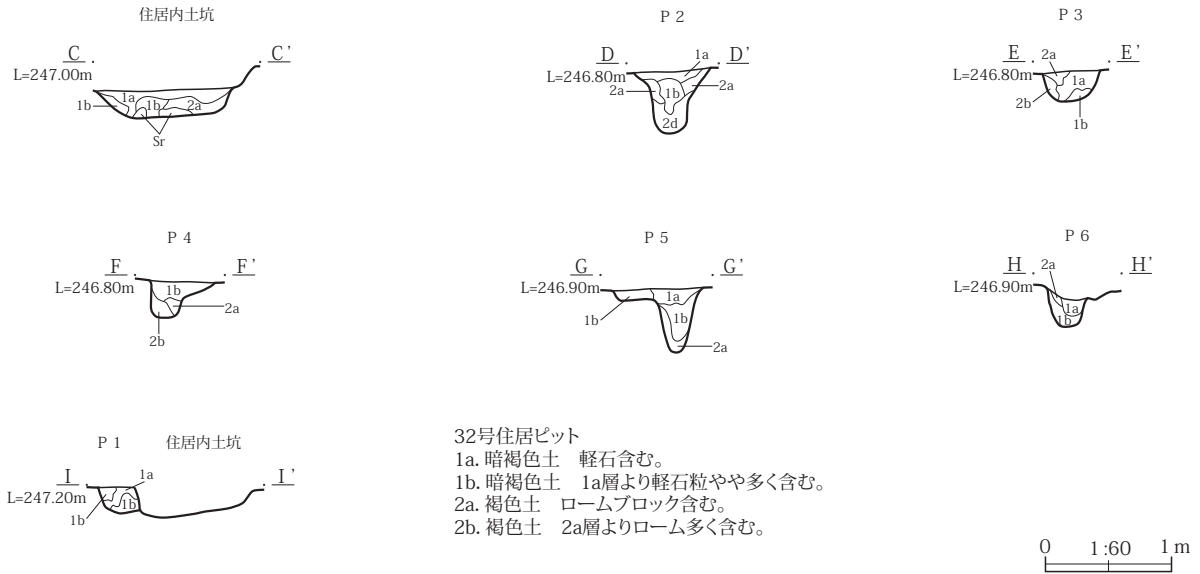


第111図 11区31号住居

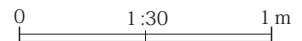
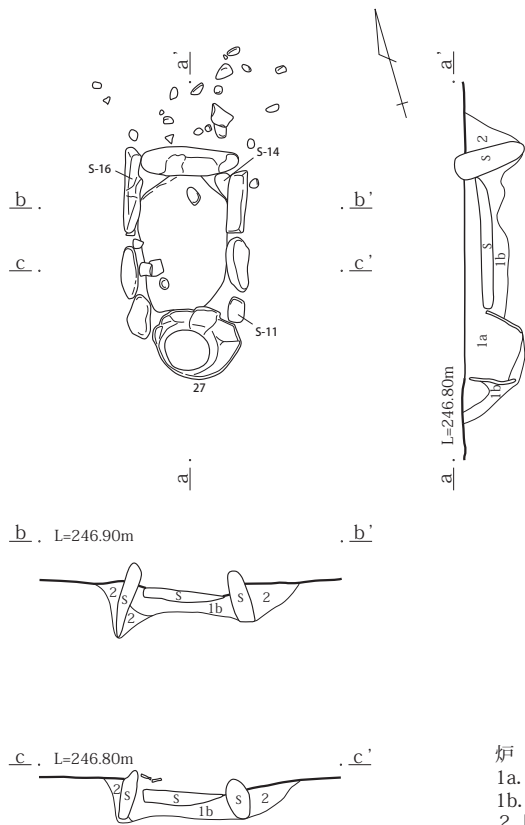


第112図 11区32号住居 (1)

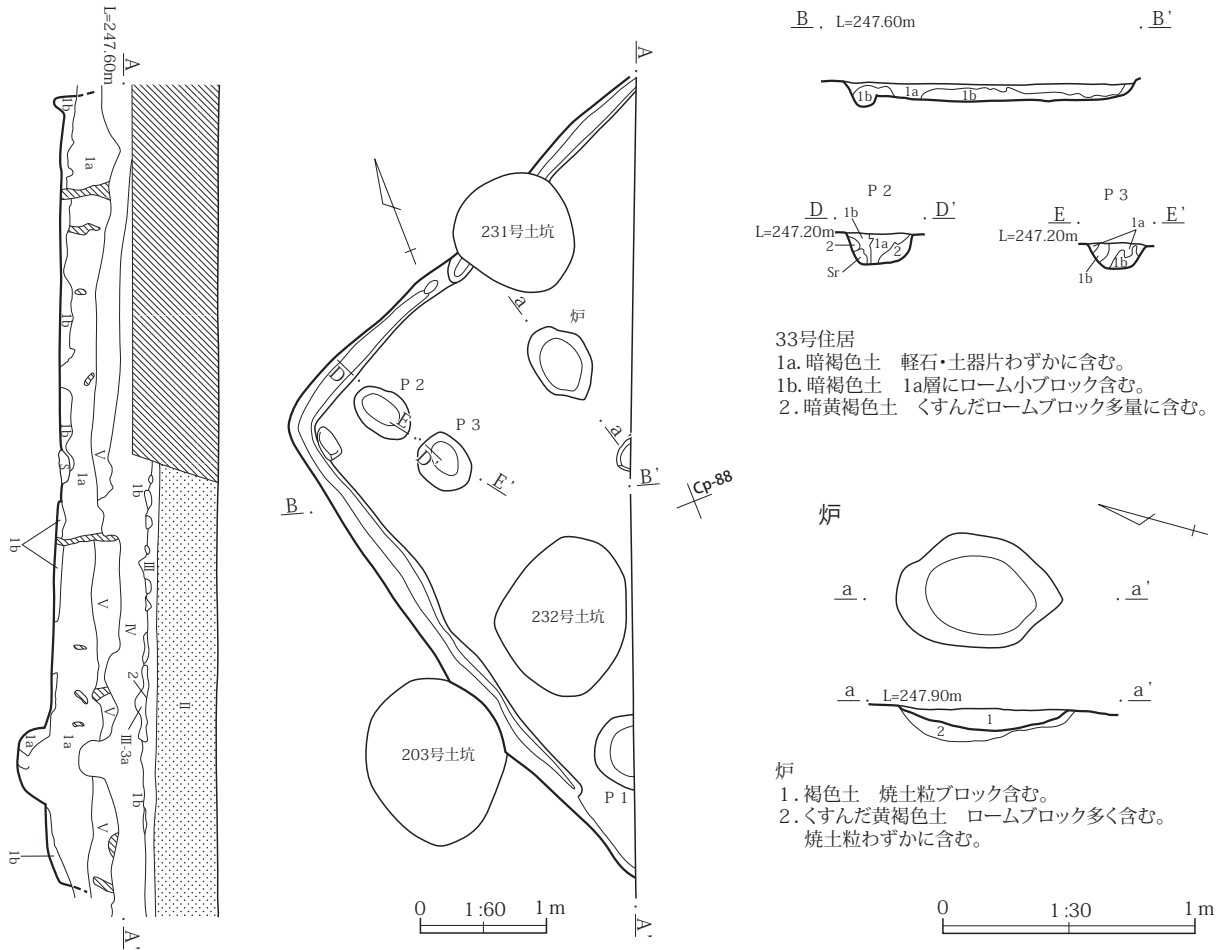
第5章 第4面の検出遺構



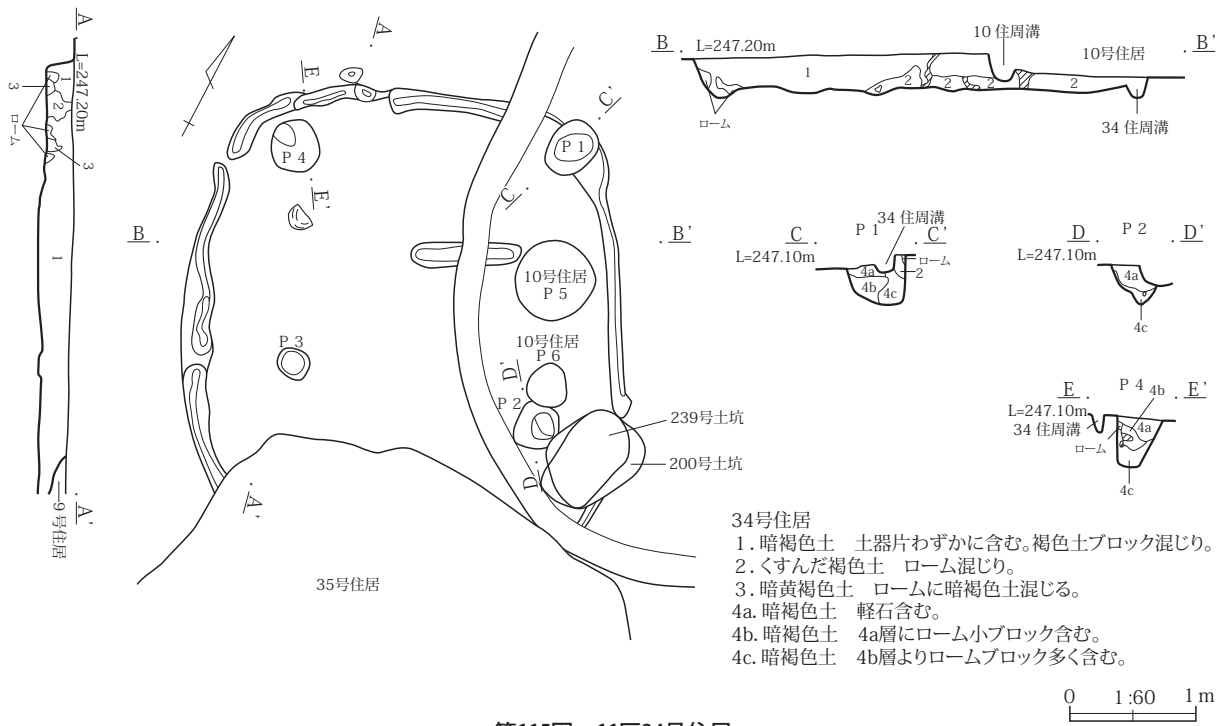
炉



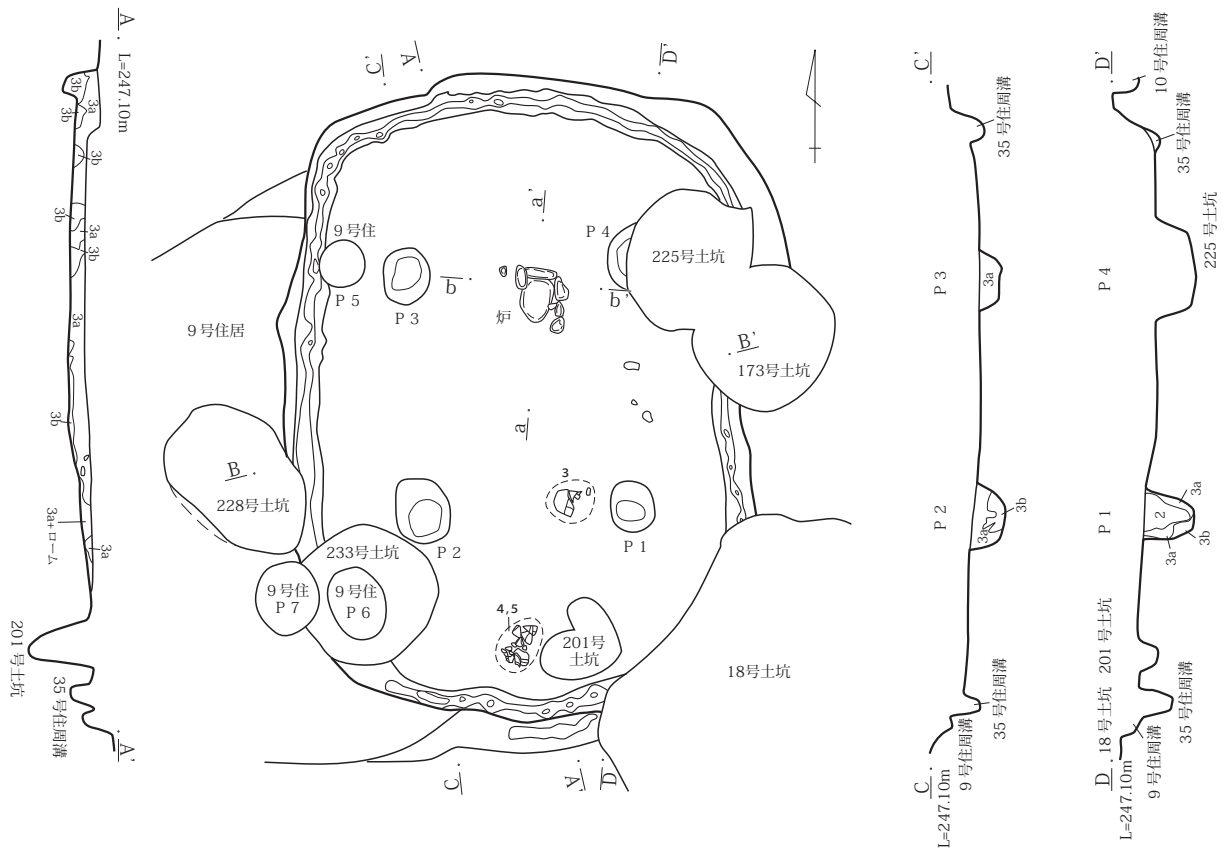
第113図 11区32号住居 (2)



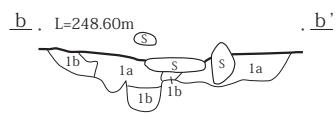
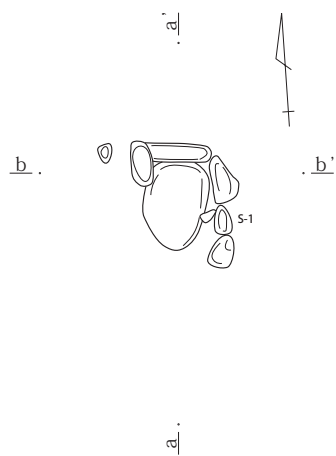
第114図 11区33号住居



第115図 11区34号住居



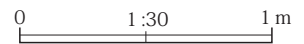
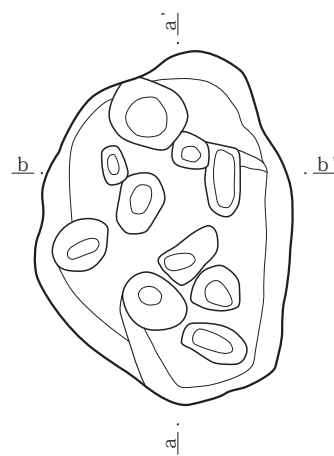
炉



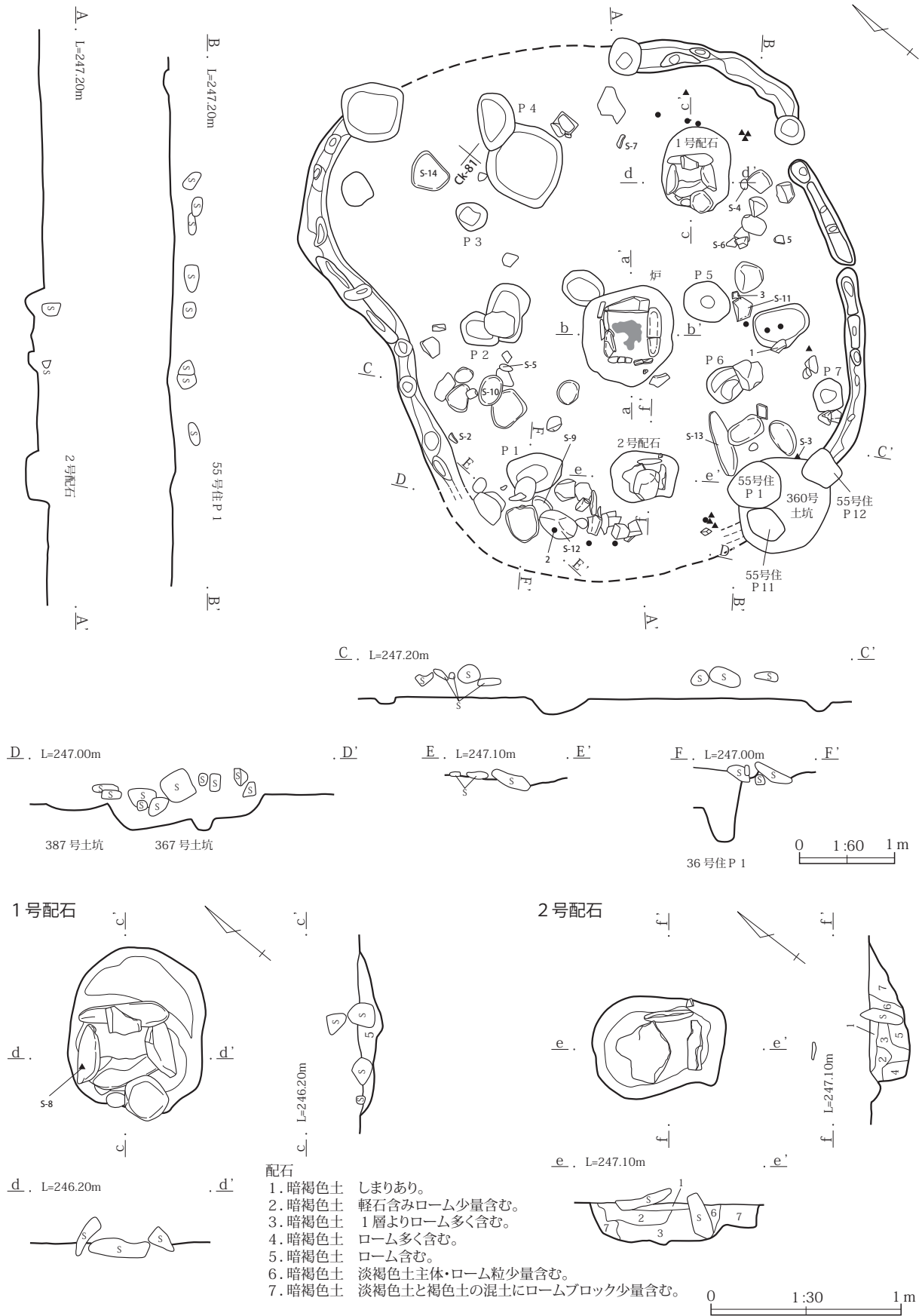
炉

1a. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む。
 1b. 暗褐色土 1a層にSr粒やや多く含む。

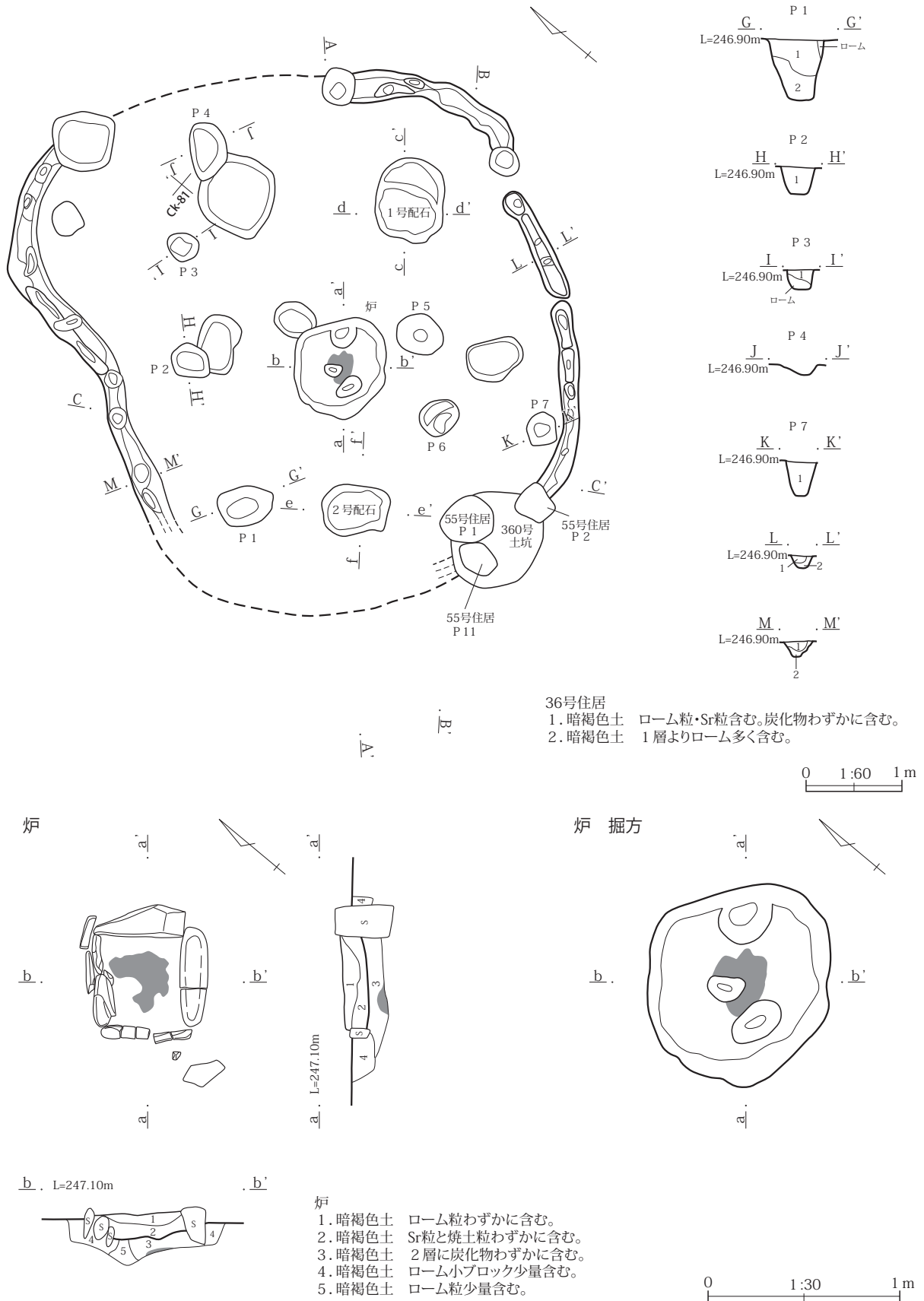
炉 掘方



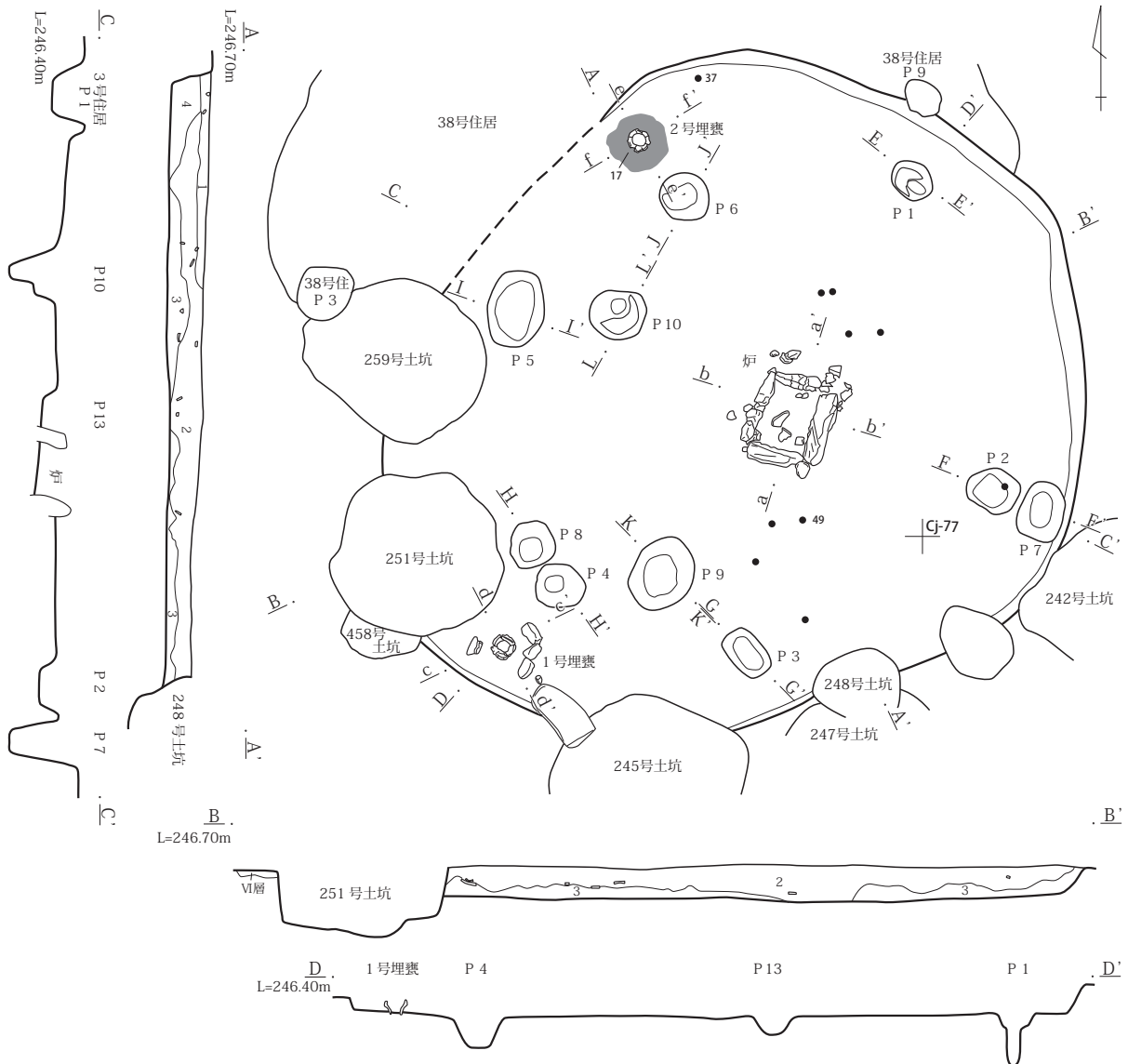
第116図 11区35号住居



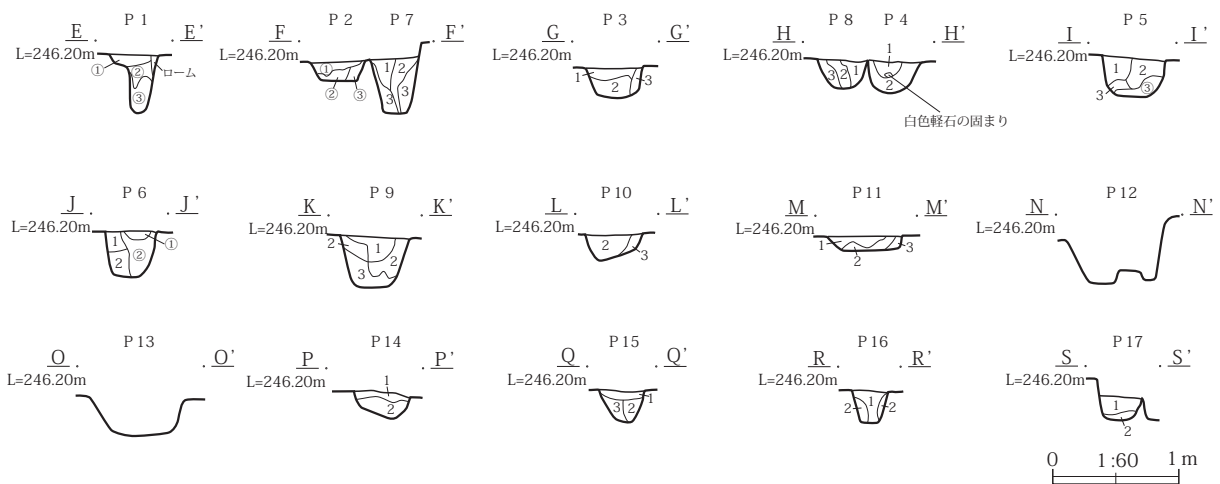
第117図 11区36号住居 (1)



第118図 11区36号住居 (2)

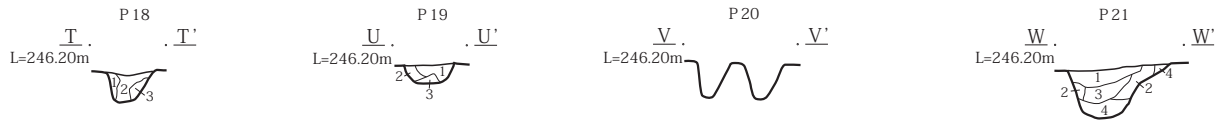


- 37号住居
 1. 暗褐色土 わずかにローム粒含む。
 2. 暗褐色土 1層よりSr粒を多く含む・土器片・小礫混じり。
 3. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒を多く含む。
 4. 暗褐色土 褐色土ブロックとロームブロックの混土。



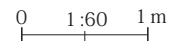
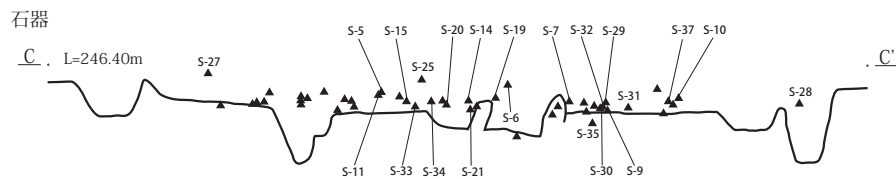
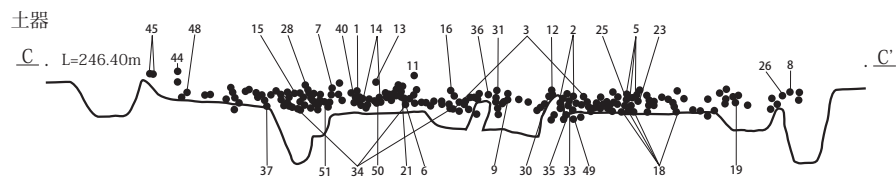
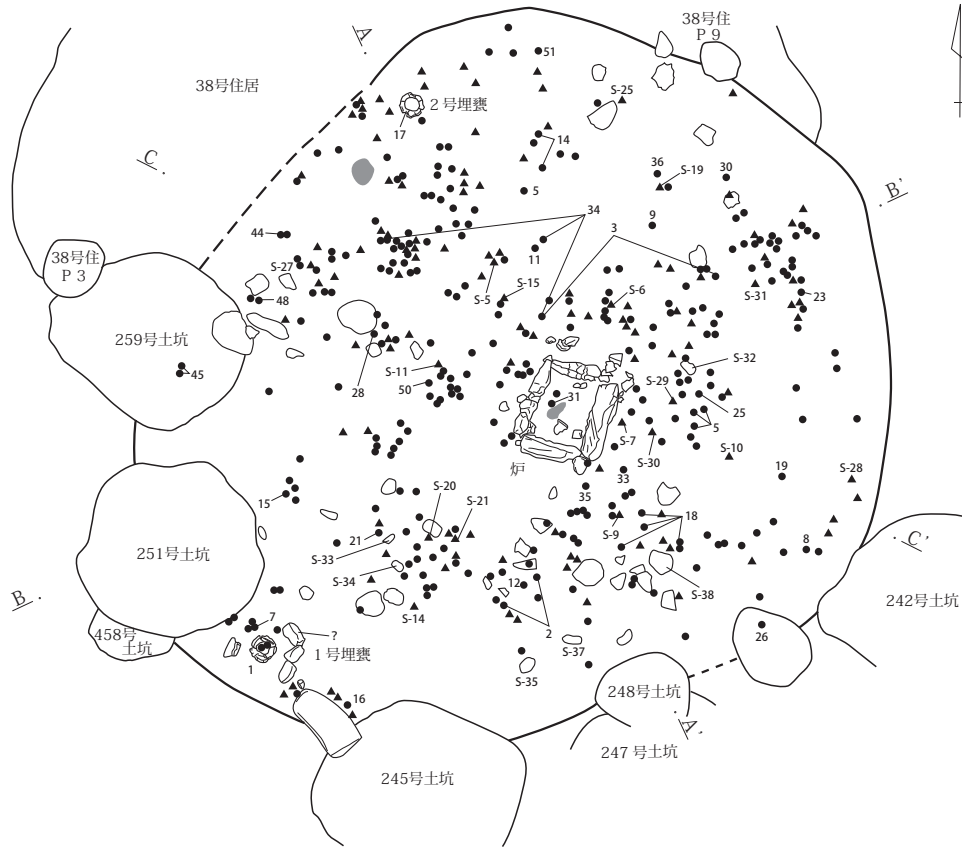
第119図 11区37号住居 (1)

第5章 第4面の検出遺構

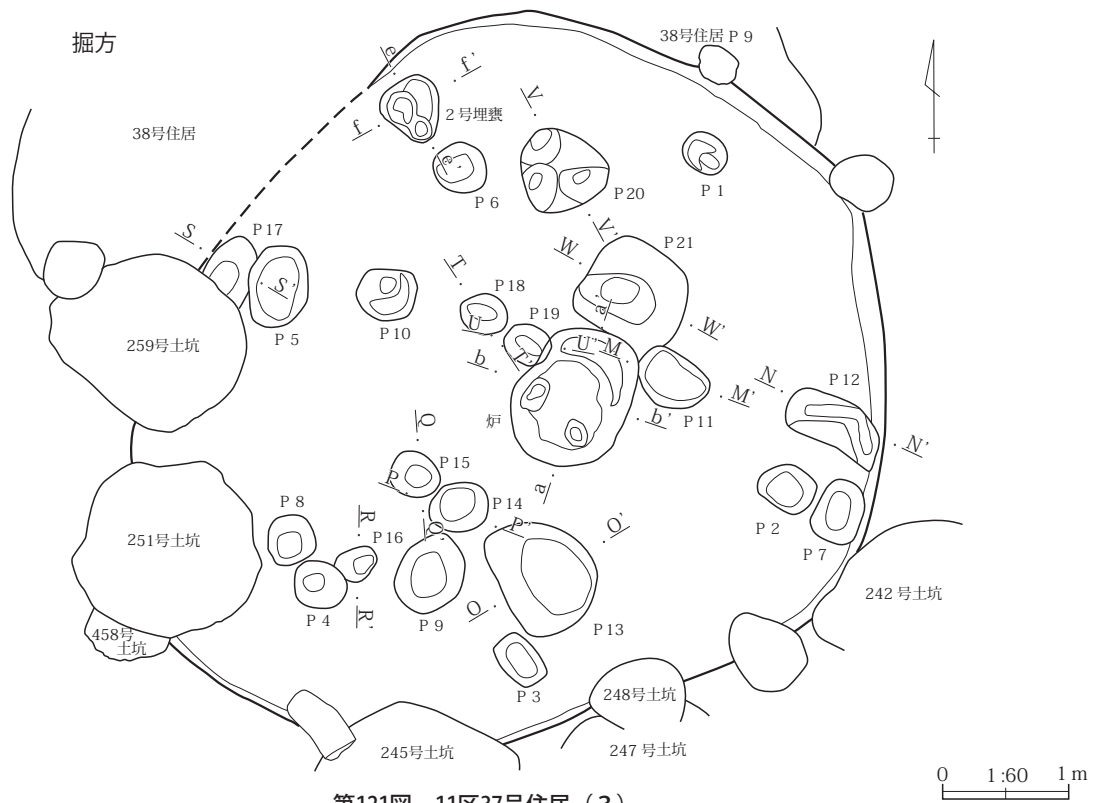
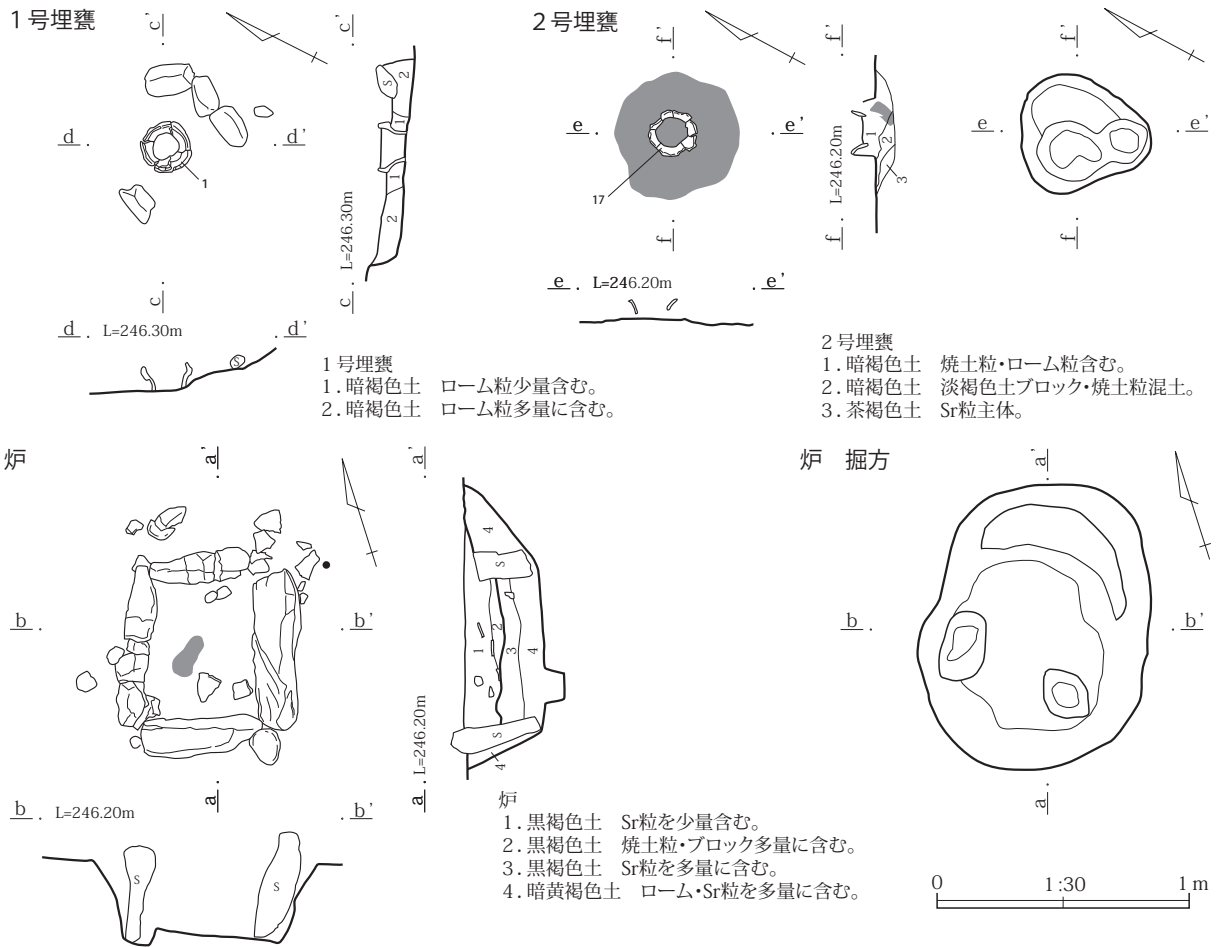


ピット

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 暗褐色土 Sr粒・炭化物少量含む。 | ①. 褐色土 ローム炭化物含む。 |
| 2. 暗褐色土 1層よりSr粒を多く含む。 | ②. 褐色土 1層よりローム多く含む。 |
| 3. 褐色土 Sr粒少量含む、ローム多く含む。 | ③. 褐色土 Sr粒を多く含む。 |
| 4. にぶい黄褐色土 ローム多く含む。 | |

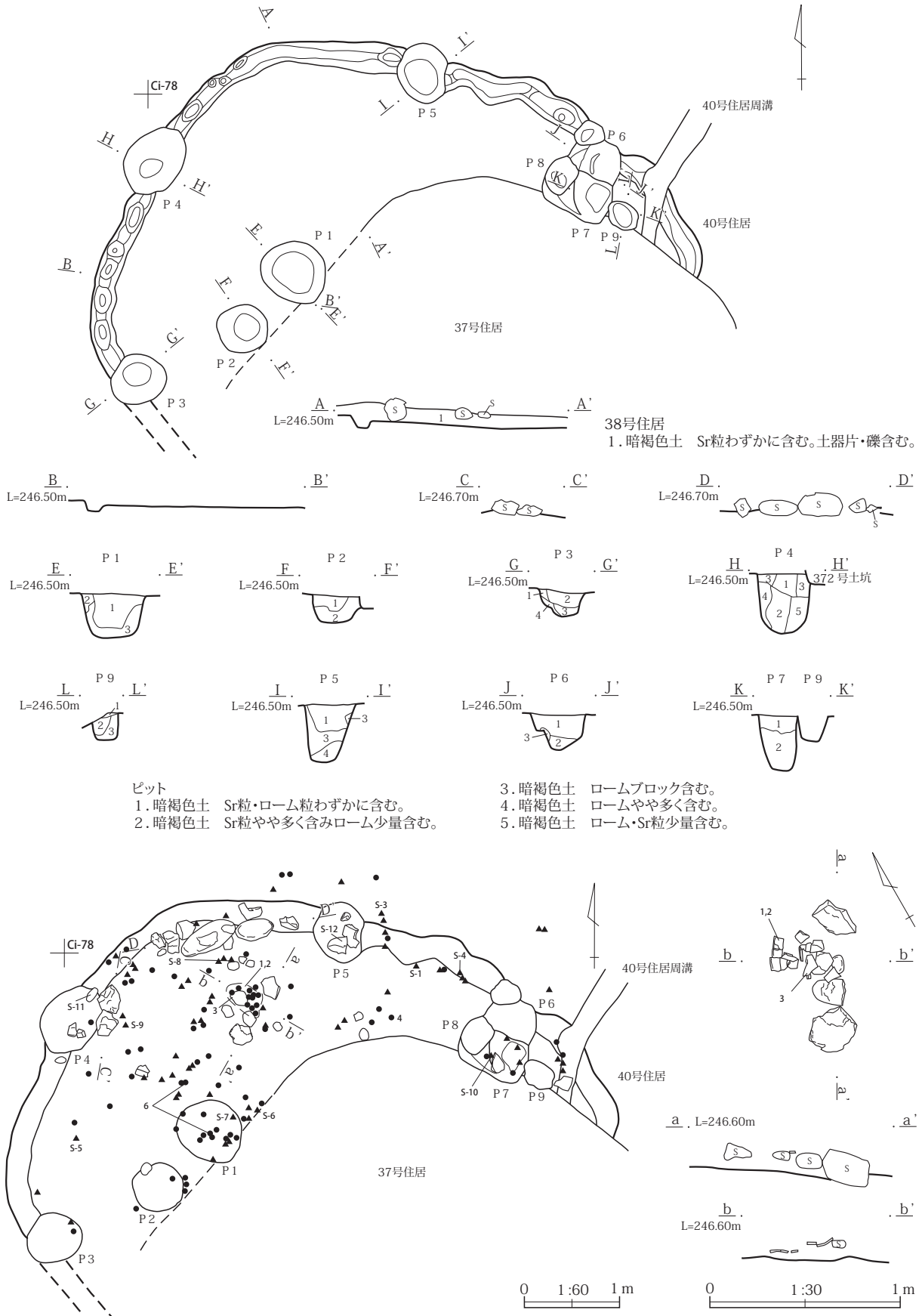


第120図 11区37号住居 (2)

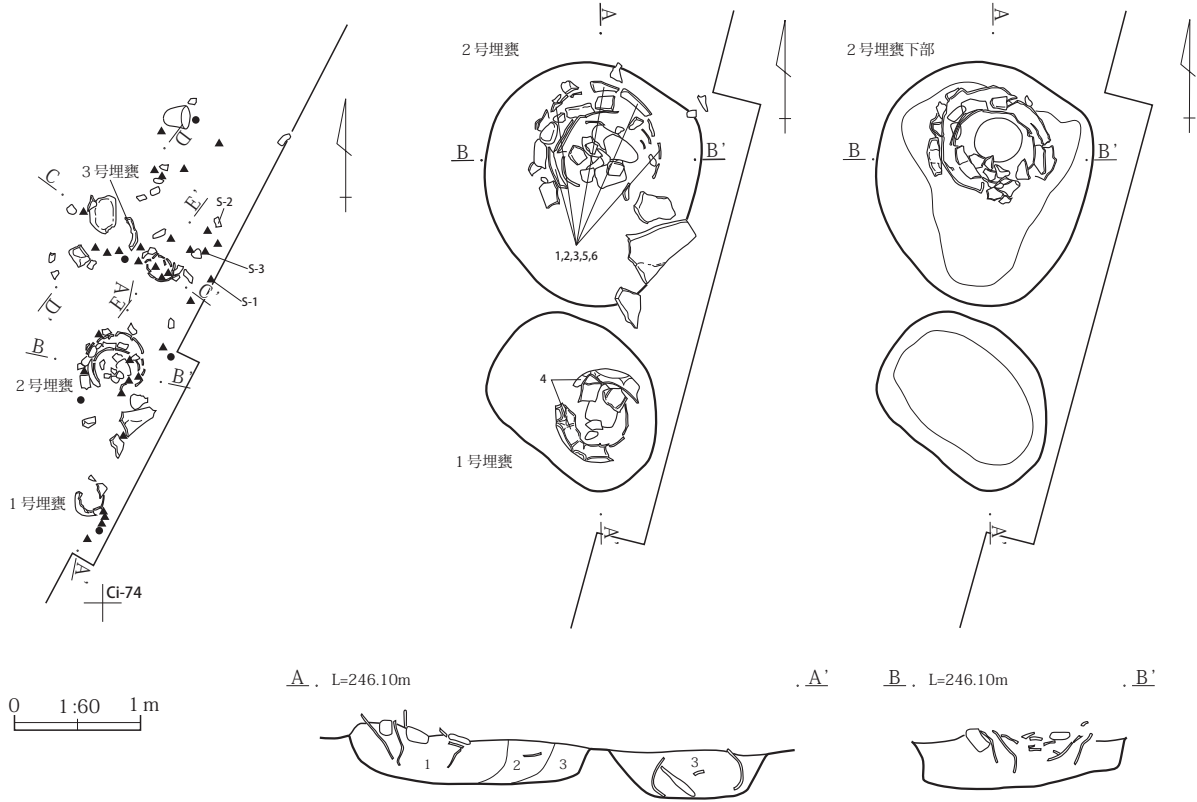


第121図 11区37号住居 (3)

第5章 第4面の検出遺構



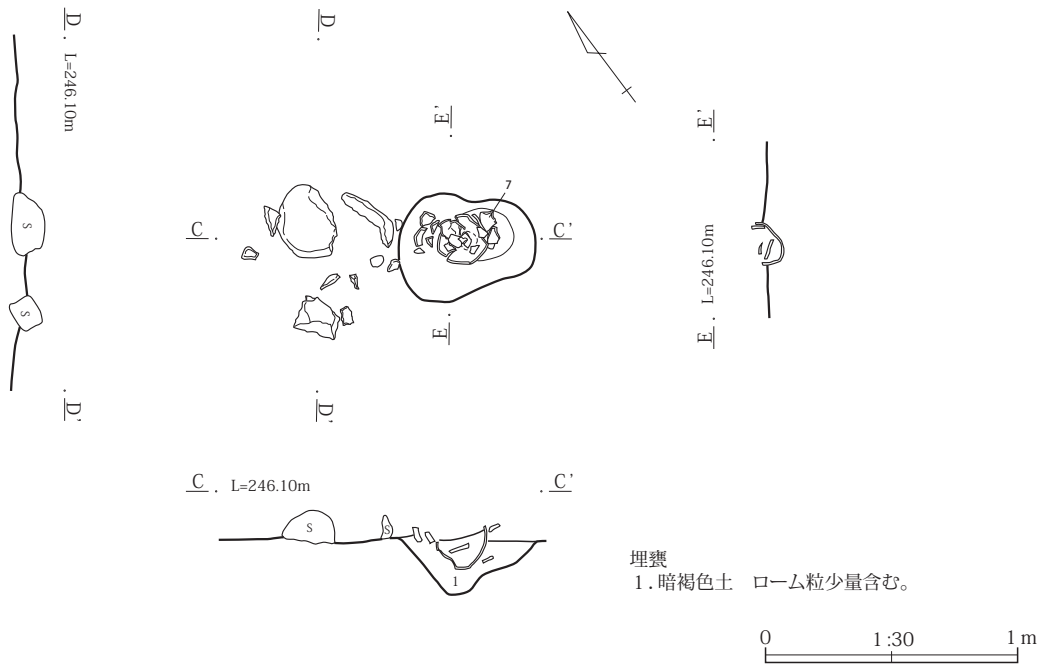
第122図 11区38号住居



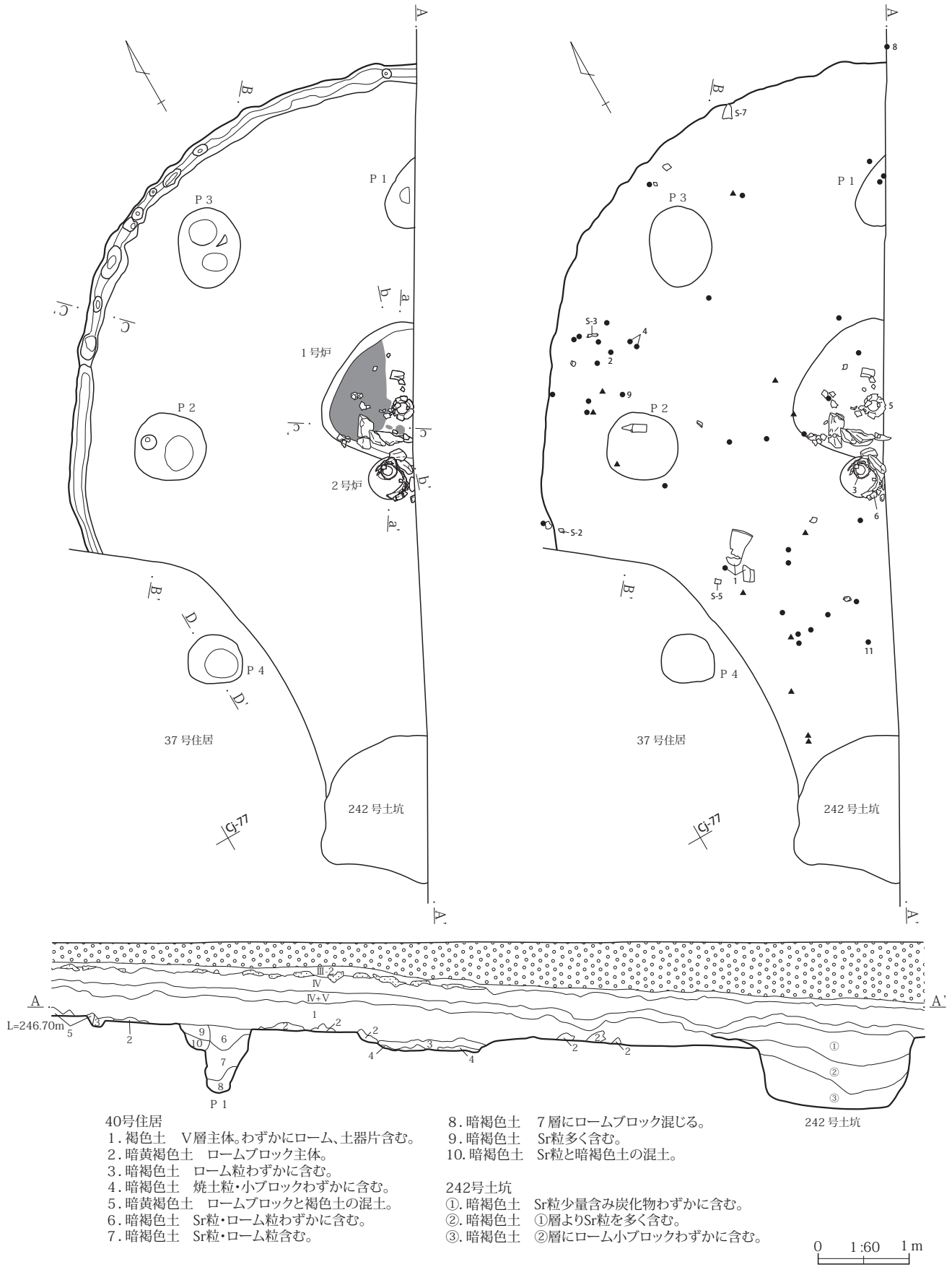
39号住居

- 1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒・小ブロックやや多く混じる。
- 3. 暗褐色土 ローム粒少量とローム小ブロック混じる。

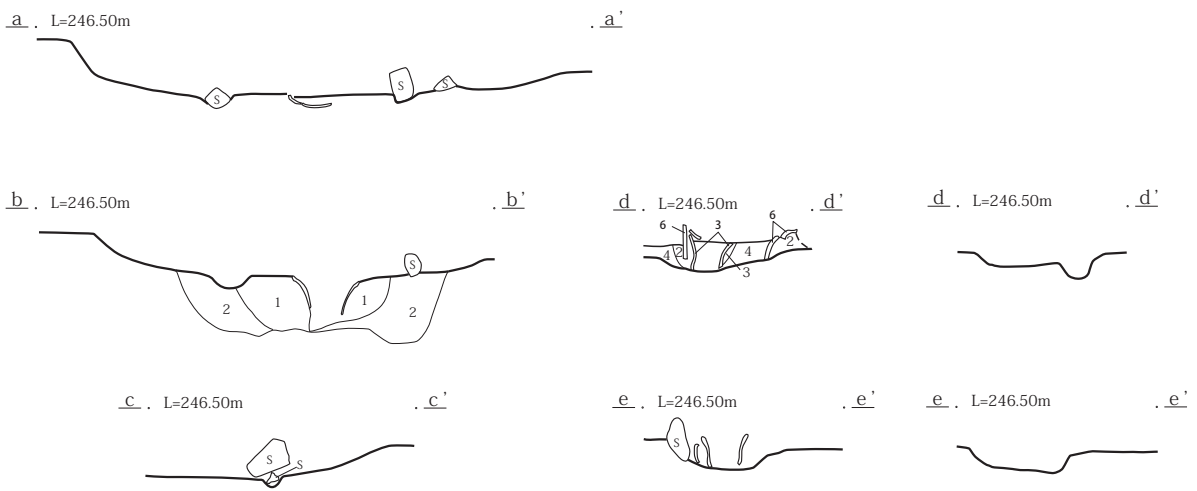
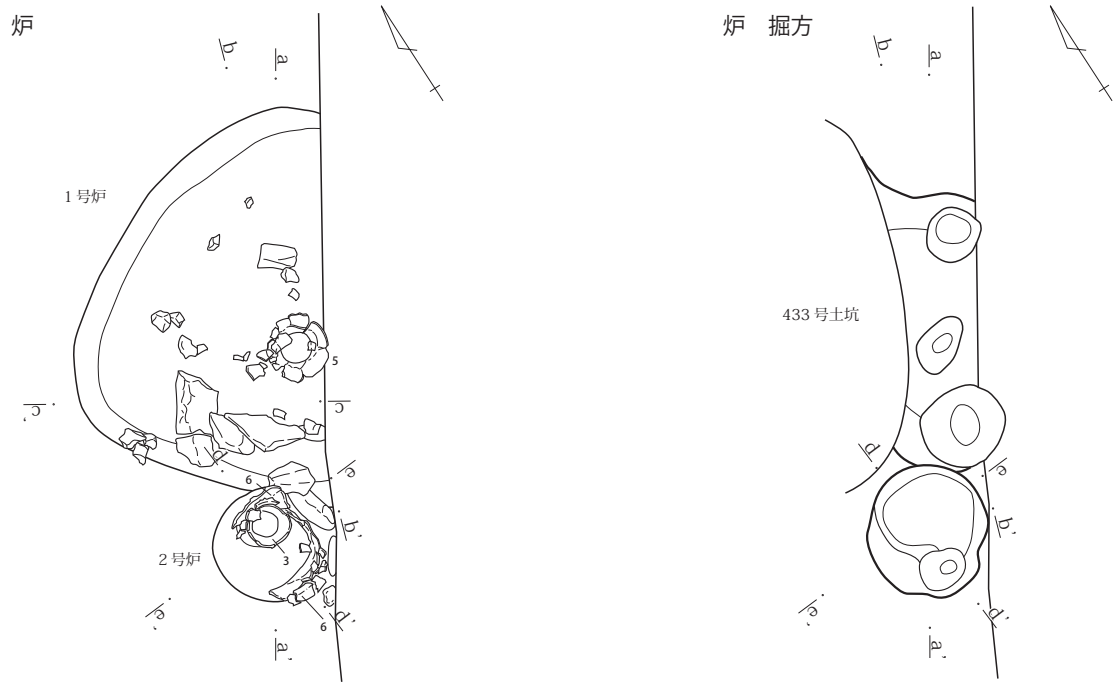
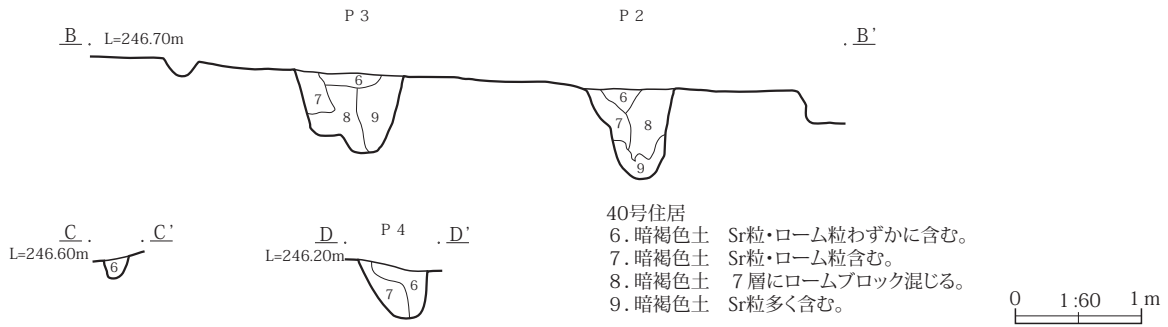
3号埋葬



第123図 11区39号住居

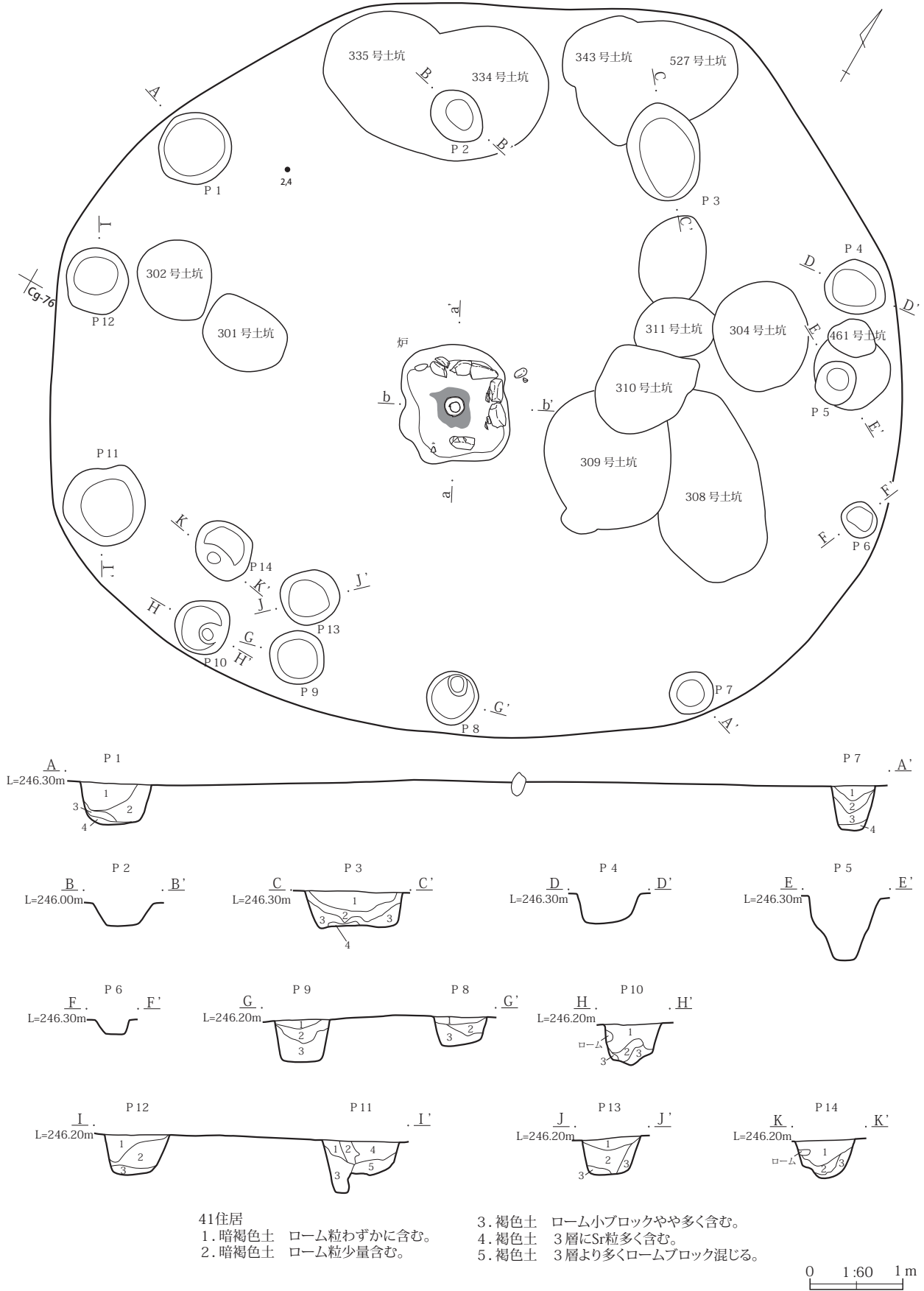


第124図 11区40号住居 (1)

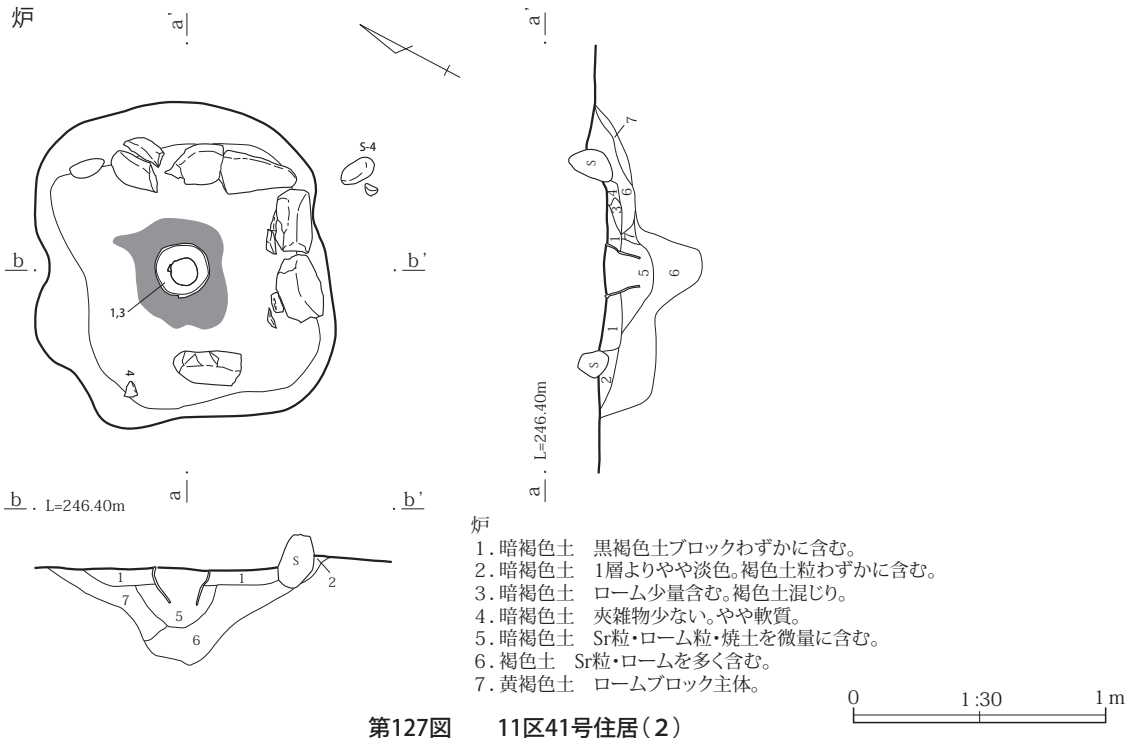


- 炉
 1. 暗褐色土 Sr粒と褐色土ブロック含む。 焼土粒を少量含む。
 2. 暗褐色土 1層より褐色土ブロック多く混じる。
 3. 暗褐色土 夾雑物ほとんど見られない。
 4. 暗褐色土 1層に似るが焼土粒含まず。

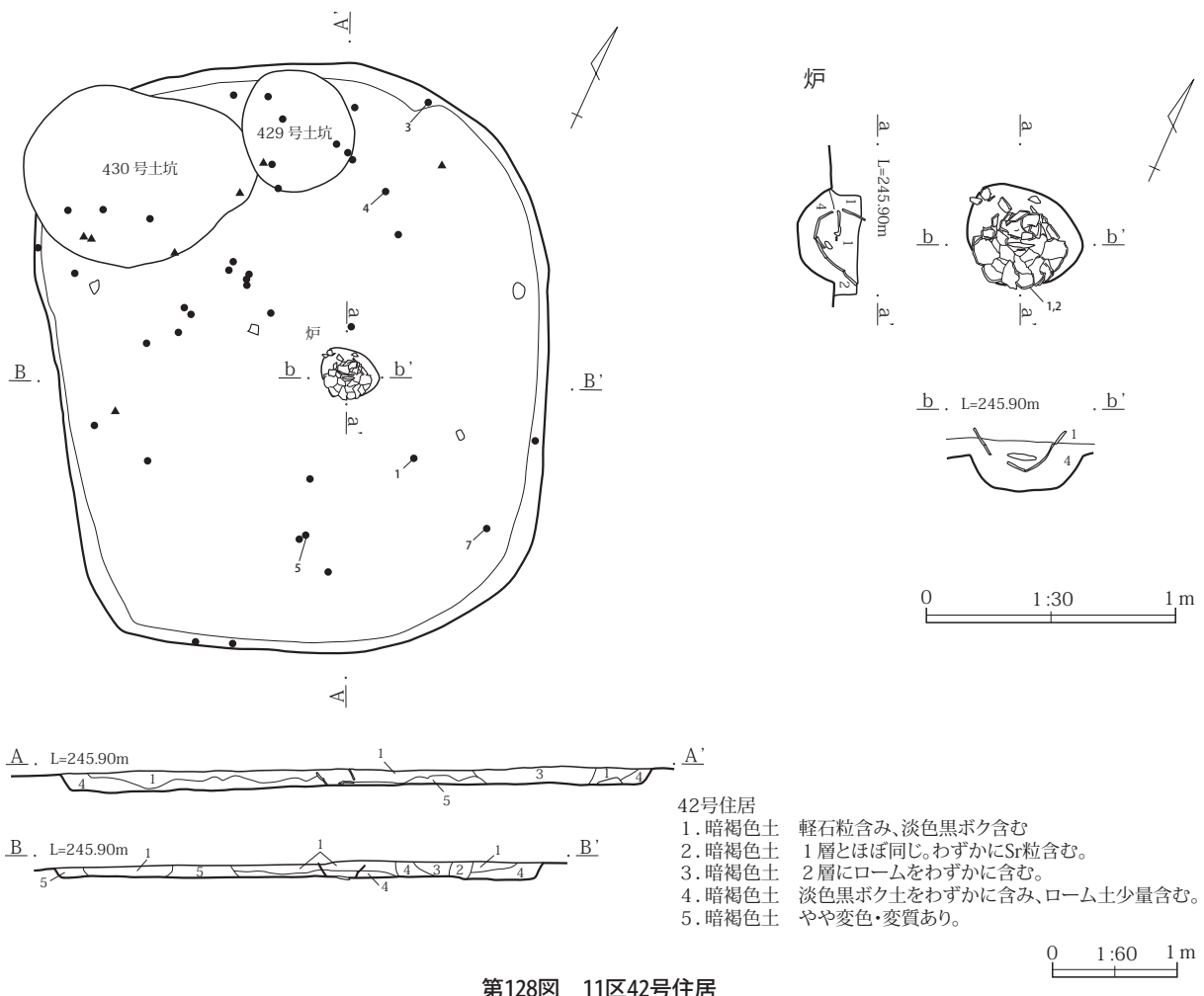
第125図 11区40号住居 (2)



第126図 11区41号住居 (1)

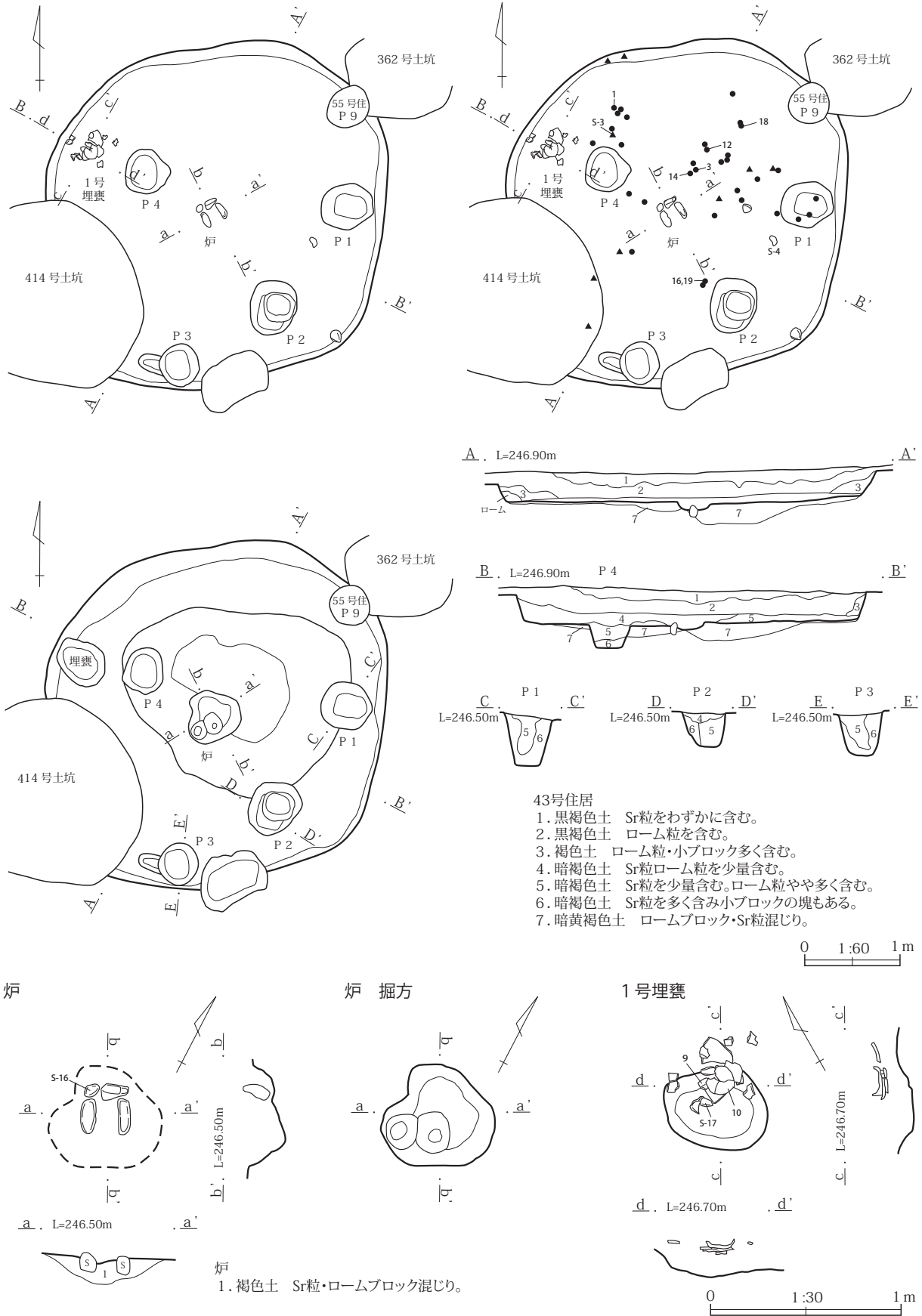


第127図 11区41号住居(2)

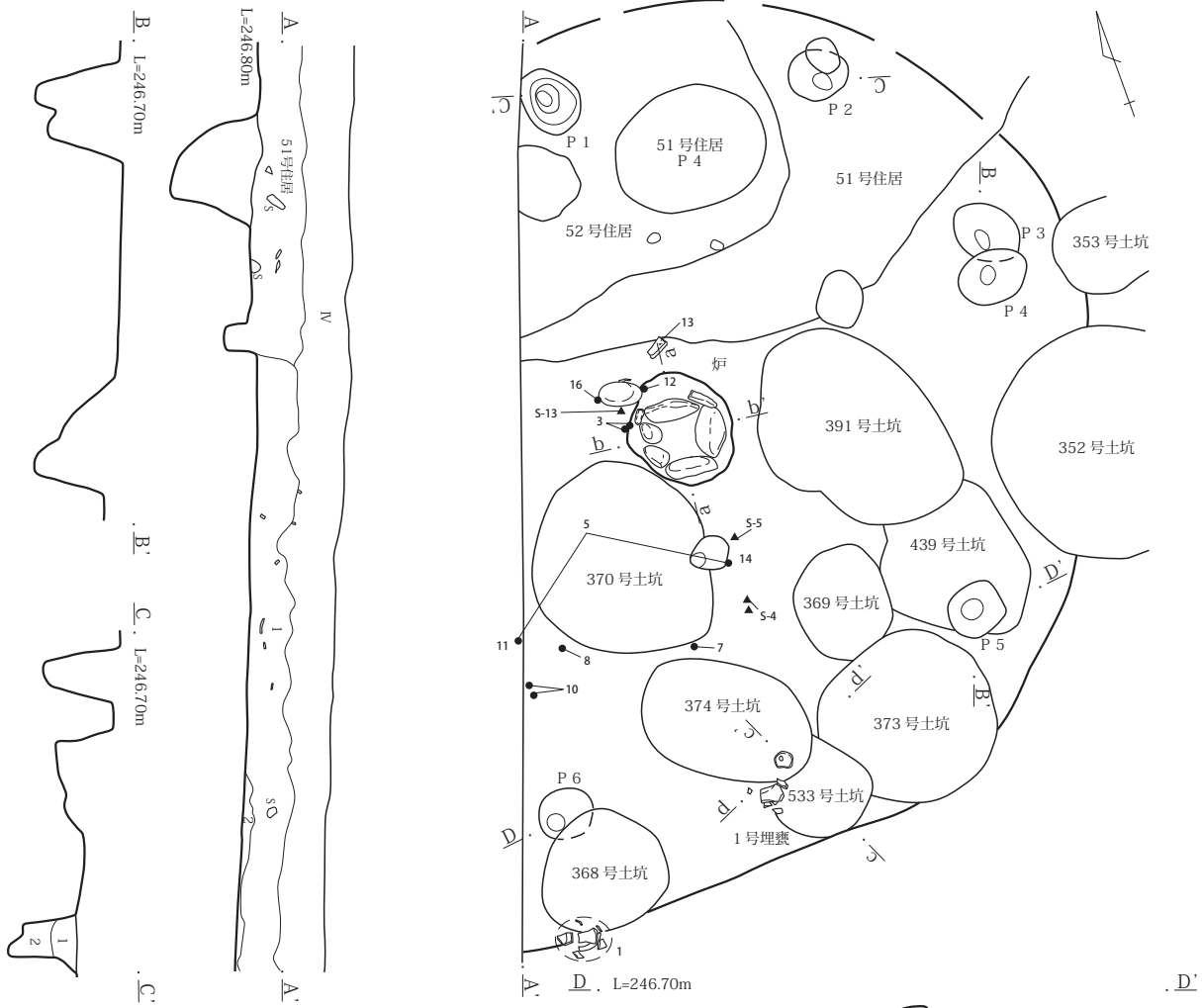


第128図 11区42号住居

第5章 第4面の検出遺構

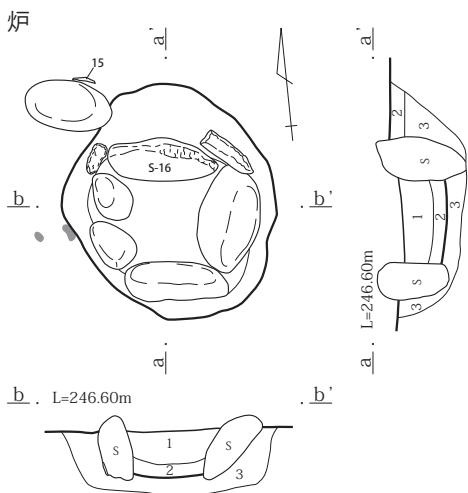


第129図 11区43号住居

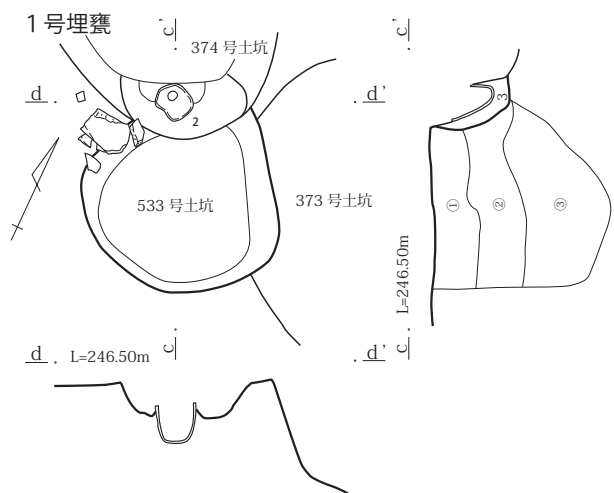


- 45号住居
 1. 暗褐色土 軽石含み土器片・小礫多く含む。
 2. 暗褐色土 ローム粒含む。

0 1:60 1m



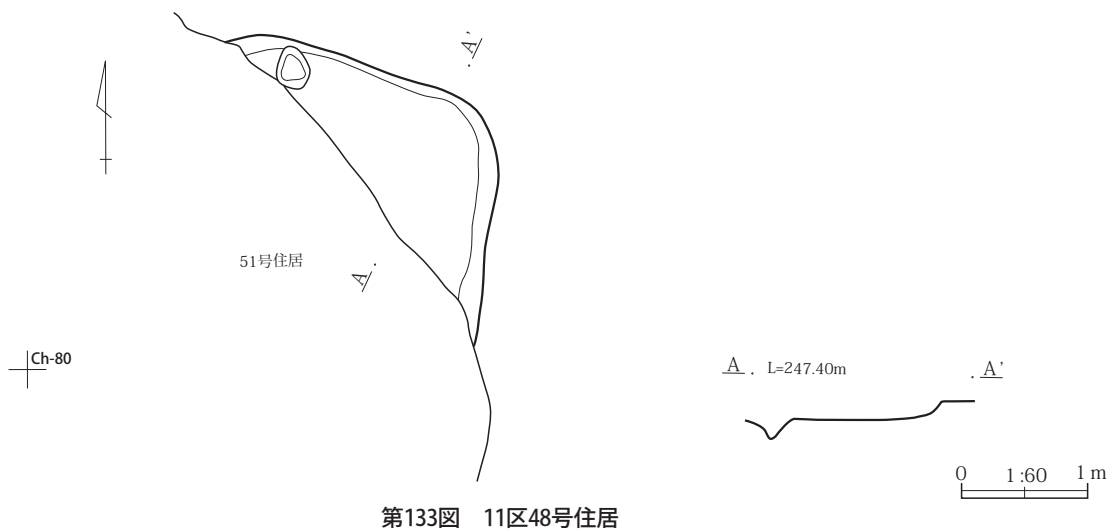
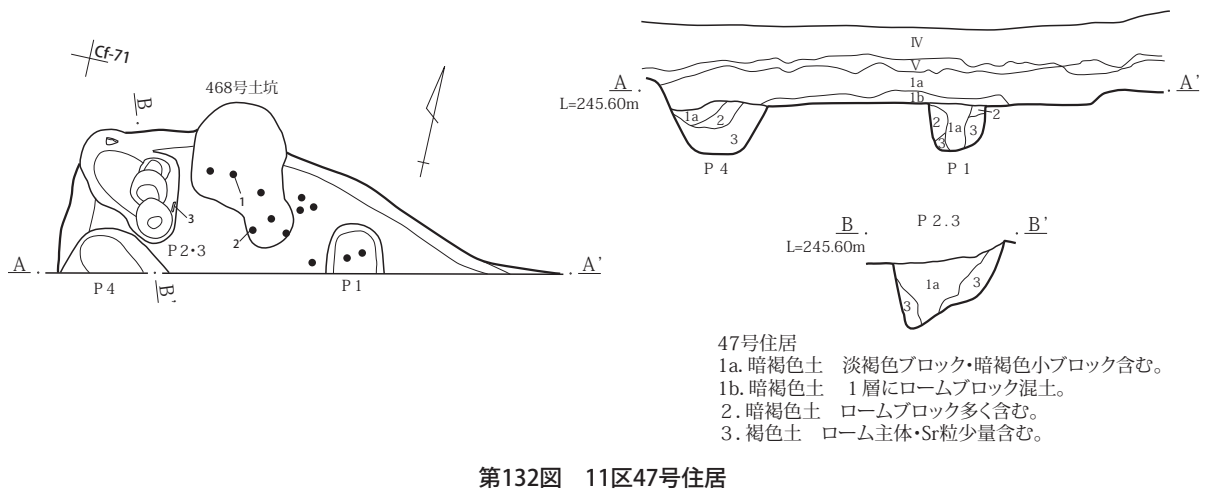
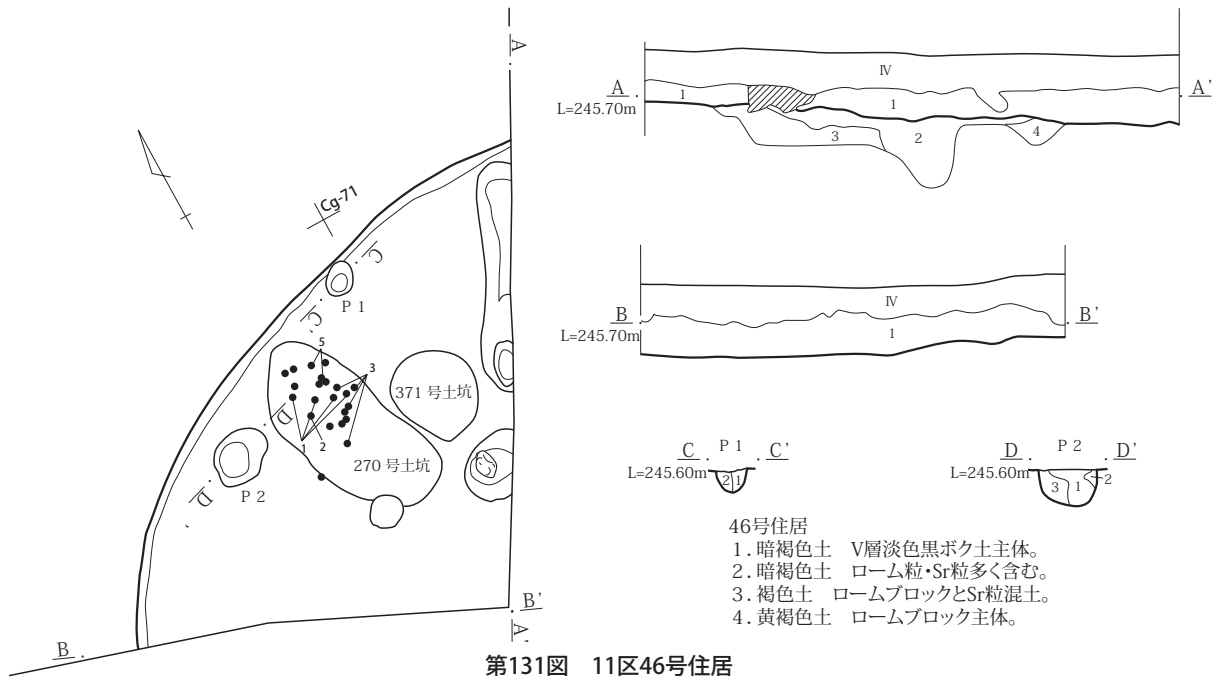
- 炉
 1. 暗褐色土 Sr粒含み、わずかに焼土粒含む。
 2. 暗赤褐色土 焼土粒含み、ローム粒・Srわずかに含む。
 3. 暗褐色土 ローム少量含み、Sr粒わずかに含む。

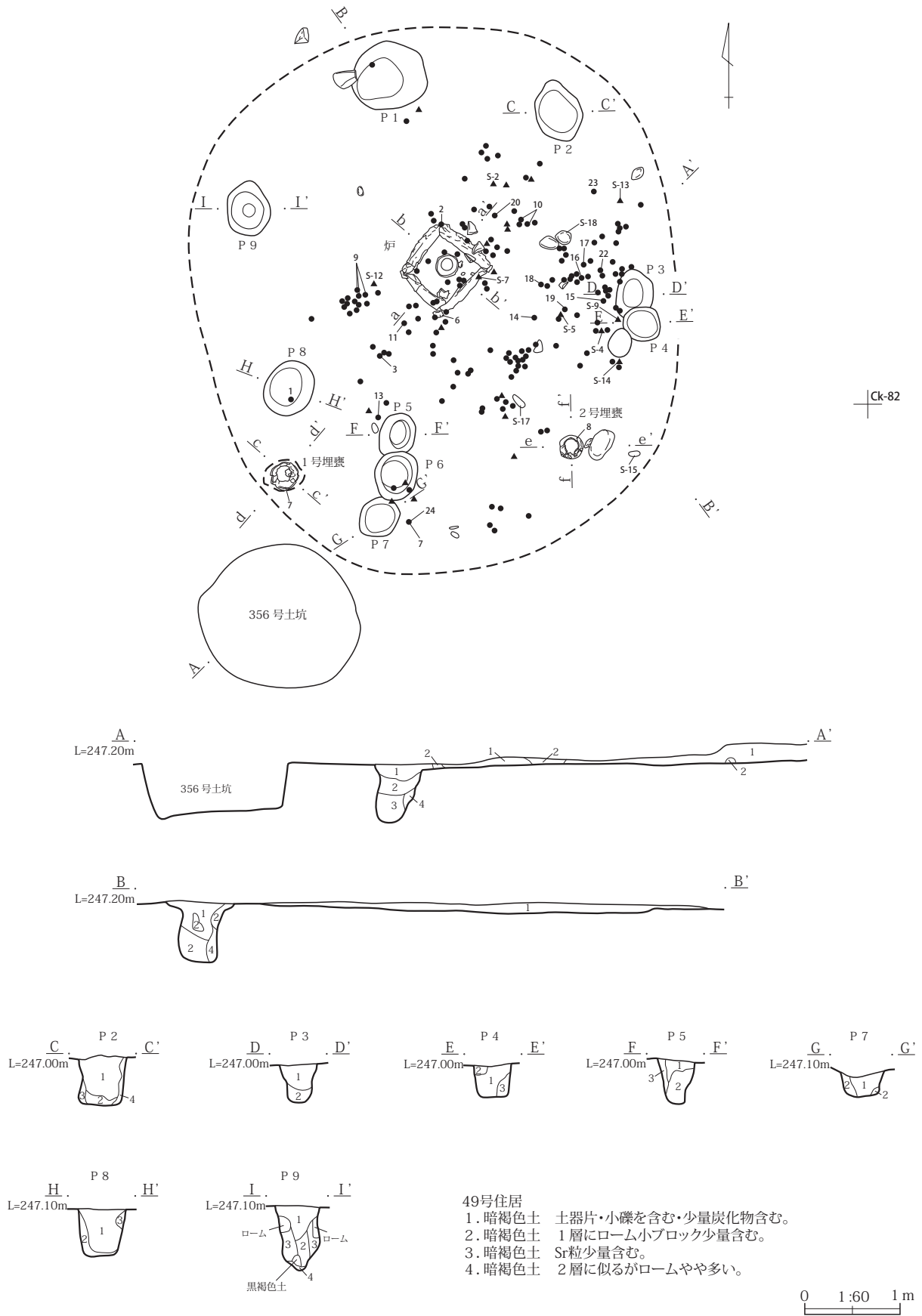


- 533号土坑
 ①. 暗褐色土 やや黒色、Sr粒わずかに含む。
 ②. 暗褐色土 ロームわずかに含む。Sr粒少量含む。
 ③. 暗褐色土 ローム少量含み、Sr粒多く含む。

0 1:30 1m

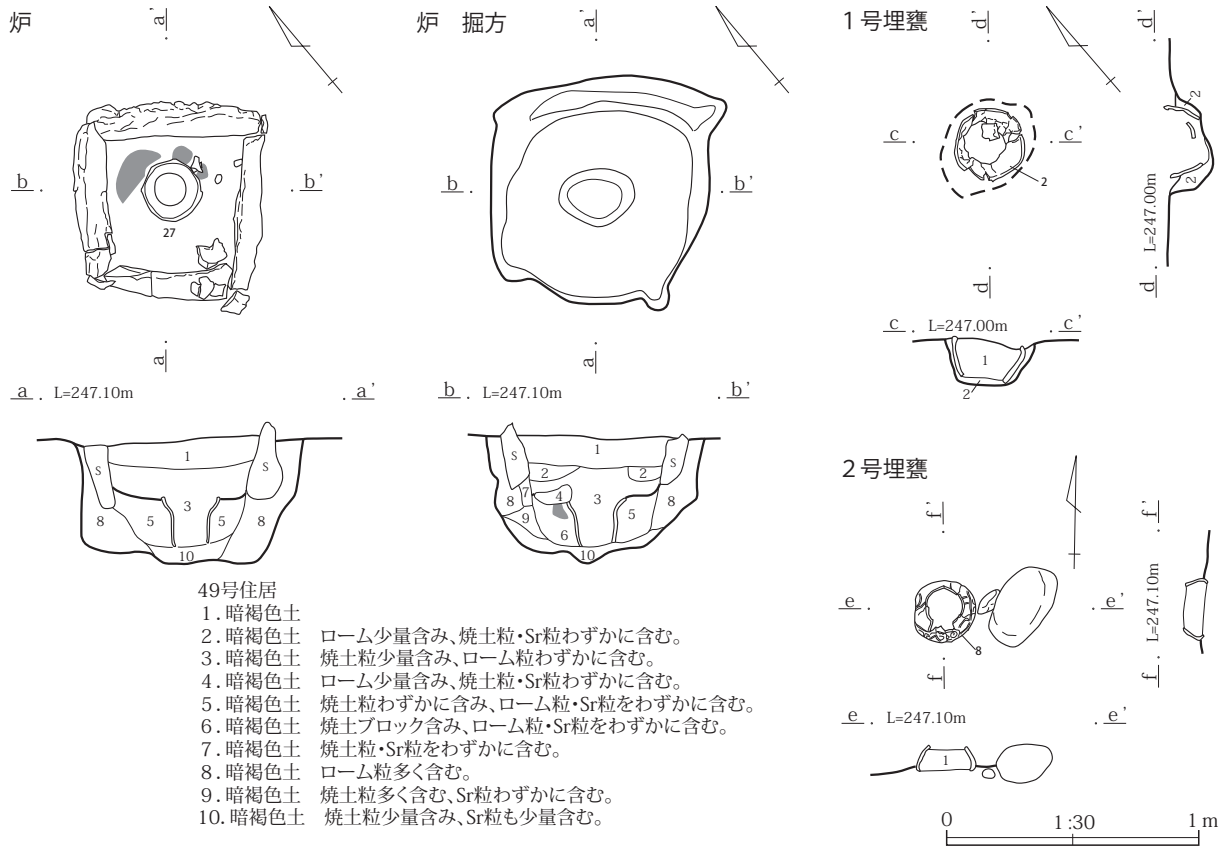
第130図 11区45号住居



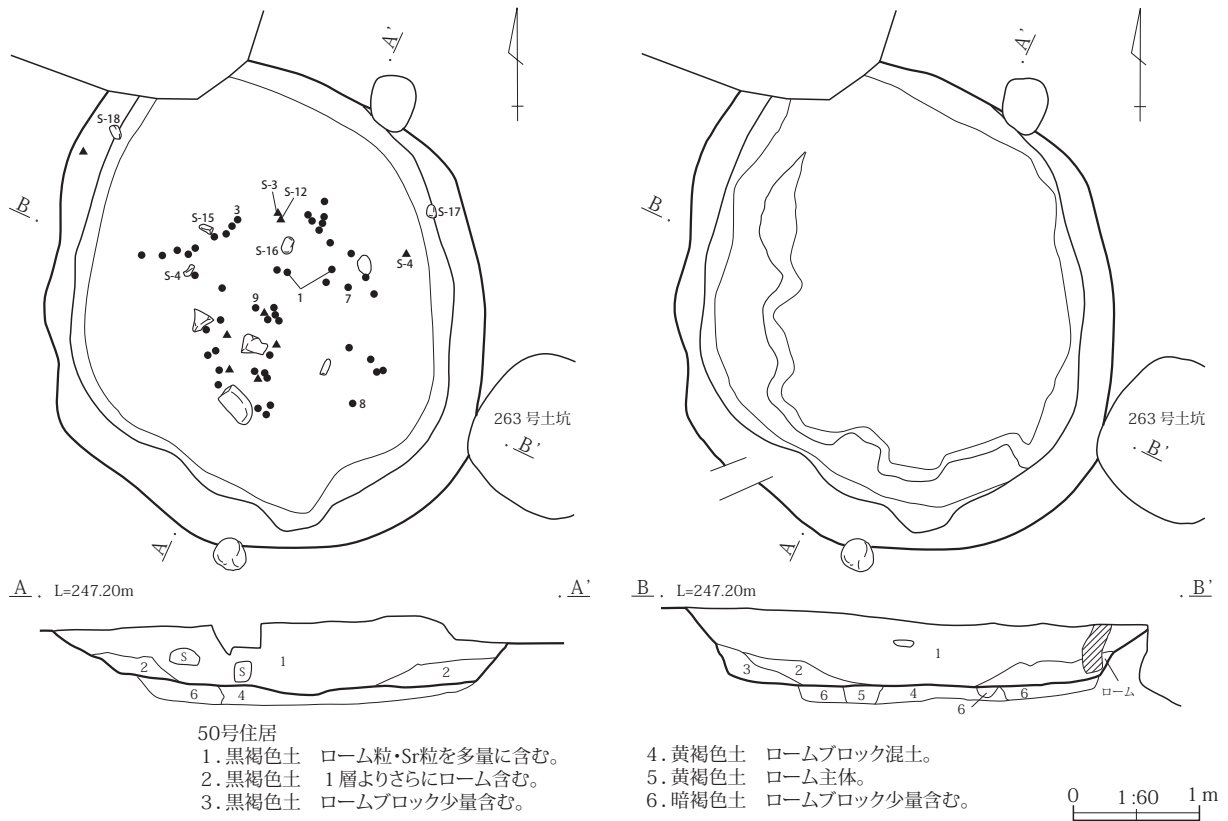


第134図 11区49号住居 (1)

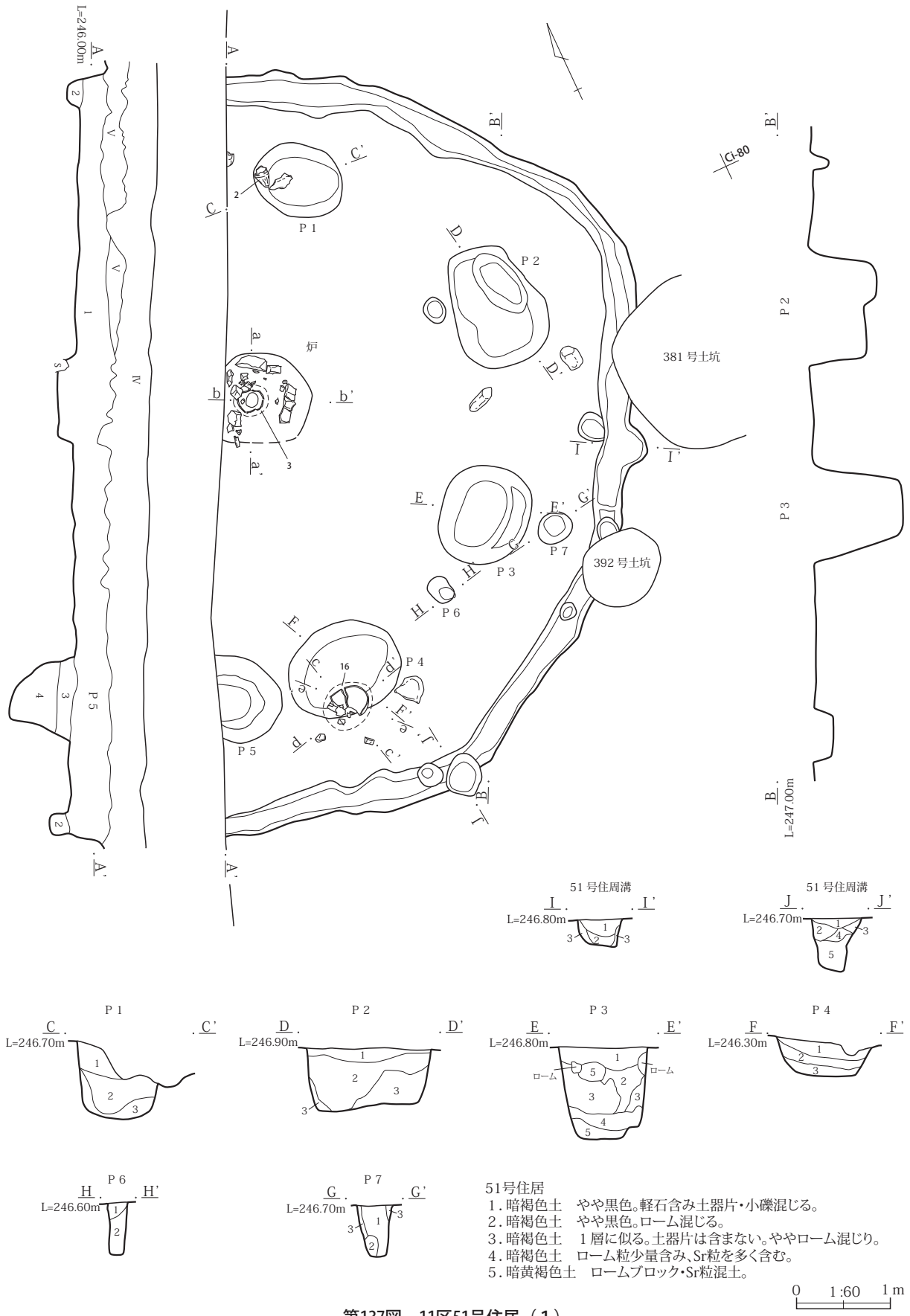
第5章 第4面の検出遺構



第135図 11区49号住居(2)



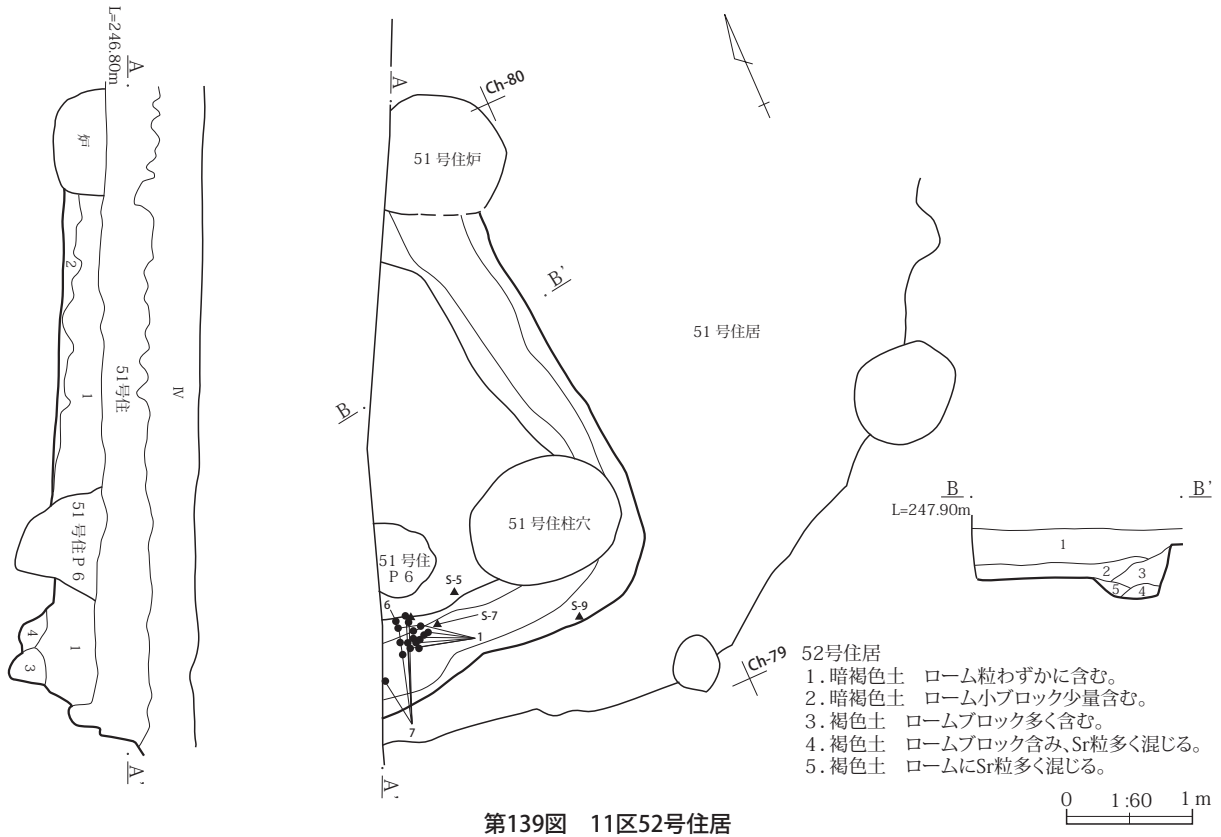
第136図 11区50号住居



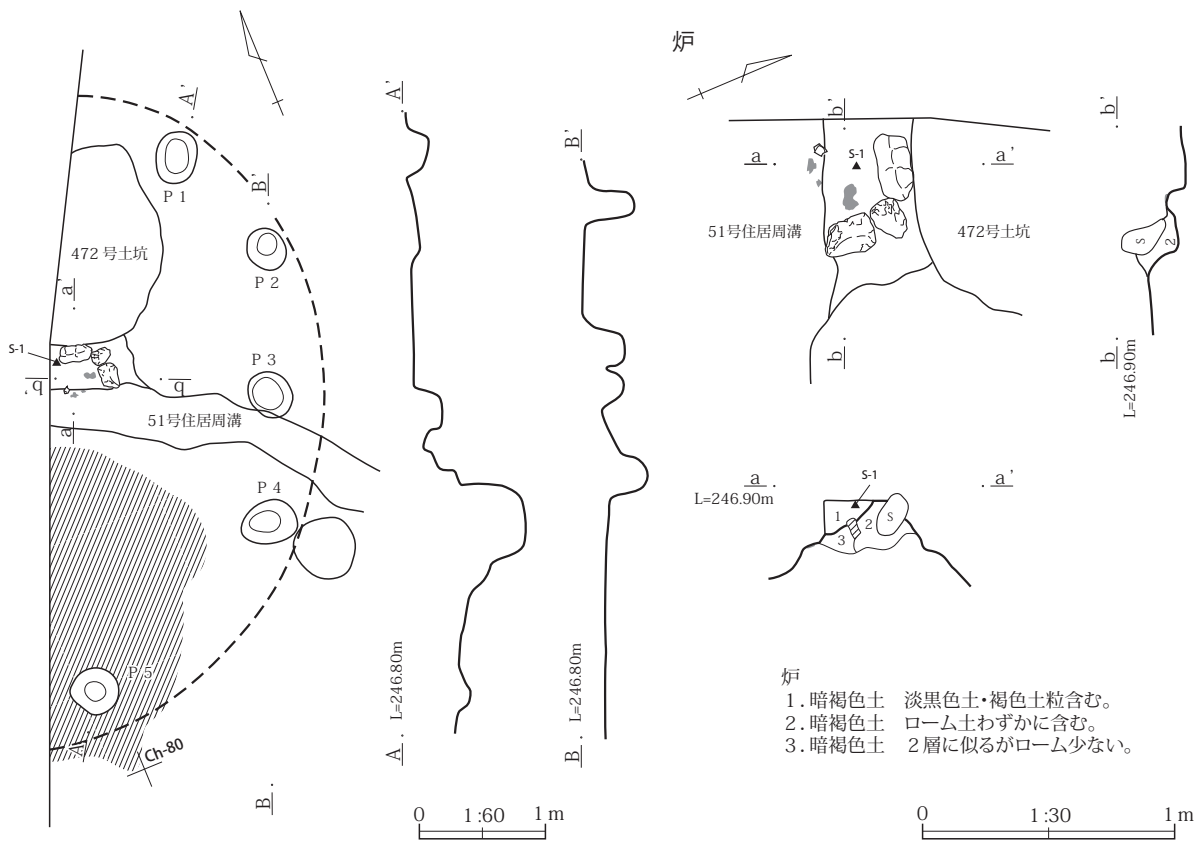
第137図 11区51号住居 (1)



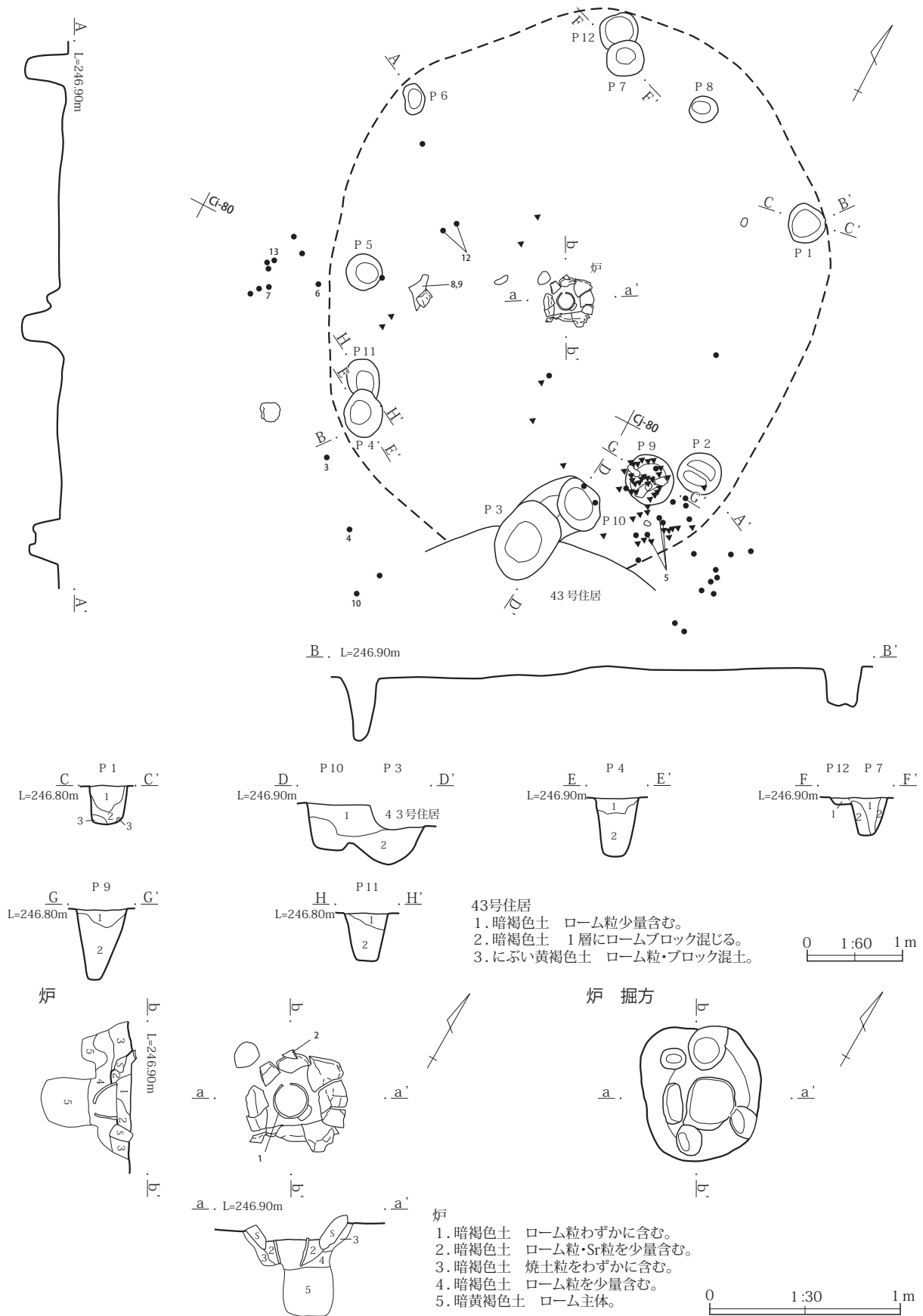
第138図 11区51号住居 (2)



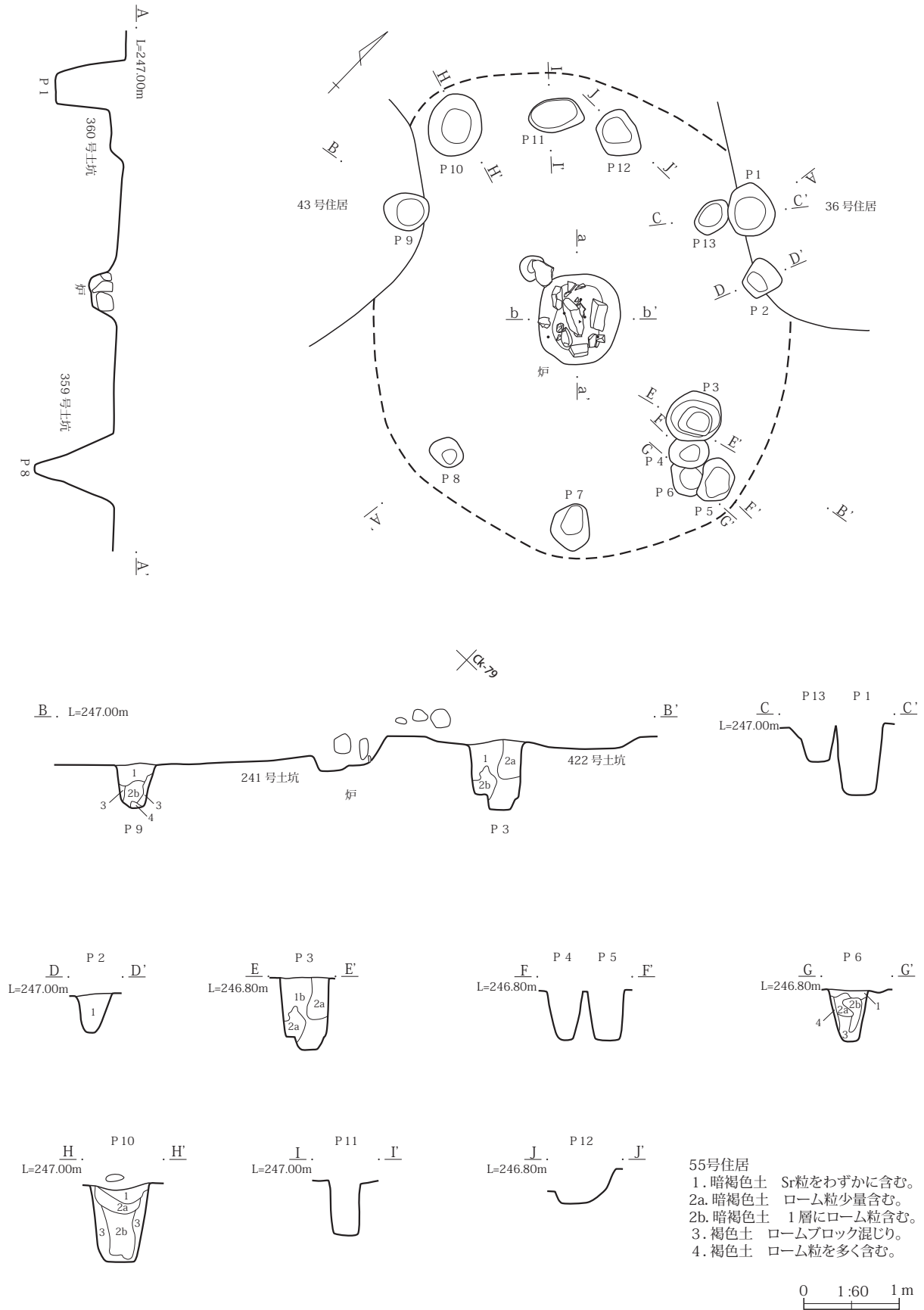
第139図 11区52号住居



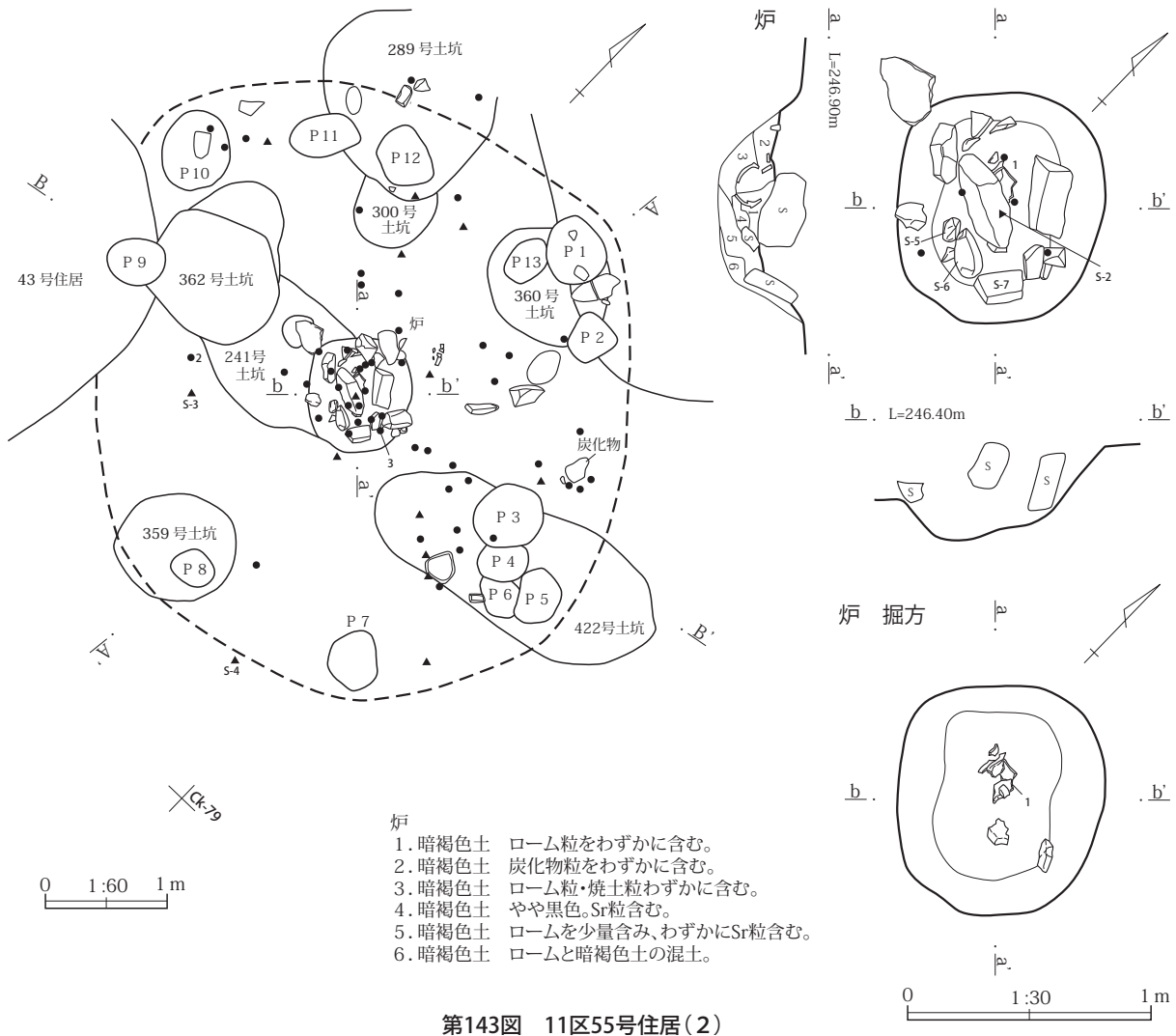
第140図 11区53号住居



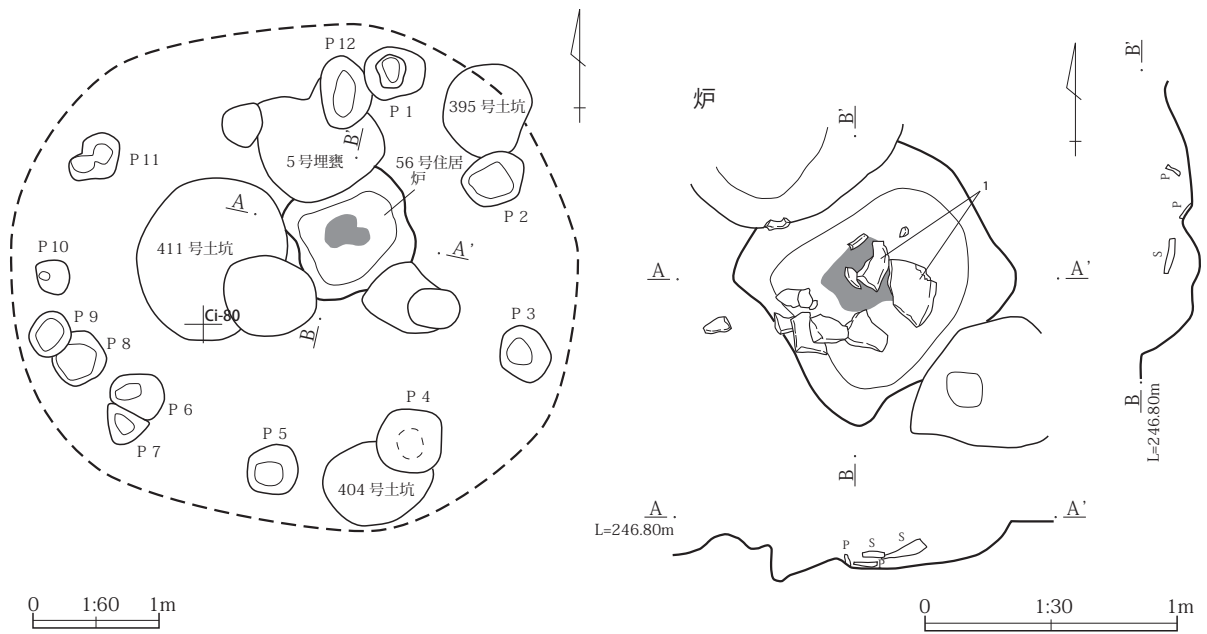
第141図 11区54号住居



第142図 11区55号住居 (1)



第143図 11区55号住居(2)



第144図 11区56号住居

2. 土坑

(遺構：第145～196図、PL71～90、遺物：土器第2分冊第124～158図、PL55～76、石器第3分冊第31～38図、PL24～30)

1) 確認作業

11区の調査は、排土置き場の関係から住居同様2分割の調査となった。平成16年度は1号土坑から225号土坑までの調査を行い、平成17年度は226号土坑から開始し土坑数554基の調査を行った。その後、平成18年度より整理作業を開始し、土坑図面の修正や出土土器の接合・復元等の作業を進める中で、住居内で検出された柱穴や住居内土坑が出土土器の検討により古い時期の土坑であることが分かり新たに土坑番号を付した。また、逆に土坑であったが炉の位置等の検討により住居の柱穴に変更するなど土坑の増減があり、土坑総数は519基となった。

土坑の確認面は、ローム上面までの間で厚く堆積する基本土層Ⅳ～Ⅵ層中より掘り込まれたと考え、まずⅤ層淡褐色土上面で確認作業を行った。確認できた土坑は、1号～17号土坑までであり、埋没土中にはⅣ層土が含まれることからⅣ層中より掘り込まれた土坑である。一部弥生時代後期の土器片も出土していることから弥生時代に属する遺構も近隣に存在すると考えられる。土坑の中には、掘り込みの浅い土坑や斜めに掘り込まれる土坑もあり、地形起伏や樹木の根株痕も土坑として扱ってしまい、次の確認面はⅥ層中であった。この面では住居、ピット等と同時に確認でき、重複が激しく新旧関係の確認が難しかった。最終の確認は住居、土坑調査中に確認される土坑があった。その段階では切り合い関係は不明瞭となってしまう。

土坑の時期は、縄文時代前期から後期までの間と一部弥生後期も含まれると考える。中心は住居同様縄文時代中期が中心である。しかし、大半の土坑出土遺物は、混入状態であり、時期の特定できる土坑は多くない。

2) 土坑の分類

本調査区では519基の土坑が検出された。紙面の都合上で個々の位置、重複、規模、方位等は一覧表を参照していただき、平面、断面形状や出土遺物の有無等を中心に土坑の説明を行う。

発掘調査で検出される様々な形状な土坑を平面形状では方形、長方形、円形、楕円形、その他と大きく五つの形に分け数量を数えた。また、断面も箱形、逆台形、袋状、丸底、ロート状、その他の六つに分け数量を数えた。その結果は下記の通りである。

平面形状

- A：方形 53基を数えた。
- B：長方形 60基を数えた。
- C：円形 181基を数えた。
- D：楕円形 183基を数えた。
- E：その他 アメーバー状の不定形土坑等。42基を数えた。

断面形状分類

- 1：箱形・筒形
総数は126基を数えた。平面との内訳は、
平面A：22基、B：19基、C：57基、
D：25基、E：3基を数えた。
- 2：逆台形
総数は234基を数えた。平面との内訳は、
平面A：23基、B：30基、C：69基、
D：90基、E：22基を数えた。
- 3：袋状
総数は46基を数えた。平面との内訳は、
平面A：4基、B：7基、C：25基、
D：8基、E：2基を数えた。
- 4：丸底
総数は103基を数えた。平面との内訳は、
平面A：4基、B：4基、C：28基、
D：55基、E：12基を数えた。
- 5：その他 底面の傾斜やロート状又は薬研状をする土坑10基を数えた。

3) 土坑内遺物出土状況

11区では遺構の重複が激しく、土坑内埋没土中に破片の混入が多く見られ、土坑の時期を確定できる出土状況は少ない。ここでは遺物の出土状況と遺物の残存状況をから遺構に伴う遺物を出土した土坑について記述する。なお、出土遺物の大半は縄文時代に属するため、時期記載の「縄文時代」は省略する。

1号土坑：調査区北壁トレンチ掘削時に検出。土器は底面付近から1の中期中葉の阿玉台期の深鉢が出土したが、平面図化はできなかった。

11号土坑：北調査区中央で検出。不定形の土坑であり、掘り込みも浅い。遺物は106点の中期後半主体の小破片が出土した。

16号土坑：北調査区北で検出。倒木痕を掘り込む土坑。中層で前期の深鉢出土。

58号土坑：北調査区北で検出。板状礫が底面に置かれた状況で出土し、前期の深鉢破片も出土。

79号土坑：北調査区北寄りで検出。1の底部のみ欠損の中期の深鉢が横位で出土。

80号土坑：北調査区北寄りで検出。袋状を呈する。前期のほぼ完形の深鉢が潰れた状態で出土。

124号土坑：北調査区中央で検出。磨石や石皿等の石器がまとめて置かれたような状況あり、中期の深鉢破片がその中に混じり出土。

127号土坑：北調査区中央で検出。小振りの円形土坑内から前期の深鉢破片が重なって出土。

128号土坑：北調査区中央で検出。調査区西壁にかかる土坑である。出土状況は図化できなかったが、ほぼ完形の前期の深鉢が出土。

138号土坑：北調査区中央で検出。礫が重なり出土。

143号土坑：北調査区北寄りで検出。埋没土中層で中期の深鉢底部が潰れた状態で出土。

153号土坑：北調査区中央で検出。丸玉が埋没土中より出土。

160号土坑：北調査区中央で検出。埋没土中層より前期破片が出土。

166号土坑：北調査区中央東壁寄りで検出。楕円形

土坑である。中期後半のほぼ完形の深鉢が土坑中層で転げ落ちたような状況で出土。

168号土坑：北調査区中央で検出。浅く鋭角に開く袋状土坑である。前期の深鉢の大型破片が出土。

171号土坑：北調査区中央で検出。袋状土坑上面で中期の深鉢体部及び底部破片が出土。

203号土坑：北調査区中央東壁寄りで検出。前期の深鉢大型破片が底面付近で出土。

209号土坑：北調査区中央の調査区東壁にかかる袋状土坑。1、2の深鉢が重なって横位で出土。

232号土坑：北調査区中央東壁寄りで検出。わずかに側壁がハングする袋状土坑。前期の深鉢底部が出土。

242号土坑：南調査区中央の東壁にかかる土坑。中期の深鉢が壁面にかかり出土。

252号土坑：調査区中央で検出。3mを超える大型土坑。掘り込みは浅い。171点を数える中期の破片出土し、中央部で石棒出土。

259号土坑：調査区中央で検出。楕円形を呈し、83cmの断面台形の掘り込みを持つ土坑である。打製石斧、敲等を含む礫群に混じり、中期末から後期の土器片が出土。

260号土坑：調査区中央で検出。上面に6号埋甕が埋置され、下層で検出した長方形の土坑である。6号埋甕の掘方とも考えられる。

262号土坑：南調査区西壁にかかり検出した。2mを超え、深さ86cmを測る長方形の土坑である。中層より中期の破片が出土。

265号土坑：南調査区南で検出。400号土坑と重複し、重複部分で中期の大型破片が出土。

271号土坑：南調査区西壁寄りで検出。円形を呈し、深さ70cmを測る。中期の土器片を中心に86点の遺物が出土。

289号土坑：南調査区北寄りで検出。300号、367号土坑と重複。大礫と共に中期を中心に85点の土器片が出土。

292号土坑：調査区南端で検出。中期の破片が出土。

299号土坑：調査区南端で検出。土坑内全体に1の中期の大型深鉢が横位に埋没された状態で出土。

303号土坑：南調査区中央で検出。礫が重なり出土。

309号土坑：南調査区中央で検出。310号土坑と重複し、中期の深鉢破片が両土坑間で接合した。S 1の磨製石斧出土。

322号土坑：調査区南端で検出。方形を呈する土坑であり、後期の破片が出土。

348号土坑：南調査区中央で検出。長軸188cm、深さ66cmを測る隅丸の長方形土坑である。土坑内より中期の大型破片が出土。

349号土坑：南調査区中央で検出。350号・426号・449号土坑などが連続して重複する土坑群で検出した。石皿、大礫と共に中期の深鉢出土し、7の深鉢底部は正位で置かれていた。

352号土坑：南調査区中央で検出。長軸188cmを測るやや方形気味の土坑である。中期の深鉢を中心に有孔鏝付土器や大型の浅鉢等出土土器は264点を数え、スクレイパーや打製石斧等の石器も出土。

356号土坑：調査区中央で検出。径174cmを測る円形土坑である。土器の出土点数は161点を数え、土坑内中央に1の中期の大型深鉢が潰れた状態で出土した。周辺部からも小型の深鉢が出土している。

357号土坑：調査区南で検出。径160cm、深さ88cmを測り、掘り込みのしっかりした円形土坑である。土器の出土点数は130点を数え、中期の土器片が主体であった。

358号土坑：南調査区中央で検出。底面方形形状の土坑であり、前期の土器片が出土。

361号土坑：調査区中央で検出。径210cm、深さ55cmを測る大型土坑である。1、2の深鉢大型破片を含む中期末～後期を中心とした土器破片が埋没土全体に入り、出土点数は340点を数えた。

366号土坑：調査区中央で検出。長方形形状を呈し、502号土坑を掘り込む。1の中期の深鉢破片が出土。

368号土坑：調査区中央で検出。径102cm、深さ100cmを測り、円形を呈する。1の中期の深鉢が出土し、出土土器点数は91点を数えた。

370号土坑：調査区中央で検出。74cmの丸底の掘り込みを持ち、中期の土器破片を中心に出土点数は96

点を数えた。

372号土坑：南調査区中央で検出。径164cm、深さ74cmの箱形の掘り込みを持ち、中期の土器破片を中心に出土点数は111点を数えた。

380号土坑：調査区中央で検出。中期の破片を出土。

381号土坑：調査区中央で検出。土坑の重複が激しい。出土土器点数は226点を数え、中期の破片が占め、若干前期の破片が混ざる。

385号土坑：調査区中央で検出。深さ122cmを測り、上端が僅かに開きロート状を呈する円筒形の土坑である。中期の土器破片と底面中央から礫が1石出土。

387号土坑：南調査区中央で検出。中期の破片が出土している。

390号土坑：南調査区中央で検出。調査区南寄りの西壁際で検出した。住居・土坑が密集する区域に所在し、上層には1号配石のCブロックが乗り、周辺部より多くの遺物が出土していた。規模は、径130cm、深さ38cmを測る。出土土器は、中期の土器を中心に359点出土した。5の装飾突起を持つ四耳壺が潰れた状態で出土し、下部に同器形の4の壺や深鉢がまとまって出土している。土器は中層以上の出土であり、埋没途中で投棄されたと考えられる。

391号土坑：南調査区中央で検出。390号土坑の北東に位置し、1号配石下層で検出した。石皿、多孔石片と共に390号土坑に類似した中期の壺や深鉢が出土。

401号土坑：調査区中央で検出。長軸132cm、深さ26cmを測る楕円形土坑。1の前期の深鉢破片が出土。

405号土坑：調査区中央で検出。径145cm、深さ50cmを測り、円筒形の円形土坑である。前期の破片が出土。

406号土坑：調査区中央で検出。調査区西壁にかかり、51号住居と重複する土坑であり、長軸256cm、深さ46cmの規模を持つ。出土遺物は、スクレイパーや打製石斧等の石器と共に中期を中心とした359点の土器が出土した。

414号土坑：調査区中央で検出。長軸202cm、深さ50cmを測る楕円形土坑。底面方形形状を呈する土坑である。中期を中心とした158点の土器が出土した。

415号土坑：南調査区中央で検出。長軸148cm、深さ50cmを測り、底面方形状を呈する土坑である。中層以上に中期の土器破片と礫出土。

416号土坑：南調査区中央で検出。円筒、一部ハングする土坑であり、前期の深鉢底部片が出土。

424号土坑：調査区中央で検出。径107cm、深さ52cmを測り、円形の袋状土坑である。前期の破片が出土。

429号土坑：調査区南で検出。径98cm、深さ55cmを測る円形土坑である。埋没土全体に遺物が混入し、多孔石や凹石が中央で出土している。土器破片は131点を数え、大半が後期前半の土器であり、深鉢、浅鉢、注口土器等が出土。

430号土坑：調査区南で検出。429号土坑に切られる楕円形土坑であり、長軸190cm、深さ44cmを測る。前期の深鉢破片が出土。

463号土坑：南調査区中央で検出。倒木痕に壊された円形の袋状土坑である。規模は径166cm、深さ52cmを測る。前期中葉の深鉢等を中心に130点の土器が出土。

471号土坑：調査区中央東壁にかかり検出。薬研状の掘り込みを持つ438号土坑に切られる。長軸340cmを測り、20cm前後と浅い掘り込みの方形土坑である。出土遺物は中央で4の浅鉢が出土している。他に中期を中心とした138点の土器破片が出土。

480号土坑：南調査区中央で検出。長軸168cm、深さ30cmを測る楕円形（長円形）土坑である。1の中期の口縁部欠損した深鉢が出土。

488号土坑：南調査区中央西壁にかかり検出した。中期の土器破片が61点出土。

507号土坑：南調査区中央で検出。長軸347cmを測る大型土坑の521号土坑内で検出した。中期の破片が出土。

508号土坑：南調査区中央で検出。長軸347cmを測る大型土坑の521号土坑内で検出した。長軸152cm、深さ90cmを測り、掘り込みのしっかりした土坑である。投げ込まれた大礫と共に中期の破片を主体に土器破片が121点出土。

510号土坑：南調査区中央で検出。503号土坑を掘り込むと考えられるが、断面では不明瞭であった。一辺70cm程の方形土坑。後期の破片が出土。

512号土坑：南調査区中央で検出。長軸347cmを測る大型土坑の521号土坑内で検出した。長軸110cm、深さ40cmを測る楕円形土坑。3の中期の大型深鉢が出土し、その他57点の中期を主体とした土器破片が出土。

518号土坑：南調査区中央で検出。長軸347cmを測る大型土坑の521号土坑内で検出した。中期の破片が出土。

535号土坑：調査区北1号住居内で検出。径96cm、深さ42cmを測る円形土坑である。前期の深鉢出土。

540号土坑：調査区北18号住居内で検出。径98cm、深さ35cmを測る円形土坑である。1の中期の深鉢底部出土。

541号土坑：調査区北18号住居内で検出。長軸90cm、深さ83cmを測る円形の袋状土坑であり、埋没土中に炭化物、焼土混じり。中期の深鉢出土。

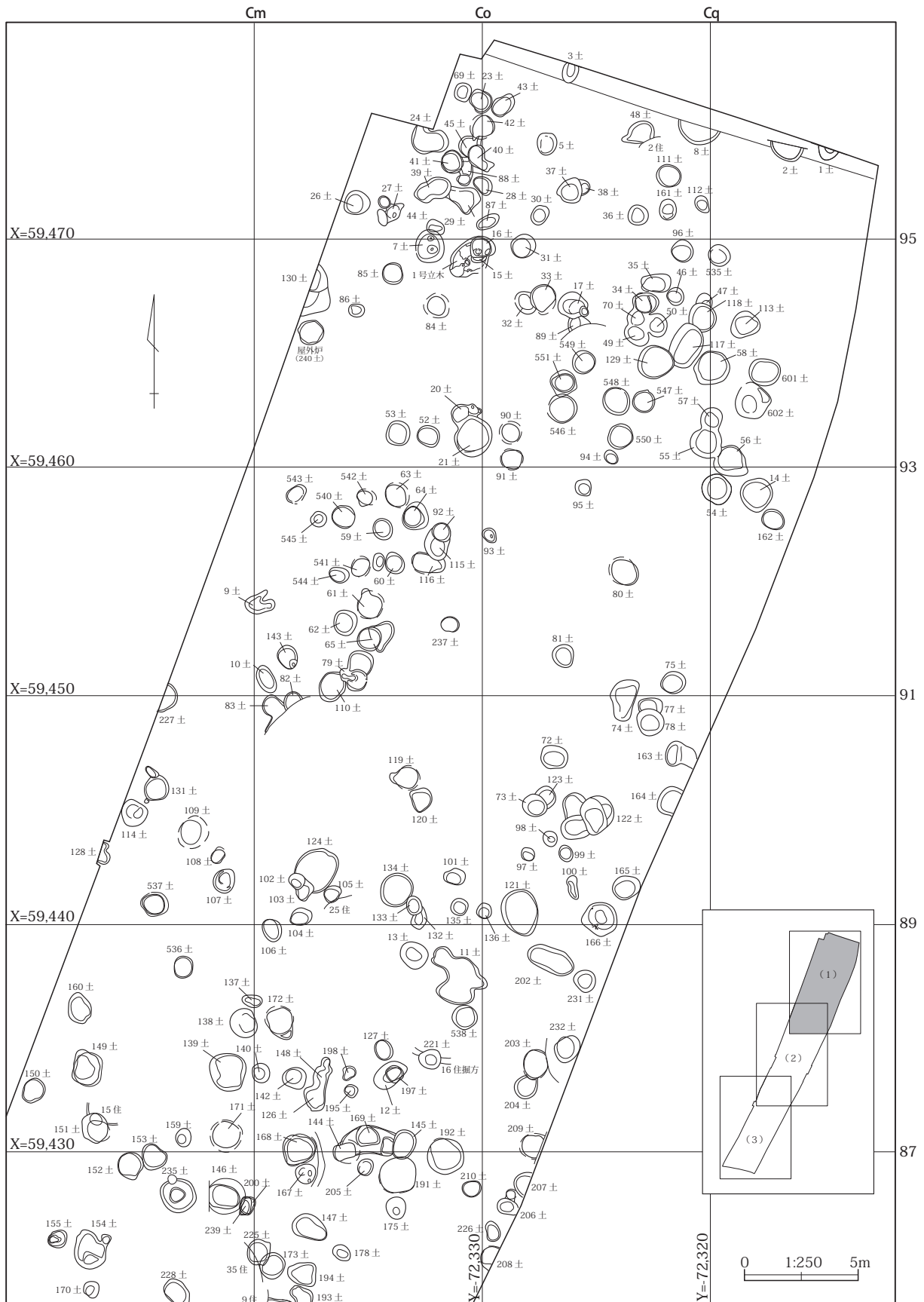
547号土坑：調査区北21号住居内で検出。径97cm、深さ68cmを測る円形土坑である。上層より1の中期の深鉢出土。

548号土坑：調査区北21号住居内で検出。径118cm、深さは112cmを測る掘り込みの深い円筒形状の土坑である。底面に5の中期の深鉢完形品出土。

551号土坑：調査区北21号住居内で検出。径82cm、深さ150cmを測る掘り込みの深い円筒形状の土坑である。中期の深鉢出土。

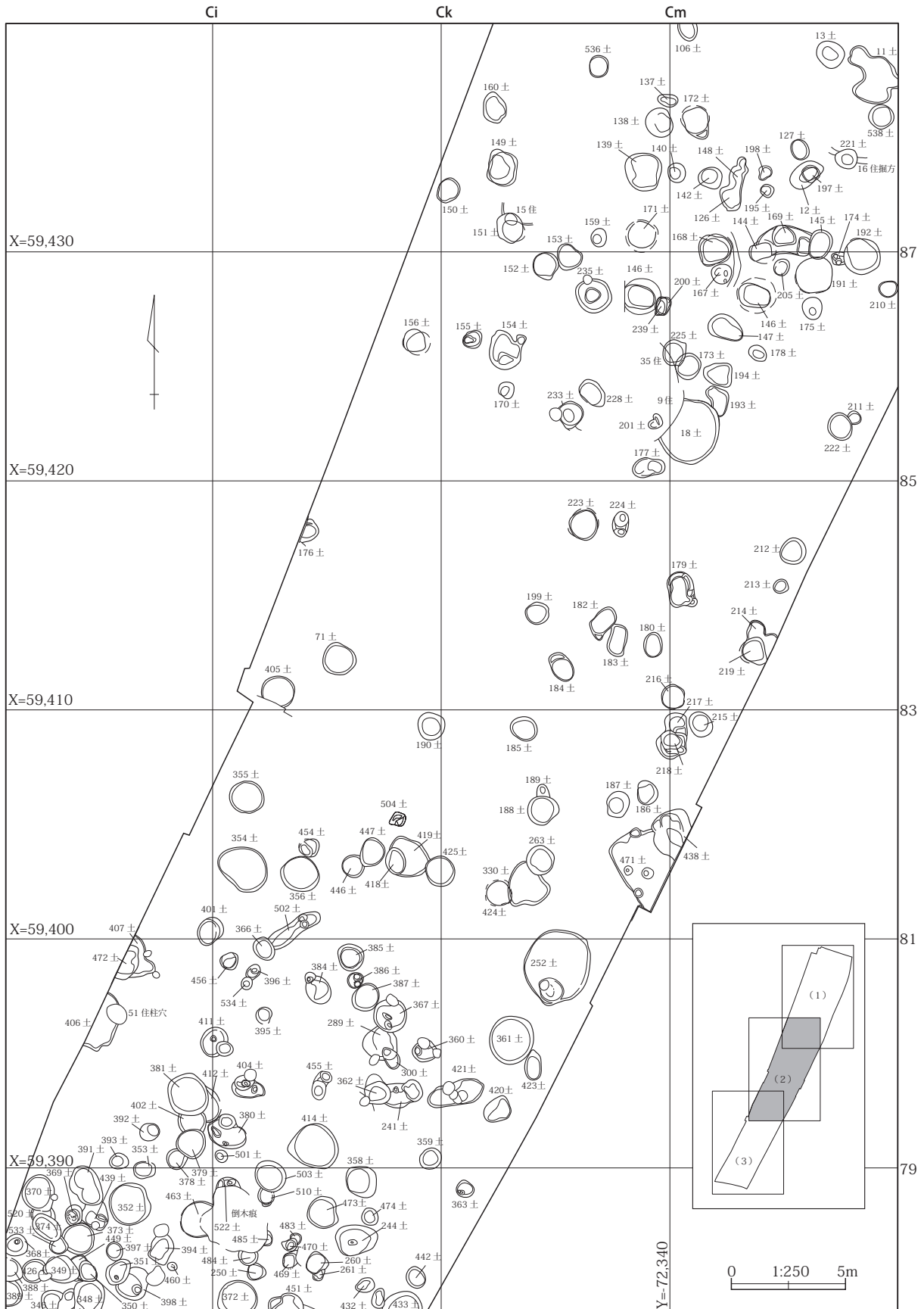
601号土坑：調査区北4号住居に接し検出した。長軸136cm、深さ46cmを測る隅丸の長方形土坑である。礫と共に中期の大型浅鉢が出土。

602号土坑：調査区北4号住居に接し検出した。長軸154cm、深さ70cmを測る隅丸の長方形形状の土坑である。礫と共に中期の深鉢底部が出土。

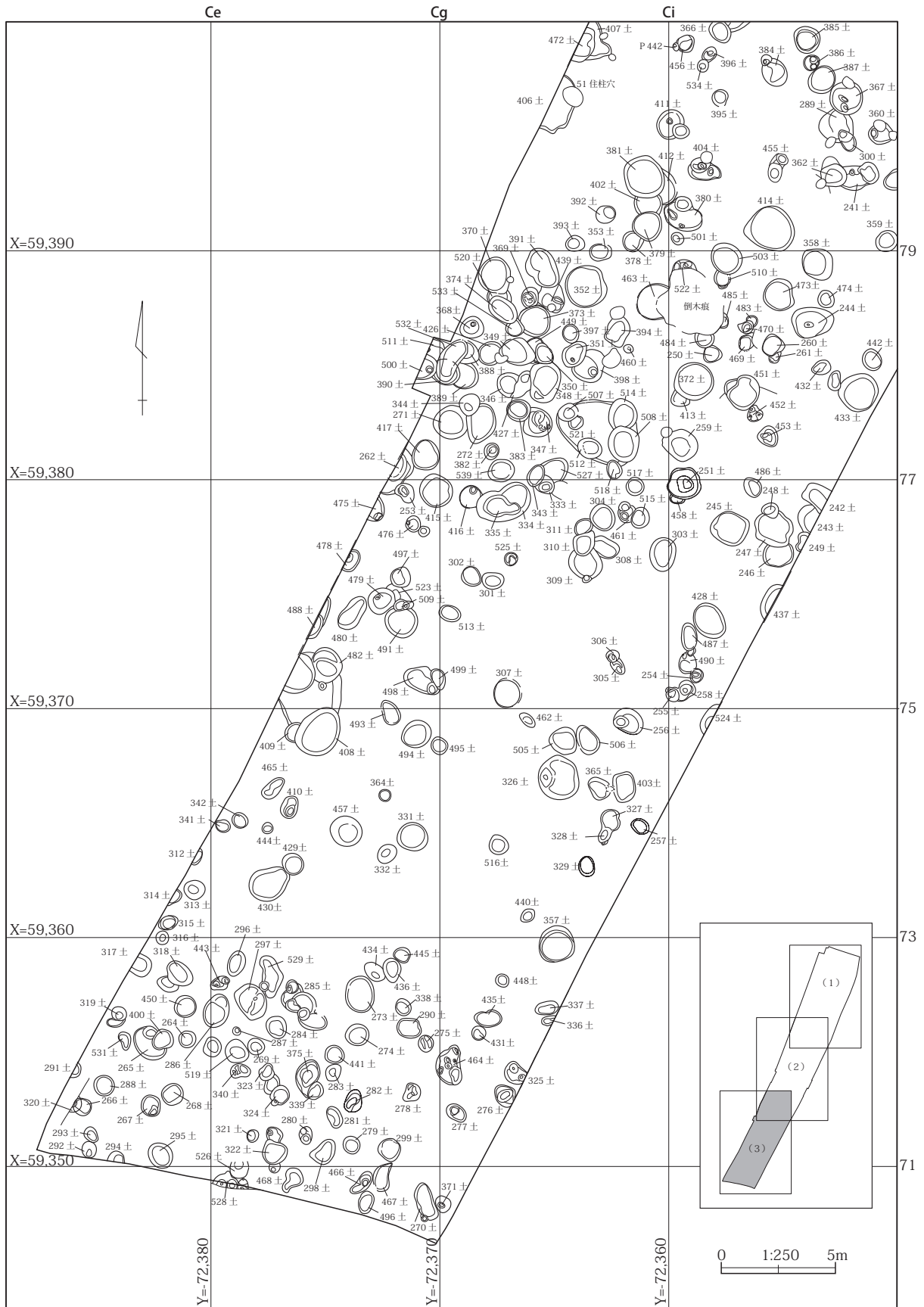


第145図 11区土坑配置図(1)

第5章 第4面の検出遺構

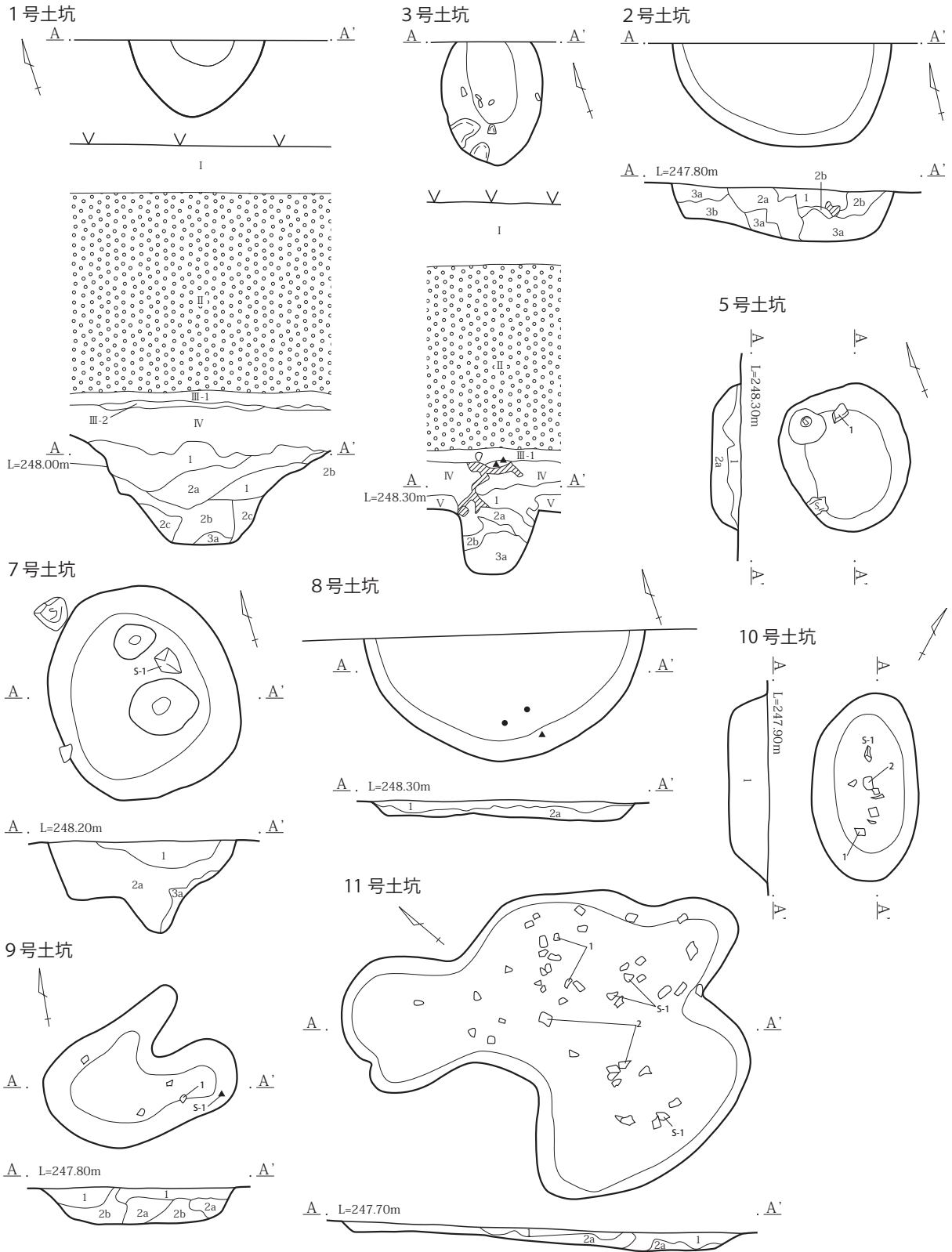


第146図 11区土坑配置図(2)



第147図 11区土坑配置図(3)

第5章 第4面の検出遺構



1～3・5・7～11号土坑

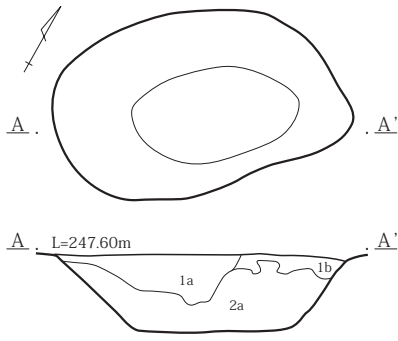
- 1. 黒褐色土 IV層土主体。やや淡色。
- 2a. 暗褐色土 φ1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。

- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 3aにローム小ブロック混じり。

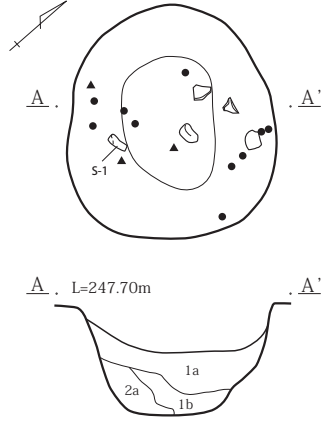
0 1:40 1m

第148図 11区土坑(1)

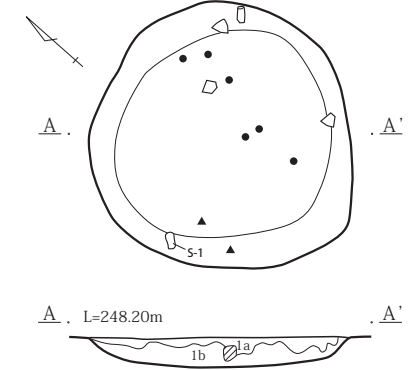
12号土坑



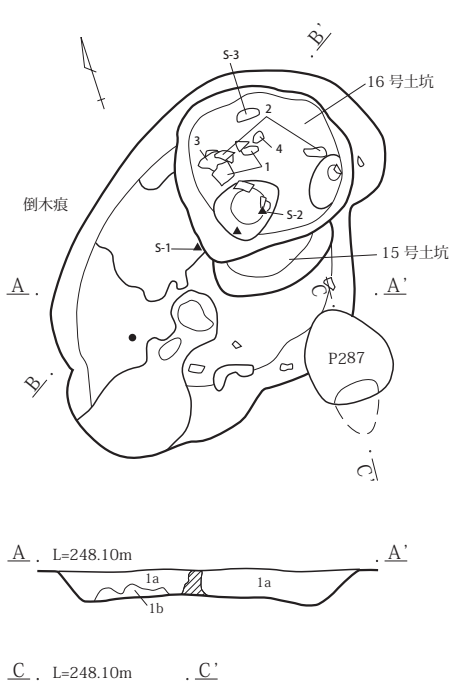
13号土坑



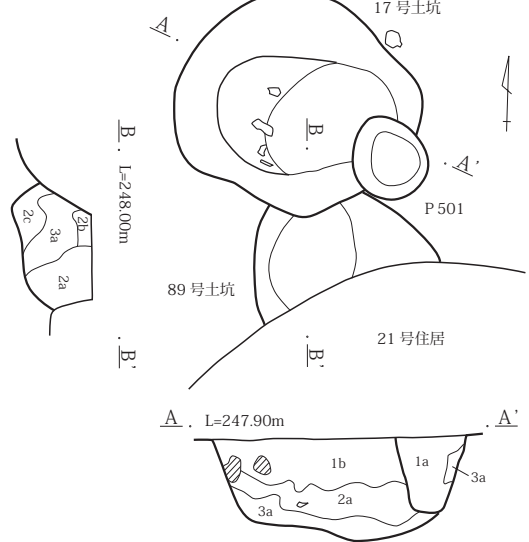
14号土坑



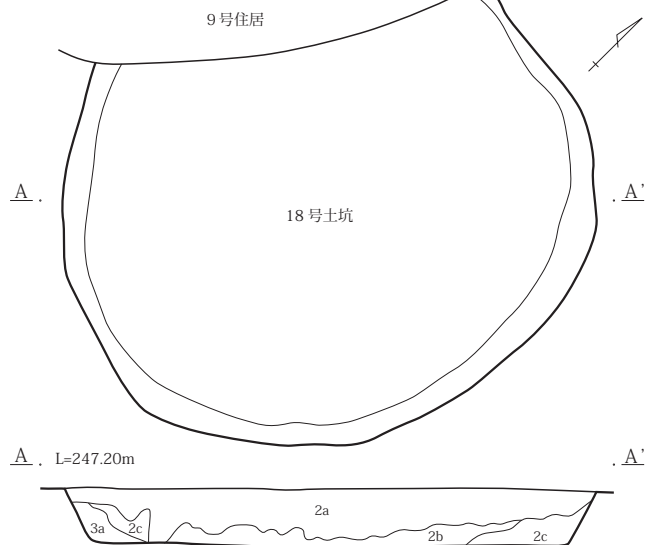
15・16号土坑



17・89号土坑



18号土坑



12~18・89号土坑

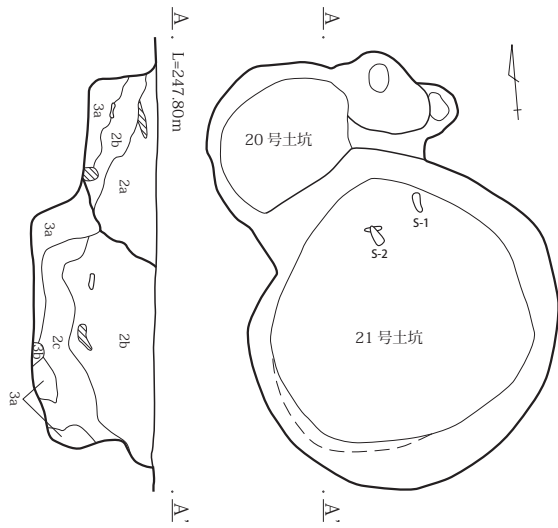
- 1a. 黒褐色土 IV層土主体。やや淡色。
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。

0 1:40 1m

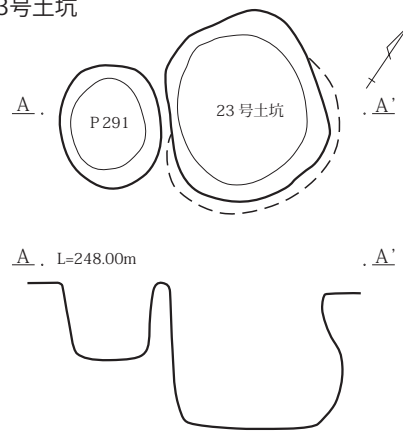
第149図 11区土坑 (2)

第5章 第4面の検出遺構

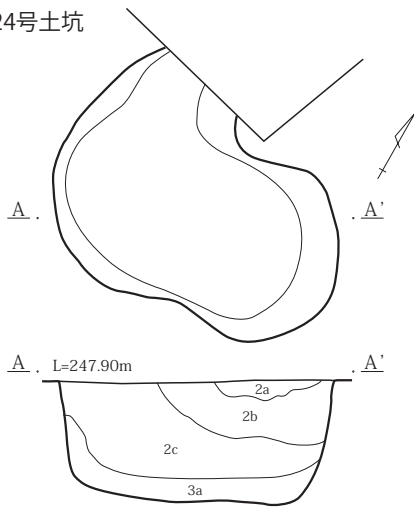
20・21号土坑



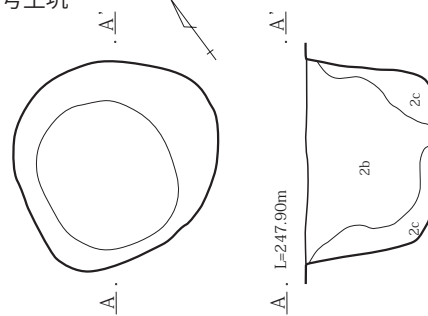
23号土坑



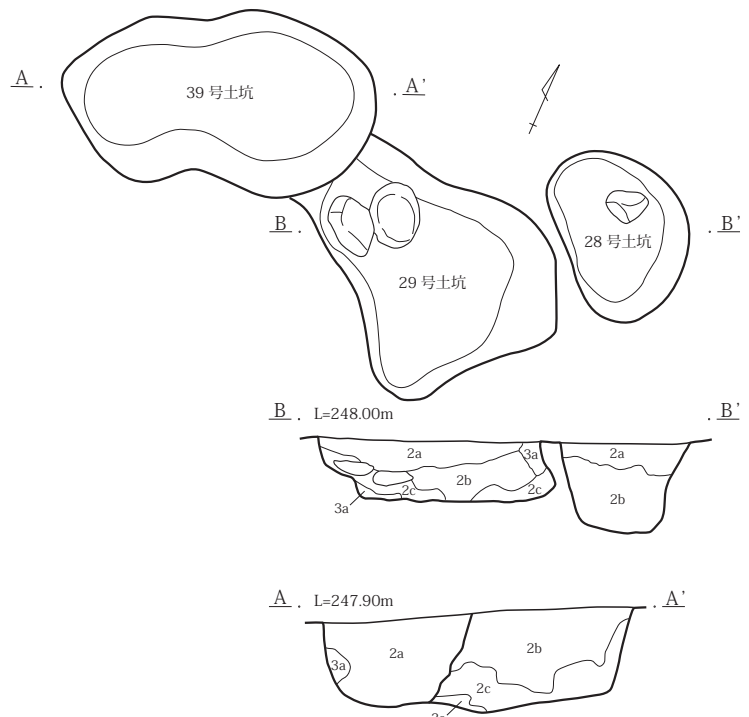
24号土坑



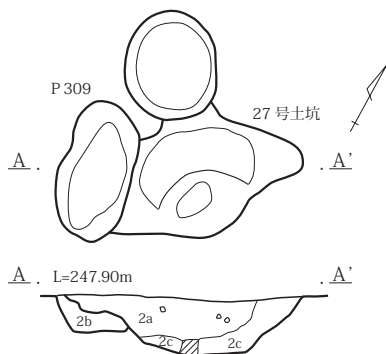
26号土坑



28・29・39号土坑



27号土坑



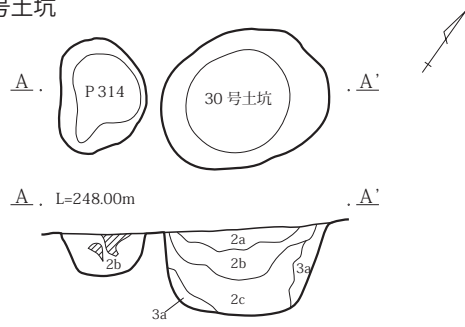
20・21・23・24・26～29・39号土坑

- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 3aにローム小ブロック混じり。

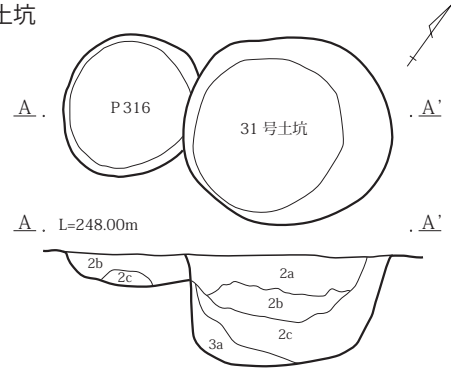
0 1:40 1m

第150図 11区土坑 (3)

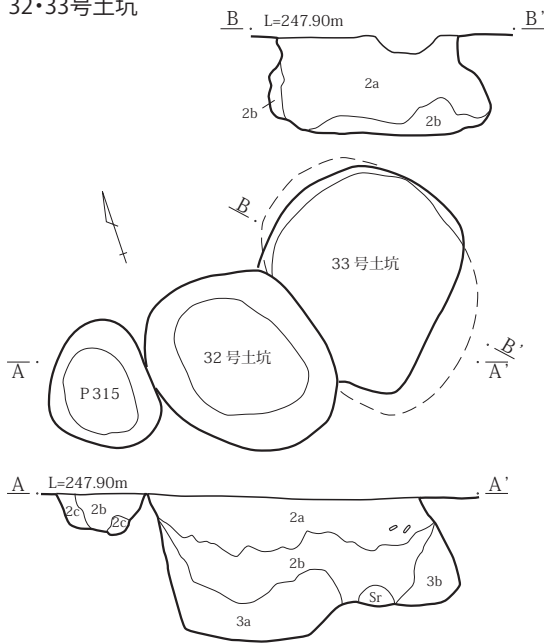
30号土坑



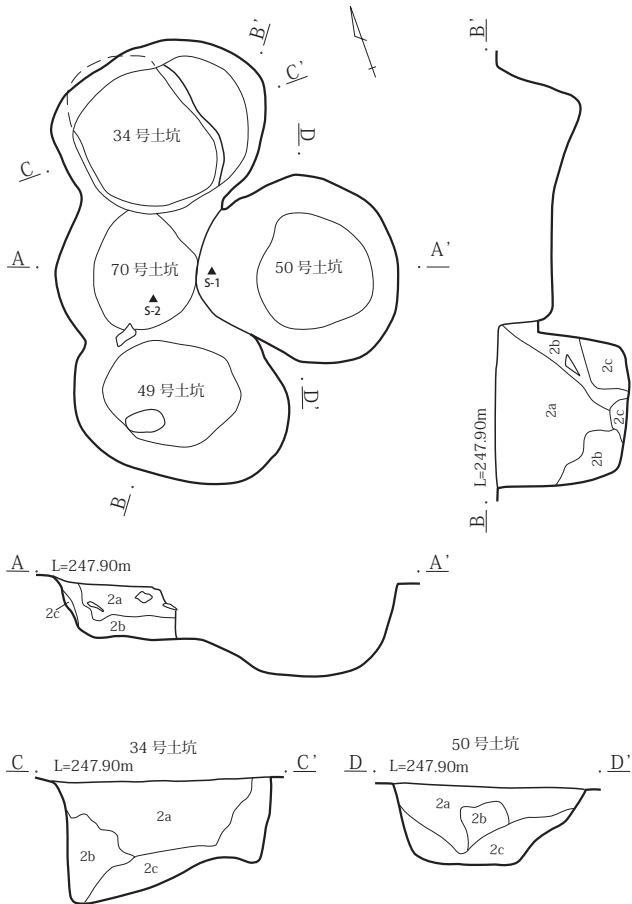
31号土坑



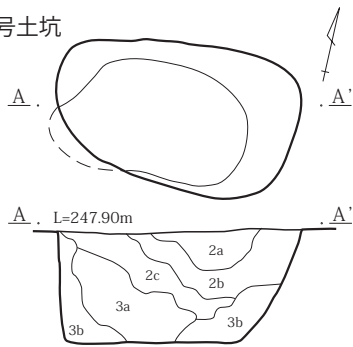
32・33号土坑



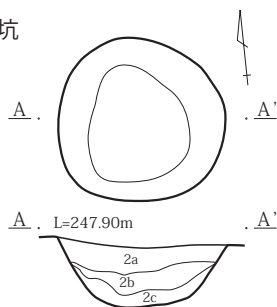
34・49・50・70号土坑



35号土坑



36号土坑



30～36・49・50・70号土坑

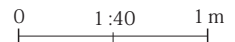
2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。

2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。

2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。

3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。

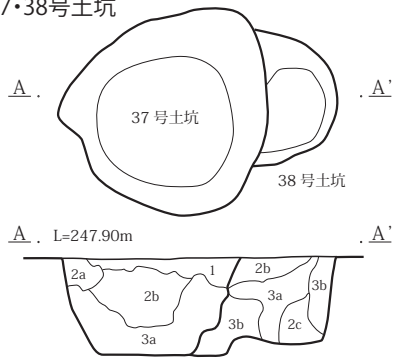
3b. くすんだ褐色土 3aにローム小ブロック混じり。



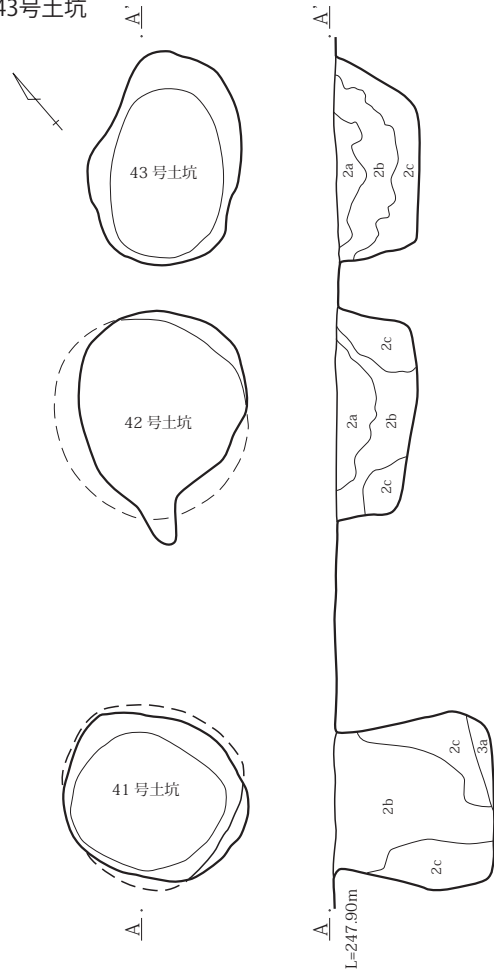
第151図 11区土坑 (4)

第5章 第4面の検出遺構

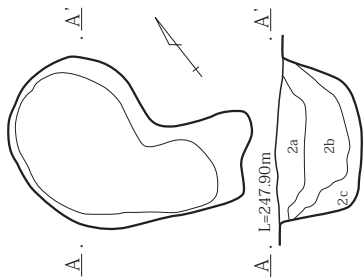
37・38号土坑



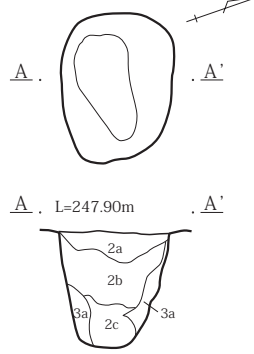
41~43号土坑



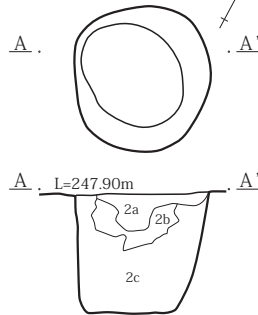
40号土坑



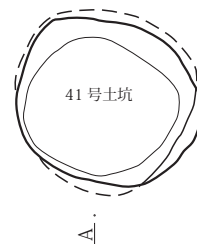
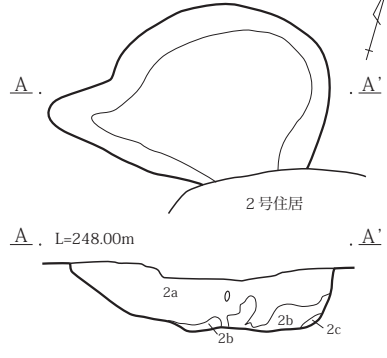
44号土坑



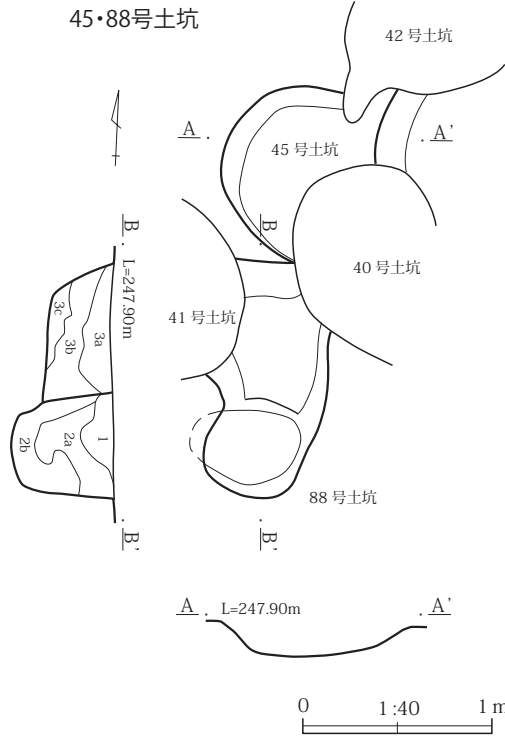
46号土坑



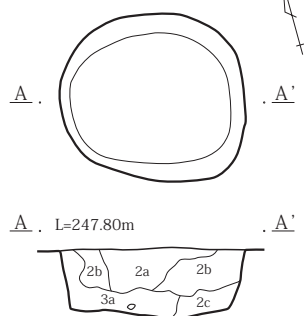
48号土坑



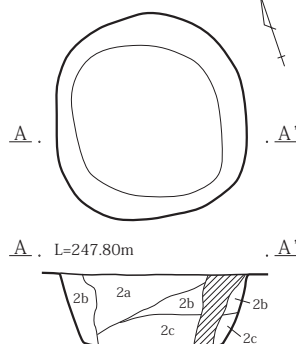
45・88号土坑



52号土坑



53号土坑



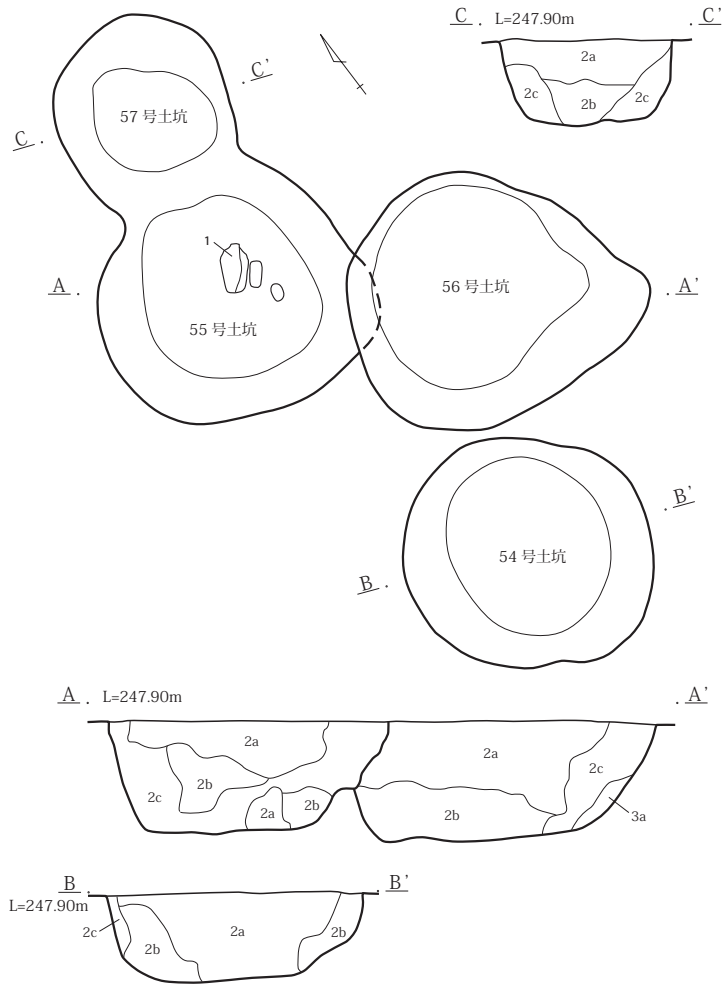
37・38・40~46・48・52・53・88号土坑

- 1. 黒褐色土 IV層主体。やや淡色。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混入土。
- 3c. 2層にロームブロック混入土。一括埋土。

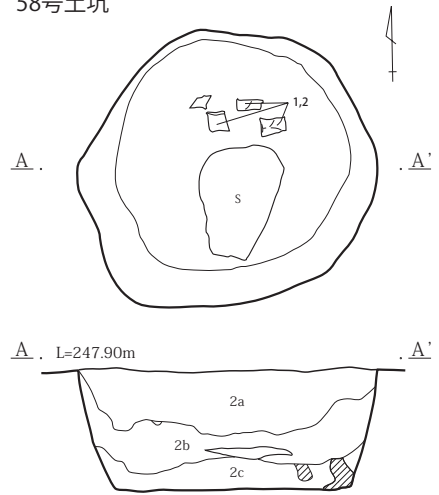
第152図 11区土坑 (5)

0 1:40 1m

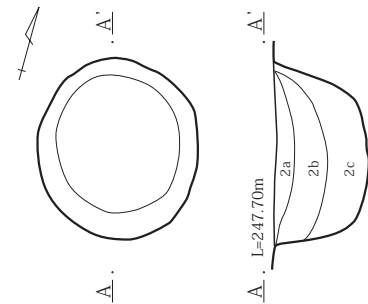
54～57号土坑



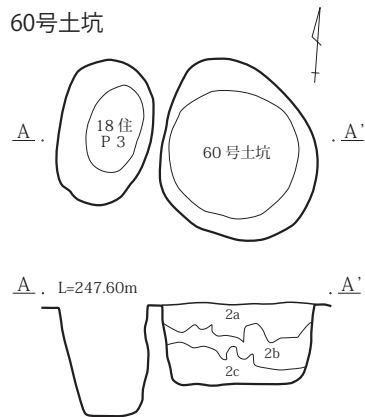
58号土坑



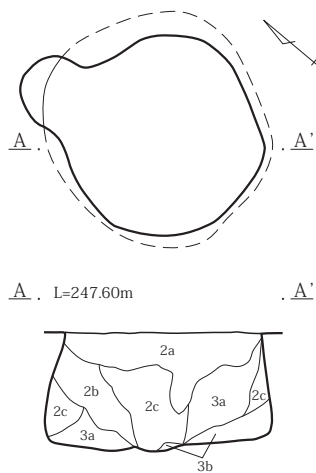
59号土坑



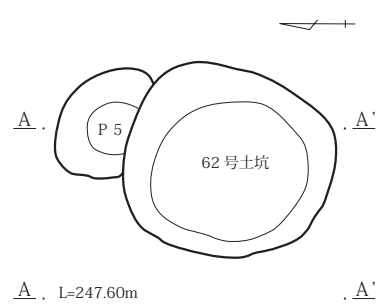
60号土坑



61号土坑

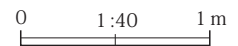


62号土坑



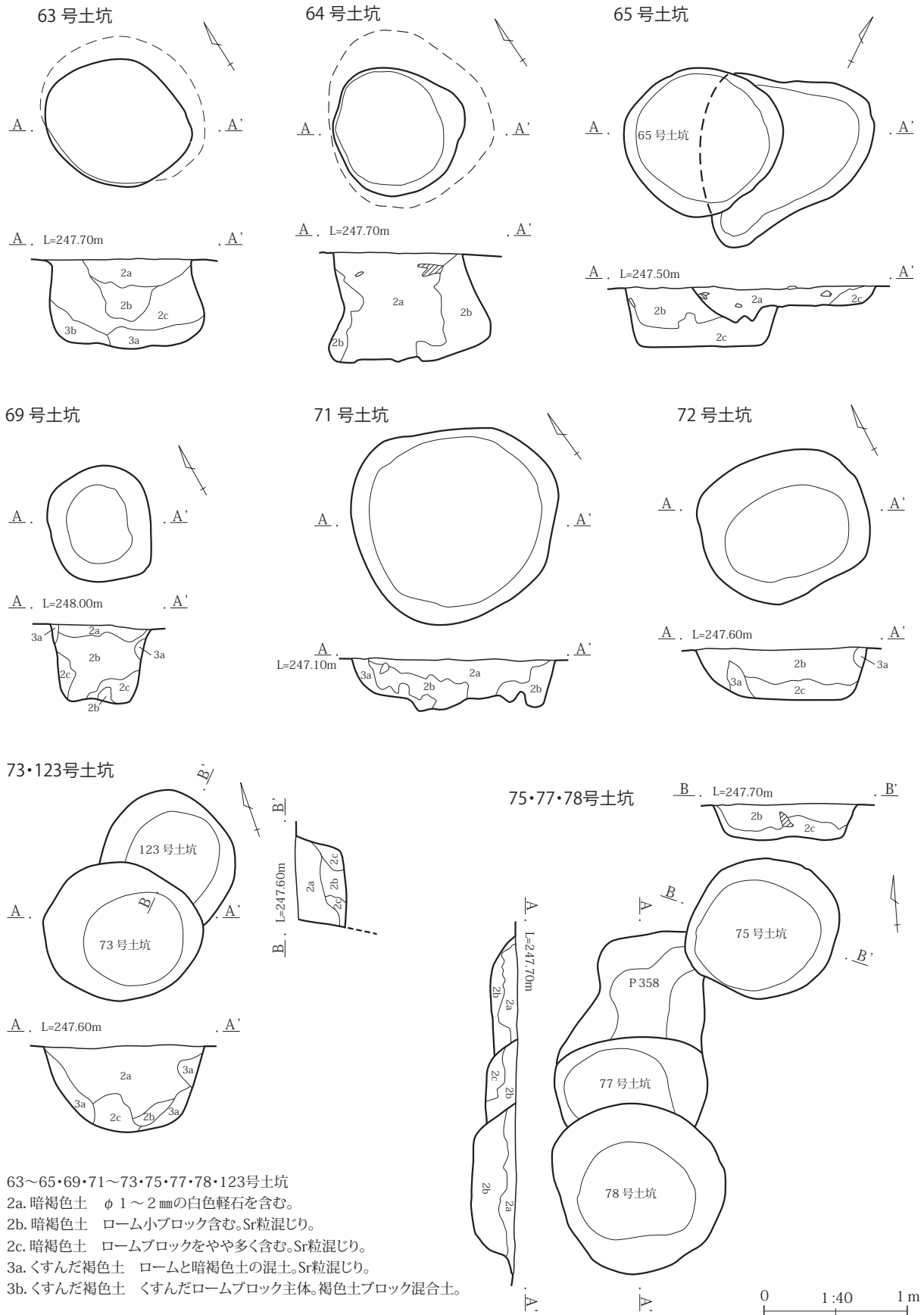
54～62号土坑

- 2a. 暗褐色土 φ 1～2 mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

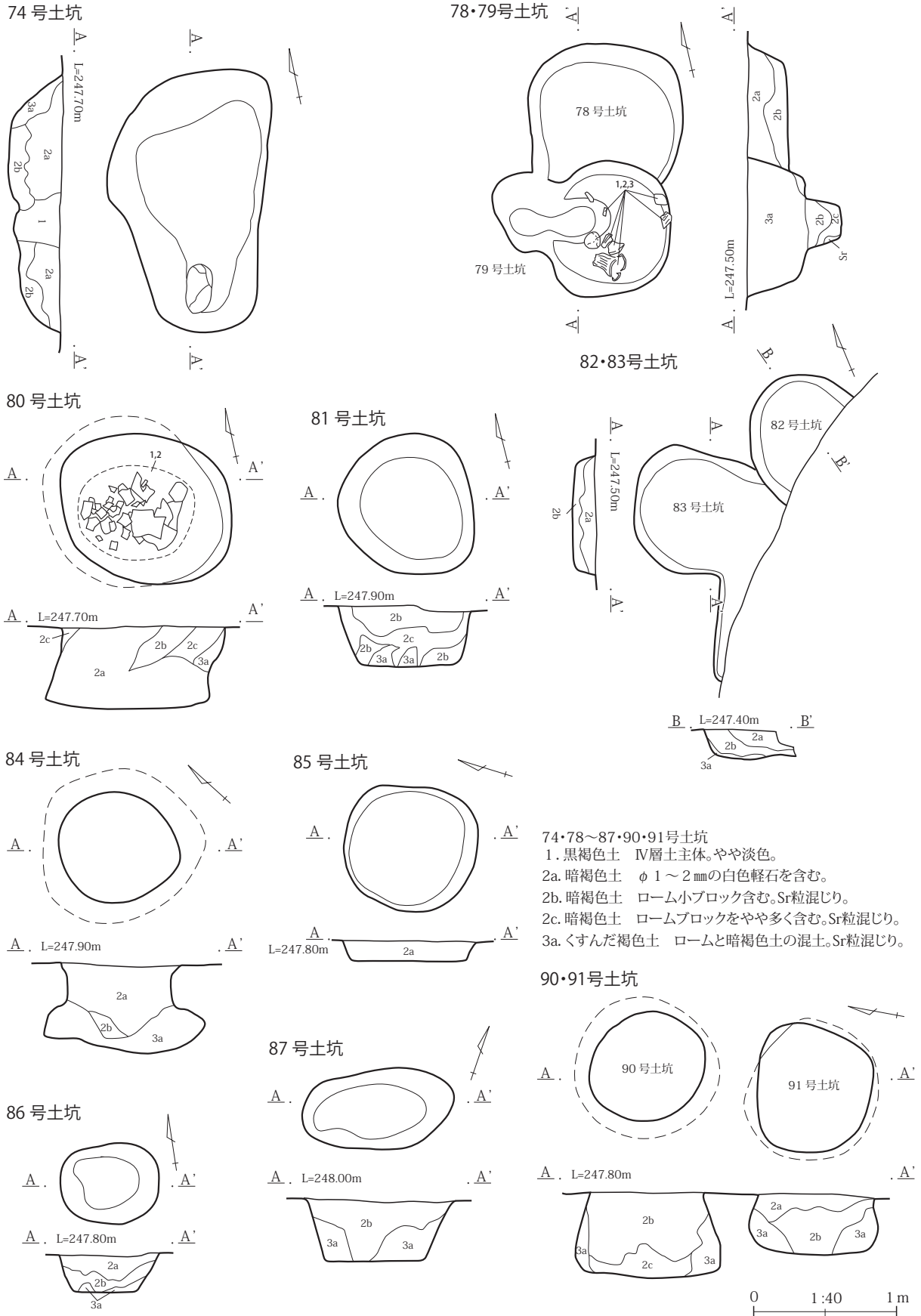


第153図 11区土坑 (6)

第5章 第4面の検出遺構

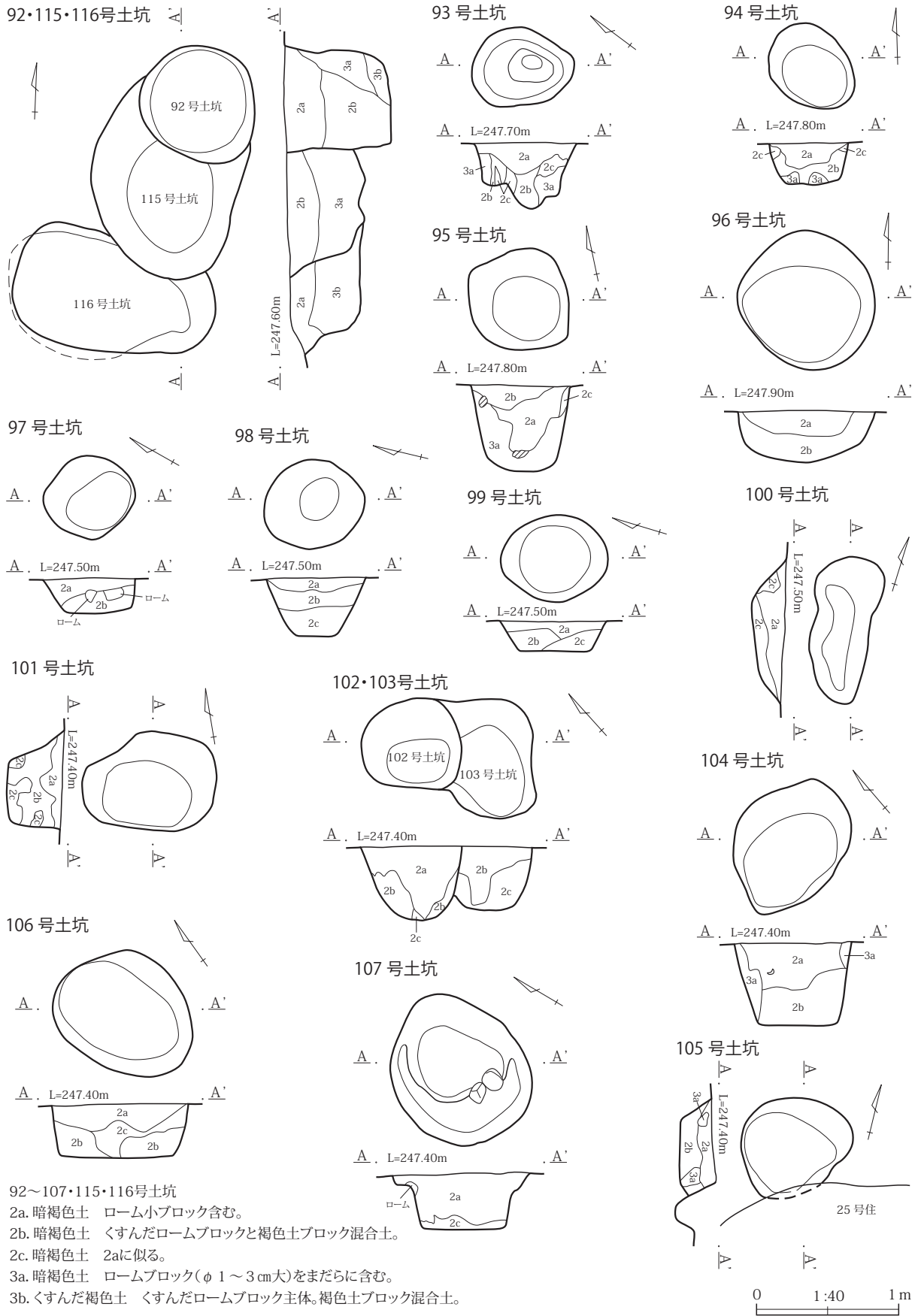


第154図 11区土坑 (7)

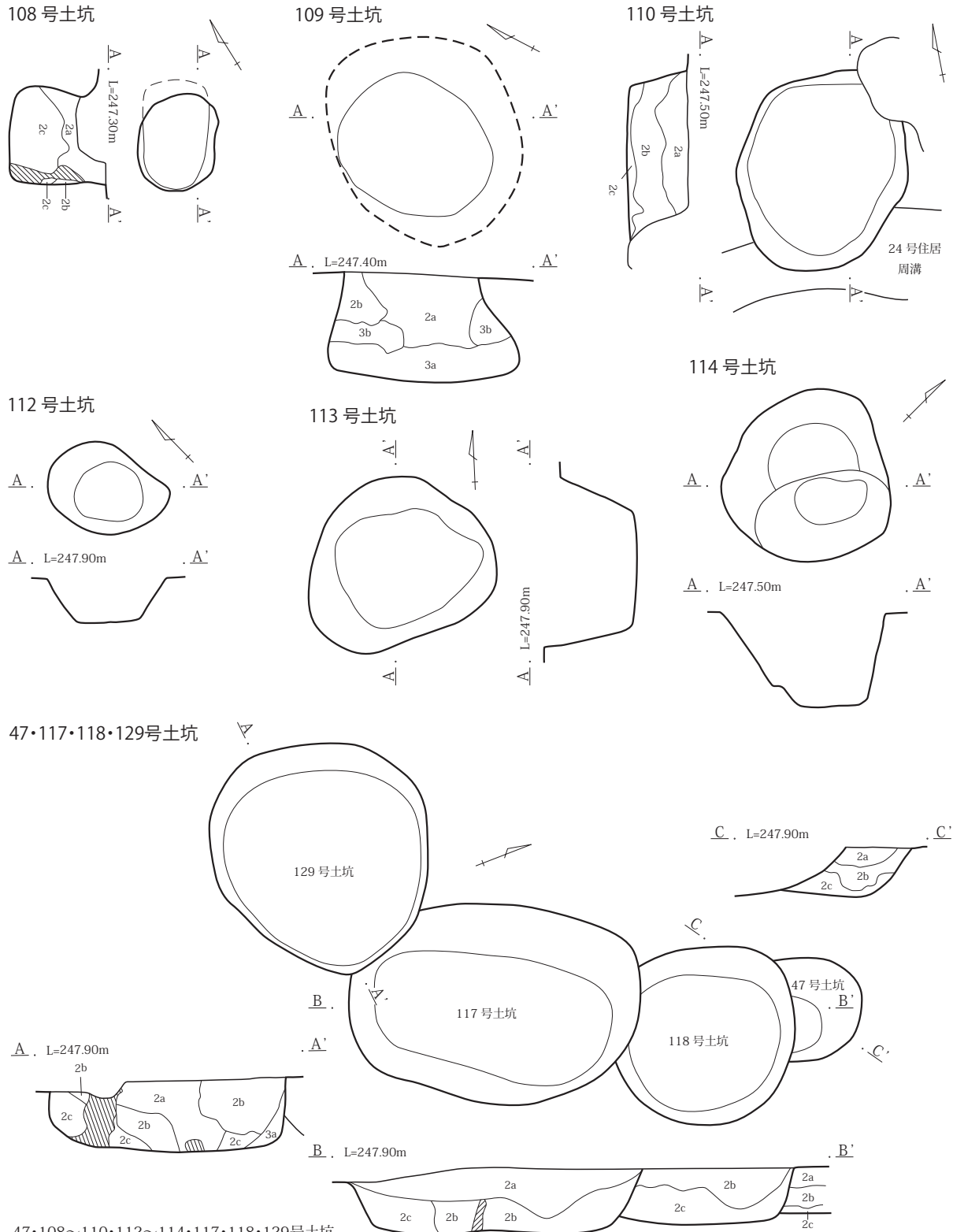


第155図 11区土坑 (8)

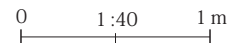
第5章 第4面の検出遺構



第156図 11区土坑(9)



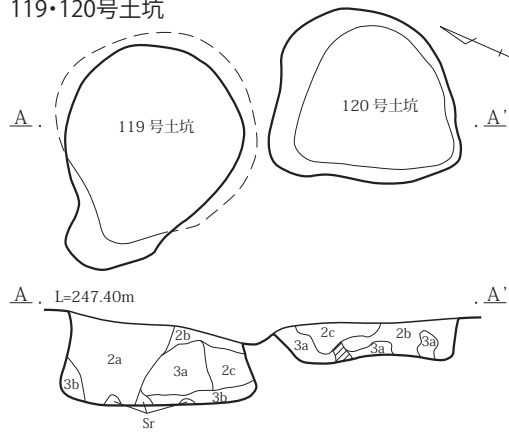
- 47・108～110・112～114・117・118・129号土坑
- 2a. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
 - 2b. 暗褐色土 くすんだロームブロックと褐色土ブロック混合土。
 - 2c. 暗褐色土 2aに似る。
 - 3a. 暗褐色土 ロームブロック(φ 1～3 cm大)をまだらに含む。
 - 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。



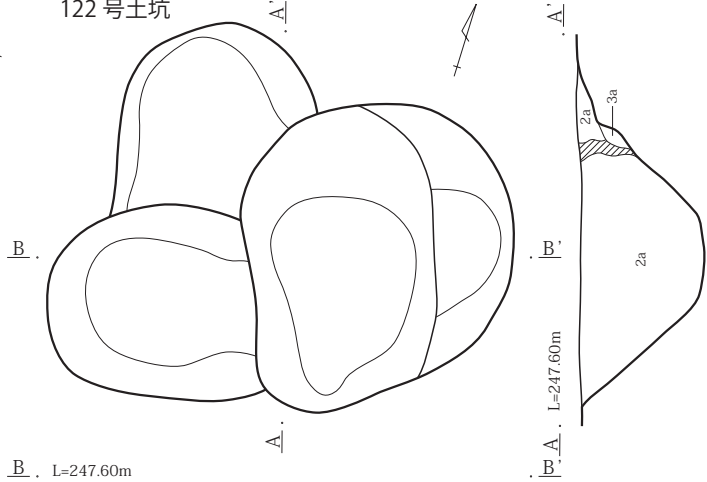
第157図 11区土坑 (10)

第5章 第4面の検出遺構

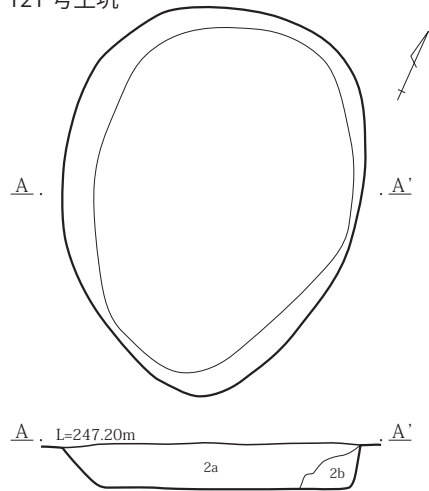
119・120号土坑



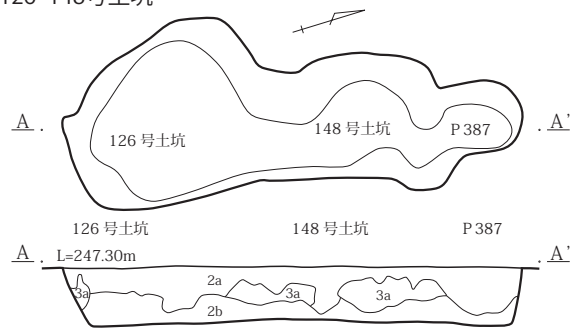
122号土坑



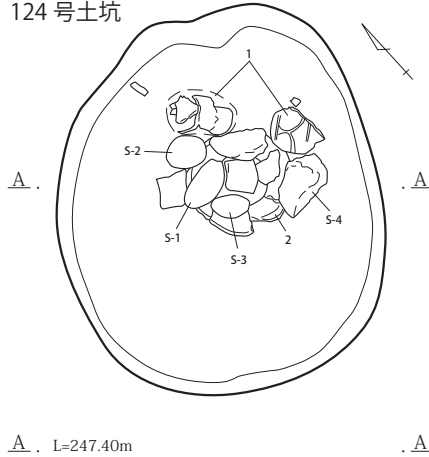
121号土坑



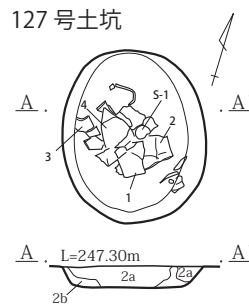
126・148号土坑



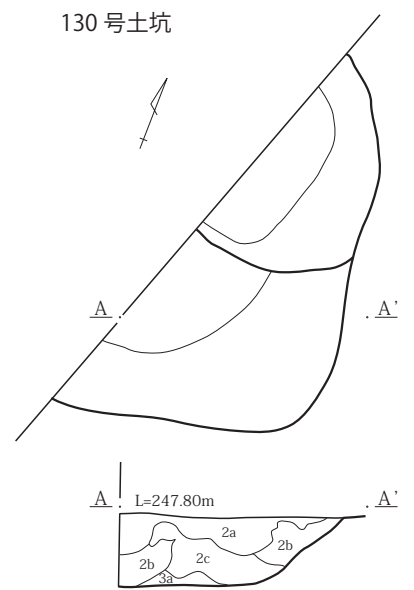
124号土坑



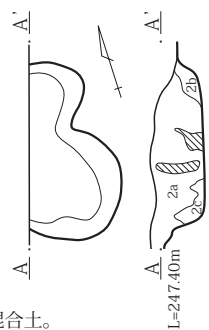
127号土坑



130号土坑



128号土坑



119～122・124・126～128・130・148号土坑

2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。

2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。

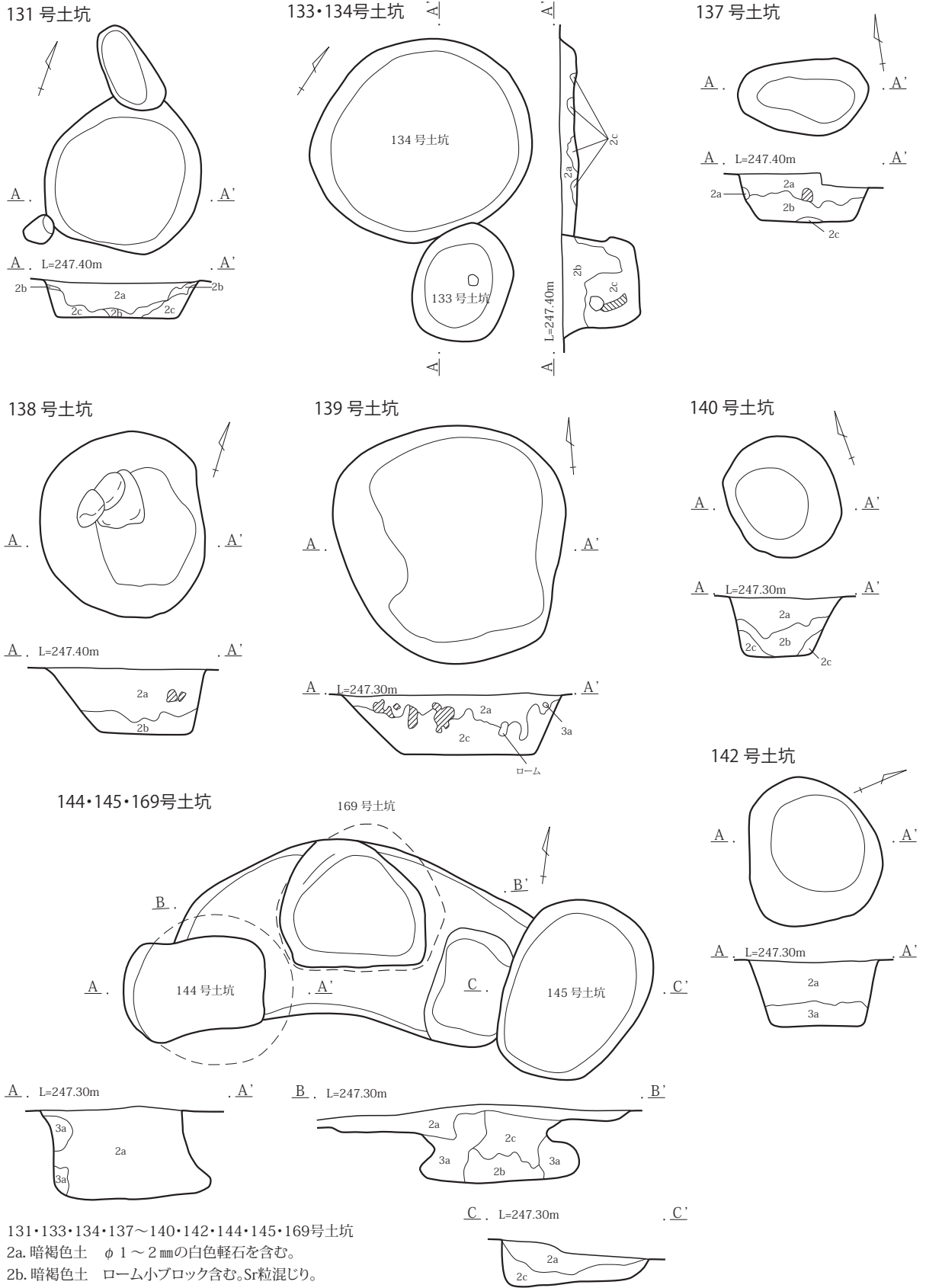
2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。

3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。

3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

第158図 11区土坑 (11)

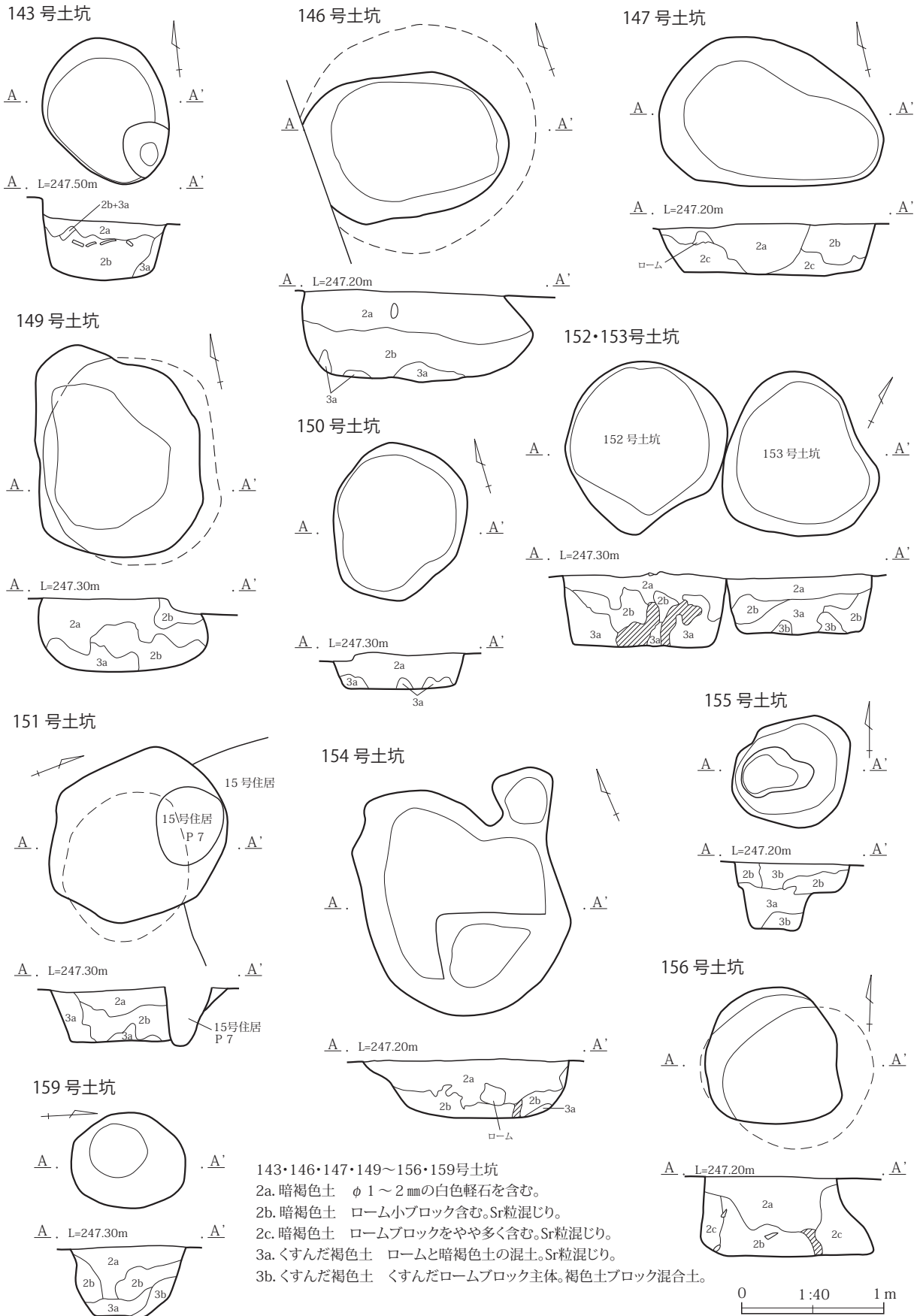
0 1:40 1m



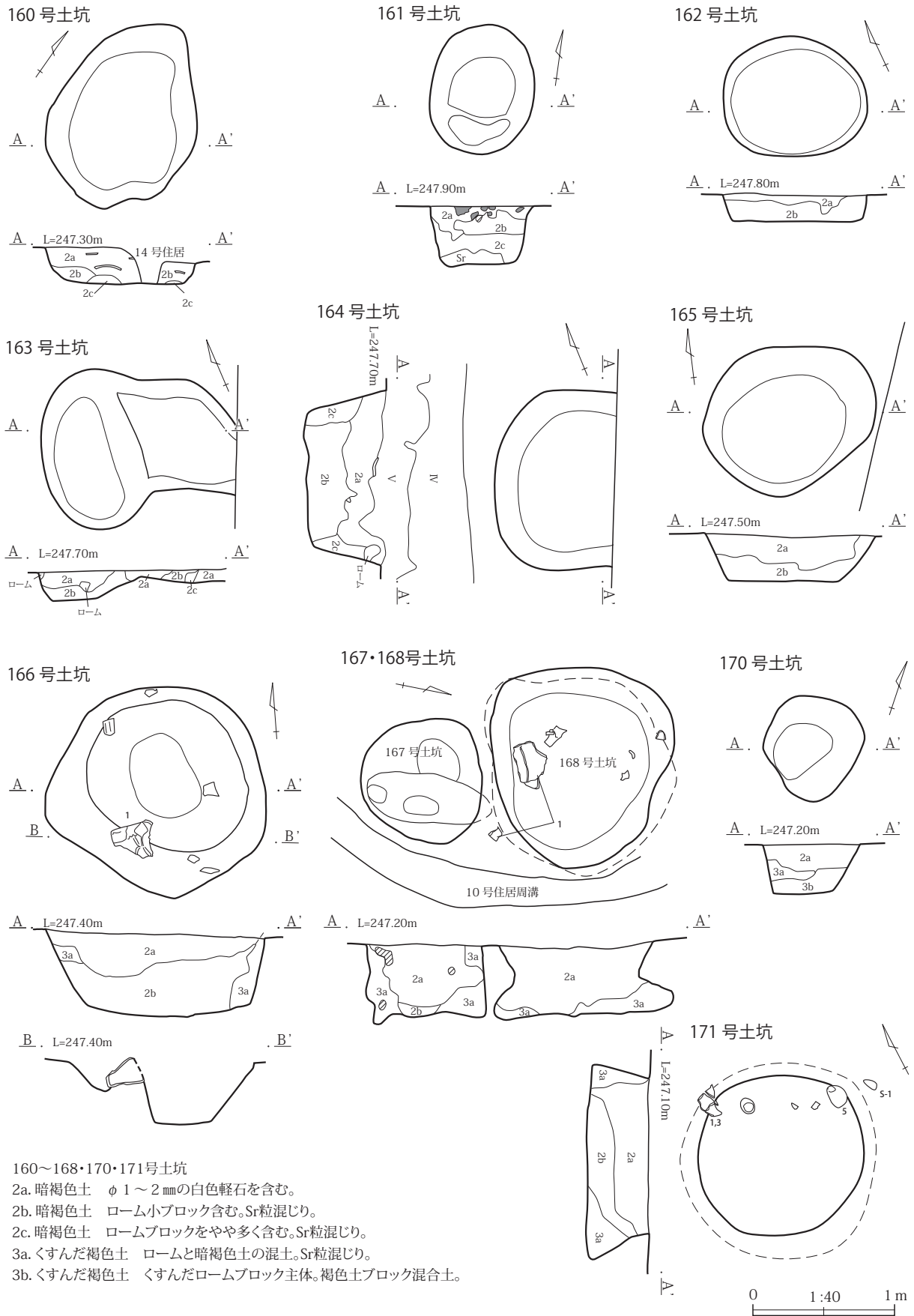
131・133・134・137~140・142・144・145・169号土坑
 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。

0 1:40 1m

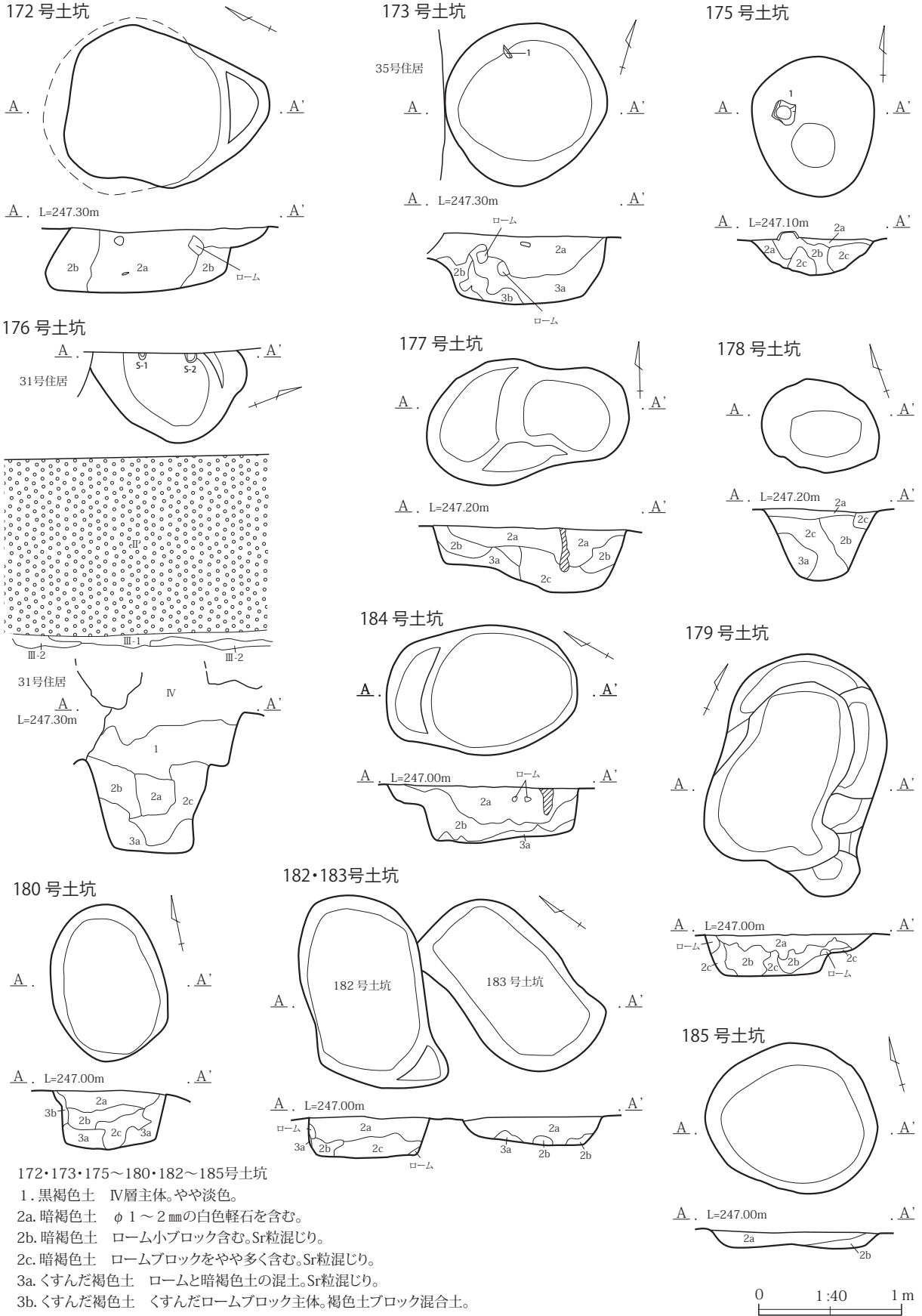
第159図 11区土坑 (12)



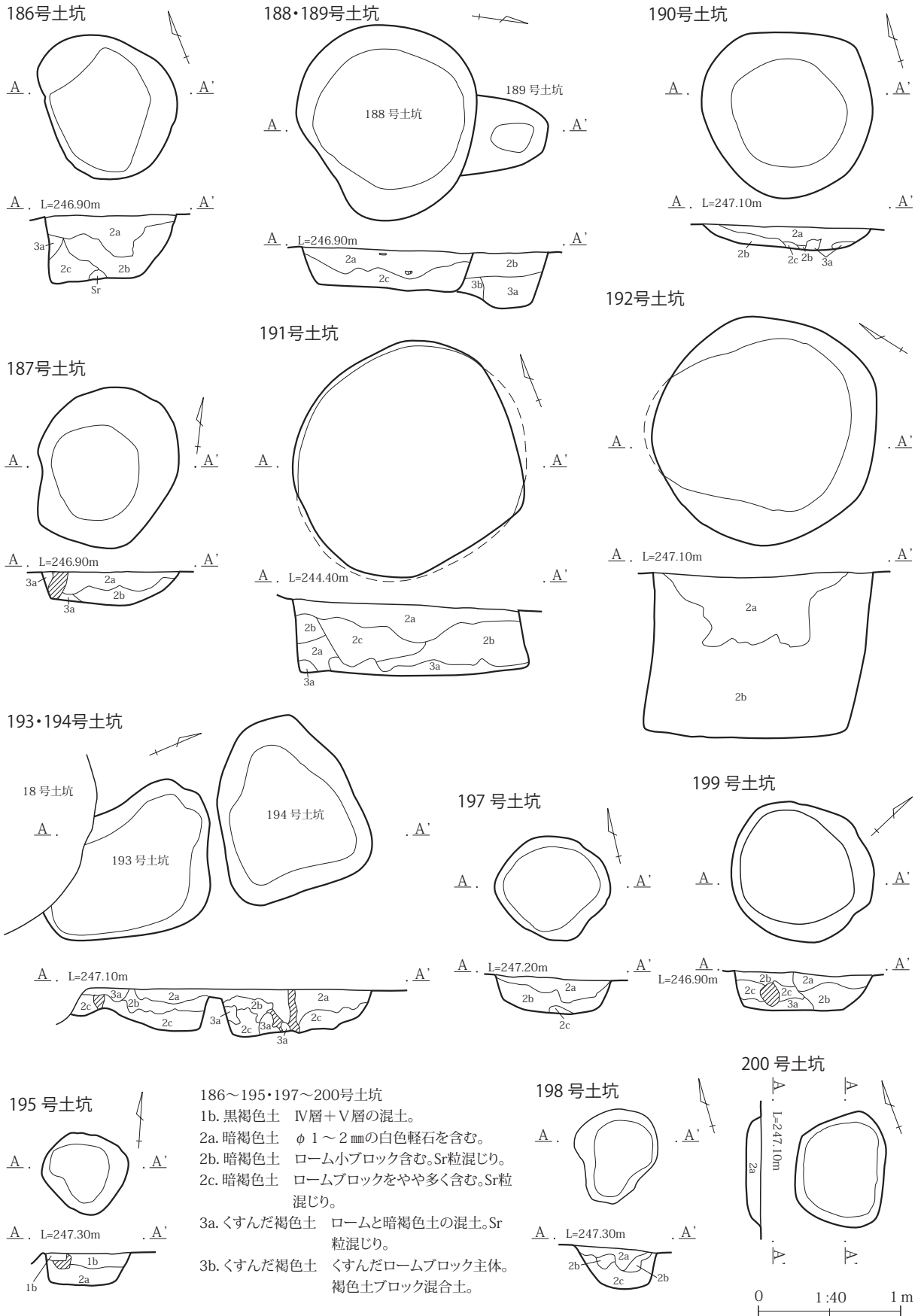
第160図 11区土坑 (13)



第161図 11区土坑 (14)

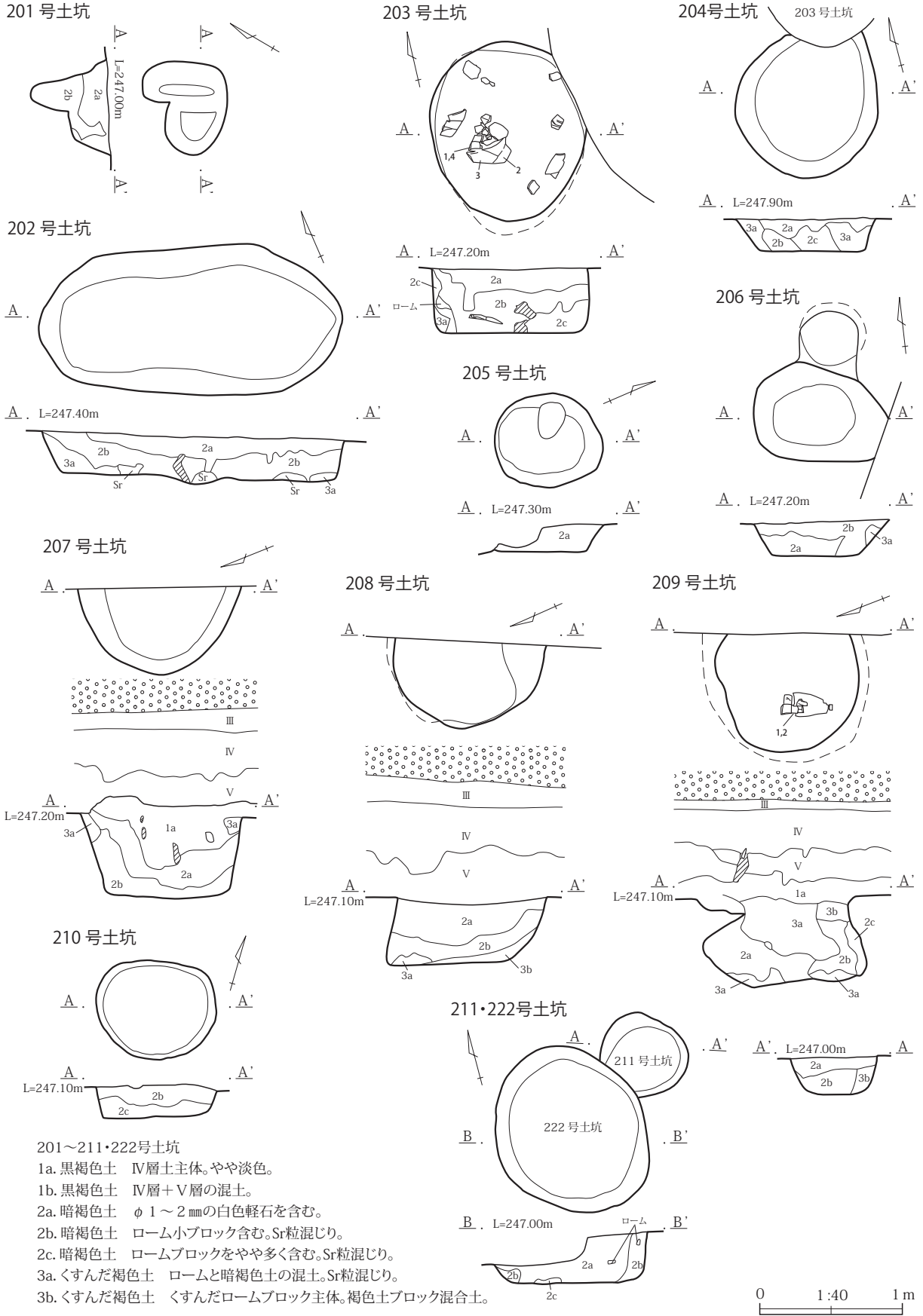


第162図 11区土坑 (15)

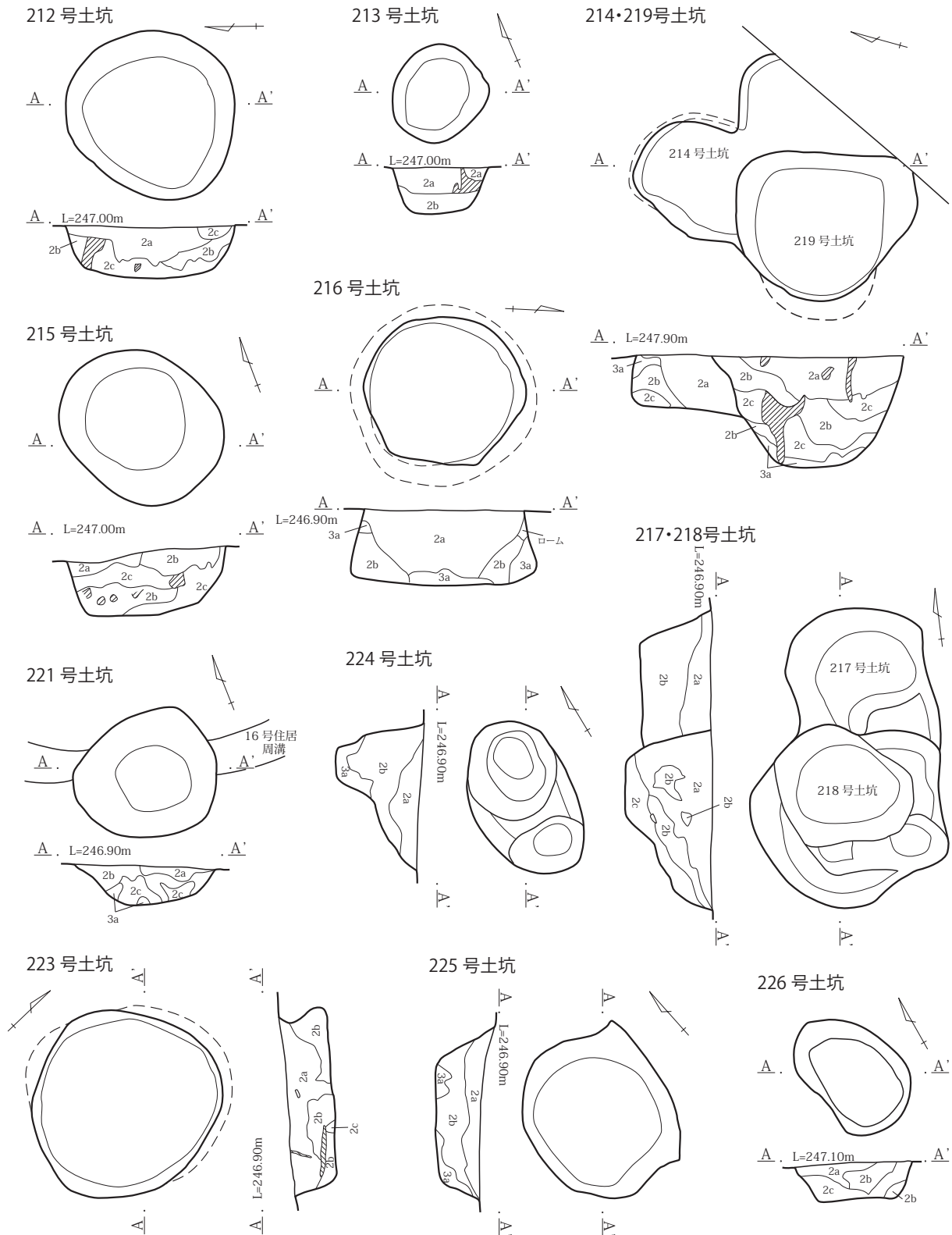


第163図 11区土坑 (16)

第5章 第4面の検出遺構

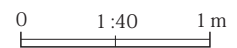


第164図 11区土坑 (17)

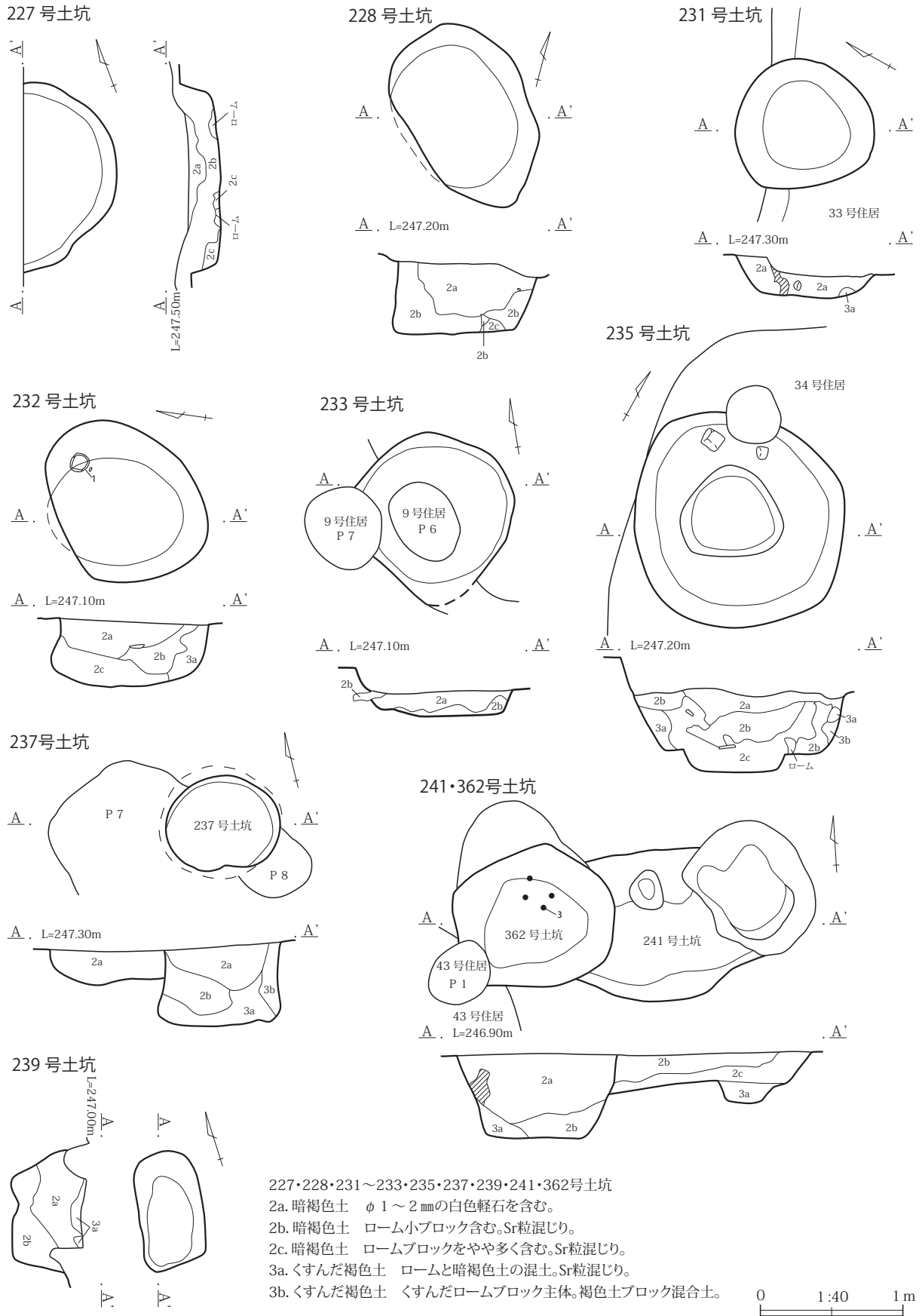


212~219・221・223~226号土坑
 2a. 暗褐色土 φ1~2mmの白色軽石を含む。
 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。

2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

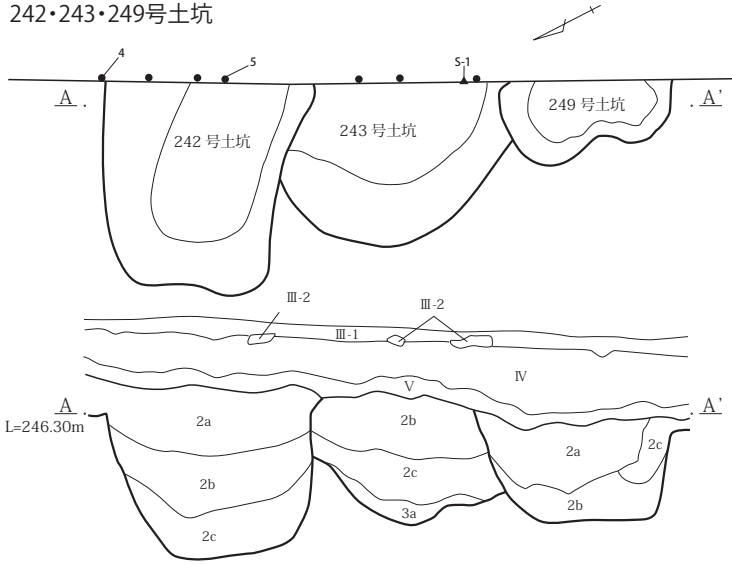


第165図 11区土坑 (18)

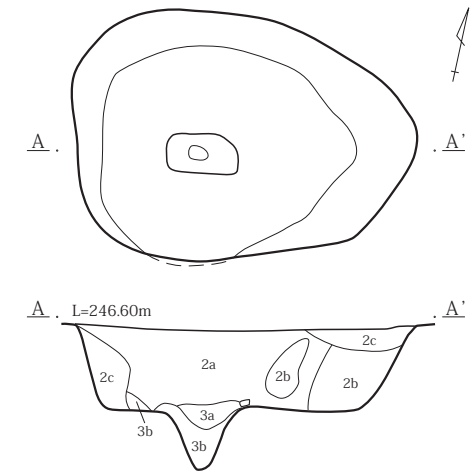


第166図 11区土坑 (19)

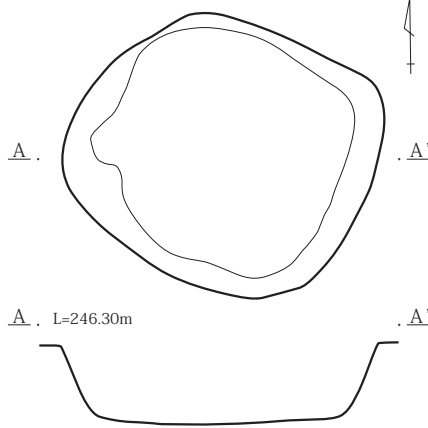
242・243・249号土坑



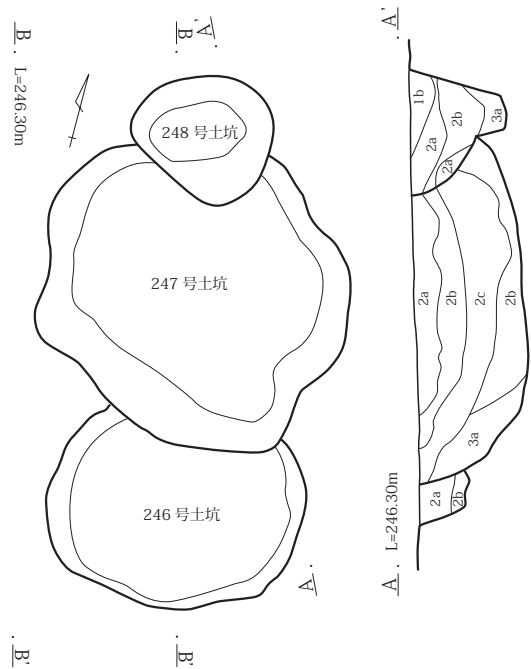
244号土坑



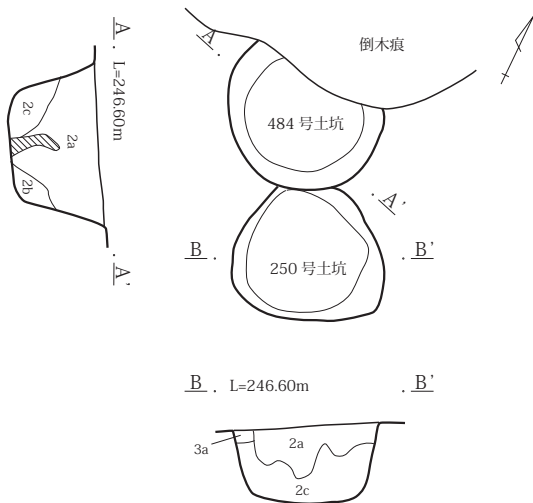
245号土坑



246～248号土坑

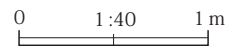


250・484号土坑



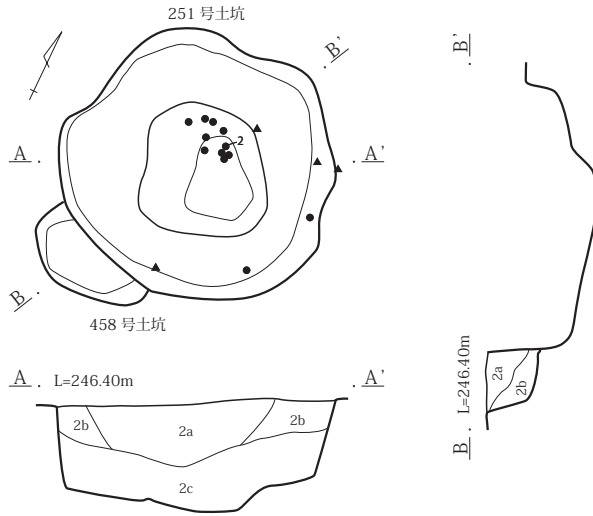
242～250・484号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

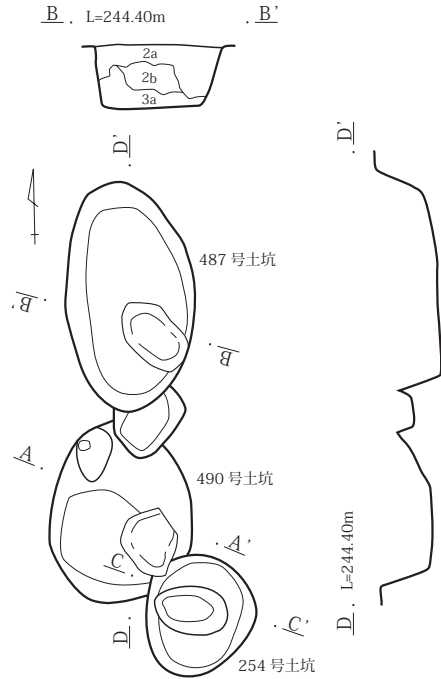


第167図 11区土坑 (20)

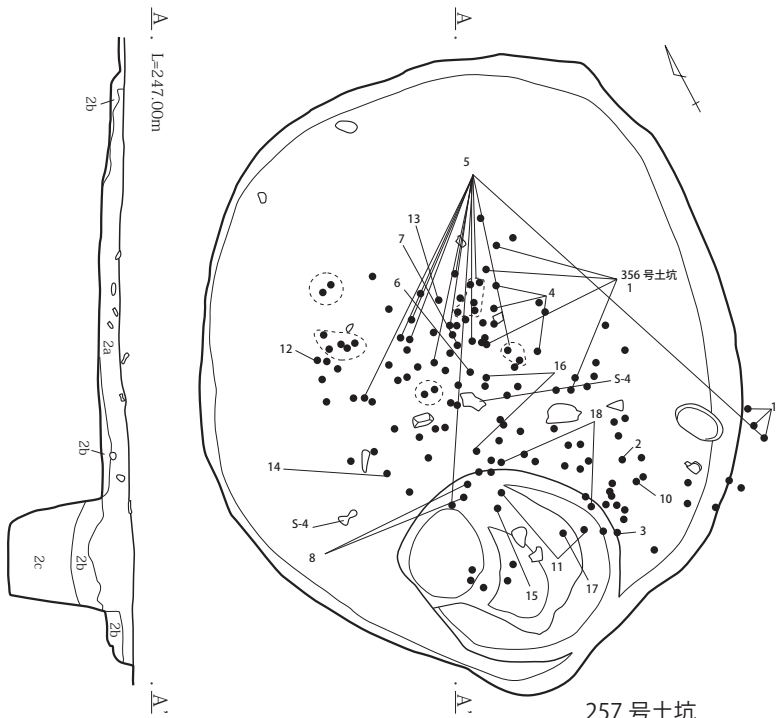
251・458号土坑



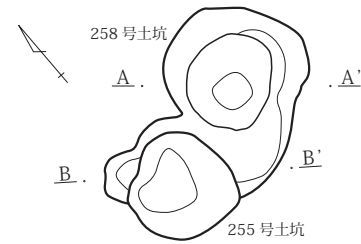
254・487・490号土坑



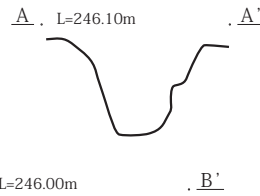
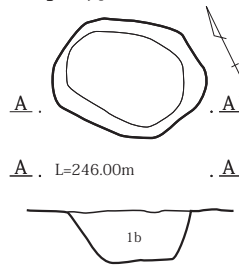
252号土坑



255・258号土坑

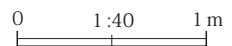


257号土坑



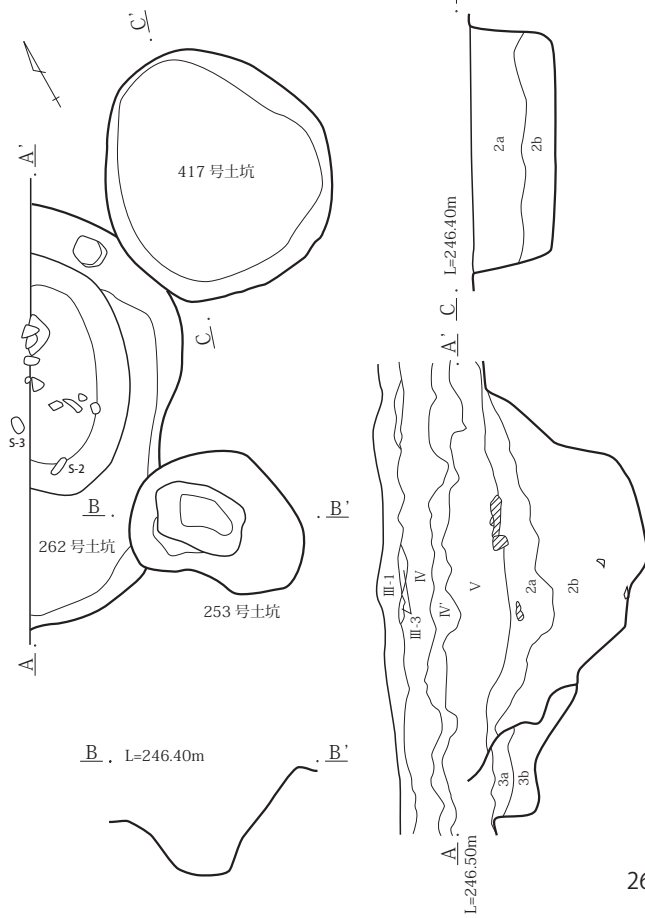
251・252・254・255・257・258・458・487・490号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1 ~ 2 mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。

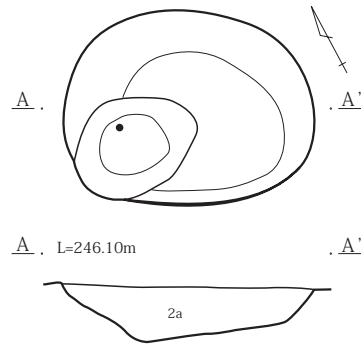


第168図 11区土坑 (21)

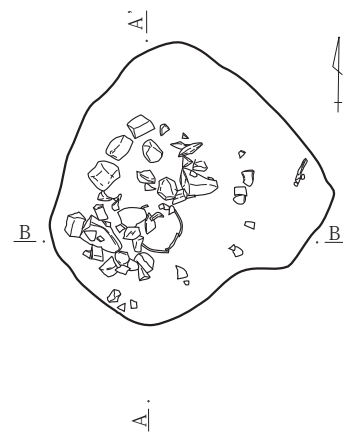
253・262・417号土坑



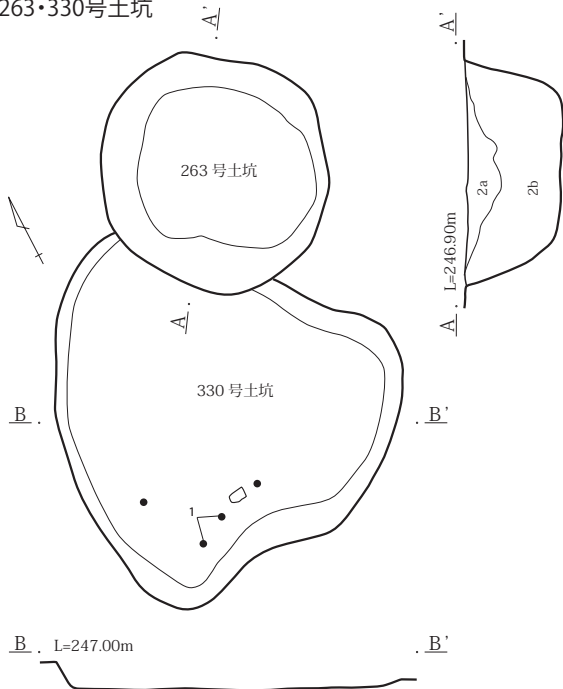
256号土坑



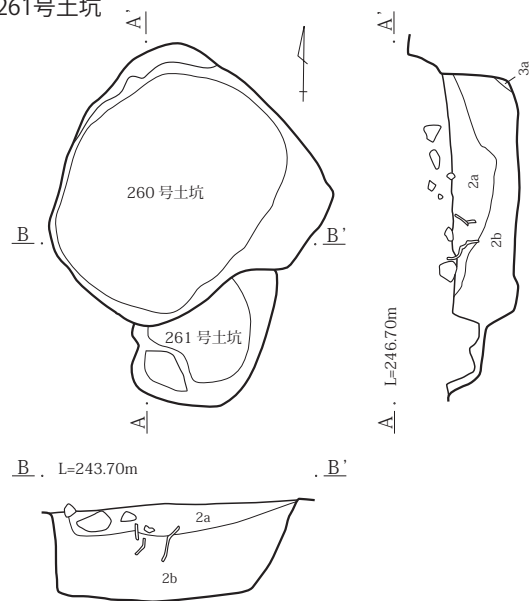
260号土坑上層礫出土状況(6号埋藏)



263・330号土坑

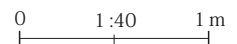


260・261号土坑



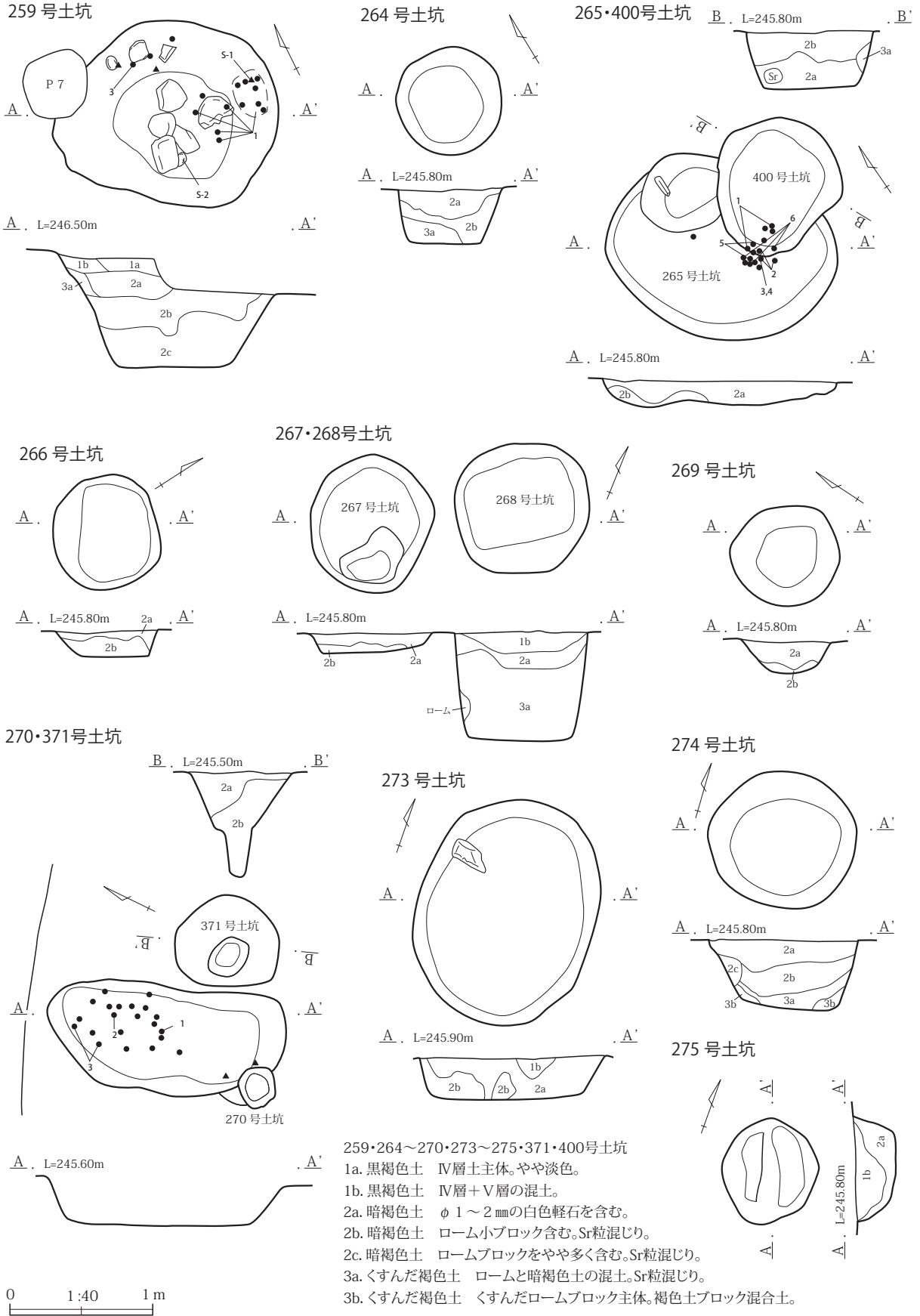
253・256・260～263・330・417号土坑

- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混入土。



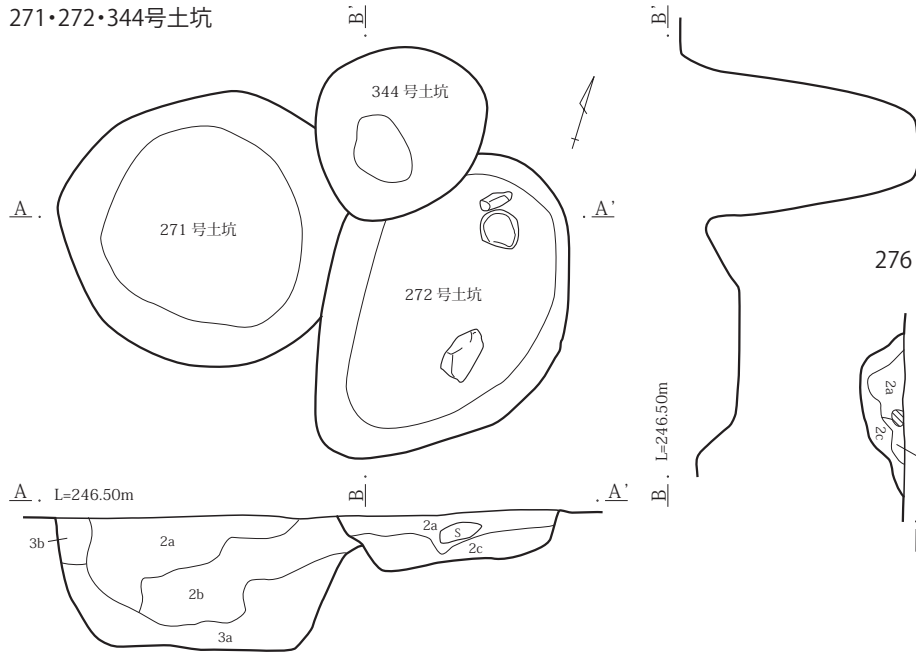
第169図 11区土坑 (22)

第5章 第4面の検出遺構

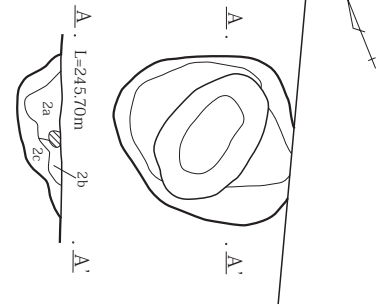


第170図 11区土坑 (23)

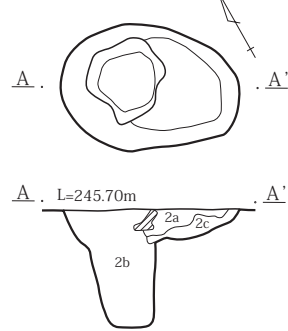
271・272・344号土坑



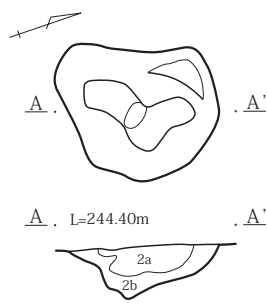
276号土坑



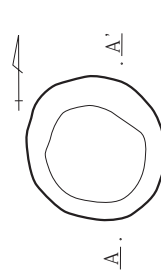
277号土坑



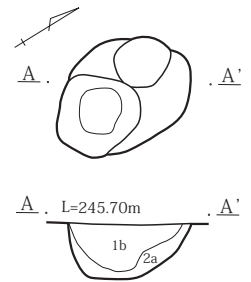
278号土坑



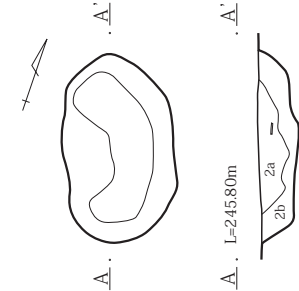
279号土坑



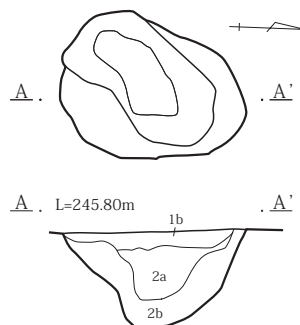
280号土坑



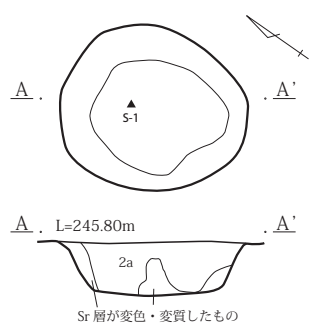
281号土坑



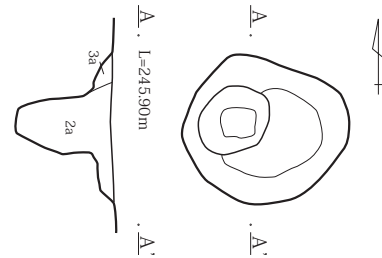
282号土坑



284号土坑

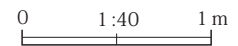


287号土坑



271・272・276～282・284・287・344号土坑

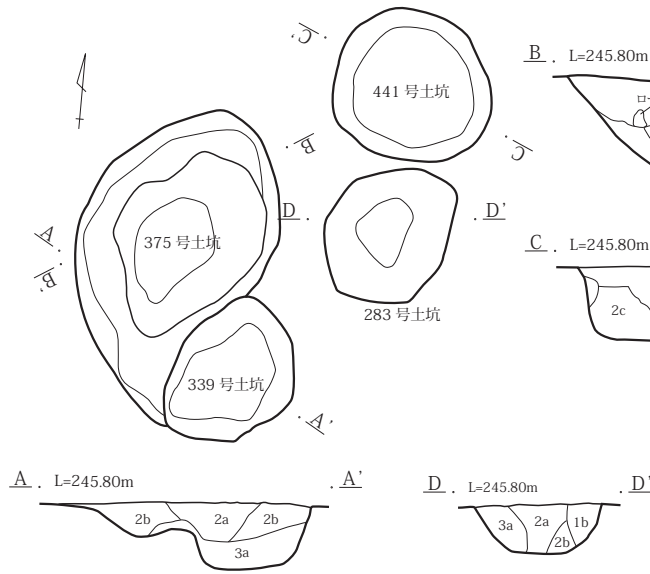
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混合。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混入。



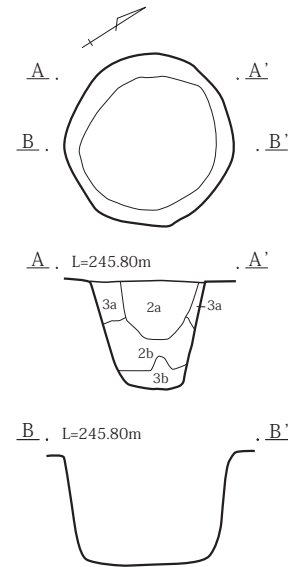
第171図 11区土坑 (24)

第5章 第4面の検出遺構

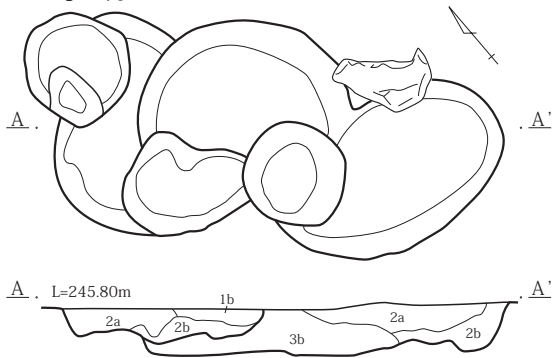
283・339・375・441号土坑



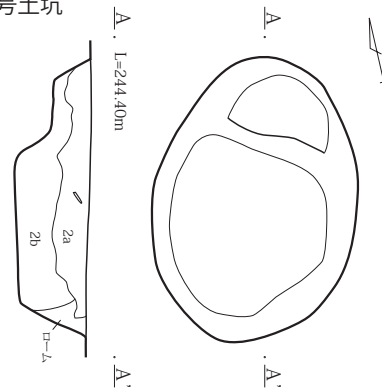
288号土坑



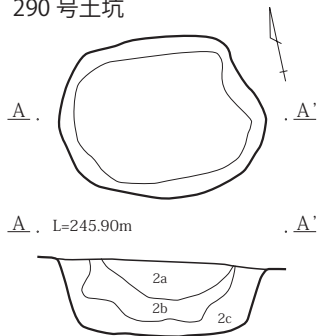
285号土坑



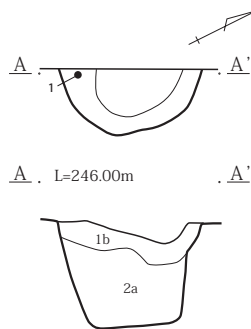
286号土坑



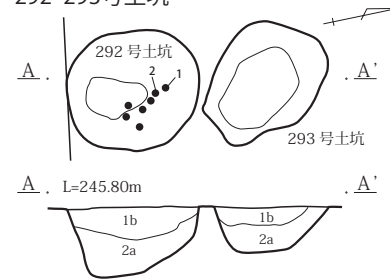
290号土坑



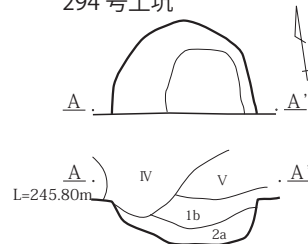
291号土坑



292・293号土坑



294号土坑



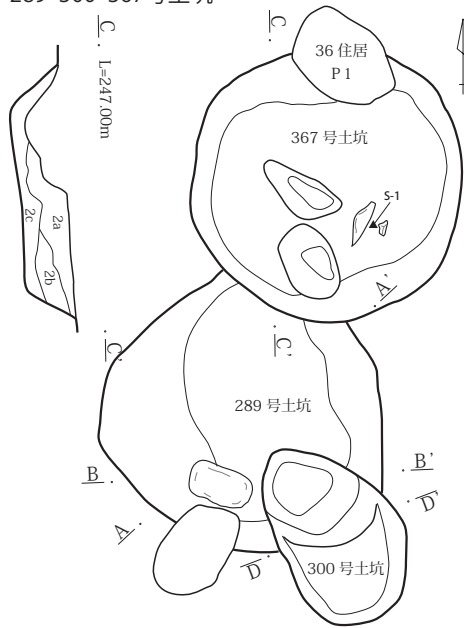
283・285・286・288・290～294・339・375・441号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

0 1:40 1m

第172図 11区土坑 (25)

289・300・367号土坑

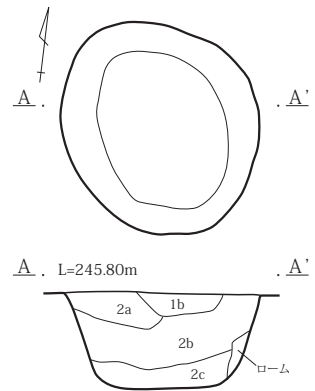


A. L=247.20m

B. L=247.00m

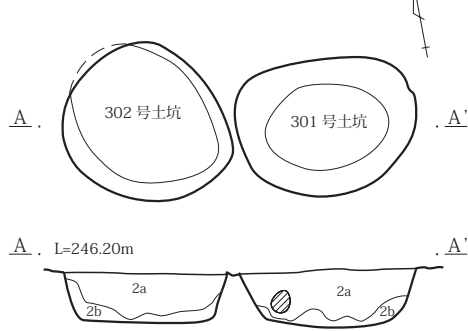
D. L=246.90m

295号土坑



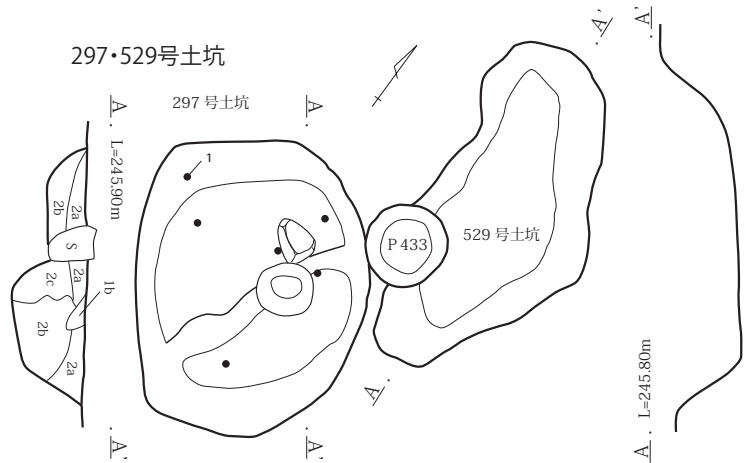
A. L=245.80m

301・302号土坑



A. L=246.20m

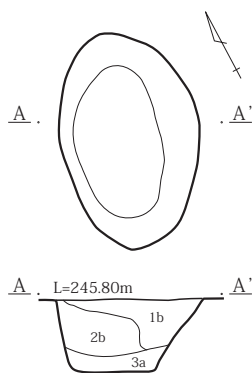
297・529号土坑



A. L=245.90m

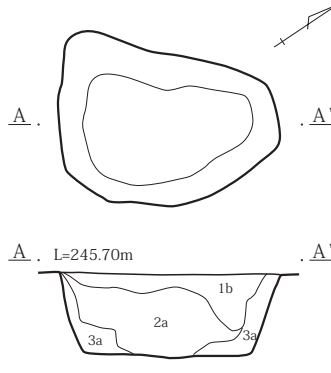
A. L=245.80m

296号土坑



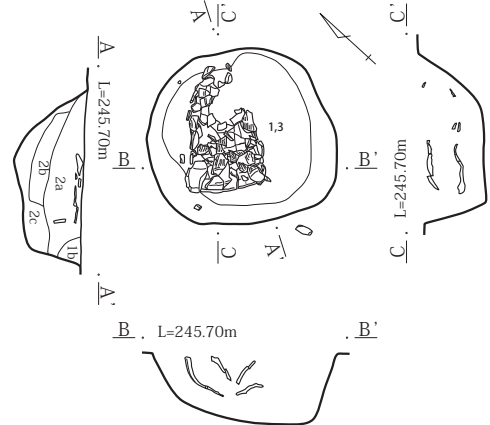
A. L=245.80m

298号土坑



A. L=245.70m

299号土坑



A. L=245.70m

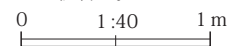
B. L=245.70m

C. L=245.70m

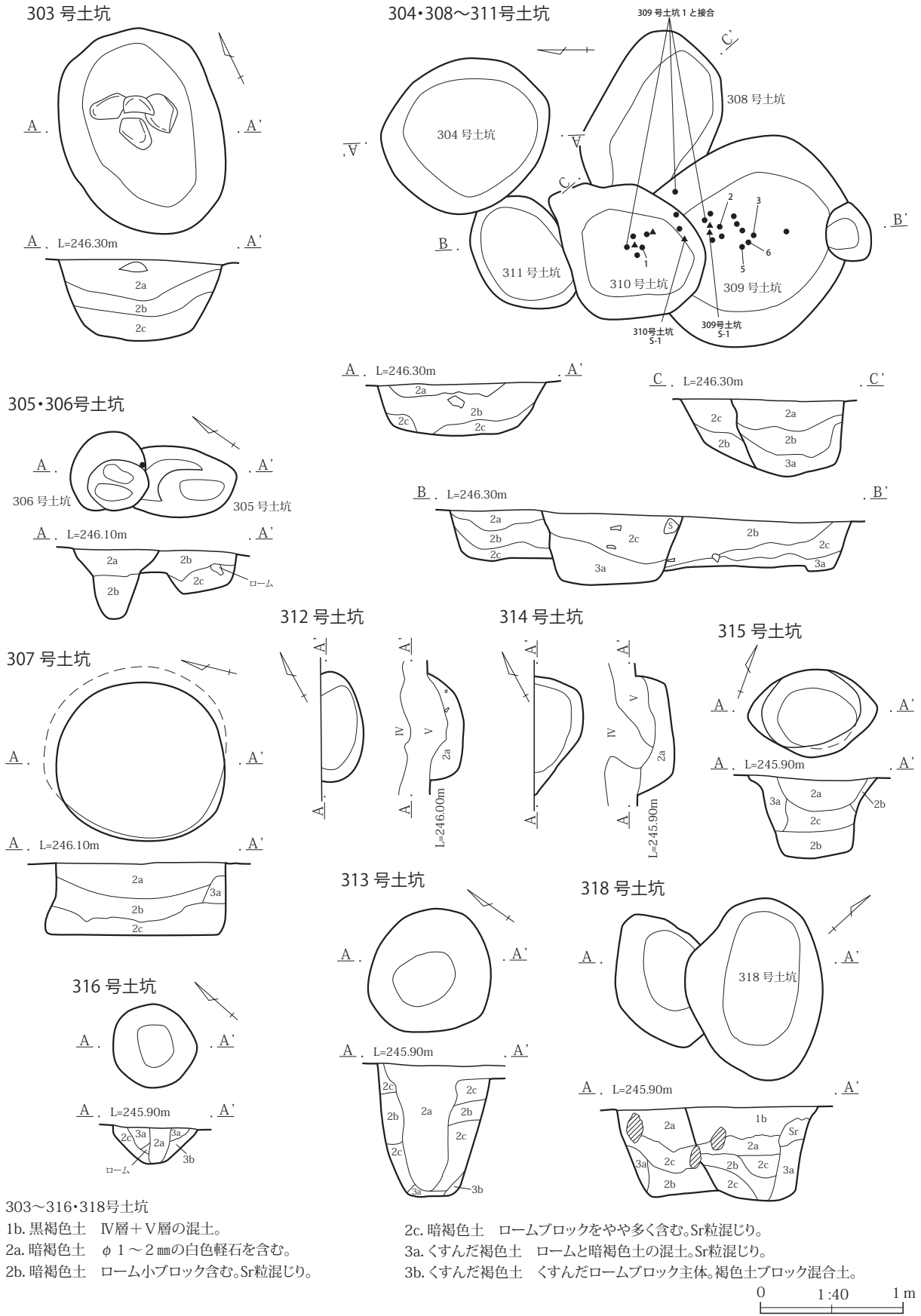
289・295～302・367・529号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。

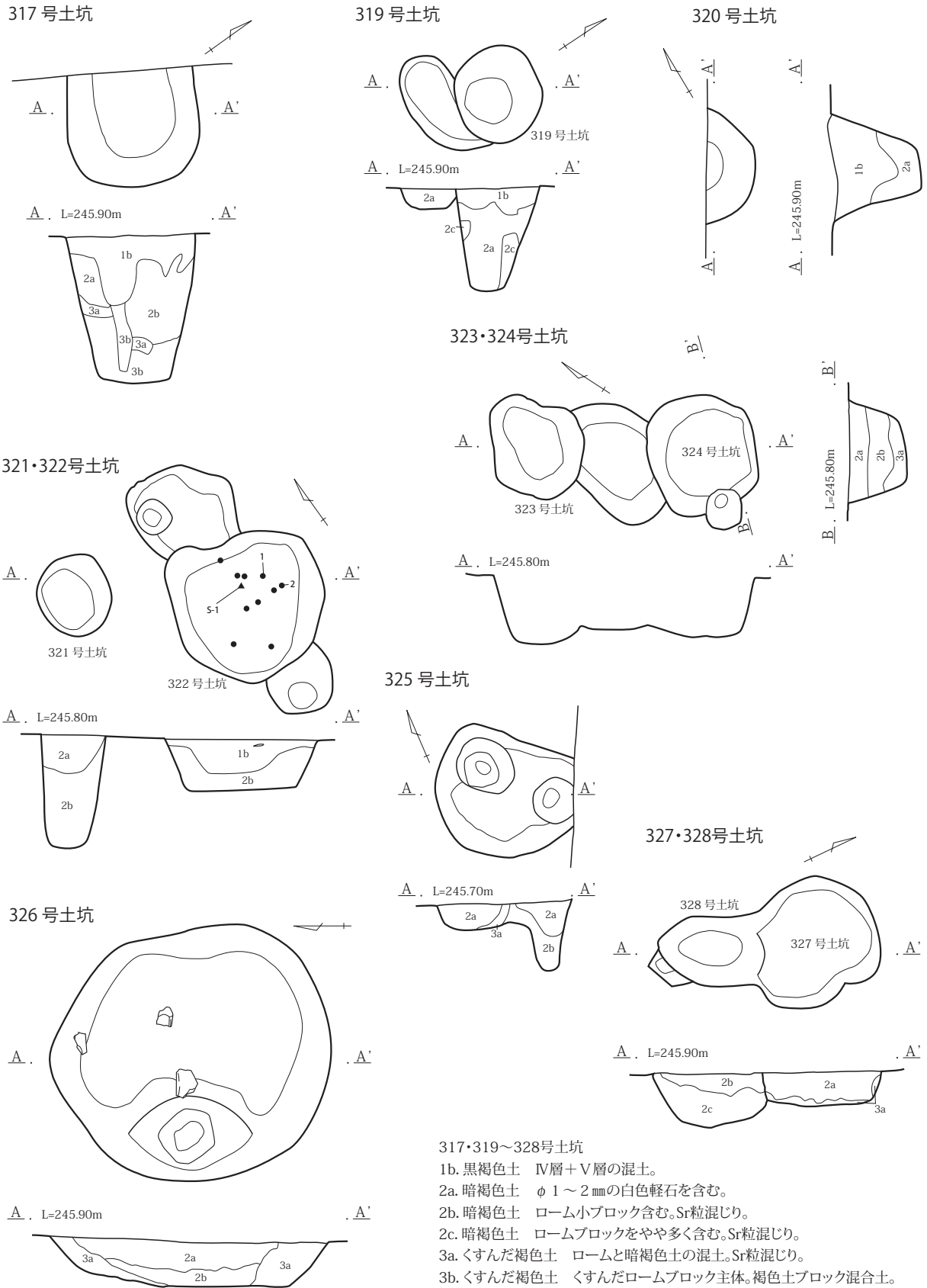
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。



第173図 11区土坑 (26)



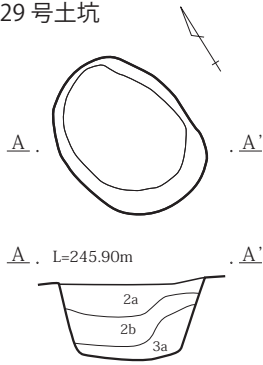
第174図 11区土坑 (27)



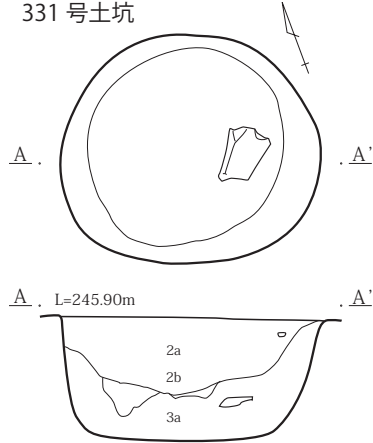
第175図 11区土坑 (28)

第5章 第4面の検出遺構

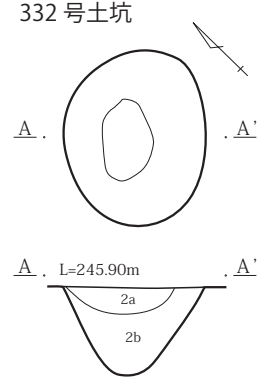
329号土坑



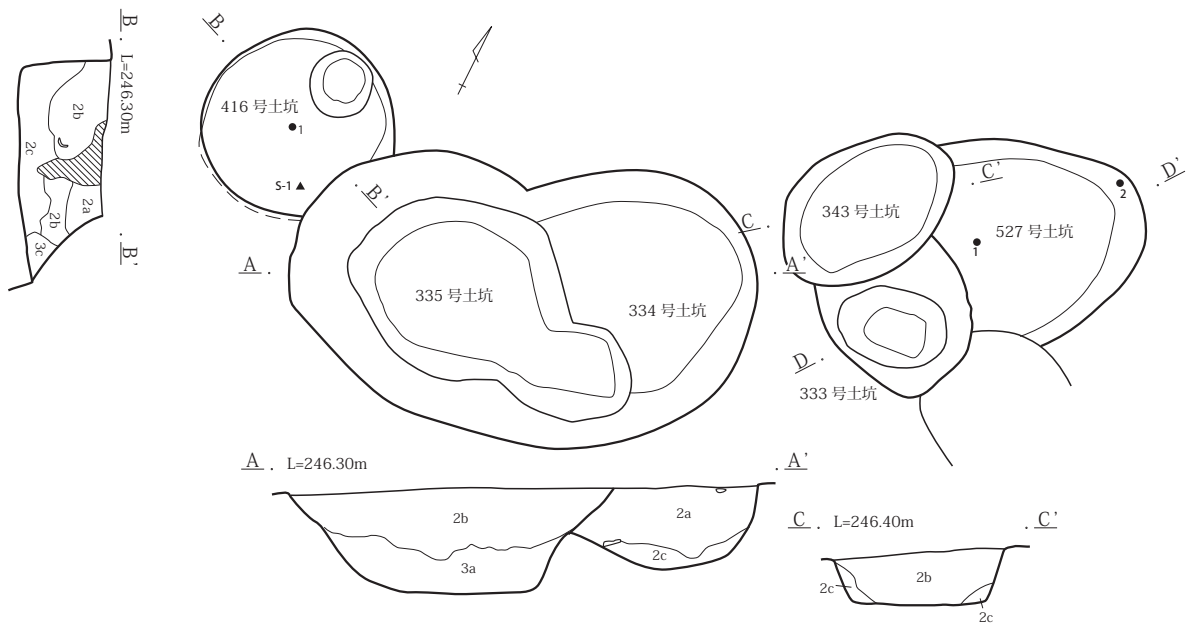
331号土坑



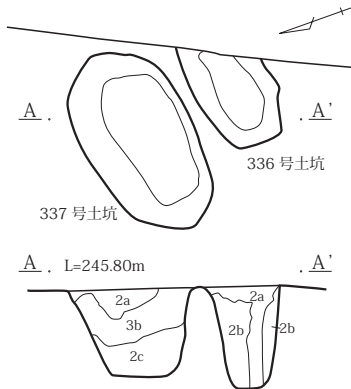
332号土坑



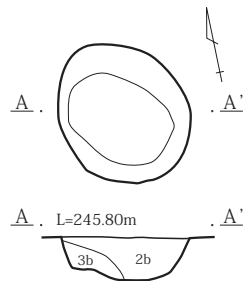
333~335・343・416・527号土坑



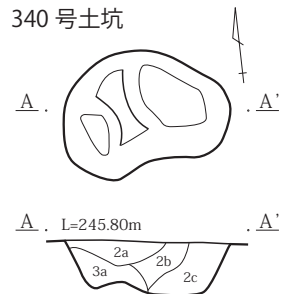
336・337号土坑



338号土坑



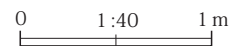
340号土坑



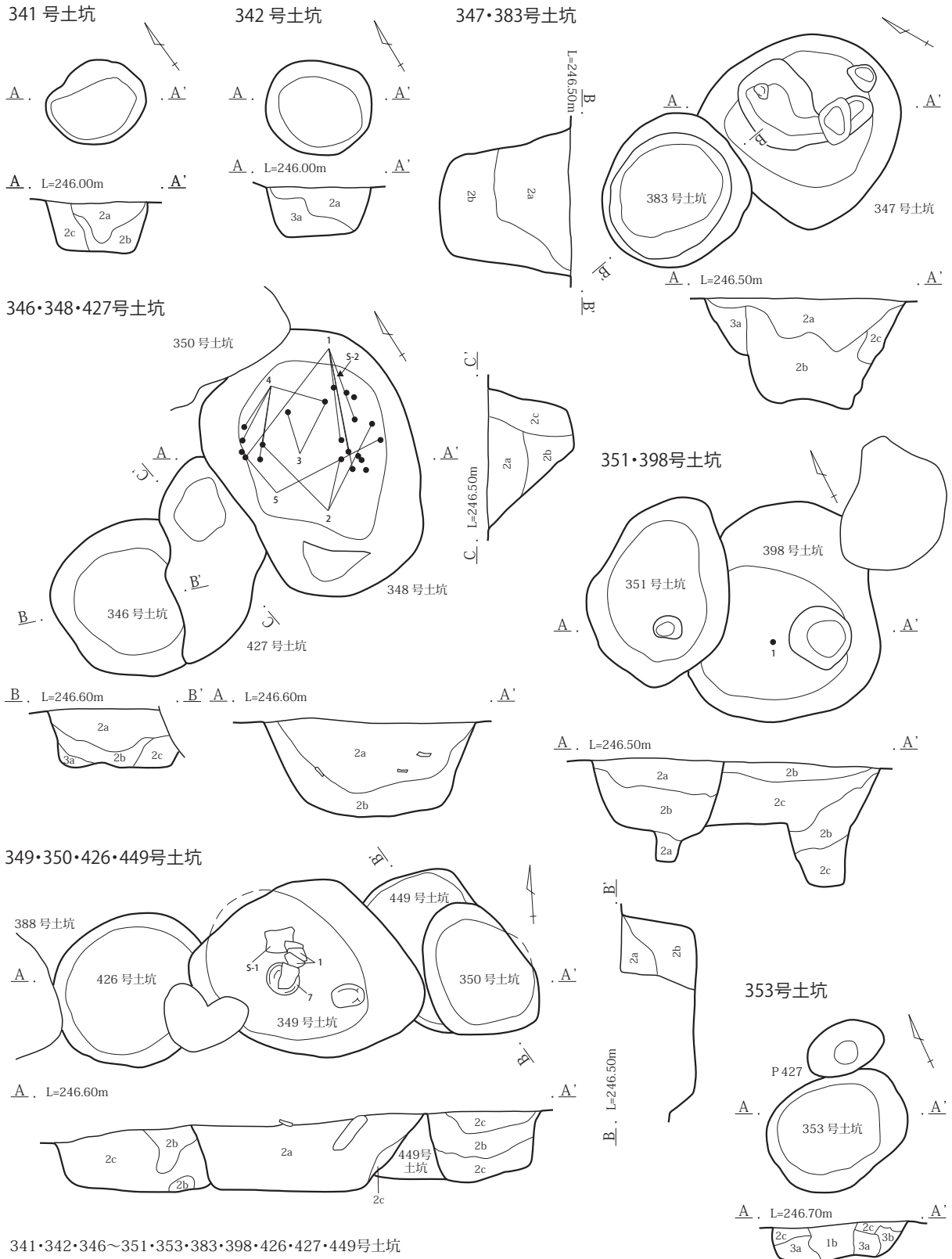
329・331~338・340・343・416・527号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。

- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。



第176図 11区土坑 (29)

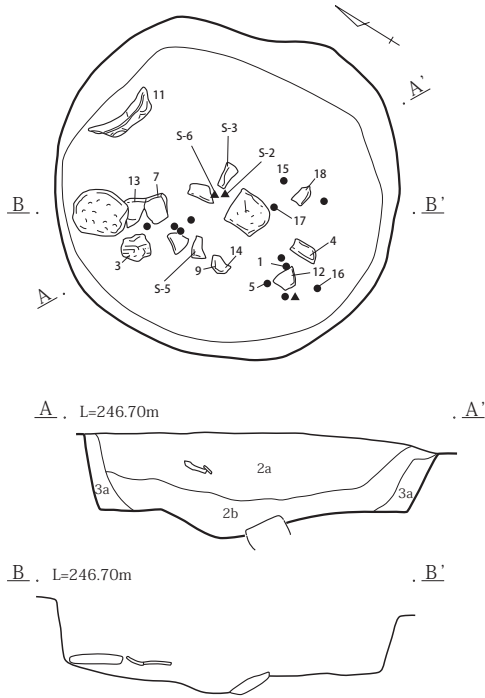


0 1:40 1m

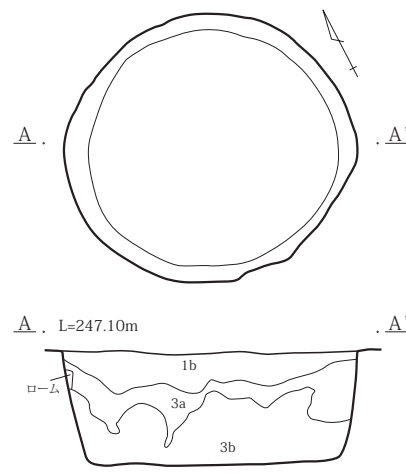
第177図 11区土坑 (30)

第5章 第4面の検出遺構

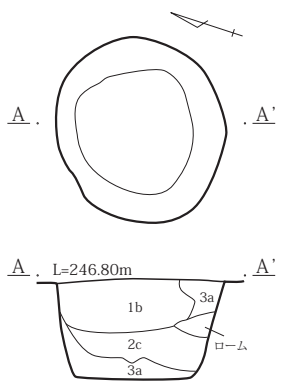
352号土坑



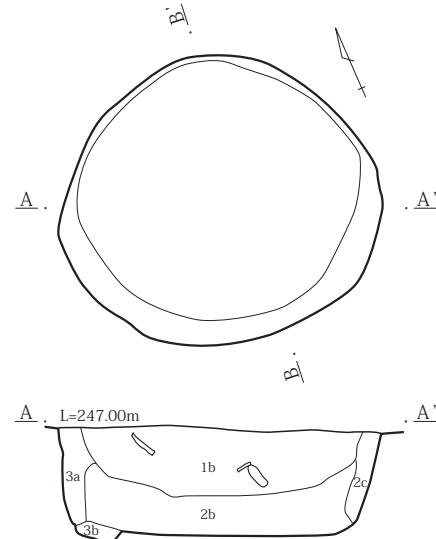
355号土坑



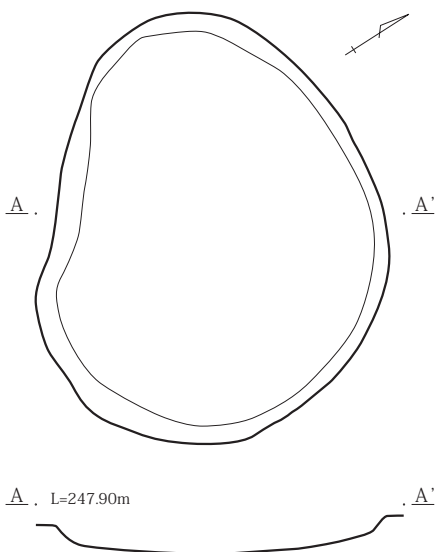
359号土坑



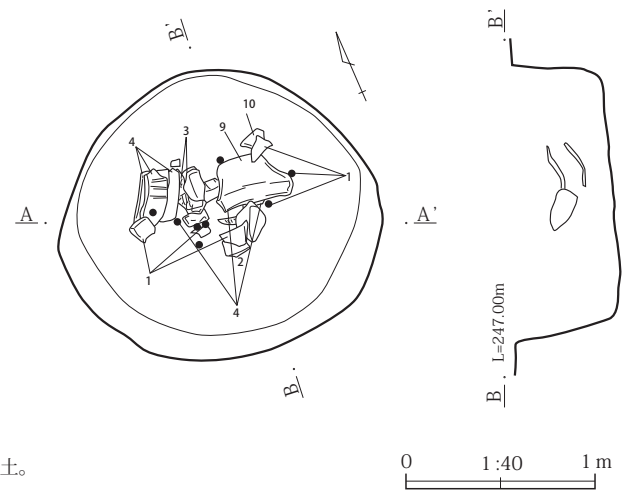
356号土坑



354号土坑



356号土坑遺物出土状況図

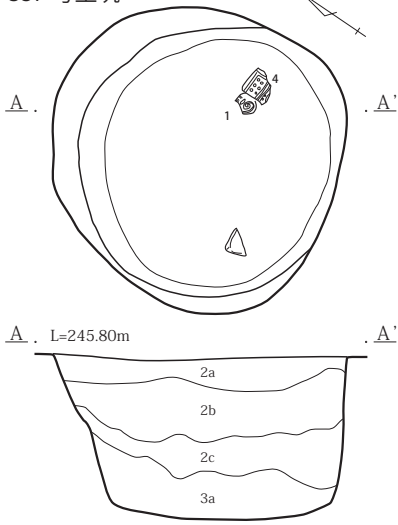


352・354～356・359号土坑

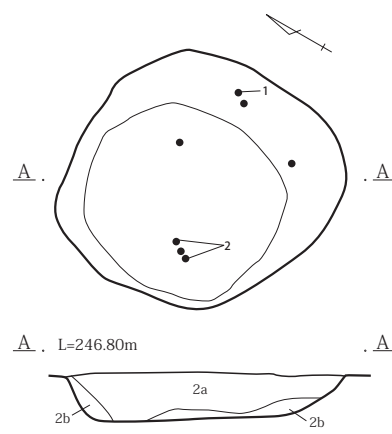
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混土。

第178図 11区土坑 (31)

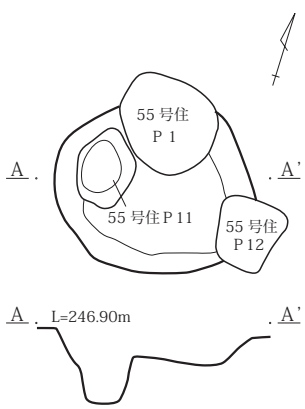
357号土坑



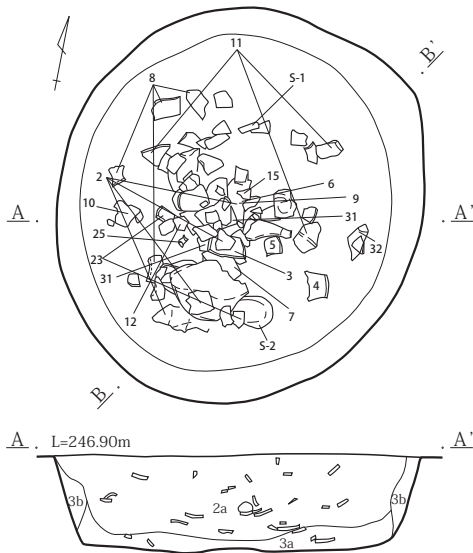
358号土坑



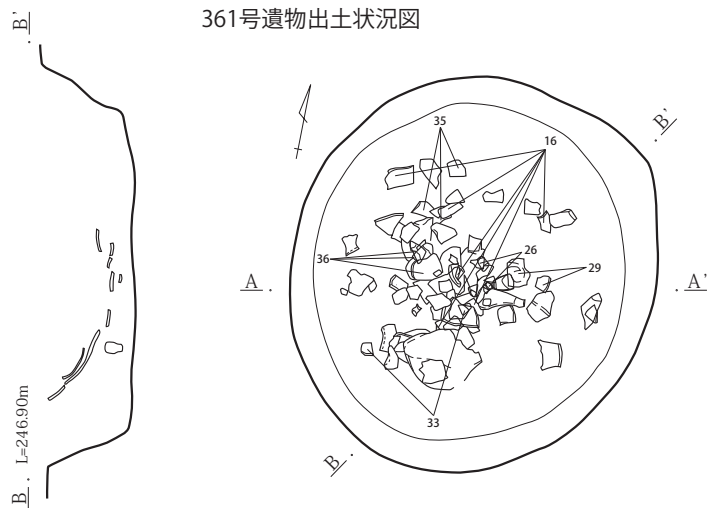
360号土坑



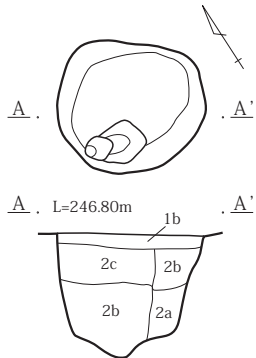
361号土坑



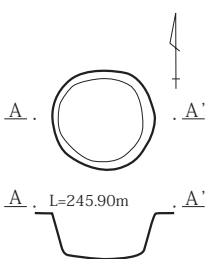
361号遺物出土状況図



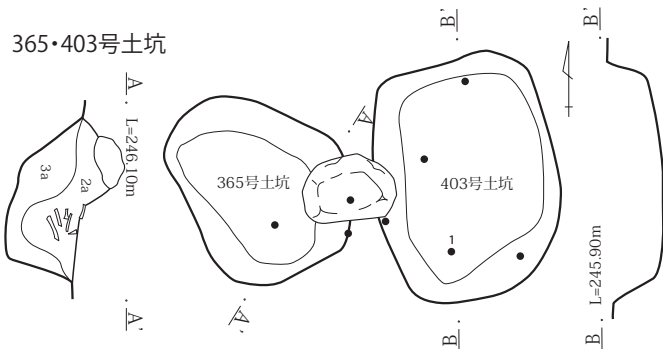
363号土坑



364号土坑

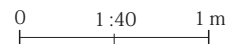


365・403号土坑



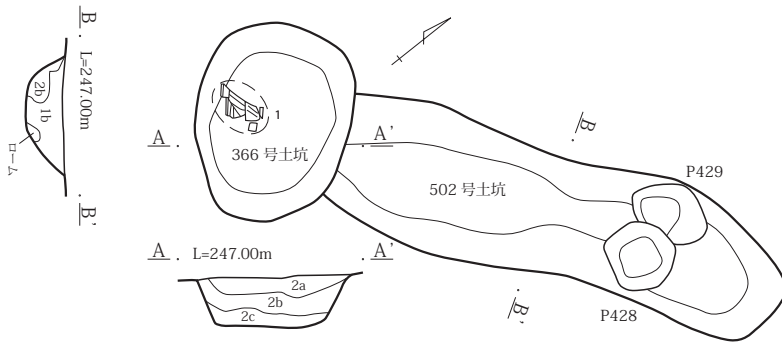
357・358・360・361・363～365・403号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

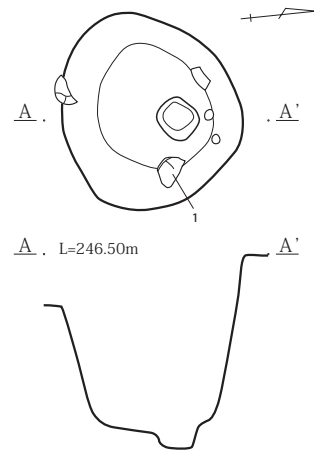


第179図 11区土坑 (32)

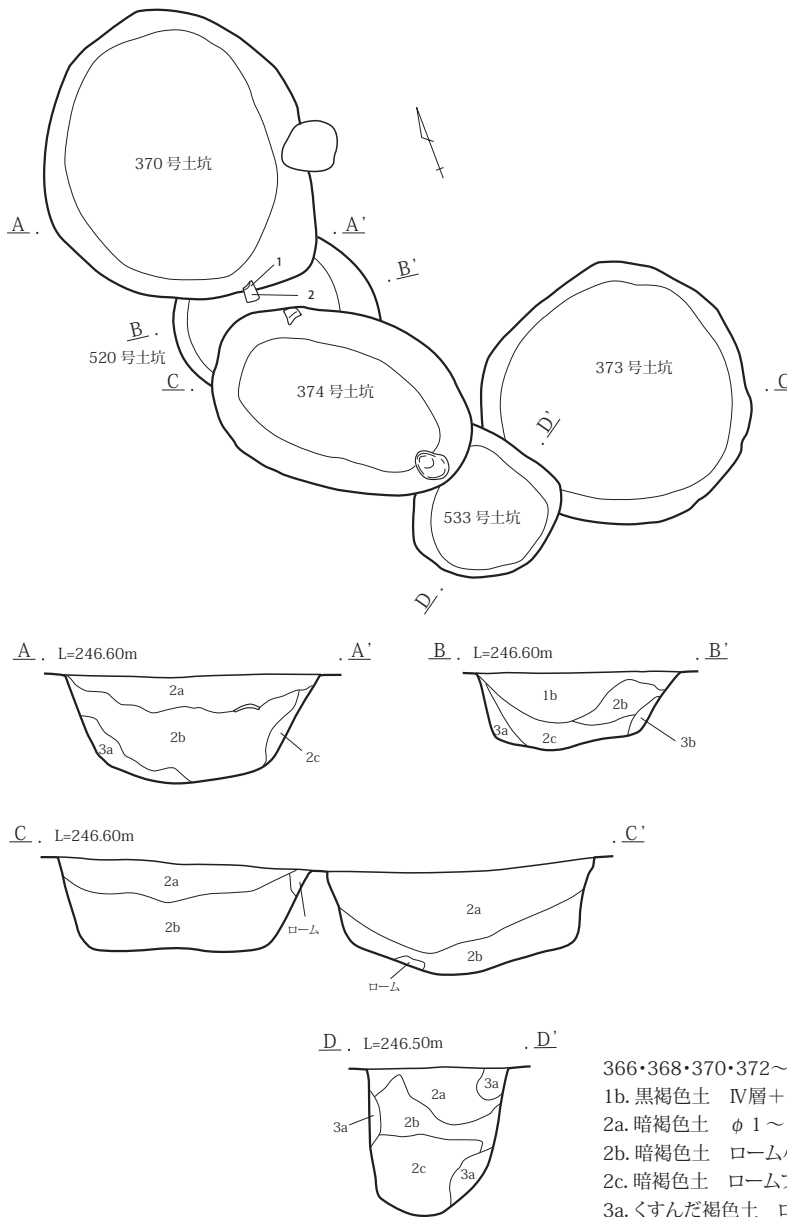
366・502号土坑



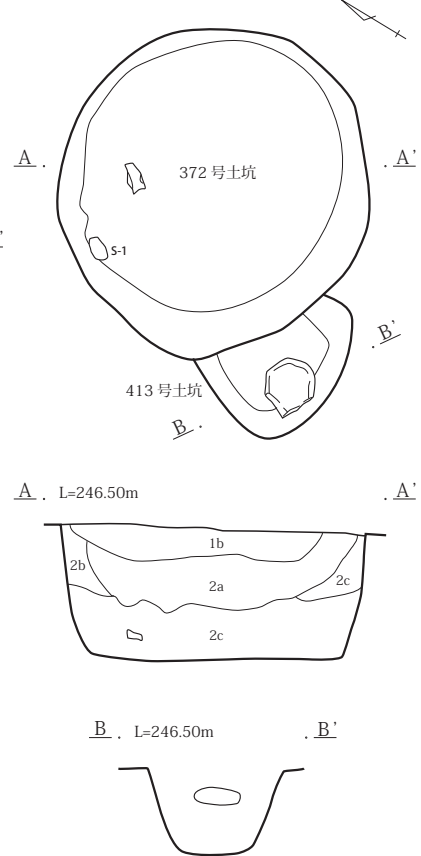
368号土坑



370・373・374・520・533号土坑



372・413号土坑



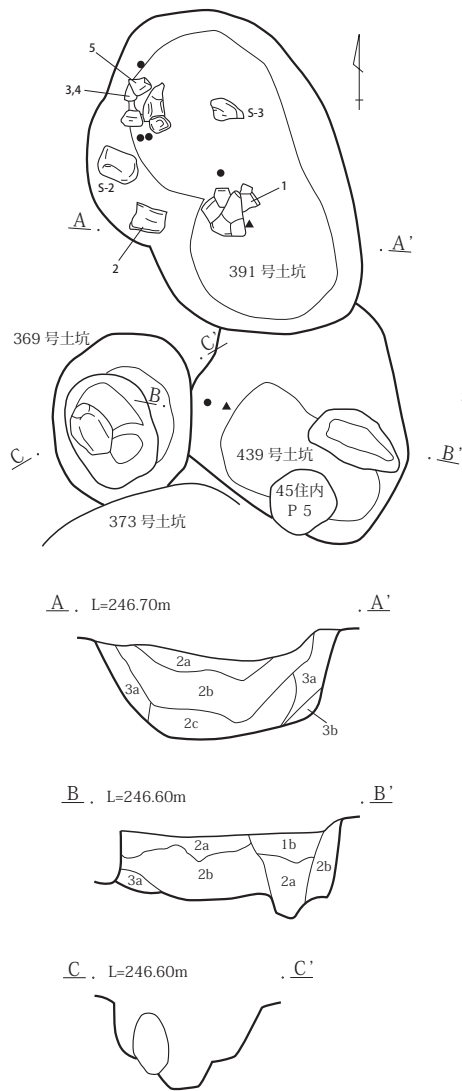
0 1:40 1 m

366・368・370・372~374・413・502・520・533号土坑

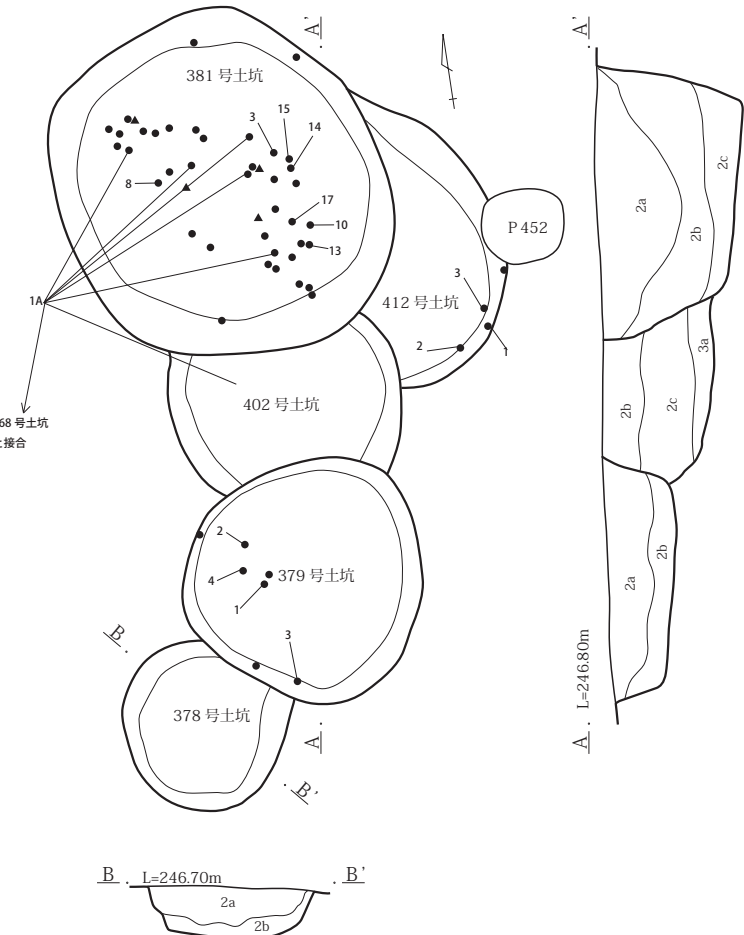
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

第180図 11区土坑 (33)

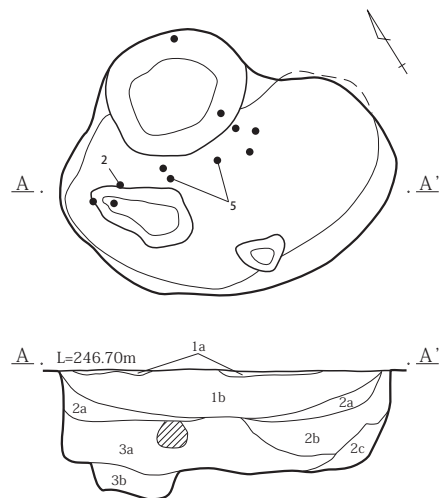
369・391・439号土坑



378・379・381・402・412号土坑

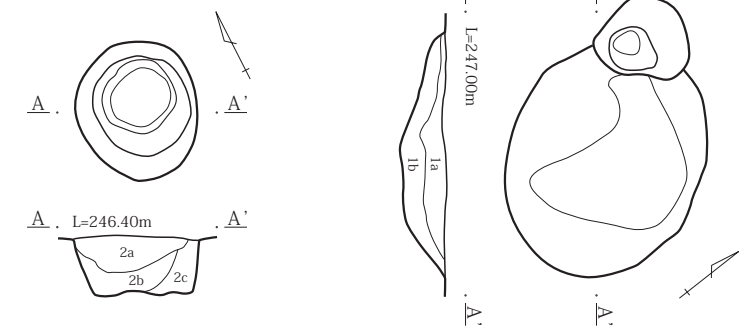


380号土坑



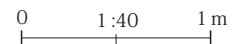
384号土坑

382号土坑



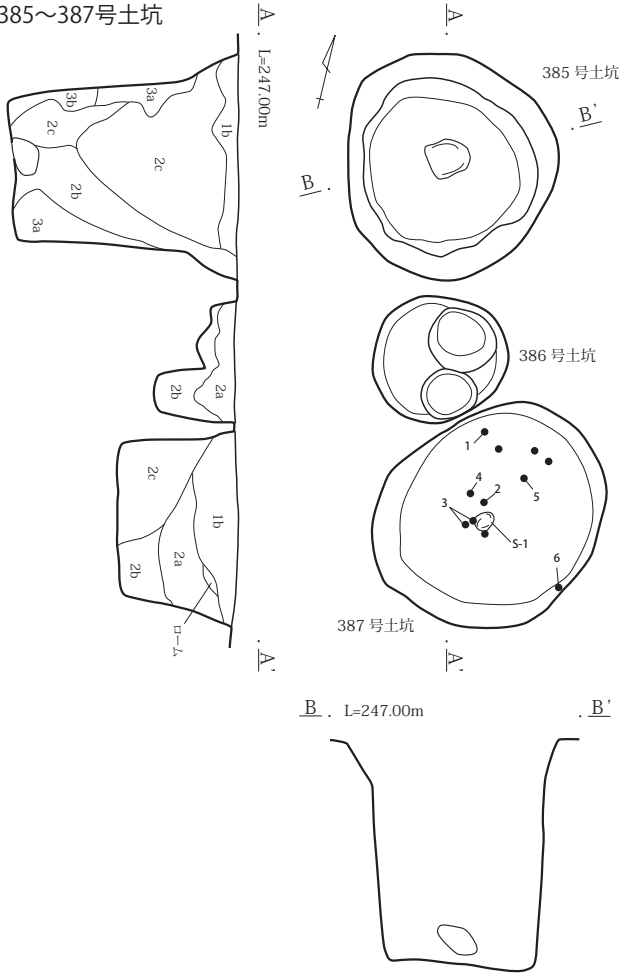
369・378~382・384・391・402・412・439号土坑

- 1a. 黒褐色土 IV層土主体。やや淡色。
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

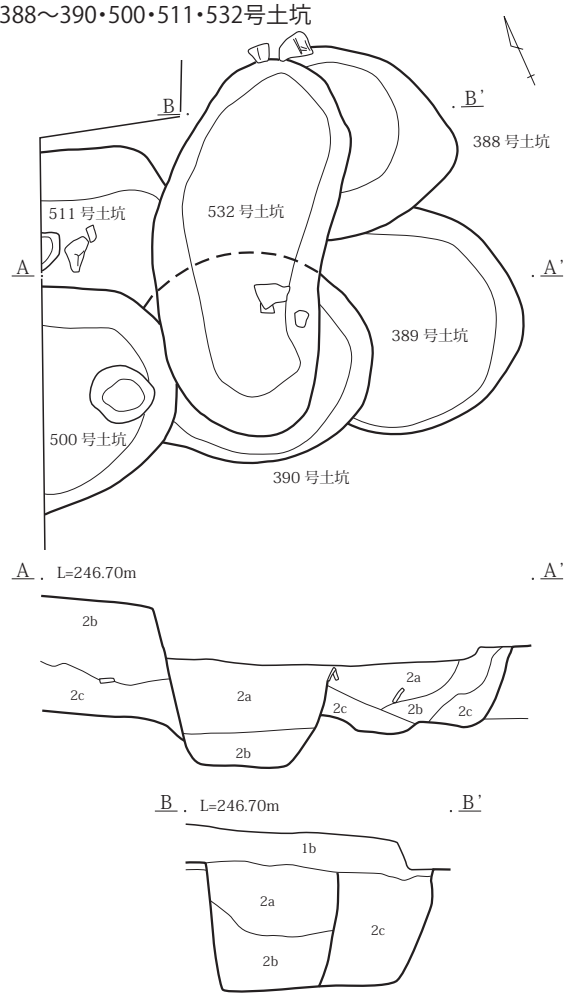


第181図 11区土坑 (34)

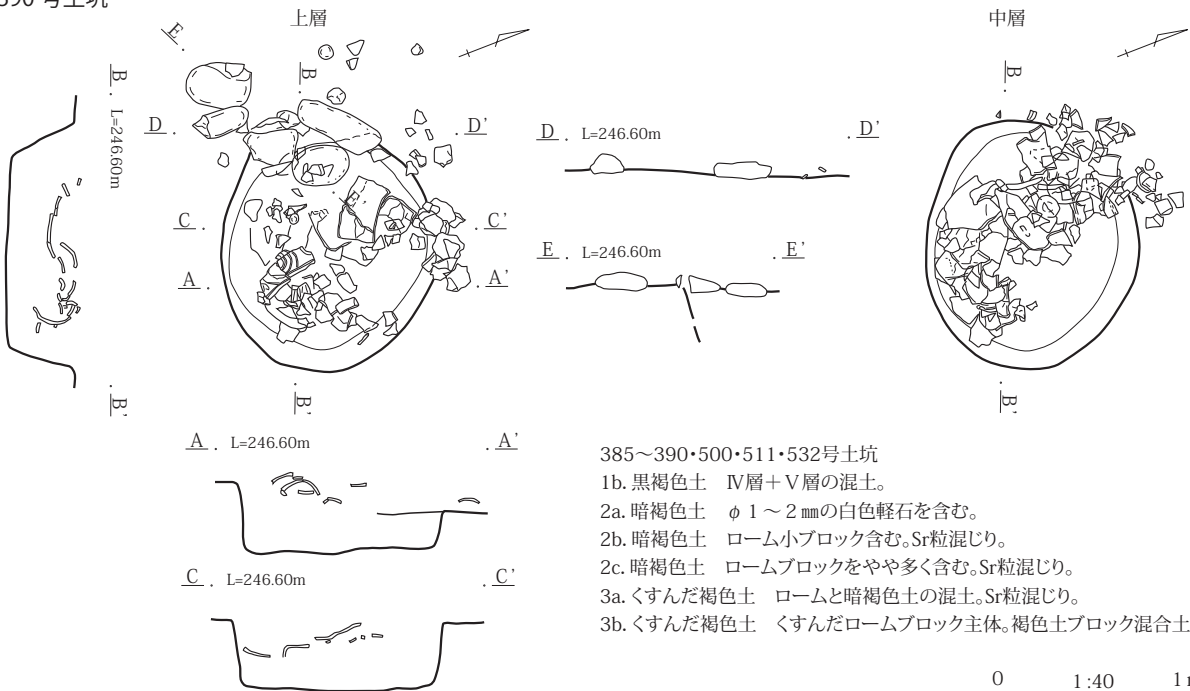
385~387号土坑



388~390・500・511・532号土坑

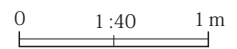


390号土坑



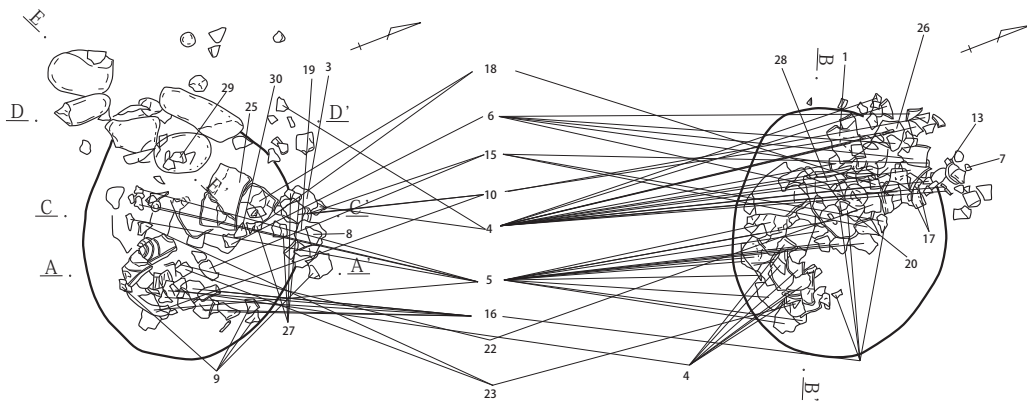
385~390・500・511・532号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

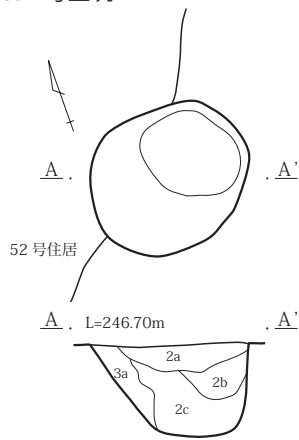


第182図 11区土坑 (35)

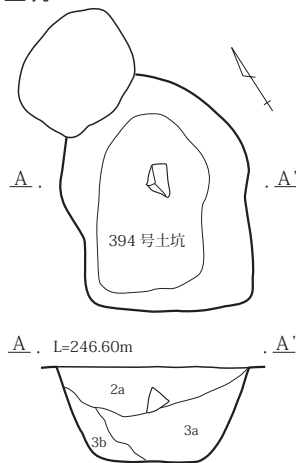
390号土坑接合状況



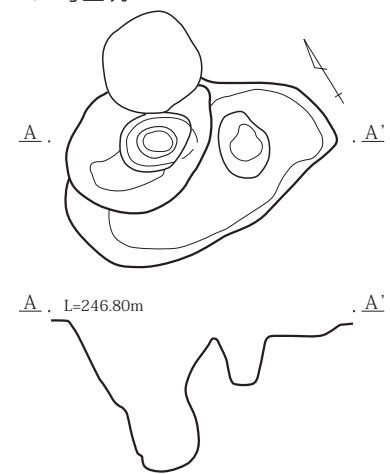
392号土坑



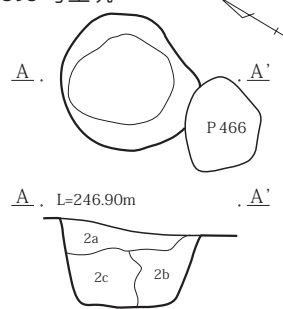
394号土坑



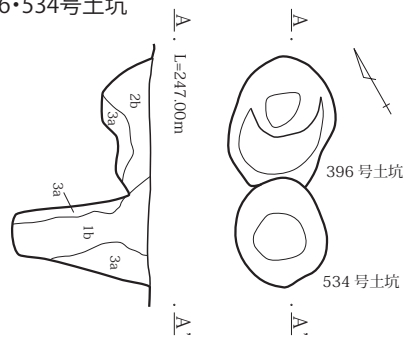
404号土坑



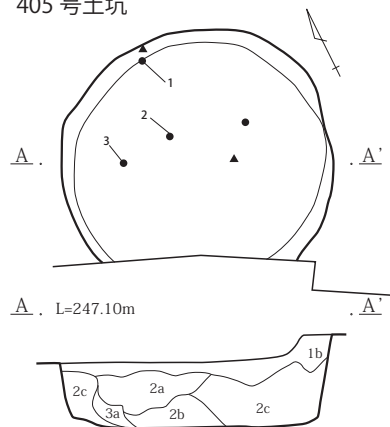
395号土坑



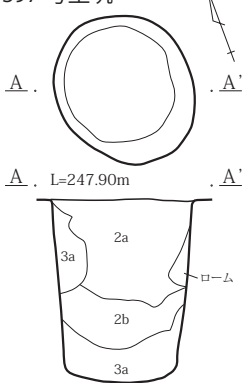
396・534号土坑



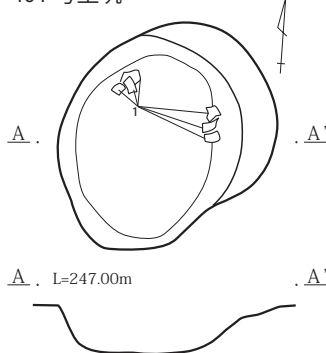
405号土坑



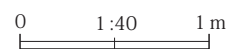
397号土坑



401号土坑

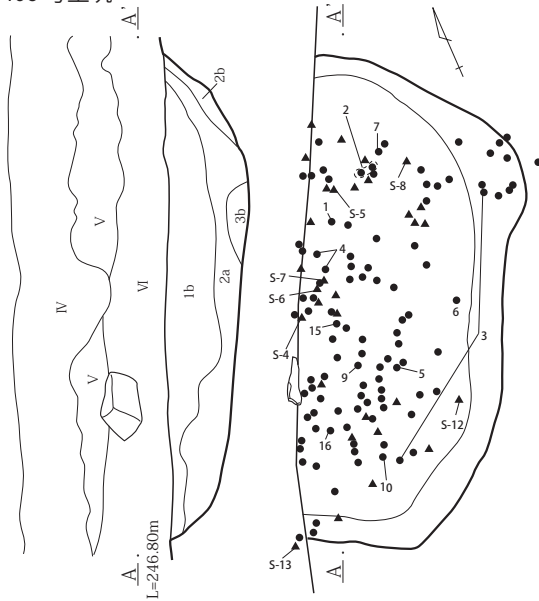


- 392・394～397・401・404・405・534号土坑
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
 - 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
 - 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
 - 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
 - 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
 - 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

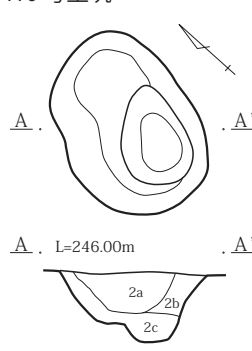


第183図 11区土坑 (36)

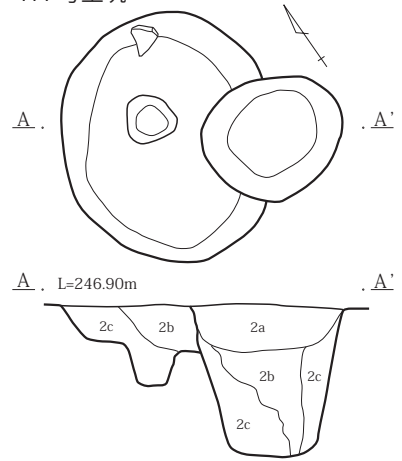
406号土坑



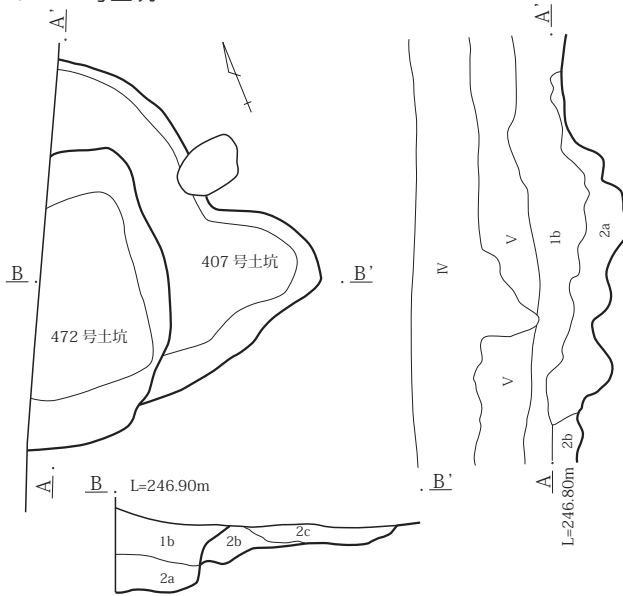
410号土坑



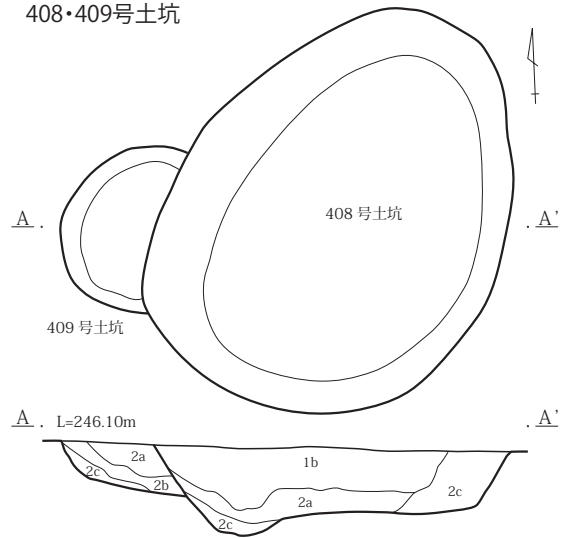
411号土坑



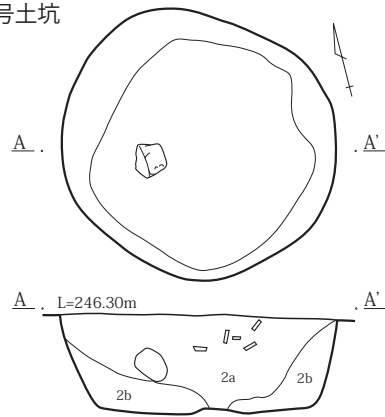
407・472号土坑



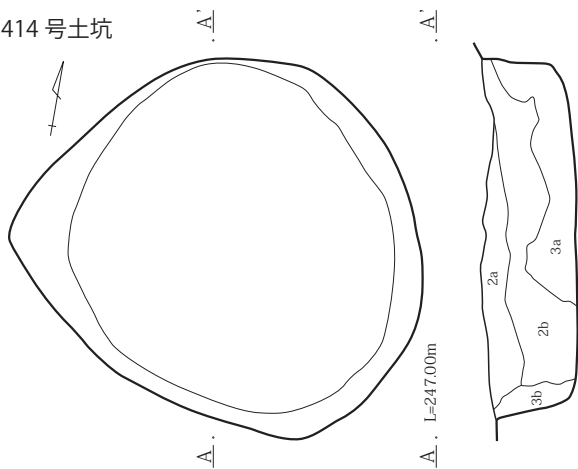
408・409号土坑



415号土坑

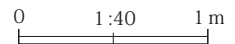


414号土坑



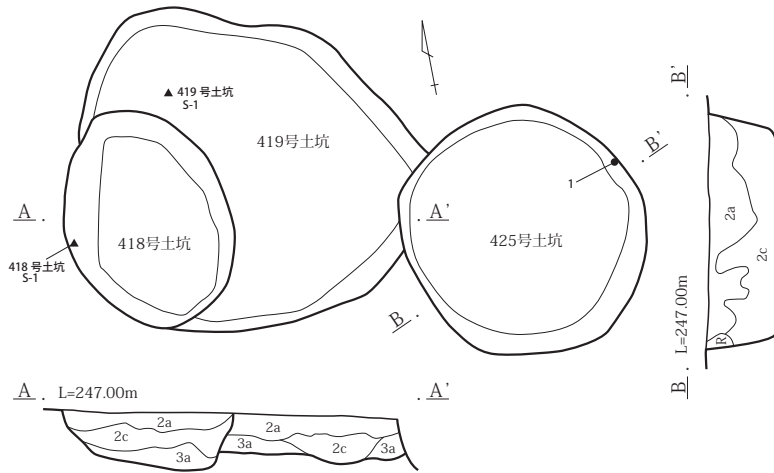
406~411・414・415・472号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混入。

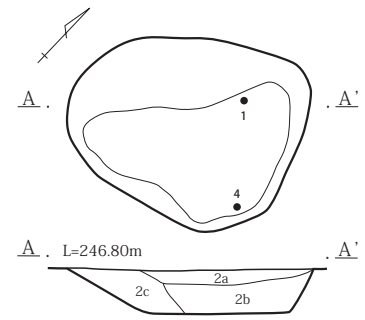


第184図 11区土坑 (37)

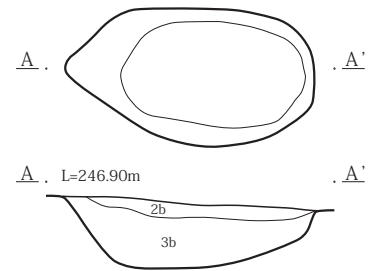
418・419・425号土坑



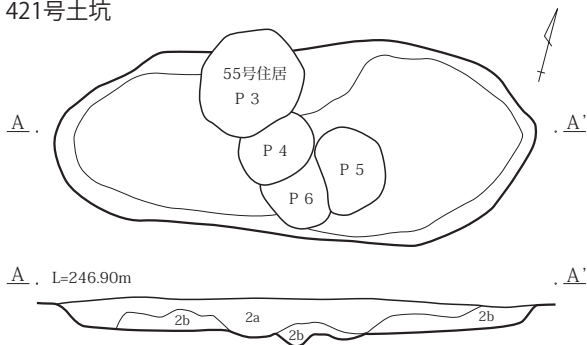
420号土坑



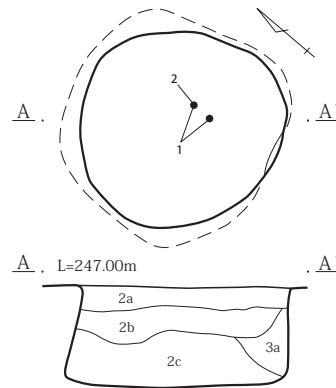
423号土坑



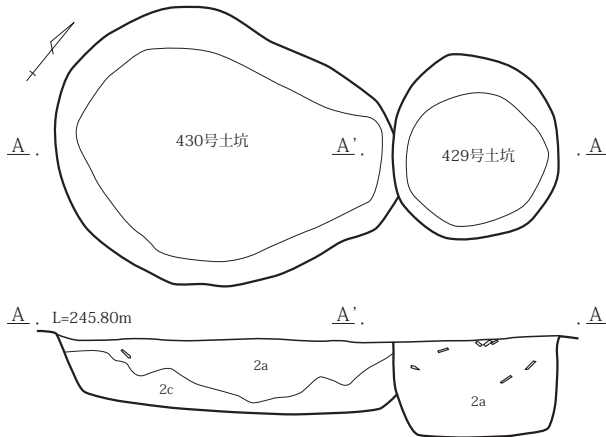
421号土坑



424号土坑



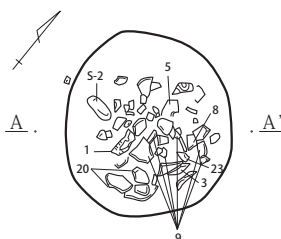
429・430号土坑



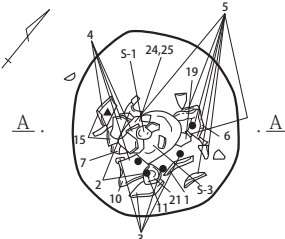
418～421・423～425・429・430号土坑

- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

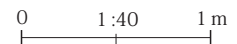
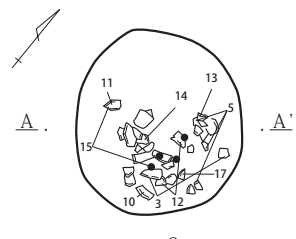
429号土坑 1面



429号土坑 2面



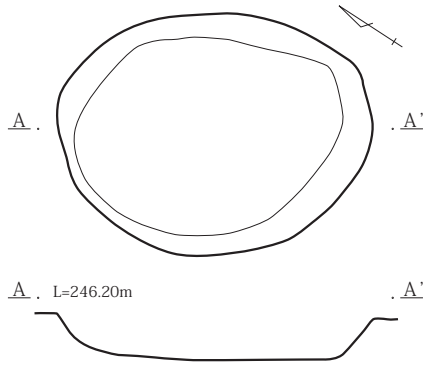
429号土坑 3面



第185図 11区土坑 (38)

第5章 第4面の検出遺構

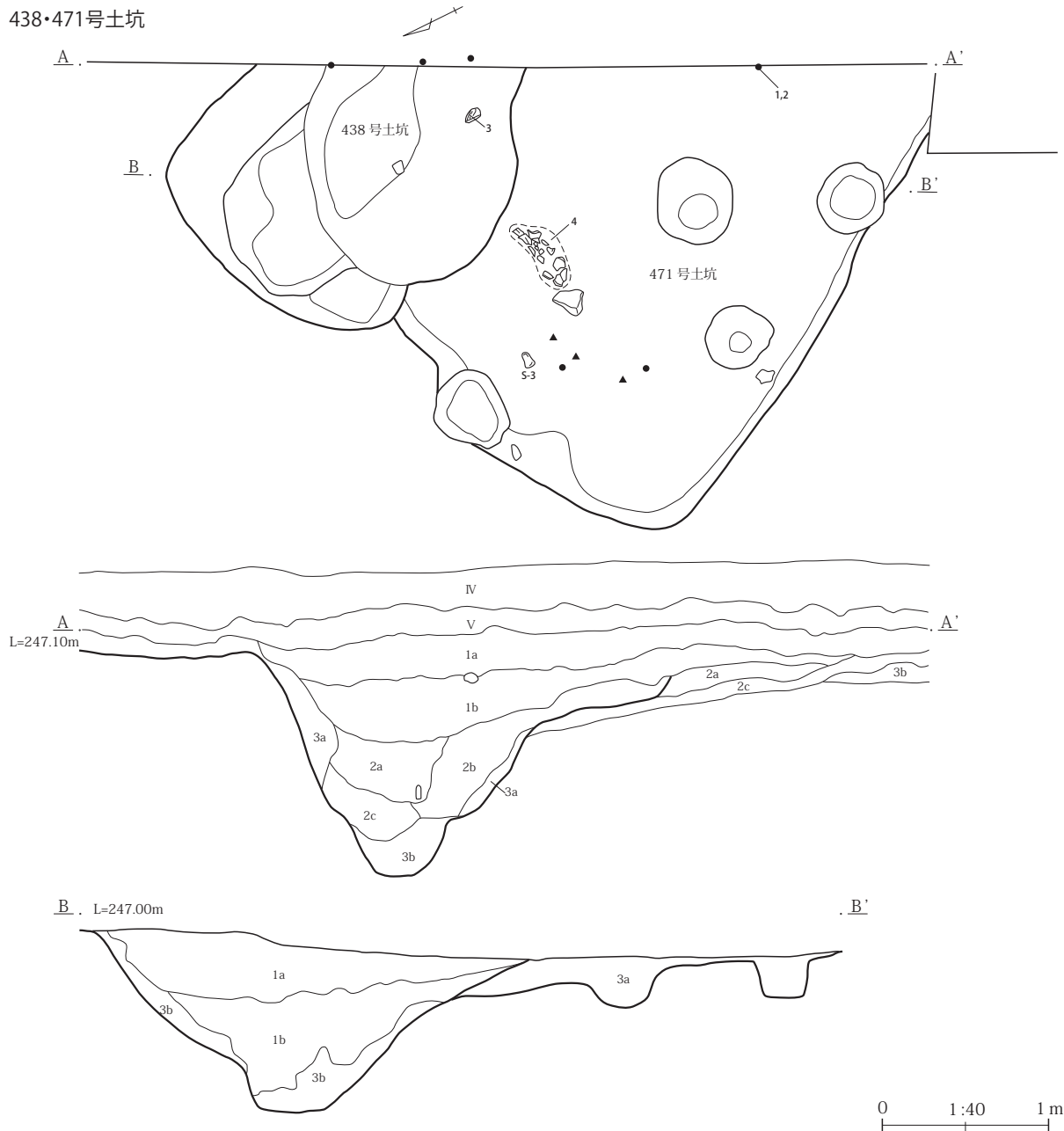
428号土坑



428・438・471号土坑

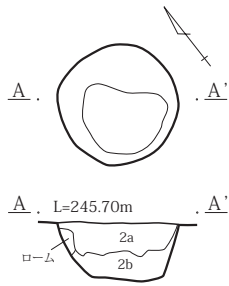
- 1a. 黒褐色土 IV層土主体。やや淡色。
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

438・471号土坑

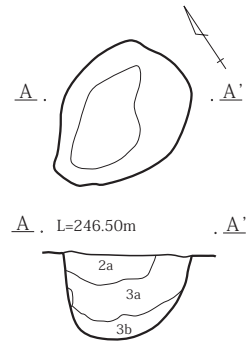


第186図 11区土坑 (39)

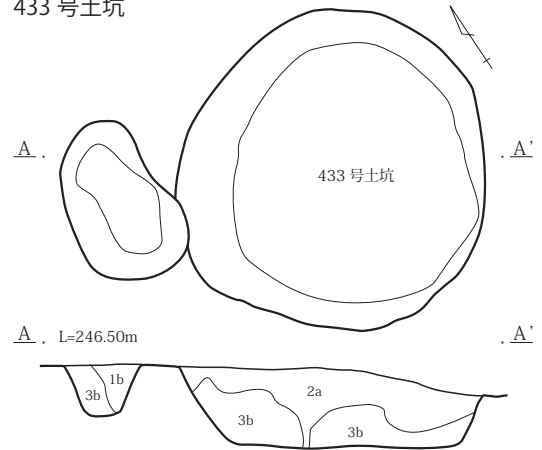
431号土坑



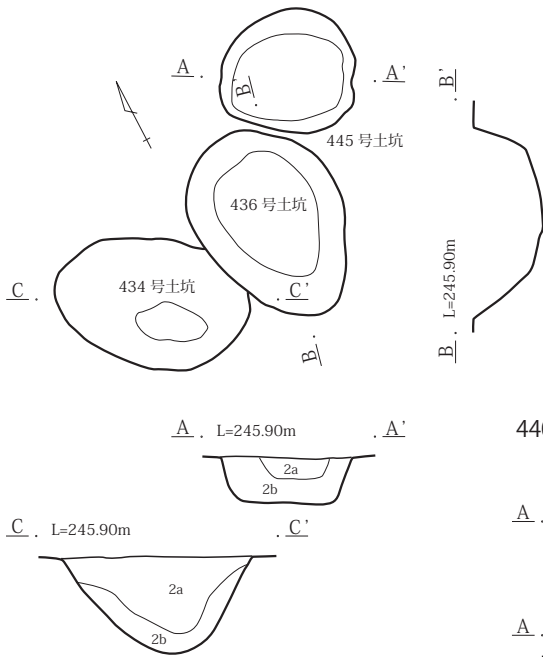
432号土坑



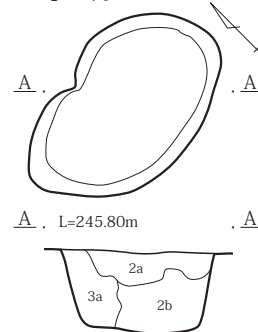
433号土坑



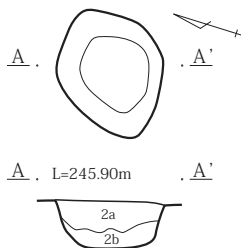
434・436・445号土坑



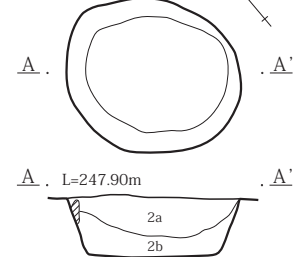
435号土坑



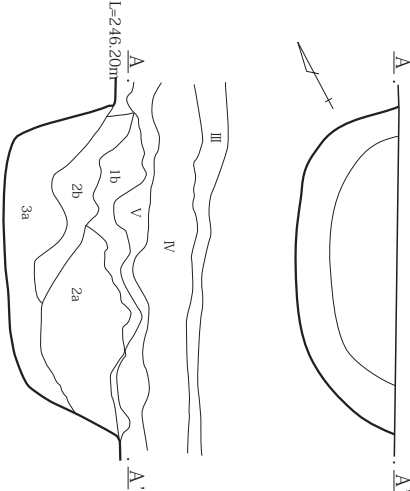
440号土坑



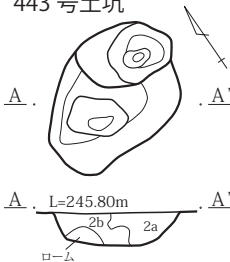
442号土坑



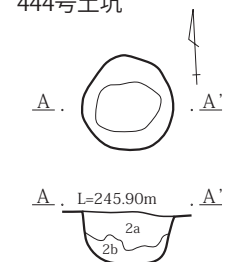
437号土坑



443号土坑

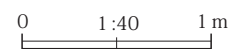


444号土坑



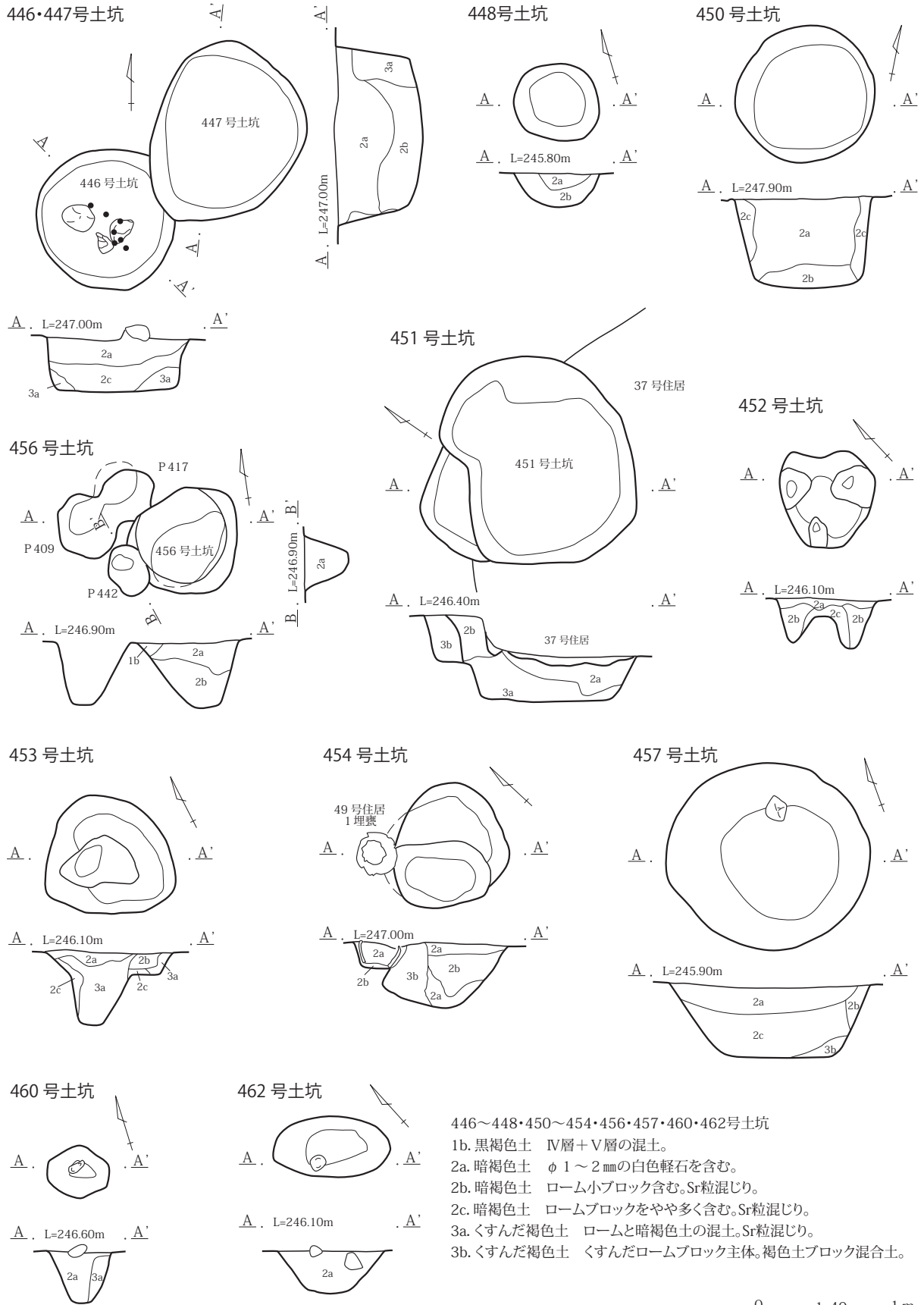
431~437・440・442~445号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混土。



第187図 11区土坑 (40)

第5章 第4面の検出遺構

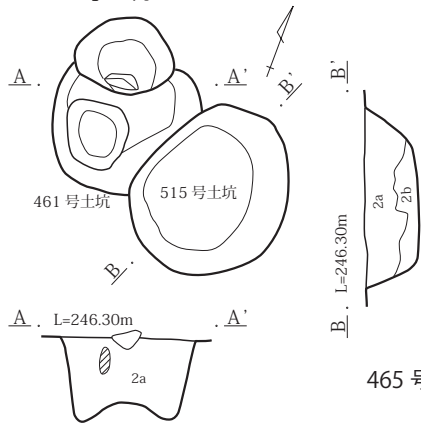


446~448・450~454・456・457・460・462号土坑

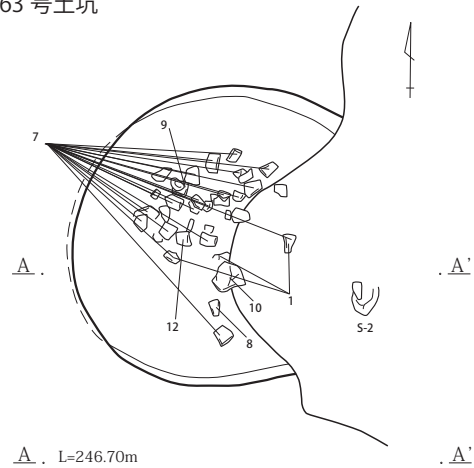
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

第188図 11区土坑 (41)

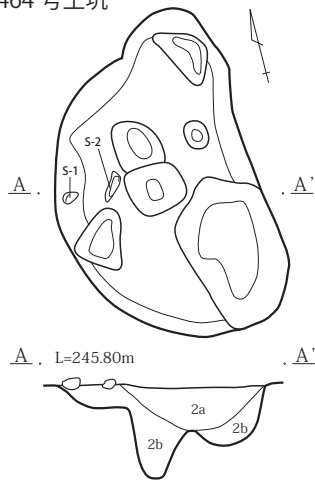
461・515号土坑



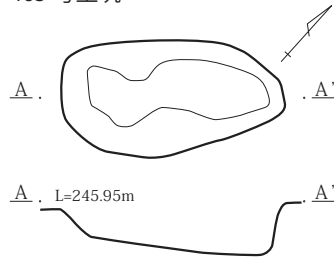
463号土坑



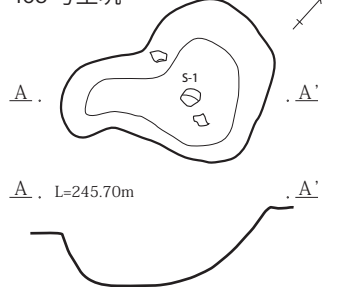
464号土坑



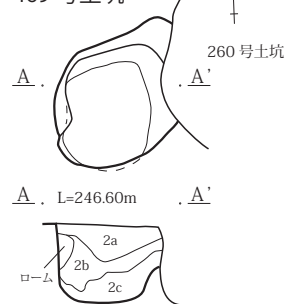
465号土坑



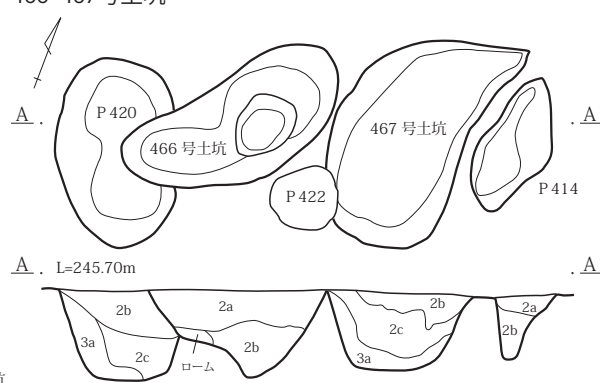
468号土坑



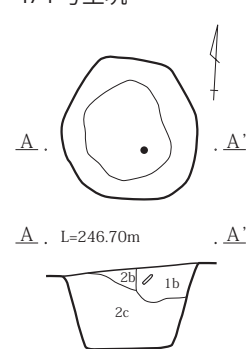
469号土坑



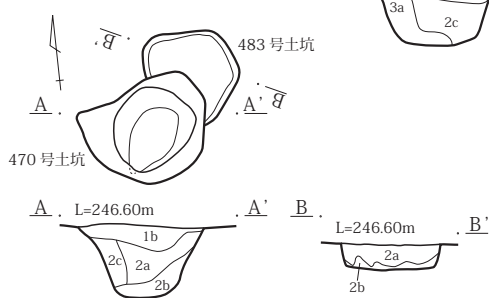
466・467号土坑



474号土坑

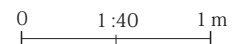


470・483号土坑



461・463～470・474・483・515号土坑

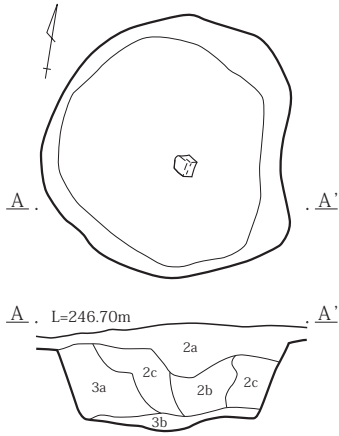
- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。



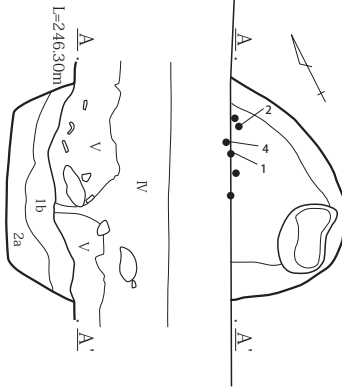
第189図 11区土坑 (42)

第5章 第4面の検出遺構

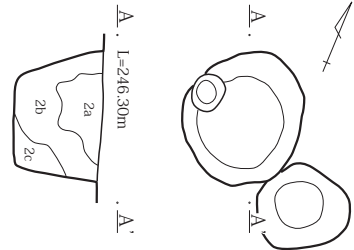
473号土坑



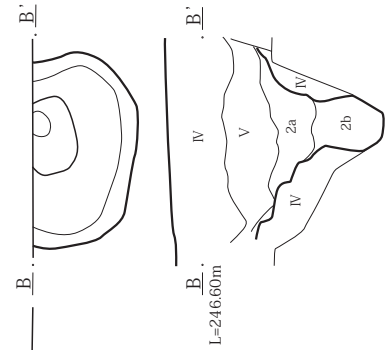
475号土坑



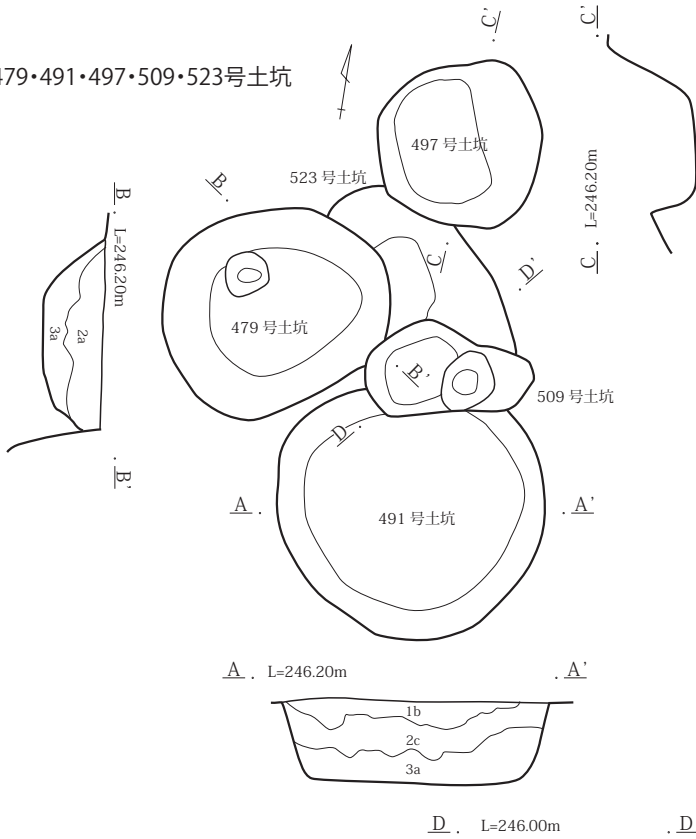
476号土坑



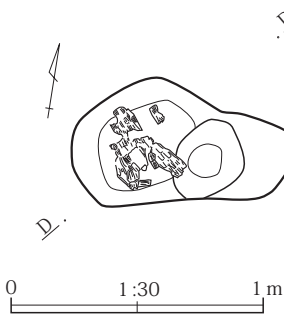
478号土坑



479・491・497・509・523号土坑



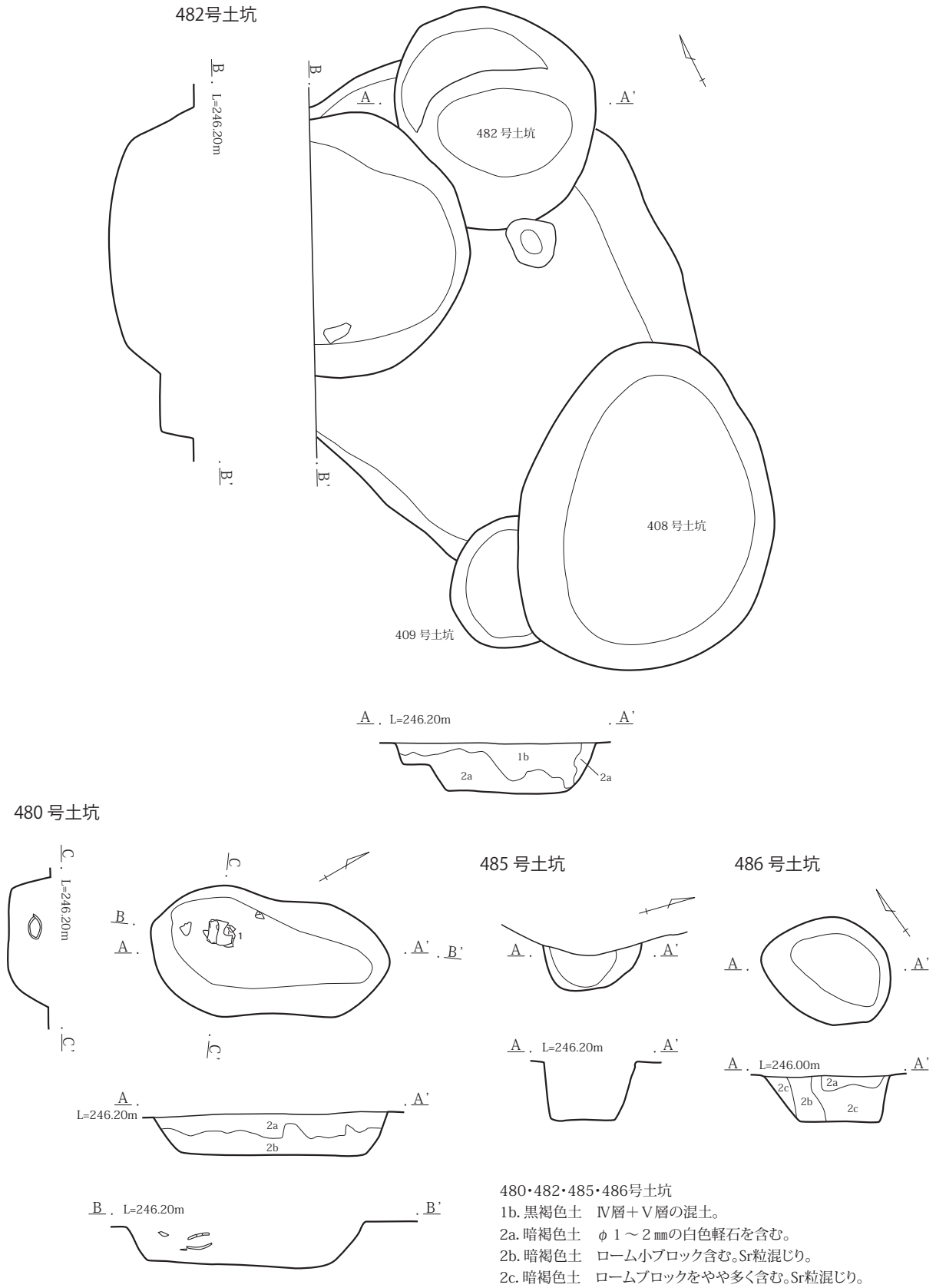
509号土坑
炭化材出土状況拡大図



473・475・476・478・479・491・497・509・523号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

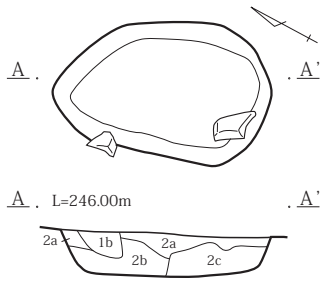
第190図 11区土坑 (43)



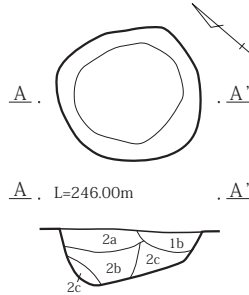
第191図 11区土坑 (44)

第5章 第4面の検出遺構

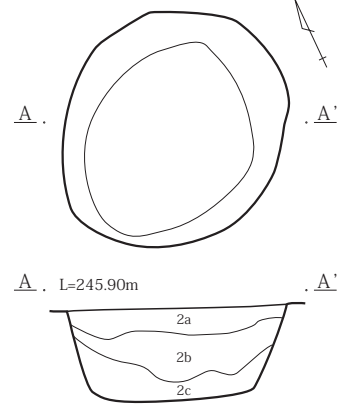
493号土坑



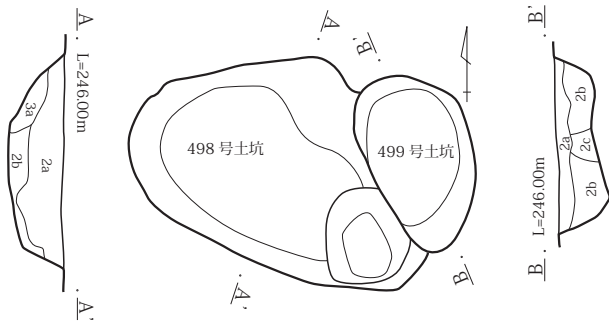
495号土坑



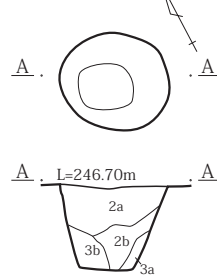
494号土坑



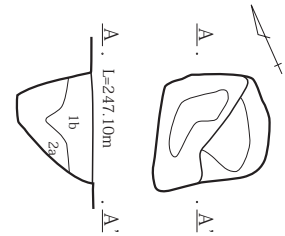
498・499号土坑



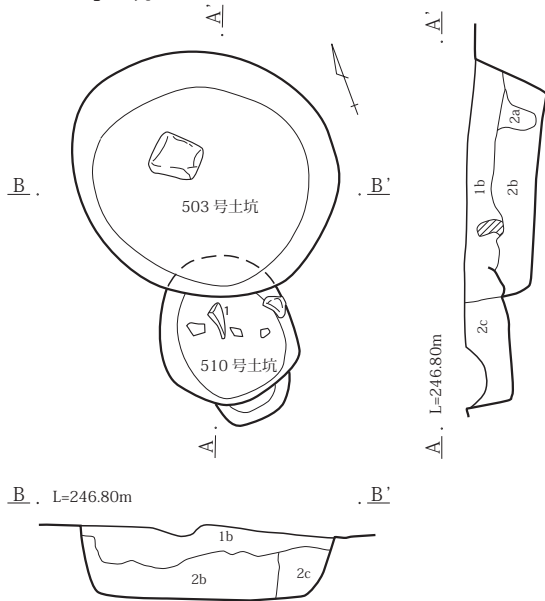
501号土坑



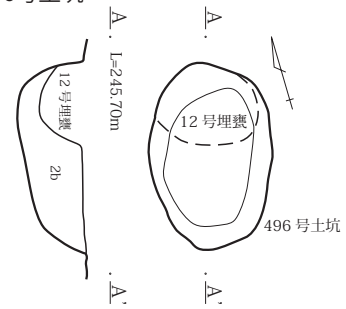
504号土坑



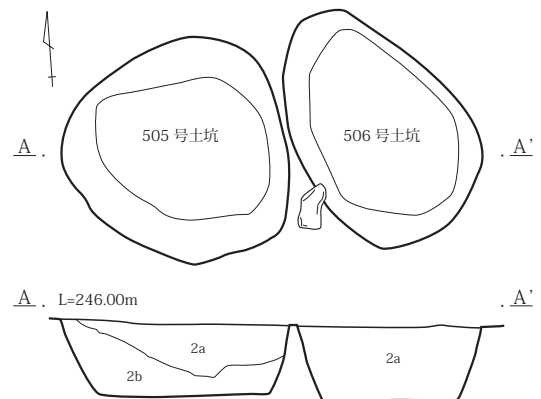
503・510号土坑



496号土坑



505・506号土坑



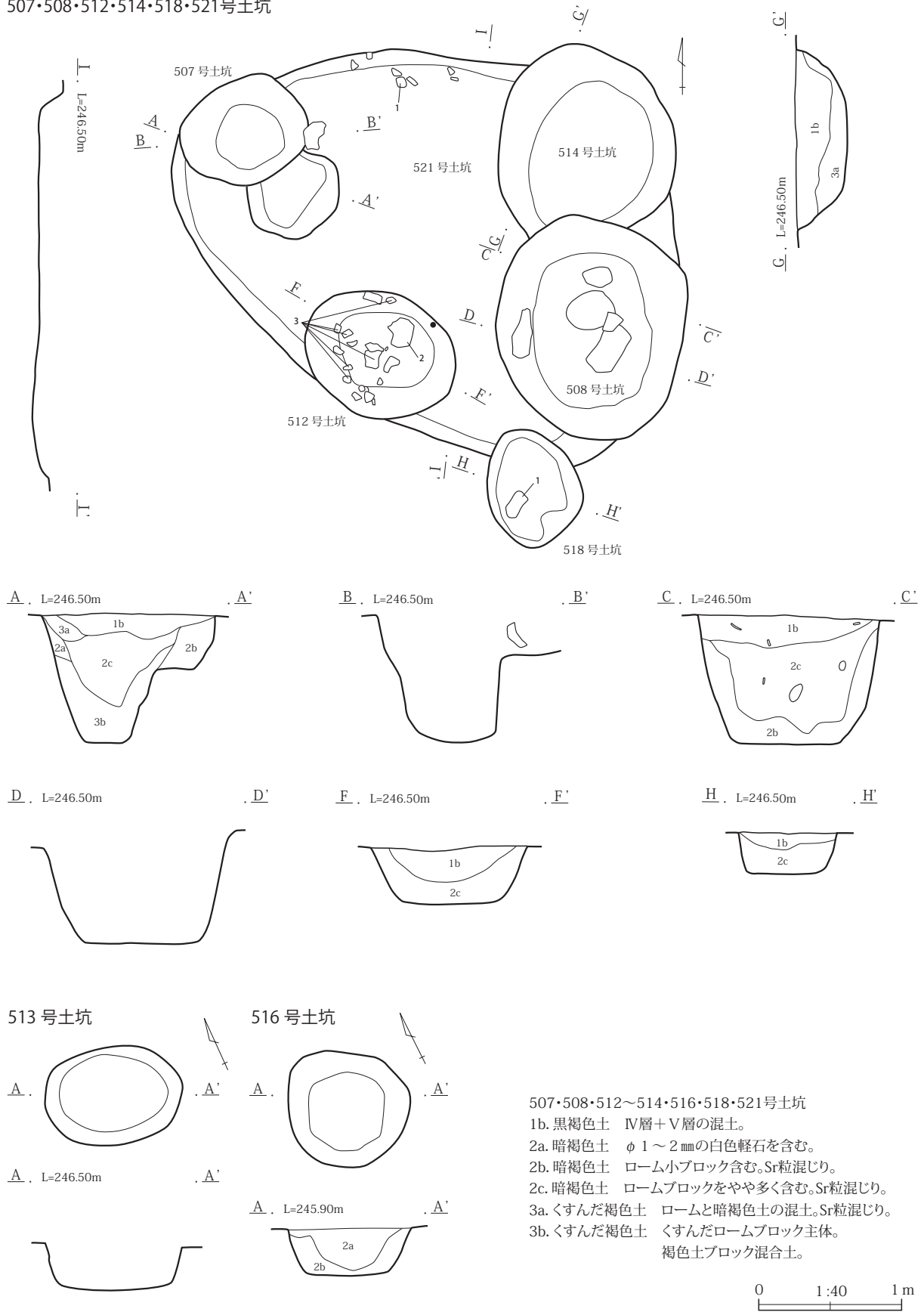
493～496・498・499・501・503～506・510号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

0 1:40 1m

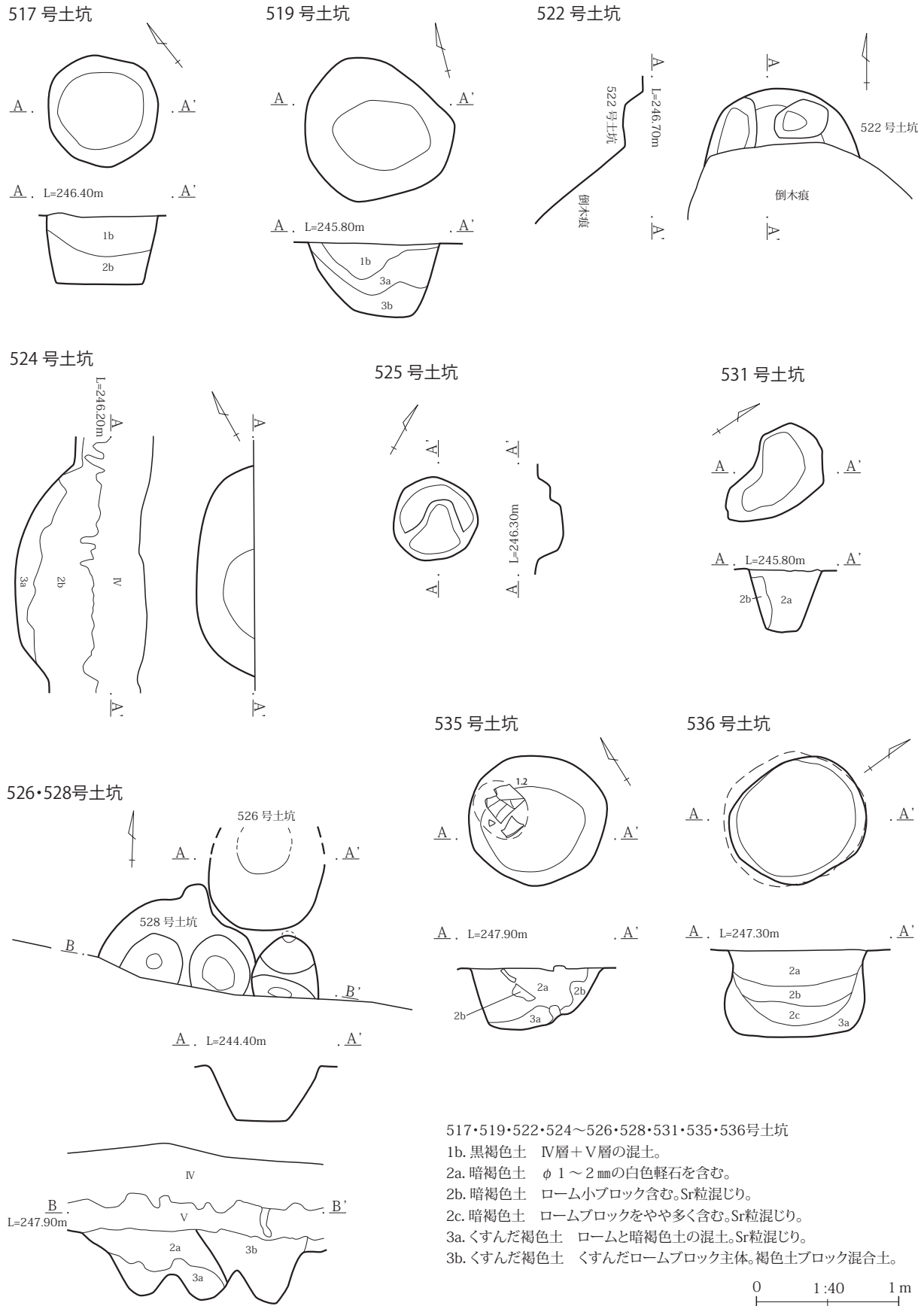
第192図 11区土坑 (45)

507・508・512・514・518・521号土坑



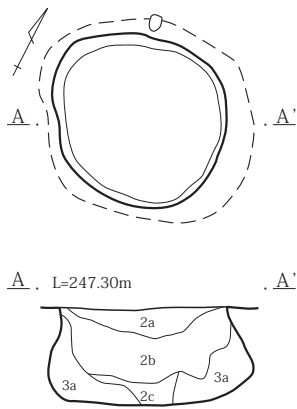
第193図 11区土坑 (46)

第5章 第4面の検出遺構

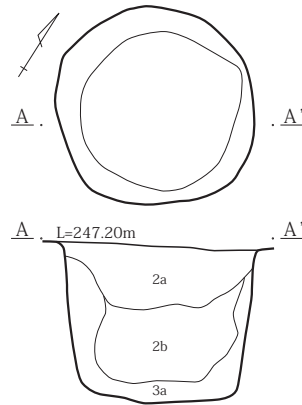


第194図 11区土坑 (47)

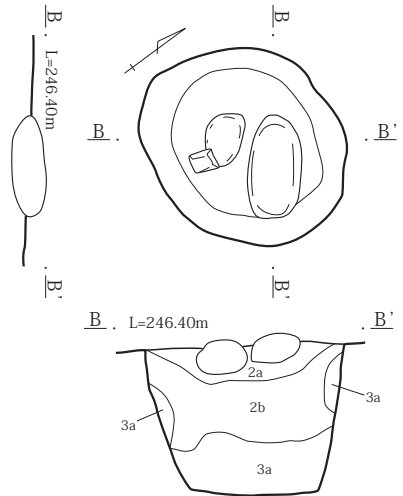
537号土坑



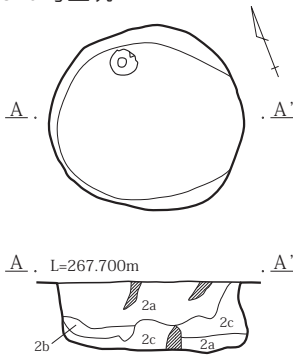
538号土坑



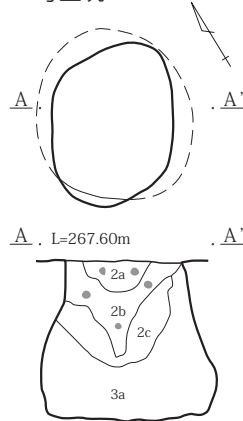
539号土坑



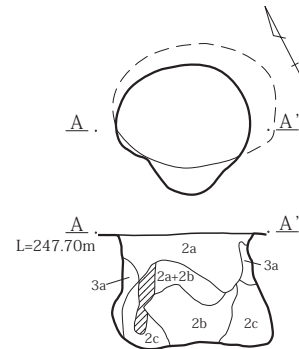
540号土坑



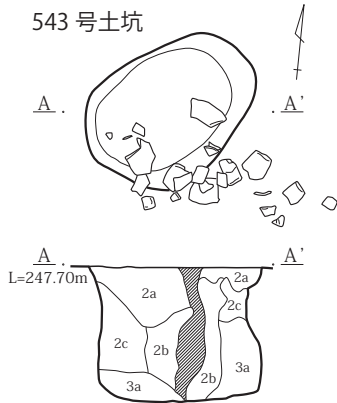
541号土坑



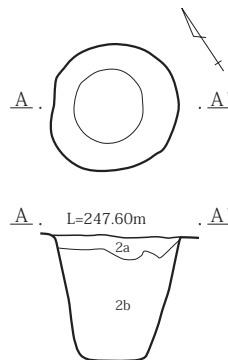
542号土坑



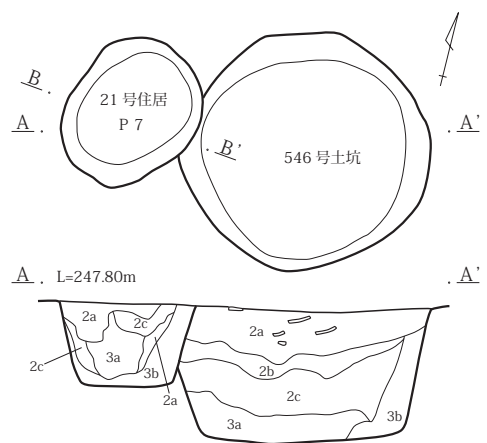
543号土坑



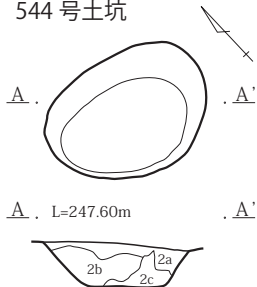
545号土坑



546号土坑



544号土坑



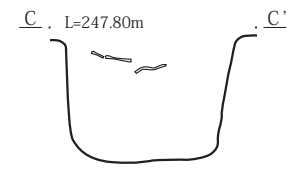
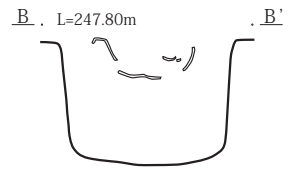
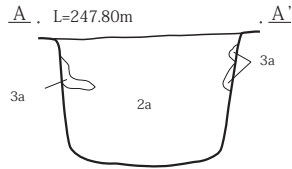
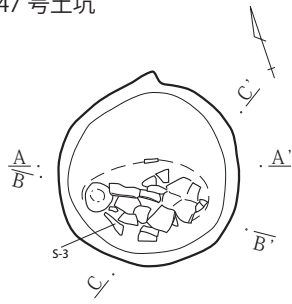
537~546号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ1~2mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

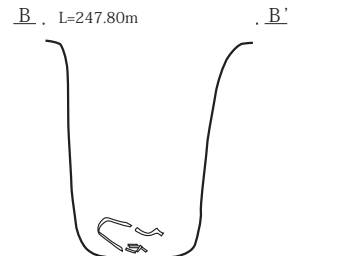
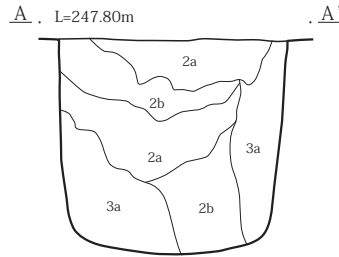
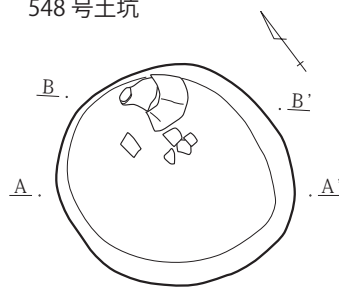
0 1:40 1m

第195図 11区土坑 (48)

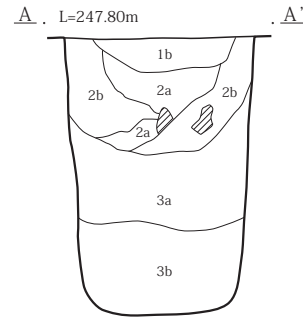
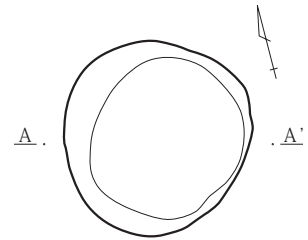
547号土坑



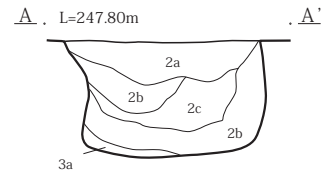
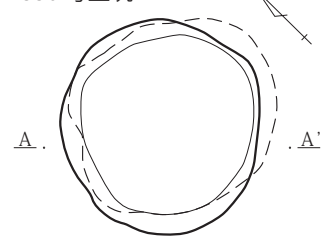
548号土坑



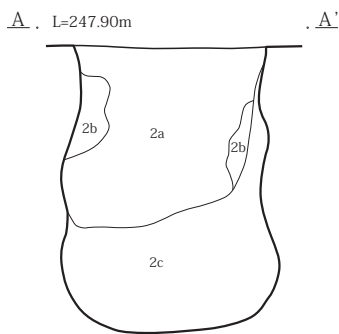
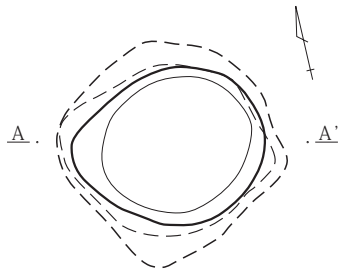
549号土坑



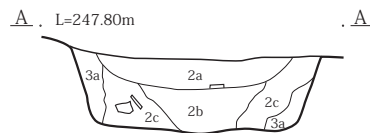
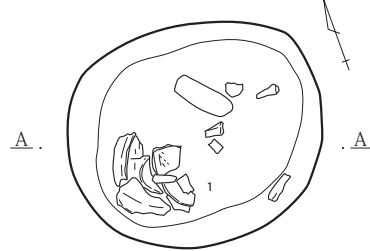
550号土坑



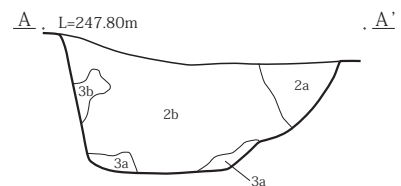
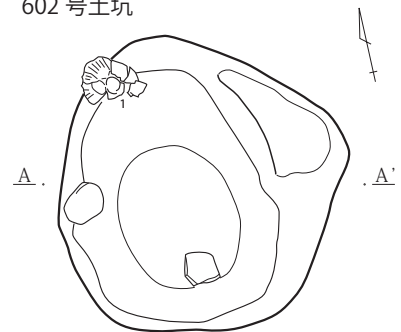
551号土坑



601号土坑



602号土坑



547～551・601・602号土坑

- 1b. 黒褐色土 IV層+V層の混土。
- 2a. 暗褐色土 φ 1～2 mmの白色軽石を含む。
- 2b. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。Sr粒混じり。
- 2c. 暗褐色土 ロームブロックをやや多く含む。Sr粒混じり。
- 3a. くすんだ褐色土 ロームと暗褐色土の混土。Sr粒混じり。
- 3b. くすんだ褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック混合土。

0 1:40 1 m

第196図 11区土坑 (49)

3. 配石

1. 配石遺構確認作業

11区の配石遺構調査は、平成17年度調査範囲である11区南半に集中し、9区で検出された配石遺構まで広がっていたと考える。検出した配石遺構は7箇所に分けた。配石遺構の確認面は、基本土層IV～VI層中のV層淡褐色土中に絞り込まれる。配石遺構周辺部は、遺構・遺物が密集し、包含層調査を行いながら遺構確認作業を行った。配石遺構の時期を特定する遺物は少なく、縄文時代中期以降と考える。

2. 配石遺構（遺構：第1分冊第197～205図、PL92～96 土器：第2分冊第159・160図、PL76 石器第3分冊第38～40図、PL30～32）

1号配石遺構 調査区南半中央の西壁寄りから西壁にかかるCf76～Ch80グリッド内で弧状の連鎖状に礫集中を確認し、A～Eの5ブロックに分け、1号配石として調査を行った。

Aブロック：西壁にかかる20cm前後の礫の集合。

Bブロック：70cmの板状の大礫を中心に、周囲に礫が集中する。

Cブロック：下位に土坑が密集する。西壁にかかり、20～40cmの礫が密集する。

Dブロック：40cm前後の礫が4石重ね置きされる。

Eブロック：配石北端の礫列。11石確認でき、30～45cm程の礫が直線に並べられる。

2号配石遺構 調査区中央やや南寄りのCj・Ch-81グリッド内で確認した。68cmの大礫と周辺部で50cm弱の礫の集中が見られ、その他の礫は明瞭な石組はないが3m×2mの長方形状を画するような礫配置が見られた。長方形状礫配置には30cm大の礫を2石1対で配置しているようである。配石内より埋襲検出した。埋襲は、2号配石内埋襲として掲載した。2の縄文時代中期の大型深鉢が出土した。

配石礫には、S1の多孔石出土。

3号配石遺構 調査区南半中央のCh・CJ-78～81グリッド内で検出した。礫集中はV層中で確認でき、A～Kの11ブロックに分け、3号配石として調査を行った。

A～Dブロック：配石南、70cm前後の礫を1石又は2石を中心にその脇から小礫を配する。

E～Fブロック：やや北西部に位置し、30～40cm前後の礫を組む又は積み上げる。下部より土器出土。

Gブロック：20cm前後の礫が集中する。

H・Jブロック：25cm前後の礫を直線的に並べる。

Iブロック：小礫が散在する。

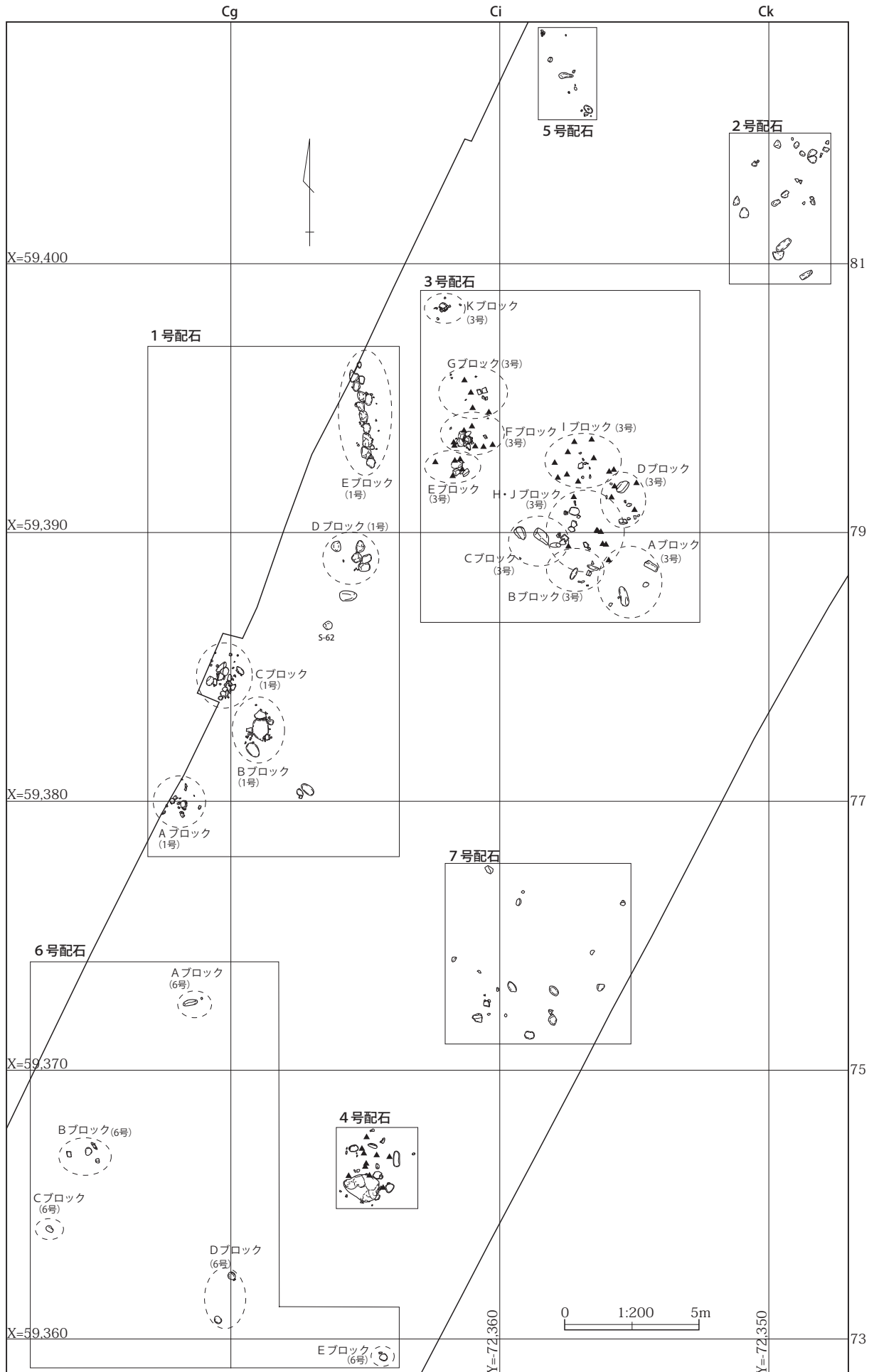
Kブロック：配石北西端で検出。小礫と共に1の縄文時代中期の深鉢が潰れた状態で出土。

4号配石遺構 調査区南半南東寄りのCg・Ch-74グリッド内のV層中で検出した。130cmの大礫を中心に30cm前後の礫が2m×1.5mの範囲を長方形状に画するよう点在した。

5号配石遺構 調査区中央の西壁寄りのCi-81・82グリッド内のV層中で検出した。礫の直線的に見える配置を確認した。

6号配石遺構 調査区南半の広範囲に点在する礫集中を一括した。Ch・CJ-73～75グリッド内で検出した。礫集中はV層中で確認でき、A～Eの5ブロックに分け、6号配石として調査を行った。各ブロックとも大礫1石又は2石が出土している。

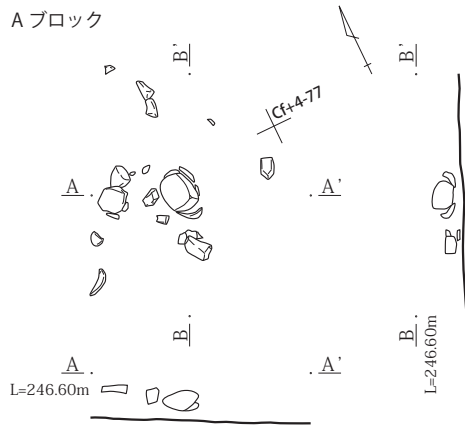
7号配石遺構 調査区南半中央東壁寄りのCh・Ci-75～76グリッド内で点在する礫とやや集中礫群を検出した。礫はV層中で確認でき、7号配石として調査を行った。



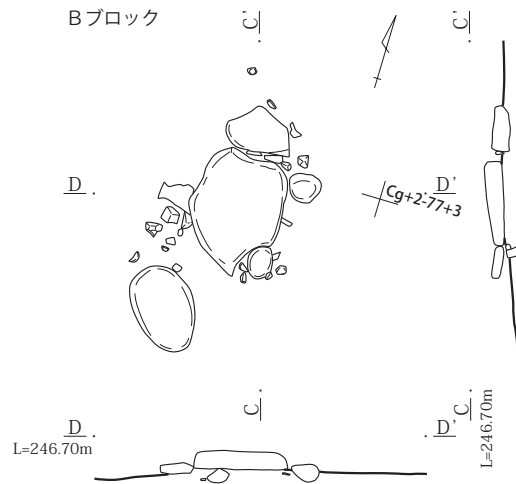
第197図 11区配石位置図

1号配石

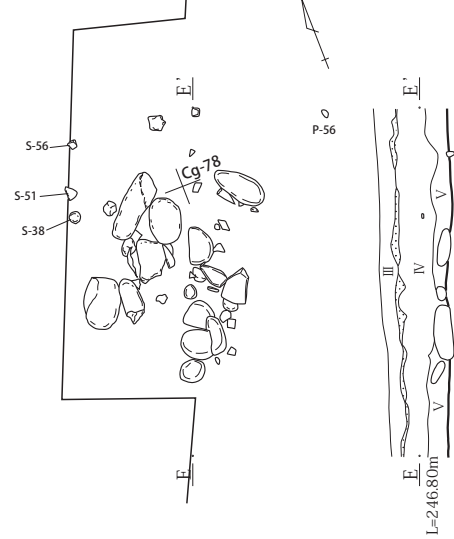
Aブロック



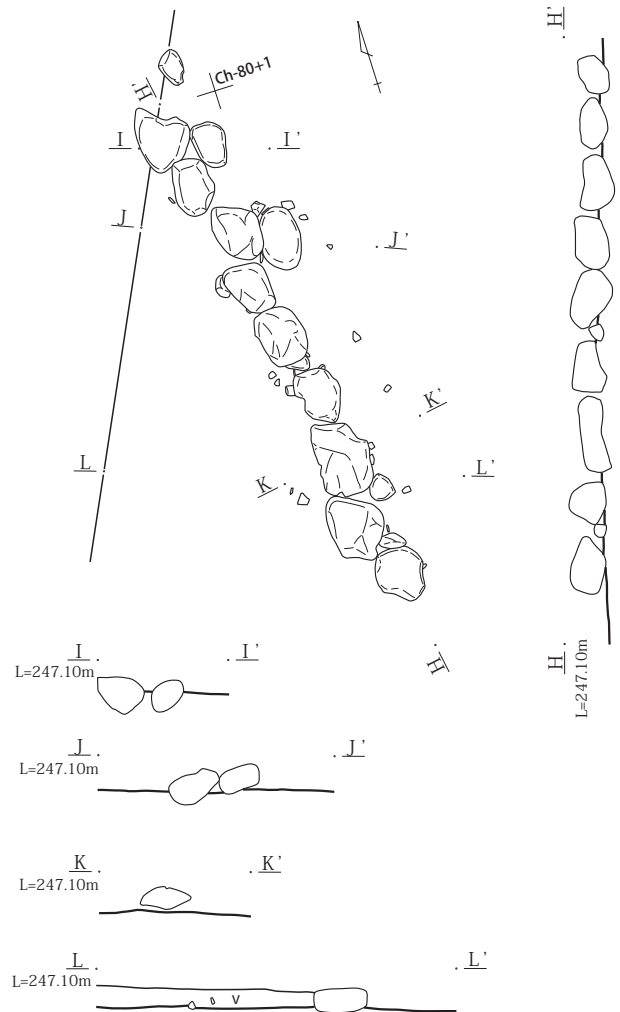
Bブロック



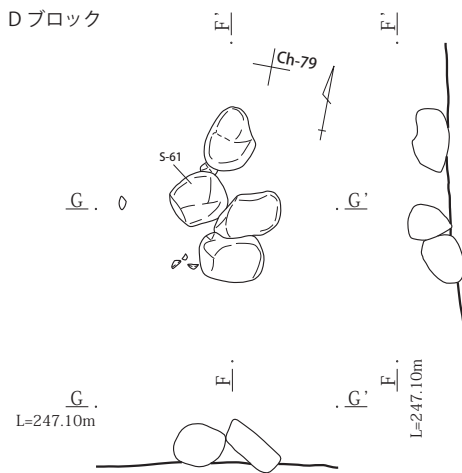
Cブロック



Eブロック



Dブロック



0 1:50 1m

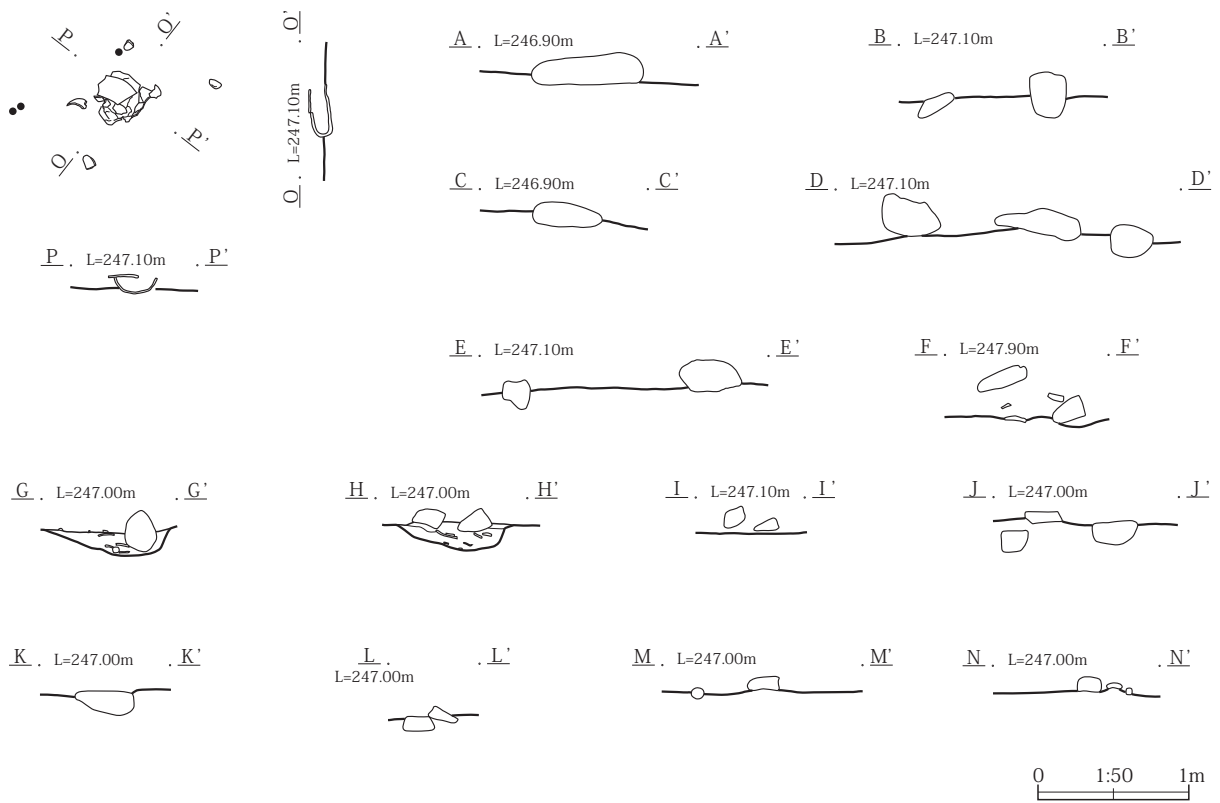
第198図 11区1号配石A~E

2号配石

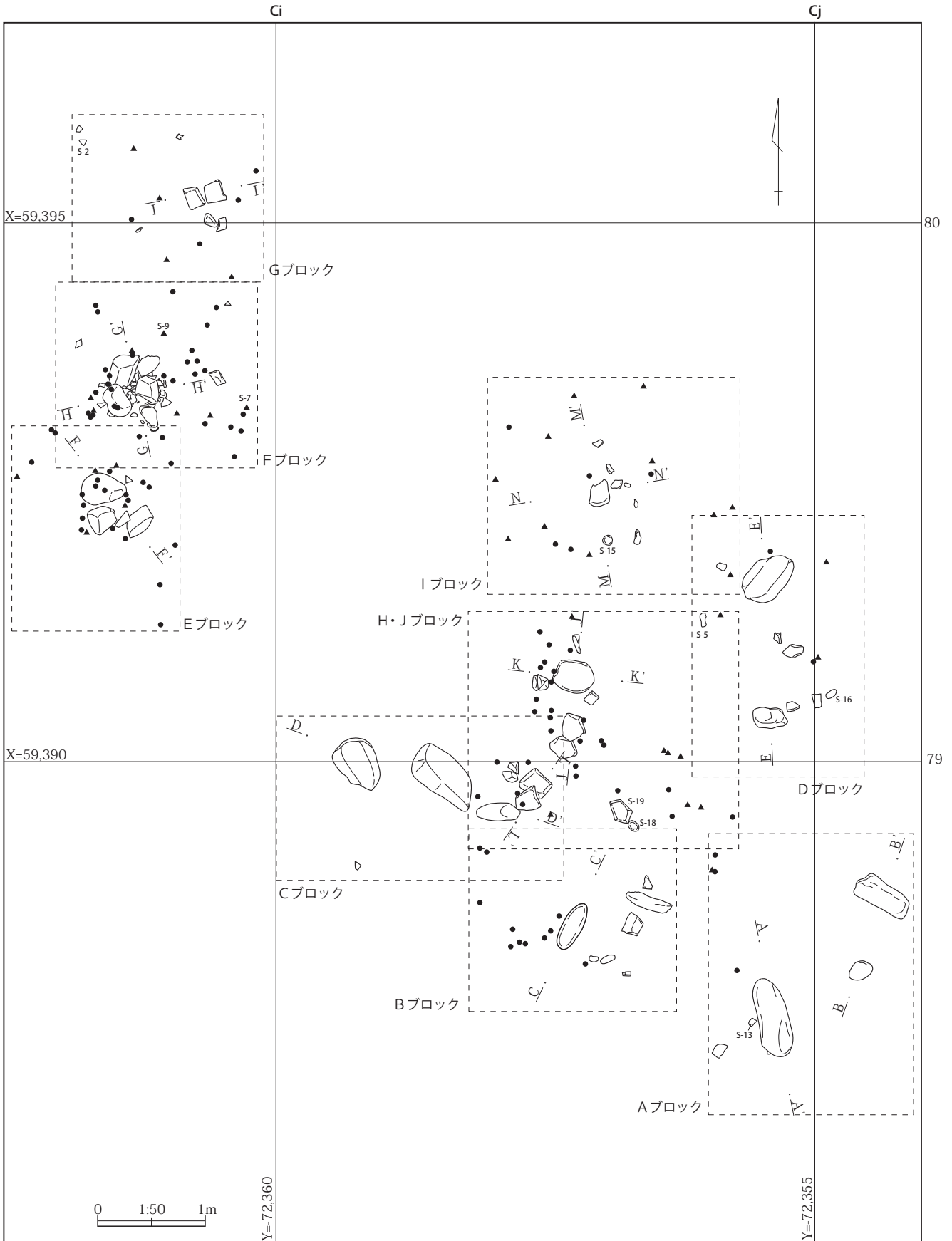


第199図 11区2号配石

Kブロック



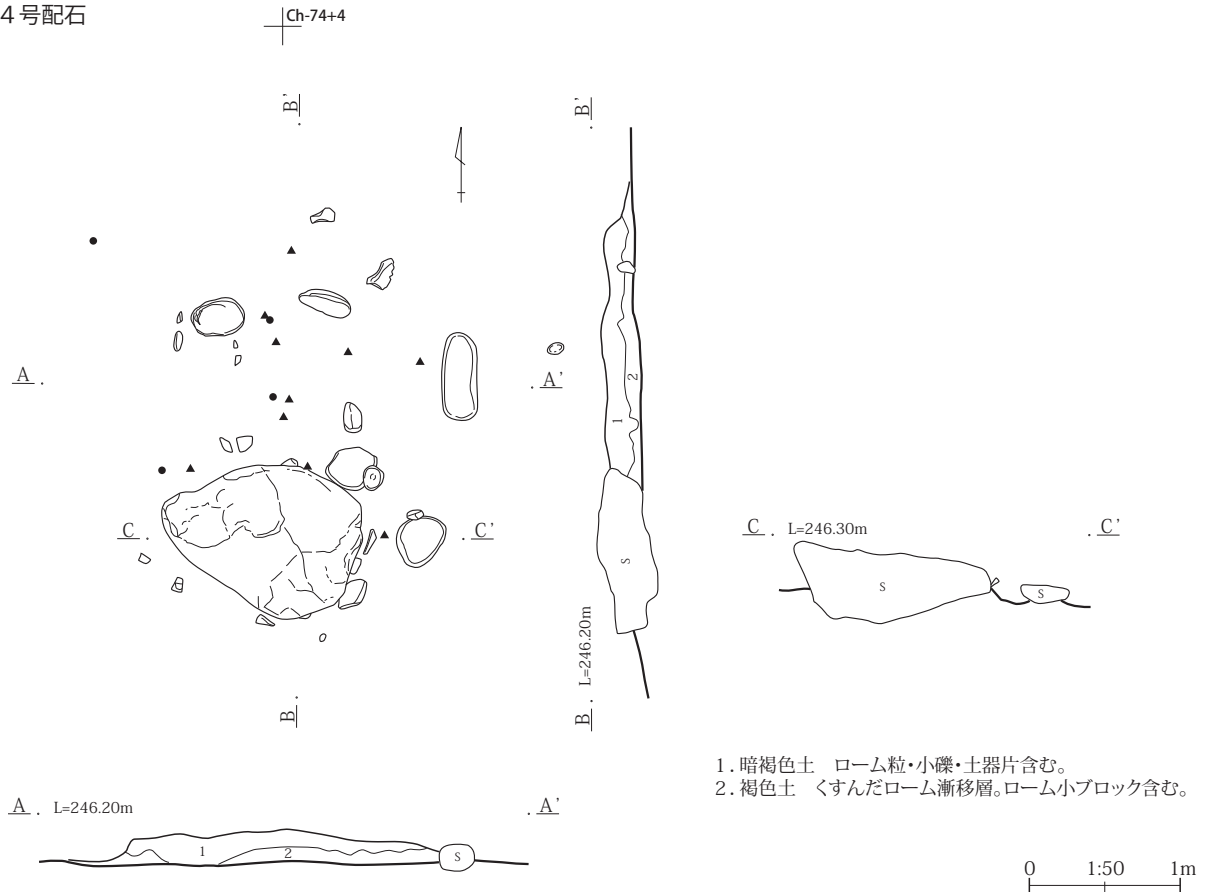
第200図 11区3号配石 (1)



第201図 11区3号配石 (2)

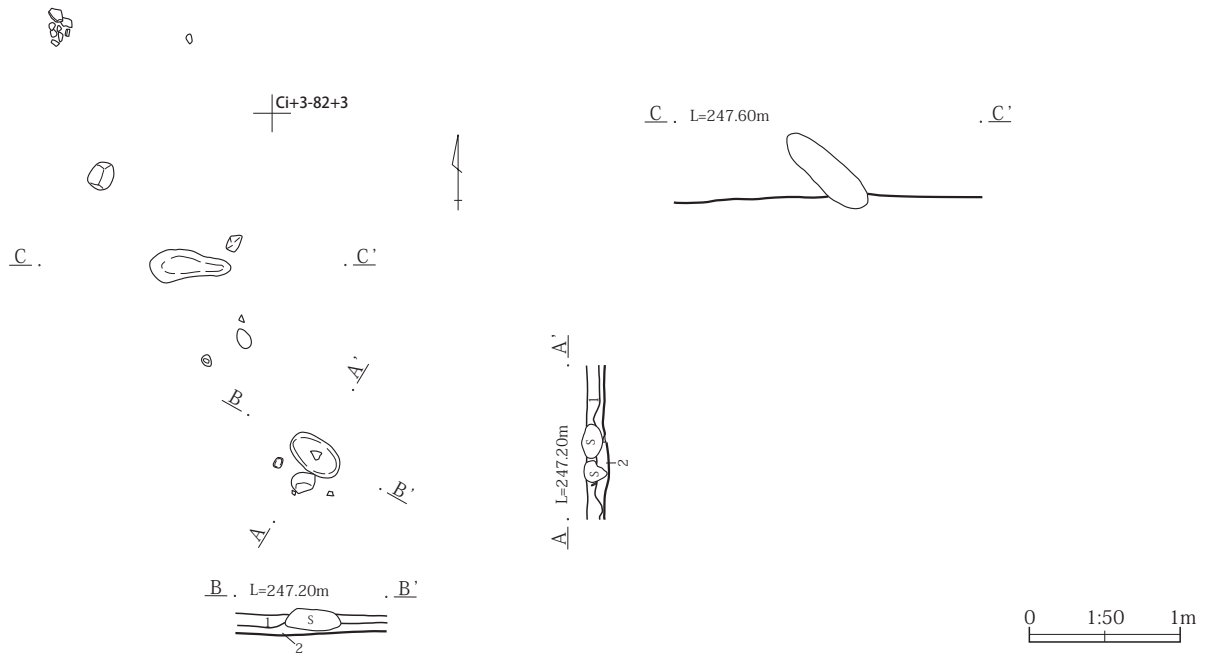
第5章 第4面の検出遺構

4号配石



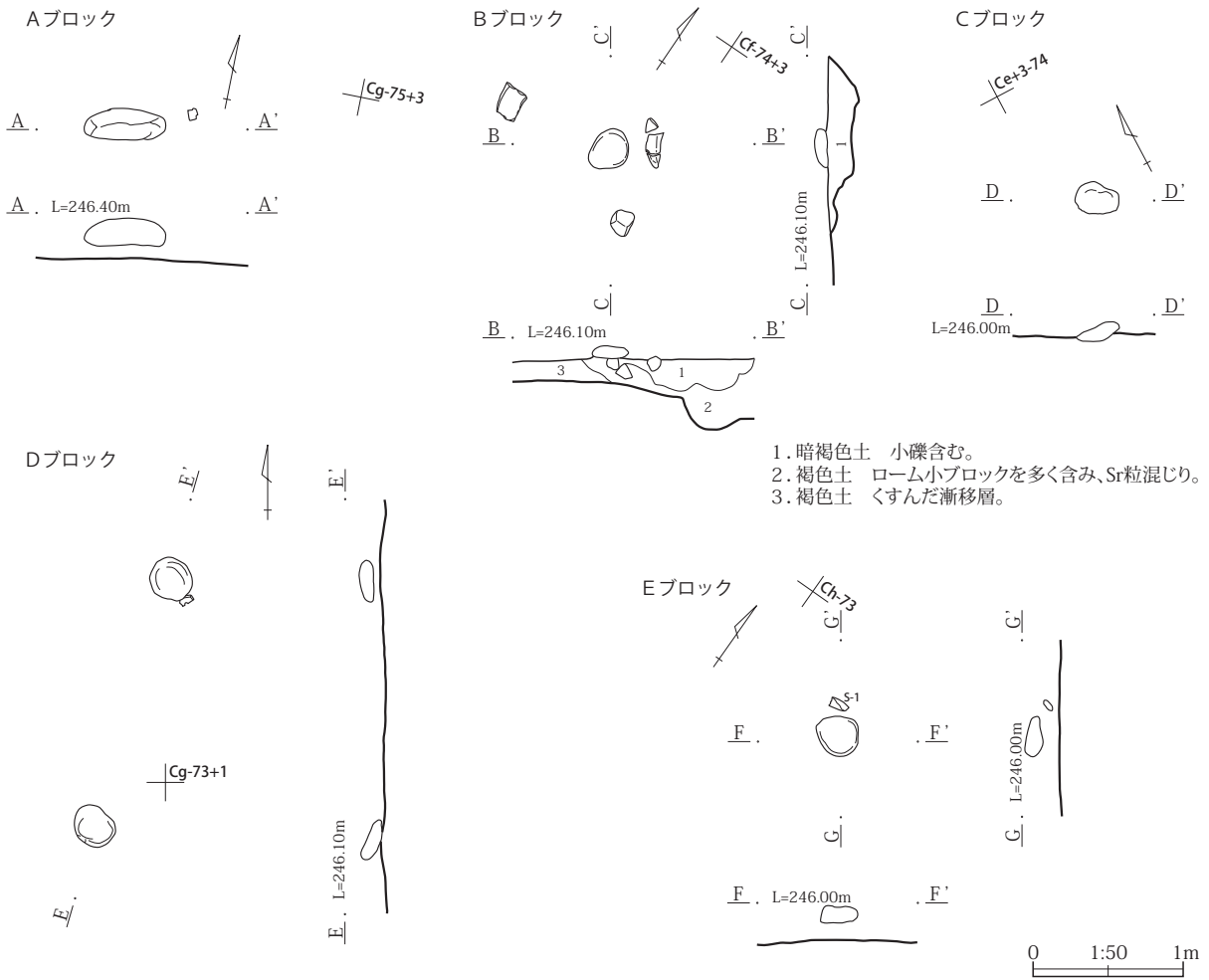
第202図 11区4号配石

5号配石



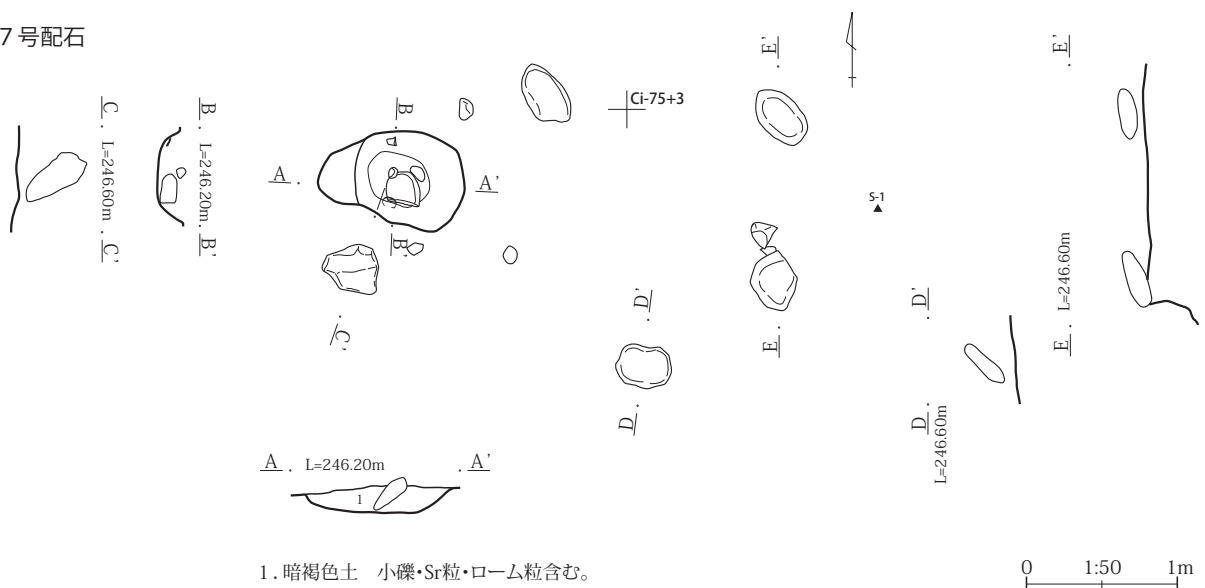
第203図 11区5号配石

6号配石



第204図 11区6号配石

7号配石



第205図 11区7号配石

4. 屋外炉

(遺構：第1分冊第206図、PL99 土器：第2分冊第161図、PL77 石器第3分冊第40・41図、PL32・33)

調査区北半の西壁際で検出した。確認時は円形土坑の240号土坑として調査を開始したが、数cm掘り下げたところで長方形の礫集中が確認でき、中央の礫を外したところ、深鉢底部が埋設され周囲に焼土が分布する石囲埋甕炉であることが分かり、屋外炉として調査を行った。屋外炉下部には多量の大礫や土器が投げ込まれた状態で出土した。土坑掘方は袋状を呈する。

位置：Cm-94 **重複：**なし **形状：**土坑の平面形は円形、断面は袋状を呈する。 **規模：**土坑部分の径114cm、深さ58cmを測る。 **埋没土：**上層から中層にかけて石囲埋甕炉が構築され、下部は礫及び土器片が遺棄された状況が見られた。

石囲埋甕炉 形状：長方形 **方位：**N-70° -W **規模：**長軸68cm、短軸60cm、20cmを測る。

遺物：土器 中央に炉体土器として2の深鉢底部が埋設されていた。 石器 中央の礫混じりの中にS4の石皿、S5の多孔石が混じり、炉の石組みにS1の磨石、S2の砥石、S6の台石が転用されていた。 **時期：**炉体土器及び土坑内出土土器からは縄文時代中期と考える。

5. 埋甕

(遺構：第1分冊第207～212図、PL96～99 土器：第2分冊第162～168図、PL77～79)

調査区北端で1号・2号埋甕の2基が散在し、南端に12号埋甕1基のみ点在する。その他の10基は住居・土坑群に集中する。13基の埋甕を検出した。

1号埋甕 位置：Co-95・96 **重複：**26号住居内 **形状：**円形で断面階段状の掘方で中央部に正位に深鉢が埋設される。 **規模：**土坑規模は径約150cm、深さ56cmを測る。埋設土器は高さ72cmを測る大型深

鉢である。

時期：縄文時代中期後半

2号埋甕 位置：Cp-93 **重複：**なし **形状：**土器形状に合わせ円形で断面台形の掘方。正位に深鉢が埋設される。

時期：縄文時代中期後半

3号埋甕 位置：C1-83 **重複：**P288が掘り込む。 **形状：**不定形で浅い掘り込みの掘方で、土器埋設部分が土器に併せて掘り込まれる。正位に深鉢が埋設される。

時期：縄文時代中期後半

4号埋甕 位置：Ck-75 **重複：**なし **形状：**楕円形で断面台形の掘方。中央部に横位に深鉢が出土。 **規模：**長軸約165cm、深さ56cmを測る。

時期：縄文時代後期前半

5号埋甕 当初の確認時には376号土坑として調査を開始したが、内部より2点の深鉢が正位の埋設状態で並んで出土したため5号埋甕とした。

位置：Ck-75 **重複：**56号住居炉を掘り込む。

形状：56号住居炉を掘り込み構築され、2個体の深鉢土器が正位に埋置され、土器形状に合わせ掘り込まれたと考える。

時期：縄文時代中期後半

6号埋甕 確認時には長方形土坑の260号土坑として調査を開始した。中層から長形状の礫配置や正位に埋設された深鉢が出土し、6号埋甕とした。

位置：Ci-78 **重複：**260号土坑を掘り込む。

形状：礫配置では長方形を呈する。 **規模：**礫配置は長軸80cm、短軸60cm、深さ40cmを測る。

時期：縄文時代中期後半

7号埋甕 位置：Cg・Ch-74 **重複：**なし **形状：**長方形を呈する。埋甕は正位に埋置された深鉢胴部片がわずかに巡る。 **規模：**長軸54cm、短軸30cm、

深さ8cmの丸底状に掘り込まれ、土器は西辺に埋設される。

時期：縄文時代中期

8号埋甕 大型の両耳壺が埋設されていた。

位置：Ch-77 重複：なし 形状：楕円形状を呈する。規模：長軸130cm、短軸88cm、深さ30cmを測り、中央部が土器埋設のため掘り込まれ、逆三角形を呈する。

時期：縄文時代中期後半

9号埋甕 位置：Ci-78 重複：なし 形状：土器形状に合わせて掘り込まれたと考えられるが、方形に近い楕円形を呈する。規模：長軸44cm、短軸39cm、深さ12cmを測る。

時期：縄文時代後期前半

10号埋甕 位置：Cj-79 重複：55号住居を掘り込み、362号土坑に切られる。形状：深鉢土器の2個体を重ね正位に埋置し、その土器形状に合わせて掘り込まれたと考える。規模：1辺75cm、深さ26cmを測る。

時期：縄文時代中期後半

11号埋甕 位置：Ci-79 重複：114号土坑を掘り込む。形状：深鉢土器を正位に埋置し、その土器形状に合わせて掘り込まれたと考える。規模：1辺36cm、深さ18cmを測る。

時期：縄文時代中期後半

12号埋甕 位置：Cf-70 調査区南端部で検出した。重複：496号土坑を掘り込む。形状：深鉢土器を正位に埋置し、土器形状に合わせて掘り込んだと考える。規模：長軸51cm、短軸42cm、深さ22cmを測る。

時期：縄文時代後期前半

13号埋甕 位置：Ch-77 重複：なし 形状：掘り込みは検出できず、逆位で出土した。規模：計測不能

時期：縄文時代後期前半

6. ピット

(遺構：第1分冊第213～219図、石器第3分冊第41図、PL33)

ピットとして柱や支柱等を建てるために掘り込まれたと考えられる小規模な穴をピットとした。

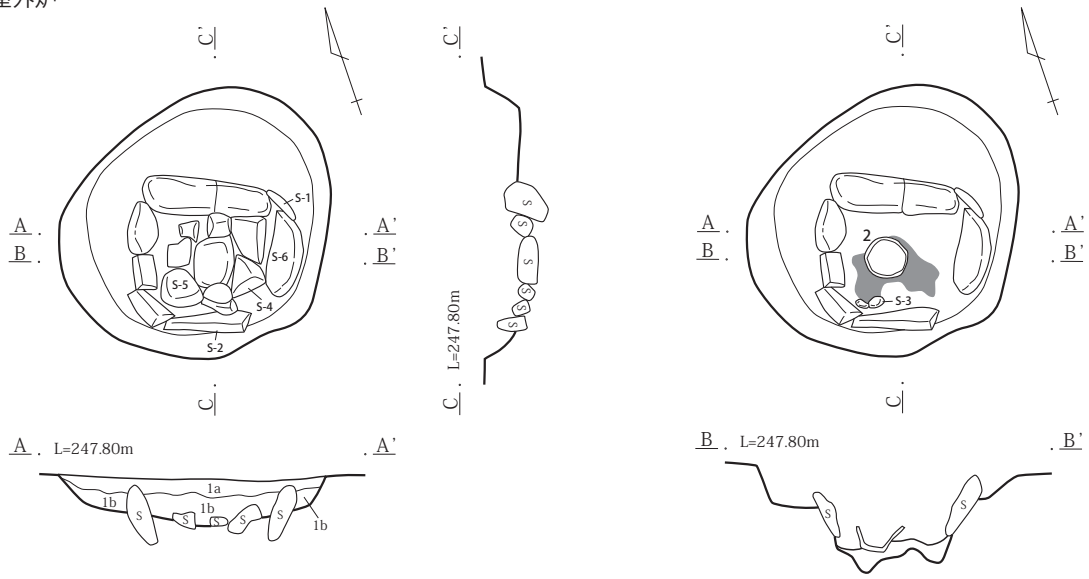
ピットの検出は11区の調査においては基本土層IV層黒褐色土からV層の淡褐色土へ移行する境界面で淡褐色土中に黒褐色土の入るピット群を検出し、4面ピットとして調査を開始した。調査は、概略図を作成しながら配置を確認し、各ピットを半分掘り下げ断面観察を行い、土層堆積状況などで色分けをした。観察の結果、浅い掘り込みや斜めに伸びる根株痕状のピットや底面の不明瞭なピット等もあった。それらを除き287基に番号を付した。この面では掘立柱建物のピット配置や列で並ぶ配置等の規則性のあるピットは検出できなかった。その後、遺物包含層調査を行い実施しながら遺構確認を行い、住居・土坑等の検出面でピットの調査を行った。その際に新たにピット番号を1から付し、503号ピットまで数えた。その他にもピットは多数有り、配置や土層堆積状況の確認を行った。この面でも掘立柱建物のピット配置や列で並ぶ配置等の規則性のあるピットは検出できなかった。



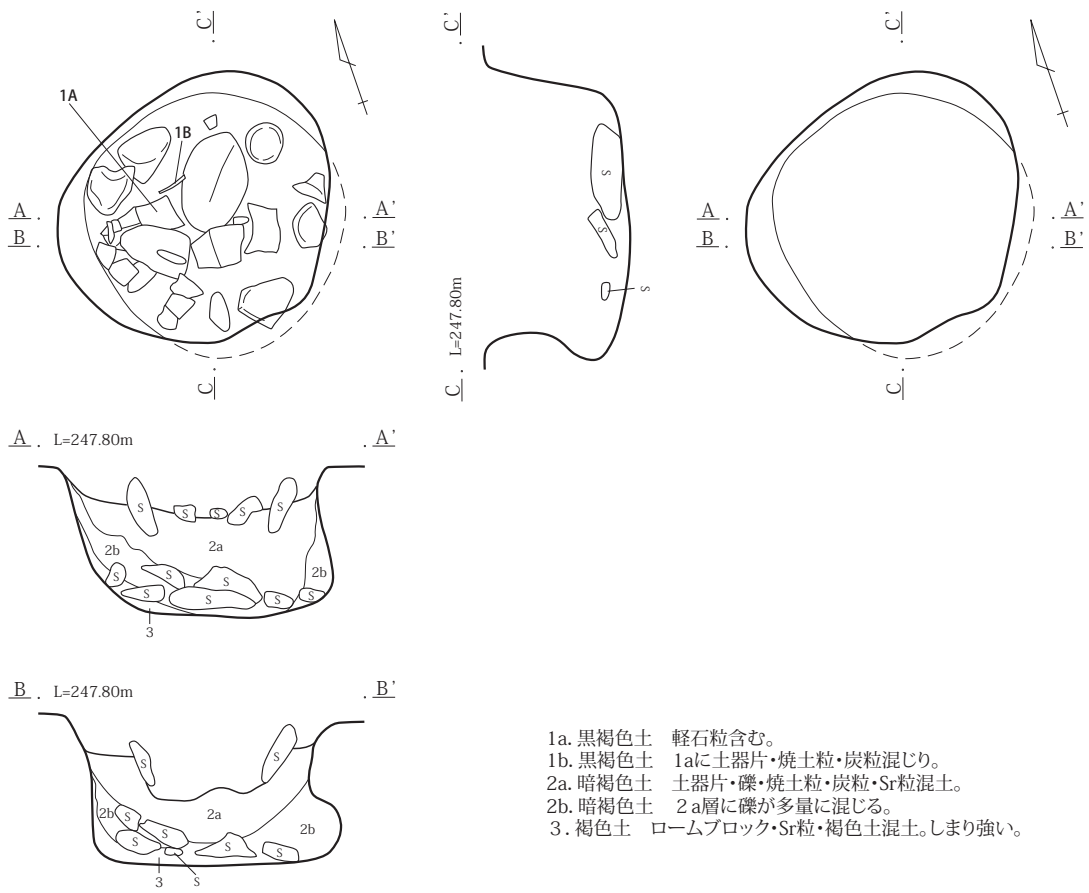
11区北調査区 V層上面のピット検出

第5章 第4面の検出遺構

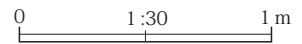
1号屋外炉



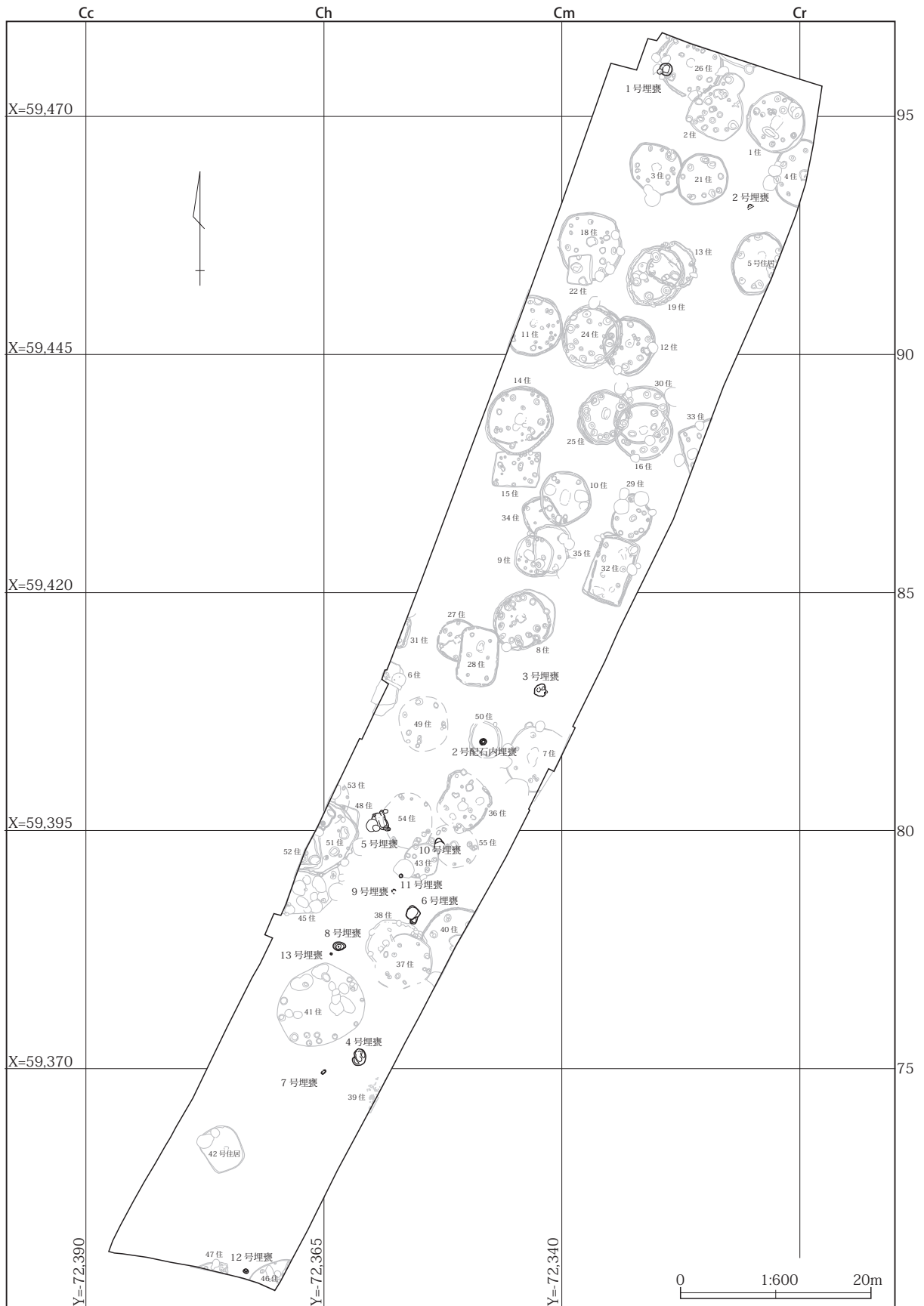
遺物出土状況図



- 1a. 黒褐色土 軽石粒含む。
- 1b. 黒褐色土 1aに土器片・焼土粒・炭粒混じり。
- 2a. 暗褐色土 土器片・礫・焼土粒・炭粒・Sr粒混じり。
- 2b. 暗褐色土 2a層に礫が多量に混じる。
- 3. 褐色土 ロームブロック・Sr粒・褐色土混土。しまり強い。



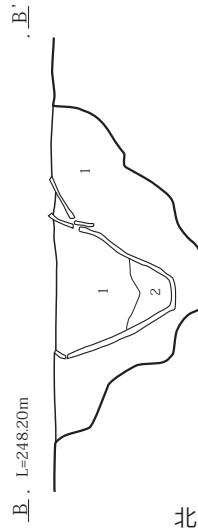
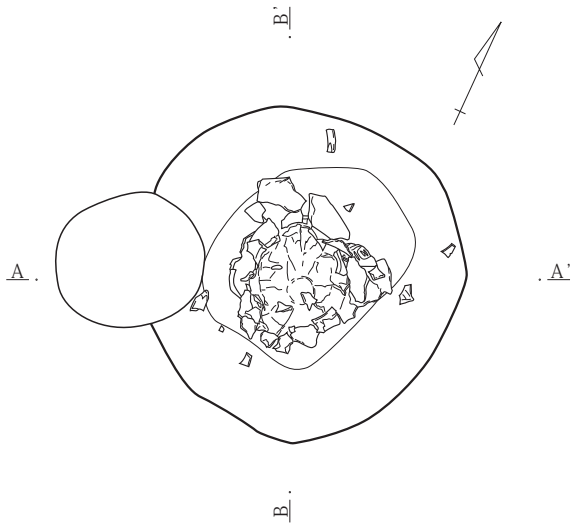
第206図 11区1号屋外炉



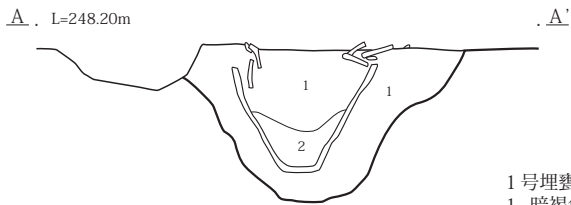
第207図 11区埋葬配置図

第5章 第4面の検出遺構

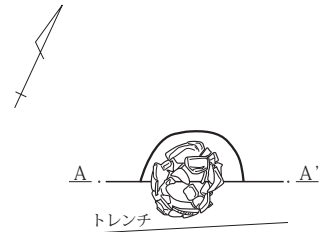
北4面1号埋甕



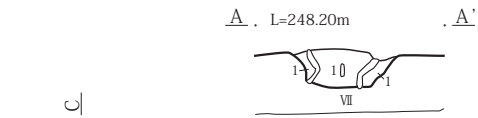
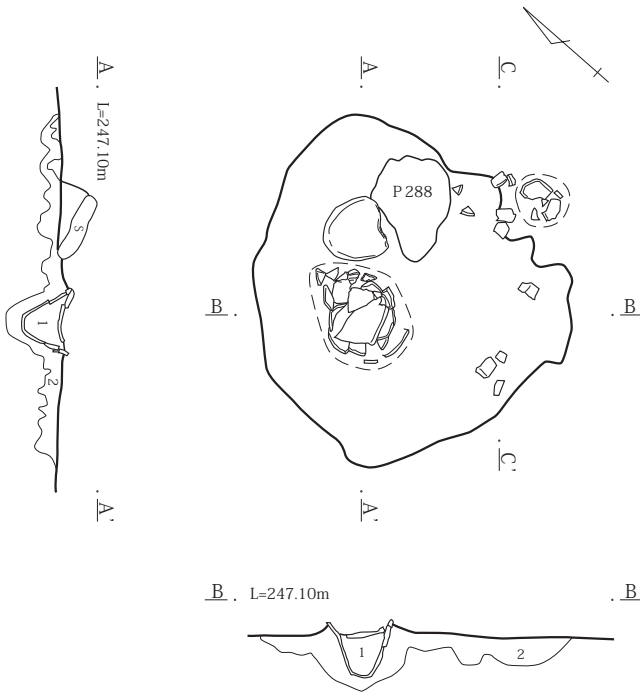
北4面2号埋甕



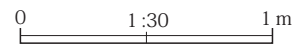
- 1号埋甕
 1. 暗褐色土 Sr粒まばらに混じる。
 2. 暗褐色土 ローム含む。



北4面3号埋甕

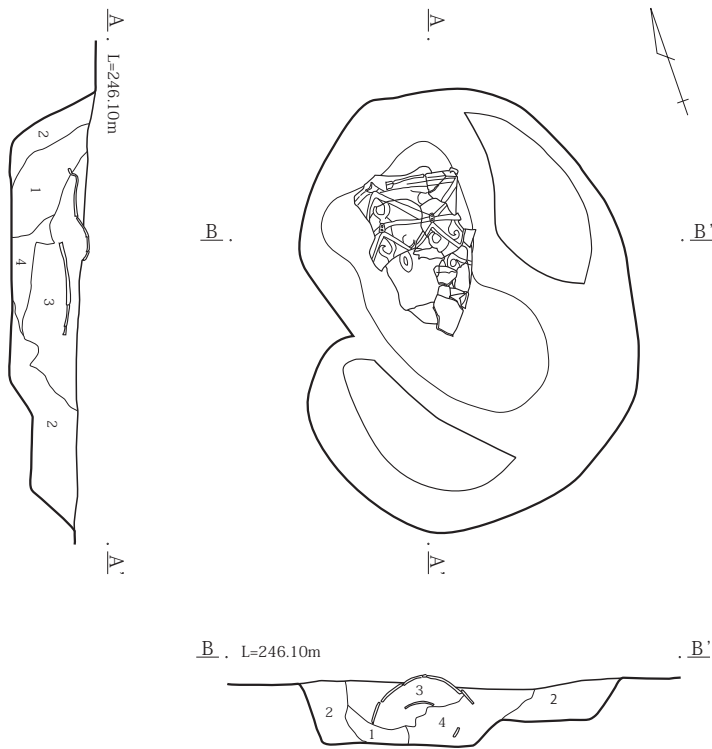


- 2号・3号埋甕
 1. 暗褐色土 ローム粒少量含む。
 2. 暗褐色土 ロームブロック混じり。Sr粒含む。



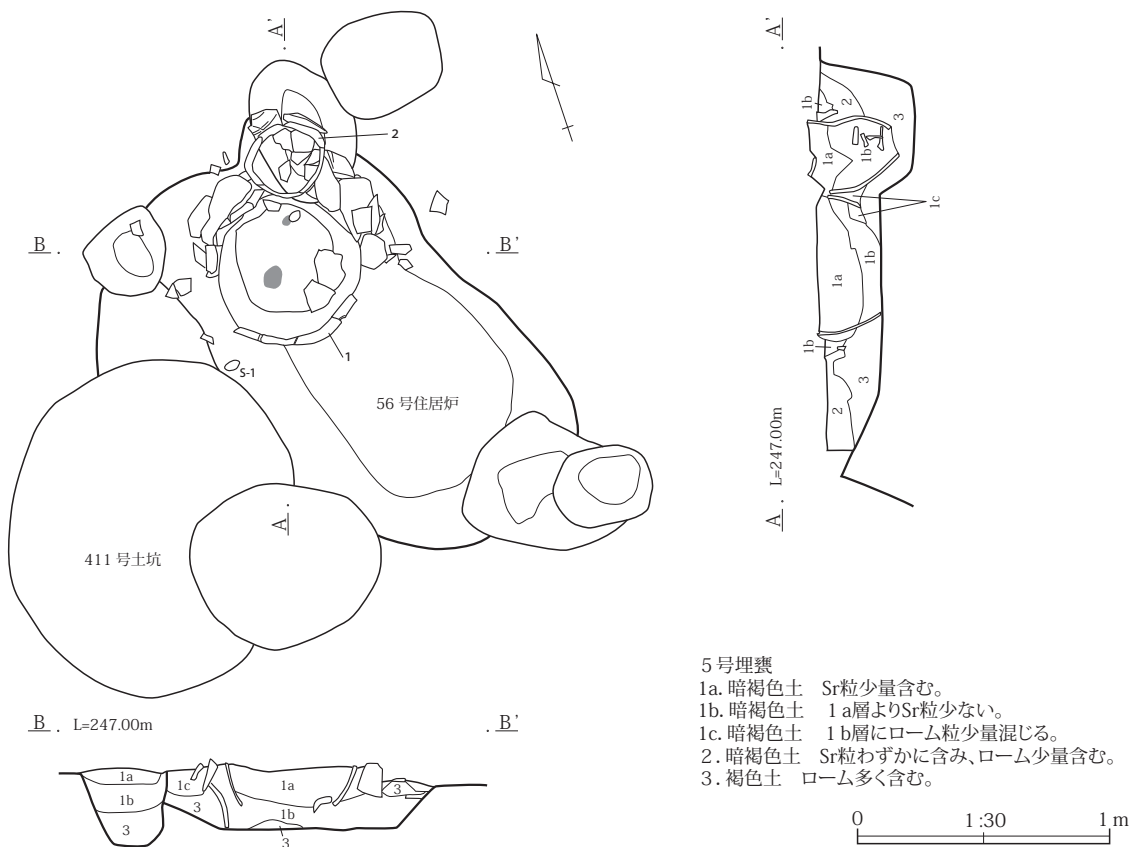
第208図 11区1号～3号埋甕

南4面4号埋甕



- 4号埋甕
 1. 暗褐色土 Sr粒少量含む。
 2. 暗褐色土 1層にローム粒わずかに含む。
 3. 暗褐色土 Sr粒をわずかに含む。
 4. 褐色土 ローム小ブロック混じる。

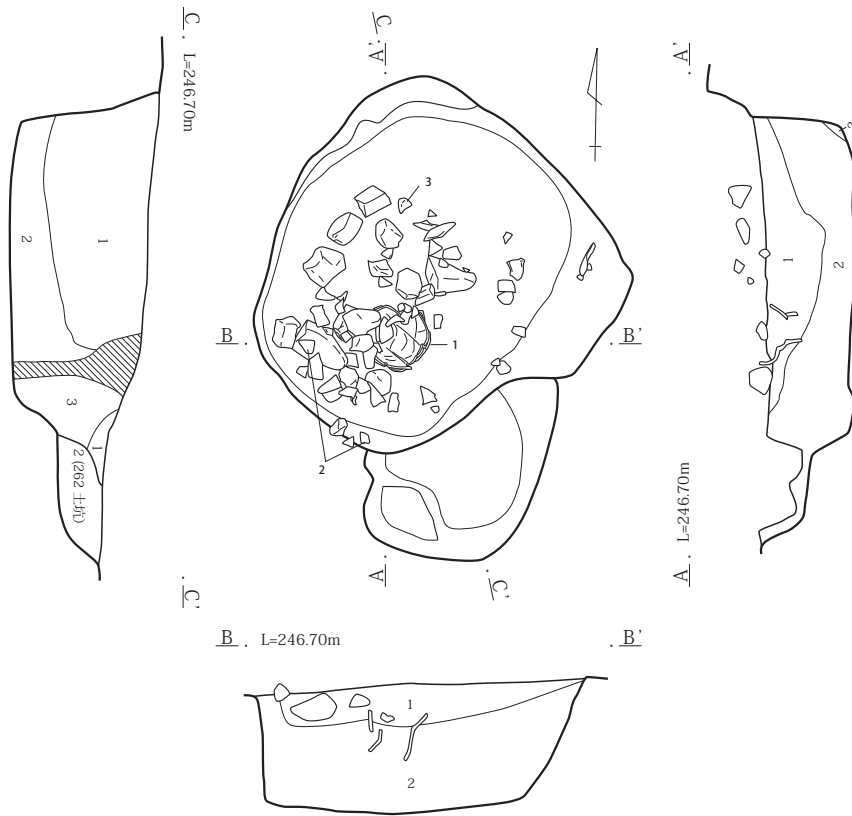
南4面5号埋甕



- 5号埋甕
 1a. 暗褐色土 Sr粒少量含む。
 1b. 暗褐色土 1a層よりSr粒少ない。
 1c. 暗褐色土 1b層にローム粒少量混じる。
 2. 暗褐色土 Sr粒わずかに含み、ローム少量含む。
 3. 褐色土 ローム多く含む。

第209図 11区4号・5号埋甕

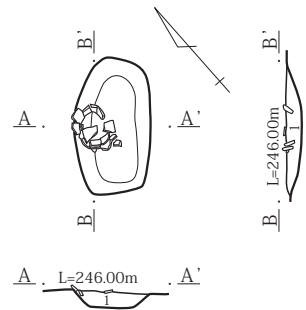
南4面6号埋甕



6号埋甕

- 1. 暗褐色土 Sr粒含む。
- 2. 茶褐色土 ロームブロックとSr粒を多量に含む。
- 3. 茶褐色土 ロームブロックと褐色土の混土。

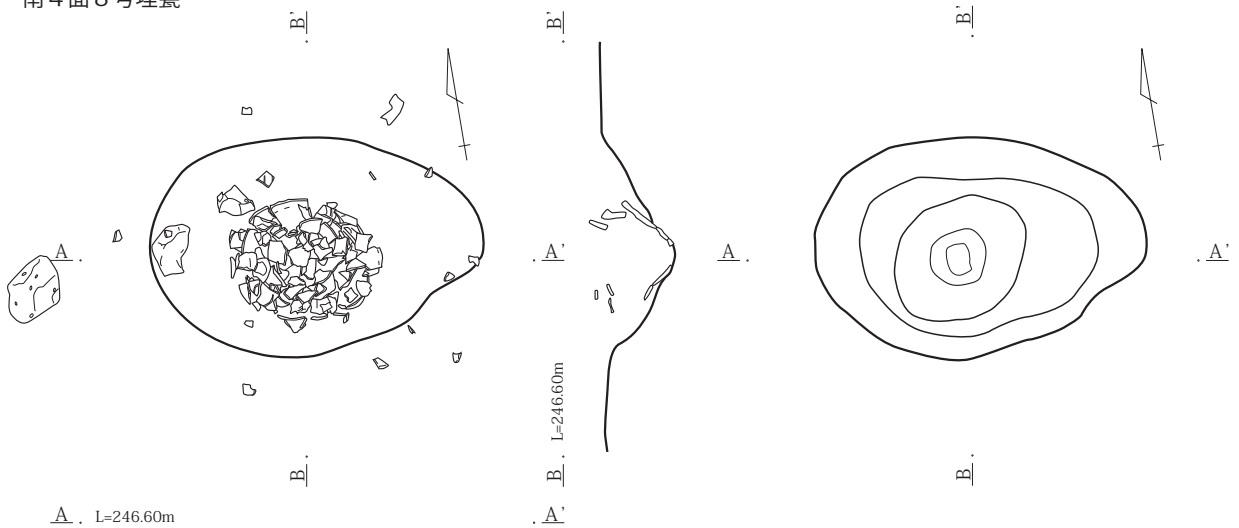
南4面7号埋甕



7号埋甕

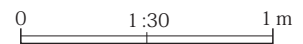
- 1. 褐色土 ロームと褐色土の混土。

南4面8号埋甕



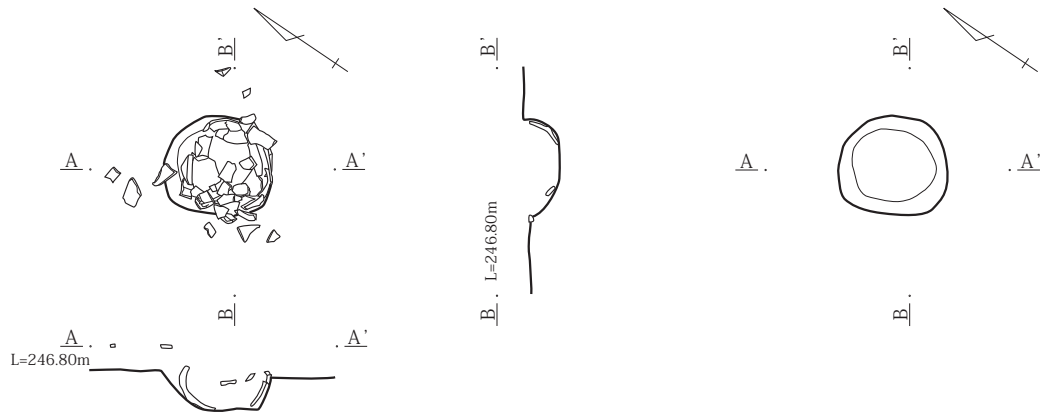
8号埋甕

- 1. 暗褐色土 Sr粒・ローム粒少量混じる。
- 2. 暗褐色土 1層よりローム粒多く含む。
- 3. 褐色土 ローム混じり。

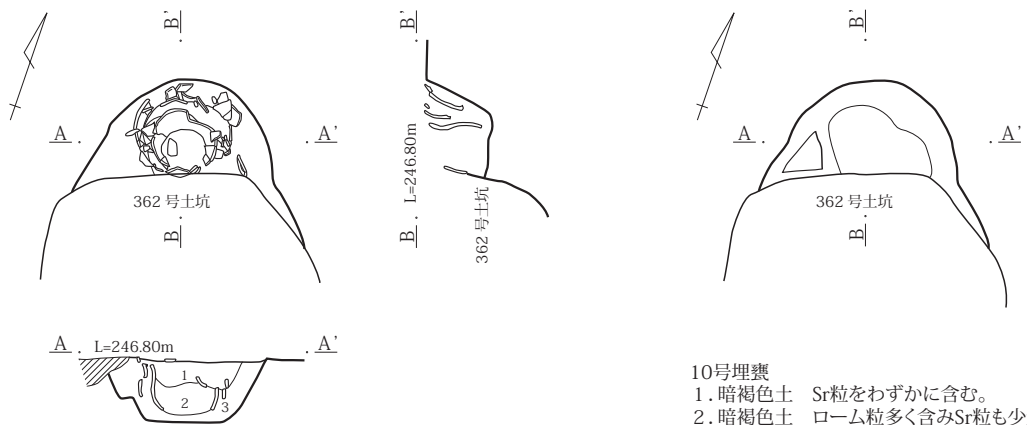


第210図 11区6号～8号埋甕

南4面9号埋甕



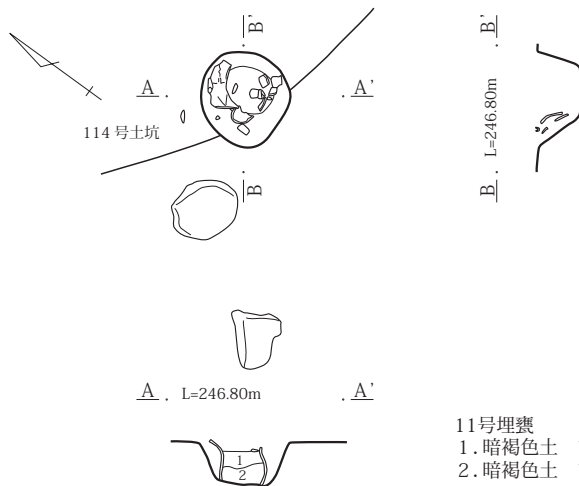
南4面10号埋甕



10号埋甕

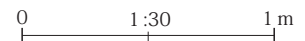
1. 暗褐色土 Sr粒をわずかに含む。
2. 暗褐色土 ローム粒多く含みSr粒も少量含む。
3. 暗褐色土 ローム粒・ブロック混土。

南4面11号埋甕



11号埋甕

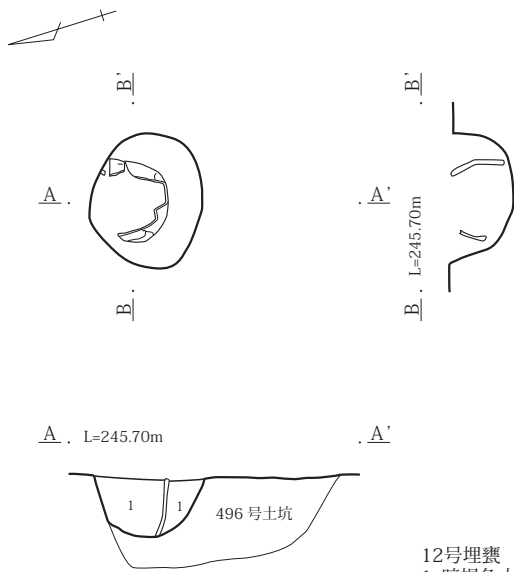
1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒を少量含む。



第211図 11区9号～11号埋甕

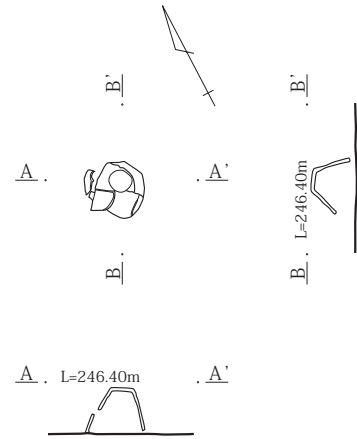
第5章 第4面の検出遺構

南4面12号埋甕

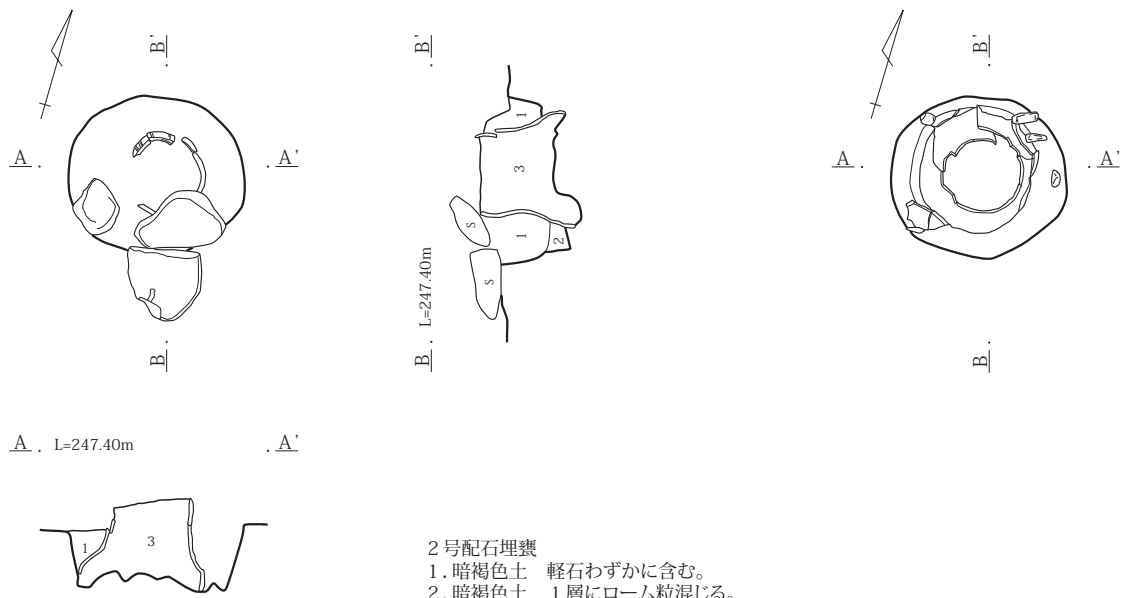


12号埋甕
1. 暗褐色土 Sr粒を少量含む。

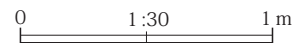
南4面13号埋甕



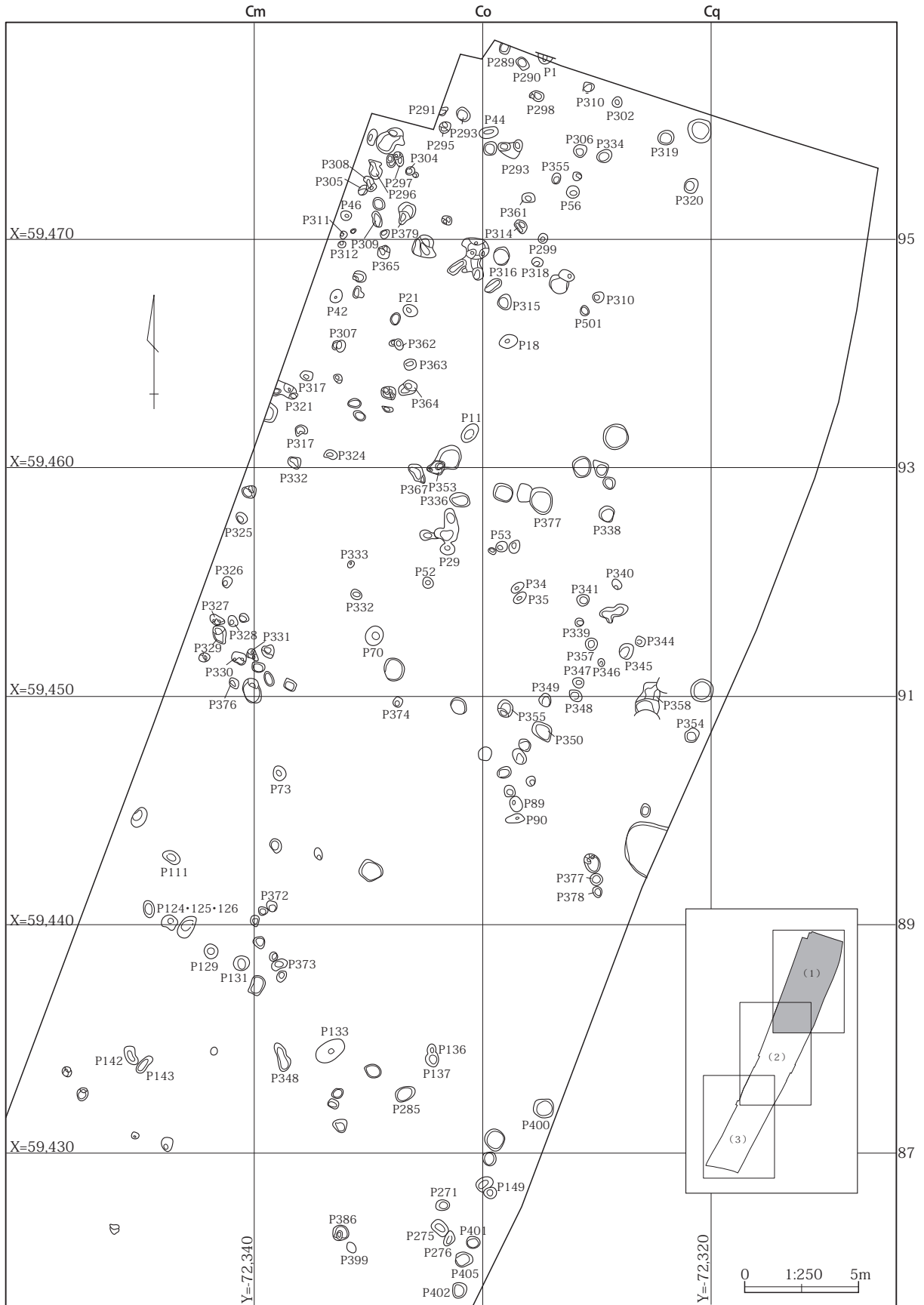
南4面2号配石内埋甕



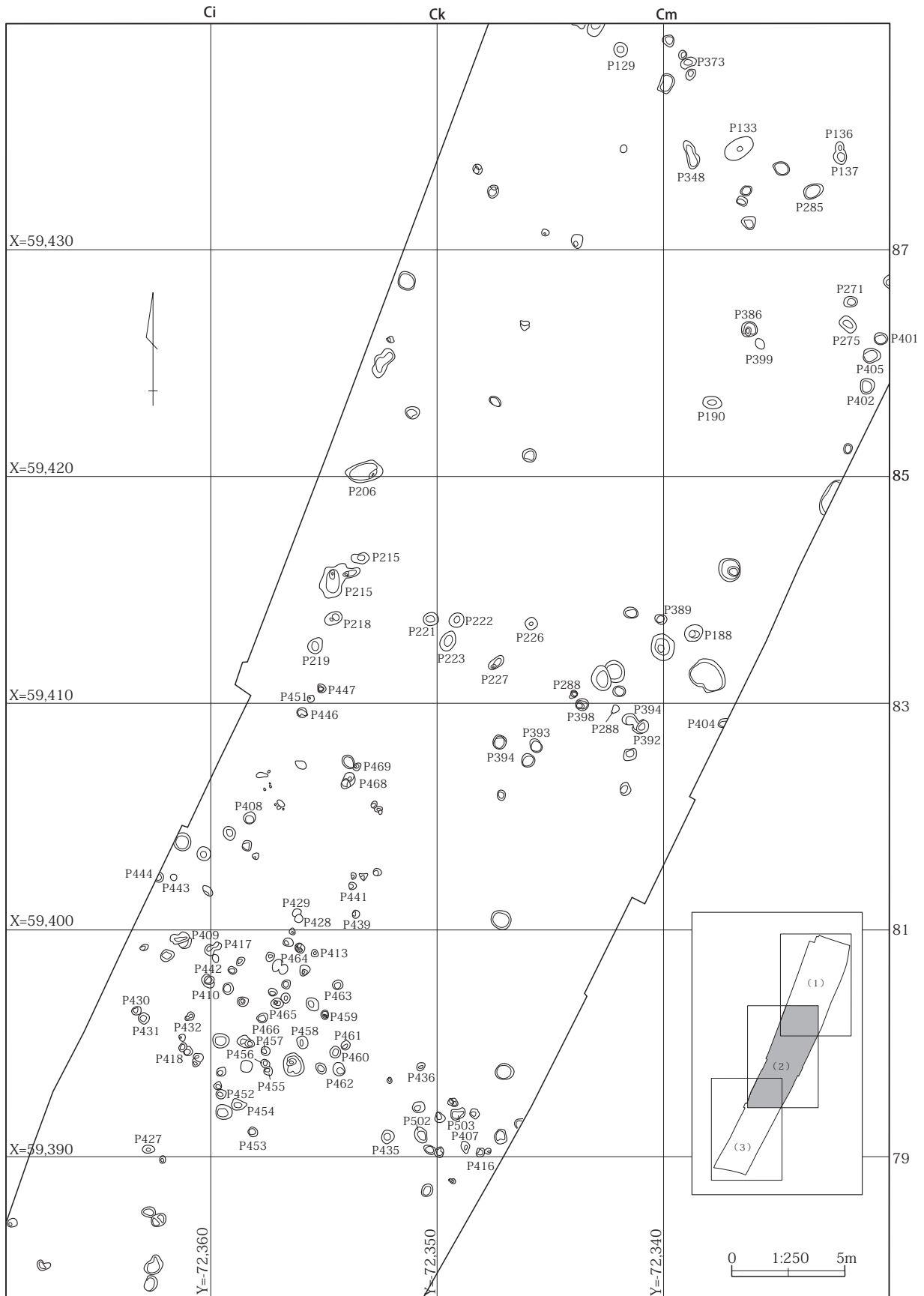
2号配石埋甕
1. 暗褐色土 軽石わずかに含む。
2. 暗褐色土 1層にローム粒混じる。
3. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒を少量含む。



第212図 11区12号・13号埋甕、2号配石埋甕



第213図 11区ピット配置図(1)

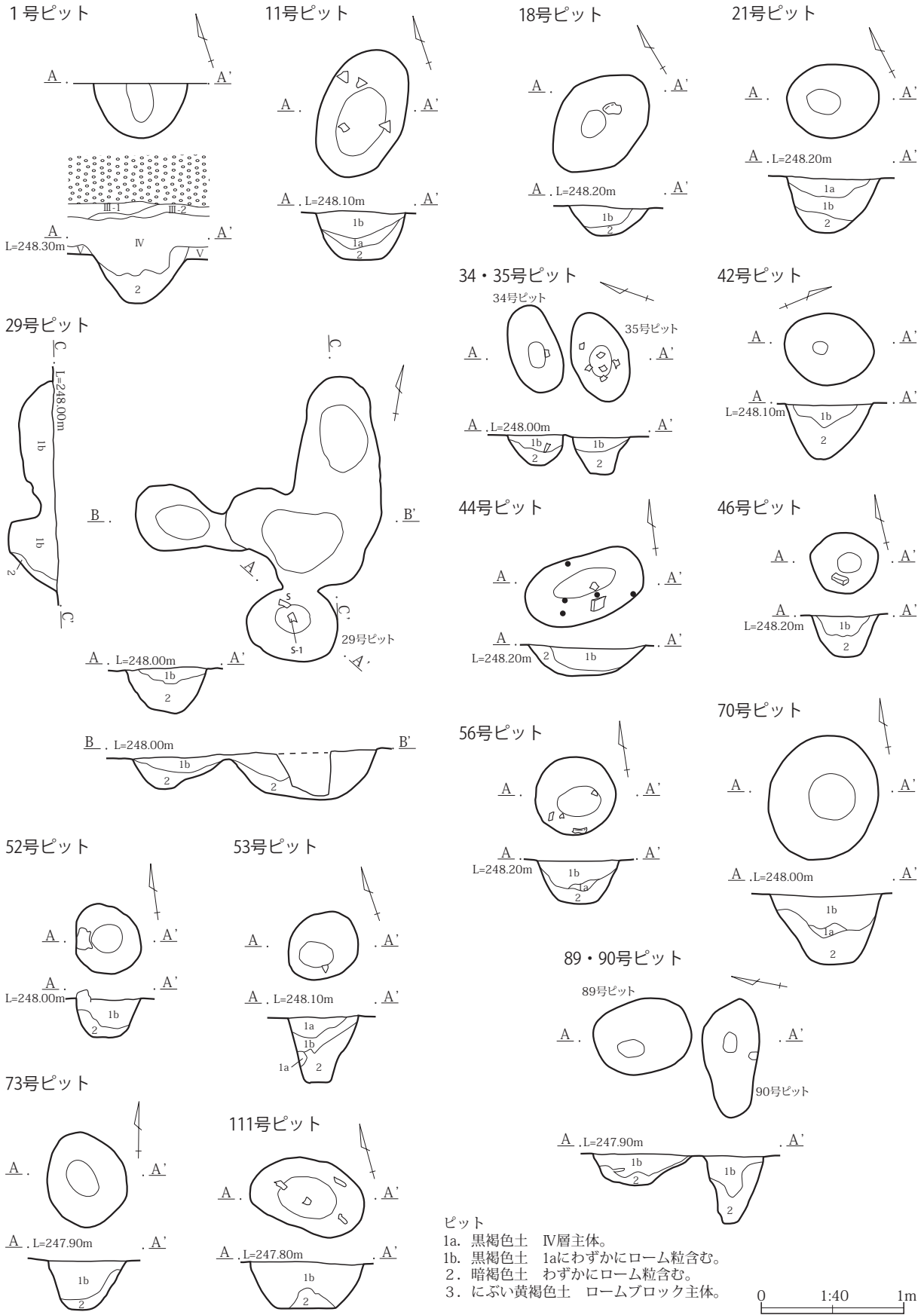


第214図 11区ピット配置図(2)



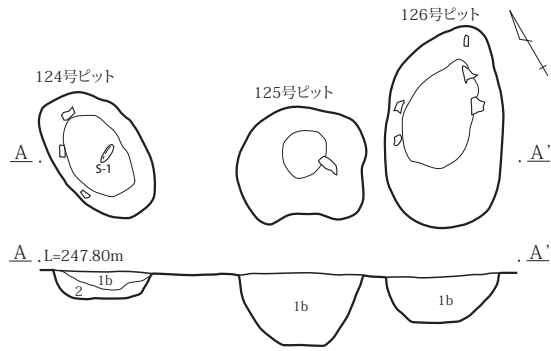
第215図 11区ピット配置図 (3)

第5章 第4面の検出遺構

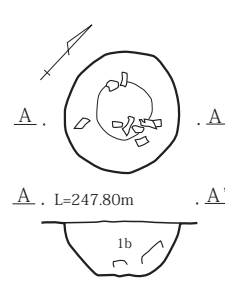


第216図 11区ピット (1)

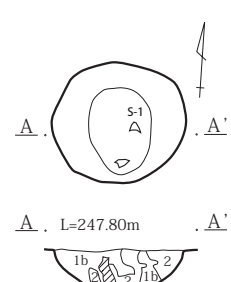
124・125・126号ピット



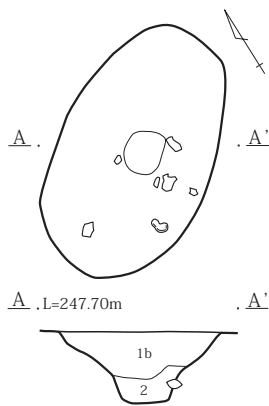
129号ピット



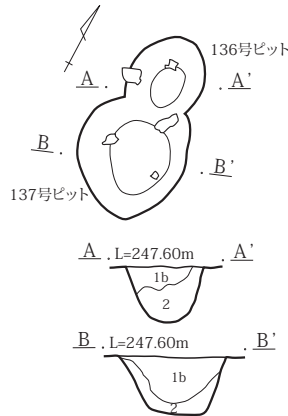
131号ピット



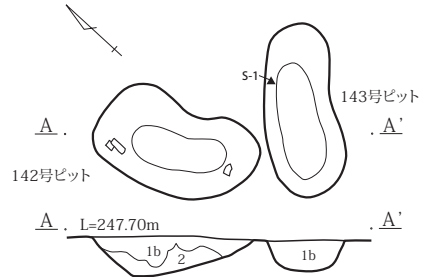
133号ピット



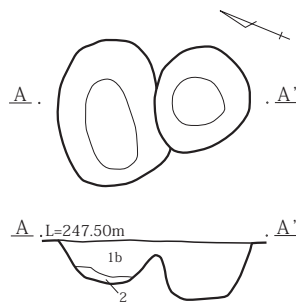
136・137号ピット



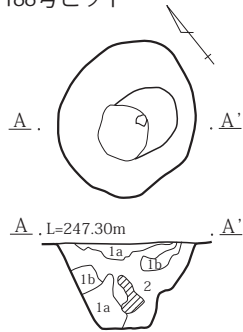
142・143号ピット



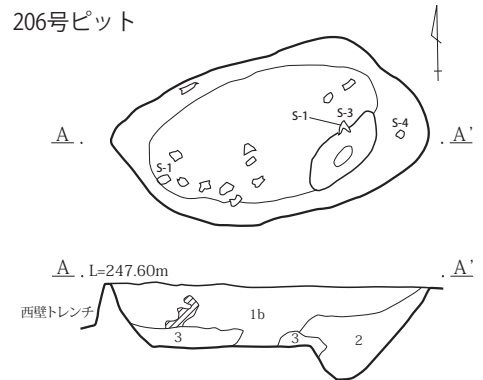
149号ピット



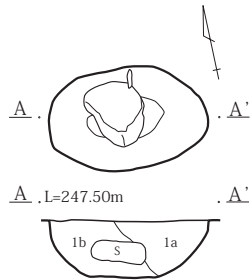
188号ピット



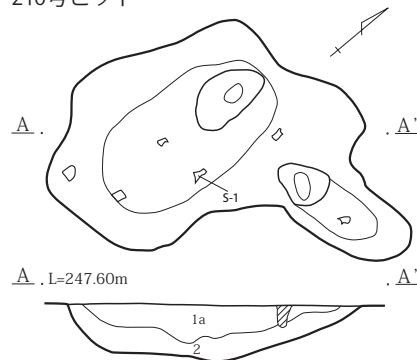
206号ピット



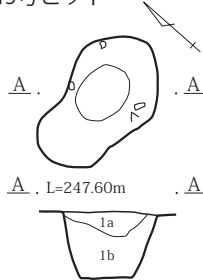
190号ピット



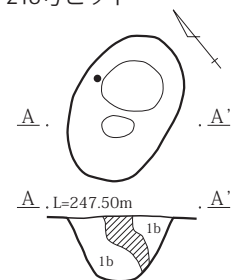
216号ピット



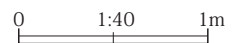
215号ピット



218号ピット

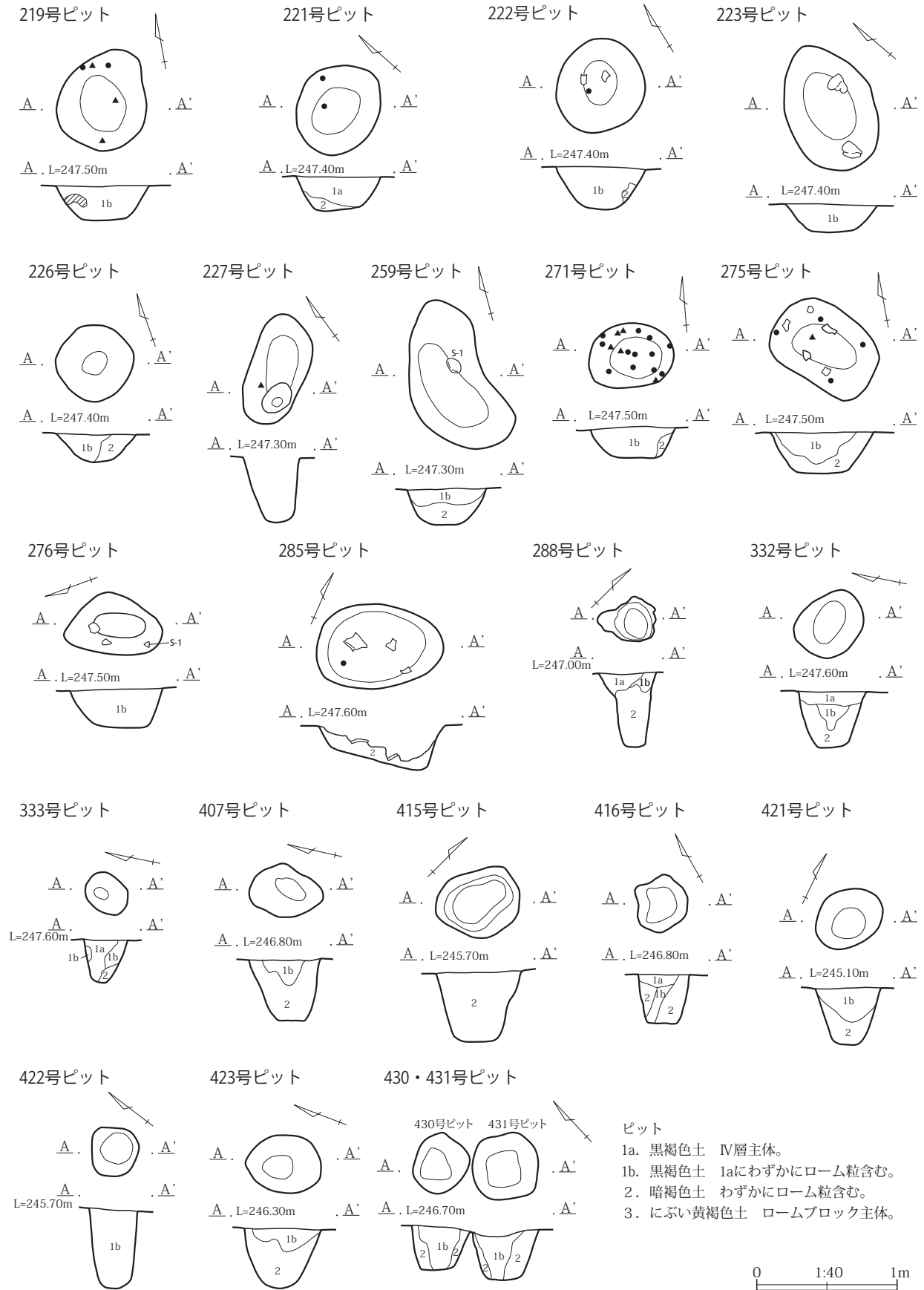


ピット
 1a. 黒褐色土 IV層主体。
 1b. 黒褐色土 1aにわずかにローム粒含む。
 2. 暗褐色土 わずかにローム粒含む。
 3. にぶい黄褐色土 ロームブロック主体。

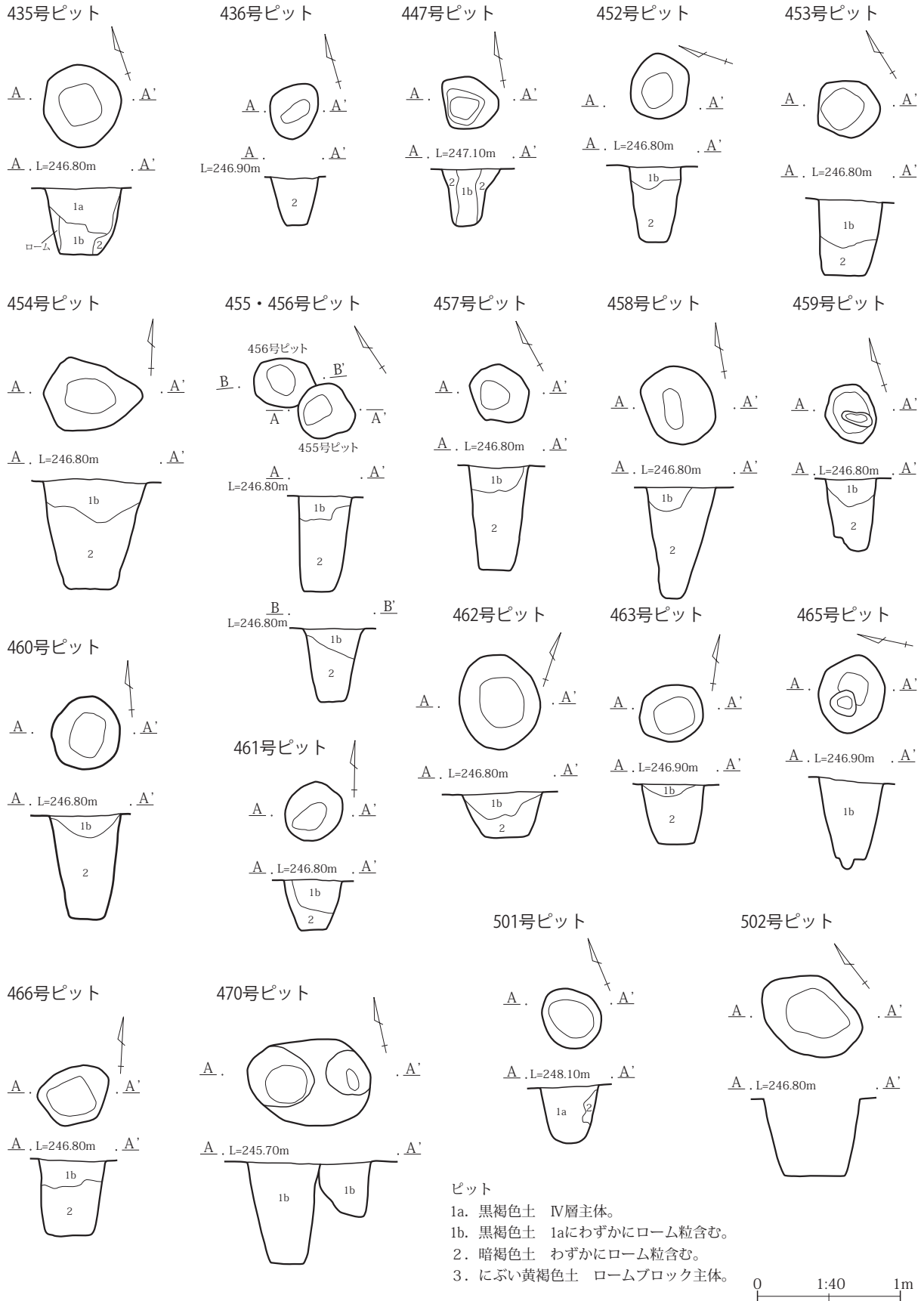


第217図 11区ピット (2)

第5章 第4面の検出遺構



第218図 11区ピット (3)



第219図 11区ピット (4)

7. 遺構外出土遺物

(遺構：第1分冊第220図、PL99 土器：第2分冊第169～172図、PL79～81 石器第3分冊第41～50図、PL34～38)

11区では全面的に縄文時代の住居、土坑、配石等の遺構が分布し、出土遺物の総数は土器、石器を合わせ遺物収納箱で400箱を超えた。この中で住居、土坑等の遺構内出土遺物は1/3程度であり、他の270箱前後は遺構外出土遺物であった。

この遺構外出土遺物は、第3面FA下の基本土層IV層中より出土し始め、掘り下げを進めながら大量の遺物の中に大型の土器破片や打製石斧や石鏃等の石器製品が含まれるなど下層に集落が想定できる状況が窺えた。しかし、遺構確認作業は大量に出土する遺物と同系色の土層での確認作業は難しく、一向に遺構を検出することはできなかつた。そのため下層の土層堆積状況と遺構の状況を確認するため調査区壁際にトレンチを入れた。その結果、ローム面まで40cm以上の遺物包含層が確認でき、更に住居、土坑等の遺構確認もVI層漸移層まで不明瞭であることが分かり、小破片の取り上げはグリッド単位で一括取り上げを行うこととし、遺構確認を優先させた。

整理作業においては、各遺構内出土遺物の接合・復元作業の際に、遺構に絡むグリッド出土遺物も同時に確認を行った。遺構内出土遺物と接合できなかった遺物については遺構外出土遺物に戻し、最終的にグリッド単位での重量を計測した。土器総重量

は約1,500Kgを計った。重量別の出土土器の分布は第220図となる。

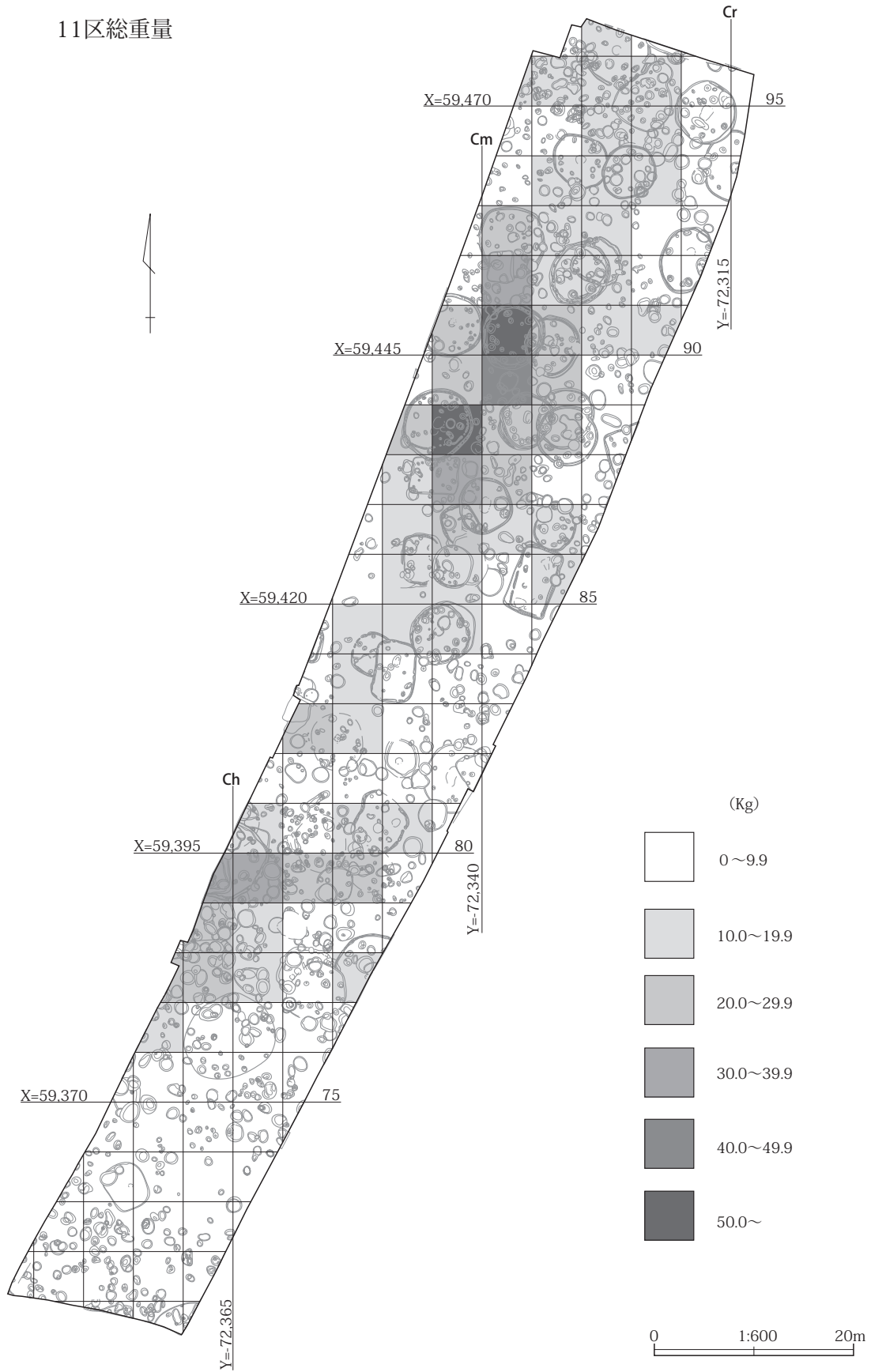
11,097点出土し、全てについて石器は器種組成、石材鑑定を行い、重量を計測した。(第3分冊表参照)傾向として調査区北半の西壁寄りが多くなっているが、この付近の住居検出に際して、掘り込みが不明瞭であり床面直上まで遺構確認面が達してしまったため、住居内の遺物が遺構外出土遺物扱いが増えたと考えられる。その他のやや濃い地点も同様な状況が窺える。希薄な地点は遺構量も少なくなっている。

遺構外出土遺物の時期は、上層で1の弥生時代後期樽式期の破片が少量出土し、住居や土坑等の遺構は検出できなかったが、近隣に弥生時代の人々の活動があったことを示している。その後、時代を遡るようにIV層からV層、VI層へと掘り下げ進めたが、縄文時代後期から中期、前期へと土器片も時期別に出土することはなく、各時期の土器片が入り混じって出土するようになり、分層発掘はできなかった。土器の主体は、検出住居同様に縄文時代中期加曾利E式期が占め、縄文時代前期では前葉の関山式期の破片が多く、二ツ木式期や諸磯式や有尾式期も混在する。縄文時代後期は称名寺式期や堀之内式期が出土しているがわずかであった。

石器は剥片は約8,600点を超えた。石鏃や打製石斧、石匙、磨石、凹石等の完形品も多く出土している。また、石皿、多孔石等の大型品や石棒、小型品の耳栓や玦状耳飾り等も突然出土し、周辺の精査を行ったが遺構は検出できない状況であった。



11区 遺構確認作業



第220図 11区遺構外出土土器重量分布図

第8節 12区検出遺構

1. 竪穴住居

11区同様、調査区の排土置き場の関係から2分割して調査を行い、調査区北半の第4面調査は平成16年8月より開始し、調査終了後に調査区南半の第1面～3面までの調査を行い、南半の第4面調査を平成17年1月より再開した。しかし、平成16年度中の調査終了は不可能であり、平成17年度の7月まで調査を継続して全調査を終了させた。

竪穴住居の検出状況は、調査区北端部で縄文時代前期後葉の住居1軒検出した。周辺部は遺物も少なく、土坑、ピットを少数検出した。調査区中央付近では、基本土層Ⅳ層からⅤ層にかけ大量の遺物が出土し、下層に集落の存在が想定できた。中央部のⅤ層中で頭部を露出した大礫の集中箇所を配石遺構として調査を行った。その後、下面の遺構確認を行い配石遺構に隣接して検出した住居の調査を開始したところ柄鏡形敷石住居であることが分かり、配石はその張出部であることが判明した。更に、その周辺部の遺構確認を行い、ローム漸移層のⅥ層付近から住居の輪郭が見え始め、計4軒の住居を確認した。この中央付近で検出した住居は、調査区南半に集落が広がる可能性が想定でき、集落全体を把握するため南半の第4面調査段階まで掘り残しておくこととし、調査を中断して南半の調査を第1面から開始した。南半の第4面は平成17年1月から開始し、11区から続く縄文時代中期を中心とした集落が広がり、12区検出の住居総数は54軒を検出した。

住居を検出するにあたり、基本土層Ⅴ層からⅥ層にかけて出土遺物が多く包含層調査を行いながら掘り下げを行い、大半の住居の確認がローム面近くに達してしまった。そのため床面や炉石が露出し、壁面がわずかに残るか消失してしまい、住居施設の周溝やピット等で住居範囲を推定せざるを得ない住居も多くなった。また、重複遺構も多く、住居では新旧確認や埋没土観察及び床面や壁面確認のため最初にサブトレンチを入れた。

1号住居（遺構：第225・226図、PL105、遺物：土器第2分冊第173図、PL82、石器第3分冊第50・51図、PL39）

確認状況：調査区の最も北に位置する住居であり、崖線にも近く、緩傾斜面に作られている。周辺部では住居は検出されず、その他の遺構も土坑が散在する状況であった。

位置：Dc-128・129 **重複**：26号土坑が掘り込む。

形状：隅丸方形 **規模**：長軸5.40m、短軸4.80m、深さ58cmを測る。 **面積**：(20.19) m² **方位**：N-8°-W **周溝**：未検出 **床面・掘方**：掘方面には土坑状又は不定形の凹凸があり、掘削排土のロームブロック等を混ぜ踏みならし貼床を作る。住居北寄りの柱穴間では、長軸90cm、短軸86cm、深さ26cmの規模を有する土坑状の掘り込みを検出した。 **柱穴**：各コーナー寄りで4基+1基検出した。ほぼ方形配置となっている。 **埋没土**：ロームブロックを含むことから、人為的に埋め戻されたと考える。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：東寄りP2・P3の間で検出した。 **形状**：楕円形の掘り込みを持ち、炉体土器を囲うように礫が組まれる。炉の北東側は焼土が多く認められる。炉掘方規模は長軸50cm、短軸40cm、深さ23cmを測り、楕円形を呈する。

遺物：土器 出土土器は非常に少なく、1の炉体土器の他小破片が4点出土した。 石器 出土点数は30点を数え、石匙や多孔石が出土した。

所見：北端の単独住居である。1の炉体土器より縄文時代前期後葉の住居と考えられる。

2号住居（遺構：第227・228図、PL106、遺物：土器第2分冊第174・175図、PL82・83、石器第3分冊第51・52図、PL39）

確認状況：調査区中央部の住居群北端で検出した。遺構確認作業の段階より土器片が全面に散乱しており、遺物取り上げとプラン確認を平行して行い、浅いながらも掘り込みを確認し住居と認定した。

位置：Ct・Da-115・116 **重複**：4号住居、46号・54号土坑が掘り込む。 **形状**：わずかに南北が長く、

円形気味の隅丸長方形を呈する。**規模**:長軸7.10m、短軸6.80m、深さ18cmを測る。**面積**:31.31㎡**方位**:N-14°-W**周溝**:断続的に全周する。**柱穴**:壁際に8基巡る。南辺から西辺で対の柱穴を検出した。建て替え時のものか。**床面・掘方**:地山面をならし、踏み固めて床面としている。東壁寄りて土坑を1基検出した。規模は長軸128cm、短軸116cm、深さ50cmを測る。**埋没土**:土器片を含み、下位ではロームブロックを含むことから、人為的な埋め戻しと考える。

炉:石囲炉か**位置**:やや北東寄り**形状**:掘方面は楕円形を呈し、わずかに窪んだ焼土面上に大礫と小礫が散乱する。この礫が炉石とも考えられ、石囲炉の廃棄時に破壊したものか。**規模**:掘方は、長軸144cm、短軸138cmを測る。

遺物:土器 出土点数は991点を数え、大半が縄文時代中期の土器片であった。33の浅鉢は南壁寄りて出土した。石器 出土点数は152点を数え、剥片は110点を占めた。打製石斧、石鏃等が出土し、炉内には礫群に混じり磨石、敲石等が出土している。

所見:埋没土中に土器破片が大量に出土し、廃棄後遺物廃棄場所となったと考える。出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

3号住居(遺構:第229・230図、PL107・108、遺物:土器第2分冊第176・297図、PL83、石器第3分冊第52図、PL39)

確認状況:調査区中央の東側、崖線寄りの緩斜面で検出した。立地場所が緩斜面であることから、IV層・V層は比較的薄く、IV層黒褐色土層の除去中に大礫の頭部を確認した。この大礫下に礫集中が見られ、配石遺構の可能性を考えながら掘り下げを行い、大型礫を残して3号配石遺構として調査を行った。しかし、周辺部の遺構確認作業を行っていく段階で柄鏡形敷石住居の張出部の石組ではないかと疑った。最終的に整理作業の段階で、この3号配石を柄鏡形住居の張出部とした。遺物に関しては3号配石として扱い、3号住居以外で掲載した。

位置:Db・Dc-115・116**重複**:単独**形状**:主体部方形、張出部長方形を呈する柄鏡形敷石住居。

規模:全長6.45m 主体部は一辺4.2m、深さ36cmを測り、張出部は長さ2.25m、幅1.2mを測る。

面積:17.22㎡**方位**:N-30°-W**周溝**:なし

柱穴:掘方面で壁寄りに幾つかの小ピットを確認した。**床面・掘方**:主体部は炉付近が低く若干播り鉢状を呈する。掘方の起伏は少なく、ローム面を利用して基盤を作り、80cm×60cmの安山岩の板状の大礫を敷き、張出部は50cm大の円柱状の大礫を用いて敷石住居を構築している。主体部内の礫の出土状況は散乱状態であり、全面的に敷き詰める程の礫の量はなく、廃棄時に抜き取られた可能性も考えられる。掘方調査では、土坑4基を検出した。規模(長軸・短軸・深さ)と形状は、1号土坑が90cm×90cm×43cmの円形、2号土坑は106cm×66cm×23cmの楕円形、3号土坑は116cm×106cm×86cmの円形、4号土坑は、90cm×64cm×30cmの楕円形である。

埋没土:ロームブロックを含むことから、人為的な埋土と考える。

炉:埋甕石囲炉**位置**:やや東寄り**形状**:30cm前後の板状礫を用いて埋設土器を固定するように組まれた円形炉である。**規模**:掘方形状は楕円形を呈し、長軸144cm、短軸138cmを測り、深さは48cmを測る。断面箱形の土坑状を呈する。

遺物:土器 出土点数は185点を数え、縄文時代中期の土器破片が主体であった。1、2は炉体土器として重ね正位で埋設されていた。3号配石とした張出部石組下部から第2分冊297図1の中位に鼻または人形を模した装飾突起が貼付された深鉢が出土。石器 出土点数は39点を数え、剥片は23点を占めた。凹石、磨石、敲石等が出土した。

所見:柄鏡形敷石住居である。出土土器から縄文時代中期末葉の住居と考えられる。

4号住居（遺構：第231～233図、PL109・110、遺物：土器第2分冊第177・178図、PL84、石器第3分冊第52図、PL39・40）

確認状況：調査区中央の東側緩斜面で検出した。3号住居に西接する柄鏡形敷石住居である。立地場所が緩斜面であることから、IV層・V層は比較的薄くIV層黒褐色土層除去中に大礫の頭部が露出した。配石遺構の可能性を考えながら掘り下げを行い、大型礫を残して一旦2号配石遺構として調査を開始したが、周辺部の遺構確認作業を行っていくうちに柄鏡型敷石住居の張出部の石組と判明し、柄鏡形敷石住居として再度図化記録を行った。

位置：Da・Db-116・117 **重複**：2号住居の北東部を壊している。 **形状**：主体部は円形状、張出部が長方形を呈する柄鏡形住居である。 **規模**：全長6.90m、主体部4.8m×4.5m、張出部2.8m×2.0m、深さ最大35cmを測る。 **面積**：18.97m² **方位**：N-53°-E **周溝**：なし **柱穴**：掘方面調査時に壁寄りに巡る6基の柱穴を確認した。 **床面・掘方**：主体部は炉付近が低く若干揺り鉢状を呈する。床面上に一部炭化物の集中箇所や埋没土中に炭化物が混入する。炭化材の量や壁、敷石等に被熱の痕跡はなく、焼失住居の可能性は薄い。掘方の起伏は少なく、ローム面を利用して基盤を作る。主体部内の礫は全体的に散乱状態であり、礫の出土量からは石敷きを全面に敷き詰めた状況は窺えず、廃棄時に抜き取られた可能性も考えられる。主に壁際を中心に30cm前後の扁平礫を敷いた状況であった。張出部の礫は崩れているが、60cm大の円柱状の大礫を方形に組んだようであり、先端部側の大礫は横に積まれ、側壁側の礫は軸方向に積まれる。 **埋没土**：1層は自然埋没土と考えられるが、下位は礫や土器片が多量に混ざり人為的な埋没土と考える。

埋甕：連結部出土の埋甕を1号埋甕とし、南壁際出土の埋甕を2号埋甕とした。

1号埋甕 1の大小2単位の橋状把手を持つ大型両耳壺を正位に埋置。掘方は、1.4m程の楕円形を呈する。埋甕内や周辺部には焼土は見られないが、わ

ずかに炭化物が含まれる。また、周辺部は埋甕から炉にかけて30cm前後の扁平礫が集中している。

2号埋甕 2a深鉢底部を正位に埋置。掘方は70cm×50cm程の隅円方形形状を呈する。埋甕内や周辺部には焼土は見られないが、わずかに炭化物が含まれる。 **炉**：石囲炉 **位置**：住居中央 **形状**：40cm前後の5個の自然石を用いて方形に組む。北辺は崩れが見られる。 **規模**：1辺70cm前後の方形に組まれる。火床面は1辺42cmほどの方形形状を呈し、中央には焼土が広がる。掘方は径75cm程の楕円形状を呈する。

遺物：土器 出土点数は226点を数え、縄文時代中期の破片が主体であった。石器 出土点数は57点を数え、剥片は33点を占めた。敷石や炉石には製品は含まれていない。

所見：柄鏡形敷石住居であり、出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考える。

5号住居（遺構：第234・235図、PL110、遺物：土器第2分冊第179図、PL84、石器第3分冊第53図、PL40）

確認状況：調査区中央の調査区西壁に食い込む形で検出した。周辺部は遺物集積が上面で見られたが、プランがはっきりしなかったため、確認面をほぼローム直上まで下げ炉や柱穴・周溝等の床面で確認できる施設が出て始めて住居と認定した。

位置：Ct-117 1/5は調査区西壁に伸びる。 **重複**：52号・53号土坑により掘り込まれる。 **形状**：断続する周溝が直線的に延びる部分も見られ、六角形状になると考える。 **規模**：長軸5.5m、深さ34cmを測る。 **面積**：(18.53) m² **方位**：N-5°-E **周溝**：断続的に全周する。わずかに周溝内に小ピットあり。 **柱穴**：壁際に9基巡る。各コーナー部分内側に配置される。西側は柱穴間が狭く建て替え時の柱穴と考える。 **床面・掘方**：掘方面はピットが多く掘り込まれ起伏に富む。一部P1・P8・P9が南北方向に直線的に並び、反対側にもP6を含む南北方向の直線的に並ぶピットが見られ、さらに周溝も南壁が直線的となることから本住居に伴うか不

明であるが方形の区画が存在したと考えられる。この凹凸面にローム混じりの掘削排土を戻し、踏み固め貼床面を作る。埋没土：調査区西壁の断面観察では、均質な土質で埋没し、自然埋没と考える。

炉：埋甕炉 位置：ほぼ中央 形状：炉の検出時に周囲に礫の抜き取り痕と考えられる小ピットあり。掘方は方形状を呈する。規模：掘方規模は長軸110cm、短軸85cm、深さ30cmを測り、隅丸方形状を呈する。火床面北寄りに径が22cmの深鉢体部が埋設されている。埋没土：焼土は炉体土器内部上面と周辺で広がっており、焼土の他に土器片も多く出土したことから人為的埋没と考える。

遺物：土器 出土点数は72点を数え、縄文時代中期の破片が主体であった。石器 出土点数は33点を数え、剥片は22点占めた。東壁寄りのP5脇でS5の凹石とS8の石皿が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

6号住居（遺構：第236図、PL111、遺物：土器第2分冊第180・181図、PL85、石器第3分冊第53図、PL40）

確認状況：調査区南東隅で基本土層V層下部の暗褐色土中より遺物が多く出土し、精査により石組や埋設土器を検出できたため住居と認定した。しかし、下部から15号住居を検出し、埋没土中の凹みの可能性も残る。

位置：Cq・Cr-98・99 重複：15号住居、109号土坑と重複。形状：楕円形か 規模：計測不能 方位：計測不能 周溝：未検出 柱穴：未検出 床面・掘方：明確な床面は検出できず、暗褐色土内に大量に土器片が出土し、乱れた状況であった。住居内中央で1の深鉢が埋設される。焼土は認められず埋甕炉の可能性は低い。1の深鉢の西側には礫集中あり。埋没土：大量の遺物が混ざることから人為的な埋土と考える。

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は746点を数え、縄文時代中

期の破片が主体であった。住居範囲外でも接合遺物有り。石器 出土点数は44点を数え、剥片は20点を占める。打製石斧が9点と多く出土した。

所見：1の深鉢から縄文時代後期初頭の住居と考えられるが、約30cm下で15号住居が確認され、埋没途中の凹みの可能性もあり、1の深鉢も埋甕等の単独遺構とも考えられる。

7号住居（遺構：第237図、PL111、遺物：土器第2分冊第182図、PL86、石器第3分冊第53図、PL40）

確認状況：調査区南の西壁に食い込み検出した。住居東側1/2程の調査を行った。

位置：Co-99・100 重複：67号土坑を掘り込む。

形状：西側半分が調査区外に伸び不明瞭であるが隅丸方形と考える。規模：長軸3.80m、深さ40cmを測る。面積： $(4.35)\text{m}^2$ 方位：N-20°-E 周溝：断続的に巡る。柱穴：未検出 床面・掘方：地山を踏み固め床面とする。埋没土：レンズ状堆積が見られるが、土器片を多く含む。下層でSrも多く含まれることから人為的な埋土と考える。

炉：地床炉 位置：中央 形状：隅丸方形状を呈する。規模：掘方規模は1辺約1m、深さ10cmを測る。火床面上に土器片・小礫が混じる。

遺物：土器 出土点数は272点を数え、縄文時代中期後半の土器片が主体であった。炉内より1、2の深鉢底部等が出土した。石器 出土点数は20点を数え、剥片は9点であった。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

8号住居（遺構：第238図、PL111、遺物：土器第2分冊第183～185図、PL86・87、石器第3分冊第54図、PL40・41）

確認状況：調査区南寄りの土坑・住居が密集し、遺物の出土量の多かった地点で検出した。確認当初、遺物が大量に出土し、また1.5m程の大型土坑に掘り込まれ、プラン確認が難しかった。

位置：Cp-100・101 重複：79号・108号・147号土

第5章 第4面の検出遺構

坑に掘り込まれる。 **形状**：土坑により壊されている部分が多く、やや胴の張る長方形と考える。

規模：長軸4.2m、短軸4.0m、深さ60cmを測る。

面積：12.64㎡ **方位**：N-67° - E **周溝**：西壁寄りで断続的確認した。 **柱穴**：西半分に集中して確認した。壁際に巡ると考える。 **床面・掘方**：ほぼ平坦である。地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：上層部は土器片を含む暗褐色土が、下層部はロームブロックを多く含むぶい褐色土が堆積していることから、人為的な埋土と考える。

炉：石囲炉 **位置**：やや西寄り **形状**：30cm前後の礫を7石用い「コ」の字状に組まれる。 **規模**：長軸60cm、短軸50cm、深さ24cmを測る。火床面は長軸31cm、短軸29cmを測る。わずかに焼土が広がる。

遺物：土器 出土点数は676点を数え、縄文時代中期の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。炉脇より6、7の深鉢が重なり出土し、炉周辺に4、5等の深鉢が集中して出土している。 **石器** 出土点数は112点を数え、剥片が90点を占める。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

9号住居（遺構：第239図、PL112・113、遺物：土器第2分冊第186図、PL87・88、石器第3分冊第54図、PL41）

確認状況：調査区南寄りの土坑・住居が密集し、遺物の出土量が多く、遺物を取り上げながら遺構確認を行い、大まかな輪郭を確認した。住居内もトレンチ調査を併用しながら床面等を検出した。北側の地山が高く柱穴や周溝等の施設は確認できなかった。

位置：Cq-100・101 **重複**：なし **形状**：円形 **規模**：径4.20m、深さ30cmを測る。 **面積**：12.05㎡ **方位**：N-21° - E **周溝**：東西辺に断続的に確認した。

柱穴：南半分の壁際に4基検出した。 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。壁際がやや高い。

埋没土：壁際に三角堆積が確認されるが、確認面から床面が浅いため詳細は不明である。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：中央 **形状**：30～50cmほ

どの礫を方形に組む。炉石は被熱により破断している。 **規模**：長軸64cm、短軸60cmを測り、火床面は長軸46cm、短軸30cmを測る。北隅に深鉢の体部が埋設されている。この炉体土器の口縁部直下から手前にかけて固くしまった焼土がある。

遺物：土器 出土点数は827点を数え、縄文時代中期破片が主体であった。1の体部破片は隅より出土したが埋設された炉体土器と考える。 **石器** 出土点数は87点を数え、剥片は66点を占める。打製石斧が6点出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

10号住居（遺構：第240・241図、PL113・114、遺物：土器第2分冊第187～190図、PL88～91、石器第3分冊第54・55図、PL41・42）

確認状況：調査区南寄りの西壁際に検出した。確認作業中より大量の遺物が出土した。

位置：Cp・Cq-102・103 **重複**：251号土坑を掘り込む。 **形状**：やや南北に長い楕円形状を呈する。

規模：長軸5.20m、短軸4.70m、深さ56cmを測る。

面積：17.83㎡ **方位**：N-0° **周溝**：未検出

柱穴：西側壁に沿って巡る3基と炉東側焼土面を挟みP1を検出した。 **床面・掘方**：ほぼ平坦、地山を踏み固めて床面とした。炉の東側に楕円形状に焼土が広がる。南壁内側で埋甕を検出し、東脇に立石、西脇に14cm程の浅いピットを検出した。

埋甕：3の深鉢が正位で埋設されていた。掘方は、長径34cm、深さ27cmを測り、円形状を呈する。

立石：両端部欠損の径26.5cm、長44cmを測る円柱状礫が埋設されていた。掘方は楕円形状を呈し、長径37cm、短径32cm、深さ16.5cmを測る。

埋没土：Srを含む黒褐色土中に多くの遺物が出土し、人為的に埋め戻されたと考える。特に住居西側の床面直上に石が多くあることから、埋め戻す際に東側から投げ込んだ可能性がある。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：中央やや北寄り **形状**：長さ40～50cm程の大礫を4石用いて方形に組む。炉

石は被熱により破断している。 **規模**：長軸78cm、短軸60cmを測り、火床面は長軸46cm、短軸30cm程の範囲で西側に焼土面を確認した。埋没土上部に浅鉢出土し、火床面中央の底面から一段下がり、炉体土器として1の深鉢体部が埋設されていた。炉掘方規模は1辺93cm、深さ27cmを測り、方形状を呈する。 **遺物**：土器 出土点数は874点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。炉内上層で47の器台が出土した。6の大型深鉢破片の接合状況は広く分布する。石器 出土点数は209点を数え、149点は剥片が占めた。打製石斧が17点出土し、炉石にS5の多孔石が転用されている。 **所見**：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

11号住居（遺構：第242図、PL114・115、遺物：土器第2分冊第191・192図、PL91・92、石器第3分冊第55・56図、PL42）

確認状況：調査区南端の北西隅寄りで遺物が多量に出土し、包含層調査を行いながら掘り下げを行った。西壁から北壁に掛けて確認できた時点で既に埋没土を掘り下げており、更に床面検出時には下層の13号住居の炉石を確認するなど住居プランや床面が不明瞭で検出するのに難しい住居であった。

位置：Co-98・99 **重複**：80号・93号土坑に掘り込まれ、13号住居、92号土坑を掘り込む。1号土器集中とも重複しているが、住居に伴う土器片と一部接合されていることから、同時期のものと思われる。 **形状**：南壁が調査区外に伸び、東壁側は13号住居と重複し不明瞭であるが、楕円形状を呈すると考えられる。 **規模**：長軸5.0m、短軸4.40m、深さ約19cmを測る。 **面積**：(16.18) m² **方位**：N-0° **周溝**：未検出 **柱穴**：西壁から南側壁際に沿いで9基検出し、炉の東で2基検出した。炉の位置を中心に考えるとP5、6、7は開き過ぎで不自然である。 **床面・掘方**：北西寄り地山を踏み固め床面としているが、南東側は13号住居の埋没土を利用し踏み固めていたと考える。 **埋没土**：遺物を多量に含み、下位はローム

ブロックの混土が堆積することから、人為的に埋め戻したと考える。

炉：石囲炉 **位置**：中央やや北寄り **形状**：40cm前後の大型礫を4石とやや小振りの1石を用い方形状に組む。 **規模**：65cm前後の方形状を呈する。火床面は30cmを測る。火床面中心部に少し盛り上がった状態で焼土面検出。掘方規模は長軸85cm、短軸68cm、深さ26cmの隅丸方形状を呈する。

遺物：土器 出土点数は559点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1aの大型深鉢は炉南の大礫脇で出土した。破片分布は13号住居と重複する南東寄りに多く出土した。石器 出土点数は79点を数え、剥片は38点を占めた。S17、18の台石やS20、21の多孔石は北西壁寄りで出土している。 **所見**：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

12号住居

欠番

13号住居（遺構：第243図、PL115、遺物：土器第2分冊第193・194図、PL92、石器第3分冊第56図、PL42）

確認状況：調査区南端の北西コーナー寄りに位置し、11号住居に掘り込まれた住居である。11号住居の遺構確認の際に大量の土器片や剥片等が出土し、包含層調査を行い、大まかなプラン確認で11号住居1軒を想定した。しかし、11号住居掘り下げ途中で13号住居の炉石を確認し、2軒の重複住居であることが分かった。

位置：Cp-99 **重複**：11号住居が本住居を掘り込み、93号土坑との新旧関係は不明である。 **形状**：楕円形状を呈すると考える。 **規模**：長軸約(5.00)m、短軸4.40m、深さ19cmを測る。 **面積**：(17.13) m² **方位**：N-12°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：壁際に巡る4基確認した。 **床面・掘方**：大半が11号住居に掘り込まれているが、残存部分ではほぼ平坦で地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：土器片

第5章 第4面の検出遺構

を含む黒褐色土が堆積する。自然埋没か人為的に埋め戻されたものか不明である。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：中央やや東寄り **形状**：西壁に40cm程の大礫、東壁にも40cm程の板状礫を立て、南壁にも板状礫1石を埋置し、隅丸方形に石組する。 **規模**：1辺65cmを測り、火床面は南北方向が長く、長軸65cm、短軸45cmを測り、中央に1の深鉢を埋設する。掘方規模は、長軸85cm、短軸80cm、深さ25cmの楕円形を呈する。

遺物：土器 東壁寄りにまとまって出土した。出土点数は23点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。石器 出土点数は6点を数え、打製石斧が4点出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

14号住居（遺構：第244図、PL116、遺物：土器第2分冊第195図、PL92、石器第3分冊第56・57図、PL43）

確認状況：調査区南東隅寄りの東壁に食い込む形で検出した。検出時は、調査区東壁際に板状礫や扁平円礫の集積が確認でき、土坑状の落ち込みも確認した。礫の範囲を確認するため掘り下げを行い、敷石住居の主体部であることが分かった。張出部を有していたかどうかは調査区外に延びる可能性は残っている。検出時の傾きは径2m前後、深さ1mほどの大型土坑である134号土坑が下部にあり、本住居がこの大型土坑埋没後に直上に作られたため、土坑埋没土の沈下に伴い斜めに傾いたと考える。

位置：Cs-99 **重複**：下層に54号住居、134号土坑を検出した。 **形状**：板状礫や扁平円礫等が主体部全体に敷かれた状態で検出でき、敷石範囲からは円形又は方形どちらともとれる。 **規模**：2m四方の範囲内に礫が置かれる。 **面積**：約4m² **方位**：N-37°-W **周溝**：未検出 **柱穴**：未検出 **床面・掘方**：134号土坑埋没土の沈下の影響を受けて住居が西に向かって約16°傾いている。底面については不明である。 **埋没土**：多量の土器片と石を含む黒褐

色粘質土が堆積する。自然埋没か人為的に埋め戻されたものか不明である。

炉：石囲炉 **位置**：住居中央と考えられる。 **形状**：40cm前後の礫4石を方形に組む。134号土坑の影響を受けて西側にやや傾いている。 **規模**：長軸60cm、短軸50cmを測る。内部は30cm程の方形を呈する。焼土等の分布は見られないが、炉石は焼けにより破断している。

遺物：土器 出土点数は上層より512点出土した。縄文時代中期後半の破片が主体であった。炉の上部で1、3、8の深鉢破片が出土した。石器 出土点数は41点を数え、剥片が32点を占めた。炉石にS5の多孔石が転用されている。

所見：出土土器から縄文時代中期末葉の住居と考えられる。

15号住居（遺構：第245図、PL117、遺物：土器第2分冊第196～199図、PL93・94、石器第3分冊第57図、PL43）

確認状況：調査区南東隅の調査区壁に食い込み確認した。上部に6号住居があり、調査後に下層を掘り下げ、約30cm下で炉を検出し住居と認定した。

位置：Cq・Cr-98 **重複**：6号住居、91号土坑が掘り込む。16号住居と近接する。 **形状**：調査区南東隅に食い込むが残存範囲から楕円形と考える。 **規模**：長軸(6.00)m、短軸4.80m、深さ23cmを測る。 **面積**：(15.91)m² **方位**：N-43°-E **周溝**：北と南西側で断続的に検出した。 **柱穴**：壁際に巡る6基検出した。 **床面・掘方**：ほぼ平坦である。地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：土層では水平堆積が見られるが、土器片とロームブロックを含むことから人為的な埋土と考える。

炉：石囲炉 **位置**：中央 **形状**：北辺は30cm程の長円礫2石を併置し、張出状にくびれが見られ、東辺には礫が出土していないが抜き取り痕状の小ピットを検出した。西辺は胴貼り風に20cm前後の礫を並べる。南辺は崩されたように礫が散乱する。 **規模**：長軸130cm、短軸70cmを測り、火床面は長軸110cm、

短軸50cmを測る。火床面の北寄りに深さ約20cmの凹みがあり、焼土化している。掘方規模は、長軸150cm、短軸85cm、深さ20cmの楕円形を呈する。

遺物：土器 出土点数は313点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1の深鉢はP3際で出土し、炉の東側に6a、9の深鉢や11の浅鉢が出土している。石器 出土点数は48点を数え、剥片が24点を占めた。打製石斧、石皿が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

16号住居（遺構：第246図、PL118、遺物：土器第2分冊第200～203図、PL94～96、石器第3分冊第57図、PL43）

確認状況：調査区南東隅寄りで検出した。周辺部からの遺物出土は多く、確認作業による掘り下げにより確認面から床面までが浅くなった。V層中より掘り込まれたと考えられる。壁高がほとんどない状態となった。

位置：Cq・Cr-99 **重複：**109号土坑が掘り込む。

形状：西壁がやや膨らむ隅丸方形形状を呈する。 **規模：**一辺4.20m、深さ19cmを測る。 **面積：**13.17㎡ **方位：**N-2°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**壁際に巡る3基検出した。 **床面・掘方：**ほぼ平坦である。地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土：**浅い掘り込みであるがレンズ状堆積が見られる。土器や礫片が多く出土するが、自然埋没と考える。

炉：石囲埋甕炉 **位置：**中央 **形状：**20～30cm程の礫を方形に組む。 **規模：**1辺60cm程の範囲に礫を組む。火床面は1辺40cm程を測り、中央に1の深鉢を埋設する。焼土は火床面・炉体土器内ともにわずかに含む。掘方規模は長軸90cm、短軸85cm、深さ14cmを測り、楕円形状を呈する。

遺物：土器 浅い掘り込みであったが、出土点数は584点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1は炉体土器である。45aの浅鉢は南壁寄りとは北壁際に分散して出土した。石器 出土点数は87点を数え、剥片が57点を占めた。打製石斧が7点と

他に石鏃、石匙等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

17号住居

欠番

18号住居（遺構：第247・248図、PL119、遺物：土器第2分冊第204・205図、PL96、石器第3分冊第58図、PL43・44）

確認状況：調査区南寄りで検出した。調査以前にゴミ穴が掘られ大きく攪乱坑が開いていた。この攪乱により敷石住居の主体部が壊され、張出部と連結部の一部が残った。張出部は確認当初から礫群の頭部が露出していた。

位置：Cr-104 **重複：**44号・47号住居と重なると思われるが新旧関係は不明。219号土坑は下層で確認した。 **形状：**主体部が壊されているが、柄鏡形敷石住居と考えられる。 **規模：**張出部 長軸3.0m、短軸1.5m、深さ34cmを測り、主体部は計測不能である。 **方位：**N-35°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**掘方調査後、主体部内の壁際に小ピット3基確認した。 **床面・掘方：**主体部は、壁際に小礫が散布し、床面には板状礫や扁平礫は出土していない。張出部の床面は大礫平坦面を床面とし、側壁は礫を積み上げ囲う。連結部に方形の石組が設けられていた。

連結部石組 規模・形状：長さ50cm、幅30cm、厚み10cmの大礫を西辺に、長さ約30cm、幅40cm、厚さ8cmの扁平礫と30cm大の円礫を東辺に、長さ30cm、幅20cm、厚さ5cmの板状礫を北辺に埋置し、方形形状に組んでいる。底面に1、4の深鉢が敷かれたように出土した。焼土は見られなかった。 **掘方：**規模は長軸70cm、短軸60cm、深さ25cmを測り、隅丸方形を呈する。また、南脇には礫の抜き取り痕と考えられる並列する細長い土坑状の掘り込みを確認した。規模は長軸110cm、短軸50cm、深さ60cmを測る。

埋没土：主体部には小礫・土器片混じりの黒褐色土が堆積する。張出部は人為的に投げ込まれたように

礫で埋まっていた。

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は818点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1と4は連結部石組底面に敷かれたように出土した。石器 出土点数は134点を数え、剥片が96点を占めた。S20の多孔石が張出部石組の中から出土し、S19の石皿やS17の敲石が壁際の礫群内から出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

19号住居（遺構：第249図、PL120）

確認状況：調査区南寄り中央で住居・土坑群に混じり、炉のみ確認した。屋外炉の可能性が高い。

位置：Cs-106 重複：なし 形状：未検出 規模：住居計測不能 方位：炉角度N-15°-W

周溝・柱穴：未検出 床面・掘方：未検出 埋没土：未検出

炉：石囲炉 位置：不明 形状：北・西・南辺は30cm程の礫で組み、東辺は10～20cm程の礫を3石並べ、方形に組む。規模：1辺約50cm、深さ約10cm、火床面は25cm四方の方形を呈する。覆土中には焼土が混じる。掘方は、長軸60cm、短軸55cm、深さ25cmを測り、形状は楕円形を呈する。

遺物：土器 小破片が4点出土したのみである。

所見：出土土器から住居の時期は特定できなかった。

20号住居（遺構：第250図、PL120、遺物：土器第2分冊第206図、PL97、石器第3分冊第58・59図、PL44）

確認状況：調査区ほぼ中央西壁に食い込む形で検出した。周辺部は土器・石器剥片等の遺物が散乱し、ローム上面で炉石と床面を確認した。調査時には周溝と柱穴を手がかりに住居範囲を推定した。住居の西側1/4は調査区外に延びる。

位置：Cs-113 重複：なし 形状：やや歪んだ楕円形と考える。規模：径約(6.80)m、深さ5cmを測る。面積：(23.45)m² 方位：N-37°-E

周溝：全周し、内部に小ピットを確認した。柱穴：壁際に巡る9基検出した。床面・掘方：ほぼ平坦で、地山を踏み固めて床面としている。

埋没土：壁高がほとんどないため、埋没状況は不明。

炉：石囲炉 位置：ほぼ中央 形状：北辺に50cm大の大礫を置き、東西辺は30cm大の礫を胴張り風に並べ、南辺で10～20cm弱の礫を弧状に並べ、全体に卵形状になる。規模：長軸128cm、短軸102cm、深さ10cmを測り、火床面は長軸95cm、短軸65cmを測る。火床面に焼土が広がり、炉の覆土中にも焼土が多く混じる。掘方規模は、長軸150cm、短軸115cm、深さ36cmを測り、形状は楕円形状を呈し、掘方面には礫設置のための小ピットが確認できた。

遺物：土器 大半は遺構確認時に出土した破片であり、出土点数は286点を数えた。縄文時代中期後半の破片が主体であった。石器 出土点数は40点を数え、剥片が20点を占めた。炉の石組中にS12、S14の石皿やS15の台石が転用されていた。打製石斧も7点出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

21号住居（遺構：第251図、PL120、遺物：土器第2分冊第207図、PL97、石器第3分冊第59図、PL44）

確認状況：調査区ほぼ中央で検出した。やや傾斜地形への変換部であり、周辺部より大量の遺物が出土し、不明瞭な落ち込みが確認されたためサブトレンチ等を入れながら遺構確認を行った。その際に石囲炉の炉石が確認でき、付近を精査し住居範囲を決めた。住居確認面から床面までは15cmと浅く、南辺の壁高はほとんど確認できなかった。

位置：Ct・Da-112 重複：下層に複数の住居有り。形状：楕円形 規模：長軸6.00m、短軸5.20m、深さ5cmを測る。面積：29.12m² 方位：N-15°-E 周溝：未検出 柱穴：未検出 床面・掘方：ほぼ平坦である。下層住居の埋没土を床面とするが、しまり弱い。埋没土：壁高がほとんどないため、埋没状況は不明。

炉：石囲炉 **位置**：中央やや北 **形状**：東辺は礫が乱れ出土しているが、他の三辺は50cm前後の大礫を「コ」の字に組み、使用時は方形に組まれていたと考えられる。 **規模**：一辺80cm、深さ18cmを測り、火床面は一辺45cm前後の方形面である。炉の覆土は土器片や礫が混じる。礫の散乱状況から、炉の東辺は壊されていると考えられる。

遺物：土器 出土点数は523点を数え、縄文時代中期後半～末葉の破片が出土した。1と2は炉内、5は炉の北で出土した。石器 出土点数は32点を数え、剥片が27点を占めた。

所見：出土土器から縄文時代中期末葉の住居と考えられる。

22号住居（遺構：第252図、PL121、遺物：土器第2分冊第208・209図、PL98、石器第3分冊第59図、PL44）

確認状況：調査区中央西壁に掛かり住居の西側1/8は調査区外に延びる。周辺部は遺物の出土が多く、住居の輪郭が見え始めた段階には床面付近まで達し、北壁側は周溝が見え始め、南壁際で床面までは15cmと浅い状況となった。このことから、住居はV層中より掘り込まれたと考える。

位置：Cs・Ct-114・115 **重複**：99号・110号・121号土坑、111号・112号ピットが掘り込む。 **形状**：楕円形を呈するが、一部辺の直線的な部分も見られ多角形住居の可能性もある。 **規模**：長軸6.8m、短軸6.4m、深さ6～15cmを測る。 **面積**：24.13㎡ **方位**：N-10°-W **周溝**：ほぼ全周する。若干周溝内にピット確認。 **柱穴**：壁際に巡る7基と内部に2基確認した。住居のやや内側にあるP3とP7に対応するピットが東側に2基想定されるが、確認できなかった。 **床面・掘方**：ほぼ平坦である。地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：壁高がほとんどないため、埋没状況は不明。

炉：地床炉 **位置**：中央やや東寄り **形状**：浅い播り鉢状の楕円形。 **規模**：長軸100cm、短軸90cm、深さ34cmを測る。火床面に焼土分布し、埋没土中に

土器片と焼土を含む。

遺物：土器 出土点数は300点を数えた。縄文時代中期後半の破片が主体であった。石器 出土点数は22点を数え、剥片が15点を占めた。S1の珪化木製の石匙が炉内より出土。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

23号住居（遺構：第253図、PL122・123、遺物：土器第2分冊第210～212図、PL98～100、石器第3分冊第59・60図、PL44・45）

確認状況：調査区中央やや南寄りの西壁に掛かり、住居の西側1/8は調査区外に延びる。周辺部は遺物の出土が多く、住居の輪郭が見え始めた段階には床面付近まで達し、北壁側は周溝が見え始め、南壁際で床面までは10cmと浅い状況となった。このことから、住居はV層中より掘り込まれたと考える。

位置：Cr・Cs-110・111 **重複**：36号住居を掘り込み、135号・174号土坑、117号ピットが掘り込む。 **形状**：円形。わずかに直線的な部分も見え、多角形住居の可能性も考えられる。 **規模**：一辺約6.00m、深さ約10cmを測る。 **面積**：24.36㎡ **方位**：N-0° **周溝**：ほぼ全周し、わずかに周溝内にピットを確認した。 **柱穴**：壁際を巡る4基と内部に2基確認した。 **床面・掘方**：炉の南東脇に深鉢が潰れた状態で出土した。床面はほぼ平坦であり、地山を踏み固めている。 **埋没土**：壁高がほとんどないため、埋没状況は不明。

炉：埋甕炉（石囲埋甕炉の可能性あり） **位置**：中央やや東寄り **形状**：楕円形状を呈する。 **規模**：長軸135cm、短軸125cm、深さ20cmを測り、火床面には礫が散乱し、一部埋設された状況もあり、石組が壊されたとも考えられる。また、中央やや東寄りで1の深鉢が埋設されていた。焼土は、わずかに覆土に含まれ、火床面下は焼土ブロック混じりであり、掘り起こされたと考える。炉の下には住居構築時より古い174号土坑がある。

遺物：土器 大半は遺構確認時に出土し、出土点数

第5章 第4面の検出遺構

は878点を数えた。縄文時代中期後半の破片が主体であった。10の大型深鉢は炉の南脇で潰れ出土した。1は炉体土器である。石器 出土点数は74点を数え、剥片が43点を占めた。炉内に散乱する礫中にS22の石皿やS23の石棒が混じり、炉石に転用されていたと考える。打製石斧も13点出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

24号住居（遺構：第254図、PL123、遺物：土器第2分冊第213・214図、PL100、石器第3分冊PL45）

確認状況：調査区中央の東側の緩斜面部で検出した。一部土坑によって壊されているが、確認面から床面まで20～40cmを測り、比較的良好に残った。

位置：Db-114 **重複：**101号～104号土坑が掘り込む。

形状：各辺がわずかに弧状となる隅丸方形。 **規模：**長軸4.30m、短軸4.10m、深さ40cmを測る。 **面積：**13.26㎡ **方位：**N-9°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**方形配置の4基と北辺に1基検出した。P5内で焼土等は検出できなかったが炉の可能性もある。 **床面・掘方：**地山を踏み固めて床面としているがしまり弱い。 **埋没土：**北西側から土器片を含む暗褐色土が流れ込んだ様子が確認できた。自然埋没である。 **炉：**未確認であるが、柱穴としたP5付近の可能性も考えられる。

遺物：土器 出土点数は143点を数えた。縄文時代中期後半の破片が主体であった。石器 出土点数は26点を数え、剥片が23点を占めた。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

25号住居（遺構：第255図、PL124、遺物：土器第2分冊第215図、PL101、石器第3分冊第60図、PL45）

確認状況：調査区南端で検出した。周辺部は遺物の出土量が多く、遺物を取り上げながら遺構確認を行っていたため、床面直上まで掘り下がり、炉石等を確認し住居と認定した。そのため床面まで深い所

で10cm、南辺の壁高はほとんど確認できない。

位置：Cq-99・100 **重複：**117号土坑を掘り込む。

形状：楕円形 **規模：**長軸3.40m、短軸2.80m、深さ3～10cmを測る。 **面積：**7.68㎡ **方位：**N-55°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**未検出 **床面・掘方：**炉周辺に大礫及び土器片散乱。床面はほぼ平坦であり、地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土：**壁高が低いため、埋没状況は不明瞭。

埋没土：住居外の北脇で1の無文の深鉢が正位で埋設されていた。埋没内には径が12cm程の礫が底に据え置かれ、土器片が覆っていた。掘方規模は長軸45cm、短軸35cm、深さ26cmの楕円形状の掘り込みを持つ。

炉：石囲炉 **位置：**やや西寄り **形状：**北辺を除き約30cmの礫が「コ」の字状に組まれる。 **規模：**長軸55cm、短軸45cm、深さ12cm程を測り、火床面は長軸25cm、短軸20cmの範囲である。火床面には焼土が認められる。掘方規模は長軸60cm、短軸50cm、深さ25cmを測り、楕円形状を呈する。

遺物：土器 大半は遺構確認時に出土した破片であり、出土点数は191点を数えた。縄文時代中期後半の破片が主体であった。4の深鉢体部は炉東で出土した。石器 出土点数は28点を数え、剥片が25点を占めた。炉東脇よりS3の多孔石が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

26号住居（遺構：第256・257図、PL124・125、遺物：土器第2分冊第216～220図、PL101～104、石器第3分冊第60・61図、PL45・46）

確認状況：調査区中央やや南の壁寄りで検出した。周辺部は住居・土坑が多く検出され、出土遺物も多かった。一部、重複する遺構によって壊されているが、確認面から床面まで40cmほどあり、比較的良好に残った。

位置：Cr・Cs-109・110 **重複：**38号住居と接し、39号住居に掘り込まれる。209号土坑を掘り込む。

形状：楕円形 **規模：**長軸4.60m、短軸4.00m、深

さ40cmを測る。面積：13.28㎡ 方位：N-18°
 -E 周溝：ほぼ全周すると考える。柱穴：不規則に5基確認し、掘方面では中央から南壁に掛けて密集する。位置は不均等である。床面・掘方：床面は地山を利用し床面とし、特に炉の周辺部は固く締まっていた。掘方面では南側周溝部分が幅50cm前後、深さ15cm程に広がる。周溝内及び住居内で土坑状の掘り込みを確認した。埋没土：上層では土器片多く含み、東側に多く含まれる傾向があり、またロームブロックも混入し人為的な埋土と考える。

埋甕：炉の北西部脇で検出した。5a、5bの深鉢体部が2重に重なるように据えられ、内部から3、4の深鉢口縁が出土した。掘方規模は長軸60cm、短軸50cm、深さ22cmを測り、楕円形状を呈する。埋甕内には焼土が入る。

炉：石囲炉 位置：やや南側 形状：40cm前後の角礫を使用し、崩れたような状況ではあるが南北に長い長方形に組まれる。規模：長軸60cm、短軸50cmを測り、火床面は長軸35cm、短軸30cmの長方形を呈する。炉石は被熱により破断している。埋没土中には焼土ブロックが入る。掘方規模は長軸80cm、短軸60cm、深さ22cmを測り、不定形である。

遺物：土器 上層より大量の土器破片が出土し、出土点数は2,862点を数えた。縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。出土位置は南半に多く出土した。1はP5脇、29は炉東、45は北西壁際で出土した。石器 出土点数は274点を数え、剥片が178点を占めた。石鏃7、石錐6、打製石斧14点が出土し、炉西脇よりS36の砥石が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

27号住居（遺構：第258・259図、PL125・126、遺物：土器第2分冊第221・222図、PL104・105、石器第3分冊第61・62図、PL46）

確認状況：調査区南の中央で検出した。周辺部は遺構密度が高く、また遺物の出土量も多かったため遺

構確認に際してサブトレンチを入れ確認した。遺構の一部は重複する遺構によって壊されている。住居内からは北壁に70cm大の礫が1石と南壁際に40cm前後の大礫の集積、また埋甕及び立石等が確認できたことから初源的敷石住居の可能性も考えられる。

位置：Cq・Cr-101・102 重複：9号住居に北接し、126号・127号土坑が掘り込む。形状：北壁は直線的で南壁周辺部は9号住居と接し、立ち上がり部分は掘り下げてしまい不明瞭であるが、隅丸方形を呈していたと考える。規模：長軸5.60m、短軸5.10m、深さ約25cmを測る。面積：20.24㎡ 方位：N-55°-W 周溝：未検出 柱穴：未検出 床面・掘方：やや起伏のある掘方面に暗褐色土の地山を入れ、床面としている。明瞭な貼床はない。南西壁付近は40cm前後の大礫の集積と10～20cmの礫の集積が見られ、中心に埋甕を検出した。この礫群+埋甕及び立石と北壁に寄せられた大礫から敷石住居の可能性が考えられ、板状や扁平石等の敷石の残骸や抜き取り痕が希薄であるが、初源的敷石住居の可能性は強い。掘方調査では炉の脇から土坑を1基検出した。規模は長軸110cm、短軸100cm、深さ30cmを測り、隅丸方形形状を呈する。土坑内から土器片が出土し、時期は住居の埋没土中にある遺物と時期差はほとんどない。埋没土：遺物を多く含むことから、人為的埋め土と考える。

埋甕：住居の南西部で2の深鉢を正位で埋設していた。また、埋甕脇から3の浅鉢や立石が出土している。立石は埋甕東隣で出土し、両端が欠落した円柱状を呈し、径22cm、高さ30cmを測る。その下部に長軸30cm、短軸25cm、厚さ6cmを測る扁平円礫が沈下防止のように据えられていた。埋甕や立石は住居の掘方時に一括で据えられたものとする。立石の基礎はさらに16cmほど掘り窪められている。

炉：埋甕炉 位置：ほぼ中央 形状：楕円形状を呈する。規模：長軸90cm、短軸78cm、深さ15cmを測り、火床面は焼土面が確認でき、北西寄りに1の深鉢が埋設されていた。埋設土器周辺は焼土化が著しく、埋設土器に接する埋め土まで焼土化している。

第5章 第4面の検出遺構

炉の下部は土坑状に掘り込まれ、径90cm、深さ40cmの楕円形を呈する。

遺物：住居西半部で出土量は多い。土器 出土点数は731点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。石器 北壁では大礫や小礫の集積、南辺から南西部にかけても礫の集中が見られた。出土点数は159点を数え、剥片が121点を占めた。打製石斧、磨石、凹石等が出土した。**所見：**出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。集礫、埋甕、立石等から敷石住居の初源的形態に類似する。

28号住居（遺構：第260図、PL126、遺物：土器第2分冊第223図、PL105）

確認状況：上部での出土遺物調査中に炉を確認し、住居と認定し遺構確認を行ったが、プランは確認できず炉だけが残った状況である。屋外炉の可能性が考えられる。

位置：Ct-106 **重複：**206号土坑と重複するが、土坑は炉の約10cm下で確認されているため、炉が土坑を掘り込む。また、本住居の炉中心点から南約2m先には29号住居炉が位置する。おそらく住居であれば重複している可能性が高いが、検出されたレベルが29号住居の方が約10cm下にあり、29号住居を掘り込んでいると思われる。**形状：**確認できず。**規模：**確認できず。**方位：**N-15°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**未検出 **埋没土：**炉周辺及び炉内の暗褐色土が被覆土であり、遺物の出土は多かったが、ロームブロックが多量に入った一括埋め土という状況ではなかった。**床面・掘方：**周辺部は未確認。

炉：石囲埋甕炉 **位置：**確認不能 **形状：**北辺と南辺に10～30cm程の礫を方形に組む。**規模：**長軸86cm、短軸76cm、深さ10cmを測り、火床面は長軸86cm、短軸36cmを測り、やや北寄りに土器を埋設する。炉の覆土は焼土が混じる。掘方規模は長軸85cm、短軸80cm、深さ35cmを測り、楕円形を呈する。**遺物：**炉内から埋設土器1個体が出土。時期は縄文時代中期後葉に比定される。

所見：住居として調査を進めたが、炉のみを確認でき、周溝や柱穴等を確認できなかったため屋外炉の可能性が強い。時期は、出土土器から縄文中期後葉の構築と考える。

29号住居（遺構：第261図、PL126、遺物：土器第2分冊第224図、PL105）

確認状況：上部での出土遺物調査中に炉を確認し、住居と認定し遺構確認を行ったが、プランは確認できず炉だけが残った状況である。屋外炉の可能性が考えられる。

位置：Ct-106 **重複：**本住居の炉中心点から北約2m先には28号住居炉が位置する。おそらく住居であれば重複している可能性が高いが、検出されたレベルが28号住居の方が約10cm上にあり、28号住居に掘り込まれたと思われる。**形状：**確認できず。**規模：**確認できず。**方位：**N-18°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**未検出 **床面・掘方：**周辺部は未確認。**埋没土：**炉周辺及び炉内の暗褐色土が被覆土であり、遺物の出土は多かったが、ロームブロックが多量に入った一括埋め土という状況ではなかった。

炉：石囲炉 **位置：**確認不能 **形状：**南辺に3石と東辺に1石が石組される南北に長い長方形。**規模：**102cm、短軸75cm、深さ12cmを測り、火床面は長軸75cm、短軸64cmを測る。わずかに土器片出土。埋没土中にはわずかに焼土が混じる。掘方規模は長軸105cm、短軸80cm、深さ20cmを測り、北辺が突出するが隅丸長方形状を呈する。また掘方面で、西辺の一部に礫の埋め込み用と考えられる細長い掘り込みを検出した。

遺物：炉内からわずかに土器が出土した。時期は縄文時代中期後葉に比定される。

所見：住居として調査を進めたが、炉のみを確認でき、周溝や柱穴等を確認できなかったため屋外炉の可能性が強い。時期は、出土した土器から縄文中期後葉の構築と考える。

30号住居（遺構：第262図、遺物：土器第2分冊第225図、PL105、石器第3分冊第62図、PL47）

確認状況：上部での出土遺物調査中に炉を確認し、住居と認定し遺構確認を行ったが、プランは確認できず炉だけが残った状況である。屋外炉の可能性が考えられる。

位置：Cs-105 重複：45号住居に北接し、152号・153号・162号土坑に囲まれて検出できたが、住居としての重複関係は不明である。 **形状**：確認できず。 **規模**：計測不能 **方位**：N-2°-W **周溝**：未検出 **柱穴**：未検出 **床面・掘方**：周辺部は未確認。 **埋没土**：炉周辺及び炉内の暗褐色土が被覆土であり、遺物の出土は多かったが、ロームブロックが多量に入った一括埋め土という状況ではなかった。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：確認不能 **形状**：35～65cm程の大礫を4石方形に組む。 **規模**：1辺90cm、深さ26cmを測り、火床面は50cm四方の方形を呈する。火床面中央に埋設土器確した。埋設土器は、2と3の深鉢を2個体を重ねている。北辺の炉石は、長さ52cm、幅44cm、厚さ20cmを測る。東辺の炉石は、長さ55cm、幅45cm、厚さ18cmを測る。両石とも平坦面を炉内に向け埋置される。また南辺と西辺の炉石は方形の礫である。各礫は被熱により断裂している。埋没土は焼土が混じり、下部には厚く焼土層の堆積が見られた。掘方規模は、長軸110cm、短軸100cm、深さ47cmを測り、南北にわずかに長い長方形を呈する。 **遺物**：炉内から炉体土器として深鉢が埋設され、2の体部と3の底部が重なり出土した。時期は縄文時代中期後葉に比定される。

所見：住居として調査を進めたが、炉のみを確認でき、周溝や柱穴等を確認できなかったため屋外炉の可能性が強い。時期は、出土土器から縄文中期後葉と考えられる。

31号住居（遺構：第263・264図、PL127、遺物：土器第2分冊第226・227図、PL106、石器第3分冊第62図、PL47）

確認状況：調査区南寄りの西壁に食い込む形で検出

し、西側1/3は調査区外に延びる。周辺部は遺物出土量や遺構密度が高く、V層中より掘り込まれ遺構確認面がローム漸移層付近まで掘り下がり、床面まで浅くなった。特に傾斜の高い住居北側の壁面は不明瞭であった。

位置：Cq-105 重複：44号・45号を掘り込み、46号住居、136号土坑は本住居よりも新しいものと考えられる。 **形状**：楕円形 **規模**：長軸約6.80m、短軸5.60m、深さ約14cmを測る。 **面積**：(22.90) m² **方位**：N-2°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：壁際に巡る大小6基と内部に3基検出したが、規則性は見られない。北辺はやや内側に入り、壁面が広がっていると考えられる。P5は重複する44号住居の柱穴の可能性もある。 **床面・掘方**：炉を挟み南半から西側が深くなる。地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：床面直上まで土器を大量に含んだ埋没土であり、埋没状況は人為的と考える。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：中央やや北寄り **形状**：60～70cm程の大礫を東西に組み、南北は10～30cm程の礫を組んで全体を方形に組む。 **規模**：長軸120cm、短軸90cm、25cmを測る。火床面は、一辺55cm四方の範囲であり、中央に土器を埋設している。火床面の焼土の堆積は余り見られないが、炉石は被熱で断裂している。北壁の炉石は板状礫で裏込めに10cm前後の礫を用いている。また、南の礫は低く焚き口を思わせる。掘方規模は長軸107cm、短軸97cm、深さ27cmを測り、隅丸形状を呈する。底面には炉石埋設用の掘り込みを確認した。

遺物：土器 出土点数は745点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。2の深鉢は南寄り、5の深鉢も炉北側に散乱していた。6の浅鉢はP8内より出土した。炉体土器として1の深鉢が正位で埋設されていた。石器 出土点数は126点を数え、剥片が91点を占めた。打製石斧は10点と多く、石鏃、スクレイパー、磨石、凹石等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

32号住居（遺構：第265・266図、PL128、遺物：土器第2分冊第228～232図、PL107～109、石器第3分冊第63図、PL47）

確認状況：調査区南の東壁に食い込み検出した。東側1/6は調査区外に延びる。周辺部は遺物出土量や遺構密度が高く、V層中より掘り込まれ遺構確認面がローム面まで掘り下がり、床面が一部露出した。

位置：Cs-101 **重複**：33号・37号住居、148号・177号土坑を掘り込む。 **形状**：円形 **規模**：径約6.0m、深さ22cmを測る。 **面積**：(26.97) m² **方位**：N-24°-E **周溝**：南辺にわずかに周溝状の溝を確認した。 **柱穴**：壁際に巡る5基の柱穴と4基の柱穴を検出した。P1上で26の深鉢体部片と底部が出土した。 **床面・掘方**：主に地山を踏み固めて床面としている。南壁寄りのP3周辺部に焼土の広がりを確認した。 **埋没土**：壁高が低いため埋没状況は不明瞭であるが、大量に遺物が出土し、人為的廃棄が考えられる。

炉：石囲埋甕炉 **位置**：中央 **形状**：方形に10～30cm程の礫が組まれたと考えられるが、西辺は礫がまばらで、北辺はほとんど無い状況であった。 **規模**：1辺約90cm、深さは4cmを測る。火床面は70cm四方であり、中央部に4の大型深鉢が埋設される。火床面の焼けは弱い。掘方規模は1辺105cm、深さ30cmを測り、楕円形状を呈する。

遺物：住居中央部で1,000点を超える大量の遺物が出土した。土器出土点数は1,397点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も混じる。南壁際で11の大型深鉢が潰れた状態で出土し、中にS13の台石を伴う。脇に1の深鉢も出土した。11の深鉢は炉内からも破片が出土した。42の有孔鏝付土器はP1と炉の間で出土した。石器出土点数は126点を数え、剥片が99点を占めた。打製石斧8点、石鏃等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

33号住居（遺構：第267図、PL129、遺物：土器第2分冊第233・234図、PL109・110、石器第3分冊第63図、PL47・48）

確認状況：調査区南の東壁際で検出し、1/5は調査区外に延び、南側1/3は32号住居によって壊され、また、遺構確認面から床面まで浅いため、残存状況は不良である。

位置：Cs-102 **重複**：32号住居及び148号・177号土坑により壊され、55号住居、148号土坑を掘り込んでいる。 **形状**：楕円形 **規模**：直径5.3m、深さ約15cmを測る。 **面積**：(20.01) m² **方位**：N-44°-W **周溝**：未検出 **柱穴**：壁際に巡る4基検出した。 **床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土**：壁高が低く埋没状況は不明瞭であるが、自然堆積と思われる。

炉：石囲炉 **位置**：ほぼ中央 **形状**：北辺から東辺には礫は出土せず、西辺から南辺に掛けて40cm前後の大礫を中心に弧状に石組される。 **規模**：長軸約100cm、短軸90cm、深さ15cmを測る。火床面は、長軸75cm、短軸65cmの範囲であり、焼土の広がりは北寄りに見られる。掘方規模は、長軸115cm、短軸100cm、深さ15cmを測り、形状は楕円形である。

遺物：住居西半部で出土量が多い。土器出土点数は402点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。7の無文の浅鉢が炉石上から出土した。6の深鉢は177号土坑上で出土した。石器出土点数は48点を数え、剥片が30点を占めた。打製石斧、敲石、楔形石器等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

34号住居（遺構：第268・269図、PL129、遺物：土器第2分冊第235～237図、PL110～112、石器第3分冊第63・64図、PL48）

確認状況：調査区中央に位置し、崖線に向かいやや傾斜地形となる。本住居周辺は出土遺物量と共に遺構密度も多く、上層に21号住居が構築されその床下から30cm程下部で検出した。

位置：Ct・Da-111・112 **重複：**21号住居に掘り込まれ、35号・56号・57号住居を掘り込む。また、土坑は170号・189号・198号土坑に掘り込まれ、228号土坑を掘り込む。 **形状：**東西方向に長い楕円形を呈するが、わずかに直線的な辺が見られ、八角形住居の可能性も考えられる。 **規模：**長軸6.40m、短軸6.00m、深さ40cmを測り、掘り込みはしっかりしている。 **面積：**26.27㎡ **方位：**N-50°-E **周溝：**全周する。 **柱穴：**6基が壁際を巡る。八角形の各コーナー一部の配置にも見える。 **床面・掘方：**南西よりは地山ローム面を床面とするが、それ以外は下層の56号住居埋没土上にロームブロック混土を踏み固め、貼床面を作る。 **埋没土：**南西側から土砂が流入した様子が観察できる。埋没土中には多くの遺物が出土し、乱れた土層も観察され、更に上層遺構などの存在から人為的な埋土と考えられる。

炉：石囲炉 **位置：**中央 **形状：**大部分を170号土坑に壊され、南西側の板状石列のみが残存した。

遺物：埋没土中から1,800点以上の遺物が出土した。土器 出土点数は1,698点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。1、3、6の深鉢及び51の両耳壺等は炉の南側にまとめて出土し、2a、2b、5の深鉢はP4脇で出土している。また、10のミニチュア土器はP3南で出土した。石器 出土点数は174点を数え、剥片が121点を占めた。打製石斧は17点出土し、楔形石器、磨石、凹石等も出土した。S32の石皿は炉石に転用され、S33の石棒は170号土坑にかかり出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

35号住居 (遺構：第270・271図、PL130、遺物：土器第2分冊第238図、PL112、石器第3分冊第64・65図、PL48・49)

確認状況：調査区中央部の緩やかに崖線に向かい傾斜が始まる地点で検出した。本住居周辺は出土遺物量と共に遺構密度も多く、上部は重複する遺構によって壊されている。遺構確認に際し、土器片等に

混じり10cmに満たない小礫が多く出土し、列状に伸び始めたため掘り残した。また、南では1m近い大礫とその周辺から10～50cm前後の礫が集まり、それらを結んだところ柄鏡形敷石住居であることが分かった。柄鏡形敷石住居は、張出部に大型礫を用い、連結部でもやや大きめの礫を置き、主体部は10cm弱の小石を何重にも重ね壁面のように組み上げ方形区画を作っている。

位置：Ct・Da-110・111 **重複：**34号・56号・57号住居、143号・189号土坑を掘り込み、21号住居に接する。143号・189号土坑よりも古い。 **形状：**柄鏡形敷石住居。主体部は方形を呈する。 **規模：**全長6.60m **主体部：**長軸3.5m、短軸3.0mを測る。

張出部：長軸4.5m、短軸1.5mを測る。

面積：22.83㎡ (主体部) **方位：**N-18°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**掘方面で2本の柱穴を確認した。 **床面・掘方：**主体部床面の精査を行ったが明瞭な床面が出ないまま均質な土質まで下げ壁の小礫や炉石がやや浮いた状態となった。敷石は北壁と南壁に板状礫、扁平礫が置かれる。掘方面は住居外側に多角形状に1m程拡張する。

炉：石囲炉 **位置：**中央 **形状：**40cm程の礫を方形に組む。 **規模：**1辺70cm、深さ10cmを測る。火床面は45cm四方で中央部に硬化した焼土面を確認した。北辺の礫は幅32cmと広く、底面を炉の内側に向ける。また、炉の東側は一部石の代わりに1の深鉢が転用されている。掘方規模は、径74cm、深さ17cm程の楕円形状を呈する。

遺物：埋没土中に多く含まれ、壁際の小礫に混じり出した。土器 出土点数は979点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期破片も少量混じる。1と2の深鉢は炉石と共に炉構築材として転用されていた。6aの深鉢は連結部で出土した。石器 出土点数は89点を数え、剥片が46点を占めた。打製石斧、凹石、敲石、石核等が壁際石組中や張出部礫群中より出土している。

所見：柄鏡形敷石である。住居出土土器から縄文時代中期末葉の住居と考えられる。

36号住居（遺構：第272図、PL131、遺物：土器第2分冊第239図、PL112、石器第3分冊PL49）

確認状況：調査区中央やや南寄りの西壁に食い込む形で検出し、2/3程度を調査できた。本住居周辺は遺物量と共に遺構密度も高く、遺構確認面はローム面の近くまで掘り下がり床面も露出し、壁の立ち上がりもほとんど無くなった。

位置：Cr-110 **重複**：23号・39号住居、135号土坑が掘り込む。**形状**：楕円形状 **規模**：計測不能 **方位**：N-15° - E（炉の軸方向） **周溝**：全周する。**柱穴**：南壁側で壁に沿い2基検出したが、他では検出できなかった。**床面・掘方**：ほぼ平坦である。地山を踏み固めて床面としている。掘方面で調査区壁面に食い込む2基の土坑を検出した。床下土坑は径が50cm、深さ20cmを測り、礫出土。**埋没土**：壁高がほとんどないため、埋没状況は不明。

炉：埋甕石囲炉 **位置**：中央 **形状**：20cm前後の礫を埋設土器の周囲を囲むように楕円形状に組む。

規模：長軸75cm、短軸68cmを測る。中央に口縁および底部が欠損している長径50cm程の楕円形にやや変形した埋設土器を検出した。掘方規模は長軸100cm、短軸80cm、深さ23cmを測り、楕円形を呈する。

遺物：土器 出土点数は54点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1の深鉢は炉体土器として転用されている。石器 出土点数は6点を数え、剥片が4点を占めた。S1の多孔石は南辺の調査区壁際、S2の台石は床下土坑内の調査区壁にかけり出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

37号住居（遺構：第273図、PL131、遺物：土器第2分冊第240図、PL113、石器第3分冊第65図、PL49）

確認状況：調査区南、調査区東壁際で検出した。本住居周辺は遺物量と共に遺構密度も高く、遺構確認面はローム面近くまで掘り下がり、残存状況は不良である。

位置：Cr・Cs-100・101 **重複**：32号住居、191号土坑が掘り込む。**形状**：南北に長い楕円形と考える。**規模**：1辺4.9m、深さ5cmを測る。**面積**：(15.24)m² **方位**：N-20° - E **周溝**：未検出 **柱穴**：5基確認し、壁沿いに4基巡る。**床面・掘方**：地山を踏み固めて床面としている。**埋没土**：壁高が低いため埋没状況は不明瞭である。

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は72点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1の浅鉢はやや南寄り、他は中央付近で出土した。石器 出土点数は11点を数え、剥片が6点を占めた。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

38号住居（遺構：第274・275図、PL132・133、遺物：土器第2分冊第241図、PL113、石器第3分冊第65・66図、PL49・50）

確認状況：調査区中央やや南寄りで検出した。本住居周辺は遺物量と共に遺構密度も高く、遺構確認面はローム面近くまで掘り下がった。遺構確認時に土器片と共に小礫が多量に出土し、板状の礫も見え始めていた。また、張出部の50cm前後の大礫も頭が出ていたが別遺構として検出作業を行った。その後住居プラン精査段階で柄鏡形敷石住居であることが分かり小礫などを残し調査を行った。

位置：Cs-109・110 **重複**：42号住居を掘り込む。**形状**：方形の主体部と長方形の張出部を有する柄鏡形敷石住居である。

規模：全長約7.2m（南北方向を長軸とする）。

主体部：一辺4.5m、深さは北壁際で約10cmの掘り込みを確認した。南壁側では確認できなかった。

張出部：長さ2.7m、幅1.2mを測る。先端部に65cmの大礫が横位に置かれ、50cm前後のやや扁平な大礫を底面に敷き込んでいる。一部は側壁の礫が崩落し重なって出土した。張出部先端の礫下面から、5の深鉢体部が潰れた状態で出土し、埋甕として調査を行った。しかし、埋甕ではなく下部の42号住居出土

土器の可能性も考えられる。

連結部石敷石組施設：連結部中央で検出した。40cm前後の扁平礫を方形に組み、底面に礫を敷いている。

1辺45cm、深さ約10cmを測り、礫の下部に浅鉢底部が埋置されていた。周辺には板状礫や扁平礫が敷かれ、間に小礫を詰める。掘方規模は長軸80cm、短軸75cm、深さ25cmを測る。

面積：19.85㎡ **方位：**N-17°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**未検出 **床面・掘方：**床面上には土器片と共に小礫が散乱し、掘り込み面はロームがくすんだ状態で検出した。敷石は、壁際沿いのみに30cm前後の川原石と共に板状礫を配し、その隙間に小礫を入れ構築していた。

炉：石囲炉 **位置：**主体部中央やや南 **方位：**N-30°-Eを測り、若干住居主軸と異なる。 **形状：**50cm前後の礫を方形に組む。 **規模：**1辺86cm程、深さ15cmを測る。火床面は、1辺40cm四方で焼けは弱い。炉石は被熱により破断している。掘方規模は、長軸90cm、短軸80cm、深さ22cmを測り、不定形である。 **遺物：**遺物出土量は多く1,000点を超えた。

土器 出土点数は962点を数え、小破片が多く出土した。破片の多くは縄文時代中期後半が主体であり、前期破片も少量混じる。 **石器** 床面や壁の礫に混じり製品が出土している。出土点数は143点を数え、剥片が79点を占めた。磨製石斧完形品のS23は炉の北西で出土した。打製石斧も多く15点出土した。その他凹石、磨石、敲石等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期末葉の住居と考えられる。

39号住居（遺構：第276・277図、PL134、遺物：土器第2分冊第242・243図、PL113・114、石器第3分冊第66・67図、PL50）

確認状況：調査区中央やや南寄り西壁に食い込む。住居の西側1/2弱は調査区外に延びる。本住居周辺は出土遺物量と共に遺構密度も多く、北東部を26号住居に大きく壊されている。

位置：Cr-109・110 **重複：**26号住居に掘り込まれ、

36号住居を掘り込む。 **形状：**楕円形か 南壁は直線的である。 **規模：**中心径は7.15m、深さ30cmを測る。 **面積：**(22.81)㎡ **方位：**N-15°-E

周溝：南壁際のみ検出した。 **柱穴：**住居内に均等配置される状況ではない。床面調査時に1基、掘方面調査時に6基確認した。 **床面・掘方：**土器片が散在し、炉南東脇には礫が集積されていた。炉脇から埋嚢を検出したが、掘方で検出した2号炉中央に位置しているため2号炉の炉体土器とも考えられる。地山を踏み固めて床面としている。 **埋没土：**土器片を多く含み、地山土が混じることから人為的な埋土と考える。

1号炉 石囲炉か **位置：**中央 **形状：**南辺に板状礫2石が出土。楕円形状を呈する。 **規模：**長軸96cm、短軸84cmを測り、火床面は深さ20cm程のレンズ状を呈し、焼土層が堆積する。火床面下層は土坑状の掘方となり、長軸142cm、短軸110cm、深さ50cmを測る。埋没土中には、ロームブロックが混じり、40cm前後の炉の石組と同じ材の板状礫も投げ込まれたような状況で出土した。

2号炉 1号炉東脇下部で検出した。埋嚢炉 **位置：**1号炉東 **形状：**楕円形を呈し、1の深鉢を正位で埋置する。掘方規模は、長軸100cm、短軸80cm、深さ28cmを測り、形状は楕円形である。

遺物：土器 出土点数は351点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1の深鉢は2号炉の炉体土器。20の器台は掘方調査時のP3内より出土した。 **石器** 出土点数は90点を数え、剥片が49点を占めた。石鏃4点、打製石斧15点、敲石、楔形石器等が出土した。

所見：2基の炉の検出により建て替住居の可能性を考える。出土土器から縄文時代中期末葉の住居と考えられる。

40号住居（遺構：第278・279図、PL134、遺物：土器第2分冊第244図、PL114、石器第3分冊第67図、PL50・51）

確認状況：調査区中央南寄りで検出された。本住居

第5章 第4面の検出遺構

周辺部は、東の崖線へ向かい傾斜地形が始まる部分であり、北西側は壁を確認できたが、南東側は確認できなかった。また遺物の出土も多かった。

位置：Ct・Da-109 **重複：**243号・244号土坑が住居床面下で検出されている。**形状：**南北に長く、卵形 **規模：**長軸6.5m、短軸約5.2m、深さ西壁側で30cm、東壁は5cm弱を測る。**面積：**25.15㎡ **方位：**N-22°-W **周溝：**未検出 **柱穴：**壁際に巡り、9基検出した。**床面・掘方：**やや南東に傾斜し、地山を踏み固めて床面としている。**埋没土：**土器片、小礫やロームブロックの混土が西側から埋まっている状況が確認でき、人為的埋土と考える。

炉：石囲埋甕炉 **位置：**北壁寄り **形状：**楕円形に掘り込まれ、大量の土器片や礫出土。**規模：**長軸98cm、短軸90cm、深さは10cm前後掘り下がった焼土ブロックが集中する面を火床面とした。しかし、その下部から1の深鉢が潰れた状態で出土し、礫が壁際に並べられた状況でもあり、石囲埋甕炉と考えた。掘方規模は長軸105cm、短軸90cm、深さ35cmを測る。形状は、楕円形を呈する。

遺物：遺物出土量は多く、住居全体に小破片が出土した。土器 出土点数は542点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。15の土製耳飾が炉の東寄り単独で出土した。石器 出土点数は87点を数え、剥片が56点を占めた。打製石斧、敲石、楔形石器等が壁寄りでも出土している。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

41号住居（遺構：第280図、PL135、遺物：土器第2分冊第245～247図、PL115、石器第3分冊第67・68図、PL51）

確認状況：調査区中央南寄りの調査区東壁に食い込み検出され、東側の1/4は調査区外に延びる。また、南西部分は攪乱によって壊されている。住居は東の崖線へ向かう傾斜地で確認した。北西側は壁を確認できたが、南東側は確認できなかった。周辺部は遺物の出土も多い。

位置：Ct・Da-107・108 **重複：**なし **形状：**東西に長い隅丸長方形を呈すると考える。**規模：**長軸6.00m、短軸4.40m、深さ西壁際で32cm、東壁際で8cmを測る。**面積：**(15.80)㎡ **方位：**N-67°-W **周溝：**未検出 **柱穴：**北壁際で2基確認したが、P2は小規模。**床面・掘方：**ほぼ平坦で、地山を踏み固めて床面としている。**埋没土：**西側半分は、ブロック状の堆積が観察でき、人為的な埋土と考える。

炉：埋甕炉 **位置：**やや東寄り **形状：**床面付近まで掘り下がり、3の炉体土器の深鉢頂部は床面と同じレベルであった。掘方は楕円形を呈する。**規模：**径45cm程である。掘方規模は、長軸67cm、短軸50cm、深さ12cmを測り、中央部の土器埋設部分が一段下がる。

遺物：土器 出土点数は402点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。14の渦巻状突起は炉内出土、7、10の深鉢と15の渦巻状突起、19の浅鉢は炉の南東で混在して出土した。石器 出土点数は58点を数え、剥片が41点を占めた。石鏃、打製・磨製石斧、磨石、敲石、石皿等が出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

42号住居（遺構：第281～283図、PL136、遺物：土器第2分冊第248～253図、PL116～119、石器第3分冊第68図、PL51・52）

確認状況：調査区中央南寄りでも検出した。本住居周辺は遺物量と共に遺構密度も高く、遺構確認面はローム面の近くまで掘り下がったが、確認面から床面まで約30cmを測り、比較的良好に残っていた。

位置：Cs-108 **重複：**北側は柄鏡形敷石住居の38号住居張出部下で検出した。大型土坑の178号土坑を掘り込む。**形状：**楕円形に見えるが、若干直線的なラインも見られることから多角形住居の可能性も考えられる。**規模：**径7.0m、深さ30cmを測る。

面積：36.41㎡ **方位：**N-2°-E **周溝：**未検出 **柱穴：**壁に沿って巡る9基と内側に入る1基検出

した。多角形住居の各コーナー内側に配置されているとも考えられる。床面・掘方：掘方面は多少起伏が見られ、ピットも多数あり、掘削排土のロームブロック等を入れて床面としている。また、床面上には土器片が数多く散乱し、廃絶直後から廃棄場所となったと考える。埋没土：多量の遺物が出土し人為的な投棄が考えられる。

埋喪：南西側のP 8脇で3の深鉢底部が、わずかに埋められ出土した。掘方規模は、長軸35cm、短軸17cm、深さ14cmを測り、形状は楕円形を呈する。

炉：埋喪炉 位置：やや北寄り 形状：隅丸長方形を呈する。炉内には土器片や礫も混じり、肩部分10～30cm程の礫が出土し、石組の可能性も残る。

規模：1辺140cm、深さ25cmを測り、火床面南側で1と2の深鉢口縁部2個体を重ねて埋設している。火床面の焼けは明瞭であり、焼土層の堆積が見られ、下位の埋設土器の周囲は被熱で焼土化している。

遺物：全域に2,400点の遺物が散乱した状態で出土した。土器 出土点数は2,291点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期の小破片が混じる。全体に接合関係は広く、入り混じる。北寄りに1、5の大型深鉢が出土した。36、37の浅鉢は炉周辺部出土。石器 出土点数は151点を数え、剥片が47点を占めた。打製石斧25点、石核20点、RF39点と多く、石鏃9点、スクレイパー、磨石、敲石等が出土した。S 44の石皿は南東隅で出土している。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

43号住居（遺構：第284図、PL137、遺物：土器第2分冊第254図、PL119、石器第3分冊第69図、PL52）

確認状況：調査区中央南寄り、調査区に西壁に食い込む形で検出され、西側1/2は調査区外に延びる。

位置：Cq-107・108 **重複**：159号～161号・171号土坑、121号ピットにより掘り込まれる。形状：周溝の形状から隅丸方形と考える。規模：径6.0m、深さ20cmを測る。面積：(18.11)m² 方位：N-22

°-E **周溝**：南辺から東辺に掛けて壁より1m内側で検出した。周溝内に小ピットが見られる。柱穴：住居内より不規則な柱穴状のピットを検出したが、配置等は不明瞭である。床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。埋没土：確認面から床面までの間では単一土層しか観察されていない。自然堆積と考える。

炉：石囲炉 位置：中央か 形状：南辺の石組は検出できなかったが、25cm前後の類似した礫を隅丸長方形に組んでいる。規模：長軸125cm、短軸62cmを測る。掘方規模は、長軸167cm、短軸70cm、深さ22cmを測り、形状は楕円形である。北寄りの火床面上には焼土が見られる。炉の南辺の石は取り除かれていて確認できなかった。

遺物：土器 出土点数は190点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であり、前期の破片も僅かに混じる。5は前期の破片である。石器 出土点数は17点を数え、剥片が13点を占めた。炉石に転用されているS 3は割られて用いられた。S 2の磨石も炉石に転用されている。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

44号住居（遺構：第285図、PL137、遺物：土器第2分冊第255図、PL119、石器第3分冊第69図、PL52）

確認状況：調査区中央南寄りで検出された。45号住居と同心円状に重複し、45号住居がテラス状に広がる。周辺部は遺物量や遺構密度は高く、住居・土坑の重複が激しく、確認面はかなり掘り下がった。遺構の輪郭も不明瞭な状況であった。

位置：Cq・Cr-105 **重複**：45号住居を掘り込み、31号住居に掘り込まれる。形状：円形 規模：径5.0m、深さ10cmを測る。面積：(18.71)m²

方位：計測不能 **周溝**：未検出 **柱穴**：柱穴らしき穴を4基確認したが、柱穴に該当するか不明確である。床面・掘方：ほぼ平坦である。地山を踏み固めて床面としている。埋没土：確認面から床面ま

第5章 第4面の検出遺構

で単一土層であり、自然埋没の可能性が高い。

炉：焼土等は確認できなかったが、住居中央から東にかけて石が多く散乱していることから、炉が破壊された可能性が考えられる。

遺物：土器 出土点数は402点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。1の深鉢が中央やや北寄り出土。また、遺構外G-2の尖底土器片が床面から+28cmで出土した。石器 出土点数は49点を数え、剥片が26点を占めた。打製石斧、磨石、敲石、石核等が出土し、中央で三角錐形石器が出土している。

所見：縄文時代早期の遺物の混入が見られるが、縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

45号住居（遺構：第285図、PL137、遺物：土器第2分冊第256図、PL120、石器第3分冊第69・70図、PL52）

確認状況：調査区中央南寄りで検出された。44号住居と同心円状に重複し、本住居がテラス状に広がる。周辺部は遺物量や遺構密度は高く、住居・土坑の重複が激しく、確認面はかなり掘り下がった。遺構の輪郭も不明瞭な状況であった。

位置：Cq・Cr-105 **重複**：31号・44号・46号住居及び136号・152号土坑等に掘り込まれる。**形状**：円形 **規模**：長軸8.0m、短軸7.2m、深さ6cmを測る。**面積**：(44.81)m² **方位**：計測不能 **周溝**：未検出

柱穴：未検出 **床面・掘方**：44号住居床面より4cmほど一段高く、やや内傾している。**埋没土**：確認面から床面まで単一土層であり、自然埋没と考えられる。

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は402点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。石器 出土点数は11点を数え、剥片は1点であった。打製石斧が5点出土し、S7、S8の三角錐形石器が44号住居際で2点出土した。

所見：44号住居同様早期の遺物が混入するが縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

46号住居（遺構：第286図、PL137・138、遺物：土器第2分冊第257図、PL120、石器第3分冊第70図、PL52）

確認状況：調査区中央南寄り、調査区に西壁に食い込む形で検出された。周辺部の遺物量や遺構密度は高く、遺構確認の際にローム面まで掘り下がり、周辺遺構調査後に検出し、床面まで浅く、遺構残存状況も悪かった。

位置：Cq・Cr-106 **重複**：31号・44号・45号住居、164号土坑といずれも本住居を壊していると考えたが新旧関係は不明である。**形状**：楕円形と考える。**規模**：残存東西方向最長6m、深さ7cmを測る。

面積：(24.6)m² **方位**：計測不能 **周溝**：未検出 **柱穴**：掘り込みが浅く柱穴と断定しづらいが、北壁寄りで2基、31号住居壁際で1基確認した。**床面・掘方**：ほぼ平坦である。地山を床面としているがしまり弱い。北西隅で径100cm、深さ25cmの円形土坑を検出した。**埋没土**：床面まで浅いが、単一土層であり自然埋没の可能性が高い。

炉：住居中央付近に深さ14cm程の底面に起伏のある浅い掘り込み164号土坑を検出した。西側に土器片と共に浅鉢が埋設され、焼土などの有無の記録はないが本住居炉の可能性も考えられる。

遺物：土器 出土点数は95点を数え、縄文時代中期及び後期の破片が混在した。1の深鉢は1号土坑北で出土した。石器 出土点数は18点を数え、剥片が9点を占めた。打製石斧、磨石、凹石等が出土した。**所見**：周辺遺構調査後に検出したため重複関係が不明瞭のままであった。今回整理を行い出土土器から縄文時代後期初頭の1の深鉢が北寄りで出土しているが、床面より25cm高い位置にあり共存する可能性は低い。本住居は室内施設も不明瞭であり、住居の可能性は薄いと考えられる。

47号住居（遺構：第287図、PL138、遺物：土器第2分冊第258・259図、PL120、石器第3分冊第70図、PL52・53）

確認状況：調査区中央南寄りで検出した、敷石住居

である18号住居の主体部を破壊した現代の攪乱坑に本住居西半分が壊される。

位置: Cs-104・105 **重複:** なし **形状:** 楕円形
規模: 長軸4.20m、深さ16cmを測る。 **面積:** (7.41) m² **方位:** N-15° - E **周溝:** 未検出 **柱穴:** 住居北側で1基確認した。 **床面・掘方:** 中央付近の炉の周囲に20cm前後の礫が散乱し、焼土も不定形の広がりが見られた。住居廃棄の際に炉が破壊されたとも考えられる。床面はほぼ平坦で、地山面をならし踏み固めて床面としている。 **埋没土:** 確認面から床面まで単一土層であるが、土器片等を多く含むことから人為的な埋土と考える。

炉: 埋甕炉(石囲炉の可能性もある) **位置:** やや北寄り **形状:** 外形は楕円形状を呈し、断面はロート状を呈する。一段下がって1の深鉢を埋設し炉体土器とした。 **規模:** 長軸68cm、短軸63cm、深さ10cmを測り、掘方の深さは炉体土器の高さと同じ39cmを測る。火床面中央に上部径60cm程の深鉢が埋設されていた。

遺物: 土器 出土点数は363点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。4a、4b破片や浅鉢9、10は炉の南脇に集中して出土した。11の深鉢口縁部の大破片が北壁寄りで出土した。石器 出土点数は58点を数え、剥片が39点を占めた。石鏃、打製石斧は6点出土し、S13の石皿が炉の北西脇の攪乱坑際で出土した。

所見: 出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

48号住居

欠番

49号住居 (遺構: 第288図、PL138・139、遺物: 土器第2分冊第260・261図、PL121、石器第3分冊第70図、PL53)

確認状況: 調査区中央の崖線に向かう東緩斜面部で検出した。敷石住居である3号住居の北東辺で20cm前後の小礫が散布する中に埋設土器を確認し、住居

内の炉と想定しながら確認面の精査及び記録作業を進めた。しかし、住居範囲や周溝、柱穴、炉等の施設は検出できず、炉とした埋設土器もわずかに炭粒が含まれるが、その他に被熱を受けた痕跡は見当たらず単独の埋甕と考えられる。

位置: Dd-117 **掘方規模:** 径約80cmの円形を呈し、深さ46cmを測る。 **埋没土:** 土器内はわずかに炭粒含み、IV層ブロックを含む。土器の外部は、ロームブロック主体の層でSrを含み一括埋め土である。

遺物: 埋甕周囲には小礫が散布し、炉とした埋甕は深鉢頸部直下から胴部及び底部に掛けて正位で埋設されていた。時期は縄文時代後期初頭と考えられる。本住居は、住居輪郭、屋内施設等も不明瞭であり、住居とは考えづらく、単独の埋甕遺構と考える。

50号・55号住居

確認状況: 調査区南の東辺で検出された。周辺部は遺物の出土量が多く、更に遺構密度も高かったため遺構が確認できるまで全体に掘り下がった。遺構プランの決定に際しては、調査区東壁に沿い5軒が並んで重複しているため、炉や柱穴等の確認された状況から外形を判断した。しかし、その方法でも柱穴等が同時に確認でき上層遺構と同時調査される場面が多く、整理段階で検討を加え各遺構のプランや施設を確定した。

50号住居 (遺構: 第289・290図、PL139、遺物: 土器第2分冊第262～264図、PL121・122、石器第3分冊第70・71図、PL53)

位置: Ct-103 **重複:** 32号・37号・33号・55号住居の5軒が直線的に重なり合う。 **形状:** 楕円形 **規模:** 径4.4m、深さ15cmを測る。 **面積:** (12.63) m² **周溝:** 未検出 **柱穴:** 壁際に沿い巡る7基を本住居の柱穴としたが、P3、P4、P5は規模が大きいが、掘り込みが浅く土坑状を呈し、柱穴ではないと考える。 **床面・掘方:** 掘方面を均し、床面としている。しまり弱く確認時に掘り下がり、下層の55号住居炉部分の遺物も露出した。また、南西寄りで2個体併置された埋甕を検出した。

埋甕：住居の南側で2個体併置された埋設土器を確認した。調査ではこの2個体の埋設土器を埋甕として1号埋甕、2号埋甕とした。

1号埋甕 17の深鉢口縁部。掘方規模は長軸45cm、短軸40cm、深さ20cmを測り、形状は楕円形を呈する。

2号埋甕 18の深鉢口縁部。掘方規模は長軸45cm、深さが15cmを測り、形状は楕円形を呈する。

両埋甕周辺から焼土粒・炭粒等が多く検出でき、炉の可能性が考えられる。

この埋甕を中心と考え、掘方面で確認した柱穴や重複する55号住居及び33号住居の柱穴を見直し、50号住居西側で弧状に検出した55号住居が50号住居と同一住居の可能性も考えられる。**埋設土：**壁高が低い、埋没状況は不明瞭であるが、自然堆積と考えられる。

炉：未検出

55号住居（遺構：第289・290図、PL142、遺物：土器第2分冊第262～264図、石器第3分冊第72図、PL54）

位置：Cs-102 **規模：**長軸・短軸は計測不能。深さ10cmを測る。**方位：**計測不能 **周溝：**未検出 **柱穴：**4本の柱穴を確認した。33号・50号住居掘方面で検出されたピットの中にも本住居の柱穴が含まれる。**床面・掘方：**地山面を均し床面としている。**埋設土：**壁高が低い、埋没状況は不明瞭であるが、自然堆積と思われる。

調査時の炉：地床炉 **位置：**西寄り **形状：**土坑の上面に焼土化したロームがあり、炉とした。楕円形を呈する。**規模：**焼土範囲は約20cmの範囲で焼土化したロームが堆積し、50～60cm程の楕円形の中に焼土が含まれる。火床面下部は径約90cm、深さ50cm程の土坑となっている。埋設土中には多量の土器片が含まれ、ロームブロックも混ざり一括埋土である。

50号・55号住居出土遺物：調査時では50号・55号住居出土遺物は分けて取り上がっているが、両住居とも時期の若干の異なる遺物がそれぞれ混在していたため、各住居出土遺物として分けられなかった。ま

た、住居の統合もあり得るため、両住居出土遺物を分離せず一括で掲載した。

50号住居の取り上げ点数は、土器719点、石器111点を数え、剥片が81点を占めた。

55号住居の取り上げ点数は、土器63点、石器18点を数え、剥片が7点を占めた。

所見：50号・55号住居両住居の柱穴配置と埋甕とした遺構の炉の様相が強く、両住居が一对の可能性が考えられる。また、55号住居の炉と幾つかの柱穴から小振りの住居の存在も考えられる。

両住居から出土した土器は縄文時代中期後葉が主体であった。

51号住居（遺構：第291図、遺物：土器第2分冊第265図、石器第3分冊第71図、PL53）

確認状況：調査区南寄りの調査区東壁に食い込む形で検出された。東側1/2は調査区外に延びる。周辺の地形は、緩い東傾斜である。遺構確認面から床面まで浅いため、残存状況は不良である。

位置：Ct-104 **重複：**220号土坑は住居下にあり、住居よりも古いものである。**形状：**円形またはわずかに直線的な辺が見える。**規模：**径4.9m、深さ約10cmを測るが、一部は確認面と同一レベルで壁は消失してしまっている。**面積：**(8.87)m² **方位：**N-0° **周溝：**未検出 **柱穴：**未検出 **床面・掘方：**掘方面を均し、床面としている。しまりは弱い。**埋設土：**壁高が低い、埋没状況は不明瞭である。

炉：未検出

遺物：住居南側に散在する。北側半分はほとんど出土していない。土器 出土点数は26点を数えたが小破片のみであった。石器 出土点数は7点と少なく、剥片が3点と打製石斧2点、RF 2点が出土した。

所見：炉や柱穴等の屋内施設が確認できず、わずかな落ち込み程度であり、住居の可能性は薄いと考えられる。出土土器は縄文時代中期後葉であった。

52号住居（遺構：第292図、PL140、遺物：土器第2分冊第266図、PL122・123、石器第3分冊第71図、PL53）

確認状況：調査区南寄り中央で検出した。周辺部は遺構密度が高く、遺物も多く出土している。確認面から床面まで20cmを測り、比較的良好であった。

位置：Cr・Cs-103・104 **重複**：53号住居、199号・202号・203号土坑を掘り込む。 **形状**：細長い楕円形状を呈する。 **規模**：長軸5.60m、短軸3.70m、深さ20cmを測る。 **面積**：15.67㎡ **方位**：N-39°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：未検出 **床面・掘方**：掘方面は起伏があり、掘削排土であるロームブロック等を入れ均している。 **埋没土**：水平堆積に近く、自然埋没と考える。

炉：埋甕炉 **位置**：中央やや東寄り **形状**：円形を呈し、中央に1a、1bが埋設され炉体土器とする。 **規模**：径約68cm、深さ13cm程を測る。炉掘方は、径が72cm程の円形を呈する。

遺物：土器 出土点数は355点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。炉の北で2b、東に2aの深鉢口縁部破片が出土した。また11の深鉢体部下半は2b脇で出土した。 **石器** 出土点数は62点を数え、剥片が51点を占めた。打製石斧、スクレイパー、石核等が住居壁寄り出土した。

所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

53号住居（遺構：第293・294図、PL140・141、遺物：土器第2分冊第267図、PL123、石器第3分冊第71図、PL53）

確認状況：調査区南寄り中央で検出した。周辺部は遺構密度が高く、遺物も多く出土している。確認面から床面まで東側は約20cmを測るが、西側はほとんどない状態である。

位置：Cr-103 **重複**：52号住居に一部壊されている。245号土坑を掘り込む。 **形状**：楕円形とするが、東及び北辺は直線的で、南及び西辺は弧状を呈する。 **規模**：1辺5.10m、深さ25cmを測る。 **面積**：(19.31)

㎡ **方位**：N-20°-E **周溝**：未検出 **柱穴**：掘方面を含め5基のピットを確認したが、配置に規則性は見られない。 **床面・掘方**：掘方面に起伏が見られ、ロームブロック混じりの掘削排土を入れ踏みならしている。掘方面では西壁寄り2基の円形の床下土坑を検出し、それぞれ1号床下土坑、2号床下土坑とした。1号床下土坑の規模は、長軸134cm、短軸100cm、深さ10cmと浅く、2号床下土坑は長軸80cm、短軸35cm、深さ30cmを測り、どちらも楕円形を呈する。2号床下土坑が1号床下土坑を掘り込む。 **埋没土**：埋没土中に土器片・小礫等を多く含み、ローム小ブロックも含むことから人為的な埋土と考えられる。

炉：石囲炉 **位置**：中央やや南東寄り **形状**：40～50cmの礫を長方形に組む。 **規模**：長軸60cm、短軸50cmを測り、長方形を呈する。火床面は長軸45cm、短軸25cm、深さは10cm程下がる。中央に焼土面が確認できた。掘方規模は長軸65cm、短軸60cm、深さ19cmを測り、形状も長方形を呈する。

遺物：土器 出土点数は894点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。炉内より1の橋状把手破片、北辺に7の小振りの深鉢が出土した。 **石器** 出土点数は155点を数え、剥片が116点を占めた。石鏃4点、打製石斧9点、石核3点等が出土した。 **所見**：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

54号住居（遺構：第295図、PL142、遺物：土器第2分冊第268図、PL123、石器第3分冊第72図、PL54）

確認状況：調査区南東コーナーで検出した。敷石住居である14号住居の敷石部分を取り除きその直下と住居の東側から新たな遺物が出土し始め、掘り込みも確認できたことから、調査区東壁を1.4mほど拡張して調査を行った。それでも住居の1/2は調査区外に延びる。

位置：Cs-98・99 **重複**：14号住居及び134号土坑が掘り込む。 **形状**：楕円形と考える。 **規模**：長軸

第5章 第4面の検出遺構

4.28m、深さは約24cmを測る。面積(9.18) m²
方位：計測不能 周溝：未検出 柱穴：未検出
床面・掘方：若干西に傾斜している。掘方面を均し、平坦な床面としている。埋没土：ほぼ単一土層の黒褐色粘質土が堆積する。自然埋没の可能性が高い。
炉：未検出

遺物：土器 出土点数は138点を数え、縄文時代中期後半の破片が主体であった。中央南の調査区壁際で3の連弧文を有する深鉢出土した。石器 出土点数は16点を数え、剥片が12点を占めた。S4の多孔石が134号土坑との境で出土した。
所見：出土土器から縄文時代中期後葉の住居と考えられる。

56号住居(遺構：第296図、PL142、遺物：土器第2分冊第269図、PL124)

確認状況：調査区中央で検出した。周辺部は遺物が多量に出土し、遺構確認作業が手間取り、更に遺構の重複も多い最下層で確認した住居である。大半が重複する遺構によって壊されて、一部床面と埋没土の土器が潰れた状態で検出できた。

位置：Da-111・112 重複：34号・35号住居、170号・222号土坑が掘り込む。57号住居は接点がないため重複関係は不明瞭。形状：不明瞭、楕円形か。

規模：長軸・短軸は計測不能、深さは30cmを測る。方位：計測不能 周溝・柱穴：未検出 床面・掘方：地山を均し、床面としている。埋没土：水平堆積をしており、自然堆積と思われる。

埋没土：住居の中央よりやや南東寄り、長軸66cm、短軸50cm、深さ15cmを測る楕円形の掘り込みを検出し、中から羽状縄文系土器が出土した。なお、埋没土のすぐ脇には222号土坑があり、中から羽状縄文系の土器片が多く出土し、類似した土坑の可能性も考えられる。

炉：未検出

遺物：土器 出土点数は図化した埋没土とした縄文時代前期中葉破片2点であった。石器 出土点数は11点を数え、全て剥片であった。

所見：本住居は住居としたが、縄文時代前期中葉の土器片を出土した埋没土は隣接する222号土坑からの混入品の可能性もあり、住居輪郭もわずかな段差しかないことから34号住居掘方面とも考えられる。

57号住居(遺構：第296図、遺物：土器第2分冊第270図、PL124)

確認状況：調査区中央で検出した。周辺部は遺物が多量に出土し、遺構確認作業が手間取り、更に遺構の重複も多い地点であった。重複住居群の外周の掘り込み部分を住居とした。その際に西壁側の掘り込みは明瞭であったが、北東辺は傾斜地形がきつくなり掘り込みは不明瞭であり、住居範囲になるか認定しづらい。

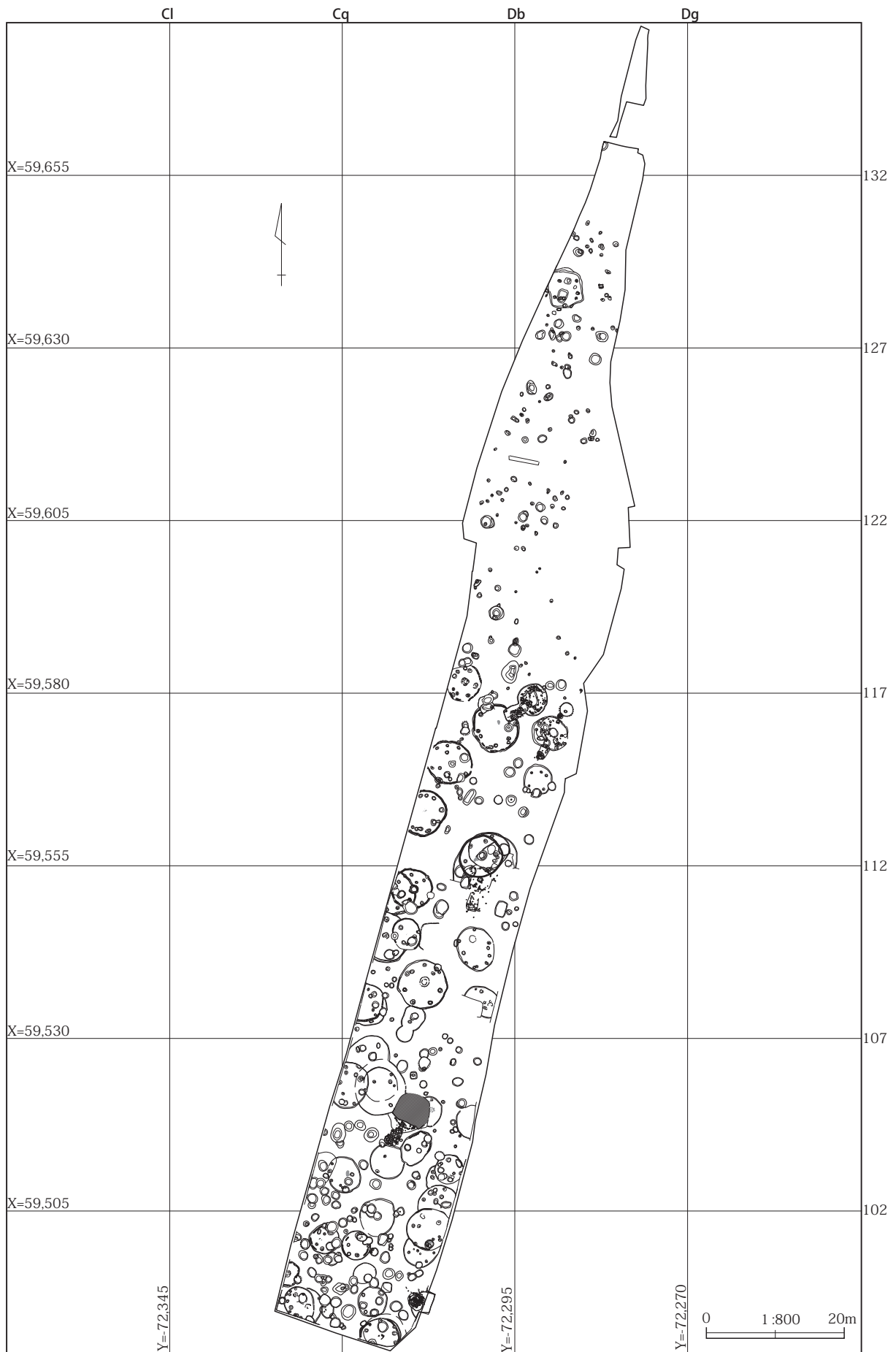
位置：Ct・Da-111・112 重複：34号・35号・56号住居、143号・170号・189号・198号・222号・228号土坑等の多くの遺構が絡み、大半が掘り込んでいる。

形状：楕円形か 規模：長軸10.3m、短軸8.5m、深さ7cmを測る。面積・方位：計測不能 周溝：未検出 柱穴：住居北辺で1基確認 床面・掘方：地山を踏み固めて床面としている。埋没土：ほぼ単一土層が堆積しており、自然堆積と思われる。

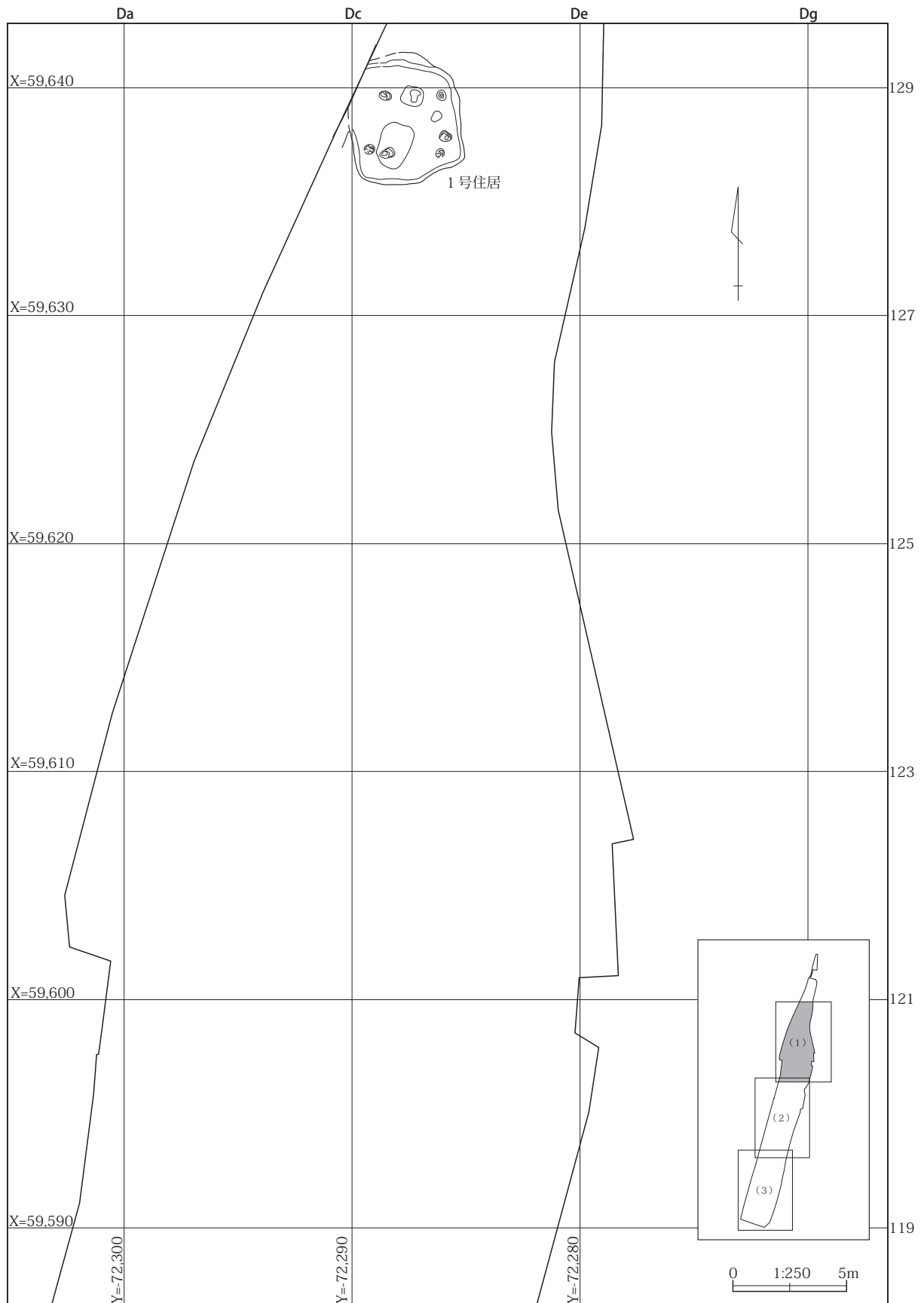
炉：未検出

遺物：土器 出土点数は5点を数えた。石器 出土点数は剥片1点のみであった。

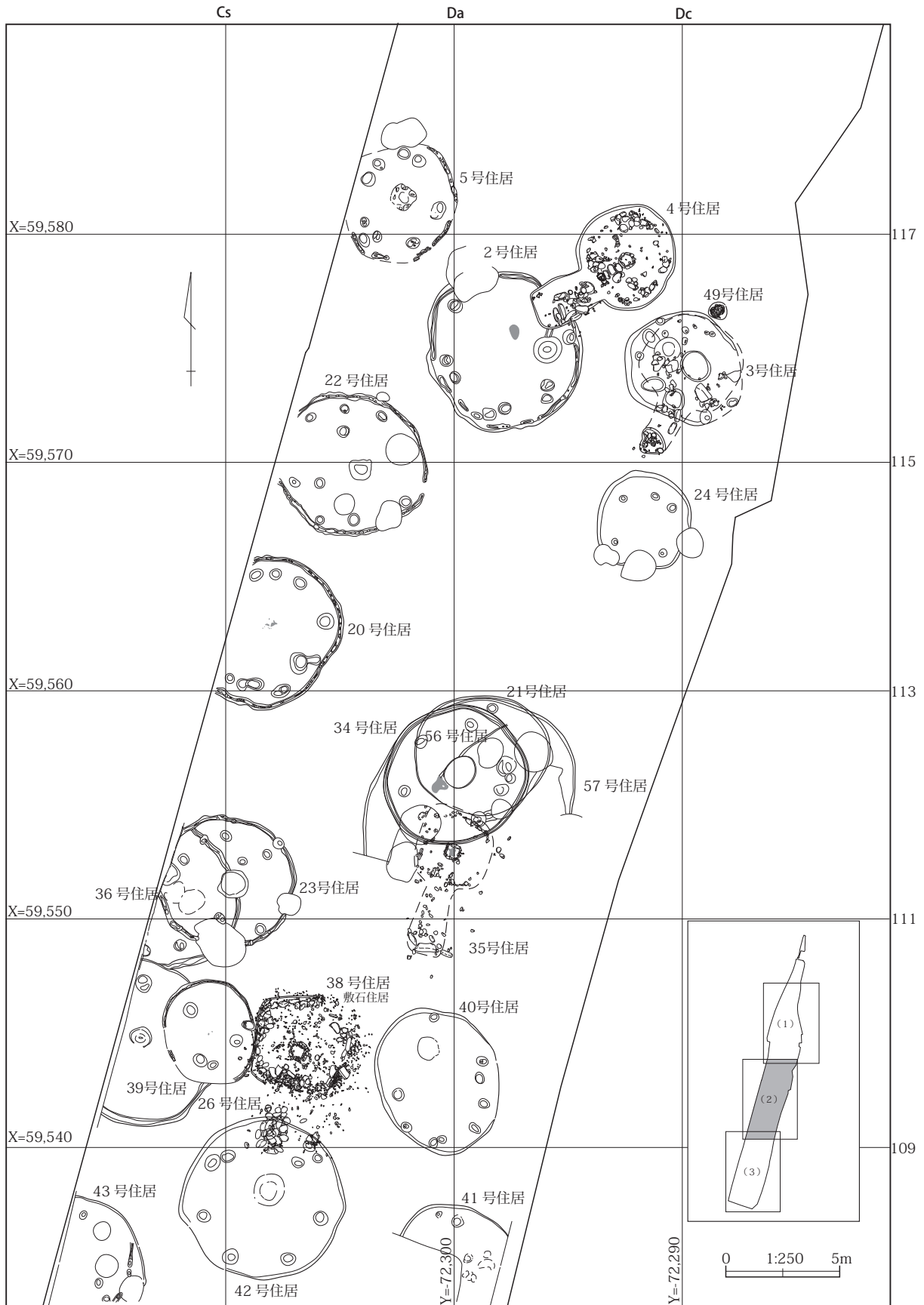
所見：本住居は遺構密集地で、上層から各住居の遺物が多量に出土し、各遺構の輪郭を掴みづらかった。また、東の段丘崖向かって傾斜もきつくなり、傾斜面上方向の北辺の崩れ痕を本住居とした可能性も考えられる。出土土器は縄文時代中期後葉であった。



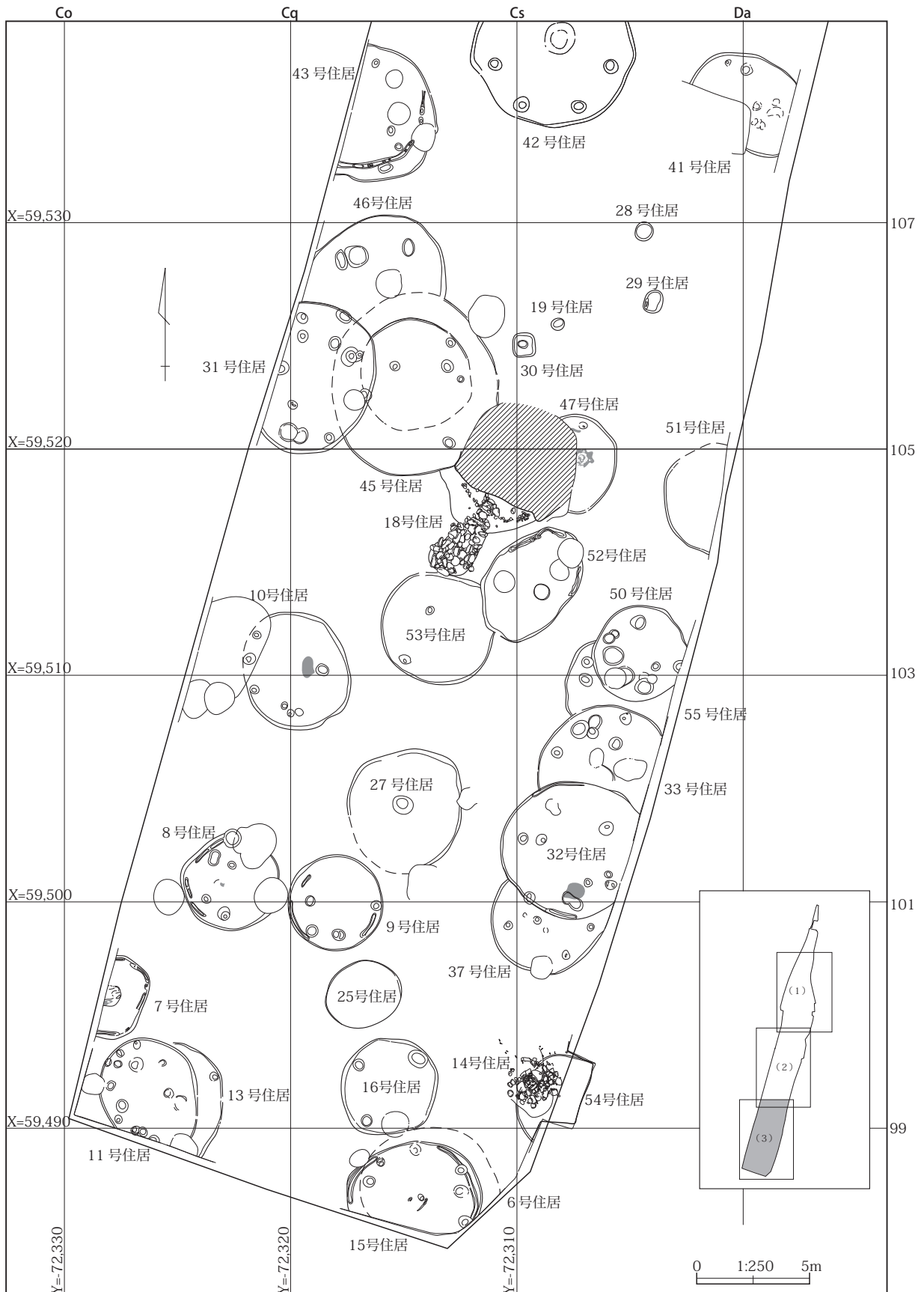
第221图 12区第4面全体图



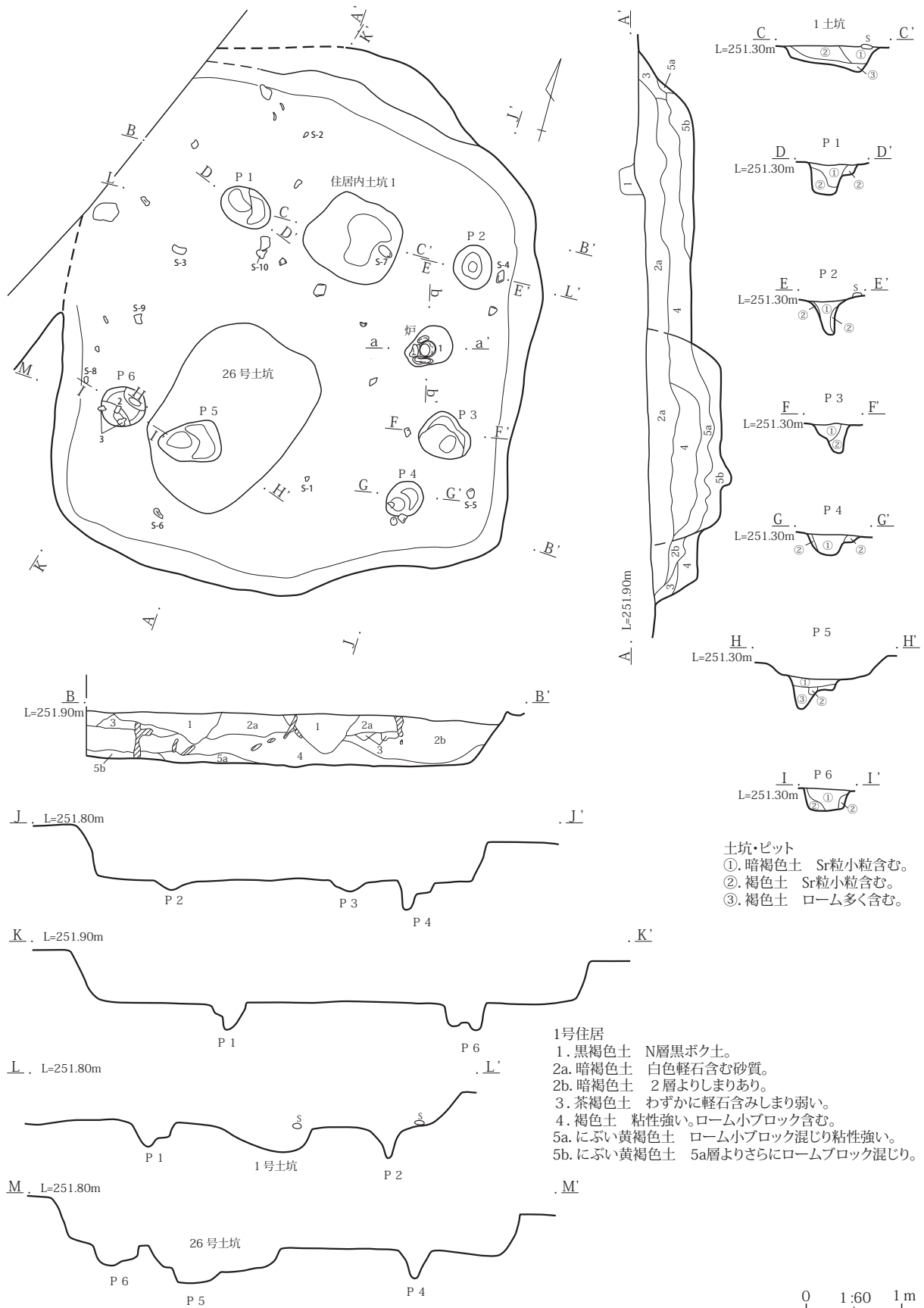
第222図 12区住居配置図(1)



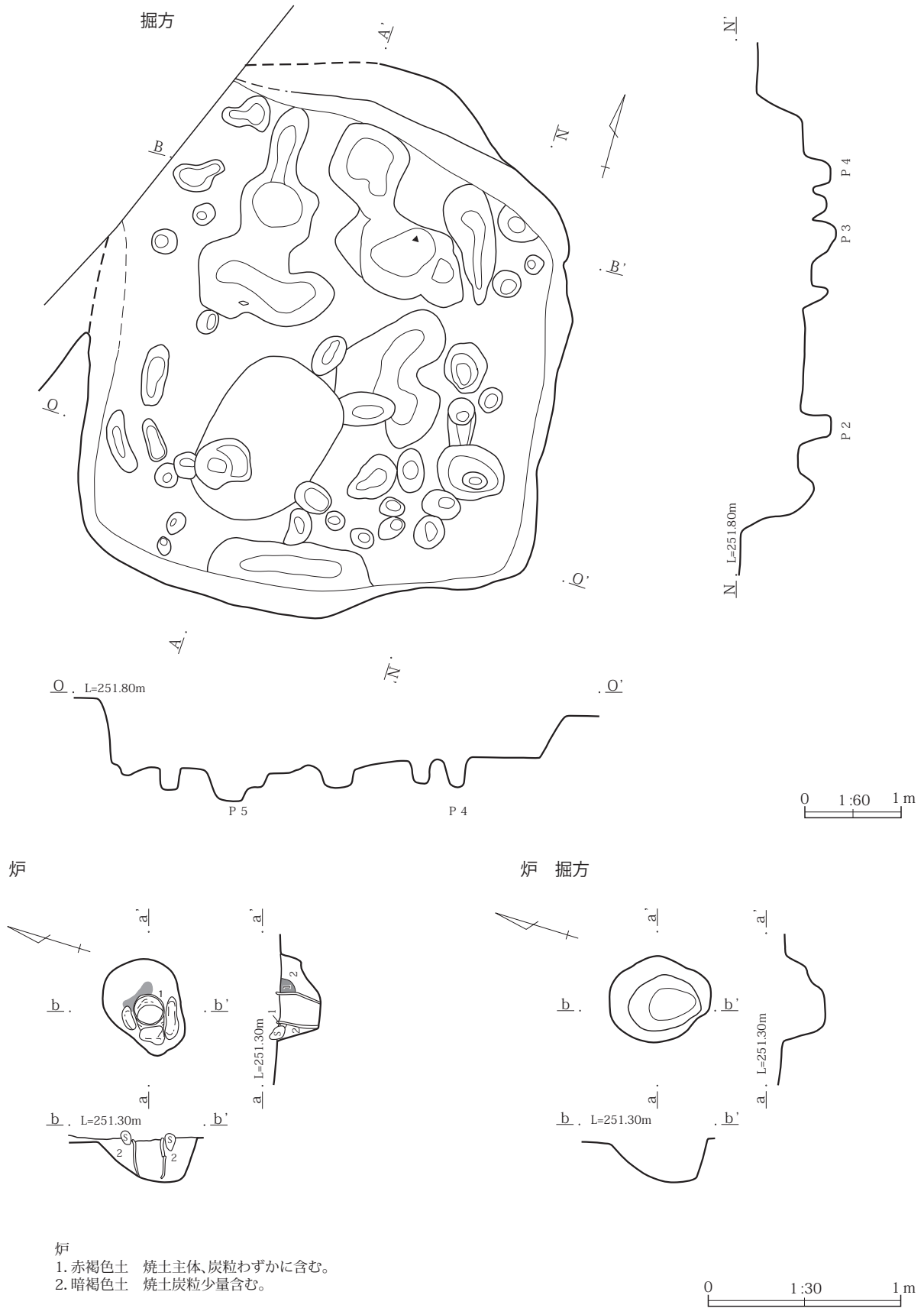
第223図 12区住居配置図(2)



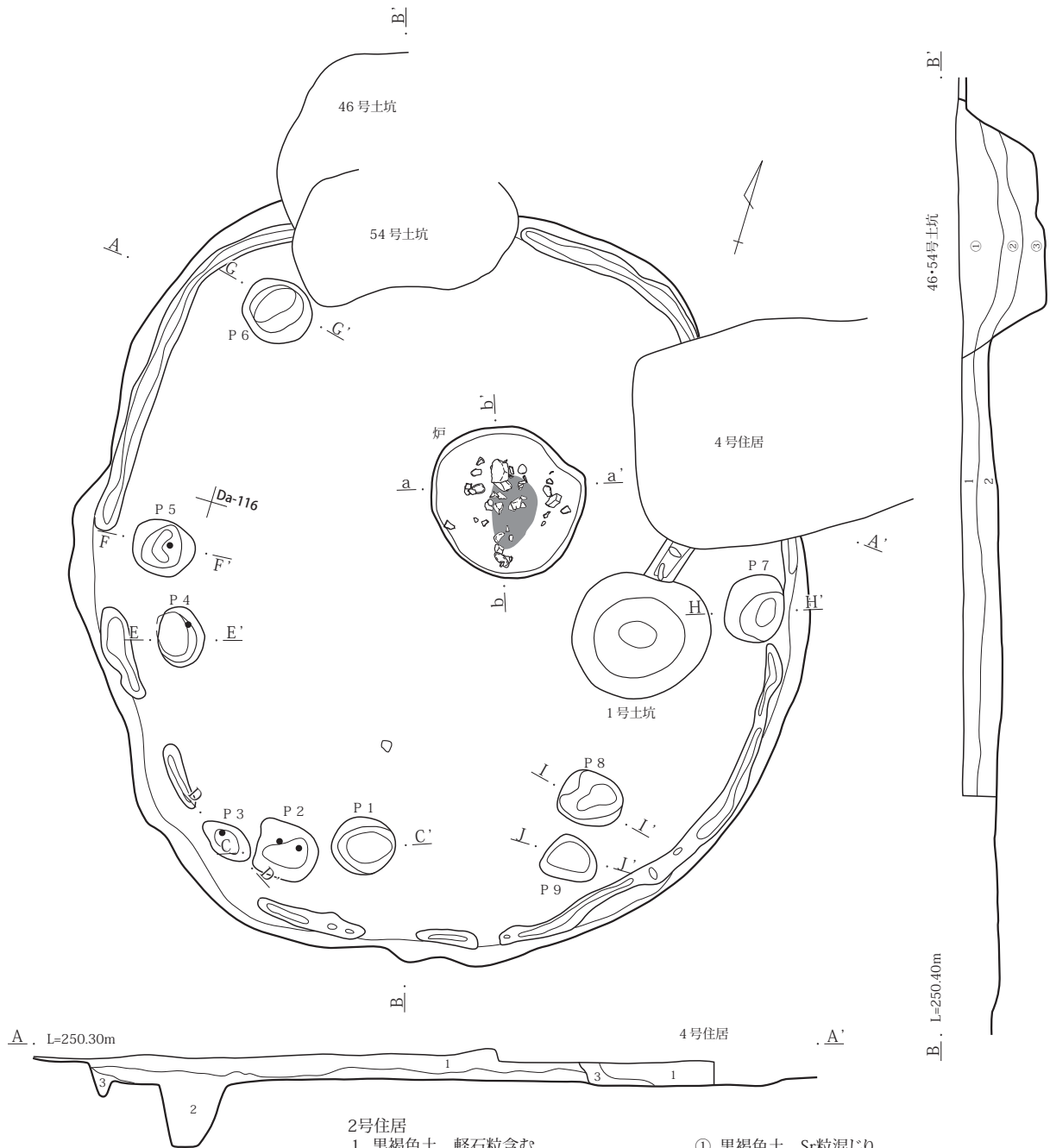
第224図 12区住居配置図 (3)



第225図 12区1号住居 (1)

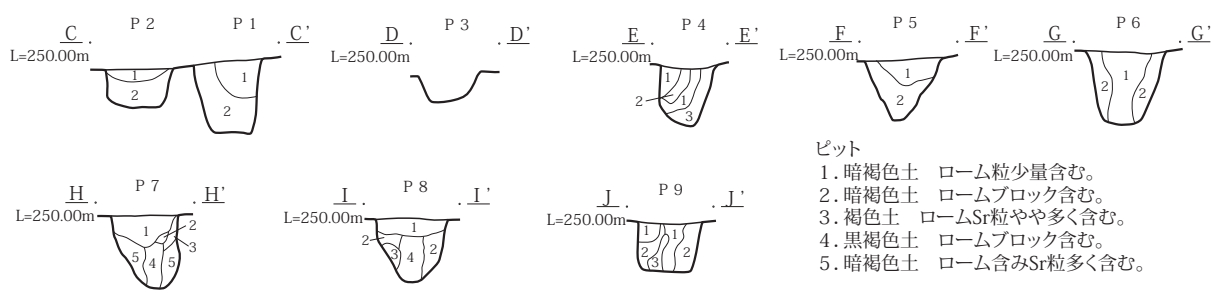


第226図 12区1号住居 (2)



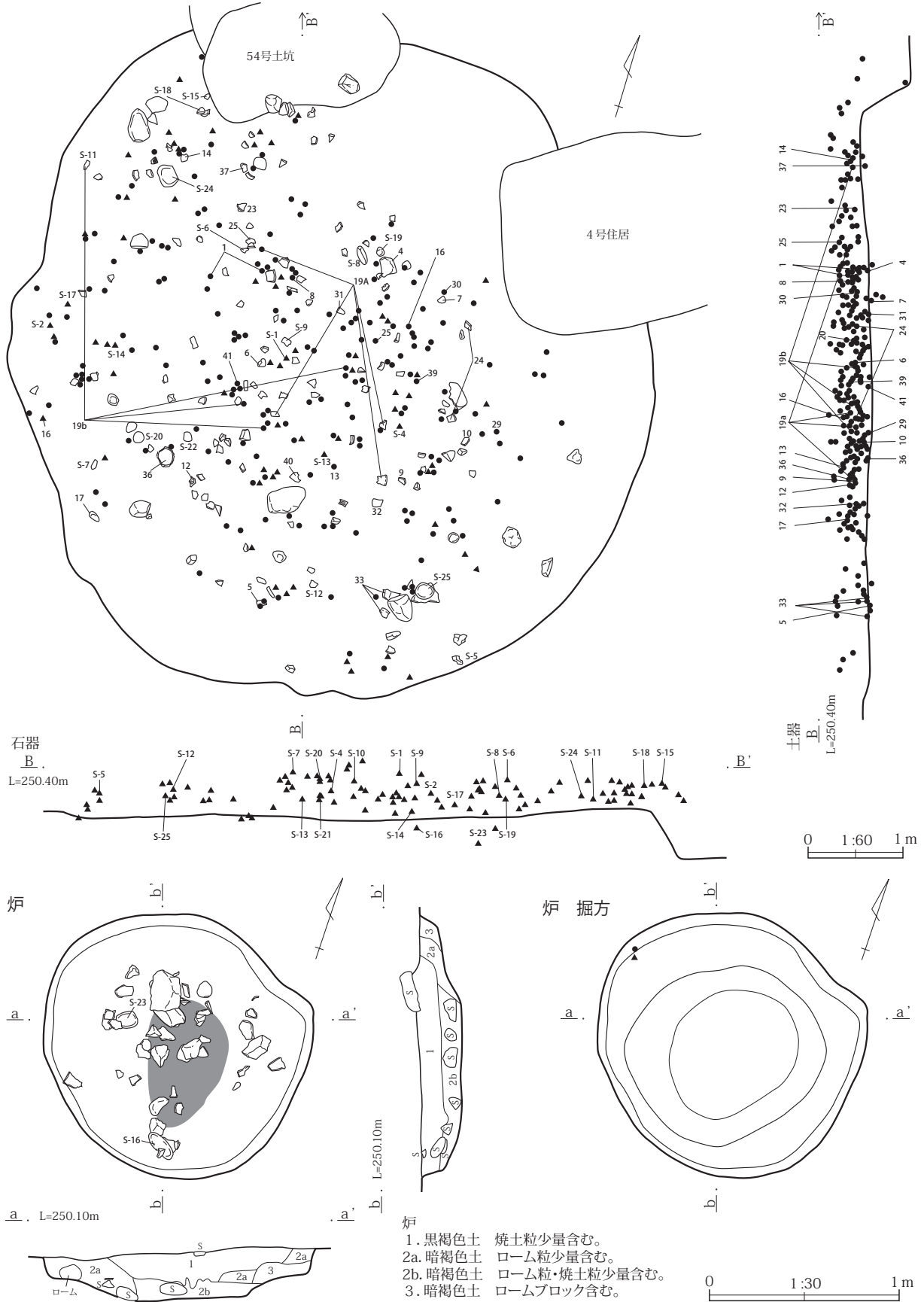
2号住居
 1. 黒褐色土 軽石粒含む。
 2. 暗褐色土 軽石粒ロームブロック含む。
 3. 褐色土 ロームブロック多く含む。

①. 黒褐色土 Sr粒混じり。
 ②. 暗褐色土 Sr粒ロームブロック混じる。
 ③. 暗褐色土 ロームブロック褐色ブロック混土。

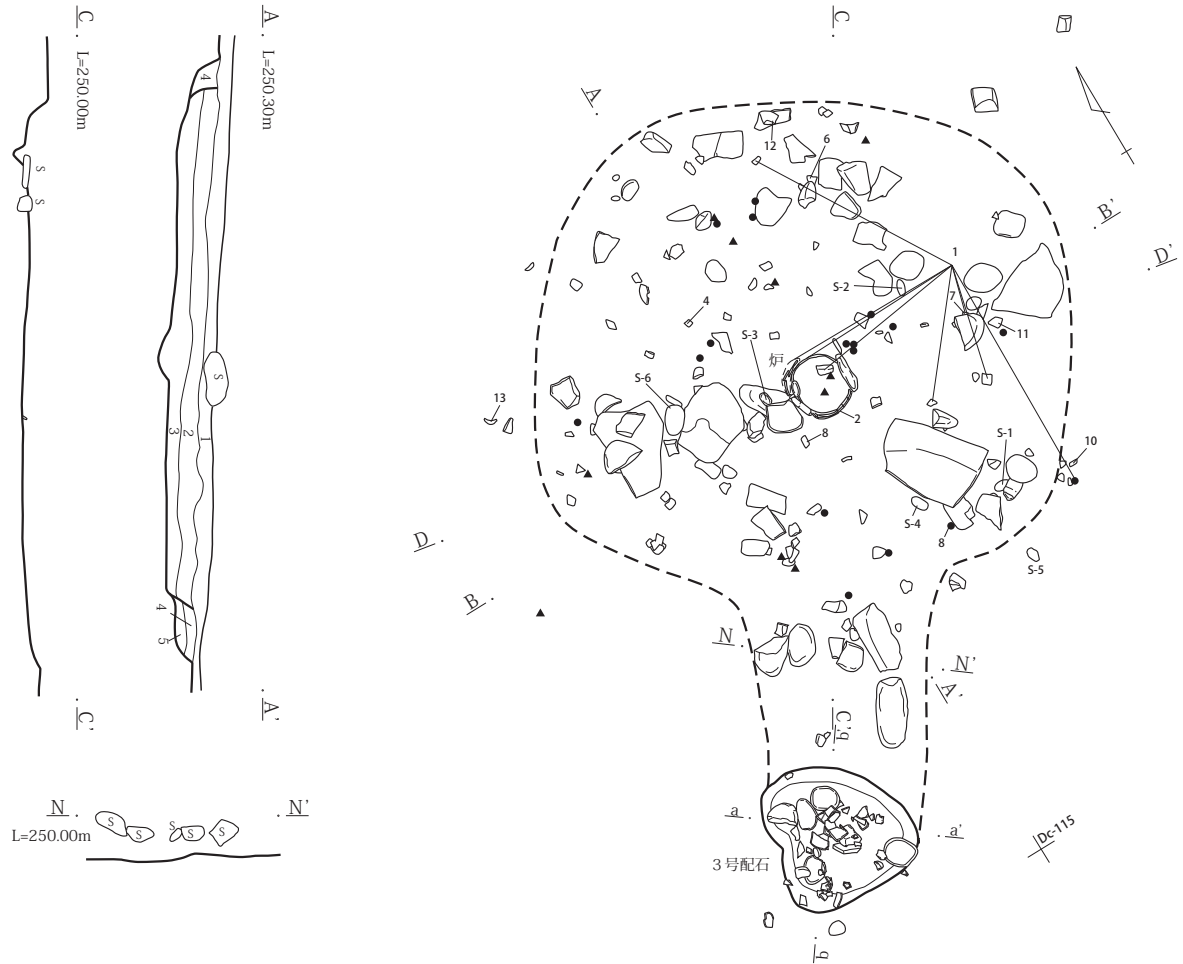


第227図 12区2号住居 (1)

第5章 第4面の検出遺構

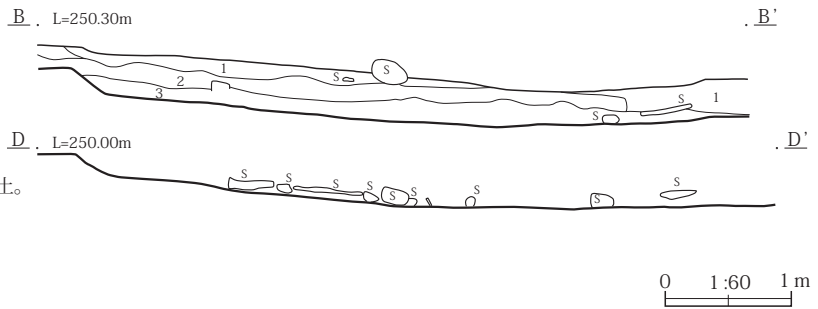


第228図 12区2号住居(2)

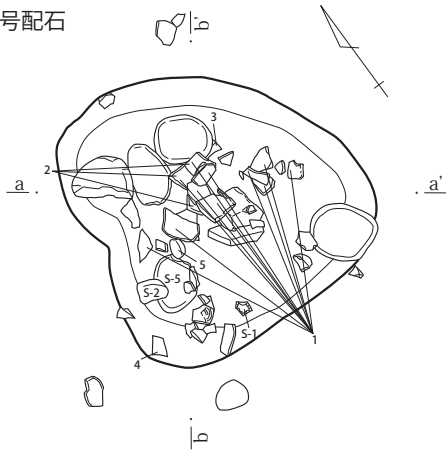


3号住居

- 1. 黒褐色土 軽石粒多く含む。
- 2. 黒褐色土 褐色土ブロック含む。
礫・土器片混じり。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック含む。
礫・土器片混じり。
- 4. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 5. にぶい褐色土 ロームブロックと褐色土の混土。



3号配石



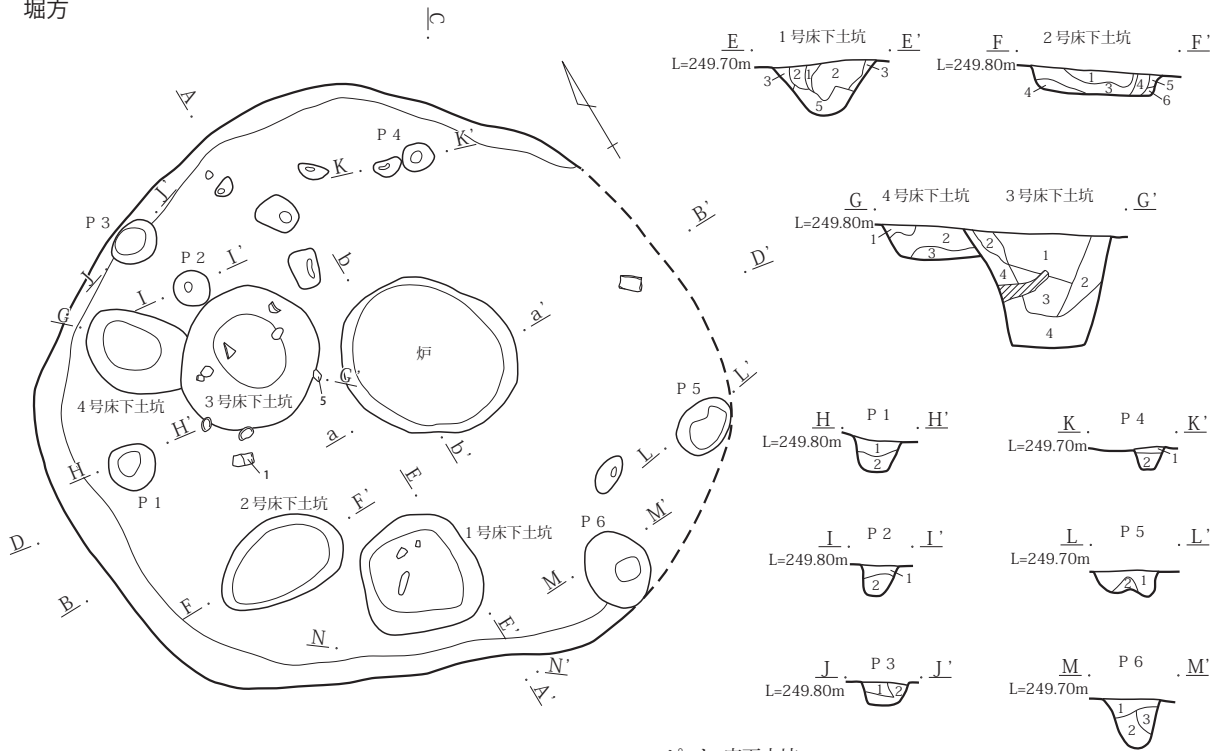
3号配石

- 1. 黒褐色土 土器片・礫混じる。
- 2. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

第229図 12区3号住居 (1)

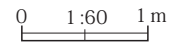
第5章 第4面の検出遺構

掘方

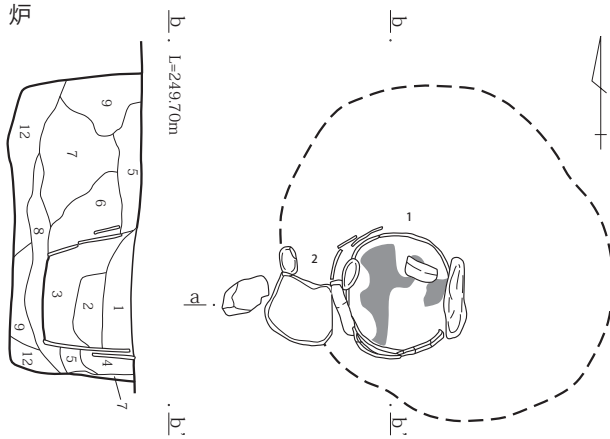


ピット・床下土坑

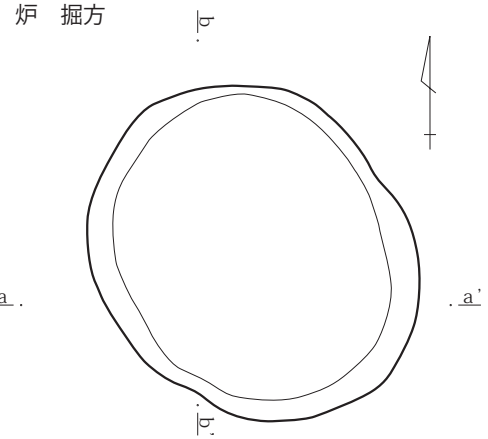
1. 暗褐色土 炭化物含む。
2. 暗褐色土 Sr粒少量含む。
3. 褐色土 Sr粒多量に含む。
4. 褐色土 Sr粒多量にローム含む。
5. 褐色土 ローム多量に含む。
6. 褐色土 5層よりSr粒多く入る。



炉

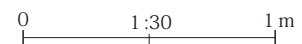


炉 掘方

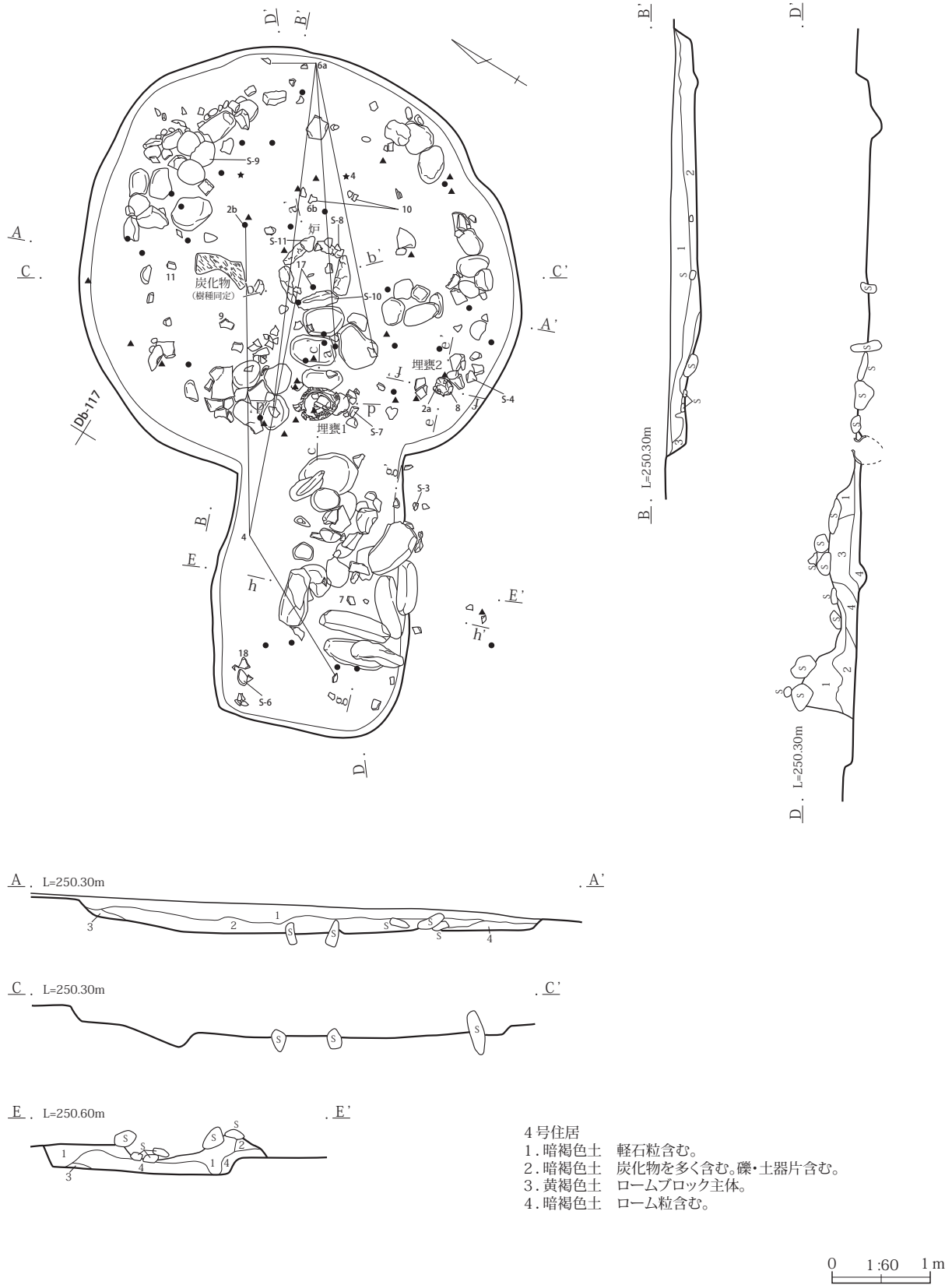


炉

1. 暗褐色土 ローム粒多く含む。
2. 暗褐色土 焼土を多量に含む。
3. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭粒・少量含む。
4. 暗褐色土 焼土粒多くに含み、炭化物ローム粒少量含む。
5. 暗褐色土 炭化物やや多く含む。
6. 暗褐色土 焼土ブロック多量に含む。
7. 暗褐色土 6層ロームブロック含む。ローム粒わずかに含む。
8. 暗褐色土 炭化物・焼土・ローム粒わずかに含む。
9. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
10. ロームブロック主体。
11. 暗褐色土 ローム粒・ローム小ブロック含む。
12. 暗褐色土 ローム小ブロックわずかに含む。



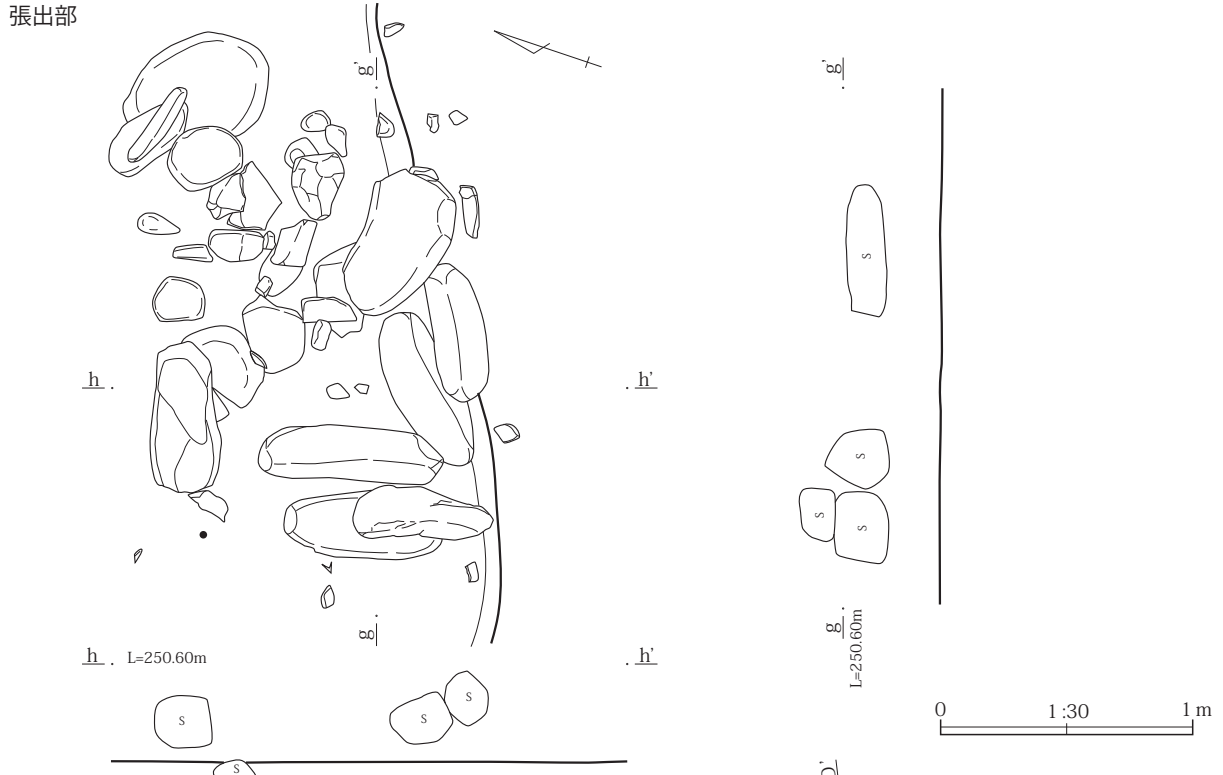
第230図 12区3号住居(2)



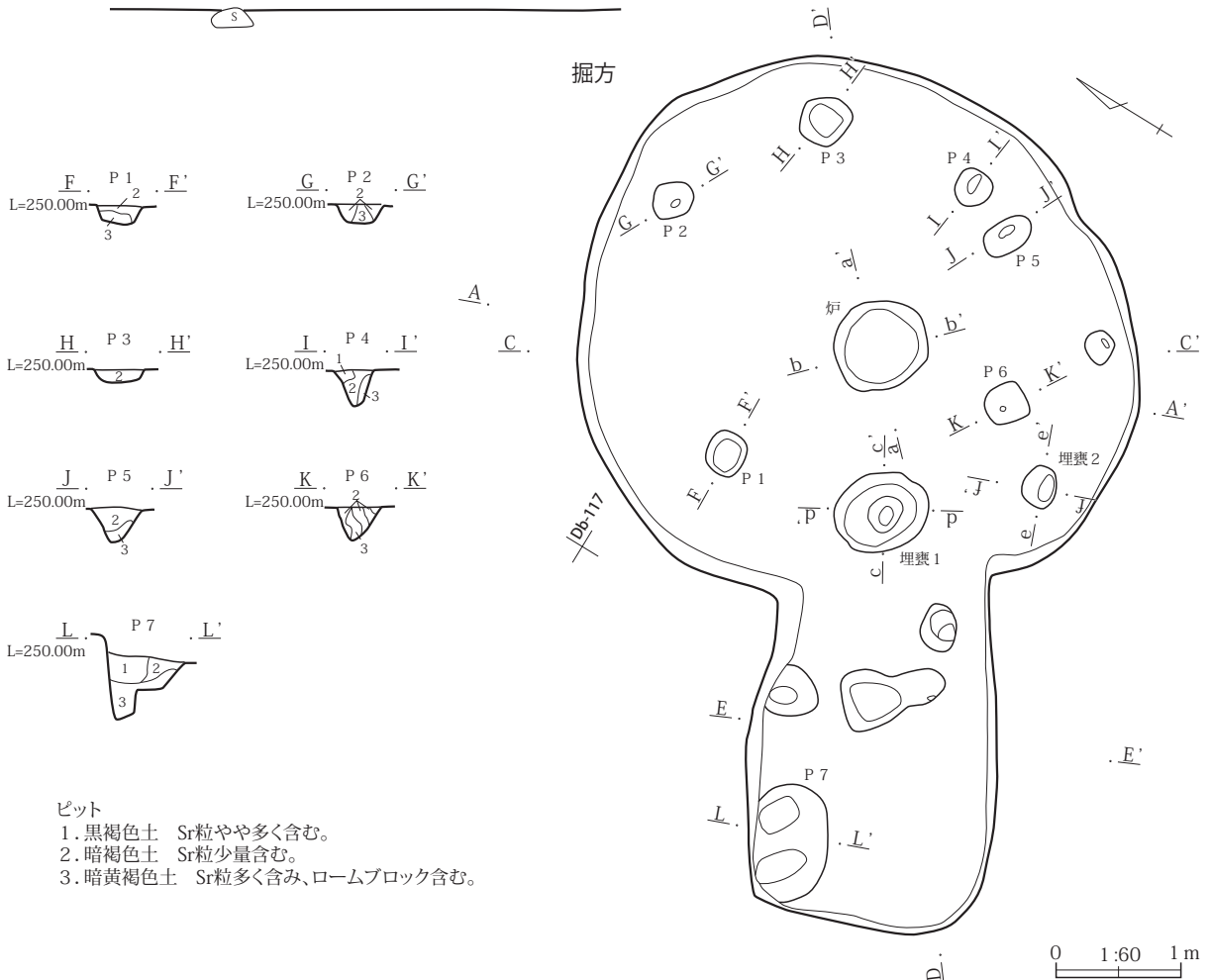
第231図 12区4号住居(1)

第5章 第4面の検出遺構

張出部



掘方

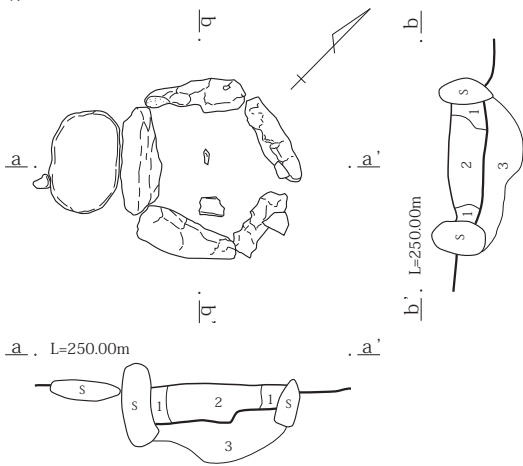


ピット

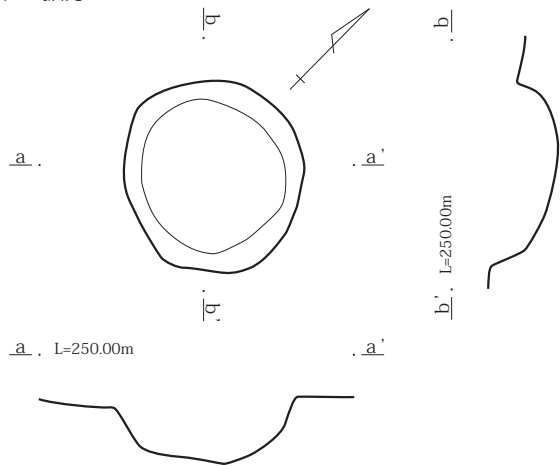
- 1. 黒褐色土 Sr粒やや多く含む。
- 2. 暗褐色土 Sr粒少量含む。
- 3. 暗黄褐色土 Sr粒多く含む、ロームブロック含む。

第232図 12区4号住居(2)

炉



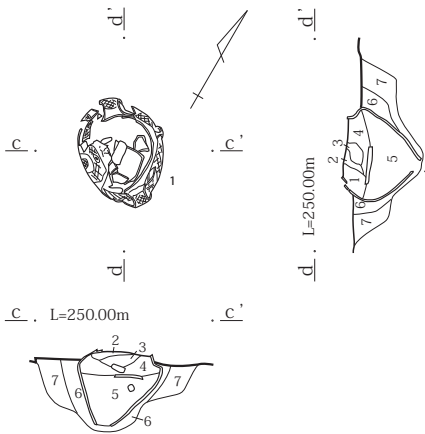
炉 掘方



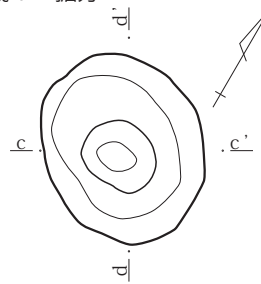
炉

1. 黒褐色土 しまり、粘性あり。
2. 暗褐色土 炭化物・焼土粒含む。
3. 暗褐色土 焼土ブロック多量に含む。炭化物・ロームブロックわずかに含む。

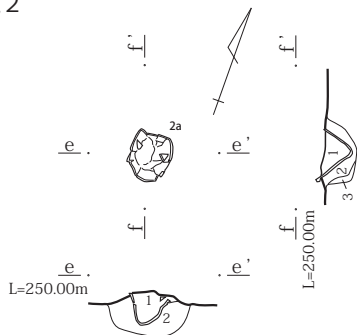
埋甕 1



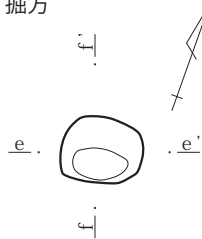
埋甕 1 掘方



埋甕 2



埋甕 2 掘方

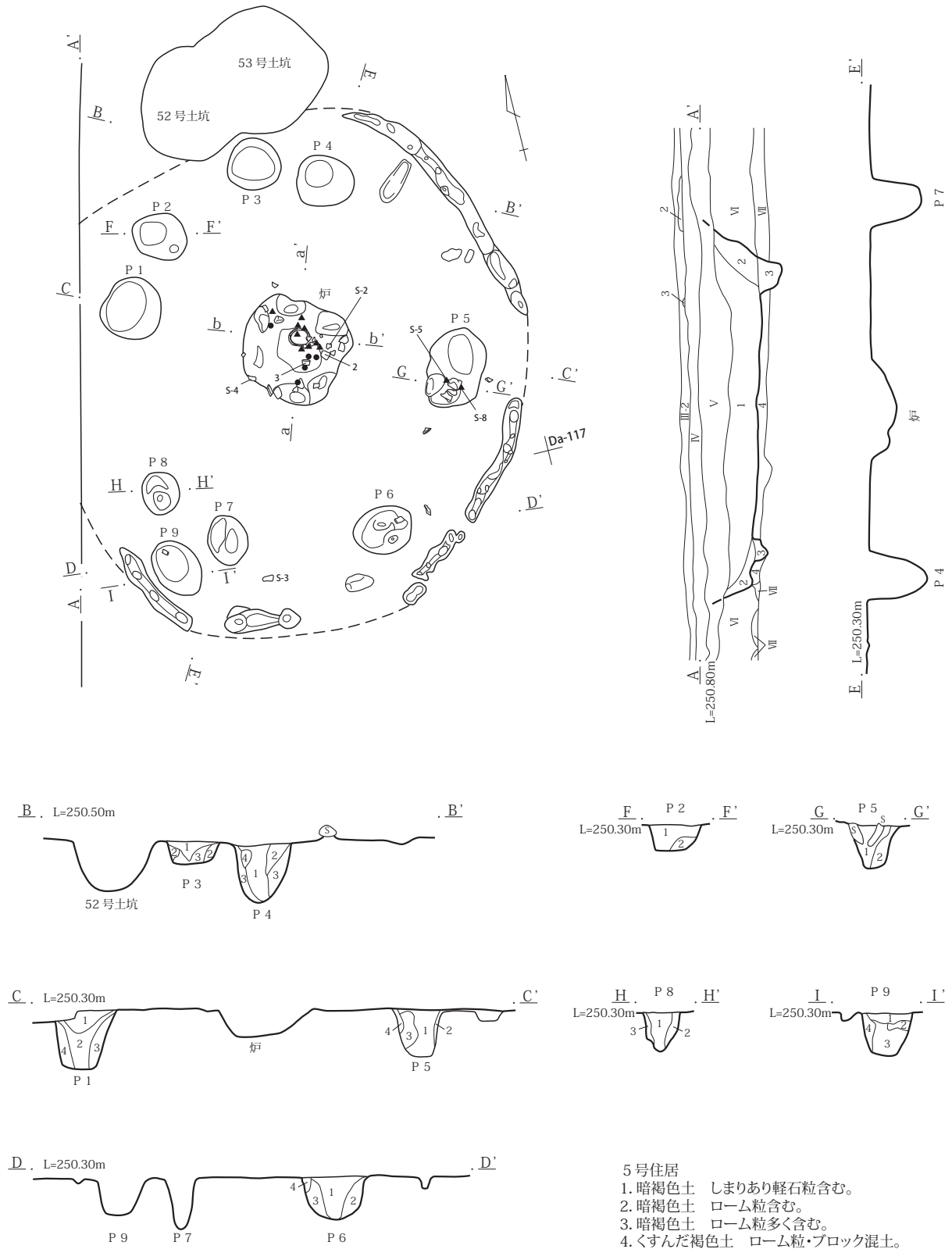


埋甕

1. 黒褐色土 粘性強い。
2. 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
3. 黒褐色土 灰白色粘質土ブロック含む。
4. 1層に類似。
5. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
6. 暗褐色土 ローム・炭化物含み、軽石少量含む。
7. 暗褐色土 6層に炭化物入らない。

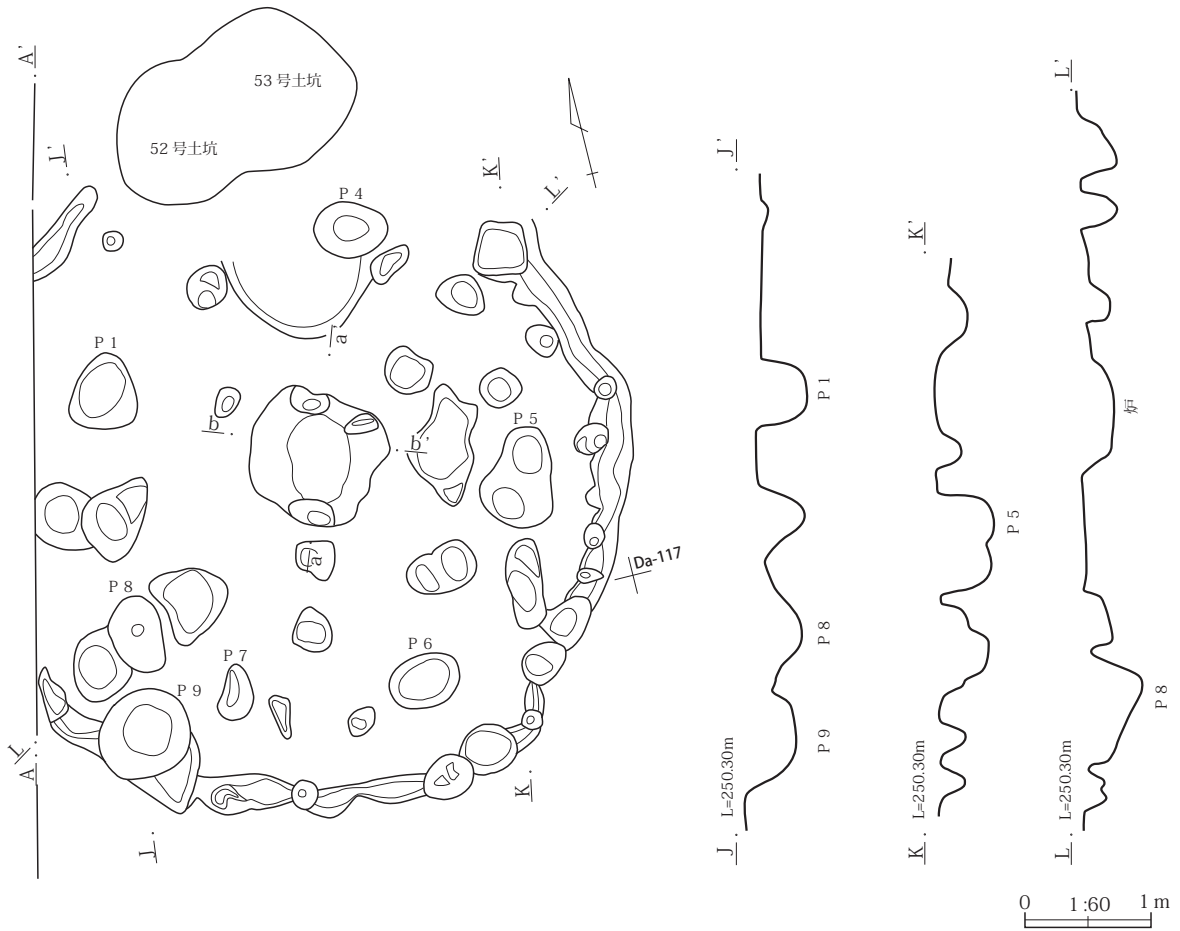
0 1:30 1m

第233図 12区4号住居(3)

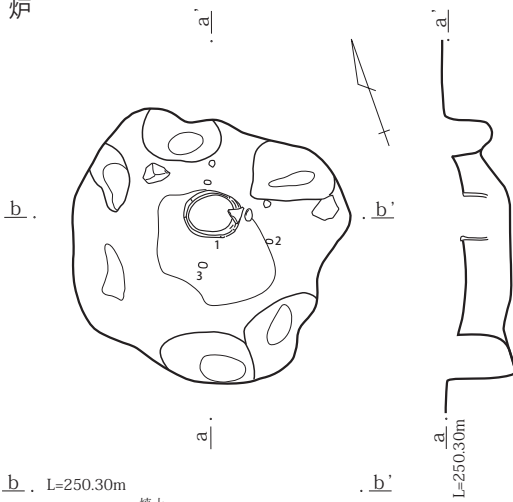


第234図 12区5号住居(1)

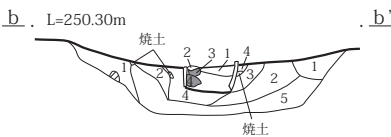
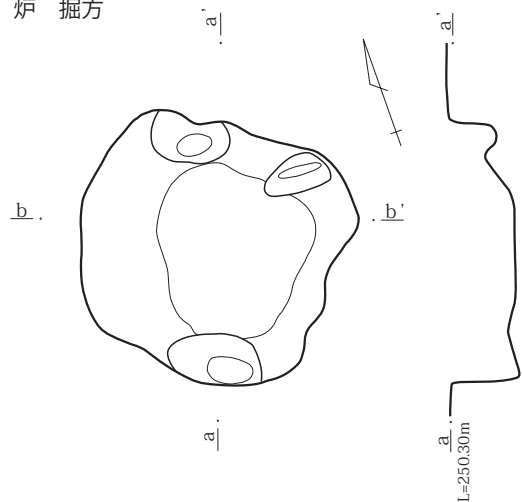
掘方



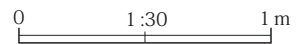
炉



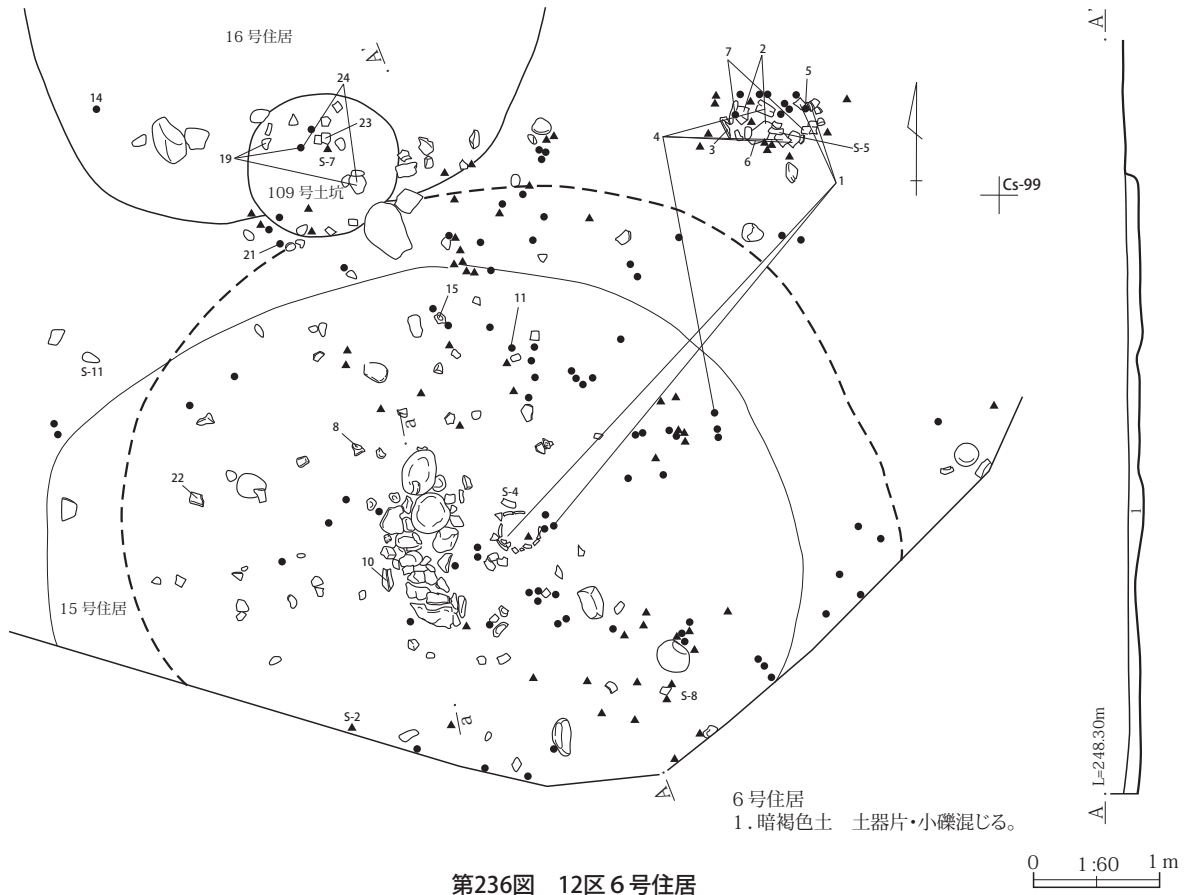
炉 掘方



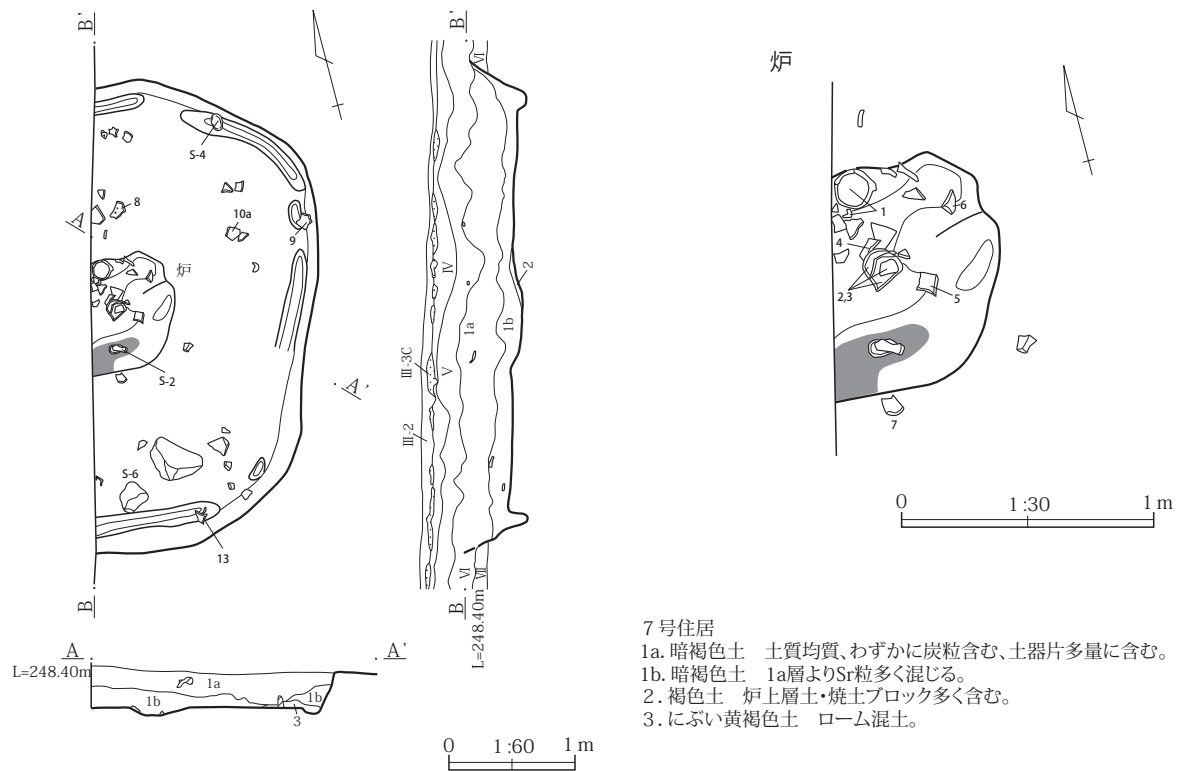
- 炉
1. 暗褐色土 ローム粒含む。
 2. 暗褐色土 ローム粒ロームブロック含む。
 3. 暗褐色土 ローム粒軽石含む。
 4. 褐色土 焼土を多く含む。
 5. 褐色土 ローム粒多く含む。



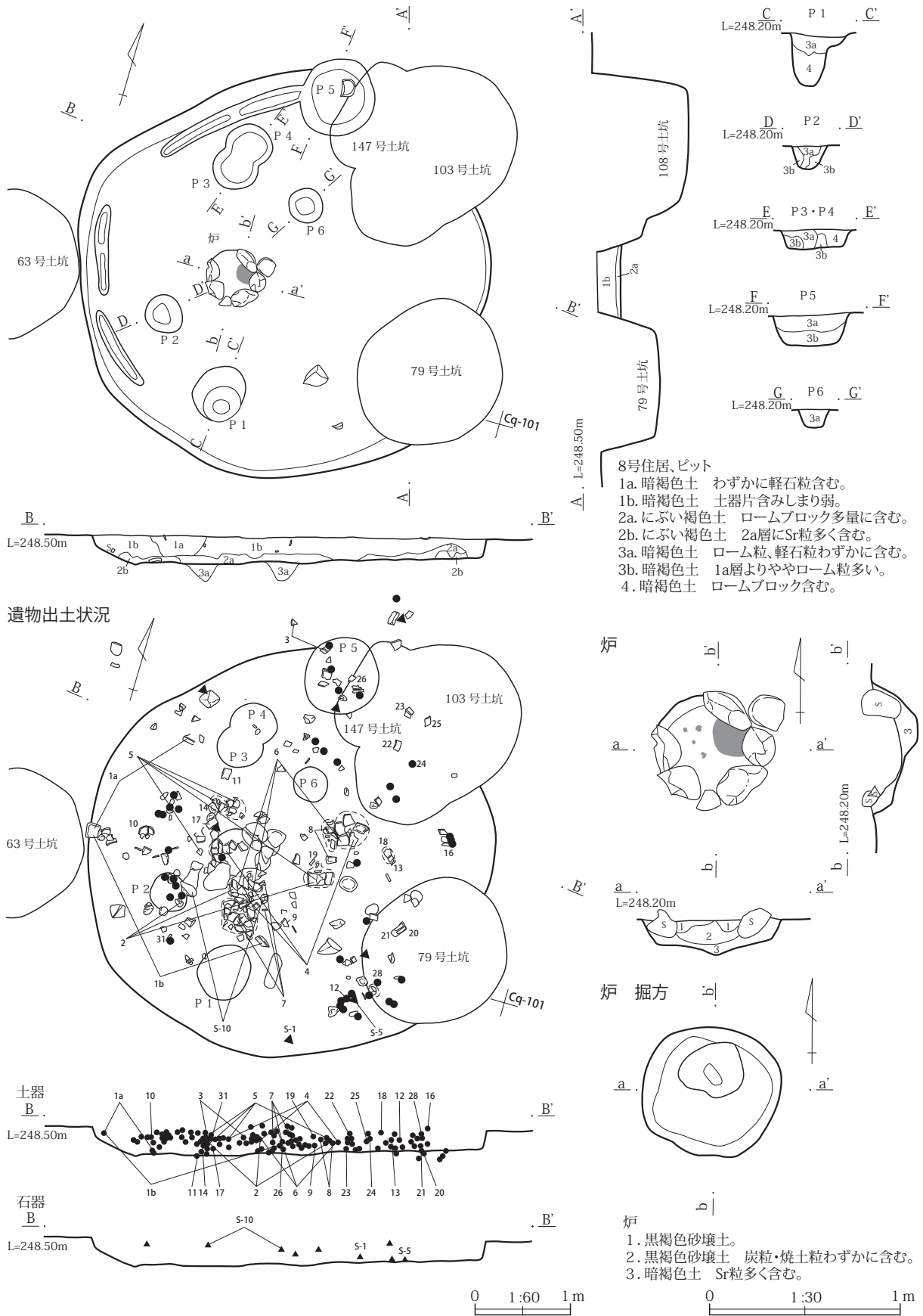
第235図 12区5号住居(2)



第236図 12区6号住居

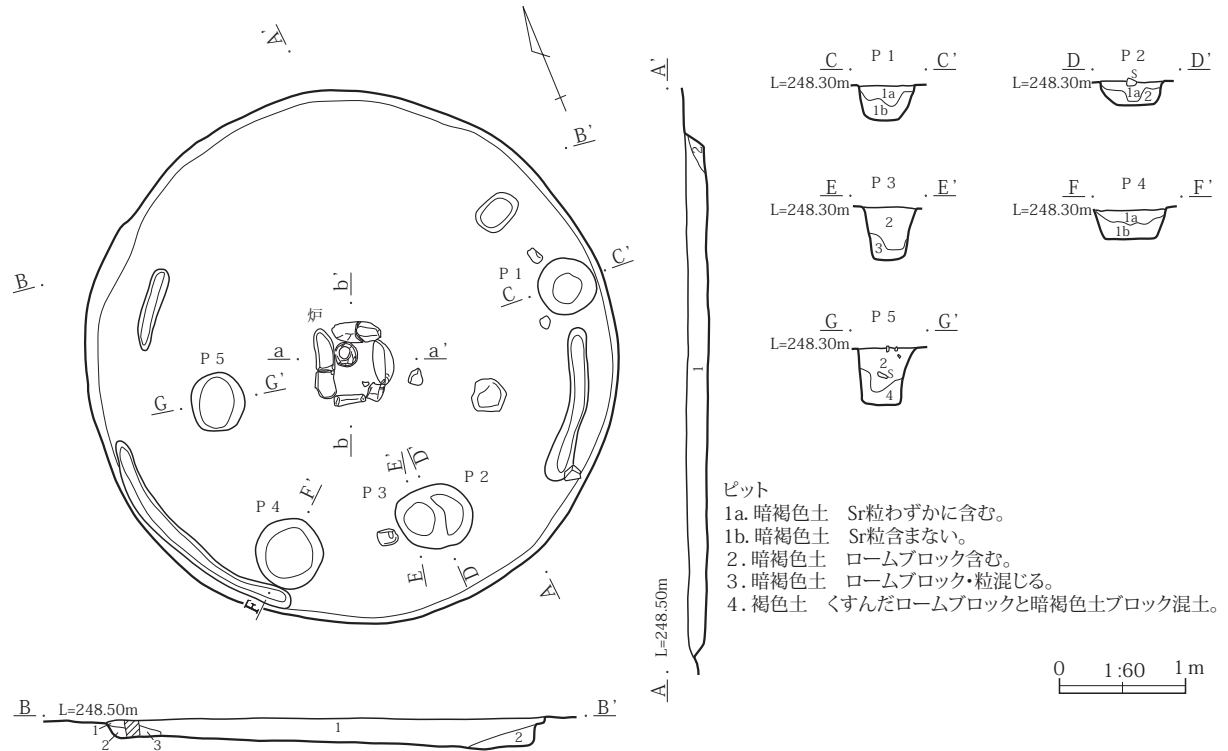


第237図 12区7号住居

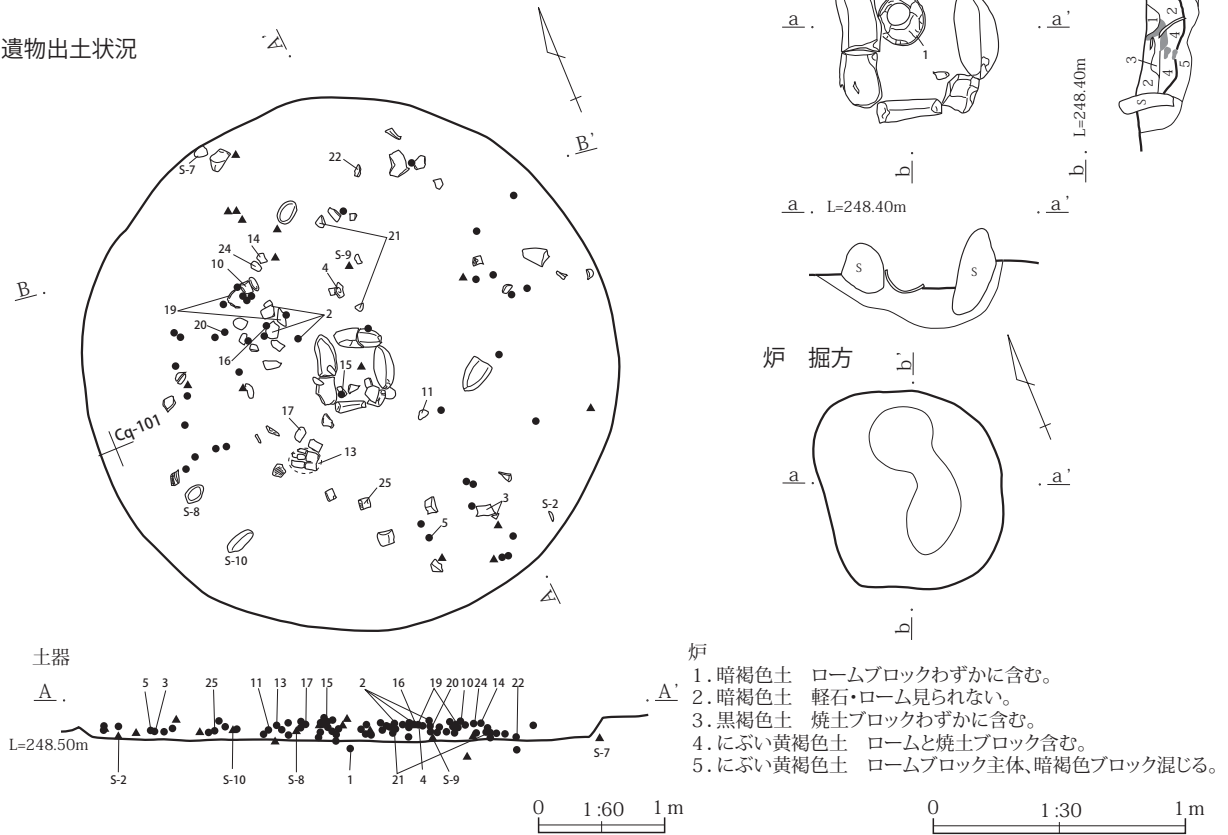


第238図 12区8号住居

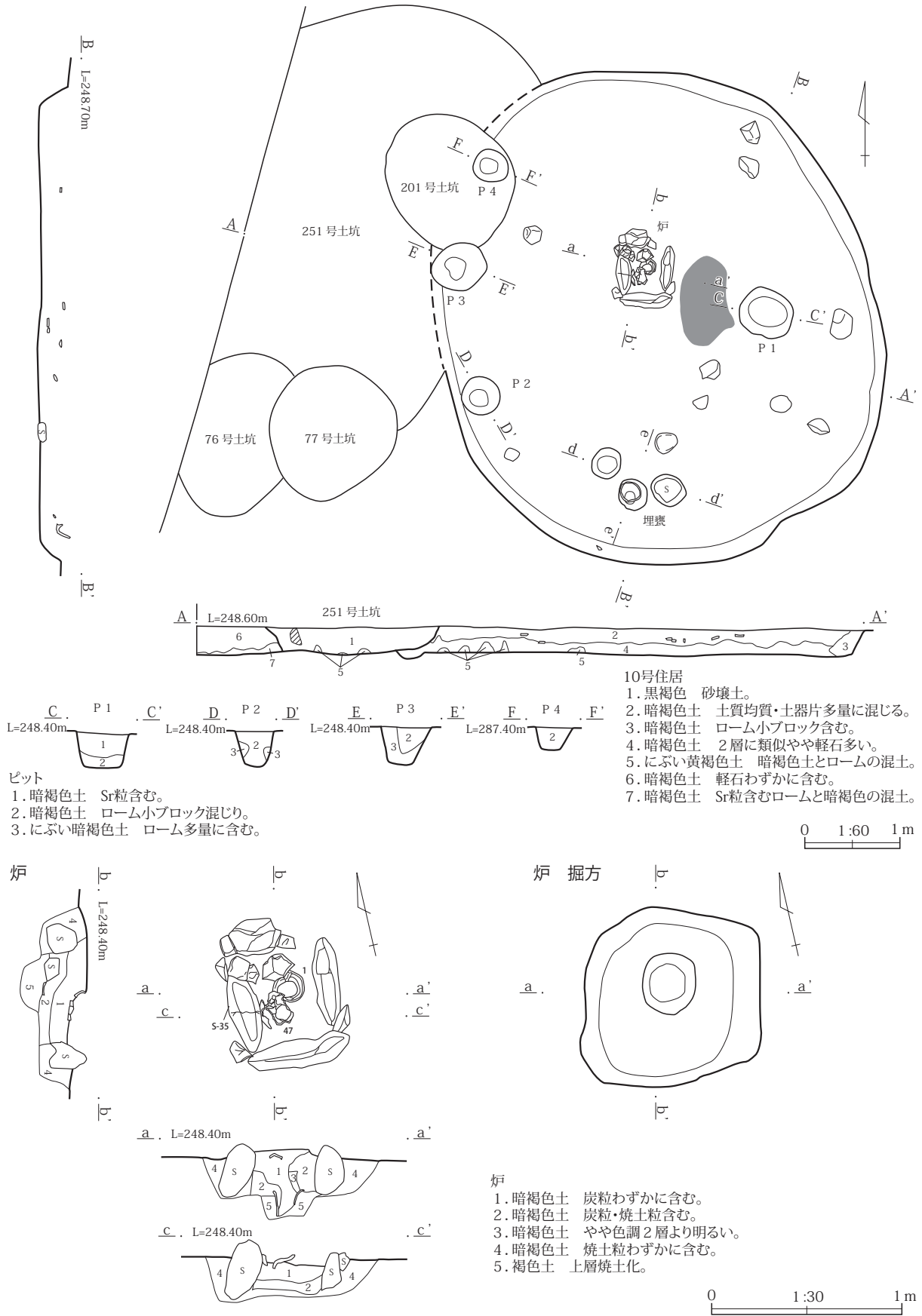
第5章 第4面の検出遺構



遺物出土状況



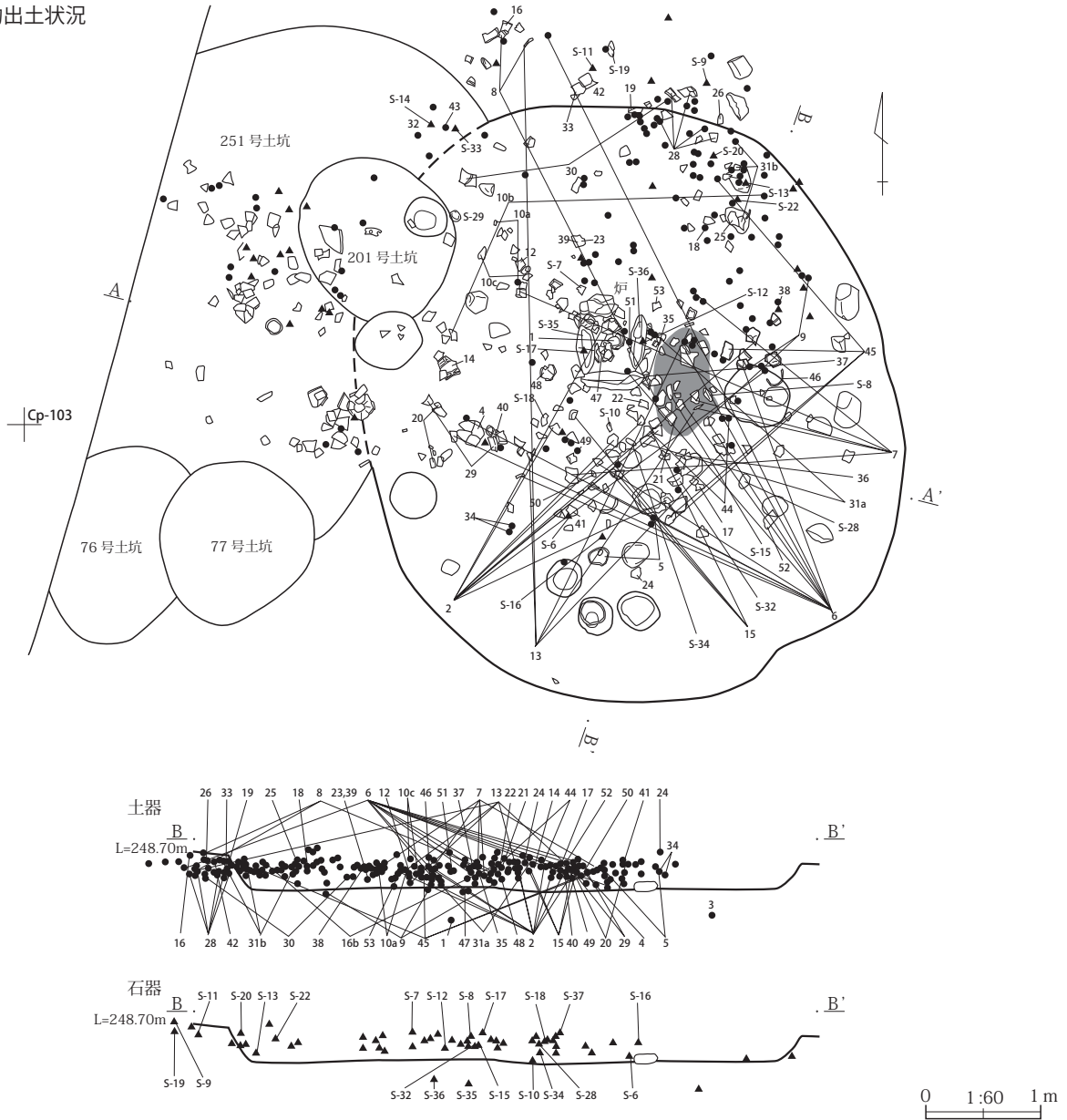
第239図 12区9号住居



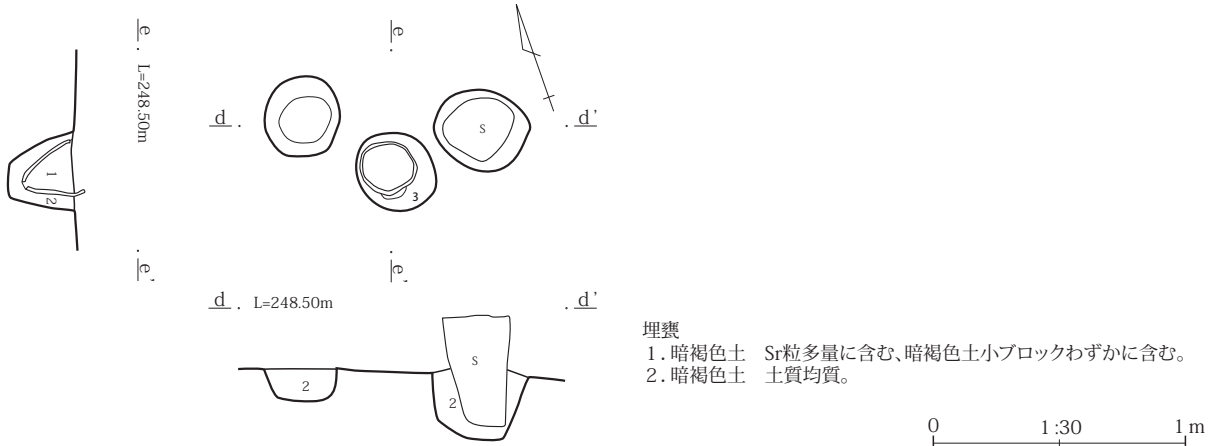
第240図 12区10号住居 (1)

第5章 第4面の検出遺構

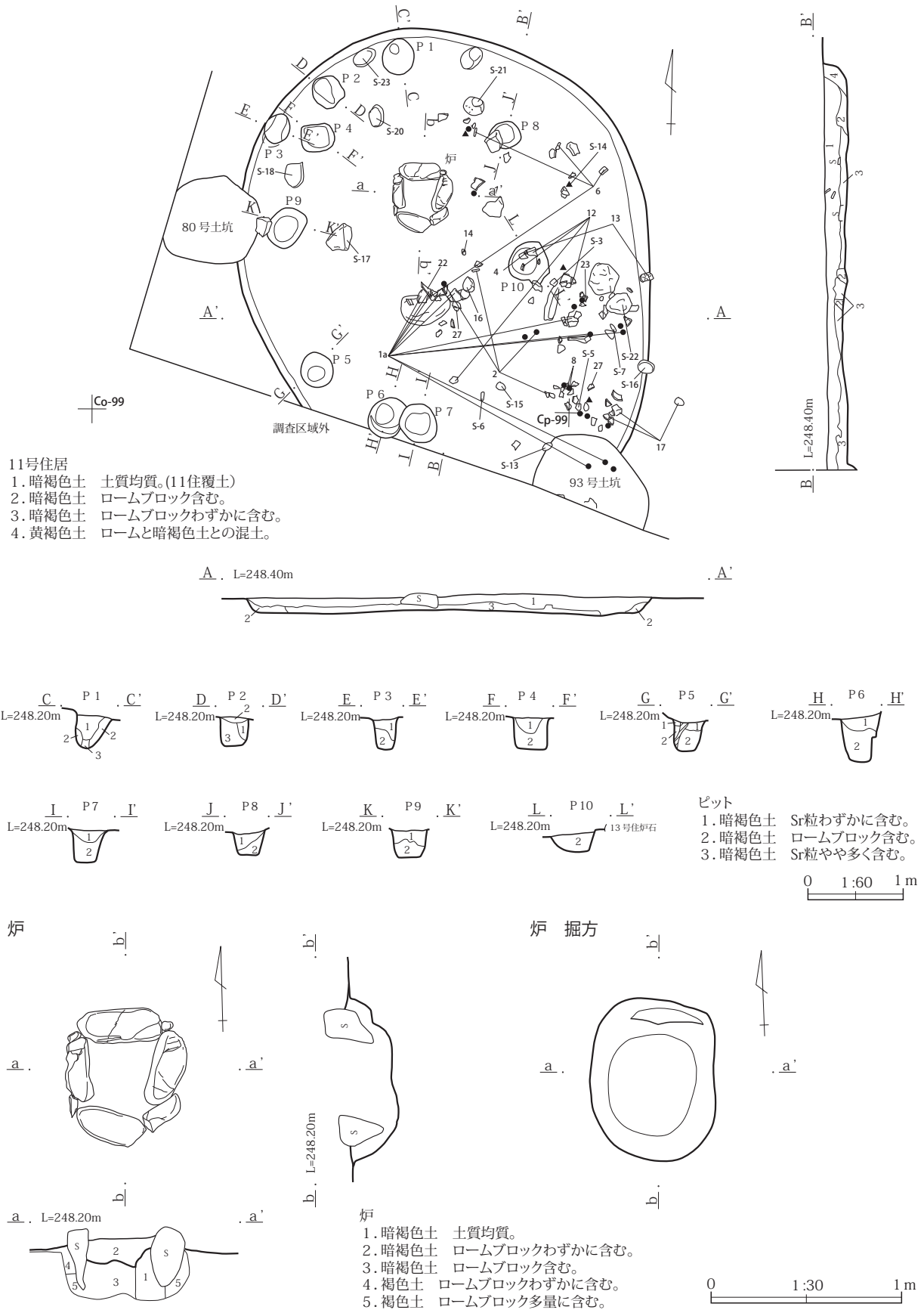
遺物出土状況



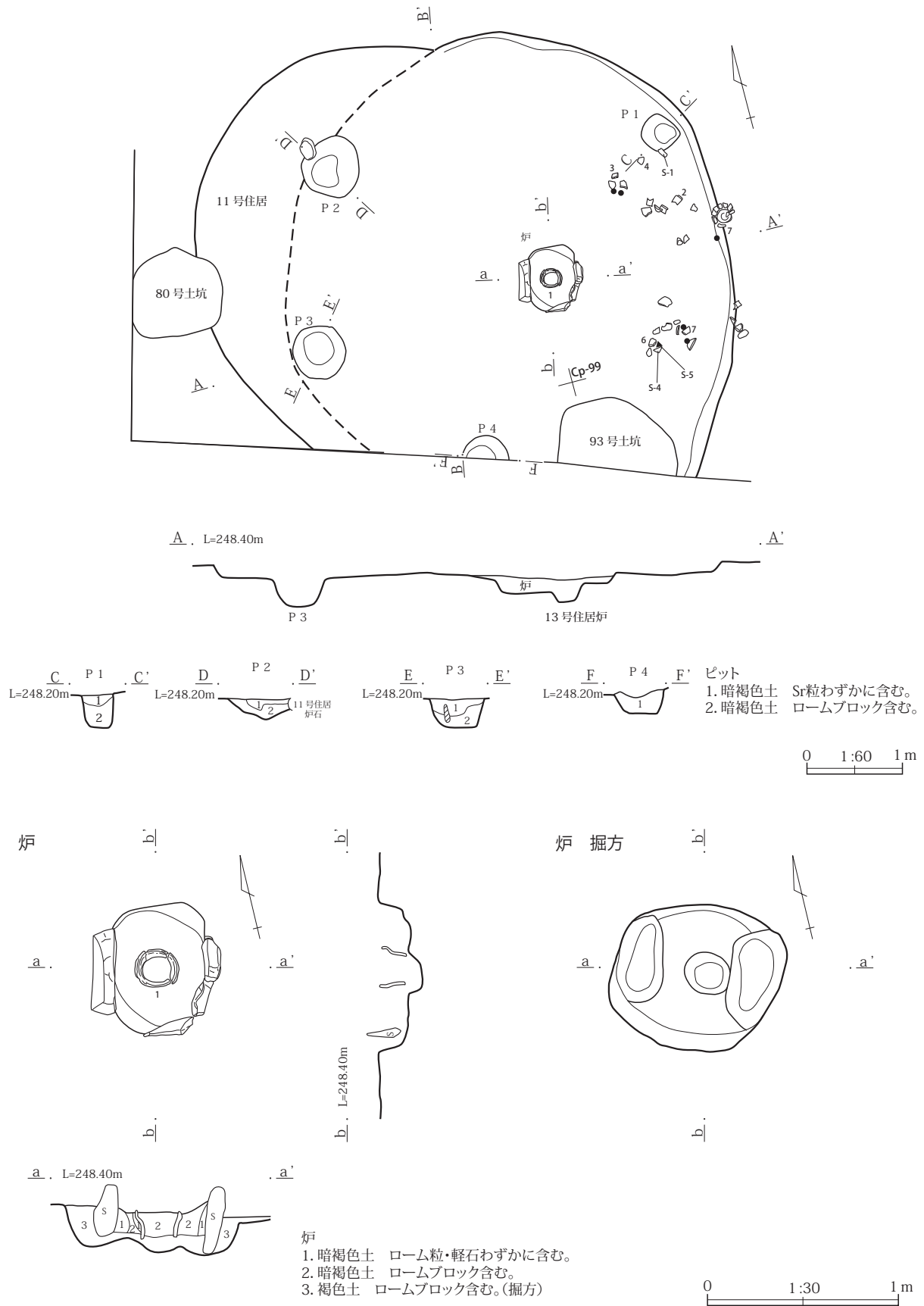
埋甕



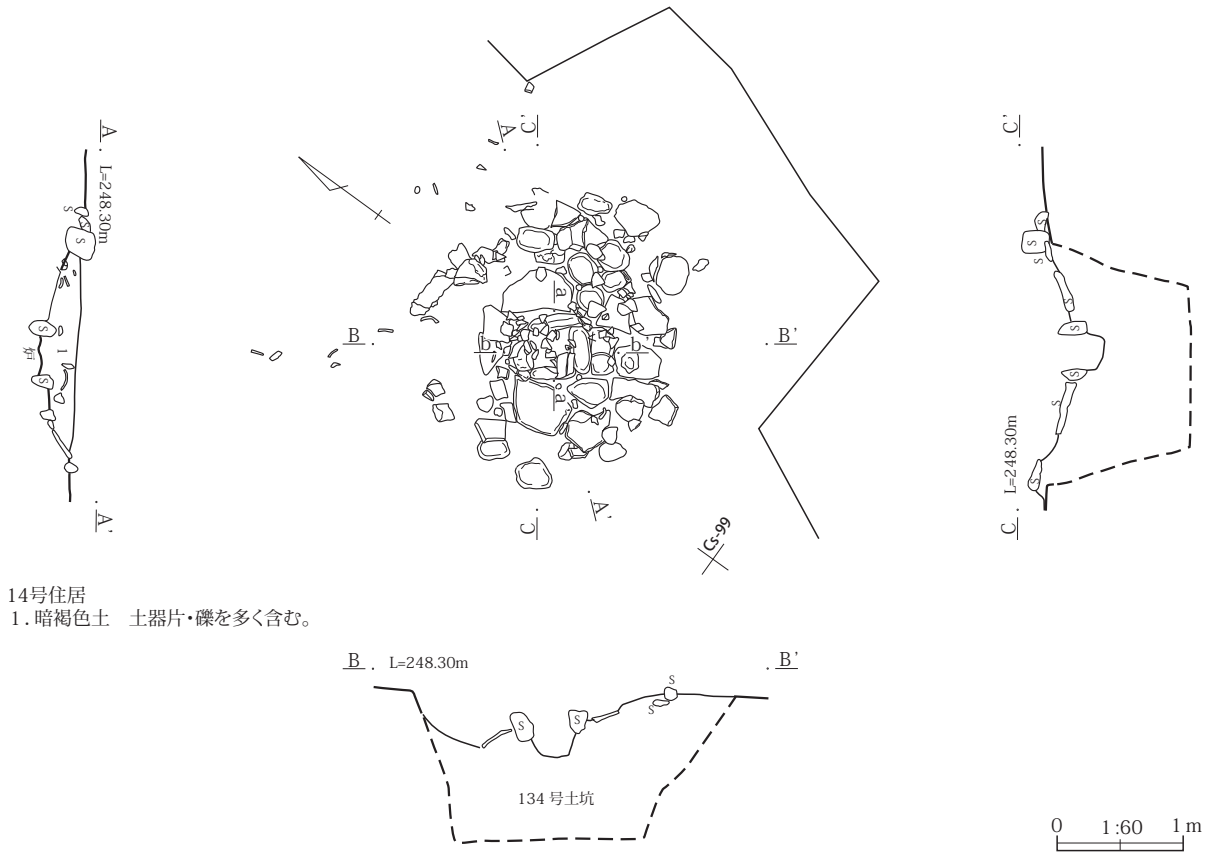
第241図 12区10号住居(2)



第242図 12区11号住居

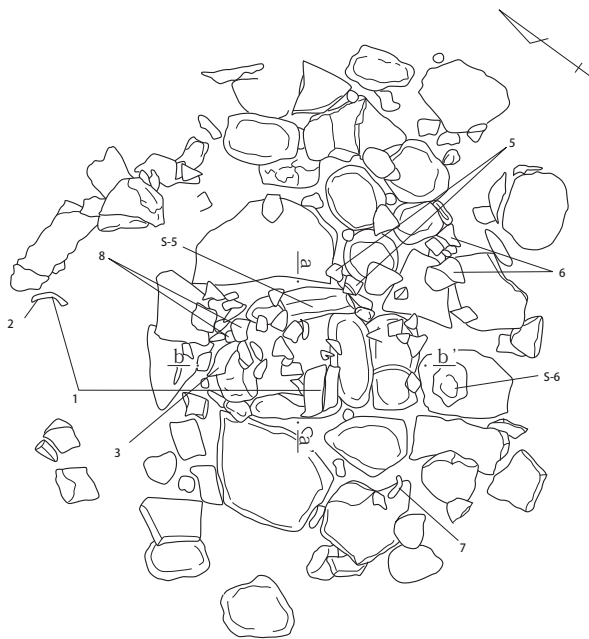


第243図 12区13号住居



14号住居
1. 暗褐色土 土器片・礫を多く含む。

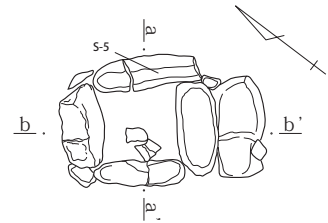
遺物出土状況拡大図



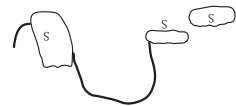
炉



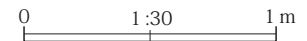
L=248.20m



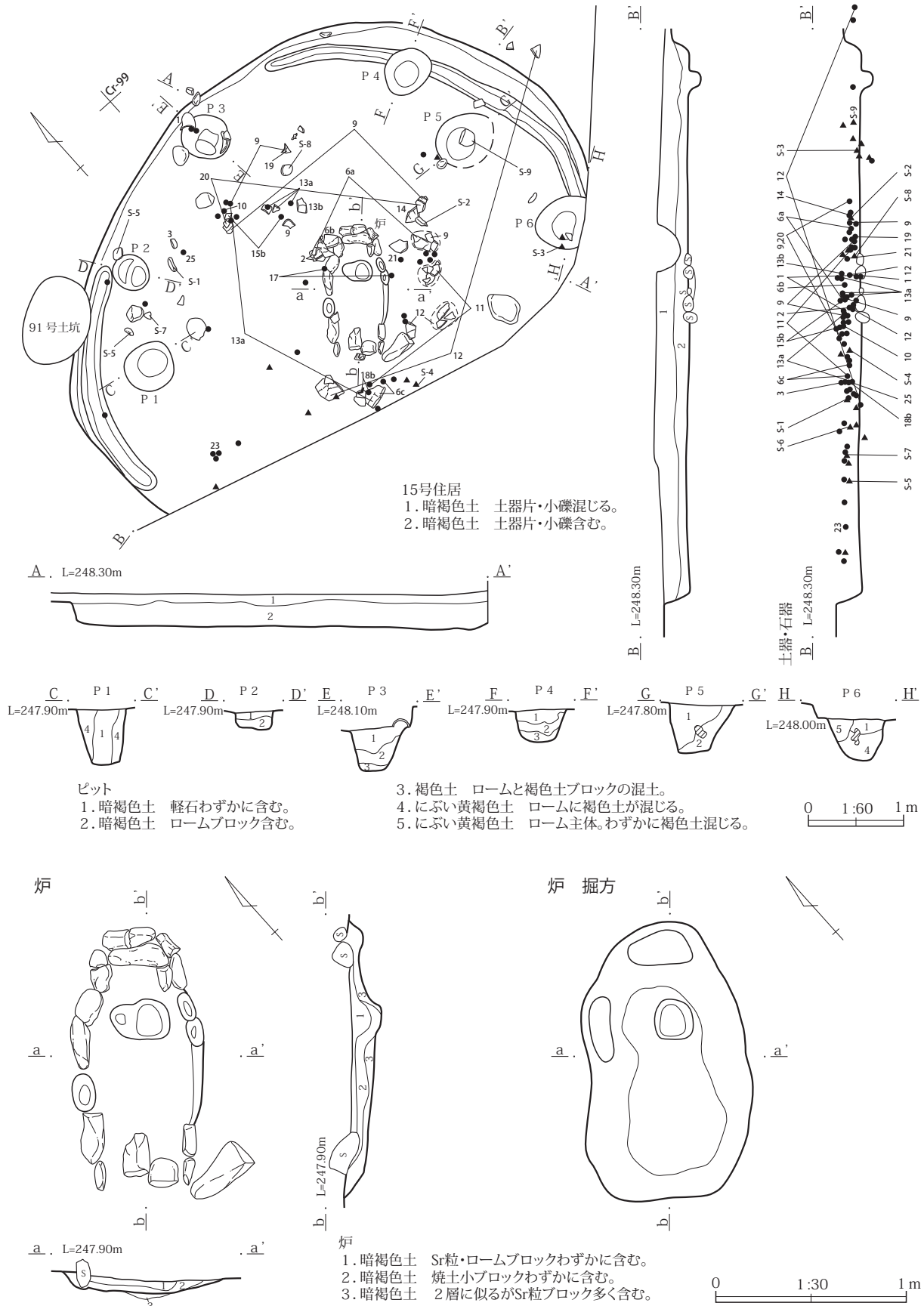
L=248.20m



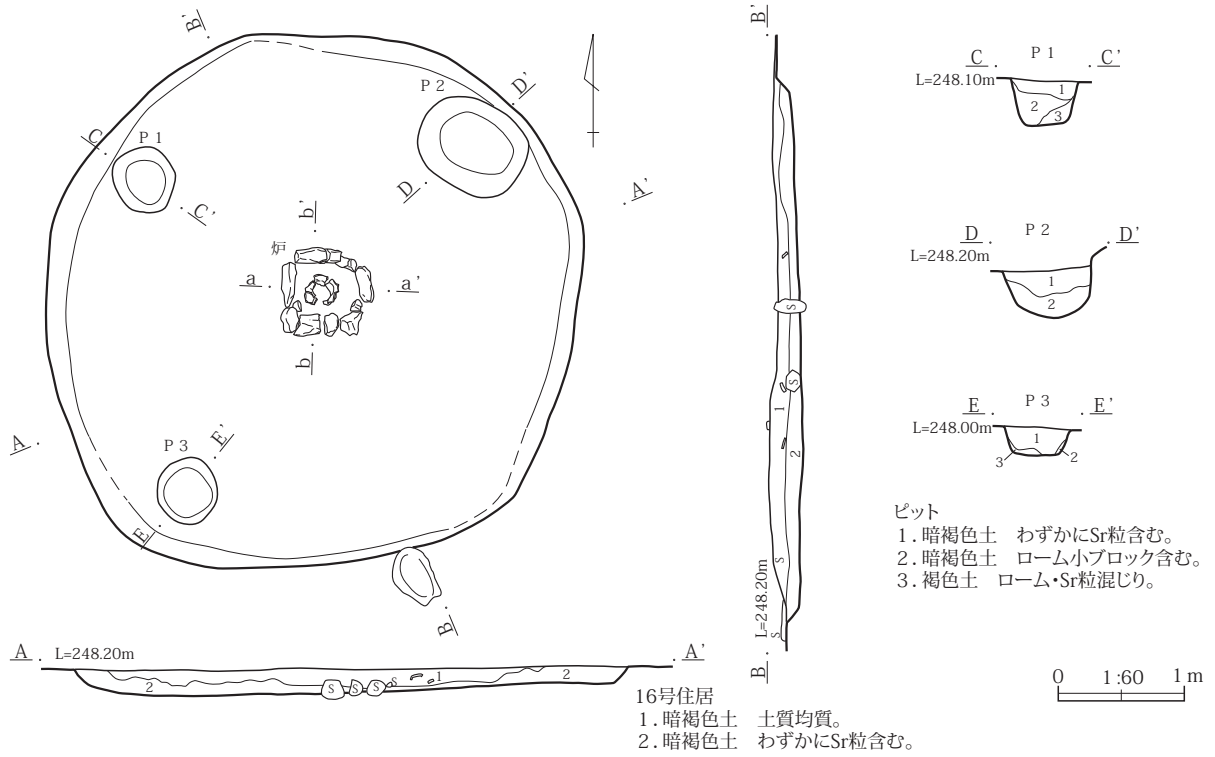
14号住居
1. 暗褐色土
2. 暗褐色土 炭化物わずかに含む。
3. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む。



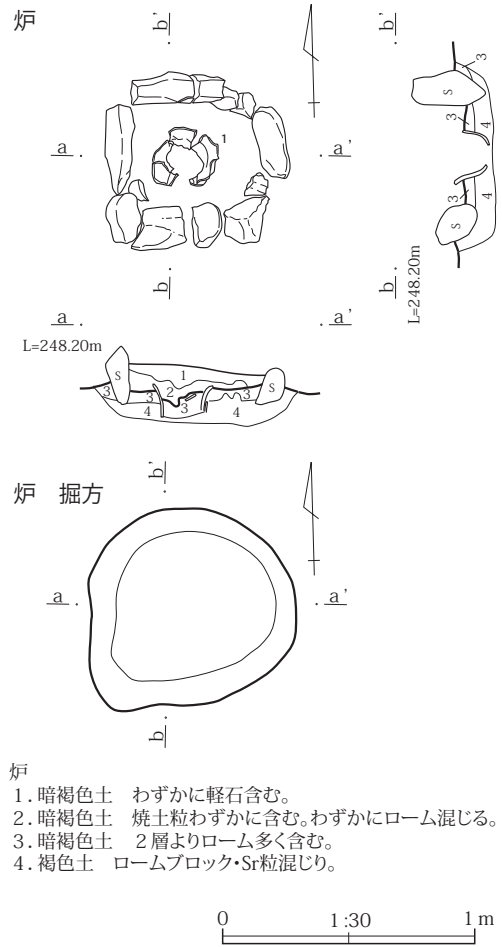
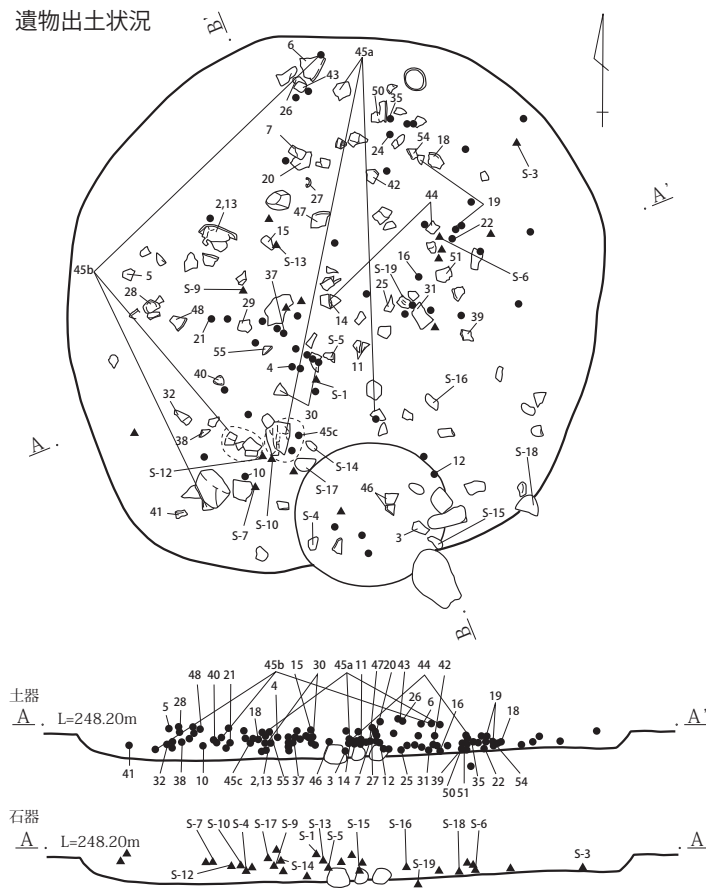
第244図 12区14号住居



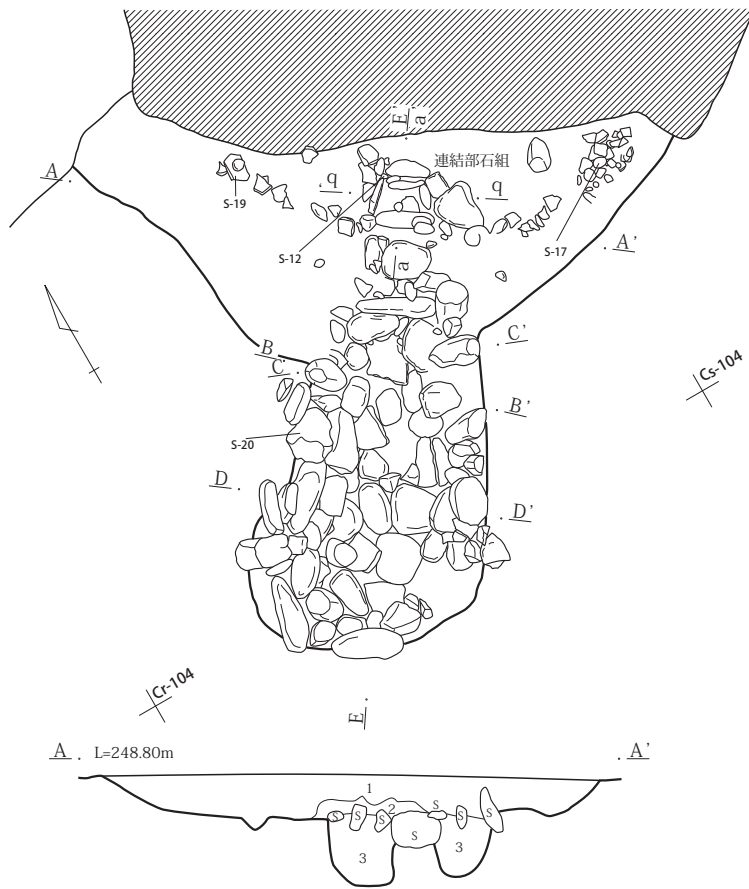
第245図 12区15号住居



遺物出土状況



第246図 12区16号住居



B. L=247.90m



C. L=248.80m



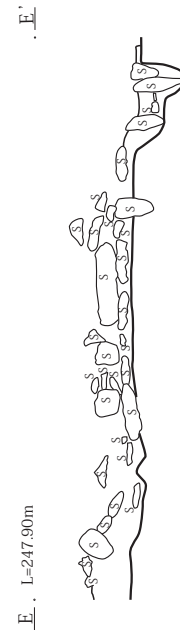
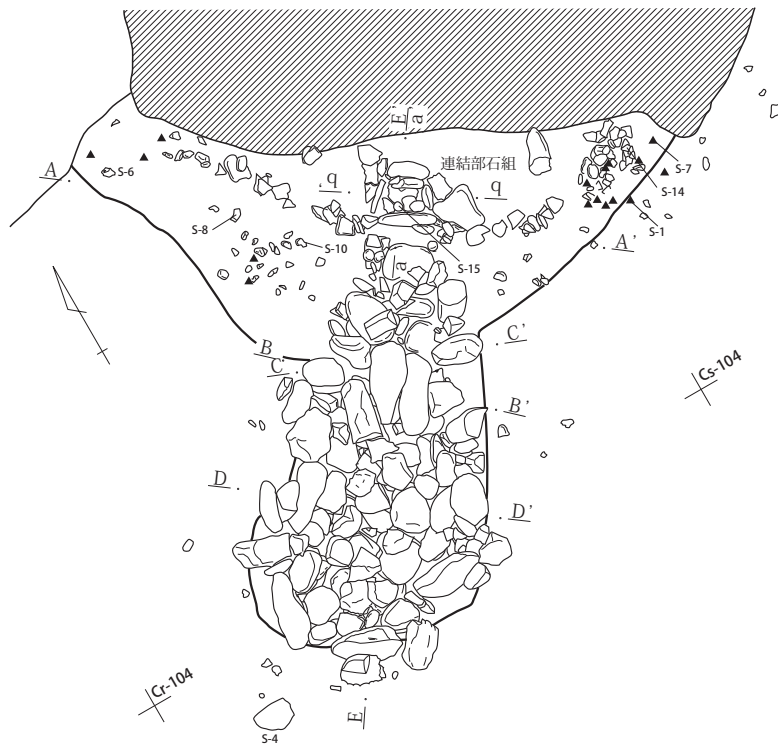
D. L=248.80m



219号土坑

- 18号住居
1. 暗褐色土 土器片・小礫含む。
 2. 暗褐色土 礫混じる。
 3. 褐色土 ロームブロック・Sr粒混じり。

礫集積状況

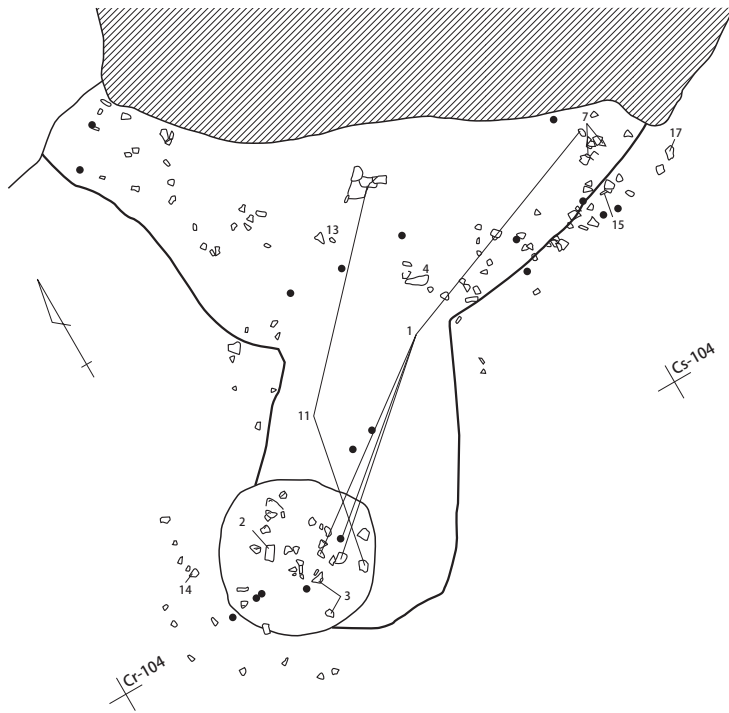


E. L=247.90m

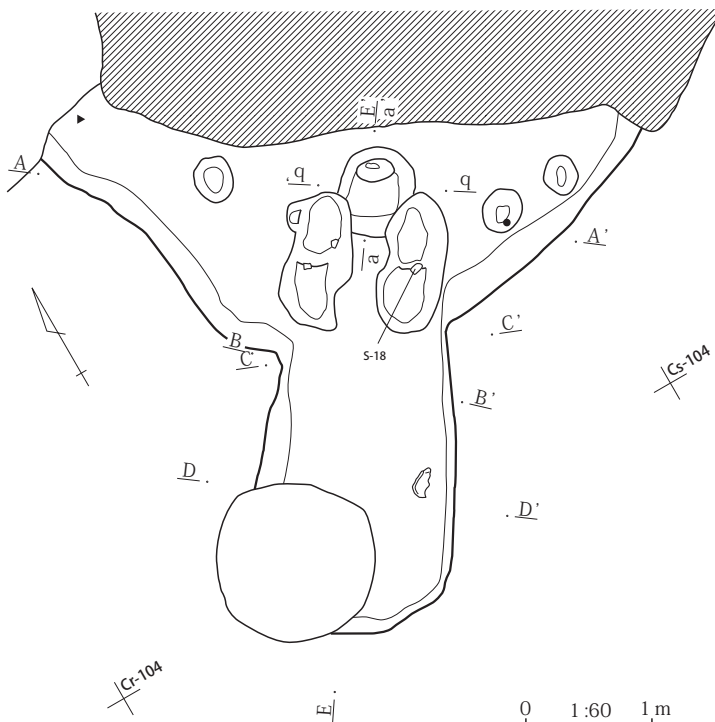
0 1:60 1m

第247図 12区18号住居 (1)

遺物出土状況

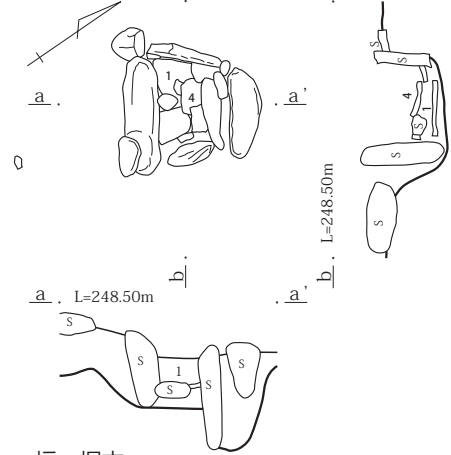


掘方

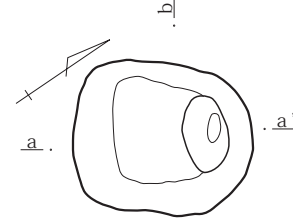


第248図 12区18号住居 (2)

連結部石組

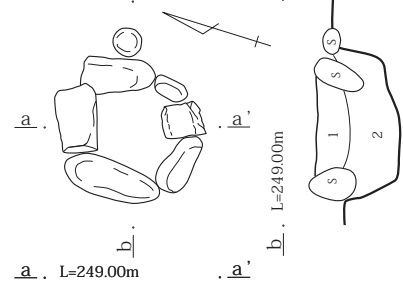


炉 掘方

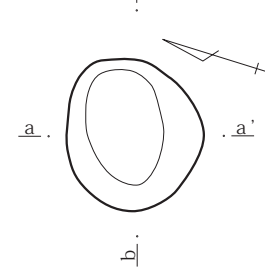


炉
1. 暗褐色土 土質均質。Sr粒わずかに含む。

19号住居炉

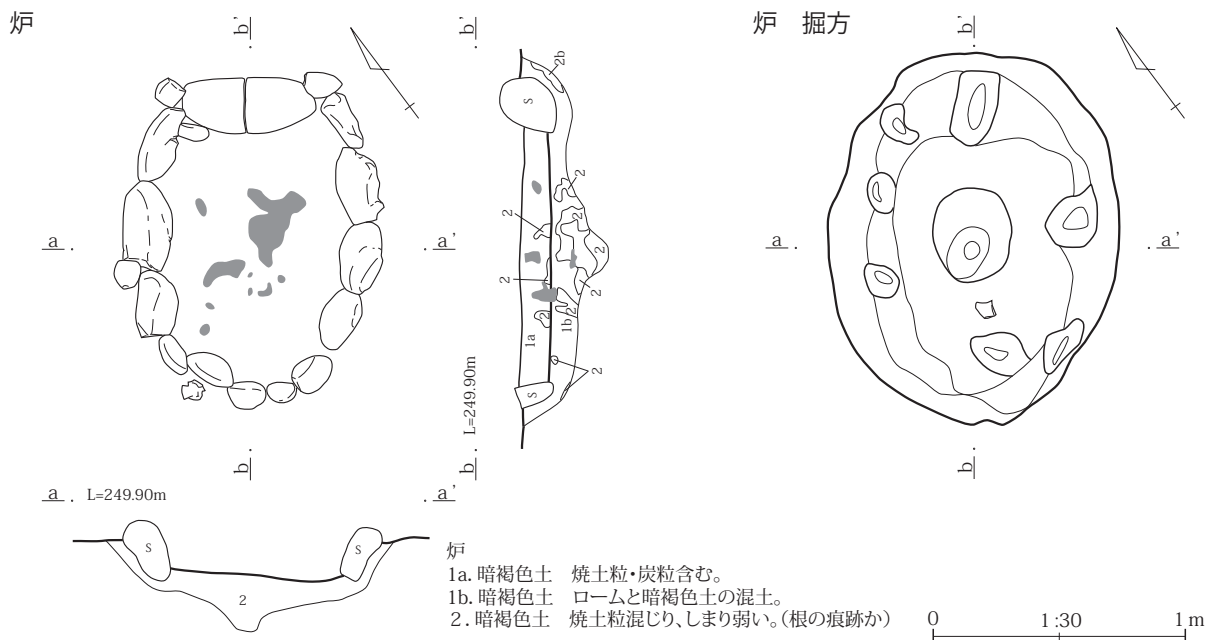
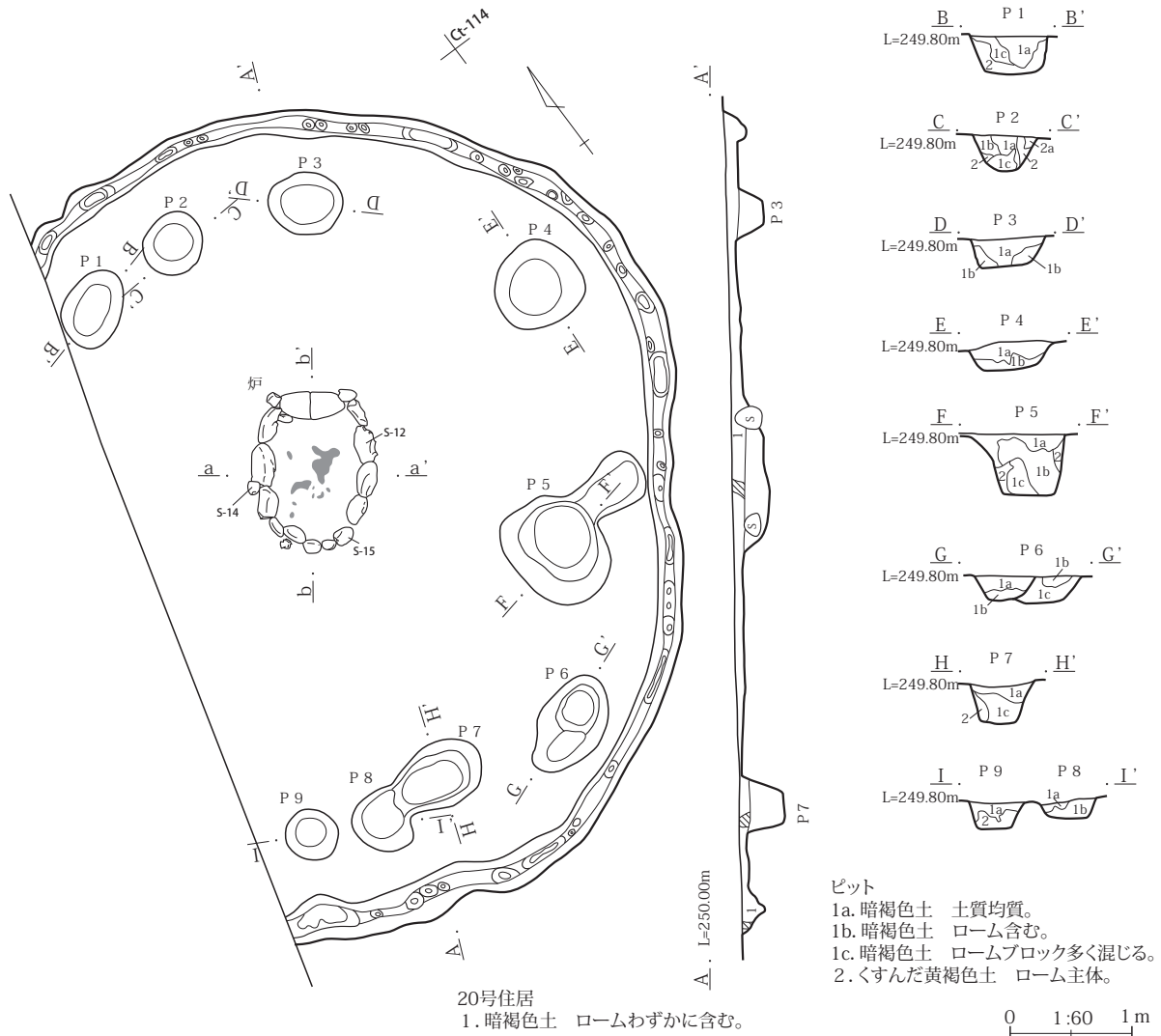


炉 掘方

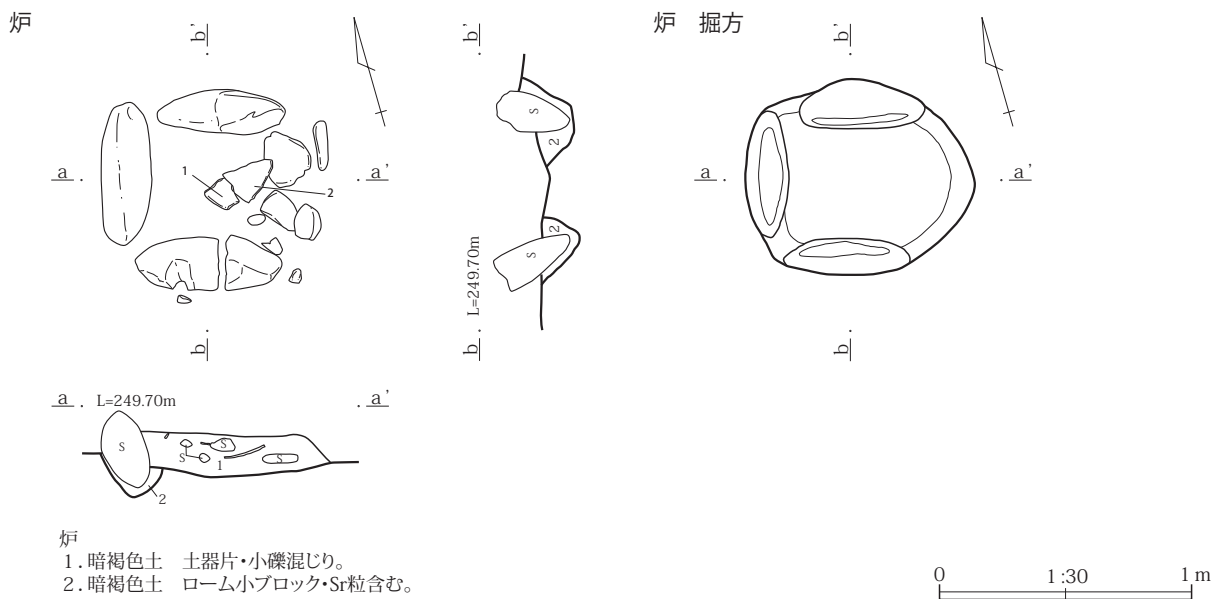
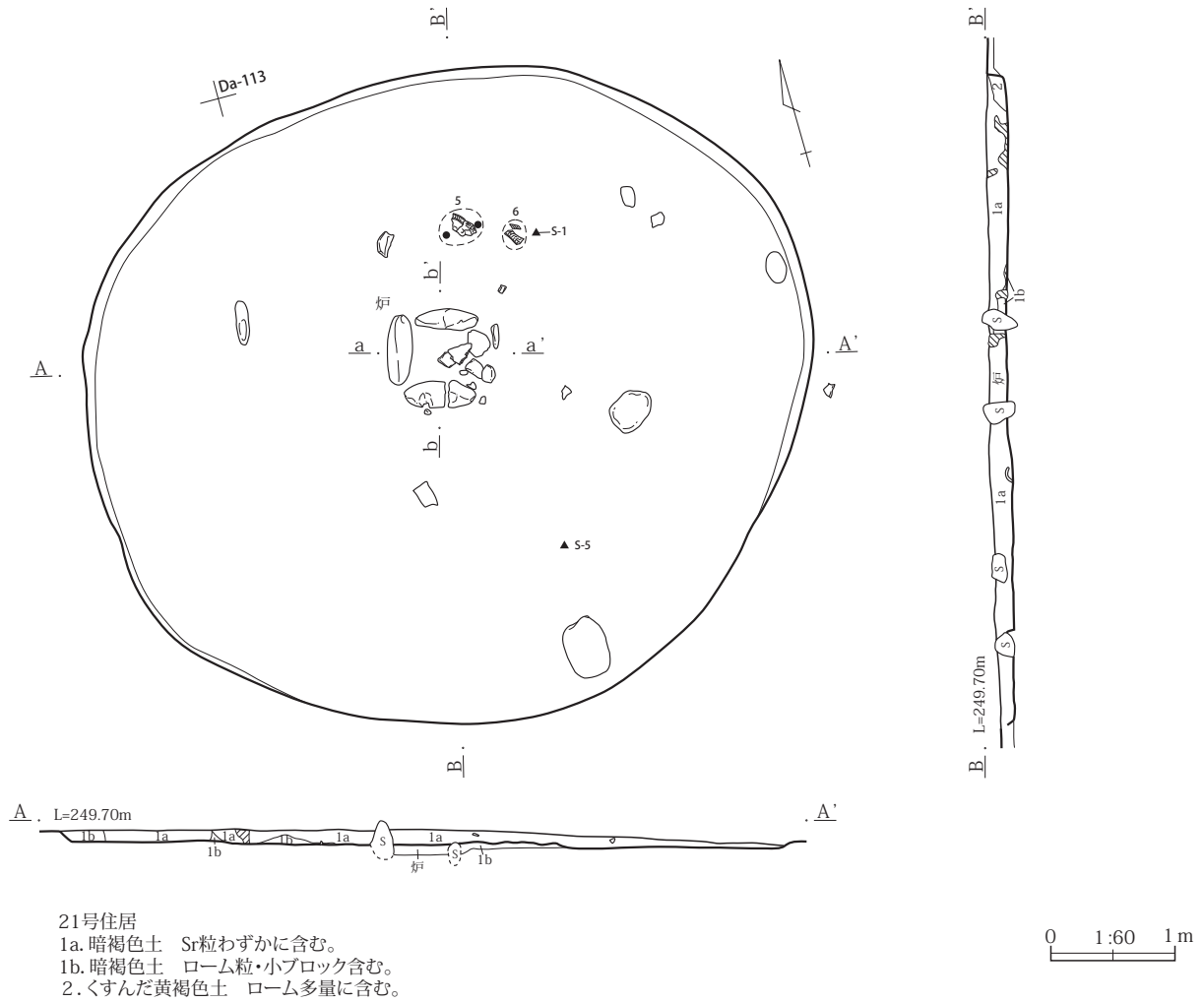


炉
1. 暗褐色土 炭粒わずかに含む。
2. 暗褐色土 上層に焼土粒わずかに含む。

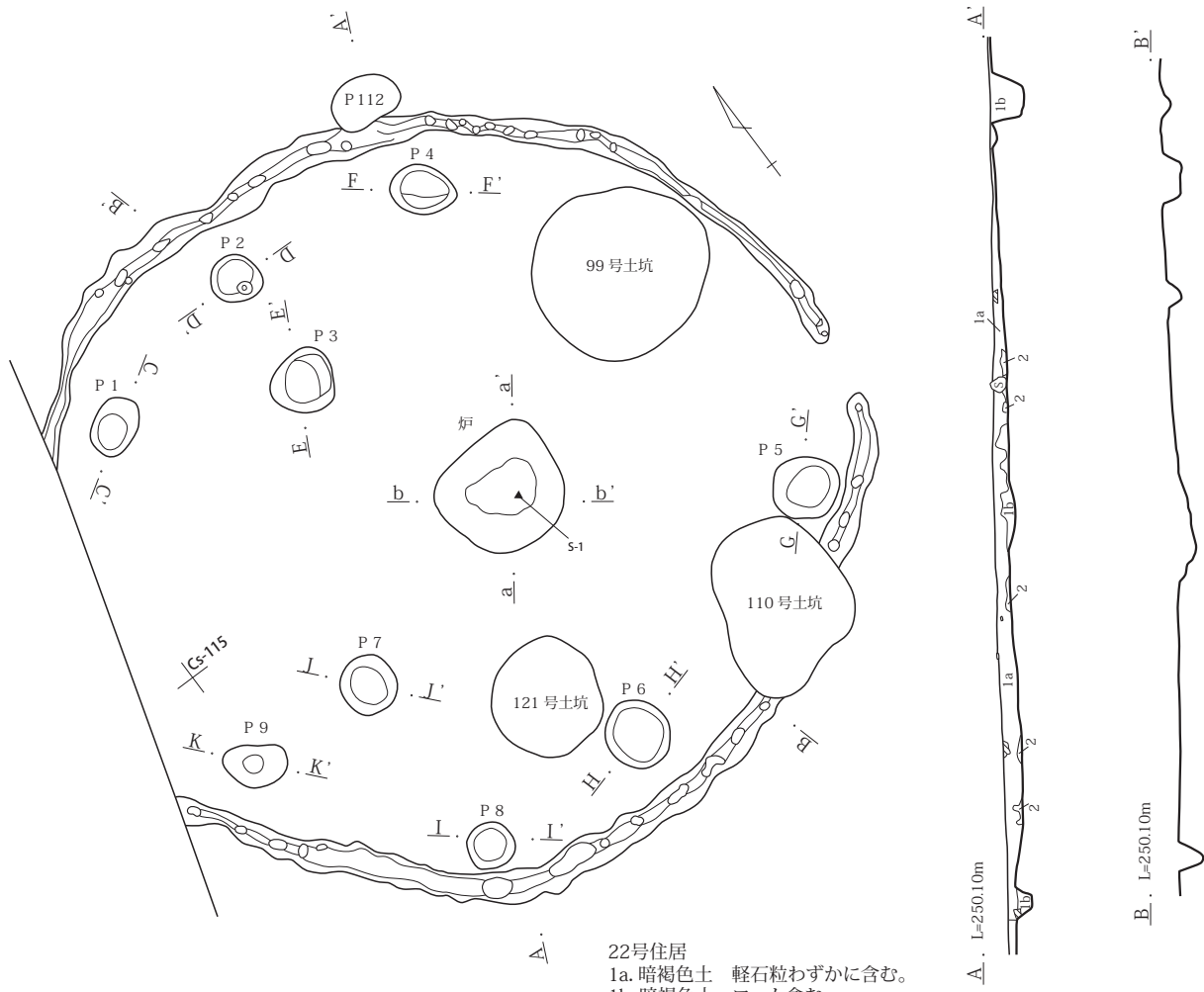
第249図 12区19号住居



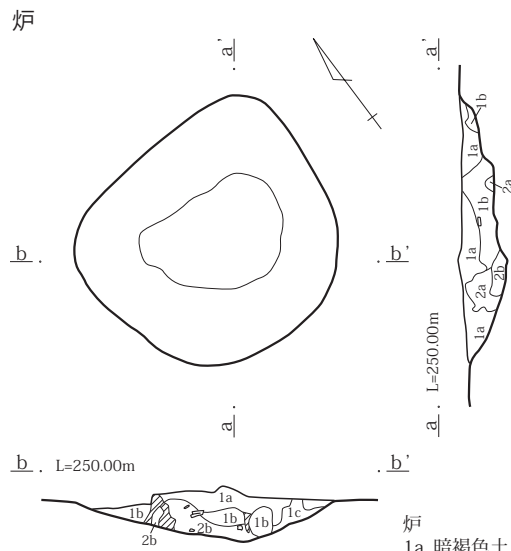
第250図 12区20号住居



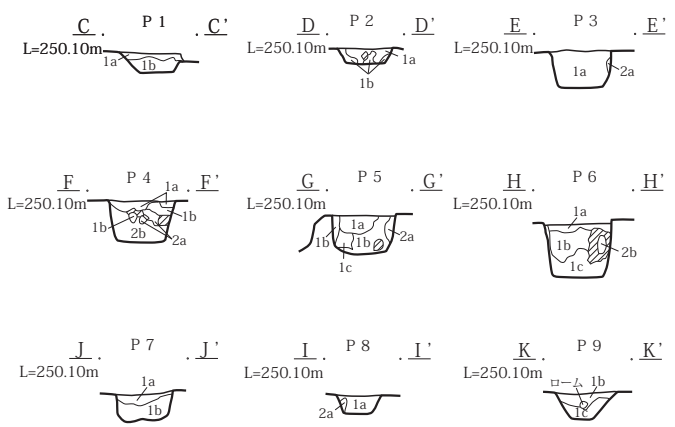
第251図 12区21号住居



22号住居
 1a. 暗褐色土 軽石粒わずかに含む。
 1b. 暗褐色土 ローム含む。
 2. にぶい褐色土 くすんだローム主体。



炉
 1a. 暗褐色土 細粒軽石わずかに含む。
 1b. 暗褐色土 1aにくすんだローム含む。
 1c. 暗褐色土 1bよりローム混入多い。
 2a. 暗褐色土 焼土粒を含む。
 2b. 暗褐色土 焼土を多く含む。

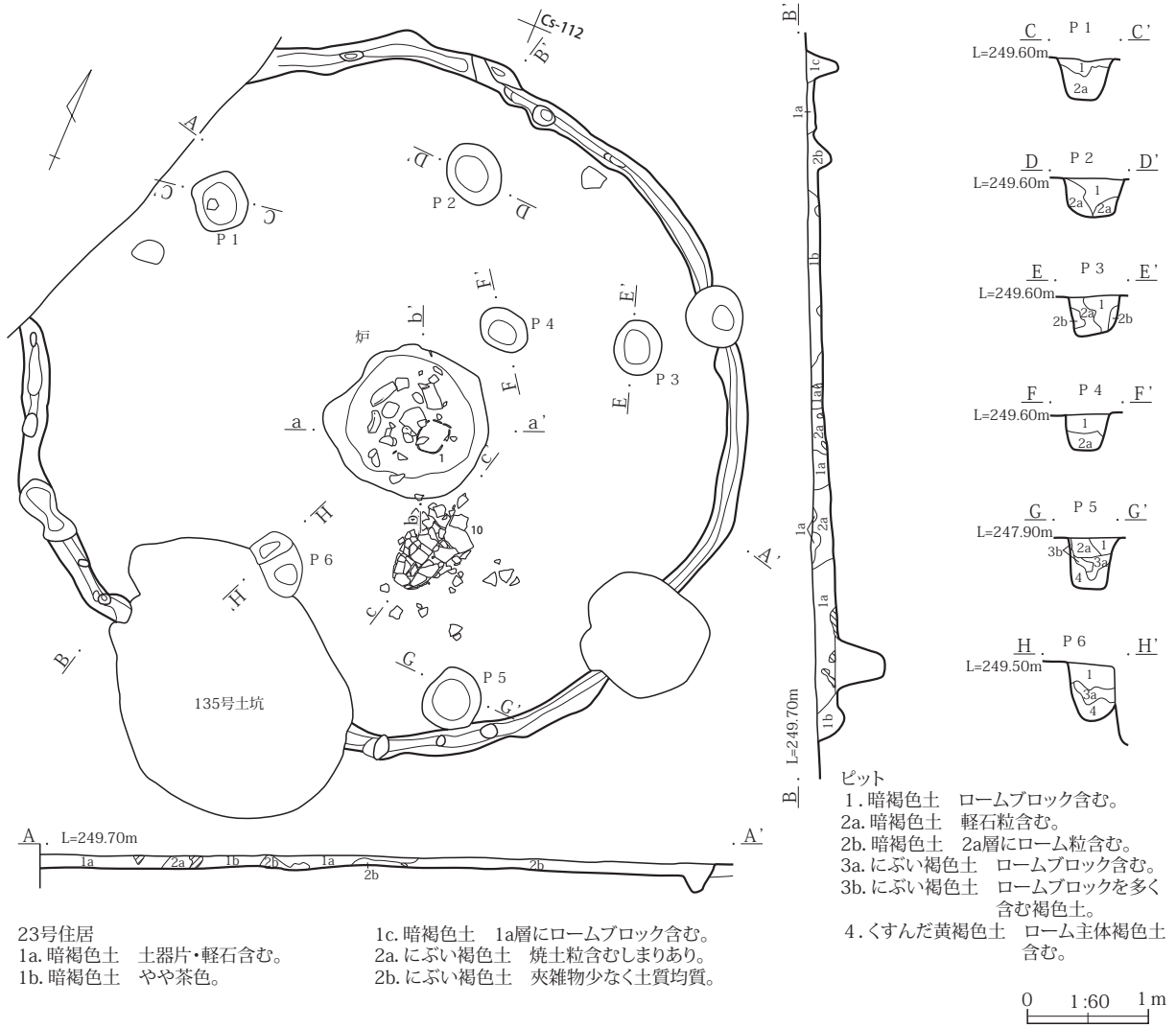


ピット
 1a. 暗褐色土 軽石粒わずかに含む。
 1b. 暗褐色土 ローム含む。
 1c. 暗褐色土 ロームを多く含む。
 2a. 褐色土 ロームをやや多く含む。
 2b. 褐色土 ローム主体。粘性強い。

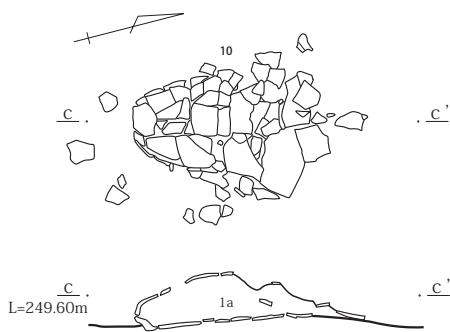
0 1:30 1 m

0 1:60 1 m

第252図 12区22号住居



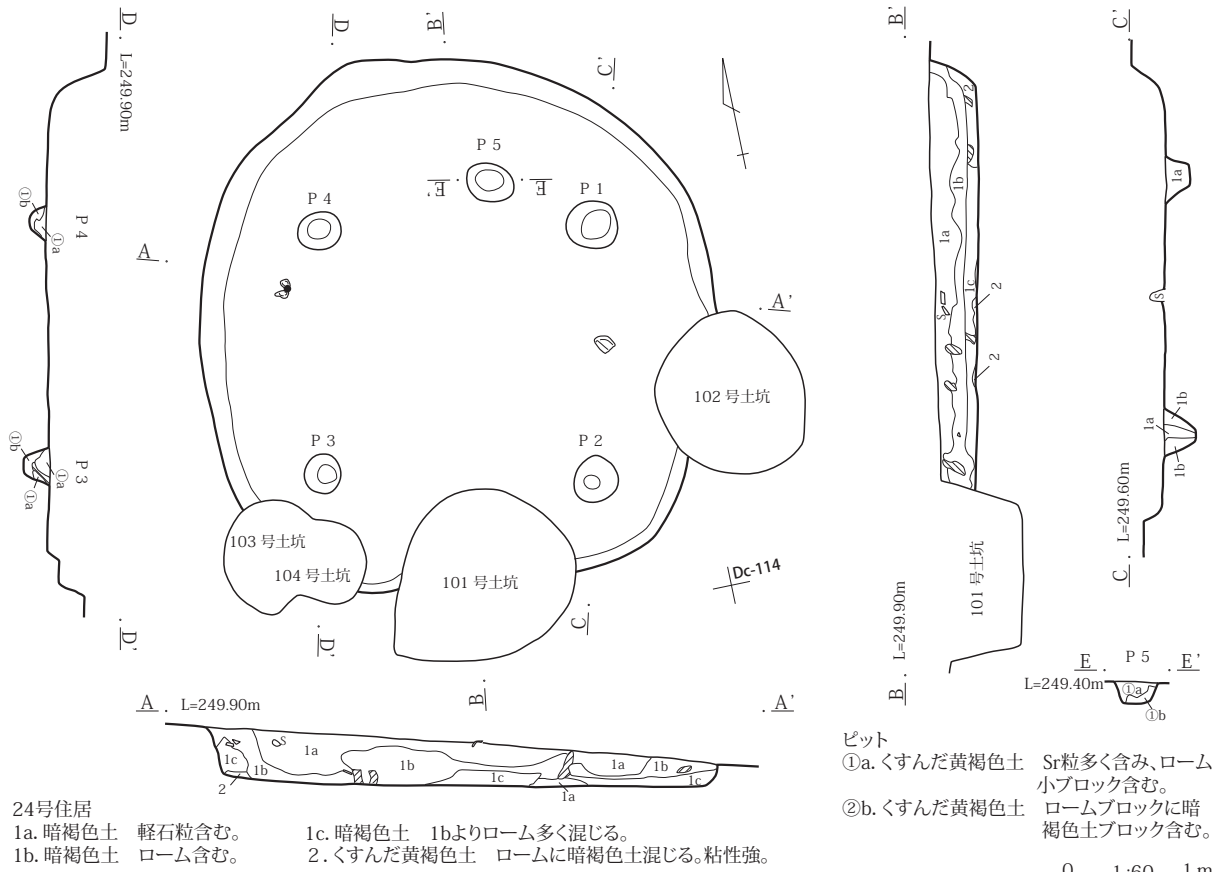
遺物出土状況



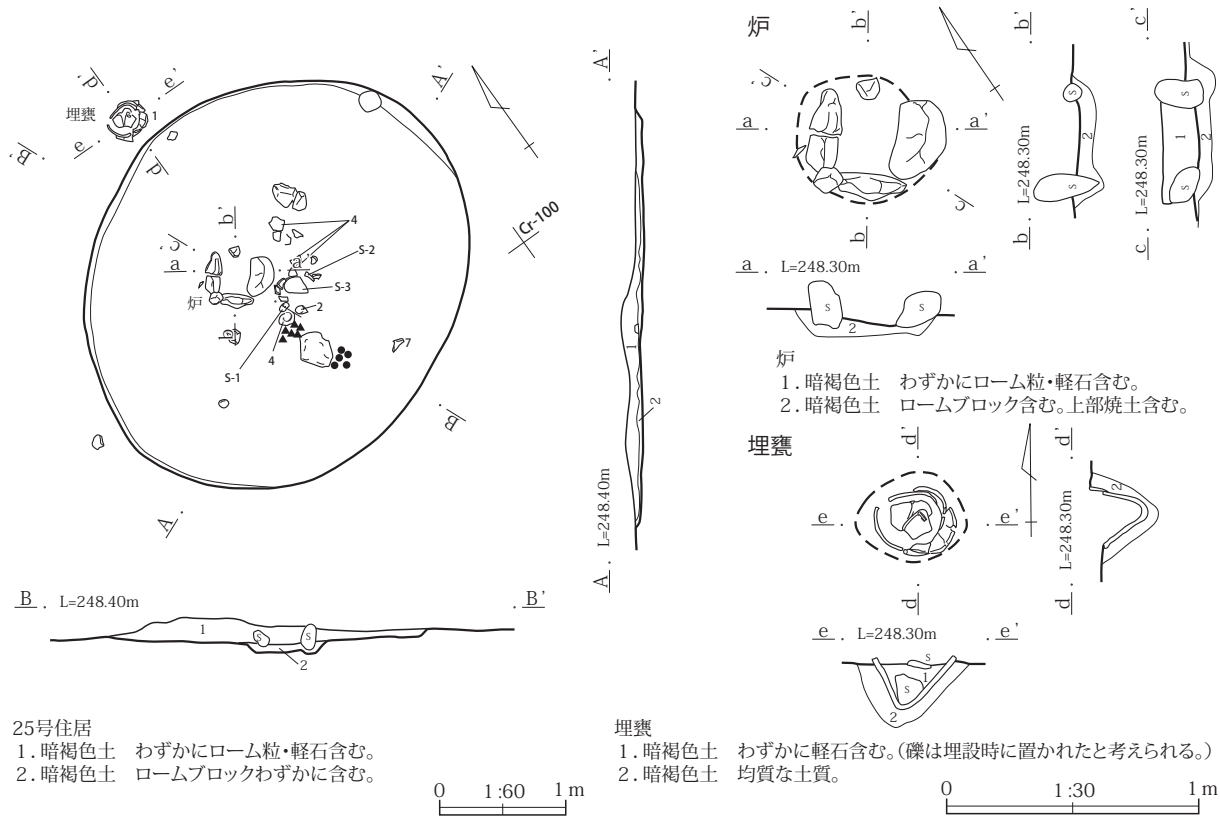
- 炉
- 1a. 暗褐色土 土器片・軽石含む。
 - 1b. 暗褐色土 軽石含むやや色調茶色。
 - 1c. 暗褐色土 くすんだローム混じる。
 - 2a. くすんだ褐色土 焼土粒・炭粒含む。
 - 2b. くすんだ暗褐色土 2a層よりロームブロック多く含む。焼土・炭粒混じる。
 - 3a. 暗黄褐色土と褐色土 焼土化したロームブロックとの混土。
 - 3b. 暗黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
 4. くすんだ黄褐色土 ロームと褐色土との混土。

第253図 12区23号住居

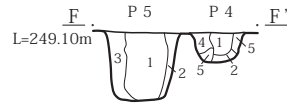
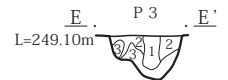
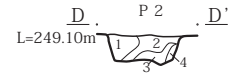
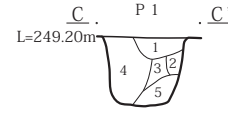
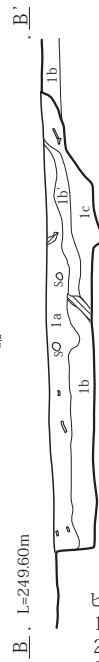
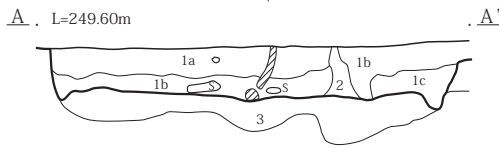
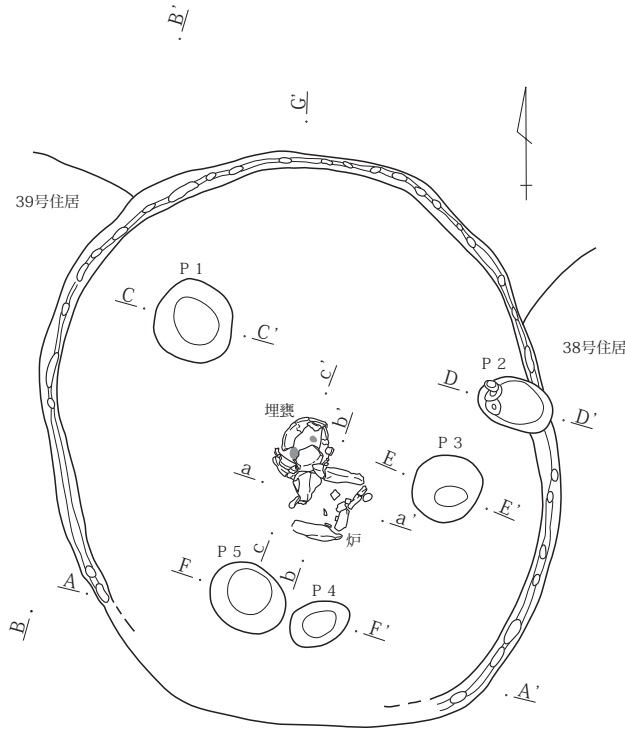
第5章 第4面の検出遺構



第254図 12区24号住居



第255図 12区25号住居



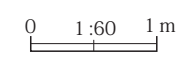
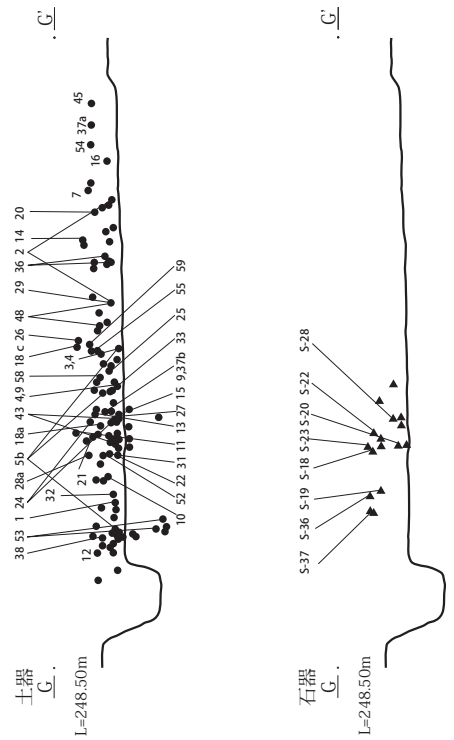
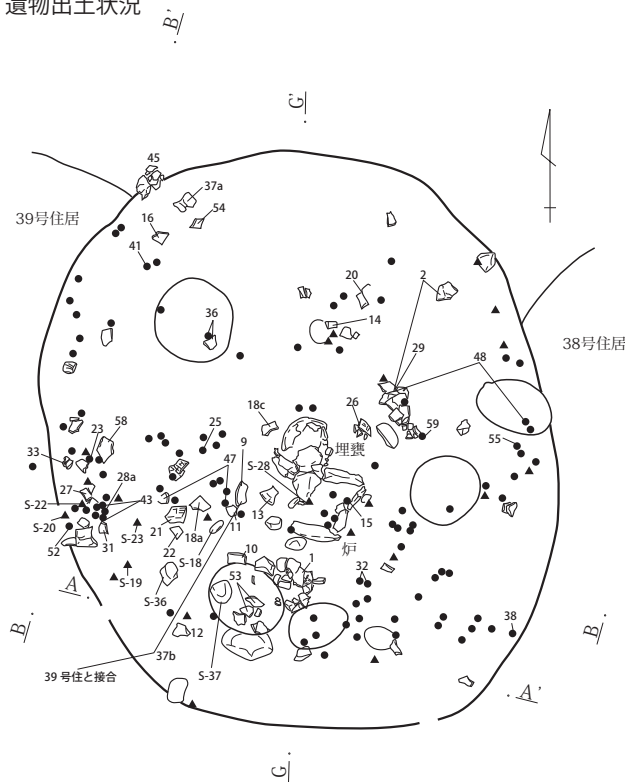
ピット

1. 暗褐色土 Sr粒やや多く含む。炭化物含む。
2. 暗褐色土 Sr粒わずかに含む。炭化物含む。
3. 暗褐色土 Sr粒わずかに含む。ロームブロック含む。
4. にぶい褐色土 ローム小ブロック含む。
5. にぶい黄褐色土 ローム多く含むSr粒ブロック状に含む。

26号住居

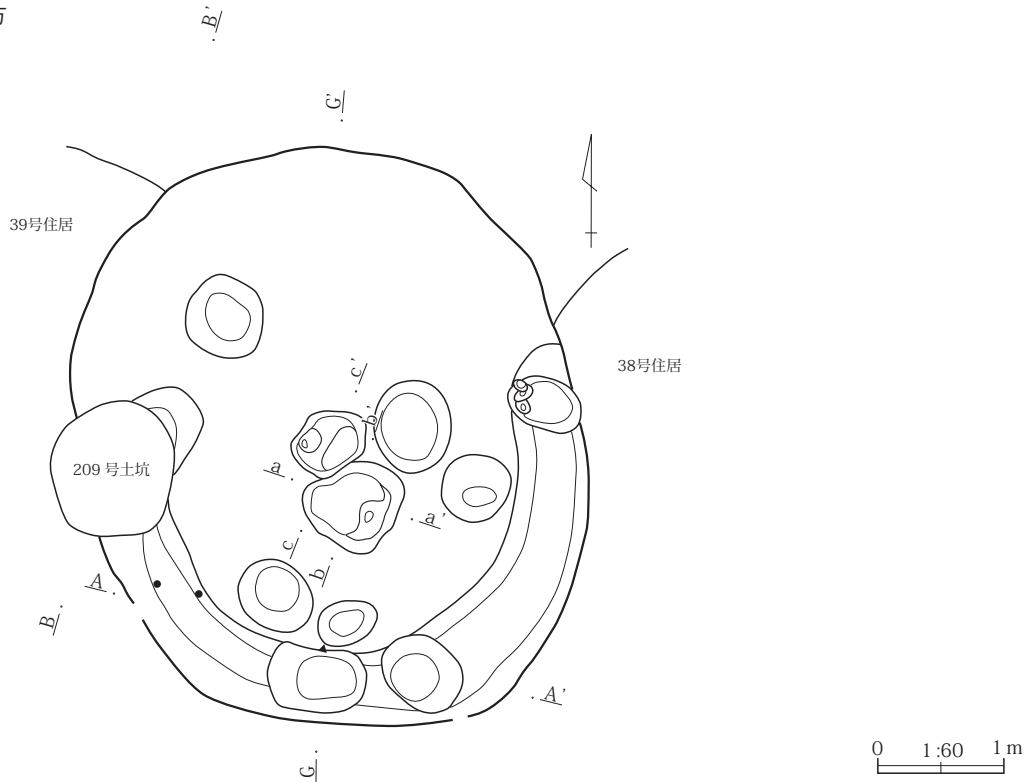
- 1a. 暗褐色土 土器片多量に混入する。軽石粒含む。
- 1b. 暗褐色土 1aにくすんだロームと同じ。
- 1c. 暗褐色土 1bよりロームブロック混入する。
2. くすんだ黄褐色土 ロームブロックが多量に入る。
3. 暗褐色土 ロームブロックと暗褐色土の混土。

遺物出土状況

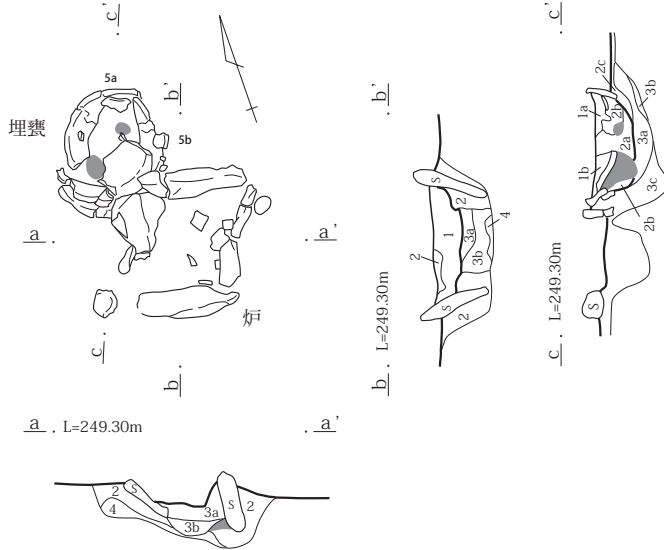


第256図 12区26号住居(1)

掘方



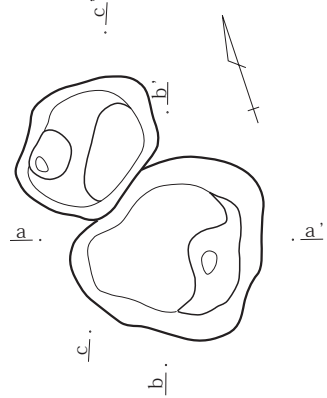
炉・埋甕



炉(a-a'・b-b')

1. 褐色土 くすんだロームブロック含む。
2. にぶい褐色土 くすんだロームブロック主体。褐色土ブロック含む。
- 3a. 褐色土 くすんだロームブロックと焼土小ブロック含む。
- 3b. 褐色土 3a層より焼土少ない。
4. にぶい褐色土 くすんだロームにSr粒混じり。

炉 掘方

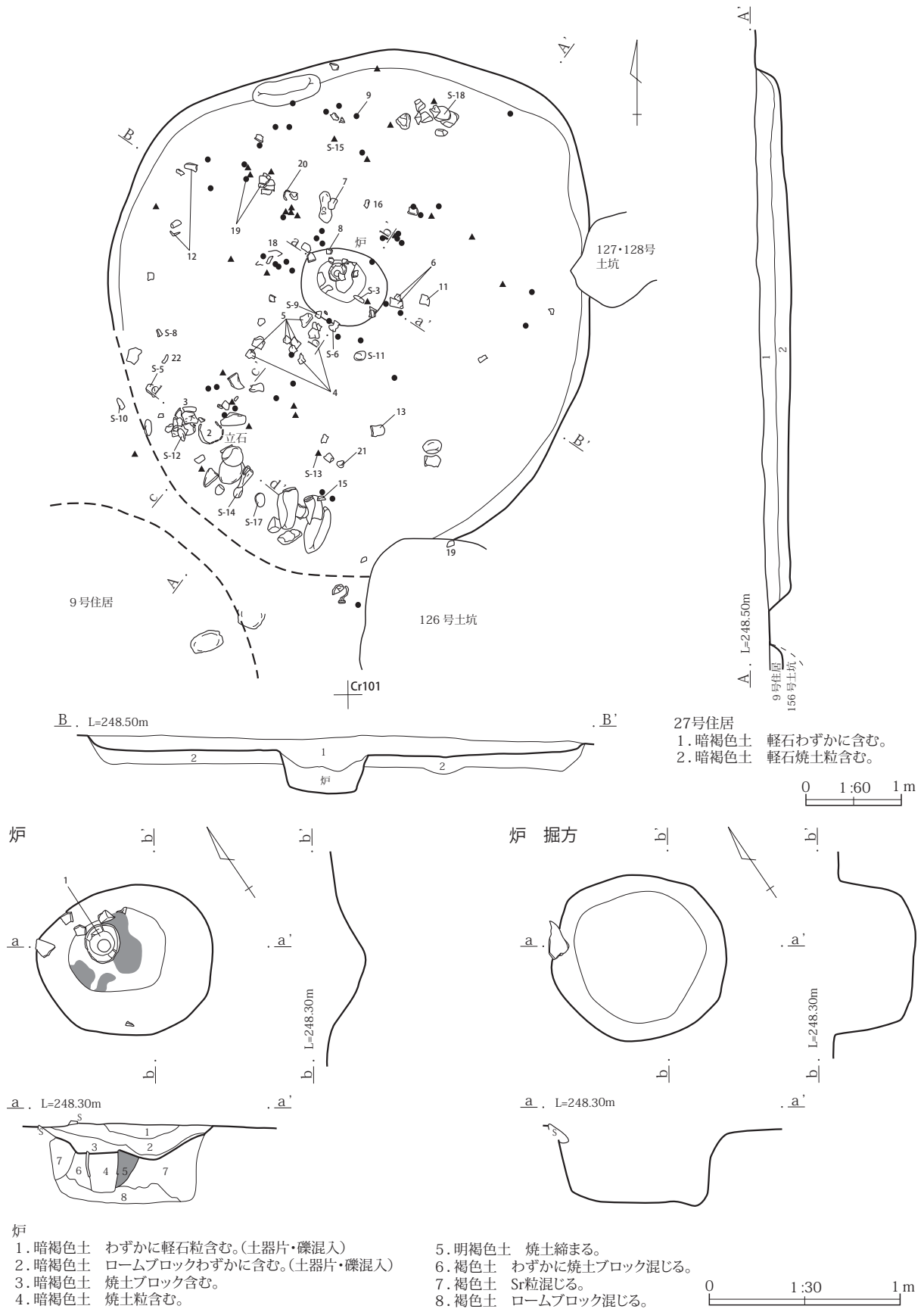


埋甕(c-c')

- 1a. 暗褐色土 しまり弱い。
- 1b. 暗褐色土 1aよりしまりあり。
- 2a. くすんだ褐色土 ロームに褐色土混入。焼土粒含む。
- 2b. くすんだ褐色土 2a層に焼土多量に混入。
- 2c. くすんだ褐色土 ロームブロックと褐色土の混入。
- 3a. 暗褐色土 ローム小ブロックわずかに含む。
- 3b. 暗褐色土 3a層よりはローム多く混入。
- 3c. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。

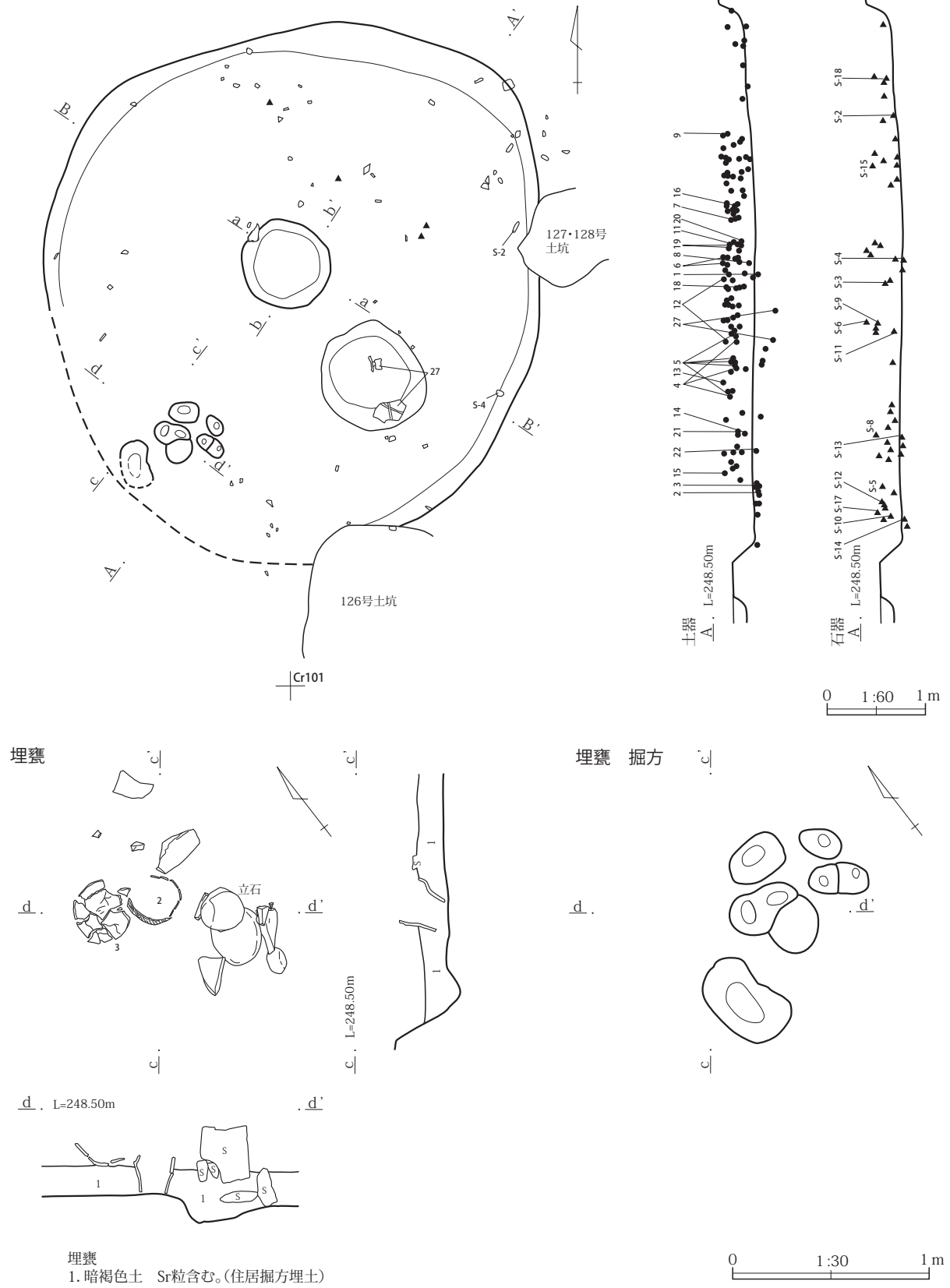
0 1:30 1m

第257図 12区26号住居(2)



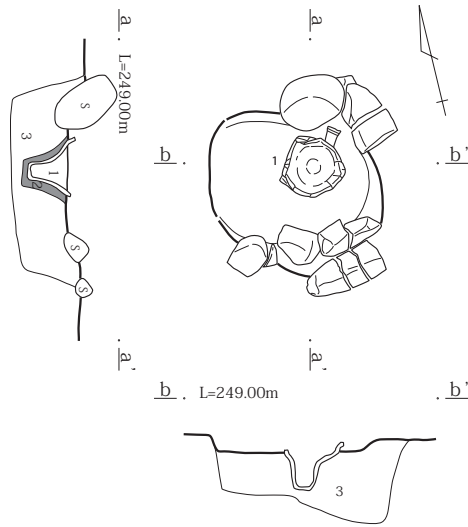
第258図 12区27号住居(1)

遺物出土状況

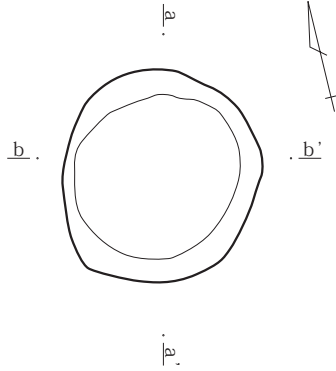


第259図 12区27号住居 (2)

28号住居 炉



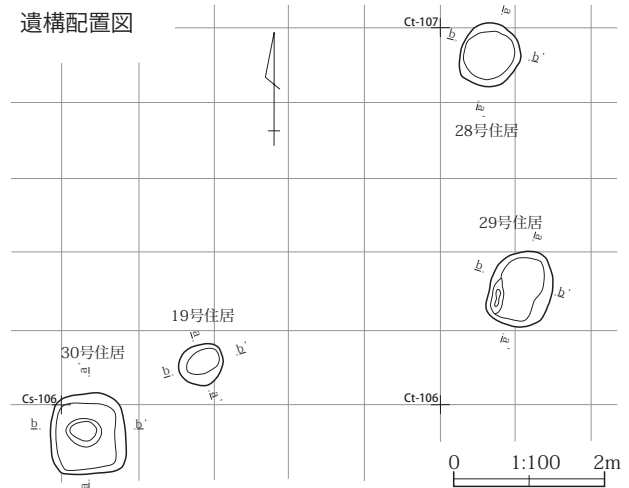
炉 掘方



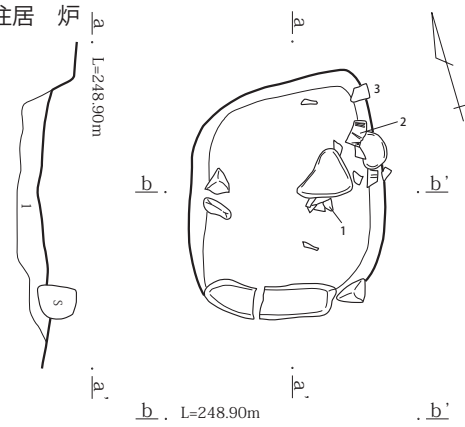
- 炉
 1. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む。
 2. 暗赤褐色土 焼土層。
 3. 黒褐色土 焼土粒わずかに含む。

第260図 12区28号住居

遺構配置図



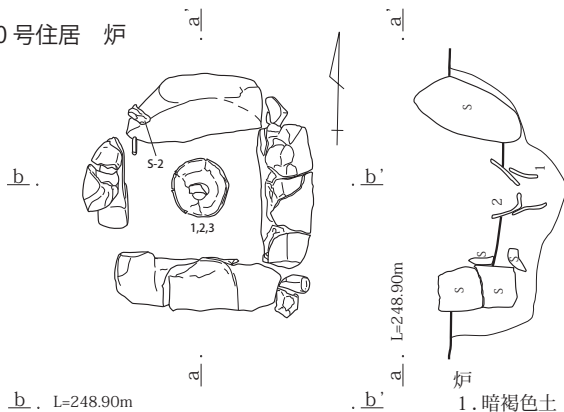
29号住居 炉



- 炉
 1. 暗褐色土 ロームブロック含み焼土ブロックわずかに含む。

第261図 12区29号住居

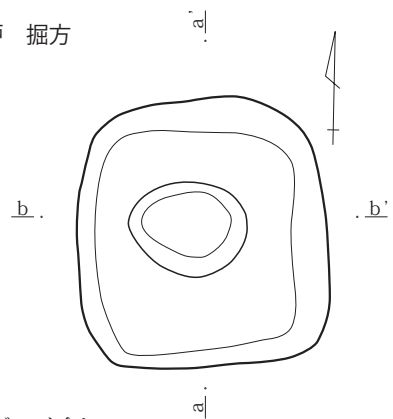
30号住居 炉



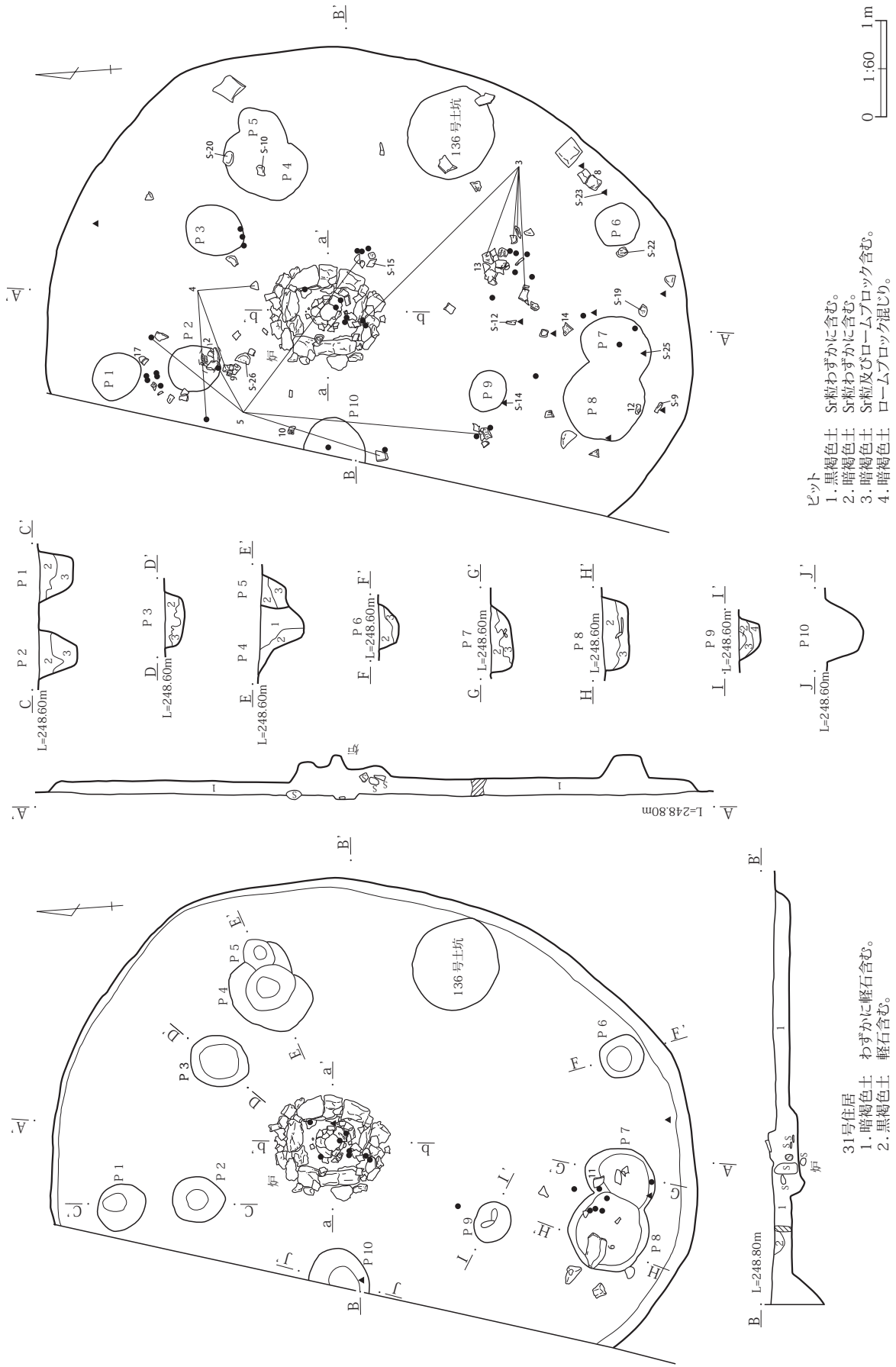
- 炉
 1. 暗褐色土 わずかに軽石含む。
 2. 暗褐色土 わずかに黒褐色土ブロック含む。
 3. 暗褐色土 焼土粒・ブロック含む。
 4. 褐色土 Sr粒ブロック主体。
 5. 暗褐色土 Sr粒わずかに含む。
 6. 褐色土 焼土ブロック含む。
 7. 暗褐色土 焼土ブロック含む。
 8. 暗褐色土 焼土ブロックわずかに含む。Sr粒含む。

第262図 12区30号住居

炉 掘方

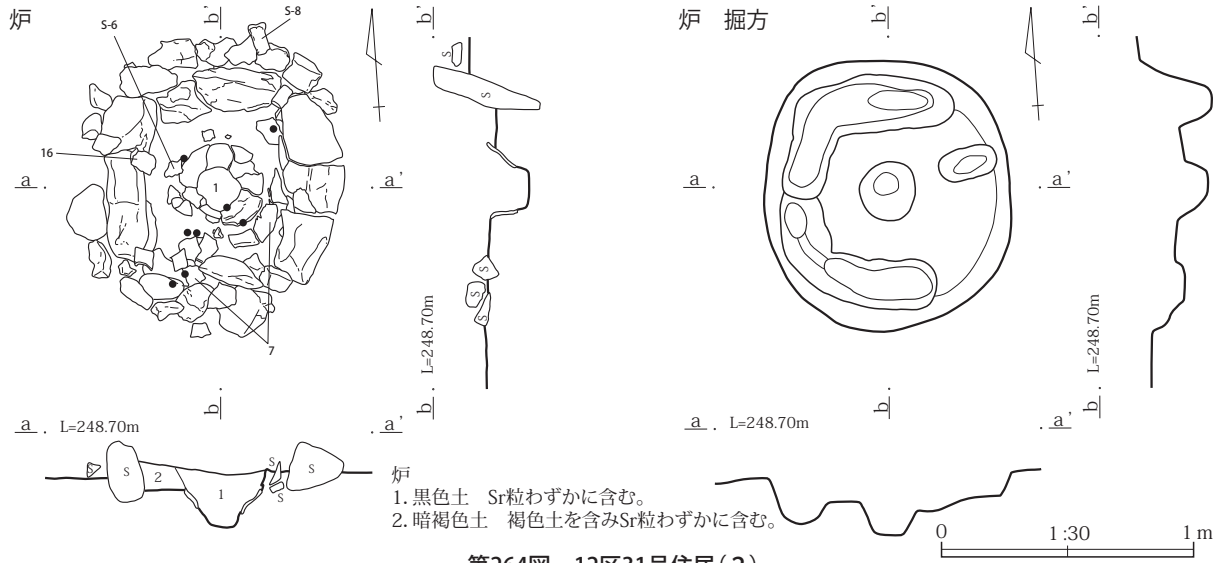


0 1:30 1m

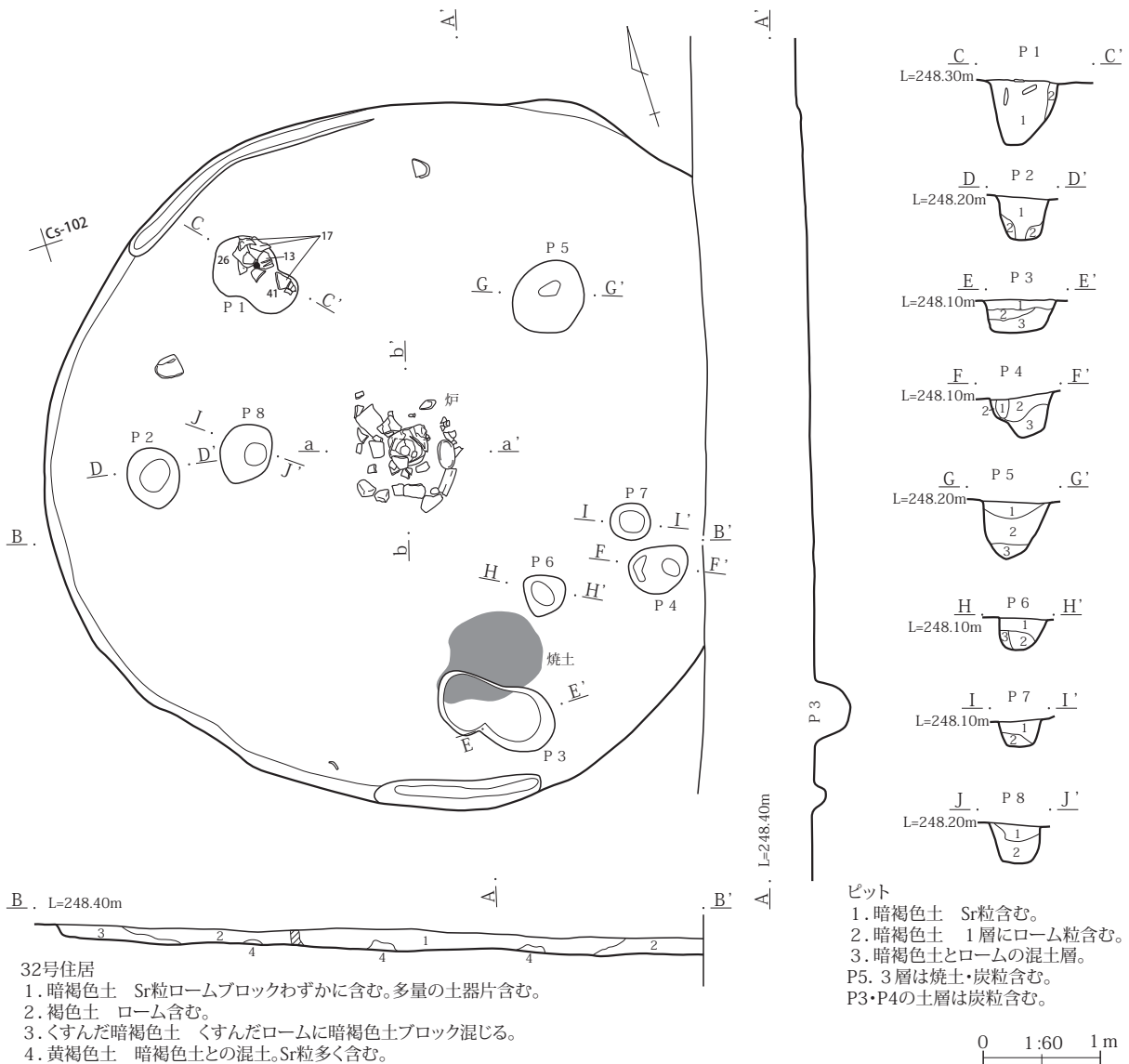


ピット
 Sr粒わずかに含む。
 Sr粒わずかに含む。
 Sr粒及びロームブロック含む。
 ロームブロック混じり。

第263図 12区31号住居(1)

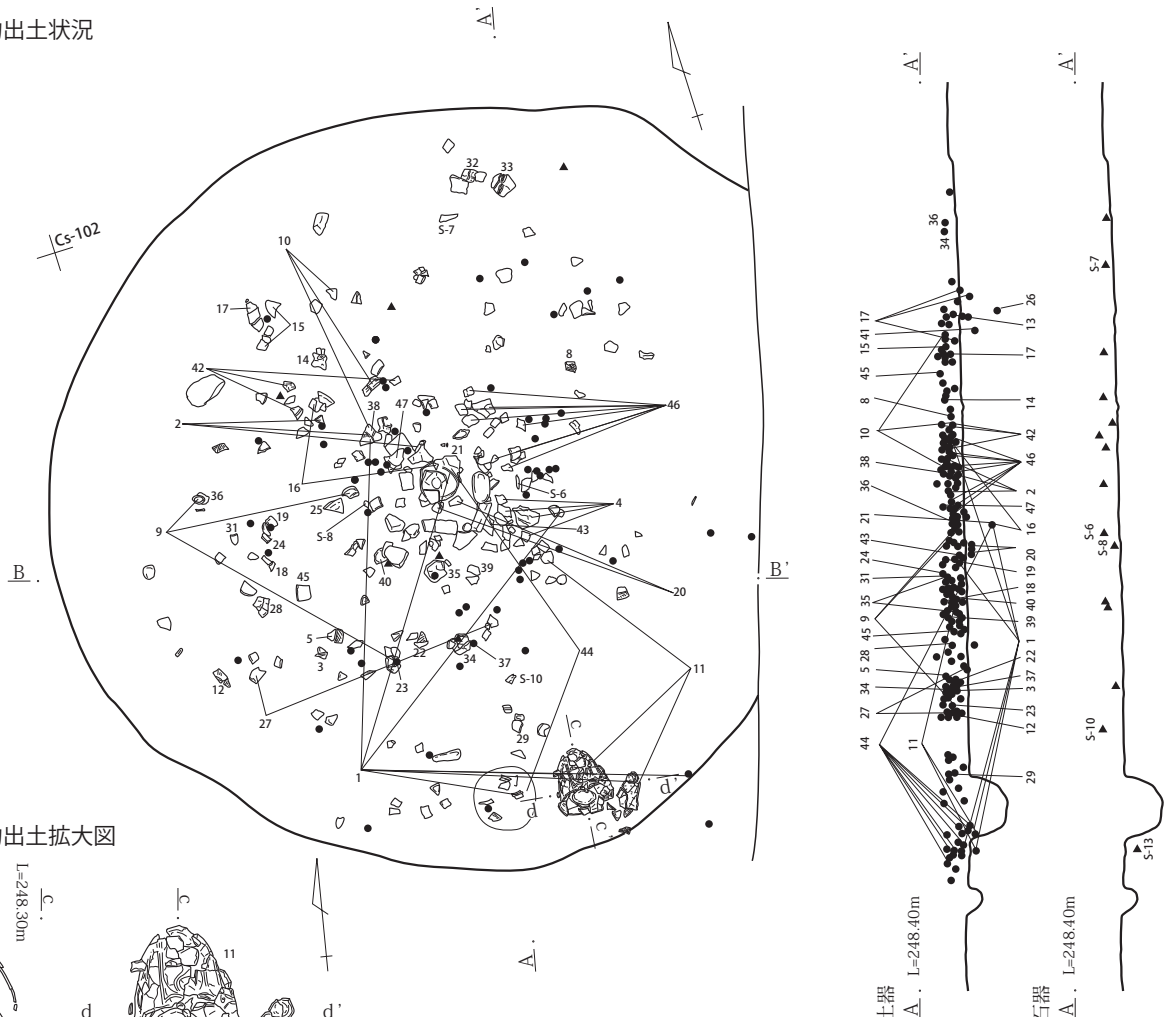


第264図 12区31号住居(2)

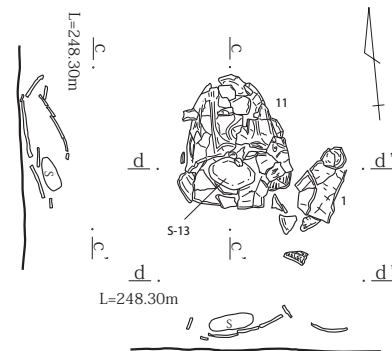


第265図 12区32号住居(1)

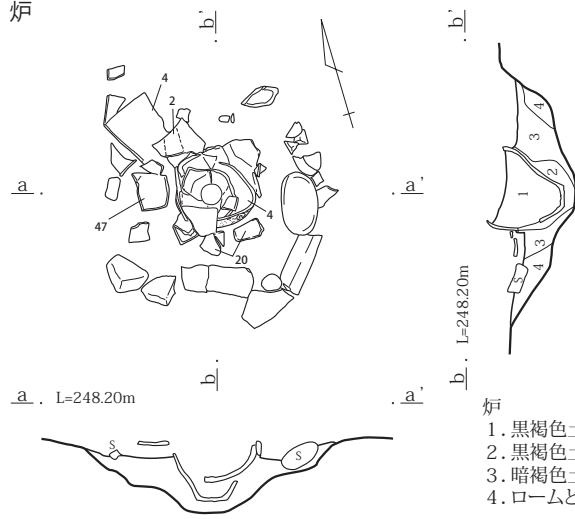
遺物出土状況



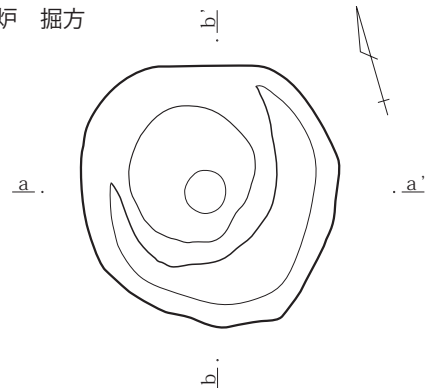
遺物出土拡大図



炉



炉 掘方

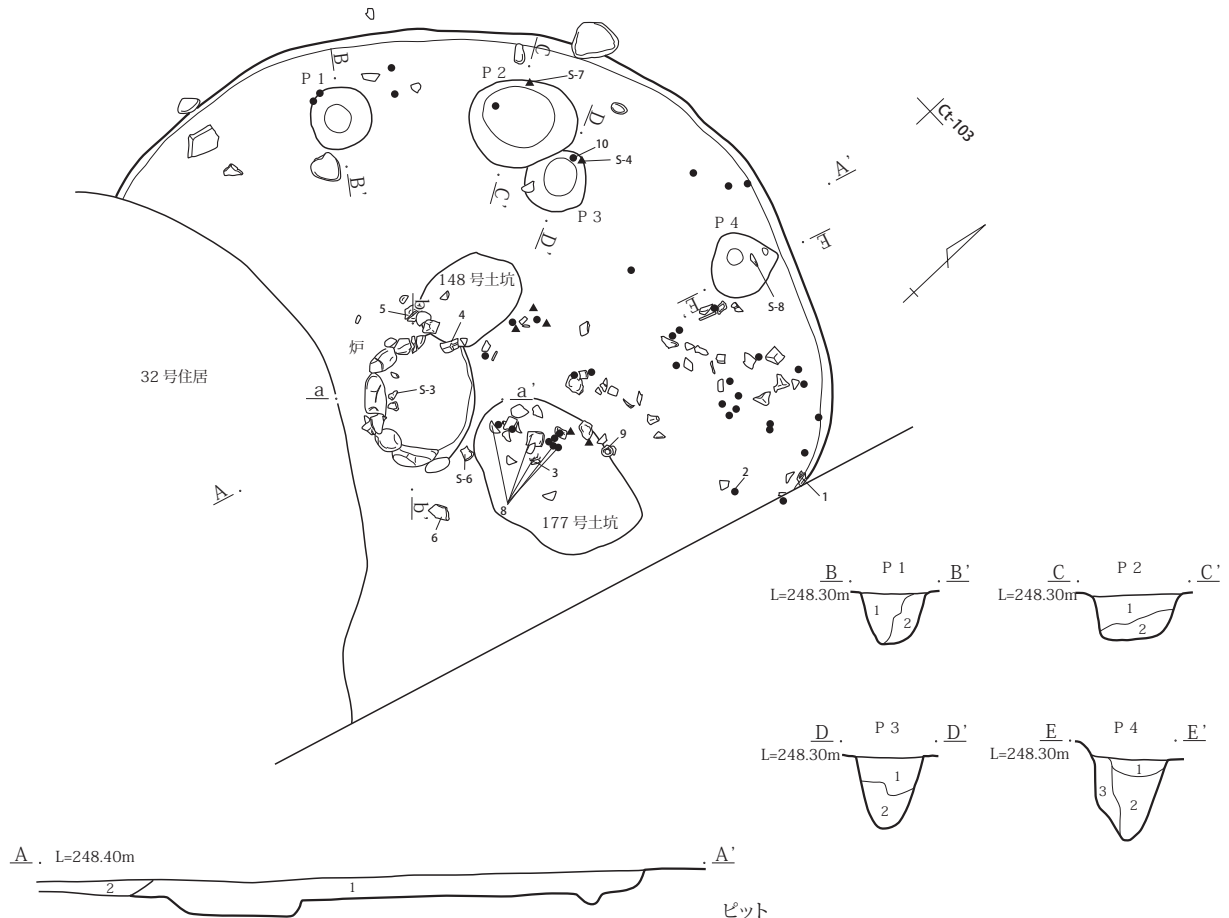


炉

1. 黒褐色土 焼土粒わずかに含む。
2. 黒褐色土 焼土粒わずかに含む。1層より多く含む。
3. 暗褐色土 焼土粒混じり。ローム粒含む。
4. ロームと暗褐色土との混土。

第266図 12区32号住居(2)

0 1:30 1m

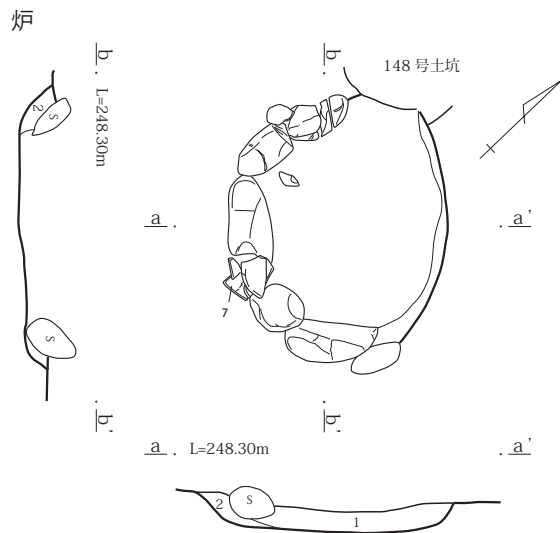
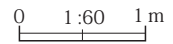


33号住居

- 1. 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。土器片多量に含む。
- 2. 暗褐色土 (32号住居履土) 1層より色調明るい。

ピット

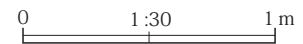
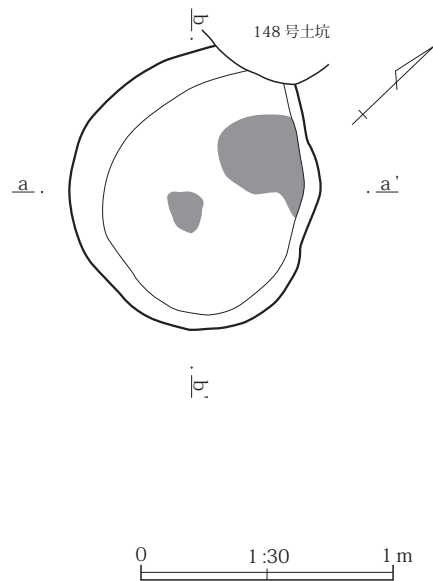
- 1. にぶい黄褐色土 ロームに黒色土ブロック含む。
- 2. 黄褐色土 くすんだロームブロック主体。暗褐色土含む。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック含む。



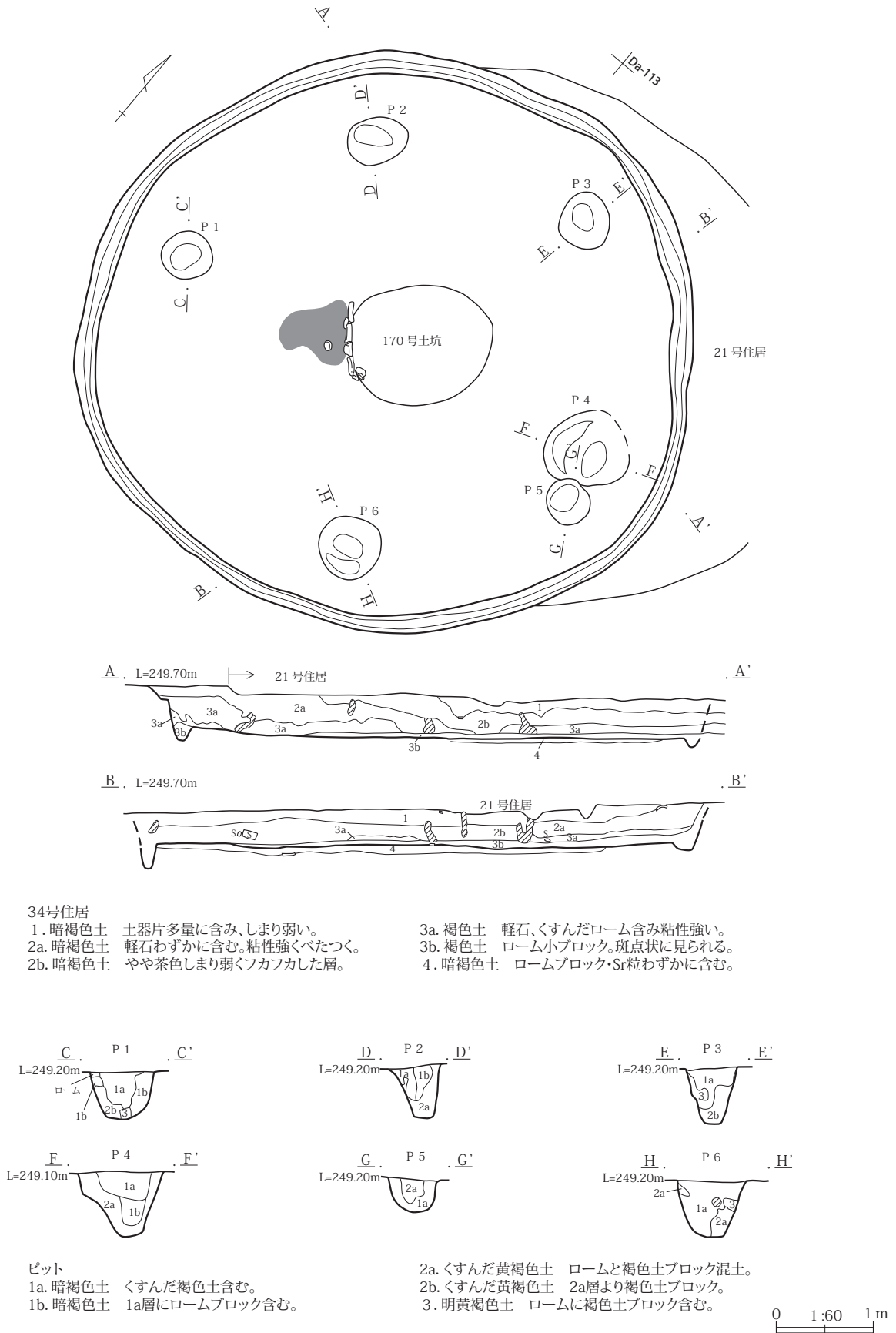
炉

- 1. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 わずかにSr粒含む。

炉 掘方

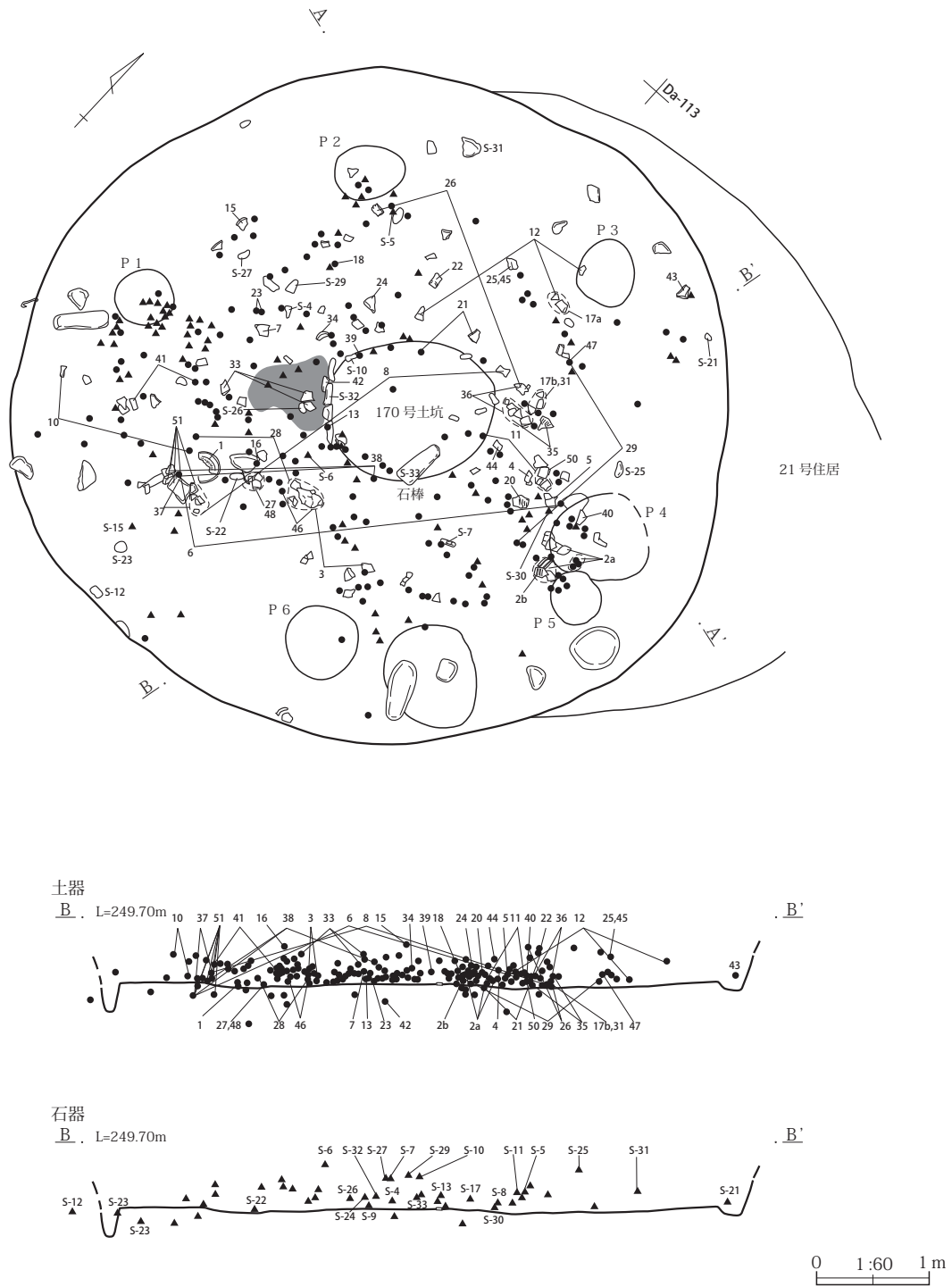


第267図 12区33号住居



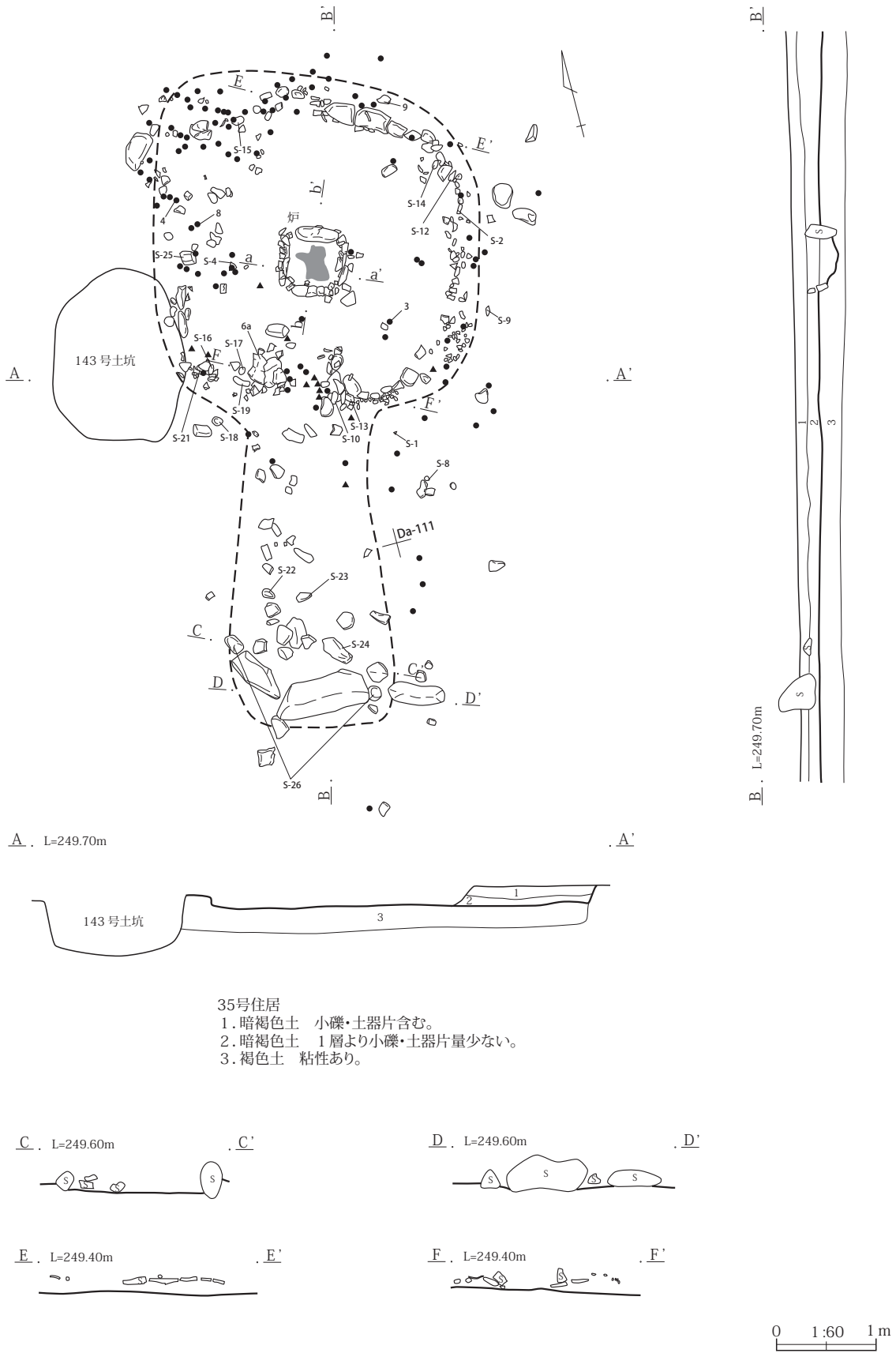
第268図 12区34号住居 (1)

遺物出土状況



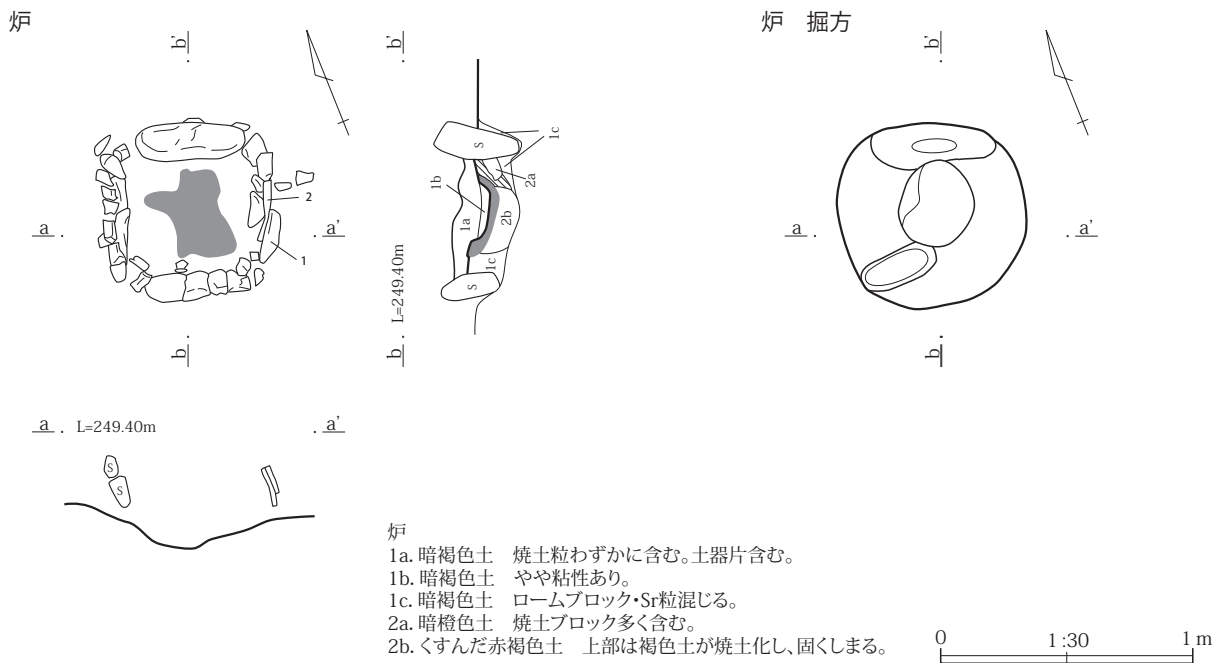
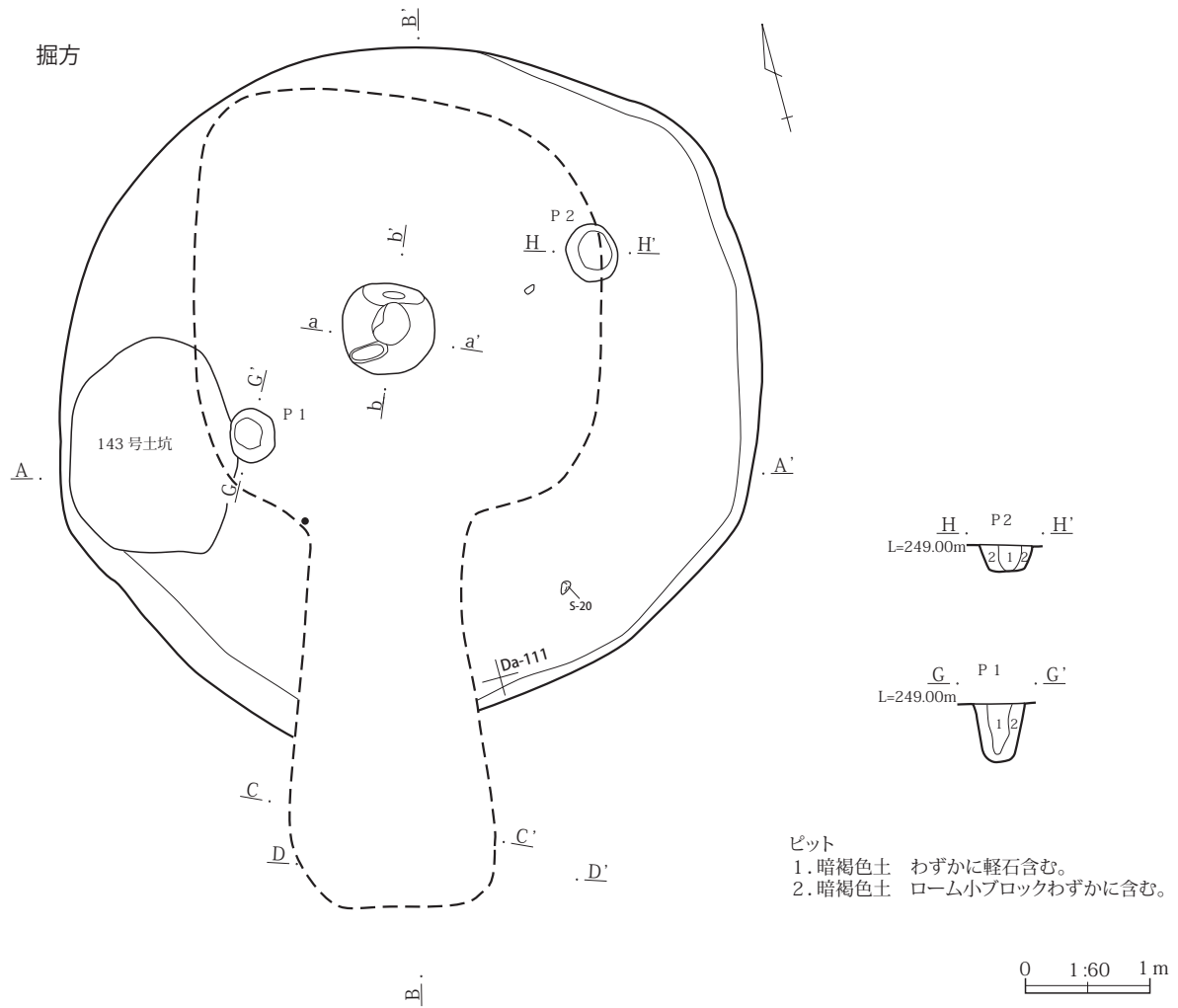
第269図 12区34号住居(2)

第5章 第4面の検出遺構



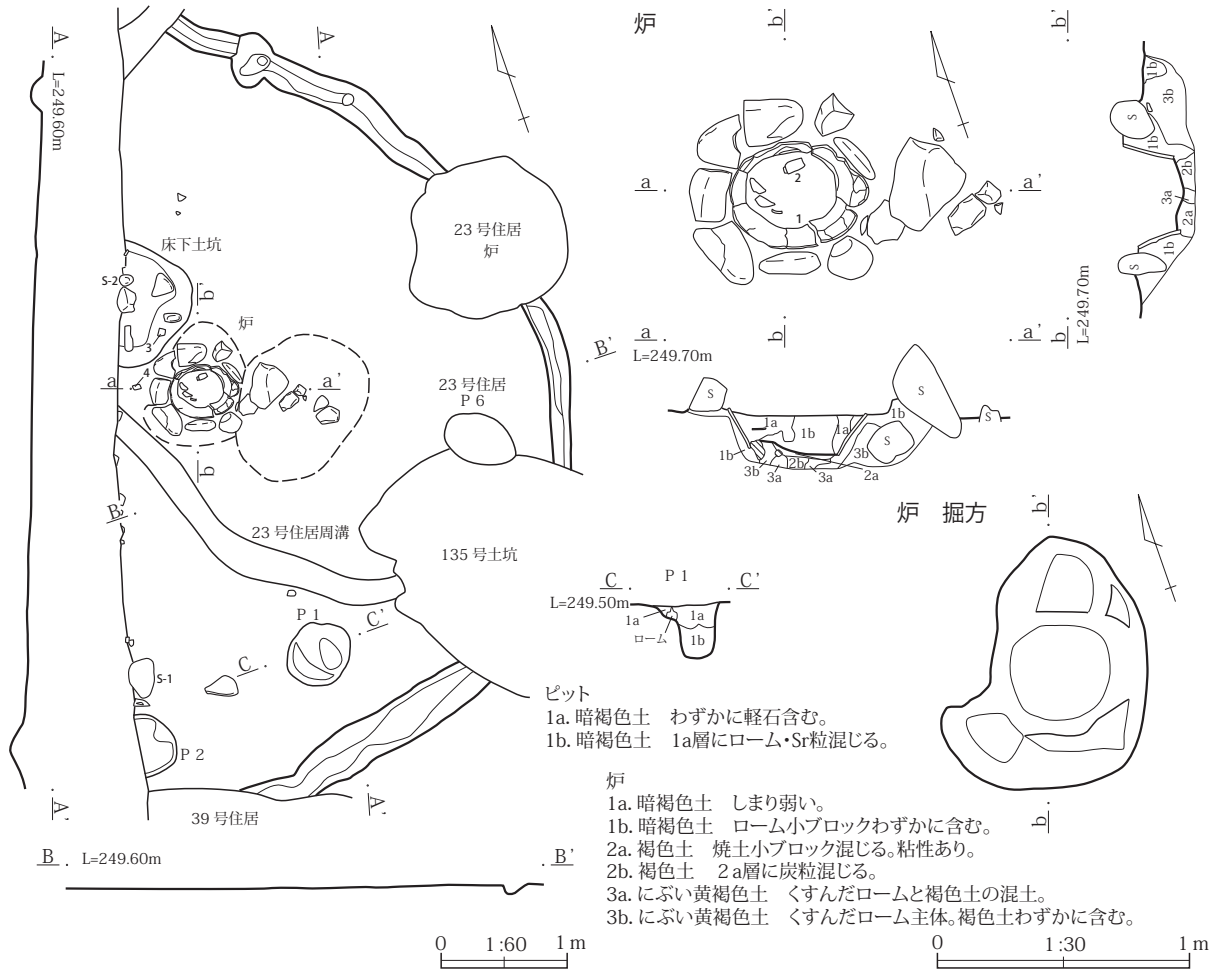
35号住居
 1. 暗褐色土 小礫・土器片含む。
 2. 暗褐色土 1層より小礫・土器片量少ない。
 3. 褐色土 粘性あり。

第270図 12区35号住居 (1)

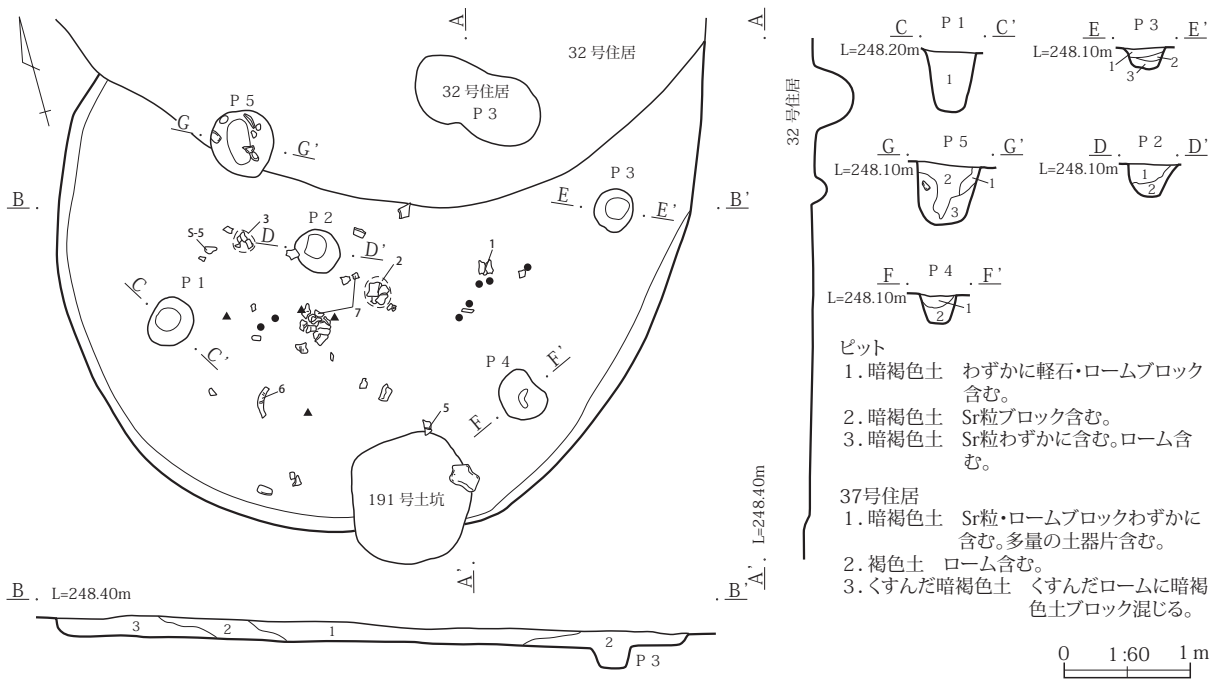


第271図 12区35号住居 (2)

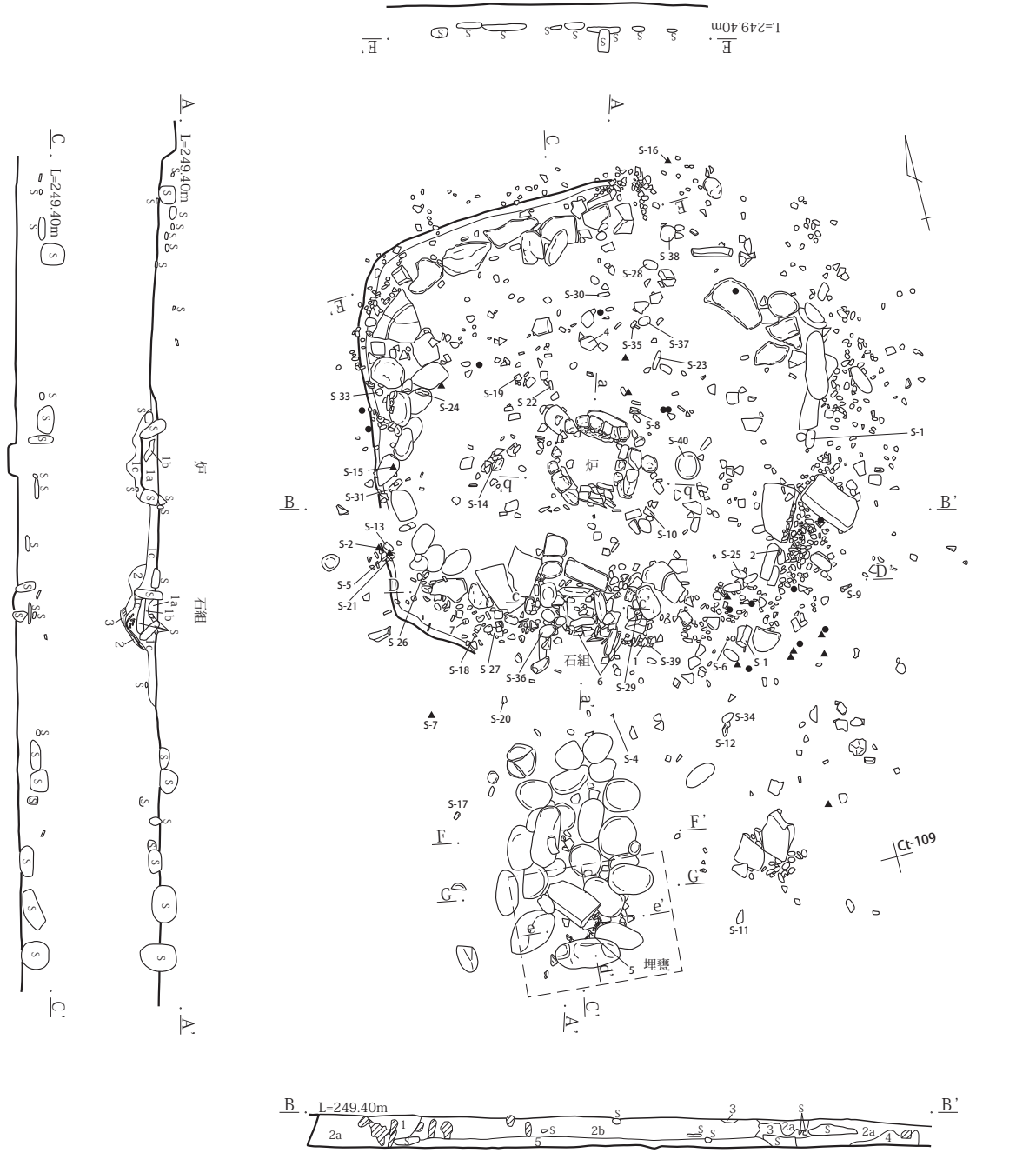
第5章 第4面の検出遺構



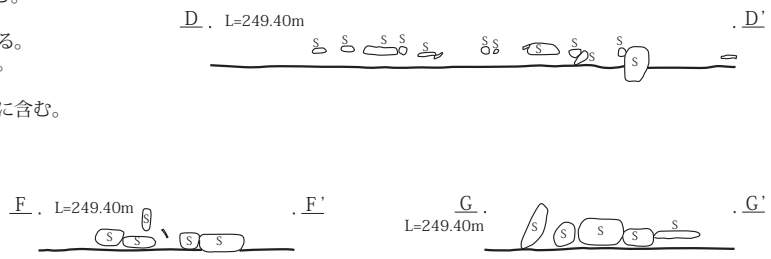
第272図 12区36号住居



第273図 12区37号住居

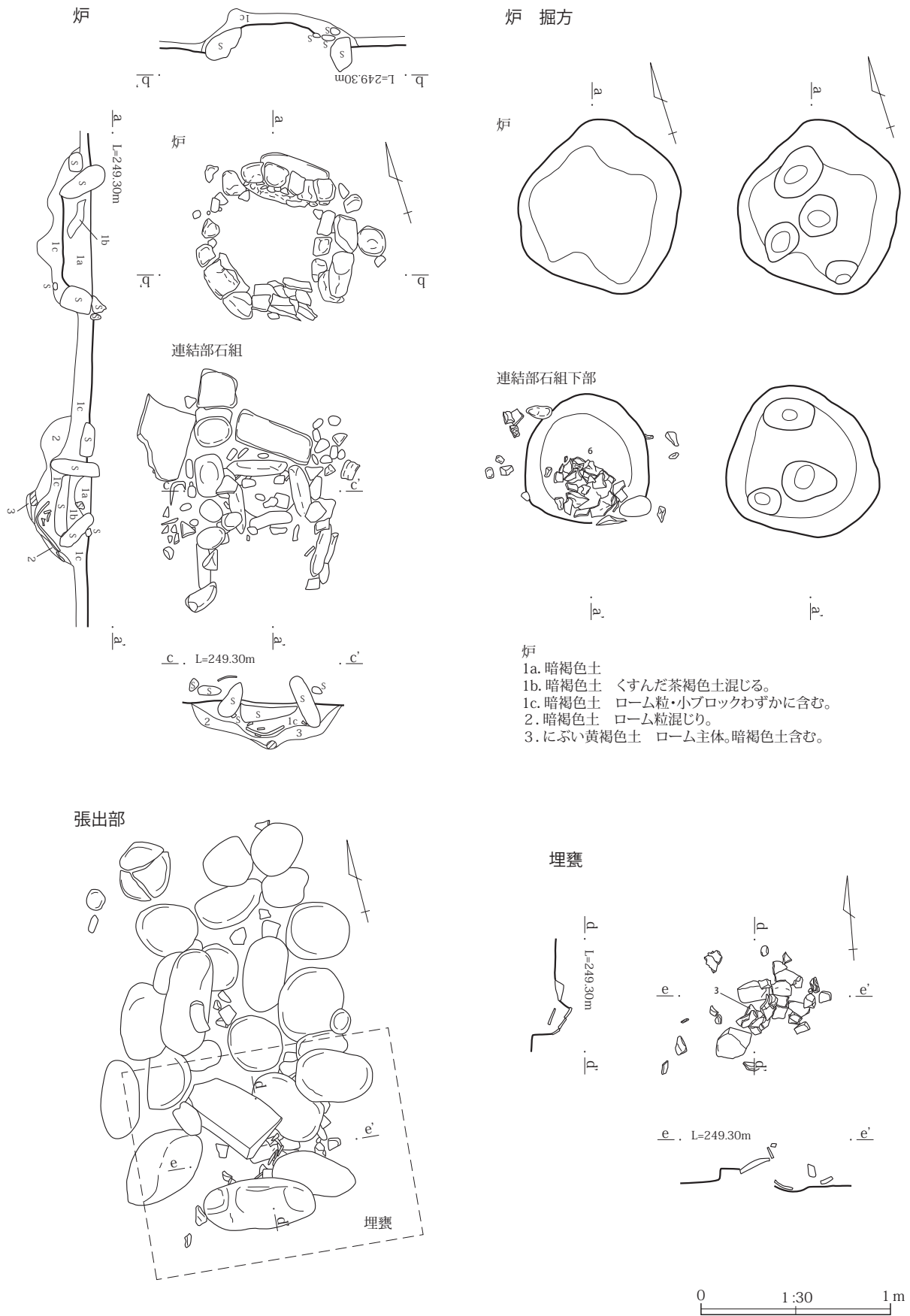


- 38号住居(B-B')
1. 暗褐色土 軽石粒含み。IV層ブロック含む。
 - 2a. 褐色土 軽石わずかに含みしり弱い。
 - 2b. 褐色土 ロームブロック。土器・礫等混じる。
 3. 淡褐色土 2a層に似る。フカフカした層。
 4. 茶褐色土 ローム漸移層。
 5. にぶい黄褐色土 ローム粒・炭粒わずかに含む。

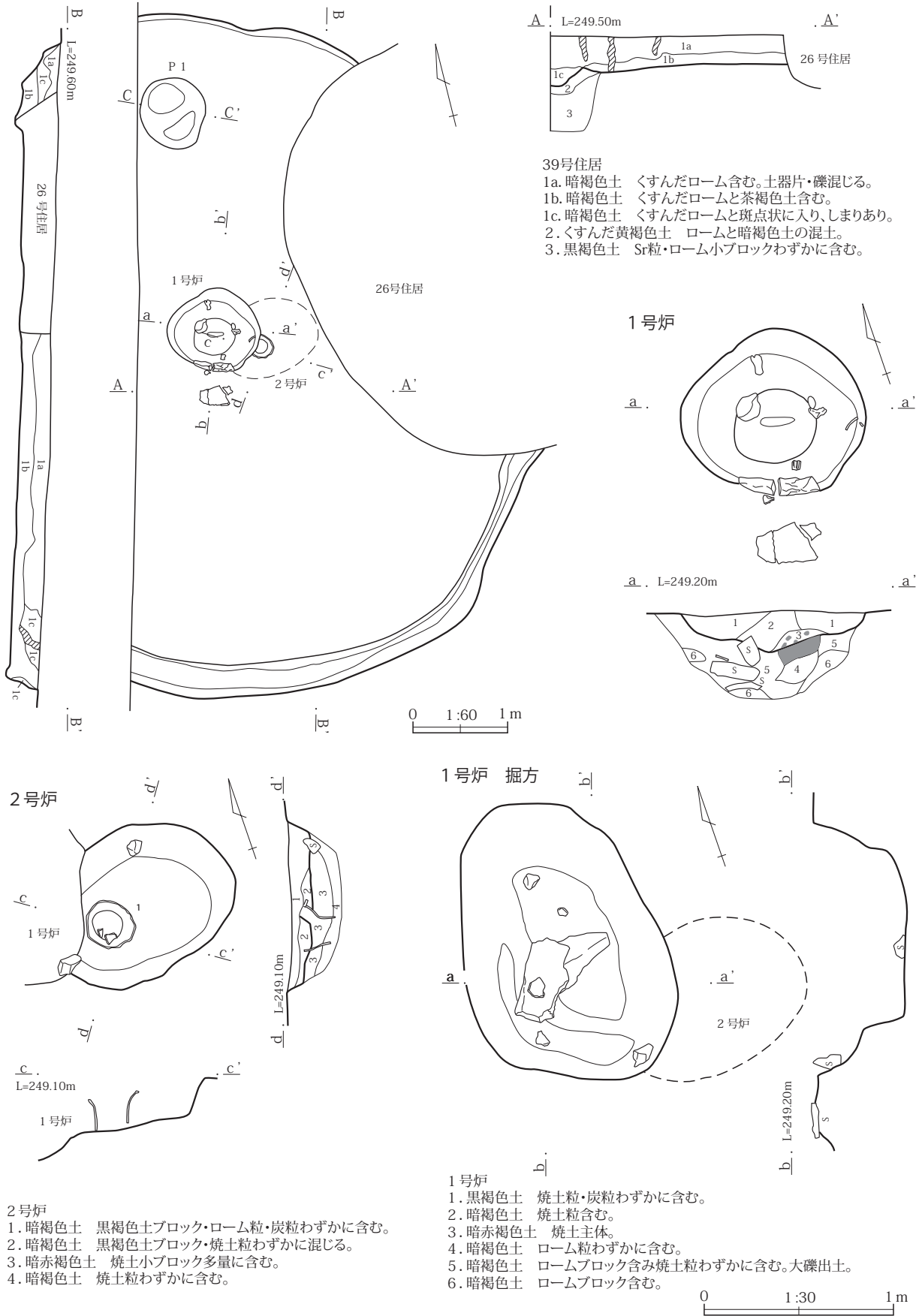


第274図 12区38号住居 (1)

第5章 第4面の検出遺構

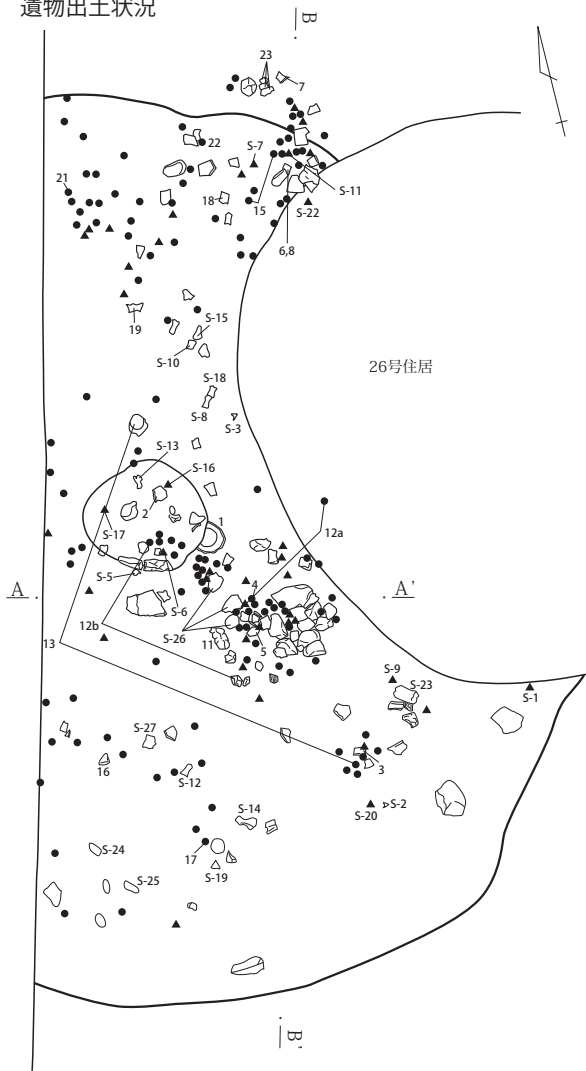


第275図 12区38号住居 (2)

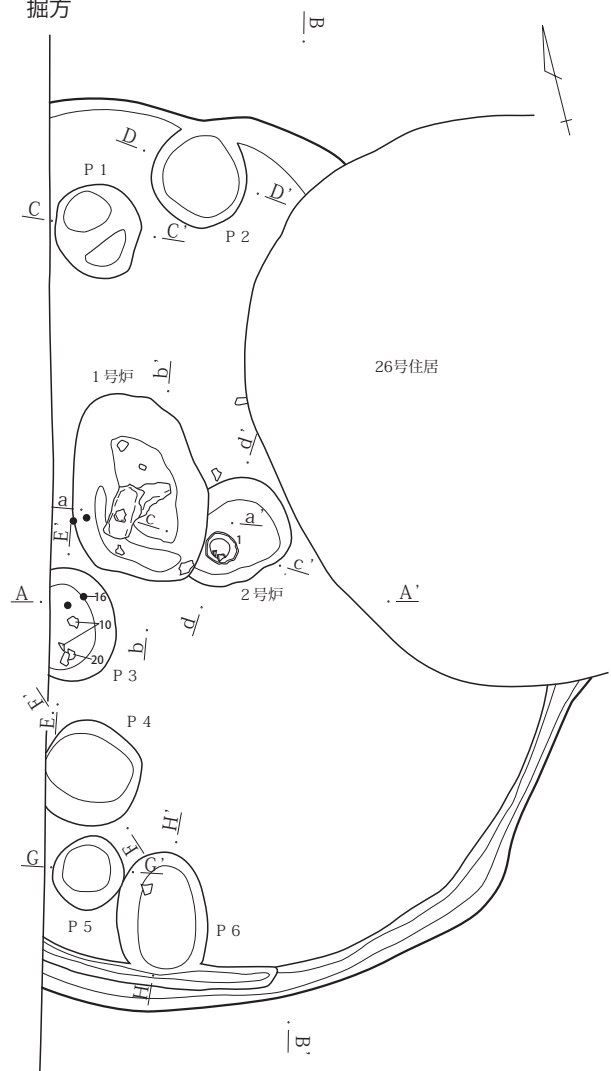


第276図 12区39号住居 (1)

遺物出土状況

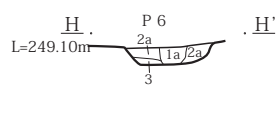
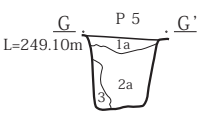
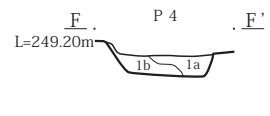
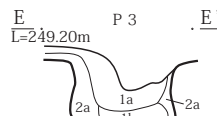
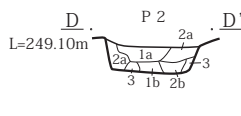
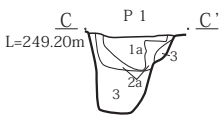
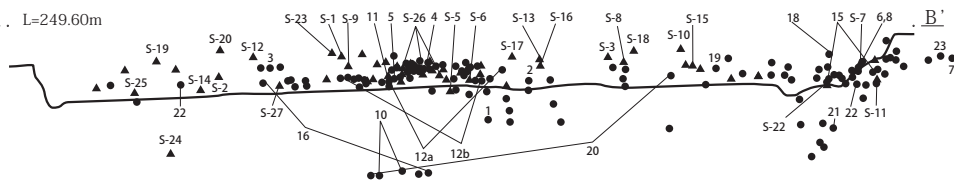


掘方



土器・石器

B, L=249.60m

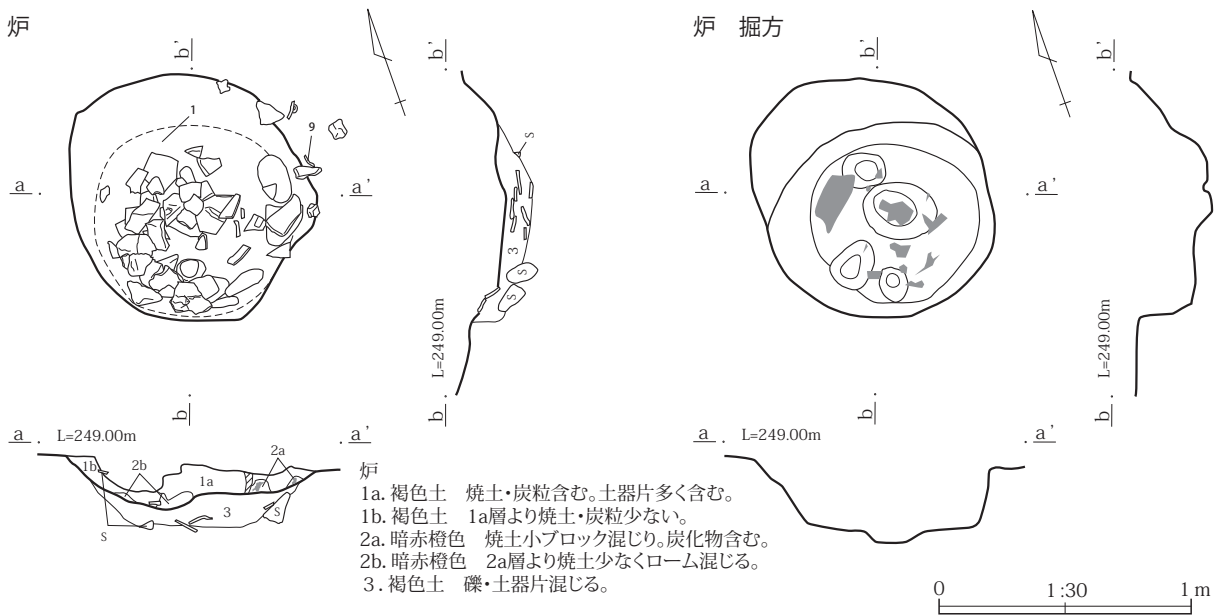
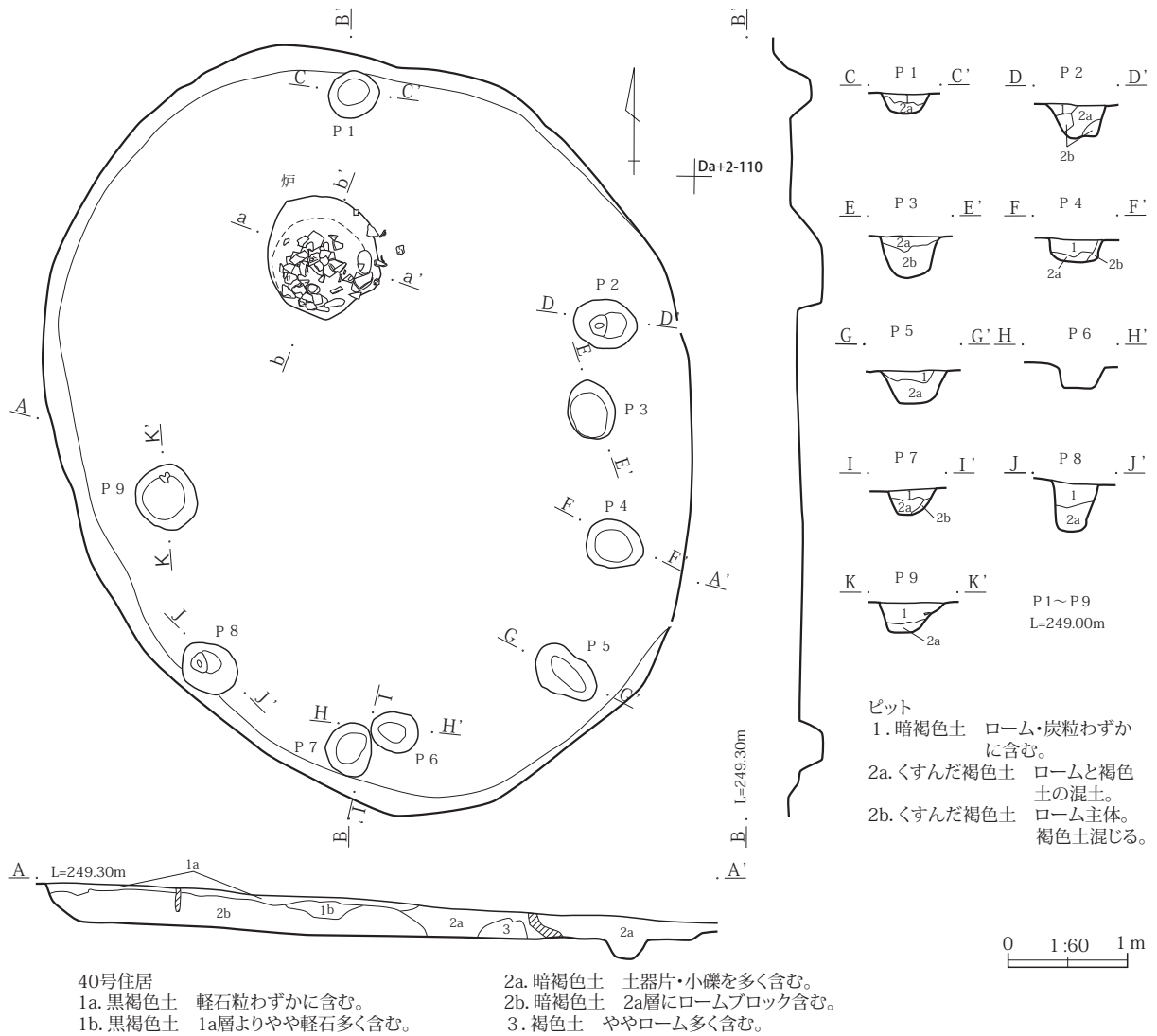


ピット

- 1a. 暗褐色土 焼土粒・炭粒わずかに含む。
- 1b. 暗褐色土 1 a層にわずかにローム粒含む。
- 2a. くすんだ黄褐色土 ローム小ブロックと褐色土の混土。
- 2b. くすんだ黄褐色土 2 a層より褐色土多く含む。
- 3. 黄褐色土 ロームに褐色土混じり。

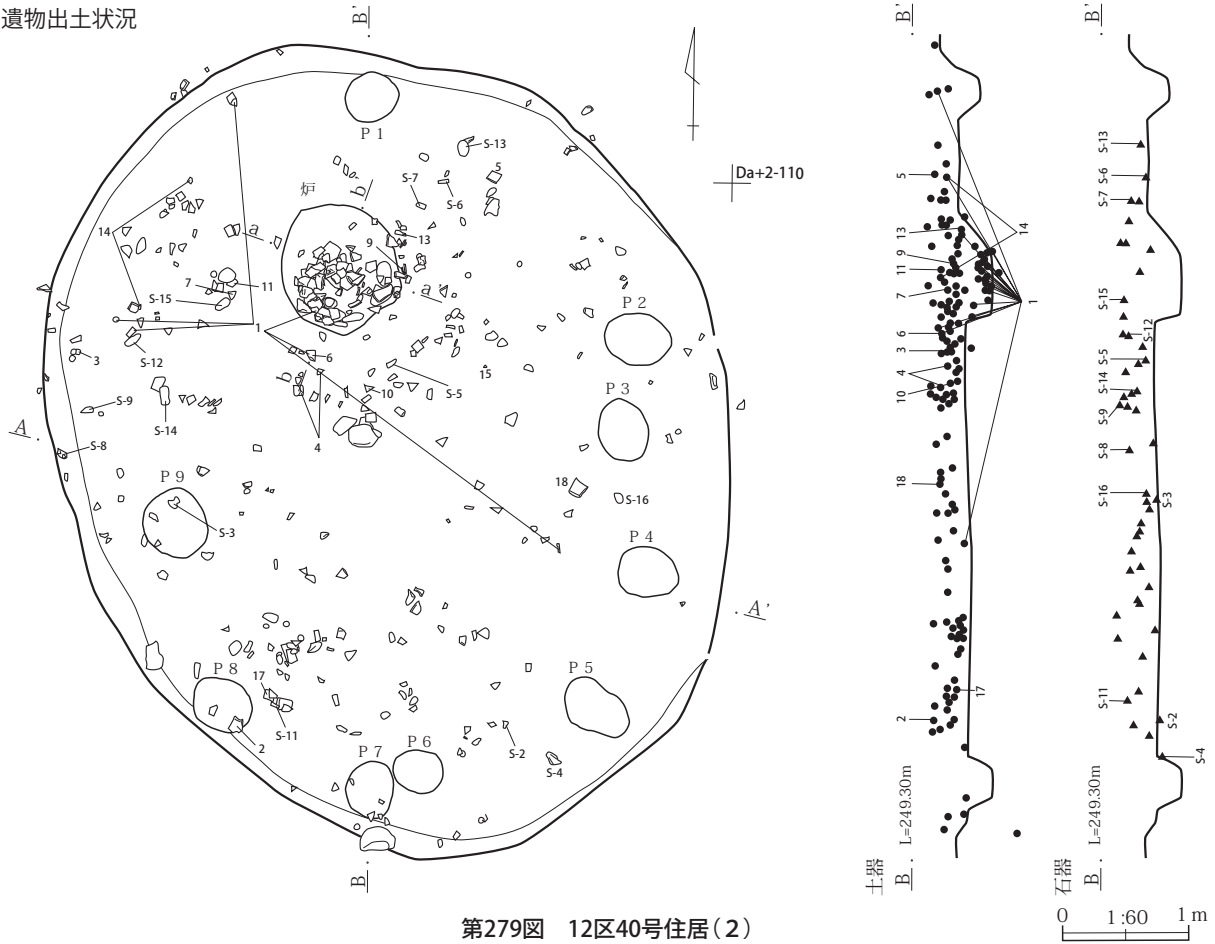
0 1:60 1m

第277図 12区39号住居(2)

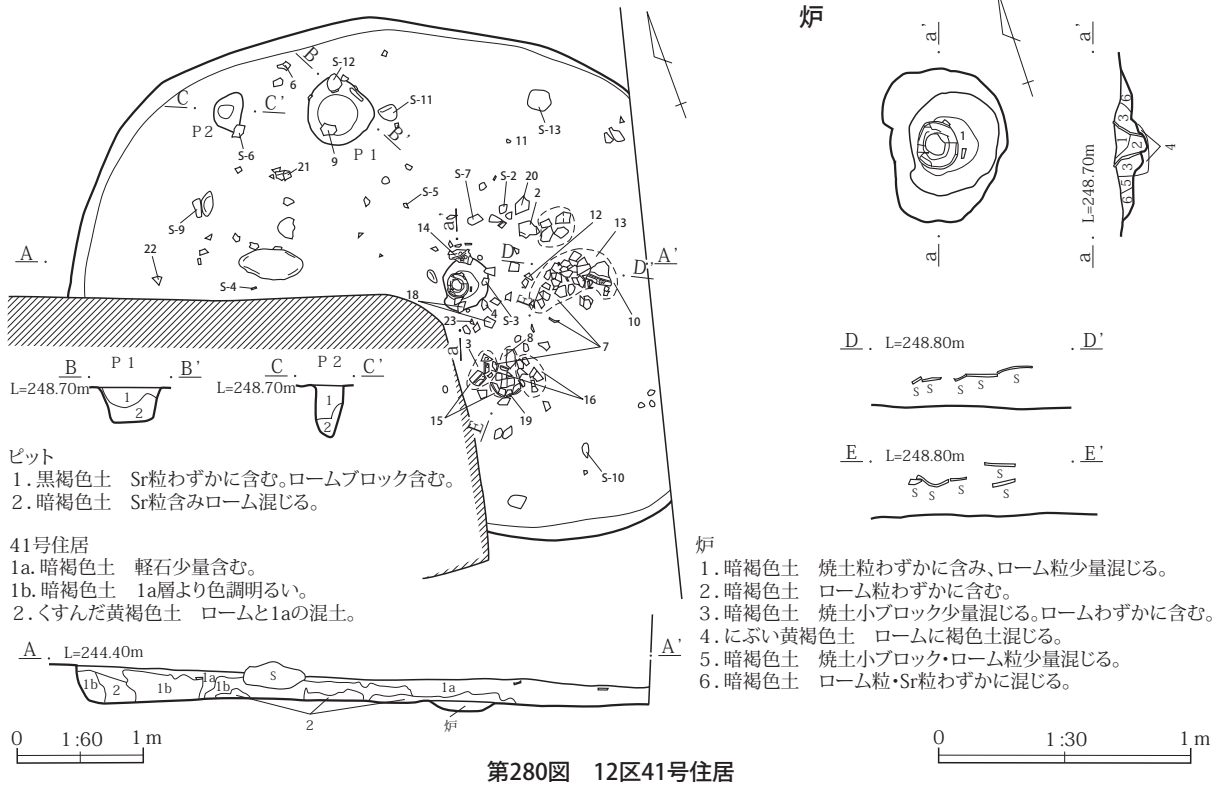


第278図 12区40号住居(1)

遺物出土状況



第279図 12区40号住居(2)



ピット

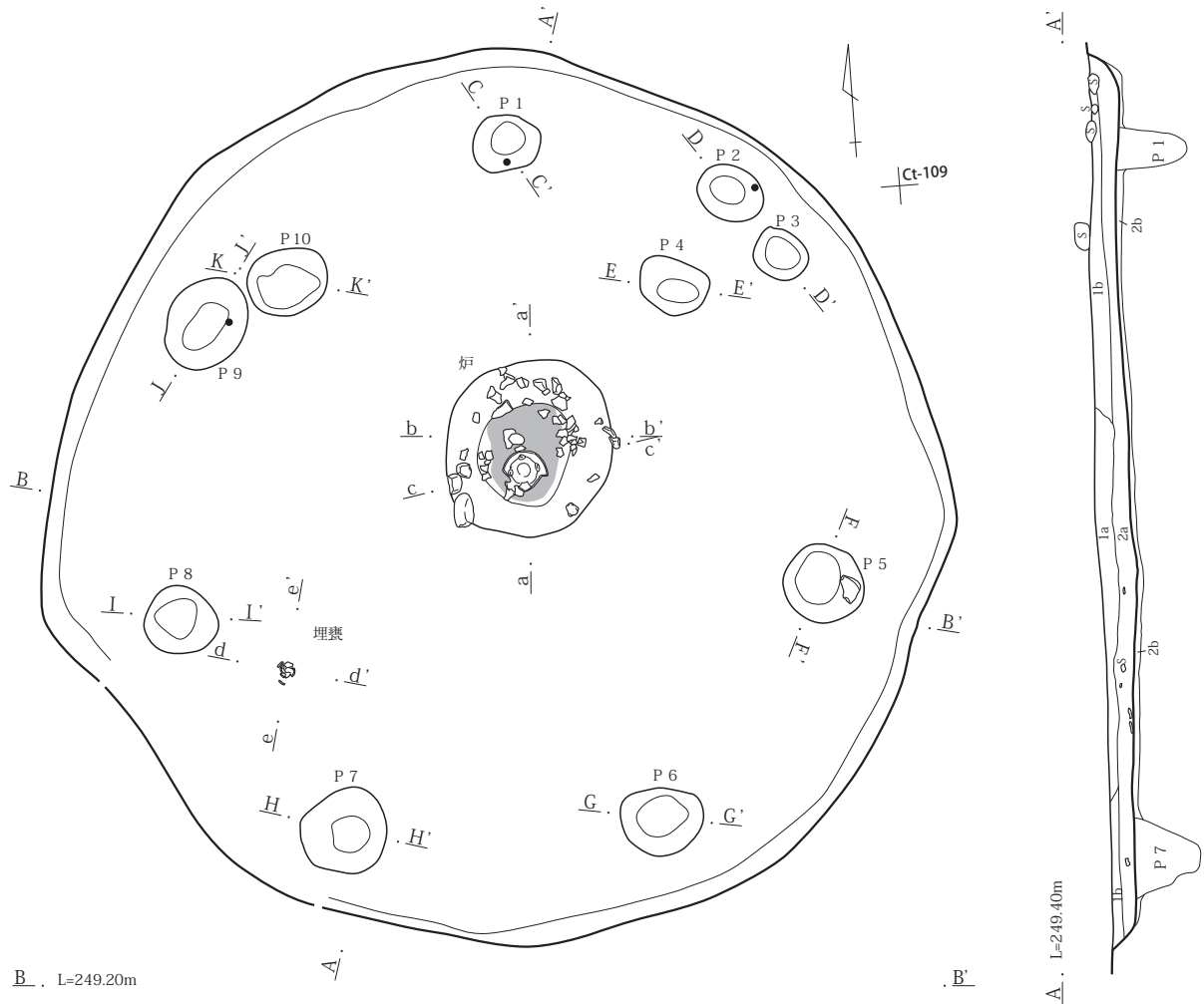
- 1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。ロームブロック含む。
- 2. 暗褐色土 Sr粒含みローム混じる。

41号住居

- 1a. 暗褐色土 軽石少量含む。
- 1b. 暗褐色土 1a層より色調明るい。
- 2. くすんだ黄褐色土 ロームと1aの混土。

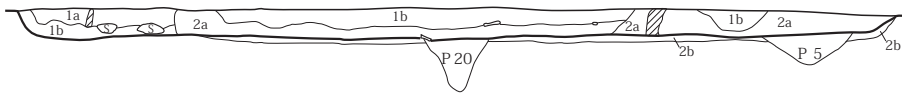
炉

- 1. 暗褐色土 焼土粒わずかに含み、ローム粒少量混じる。
- 2. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3. 暗褐色土 焼土小ブロック少量混じる。ロームわずかに含む。
- 4. にぶい黄褐色土 ロームに褐色土混じる。
- 5. 暗褐色土 焼土小ブロック・ローム粒少量混じる。
- 6. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒わずかに混じる。



B . L=249.20m

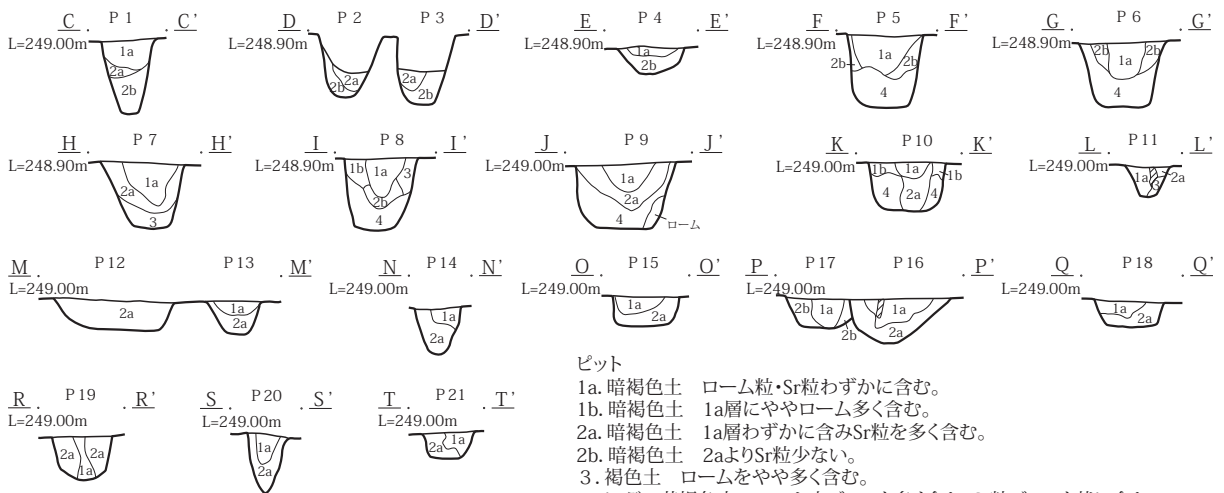
A . L=249.40m



42号住居

1a. 褐色土 土器片多量に含む。軽石わずかに含む。
1b. 褐色土 1a層よりややしまりあり。

2a. 茶褐色土 しまり弱くフカフカした層。
2b. 茶褐色土 くすんだロームに暗褐色土混じる。

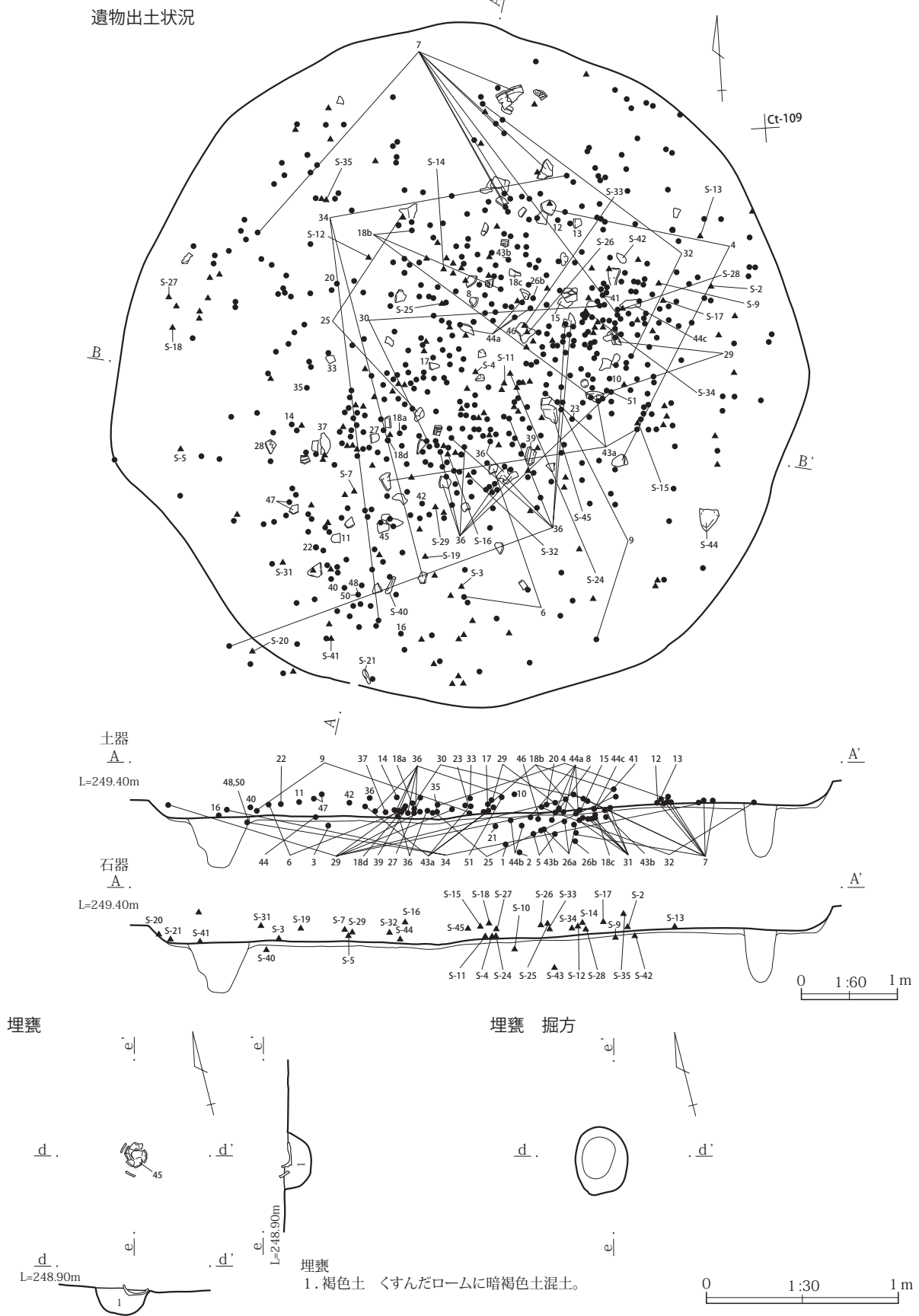


ピット

1a. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒わずかに含む。
1b. 暗褐色土 1a層にややローム多く含む。
2a. 暗褐色土 1a層わずかに含みSr粒を多く含む。
2b. 暗褐色土 2aよりSr粒少ない。
3. 褐色土 ロームをやや多く含む。
4. にぶい黄褐色土 ローム小ブロック多く含む。Sr粒ブロック状に含む。

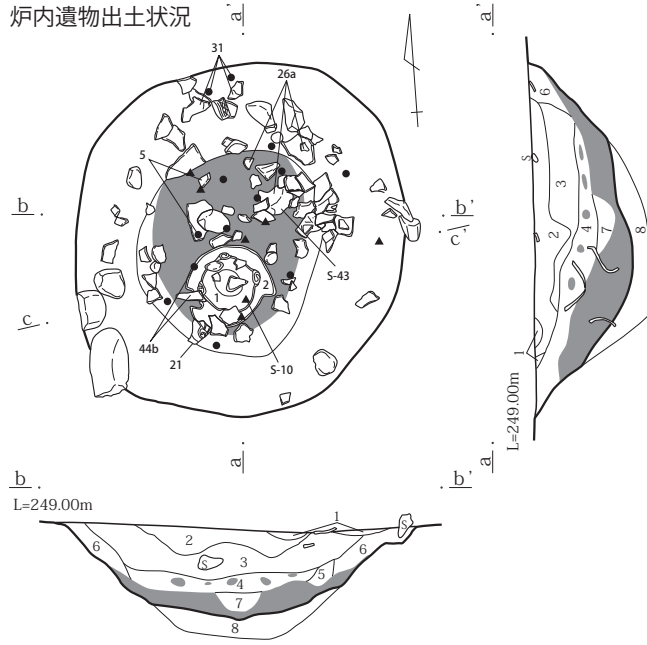
第281図 12区42号住居(1)

0 1:60 1m

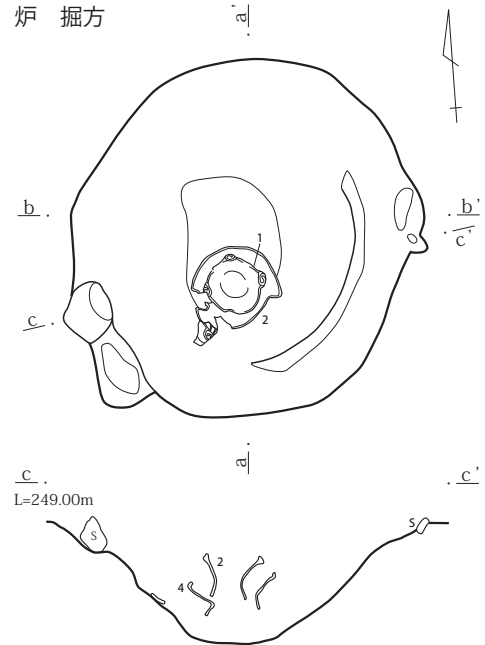


第282図 12区42号住居(2)

炉内遺物出土状況



炉掘方

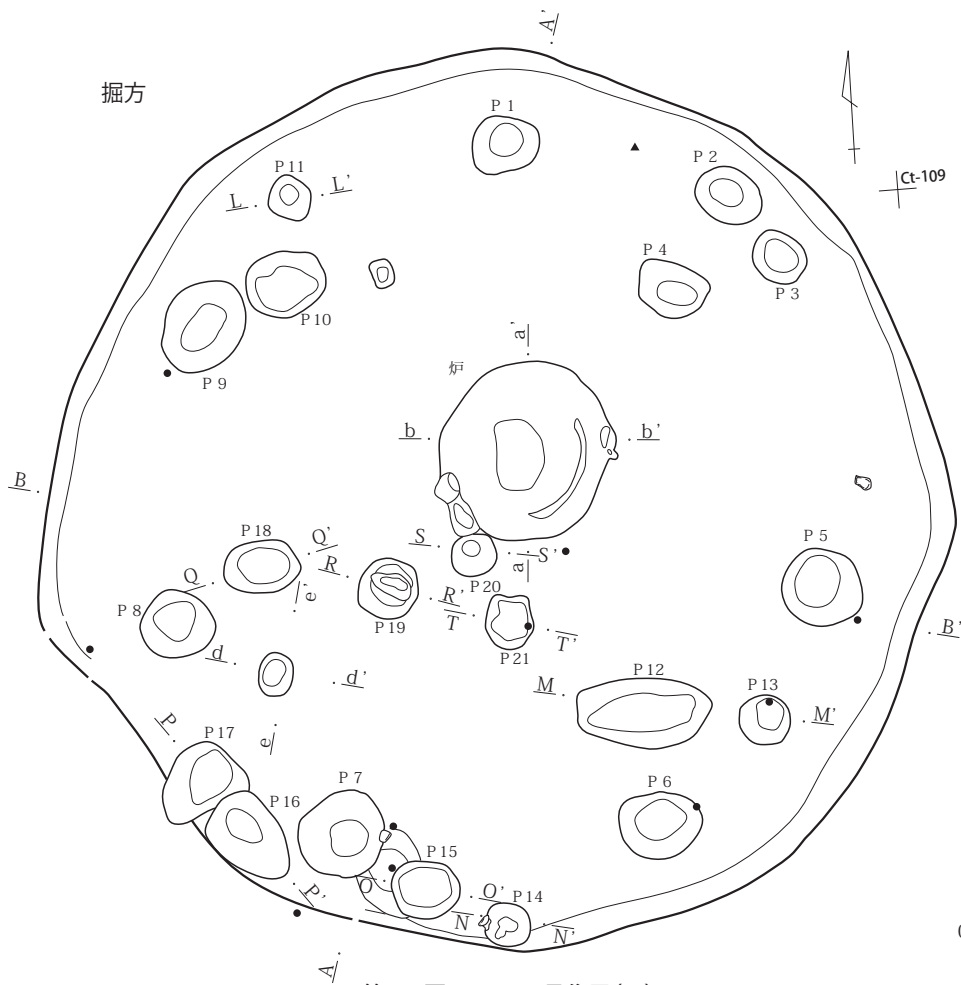


炉

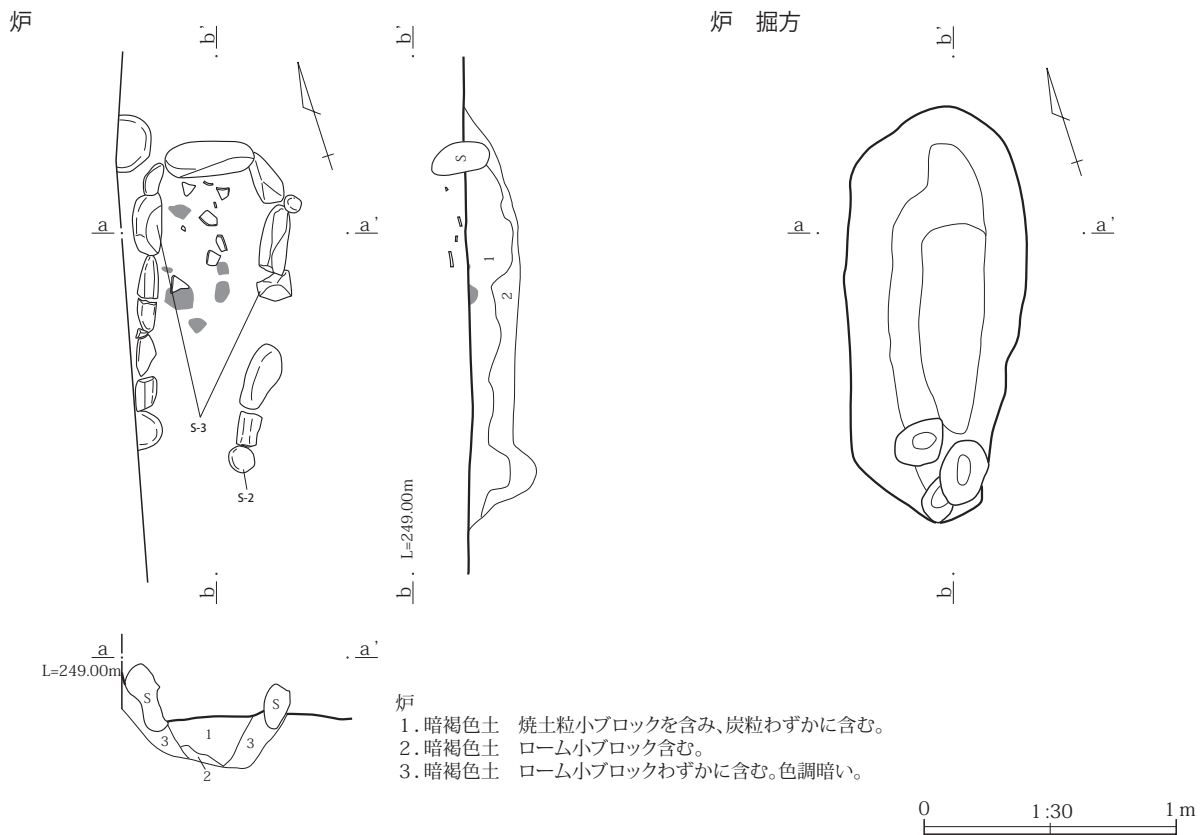
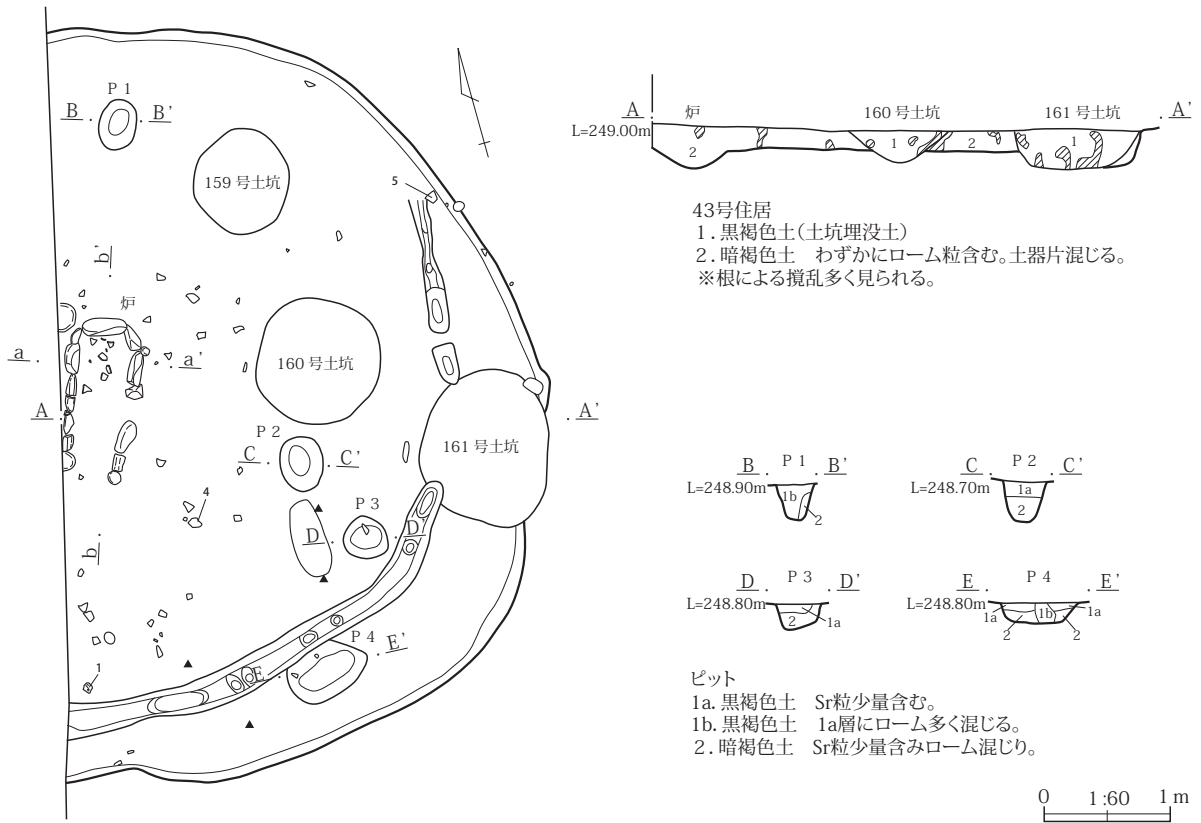
- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1. 暗褐色土 焼土粒・Sr粒わずかに混じる。 | 5. 暗褐色土 Sr粒多く含む。焼土粒わずかに含む。 |
| 2. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒わずかに含む。炭化物少量混じる。 | 6. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒わずかに含む。 |
| 3. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒含む。土器・小礫混じる。 | 7. 暗褐色土 焼土粒含み色調黒い。 |
| 4. 暗赤褐色土 焼土ブロック多量に混じる。炭粒わずかに含む。 | 8. 暗褐色土 焼土粒・Sr粒含む。 |

0 1:30 1m

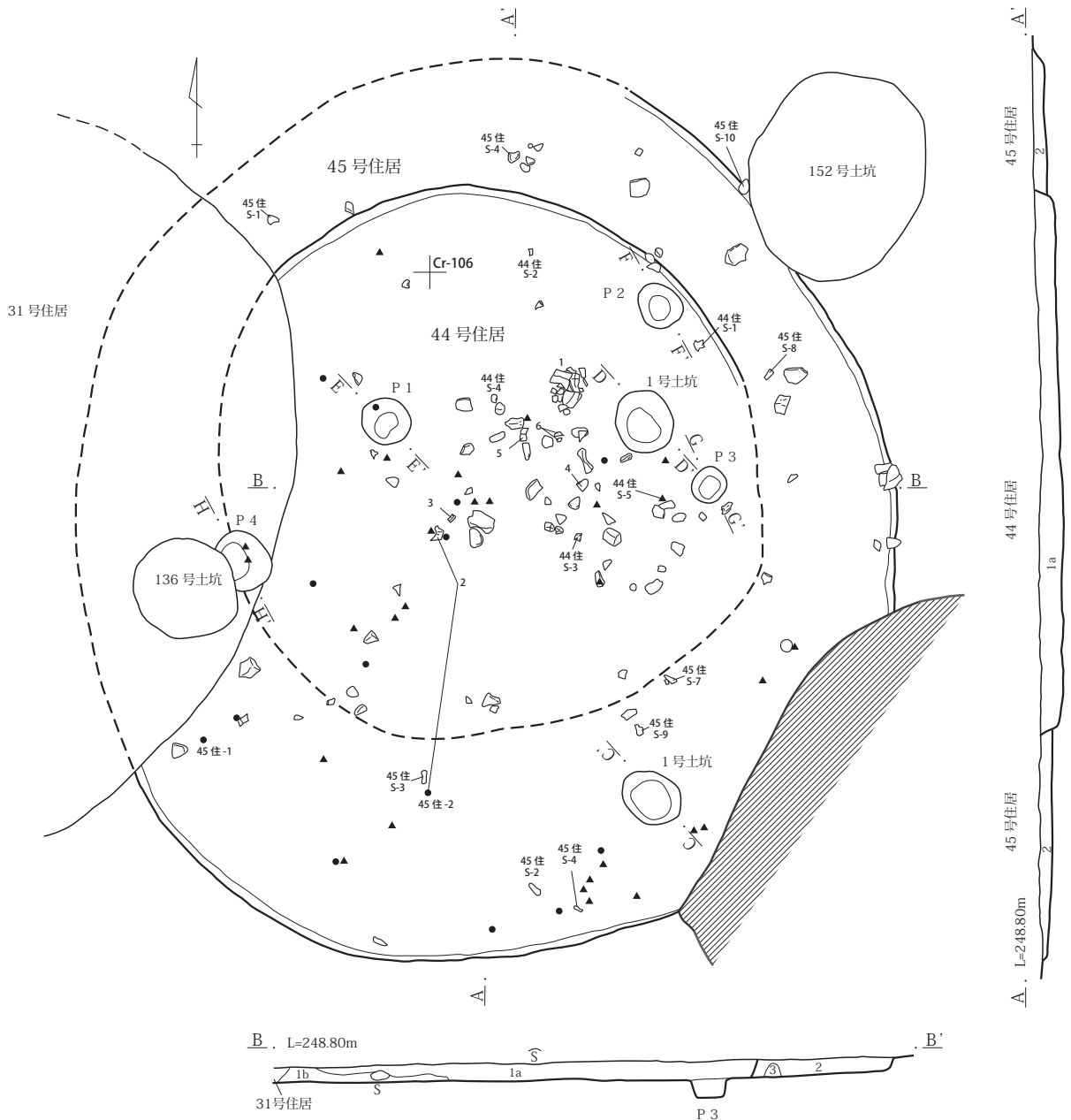
掘方



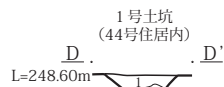
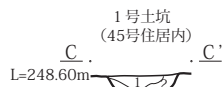
第283図 12区42号住居(3)



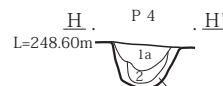
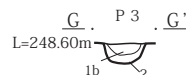
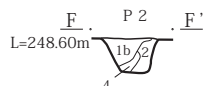
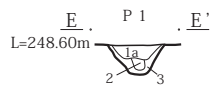
第284図 12区43号住居



- 44・45号住居
- 1a. 黒褐色土 ロームわずかに含む。
 - 1b. 黒褐色土 ローム小ブロック含む。
 - 2. 暗褐色土 炭粒わずかに含む。(45号住居埋没土)
 - 3. くすんだ褐色土 ローム主体。



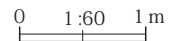
- 土坑
- 1. 黒褐色土 ロームブロックわずかに混じる。
 - 2. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。



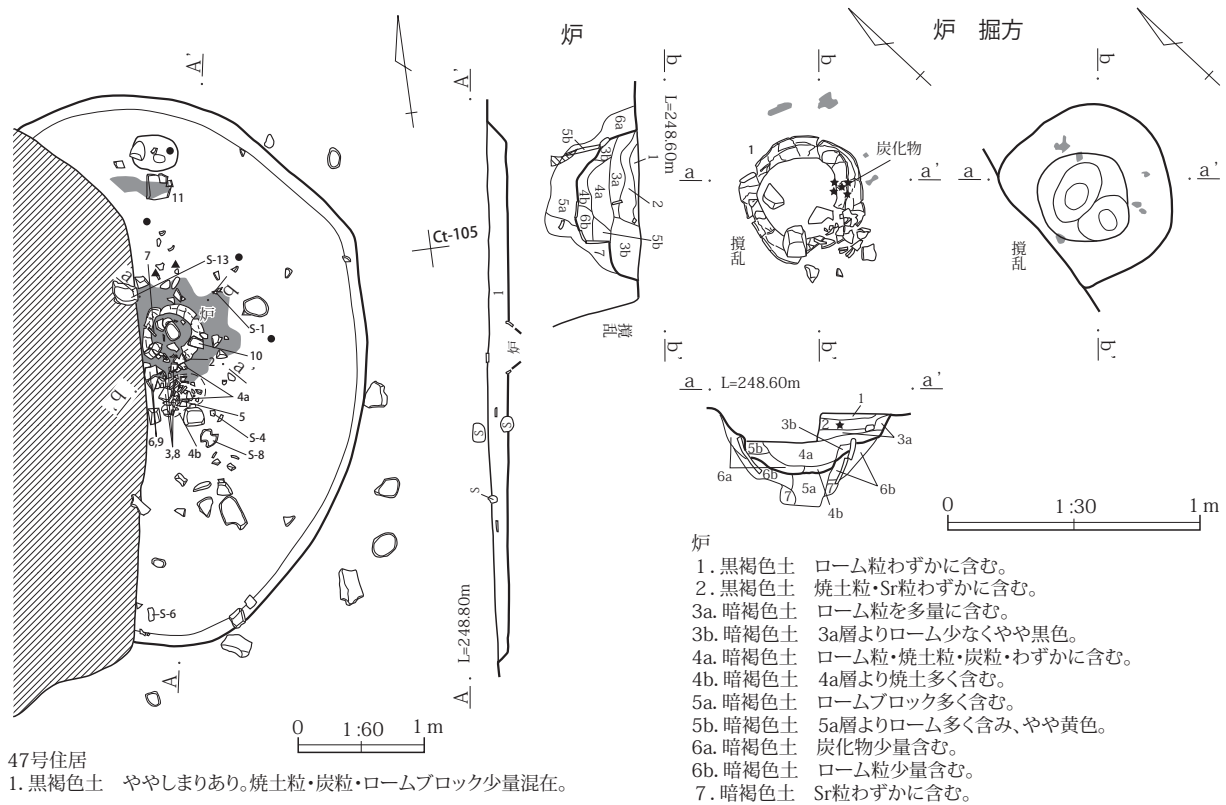
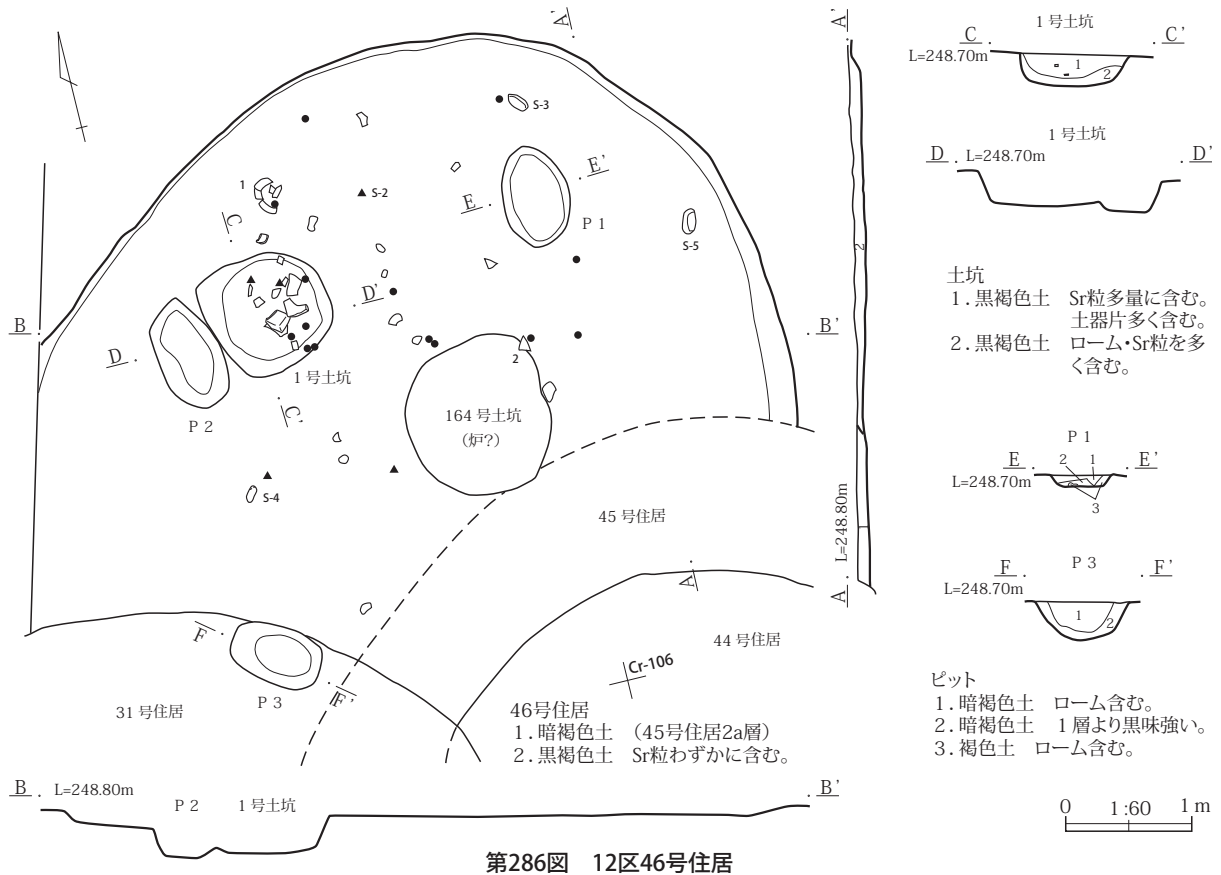
ピット

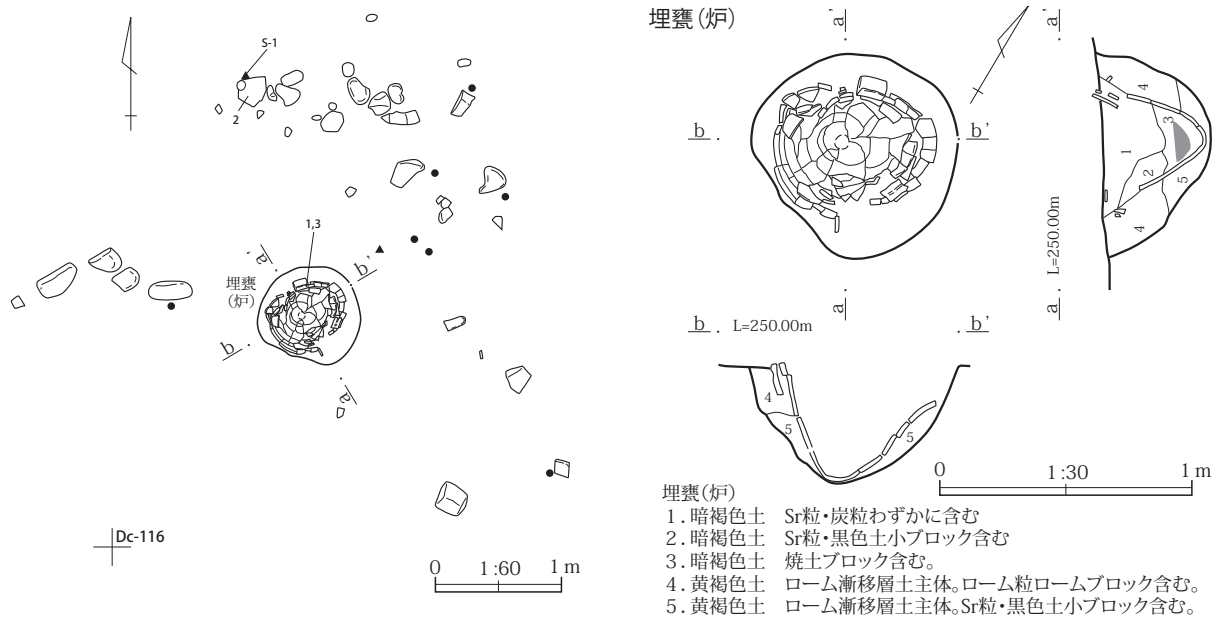
- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 ローム小ブロックわずかに含む。

- 2. 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 3. 暗褐色土 ローム小ブロック含み。わずかに炭粒含む。
- 4. にぶい黄褐色土 ロームブロック多量に含む。



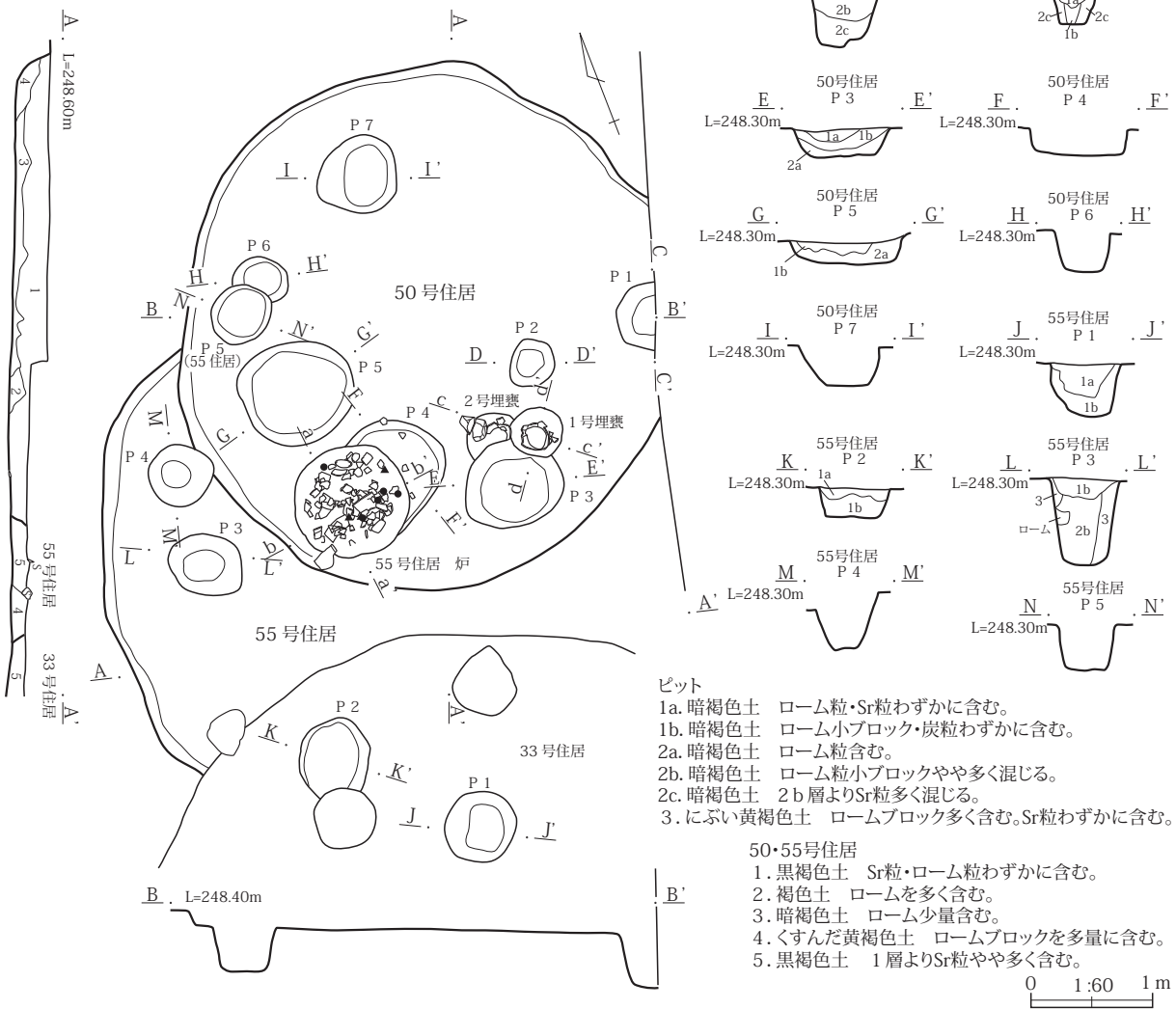
第285図 12区44号・45号住居





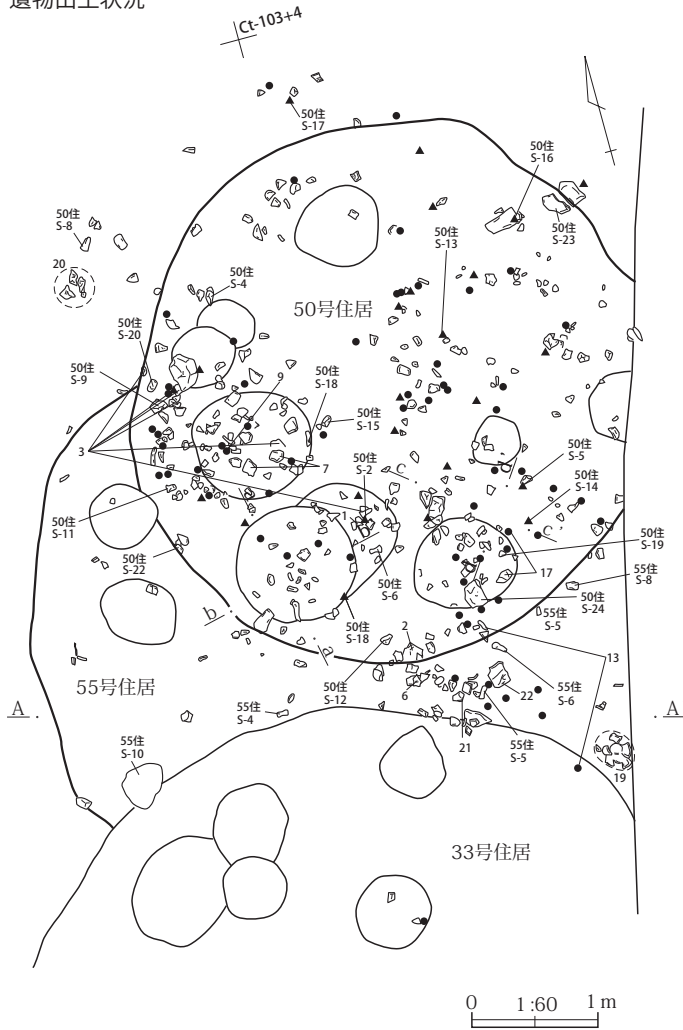
第288図 12区49号住居

50号・55号住居

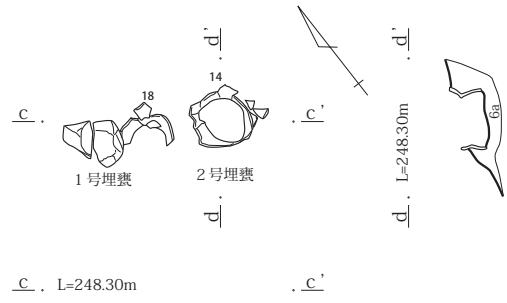


第289図 12区50号・55号住居 (1)

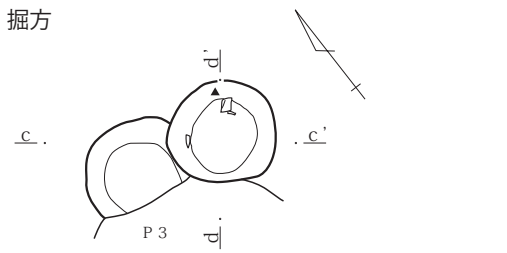
遺物出土状況



50号住居埋甕



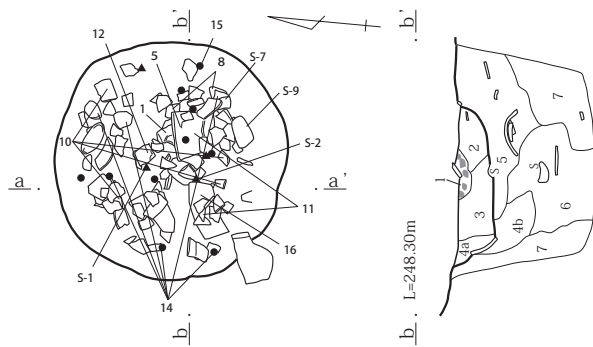
掘方



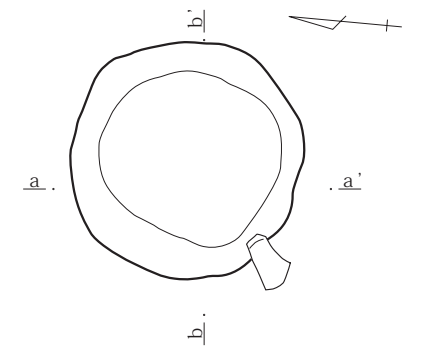
50号炉

1. 暗褐色土 炭粒・Sr粒わずかに含む。
2. にぶい黄褐色土 ローム小ブロック少量含む。
3. 暗褐色土 ローム粒・Sr粒わずかに含む。
4. 暗褐色土 Sr粒わずかに含む。
5. 暗褐色土 焼土粒わずかに含む。
- 6a. 暗褐色土 ローム小ブロック含み、焼土粒わずかに含む。
- 6b. 暗褐色土 6a層よりローム少ない。
7. 暗褐色土 焼土・炭粒少量含む。

55号住居炉



炉 掘方



a. L=248.30m



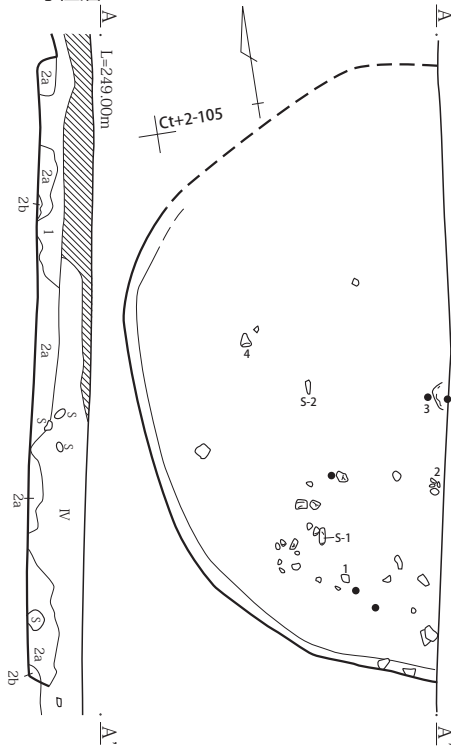
55号炉

1. 暗赤褐色土 焼土化したロームブロック主体。
2. 黒褐色土 ローム・Sr粒わずかに含む。
3. 黒色土 焼土粒・炭粒・わずかに含む。
- 4a. 暗褐色土 ローム粒含み、焼土粒・炭粒わずかに含む。
- 4b. 暗褐色土 4a層よりローム多く含む。
5. 黒褐色土 土器片・礫を多く含む。
6. 暗褐色土 ローム粒含み・Sr粒わずかに含む。
7. 暗褐色土 ロームブロック含む。

0 1:30 1 m

第290図 12区50号・55号住居 (2)

51号住居

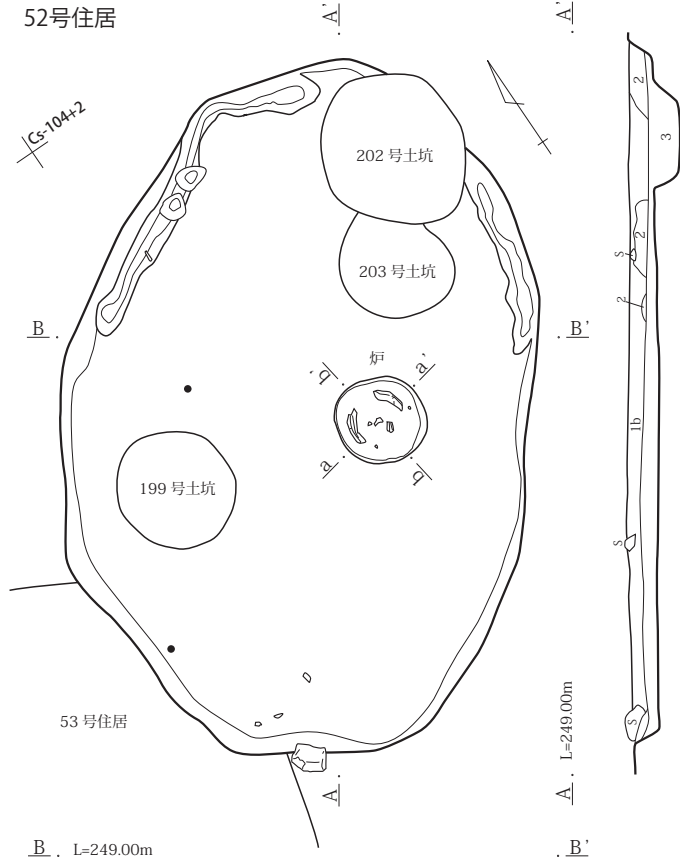


51号住居

- 1. 黒褐色土 IV層主体。小礫混じる。
- 2a. 暗褐色土 IV層土にローム粒わずかに含む。
- 2b. 暗褐色土 2a層よりローム粒多く含む。

第291図 12区51号住居

52号住居



52号住居

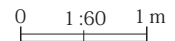
B. L=249.00m

A. L=249.00m

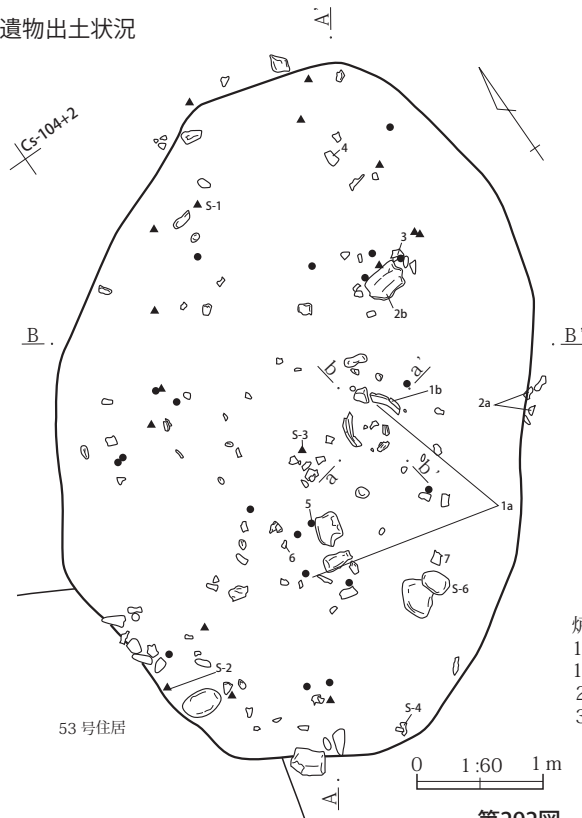


52号住居

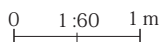
- 1a. 黒褐色土 軽石わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 1a層に小礫・土器片含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒混じり。
- 3. 暗褐色土 ローム小ブロック混じり。



遺物出土状況

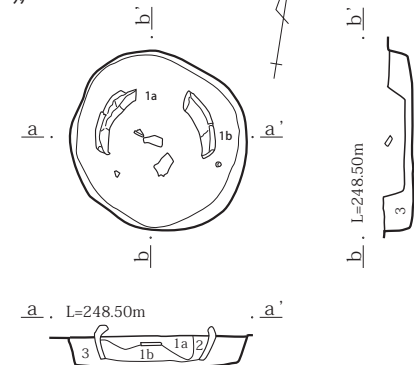


53号住居

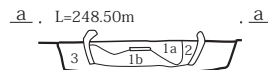


第292図 12区52号住居

炉



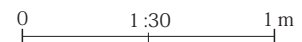
b. L=248.50m

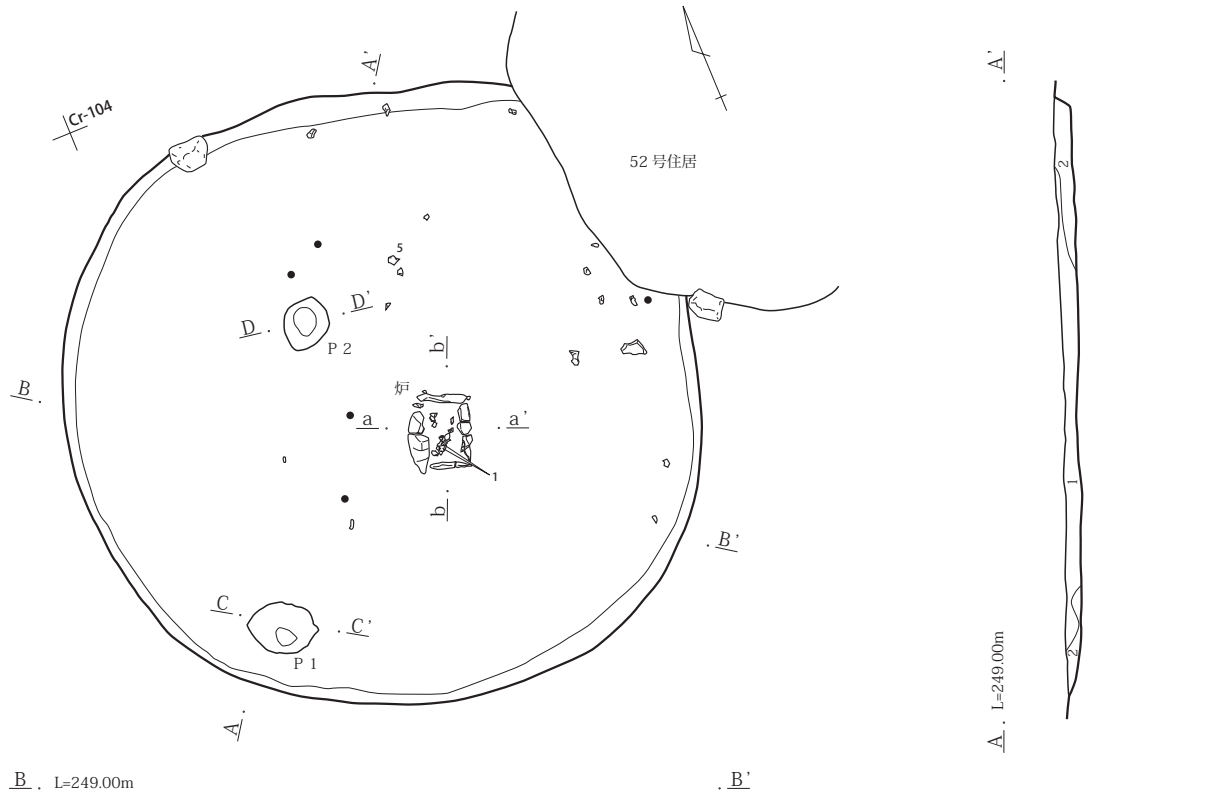


a. L=248.50m

炉

- 1a. 暗褐色土 黒色小ブロック含む。
- 1b. 暗褐色土 1a層よりSr粒多く含む。
- 2. にぶい黄褐色土 ロームブロック主体。Sr粒多く含む。(炉体土器固定用?)
- 3. 暗褐色土 ロームブロック混じり。

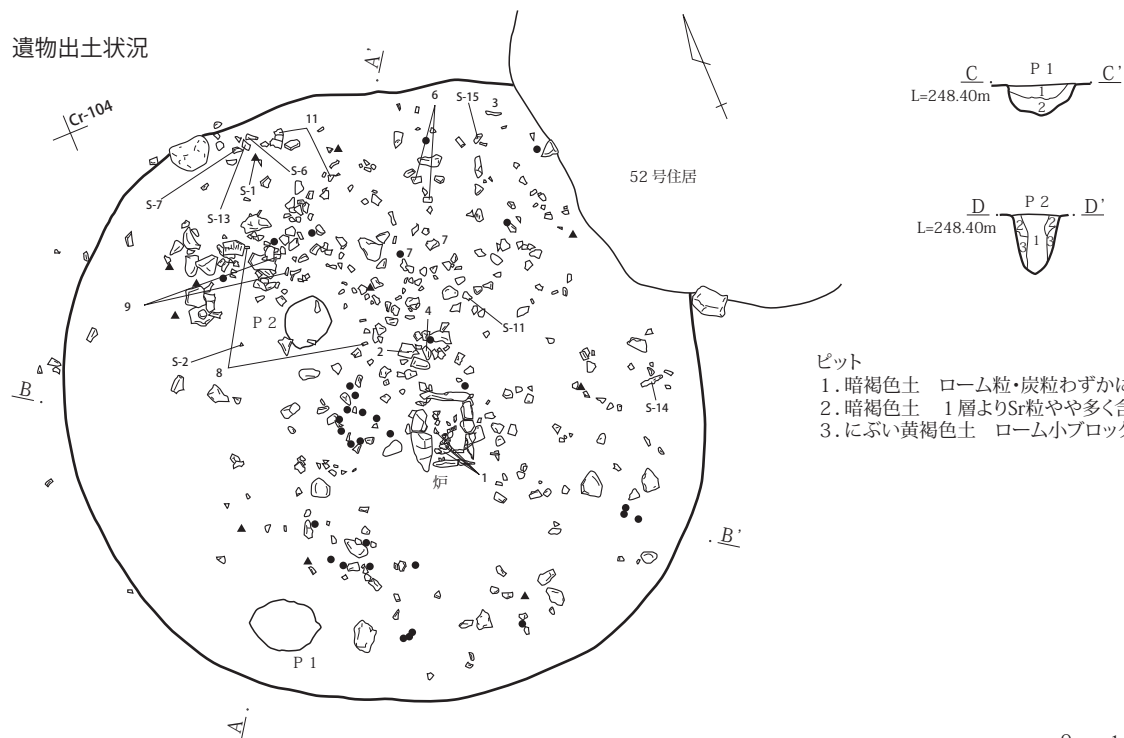




53号住居

1. 黒褐色土 Sr粒多く含む。ローム粒含む。土器・礫を多量に含む。
2. 暗褐色土 Sr粒・ローム小ブロックわずかに含む。

遺物出土状況

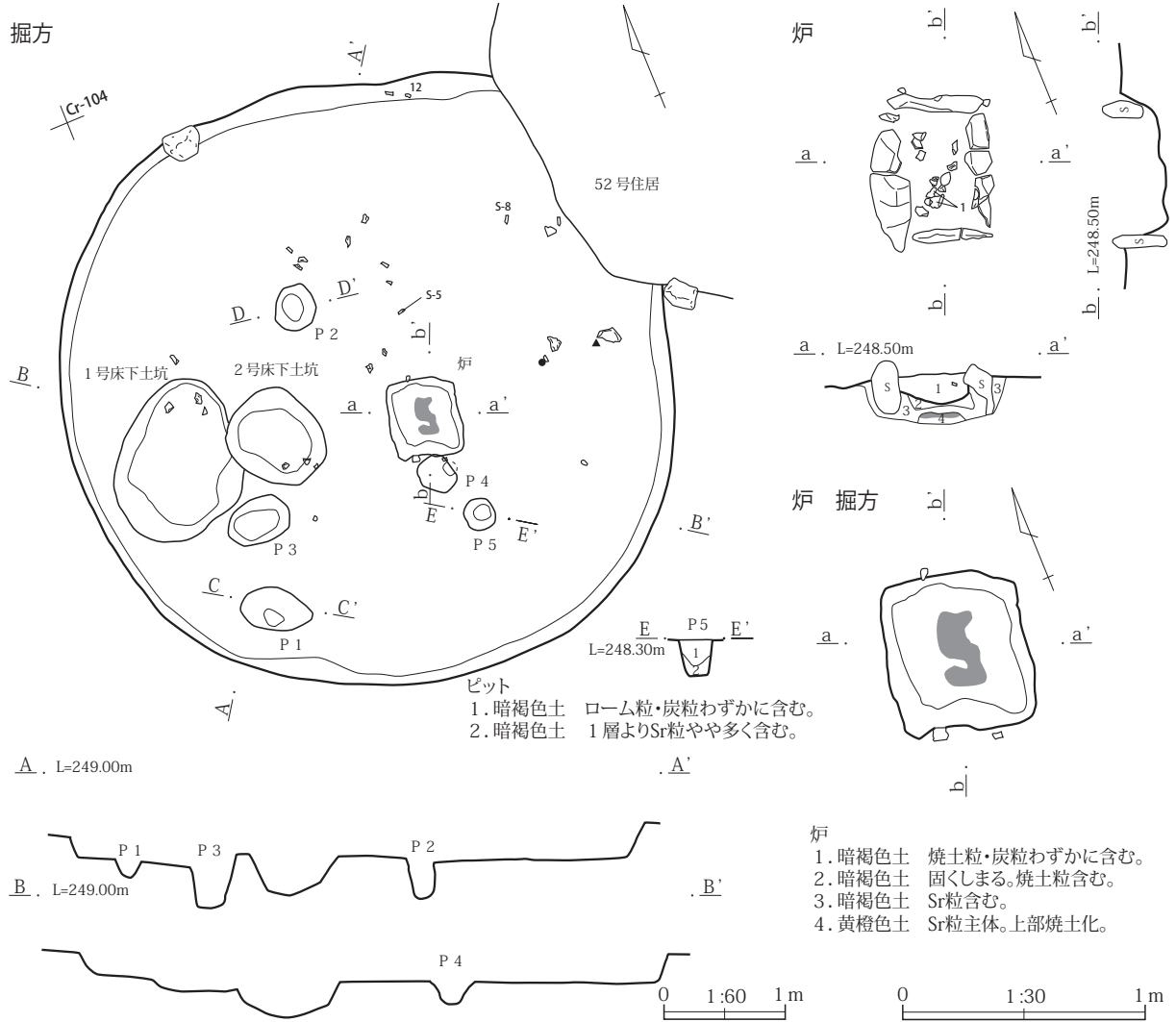


ピット

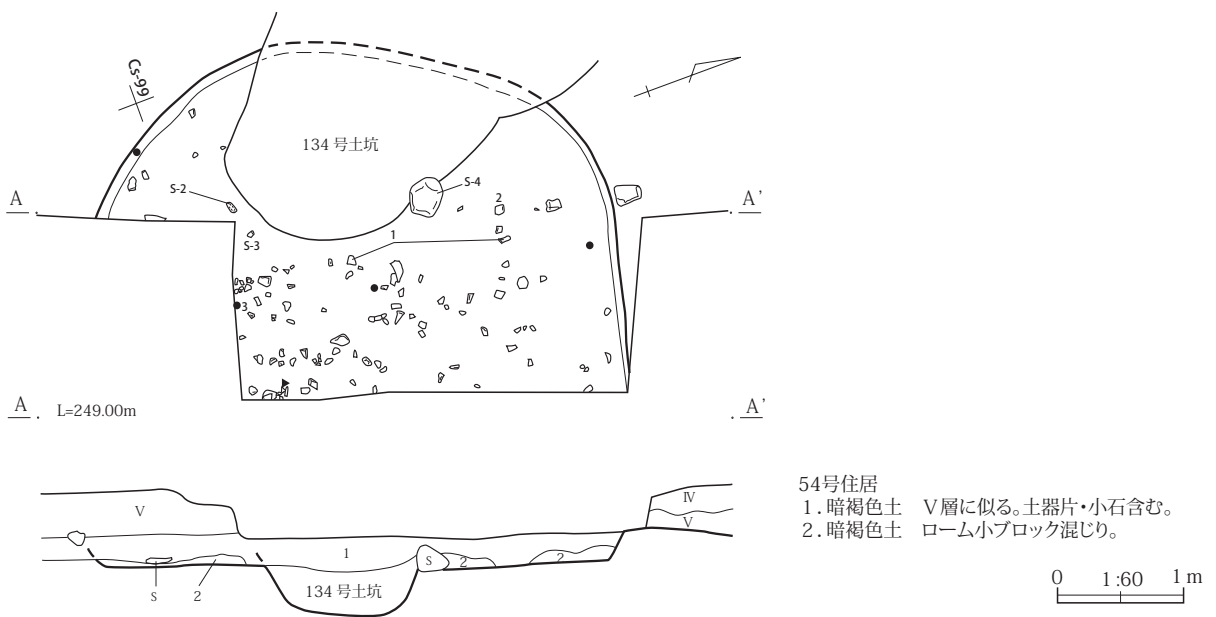
1. 暗褐色土 ローム粒・炭粒わずかに含む。
2. 暗褐色土 1層よりSr粒やや多く含む。
3. にぶい黄褐色土 ローム小ブロック混じる。

0 1:60 1m

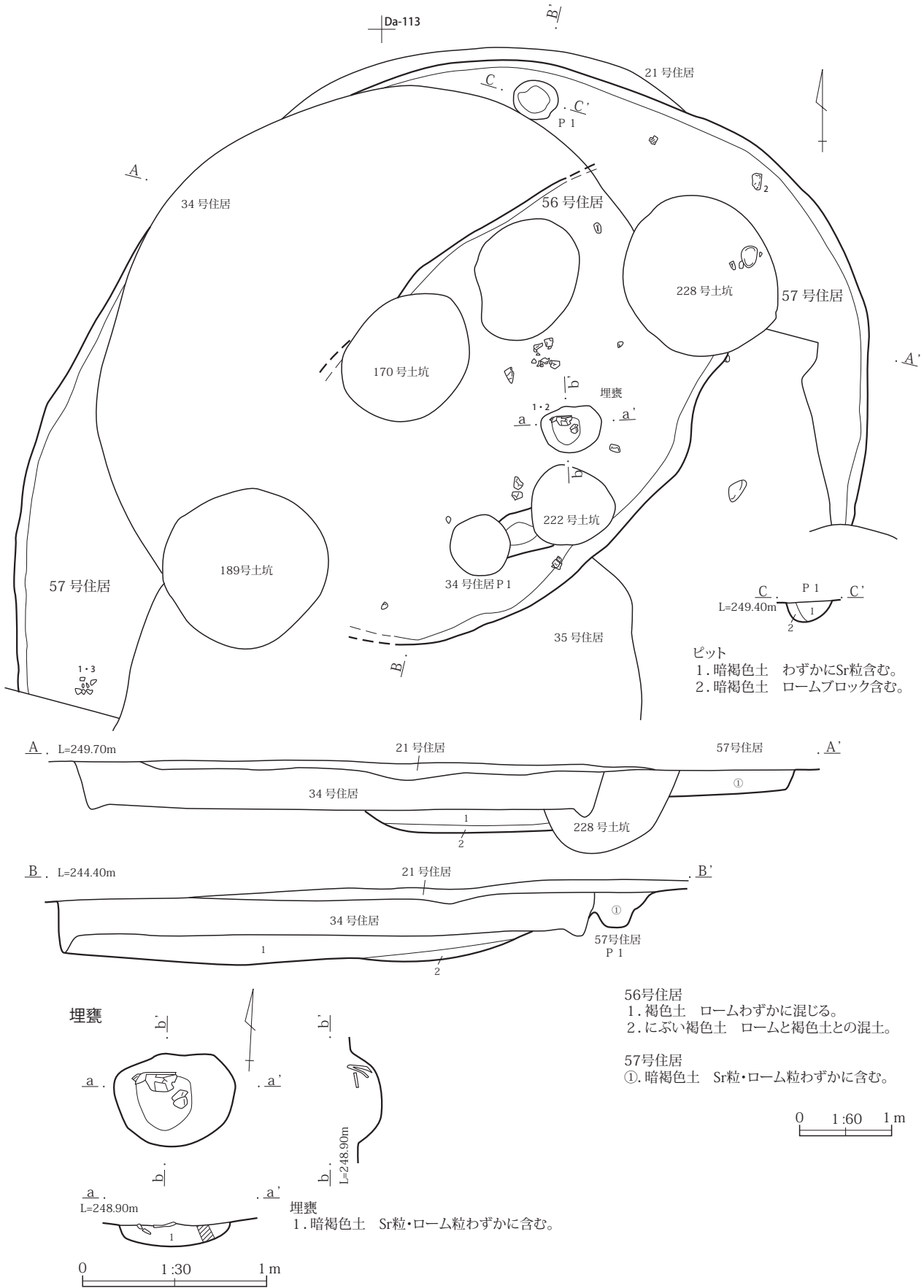
第293図 12区53号住居(1)



第294図 12区53号住居(2)



第295図 12区54号住居



第296図 12区56号・57号住居

2. 土坑

(遺構：第297～335図、PL143～158、遺物：土器第2分冊第271～295図、PL124～142、石器第3分冊第72～77図、PL54～58)

1. 確認作業

12区の調査は、11区同様排土置き場の関係から調査区を2分割して調査を行った。平成16年度中に1号土坑から171号土坑までの調査を行い、平成17年度は172号土坑から252号土坑までの調査を行った。平成18年度より整理作業を進める中で、土坑の増減があり、土坑総数は243基となった。

土坑の平面分布は、北半は4面上層としたV層上面で点在する土坑を検出し、4面下層でもやはり点在していた。南半では住居やピット、その他の遺構と切り合いながら全域で検出した。特に南西の11区寄りに密集していた。

土坑の確認は、調査区北半では上記の通り4面上層と下層に分け確認を行った。まず基本土層V層淡褐色土上面で確認作業を行い、1号～15号土坑まで確認した。埋没土中にはIV層土が含まれることからIV層中より掘り込まれた土坑である。11区では弥生時代後期の土器片も出土していることから弥生時代に属する土坑も存在すると考えられる。土坑の中には、下層土坑と同じ位置にくる土坑や斜めに掘り込まれる土坑もあり、下層の起伏や樹木の根株痕も土坑として扱ってしまったようである。次の確認面はVI層中まで下がり、検出土坑は16号～54号土坑まで確認した。特に中央付近から南半に展開するような状況であった。

調査区南半ではV層中より出土遺物が多く、住居同様層位別の調査はできず、確認面は住居同様ローム面直上まで掘り下げ確認した。検出土坑は55号～252号土坑であり、上述のように中央付近から南半に密集し、11区と連続する状況であった。

土坑の時期は、縄文時代前期から後期までの間と一部弥生後期も含まれると考える。中心は住居同様

縄文時代中期が中心である。しかし、大半の土坑は遺物を持たず時期決定できる土坑は多くない。

2. 土坑の分類

本調査区では243基の土坑が検出された。紙面の都合上で位置、重複、規模、方位等明記することはできない(一覧表を参照)。ここでは平面、断面形状等により土坑の分類を行い、数量を数えた。

発掘調査で検出される様々な土坑を平面形状で方形、長方形、円形、楕円形、その他と大きく五つの形に分け数量を数え、断面形状も箱形、逆台形、袋状、丸底、ロート状、その他の六つに分け数量を数えた。その結果は下記の通りである。

平面形状

- A：方形 27基を数えた。
- B：長方形 27基を数えた。
- C：円形 63基を数えた。
- D：楕円形 119基を数えた。
- E：その他 アメーバー状等の不定形土坑に分ける。7基を数えた。(不明含む)

断面形状分類

- 1：箱形・筒形
総数は77基を数えた。平面との内訳は、
平面A：12基、B：8基、C：27基、
D：30基、E：0基を数えた。
- 2：逆台形
総数は94基を数えた。平面との内訳は、
平面A：12基、B：12基、C：20基、
D：45基、E：5基を数えた。
- 3：袋状
総数は15基を数えた。平面との内訳は、
平面A：1基、B：4基、C：1基、
D：9基、E：0基を数えた。
- 4：丸底
総数は50基を数えた。平面との内訳は、
平面A：2基、B：3基、C：15基、
D：29基、E：1基を数えた。

5：その他 底面の傾斜やロート状又は葉研状を呈する土坑を7基検出した。

3. 土坑内遺物出土状況

12区南半は11区同様遺構の重複が激しく、土坑内埋没土中に破片の混入が多く見られた。土坑の時期を確定できる出土状況は少ないが、ここでは遺物の出土した土坑の遺物出土状況及び遺物の特徴について記述する。出土遺物の大半は縄文時代に属するため時期記載の「縄文時代」を省略する。

2号土坑：北調査区中央で検出。小角礫を混入する。

3号土坑：北調査区中央で検出。上面土器片50点出土。遺物中に中期破片、磨石破片出土。

21号土坑：北調査区中央西壁寄りで検出。前期破片と台石出土。

22号土坑：北調査区中央寄りで検出。上面でS1の多孔石出土。

26号土坑：北調査区北、1号住居を掘り込む。前期前葉の土器破片、石鏃等出土。

37号土坑：北調査区北で浅い円形状の土坑検出。S1のガラス質デイスイの尖頭器出土。

38号土坑：北調査区中央西壁寄りで検出。深さ70cm程の円柱状に掘り込まれ、中層よりS2の石棒状の破片を含む礫石器が積まれたような状況で出土した。また底面に焼土層を検出した。

39号土坑：北調査区中央西壁寄りで検出。1m程の深さを測り、前期及び中期土器破片とS1の石鏃出土。

42号土坑：北調査区中央西壁寄りで検出。前期前葉の土器破片出土。

43号土坑：北調査区中央寄りで検出。47号土坑を掘り込む。1m弱の掘り込みを持ち、埋没土中より中期土器破片が出土した。出土点数は111点を数えた。またS1の磨石やS2の石皿も出土。

44号土坑：北調査区北寄りの傾斜部で検出。上方は方形状、底面は円形状を呈し、65cmの掘り込み。土器の出土点数は59点を数える。中期後葉の1の深鉢

と2の浅鉢出土。土器は上層より投げ込まれたような状況が窺えた。S1は土器片に混じり出土した。

45号土坑：北調査区北寄りの傾斜部で検出。80cmの掘り込みを有し、土器の出土点数は95点を数えた。中層より中期後葉の1aの深鉢を中心に大型破片が上層で出土。

46号・54号土坑：調査区中央の2号住居にかかり検出した。両土坑は埋没土観察では重複が見られないが、底面に段差を確認した。両土坑重複部に遺物が多く出土し、土器の出土点数は146点を数えた。1の深鉢大型破片が出土し、3、4の深鉢は46号土坑に流れ込むように出土した。石器は54号土坑側に多く出土し、S2の台石出土。

49号土坑：北調査区中央で検出。石器は磨石多く出土。土器の出土点数は53点を数えた。

55号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。1の中期後葉の深鉢や打製石斧等が中層で出土。土器の出土点数は120点を数えた。

56号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。土器の出土点数は20点を数えた。S1の石皿は土坑法面で出土した。

57号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。1辺2.25mを測り、深さも1mを超える大型の長方形土坑である。番号を付されていないが長軸70cmを測り、1.2mの掘り込みを有する楕円形土坑が掘り込む。土器は上層から中層までの間で1や2の後期初頭の土器破片がまとまって出土した。土器の出土点数は107点を数えた。廃棄の状況が窺える。

62号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。埋没土中層より中期中葉の土器破片が出土した。

64号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。一辺1.5m、深さ1m程の掘り込みを有し、わずかに上部がロート状に開く土坑である。上層から中層にかけて大量の中期後葉の深鉢を主体とした土器片が出土した。

68号土坑：調査区南端の西壁寄りで検出。長軸1.5m×短軸約1.2m、深さ60cm程の楕円形土坑である。土器片の出土点数は195点を数え、中層に1の後期

初頭の深鉢大型破片が出土した。また12～14の土製腕輪も混在した。

69号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。長軸2.8m、深さ80cmを測る大型土坑である。断面はロート状を呈する。S3の打製石斧が出土。

71号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。長軸2.1mを測る大型土坑である。

73号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。59号・60号土坑と重複する。1の中期後葉の深鉢口縁破片が出土した。

78号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。長軸2.3m×短軸2m、深さ87cmを測る大型土坑である。断面は逆台形を呈する。上層より土器片が多量に出土し、出土点数は237点を数えた。底面北辺に大礫と焼土面が確認できた。4や5の中期後葉の深鉢が出土した。

82号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。周辺部から上層にかけ、土器・石器等が散在し、土器片は599点を数えた。径134cm、深さ65cmの円形土坑である。遺物は、23の深鉢が上面で埋襲状に出土し、底面より中期後葉の1の完形深鉢の下に5が潰れ出土し、2～4の深鉢や6の鉢等も潰れた状態で出土した。土器埋納土坑と考えられる。

83号土坑：調査区南寄り遺構密集地内の西壁際で90号土坑を掘り込み検出した。土器破片は124点を数え、土器破片と共に腕輪破片が出土した。

87号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。59号土坑他4基の重複土坑と一緒に検出。短軸1.2m程の浅い楕円形土坑である。中層に中期後葉1の深鉢が潰れて出土した。

99号土坑：調査区中央で検出。長軸1.48m、深さ78cmを測る楕円形土坑である。中層肩口より中期後葉の深鉢出土。

105号土坑：調査区中央で検出。S1の多孔石とS2の台石が出土した。

106号土坑：調査区中央で検出。S1の多孔石とS2、S3の台石が出土した。

107号土坑：調査区南寄りの遺構密集地北で検出。

210点の土器片出土し、3の中期後葉の大型深鉢等が出土した。

115号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。79号土坑に掘り込まれる。中期後葉の土器片が散乱し出土した。

116号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。下層でS2の多孔石が出土した。

118号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。一辺177cm、深さ91cmを測る。2aの中期後葉の浅鉢が中層法面で出土した。

119号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。15号住居P6との重複部分で2の中期後葉の深鉢が出土。またS1の凹石出土。

121号土坑：調査区中央で検出。4の中期後葉の深鉢が底面から倒立状態で出土し、5の深鉢も脇に横位で出土した。3の深鉢口縁の大型破片等が土坑内に混在して出土した。土坑の掘り込み浅く、土器の出土状況も置かれた状況が窺え、土器埋納土坑と考えられる。

123号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。119点の土器破片が散在し出土した。

124号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。21cm程の浅い土坑内から1や3などの大型破片が出土した。

126号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。長軸1.70m、深さ60cmを測る長方形の土坑内より、30～50cm大の大礫が西側から投げ込まれたような状況で出土し、1の中期後葉の台付きの深鉢と一緒に出土した。

129号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内西壁寄りで検出。多孔石が中層より埋め込まれたように立石状態で出土。

134号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内東壁寄りで検出。長軸2.66m、深さ120cmを測る大型土坑である。54号住居を掘り込み、本土坑埋没後に敷石住居の14号住居が作られたと考えられる。その後本土坑陥没時に14号住居も傾いたと思われる。上層より多量の土器破片が出土し、出土点数は379点を数え

た。底面付近に焼土面が見られ、その上に角礫が出土し、1の中期後葉の深鉢が斜めに出土した。その他に2や5の深鉢や6の台付き浅鉢等が出土している。石器も多く出土し、S10の凹石やS11～S13の磨石が法面より出土している。

138号・139号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出し、138号土坑が139号土坑を掘り込んでいる138号土坑内から6の中期後葉の深鉢が潰れた状態で出土した。139号土坑内からは1の中期後葉の深鉢が散乱状態で出土した。

141号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。69号土坑に掘り込まれる。重複部分で1の中期末葉の深鉢が出土した。

157号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。楕円形を呈する156号土坑に掘り込まれる。前期前葉の破片が出土した。

160号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。径1m程の円筒形を呈する。

162号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。口径130cm、底径150cm、深さ133cmを測る袋状土坑である。大量の土器破片が出土し、570点を数えた。北東側底面に焼土面を検出し、中期末葉の11、12の深鉢底部が出土している。5の中期末葉の深鉢口縁破片も混在している。石器も石鏃や打製石斧、磨石が出土した。

164号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。方形状を呈し、深さ15cm程の浅い掘り込みであった。1の中期後葉の深鉢底部が正位で出土し、2、4等の深鉢底部も西寄りで出土している。

166号～169号土坑：調査区中央やや南寄りの27号住居内より検出した。166号土坑は、径138cm、深さ107cmの円筒形を呈する。1、2の中期末葉の深鉢が出土。168号土坑は27号住居炉の下部で検出した。炉の掘方の可能性も考えられる。167号・169号土坑は掘り込み浅い。

170号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。上面は楕円形状を呈する。深さ107cmを測り、断面ルート状に掘り込まれ、底面付近はやや袋状にハングする

土坑である。上層よりS8、S9等の石皿等に混じり中期後葉の13や15の浅鉢が出土した。土器破片は多数出土し202点を数えた。ハングする底面には2の中期後葉の深鉢が横置き状態で出土し、脇に1や3、4、10等の深鉢が出土している。土層の遺物出土状況は破片が多く投棄的であるが、下部の遺物出土状況は完形品が置かれた状態にも見える。このことから土器埋納土坑と考えられる。

172号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。径146cm、深さ110cmを測る。2の前期後葉の深鉢底部や1a、1bの深鉢破片がまとまって出土した。

178号・179号・218号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。長軸3.40m、短軸3.15m、深さ25cmを測る住居状の土坑を検出し、178号土坑とした。また、南に接する円形の落ち込み状の土坑を179号土坑とした。両土坑内及び周辺部より多量の遺物が出土した。178号土坑は、規模も大きく遺物も多く出土することから当初は住居と考えたが、土坑壁や底面が締まりの弱い褐色土であり、床面も不明瞭で柱穴や周溝も検出できなかったため土坑とした。出土遺物は大型土器破片も多く、出土点数は195点を数えた。礫や土器を取り上げ底面精査を行ったところ中央やや南で焼土分布を検出し、その中央で中期後葉の1の深鉢が埋設されていた。これを土坑内埋甕として処理したが、埋甕炉とも考えられる。またその北に隣接して218号土坑を検出し、土坑内より1の中期後葉の深鉢の大型破片が出土した。

180号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。径145cm、深さ123cmを測る円筒形の土坑である。68点を数える破片が出土し、大半は中期後葉の破片である。

189号土坑：調査区中央で検出。中期後葉の土器破片を中心に218点出土し、礫群に混じりS1の磨石も出土した。

190号土坑：調査区中央で検出。側壁の部分的にハングする土坑である。上面と底面から礫が出土。

193号土坑：調査区中央で検出。径190cm、深さ140cmを測り、底面付近の側壁が、わずかにハング

する。1の中期末葉の大型深鉢が出土した。

194号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。中期後葉の土器出土し、S1の磨石出土。

197号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。径145cm、深さ67cmを測る円筒形土坑である。底面で礫出土。中期後葉の土器出土し、S1の磨石出土。

202号土坑：調査区南寄りの遺構密集地北で検出。上面に板状礫と打製石斧出土。

206号土坑：調査区南寄りで検出。土器及び礫が投げ込まれた状況であった。中期後葉の土器破片出土し、S1の打製石斧出土。

207号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。長楕円形状を呈し、角礫が出土している。

209号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。柱痕状に縦方向に土層1が確認できた。底面には焼土が広がり、1、2の中期後葉の深鉢が出土した。

219号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。一辺125cm、深さ75cmを測り、わずかに側壁がハングする筒形を呈する。中層より多量の土器が出土し、中期後葉の破片を中心に122点を数えた。土器と共に石錐や磨製石斧、磨石等が出土した。

222号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。底径105cm、深さ53cmを測る袋状土坑である。底面付近で1の前期前葉の深鉢出土。

223号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。法面から底面にかけて礫と混じり、中期後葉の土器出土。

232号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内で検出。252号土坑を掘り込み、126号に掘り込まれる。深さ42cmを測りわずかに側壁の一部がハングする。1の中期後葉の土器出土。

236号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。径128cm、深さ69cmを測り、側壁の一部がハングする円筒形の土坑である。

243号土坑：調査区中央やや南寄りで検出。楕円形を呈する土坑。礫と共に1の中期後葉の深鉢底部が出土。

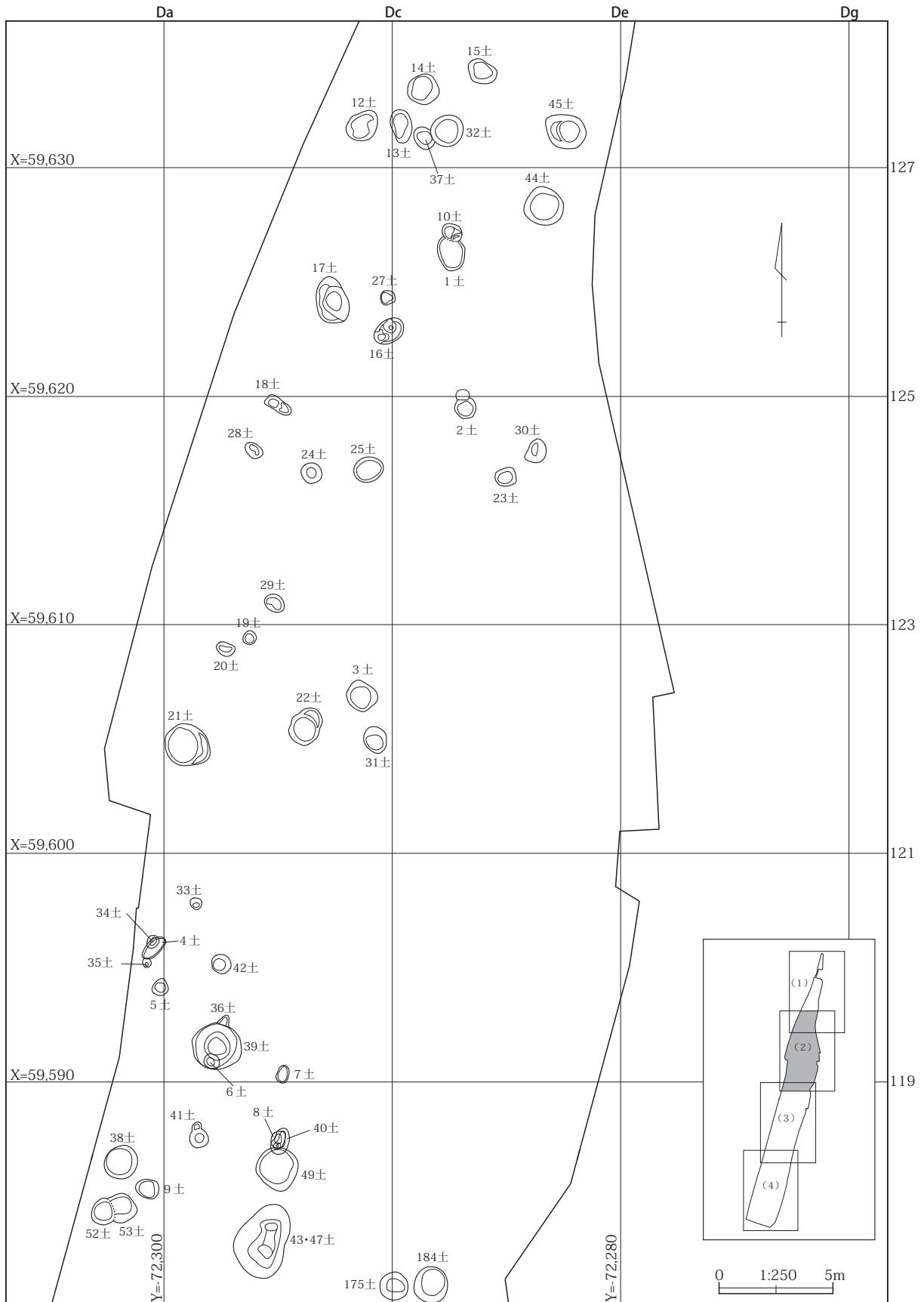
245号土坑：調査区南寄りの遺構密集地内北端で検出。4の器台を含む中期後葉の土器出土。

251号土坑：調査区南寄りの遺構密集地北の調査区西壁にかかり検出した。76号・77号・107号土坑等に壊され、また、10号住居と重複する。規模は長軸、短軸とも土坑や調査区壁で計測不能であるが、残存部分での長軸は393m、短軸283cm、深さ21cmを測る。遺構確認段階は、この区域から遺物の出土が多く、遺構確認ができないまま遺物を取り上げローム直上まで掘り下がった。それでも遺構の重複が多く、個々の形状は掴みづらかった。最初に外側にある76号・77号土坑が確定でき調査を行った。北側は遺物混じりの暗褐色土面が広がり、住居かどうか決定できないまま10号住居として遺物を取り上げ、またセクション延長上にサブトレンチを入れ、他遺構の有無や床面確認等を行った。10号住居は東側より確定でき、残った暗褐色土を17号住居として調査を行ったが、住居施設の炉、ピット、周溝等が検出できず、土坑として扱うこととした。

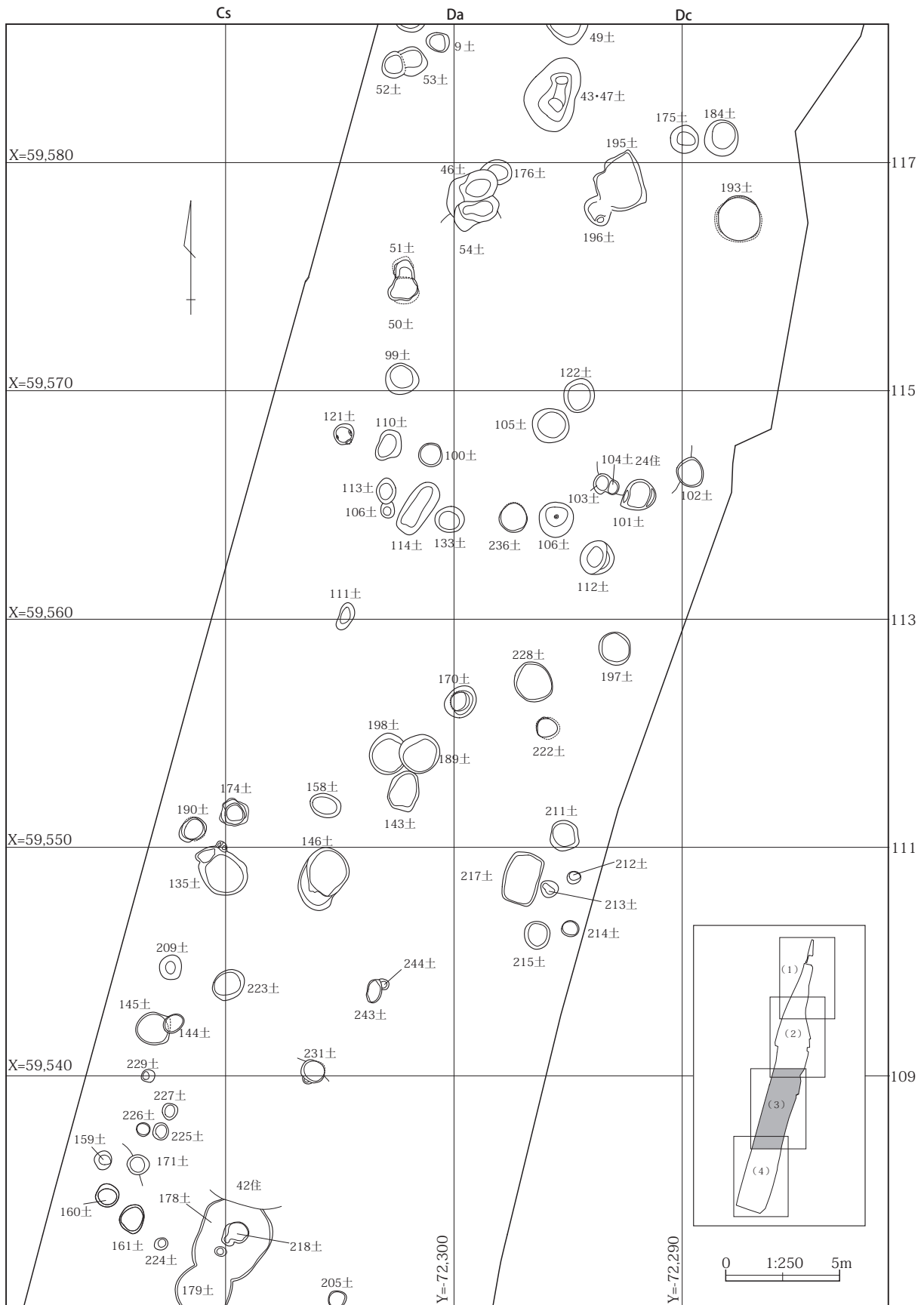
出土土器は中期後葉の土器を中心に196点を数え、1aの大型深鉢の口縁部破片や3、4、12の深鉢底部や11の器台が出土した。



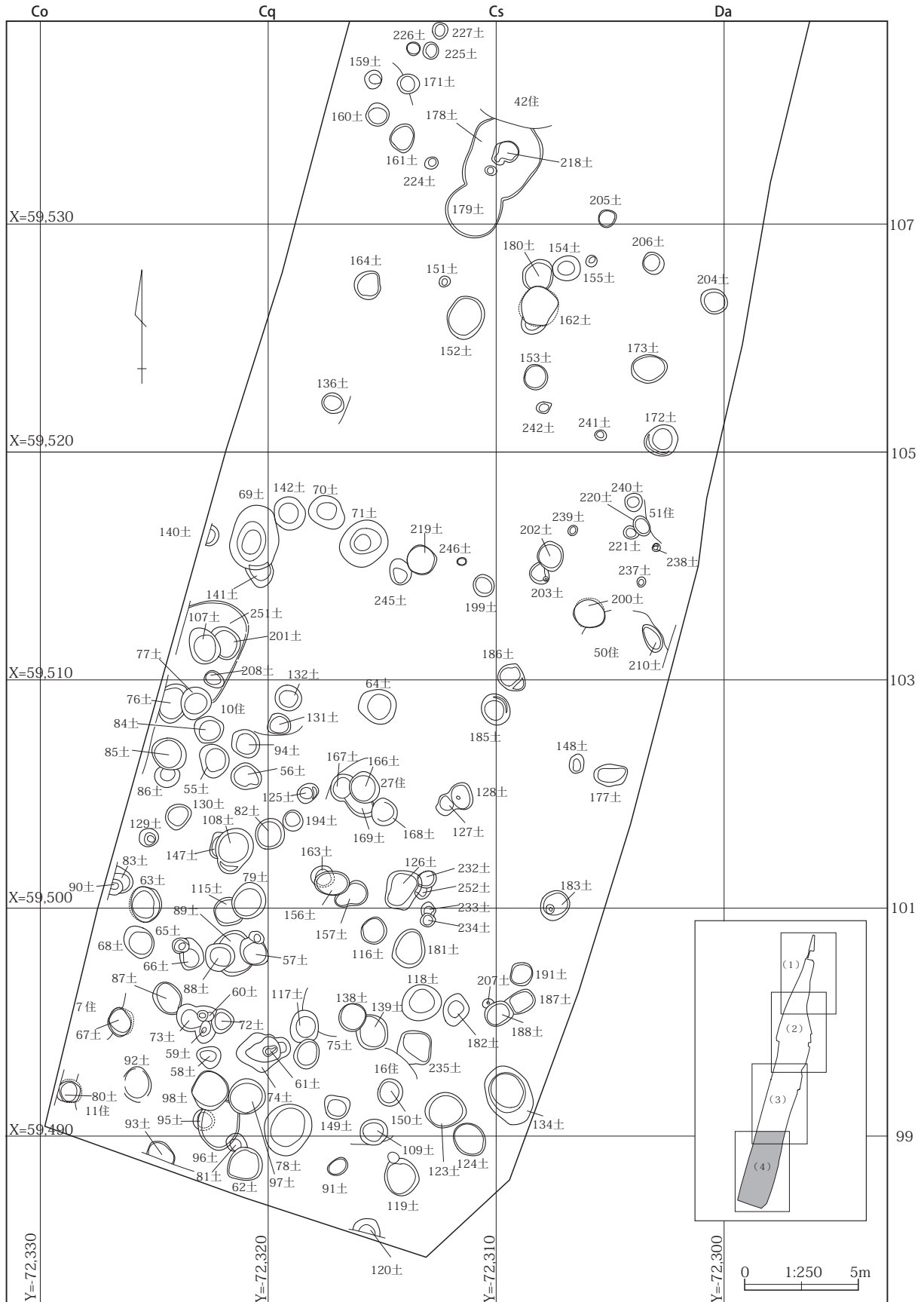
第297図 12区土坑配置図(1)



第298図 12区土坑配置図(2)

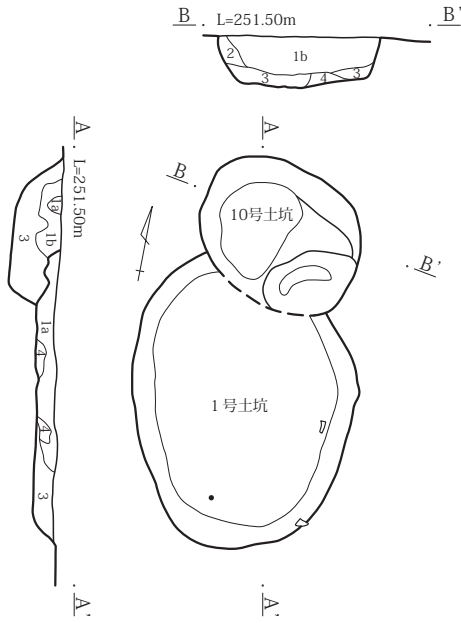


第299図 12区土坑配置図 (3)

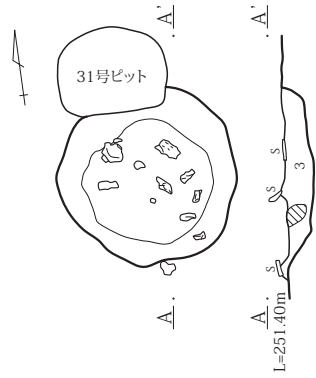


第300図 12区土坑配置図(4)

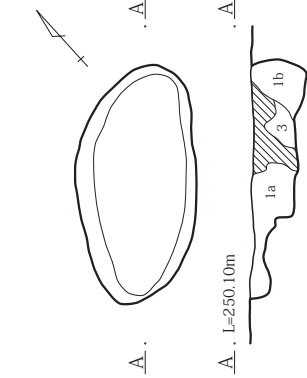
1・10号土坑



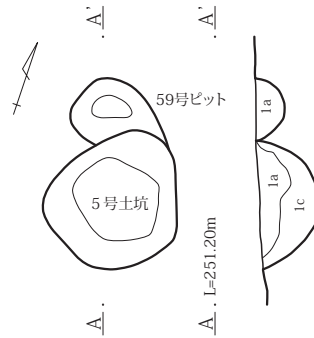
2号土坑



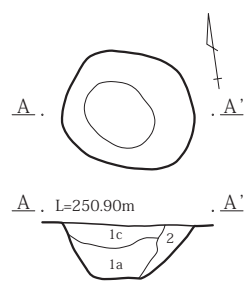
4号土坑



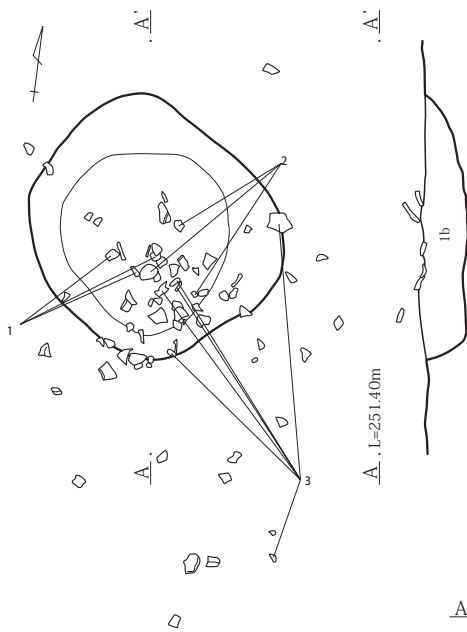
5号土坑



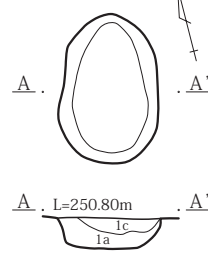
6号土坑



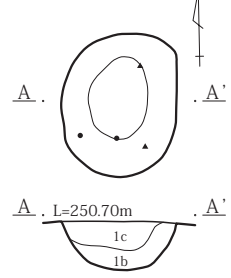
3号土坑



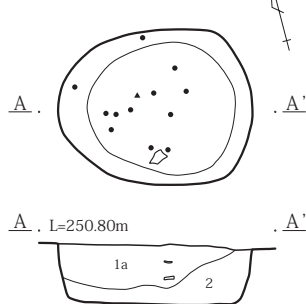
7号土坑



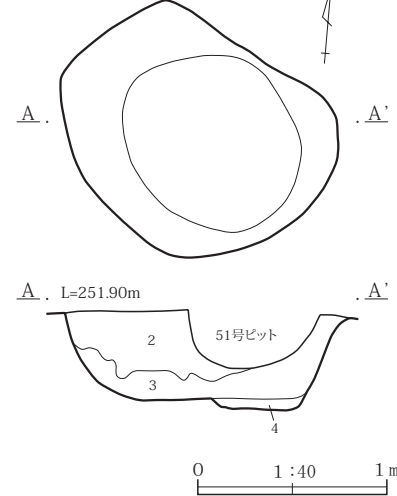
8号土坑



9号土坑

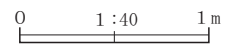


11号土坑



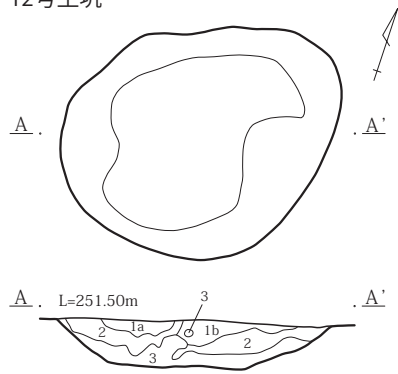
1～11号土坑

- 1a. 黒褐色土 IV層黒色土、しまり弱い。
- 1b. 黒褐色土 1a層より軽石粒多い。褐色土小ブロック混入。
- 1c. 黒褐色土 軽石粒を多く含む。
- 2. 暗褐色土 わずかに軽石・ローム小ブロック混入。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック+褐色土ブロック混合土。
- 4. 暗黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合土。ややしまりあり。

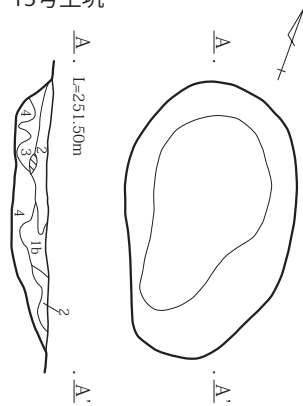


第301図 12区土坑 (1)

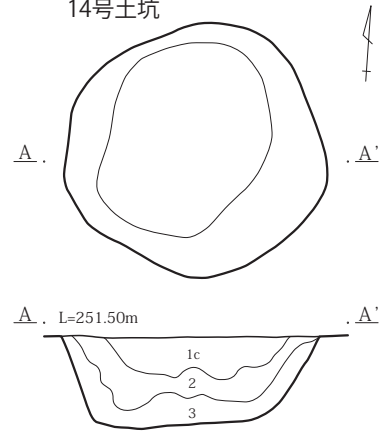
12号土坑



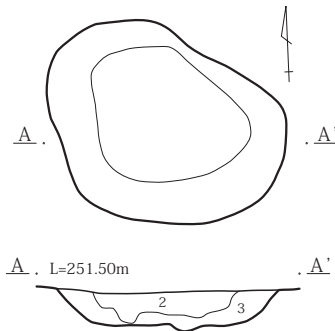
13号土坑



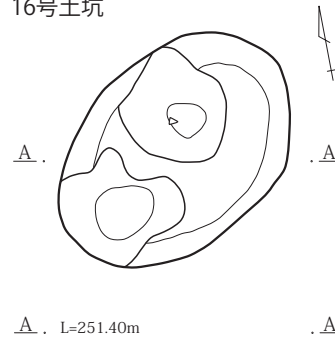
14号土坑



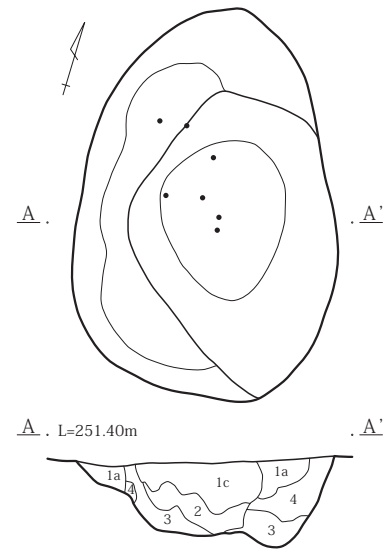
15号土坑



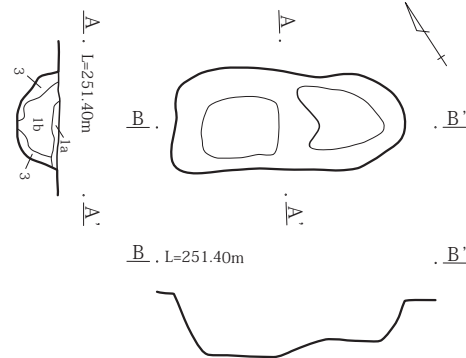
16号土坑



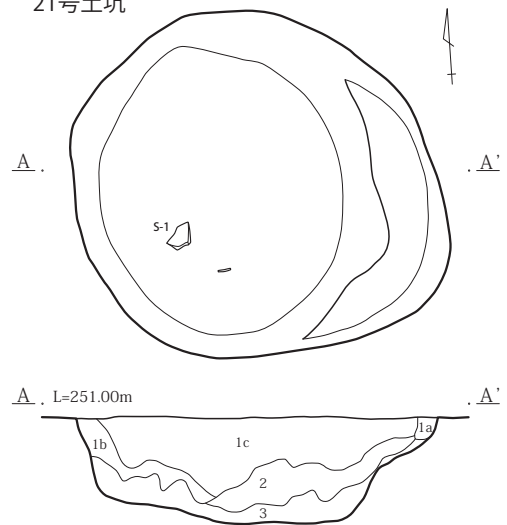
17号土坑



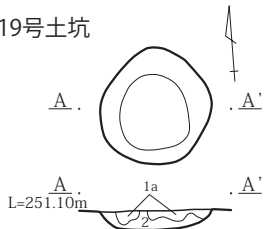
18号土坑



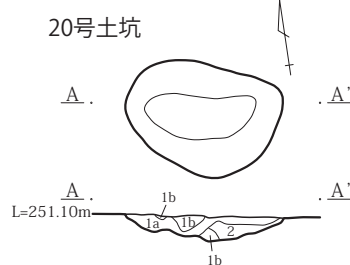
21号土坑



19号土坑

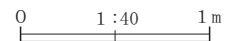


20号土坑



11~21号土坑

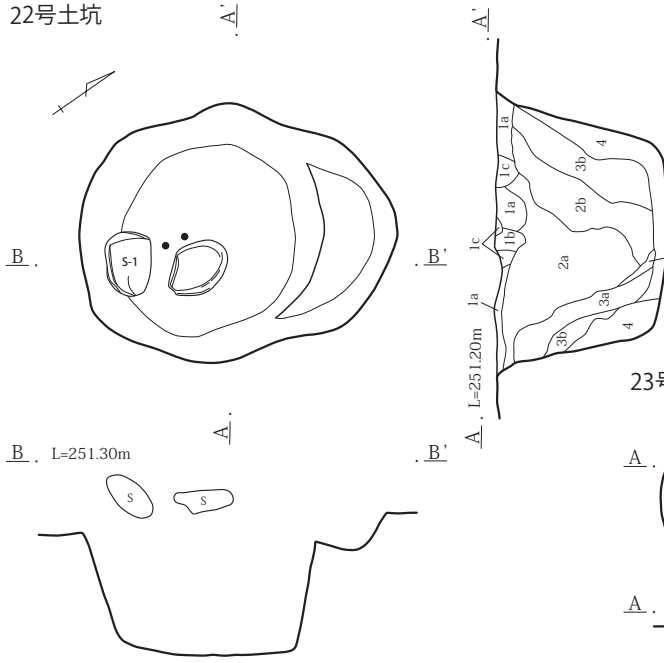
- 1a. 黒褐色土 IV層黒色土、しまり弱い。
- 1b. 黒褐色土 1a層より軽石粒多い。褐色土小ブロック混入。
- 1c. 黒褐色土 軽石粒を多く含む。
- 2. 暗褐色土 わずかに軽石・ローム小ブロック混入。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック+褐色土ブロック混合土。
- 4. 暗黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合土。ややしまりあり。



第302図 12区土坑(2)

第5章 第4面の検出遺構

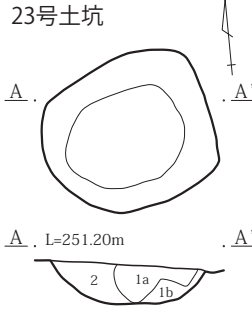
22号土坑



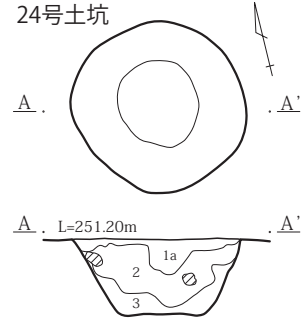
22号土坑

- 1a. 黒褐色土 IV層黒色土、しまり弱い。
- 1b. 黒褐色土 1a層より軽石粒多い。褐色土小ブロック混入。
- 1c. 黒褐色土 軽石粒を多く含む。
- 2a. 暗褐色土 わずかに軽石・ローム小ブロック混入。
- 2b. 2aよりも多くの黄褐色の粒子を含む。
- 3a. 褐色土 ロームブロック+褐色土ブロック混合土。
- 4a. 褐色土 3aよりロームブロックやや多い。
- 4b. 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。Sr粒混じり。(壁崩落土)

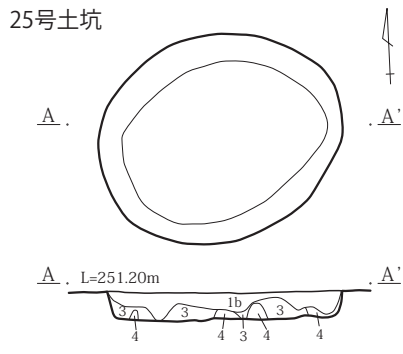
23号土坑



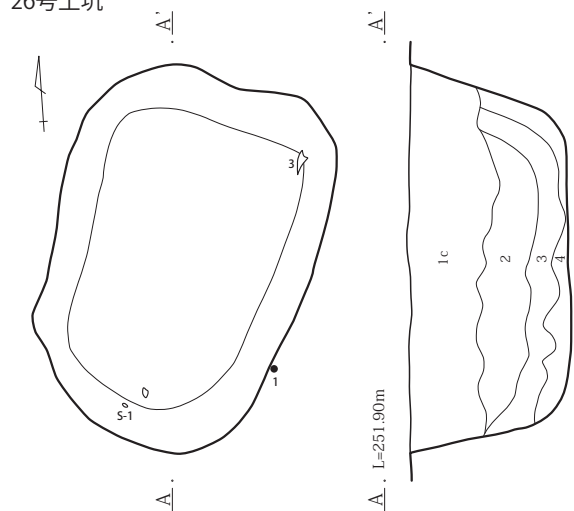
24号土坑



25号土坑



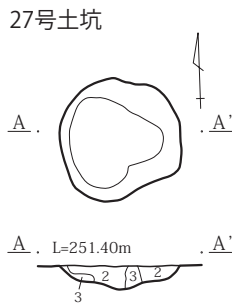
26号土坑



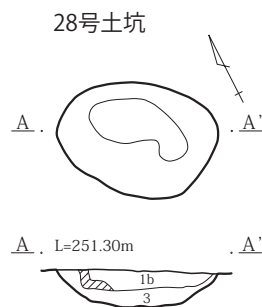
23~30号土坑

- 1a. 黒褐色土 IV層黒色土、しまり弱い。
- 1b. 黒褐色土 1a層より軽石粒多い。褐色土小ブロック混入。
- 1c. 黒褐色土 軽石粒を多く含む。
- 2. 暗褐色土 わずかに軽石・ローム小ブロック混入。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック+褐色土ブロック混合土。
- 4. 暗黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合土。ややしまりあり。

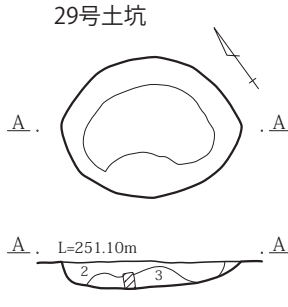
27号土坑



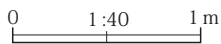
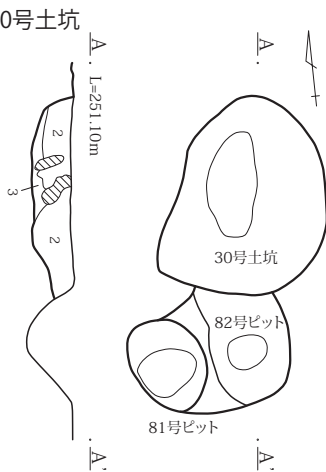
28号土坑



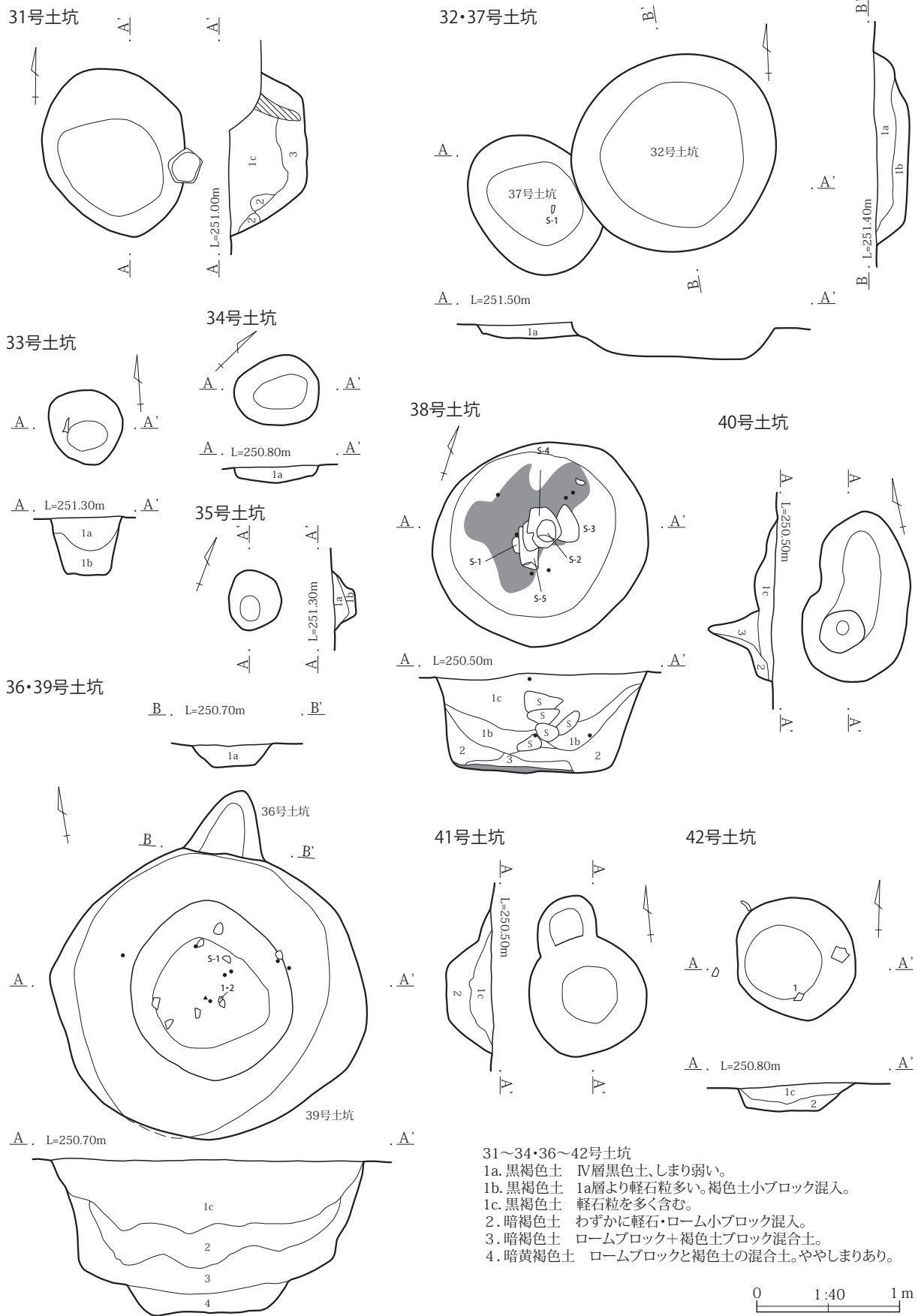
29号土坑



30号土坑



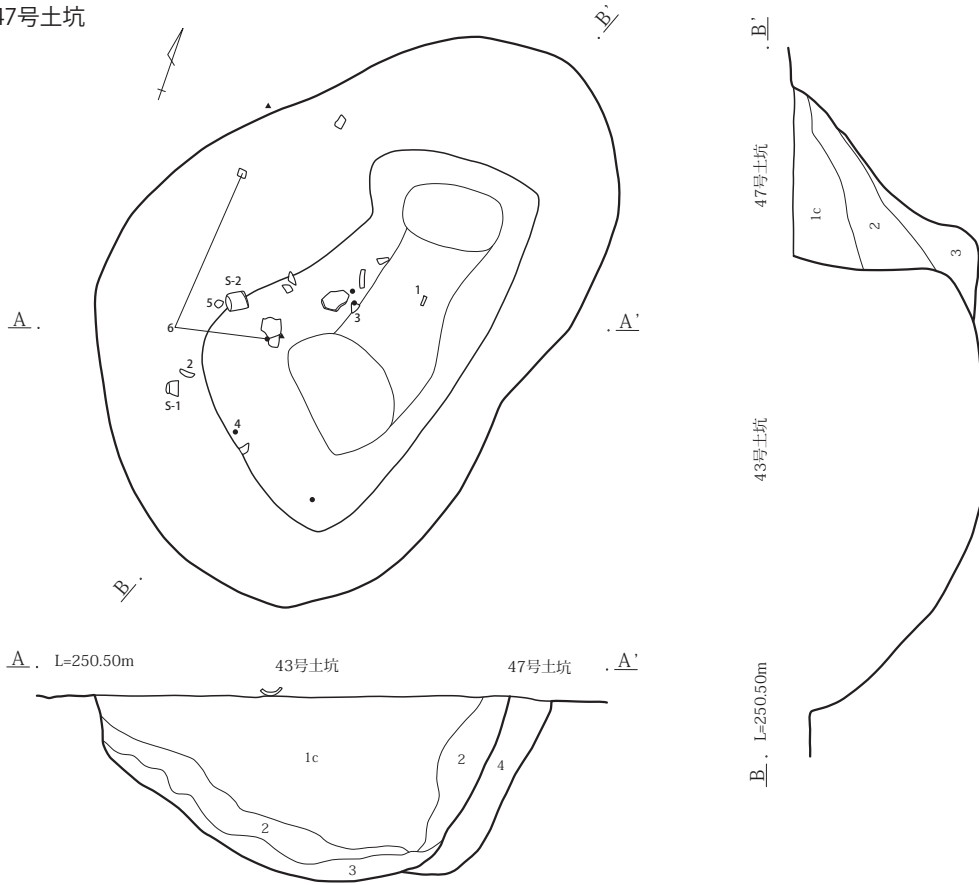
第303図 12区土坑 (3)



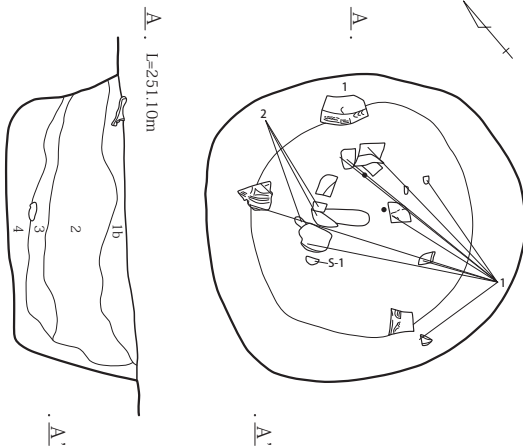
第304図 12区土坑 (4)

第5章 第4面の検出遺構

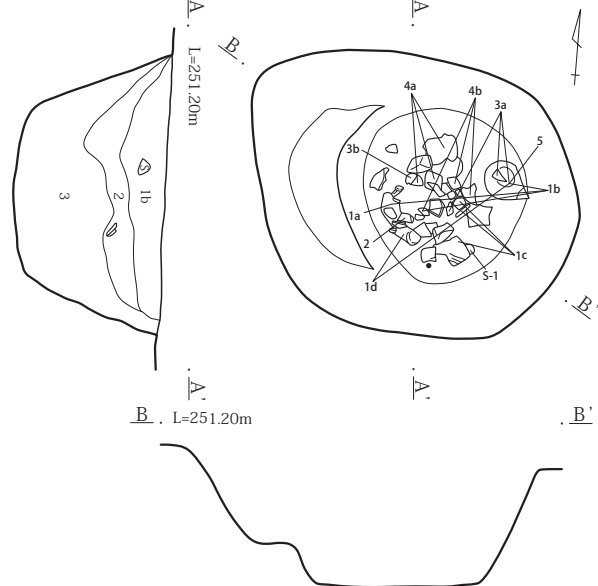
43・47号土坑



44号土坑

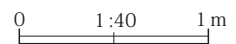


45号土坑



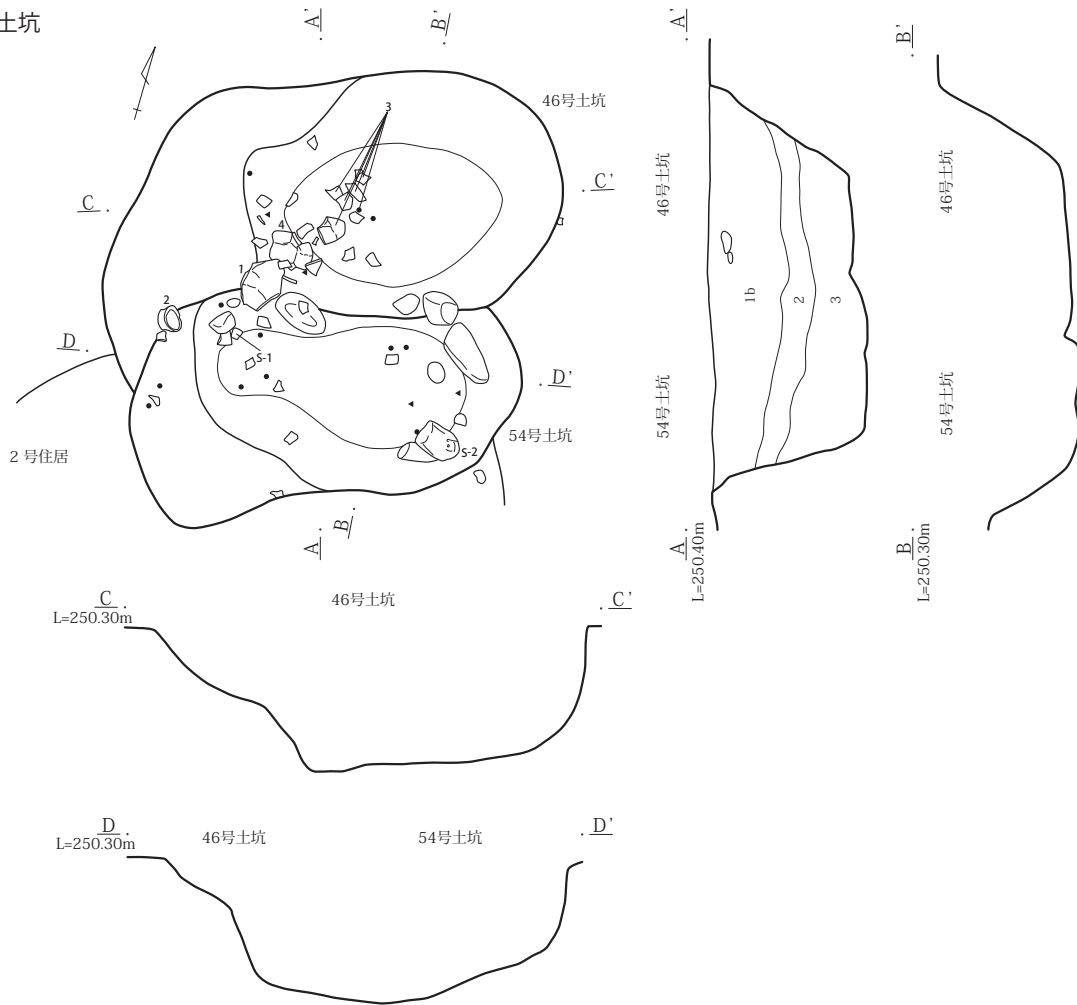
43～45・47号土坑

- 1a. 黒褐色土 IV層黒色土、しまり弱い。
- 1b. 黒褐色土 1a層より軽石粒多い。褐色土小ブロック混入。
- 1c. 黒褐色土 軽石粒を多く含む。
- 2. 暗褐色土 わずかに軽石・ローム小ブロック混入。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック+褐色土ブロック混合土。
- 4. 暗黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合土。ややしまりあり。

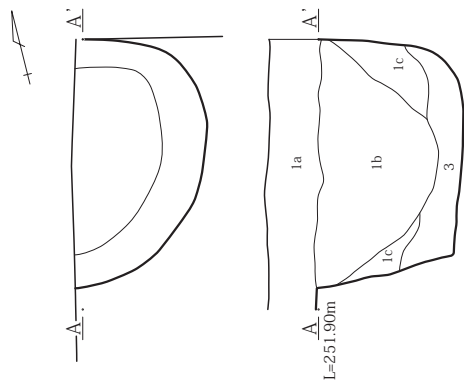


第305図 12区土坑(5)

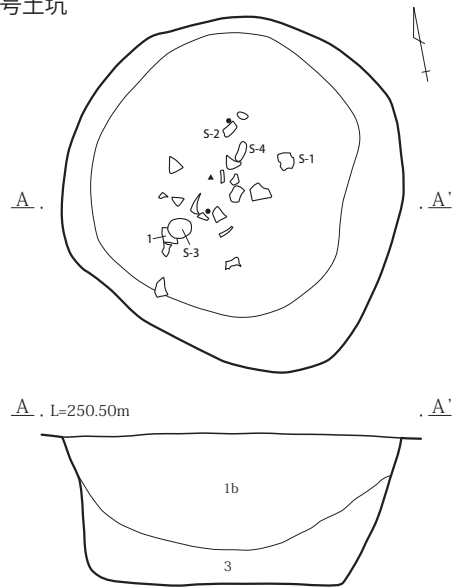
46・54号土坑



48号土坑

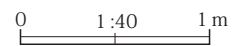


49号土坑



46・48・49・54号土坑

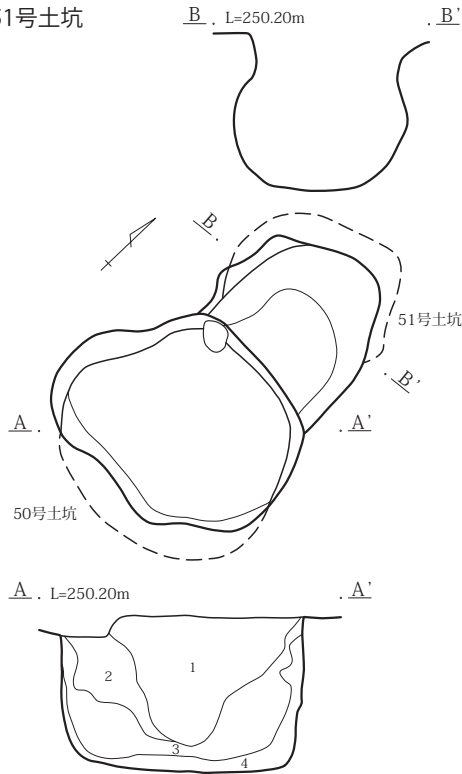
- 1a. 黒褐色土 IV層黒色土、しまり弱い。
- 1b. 黒褐色土 1a層より軽石粒多い。褐色土小ブロック混入。
- 1c. 黒褐色土 軽石粒を多く含む。
- 2. 暗褐色土 わずかに軽石・ローム小ブロック混入。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック+褐色土ブロック混合土。



第306図 12区土坑 (6)

第5章 第4面の検出遺構

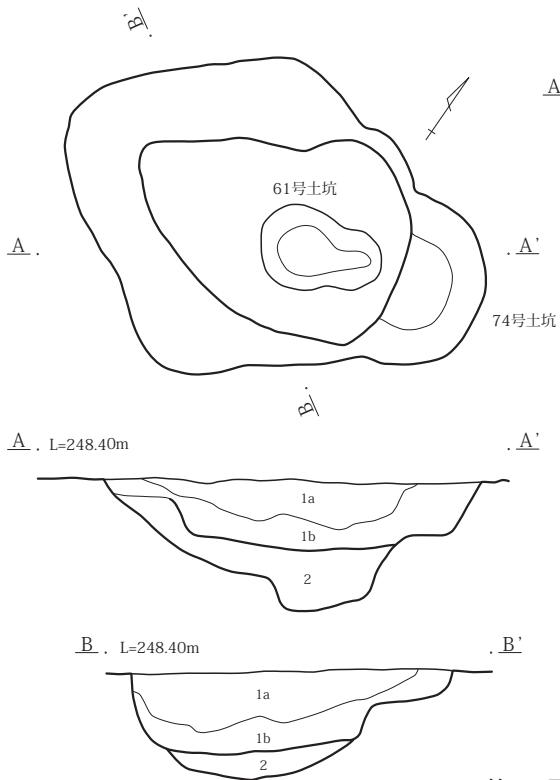
50・51号土坑



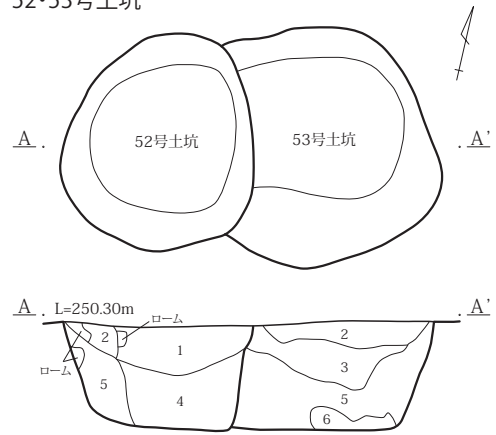
50号土坑

1. 黒褐色土 軽石粒を含む。
2. 黒褐色土 ローム粒を含む。
3. 黄褐色土 ロームブロック・ローム粒子を多く含む。
4. 暗黄褐色土 ロームブロックと褐色土の混合土。ややしまりあり。

61・74号土坑



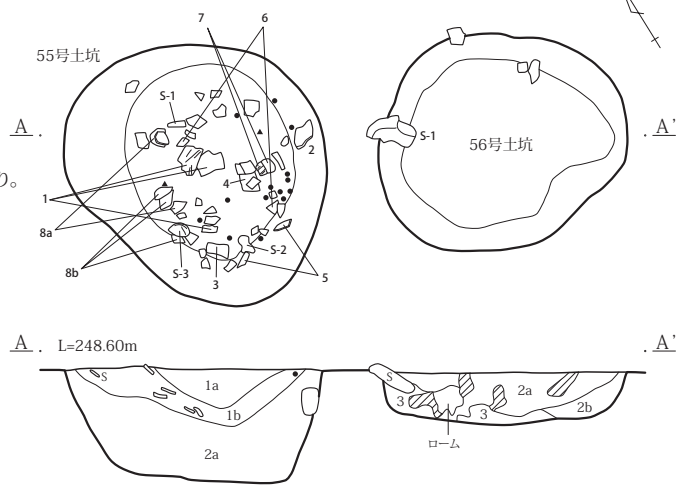
52・53号土坑



52・53号土坑

1. 暗褐色土 軽石粒を多く含む。
2. 暗褐色土 軽石粒を多く含む。ローム粒を多く含む。
3. 褐色土 ローム粒を多く含む。軽石粒を含む。
4. 暗褐色土 ロームブロックを含む。
5. 暗褐色土 ロームの粒子を含む。
6. 黄褐色土 ロームを多く含む。

55・56号土坑

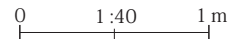


55・56号土坑

- 1a. 暗褐色土 軽石粒含む。
- 1b. 暗褐色土 土器片多く混入。
- 2a. 淡褐色土 くすんだロームに褐色ブロック混合土。
- 2b. 淡褐色土 くすんだロームに軽石少ない。
3. にぶい黄褐色土 ロームと淡褐色の混合土。

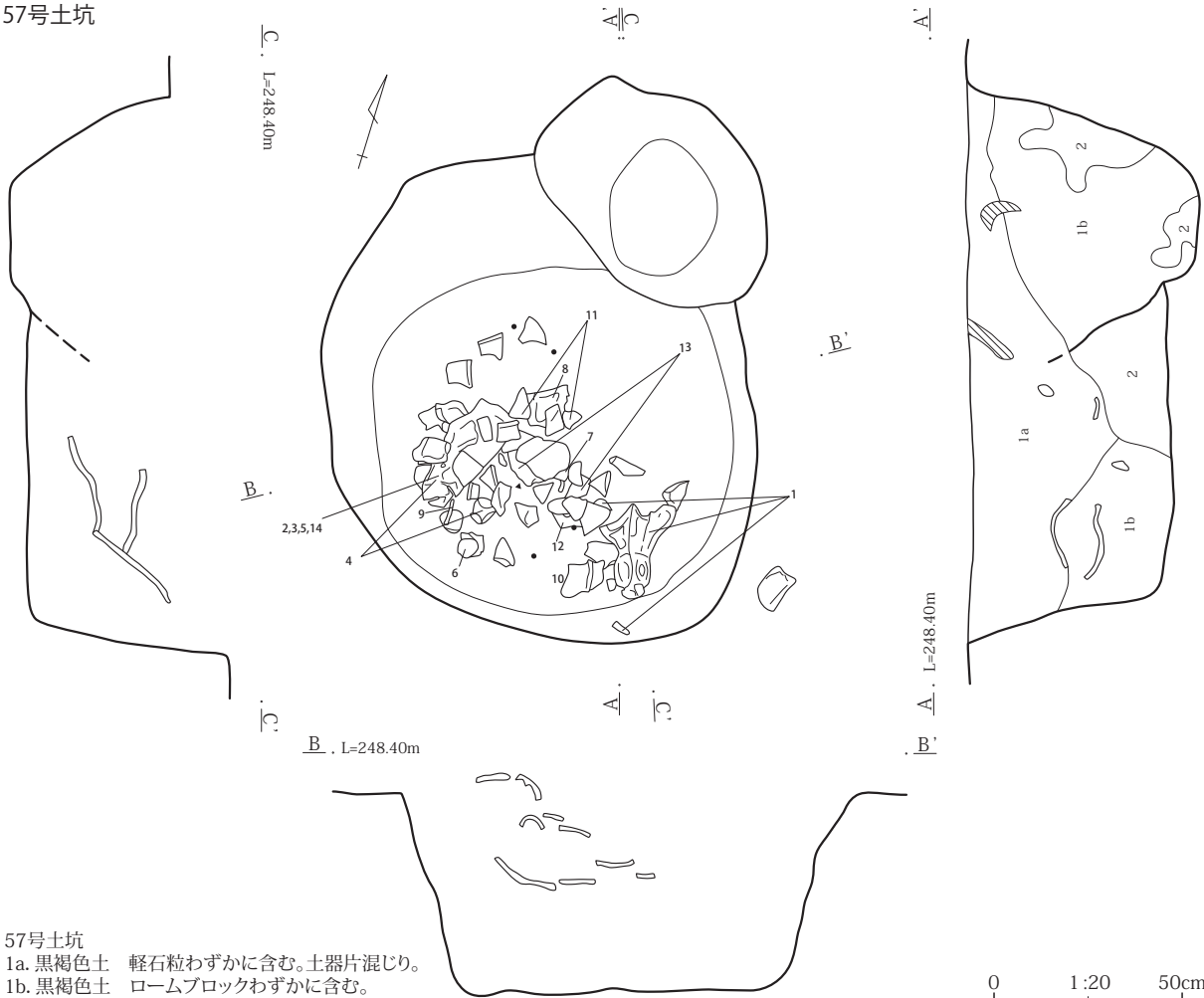
61・74号土坑

- 1a. 黒褐色土 軽石粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 軽石粒1aよりやや多く含む。
2. 褐色土 粘性のややある黒褐色土ブロック混じり、軽石粒含む。



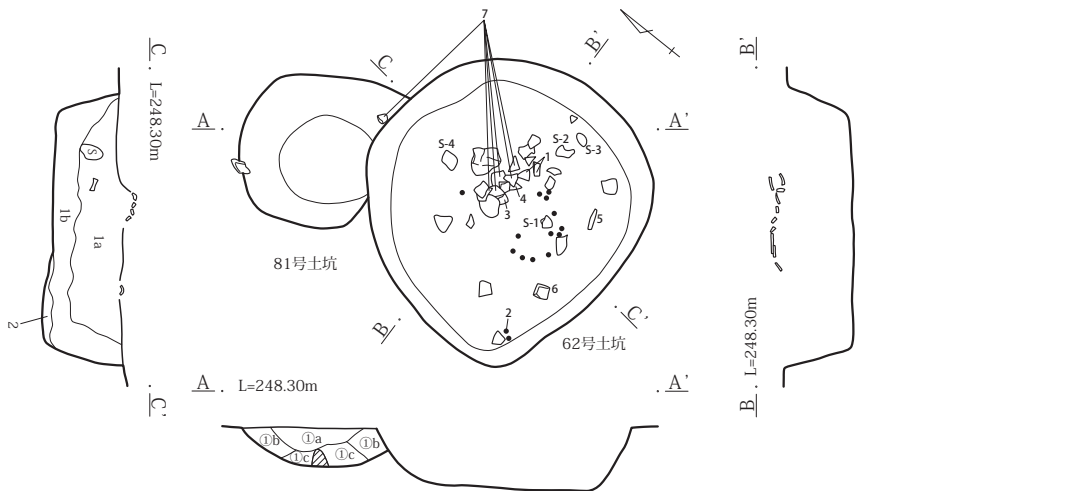
第307図 12区土坑(7)

57号土坑



57号土坑
 1a. 黒褐色土 軽石粒わずかに含む。土器片混じり。
 1b. 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。
 2. 暗褐色土 ロームブロック含む。

62・81号土坑



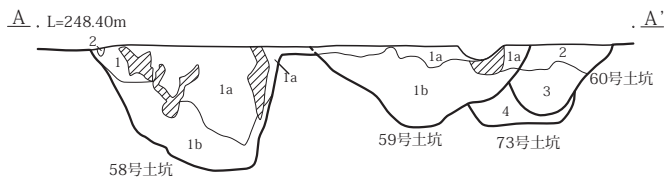
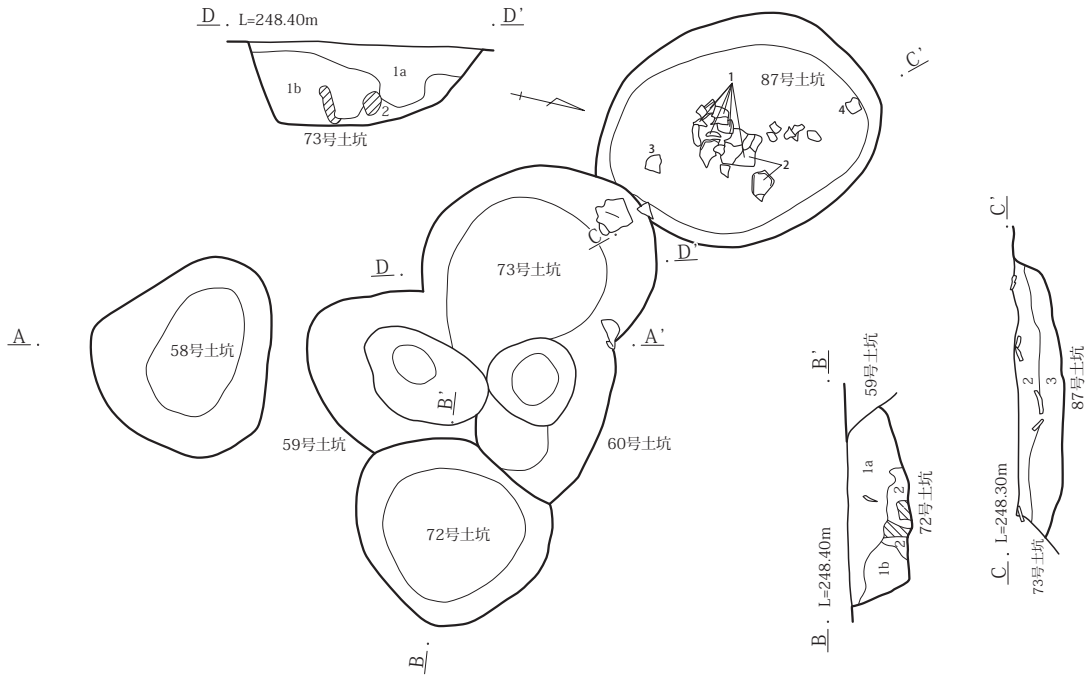
62号土坑
 1a. 黒褐色土 軽石ほとんど含まない。
 1b. 黒褐色土 ロームブロック含む、軽石は含まない。
 2. 暗褐色土 ロームブロック混じり。

81号土坑
 ①a. 暗褐色土 土質均質、軽石は含まない。
 ①b. 暗褐色土 ロームブロックわずかに混入。
 ①c. 暗褐色土 ロームブロックやや多く混入。

第308図 12区土坑(8)

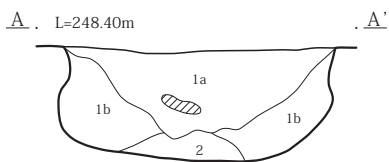
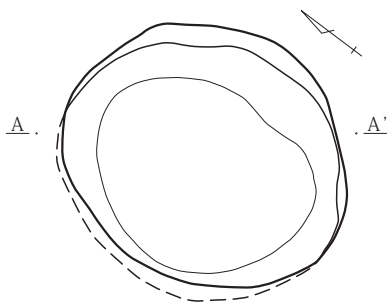
第5章 第4面の検出遺構

58~60・72・73・87号土坑

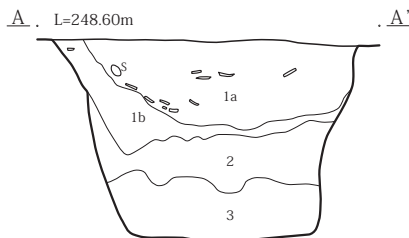
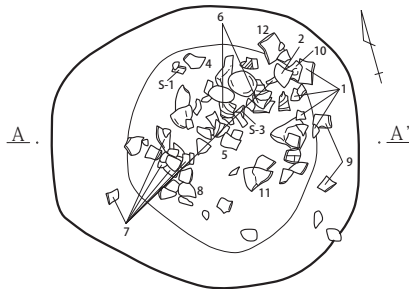


58~60・72・73・87号土坑
 1a. 黒褐色土 軽石粒わずかに含む。
 1b. 黒褐色土 軽石粒1aよりやや多く含む。
 2. 褐色土 粘性のややある黒褐色土ブロック混じり、軽石粒含む。
 3. 褐色土 ロームブロック・軽石粒含む。
 4. 暗黄褐色土 ロームブロック多量に含む。

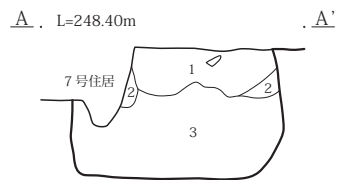
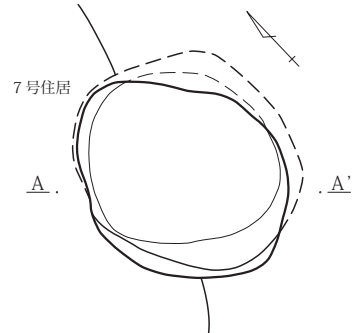
63号土坑



64号土坑



67号土坑

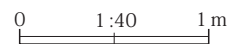


63・64号土坑

1a. 黒褐色土 軽石粒わずかに含む。
 1b. 黒褐色土 ロームブロック含み、軽石粒1aよりやや多い。
 2. 褐色土 黒褐色土ブロック混じり。
 3. 褐色土 黒褐色土ブロックとロームブロック混土。

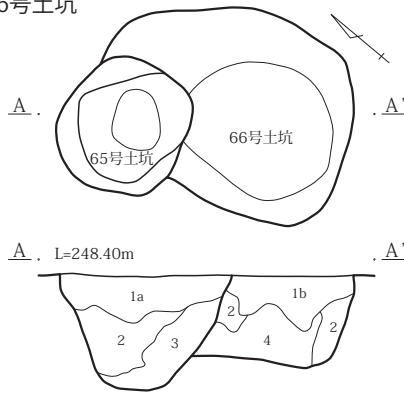
67号土坑

1. 褐色土 焼土粒、小ブロック含む。
 2. にぶい褐色土 ローム小ブロック混合土。
 3. 黄褐色土 Si粒を多量に含む。ローム混合土。



第309図 12区土坑 (9)

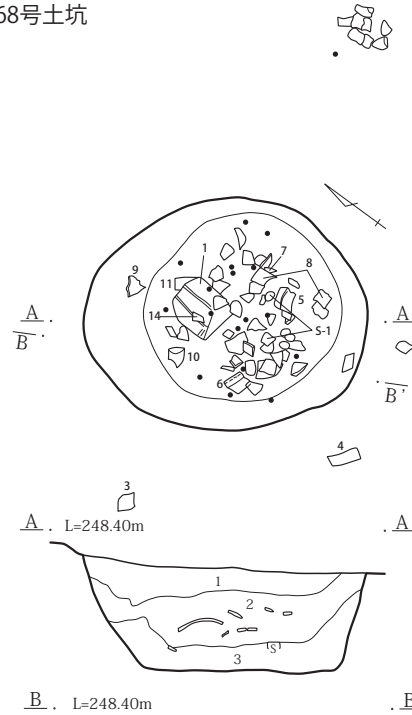
65・66号土坑



65・66号土坑

- 1a. 黒褐色土 軽石粒少ない。
- 1b. 黒褐色土 1aにロームブロック少量混入。
- 2. 暗褐色土 軽石粒わずかに含み、ローム小ブロック含む。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 4. 暗褐色土 ロームブロック多量に含む。

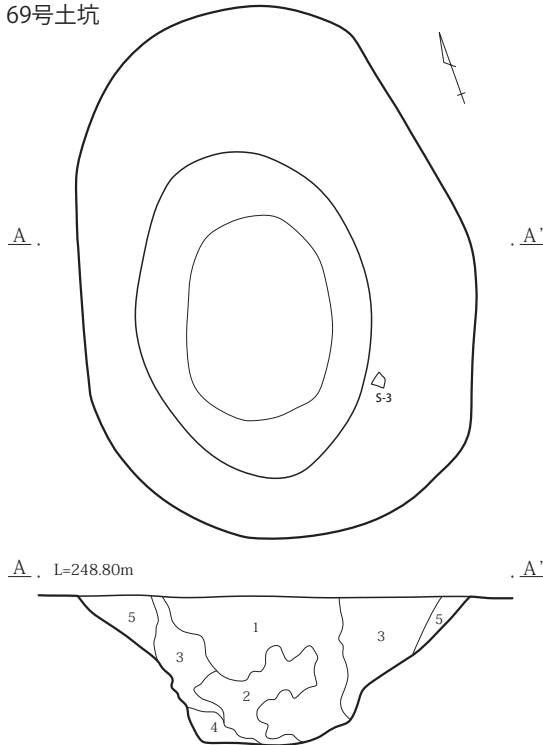
68号土坑



68号土坑

- 1. 黒褐色土 軽石粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 土器片多く含む、ロームブロック含む。
- 3. 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

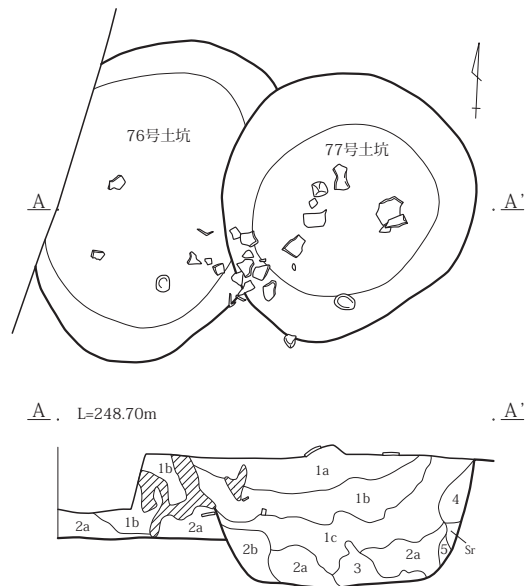
69号土坑



69号土坑

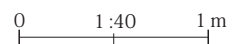
- 1. 明黄褐色 ロームにSr粒を多量に含む。褐色土混じり。
- 2. 褐色土 ロームブロック・Sr粒小ブロック混合土。
- 3. にぶい褐色土 ロームと褐色土混入土。Sr粒を多く含む。
- 4. にぶい黄褐色土 粘質ロームブロックと褐色混合土。
- 5. にぶい褐色土 ローム・ロームブロック混合土。

76・77号土坑



76・77号土坑

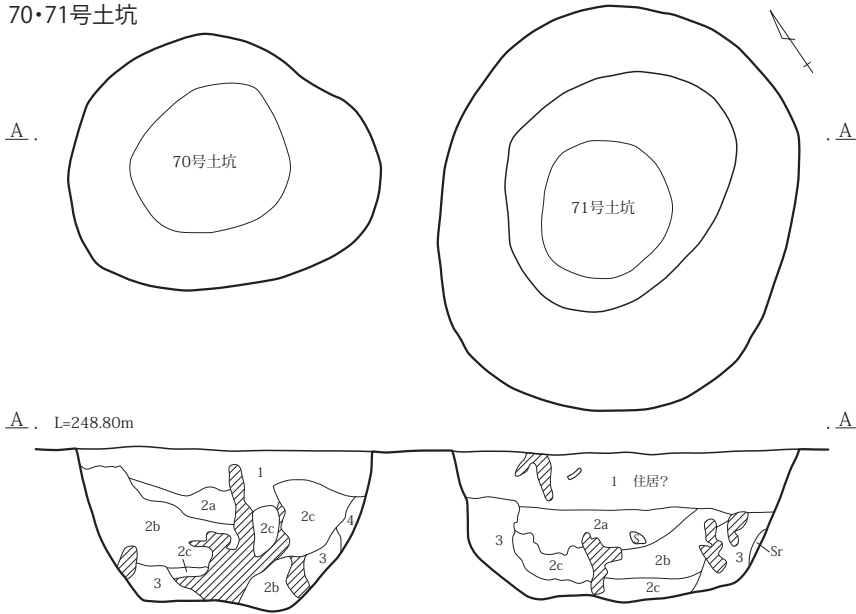
- 1a. 暗褐色土 土器片多く含む。しまり弱く、Sr粒わずかに含む。
- 1b. 暗褐色土 Sr粒を含み、くすんだロームと褐色土混じり。
- 1c. 暗褐色土 Sr粒を多量に含み、黒色ブロック混じり。
- 2a. くすんだ褐色石混じりの褐色土にロームブロック混入。
- 2b. " 2aより軽石少なく、しまり弱い。
- 3. にぶい黄褐色土 ロームブロックに軽石多量に含む。
- 4. にぶい黄褐色土 くすんだロームブロック主体。
- 5. にぶい黄褐色土 粘性強いよごれたローム。



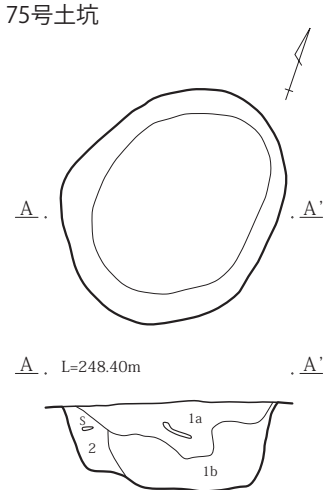
第310図 12区土坑(10)

第5章 第4面の検出遺構

70・71号土坑



75号土坑



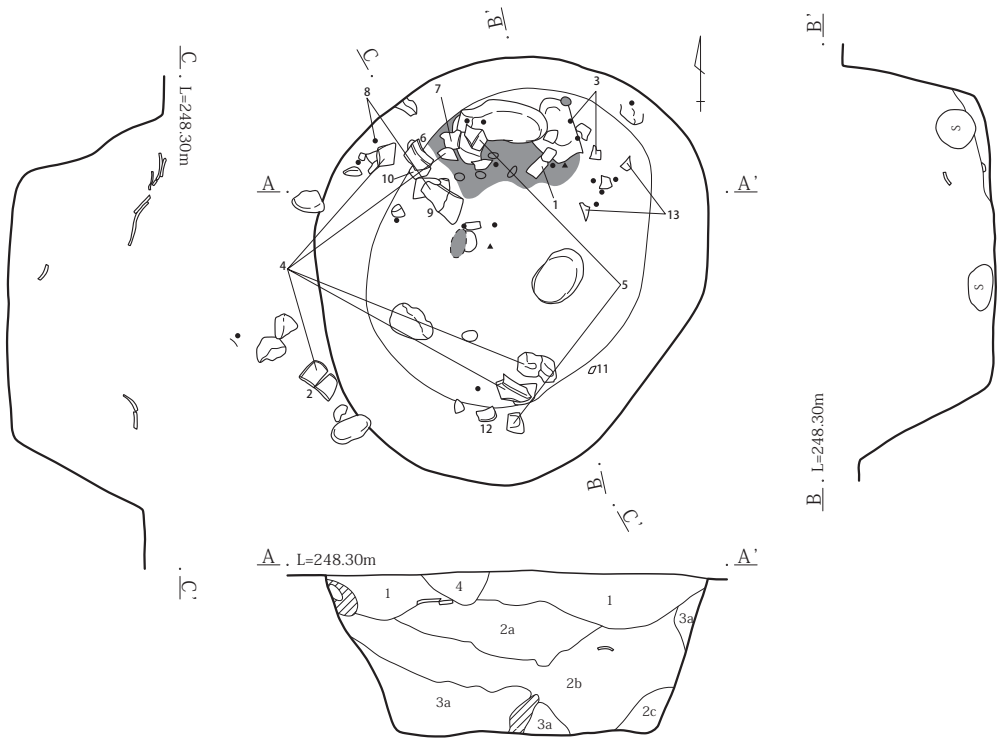
70・71号土坑

1. 暗褐色土 土器片含む。Sr粒含み、ロームと暗褐色土の混合土。
- 2a. にぶい褐色土 Sr粒含み、ロームと暗褐色土の混合土。
- 2b. にぶい褐色土 2aよりローム多く含む。
- 2c. にぶい褐色土 ローム2bより多く含む。
3. にぶい黄褐色土 ローム主体。暗褐色混じり、Sr粒ブロック混合土。
4. ローム漸移層

75号土坑

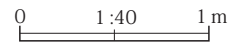
- 1a. 暗褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 暗褐色土 1aにローム小ブロック含む。ややしまりあり。
2. 褐色土 ロームブロック・Sr粒混じる。

78号土坑



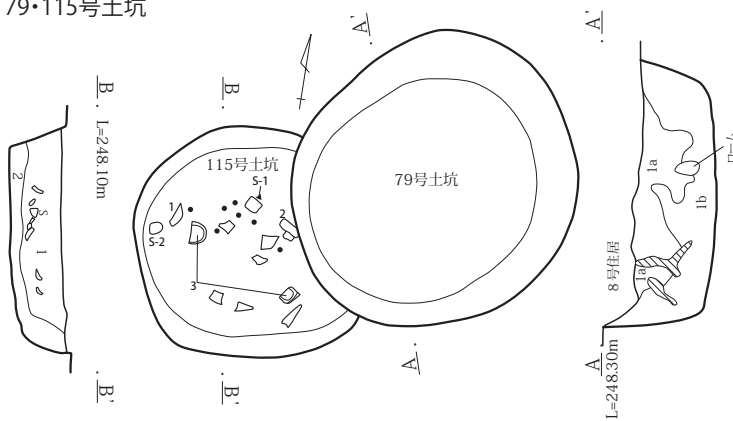
78号土坑

1. 褐色土 土器片含む。軽石粒含み、しまり弱い。
- 2a. くすんだ褐色土 軽石粒多く含む。くすんだロームに褐色土混じり。
- 2b. くすんだ褐色土 2aより軽石多く混じる。ロームブロック含む。
- 2c. くすんだ褐色土 軽石・ロームブロック混合土。
- 3a. にぶい黄褐色土 Sr粒ブロック・ロームブロック混合土。わずかに炭粒含む。
4. 黒褐色土 白色軽石粒含む。



第311図 12区土坑(11)

79・115号土坑



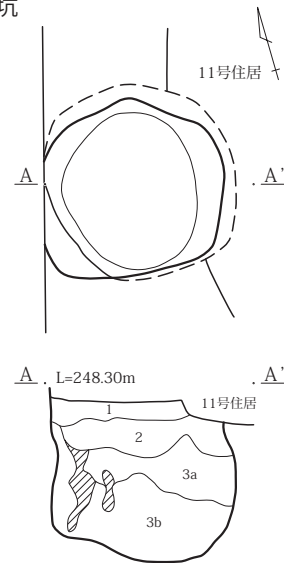
79号土坑

- 1a. 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
- 1b. にぶい褐色土 くすんだロームと褐色土の混合土。Sr粒を多く含む。

115号土坑

- 1. 暗褐色土 土器片混じり。Sr粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 Sr粒わずかに含み、ロームブロック含む。

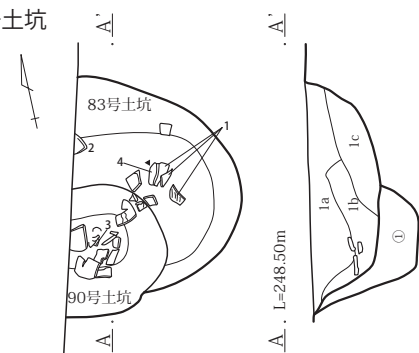
80号土坑



80号土坑

- 1. 暗褐色土 わずかに軽石粒含む。
- 2. 淡褐色土 Sr粒含み、くすんだロームブロックと1層混合土。
- 3a. にぶい黄褐色土 Sr粒を多量に含み、くすんだロームに褐色ブロックの混合土。
- 3b. にぶい黄褐色土 3aよりローム・軽石粒多く含み、しまり弱い。

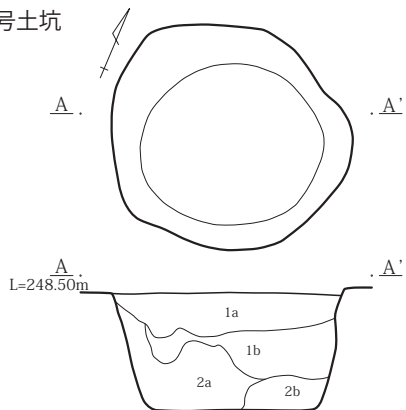
83・90号土坑



83・90号土坑

- 1a. 黒褐色土 IV層の黒色土混入。
- 1b. 黒褐色土 ローム小ブロック混じる。
- 1c. 黒褐色土 ローム粒含む。
- ①. 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。Sr粒含む。

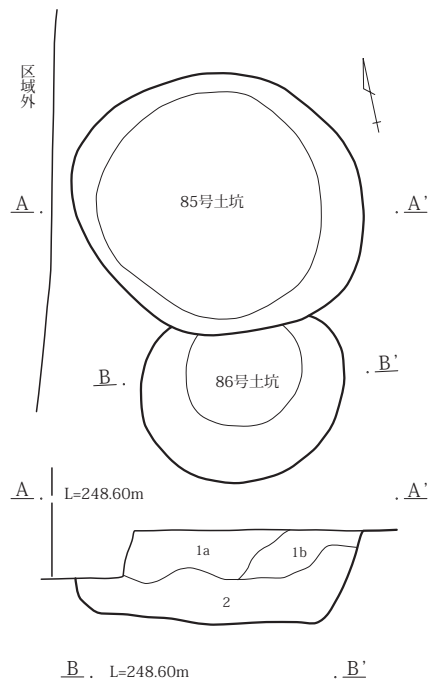
84号土坑



84号土坑

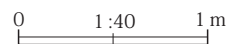
- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 Sr粒を1aよりやや多く含む。
- 2a. 褐色土 Sr粒含む。
- 2b. 褐色土 ローム小ブロックわずかに含む。

85・86号土坑



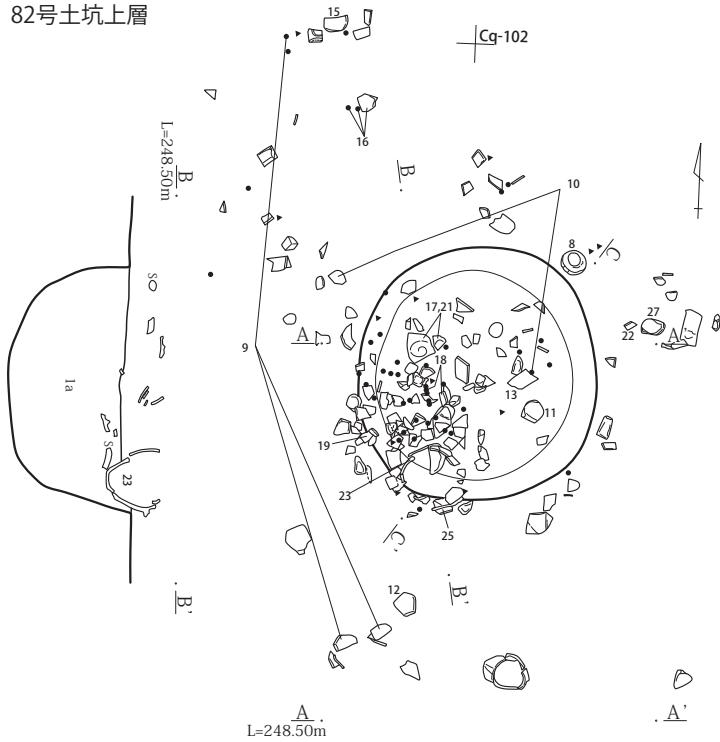
85号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 Sr粒わずかに含み、ロームブロック含む。
- 2. 暗褐色土 ロームブロック混じる。

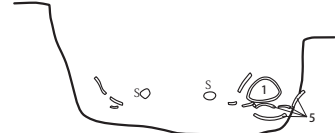
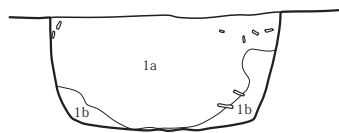
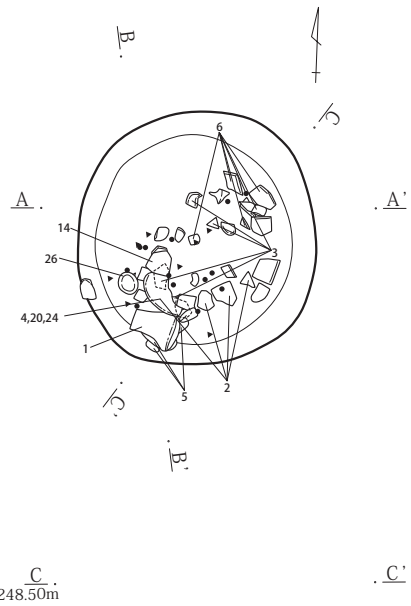


第312図 12区土坑 (12)

82号土坑上層

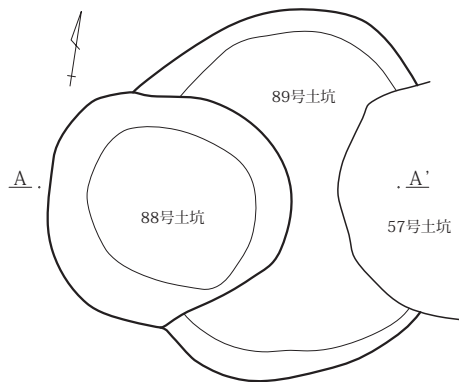


82号土坑下層

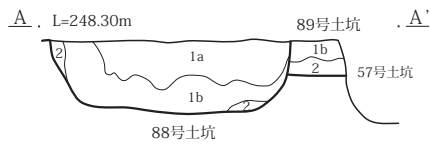
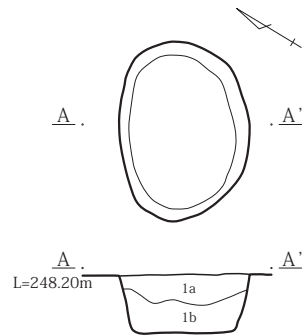


82号土坑
 1a. 黒褐色土 土器片多量に含む。
 1b. 黒褐色土 Sr粒含む。炭粒わずかに含む。

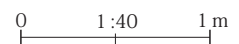
88・89号土坑



91号土坑

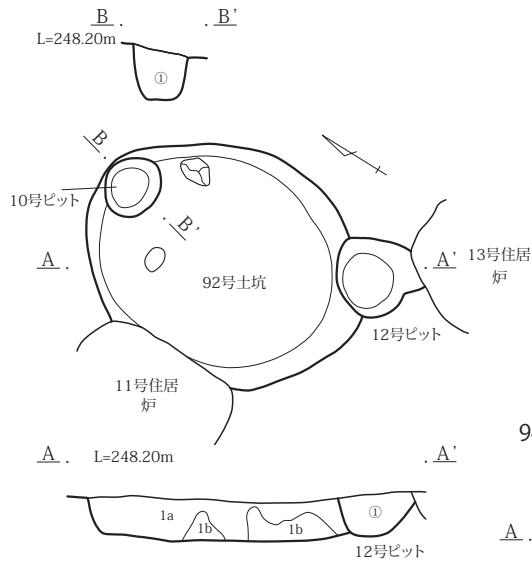


88・89・91号土坑
 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
 1b. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む、ロームブロック含む。
 2. 暗褐色土 ロームブロックく混じる。

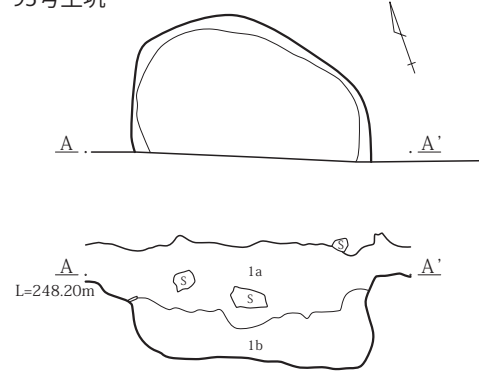


第313図 12区土坑 (13)

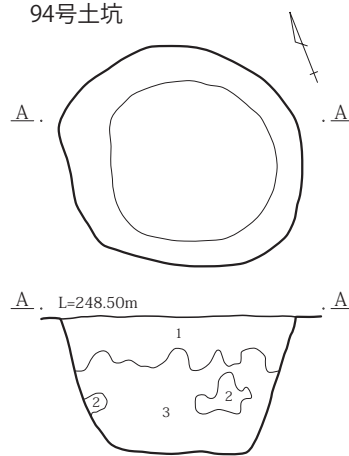
92号土坑



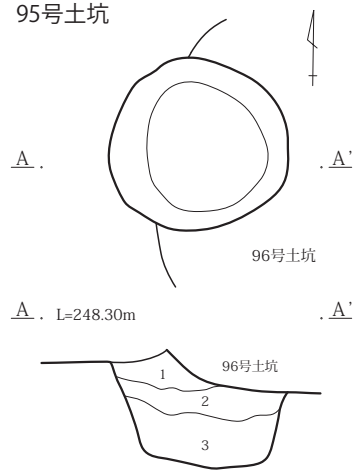
93号土坑



94号土坑



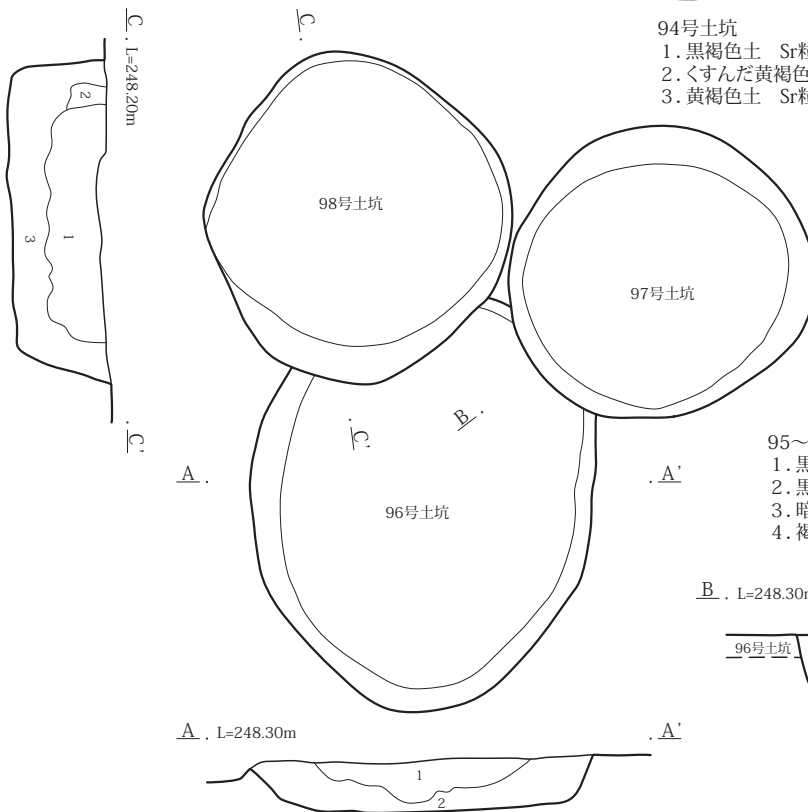
95号土坑



92・93号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む、ロームブロック含む。
- ①. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。しまり弱い。

96～98号土坑



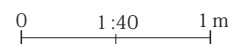
94号土坑

- 1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 2. くすんだ黄褐色土 Sr粒と暗褐色土の混土。
- 3. 黄褐色土 Sr粒主体。暗褐色土と黒色土ブロック含む。

95～98号土坑

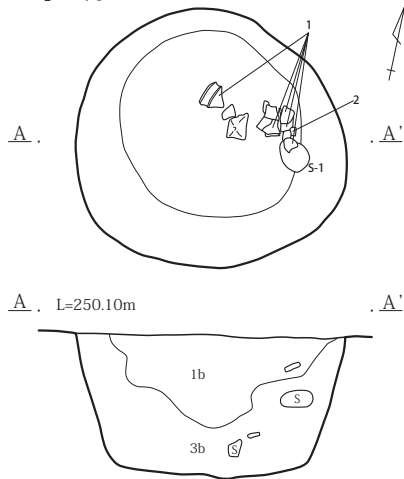
- 1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 2. 黒褐色土 Sr粒含む。
- 3. 暗褐色土 Sr粒含む、ロームブロック少量混入。
- 4. 褐色土 Sr粒・ロームブロック混じり。

第314図 12区土坑 (14)

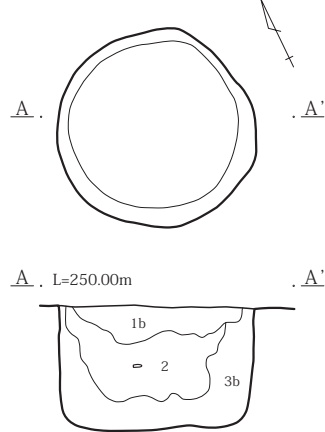


第5章 第4面の検出遺構

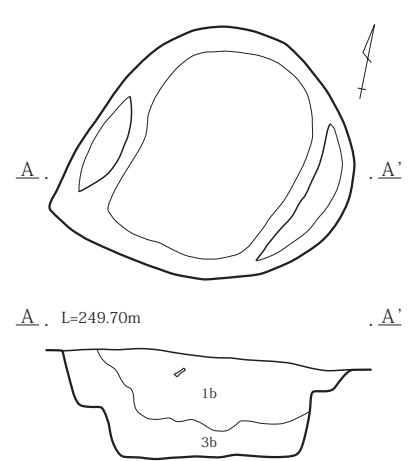
99号土坑



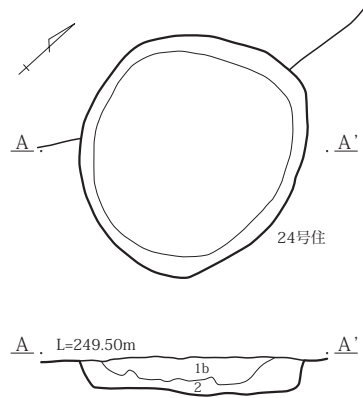
100号土坑



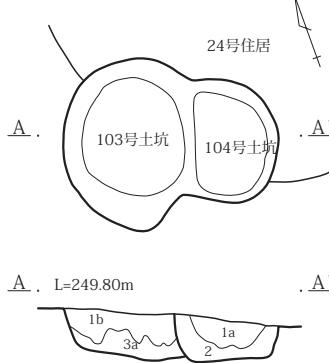
101号土坑



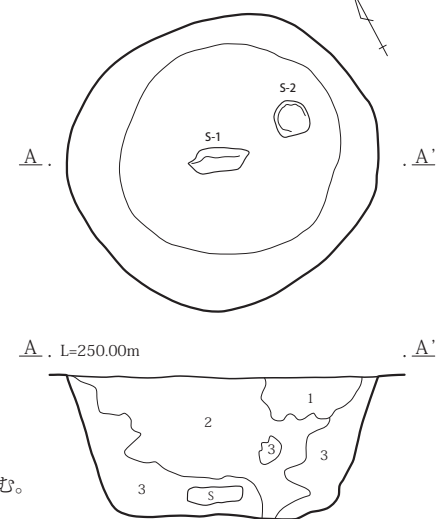
102号土坑



103・104号土坑



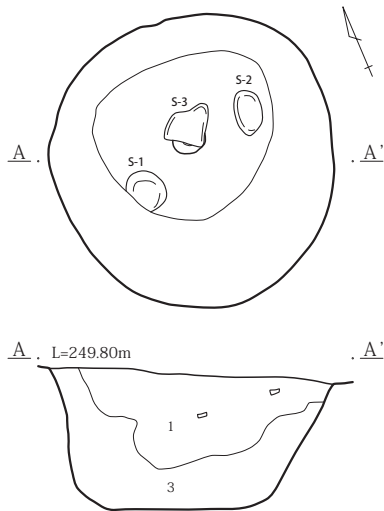
105号土坑



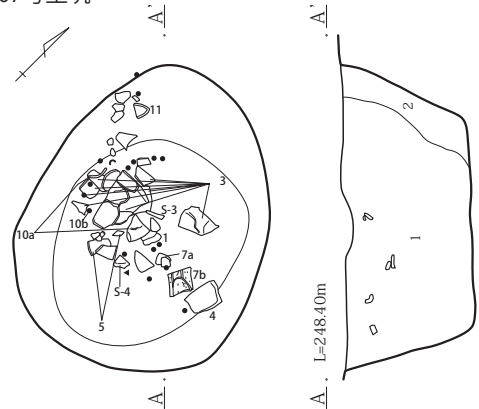
99~104号土坑

- 1a. 黒褐色土 夾雑物ほとんど含まない。
- 1b. 黒褐色土 Srわずかに含む。
- 2. 黒褐色土 Srわずかに含む、ロームブロック少量含む。
- 3a. 黒褐色土 Srわずかに含む、ロームブロック混じり。
- 3b. 暗褐色土 Sr粒・ロームブロック混じり。

106号土坑



107号土坑



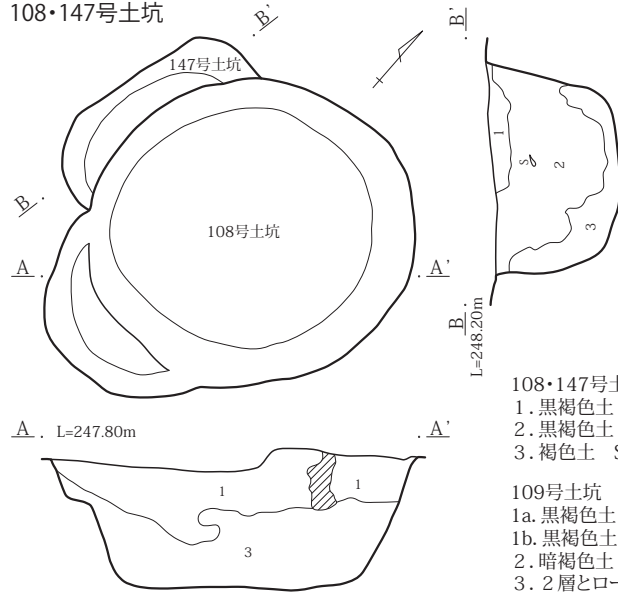
105~107号土坑

- 1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。(106土坑 遺物多く含む)
- 2. 暗褐色土 黒褐色土ブロック多量に含む。Sr粒含む。
- 3. 暗褐色土 2層にロームブロック混じる。

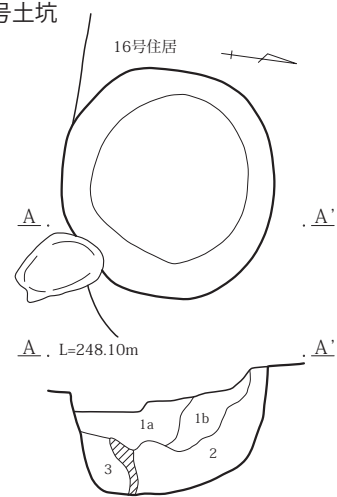
0 1:40 1m

第315図 12区土坑(15)

108・147号土坑



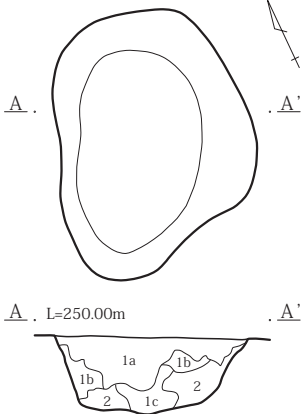
109号土坑



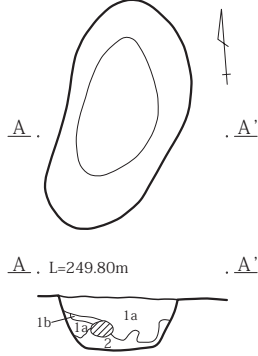
108・147号土坑
 1. 黒褐色土 Sr粒含む。
 2. 黒褐色土 Sr粒・ローム粒少量混じる。
 3. 褐色土 Sr粒・ロームブロック混じり。

109号土坑
 1a. 黒褐色土
 1b. 黒褐色土
 2. 暗褐色土 ローム粒大含む。
 3. 2層とロームの混合土層。

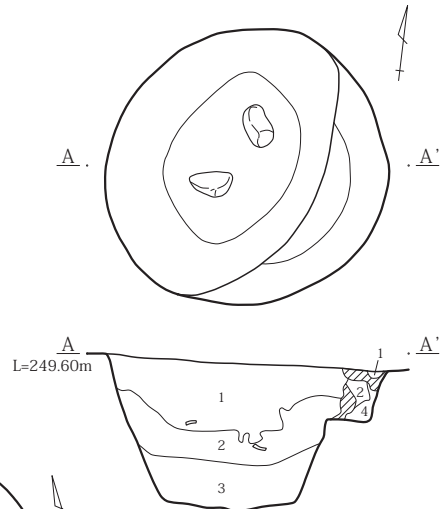
110号土坑



111号土坑



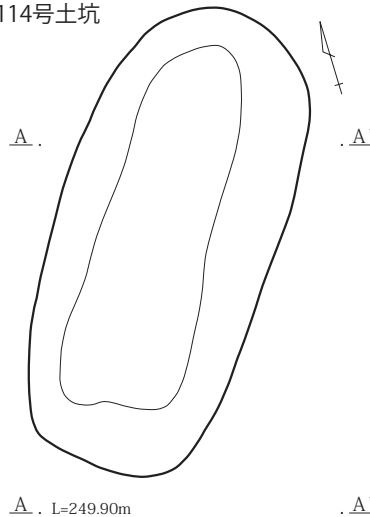
112号土坑



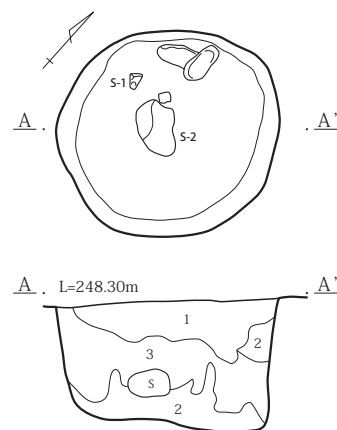
110・111号土坑

1a. 暗褐色土 ローム混じり。
 1b. 1aよりローム多く入る。
 1c. くすんだ黄褐色土 ロームと暗褐色土の混土。
 2. 黄褐色土 ローム主体。褐色土ブロック混じる。

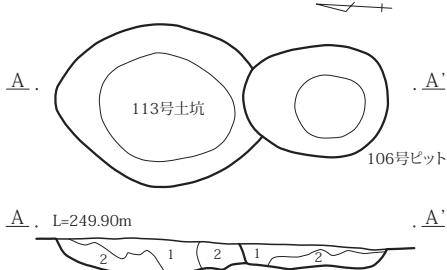
114号土坑



116号土坑

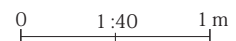


113号土坑



112～114・116号土坑

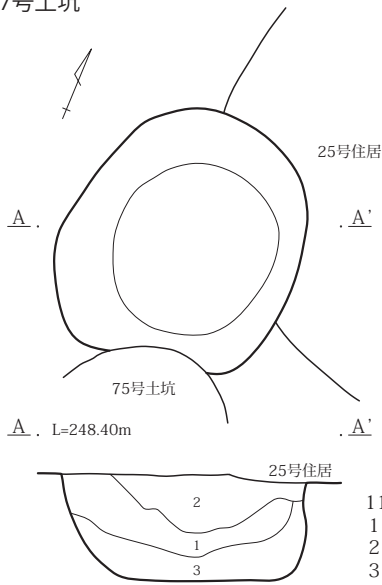
1. 黒褐色 わずかに軽石粒含む。
 2. 暗褐色土 わずかに軽石粒含む。
 3. 暗褐色土とロームの混土。
 4. 暗黄褐色土 ロームに暗褐色土混じり。



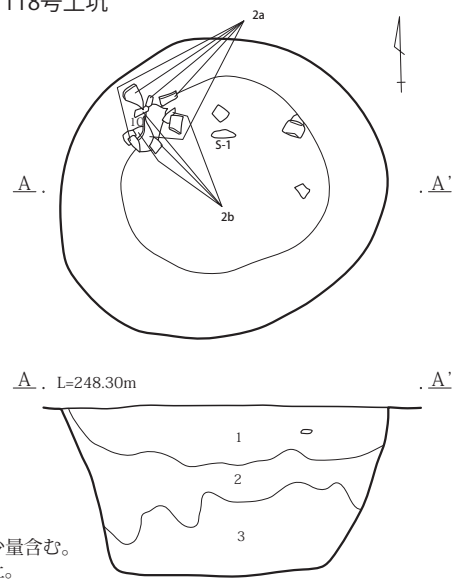
第316図 12区土坑(16)

第5章 第4面の検出遺構

117号土坑



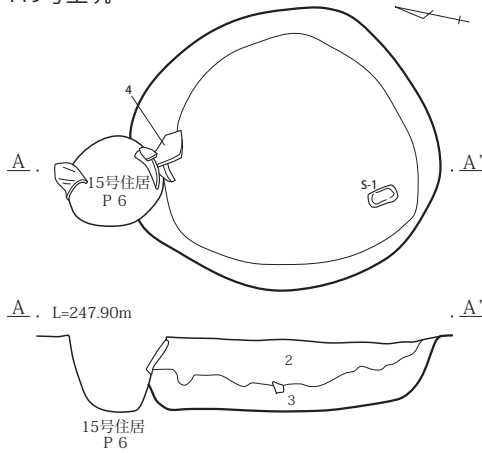
118号土坑



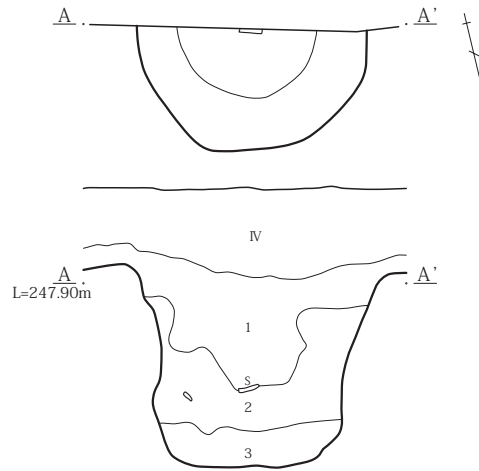
117~120号土坑

- 1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 Sr粒・ロームブロック少量含む。
- 3. 褐色土 Sr粒少量含むローム質土。

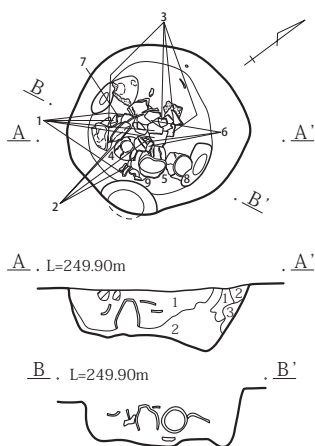
119号土坑



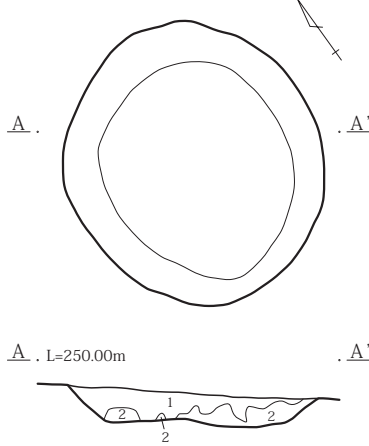
120号土坑



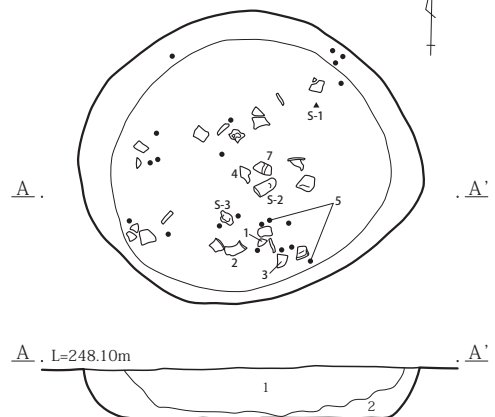
121号土坑



122号土坑



123号土坑

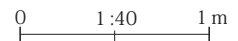


121号土坑

- 1. 暗褐色土 土器片多く含む。(完形品も多く、収納用土坑か)
- 2. 暗褐色土 ローム小ブロックわずかに含む。
- 3. 褐色土 Sr粒・ローム含む。

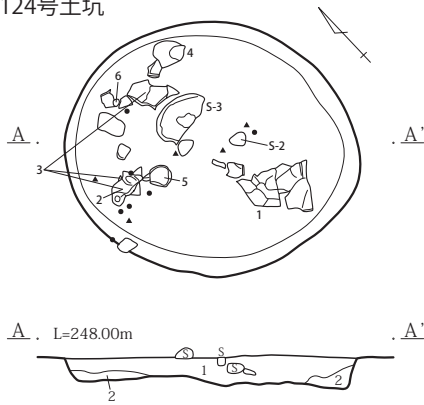
122~123号土坑

- 1. 黒褐色土 軽石わずかに見られる。
- 2. 暗褐色土 軽石わずかに含む。



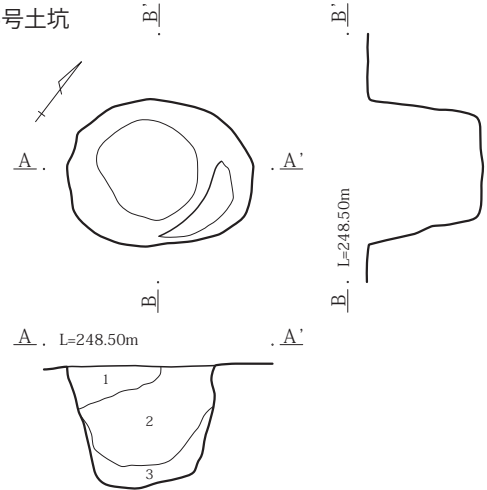
第317図 12区土坑 (17)

124号土坑

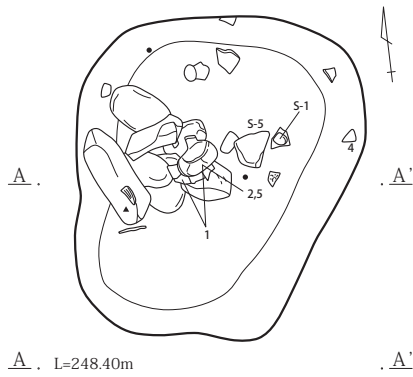


124号土坑
1. 黒褐色土 軽石わずかに見られる。
2. 暗褐色土 軽石わずかに含む。

125号土坑

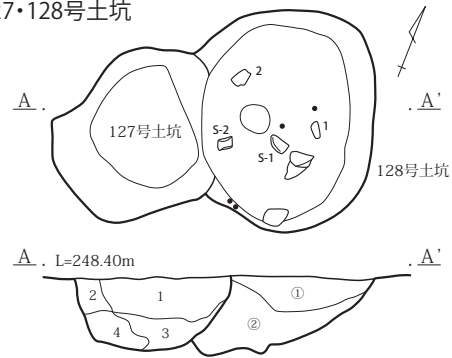


126号土坑

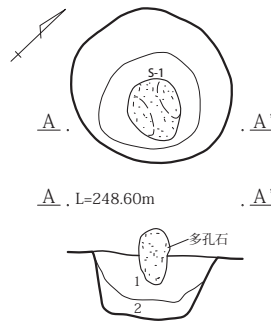


125・126号土坑
1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
2. 黒褐色土 Sr粒・ローム粒含む。
3. 暗褐色土 ローム小ブロック混じり。

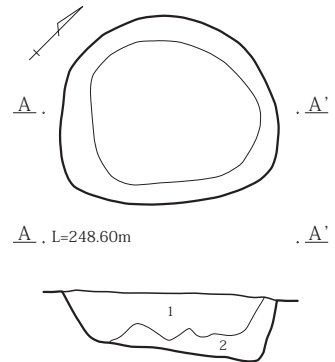
127・128号土坑



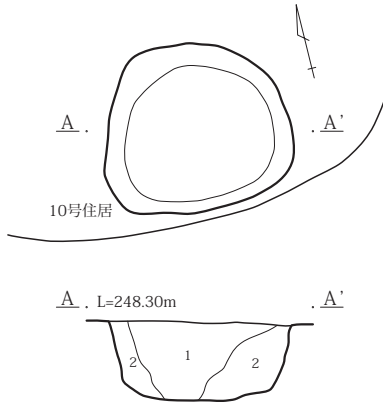
129号土坑



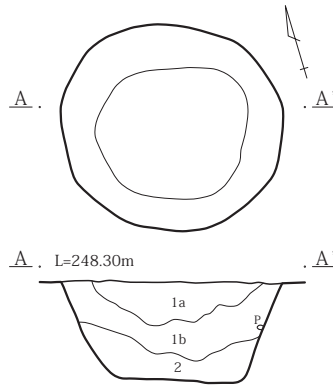
130号土坑



131号土坑

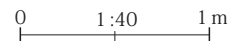


132号土坑



127～131号土坑
1. 暗褐色土 Sr粒わずかに見られる。
2. 暗褐色土 Sr粒・ロームブロック含む。
3. 2層とローム小ブロックとの混土。
4. 2層とロームの混土。
①. 暗褐色土 Sr粒含む。
②. ①層に比してSr粒多く含む。

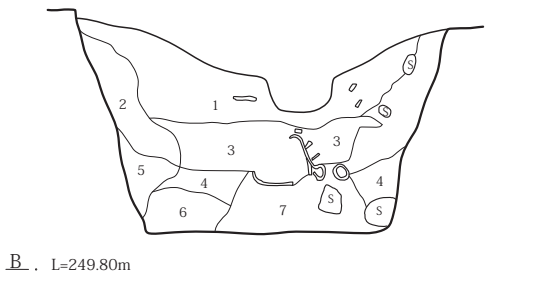
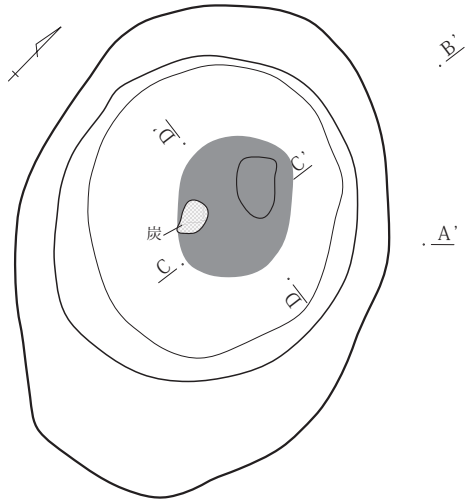
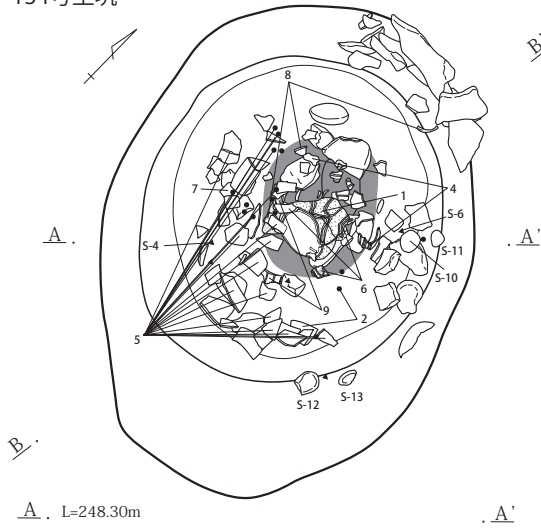
132・133号土坑
1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
1b. 黒褐色土 1aにローム粒含む。
2. 暗褐色土 Sr粒混じり、ローム粒含む。



第318図 12区土坑(18)

第5章 第4面の検出遺構

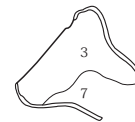
134号土坑



134号土坑遺物拡大図

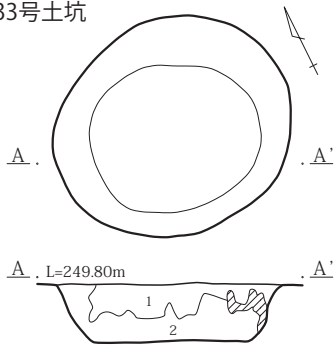


C
L=247.50m

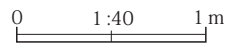


- 134号土坑
1. 黒褐色土 砂質、粘性あり、Sr粒・炭粒わずかに含む。
 2. 暗褐色土 ロームブロック含み、しまる。
 3. 暗褐色土 土器片・礫を多量に含む。下部焼土粒多い。炭粒・Sr粒わずかに含む。
 4. にぶい黄褐色土 ロームブロック・Sr粒混じり。
 5. 黄褐色土 ローム質土、壁のローム崩落土。
 6. 褐色土 Sr粒多く含み、ロームブロック含む。
 7. 暗褐色土 焼土ブロック・粒・炭粒・Sr粒を多く含む。

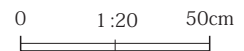
133号土坑



- 133号土坑
1. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
 2. 暗褐色土 Sr粒混じり、ローム粒含む。

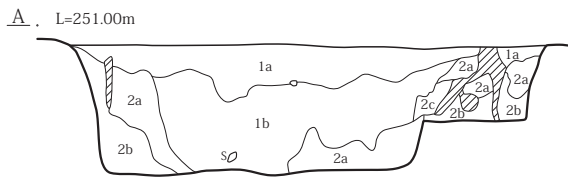
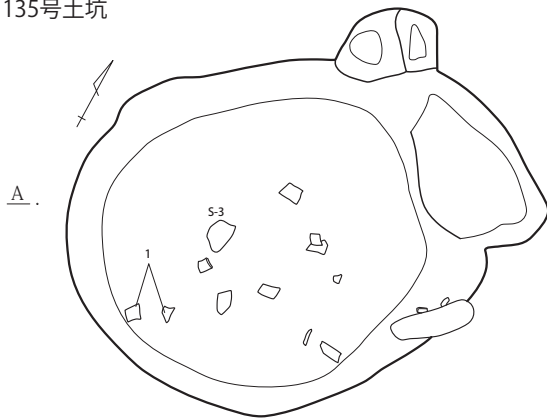


D
L=247.50m

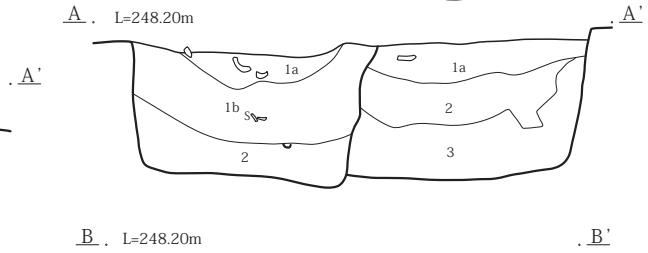
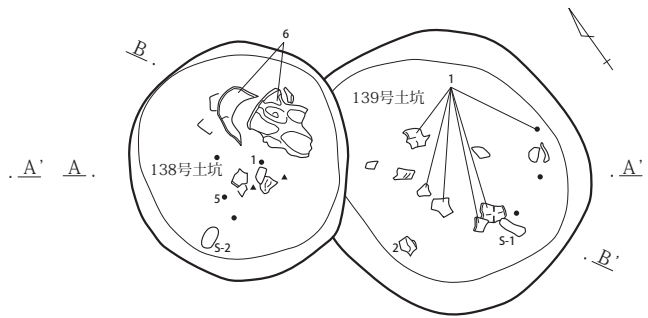


第319図 12区土坑(19)

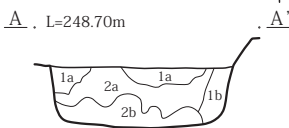
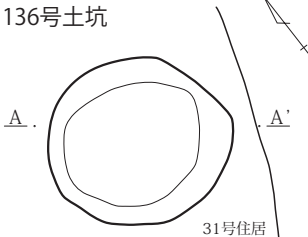
135号土坑



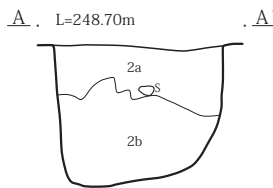
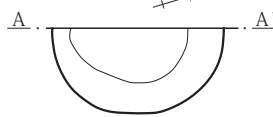
138・139号土坑



136号土坑



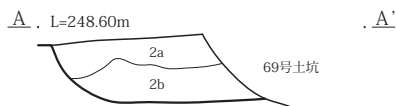
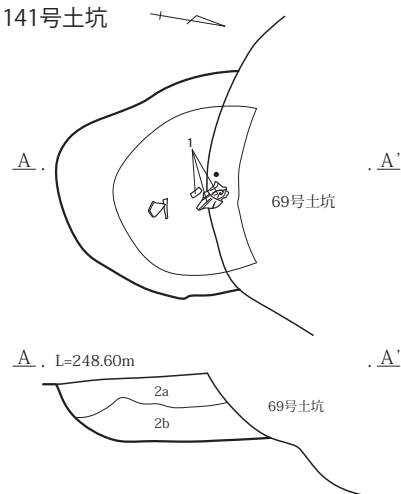
140号土坑



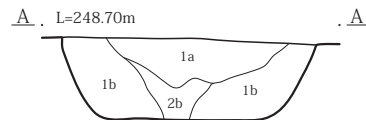
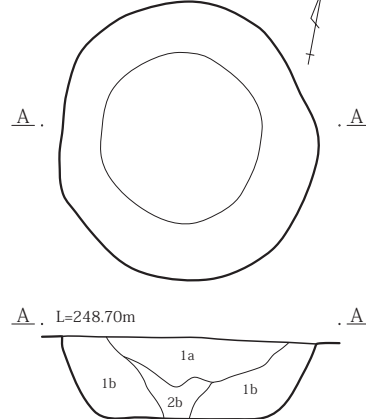
135・136・140号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 Sr粒多く含む。
- 2a. 暗褐色土 ローム混じり。
- 2b. 暗褐色土 ロームの混入が2aより多い。

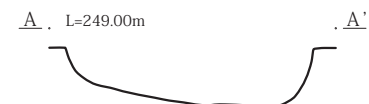
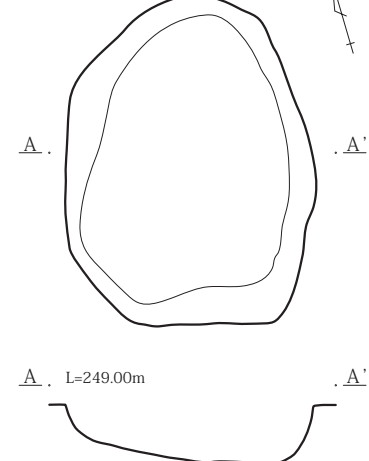
141号土坑



142号土坑



143号土坑

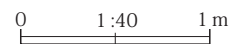


141～143号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 1aに炭粒・ローム粒わずかに含む。
- 2a. 暗褐色土 ローム混じり。
- 2b. 暗褐色土 ロームの混入が2aより多い。

138・139号土坑

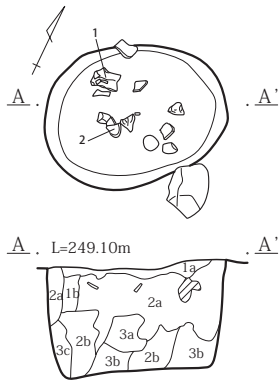
- 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 1aに炭粒・ローム粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒含む。
- 3. 暗褐色土 ローム粒を塊状に含む。しまりなく柔らか。



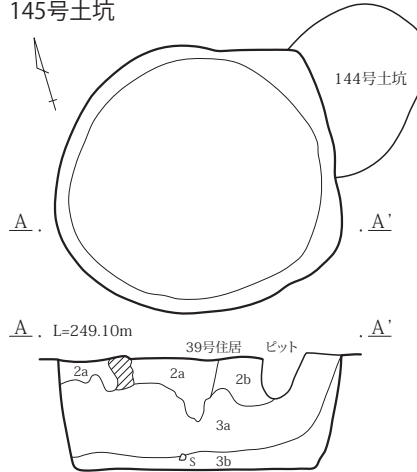
第320図 12区土坑 (20)

第5章 第4面の検出遺構

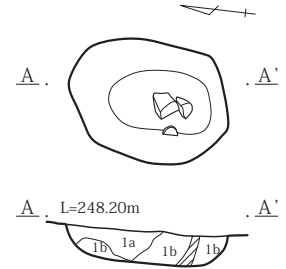
144号土坑



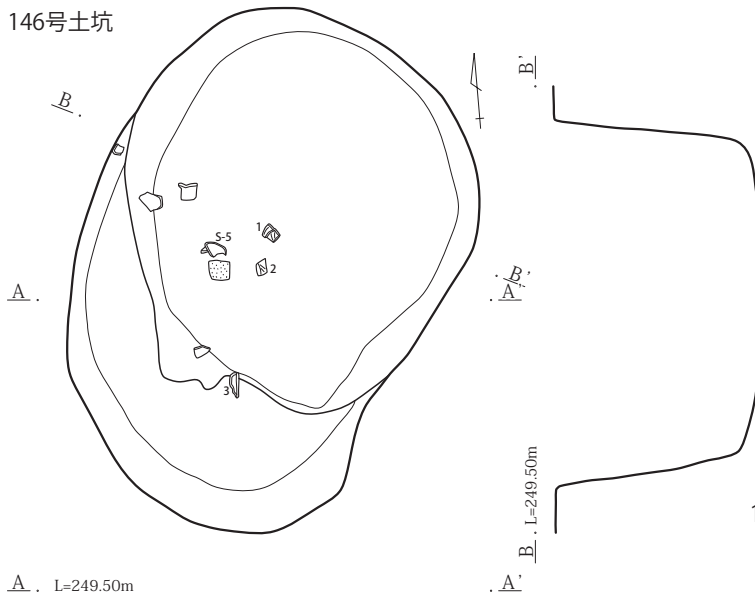
145号土坑



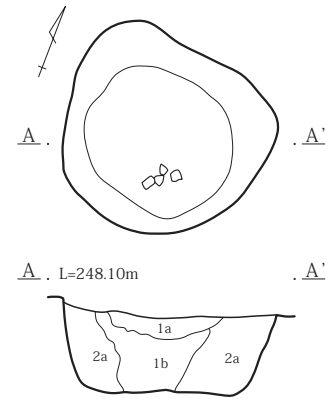
148号土坑



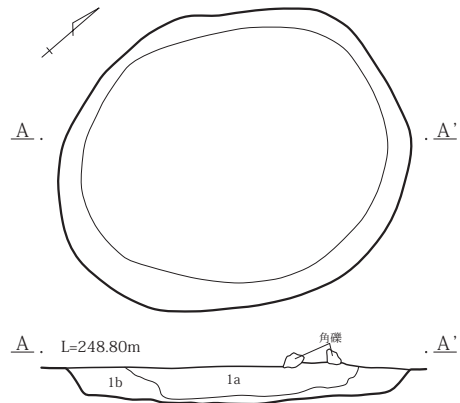
146号土坑



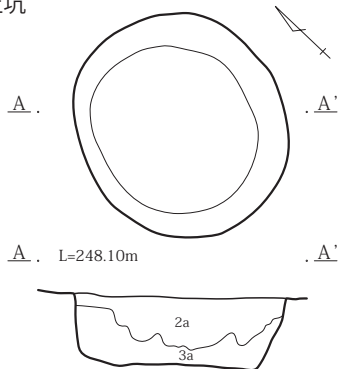
149号土坑



152号土坑



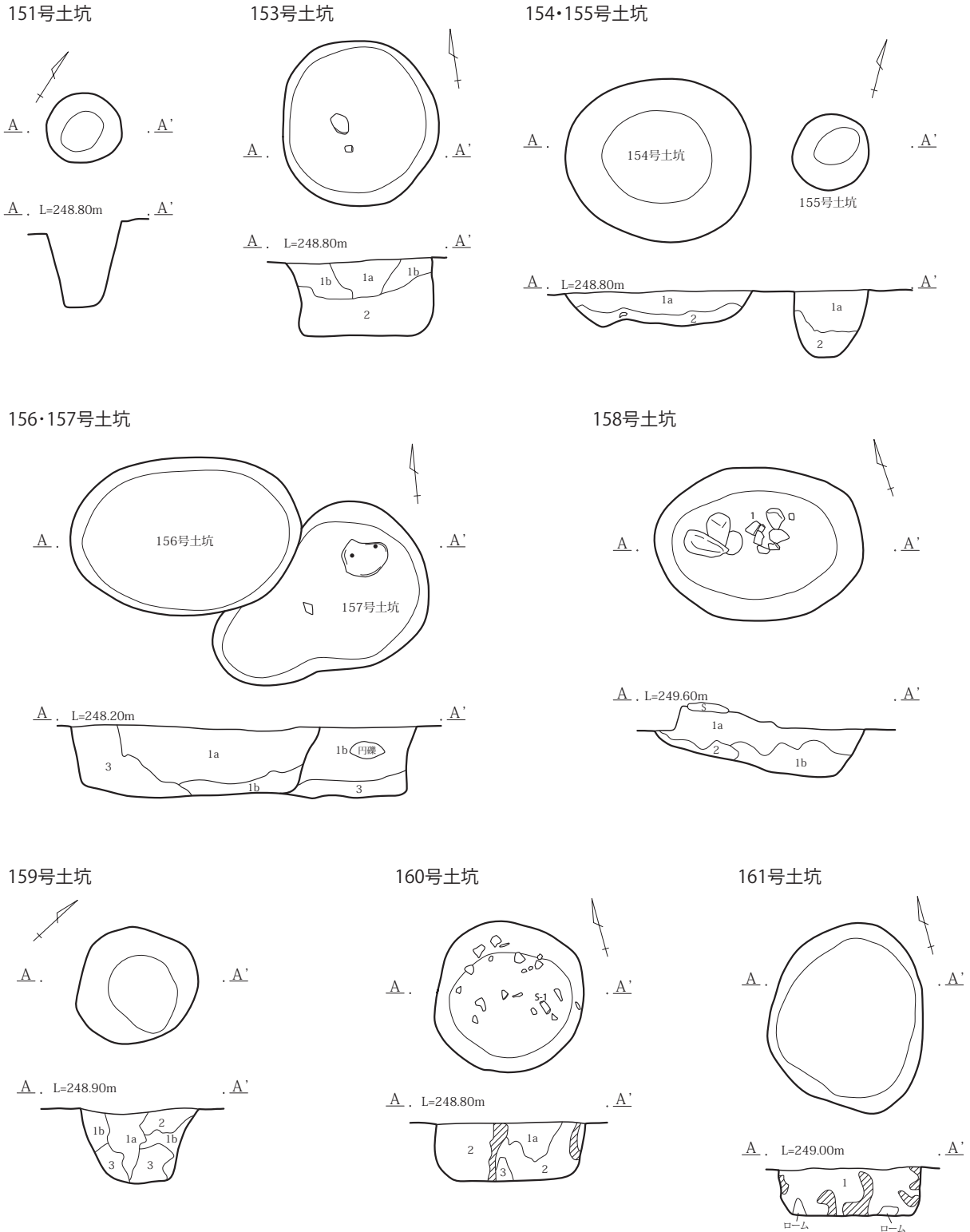
150号土坑



- 144~146・148~150・152号土坑
 1a. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
 1b. 黒褐色土 1aに炭粒・ローム粒わずかに含む。
 2a. 暗褐色土 ローム混じり。(144号 土坑土器片多く含む)
 2b. 暗褐色土 ロームの混入が2aより多い。
 3a. 褐色土 ローム粒を塊状に含む。しまりなく、柔らか。
 3b. 褐色土 Sr粒を塊状に含む。ロームブロック混じり、しまりなく柔らか。
 3c. 褐色土 Sr粒を塊状に含む。ロームブロック多量に含む。

0 1:40 1 m

第321図 12区土坑 (21)



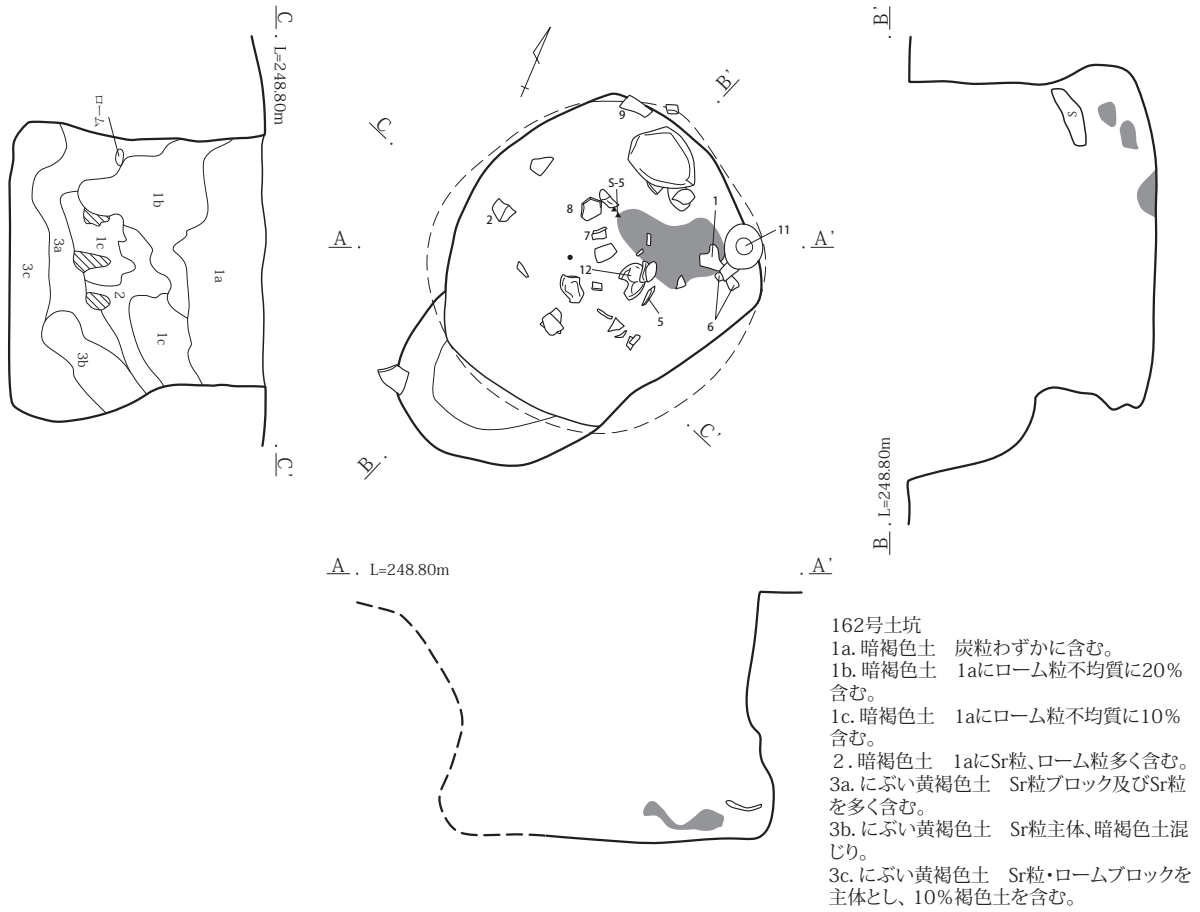
153～160号土坑
 1a. 暗褐色土 軽石・ロームブロックわずかに含む。
 1b. 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
 2. 暗褐色土 Sr粒含む。ロームブロックわずかに含む。
 3. にぶい黄褐色土 Sr粒わずかに含み、ロームブロック多く含む。

161号土坑
 1. 暗褐色土 Sr粒・ローム粒・小ブロックわずかに含む。

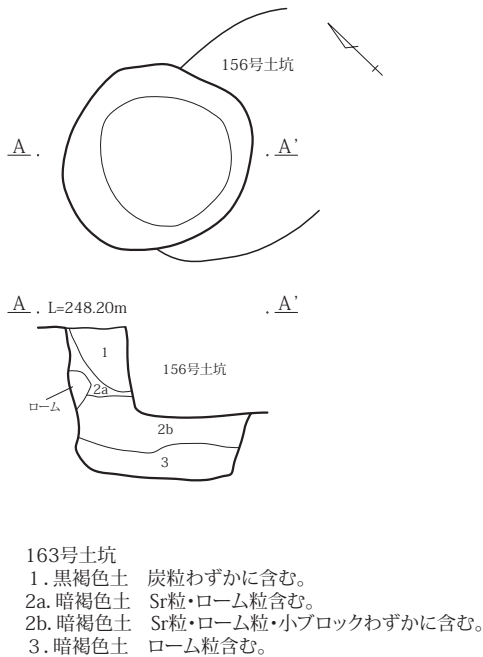
0 1:40 1m

第322図 12区土坑 (22)

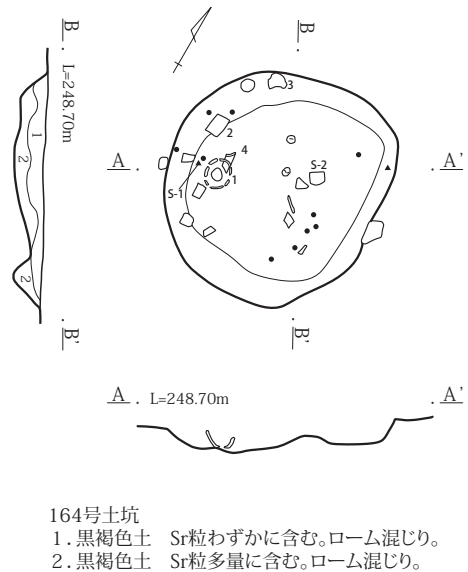
162号土坑



163号土坑



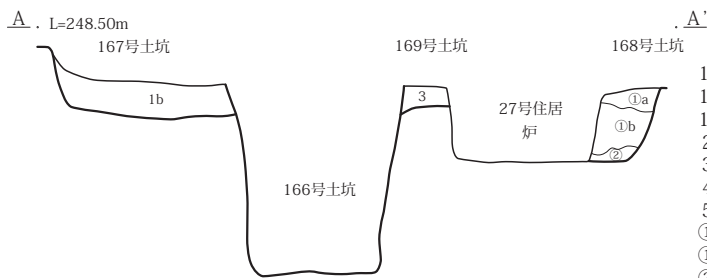
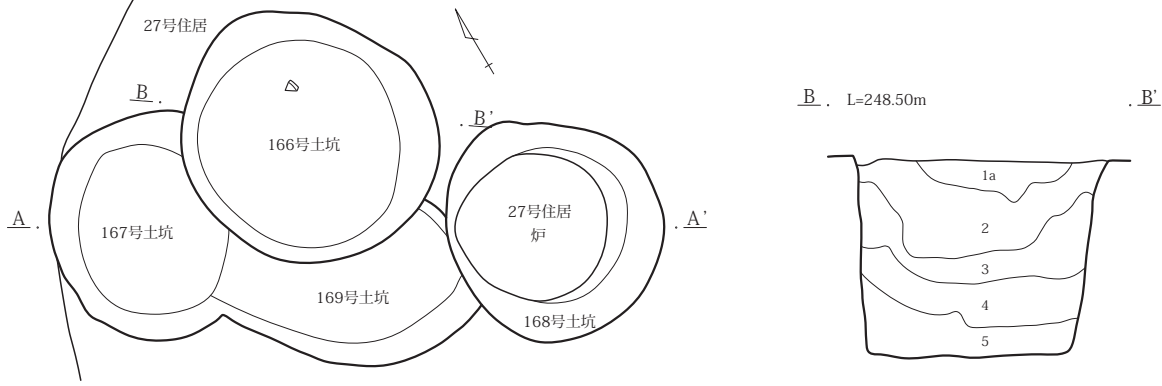
164号土坑



第323図 12区土坑(23)

0 1:40 1m

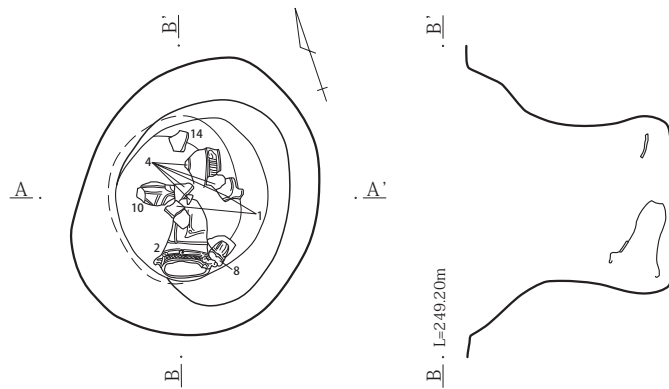
166~169号土坑



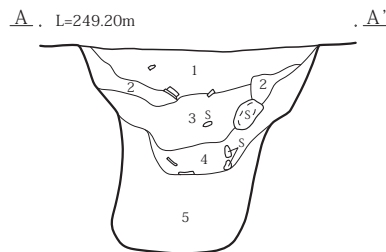
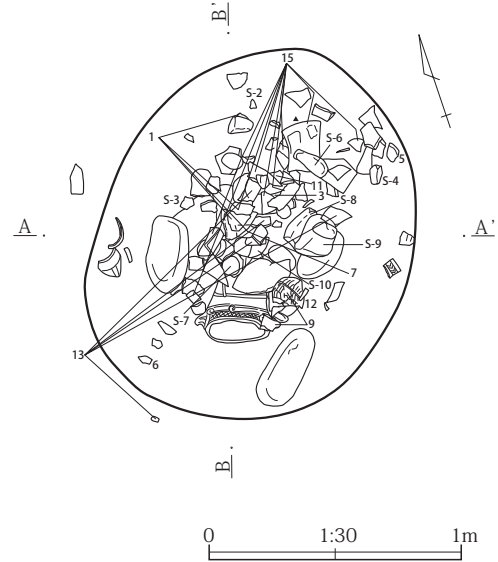
166~169号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒・炭化粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 Sr粒わずかに含む。
- 2. 暗褐色土 Sr粒・炭化粒わずかに含む。
- 3. 褐色土 Sr粒わずかに含む、ロームブロック含む。
- 4. 黄褐色土 Sr粒含み、ロームブロック混じり。
- 5. にぶい黄褐色土 Sr粒やや多く含み、ロームブロック混じり。
- ①a. 暗褐色土 ローム粒含む。
- ①b. 暗褐色土 ①aよりローム粒多く含む。
- ②. 褐色土 ローム主体。暗褐色土混じり。

170号土坑

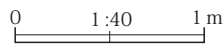


170号土坑遺物分布拡大図



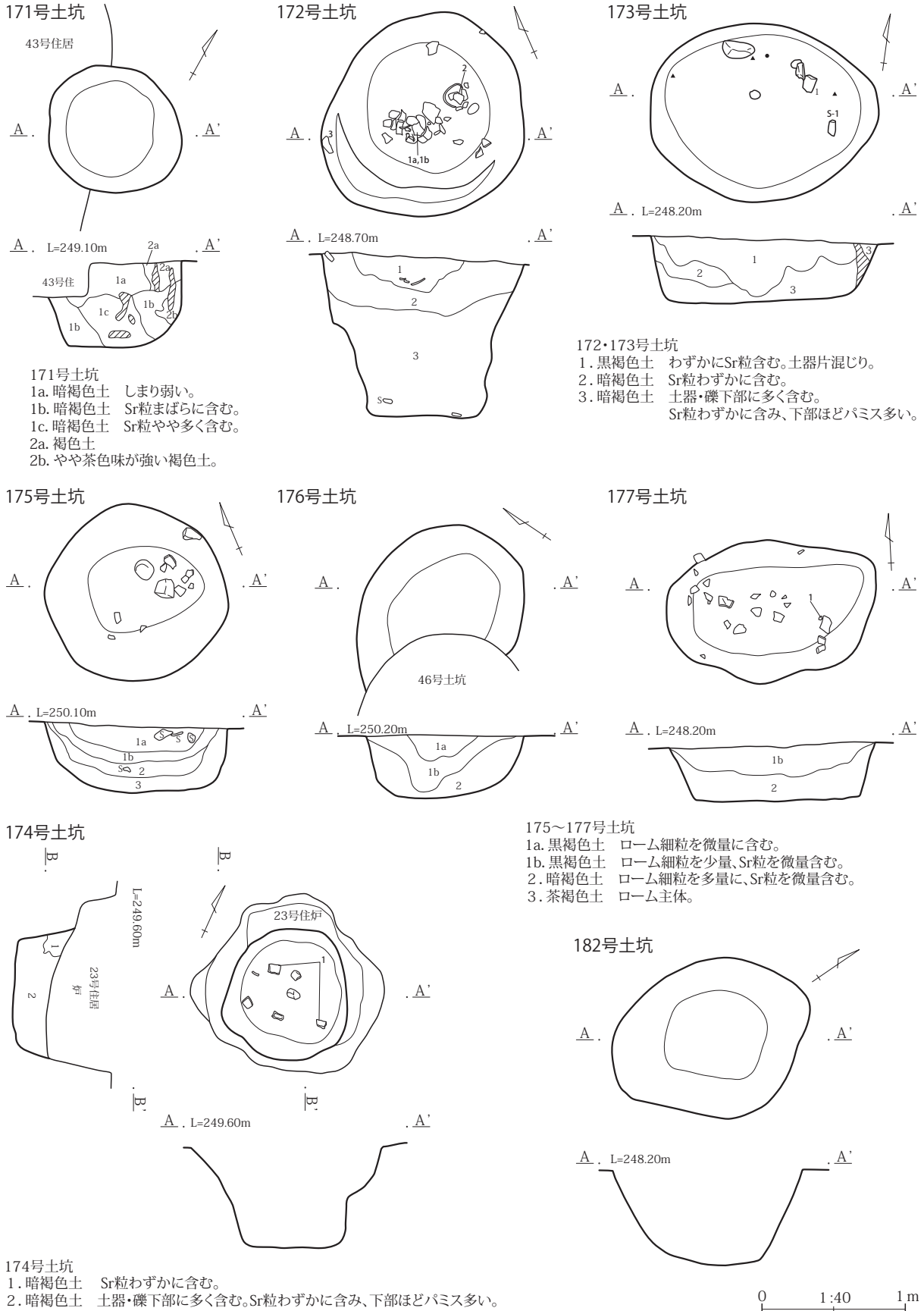
170号土坑

- 1. 暗褐色土 土器片多く含む。Sr粒混じる。しまり弱い。
 - 2. 褐色土(やや茶色) 焼土小ブロック含む。
 - 3. 暗赤茶色 焼土ブロック主体。土器片多量に混じる。
 - 4. 暗褐色土 土器・礫混じる。焼土大粒を多量に混じり、炭化物を微量に含む。
 - 5. 褐色土 焼土粒わずかに含み、ローム粒、大小ブロック混じり。
- ※上層~中層にかけ土器・礫が投げ込まれた状態で出土。
更に焼土ブロック等も大量に出土している。



第324図 12区土坑(24)

第5章 第4面の検出遺構



第325図 12区土坑 (25)

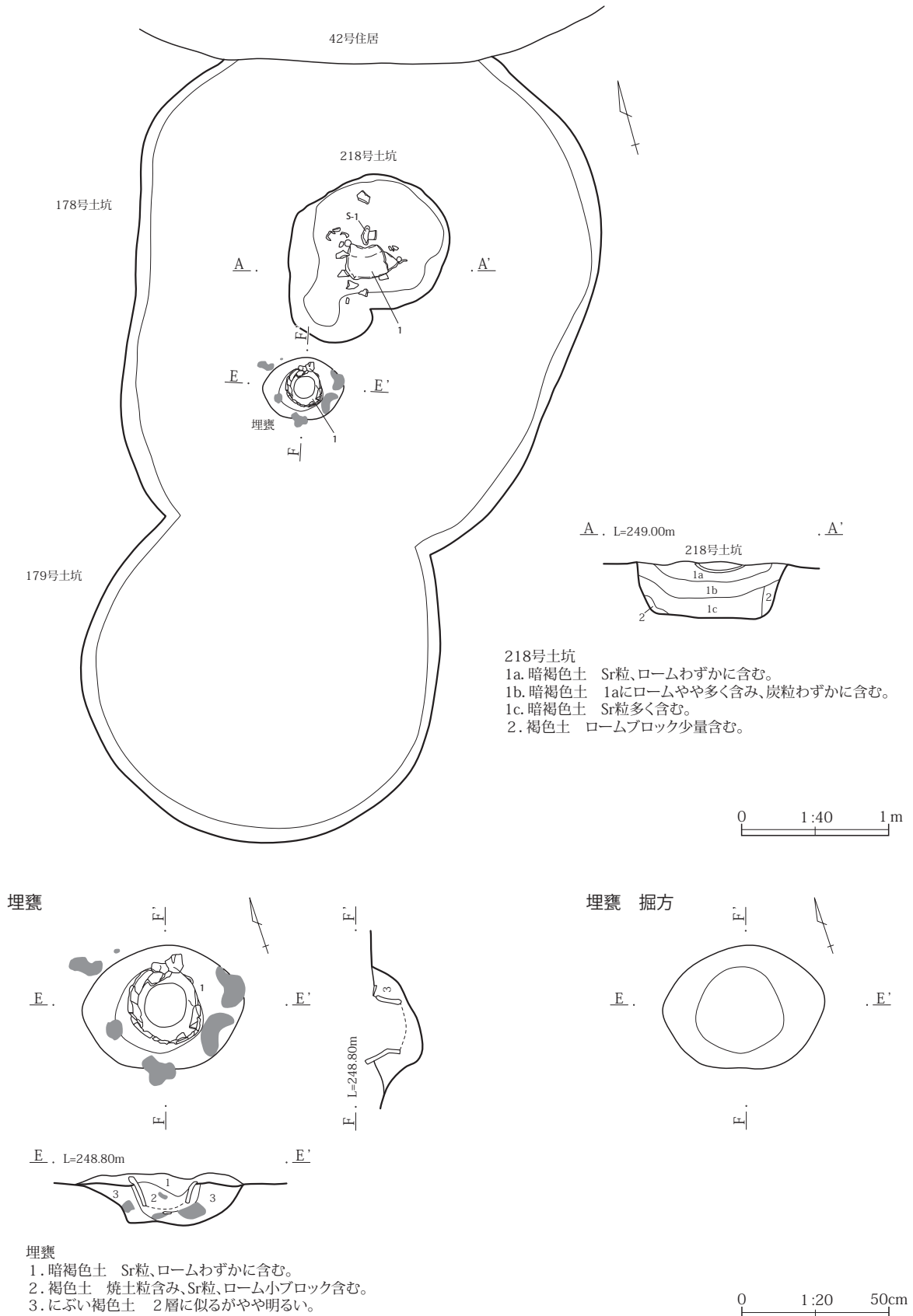
178・179号土坑



- 178・179号土坑
- 1a. 褐色土 Sr粒わずかに含む。土器片多く含む。
 - 1b. 褐色土 1a層より粘性しまりあり。
 - 2a. 暗茶褐色土 Sr粒含み、粘性、しまりあり。
 - 2b. 暗茶褐色土 2aにわずかにローム粒含む。
 3. くすんだ黄褐色土 くすんだロームと褐色の混合土。粘性強い。

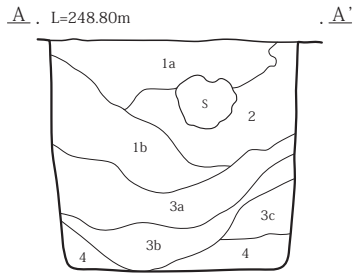
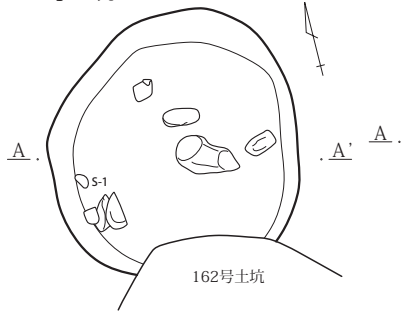
第326図 12区土坑 (26)

178号土坑内埋甕・218号土坑



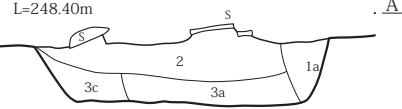
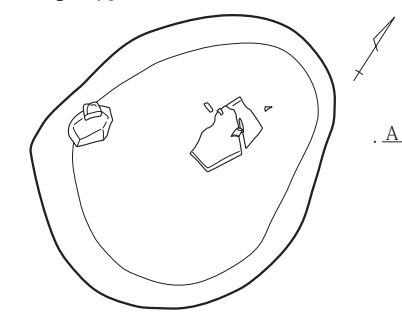
第327図 12区土坑(27)

180号土坑



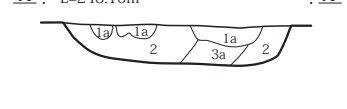
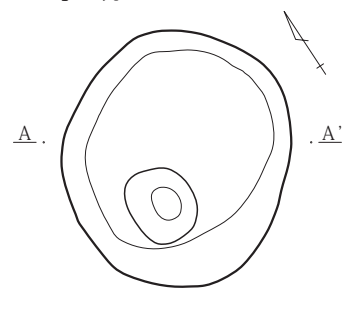
A. L=248.80m

181号土坑



A. L=248.40m

183号土坑

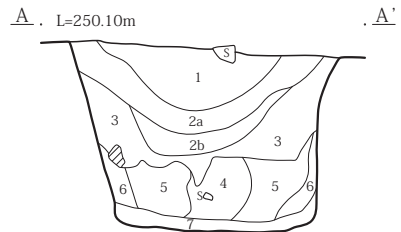
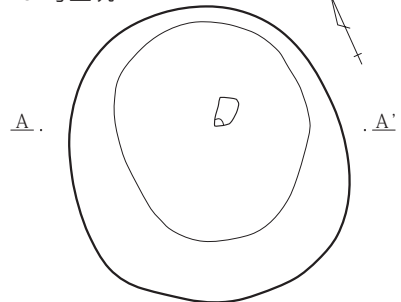


A. L=248.10m

180・181・183号土坑

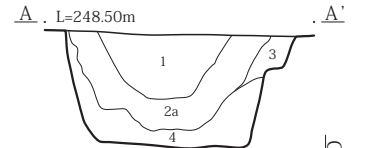
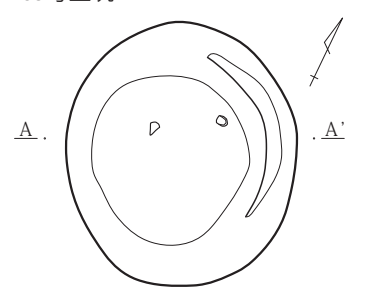
- 1a. 黒褐色土 炭化物わずかに混入。Sr粒やや多めに混入。
- 1b. 黒褐色土 1a層に比して炭化物やや多めに混入。
- 2. 暗褐色土 炭化物わずかに混入。ローム小ブロック少量混入。
- 3a. 暗褐色土 炭粒、Sr粒少量混入。
- 3b. 暗褐色土 炭化物少量混入。Sr粒やや多めに混入。
- 3c. 暗褐色土 3b層にローム小ブロック少量混入。
- 4. 暗褐色～にぶい黄褐色土 ロームブロック主体。Sr粒混入。

184号土坑



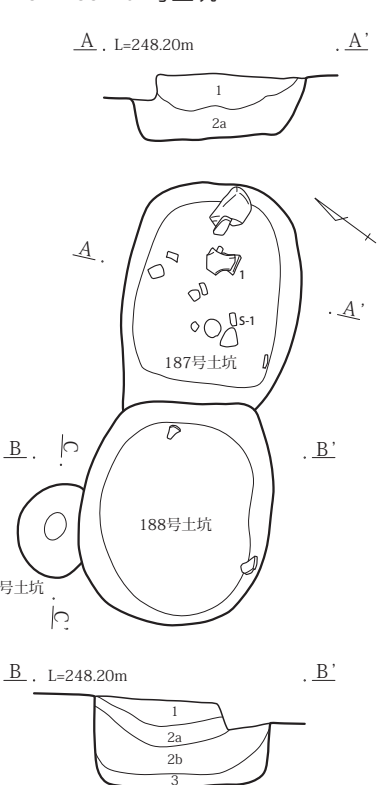
A. L=250.10m

185号土坑



A. L=248.50m

187・188・207号土坑

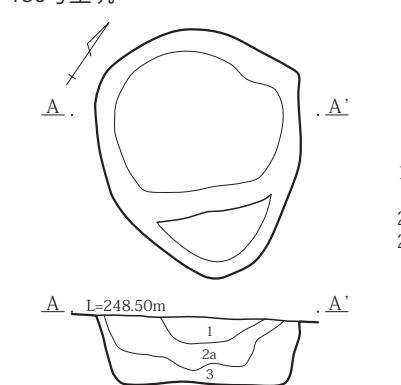


A. L=248.20m

B. L=248.20m

C. L=248.20m

186号土坑



A. L=248.50m

184～188・207号土坑

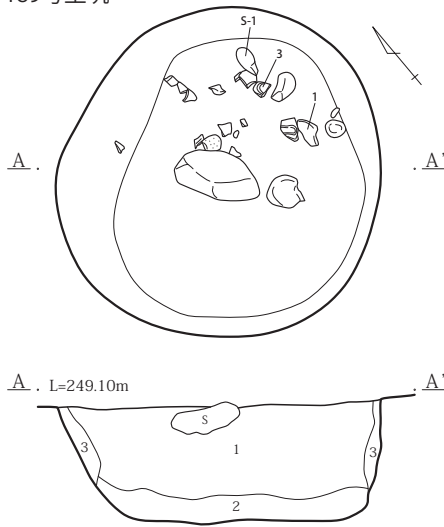
- 1. 黒褐色土 ローム粒わずかに含み、Sr粒を少量含む。
- 2a. 暗褐色土 ローム粒わずかに含み、Sr粒を少量含む。
- 2b. 暗褐色土 2a層よりもやや黒い色調。ローム粒もわずかである。
- 3. 暗褐色土 ローム粒・炭粒含み、Sr粒やや多く含む。
- 4. 褐色土 ローム・Sr粒やや多く含む。
- 5. 暗黄褐色土 ローム多く含む。Sr粒やや多く含む。炭粒含む。
- 6. 暗黄褐色土 ローム多く含む。Sr粒少量含む。
- 7. くすんだ黄褐色土 ロームブロック主体。褐色土混じる。

0 1:40 1m

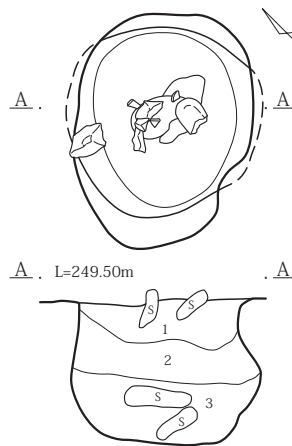
第328図 12区土坑 (28)

第5章 第4面の検出遺構

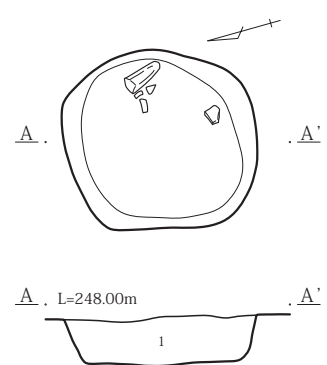
189号土坑



190号土坑



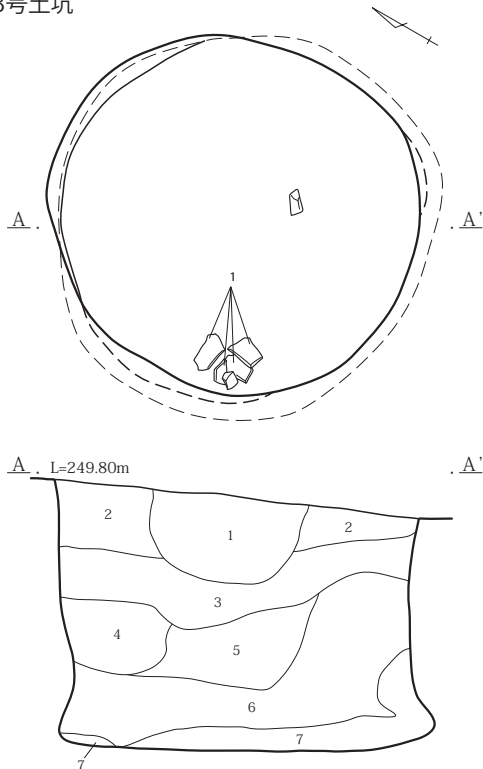
191号土坑



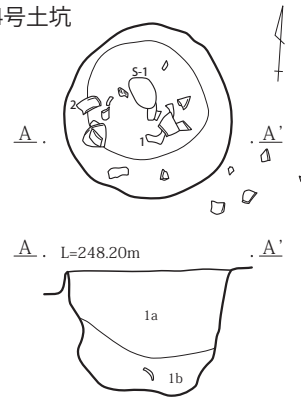
189~191号土坑

1. 暗褐色土 茶色粒・Sr粒・炭化物少量混じる。
2. 暗褐色土 ローム粒・小ブロックが少量混じる。Sr粒・炭化物わずかに含む。
3. 褐色土 ロームブロック多く混じる。炭粒・Sr粒わずかに混ざる。

193号土坑



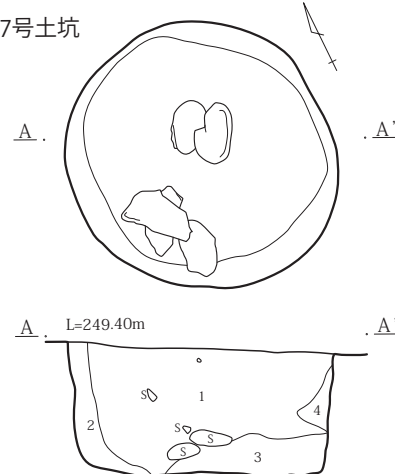
194号土坑



194号土坑

- 1a. 暗褐色土 ローム小ブロック・炭粒少量混ざる。Sr粒やや多めに混じる。
- 1b. 暗褐色土 ローム小ブロックやや多めに混ざる。Sr粒少量混じる。

197号土坑



197号土坑

1. 黒褐色土 黒色土ブロック・Sr粒を少量含む。ロームわずかに含む。
2. 暗褐色土 ロームブロック少量混じる。黒色土わずかに含む。
3. にぶい黄褐色土 ロームブロック多く含む。
4. 黄褐色土 ローム主体。(壁崩落)

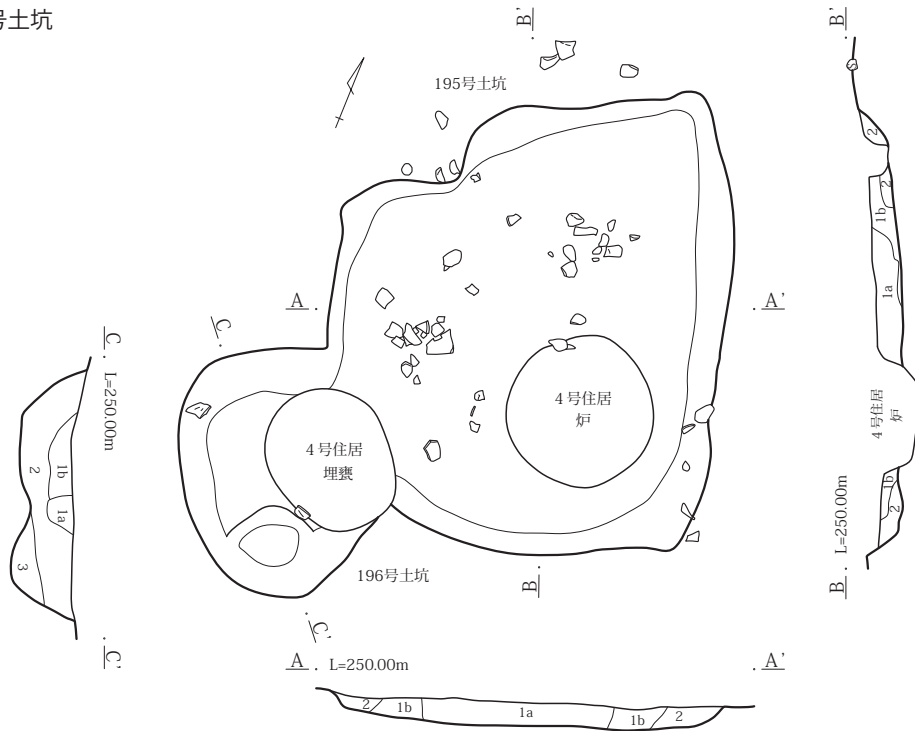
193号土坑

1. 黒褐色土 Sr粒を多く含む、ロームブロック混入。炭粒少量混入。
2. 暗褐色土 Sr粒・ローム粒・炭粒少量混入。
3. 暗褐色土 ロームブロック・Sr粒を多く混入。炭粒少量混入。
4. 暗褐色土 ロームブロック多く、やや多くSr粒を混入。炭化物少量混入。
5. 暗褐色土 ロームブロック多く、やや多くSr粒を混入。炭粒を多く混入。
6. 暗褐色土 ロームブロック・Sr粒を少量混入。炭粒を多く混入。
7. 褐色土 Sr粒を少量混入。炭粒を少量混入。

第329図 12区土坑 (29)

0 1:40 1 m

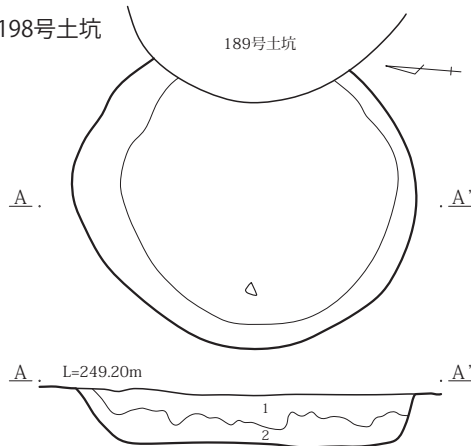
195・196号土坑



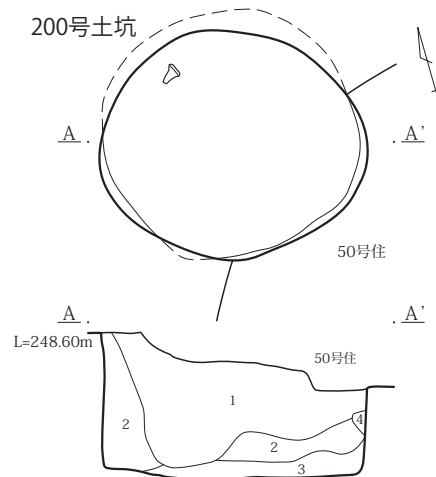
195・196号土坑

- 1a. 暗褐色土 ローム小ブロック・炭粒少量混ざる。Sr粒やや多めに混じる。
- 1b. 暗褐色土 ローム小ブロックやや多めに混ざる。Sr粒少量混じる。
- 2. 暗褐色土 Sr粒・炭粒・ローム含む。
- 3. 褐色土層 Sr粒少量含む。炭化物含む。ローム多く含む。

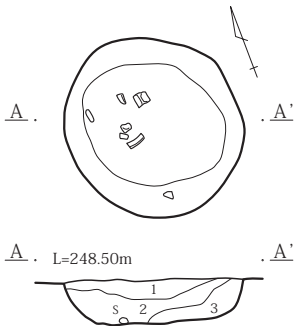
198号土坑



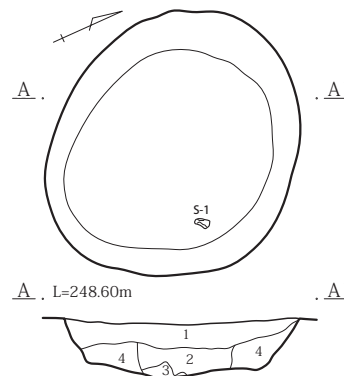
200号土坑



199号土坑



201号土坑

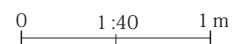


198～200号土坑

- 1. 黒褐色土 黒色土ブロック・Sr粒を少量含む。ロームわずかに含む。
- 2. 暗褐色土 ロームブロック少量混じる。黒色土わずかに含む。
- 3. にぶい黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 4. 黄褐色土 ローム主体。(壁崩落)

201号土坑

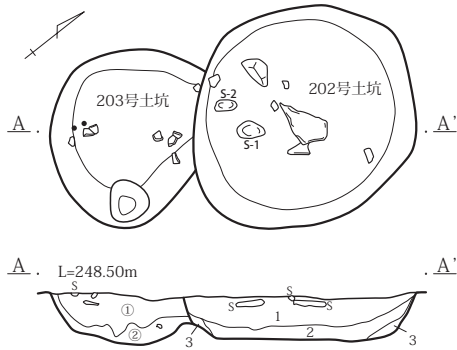
- 1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。
- 2. 暗褐色土 わずかにSr含み、ローム粒少量混入。
- 3. 暗褐色土 Sr粒少量、ローム小ブロックやや多めに混入。
- 4. にぶい黄褐色土 ロームブロックやや多めに混入。



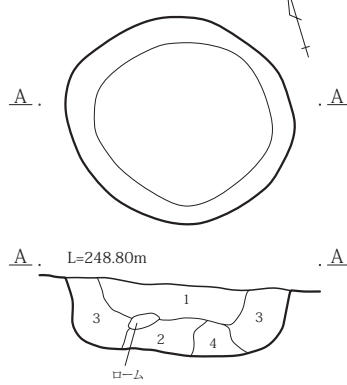
第330図 12区土坑(30)

第5章 第4面の検出遺構

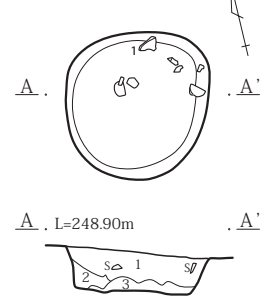
202・203号土坑



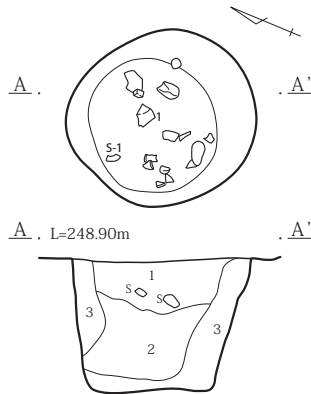
204号土坑



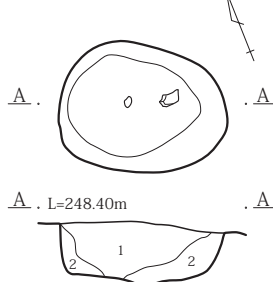
205号土坑



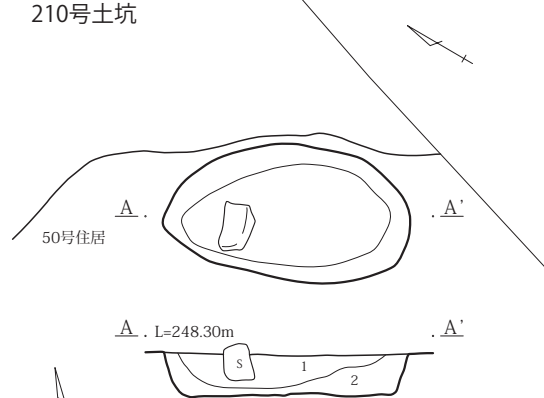
206号土坑



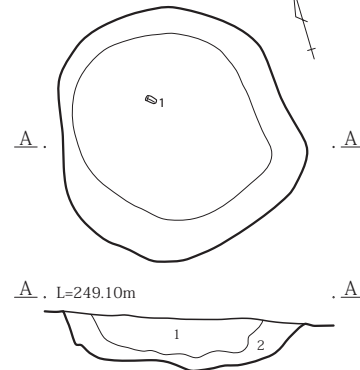
208号土坑



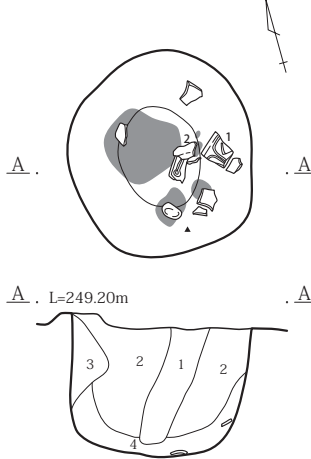
210号土坑



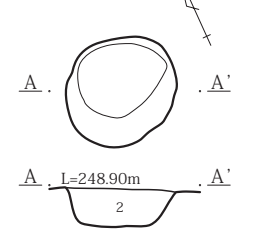
211号土坑



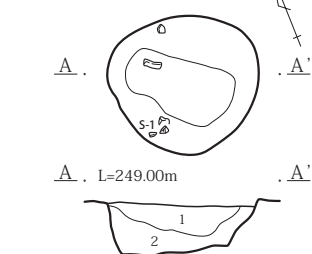
209号土坑



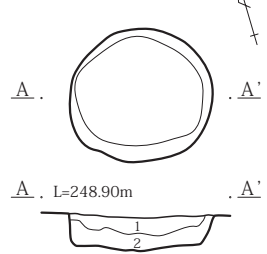
212号土坑



213号土坑



214号土坑



202～206・208号土坑

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。
2. 暗褐色土 わずかにSr含み、ローム粒少量混入。
3. 暗褐色土 Sr粒少量、ローム小ブロックやや多めに混入。
4. にぶい黄褐色土 ロームブロックやや多めに混入。
- ①. 暗褐色土 1層よりロームブロック多めに混入。
- ②. にぶい黄褐色土 ロームブロック小やや多めに混じる。

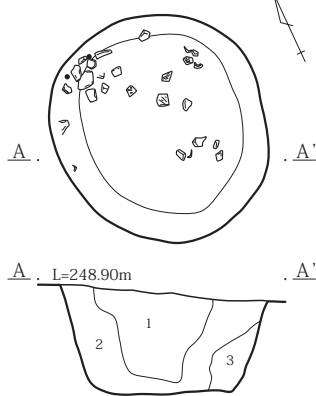
209～214号土坑

1. 黒褐色土 炭粒含み、Sr粒少量混入。
2. 暗褐色土 Sr粒やや多く混入し、ローム粒・炭粒含む。
3. 暗褐色土 Sr粒やや多く混入。炭粒含む。ローム混入。
4. 暗褐色土 2層3層より明るい。Sr粒、ローム少量含む。

0 1:40 1m

第331図 12区土坑 (31)

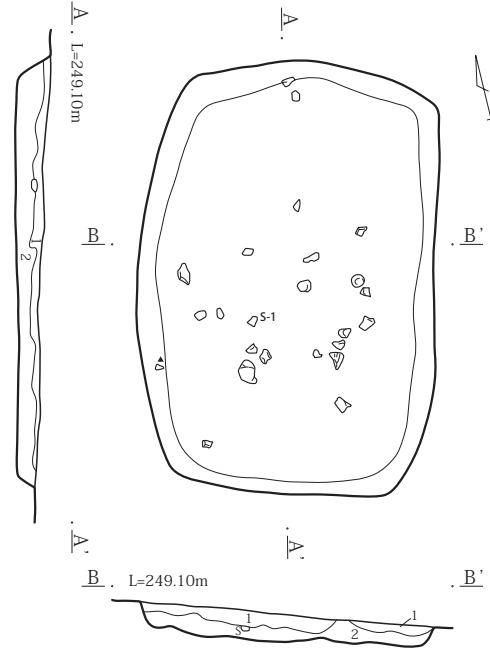
215号土坑



215号土坑

1. 暗褐色土 ローム粒少量含み、炭粒わずかに含む。
2. 暗褐色土 ローム粒少量含み。ロームブロック・炭粒わずかに含む。
3. にぶい黄褐色土 ロームブロックやや多めに混入。

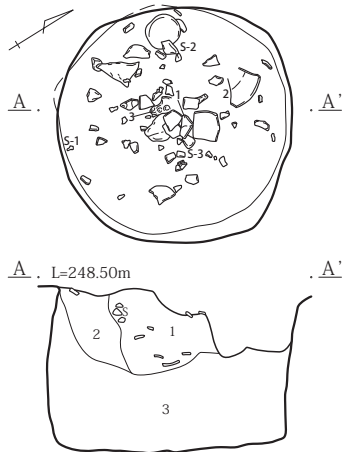
217号土坑



217号土坑

1. 黒褐色土 ローム小ブロック少量混入。Sr粒わずかに混入。
2. 暗褐色土 ローム小ブロックやや多めに混入。Sr粒少量まじる。

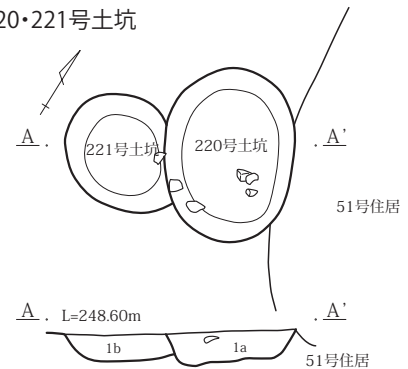
219号土坑



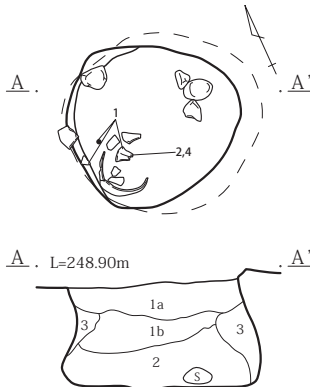
219号土坑

1. 黒褐色土 土器片・礫多量に含む。ローム小ブロック混入。Sr粒わずかに混入。
2. 暗褐色土 ローム小ブロックやや多めに混入。Sr粒少量混じる。
3. にぶい褐色土 ローム粒やや多めに含む。ローム小ブロック少量含む。

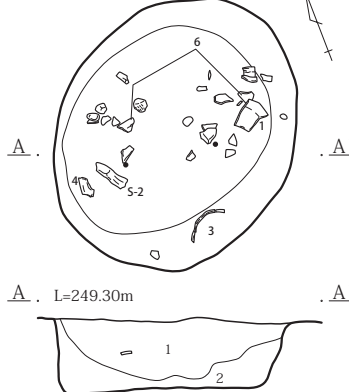
220・221号土坑



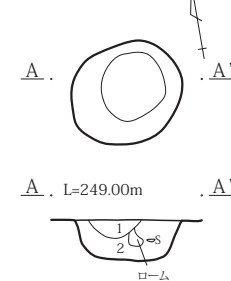
222号土坑



223号土坑



224号土坑

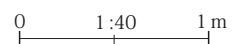


220~222号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒少量含む。ローム・炭粒わずかに含み、堅くしまる。粘性あり。
- 1b. 黒褐色土 1a層よりSr粒は少ない。
2. 褐色土 ローム粒やや多めに含む。ローム小ブロック少量含む。
3. 暗黄褐色土 ローム多く含む。(壁崩落)

223・224号土坑

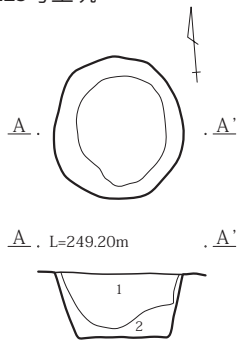
1. 黒褐色土 Sr粒少量含む。ローム・炭粒わずかに含む。(223号土坑 土器片多く含む)
2. 暗褐色土 ローム粒やや多めに含む。ローム小ブロック少量含む。



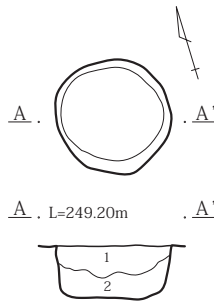
第332図 12区土坑 (32)

第5章 第4面の検出遺構

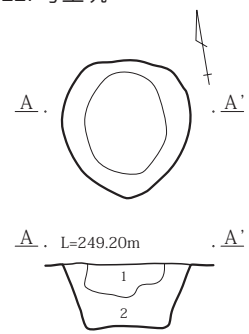
225号土坑



226号土坑



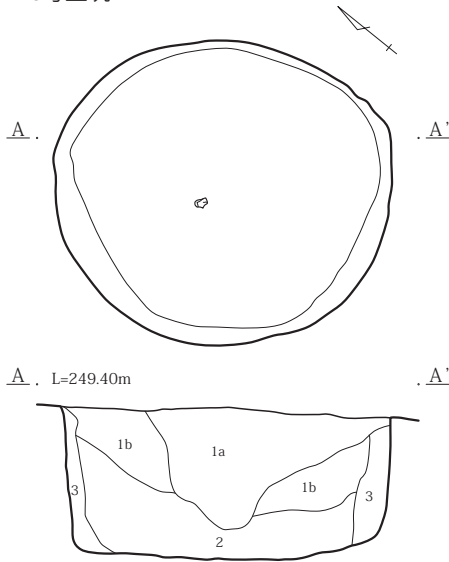
227号土坑



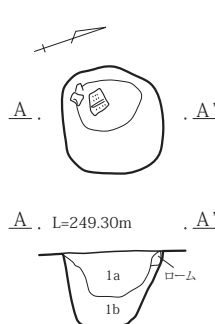
225~227号土坑

1. 黒褐色土 Sr粒少量含む。ローム・炭粒わずかに含む。
2. 暗褐色土 ローム粒やや多めに含む。ローム小ブロック少量含む。

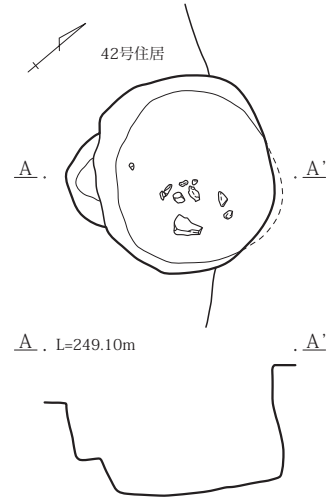
228号土坑



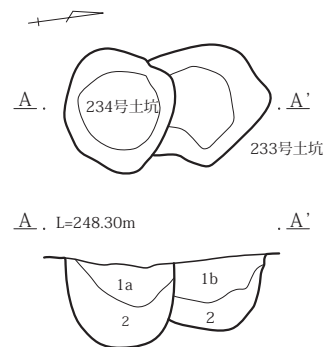
229号土坑



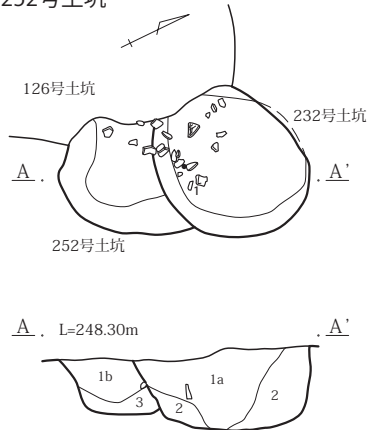
231号土坑



233・234号土坑



232・252号土坑



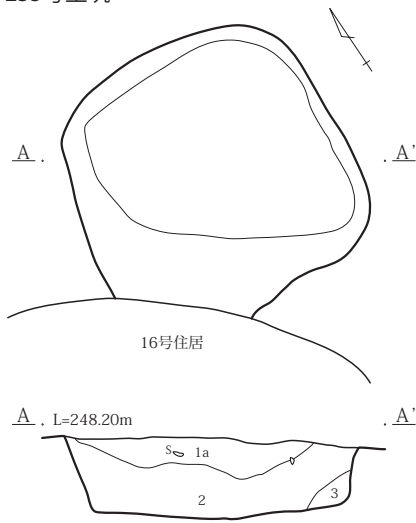
228・229・231~234・252号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒少量含む。ローム・炭粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 1a層よりSr粒は少ない。
2. 褐色土 ローム粒やや多めに含む。ローム小ブロック少量含む。
3. 暗黄褐色土 ロームブロック・Sr粒の混土主体。(壁崩落)

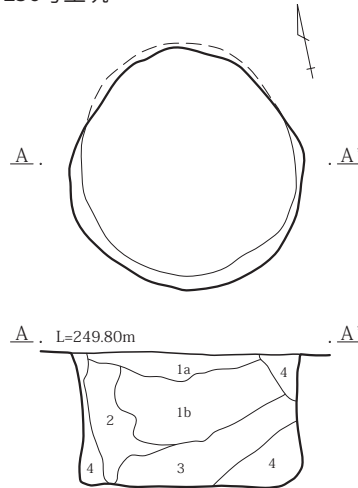
0 1:40 1m

第333図 12区土坑(33)

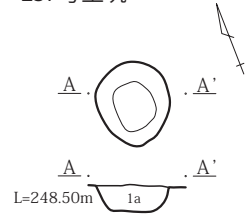
235号土坑



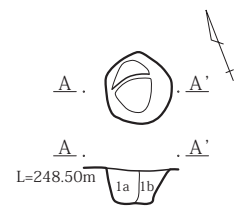
236号土坑



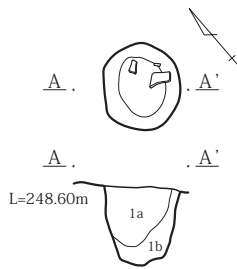
237号土坑



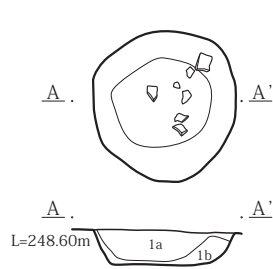
238号土坑



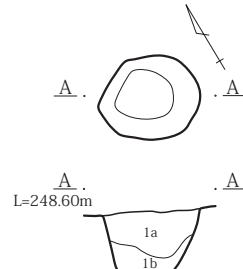
239号土坑



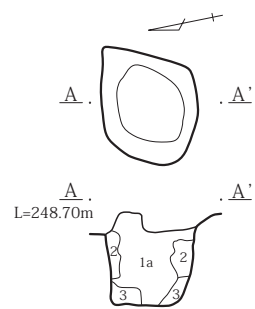
240号土坑



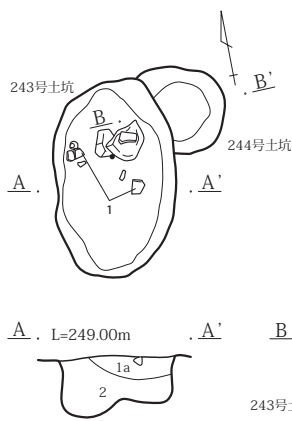
241号土坑



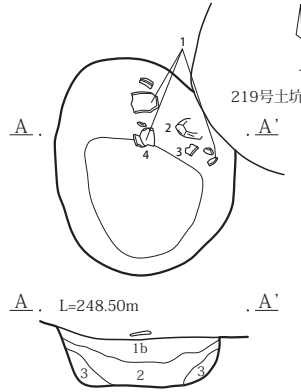
242号土坑



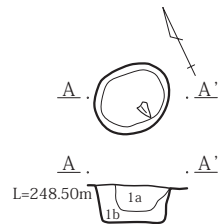
243・244号土坑



245号土坑



246号土坑

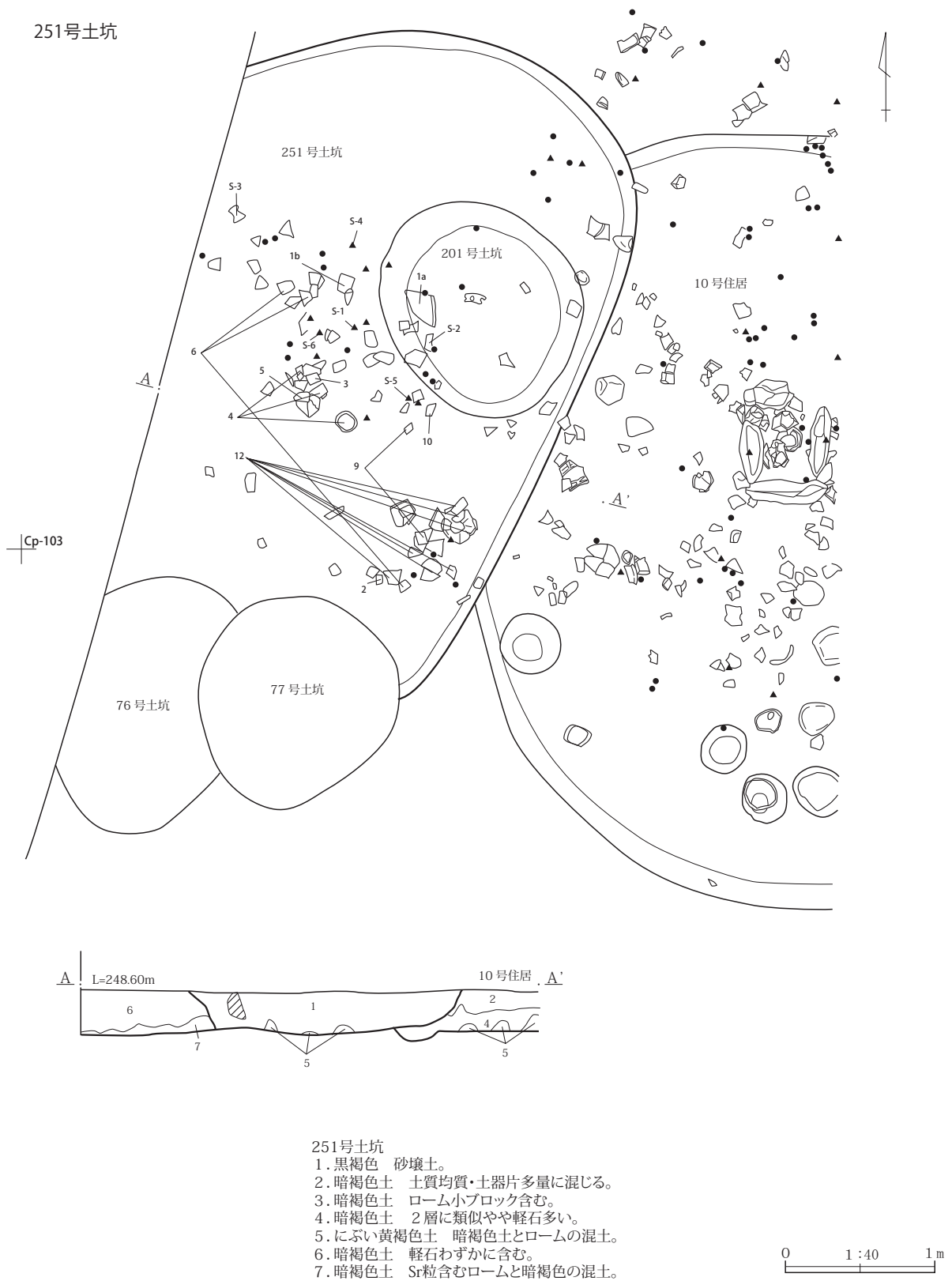


235～246号土坑

- 1a. 黒褐色土 Sr粒少量含む。ローム・炭粒わずかに含む。
- 1b. 黒褐色土 1a層よりSr粒は少ない。
- 2. 暗褐色土 ローム小ブロック・Sr粒含む。
- 3. 褐色土 ローム粒やや多めに含む。ローム小ブロック少量含む。
- 4. 暗黄褐色土 ロームブロック・Sr粒の混土主体。(壁崩落)

0 1:40 1m

第334図 12区土坑 (34)



第335図 12区土坑(35)

3. 埋甕

(遺構：第336・337図、PL159 土器：第2分冊第296図、PL143)

南調査区中央付近及び南で7基の埋甕を検出した。基本土層Ⅵ層まで遺構確認及び包含層調査を行いながら掘り下げを実施し、住居、土坑等の遺構に伴わない口縁部や体部が埋設されたと考えられる深鉢を埋甕とした。埋甕の図化は1/10で作図する際に任意点で平面図化し、その後全体図等にポイントを落とすはずであったが、1号・3号・7号埋甕についてはポイント記入が漏れて位置が分からなくなった。

1号埋甕 位置：Co-117 4号住居北東脇に所在した。4号住居調査時には確認した。4号住居掘方調査時に調査を開始したが、残存状況は極めて悪く、わずかな破片の輪郭が残っただけであった。また下部に175号土坑を検出した。

2号埋甕 位置：Cs-106 重複：なし 出土状況：1の深鉢が逆位に埋設され、他の深鉢破片も混在して出土している。掘方は長軸75cm、短軸60cmを測り、土器下部から深さ12cm掘り込まれる。隅丸長方形状を呈する。 時期：縄文時代中期後葉

3号埋甕 グリッド不明 南調査区の中央付近で2号・4号埋甕が検出され、その付近で検出されたと考えられる。深鉢の口縁から体部中位が残存する。1の深鉢が正位で埋設される。 時期：縄文時代中期後葉

4号埋甕 位置：Ct-106 重複：なし 出土状況：土器よりやや大きめの径42cm、深さ26cm程の楕円形の掘方を持ち、中央部に正位で1の深鉢が埋設される。 時期：縄文時代中期後葉

5号埋甕 位置：Cr-101 重複：なし 隣接して126号土坑が掘り込まれる。 出土状況：土器のみがまとまって出土した。 時期：縄文時代中期後葉

6号埋甕 位置：Cs-105 重複：なし 隣接して153号土坑が掘り込まれる。 出土状況：1の深鉢口縁部が逆位で出土した。 時期：縄文時代中期後半

7号埋甕 グリッド不明 1の深鉢底部が正位で出土した。 時期：縄文時代中期後葉

4. 配石遺構

(遺構：第338図、PL159・160 土器：第2分冊第297図、PL144 石器第3分冊第78図、PL58・59)

調査区北半から中央部にかけては地形の傾斜が大きく、基本土層Ⅳ～Ⅵ層までの土層は他調査区に比べ薄い。第3面のⅢ層FA面下では大礫の頭部が露出していた。この第3面の調査終了後にグリッド単位で掘り下げを開始し、調査区北端と中央で配石遺構を検出した。しかし、調査区中央で検出した2号・3号配石とした2基の配石遺構は、下部で検出した敷石住居張出部であることが後に分かり、2号配石は4号住居、3号配石は3号住居の各張出部とした。また、他に礫の集積箇所が検出でき、1箇所は2号配石を改めて付し、もう1箇所を5号配石とした。

配石遺構の時期を特定する遺物は少なく、Ⅴ層中で検出できることと中期後半の遺構上面で検出できることから中期後半以降と考える。

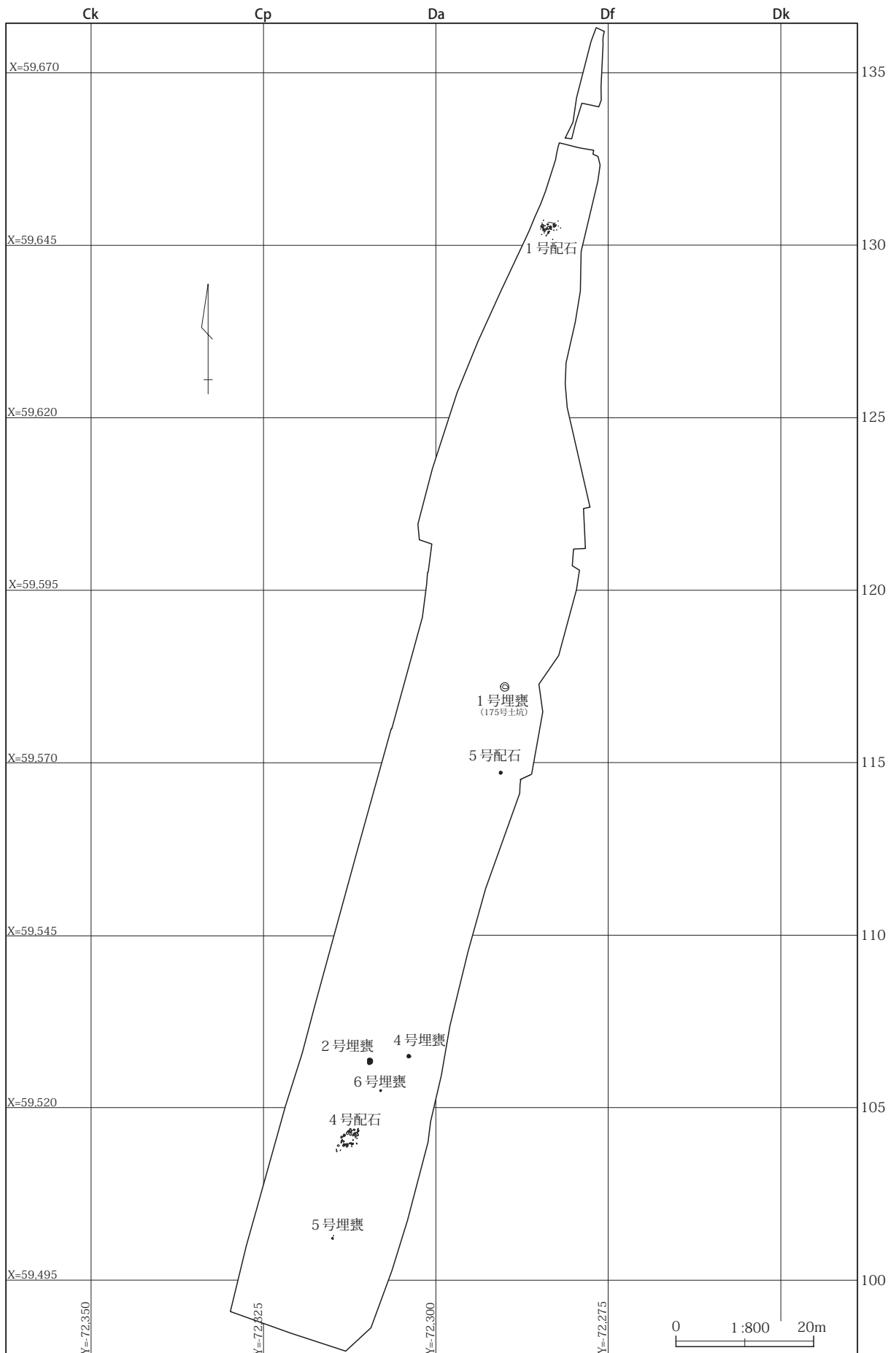
1号配石遺構 調査区北端のDb-129グリッド内のローム層上面で1m×2m強の範囲内にS2の多孔石を含む大小礫と土器片が出土し配石とした。

2号配石遺構 1号集積として調査区南寄りで検出した。平面図中にグリッドを落とし忘れ所在地不明となった。80cm×70cmの範囲内に長方形状に石が組まれた様子が窺え配石とした。礫内にはS1の打製石斧やS2の多孔石が含まれる。

3号配石遺構 3号住居張出部に変更。

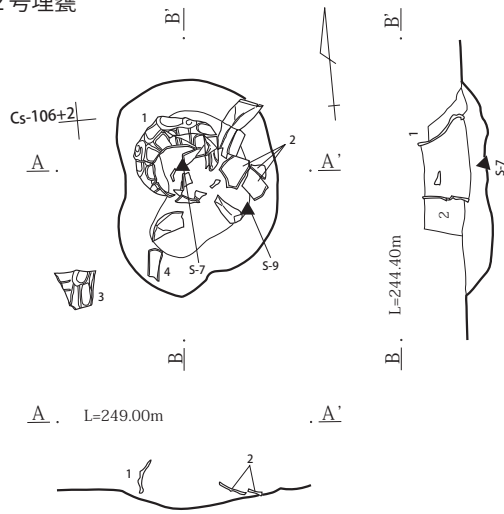
4号配石遺構 調査区南半の住居、土坑の密集するCr-104グリッド内で検出した。50cm前後の大礫が4m×2mの範囲内に楕円形状の外周に置かれている状況であった。

5号配石遺構 調査区中央部のDb-114グリッド内で2号集積として検出したが、40cm四方の方形範囲内で石が組まれた様子が窺え配石とした。礫内にはS1の多孔石が含まれる。

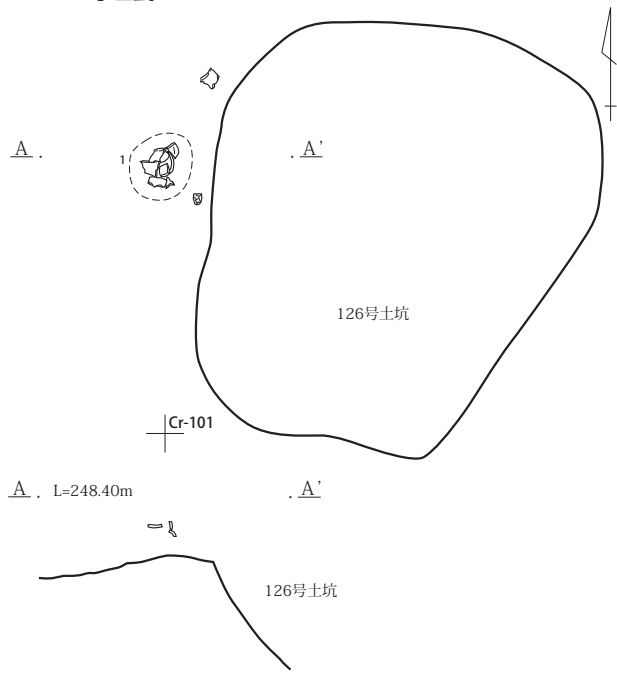


第336图 12区埋葬・配石配置图

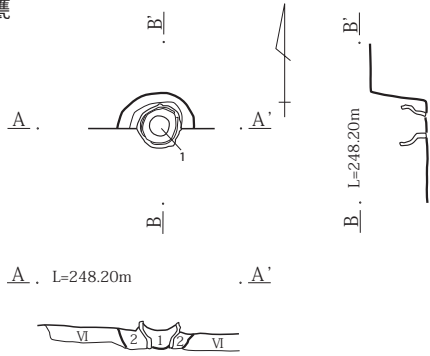
2号埋甕



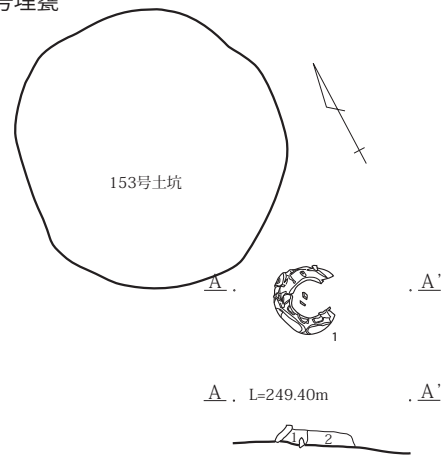
5号埋甕



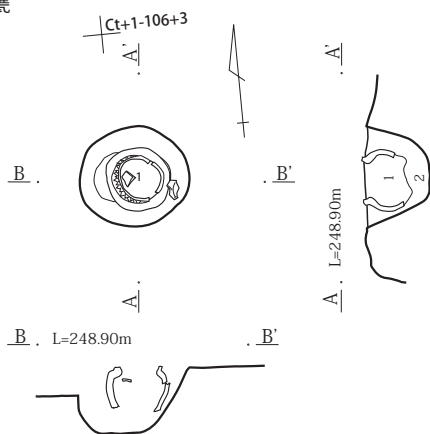
3号埋甕



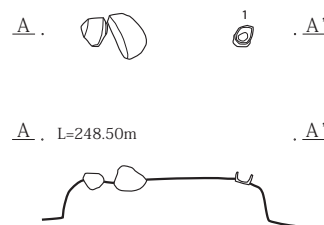
6号埋甕



4号埋甕

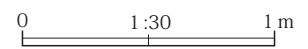


7号埋甕



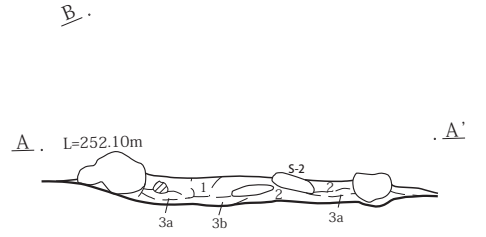
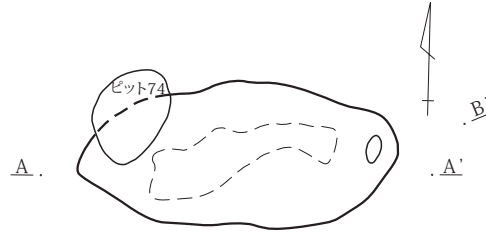
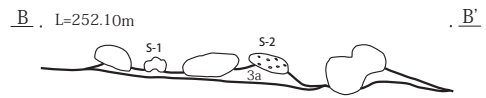
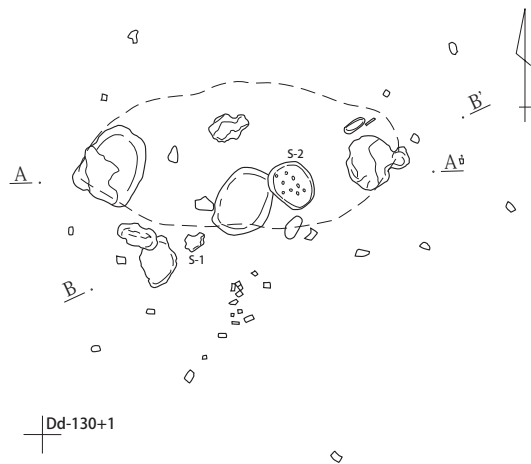
2～7号埋甕
 1. 暗褐色土
 2. くすんだ褐色土 ロームブロック混じり。

第337図 12区埋甕



第5章 第4面の検出遺構

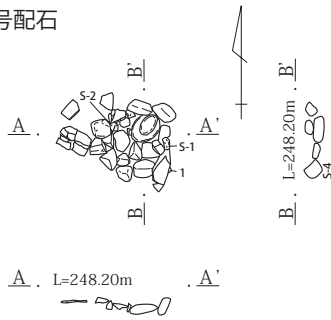
1号配石



配石

- 1. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2. 褐色土 褐色土にローム小ブロック含む。
- 3a. にぶい黄褐色土 くすんだロームに褐色土混じる。
- 3b. にぶい黄褐色土 3aより褐色土少ない。

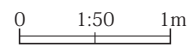
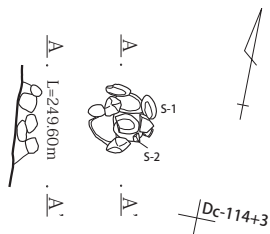
2号配石



4号配石



5号配石



第338図 12区配石

5. ピット

(遺構：第339～344図、石器第3分冊 PL59)

12区のピットの検出は11区ほど基本土層IV層、V層の境界面が明瞭ではなくVI層まで掘り下げ、他の遺構と同じ面で黒褐色土の入るピットが検出できた。検出した各ピットは、半割して断面観察を行い、土層堆積状況などの色分けを行い分類。観察の結果、浅い掘り込みや斜めに伸びる根株痕状のピットや底面の不明瞭なピット等を外し番号を付した。この面では掘立柱建物のピット配置や列で並ぶ配置等の規則性を有するピットは検出できなかった。

6. 遺構外出土遺物

(遺構：第345図、PL160 土器：第2分冊第298～305図、PL145～150 石器第3分冊第78～85図、PL59～62)

12区でも調査区南半で11区から続くと考える縄文時代の住居、土坑、配石等の遺構が分布し、出土遺物の総数は土器、石器を合わせ遺物収納箱で400箱を超えた。この中で住居、土坑等の遺構内出土遺物は1/3程度であり、他の270箱前後は遺構外出土遺物であった。

この遺構外出土遺物は、調査区中央付近から南にかけて第3面FA下の基本土層IV層中より出土し始め、掘り下げを進るうちに大量に出土する遺物の中に大型の土器破片や打製石斧や石鏃等の石器製品が含まれるなど、11区から延びる集落が下層に想定できる状況が窺えた。しかし、遺構確認作業は大量に出土する遺物と同系色の土層での確認作業であったためVI層まで掘り下げようやく遺構を検出できるようになった。遺物包含層の厚さは11区ほどではなかったが、住居、土坑等の遺構確認も判然としないため、小破片の取り上げはグリッド単位で一括取り上げを行うこととし遺構確認を優先した。整理作業において各遺構内出土遺物の接合・復元作業の際に遺構に絡む出土遺物として同時に確認を

行った。接合できなかった遺物については遺構外出土遺物に戻し、最終的にグリッド単位での重量を計測した。土器の総重量は948kgであった。

重量別の出土土器の分布は第345図となる。

石器は、6,982点出土し、全てについて器種組成、石材鑑定を行い重量を計測した。(第3分冊表参照) 遺物の出土傾向としては、調査区中央から南半が多くなっているが、この付近の住居検出に際して、掘り込みが不明瞭であるため床面直上まで遺構確認面が達してしまい、住居内の遺物が遺構外出土遺物扱いが増えたとも考えられる。その他のやや濃い地点も同様な状況が窺える。希薄な地点は遺構量も少なくなっている。しかし、調査区北端の1号住居付近の希薄さは、遺構密度の希薄さも考えられるが、段丘崖にも近く傾斜面であるため流出した可能性も考えられる。

本遺跡周辺の古墳時代の放牧地以前の状況は不明であったが、遺構外出土遺物から上層で1の弥生時代中期及び後期樽式期の破片が少量出土し、住居や土坑等の遺構は検出できなかったが、弥生時代の人々の活動があったことを示している。その後、時代を遡るようにIV層からV層、VI層へと掘り下げを進めたが、縄文時代後期から中期、前期へと土器片も時期別に出土することはなく、各時期の土器片が入り混じって出土した。このことは縄文時代前期以降掘り返しが繰り返され混在するようになったと考えられる。土器の主体は、検出住居同様に縄文時代中期後半の加曾利E式期の破片が主体であり、縄文時代前期では関山期の破片が多く出土し、二ツ木式期や諸磯式期や有尾式期も出土している。縄文後期では称名寺式期や堀之内式期が出土しているが、全体数量からみると少ない。

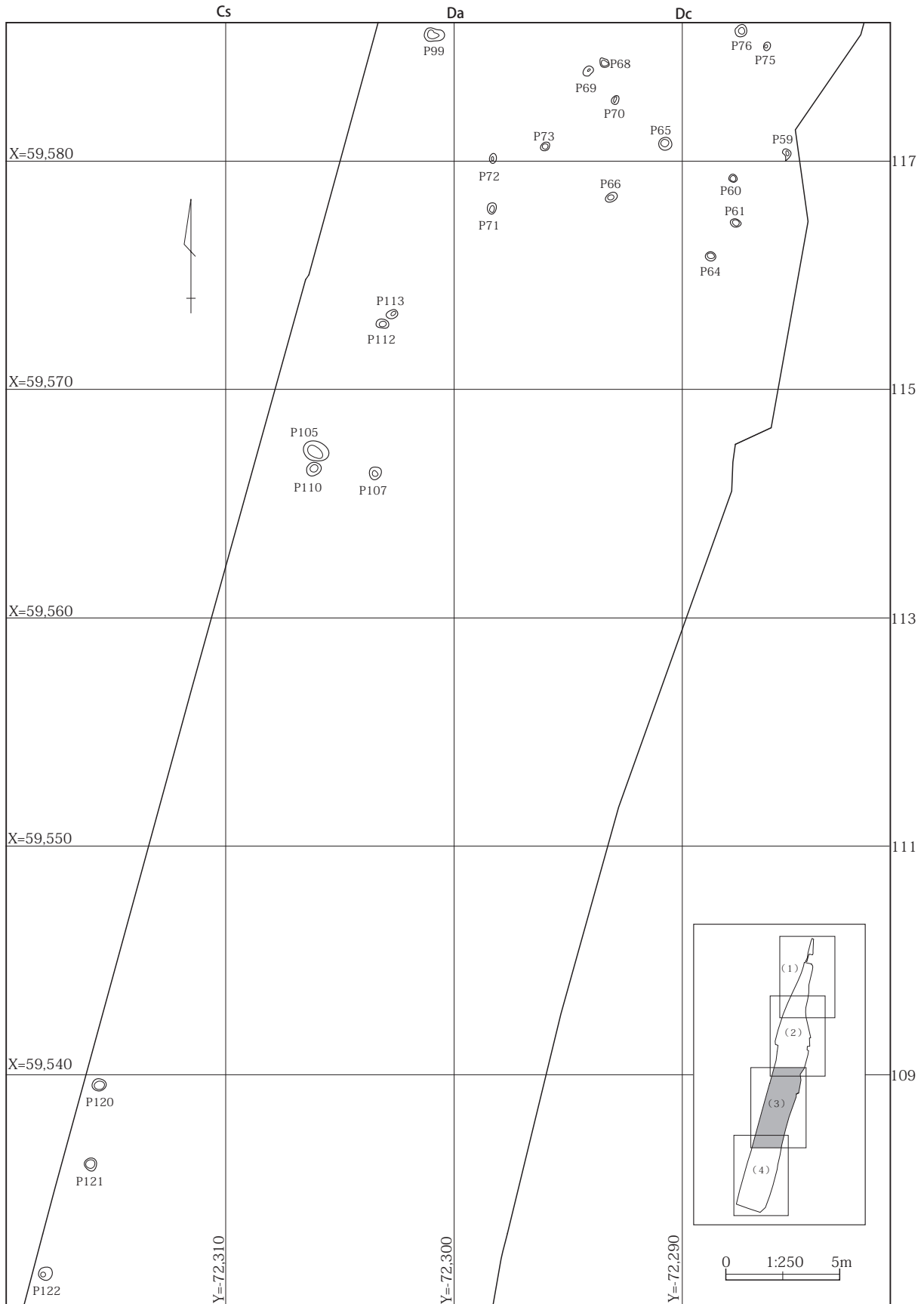
石器は、剥片が5,000点と多く出土し、石鏃や打製石斧、石匙、磨石、凹石等の完形品も多く出土している。また、石皿、多孔石等の大型品や石棒、小型品の耳栓や珧状耳飾り等も突然出土し、周辺の精査を行ったが遺構は検出できない状況であった。



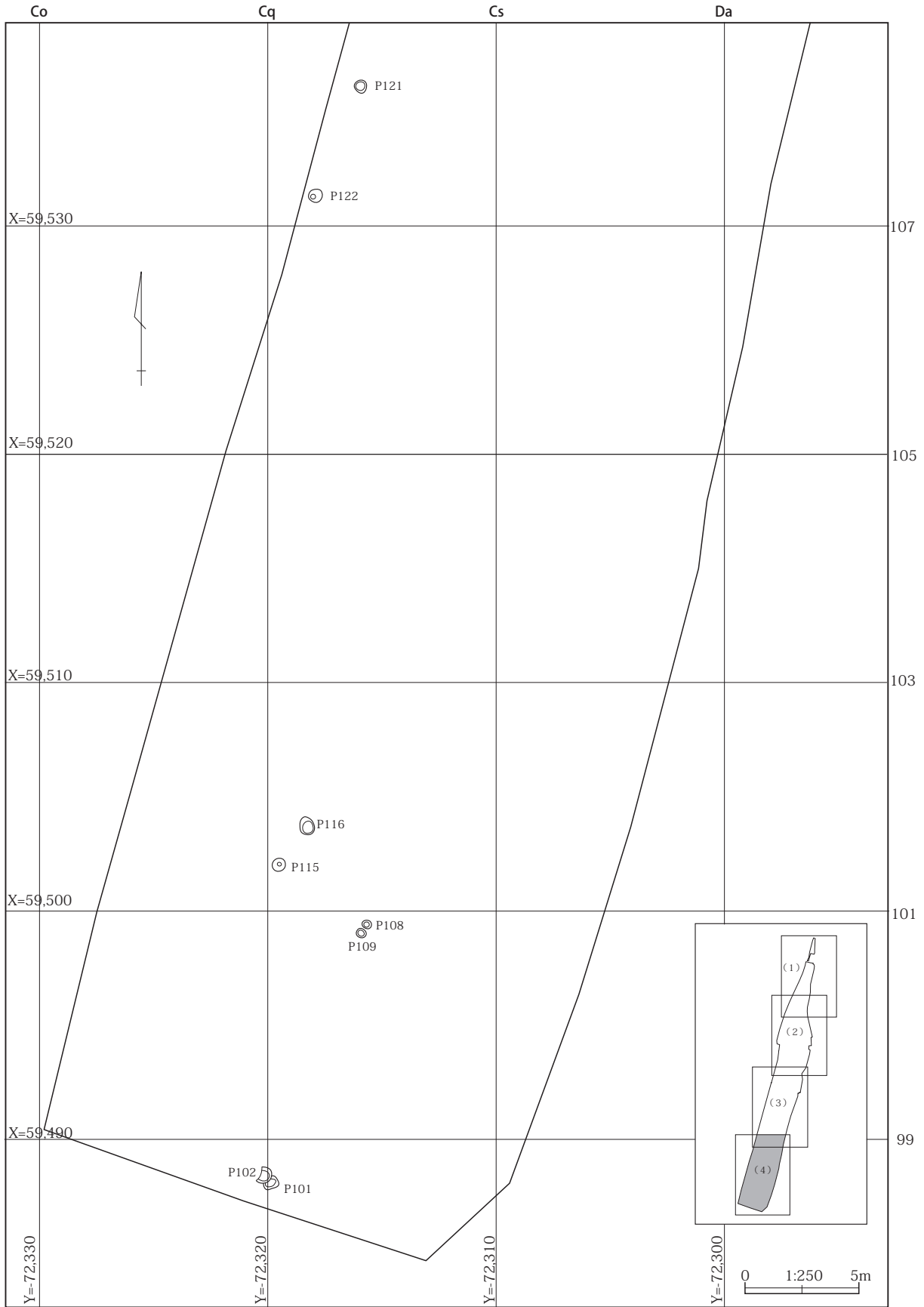
第339図 12区ピット配置図 (1)



第340図 12区ピット配置図(2)

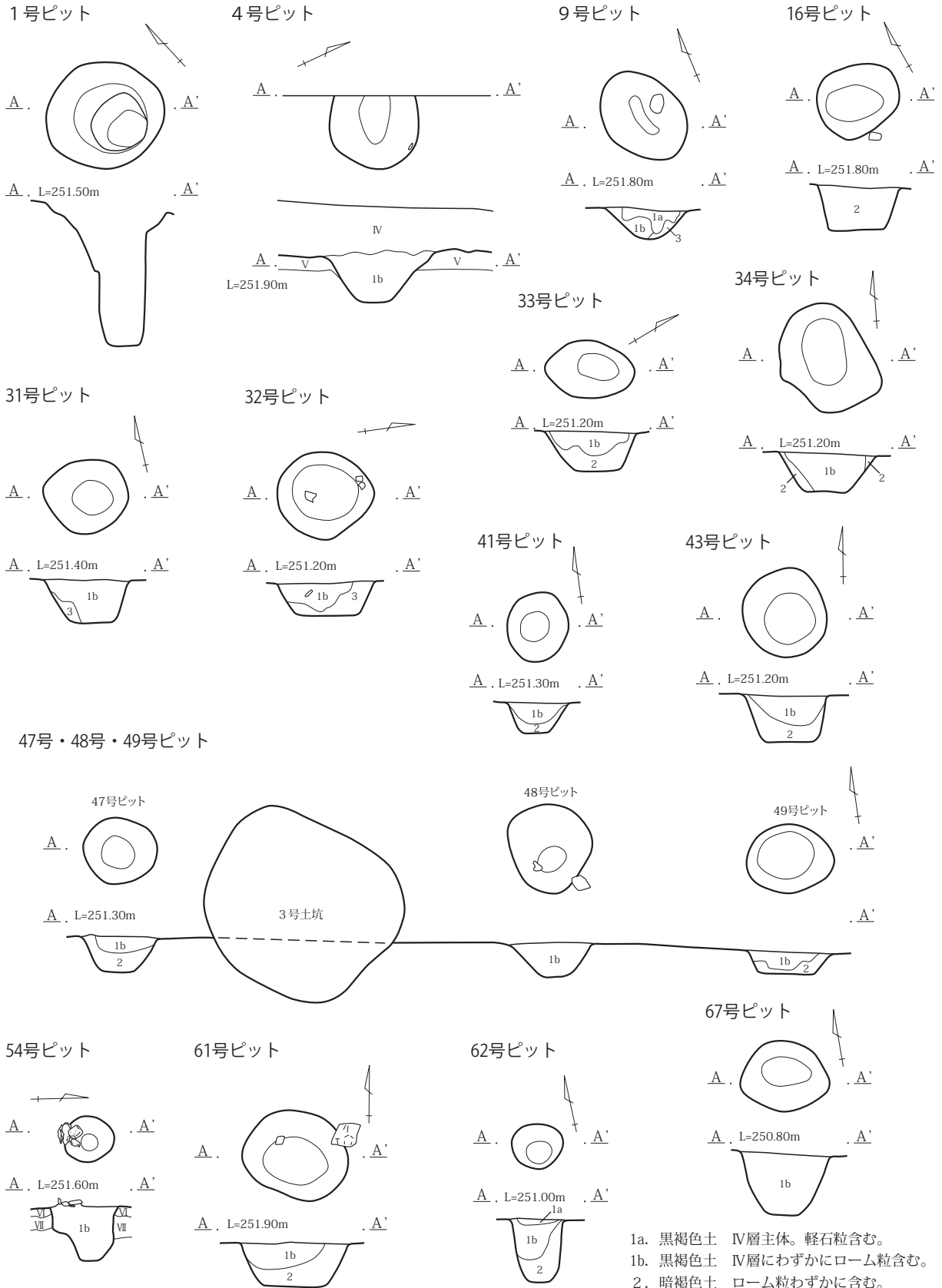


第341図 12区ピット配置図 (3)



第342図 12区ピット配置図 (4)

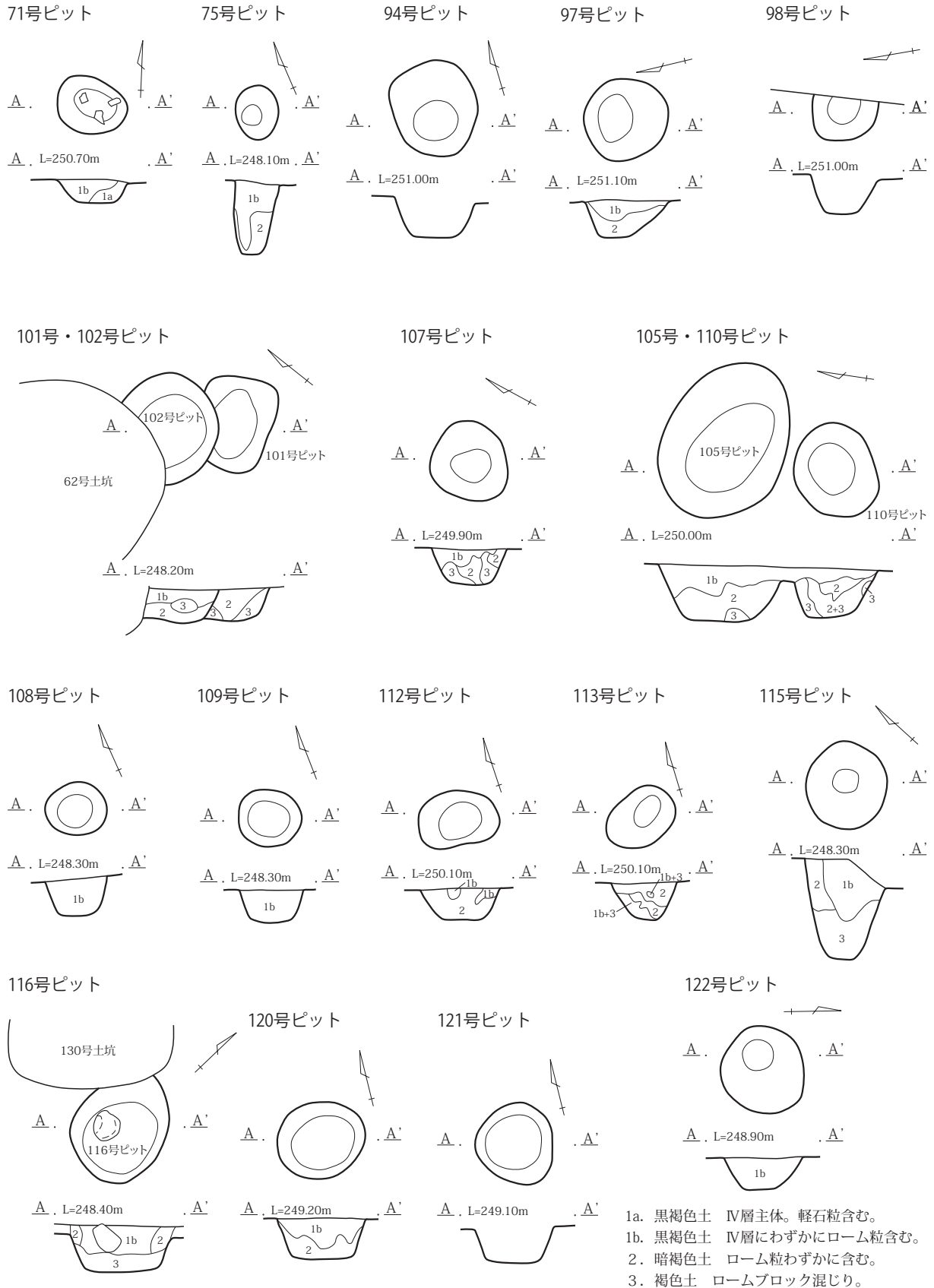
第5章 第4面の検出遺構



- 1a. 黒褐色土 IV層主体。軽石粒含む。
- 1b. 黒褐色土 IV層にわずかにローム粒含む。
- 2. 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3. 褐色土 ロームブロック混じり。

0 1:40 1m

第343図 12区ピット (1)



0 1:40 1m

第344図 12区ピット (2)



第337図 12区埋葬

各遺構計測表凡例

住居計測値一覧表：位置はグリッドをまたぐ場合は、占有するグリッドを示す。

重複遺構名は、新＝掘り込まれた遺構。旧＝掘り込んだ遺構を示す。

規模及び面積の（ ）は、残存範囲内での計測値を示す。

方位は北方向を軸としたため、N-を省略する。

また、円形等の軸方向・不明瞭な住居は炉長軸方向を示した。

区	NO.	位置	重複関係		平面形状	規模 (m)			面積 (㎡)	方位 (N-省略)	備考	時期
			新	旧		長軸	短軸	壁高 (cm)				
2	1	Bd-35	単独		方形	2.98	2.90	35.0	(7.05)	54° -E		前期前葉

炉計測値一覧表：位置は中央を基点とし、方位は北方向を軸としたため、N-を省略する。

形態は礫や埋設土器の有無等により分け、形状は方形、長方形等の外形を示す。

埋設土器は器種と部位を示す。

区	NO.	炉位置	方位	形態	形状	規模 (cm)		火床面 (cm)		埋設土器	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
2	1	中央	54° -E	配石地床炉	不定形	53.0	28.0	-	-	-	火床面 礫出土。 脇に土器出土。

住居内ピット計測値一覧表：単位はcm

区	NO.	P 1			P 2			P 3			P 4			P 5			P 6			P 7			P 8		
		長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深
2	1																								
3	1	54	45	45.5	44	26	29.9	80	48	24															

土坑計測値一覧表：位置は占めるグリッド。計測値の単位はcm

重複の→○は○遺構に掘り込まれる（旧）、←○は○遺構を掘り込む（新）とする。

平面は掘り込み時に意識したと考えられる形状を記号化し、

A：方形 B：長方形 C：円形 D：楕円形 E：不定形とする

断面形も記号化し、

1：箱形 2：逆台形 3：袋状 4：丸底 5：ロート状または薬研 6：不定形

方位は北方向を軸としたため、N-を省略する。

土器・石器は遺構内出土点数を示す。

NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
1	Bh-42		C	1	96	88	29	23° -W		5	前期土器出土

第5章 第4面の検出遺構

第6表 住居計測一覧表

住居 - 1

区	NO.	位置	重複関係		平面形状	規模 (m)			面積 (㎡)	方位	備考	時期
			新	旧		長軸	短軸	壁高 (cm)				
2	1	Bd-35	単独		方形	2.98	2.90	35.0	(7.05)	54° -E		前期前葉
3	1	Bi-42	単独		長方形	5.43	4.60	52.0	17.57	42° -E	周溝内で小ピット連続する。	前期前葉
4	1	Bk-49	単独		方形	2.47	(1.70)	37.0	(2.23)	47° -E	掘方面倒木痕状。	中期後半
	2	Bn-51	単独		隅丸方形	4.23	(2.45)	—	(7.01)	26° -E	出土遺物2点のみ。	中期後半
7	1	Bp-51	単独		円形	2.66	(0.84)	20.0	(0.74)	0°	出土遺物極少。	不明
8	1	Bp-54	単独		円形	5.06	(2.80)	21.0	(15.25)	—	埋没土中に土器片が大量に出土。	中期後半
	2	Br-54		P15	不明	—	—	—	—	—	住居施設未検出。土器片が大量に出土。	中期後半
	3	Bp-53	3土		楕円形	(3.03)	2.81	18.0	(5.36)	38° -E	大振りの板状礫出土。	中期後半
	4	Bq-53	1土、P6・P10		隅丸方形	(3.82)	(1.13)	5.00	(2.35)	18° -E	床面で確認。周溝及び床面で住居認定。	中期後半
	5	Br-55	12土		隅丸方形	5.38	5.28	10.0	21.39	9° -W	南壁寄りに磨石・石皿・石核等並んで出土。	前期中葉
	6	Bs-56	2・4土		隅丸長方形	(6.58)	5.60	5.00	(8.82)	88° -E	南辺際に焼土の被った埋設土器あり。	中期後半
	7	Bs-58	18・19・23・30土		八角形	8.90	7.68	10.00	(43.08)	26° -W	長方形の張出部持ち、埋糞出土。	中期後半
	8	Bt-58	倒木痕		方形	(3.42)	(3.00)	—	(7.37)	28° -E	周溝、炉石で住居認定。	中期後半
9	1	Cc-64	単独		長方形	6.16	4.48	43.0	21.64	3° -E	6本柱穴と考えられ、中央2基は薄い痕跡あり。	前期前葉
	2	Ca-62	15土	3住	楕円形	3.78	3.67	8.00	8.35	2° -E	南壁際に埋糞。	中期後半
	3	Ca-62	2住、13・21土		隅丸長方形	4.92	(3.25)	8.00	(12.90)	6° -W	わずかな掘り込み。ピット2基検出したのみ。	不明
11	1	Cq-94	113土	4住	楕円形(多角形)	6.26	6.12	35.00	25.83	36° -E	住居中央付近に土器の濃密な分布。直線的な壁面見られ多角形?	中期後半
	2	Cp-95			楕円形(柄鏡形?)	7.28	5.72	23.0	26.99	154° -W	楕円形か?住居中央付近に土器の濃厚な分布。	中期後半
	3	Cn-93	21住、20・21土		楕円形(多角形)	5.61	5.15	16.00	20.09	23° -W	炉を中心に床面硬化明瞭。直線的住居壁あり、多角形住居か。	中期後半
	4	Cq-93	1住、601・602土		楕円形	7.20	(3.40)	51.00	(17.77)	10° -E	炉の北側を除いて小片が多量に散乱した状態。	中期後半
	5	Cq-91	単独		六角形	7.00	(4.48)	53.00	(22.24)	22° -E	住居中央付近に土器の濃密な分布。直線的な壁面見られ多角形?	中期後半
	6	Ci-82	405土		方形	4.60	(2.40)	15.00	10.77	8° -E	土器片は北半を中心に分布。	前期前葉
	7	Cl-81	187・252・263・330土		円形	6.84	(5.24)	6.50	(29.67)	27° -E	炉の北東に大型の深鉢が出土した。	中期後半
	8	Cl-84	199土		円形(多角形)	6.00	—	24.00	23.39	53° -E	建て替え住居。多角形住居の可能性あり。	中期後半
	9	Cl-85		35住、173土	隅丸方形	5.62	4.75	13.00	18.11	12° -E	壁際に小ピット巡る。	中期後半
	10	Cl-86		34住、167・171・200土	楕円形	5.60	5.40	17.00	20.12	22° -E	大型の土器破片が若干出土。多角形住居の可能性あり。	中期後半

第7表 炉計測一覧表

区	NO.	炉位置	方位	形態	形状	規模 (cm)		火床面 (cm)		埋設土器	備 考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
2	1	中央	54° -E	配石地床炉	不定形	53.0	28.0	-	-	-	火床面 礫出土。 脇に土器出土。
3	1	やや北	42° -E	配石地床炉	楕円形	66.0	52.0	-	-	-	火床面礫出土。
4	1	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2	ほぼ中央	26° -E	石囲炉	方形	94.0	(48.0)	50.0	-	-	40cm大の礫で囲う。礫破断。
7	1	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
8	1	ほぼ中央	-	埋糞石囲炉	円形	68.0	-	40.0	-	深鉢 口縁～体部	炉体土器を石で囲う。
	2	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3	やや北	-	埋糞石囲炉	円形	44.0	-	30.0	-	深鉢 口縁～体部	炉体土器周辺に礫出土。
	4	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5	北辺寄り	9° -W	配石地床炉	楕円形	60.0	51.0	-	-	-	炉内棒状礫 1石。南脇に深土65cm 程のビットあり。
	6	ほぼ中央	88° -E	地床炉	不定形	80.0	55.0	-	-	-	下部に長軸75cm、深さ65cmの方形 土坑あり。
	7	北寄り	26° -W	埋糞炉	楕円形	88.0	60.0	-	-	深鉢体部	炉体土器 2次焼成により脆弱。 両端に礫抜き取り状ビットあり。
	8	西寄り	28° -E	石囲埋糞炉	長方形	86.0	77.0	50.0	42.0	深鉢 口縁～体部	炉体土器口縁部 2次焼成により脆弱。
9	1	北寄り	3° -E	石囲埋糞炉	長方形	67.0	37.0	42.0	-	深鉢口縁	炉北が石組、南に埋設土器。
	2	ほぼ中央	2° -E	石囲炉	方形	85.0	50.0	40.0	18.0	-	長35×幅35cm前後の礫を 4石。
	3	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	1	ほぼ中央	36° -E	石囲埋糞炉	長方形	138.0	102.0	113.0	65.0	深鉢体部	北壁大礫被熱により破断。
	2	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3	ほぼ中央	23° -W	石囲埋糞炉	方形	76.0	74.0	55.0	48.0	深鉢底部	深鉢底部 2 個体を埋設。
	4	ほぼ中央か	10° -E	石囲埋糞炉	方形	118.0	(86.0)	86.0	(65.0)	深鉢体部	石組礫被熱により破断。
	5	やや北	22° -E	石囲埋糞炉	長方形	100.0	80.0	70.0	40.0	深鉢 口縁～体部	石組抜き取られる。
	6	やや北	-	石囲炉?	-	-	-	-	-	-	礫集中。
	7	ほぼ中央	53° -E	石囲埋糞炉	方形または 楕円形	90.0	85.0	70.0	55.0	深鉢底部	礫床か。礫下から炉体土器出土。
	8	ほぼ中央	53° -E	石囲炉	方形	95.0	-	70.0	-	-	
	9	やや西	12° -E	石囲炉	長方形	80.0	48.0	60.0	35.0	-	
	10	ほぼ中央	22° -E	石囲炉	長方形	156.0	110.0	127.0	65.0	-	石組礫被熱により破断。

区	NO.	位置	重複関係		平面形状	規模 (m)			面積 (㎡)	方位	備考	時期
			新	旧		長軸	短軸	壁高 (cm)				
11	11	C1-90	227土		円形 (多角形)	6.40	—	25.00	(22.73)	30° -E	床面で確認。炉石、柱穴、周溝により住居と認定	中期後半
	12	Cn-90	24住		楕円形	6.13	5.48	12.0	20.80	25° -E	多角形住居の可能性あり	中期後半
	13	Co-91		19住	台形状	4.80	4.62	15.00	14.34	21° -E	炬の占める割合大きい。	中期後半
	14	C1-88		15住	円形 (多角形)	7.22	6.80	18.00	32.36 (27.54)	38° -E	多角形住居の可能性あり。	中期後半
	15	Ck-87	14住		長方形	4.80	3.70	18.00	15.86	90°	小ピット多数検出。	中期後半
	16	Cn-88	221土、 P383	25、30 住	円形 (多角形)	6.00	—	5.00	24.45	40° -E		中期後半
	17	欠番										
	18	Cm-92	22住 59-61土		長方形 (多角形)	7.20	6.60	4.50	32.57	0°	多角形住居の可能性あり。	中期後半
	19	Cn-91	13住		楕円形	6.80	5.80	16.00	23.25	48° -E	南北2列、6基の大型柱穴を有する。	中期後半
	20	欠番										
	21	Co-93	4・6 土	3住	楕円形	8.70	7.80	0	19.7	43° -E	多角形住居の可能性あり。	中期後半
	22	Cm-91		18住	長方形	3.20	2.40	41.0	6.68	0°	竪穴状遺構。	中期後半
	23	Cp-96	26住、 土坑		隅丸方形	南壁 4.20	—	35.00	(1.58)	5° -W (南壁)	南壁際のみ検出。	前期前葉
	24	Cm-90	110土	12住	楕円形	6.90	6.20	22.00	21.78	37° -E	柱穴及び周溝が2重に巡る。	中期後半
	25	Cm-88	16住	30住	楕円形	5.70	5.20	20.00	17.71	25° -E	柱穴配置から建て替え住居。 多角形住居の可能性あり。	中期後半
	26	Co-95	1埋、 37・38 ・48土	23住	円形	6.90	(5.50)	5.00	(27.68)	0°	床面で確認。炉石、柱穴、周溝により住居と認定。	中期後半
	27	Cj-83		28住	隅丸方形	4.35	—	0	(9.29)	22° -E	床面で確認。炉石、柱穴、周溝により住居と認定。	中期後半
	28	Ck-83	27住		隅丸長方形	6.20	4.00	25.00	20.42	8° -E	壁面、床面焼土化。焼失住居。	前期前葉
	29	Cn-86	145・191・ 192・210 土	174土、 32住	楕円形	4.60	4.00	0	13.63	28° -E	縄文時代前期前葉の土器片は 174号土坑と考える。	中期後半
	30	Cn-88	16・25住、 121・134土		長円形	6.20	5.25	0	22.26	43° -E	多角形住居の可能性あり。	中期後半
	31	Ci-84	176土		隅丸長方形	3.35	—	35.00	—	23° -E (東壁)	東壁のみ検出。	前期前葉?
	32	Cn-85	29住、178・ 211・222土、 P399		長方形	7.20	4.45	25.0	25.94	22° -E	建て替え住居。	前期前葉
	33	Co-87	203・ 231・ 232土		方形	4.50	4.00	30.00	(7.85)	23° -W		前期後半
	34	C1-86	9・10住、 239土	35住、 新旧不明	隅丸長方形	3.45	(3.20)	27.00	(7.43)	26° -W	炬未確認。	前期
	35	C1-85	9住、173・ 201・225・ 233土	34住、 新旧不明	隅丸長方形	5.30	3.70	38.00	12.67	5° -E		前期前葉
	36	Cj-80		55住、 360・367・ 387土	隅丸方形	5.30	4.90	0	19.74	51° -E	多量に礫出土。 1号、2号配石検出。	中期末葉

区	NO.	炉位置	方位	形態	形状	規模 (cm)		火床面 (cm)		埋設土器	備 考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
11	11	やや北	30° -E	石囲埋喪炉	楕円形	114.0	96.0	72.0	62.0	深鉢 口縁～体部	
	12	ほぼ中央	25° -E	埋喪炉	楕円形	94.0	80.0	-	-	深鉢底部	
	13	中央	21° -E	石囲炉	長方形	142.0	80.0	92.0	55.0	-	炉南脇深鉢埋置。
	14	ほぼ中央	38° -E	石囲埋喪炉	隅丸長方形	120.0	100.0	85.0	70.0	深鉢体部	石組礫に石皿転用。
	15	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	16	ほぼ中央	40° -E	石囲炉	長方形	80.0	48.0	80.0	30.0	-	96×80cmの地床炉的掘方検出。
	17	欠番									
	18	ほぼ中央	68° -E	地床炉	楕円形	114.0	88.0	-	-	-	
	19	ほぼ中央	48° -E	石囲炉	楕円形	45.0	-	-	-	-	破壊された石囲炉。
	20	欠番									
	21	ほぼ中央	43° -E	石囲炉	長方形	122.0	92.0	100.0	61.0	-	火床面下の焼土化が著しい。
	22	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	23	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	24	中央	37° -E	石囲炉	長方形	139.0	102.0	102.0	84.0	-	短軸 大礫使用。
	25	中央	25° -E	石囲炉	長方形	120.0	85.0	-	50.0	-	部分的に礫が残る。火床面下の焼土化が著しい。
	26	中央	0°	石囲炉	楕円形	80.0	70.0	40.0	-	-	火床面偏平円礫敷。
	27	中央	43° -E	石囲炉	長方形	80.0	62.0	48.0	45.0	-	
	28	北半の中央	8° -E	石組石敷炉	長方形	50.0	45.0	35.0	15.0	-	
	29	中央	52° -E	地床炉	楕円形	80.0	60.0	-	-	-	
	30	やや北	43° -E	石囲埋喪炉	隅丸長方形	132.0	92.0	-	-	深鉢体部	
	31	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	32	北中央	22° -E	石囲埋喪 石敷炉	長方形	90.0	48.0	52.0	32.0	深鉢体部	炉床面に板状礫を敷き、南辺に埋設土器。
	33	北中央	23° -W	地床炉	楕円形	64.0	45.0	8.0	-	-	
	34	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	35	北中央	5° -E	石囲石敷炉	長方形	50.0	42.0	32.0	26.0	-	火床石に偏平礫敷。
	36	ほぼ中央か	51° -E	石囲炉	方形	68.0	62.0	48.0	42.0	-	石組礫被熱により破断。

区	NO.	位置	重複関係		平面形状	規模 (m)			面積 (㎡)	方位	備考	時期
			新	旧		長軸	短軸	壁高 (cm)				
11	37	Ci-77	242・245・248・251・259土	38・40住	六角形	6.10	5.50	30.00	25.14	18° -E	埋甕2箇所、多量の土器出土。	中期後半
	38	Ci-77	37・40住、260・261土	251土	隅丸長方形	5.20 (北壁)	3.60 (西壁)	10.00	(21.30)	55° -W	あまり多くない小片が全域から出土。	中期後半
	39	Ci-74			不明	-	-	-	-	-	連続する3基の埋甕検出。住居の可能性薄い。	中期後半
	40	Cj-77	37住、242土	38住、433土	円形	(7.30)	-	-	(21.38)	30° -E	若干の遺物が散乱した状態で出土。	中期後半
	41	Cg-76	304・308・311・333・335・343・527土		楕円形	8.58	-	-	(50.88)	75° -E	炉石、柱穴の配置で住居認定。	中期後半
	42	Ce-73	429・430土		隅丸長方形	4.70	3.90	10.0	15.15	30° -E	少量の遺物が散乱と浅い掘り込みと炉を検出。	後期前半
	43	Ci-79	362・414土	55住	隅丸方形	3.50	-	31.0	9.46	26° -W	西辺際に埋甕1基検出。	後期前半
	44	欠番										
	45	Cg-78	51住、353・362・368・370・373・374・391・497土	52住	円形	6.00	-	-	(28.11)	-	南辺に1基検出。	中期後半
	46	Cf-70	371土	270土	(円形)	-	-	10.00	(7.56)	-		中期後半
	47	Ce-70	468土		矩形	3.30 (北壁)	-	30.00 (北壁)	-	-	住居の可能性薄い。	
	48	Ch-80	51住		矩形	-	-	-	1.49	-	出土遺物なし。住居の可能性薄い。	-
	49	Cj-82			隅丸長方形	5.80	5.00	5.00	(29.00)	15° -W	炉石、柱穴の配置で住居認定。埋甕を2箇所確認。	中期後半
	50	Ck-81	236土		楕円形	3.95	3.45	55.00	7.12	15° -E		中期後半
	51	Ch-79	381・392土	45・48・52住	八角形?	8.00	-	35.00	(25.45)	25° -E	他遺構との重複激しく埋没土中からの出土遺物多い。	中期後半
	52	Cg-79	45・51住		方形	(3.90) 東壁	(2.50) 南壁	32.00	(2.72)	5° -W	他遺構との重複激しい。最下面で検出。	前期中葉
	53	Cg-80	51住、472土		円形	(5.20)	-	-	-	15° -E	立ち上がり不明瞭。炉と柱穴配置で住居認定。	中期後半
	54	Ci-80	43住、395土		六角形か?	(6.05)	(4.80)	-	-	30° -W	立ち上がり不明瞭。炉及び柱穴配置で認定。	中期後半
55	Cj-79	36・43住、10埋、241・289・300・359・360・362・422土		楕円形	(4.70)	(4.20)	-	-	43° -W	立ち上がり不明瞭。炉及び柱穴配置で認定。	中期後半	
56	Ci-80	404・411土、5埋甕		円形	3.50 (東西)	3.50 (南北)	-	-	15° -E	重複遺構との新旧関係不明瞭。	中期後半	
12	1	Dc-128	26土		隅丸方形	5.40	4.80	58.00	(20.19)	8° -W	土器の出土は少ない。	前期後葉
	2	Da-115	4住、46・54土		隅丸長方形	7.10	6.80	18.00	31.31	14° -W	埋没土中に土器片が大量に出土、ほぼ全面に散乱した状態。	中期後葉
	3	Dc-115			柄鏡形	全長 6.45	-	36.00	17.22	26° -E	主体部 一辺4.2m、張出部 長×幅 2.25×1.2m 柄鏡形敷石住居。	中期末葉
	4	Db-116		2住	柄鏡形	全長 6.90	-	35.00	18.97	53° -E	主体部 長×幅 4.8×4.5m 張出部 長×幅 2.8×2.0m 柄鏡形敷石住居。	中期後葉
	5	Ct-117	52・53土		六角形状	5.50	-	34.00	(18.53)	5° -E	床面付近まで掘り下がる。建て替え住居か。	中期後葉
	6	Cr-98		15住 (下部で確認)、109土	楕円形か	-	-	-	-	-	15号住居と全く重なり、15号住居埋没途中の凹みの可能性あり。	後期初頭

区	NO.	炉位置	方位	形態	形状	規模 (cm)		火床面 (cm)		埋設土器	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
11	37	やや東	18° -E	石囲炉	長方形	80.0	70.0	50.0	40.0	-	石組礫被熱により破断。
	38	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	39	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	40	ほぼ中央	30° -E	石囲埋喪炉	隅丸長方形	150.0	(90.0)	60.0	(42.0)	深鉢体部	下位に 43 号土坑。
			-	埋喪石囲炉	円形	40.0	-	-	-	深鉢体部	
	41	中央	75° -E	石囲埋喪炉	隅丸方形	96.0	-	70.0	-	深鉢体部	
	42	ほぼ中央	30° -E	埋喪炉	楕円形	45.0	-	-	-	深鉢体部～底部	
	43	ほぼ中央	26° -W	石囲炉	方形	25.0	-	12.0	-	-	小型の石組。
	44	欠番									
	45	中央か	5° -E	石囲炉	方形	60.0	-	30.0	-	-	炉石に大型の石皿転用。
	46	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	47	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	48	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	49	中央	40° -E	石囲埋喪炉	方形	78.0	76.0	54.0	-	深鉢口縁～体部	石組礫被熱の影響強く、土器も口縁部が変色し脆弱。
	50	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	51	ほぼ中央	25° -E	石囲埋喪炉	方形	70.0	-	60.0	-	深鉢口縁～体部	石組礫被熱の影響強く、土器も口縁部が変色し脆弱。
	52	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	53	中央	15° -E	石囲炉	方形?	-	-	-	-	-	石組と中の焼土で炉とした。
54	中央	30° -W	石囲埋喪炉	長方形	70.0	55.0	25.0	-	深鉢体部	石組礫被熱の影響強く、土器も口縁部が変色し脆弱。	
55	中央	43° -W	石囲炉	隅丸長方形	55.0	30.0	-	-	-	人為的破壊か。 掘方：92 × 88cm	
56	やや東北	15° -E	石囲炉?	長方形	92.0	82.0	-	-	-		
12	1	東寄り	8° -W	石囲埋喪炉	楕円形	18.0	-	-	-	深鉢体部	土器を囲うよう石組掘方：50 × 40cm
	2	やや北東	14° -W	石囲炉	楕円形	70.0 (焼土)	40.0	-	-	-	炉内に礫が散在する。 掘方：144 × 138cm
	3	やや東より	30° -E	石囲埋喪炉	楕円形	144.0	138.0	-	-	深鉢 2 個体	土器を囲うよう石組される。
	4	ほぼ中央	53° -E	石囲炉	楕円形	70.0	-	42.0	-	深鉢 2 個体	4 石組、被熱により破断。
	5	ほぼ中央	5° -E	埋喪炉	隅丸方形	110.0	85.0	-	-	深鉢体部	礫抜き取り痕状の小ピットあり。
	6	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	

区	NO.	位置	重複関係		平面形状	規模 (m)			面積 (㎡)	方位	備考	時期
			新	旧		長軸	短軸	壁高 (cm)				
12	7	Co-99		67土	隅丸方形	3.80	—	40.0	(4.35)	20° -E		中期後葉
	8	Cp-101	79・108・147土		胴の張る長方形	4.20	4.00	60.00	12.64	67° -E	炉を中心として散乱した状態。前期前葉土器混入。	中期後葉
	9	Cq-100			円形	径4.20	—	30.0	12.05	21° -E	900点近い出土遺物。	中期後葉
	10	Cq-103		251土	楕円形	5.20	4.70	56.00	17.83	0°	埋喪・立石のセットを検出。	中期後葉
	11	Co-99	80・93土	13住、92土	楕円形か	5.00	4.40	約19.00	(16.18)	0°		中期後葉
	12	欠番										
	13	Cp-99	11住、93土 (新旧不明)		楕円形	(5.00)	4.40	19.00	(17.13)	12° -E		中期後葉
	14	Cs-99		54・134土	楕円形	2.00	—	—	(4.00)	37° -W	敷石住居。下部の134号土坑埋没土没下のため傾く。	中期末葉
	15	Cq-98	6住 (土部遺物のみ)、91土		楕円形	(6.00)	4.80	23.00	(15.91)	43° -E	上層検出の6号住居は本住居埋没途中の凹みか。	中期後葉
	16	Cq-99	109土		隅丸方形	約4.40	4.20	19.00	13.17	2° -E	量は多くないが全体的に散乱。	中期後葉
	17	欠番										
	18	Cr-104		44・47住、219土	柄鏡形	3.00	1.50	34.00	—	35° -E	柄鏡形敷石住居。	中期後葉
	19	Cs-106				—	—	—	—	15° -W	屋外炉の可能性強い。	—
	20	Cs-113			やや歪んだ楕円形	(6.80)	—	5.00	(23.45)	37° -E		中期後葉
	21	Da-112		34・35・56・57住	楕円形	6.00	5.20	5.00	29.12	15° -E	炉とわずかな掘り込み。	中期末葉
	22	Ct-114	99・110・121土、P111・P112		楕円形	6.80	6.40	15.00	24.13	10° -W	多角形住居の可能性あり。	中期後葉
	23	Cs-111	135・174土、P117	36住	楕円形	6.00	—	10.00	24.36	0°	多角形住居の可能性あり。	中期後葉
	24	Db-114	101～104土		隅丸方形	4.30	4.10	40.00	13.26	9° -E		中期後葉
	25	Cq-100		117土	楕円形	3.40	2.80	10.00	7.68	55° -E	住居北壁外際に埋喪検出。埋喪内礫出土。	中期後葉
	26	Cr-109	39住	209土	楕円形	4.60	4.00	40.00	13.28	18° -E	炉北西脇に埋喪及び立石検出。	中期後葉
	27	Cq-101	126・127土		隅丸方形	5.60	5.10	25.0	20.24	55° -W	南西隅に集石と埋喪検出。	中期後葉
	28	Ct-106		206土		—	—	—	—	15° -E	屋外炉の可能性あり。前期前葉の土器混入。	中期後葉
	29	Ct-106			—	—	—	—	—	18° -E	屋外炉の可能性あり。	中期後葉
	30	Cs-105			—	—	—	—	—	2° -W	屋外炉の可能性あり。	中期後葉
	31	Cq-105	46住・136土	44・45住	楕円形	6.80	5.60	14.00	(22.90)	2° -E		中期後葉
	32	Cs-101		33・37住148・177土	円形	6.00	—	22.00	(26.97)	24° -E	1000点を超える遺物出土。	中期後葉

区	NO.	炉位置	方位	形態	形状	規模 (cm)		火床面 (cm)		埋設土器	備 考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
12	7	ほぼ中央	20° -E	地床炉	隅丸方形	100.0	-	-	-	-	北壁と中央で深鉢底部出土。
	8	やや西寄り	0°	石囲炉	「コ」の字	60.0	50.0	31.0	29.0	-	7個の礫で組む。
	9	ほぼ中央	21° -E	石囲埋喪炉	方形	64.0	60.0	46.0	30.0	深鉢体部	大礫4石+1石で組む。 炉石は被熱により破断。
	10	やや北寄り	0°	石囲埋喪炉	方形	78.0	60.0	46.0	30.0	深鉢 口縁部欠	大礫を4石で組む。炉石は被熱で 破断。掘方規模：1辺93×深27cm
	11	やや北寄り	0°	石囲炉	隅丸方形	65.0	-	30.0	29.0	-	大礫4石+1石で組む。 掘方規模：長85×短68×深26cm
	12	欠番									
	13	やや東寄り	12° -E	石囲埋喪炉	隅丸方形	65.0	-	65.0	45.0	深鉢体部	掘方規模：長85×短80×深25cm
	14	中央	37° -W	石囲炉	方形	60.0	50.0	30.0	-	-	40cm前後の礫4石で組む。 炉石は被熱により破断している。
	15	ほぼ中央か	43° -E	石囲炉	楕円形	130.0	70.0	110.0	50.0	-	掘方規模：長150×短85×深20cm
	16	ほぼ中央	2° -E	石囲埋喪炉	方形	60.0	-	40.0	-	深鉢体部	20～30cm程の礫を組む。 掘方規模：長90×短85×深14cm
	17	欠番									
	18	連結部石組	35° -E	石組	方形	50.0	-	内法 25.0	-	-	掘方規模：長70×短60×深25cm
	19	-	15° -W	石囲炉	楕円形	50.0	-	25.0	-	-	掘方規模：長60×短55×深25cm
	20	ほぼ中央か	37° -E	石囲炉	卵形状	128.0	102.0	95.0	65.0	-	焼土多量に含む。 掘方規模：長150×短115×深36cm
	21	やや北より	15° -E	石囲炉	「コ」の字	80.0	-	45.0	-	-	50cm前後の大礫配置、使用時は方 形に組まれていた
	22	やや東側	10° -W	地床炉	楕円形	100.0	90.0	-	-	-	浅い掘り込み
	23	やや東側	0°	埋喪炉	楕円形	135.0	125.0	-	-	深鉢	火床面に礫散在。 石囲炉の可能性あり。
	24	未設置か	-	-	-	-	-	-	-	-	
	25	西寄り	55° -E	石囲炉	「コ」の字	55.0	45.0	25.0	20.0	-	掘方規模：長60×短50×深25cm
	26	やや南側	18° -E	石囲埋喪炉	長方形	60.0	50.0	35.0	30.0	-	脇に埋喪検出。 掘方規模：長80×短60×深22cm
	27	ほぼ中央	55° -W	埋喪炉	楕円形	90.0	78.0	-	-	深鉢	火床面したから埋喪検出。 周辺部焼土化。
	28	確認不能	15° -E	石囲埋喪炉	方形	86.0	76.0	86.0	36.0	深鉢	10～30cm程の礫を組む。 掘方規模：長85×短80×深35cm
	29	確認不能	18° -E	石囲炉	長方形	102.0	75.0	75.0	64.0	-	掘方規模：長105×短80×深20cm
	30	不明	2° -W	石囲埋喪炉	方形	90.0	-	50.0	-	深鉢2個体	炉石、被熱により破断。 掘方規模：長110×短100×深47cm
	31	やや北より	2° -E	石囲埋喪炉	方形状	120.0	90.0	55.0	-	-	大礫配置の周囲に小礫配置。掘方 規模：長107×短97×深27cm
	32	中央	24° -E	石囲埋喪炉	方形	90.0	-	70.0	-	深鉢	大礫4石と周囲に小礫。大礫は被 熱により破断。 掘方規模：一辺105×深30cm

区	NO.	位置	重複関係		平面形状	規模 (m)			面積 (㎡)	方位	備考	時期
			新	旧		長軸	短軸	壁高 (cm)				
12	33	Cs-102	32住、148・177土	55住、148土	楕円形か	5.30	—	約15.00	(20.01)	44° -W	出土量は少ない、散漫とした出土状況。	中期後葉
	34	Da-112	21住、170・189・198土	35・57住、228土	楕円形(八角形)	6.40	6.00	40.00	26.27	50° -E	多角形住居の可能性あり。1700点を超える遺物出土。	中期後葉
	35	Ct-110		34・56・57住、143・189土	柄鏡形	全長6.60	—	—	22.83	18° -E	柄鏡形敷石住居。主体部 長3.5m、短3.0m、張出部 長4.5m、短1.5m	中期後葉
	36	Cr-110	23・39住、135土	55住、148土	楕円形	—	—	—	(15.52)	15° -E	出土遺物はわずかである。	中期後葉
	37	Cs-100	32住、191土		楕円形	4.90	—	5.00	(15.24)	20° -E		中期後葉
	38	Cs-109		42住	柄鏡形	全長7.20	—	10.00	19.85	17° -E	柄鏡形敷石住居。主体部 一辺4.5m、張出部 長2.7m 幅1.2m	中期末葉
	39	Cr-109	26住	36住	楕円形か	中心径7.15	—	30.00	(22.81)	15° -E	建て替え住居の可能性あり。	中期後葉
	40	Ct-109		243・244土坑	卵形	6.50	5.20	東壁5.00弱	25.15	22° -W		中期後葉
	41	Da-108			隅丸長方形	6.00	4.40	東壁8.00	(15.8)	67° -W		中期後葉
	42	Cs-108	38住	178土	楕円形(多角形)	7.00	—	30.00	36.41	2° -E	多角形住居か。多量の遺物出土。	中期後葉
	43	Cq-107	159～161・171土、P121		隅丸方形	6.00	—	20.00	(18.11)	22° -E		中期後葉
	44	Cr-105	31住	45住	円形	5.00	—	10.00	(18.71)	—	早期の尖底及び三角錐形石器出土。	中期後葉
	45	Cr-105	31・44・46住、136・152土		円形	8.00	7.20	6.00	(44.81)	—		中期後葉
	46	Cq-106	31・44・45住、164土		楕円形	6.00	—	7.00	(24.6)	—	掘り込み浅く、住居内施設も不明瞭であり住居の可能性薄い。	—
	47	Cs-104			楕円形	4.20	—	16.00	(7.41)	15° -E	炬の周囲に遺物集中。炬周辺に遺物分布。	中期後葉
	48	欠番										
	49	Dd-117			不明	—	—	—	—	—	単独の埋葬遺構の可能性あり。	後期初頭
	50	Ct-103	200土	55住	楕円形	4.40	—	15.00	(12.63)	—	埋葬2箇所検出。	中期末葉
	51	Ct-104		220土	円形か	4.90	—	約10.00	(8.87)	0°	掘り込み浅く、住居内施設も不明瞭であり住居の可能性薄い。	中期後葉
	52	Cs-103		53住、199・202・208土	楕円形	5.60	3.70	20.00	15.67	39° -E	遺物が全域に散乱していた。	中期後葉
53	Cr-103	52住	245土	楕円形	5.10	—	25.00	(19.31)	20° -E		中期後葉	
54	Cs-98・99	14住、134土		楕円形	4.28	—	24.00	(9.18)	—	14号敷石住居下部で検出。	中期後葉	
55	Cs-102	33・50住		楕円形	—	—	10.00	—	—	50号住居と重複し、遺物混在。	中期後葉	
56	Da-112	34・35住、170・222土		楕円形か	—	—	30.00	—	—	住居不明瞭、屋内施設もなく、上部34号住居掘方の可能性あり。	前期中葉	
57	Da-112	21・34・35住	56住	楕円形か	10.30	—	7.00	—	—	重複住居の外縁部で検出。	中期後葉	

区	NO.	炉位置	方位	形態	形状	規模 (cm)		火床面 (cm)		埋設土器	備 考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
12	33	中央	44° -W	石囲炉	楕円形	100.0	90.0	75.0	65.0	-	掘方規模：長115×短100×深15cm
	34	中央	50° -E	石囲炉	板状礫列のみ残存	-	-	-	-	-	170号土坑に壊され、西側石組残る。
	35	中央	18° -E	石囲炉	方形	70.0	-	45.0	-	-	大礫3石と深鉢体部片で組む。掘方規模：一辺74×深17cm
	36	中央	15° -E	埋喪石囲炉	楕円形状	75.0	68.0	-	-	深鉢	20cm前後の礫で土器を囲む。掘方規模：長100×短80×深23cm
	37	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	38	やや南寄り	30° -E	石囲炉	方形	86.0	-	40.0	-	-	掘方規模：長90×短80×深22cm 炉石は被熱により破断。
	39	中央	15° -E	石囲炉(1号炉)	楕円形	96.0	84.0	142.0	110.0	深鉢	掘方規模：長142×短110×深50cm
			80° -E	埋喪炉(2号炉)	楕円形	100.0	80.0	-	-	口縁～体部	
	40	北壁寄り	22° -W	石囲埋喪炉	楕円形	98.0	90.0	-	-	-	掘方規模：長105×短90×深35cm
	41	やや東寄り	67° -W	埋喪炉	楕円形	45.0	-	-	-	深鉢	掘方規模：長67×短50×深12cm
	42	やや北寄り	2° -E	埋喪炉	隅丸長方形	140.0	-	35.0	-	深鉢 口縁～体部	底面焼土の厚い堆積。
	43	中央	22° -E	石囲炉	隅丸長方形	125.0	62.0	-	-	-	掘方規模：長167×短70×深22cm
	44	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	炉が破壊された可能性あり。
	45	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	46	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	47	やや北寄り	15° -E	埋喪炉 (石囲炉)	楕円形	68.0	63.0	-	-	深鉢 (底部欠)	掘方：深さ 39cm
	48	欠番									
	49	中央か	-	埋喪炉	円形	-	-	-	-	深鉢	掘方規模：径約80×深46cm
	50	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
	51	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-	
52	やや東寄り	39° -E	埋喪炉	円形	68.0	-	-	-	-	掘方：径72cm	
53	やや南東寄り	20° -E	石囲炉	長方形	60.0	50.0	45.0	25.0	-	掘方規模：長65×短60×深19cm	
54	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-		
55	やや西寄り	-	地床炉	楕円形	90.0	-	-	-	-	大量の土器片と焼土混入。掘方土坑状を呈する。	
56	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-		
57	未検出	-	-	-	-	-	-	-	-		

第8表 住居内柱穴計測一覧表

区	No.	P 1			P 2			P 3			P 4			P 5			P 6			P 7			P 8			P 9			P 10					
		長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深			
2	1																																	
3	1	54	45	45.5	44	26	29.9	80	48	24																								
4	1																																	
4	2	34	33	42.5	31	29	37	28	26	40	42	29	52.5																					
7	1																																	
8	1	48	45	19.5	76	60	68	61	50	19	49	38	16																					
	2																																	
	3	43	40	21.5	40	30	15	32	30	46	53	40	47.5	54	36	21	33	31	24															
	4	48	46	26	62	54	50	58	13	12	40	36	46																					
	5	48	38	26.5	35	33	65.5	50	43	34	34	32	6	55	34	76.5																		
	6	53	17	25	28	22	25	35	23	25	63	52	35																					
	7	82	70	22	89	76	32	94	86	27	103	32	23.5	81	67	32	78	62	67.5	70	54	92	53	51	75	87	46	69.5	56	51	17.5			
	8	70	59	23	78	68	60	38	34	55																								
9	1	45	35	71	52	45	38	64	52	71	43	43	61	43	43	29	56	46	66															
9	2																																	
9	3	33	33	33.5	45	44	24.5																											
11	1	49	44	17	64	58	65	44	42	69	64	64	56.5	46.4	38	64.5	70	62	45	38	34	24	76	68	53	50	48	41.5						
	2	108	98	45	58	52	32	70	52	28	78	74	52.5	86	56	65.5	86	82	51	150	123	40	117	91	44.5	64	62	52.5	64	62	14			
	3	44	36	14	36	34	12	52	38	38	54	44	39	60	40	42.5	34	32	54.5	126	114	25.5	60	48	37	56	52	54	46	38	50			
	4	48	38	27.5	44	40	35.5	84	34	38	80	62	35	64	52	20.5	50	48	18															
	5	80	72	53.5	84	60	45	64	60	42.5	56	40	29	132	94	15.5	58	44	21.5	90	78	63	56	52	56	68	64	63						
	6																																	
	7	58	58	43.5	42	40	52.5	38	38	64	45	43	21.5	33	32	50.5																		
	8	72	58	51	54	50	47.5	80	66	59	70	54	71.5	64	58	42	80	48	85.5	84	62	56	90	78	86.5	85	64	54.5	70	60	68.5			
	9	44	42	26	30	23	12	32	31	13.5	31	28	38.5	28	27	12.5	46	38	35.5	48	42	41	38	37	17	58	45	67	59	54	34			
	10	56	44	26	63	48	40.5	60	57	40	45	43	42.5	35	30	39	66	64	30															
	11	46	36	60	57	48	53	61	49	54	67	55	54	58	46	52.5	30	30	24.5	32	30	38.5	44	38	23	40	24	21	34	25	41			
	12	66	62	54.5	65	57	56	100	68	77.5	70	64	63.5	86	78	52.5	46	44	36.5	34	28	15	36	33	28	36	30	13	62	60	75			
	13	35	30	50	62	48	56	40	30	25	64	38	25	55	48	24	41	36	36	35	24	20	50	44	31									
	14	69	59	60	75	72	52	74	65	72	71	54	46.5	53	36	35	66	54	34	64	62	58	49	40	39	48	45	71.5	46	42	76.5			
	15	40	34	13	52	45	12	53	48	33	56	45	29	32	30	49	40	38	6	55	46	43	30	22	30	22	20	53	110	46	61			
	16	75	66	48	84	65	51	76	61	42	65	53	27	87	75	10	49	42	33	76	38	14	80	62	33	50	45	39	73	64	45			
	17																																	
	18	52	50	46	70	56	14	78	50	57	60	35	32																					
	19	92	90	53	106	100	70	132	106	80	110	90	62	106	106	70	96	90	56	104	98	24	46	42	29									
	20																																	
	21	94	68	65	90	74	50	68	58	73	66	60	56	70	44	55	52	50	32	70	48	47	48	38	30	54	48	49	72	64	58			
	22	98	82	22	52	48	19																											
	23																																	
	24	94	82	49	84	66	49	90	80	58	88	78	56	98	66	53	74	72	52	78	72	49	74	50	35	78	56	31	54	52	26			
	25	94	78	50	68	60	46	74	70	47	74	72	46	72	64	32	72	64	46	68	64	26	62	60	34	98	82	35	98	80	53			
	26	50	42	34	64	54	27	40	32	22	46	38	30	58	44	42	52	42	54	33	26	19	60	44	18	48	40	41	62	46	22			
	27	46	40	32	44	44	24	54	42	71	40	38	40	46	38	22																		
	28	50	38	63	36	30	64	54	52	40	44	44	29	36	34	31	38	30	34															
	29	52	48	13	44	40	46	62	56	42	52	38	10	50	44	18	39	32	45	52	50	11	48	36	14	58	48	30						
	30	76	62	48	88	64	40	87	75	10	90	74	39	75	74	45	70	66	23	94	78	47												
	31																																	
	32	128	82	21	64	59	51	45	45	24	58	40	33	72	40	53	63	56	29	40	24	20												
	33	60	30	20	50	36	24	47	38	22																								
	34	47	35	34	35	34	56	26	23	4	40	37	45	36	30	9																		
	35	41	35	42	56	45	27	43	36	16	56	15	29																					
	36	57	42	64	44	36	29	34	28	16	60	38	22	48	43	52	43	37	30	36	30	33												
	37	40	30	46	45	36	17	45	38	25	43	37	28	66	50	34	43	41	36	50	36	44	42	40	24	65	52	41	50	42	43			
	38	70	66	47	52	1	28	55	46	26	75	45	62	64	50	58	56	35	47	46	30	44	50	40	52	35	30	29						
	39																																	
	40	80	32	72	78	74	74	90	66	67	90	54	50																					
	41	80	80	46	64	52	24	105	27	46	78	66	38	48	43	69	37	35	15	48	48	48	60	58	46	62	60	45	64	60	61			
	42																																	
	43	54	48	50	60	50	38	64	44	47	48	48	24																					
	44																																	
	45	56	44	57	52	46	62	60	44	70	58	42	69	50	48	29	46	32	60															
	46	28	22	19	50	38	30																											
	47	30	42	38	84	52	55				80	32	38																					

区	No.	P 1			P 2			P 3			P 4			P 5			P 6			P 7			P 8			P 9			P 10				
		長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深	長径	短径	深		
11	48																																
	49	80	70	60	66	48	52	50	38	43	38	38	33	48	37	45	54	46	60	42	40	28	60	50	52	57	44	67					
	50																																
	51	96	78	54	132	88	76	108	94	90	124	100	19	55	47	29	30	24	56	38	32	55											
	52																																
	53	45	32	16	32	28	30	38	24	30	47	33	25	38	36	10																	
	54	39	38	40	44	44	25	86	62	40	51	42	63	38	27	40	33	21	42	40	37	41	31	28	45	53	48	68	52	37	48		
	55	56	50	72	40	35	40	56	54	72	40	36	52	46	34	52	50	38	54	38	30	84	68	58	64	56	44	54	50	44	38		
12	1	55	40	29	46	40	38	54	46	37	44	35	31	65	42	35	48	44	27														
	2	59	50	63	56	52	32	52	29	28	56	44	53	56	52	49	65	60	55	63	54	59	67	50	51	48	44	42					
	3	38	38	28	30	28	25	38	30	30	24	22	18	50	36	20	64	52	44														
	4	35	30	16	35	30	34	42	38	11	30	28	28	40	26	28	34	30	26	96	57	52											
	5	64	64	61	54	53	24	56	50	53	60	50	49	52	42	55	58	48	27	58	52	65				44	38	52	62	45	41		
	6																																
	7																																
	8	60	50	54	42	38	25	48	36	19	48	36	17	80	80	39	37	34	17														
	9	46	45	28	52	26	17	48	32	41	56	55	25	45	44	45																	
	10	57	48	39	40	39	39	58	50	38	37	32	23																				
	11	39	32	42	34	34	32	32	26	32	36	29	33	56	54	29	38	32	34	44	38	47	43	38	36	50	26	18	34	28	28		
	12																																
	13	40	38	36																													
	14																																
	15	52	50	57	40	36	18	50	50	45	52	42	33	68	56	53	64	58	43														
	16	52	50	41	90	70	37	52	48	14																							
	17																																
	18																																
	19																																
	20	68	48	36	54	48	32	62	52	29	84	74	24	184	134	52	88	54	23	74	54	36	50	50	25	44	40	23					
	21																																
	22	48	36	16	38	38	20	52	50	31	54	40	33	52	50	30	47	52	44	46	44	25	38	36	16	52	36	24					
	23	52	48	35	52	44	24	46	40	36	42	33	32	50	46	45	54	34	48														
	24	42	36	19	38	34	26	32	28	22	36	28	13	40	30	18																	
	25																																
	26	68	64	54	62	40	26	54	52	39	50	35	25	64	52	55																	
	27																																
	28																																
	29																																
	30	52	50	47	54	46	38	60	52	20	88	64	46	48	26	25	46	42	20	76	50	25	80	80	27	46	34	24	64	40	39		
	31																																
	32	79	56	55	52	44	39	104	42	27	52	38	42	66	56	54	36	34	27	34	30	23	54	44	27								
	33	48	48	38	86	72	33	50	50	57	52	50	63																				
	34	54	50	48	64	48	55	58	54	59	88	72	33	46	42	34	66	64	60														
	35	42	35	48	47	42	22																										
36	54	46	45																														
37	39	35	48	36	32	26	36	32	16	40	32	24	56	50	52																		
38																																	
39	78	68	66	78	77	22	88	45	62	74	68	16	59	59	58	69	63	13															
40	42	38	17	54	40	28	50	40	35	48	40	18	60	36	28	40	34	17	40	38	21	48	40	43	54	52	27						
41	56	55	31	34	24	45																											
42	54	44	59	55	42	49	45	38	53	55	48	30	66	60	56	66	54	51	70	70	51	56	54	56	80	62	50	65	55	39			
43	41	28	29	44	36	36	36	34	20	66	42	17																					
44-45	64	42	25	42	37	29	32	28	15	55	40	32																					
46	83	54	11																														
47	36	32	38																														
48																																	
49																																	
50-55	55	32	49	43	36	25	84	73	22	94	87	28	60	59	41	70	57	25	64	51	72	82	42	20	55	52	45	52	42	35			
51																																	
52																																	
53	56	40	34	44	35	56																											
54																																	
56																																	
57	50	43	21																														

第5章 第4面の検出遺構

第9表 土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
3	1	Bh-42		C	1	96	88	29	23° -W		5	前期土器出土
	2	Bg-42		C	1	110	105	36	28° -E			一部ハンゲ
	3	欠番										
	4	Bh-41		C	1	43	40	60	78° -E			ピット状
	5	Bg-41		B	1	88	77	36	12° -E	2	5	
	6	Be-37		C	4	110	96	25	12° -W		6	大礫出土
	7	Bf-35		C	4	110	101	18	62° -E	7	4	土器片出土
7	1	Bm-46		C	2	154	134	44	13° -E	2		前期土器片出土
	2	Bp-50		C	1	138	—	114	0°			井戸状
	3	Bo-50		C	4	91	89	16	40° -W			
	4	Bo-50		C	4	60	—	23	0°			
8	1	Bq-52		E	6	160	94	74	75° -W			倒木痕状
	2	Br-55	→4土、6住	E	5	(148)	112	52	3° -W	3		テラス持ち倒木痕状
	3	Bp-53	→3住	C	4	107	92	33	75° -W	6		
	4	Br-55	←2土、→6住	C	2	163	140	103	67° -E	28	9	中期後半の土器片混入
	5	Br-56	→15土	B	2	139	105	49	88° -E			
	6	Br-56		D	5	138	122	37	11° -E	2		
	7	Bq-53		C	2	124	—	39	0°	23	2	
	8	Bq-54		C	1	111	104	40	40° -E			一部ハンゲ
	9	Bq-54		B	4	99	83	30	28° -E			
	10	Bq-55	11土と接する	D	4	100	—	9	0°			
	11	Br-55	10土と接する	D	4	169	148	13	65° -W			
	12	Br-55	→5住	A	1	95	95	68	45° -E	6		中期後半の土器土層出土
	13	Bs-55		D	1	100	—	70	0°	12	2	中期後半の土器片出土
	14	Br-56		C	2	100	91	38	50° -W	3		
	15	Br-56	→5土	C	1	90	(85)	70	12° -E	3	1	一部ハンゲ
	16	Br-57		B	1	133	125	52	50° -W	1	1	
	17	Bs-56		B	3	185	101	93	89° -W	6		前期土器片出土
	18	Bs-57	←7住	A	1	165	140	77	39° -E	45	7	中期後半の土器片混入
	19	Bs-58	←7住	D	1	98	81	34	20° -W		2	
	20	欠番								14		7住柱穴に変更
	21	欠番										7住柱穴に変更
	22	欠番								3		7住柱穴に変更
	23	Bs-58	←7住	E	2	181	136	75	67° -E	178	10	中期後半の土器出土
	24	欠番										
	25	Bt-57		C	1	120	—	50	0°	22	4	中期後半の土器出土
	26	Br-54		C	1	140	—	58	28° -E	11	3	中期後半の土器片混入
	27	Bq-54		C	4	120	(74)	13	28° -E			中期後半の土器片混入
	28	欠番										7住埋没途中の窪み

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
8	29	Bs-57		C	4	116	104	10	18° -W	18		後期土器片出土
	30	Br-59	←7住	C	1	104	100	53	0°	6	2	
	31	欠番										8住柱穴に変更
	32	Bq-54		D	2	130	75	30	22° -E	7		
9	1	Cc-67		B	4	100	54	14	13° -W			
	2	Cd-67		B	4	122	60	12	8° -W			
	3	Cd-67		B	1	140	74	56	13° -E	1		中期後半の土器片混入
	4	Cb-67		B	1	86	76	62	25° -E	4	2	
	5	Cc-67		A	2	66	66	18	7° -E	1		中期後半の土器片混入
	6	Cd-66		B	2	116	68	20	15° -W			
	7	Cd-66		B	4	118	58	10	10° -W			
	8	Cd-66		B	2	100	66	26	4° -W			
	9	Cb-66		C	3	138	130	82	26° -E	52	11	一部ハング 弥生中期土器出土
	10	Cd-66		B	2	130	74	26	26° -E		5	
	11	Cd-65		B	2	142	66	16	2° -E			
	12	Cc-65		B	2	146	84	22	32° -E			
	13	Bt-62	←21土、3住	C	2	80	76	24	10° -E	2	1	
	14	Bt-62	←21土	A	1	94	88	74	31° -E	47	4	中期後半の土器片混入
	15	Bt-61		C	2	94	82	26	64° -E			
	16	Cb-65		C	1	78	74	58	31° -E			
	17	Bt-63		C	4	122	112	10	12° -E			
	18	Ca-63		B	2	124	86	22	83° -W			
	19	Ca-61		D	2	114	96	52	21° -E	7		中期後半の土器片混入
	20	Cb-62		D	2	100	86	52	77° -W	18	4	中期後半の土器片出土
	21	Bt-62	→13・14土、←3住	C	2	136	132	24	38° -E	19	2	中期後半の土器片混入
	22	Ca-62		C	2	80	78	40	29° -E	10	1	中期後半の土器片混入
	23	Ca-62		D	2	126	120	40	40° -E	11		
	24	Cb-64		B	1	134	112	66	43° -E	4	1	
	25	Ca-61		C	1	100	80	50	4° -E			
	26	Bt-60	27土	C	2	80	(58)	28	12° -W	24	1	中期後半の土器片混入
	27	Bt-60	26土	C	2	102	90	54	77° -E		6	中期後半の土器片混入
	28	Bs-59	33土	B	2	120	116	46	85° -W	40	2	中期後半
	29	Bs-61	←49土	C	1	140	126	70	17° -E	36	2	中期後半
	30	Bt-61	←54土	C	2	122	110	74	63° -E	23	6	
	31	Bt-60		C	1	100	94	100	77° -W	5		一部ハング
	32	Bs-59	←45土	C	1	90	90	58	16° -W	17	4	礫出土 中期後半土器出土
	33	Bs-59	→34土、←28土	D	4	110	88	14	18° -E	7		
	34	Bs-60	33・35土	D	2	94	—	75	26° -E	24		中期後半の土器片混入
	35	Bs-59	34土	D	2	108	—	80	0°	29	3	中期後半の土器片混入
	36	Bs-60		D	5	114	92	42	8° -E	17	2	テラス持ち、土器片出土

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
9	37	Bs-59		C	2	116	110	48	0°	2		
	38	Bs-59		D	2	186	136	34	86° -W	99	9	中期後半の土器出土
	39	Bt-60		C	1	86	84	74	0°	31	9	中期後半の土器片混入
	40	Bs-61		C	1	136	(94)	80	0°	43	1	中期後半の土器出土
	41	Bt-61	←54土、→30土	C	2	130	120	29	0°	26		中期後半の土器片混入
	42	Bt-59		C	4	142	136	30	0°	17	4	小ビット有り。土器片混入
	43	Bt-59		C	2	85	83	25	63° -W			
	44	Bs-59	←45土	C	2	85	97	35	48° -W	117	3	中期後半の土器出土
	45	Bs-59	→44・32土	B	2	(102)	100	34	27° -W		9	中期後半の土器片混入
	46	Bs-58		D	2	93	(74)	28	28° -E	11	4	
	47	Bt-60	48土	C	3	96	90	50	0°			中期後半の大型深鉢出土
	48	Bt-59	47土	C	2	(92)	84	46	0°	8	2	中期後半の土器片混入出土
	49	Bs-61	→29土	C	1	100	(50)	62	0°	24	2	
	50	Bt-60		C	2	78	—	50	0°	7		
	51	Bt-60		C	2	78	—	40	0°	2		中期後半の土器片混入
	52	Ca-60		C	1	84	80	50	0°	3		中期後半の土器片混入
	53	Bt-60		C	1	87	75	27	60° -E			47号土坑出土大型深鉢と接合
	54	Bt-61	→30・41土	C	2	(70)	—	29	0°	3		
	55	Cb-62		C	2	80	76	19	25° -W			
	56	Bt-59	57土	C	4	58	—	16	0°			
57	Bt-59	56土	C	4	42	—	16	0°				
58	Bt-59		C	1	68	64	35	45° -W	1			
59	Cb-62		A	1	70	68	46	63° -E				
60	Cb-62		D	1	67	62	58	75° -E	4	2		
11	1	Cr-95		C	2	90	(52)	70	17° -E	9		中期中～後半土器出土
	2	Cq-95		C	4	(150)	70	38	76° -W	40	7	中期後半の土器片混入
	3	Co-96		D	4	84	(68)	42	72° -W			
	4	欠番										
	5	Co-95		B	2	98	84	20	5° -E	11	1	中期後半の土器片混入
	6	欠番										
	7	Cn-94		B	2	142	126	60	0°	7	1	中期後半の土器片混入
	8	Cp-95		C	2	190	(86)	12	72° -W	7		中期後半の土器片混入
	9	C1-91		E	4	126	86	14	69° -E	16	3	前期及び中期後半の土器片混入
	10	Cm-91		D	2	127	72	26	26° -W	3	3	中期後半の土器片混入
	11	Cn-88		E	2	266	210	20	15° -E	106	15	中期後半の土器片混入
	12	Cm-87		D	2	160	98	40	68° -E	27	8	中期後半の土器片混入
	13	Cn-88		A	4	124	110	56	53° -W	107	15	中期後半の土器片混入
	14	Cq-92		C	4	150	142	16	13° -E	16	8	中期後半の土器片混入
	15	Co-95	←1立、→16土	D	4	66	(20)	23	0°	3	2	中期土器片混入
	16	Co-95	←1立、15土	A	1	94	86	56	0°	5	3	前期中葉土器片混入

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	17	Co-94		A	2	132	118	56	87° -W	7	5	中期後半の土器片混入	
	18	Cm-85	←193土、→9住	C	2	284	275	30	47° -E	26	12	前期及び中期土器片混入	
	19	欠番										11住内落ち込みに変更	
	20	Cn-93	←3住、21土	C	1	80	—	36	69° -E	} 73	21	中期後半の土器片混入	
	21	Cn-93	→3住、20土	D	3	170	150	66	74° -E		3	打斧出土	
	22	欠番											
	23	Cn-96			A	3	96	82	70	47° -W	23	4	中期後半の土器片混入
	24	Cn-95			B	2	162	(138)	72	88° -E	26	14	中期後半の土器片混入
	25	欠番											
	26	Cm-95			A	1	110	104	70	20° -E	2	4	中期後半の土器片混入
	27	Cn-95	→P 309		E	4	120	(98)	30	40° -W			
	28	Cn-95			D	1	92	64	48	43° -W		1	大礫出土
	29	Cn-95	→39土		E	3	144	120	32	78° -W		1	大礫出土
	30	Co-95			C	1	90	70	54	35° -E	1		中期後半の土器片混入
	31	Co-94	← P 316		C	1	112	100	56	60° -E	2	10	前期中葉土器片混入
	32	Co-94	→33土		C	1	110	90	76	43° -W	} 20		前期及び中期の土器片混入
	33	Co-94	←32土		B	3	118	112	56	3° -W			
	34	Cp-94	←70土		B	1	112	76	64	0°	39	3	中期後半の土器片混入
	35	Cp-94	→2住		B	1	130	80	60	89° -E	4	5	中期後半の土器片混入
	36	Cp-95	→2住		C	4	99	88	38	3° -W			
	37	Co-95	←38土、→2住		A	2	110	108	54	83° -E	3	2	中期後半の土器片混入
	38	Co-95	→37土、→2住		C	1	70	(46)	46	85° -E			
	39	Cn-95	←29土		D	1	168	96	60	70° -E	12	3	前期・中期の土器片混入
	40	Cn-95	←88土		E	1	124	86	44	45° -W	16	6	中期後半の土器片混入
	41	Cn-95	←88土		A	3	98	84	84	25° -W	3	7	中期後半の土器片混入
	42	Cn-95	←26住、45土、→1埋		C	3	124	90	42	42° -E	11	5	中期後半の土器片混入
	43	Co-96	←26住、→1埋		B	2	112	80	36	46° -E	1	1	中期後半の土器片混入
	44	Cn-95			B	1	80	58	64	69° -W	6	1	中期後半の土器片混入
	45	Cn-95	←40・42土		C	4	93	(89)	17	75° -W	2	2	中期後半の土器片混入
	46	Cp-94			C	1	78	72	32	23° -W			
	47	Cp-94	←118土		C	4	70	—	34	23° -E	12	7	前期前半の土器片混入
	48	Cp-95	←2・26住		D	1	144	100	36	80° -E	1		中期後半の土器片混入
	49	Cp-94	←70土、→21住		B	1	110	88	70	62° -W	32	5	前期及び中期の土器片混入
	50	Cp-94	←70土		D	2	94	94	44	68° -W	1	10	中期後半の土器片混入
	51	欠番											
	52	Cn-93			B	1	100	90	38	72° -W		1	
53	Cn-93			A	2	108	100	30	15° -E				
54	Cp-92			A	2	130	118	46	31° -E	4	1	中期後半の土器片混入	
55	Cp-93	←57土、→2埋		A	1	130	126	60	17° -E	12	3	中期後半の土器片混入	
56	Cq-93			A	1	140	132	64	3° -E	9	3	前期中葉の土器片混入	

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	57	Cp-93	→55土	D	4	92	—	58	8° -E	4	1	前期中葉の土器片混入	
	58	Cp-93		A	1	158	144	64	3° -E	7	3	前期中葉の土器片混入	
	59	Cn-92	←18住	C	1	96	84	50	20° -W	8	2	前期及び中期の土器片混入	
	60	Cn-92	←18住	C	1	100	82	42	30° -W	13	2	前期及び中期の土器片混入	
	61	Cm-91	←18住	A	3	134	106	64	17° -W	18	3	中期後半の土器片混入 最大径 122cm	
	62	Cm-91	←18住	A	2	116	106	38	25° -W				
	63	Cn-92		C	3	104	88	62	40° -W	7	2	前期中葉の土器片混入	
	64	Cn-92		C	3	108	92	80	13° -E	15	2	中期後半の土器片混入 最大径 124cm	
	65	Cm-91		A	1	130	130	34	67° -W	41	9	中期後半の土器片混入	
	66	欠番											
	67	欠番											
	68	欠番											
	69	Cn-96		B	1	80	70	56	25° -E	56	4	中期後半の土器片混入	
	70	Cp-94	→34・49・50土	D	2	(120)	(80)	36	80° -W	21	4	中期後半の土器片混入 垂飾出土	
	71	Cj-83		C	4	146	134	38	14° -E	26	12	前期中葉の土器片混入	
	72	Co-90		B	2	118	100	40	82° -W	9		中期前半～後半の土器片混入	
	73	Co-90	←123土	C	2	110	94	58	60° -W	27	7	中期後半の土器片混入	
	74	Cp-90	← P 352	E	4	184	110	40	82° -W				
	75	Cp-91	← P 358	A	2	100	100	26	44° -E	5	1	中期後半の土器片混入	
	76	欠番											
	77	Cp-90	← P 358、→78土	D	2	104	(44)	20	90°				
	78	Cp-90	←77土	D	2	120	114	30	81° -E				
	79	Cm-91	←110土	A	2	178	124	66	73° -W	64	7	中期後半の土器出土	
	80	Cp-92		C	3	130	106	54	42° -W	36	2	前期中葉の土器片混入	
	81	Co-91		C	2	104	96	36	29° -W	2	3		
	82	Cm-90	→24住、←83土	C	2	64	88	20	29° -W	3	1	1/2は24住で壊されている	
	83	Cm-90	→82土、24住	D	4	108	86	18	56° -W	5		前期及び中期の土器片混入	
	84	Cn-94	→3住	C	3	88	78	64	27° -W				
	85	Cn-94		C	2	94	88	26	0°				
	86	Cm-94		D	2	70	56	34	88° -W				
	87	Co-95		D	2	110	56	44	60° -E	1		中期後半の土器片混入	
	88	Cn-95	→40・41土	E	2	126	66	52	8° -E				
	89	Co-94	→21住、17土	D	2	96	—	42	64° -W	1	2	中期後半の土器片混入	
	90	Co-93	→3住	C	3	80	74	60	57° -W			最大径 104cm	
	91	Co-93		C	3	88	80	30	90°			最大径 100cm	
	92	Cn-92	←115土	C	1	80	76	70	75° -W	8	5	中期後半の土器片混入	
93	Co-92		D	5	70	54	46	36° -W					
94	Cp-93		D	2	68	50	30	48° -W					
95	Co-92		A	1	70	68	60	9° -E	2		中期後半の土器片混入		
96	Cp-94	→2住	A	4	96	92	36	58° -W	4		前期及び中期の土器片混入		

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	97	Co-89		A	1	56	54	24	84° -W				
	98	Co-89		C	4	66	64	42	65° -W				
	99	Co-89		C	2	76	60	24	22° -W				
	100	Co-89		E	2	104	40	24	8° -W				
	101	Cn-89		B	2	94	70	38	78° -W	2	1		
	102	Cm-89	←103土		C	4	70	62	50	45° -W			
	103	Cm-89	→102土		D	4	82	—	44	58° -W	14		中期後半の土器片混入
	104	Cm-89			D	4	102	76	52	68° -E		1	
	105	Cm-89	→25住		D	4	80	68	20	20° -E			
	106	Cm-88			D	1	102	82	38	20° -W	14	1	前期中葉の土器片混入
	107	C1-89			B	1	106	92	46	13° -E	2	1	前期及び中期の土器片混入
	108	C1-89			B	3	66	50	50	39° -E	16	3	前期及び中期の土器片混入 最大径 74cm
	109	C1-89			D	3	104	88	74	10° -E	1	1	中期後半の土器片混入 最大径 126cm
	110	Cm-91	←24住、→79土		D	1	138	110	40	47° -E	28	2	中期後半の土器片混入
	111	Cp-95	→2住		C	2	108	94	30	70° -W			
	112	Cp-95			D	2	80	60	30	22° -W			
	113	Cq-94	→1住		D	2	122	110	62	90°	2		前期前葉の土器片混入
	114	Ck-89			D	2	114	112	64	53° -W	1		前期前葉の土器片混入
	115	Cn-92	→92土、←116土		D	2	130	104	54	16° -E			
	116	Cn-92	→19住、115土		B	2	144	84	40	78° -W	2	3	中期後半の土器片混入
	117	Cp-93	←118土、→129土		B	2	196	134	46	25° -E	3		後期前半の土器片混入
	118	Cp-94	←47土、→117土		A	2	120	—	38	61° -W			
	119	Cn-90	→12住		C	3	125	92	50	90°	11	3	前期及び中期の土器片混入
	120	Cn-90	→12住		D	2	110	100	32	13° -E	7		前期及び中期の土器片混入
	121	Co-88	←30住		D	2	204	160	44	13° -W	39	13	中期後半の土器片混入
	122	Co-89			B	2	246	204	70	22° -W	98	28	前期及び中期の土器片混入
	123	Co-90	→73土		A	2	94	—	36	35° -W	3	1	中期後半の土器片混入
	124	Cm-89			B	4	100	87	16	30° -E	12	4	中期後半の土器出土
	125	欠番											
	126	Cm-87	? 148土		E	2	110	96	30	28° -E	17	1	前期前葉の土器片混入
	127	Cn-87			C	4	92	77	12	22° -W	4	1	前期中葉の土器出土
	128	Ck-89	調査区外へ		E	2	92	—	20	19° -E	3		前期中葉の土器片混入
	129	Cp-93	←21住、→117土		C	1	154	146	48	73° -W	19	3	前期中葉の土器片混入
	130	Cm-94	調査区外へ		A	4	240	(108)	46	20° -E	2		前期中葉の土器片混入
	131	C1-90	→11住		A	2	110	108	26	0°	4	1	中期後半の土器片混入
	132	Cn-89	←30住、→133土		E	1	68	—	50	11° -W			
133	Cn-89	←30住、→132・134土		A	1	66	66	52	55° -E	5		中期後半の土器片混入	
134	Cn-89	→133土、←30住		C	4	156	138	12	49° -E				
135	Cn-89	←30住		A	1	74	70	50	27° -E				
136	Co-89	←30住		C	4	64	64	28	5° -E				

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	137	C1-88		D	1	90	54	36	81° -W			
	138	C1-88		D	1	128	114	55	13° -W			大礫出土
	139	C1-87		B	4	164	160	36	8° -E	11	1	前期中～後半の土器片混入
	140	Cm-87		A	1	85	74	42	0°	4		中期後半の土器片混入
	141	欠番										
	142	Cm-87		B	1	104	92	42	77° -W	1		前期前葉の土器片混入
	143	Cm-91		B	1	102	84	58	38° -W	12	3	中期後半の土器出土
	144	Cm-87	←169土	B	3	98	66	64	80° -E	16	1	前期中葉の土器片混入
	145	Cn-86	←29住、169・191土	B	2	130	98	32	24° -E	10	3	前期及び中期の土器片混入
	146	Cm-86		B	3	134	100	66	82° -W	18	6	前期中葉の土器片混入 最大径 162cm
	147	Cm-86		D	2	156	106	36	59° -W	6	1	前期中葉の土器片混入
	148	Cm-87	? 126土、P 387	E	2	94	64	30	28° -E	7	1	前期中葉の土器片混入
	149	Ck-87	→15住	B	3	134	115	52	15° -E		5	最大径 145cm
	150	Ck-87		B	2	110	93	23	33° -E	2	1	前期中葉の土器片混入
	151	Ck-87	→15住・P 7	D	3	128	120	36	28° -W	2		中期後半の土器片混入
	152	Ck-86		A	1	114	108	50	53° -W	12	1	前期中葉の土器片混入
	153	C1-86		D	1	116	110	40	25° -W	2	3	前期中葉の土器片混入
	154	Ck-86		E	4	156	146	50	25° -E		1	
	155	Ck-86		D	2	80	80	46	85° -W			
	156	Cj-86		D	3	104	100	54	46° -E	10	2	前期中葉の土器片混入
	157	欠番										
	158	欠番										
	159	C1-87		C	1	76	70	50	40° -E			
	160	Ck-88	→14住	E	2	135	105	25	19° -W	11		前期中葉の土器片混入
	161	Cp-95	→2住	D	1	92	72	42	0°			
	162	Cq-92		C	1	102	84	20	60° -W			
	163	Cp-90		D	4	114	—	20	73° -W			
	164	Cp-90		D	1	128	(84)	56	67° -W	19	4	中期後半の土器片混入
	165	Cp-89		C	2	124	100	34	73° -E	7	5	中期後半の土器片混入
	166	Co-89		D	2	140	126	46	53° -W	47	4	中期後半の土器出土
	167	Cm-86	←10住	D	1	96	84	50	88° -E	5		前期中葉の土器片混入
	168	Cm-86	←10住	B	3	150	134	50	90°	3	2	前期中葉の土器出土
	169	Cm-87	→144・145土	D	3	250	122	54	85° -E	7	2	前期中葉の土器片混入
	170	Ck-85		D	2	72	68	36	42° -E			
171	C1-87	←10住	C	3	116	114	40	58° -W	16	4	中期後半の土器出土 最大径 134cm	
172	Cm-88		C	3	140	108	64	17° -W	22	4	前期前～中葉の土器片混入	
173	Cm-85	←35住、225土、→9住	A	2	110	106	44	55° -E	19	5	前期前葉の土器片混入	
174	Cn-86	→29住	D	5	65	58	42	90°			29住内、前期前葉の土器片混入	
175	Cn-86	→29住	D	4	94	85	25	0°				
176	Ci-84	→31住	B	1	90	(68)	98	85° -E	4	2	前期後半の土器片混入	

土坑計測一覧表

区	No.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	177	C1-85		D	4	140	86	46	89° -W	4	2	中期後半の土器片混入	
	178	Cm-86	←32住、→P399	D	4	80	62	44	67° -W				
	179	Cm-83		B	2	150	114	28	13° -W	4	1	前期中葉の土器片混入	
	180	C1-83		D	1	110	80	40	0°	3		前期及び中期の土器片混入	
	181	欠番								3		8住P17に変更	
	182	C1-83		B	1	130	86	28	56° -E	6	2	前期及び中期の土器片混入	
	183	C1-83	→182土	B	4	136	80	18	15° -E				
	184	C1-83		B	1	134	90	48	27° -W	1			中期後半の土器片混入
	185	Ck-82		C	4	110	108	12	31° -W				
	186	C1-82		D	1	108	92	46	13° -W				
	187	C1-82	←7住	D	4	112	98	24	11° -E	3	3		前期中葉の土器片混入
	188	Ck-82	←189土	A	2	136	126	28	80° -W				
	189	Ck-82	→188土	D	2	52	—	40	0°	6			前期中葉の土器片混入
	190	Cj-82		C	4	120	116	16	19° -E	3			中期後半の土器片混入
	191	Cn-86	←29住、→145土	A	3	158	152	56	11° -W	7	2		前期中葉の土器片混入
	192	Cn-86	←29住	C	1	160	156	118	25° -W				
	193	Cm-85	→18土、? 194土	B	2	123	95	30	20° -E		2		
	194	Cm-85	?193土	B	2	124	104	34	81° -W				
	195	Cm-87		C	1	56	54	36	70° -W				
	196	欠番											
	197	Cn-87		A	2	72	70	24	35° -W	4			前期中葉の土器片混入
	198	Cm-87		D	2	68	60	22	31° -E				
	199	Ck-83	←8住	C	2	100	94	26	67° -E				
	200	C1-86	←34住、239土、→10住	B	2	82	60	14	30° -E	2			中期後半の土器片混入
	201	C1-85	→9住	C	4	65	48	56	58° -E	36	12		前期前葉の土器片混入
	202	Co-88		C	2	212	105	36	65° -W		1		
203	Co-87	←33住、204土	D	2	138	110	44	16° -E	15	1		前期中葉の土器片混入	
204	Co-87	→203土	D	2	116	100	20	20° -E					
205	Cm-86		D	2	78	66	22	30° -E				礫出土	
206	Co-86	406土	D	2	94	64	20	73° -W					
207	Co-86		C	2	114	(60)	60	67° -W				調査区外	
208	Co-86		C	3	107	(60)	50	62° -W					
209	Co-87		C	3	102	62	66	68° -W	18	1		前期中葉の土器出土 最大径 114cm	
210	Cn-86	←29住	D	2	86	70	22	71° -E					
211	Cn-85	←32住、→222土	C	2	100	60	12	25° -W					
212	Cm-84		C	2	116	112	34	11° -E	1			前期中葉の土器片混入	
213	Cm-84	?219土	C	4	66	60	26	55° -E					
214	Cm-83	→219土	D	3	186	130	36	5° -W	5	2		中期後半の土器片混入	
215	Cm-82		D	2	114	94	50	27° -W	2	1		中期後半の土器片混入	
216	C1-83		C	3	110	100	50	83° -W	1	1		前期中葉の土器片混入	

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	217	C1-82	→218土	D	2	94	88	30	3° -E	5		中期後半の土器片混入
	218	C1-82	←217土	A	2	126	122	52	88° -E	40	4	中期後半の土器片混入
	219	Cm-83	←214土	D	3	125	100	84	6° -W	7	3	中期後半の土器片混入
	220	欠番										
	221	Cn-87	←16住	C	2	100	86	26	84° -W			
	222	Cn-85	←211土、→32住	C	2	122	108	44	25° -W			
	223	C1-84	→8住	C	3	130	126	40	38° -E	21	3	前期中葉の土器片混入 最大径 140cm
	224	C1-84	→8住	D	2	110	66	60	0°			
	225	C1-86	←35住、→9住、173土	A	2	112	96	31	5° -E	3	3	前期前葉の土器片混入
	226	Co-86		D	2	90	60	26	18° -W			
	227	C1-90	→11住	C	2	120	(100)	30	52° -E			11号住内部
	228	C1-85	→9住	B	1	134	92	56	45° -W	20		前期中葉の土器片混入
	229	欠番										
	230	欠番										
	231	Co-88	←33住	C	2	98	90	30	56° -E			
	232	Co-87	←33住	D	3	120	96	48	55° -E	1		中期後半土器片混入
	233	C1-85	→9住	A	2	110	106	34	41° -W			
	234	欠番										
	235	C1-86	→34住	A	2	150	150	86	27° -W	30	17	前期前葉の土器片混入
	236	欠番										
	237	Cn-91	←19住	D	1	80	66	60	73° -W	31		中期後半の土器片混入
	238	欠番										
	239	C1-86	←10・34住、→200土	D	2	82	46	50	10° -E			
	240	欠番										屋外炉に変更
	241	Cj-79	←362土、→55住	E	2	106	—	35	90°	105	2	中期後半の土器片混入
	242	Cj-76	→243土	B	2	162	(112)	70	60° -W	71	19	中期後半の土器片混入
	243	Cj-76	→242・249土	C	4	124	(112)	53	60° -E	18	8	中期後半の土器片混入
	244	Cj-78		D	2	138	132	70	80° -W	17	1	前期及び中期の土器片混入
	245	Ci-76	←37住	B	2	158	140	44	67° -W	15	4	中期後半の土器片混入
	246	Ci-76	→247土	D	2	138	(110)	26	78° -E	80	7	中期後半の土器片混入
	247	Ci-76	←246土、→248土	D	4	166	164	58	20° -W	10	2	中期後半の土器片混入
248	Ci-76	←37住、247土	C	2	76	68	50	20° -W	16	5	中期後半の土器片混入	
249	Cj-76	←243土	D	2	90	(44)	60	20° -E	8	3	中期後半の土器片混入	
250	Ci-78	←38土、→484土	D	2	80	72	38	57° -E	6	11	中期後半の土器片混入	
251	Ci-76	←458土、→37住	E	2	142	140	60	80° -W	88	5	前期及び中期の土器片混入	
252	Ck-80	→7住	D	4	340	286	66	28° -E	171	12	石棒出土 前期及び中期の土器片混入	
253	Cf-76	←262土、→1配	E	2	96	66	56	45° -W	5		中期後半の土器片混入	
254	Ci-75	←490土	D	2	64	60	34	18° -E	3		中期後半の土器片混入	
255	Ci-75	←258土	D	2	58	56	32	36° -W	9		中期後半の土器片混入	
256	Ch-74		D	2	134	102	25	58° -W	4	4	中期後半の土器片混入	

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	257	Ch-73		D	2	80	50	28	45° -W			
	258	Ci-75	→255土	C	2	74	—	50	63° -E		3	
	259	Ci-77	←37・38住	D	2	148	124	83	45° -W	74	16	中期後半の土器出土
	260	Ci-78	6埋	B	1	138	132	53	51° -W	34		6号埋葬下部 中期後半
	261	Ci-78	→260土	B	2	(80)	—	20	8° -E	24	1	中期後半の土器片混入
	262	Cf-76	→253・417土	B	2	224	(80)	86	30° -E	82	13	土器片、礫出土 調査区外
	263	Ck-81	←50住、330土	A	2	123	120	94	40° -E	5		中期後半の土器片混入
	264	Cd-72		A	1	74	74	36	81° -W			
	265	Cd-71	←400土	D	4	164	124	18	45° -W	29	1	中期後半の土器出土
	266	Cc-71	←320土	C	2	80	74	16	59° -W	1		中期後半の土器片混入
	267	Cd-71		D	4	96	88	13	35° -W	3		中期後半の土器片混入
	268	Cd-71		A	1	90	86	76	59° -E	5		中期後半の土器片混入
	269	Ce-71		C	4	74	72	14	85° -W	8		中期後半の土器片混入
	270	Cf-70	←46住	B	2	168	74	35	21° -W	17	1	中期後半の土器片混入
	271	Cg-77	→272・344土	C	2	154	146	70	10° -E	86	10	中期後半の土器片混入
	272	Cg-77	271・344土←	D	4	180	126	30	13° -E	6	3	中期後半の土器片混入
	273	Cf-72		C	2	160	126	28	0°	21	4	中期後半の土器片混入
	274	Cf-72		C	2	104	96	46	70° -E	3	1	前期中葉の土器片混入
	275	Cf-72		C	2	74	68	32	25° -W	5		中期後半の土器片混入
	276	Cg-71		D	4	106	90	24	38° -W			中期後半の土器片混入
	277	Cg-71		D	4	96	68	50	50° -W	4	1	中期後半の土器片混入
	278	Cf-71		E	4	90	78	30	49° -E	7	1	中期後半の土器片混入
	279	Cf-71		C	2	76	74	27	70° -W	2		中期後半の土器片混入
	280	Ce-71		D	4	80	56	28	0°	5	1	中期後半の土器片混入
	281	Cf-71		D	2	100	57	22	20° -W	12	1	中期後半の土器片混入
	282	Cf-71		D	4	97	76	38	37° -E	10	2	中期後半の土器片混入
	283	Cf-71		C	4	82	63	25	39° -E	6		中期後半の土器片混入
	284	Ce-72		C	2	98	86	30	10° -W	14	1	中期後半の土器片混入
	285	Ce-72		D	2	260	118	52	35° -W	11	2	中期後半の土器片混入
	286	Cd-72		C	2	150	98	42	27° -E	1	1	中期後半の土器片混入
287	Ce-71		D	5	96	80	53	90°	27	4	中期後半の土器片混入	
288	Cc-71		C	1	88	87	62	5° -W		1		
289	Cj-79	←300・367土	E	4	162	154	48	15° -W	85	10	中期後半の土器片混入	
290	Cf-72		B	2	110	86	36	77° -W	2	1	中期後半の土器片混入	
291	Cc-71		C	1	75	(34)	66	63° -W			中期後半の土器片混入	
292	Cc-71		C	2	70	64	34	14° -E	20	4	中期後半の土器片混入	
293	Cc-71		D	2	66	55	20	37° -W	6		後期前半の土器片混入	
294	Cd-71		C	4	76	(48)	23	7° -E	1	1	中期後半の土器片混入	
295	Cd-71		C	2	120	104	48	32° -W	14		中期後半の土器片混入	
296	Ce-72		C	2	115	74	40	15° -E	15	3	後期前半の土器片混入	

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	297	Ce-72		B	2	156	125	40	37° -W	5	6	中期後半の土器片混入
	298	Ce-71		E	2	120	86	44	38° -E	3		中期後半の土器片混入
	299	Cf-71		A	2	100	93	37	42° -E	11		中期後半の土器片混入 大型深鉢出土
	300	Cj-79	→289土	D	2	66	(48)	34	13° -W	12	1	中期後半の土器片混入
	301	Cg-76		D	2	96	73	30	83° -W	11		前期及び中期の土器片混入
	302	Cg-76		D	2	92	80	26	55° -W	10	2	中期後半の土器片混入
	303	Ch-76		C	4	147	113	56	12° -E	12	3	中期後半の土器片混入
	304	Ch-76	←311土	C	2	115	100	34	42° -W	9		中期後半の土器片混入
	305	Ch-75	→306土	D	4	66	50	30	32° -W			
	306	Ch-75	←305土	D	4	56	50	48	58° -E	3		中期後半の土器片混入
	307	Cg-75		C	3	120	112	50	86° -E	7		中期後半の土器片混入
	308	Ch-76	→40住、309・310土	C	1	84	—	50	62° -W	21		中期後半の土器片混入
	309	Ch-76	→310土、←308土	C	2	150	134	45	40° -W	42	12	中期後半の土器片混入
	310	Ch-76	←308・309土・311土	A	1	98	94	50	7° -E	24	6	中期後半の土器片混入
	311	Ch-76	→304・310土	D	2	86	66	32	51° -E	9	2	中期後半の土器片混入
	312	Cd-73		D	2	76	—	24	70° -E	4	1	中期後半の土器片混入
	313	Cd-73		C	1	86	86	90	52° -E	5	3	中期後半の土器片混入
	314	Cd-73		A	2	62	—	26	45° -E			
	315	Cd-73		D	1	90	60	58	70° -E	1		中期後半の土器片混入
	316	Cd-72		C	2	60	60	24	43° -E			柱穴状
	317	Cd-72		B	1	90	(80)	102	59° -W	7		中期後半の土器片混入
	318	Cd-72		D	1	128	96	62	55° -W	11		中期後半の土器片混入
	319	Cd-72		C	1	64	60	70	90°	9	1	中期後半の土器片混入
	320	Cc-71	→266土	C	1	38	—	30	65° -W			
	321	Ce-71		A	1	54	50	78	26° -E	19	3	中期後半の土器片混入
	322	Ce-71		E	2	110	100	36	5° -E	43	2	中期及び後期の土器片混入
	323	Ce-71		E	1	80	70	46	20° -E	30	3	中期後半の土器片混入
	324	Ce-71		A	1	82	75	36	50° -E	2		中期後半の土器片混入
	325	Cg-71		D	4	98	86	54	57° -W		1	
	326	Cg-74		D	2	194	177	47	0°	19	9	中期後半の土器片混入
	327	Ch-73	←328土	D	2	92	84	27	10° -W	4		中期後半の土器片混入
	328	Ch-73	→327土	D	4	73	48	37	30° -E			
	329	Ch-73		B	1	87	66	44	13° -W			
	330	Ck-81	←7・50住、→263土	E	4	186	180	14	63° -W	2		中期後半の土器片混入
	331	Cf-73		C	1	136	120	62	61° -W	36	8	中期及び後期の土器片混入
	332	Cf-73		D	4	92	74	44	45° -E	6	1	中期後半の土器片混入
333	Cg-76	→343土、←527土、P 8	D	2	86	80	30	82° -E	10		中期後半の土器片混入	
334	Cg-76	→335土	D	4	136	(100)	40	17° -E	2	2	中期後半の土器片混入	
335	Cg-76	←334・416土	D	2	220	134	50	84° -W	26	8	中期後半の土器片混入	
336	Cg-72		C	1	(53)	40	32	83° -E	5	11	前期及び中期の土器片混入	

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	337	Cg-72		C	2	104	58	44	81° -E	12	1	前期及び中期の土器片混入	
	338	Cf-72		C	4	76	70	23	49° -W	5	1	中期後半の土器片混入	
	339	Ce-71	←375土	D	2	72	64	32	35° -E	23	1	中期後半の土器片混入	
	340	Ce-71		E	2	88	64	28	87° -W	11	2	中期後半の土器片混入	
	341	Ce-73		B	2	62	58	32	90°				
	342	Ce-73		C	2	72	64	28	43° -W				
	343	Cg-76	←333・527土	D	2	102	70	30	19° -E	11			中期後半の土器片混入
	344	Cg-77	←271・272土	C	1	96	88	126	10° -E	16	6		中期後半の土器片混入
	345	欠番											
	346	Cg-77	→427土	C	2	108	(80)	42	0°	15	1		中期後半の土器片混入
	347	Cg-77	→383土	D	2	126	124	62	10° -E	36	2		中期後半の土器片混入
	348	Cg-77	←427土、→350土	B	2	180	135	66	10° -E	76	9		中期後半の土器出土
	349	Cg-78	←426・449土	D	2	144	122	50	56° -W	43	1		中期後半の土器片混入
	350	Cg-78	←348・449土	D	1	96	72	48	6° -W	26			前期及び中期の土器片混入
	351	Ch-78	←398土	D	1	130	96	48	32° -E	62	9		中期及び後期の土器片混入
	352	Ch-78	←45住	C	1	188	184	56	7° -E	264	18		土器片、礫多く出土
	353	Ch-78	←45住、→P427	D	2	96	74	27	84° -E	1	40		中期後半の土器片混入
	354	Ci-81		D	4	230	184	20	55° -W	11	1		中期後半の土器片混入
	355	Ci-82		C	1	146	144	60	36° -W	37	5		前期及び中期の土器片混入
	356	Ci-81		C	1	174	154	56	70° -W	161	12		中期後半の土器出土
	357	Cg-72	→6配	C	1	160	154	88	58° -E	130	18		中期後半の土器出土
	358	Cj-78		A	2	136	—	26	0°	21	1		中期後半の土器片混入
	359	Cj-79	→55住	C	1	100	90	54	46° -E	21	3		前期及び中期の土器片混入
	360	Cj-79	←36・55住	D	2	96	—	40	78° -W	24	4		中期後半の土器片混入
	361	Ck-79		C	1	210	194	52	13° -E	340	3		中期土器多量に出土
	362	Cj-79	←43住、241土、10埋	A	2	112	98	60	75° -E	61	5		前期及び中期の土器片混入
	363	Ck-78		C	2	80	70	64	45° -E	15	2		中期後半の土器片混入
	364	Cf-74		C	2	54	52	24	0°	7	1		中期後半の土器片混入
	365	Ch-74		D	2	104	86	40	35° -W	5	4		中期後半の土器片混入
	366	Ci-80	←502土	D	4	104	84	28	30° -W	15			中期後半の土器片混入
	367	Cj-80	←36住、289土	C	2	146	144	34	77° -E	42	6		中期後半の土器片混入
	368	Cg-78	←45住	C	1	102	98	100	47° -E	91	14		前期及び中期の土器片混入
	369	Cg-78	←45住、439土	C	1	84	74	50	13° -W	16	16		中期後半の土器片混入
	370	Cg-78	←45住、520土	D	2	160	144	74	0°	96	10		中期後半の土器片混入
	371	Cg-70	←46住	C	5	72	64	42	77° -E				
	372	Ci-77	←38住、413土	C	1	178	164	74	77° -E	111	5		前期及び中期の土器片混入
	373	Cg-78	←45住、→369・533土	C	2	140	134	64	24° -W	25			中期後半の土器片混入
374	Cg-78	←45住、520・533土	C	2	142	92	30	45° -W	52	10		中期後半の土器片混入	
375	Ce-71	→339土	D	2	166	100	52	26° -E					
376	欠番												

第5章 第4面の検出遺構

区	No.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	377	欠番										
	378	Ch-79	→379土	C	2	90	88	27	45° -E	2		中期後半の土器片混入
	379	Ch-79	←378・402土	C	2	130	124	38	60° -W	3	2	前期前葉の土器片混入
	380	Ch-79		C	1	180	(102)	75	68° -W	59	2	前期及び中期の土器片混入
	381	Ch-79	←51住、402・412土、 →3配	A	1	188	170	74	27° -W	226	42	前期及び中期の土器片混入
	382	Cg-77		C	2	74	64	22	23° -E	7	2	中期後半の土器片混入
	383	Cg-77	←347土	C	1	100	96	74	70° -W	12		中期後半の土器片混入
	384	Ci-80		D	4	154	102	24	35° -W		1	
	385	Cj-80		C	1	120	112	122	68° -E	52	2	中期後半の土器片混入
	386	Cj-80		C	4	72	66	42	77° -E			
	387	Cj-80	←36住	C	1	126	110	64	22° -E	24	2	中期後半の土器片混入
	388	Cg-78	←389・532土	C	1	100	—	51	65° -W	30	6	中期後半の土器片混入
	389	Cg-78	→388・390土	C	2	120	—	54	65° -W	9		前期及び中期の土器片混入
	390	Cg-77	←500・532土、→389土	C	2	120	—	38	65° -W	359	34	中期後半の土器多量に出土
	391	Cg-78	→439土	C	2	190	128	58	34° -W	37	7	中期後半の土器出土
	392	Ch-79	←51住	C	4	88	78	40	68° -E	19	2	中期後半の土器片混入
	393	Ch-79	→45住	C	2	80	70	57	82° -E	2		前期及び中期の土器片混入
	394	Ch-78		B	2	124	100	54	31° -E	98	22	中期後半の土器片混入
	395	Ci-80	→P466	C	2	74	68	44	9° -E	4	2	中期後半の土器片混入
	396	Ci-80	→534土	D	4	75	54	28	32° -E	13	2	中期後半の土器片混入
	397	Ch-78		C	1	80	70	97	4° -W	12		中期後半の土器片混入
	398	Ch-77	→351土	D	2	148	130	40	28° -E	28	4	中期後半の土器片混入
	399	欠番										
	400	Cd-72	265土と重複	D	2	98	92	40	46° -E	4		中期後半の土器片混入
	401	Ch-81		D	4	132	106	26	29° -E			前期中葉の土器片混入
	402	Ch-79	←412土、→379・381土	C	4	122	—	60	85° -E	49		前期及び中期の土器片混入
	403	Ch-74		B	2	125	100	29	8° -W		2	中期後半の土器片混入
	404	Ci-79	→9埋	D	4	140	70	78	0°	17	1	中期後半の土器片混入
	405	Ci-83	→6住	C	1	145	—	50	29° -E	1	4	中期後半の土器片混入
	406	Cg-80	→51住	B	4	256	(104)	46	24° -E	359	99	中期後半の土器片混入
	407	Ch-80	→472土、←53住	E	4	162	—	32	68° -W	47	4	中期後半の土器片混入
	408	Ce-74	←409土	D	2	228	180	50	28° -E	11	3	中期後半の土器片混入
	409	Ce-74	→408土	C	4	90	73	18	22° -E			
410	Ce-74		D	2	100	72	40	32° -E	10	11	中期及び後期の土器片混入	
411	Ci-80	←56住、5埋	D	2	130	120	44	0°	46	2	中期後半の土器片混入	
412	Ch-79	→381・402土、P452	C	2	100	(64)	74	56° -W	1		前期中葉の土器片混入	
413	Ci-77	←38住、→372土	D	2	82	(50)	44	18° -E		2		
414	Ci-79	→11埋、←43住	D	1	202	192	50	52° -W	158	30	中期後半の土器片混入	
415	Cf-76		A	1	148	136	50	54° -W	37	8	中期後半の土器片混入	
416	Cg-76	←335土	C	3	104	—	44	18° -E	13	3	前期・中期の土器片混入	

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	417	Cf-77	←262土	D	1	134	126	46	3° -E	27	8	中期後半の土器片混入	
	418	Cj-81	←419土	D	2	120	88	30	5° -W	1	2	中期後半の土器片混入	
	419	Cj-81	→418・425土	E	2	190	164	26	70° -W	16	1	前期中葉の土器片混入	
	420	Ck-79		E	2	122	100	22	68° -E	18	5	中期後半の土器片混入	
	421	Ck-79	←55住	D	2	256	106	24	73° -E	23	4	中期後半の土器片混入	
	422	欠番											
	423	Ck-79		D	4	132	72	38	0°	5	1	前期及び中期後半の土器片混入	
	424	Ck-81	→330土	C	3	107	107	52	76° -E	1	13	最大径 120cm	
	425	Cj-81	←419土	C	1	134	124	38	22° -W	30		前期及び中期の土器片混入	
	426	Cg-78	→349・388土	C	2	110	106	54	70° -W	61	13	中期後半の土器片混入	
	427	Cg-77	←346土、→348土	E	2	142	70	47	67° -E				
	428	Ci-75		D	4	168	128	26	34° -W	8			中期後半の土器片混入
	429	Ce-73	←42住	C	1	98	90	55	42° -W	131	5	後期前半の土器多量に出土	
	430	Ce-73	←42住	D	2	190	142	44	67° -E	25	7	前期及び中期の土器片混入	
	431	Cg-72		C	2	64	64	33	55° -E		1		
	432	Cj-77	→40住	D	4	84	66	44	76° -E				
	433	Cj-77	←40住	C	2	166	164	42	59° -E				
	434	Cf-72	→436土	D	4	104	68	50	51° -W	1	5	中期後半の土器片混入	
	435	Cg-72		D	2	120	76	37	90°				
	436	Cf-72	←434土	D	4	108	78	37	3° -W	4	1	中期後半の土器片混入	
	437	Ci-75		B	2	174	(52)	62	63° -W	45	4	中期後半の土器片混入	
	438	Ci-81	←471土	E	5	(204)	178	135	25° -W	123	9	中期後半の土器片混入	
	439	Cg-78	←45住、→369・391土	D	2	122	118	52	50° -W	1	1	中期後半の土器片混入	
	440	Cg-73		D	2	72	56	22	51° -E				
	441	Cf-71		C	2	86	80	40	39° -W	3	6	中期後半の土器片混入	
	442	Cj-77	→40住	C	2	94	82	32	34° -W	7			中期後半の土器片混入
	443	Ce-72		E	2	85	60	18	62° -E	15			中期後半の土器片混入
	444	Ce-73		C	2	50	48	27	0°				
	445	Cf-72		D	2	70	64	24	64° -W	6			中期後半の土器片混入
	446	Cj-81	→447土	C	1	100	100	40	45° -W	18			土器片、礫出土
	447	Cj-81	←446土	D	1	125	102	58	38° -E	21	2		前期及び中期の土器片混入
	448	Cg-72		C	4	60	53	24	74° -W				
	449	Cg-78	←349・350土	B	1	(120)	(58)	46	27° -W	3	2		前期中葉の土器片混入
	450	Cd-72		C	1	98	95	64	78° -E	18	2		中期後半の土器片混入
	451	Ci-77	→37・38住	B	2	154	144	60	51° -E				37号住居
	452	Ci-77	→37住	E	2	68	67	32	56° -E	3			中期後半の土器片混入
	453	Ci-77	→37住	D	2	92	82	50	51° -W	2			中期後半の土器片混入
	454	Ci-81	→49住	D	4	86	80	48	48° -E	2			中期後半の土器片混入
	455	Ci-79	←43住	D	4	125	60	70	23° -E	47	4		中期後半の土器片混入
	456	Ci-80		D	2	80	74	48	38° -E				

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
11	457	Cf-73		C	2	138	130	50	33° -W	2		中期後半の土器片混入	
	458	Ci-76	←37住、→251土	D	2	66	46	28	67° -W				
	459	欠番											
	460	Ch-78		C	2	44	37	34	70° -W	5	1	中期後半の土器片混入	
	461	Ch-76	→41住、515土	C	1	94	74	30	6° -W	5		中期後半の土器片混入	
	462	Cg-74		D	4	82	40	32	58° -W				
	463	Ch-78	→風倒木	C	3	166	—	52	19° -E	130	31		前期中葉の土器多量に出土
	464	Cg-71		E	5	172	108	48	3° -W	4	2		前期及び中期の土器片混入
	465	Ce-74		D	4	120	60	26	50° -E				
	466	Cf-70	← P 420	E	5	122	56	45	46° -E	6			中期後半の土器片混入
	467	Cf-70	→ P 422	E	2	120	68	42	5° -W	6			中期後半の土器片混入
	468	Ce-70		E	4	116	86	42	33° -E	6	1		中期後半の土器片混入
	469	Ci-78		E	3	90	66	40	36° -E				
	470	Ci-78	→483土	E	2	62	54	48	40° -E	11			中期後半の土器片混入
	471	Cl-81	←7住、→438土	B	2	(340)	(220)	135	32° -W	138	26		中期後半の土器片混入
	472	Ch-80	←53住、407土	A	1	156	(70)	44	68° -W				
	473	Ci-78		D	2	142	140	56	64° -W	94	15		中期後半の土器片混入
	474	Cj-78		C	2	74	72	46	3° -W	2	1		後期前半の土器片混入
	475	Cf-76		D	2	110	—	32	47° -W	28			中期後半の土器片混入
	476	Cf-76		C	2	66	66	48	57° -W				
	477	欠番											
	478	Cf-76		D	5	102	(56)	58	26° -E	3			
	479	Cf-75	←523土、→509土	D	4	122	106	34	57° -E	3	2		中期後半の土器片混入
	480	Cf-75		D	2	168	90	30	38° -E	23	2		中期後半の土器片混入
	481	欠番											
	482	Ce-75		D	4	320	278	62	6° -W	14	3		中期後半の土器片混入
	483	Ci-78	→470土	D	1	52	—	14	54° -W				
	484	Ci-78	←250土、→風倒木	C	1	82	80	46	67° -E				
	485	Ci-78	→風倒木	C	1	68	(30)	40	16° -E				
	486	Ci-76		D	2	88	70	32	18° -W	3			中期後半の土器片混入
	487	Ci-75		D	4	120	68	35	0°	2	1		後期前半の土器片混入
	488	Ce-75		C	1	116	(42)	46	26° -E	61	13		中期後半の土器片混入
	489	欠番											
	490	Ci-75	→254土	D	4	100	76	32	8° -E	4			中期後半の土器片混入
	491	Cf-75	→509土	C	2	140	140	44	48° -W	8	2		中期後半の土器片混入
	492	欠番											
	493	Cf-74		D	4	114	74	24	20° -W	2	3		中期後半の土器片混入
	494	Cf-74		D	2	128	116	50	48° -E	1	1		中期後半の土器片混入
	495	Cf-74		A	4	76	70	30	36° -E				
	496	Cf-70	→12埋	D	4	100	64	32	15° -E	11	1		中期後半の土器片混入

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	497	Cf-76	←523土	D	4	90	86	54	25° -W	16	1	中期後半の土器片混入
	498	Cf-75	→499土	D	4	170	114	30	69° -W	28	3	中期後半の土器片混入
	499	Cf-75	←498土	D	4	98	58	30	18° -W		13	中期後半の土器片混入
	500	Cg-78	→390・511土	C	5	120	101	70	0°			
	501	Ci-79		C	1	58	50	44	57° -W			
	502	Ci-80	→366土	E	4	(252)	76	20	38° -E	4		中期後半の土器片混入
	503	Ci-78	←510土	C	1	144	130	44	40° -W	44	10	中期後半の土器片混入
	504	Ci-82		E	2	650	65	40	68° -W			
	505	Ch-74		D	2	126	118	40	50° -W	14		中期後半の土器片混入
	506	Ch-74		D	2	132	90	40	23° -W	11	4	中期後半の土器片混入
	507	Ch-77	←521土、→8埋	C	1	88	72	90	59° -E	8		中期後半の土器片混入
	508	Ch-77	←514・521土、	B	1	152	130	90	5° -E	121	2	中期後半の土器片混入
	509	Cf-75	←429・491・523土	A	1	87	50	44	89° -E	16	2	中期後半の土器片混入
	510	Ci-78	→503土	A	1	70	(60)	24	0°	5	2	後期前半の土器片混入
	511	Cf-78	←511・532土、	D	5	(80)	—	73	65° -W	26	4	前期及び中期の土器片混入
	512	Ch-77	←521土	D	2	110	88	40	67° -W	57	9	中期後半の土器片及び礫多く出土
	513	Cg-75		C	2	96	68	32	68° -W		1	
	514	Ch-77	←521土、→508土	C	4	140	130	32	29° -E			
	515	Ch-76	←461土	C	2	92	80	30	7° -W	4	1	中期後半の土器片混入
	516	Cg-73		A	2	86	80	34	62° -W	2	3	中期後半の土器片混入
	517	Ch-76		C	1	80	78	50	12° -E	6	2	中期後半の土器片混入
	518	Ch-77	←521土	D	1	84	64	29	15° -W	5	1	中期及び後期の土器片混入
	519	Ce-71		D	2	105	100	50	62° -W			
	520	Cg-78	→370・374土、45住	C	2	104	—	40	86° -E	3		中期後半の土器片混入
	521	Ch-77	→507・508・512・514・518土、 8・13埋	D	4	374	268	20	75° -W	17	1	中期後半の土器片混入
	522	Ci-78	→倒木痕	D	2	108	—	46	3° -W			
	523	Cf-75	→479・497・509土	D	4	(110)	(28)	30	33° -W	3		中期後半の土器片混入
	524	Ci-74		D	4	148	(40)	50	28° -E			
	525	Ch-76	→41住炉	D	4	(64)	—	30	13° -W			
	526	Cc-70		D	2	80	—	38	0°	6		前期及び中期の土器片混入
	527	Cg-77	→333・343土	D	2	112	(106)	10	52° -E	1	1	中期後半の土器片混入
	528	Ce-70		E	4	110	(72)	40	76° -W	23		中期後半の土器片混入
	529	Ce-72		E	4	186	93	44	7° -W	1		中期後半の土器片混入
	530	欠番										
	531	Cd-72		E	2	82	54	34	19° -W			
	532	Cf-77	←388～390・511土	D	1	200	92	70	28° -E			
533	Cg-78	←45住、373土、→379土	D	1	74	70	66	40° -W				
534	Ci-80	←396土	C	1	58	48	70	28° -E				
535	Cq-94	←1住	C	4	96	—	42	0°			前期前葉の土器出土	
536	Cl-88	←14住	C	3	95	88	58	0°				

第5章 第4面の検出遺構

区	No.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
11	537	C1-89	←14住	C	3	85	80	50	0°			最大径98cm
	538	Cn-88	←16住	C	1	104	—	82	0°			最大径108cm
	539	Cq-77	←49住	C	1	110	98	74	0°			
	540	Cm-92	←18住	C	3	98	—	35	0°			上面礫出土 中期後半の土器出土
	541	Cm-92	←18住	C	3	90	65	83	30° -E		1	最大径96cm 中期後半の土器出土
	542	Cm-92	←18住	C	3	70	60	58	0°			最大径94cm
	543	Cm-92	←18住	B	3	90	70	71	30° -E			最大径86cm
	544	Cm-92	←18住	C	2	90	65	24	90°			最大径86cm
	545	Cm-92	←18住	C	2	68	—	66	0°			
	546	Co-93	←21住	C	2	125	—	70	0°			
	547	Cp-93	←21住	C	1	97	—	68	0°		3	中層より中期後半の深鉢出土
	548	Cp-93	←21住	C	1	118	—	112	0°			
	549	Co-93	←21住	C	1	98	—	146	0°			
	550	Cp-93	←21住	C	3	110	104	60	0°			最大径95cm
	551	Co-93	←21住	C	3	82	—	150	0°		3	最大径115cm
	601	Cq-93	←4住	B	1	136	120	46	68° -W		3	土器、礫出土
	602	Cq-93	←4住	B	2	154	142	70	35° -E		5	土器、礫出土
12	1	Dc-126	←10土	D	2	158	120	11	5° -W		3	V層
	2	Dc-124	→P31	D	2	92	86	28	70° -W	1	13	V層、中期
	3	Db-122		A	2	130	120	26	43° -W	50	6	V層、中期後半の土器混入
	4	Ct-120	←34土	D	5	130	63	40	49° -E	2		V層、中期後半の土器混入
	5	Ct-119	P59	A	4	75	67	30	24° -E			V層
	6	Da-119	←39土	D	2	70	60	25	62° -W	2		V層
	7	Da-119		D	4	79	53	16	18° -E		2	V層
	8	Da-118	40土上部	D	4	76	61	25	5° -E	1	1	V層
	9	Ct-118		D	1	104	81	30	77° -W	12	1	V層、中期後葉の土器混入
	10	Dc-126	→1土	B	2	91	73	28	64° -W			V層
	11	Dc-129	→P51	D	2	139	117	55	40° -W	4		V層、中期後葉
	12	Db-127		D	2	156	123	24	45° -E			V層
	13	Dc-127		D	4	146	92	20	5° -W			V層
	14	Dc-127		D	2	138	133	48	22° -E			V層
	15	Dc-127		D	2	125	102	20	88° -W			V層
	16	Db-125		D	4	143	98	35	56° -E		1	
	17	Db-125		D	4	205	140	35	15° -W			
	18	Da-124		B	2	122	53	27	59° -W			
	19	Da-122		C	4	61	57	17	0°			
	20	Da-122		D	4	84	56	13	82° -W			
	21	Da-121		C	4	194	182	56	90°	1	4	前期前葉
	22	Db-122		D	1	150	130	22	32° -E	7	3	中期後葉の土器混入
	23	Dc-124		B	4	93	80	22	76° -E	1		中期後葉の土器混入

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
12	24	Db-124		C	2	89	89	40	22° -W	1		中期後葉の土器混入
	25	Db-124		D	1	133	108	18	75° -W			
	26	Dc-128	← 1 住	B	1	194	138	85	23° -E		5	前期、中期土器
	27	Db-125		D	4	65	65	12	86° -W			
	28	Da-124		D	4	82	58	19	47° -W			
	29	Da-123		D	4	96	74	15	58° -W			
	30	Dd-124		D	4	106	83	27	8° -E			
	31	Db-121		D	2	120	94	61	30° -W			
	32	Dc-127	←37土	C	4	146	135	25	66° -E			
	33	Da-120		C	1	53	51	40	6° -W			
	34	Ct-120	← 4 土	D	4	60	49	12	28° -E			
	35	Ct-120		D	2	42	36	22	10° -W			
	36	Da-119	→39土	E	2	52	(48)	18	23° -E	1		中期後葉
	37	Dc-127	→32土	D	4	108	82	10	31° -W		1	尖頭器出土
	38	Ct-118		C	1	152	136	65	39° -E	33	6	中期後葉の土器混入 礫石器積まれる
	39	Da-119	←36土、→6土	C	1	218	198	105	61° -W	52	8	前期及び中期の土器片混入
	40	Da-118	→8土、←49土	D	5	120	72	43	11° -E			
	41	Da-118		C	2	82	—	30	11° -W			
	42	Da-119		C	4	89	81	16	60° -W			前期前葉
	43	Da-117	←47土	D	4	240	228	100	24° -E	111	14	中期後葉の土器片混入
	44	Dd-126		A	1	167	160	68	51° -W	59	1	中期後葉の土器出土
	45	Dd-127		B	2	172	145	80	84° -W	95	2	中期後葉の土器出土
	46	Ca-116	? 54土、←176土	D	2	230	128	79	87° -E	146	9	中期末葉の土器片混入
	47	Da-117	→43土	D	2	157	—	100	65° -W	6	1	中期後葉の土器片混入
	48	Db-132		C	1	130	(70)	67	14° -E			調査区北端で検出
	49	Da-118	→40土	A	1	180	175	80	35° -E	53	7	中期後葉の土器片混入
	50	Ct-115	←51土	B	3	130	100	83	85° -W	6		中期後葉の土器片混入
	51	Ct-115	→50土	B	3	74	85	75	3° -E			
	52	Ct-117	←53土	D	1	115	103	55	2° -W			
	53	Ct-117	→52土	B	1	106	124	57	70° -E			
	54	Ca-116	? 46土、← 2 住	D	2	174	(92)	80	64° -E		2	台石出土
	55	Cp-102	←84土	D	2	137	137	60	35° -E	120	17	中期後葉の土器出土
	56	Cp-102	←94土	D	4	133	114	28	63° -W	20	9	中期後半の土器片出土
57	Cp-100	←89土	B	1	127	113	63	67° -W	107	8	後期初頭の土器出土	
58	Cp-99		D	5	105	100	66	79° -W	11		中期末葉の土器片混入	
59	Cp-99	→72土、←60・? 73土	D	5	90	—	43	6° -E	8	1	中期後葉の土器片混入	
60	Cp-100	→59・? 73土	D	5	(70)	—	46	51° -W	6		中期後葉の土器片混入	
61	Cp-99	→74土	E	5	150	107	35	80° -E	9		中期後葉の土器片混入	
62	Cp-98	←81土	A	2	149	144	44	85° -W	105	14	中期中葉の土器片出土	
63	Co-100	← 8 住	D	3	157	135	58	0°	34	9	中期後葉の土器片混入	

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
12	64	Cq-102		B	1	162	148	105	70° -W	257	47	中期後葉の土器出土
	65	Cp-100	←66土	C	4	90	66	62	89° -E			
	66	Cp-100	→65土	D	2	138	105	50	23° -W	25	6	中期末葉の土器片混入
	67	Co-99	→7住	D	3	121	100	70	17° -W	33	6	中期末葉の土器片混入
	68	Cp-100		D	2	150	120	50	33° -W	195	13	後期初頭の土器出土
	69	Cp-104	←141土	D	5	281	231	79	19° -E	33	7	中期及び後期の土器片混入
	70	Cq-104		D	1	166	135	81	52° -W	44	7	中期後葉の土器片混入
	71	Cq-104		D	1	215	187	76	55° -E	64	17	中期後葉の土器片混入
	72	Cp-99	←59・60土	D	2	104	86	35	34° -E	6		中期後葉の土器片混入
	73	Cp-99	←87土、?59・60土	D	2	130	108	44	51° -W	4	2	中期後葉の土器片混入
	74	Cp-99	←61土	E	2	238	175	62	80° -E		1	
	75	Cq-99	←117土	D	2	130	108	48	17° -E	29	6	中期及び後期の土器片混入
	76	Cp-102	→77土、←251土	D	2	175	(110)	40	14° -E	40	5	中期後葉の土器片混入
	77	Cp-102	←76・251土	B	1	141	132	70	32° -E	33	6	後期初頭の土器片混入
	78	Cq-99		D	2	230	200	87	32° -E	237	44	中期末葉の土器出土 底面に大礫と焼土面あり
	79	Cp-101	←8住、115土	D	1	156	144	40	51° -E	10		中期後葉の土器片混入
	80	Co-99	→11住	D	3	100	—	81	15° -E	7	1	中期後葉の土器片混入
	81	Cp-98	→62・96土	A	4	82	81	20	24° -W	1		中期後葉の土器片混入
	82	Cp-101	?194土	C	1	134	126	65	9° -W	599	86	中期後葉の土器多量に出土
	83	Co-101	→90土	D	4	111	(88)	37	78° -E	124	11	中期後葉の土器出土
	84	Cp-102	→55土	A	1	128	121	62	67° -W	10	3	中期後葉の土器片混入
	85	Cp-102	←86土	B	2	157	138	53	64° -W	52	7	中期後葉の土器片混入
	86	Cp-102	→85土	C	2	106	—	33	73° -E	1		中期後葉の土器片混入
	87	Cp-100	→73土	B	2	150	116	26	31° -W	21		中期後葉の土器出土
	88	Cp-100	←89土	A	1	130	120	36	85° -E	20	3	中期後葉の土器片混入
	89	Cp-100	→57・88土	A	2	200	—	36	20° -W	1	2	中期後葉の土器片混入
	90	Co-101	←83土	C	2	70	(47)	54	78° -E			
	91	Cq-98	←15住	D	1	94	59	21	62° -E	12	2	中期後葉の土器片混入
	92	Co-99	→11住	D	4	154	(115)	22	9° -E	7	4	中期後葉の土器片混入
	93	Co-98	←11・13住	D	1	127	(75)	30	66° -W			
	94	Cp-102	→56、55土	A	2	129	115	76	63° -W	4	2	中期後葉の土器片混入
	95	Cp-99	→13住、96土	C	4	94	90	41	89° -W			
	96	Cp-99	→81・97・98土、 ←95土	D	4	222	184	28	11° -E			
	97	Cp-99	←96土	A	1	159	152	37	47° -E			
	98	Cp-99	←96土、→13住	A	1	163	157	59	41° -E	34	7	中期後葉の土器片混入
	99	Ct-115	←22住	D	1	148	136	78	76° -W	20	6	中期後葉の土器出土
	100	Ct-114		C	1	106	104	61	50° -W	2	1	中期後葉の土器片混入
	101	Db-114	←24住	A	2	88	86	63	72° -W	26	1	中期後葉の土器片混入
	102	Db-114	←24住	D	2	128	116	21	32° -W	2	1	中期後葉の土器片混入
	103	Db-114	←24住、→104土	D	4	90	—	21	19° -E	16	5	前期及び中期土器片混入

土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
12	104	Db-114	←24住、103土	D	2	64	—	26	17° -E			
	105	Da-114		A	1	158	148	70	85° -E	28	6	中期後葉の土器片混入 台石、多孔石出土
	106	Da-113		D	1	153	151	71	6° -W	44	7	中期後葉の土器片混入 台石、多孔石出土
	107	Cp-103	→251土	D	2	163	156	70	22° -W	210	44	中期後半の土器出土
	108	Cp-101	←8住、147土	A	2	200	161	72	9° -E	89	8	中期後葉の土器片混入
	109	Cr-98	←16住	D	1	119	113	64	89° -E	18	2	中期後葉の土器片混入
	110	Ct-114	←22住	E	2	144	108	40	33° -E	1	2	中期後葉の土器片混入
	111	Cs-112		E	2	123	64	28	23° -E	6	3	中期後葉の土器片混入
	112	Db-113		D	2	150	—	78	25° -E	10	3	中期後葉の土器片混入
	113	Ct-114	←P106	D	4	115	85	19	2° -E			
	114	Ct-113		B	2	250	118	39	33° -E			
	115	Cp-100	→8住、79土	D	2	122	122	22	13° -W	41	5	中期後葉の土器片混入
	116	Cq-100	←P108・P109	A	1	116	114	68	12° -W	58	14	中期後葉の土器片混入。多孔石出土
	117	Cq-99	→25住、75土	B	3	140	125	59	3° -W	6		中期後半
	118	Cr-100		C	2	177	155	91	64° -E	122	16	中期後半の土器出土
	119	Cr-98	→15住	C	2	166	150	37	4° -W	21	1	中期後葉の土器出土
	120	Cq-98		C	1	122	(64)	90	15° -E	23	3	中期後葉の土器片混入
	121	Cs-114	←22住	C	1	90	90	30	0°	43	2	中期後葉の土器出土
	122	Da-114		C	4	150	135	19	13° -E			
	123	Cr-99		C	2	163	157	30	46° -E	119	18	中期後葉の土器片混入
	124	Cr-98		C	2	158	134	21	38° -W	58	11	中期末葉の土器出土
	125	Cq-101		D	1	100	77	60	53° -E	5		中期後葉の土器片混入
	126	Cr-101	←27住、232・252土	B	2	170	152	60	15° -E	260	42	中期末葉の土器多量に出土
	127	Cr-101	←27住、128土	B	2	84	—	37	37° -W	86		中期及び前期土器片混入
	128	Cr-101	→127土	D	4	118	(95)	50	10° -W	11	3	中期後葉の土器片混入
	129	Co-101		C	1	86	81	37	45° -W	9	9	中期後葉の土器片混入 多孔石立石状態で出土
	130	Cp-101		D	2	114	98	36	46° -E	6	1	中期後葉の土器片混入
	131	Cq-102	→10住	A	2	104	95	41	66° -E		3	
	132	Cq-102	→10住	C	2	117	107	53	70° -W	19	1	中期後葉の土器片混入
	133	Ct-113		C	2	129	112	33	76° -E			
	134	Cr-99	→14住	D	2	266	193	120	25° -W	379	71	中期後葉の土器多量に出土。底面焼土
	135	Cr-110	←22・36住	D	1	244	186	70	40° -W	215	11	中期末葉～後期初頭の土器混入
	136	Cq-105	31住	C	1	92	90	31	88° -W			
137	欠番											
138	Cq-99	←139土、→25住	C	1	122	118	68	51° -E	153	28	中期後葉の土器出土	
139	Cq-99	→16・25住、138土	B	1	150	135	68	0°	29	4	中期後葉の土器出土	
140	Cp-104		C	1	90	(45)	70	14° -E	4		中期後葉の土器混入	
141	Cp-103	→69土	D	4	112	(75)	36	10° -W	3		中期後葉の土器混入	
142	Cq-104		C	2	147	137	43	9° -W	8		中期初頭の土器混入	
143	Ct-111	←35住	D	4	174	133	30	18° -E	9	3	中期後葉の土器混入	

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
12	144	Cr-109	→39住、145土	D	1	97	75	58	49° -E	13	7	中期後葉の土器混入	
	145	Cr-109	→39住、←144土	C	1	150	140	62	8° -E	16	2	中期後葉の土器混入	
	146	Cs-110		D	1	263	191	110	39° -E	187	19	中期後葉の土器混入	
	147	Cp-101	←8住、→108土	B	1	117	—	53	14° -E	1	2		
	148	Cs-102	←33住	B	4	83	63	16	13° -W	1	1	中期後葉の土器混入	
	149	Cq-99	→16住	B	2	108	102	42	77° -W	30	6	中期後葉の土器混入	
	150	Cr-99	→16住	C	1	119	108	37	13° -E	16	2	中期中葉～後葉の土器混入	
	151	Cr-106		C	1	48	48	59	11° -E	2		中期後葉の土器混入	
	152	Cr-106	←44住	C	4	190	159	25	15° -E	184	7	前期及び中期の土器混入	
	153	Cs-105		C	1	109	104	50	9° -E	11	3	中期後葉の土器混入	
	154	Cs-106		C	4	124	107	26	15° -W	10	3	中期後葉の土器混入	
	155	Cs-106		C	1	50	50	44	81° -E		1		
	156	Cq-101	←157・163土、→9住	D	1	153	104	46	86° -W	52	5	中期の及び前期の土器混入	
	157	Cq-101	→156土、9住	D	1	152	106	43	61° -E	7		前期前葉の土器混入	
	158	Cs-111		D	4	139	102	32	66° -W	5		中期後葉の土器混入	
	159	Cq-108	←43住	C	2	84	75	51	72° -W	14	3	中期後葉の土器混入	
	160	Cq-107	←43住	C	1	105	102	49	14° -W	34	5	中期後葉の土器混入	
	161	Cr-107	←43住	D	1	122	103	10	18° -E		1		
	162	Cs-106	←180土	D	3	170	158	133	27° -E	570	77	中期末葉後期初頭の土器片出土 底面焼土あり	
	163	Cq-101	→9住、156土	C	1	100	94	71	18° -E	7	10	中期後葉	
	164	Cq-106	←46住	A	2	123	113	15	10° -E	20	5	中期中葉～末葉の土器片出土	
	165	欠番											
	166	Cq-102	→27住、←167・169土	C	1	138	124	107	9° -E	171	17	中期末葉の土器出土	
	167	Cq-102	→27住、166・169土	C	4	119	(92)	41	15° -E	54	1	中期後葉の土器片混入	
	168	Cq-101	→27住、→169土	C	2	116	103	40	26° -W	14		中期及び前期の土器片混入	
	169	Cq-102	→27住、166～168土	D	4	132	90	11	67° -W	17		中期後葉の土器片混入	
	170	Da-112	←34・56住、→21住	D	3	150	123	107	45° -E	202	52	中期後葉の土器出土	
	171	Cr-108	→43住	C	2	97	89	59	8° -W	5		中期の土器片混入	
	172	Ct-105		D	1	146	86	110	41° -E	23	7	前期末葉の土器片混入	
	173	Ct-105		D	1	159	124	48	81° -E	20	7	中期後葉の土器片混入	
	174	Cs-111	→23住	A	1	90	83	70	23° -W	6		中期後葉の土器片混入 23住居下部	
	175	Db-117		D	2	124	124	52	80° -W	10		中期後葉の土器片混入	
	176	Da-116	→46土	D	2	132	105	42	90°	2	1	中期後葉の土器片混入	
177	Cs-102	←33住	B	2	146	99	40	90°	34	10	中期後葉の土器片混入		
178	Cr-107	→42住、←179・218土	D	2	(340)	315	25	24° -E	195	28	中期後葉の出土土器 住居状を呈する		
179	Cr-107	→178土	C	2	242	—	15	0°	9	1	中期後葉の土器片混入		
180	Cs-106	→162土	D	1	145	135	123	35° -E	68	11	中期後葉の土器片混入		
181	Cr-100		D	2	172	138	32	9° -E	2	2	中期後葉の土器片混入		
182	Cr-100		D	2	127	111	67	37° -E	14	1	中期後葉の土器片混入		
183	Cs-100	→32住	D	4	133	118	20	55° -E	8		中期後葉の土器片混入		

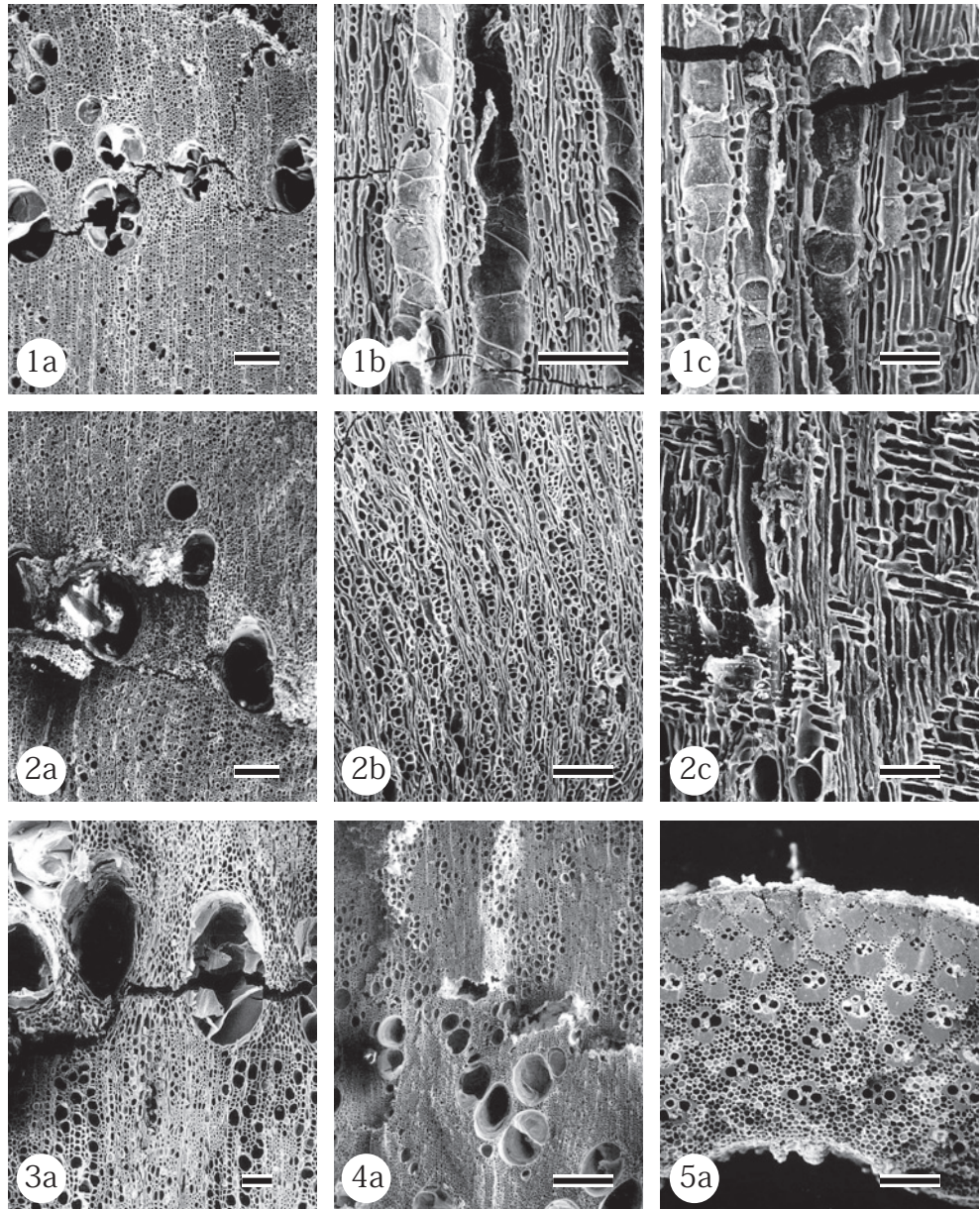
土坑計測一覧表

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考	
12	184	Dc-117		D	1	156	145	93	1° -E	8		中期後葉の土器片混入	
	185	Cr-102		C	1	138	123	63	38° -W	17	6	中期後葉の土器片混入	
	186	Cs-102		D	1	131	110	37	45° -W	13	6	中期後葉の土器片混入	
	187	Cs-100	→188土	B	2	122	94	28	62° -E	18	2	中期後葉の土器片混入	
	188	Cs-100	←187、207土	B	1	(118)	100	46	64° -E	8		前期及び中期の土器片混入	
	189	Ct-111	←198土、→34・35・56住	D	2	175	170	71	51° -E	218	40	中期末葉の土器片多量に混入	
	190	Cr-111	→23住	D	3	120	82	78	45° -E	38	4	中期後葉の土器片及び大礫混入	
	191	Cs-100	←37住	A	2	102	94	21	77° -W	4		中期後葉の土器片及び大礫混入	
	192	欠番											
	193	Dc-116			C	3	190	190	140	31° -W	31	29	中期末葉の土器出土
	194	Cq-101			C	1	92	90	59	4° -E	81	6	前期～後期の土器片混入
	195	Db-116	→4住、?196土		B	4	232	205	14	15° -W			
	196	Db-116	→4住、?195土		D	4	131	(118)	32	25° -W	1		中期中葉の土器片混入
	197	Db-112			C	1	145	140	67	27° -W	86	4	中期中葉及び後期の土器片混入
	198	Ct-111	→34・35・57住、189土		C	2	170	164	28	32° -E		6	
	199	Cr-103	←52住		C	4	96	91	23	50° -W	11	7	中期後葉の土器片混入
	200	Cs-103	←50住		C	4	142	119	72	70° -W	32	5	中期後葉の土器片混入
	201	Cp-103			D	2	144	127	31	46° -W	10	2	中期後葉の土器片混入
	202	Cs-103	←52住、203土		A	2	126	118	21	23° -W	54	8	中期後葉の土器片混入
	203	Cs-103	←52住、→202土		D	4	94	85	28	50° -W	42	2	中期後葉の土器片混入
	204	Ct-106			C	2	110	110	38	19° -W	1		中期後葉の土器片混入
	205	Cs-107			A	2	78	77	21	8° -E	23	2	中期後葉の土器片混入
	206	Ct-106			C	1	95	89	67	57° -W	39	4	中期後葉の土器片混入
	207	Cr-100	→188土		C	2	47	41	37	37° -E			
	208	Cp-103	→251土		D	2	89	66	29	57° -E	2		中期後葉の土器片混入
	209	Cr-109	→39・26住		D	1	108	97	66	12° -E	49	2	中期後葉の土器片混入
	210	Ct-103	→50住		D	2	131	72	22	28° -W	18	2	中期後葉の土器片混入
	211	Da-111			D	4	131	125	24	2° -W	13	2	中期末葉の土器片混入
	212	Db-110			D	2	61	56	19	45° -E	2	1	中期後葉の土器片混入
	213	Da-110			D	2	80	73	29	49° -W	20	3	中期後葉の土器片混入
214	Da-110			D	1	76	70	17	73° -W				
215	Da-110			D	2	121	114	55	17° -W	22	16	中期後葉の土器片混入	
216	欠番												
217	Da-110			B	2	229	159	17	15° -E	35	9	前期及び中期含む	
218	Cr-107	→178土		D	1	126	95	38	66° -E	56	15	中期後～末葉の土器出土	
219	Cr-104	←245土		A	3	125	124	70	57° -W	122	16	中期末葉の土器出土	
220	Ct-104	→51住、←221土		C	4	92	68	16	30° -W	3		中期後葉の土器片混入	
221	Ct-104	→220土		C	4	69	56	11	63° -W	3		中期後葉の土器片混入	
222	Da-111	←56住、→34住		D	3	89	89	53	17° -W	5	1	前期前葉の土器出土	
223	Cr-109	→26住		D	1	148	123	42	62° -E	60	9	中期後葉の土器出土	

第5章 第4面の検出遺構

区	NO.	位置	重複関係	平面	断面	長軸	短軸	深度	方位 (N-)	土器	石器	備考
12	224	Cr-107		C	4	62	53	23	68° -E			
	225	Cr-108		D	2	73	68	39	4° -E	2		中期後葉の土器片混入
	226	Cr-108		C	1	61	59	26	3° -W			
	227	Cr-108		D	2	72	68	32	16° -E			
	228	Da-112	←56・57住	C	1	179	161	77	38° -W		1	
	229	Cr-108		A	1	56	52	39	70° -W	2	1	中期後葉の土器片混入
	230	欠番										
	231	Cs-109	→42住	B	3	107	103	58	57° -W			
	232	Cr-101	←252土、→126土	D	3	(81)	71	42	73° -E	57	1	中期後葉の土器片混入
	233	Cr-100	→234土	E	2	60	—	35	2° -E	12		中期後葉の土器片混入
	234	Cr-100	←233土	A	1	61	56	45	26° -E			
	235	Cr-99	→16住	A	2	140	—	42	0°	25	2	中期後葉の土器片混入
	236	Da-113		C	1	128	125	69	9° -E	21		中期及び前期の土器片混入
	237	Ct-103		C	2	42	38	16	8° -W			
	238	Ct-104		D	2	37	35	19	12° -E			
	239	Cs-104		D	1	46	40	40	39° -E	6		中期後葉の土器片混入
	240	Ct-104		D	4	80	77	13	44° -E	15	3	中期後葉の土器片混入
	241	Cs-105		D	2	55	43	33	70° -W			
	242	Cs-105		A	1	54	53	31	65° -W	8	3	前期の土器片混入
	243	Ct-109	←244土、→40住	D	3	103	64	30	11° -E	20		中期及び前期の土器片混入
	244	Ct-109	→40住、243土	C	2	42	—	35	21° -E	2		中期後葉の土器片混入
	245	Cr-103	→53住、219土	D	2	115	95	25	4° -W	5	2	中期後葉の土器片混入
	246	Cr-104		D	1	52	35	19	82° -E	4		中期後葉の土器片混入
	247	欠番										
	248	欠番										
249	欠番											
250	欠番											
251	Cp-103	←10住、→76・77土	E	4	(393)	(283)	21	15° -E	196	29	中期後葉～後期初頭の土器出土	
252	Cr-101	→232・126土	D	2	60	(50)	30	90°				

第6章 自然科学分析



中郷遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (No. 1) 2a-2c. クリ (No. 5) 3a. クリ (No. 3) 4a. クリ (No. 6) 5a. タケ亜科 (No. 2)

a : 横断面 (スケール=200 μm) b : 接線断面 (スケール=100 μm) c : 放射断面 (スケール=50 μm)

第1節 自然科学分析の目的

出土遺物は、形状や製作技法等を図化、写真撮影、肉眼観察等を行い資料化するが、樹種や産地等の目に見えない質的な部分については自然科学分析に頼らなければならない。数少ない分析結果から当時の周辺環境の復元や人や物の動き等を追う手掛かりが得られると考え自然科学分析を行った。

自然科学分析を行うにあたり、株式会社パレオ・ラボに分析を依頼した。

第2節 自然科学分析資料

1. 炭化材樹種同定及び放射性炭素年代測定

今回、炭化材の樹種同定に11区28号住居、11区509号土坑、12区4号住居、12区124号土坑等から出土した炭化材を7点選び分析を依頼した。分析方法については、第3節1で示す。

分析結果は以下の通りである。

11区28号住居：縄文時代前期の住居。壁面が焼土化した焼失住居である。分析結果はクリの芯持ち丸木。

11区509号土坑：時期不明。分析結果はクリの割材。

12区4号住居：縄文時代中期後葉の柄鏡形敷石住居。炭化材の分析結果はクリの割材。

12区124号土坑：中期中葉。分析結果はタケ亜科（ササ）であった。

11区28号住居の分析結果は、同時期の焼失住居である本遺跡に南接する吹屋遺跡Ⅳ区3号住居（「吹屋遺跡」2007年事業団）の炭化材樹種同定でのクリ材と一致し、縄文時代前期のこの地域の建築部材として一般的にクリが利用されていたと推測できる。縄文時代中期後葉の敷石住居である12区4号住居の分析結果もクリであり、縄文時代中期にも前期同様に住居建築材としてクリの利用が継続していた可能性が考えられる。しかし、本遺跡の中期後半以降の住居増をまかなうためには多量のクリの木が必要である。近年の研究結果では、食用として、また住居建築材として貴重なクリが管理栽培されていたと考え

られるようになってきた。発掘調査ではクリ林を検出することは不可能である。また遺構内にクリ材が残る事も僅少である。しかし今後も少ない資料の分析等を行い資料を蓄積していく必要がある。

放射性炭素年代測定は、縄文時代前期の住居である11区28号住居出土の炭化材で行い、暦年範囲として4786-4694calBCの値を得た。分析方法については第3節2で示す。

2. 出土黒曜石の産地推定

石器石材の中で黒曜石の輝きは目を引く。特に群馬県内では産出しない石材であり、産出地も研究成果により限定されるようになった石材であることから当時の人や物の動きを知る上で重要と考え分析を行った。

かつて黒曜石の産地は長野県和田峠と言われていたが、近年の資料増加と分析精度の向上は目覚ましく、長野県和田峠周辺を幾つかのエリアに分けられるまで細分化された。また、関東近隣でも産出地が確認され、黒曜石の産出地の範囲も広がった。

分析には11区で検出した縄文時代中期の18号住居、24号住居と縄文時代前期の32号住居の各住居内出土の黒曜石と遺構外出土遺物の資料を中心に11点の分析依頼を行った。分析方法については、第3節3で示す。分析結果は、以下の通りである。

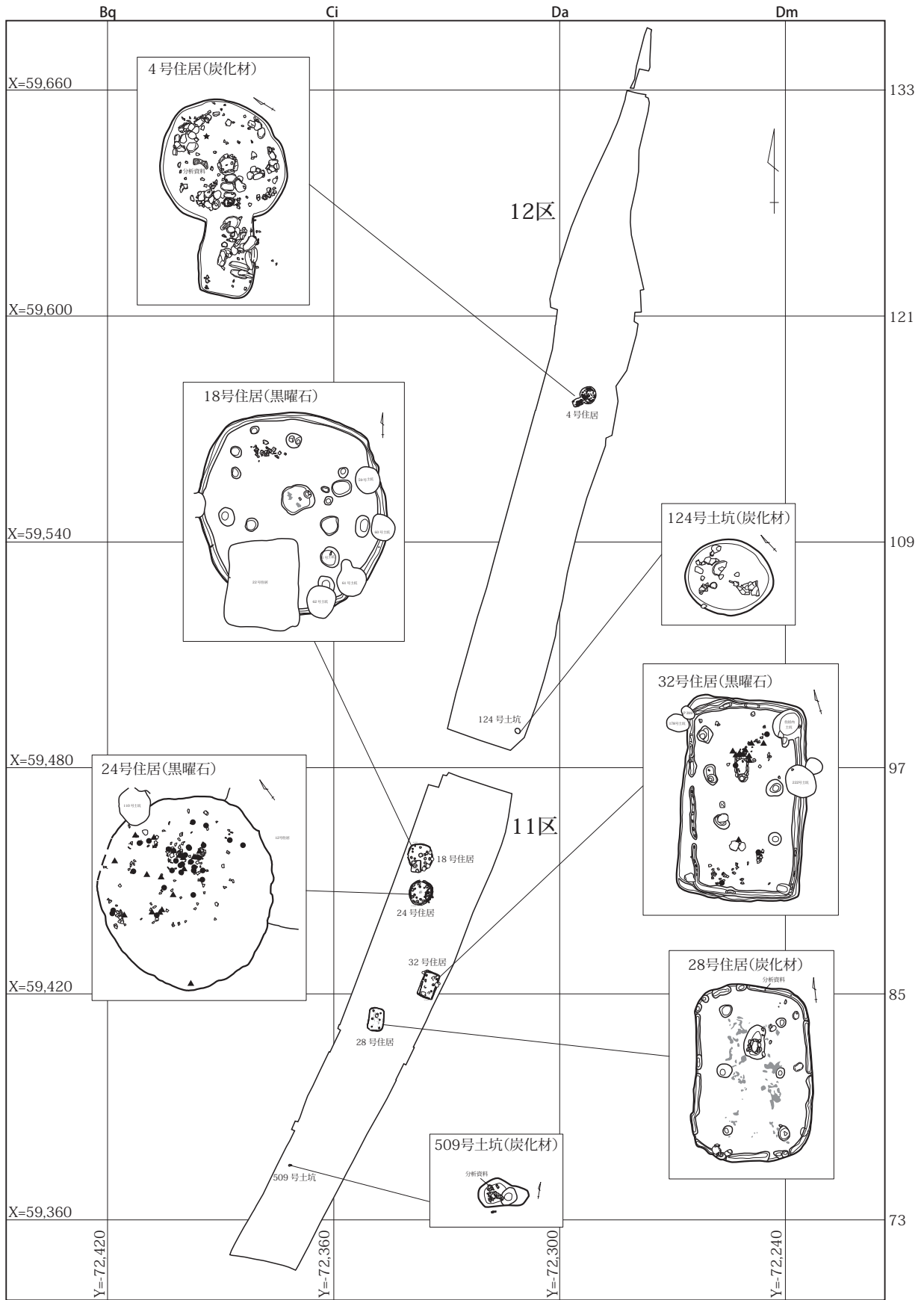
18号住居：周溝内出土の2点の原石は諏訪エリア産。

24号住居：石鏃4点は諏訪、和田、神津島各エリア産とバラエティが見られた。また、石核、原石各1点は和田エリア産であった。これらの黒曜石は住居内覆土中または床から浮いた状態で出土している。

32号住居：覆土出土。石核1点は和田エリア産であり、剥片1点は諏訪エリア産であった。

遺構外出土石器：掘削排土中に紛れ出土した。石匙は、大型の縦型石匙である。諏訪エリア産であった。

今回の分析結果では産出地の中心は信州系ではあるが、時期や製品でエリアが限定されず混じり合っており黒曜石が入ってきたと考える。



第346図 資料採集遺構

第3節 分析報告

1. 中郷遺跡出土炭化材の樹種同定について

1. 試料と方法

試料は縄文時代前期前葉の11区28号住居の1点（試料No. 1）、時期不明の11区509号土坑の1点（試料No. 3）、中期後半の12区124号土坑の1点（No. 2）、中期後半の12区の4号住居の4点（試料No. 4, 5, 6, 7）の計7点である。No. 1、No. 2の試料は原形を保っており木取りと材の直径を計測した。他の試料は原形を保っておらず、木取りと材の直径は確認できなかった。

樹種同定は、炭化材の横断面（木口面）を手で割り実体顕微鏡で予察し、炭化材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柃目）を整形したあと、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し試料を作製した。この後金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡で同定・撮影を行った。

なお、同定試料の残りは（財）群馬県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

2. 中郷遺跡出土炭化材の樹種同定の結果

同定の結果、広葉樹のクリと単子葉のタケ亜科が産出した。クリは6点で、タケ亜科は1点の産出であった。樹種同定結果を表10に記す。

次に同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

第10表 中郷遺跡出土炭化材の樹種同定結果

No.	調査区	遺構名	遺物番号	出土位置	樹種	木取り	直径	時期	年代測定番号
1	11区	28号住居跡	炭化物1	北壁周溝上	クリ	芯持ち丸木	φ5.7cm	縄文時代前期前半	PLD-12229
2	12区	124号土坑	炭	底面	タケ亜科	—	φ0.7cm	縄文時代中期後半	
3	11区	509号土坑	炭	埋没土中層	クリ	割材	計測不可	不明	
4	12区	4号住居跡	炭化物1	床面	クリ	割材	計測不可	縄文時代中期後半	
5			炭化物2	床面	クリ	割材	計測不可	縄文時代中期後半	
6			炭化物3	床面	クリ	割材	計測不可	縄文時代中期後半	
7			炭化物4	床面	クリ	割材	計測不可	縄文時代中期後半	

(1) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 顕微鏡写真 1a-1c (No. 1)・2a-2c (No. 5)・3a (No. 3)・4a (No. 6)

年輪の始めに大型の道管が並び、晩材部にかけて径を急に減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は単列同性である。

クリは、北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

(2) タケ亜科 Subfam. Bambusoideae イネ科 顕微鏡写真 5a (No. 2)

維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均一に配置し、維管束の周りは厚壁の繊維細胞からなる維管束鞘が発達している。特に稈の外周に位置する維管束鞘は非常に厚く発達し、厚壁の繊維細胞だけの塊も島状に密在し、稈を堅く支持している。

タケ亜科は、いわゆるタケ・ササの仲間で、日本には12属ある。

2. 放射性炭素年代測定

1. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表11のとおりである。

試料は、縄文時代前期関山式期と判断される28号住居の北壁周溝上より出土した部位不明炭化材（クリ）である。炭化材の樹種について詳しくは別稿を参照されたい。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

第11表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-12229	調査区：11区 遺構：28号住居 位置：北壁周溝上 試料No.1	試料の種類：炭化材（クリ） 試料の性状：不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N） サルフィックス

2. 結果

表12に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}C$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図347に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正には0xCal4.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、0xCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

第12表 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-12229	-26.75 \pm 0.23	5837 \pm 28	5835 \pm 30	4768BC (7.5%) 4754BC	4786BC (84.7%) 4649BC
				4743BC (3.4%) 4736BC	4644BC (10.7%) 4614BC
				<u>4729BC (52.6%) 4684BC</u>	
				4632BC (4.6%) 4623BC	

3. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。その結果、 2σ 暦年代範囲で4786-4649calBC (84.7%) および4644-4614calBC (10.7%) という値を得た。これは縄文時代前期の関山式期の年代としては、小林謙一が整理した縄文土器編年と暦年代との対応関係 (小林, 2008) と矛盾しない。

参考文献

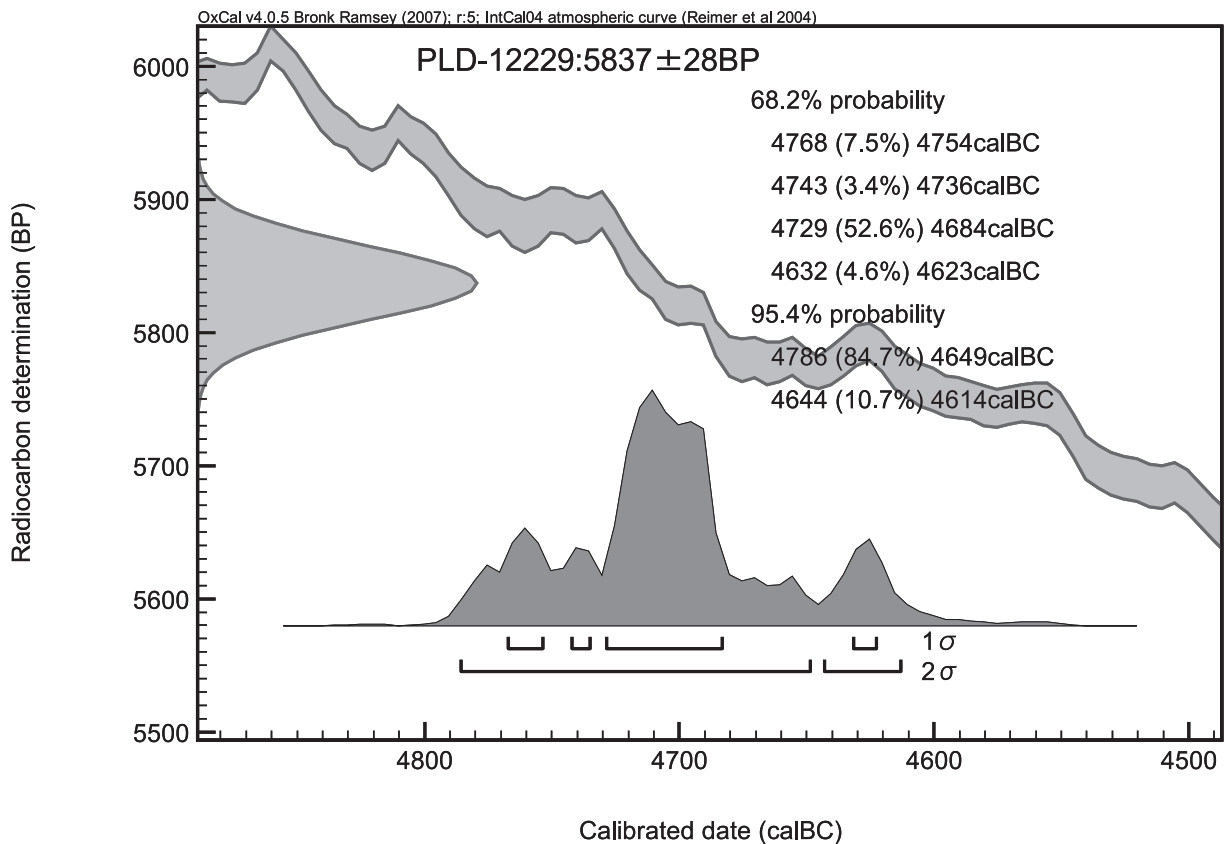
Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 縄文時代の考古学2 歴史のものさし, 257-269, 同成社.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代. 3-20.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.



第 347 図 暦年較正結果

3. 中郷遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

1. 試料と方法

分析対象資料は中郷遺跡より出土した縄文時代前期、中期および時期不明の黒曜石製石器計11点である(表13)。

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、表面の洗浄を行った。

分析装置は、(株)セイコーインスツルメンツ社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300sec、照射径10mm、電流自動設定(1~63μA、デッドタイムが20%未満になるよう自動設定)、電圧50kV、試料室内雰囲気真空に設定した。

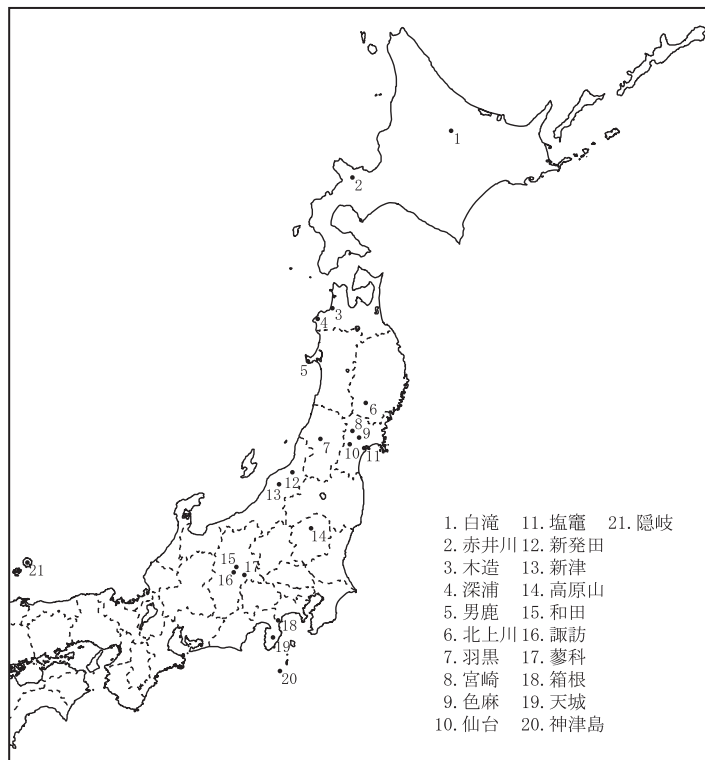
黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月,2004など)。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) $Rb\text{分率} = Rb\text{強度} \times 100 / (Rb\text{強度} + Sr\text{強度} + Y\text{強度} + Zr\text{強度})$
- 2) $Sr\text{分率} = Sr\text{強度} \times 100 / (Rb\text{強度} + Sr\text{強度} + Y\text{強度} + Zr\text{強度})$
- 3) $Mn\text{強度} \times 100 / Fe\text{強度}$
- 4) $\log (Fe\text{強度} / K\text{強度})$

第13表 分析対象資料

分析No.	調査区	遺構名	遺物番号	出土位置	器種	重量(g)	時期
1	11区	18号住居	9 (24)	周溝内	原石	53.7	縄文時代中期
2	11区	18号住居	10 (25)	周溝内	原石	56.1	縄文時代中期
3	11区	24号住居	6 (64)	床上17cm	石鏃	0.6	縄文時代中期
4	11区	24号住居	5 (65)	覆土	石鏃	0.4	縄文時代中期
5	11区	24号住居	2 (66)	床上36cm	石鏃	1.0	縄文時代中期
6	11区	24号住居	3 (69)	覆土	石鏃	0.7	縄文時代中期
7	11区	24号住居	(94)	覆土	石核	5.2	縄文時代中期
8	11区	24号住居	(95)	覆土	原石	14.0	縄文時代中期
9	11区	32号住居	(66)	覆土	石核	6.4	縄文時代前期
10	11区	32号住居		覆土	剥片	—	縄文時代前期
11	11区	遺構外	68 (159)	包含層中	石匙	45.5	不明

※ ()内は調査区取上番号



第348図 黒曜石産地分布図(東日本)



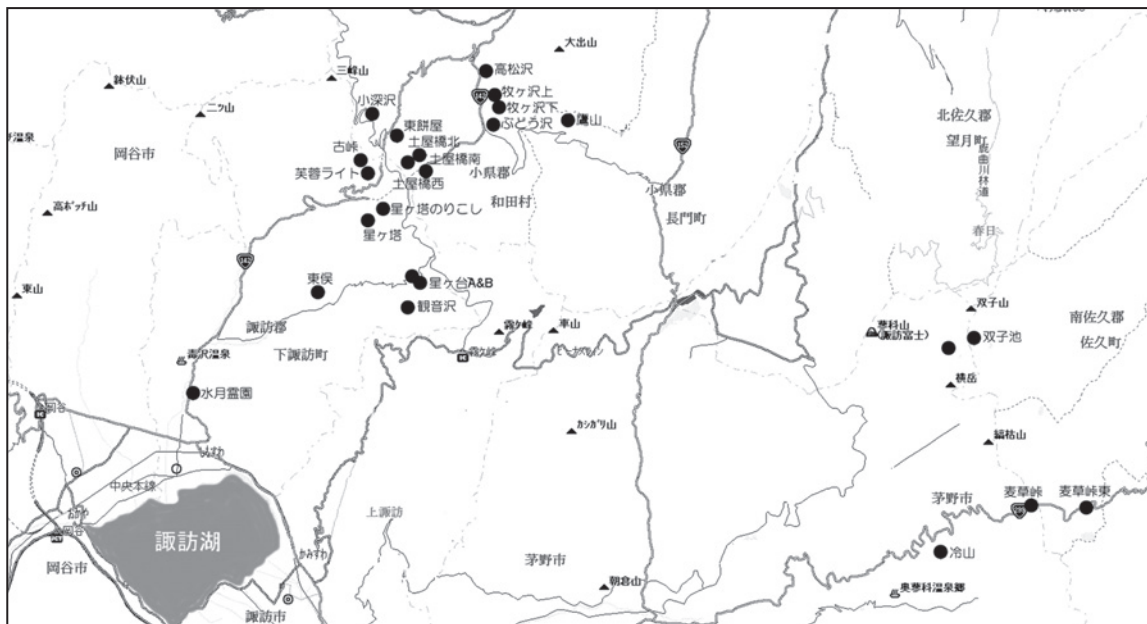
11区18住9(1/3) 11区18住10(1/3) 11区24住2(4/5) 11区24住3(4/5) 11区24住5(4/5) 11区24住6(4/5)

第6章 自然科学分析

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図（横軸Rb分率－縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸log（Fe強度/K強度）の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定するものである。この判別図法は、原石同士の判別図が重複した場合、分離は不可能となるが、現在のところ、同一エリア内の多少の重複はあってもエリア間の重複はほとんどないことから、産地エリアの推定には十分である。また、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせるため、形状や厚みなどの影響を比較的受けにくいという利点があり、非破壊分析を原則とし、形状が不規則で薄い試料も多く存在する出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響をまぬかれないといわれるz（望月, 1999）。

第14表 黒曜石産地（東日本）の判別群名称（望月,2004参照）

都道府県	エリア	判別群	記号	原石採取地
北海道	白滝	八号沢群	STHG	赤石山山頂・八号沢露頭・八号沢・黒曜の沢・幌加林道 (36)
		黒曜の沢群	STKY	
青森	木造	曲川群	AIMK	曲川・土木川 (12)
		出来島群	KDDK	出来島海岸 (10)
秋田	男鹿	八森山群	HUHM	岡崎浜 (7)、八森山公園 (8)
		金ヶ崎群	OGKS	金ヶ崎温泉 (10)
岩手	北上川	脇本群	OGWM	脇本海岸 (4)
		北上折居2群	KKO2	北上川 (9)
		月山群	HGGS	月山荘前 (10)
		湯ノ倉群	MZYK	湯ノ倉 (40)
		根岸群	SMNG	根岸 (40)
宮城	仙台	秋保1群	SDA1	土蔵 (18)
		秋保2群	SDA2	
		塩釜群	SCSG	塩釜 (10)
		板山群	SBIY	板山牧場 (10)
新潟	新津	金津群	NTKT	金津 (7)
		甘湯沢群	THAY	甘湯沢 (22)
栃木	高原山	七尋沢群	THNH	七尋沢 (3)、宮川 (3)、枝持沢 (3)
		鷹山群	WDTY	鷹山 (20)、東餅屋 (20)
長野	和田 (WD)	小深沢群	WDKB	小深沢 (18)
		土屋橋西群	WDTN	土屋橋西 (11)
		ブドウ沢群	WOBD	ブドウ沢 (20)
	和田 (WO)	牧ヶ沢群	WOMS	牧ヶ沢下 (20)
		高松沢群	WOTM	高松沢 (19)
	諏訪	星ヶ台群	SWHD	星ヶ台 (35)、星ヶ塔 (20)
	諏科	冷山群	TSTY	冷山 (20)、麦草峠 (20)、麦草峠東 (20)
神奈川	箱根	芦ノ湯群	HNAY	芦ノ湯 (20)
		畑宿群	HNHJ	畑宿 (51)
		鍛冶屋群	HNKJ	鍛冶屋 (20)
静岡	天城	上多賀群	HNKT	上多賀 (20)
		柏峠群	AGKT	柏峠 (20)
東京	神津島	恩馳島群	KZOB	恩馳島 (27)
		砂糠崎群	KZSN	砂糠崎 (20)
島根	隠岐	久見群	OKHM	久見パーライト中 (6)、久見採掘現場 (5)
		箕浦群	OKMU	箕浦海岸 (3)、加茂 (4)、岸浜 (3)



第 349 図 長野県の黒曜石産地分布図（望月,2004 より転載、●が原石採取地）

極端に薄い資料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log(\text{Fe郷土}/\text{K強度})$ の値が減少する。復、風化資料の場合でも、 $\log(\text{Fe郷土}/\text{K強度})$ の値が減少する(同情)。そのため、試料の測定面はなるべく綺麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。原石試料は、採取原石を割り新鮮な面を表出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表14に各原石産地とそれぞれの試料点数、ならびにこれらのエリアと判別群名を示す。また、図348に各原石の採取地分布図を、図349に長野県の実石採取地分布図を示す。

2. 分析結果

表15に出土遺物の測定値及び算出された指標値を、図350・351に、黒曜石原石の判別図に遺跡出土遺物11点をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。5点が諏訪エリア星ヶ台群SWHD、2点が和田エリア土屋橋西群WDTN、1点が和田エリア鷹山群WDTY、1点が神津島エリア恩馳島群KZOBの範囲にプロットされた。一方、分析No.4は、図350ではWDTYと和田エリア小深沢群WDKBの重複域にプロットされたが、図351ではやや下方にプロットされた。これらは先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月,1999)、WDTYあるいはWDKBに属する可能性が高い。同じ現象は分析No.6にも見られ、SWHDの可能性が高いと思われる。表15に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

第15表 産地推定結果

分析No.	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	Rb分率	Mn×100 Fe	Sr分率	$\log \frac{\text{Fe}}{\text{K}}$	判別群	エリア	分析No.
1	7.12	2.84	33.52	8.30	2.92	3.96	6.66	38.01	8.48	13.37	0.67	SWHD	諏訪	1
2	8.60	2.99	38.10	10.05	3.08	3.87	7.22	41.48	7.85	12.71	0.65	SWHD	諏訪	2
3	9.45	3.62	42.46	10.59	3.21	3.96	9.07	39.46	8.52	11.98	0.65	SWHD	諏訪	3
4	15.85	4.12	40.63	21.99	0.00	8.43	9.07	55.68	10.14	0.00	0.41	WDTYorWDKB?	和田?	4
5	5.13	3.16	49.52	4.33	6.07	2.87	8.08	20.30	6.38	28.41	0.98	KZOB	神津島	5
6	12.40	3.08	40.07	12.05	3.42	4.35	8.17	43.05	7.68	12.21	0.51	SWHD?	諏訪?	6
7	8.44	3.46	49.09	15.74	2.05	5.29	9.83	47.82	7.04	6.23	0.76	WDTN	和田	7
8	6.91	2.78	39.78	14.50	1.17	5.58	8.99	47.96	6.98	3.88	0.76	WDTN	和田	8
9	8.70	4.91	43.45	21.04	0.23	7.98	8.64	55.53	11.31	0.60	0.70	WDTY	和田	9
10	7.75	2.89	36.09	9.68	2.72	3.20	6.42	43.95	8.01	12.33	0.67	SWHD	諏訪	10
11	6.70	2.61	33.18	8.08	2.25	2.99	6.33	41.11	7.86	11.44	0.69	SWHD	諏訪	11

3. おわりに

中郷遺跡出土の黒曜石製石器11点について蛍光X線分析による産地推定を行った結果、縄文時代前期2点はそれぞれ諏訪エリアと和田エリア産、縄文時代中期8点は4点が諏訪エリア産、3点が和田エリア産、1点が神津島エリア産、時期不明の1点は諏訪エリア産と推定された。

引用・参考文献

望月明彦(1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 上和田城山遺跡篇 一」:172-179, 大和市教育委員会。

望月明彦(2004) 殿山遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定。上尾市文化財調査報告第76集「殿山遺跡 先土器時代石器群の保管・活用のための整理報告書」:272-282, 上尾市教育委員会

第7章

ま と め



8区第4面検出遺構

右の竪穴住居は縄文時代前期の5号住居。方形を呈し、北寄り中央に炉を有する。左の竪穴住居は縄文時代中期後半の7号住居。八角形を呈する住居で、南に埋甕が設置される張出部を有する。

第1節 遺跡立地

1. 各時期の遺跡立地

今回の事業に伴う発掘調査により、今まで弥生時代以前の遺跡の存在が薄かった利根川右岸部の白井面や長坂面等の段丘面東縁地区で遺跡が発見され、人々の活動の痕跡や集落選地が分かり始めた。この地域で発見された旧石器～弥生時代までの遺構、遺物から利根川右岸部、白井面、長坂面東縁の遺跡の立地や足跡を辿ってみたい。

旧石器時代

長坂面東縁部における最初の痕跡は、中郷遺跡Ⅰ区歩道橋下の狭い調査区から約2.2万年前の浅間山噴火火山灰（As-BP）下から石器製作址が発見され、2.2万年以前に遡ることができた。このAs-BPの噴出の際に浅間山の山体崩壊が起こり吾妻川上流域から大規模な泥流が流下した。泥流は長坂面南半を襲い礫で覆い、利根川に合流して渋川以南の旧地形を埋め尽くした。この大規模な泥流は前橋泥流と呼ばれる。石器製作址からわずか100m南の吹屋遺跡Ⅱ区の調査の際に、この前橋泥流の北縁の礫層が確認できた。浅間山は1.7万年前頃に再び大噴火を起こし、浅間白糸軽石（As-Sr）が降り注いだ。その厚さは30cm近くに達し、噴火規模は相当なものと同推定できる。その後、ローム層上部の1.3万年前の浅間山噴火火山灰（As-YP）を含む硬質ローム層中で石器製作址が吹屋遺跡Ⅱ区とⅥ区の2箇所で見られ、再びこの地に人が訪れた事が分かった。

白井面では、As-YPを含む硬質ローム層下部には段丘礫層が堆積し前橋泥流やAs-Sr等は確認できず、白井面での利根川の離水時期は1.3万年頃と推定できる。

縄文時代

同事業（その1）工事に伴い調査された白井北中道遺跡において隆線文土器が出土している。この地域の最古の土器であり、約1万年前の草創期には既にこの地に土器を持った人々がいた証拠が発見された。今回、白井北中道遺跡に接する白井十二遺跡で

は、草創期の表裏縄文を有する土器片を含め同時期の土器片が4,650点出土している。また段丘崖直上の吹屋伊勢森遺跡では神子柴型の打製石斧が出土するなど草創期の遺物の発見があった。しかし、住居等の遺構は発見されていない。

本地区の住居の出現は前期前葉の二ツ木式期から関山式期にかけてである。吹屋遺跡、中郷遺跡、上白井西伊勢遺跡等の子持山寄りの遺跡で数軒の住居と袋状土坑等を検出した。次の前期後半の諸磯b式期では、やはり数軒単位の住居群が段丘崖を挟み崖上の吹屋伊勢森遺跡と崖下の白井十二遺跡や白井北中道Ⅲ遺跡で検出した。吹屋伊勢森遺跡では黒曜石の原石等を埋納した住居内ピットや球状耳飾1対が出土した墓坑、焼け石の集積等を検出した。中期前半期は一時的に遺構遺物は希薄になるが中期後半の特に加曾利E式期には中郷遺跡11区、12区にまたがる拠点的な集落の様相を呈する住居群が出現する。集落の広がりには西に展開すると考えられ、大規模な集落の一部を路線が擦ったと考える。

後期前半の称名寺式期には遺構数は激減し、住居1軒と土坑数基だけとなる。

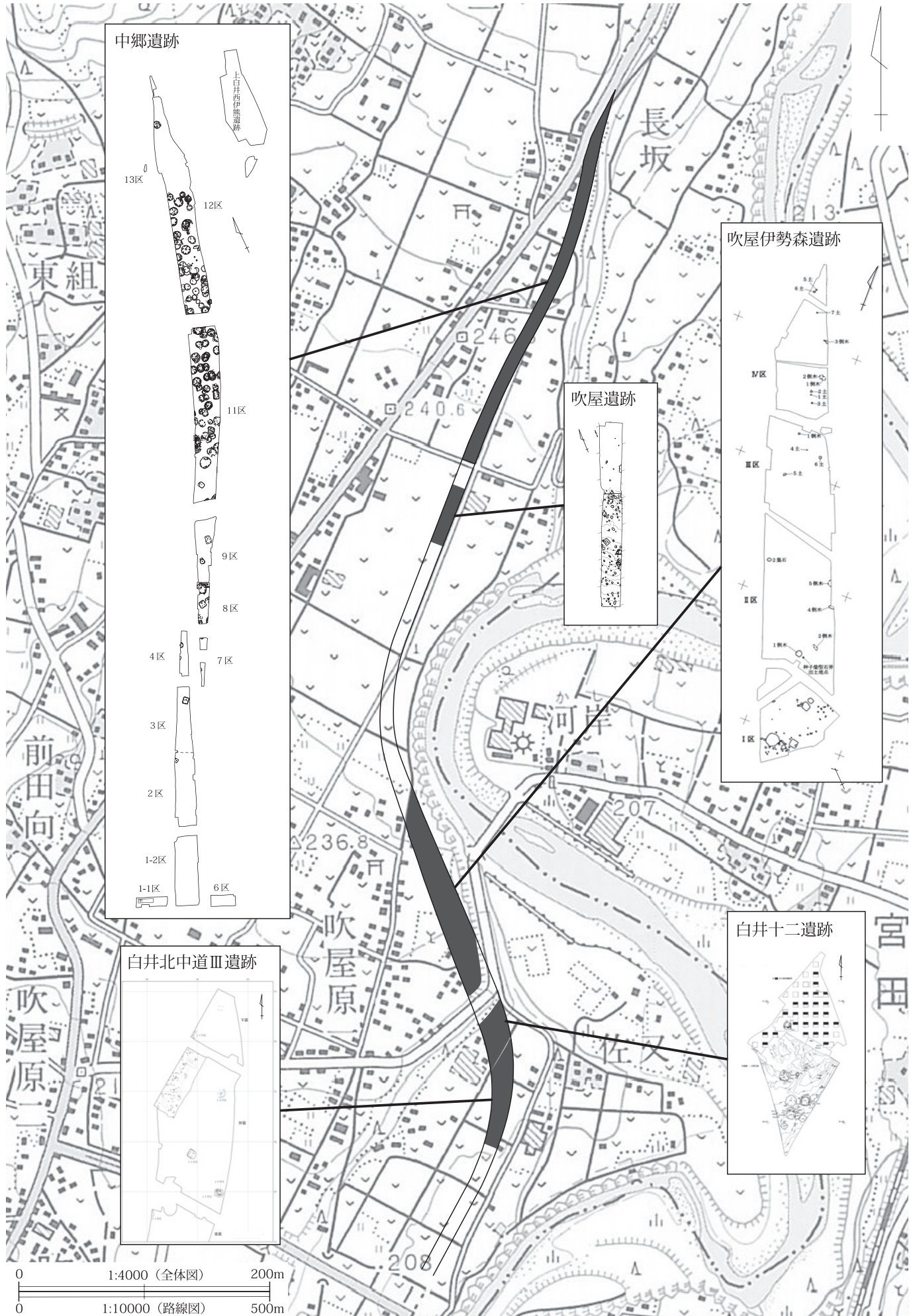
弥生～古墳時代

弥生時代には中期や後期の土器破片が各遺跡で散見するが、唯一白井面の白井北中道Ⅲ遺跡で弥生～古墳時代にかけての集落が発見されたのみである。

2. 中郷遺跡の時期別住居配置

調査中に命名した住居総数は130軒を数えたが、7軒は調査途中や整理中に住居でないと判断でき、住居件数は123軒となった。各時期の住居は、縄文時代前期14軒、中期108軒、後期1軒を数えた。

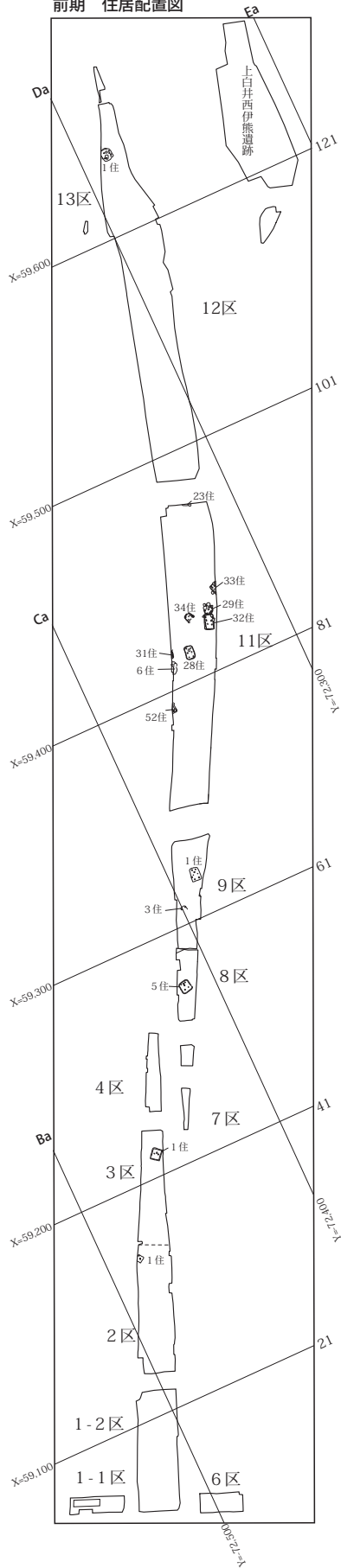
各期の住居配置は、第353図で示す通り縄文時代前期住居は2区から9区にかけて点在し、11区でややまとまりが見られる。縄文時代中期から後期住居は、7区、8区で小さなまとまりが見られ、11区から12区南半に密集する。検出状況から東辺は段丘崖が迫り東に展開する可能性は薄い、西に大規模に展開すると考える。



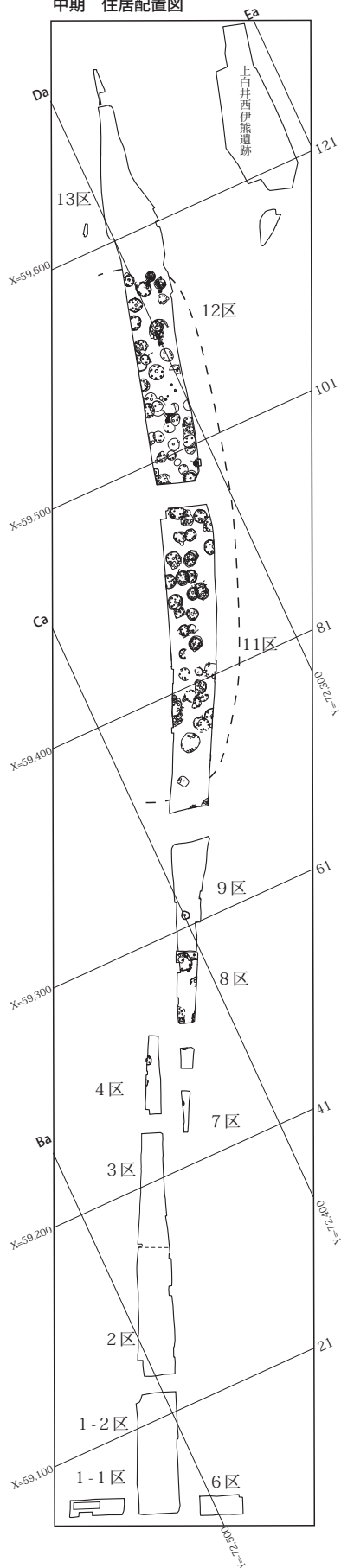
第352図 鯉沢バイパス遺跡位置図 (第4面)

第7章 まとめ

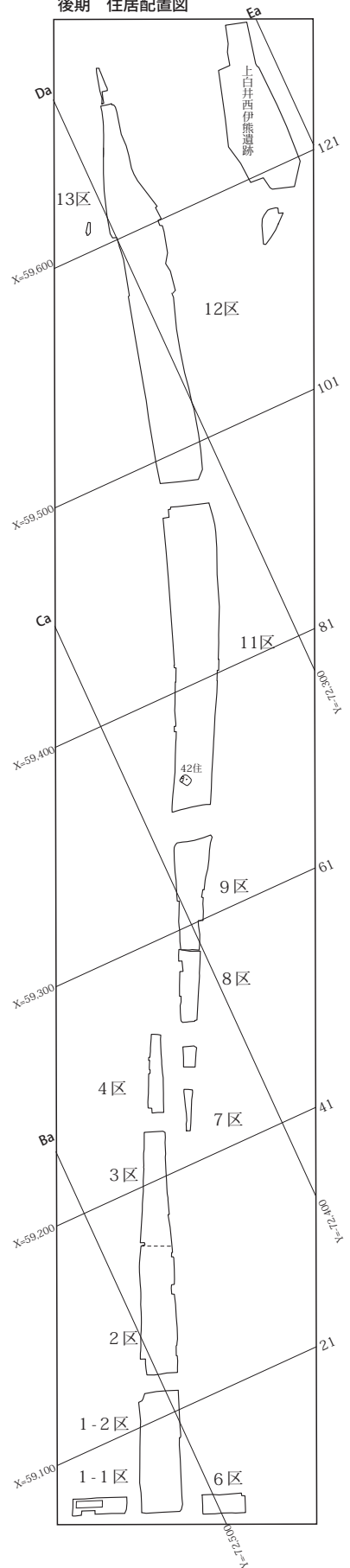
前期 住居配置図



中期 住居配置図



後期 住居配置図



第353図 時期別住居配置図 (S=1/3000)

第2節 住居形状について

本遺跡で検出した縄文時代住居は100軒を越し、大多数は中期の住居が占めた。その中で、縄文時代前期の住居形状と中期の代表的住居と多角形住居及び敷石住居について概観集成を行う。

1. 縄文時代前期の住居

縄文時代前期に属する住居は14軒を数えた。単独住居が多く同一時期の重複は11区34号と35号住居の1箇所を確認したのみである。

住居形状は、方形、長方形に大別でき、両形状を基本にコーナーが隅丸形状を呈する住居も加わる。15軒を形状毎に分ける。()内は時期を示し、前葉 = (前)、中葉 (中)、後葉 (後) とする。

方形: 2区1住 (前)、8区5住 (中)、12区1住 (後)。住居内施設は、炉は壁寄りの柱穴間に設けられ、地床炉又は1石を置く傾向が見られる。柱穴は4本か。

長方形: 全て前期前葉。3区1住、9区1住、11区28住、32住、34住、35住。

住居内施設は、炉は壁寄り短軸柱穴間に設けられ、石組石敷炉を多く検出している。柱穴は6本。

その他の四角形住居: 調査区壁外に伸び、全掘ができず形状及び住居内施設は不明である。11区6号、23号、31号、33号、52号住居。

2. 縄文時代中期の住居

住居形状は円形を基本とするが、正円ではなく楕円形状が多く見られ、また直線的な短い辺を有する多角形住居も検出した。この住居群の中から、楕円形住居の11区24号住居と八角形を呈し、張出部を有する住居の8区7号住居について説明を行う。

11区24号住居: 楕円形状を呈し、中央にやや大型の石囲炉を有する。この住居は柱穴配置が特異であり、壁沿いに7本、内側に一回り小さな柱穴が8本巡る。この柱穴配置では生活空間が狭くなってしまうとも考える。南辺周溝が1ヶ所途切れ、柱穴1基あり入口部と考える。時期は中期後半である。

8区7号住居: 一部調査区壁にかかり全掘はできなかったが、推定形状は八角形と考える。柱穴配置は各コーナー部内側に設置され、炉は埋甕炉である。南壁に埋甕が埋設された張出部を有し、張出部を含めた形状としては帆立貝状ともいえる。この張出部を有する形態は、柄鏡形住居の初源的な形態に類似する。時期は中期後半である。

3. 敷石住居の集成

12区で中期末葉の敷石住居6軒を検出した。その概要は以下の通りである。

3号住居: 柄鏡形敷石住居。方形の主体部内に大型板状角礫を一部敷く。張出部に大礫使用。

4号住居: 柄鏡形敷石住居。方形の主体部内の壁寄りに扁平円礫を配する。連結部付近に埋甕。張出部に大礫使用。張出部先端に大礫1石を横置する。

14号住居: 柄鏡形敷石住居。方形の主体部内全面に板状角礫を敷き詰め、4石を用いた方形石囲炉を伴う。下部に大型土坑の137号土坑があり、土圧により陥没し敷石面は傾斜状態で検出した。

18号住居: 柄鏡形敷石住居。主体部は近代の攪乱孔に壊され、大礫使用の張出部のみ検出した。張出部は掘り込まれ、円礫の平坦面を利用し底面を作り出し、側壁には大礫を立てかける。連結部には方形石組施設を設ける。

35号住居: 柄鏡形敷石住居。方形の主体部は側壁に小石を積み上げ、奥壁に一部角礫を用い構築する。中央に礫と土器破片を用いた方形石囲炉を設置。炉石は被熱により破断。張出部先端には礫を横置する。

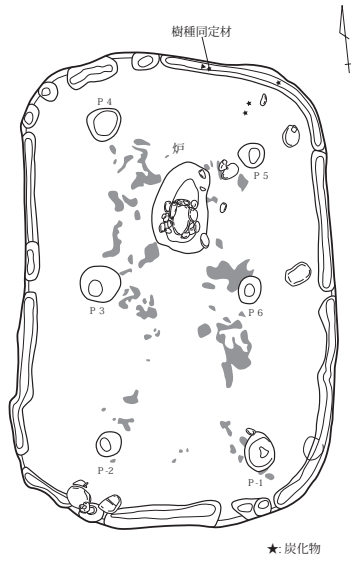
38号住居: 柄鏡形敷石住居。方形の主体部内の側壁際に板状角礫を敷き、外側に裏込め状に小礫を詰めている。張出部には扁平礫を利用。中央部に4石による方形石囲炉、連結部に同じく方形に組まれた石組を検出した。

14号住居を除き柄鏡形敷石住居である。主体部は方形を呈し、中央に炉を有する。全面敷石がされず、礫が乱れた状態で検出される等の共通点が見られた。

第7章 まとめ

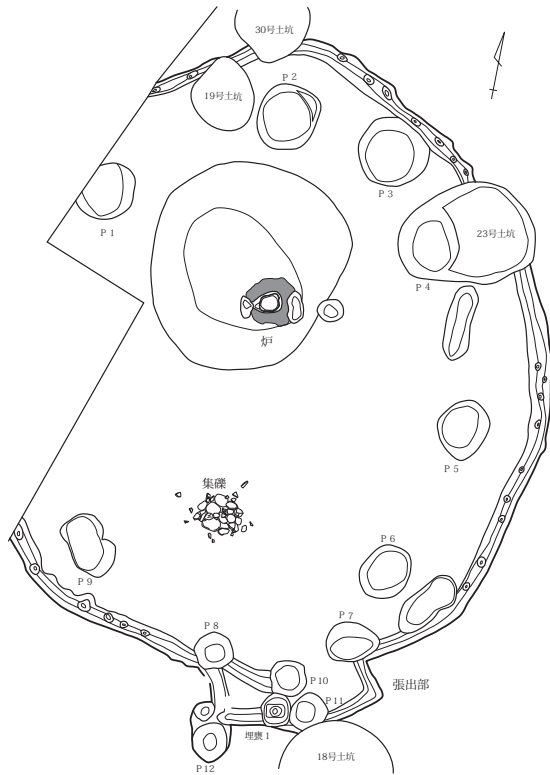
11区28号住居

前期前葉 長方形住居



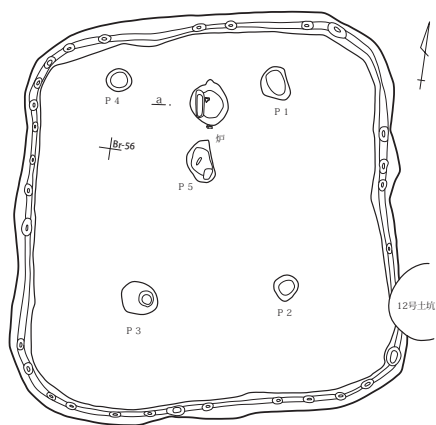
8区7号住居

中期後半 八角形住居
(帆立貝形)



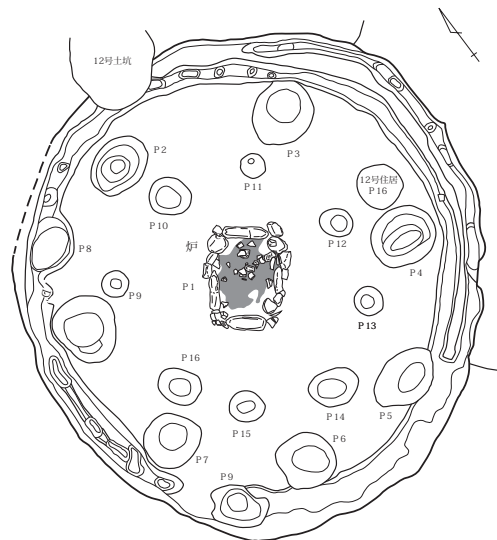
8区5号住居

前期中葉 方形住居



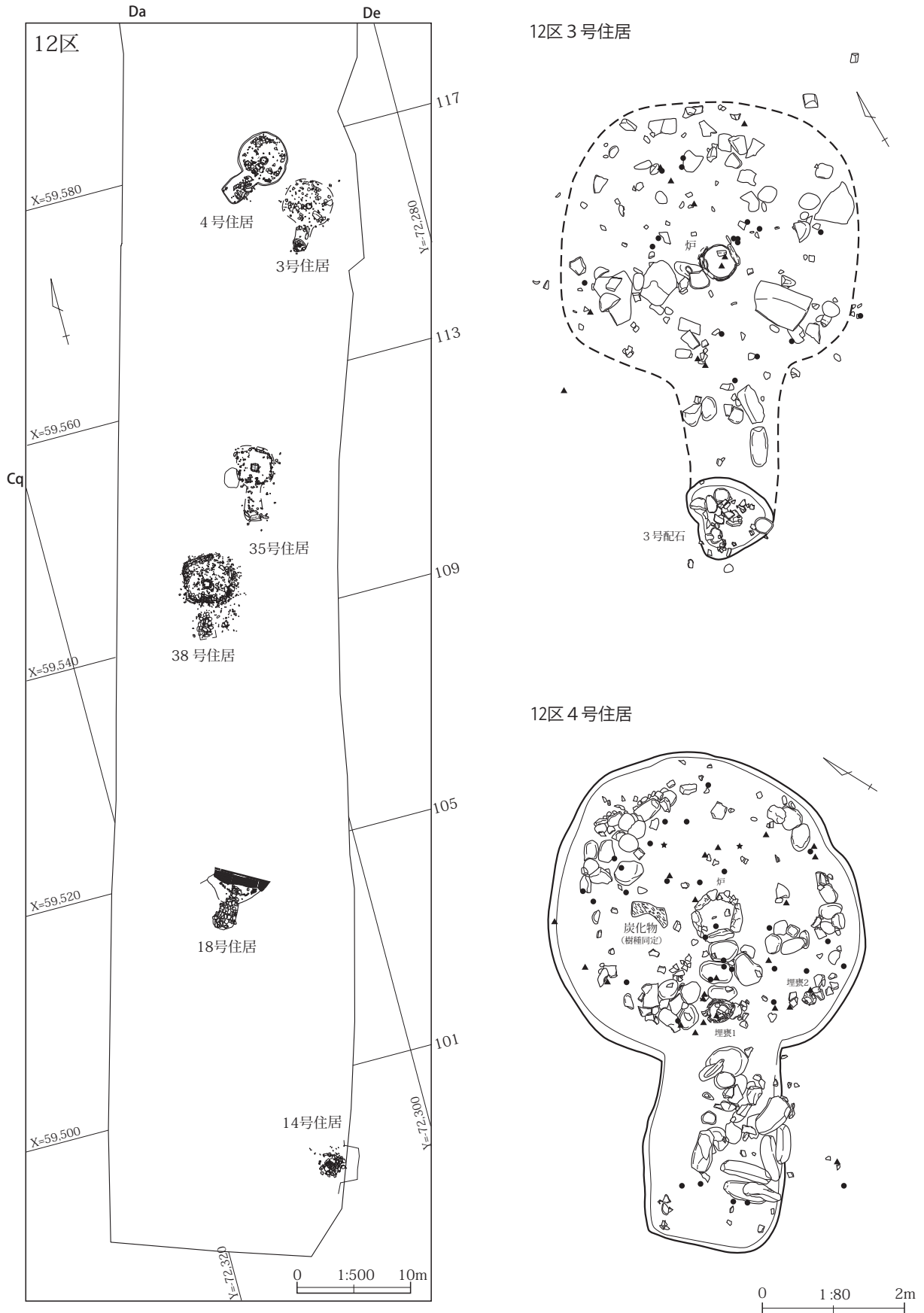
11区24号住居

中期後半 円形住居



0 1:100 2m

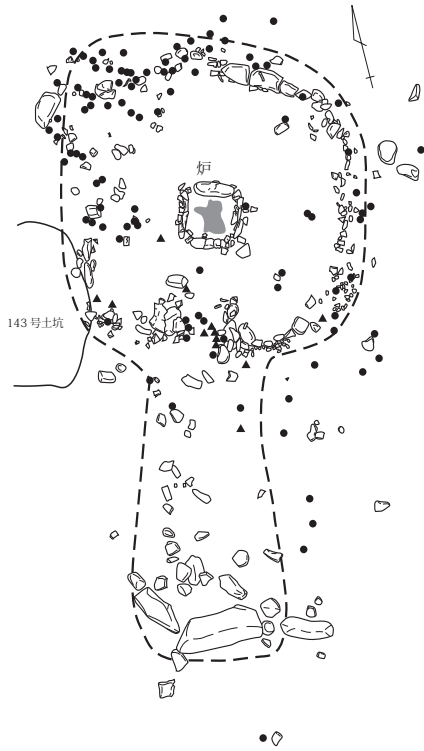
第354図 時期別住居集成図



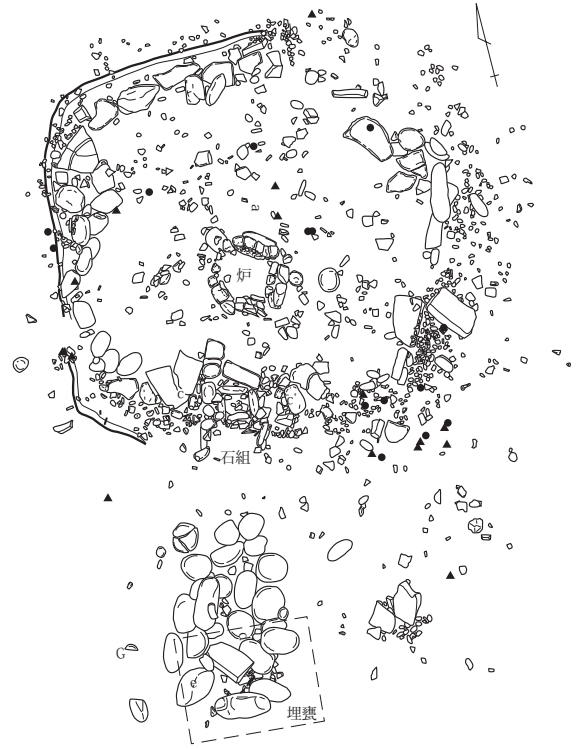
第355図 敷石住居集成図(1)

第7章 まとめ

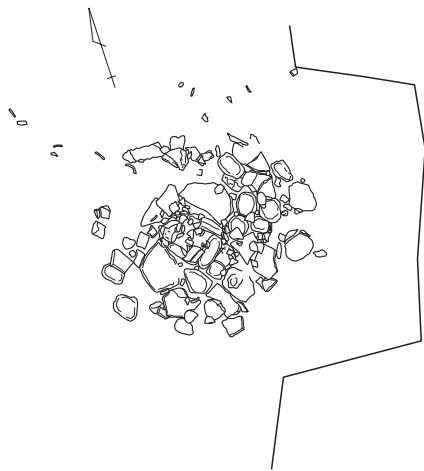
12区35号住居



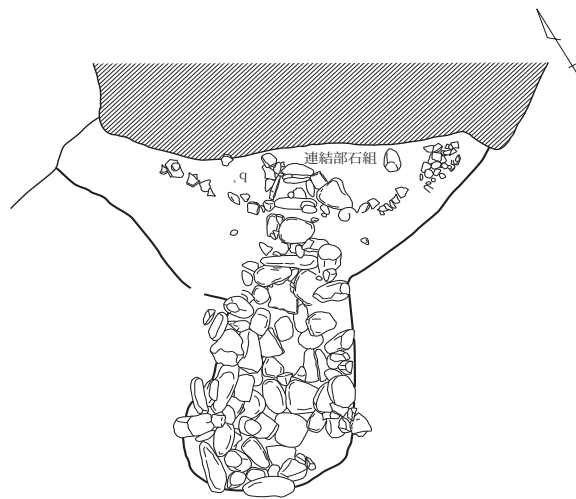
12区38号住居



12区14号住居



12区18号住居



0 1:80 2m

第356図 敷石住居集成図(2)

第3節 住居内施設について

1. 炉の集成

縄文時代の各期の住居内施設として炉が構築される。本遺跡で検出できた炉の数は96基であった。この炉について時期別及び土器埋設や石組等の形態別に炉の集成を行う。集成を行うに際し、形態を下記のように分けた。

地床炉：地山を掘り込み構築する。礫を1石伴うものもある。

埋甕炉：地床炉に埋甕を伴う。

石囲炉：礫を方形・長方形、楕円形状を組む。

石囲石敷炉：前期のみ検出。火床面に扁平礫を敷く。

石囲埋甕炉：石囲炉に埋甕が伴う。石囲炉同様、方形と長方形に分けられる。

埋甕石囲炉：石囲埋甕炉とも言えるが、土器を固定するように礫を密着させ囲う構造であり埋甕主体のため埋甕石囲炉とした。

1) 縄文時代前期の炉

縄文時代前期の住居は14軒検出し、炉を検出した住居は10軒であった。

地床炉：5軒検出。2区1住、8区5住は1石配置。

石囲石敷炉：11区28住、11区35住、11区32住の3軒検出。礫で長形状に囲み、底面に扁平礫一石が敷かれる。礫面までは浅く、礫面の焼けの強弱はあるが、焼土・灰の堆積は見られない。32住では石囲の端に埋甕が置かれ、石囲埋甕炉とも言える。また、9区1住も石囲炉の縁に土器が埋設される。

埋甕石囲炉：12区1住のみ検出。

2) 縄文時代中期及び後期の炉

縄文時代中期の住居は109軒検出でき、炉を検出できた住居は76軒ある。また後期は1軒であった。

地床炉：5軒検出。炉や小礫を有する炉も含めた。

埋甕炉：9軒検出。中期8軒、後期1軒である。この中で8区7住や12区5住は一部石囲いの抜き取り痕状のピットを有する。また12区7住の埋甕は偏在

して出土し、12区23住では石組の残骸とも考えられる小礫が散在していたがここに含めた。その他12区40住では埋甕ではないが大型の深鉢が潰れた状態で出土した。

埋甕石囲炉：5軒検出。埋甕は全て大型品である。

楕円形石囲炉：2軒検出。各辺2石前後の礫で組む。

方形石囲炉：16軒検出。四辺を1石で囲うか、1辺のみ2石で囲う。一部複数礫で囲まれる炉もあり、12区26住は炉脇に深鉢を埋設する。この炉の規模は礫の大きさで決まり、結果として火床面は狭くなる。

方形石囲埋甕炉：16軒検出。石囲炉同様に各辺1石又は2石で構築されるが、一部複数礫で方形に囲う炉もある。中央に土器を埋置する。埋甕は、深鉢口縁部から体部上半が8軒、体部のみ3軒、底部2軒であった。その他に12区28住で口縁部が僅かに欠損する完形に近い深鉢を埋設し、12区32住では大型の深鉢を埋設している。他に12区30住では底部と体部を重ね埋設していた。石囲礫は被熱により破断し、脆く変色した土器もある。

長方形石囲炉：12軒検出。短軸に大礫を用い、長軸側壁に複数礫を用いて構築する。火床面の焼土・灰の残存は良好であり、礫は被熱により破断している。12区15住は張出状の石組が見られ、複式炉的な構造を呈する。

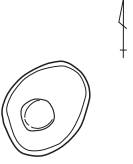




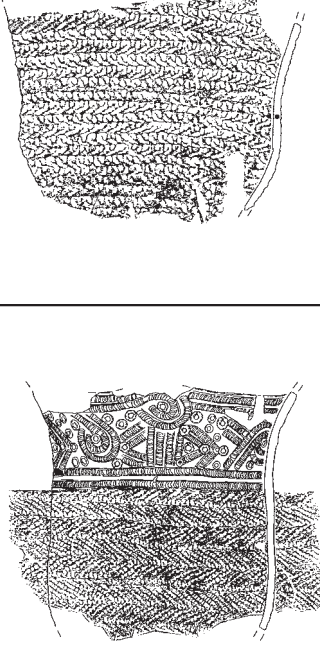
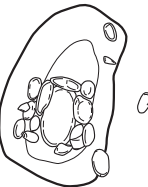



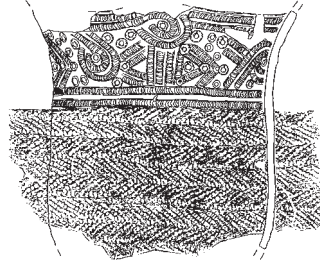


長方形石囲埋甕炉：11軒検出。長方形石囲炉と規模、形状も類似し、中央に埋甕を埋置するのを基本とするが、11区13住は炉外に埋甕を埋置している。また、11区40住は炉が連結されたような状況であった。埋甕は深鉢を用い、口縁部から体部を埋置した炉は7軒。体部を埋置した住居は3軒。底部を埋置した住居は1軒のみであった。

長方形石囲炉は、方形石囲炉の2倍の大きさ。縄文時代中期の炉については、住居形状に対する炉の占める面積や軸方位炉の形状別住居分布等の分析に至らず課題を残した。


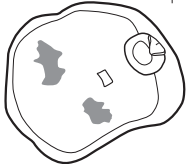


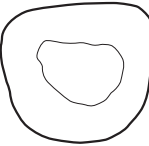
石囲炉の礫は川原石を主に用いられているが、中には石皿や多孔石等の礫石器を用いて構築される場合もある。

縄文時代前期炉集成

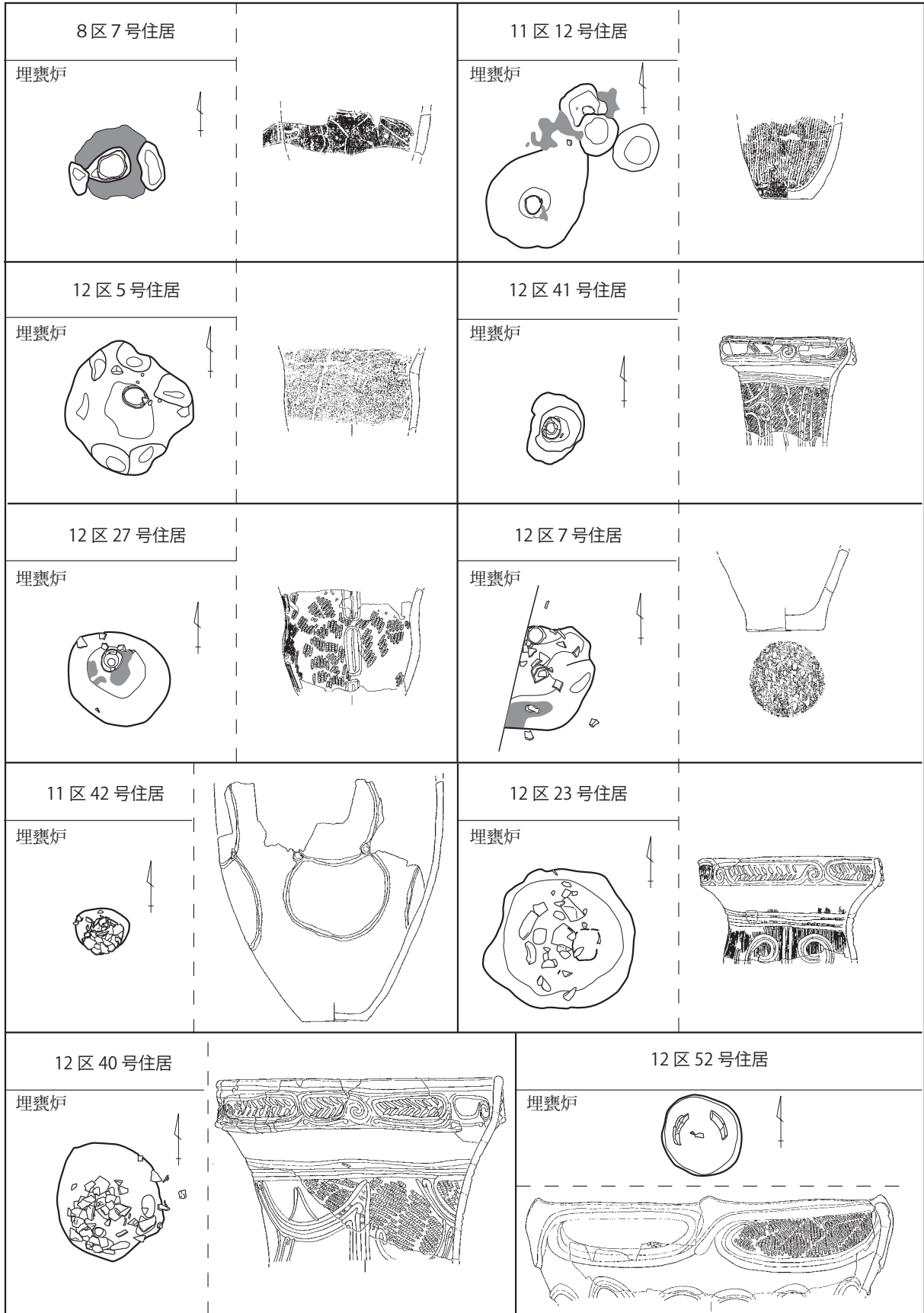
※ 遺構 S = 1/50 遺物 S = 1/8

2区1号住居	3区1号住居	8区5号住居	11区6号住居	11区29号住居
地床炉 	地床炉 	地床炉 	地床炉 	地床炉 
11区28号住居	11区35号住居	11区32号住居		
石敷石囲炉 	石敷石囲炉 	石敷石囲炉 		
12区1号住居		9区1号住居		
石囲埋糞炉 		石囲埋糞炉 		

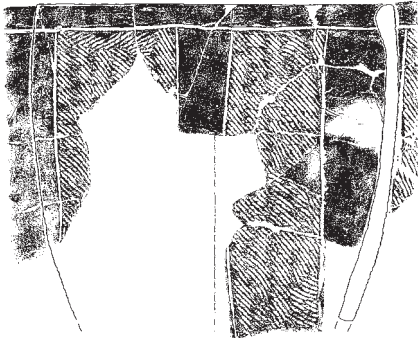

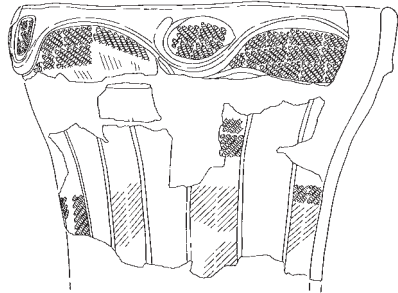
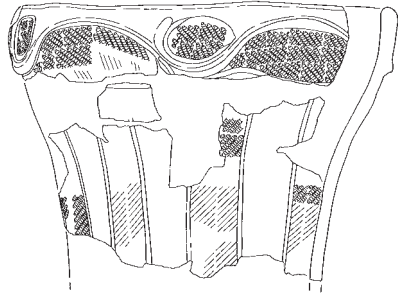

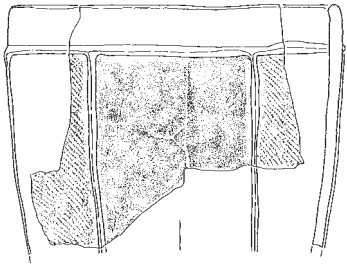
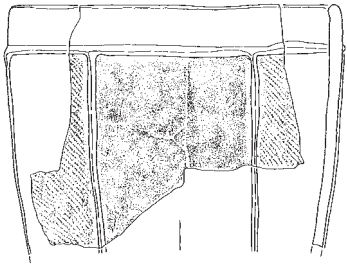
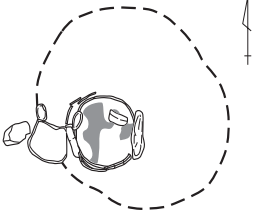
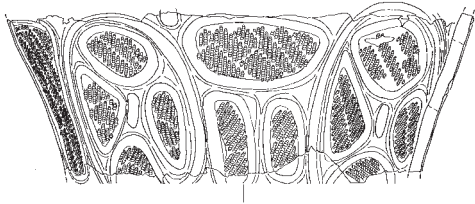
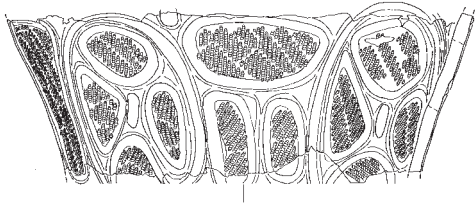

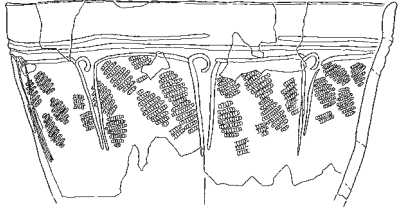
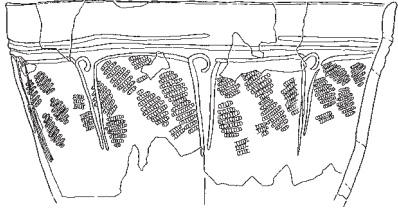

縄文時代中期以降炉集成

8区6号住居	11区18号住居	11区19号住居	11区33号住居	12区22号住居
地床炉 	地床炉 	地床炉 	地床炉 	地床炉 






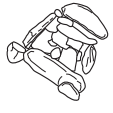



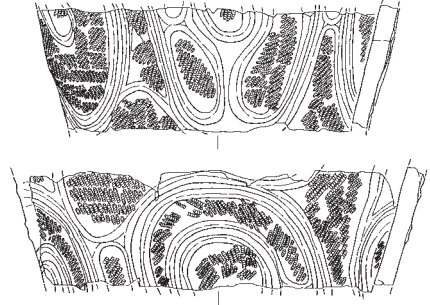


第357図 炉集成図(1)



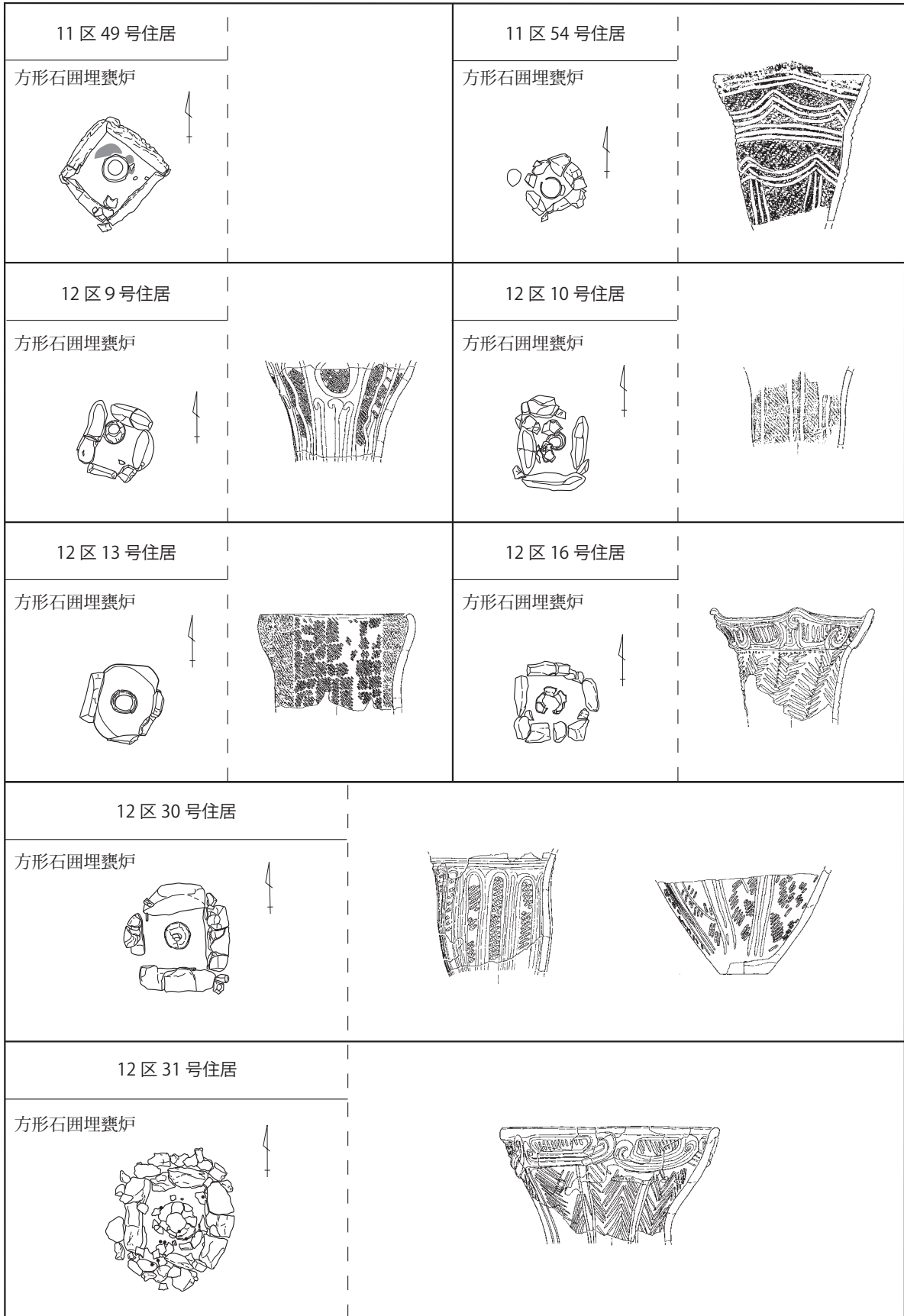
第358図 炉集成図(2)

<p>8区1号住居</p>	
<p>埋甕石囲炉</p> 	
<p>8区3号住居</p>	
<p>埋甕石囲炉</p> 	
<p>12区3号住居</p>	
<p>埋甕石囲炉</p> 	
<p>12区36号住居</p>	
<p>埋甕石囲炉</p> 	
<p>12区47号住居</p>	
<p>埋甕石囲炉</p> 	

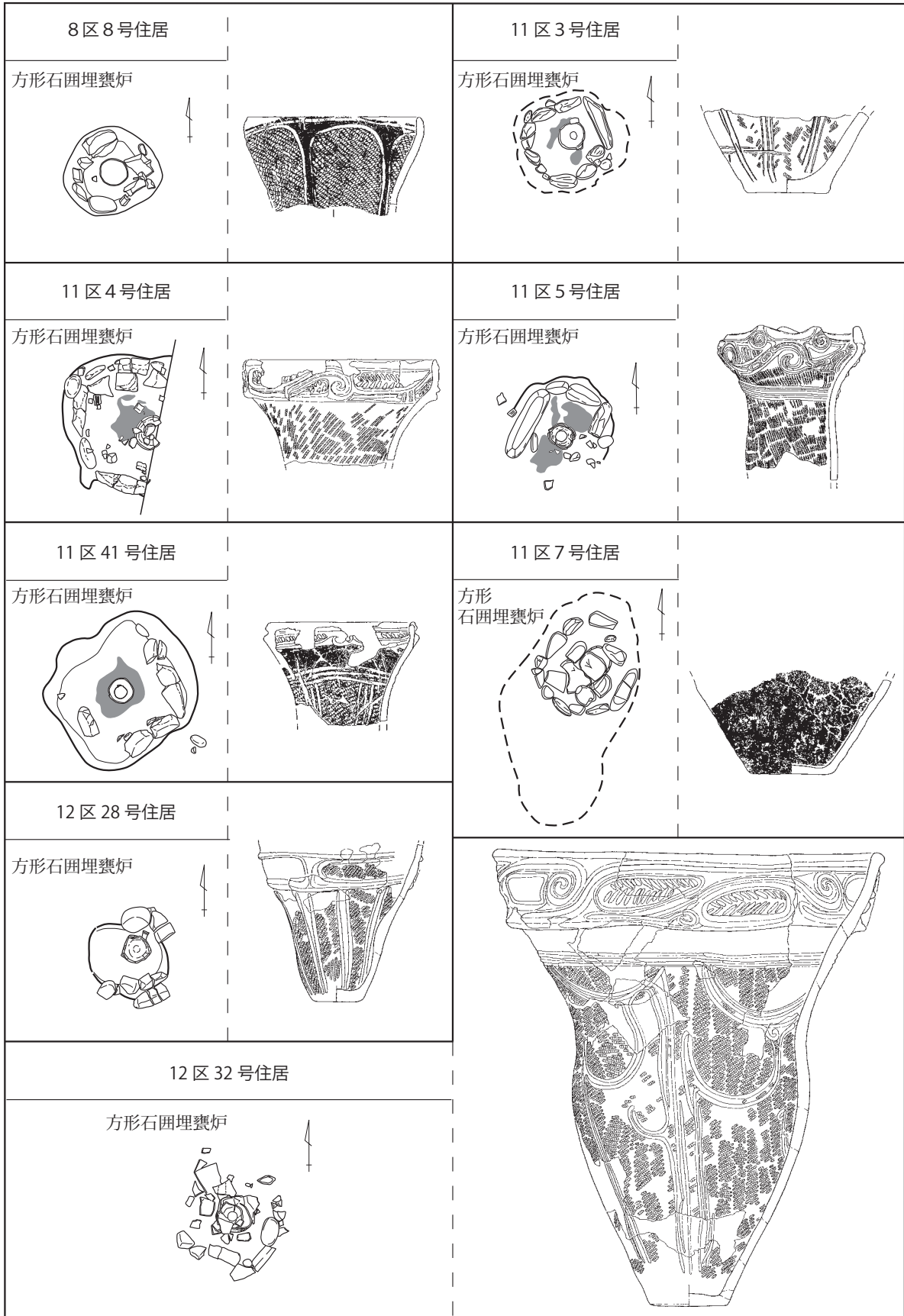
第359図 炉集成図(3)

11区26号住居	11区53号住居	12区8号住居	12区25号住居
楕円形石囲炉 	方形石囲炉 	楕円形石囲炉 	方形石囲炉 
11区36号住居	11区37号住居	11区45号住居	12区4号住居
方形石囲炉 	方形石囲炉 	方形石囲炉 	方形石囲炉 
12区11号住居	12区14号住居	12区18号住居	12区19号住居
方形石囲炉 	方形石囲炉 	方形石囲炉 	方形石囲炉 
12区21号住居	12区35号住居	12区38号住居	11区43号住居
方形石囲炉 	方形石囲炉 	方形石囲炉 	方形石囲炉 
11区8号住居	12区26号住居		
方形石囲炉 	方形石囲炉 		

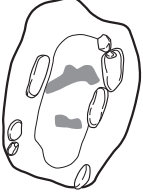
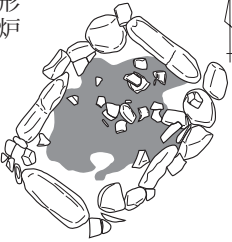
第360図 炉集成図(4)



第361図 炉集成図(5)



第362図 炉集成図(6)

4区2号住居 長方形石囲炉 	11区10号住居 長方形石囲炉 	11区16号住居 長方形石囲炉 	11区21号住居 長方形石囲炉 
11区25号住居 長方形石囲炉 	11区24号住居 長方形石囲炉 	11区27号住居 長方形石囲炉 	12区15号住居 長方形石囲炉 
12区20号住居 長方形石囲炉 	12区29号住居 長方形石囲炉 	12区33号住居 長方形石囲炉 148号土坑 	12区43号住居 長方形石囲炉 
12区39号住居 長方形石囲炉 	12区39号住居 2号炉 長方形石囲埋甕炉 		
12区42号住居 長方形石囲埋甕炉 			

第363図 炉集成図(7)



第364図 炉集成図(8)

2. 配石及び埋糞設置住居

住居内施設として炉以外に配石及び埋糞や立石を伴う住居を検出した。これらの遺構・遺物は通常住居には見られないものであり、室内祭祀的な傾向が強いと考えられ集成を行う。

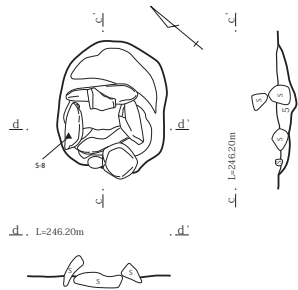
1) 配石を有する住居

11区36号住居：1軒のみ検出。住居内から礫の出土も多く、方形石囲炉を中央に配置する。配石は2基検出し、いずれも河原石4石利用の方形石組である。また、S13の石棒が2号配石東で出土している。

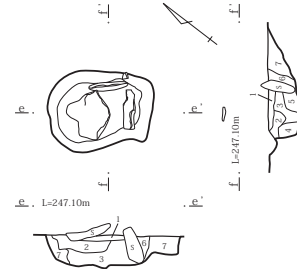
11区36号住居



36号住居 1号配石



36号住居 2号配石



2) 埋糞を有する住居

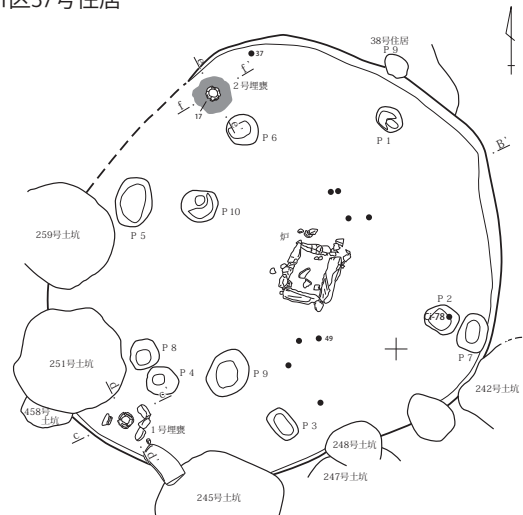
9区2号、11区37号、43号、49号、12区25号、42号住居の6軒検出した。

埋糞設置場所は、各住居とも壁寄りに位置する。

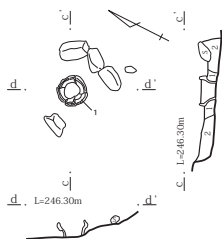
11区37号、49号住居では2基検出した。

11区37号住居：西辺壁寄りに2基設置。1号埋糞は深鉢口縁部を正位に埋置し、周囲に石組が見られる。2号埋糞は焼土の広がりや浮いた状況から埋糞とするより炉体土器と考えられる。

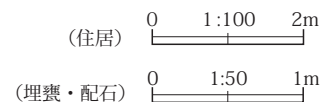
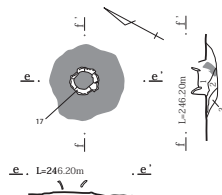
11区37号住居



37号住居 1号埋糞



37号住居 2号埋糞



第365図 住居内配石・埋糞集成図(1)

11区49号住居:南辺壁寄りに2基検出。

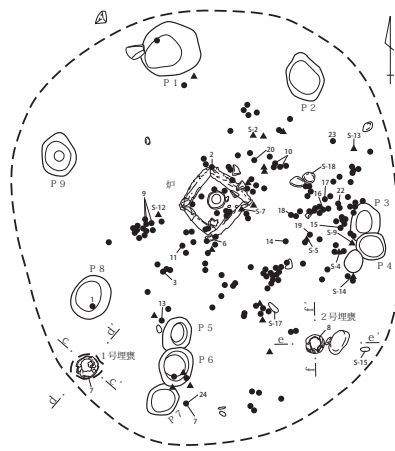
1号埋甕は深鉢体部を正位に埋置し、
2号埋甕は深鉢体部を逆位に設置して
いる。

9区2号住居:南壁際で深鉢上半が正
位で埋設されていた。

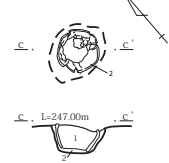
11区43号住居及び12区42号住居では
ピット状の掘り込み上部に土器が置か
れる状況であった。

12区25号住居:埋甕を遺構外で検出し、
埋甕内部には礫が置かれていた。

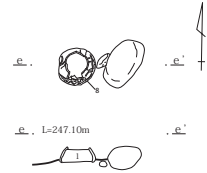
11区49号住居



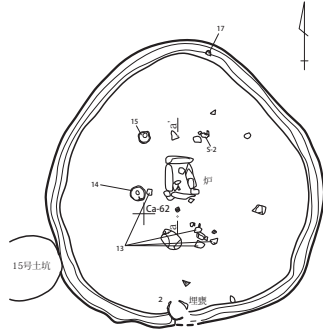
49号住居 1号埋甕



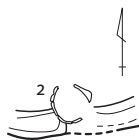
49号住居 2号埋甕



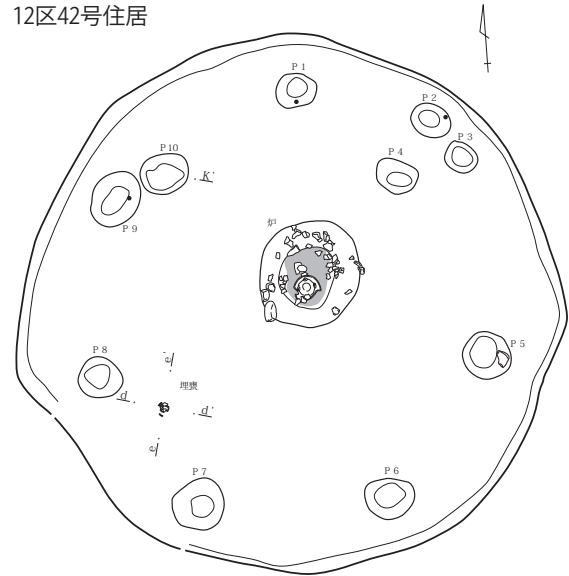
9区2号住居



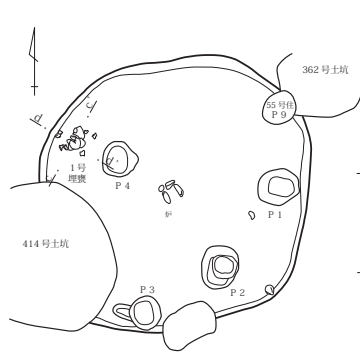
2号住居埋甕



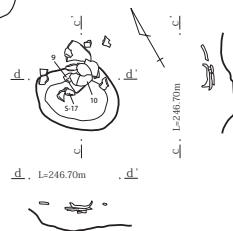
12区42号住居



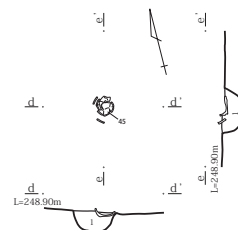
11区43号住居



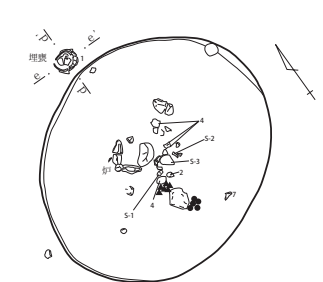
43号住居 1号埋甕



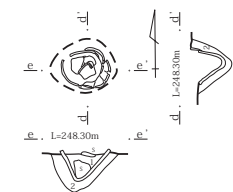
42号住居埋甕



12区25号住居



25号住居埋甕



(住居) 0 1:100 2m

(埋甕・配石) 0 1:50 1m

第366図 住居内配石・埋甕集成図(2)

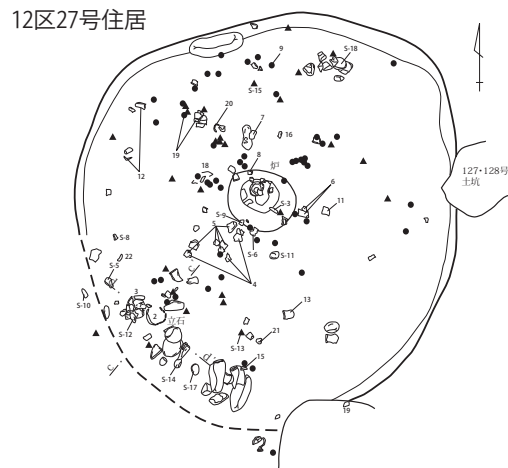
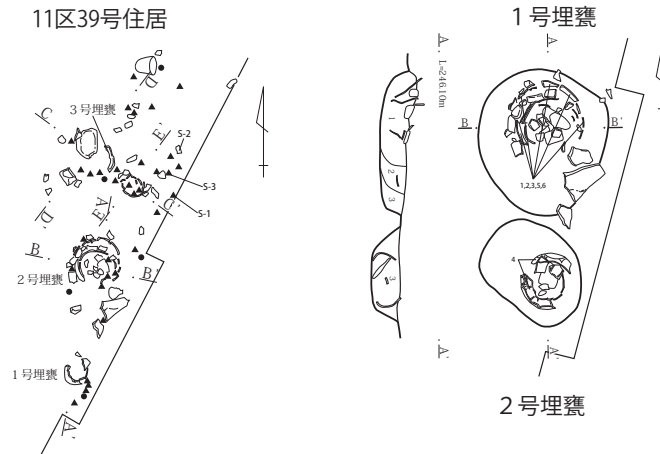
11区39号住居：3連の埋甕を検出した。

3) 埋甕と立石を有する住居

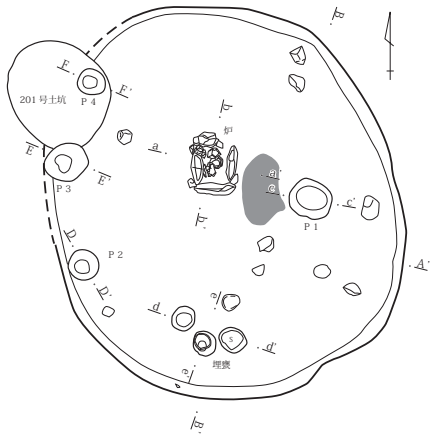
12区において祭壇状施設とも考えられる埋甕と立石がセットになり設置されていた住居を2軒検出した。

12区10号住居：深鉢が正位で埋設され、脇に半割された円柱礫が立石状態で埋置されていた。また反対側に浅いが同径のピットもあり埋甕と立石が三角形状に配置されていたと考える。

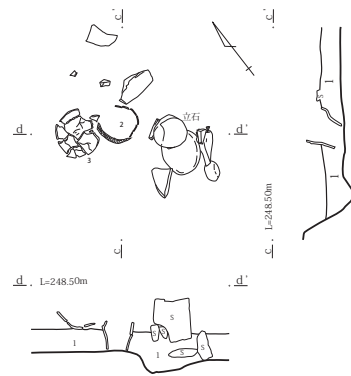
12区27号住居：深鉢が正位で埋設され、脇に円柱礫が立石状態で出土している。立石の下部には陥没防止のためか礫が埋置されていた。また、両脇には大礫を含む礫の集中が見られた。



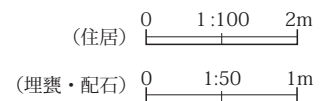
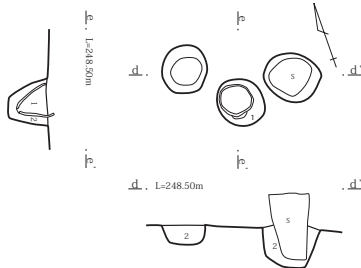
12区10号住居



27号住居埋甕及び立石



10号住居埋甕及び立石



第367図 住居内配石・埋甕集成図 (3)